

2026年度 他学部公開科目 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

〔発行日：2026/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0048】	消費者法Ⅰ	〔大澤 彩〕	春学期授業/Spring	1
【A0065】	経済法Ⅰ	〔渡邊 昭成〕	春学期授業/Spring	3
【A0066】	経済法Ⅱ	〔渡邊 昭成〕	秋学期授業/Fall	4
【A0090】	労働法総論・労働契約法	〔藤木 貴史〕	春学期授業/Spring	6
【A0091】	労働基準法	〔藤木 貴史〕	秋学期授業/Fall	8
【A0092】	労働法総論・労働契約法	〔沼田 雅之〕	春学期授業/Spring	10
【A0093】	労働基準法	〔沼田 雅之〕	秋学期授業/Fall	12
【A0100】	教育法Ⅰ	〔村元 宏行〕	春学期授業/Spring	14
【A0101】	教育法Ⅱ	〔村元 宏行〕	秋学期授業/Fall	15
【A0235】	政治体制論Ⅰ	〔細井 保〕	春学期授業/Spring	16
【A0249】	ジェンダー論Ⅰ	〔浅野 幸子〕	秋学期授業/Fall	17
【A0250】	ジェンダー論Ⅱ	〔佐藤 信〕	秋学期授業/Fall	19
【A0275】	福祉政策Ⅰ	〔荒木 千晴〕	春学期授業/Spring	20
【A0354】	外国書講読（独語）Ⅰ	〔上田 知夫〕	春学期授業/Spring	22
【A0447】	アメリカ外交史Ⅰ	〔青野 利彦〕	春学期授業/Spring	23
【A0520】	都市政策	〔杉崎 和久〕	春学期授業/Spring	24
【A0521】	まちづくり論	〔杉崎 和久〕	秋学期授業/Fall	26
【A0645】	国際協力講座	〔木内 真理子〕	秋学期授業/Fall	28
【A0717】	国際協力論Ⅰ	〔志賀 裕朗〕	春学期授業/Spring	29
【A0718】	国際協力論Ⅱ	〔志賀 裕朗〕	秋学期授業/Fall	31
【A0733】	平和・軍事研究Ⅱ	〔権 鎬淵〕	秋学期授業/Fall	33
【A0736】	オセアニアの政治と社会Ⅰ	〔今泉 裕美子〕	春学期授業/Spring	34
【A0737】	オセアニアの政治と社会Ⅱ	〔今泉 裕美子〕	秋学期授業/Fall	36
【A0749】	国際機構論Ⅰ	〔本多 美樹〕	春学期授業/Spring	38
【A0771】	朝鮮半島の政治と社会Ⅰ	〔権 鎬淵〕	春学期授業/Spring	39
【A0772】	朝鮮半島の政治と社会Ⅱ	〔権 鎬淵〕	秋学期授業/Fall	40
【A0777】	平和・軍事研究Ⅰ	〔権 鎬淵〕	春学期授業/Spring	41
【A0786】	現代政策学特講Ⅰ（千代田区）	〔杉崎 和久〕	オータムセッション/Autumn Session	42
【A0838】	外国書講読（仏語）Ⅰ	〔近江屋 志穂〕	春学期授業/Spring	43
【A0839】	外国書講読（仏語）Ⅱ	〔近江屋 志穂〕	秋学期授業/Fall	44
【A0846】	日本の政治と社会Ⅰ	〔塚本 英樹〕	秋学期授業/Fall	45
【A0898】	アメリカ政治史Ⅰ	〔中野 勝郎〕	春学期授業/Spring	46
【A0899】	アメリカ政治史Ⅱ	〔中野 勝郎〕	秋学期授業/Fall	47
【A0900】	協同組合論	〔杉崎 和久、上山 紀子、小林 幸治〕	秋学期授業/Fall	48
【A0919】	政治学特殊講義Ⅰ（比較政治思想史）	〔金子 元〕	春学期授業/Spring	50
【A0920】	政治学特殊講義Ⅱ（比較政治思想史）	〔金子 元〕	秋学期授業/Fall	51
【A2245】	現代思想Ⅱ（フランスの思想）Ⅰ	〔大池 惣太郎〕	春学期授業/Spring	52
【A2246】	現代思想Ⅱ（フランスの思想）Ⅱ	〔大池 惣太郎〕	秋学期授業/Fall	53
【A2251】	宗教学Ⅰ（伝統宗教）Ⅰ	〔松本 力〕	春学期授業/Spring	54
【A2252】	宗教学Ⅰ（伝統宗教）Ⅱ	〔松本 力〕	秋学期授業/Fall	55
【A2260】	日本思想史Ⅰ	〔山本 伸裕〕	春学期授業/Spring	56
【A2268】	ラテン語Ⅰ	〔内山 真莉子〕	春学期授業/Spring	57
【A2269】	ラテン語Ⅱ	〔内山 真莉子〕	秋学期授業/Fall	58
【A2270】	ギリシア語Ⅰ	〔文 景楠〕	春学期授業/Spring	59

【A2271】	ギリシア語2〔文 景楠〕	秋学期授業/Fall	60
【A2553】	日本文芸批評史A〔伊東 祐史〕	春学期授業/Spring	61
【A2555】	日本文芸批評史B〔伊東 祐史〕	秋学期授業/Fall	62
【A2561】	中国文芸史A〔遠藤 星希〕	春学期授業/Spring	63
【A2563】	中国文芸史B〔遠藤 星希〕	秋学期授業/Fall	64
【A2665】	日本文芸研究特講(3)中世A〔阿部 真弓〕	春学期授業/Spring	65
【A2666】	日本文芸研究特講(3)中世B〔阿部 真弓〕	秋学期授業/Fall	66
【A2669】	日本文芸研究特講(4)近世A〔小林 ふみ子〕	春学期授業/Spring	67
【A2670】	日本文芸研究特講(4)近世B〔齊藤 千恵〕	秋学期授業/Fall	68
【A2703】	日本文芸研究特講(15)国際日本学A〔スティーヴン ネルソン〕	春学期授業/Spring	69
【A2704】	日本文芸研究特講(15)国際日本学B〔スティーヴン ネルソン〕	秋学期授業/Fall	71
【A2804】	英語学概論A〔廣田 友晴〕	春学期授業/Spring	73
【A2805】	英語学概論B〔北澤 茉奈〕	秋学期授業/Fall	74
【A2806】	言語学概論A〔石川 潔〕	春学期授業/Spring	75
【A2807】	言語学概論B〔石井 創〕	秋学期授業/Fall	76
【A2808】	英語・言語学講義A〔廣田 友晴〕	秋学期授業/Fall	78
【A2809】	英語・言語学講義B〔石川 潔〕	秋学期授業/Fall	79
【A2810】	社会言語学〔廣田 友晴〕	春学期授業/Spring	80
【A2811】	応用言語学〔川崎 貴子〕	秋学期授業/Fall	81
【A2824】	比較文学A〔丸山 達也〕	春学期授業/Spring	82
【A2825】	比較文学B〔丸山 達也〕	秋学期授業/Fall	83
【A2905】	米文学史A〔小島 尚人〕	春学期授業/Spring	84
【A2906】	米文学史B〔小島 尚人〕	秋学期授業/Fall	85
【A2907】	英米文学講義I A〔波戸岡 景太〕	春学期授業/Spring	86
【A2908】	英米文学講義I B〔波戸岡 景太〕	秋学期授業/Fall	87
【A2909】	英米文学講義II A〔迫 桂〕	春学期授業/Spring	88
【A2910】	英米文学講義II B〔迫 桂〕	秋学期授業/Fall	90
【A2911】	英語学講義A〔福元 広二〕	春学期授業/Spring	91
【A2912】	英語学講義B〔北澤 茉奈〕	秋学期授業/Fall	92
【A2913】	言語学講義I A〔石川 潔〕	春学期授業/Spring	93
【A2914】	言語学講義I B〔石川 潔〕	秋学期授業/Fall	94
【A2915】	言語学講義II A〔伊藤 達也〕	春学期授業/Spring	95
【A2916】	言語学講義II B〔伊藤 達也〕	秋学期授業/Fall	96
【A2981】	比較文化論(1)〔小島 尚人〕	秋学期授業/Fall	97
【A2982】	英米文化概論A〔田中 裕希〕	春学期授業/Spring	98
【A2983】	英米文化概論B〔勝田 悠紀〕	秋学期授業/Fall	99
【A3113】	日本考古学〔高橋 健〕	秋学期授業/Fall	100
【A3116】	日本近世史〔松本 剣志郎〕	秋学期授業/Fall	101
【A3152】	考古学概論〔高橋 健〕	春学期授業/Spring	102
【A3157】	日本史特講IV〔中山 学〕	秋学期授業/Fall	103
【A3164】	東洋史特講III〔芦沢 知絵〕	秋学期授業/Fall	104
【A3171】	西洋史特講IV〔皆川 卓〕	春学期授業/Spring	105
【A3172】	西洋史特講V〔皆川 卓〕	秋学期授業/Fall	107
【A3208】	東洋近現代史〔芦沢 知絵〕	春学期授業/Spring	109
【A3214】	東洋史序説〔宇都宮 美生〕	春学期授業/Spring	110
【A3215】	西洋史序説〔柴田 隆功〕	春学期授業/Spring	111
【A3216】	日本史特講XI〔小倉 慈司〕	秋学期授業/Fall	112
【A3217】	東洋史特講VII〔久野 美樹〕	春学期授業/Spring	113
【A3218】	東洋史特講VIII〔松本 隆志〕	春学期授業/Spring	114
【A3219】	西洋史特講IX〔篠原 琢〕	秋学期授業/Fall	115
【A3226】	日本史序説〔齋藤 智志〕	春学期授業/Spring	117
【A3227】	歴史特講〔皆川 卓、柏木 一朗、内田 康太、高井 康行、宇都宮 美生〕	秋学期授業/Fall	118
【A3417】	自然環境論〔福與 直人〕	春学期授業/Spring	119
【A3482】	文化地理学(1)〔村田 陽平〕	春学期授業/Spring	120
【A3483】	文化地理学(2)〔村田 陽平〕	秋学期授業/Fall	121
【A3809】	民俗学I〔室井 康成〕	春学期授業/Spring	122
【A3810】	民俗学II〔室井 康成〕	秋学期授業/Fall	123

【A3811】 イスラム世界論Ⅰ [松本 隆志] 春学期授業/Spring	124
【A3812】 イスラム世界論Ⅱ [松本 隆志] 秋学期授業/Fall	125
【A3819】 歴史地理学(1) [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	126
【A3820】 歴史地理学(2) [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	127
【A3905】 社会経済地理学A(1) [坪本 裕之] 春学期授業/Spring	128
【A3906】 社会経済地理学A(2) [堤 純] 秋学期授業/Fall	129
【A3907】 社会経済地理学B(1) [甲斐 智大] 春学期授業/Spring	130
【A3908】 社会経済地理学B(2) [甲斐 智大] 秋学期授業/Fall	131
【A3909】 社会経済地理学C(1) [佐々木 達] 春学期授業/Spring	132
【A3910】 社会経済地理学C(2) [佐々木 達] 秋学期授業/Fall	133
経営学科専門科目300番台【A4393】 組織経済学 [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	134
【A4394】 組織経済学Ⅰ (2018年度以前入学者) [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	135
市場経営学科専門科目200番台【A4465】 日本経営論Ⅰ [金 容度] 春学期授業/Spring	136
市場経営学科専門科目200番台【A4466】 日本経営論Ⅱ [金 容度] 秋学期授業/Fall	137
市場経営学科専門科目300番台【A4496】 広告論 [宮井 弘之] 秋学期授業/Fall	138
【A9026】 スポーツメディア論 [小池 隆俊] 秋学期授業/Fall	139
【A9067】 リーダーシップ論 [浅井 玲子] 春学期授業/Spring	141
【A9068】 チームビルディング論 [浅井 玲子] 秋学期授業/Fall	143
【A9070】 スポーツビジネス論 [得田 進介] 春学期授業/Spring	145
【A9220】 アスリートキャリア論 [片上 千恵] 春学期授業/Spring	147
【A9221】 スポーツメディア論 [小池 隆俊] 春学期授業/Spring	149
【A9241】 リーダーシップ論 [浅井 玲子] 春学期授業/Spring	151
【A9242】 チームビルディング論 [浅井 玲子] 秋学期授業/Fall	153
【A9243】 スポーツビジネス論 [得田 進介] 春学期授業/Spring	155
建築学科_基盤科目_総合系_情報分野【B1013】 認知科学 建築・他学部公開 [SEONG YOUNG AH] 秋学期授業/Fall	157
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_情報分野【B1034】 認知科学 SD [SEONG YOUNG AH] 秋学期授業/Fall	158
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_情報分野【B1034】 認知科学 都市 [SEONG YOUNG AH] 秋学期授業/Fall	159
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	160
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	162
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	164
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】 エコノミクス [李 江南] 秋学期授業/Fall	166
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】 エコノミクス [李 江南] 秋学期授業/Fall	168
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】 エコノミクス [李 江南] 秋学期授業/Fall	170
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】 現代企業論 [境 新一] 春学期授業/Spring	172
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】 現代企業論 [境 新一] 春学期授業/Spring	174
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】 現代企業論 [境 新一] 春学期授業/Spring	176
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】 都市デザイン [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	178
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2051】 都市デザイン [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half) ..	179
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2051】 都市デザイン [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	180
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3001】 サステナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	181
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3001】 サステナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	182
建築学科_専門科目_基礎科目【B3001】 サステナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	183
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】 建築フォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	184
【B3580】 サステナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	186
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3580】 サステナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	187
建築学科_専門科目_基礎科目【B3580】 サステナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	188
【B3581】 デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和] 秋学期授業/Fall	189
【B3581】 デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和] 秋学期授業/Fall	191

【B3581】 デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和] 秋学期授業/Fall	193
【B3590】 アントレプレナーシップ [姜 理恵] 秋学期前半/Fall(1st half)	195
【B3717】 減災工学 [丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、 外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜] 年間授業/Yearly	197
【B3717】 減災工学 [丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、 外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜] 年間授業/Yearly	199
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3717】 減災工学 [丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅 行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜] 年 間授業/Yearly	201
【B3848】 公共経営戦略 [平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久] 秋学期授業/Fall	203
【B3848】 公共経営戦略 [平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久] 秋学期授業/Fall	204
【B3848】 公共経営戦略 [平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久] 秋学期授業/Fall	206
【C0210】 統計処理法 [吉田 一星] 春学期授業/Spring	208
【C0213】 文化情報学概論 [森村 修] 春学期授業/Spring	209
【C0222】 社会と美術 [平野 真弓] 春学期授業/Spring	211
【C0231】 言語文化概論 [衣笠 正晃] 秋学期授業/Fall	214
【C0232】 現代思想 [森村 修] 秋学期授業/Fall	215
【C0242】 国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	216
【C0243】 平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	217
【C0301】 世界の言語Ⅱ [内山 政春] 春学期授業/Spring	218
【C0432】 メディア表現法 [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	219
【C0439】 メディアアートの世界 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	221
【C0531】 英語アプリケーションⅡ [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	223
【C0532】 英語アプリケーションⅢ [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	224
【C0533】 英語アプリケーションⅣ [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	226
【C0534】 英語アプリケーションⅤ [ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring	228
【C0536】 英語アプリケーションⅦ [ANDREW JONES] 秋学期授業/Fall	230
【C0537】 英語アプリケーションⅧ [DANIEL G DUSZA] 秋学期授業/Fall	231
【C0539】 英語アプリケーションⅩ [ラスカイル L.ハウザー] 秋学期授業/Fall	232
【C0595】 ドイツ語アプリケーション [林 志津江] 春学期授業/Spring	233
【C0596】 ドイツ語アプリケーション [小川 敦] 春学期授業/Spring	235
【C0597】 ドイツ語アプリケーション [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	236
【C0625】 フランス語アプリケーション [ル ルー 清野 プレンダン] 春学期授業/Spring	237
【C0626】 フランス語アプリケーション [ル ルー 清野 プレンダン] 秋学期授業/Fall	238
【C0627】 フランス語アプリケーション [カレンス フィリップ] 春学期授業/Spring	239
【C0655】 ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	240
【C0656】 ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	241
【C0657】 ロシア語アプリケーション [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	242
【C0686】 中国語アプリケーションⅣ [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	243
【C0687】 中国語アプリケーションⅢ [周 重雷] 春学期授業/Spring	244
【C0688】 中国語アプリケーションⅡ [張 勝蘭] 秋学期授業/Fall	245
【C0755】 朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 春学期授業/Spring	246
【C0756】 朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	247
【C0757】 朝鮮語アプリケーション [李 蕙臣] 秋学期授業/Fall	248
【C0770】 文化情報のデザインワークショップ [松田 美奈子] 春学期授業/Spring	249
【C0771】 文化情報のためのネットワーク技法 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	250
【C0772】 視覚デザインと文化情報 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	252
【C0774】 情報アプリケーションⅡ [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	254
【C0802】 こころとからだの現象学 [森村 修] 春学期授業/Spring	256
【C0810】 道具のデザイン学 [松田 美奈子] 春学期授業/Spring	257
【C0820】 文化情報空間論 [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	258
【C0821】 コンピュータ音楽と音声情報処理 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	259
【C0832】 文化情報の哲学 [森村 修] 秋学期授業/Fall	261
【C0833】 ソーシャル・プラクティス [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	263
【C0850】 パフォーマンスの美学 [森村 修] 春学期授業/Spring	265
【C0854】 現代美術論 [平野 真弓] 秋学期授業/Fall	267

【C0860】	マルチメディア表現法 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	270
【C0861】	フィールドワークと表現 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	272
【C0870】	映像文化論 [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	273
【C0872】	映像と文学 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	274
【C0881】	ポピュラー音楽論 [大嶌 徹] 春学期授業/Spring	276
【C0882】	コミックス論 [野田 謙介] 秋学期授業/Fall	277
【C0900】	世界の中の日本文学 [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	278
【C0910】	中国の文化Ⅰ (現代中国社会) [張 勝蘭] 春学期授業/Spring	279
【C0911】	中国の文化Ⅱ (多民族社会中国) [張 勝蘭] 秋学期授業/Fall	281
【C0912】	中国の文化Ⅲ (日中文化交流史) [鈴木 靖] 春学期授業/Spring	283
【C0913】	中国の文化Ⅳ (中国語の構造) [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	285
【C0914】	中国の文化Ⅴ (中国語と日本語) [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	286
【C0915】	中国の文化Ⅵ (古典思想・文学) [横打 理奈] 秋学期授業/Fall	287
【C0917】	中国の文化Ⅷ (現代文学) [桑島 道夫] 春学期授業/Spring	288
【C0920】	朝鮮語圏の文化Ⅰ (朝鮮半島の文化史) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	289
【C0922】	アジアの伝統芸能 [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	290
【C0931】	ロシア・中央アジアの文化 [佐藤 大雅] 春学期授業/Spring	291
【C0932】	ロシア・東欧の文化 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	293
【C0940】	ドイツ語圏の文化Ⅰ [林 志津江] 春学期授業/Spring	295
【C0946】	スペイン語圏の文化Ⅱ [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall	296
【C0947】	北米文化論 (ケベック講座) [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	297
【C0948】	フランス語圏の文化Ⅲ (歴史) [ル ルー 清野 プレンダン] 秋学期授業/Fall	298
【C0950】	カタルーニャの文化Ⅰ (言語A) [PLAZA BALAGUE Marta] 春学期授業/Spring	300
【C0951】	カタルーニャの文化Ⅱ (言語B) [PLAZA BALAGUE Marta] 秋学期授業/Fall	302
【C0952】	カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会A) [PLAZA BALAGUE Marta] 春学期授業/Spring	304
【C0953】	カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会B) [PLAZA BALAGUE Marta] 秋学期授業/Fall	306
【C0960】	英語圏の文化Ⅰ (文化史) [宇治谷 義英] 春学期授業/Spring	308
【C0963】	英語圏の文化Ⅳ (文学と社会A) [須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	309
【C0965】	英語圏の文化Ⅵ (文学と社会C) [中和 彩子] 春学期授業/Spring	310
【C0966】	英語圏の文化Ⅶ (英語の構造) [興石 哲哉] 春学期授業/Spring	311
【C0967】	英語圏の文化Ⅷ (英語の歴史) [興石 哲哉] 秋学期授業/Fall	313
【C0999】	フランス語圏の文化Ⅳ (複言語・複文化社会) [廣松 勲] 春学期授業/Spring	315
【C1000】	比較表象文化論 [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	316
【C1023】	言葉と社会 [小川 敦] 春学期授業/Spring	317
【C1031】	宗教社会論Ⅱ [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	319
【C1032】	宗教社会論Ⅲ (イスラーム思想) [久木 正雄] 春学期授業/Spring	321
【C1040】	国際関係研究Ⅰ [松本 悟] 春学期授業/Spring	322
【C1041】	国際関係研究Ⅱ [松本 悟] 秋学期授業/Fall	323
【C1044】	人の移動と国際関係Ⅱ [高柳 俊男] 秋学期授業/Fall	324
【C1046】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	325
【C1048】	実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	327
【C1052】	実践社会調査法 [松本 悟] 春学期授業/Spring	328
【C1056】	国際関係研究Ⅳ [宮本 佳和] 秋学期授業/Fall	329
【C2004】	国際法Ⅰ [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	330
【C2005】	国際法Ⅱ [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	331
【C2017】	国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	332
【C2120】	途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	333
【C2121】	途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	335
【C2200】	現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	337
【C2201】	現代社会論Ⅱ [島袋 海理] 春学期授業/Spring	338
【C2217】	環境社会論Ⅰ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	340
【C2218】	環境社会論Ⅱ [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	342
【C2227】	災害政策論 [川副 早央里] 秋学期授業/Fall	344
【C2241】	科学技術社会論Ⅰ [金光 秀和] 春学期授業/Spring	345
【C2242】	科学技術社会論Ⅱ [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	347
【C2310】	環境倫理学Ⅰ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	349
【C2311】	環境倫理学Ⅱ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	350

【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 春学期授業/Spring	351
【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [伊東 直美] 秋学期授業/Fall	353
【C2416】	環境科学Ⅰ [佐々木 大輔] 春学期授業/Spring	354
【C2417】	環境科学Ⅱ [佐々木 大輔] 秋学期授業/Fall	355
【C2433】	自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	356
【C2500】	環境管理論Ⅰ [大野 香代] 春学期授業/Spring	357
【C2501】	環境管理論Ⅱ [大野 香代] 春学期授業/Spring	359
【C2503】	環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	361
【C2559】	現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	363
【C2560】	現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	365
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C5061】	学習の社会史A [山口 真里] 秋学期授業/Fall	366
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C5062】	学習の社会史B [寺崎 里水] 春学期授業/Spring	367
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5085】	コミュニティ社会論Ⅰ [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	368
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5089】	アート・マネジメント論 [山口 佳子] 春学期授業/Spring	370
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5110】	産業・組織心理学Ⅱ [今城 志保] 秋学期授業/Fall	372
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5111】	キャリア開発論 [高崎 美佐] 秋学期授業/Fall	373
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5115】	コミュニティ社会論Ⅱ [佐藤 恵] 秋学期授業/Fall	375
関連科目【C5298】	就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- [上西 充子、梅崎 修] 秋学期授業/Fall	377
関連科目【C5299】	就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期授業/Spring	379
関連科目【C5300】	就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期授業/Fall	381
学部共通科目【H7042】	食品科学 [三浦 豊] 春学期授業/Spring	383
生命機能学科_学科専門科目【H7572】	医用生体工学 [金子 智行] 秋学期授業/Fall	384
【J0551】	プログラミング(MATLAB) [伊藤 克亘] 秋学期授業/Fall	385
【J0552】	プログラミング演習1(python) [伊藤 克亘] 春学期授業/Spring	387
【J0553】	フーリエ級数と変換 [秋野 喜彦] 春学期授業/Spring	389
【J0563】	プログラミング演習1(python) [伊藤 克亘] 春学期授業/Spring	390
【K5359】	化学A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	392
【K5360】	化学B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	393
【K6054】	日本経済論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	394
【K6055】	日本経済論A [青野 幸平] 春学期授業/Spring	395
【K6056】	日本経済論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	396
【K6057】	日本経済論B [青野 幸平] 秋学期授業/Fall	397
【K6058】	国際経済論A [坪田 建明] 春学期授業/Spring	398
【K6059】	国際経済論A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	399
【K6060】	国際経済論B [坪田 建明] 秋学期授業/Fall	400
【K6061】	国際経済論B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	401
【K6062】	財政学A [小林 克也] 春学期授業/Spring	402
【K6063】	財政学A [廣川 みどり] 春学期授業/Spring	403
【K6064】	財政学B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	404
【K6065】	財政学B [廣川 みどり] 秋学期授業/Fall	405
【K6066】	金融論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	406
【K6067】	金融論A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	407
【K6068】	金融論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	408
【K6069】	金融論B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	409
【K6094】	計量経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	410
【K6095】	計量経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	411
【K6102】	企業と経済・応用A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	412
【K6103】	企業と経済・応用B [河村 真] 秋学期授業/Fall	413
【K6108】	現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	414
【K6109】	現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	415
【K6122】	経済データ分析A [明城 聡] 春学期授業/Spring	416
【K6123】	経済データ分析B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	417
【K6124】	経済地理 [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	418
【K6125】	産業集積論 [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	419
【K6128】	コーポレートガバナンス論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	420
【K6129】	コーポレートガバナンス論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	422
【K6132】	企業経営史A [飯塚 陽介] 春学期授業/Spring	424

【K6133】	企業経営史B [飯塚 陽介]	秋学期授業/Fall	425
【K6136】	企業経営論A [内田 彬浩]	春学期授業/Spring	426
【K6137】	企業経営論B [内田 彬浩]	秋学期授業/Fall	427
【K6140】	企業実務研究A [湯前 祥二]	春学期授業/Spring	429
【K6141】	企業実務研究B [湯前 祥二]	秋学期授業/Fall	431
【K6150】	国際関係論A [富永 靖敬]	春学期授業/Spring	433
【K6151】	国際関係論B [富永 靖敬]	秋学期授業/Fall	435
【K6152】	経済人類学A [友松 夕香]	春学期授業/Spring	437
【K6153】	経済人類学B [友松 夕香]	秋学期授業/Fall	438
【K6154】	環境経済論A [松波 淳也]	春学期授業/Spring	439
【K6155】	環境経済論A [松波 淳也]	春学期授業/Spring	440
【K6156】	環境経済論B [松波 淳也]	秋学期授業/Fall	441
【K6157】	環境経済論B [松波 淳也]	秋学期授業/Fall	442
【K6160】	経済地理A [近藤 章夫]	春学期授業/Spring	443
【K6161】	経済地理B [近藤 章夫]	秋学期授業/Fall	444
【K6164】	ヨーロッパ経済論A [進藤 理香子]	春学期授業/Spring	445
【K6165】	ヨーロッパ経済論B [進藤 理香子]	秋学期授業/Fall	446
【K6166】	現代アジア経済論A [馬場 敏幸]	春学期授業/Spring	447
【K6167】	現代アジア経済論B [馬場 敏幸]	秋学期授業/Fall	448
【K6168】	中国経済論A [王 威]	春学期授業/Spring	449
【K6169】	中国経済論B [王 威]	秋学期授業/Fall	451
【K6180】	ドイツ語セミナーA [北岡 幸代]	春学期授業/Spring	453
【K6181】	ドイツ語セミナーB [北岡 幸代]	秋学期授業/Fall	454
【K6182】	フランス語セミナーB [桑原 旅人]	秋学期授業/Fall	455
【K6183】	フランス語セミナーA [桑原 旅人]	春学期授業/Spring	456
【K6184】	ロシア語セミナーA [松澤 暢子]	春学期授業/Spring	457
【K6185】	ロシア語セミナーB [松澤 暢子]	秋学期授業/Fall	458
【K6186】	中国語セミナーA [石 碩]	春学期授業/Spring	459
【K6187】	中国語セミナーB [石 碩]	秋学期授業/Fall	460
【K6188】	スペイン語セミナーA [芝田 幸一郎]	春学期授業/Spring	461
【K6189】	スペイン語セミナーB [芝田 幸一郎]	秋学期授業/Fall	462
【K6203】	開発経済入門A [池上 宗信]	春学期授業/Spring	463
【K6204】	開発経済入門B [池上 宗信]	秋学期授業/Fall	464
【K6209】	環境科学A [岡部 雅史]	春学期授業/Spring	465
【K6210】	環境科学B [岡部 雅史]	秋学期授業/Fall	466
【K6223】	環境政策論A [西澤 栄一郎]	春学期授業/Spring	467
【K6224】	環境政策論B [西澤 栄一郎]	秋学期授業/Fall	468
【K6227】	社会経済思想史A [山本 英子]	春学期授業/Spring	469
【K6228】	社会経済思想史B [山本 英子]	秋学期授業/Fall	470
【K6229】	経済政策論A [小原 拓也]	春学期授業/Spring	471
【K6230】	経済政策論B [濱秋 純哉]	秋学期授業/Fall	472
【K6233】	社会政策論A [菅原 琢磨]	春学期授業/Spring	473
【K6234】	社会政策論B [菅原 琢磨]	秋学期授業/Fall	474
【K6235】	労働経済論A [酒井 正]	春学期授業/Spring	475
【K6236】	労働経済論B [酒井 正]	春学期授業/Spring	476
【K6243】	社会保障論A [小黒 一正]	春学期授業/Spring	477
【K6244】	社会保障論B [小黒 一正]	秋学期授業/Fall	478
【K6314】	地球環境論A [山崎 友紀]	春学期授業/Spring	479
【K6315】	地球環境論B [山崎 友紀]	秋学期授業/Fall	480
【K6337】	マクロ経済学A [宮崎 憲治]	春学期授業/Spring	481
【K6338】	マクロ経済学B [宮崎 憲治]	秋学期授業/Fall	482
【K6339】	ミクロ経済学A [平井 俊行]	春学期授業/Spring	483
【K6340】	ミクロ経済学B [平井 俊行]	秋学期授業/Fall	484
【K6343】	マクロ経済学A [八木橋 毅司]	春学期授業/Spring	485
【K6344】	マクロ経済学B [八木橋 毅司]	秋学期授業/Fall	486
【K6345】	ミクロ経済学A [西村 健]	春学期授業/Spring	487
【K6346】	ミクロ経済学B [西村 健]	秋学期授業/Fall	488

【K6501】 特別講義（寄付講座 証券市場論）[大和証券（株）] 春学期授業/Spring	489
【K6575】 特別講義（ビジネス日本語A）[大石 有香] 春学期授業/Spring	490
【K6576】 特別講義（ビジネス日本語B）[大石 有香] 秋学期授業/Fall	491
【K6685】 簿記ⅠA [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	492
【K6686】 簿記ⅠB [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	493
【K6705】 日本国憲法A [村元 宏行] 春学期授業/Spring	494
【K6706】 日本国憲法B [村元 宏行] 秋学期授業/Fall	495
【K6707】 民法一部A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	496
【K6708】 民法一部B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	497
【K6711】 商法一部A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	498
【K6712】 商法一部B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	499
【K6729】 簿記ⅡA [岸 牧人] 春学期授業/Spring	500
【K6730】 簿記ⅡB [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	501
【K6733】 Academic Research Seminar A [飯野 厚] 春学期授業/Spring	502
【K6734】 Academic Research Seminar B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	503
【K6735】 Academic Research Seminar A [伊藤 健彦] 春学期授業/Spring	504
【K6736】 Academic Research Seminar B [伊藤 健彦] 秋学期授業/Fall	505
【K6737】 Academic Research Seminar A [王 キョウ] 春学期授業/Spring	506
【K6738】 Academic Research Seminar B [王 キョウ] 秋学期授業/Fall	508
【K6749】 原価計算A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	510
【K6750】 原価計算B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	511
【K6751】 会計学入門A [古賀 裕也] 春学期授業/Spring	512
【K6752】 会計学入門B [古賀 裕也] 秋学期授業/Fall	513
【LA104】 中小企業論 [糸久 正人] 春学期授業/Spring	514
【LA107】 産業社会学Ⅰ [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	516
【LA108】 産業社会学Ⅱ [恵羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	517
【LA112】 金融システム論 [松田 岳] 春学期授業/Spring	518
【LA202】 環境経済学Ⅰ [蒲谷 景] 春学期授業/Spring	520
【LA203】 環境経済学Ⅱ [蒲谷 景] 秋学期授業/Fall	521
【LA210】 社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	522
【LA211】 社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	523
【LA212】 環境政策論Ⅰ [高橋 洋] 春学期授業/Spring	524
【LA213】 環境政策論Ⅱ [高橋 洋] 秋学期授業/Fall	525
【LA308】 国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	526
【LA309】 イスラム社会論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	527
【LB200】 コミュニティ・デザイン論Ⅰ [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	529
【LB410】 地域研究（中国）[大崎 雄二] 春学期授業/Spring	530
【LD303】 社会ネットワーク論Ⅰ [宇野 斉] 春学期授業/Spring	531
【LD304】 社会ネットワーク論Ⅱ [宇野 斉] 秋学期授業/Fall	532
専門教育科目_専門基幹科目【M1620】 スポーツトレーニング論Ⅰ [木村 新] 春学期授業/Spring	533
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】 スポーツリスクマネジメント [木下 訓光] 秋学期授業/Fall	534
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1750】 スポーツビジネス論Ⅰ [片上 千恵] 秋学期授業/Fall	536
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1790】 スポーツコーチング論A [NEMES ROLAND JANO S] 秋学期授業/Fall	537
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3060】 スポーツマーケティング論 [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	538
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】 スポーツメディア論 [片上 千恵] 秋学期授業/Fall	539
専門教育科目_専門基幹科目【M3170】 スポーツビジネス論Ⅱ [望月 拓実] 春学期授業/Spring	540
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3230】 マーケティングリサーチ実習 [山口 和真] 春学期授業/Spring	541
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3240】 マーケティングリサーチ演習 [山口 和真] 秋学期授業/Fall	542
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4510】 スポーツ戦術論（サッカー）[井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	543
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4710】 青少年指導実習（サッカー）[井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	544

専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4790】 青少年指導演習（サッカー）[井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	545
【N0057】ホスピタリティ論 [山田 祐子] 春学期授業/Spring	546
【N0058】教育学 [藤本 典裕] 秋学期授業/Fall	547
【N0107】経営学 [首藤 聡一郎] オータムセッション/Autumn Session	549
【N0112】社会学特講 [左古 輝人] 秋学期授業/Fall	550
【N0117】老年学 [新名 正弥] 秋学期授業/Fall	551
【N1050】福祉国家論 [渡辺 寛人] 秋学期授業/Fall	552
【N1052】社会的包摂論 [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	553
【N1054】コミュニティビジネス論 [土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	554
【N1055】ローカルイノベーション論 [野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦] 秋学期授業/Fall ...	555
【N1106】雇用政策論 [渡辺 寛人] 春学期授業/Spring	556
【N1107】都市住宅政策論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring	557
【N1108】地域文化政策論 [杉浦 ちなみ] 春学期授業/Spring	558
【N1109】環境政策論 [藤澤 浩子] 春学期授業/Spring	559
【N1111】政策評価論 [倉根 明德] オータムセッション/Autumn Session	561
【N1116】国際協力論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	562
【N1151】地域経営論 [遠藤 聖子] 春学期授業/Spring	563
【N1152】ソーシャルイノベーション論 [土肥 将敦] 春学期授業/Spring	565
【N1153】ソーシャルマネジメント論 [樋口 邦史] 春学期授業/Spring	566
【N1154】ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授業/Spring	567
【N1155】NPO論 [渡真利 紘一] 秋学期授業/Fall	568
【N1158】居住福祉論 [大原 一興] 春学期授業/Spring	570
【N1159】災害支援論 [青木 信夫、正谷 絵美] 春学期授業/Spring	571
【N1162】コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	573
【N1164】地域遺産マネジメント論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	574
【N1165】地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	575
【N1223】異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	576
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0501】大学を知ろう <法政学>への招待 [小林 ふみ子、金子 匡良] 春学期授業/Spring	578
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2321】経済学L A [中平 千彦] 春学期授業/Spring	580
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2322】経済学L B [中平 千彦] 秋学期授業/Fall	582
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2323】経済学L A [山本 英子] 春学期授業/Spring	584
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2324】経済学L B [山本 英子] 秋学期授業/Fall	585
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2325】経済学L A [陳 文挙] 春学期授業/Spring	586
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2326】経済学L B [陳 文挙] 秋学期授業/Fall	588
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2327】経済学L A [小峯 敦] 春学期授業/Spring	590
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2328】経済学L B [小峯 敦] 秋学期授業/Fall	592
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6001】第三外国語としての朝鮮語A [梁 禮先] 春学期授業/Spring	593
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6002】第三外国語としての朝鮮語B [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	594
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6005】第三外国語としての朝鮮語A [高柳 俊男] 春学期授業/Spring	595
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6006】第三外国語としての朝鮮語B [高柳 俊男] 秋学期授業/Fall	596
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6101】漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	597

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6102】 漢字・漢文学B〔加納 留美子〕 秋学期授業/Fall	598
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6103】 教養ゼミⅠ〔藤村 耕治〕 春学期授業/Spring	599
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6104】 教養ゼミⅡ〔藤村 耕治〕 秋学期授業/Fall	601
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6105】 文芸創作講座A〔LETIZIA GUARINI〕 春学期授業/Spring	602
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6106】 文芸創作講座B〔LETIZIA GUARINI〕 秋学期授業/Fall	603
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6107】 日本芸能論A〔阿部 真弓〕 春学期授業/Spring	604
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6108】 日本芸能論B〔阿部 真弓〕 秋学期授業/Fall	606
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6109】 身体表現論A〔深谷 公宣〕 春学期授業/Spring	608
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6110】 身体表現論B〔深谷 公宣〕 秋学期授業/Fall	609
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6111】 美術論A〔稲垣 立男〕 春学期授業/Spring	610
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6112】 美術論B〔稲垣 立男〕 秋学期授業/Fall	613
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6113】 芸術と人間A〔岡村 民夫〕 春学期授業/Spring	615
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6114】 芸術と人間B〔岡村 民夫〕 秋学期授業/Fall	616
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6115】 仏教思想論A〔計良 隆世〕 春学期授業/Spring	617
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6116】 仏教思想論B〔計良 隆世〕 秋学期授業/Fall	619
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6121】 中国の民族と文化A〔齋藤 勝〕 春学期授業/Spring	621
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6122】 中国の民族と文化B〔齋藤 勝〕 秋学期授業/Fall	622
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6125】 古代日本・中国の法と社会A〔岡野 浩二〕 春学期授業/Spring	623
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6126】 古代日本・中国の法と社会B〔岡野 浩二〕 秋学期授業/Fall	624
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史A〔新崎 盛吾〕 春学期授業/Spring	625
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史B〔水谷 明子〕 秋学期授業/Fall	627
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6129】 教養ゼミⅠ〔神谷 丹路〕 春学期授業/Spring	628
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6130】 教養ゼミⅡ〔神谷 丹路〕 秋学期授業/Fall	629
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6131】 クィア・スタディーズA〔LETIZIA GUARINI〕 春学期授業/Spring	630
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6132】 クィア・スタディーズB〔LETIZIA GUARINI〕 秋学期授業/Fall	632
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6133】 キリスト教思想史A〔鶴澤 和彦〕 春学期授業/Spring	633
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6134】 キリスト教思想史B〔鶴澤 和彦〕 秋学期授業/Fall	635
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6137】 異文化コミュニケーション論A〔鈴木 麻由〕 春学期授業/Spring	637
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6138】 異文化コミュニケーション論B〔鈴木 麻由〕 秋学期授業/Fall	639
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6141】 教養ゼミⅠ〔矢澤 美佐紀〕 春学期授業/Spring	641

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6142】 教養ゼミⅡ [矢澤 美佐紀] 秋学期授業 /Fall	642
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6147】 徳と倫理A [内山 真莉子] 春学期授業 /Spring	643
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6148】 徳と倫理B [内山 真莉子] 秋学期授業 /Fall	644
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6149】 人間存在論A [森村 修] 春学期授業/Spring	645
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6150】 人間存在論B [森村 修] 秋学期授業/Fall	647
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6204】 教養ゼミⅡ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	649
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6207】 福祉社会論A [小峯 敦] 春学期授業/Spring	651
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6208】 福祉社会論B [服部 あさこ] 春学期授業 /Spring	653
【Q6209】 人文地理学セミナーA [増淵 敏之] 春学期授業/Spring	654
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6209】 人文地理学セミナーA [増淵 敏之] 春学 期授業/Spring	656
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6210】 人文地理学セミナーB [増淵 敏之] 秋学 期授業/Fall	658
【Q6210】 人文地理学セミナーB [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	660
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6211】 文化人類学方法論A [菊池 真理] 春学期 授業/Spring	662
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6212】 文化人類学方法論B [菊池 真理] 秋学期 授業/Fall	664
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6213】 教養ゼミⅠ [犬塚 元] 春学期授業/Spring	666
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6214】 教養ゼミⅡ [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	667
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6215】 人間行動学A [田中 慎太郎] 春学期授業 /Spring	668
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6216】 人間行動学B [田中 慎太郎] 秋学期授業 /Fall	669
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6219】 沖縄を考えるA [中野 勝郎、大里 知子] 春学期授業/Spring	670
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6220】 沖縄を考えるB [中野 勝郎、大里 知子] 秋学期授業/Fall	671
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6225】 ヨーロッパ政治経済論A [千葉 千尋] 春 学期授業/Spring	672
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6226】 ヨーロッパ政治経済論B [千葉 千尋] 秋 学期授業/Fall	673
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6227】 法の人間学A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	675
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6228】 法の人間学B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	677
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6305】 計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期 授業/Spring	679
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6306】 コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	680
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6307】 確率の世界A [池田 宏一郎] 春学期授業 /Spring	681
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6308】 確率の世界B [池田 宏一郎] 秋学期授業 /Fall	682
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6309】 集合論A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	683
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6310】 集合論B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	684
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6311】 相対性理論と宇宙A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	685
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6312】 相対性理論と宇宙B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	686
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6313】 現代の錬金術A [井坂 政裕] 春学期授業 /Spring	687
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6314】 現代の錬金術B [井坂 政裕] 秋学期授業 /Fall	688

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6315】 原子核と素粒子A [吉田 智] 春学期授業 /Spring	689
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6316】 原子核と素粒子B [吉田 智] 秋学期授業 /Fall	690
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6317】 教養ゼミ I [島野 智之] 春学期授業 /Spring	691
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6318】 教養ゼミ II [島野 智之] オータムセッ ション/Autumn Session	693
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6323】 イオンの科学A [向井 知大] 春学期授業 /Spring	695
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6324】 イオンの科学B [向井 知大] 秋学期授業 /Fall	696
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6329】 I Tリテラシー [高田 美樹] 春学期授業 /Spring	697
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6330】 コンピュータ科学 [高田 美樹] 秋学期授 業/Fall	698
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業 /Spring	699
【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	701
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	703
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6337】 ボルボックス生物論A [植木 紀子] 春学 期授業/Spring	705
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6338】 ボルボックス生物論B [植木 紀子] 秋学 期授業/Fall	707
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6341】 バイオイメージングの世界A [木原 章] 春学期授業/Spring	709
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6342】 バイオイメージングの世界B [木原 章] 秋学期授業/Fall	710
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6343】 環境の科学A [田中 雅人] 春学期授業 /Spring	711
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6344】 環境の科学B [田中 雅人] 秋学期授業 /Fall	712
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6403】 Issues in Modern Japanese Society A [L A S S E G A R D J A M E S] 春学期授業/Spring	713
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6404】 Issues in Modern Japanese Society B [L A S S E G A R D J A M E S] 秋学期授業/Fall	714
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語A [林 志津 江] 春学期授業/Spring	716
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語B [林 志津 江] 秋学期授業/Fall	718
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6423】 ドイツ語コミュニケーション中級A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	720
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6424】 ドイツ語コミュニケーション中級B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	721
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6425】 教養ゼミ I [上田 知夫] 春学期授業 /Spring	722
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6427】 ドイツの思想A [大久保 歩] 春学期授業 /Spring	723
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6428】 ドイツの思想B [大久保 歩] 秋学期授業 /Fall	724
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6429】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ 語圏A [丸山 達也] 春学期授業/Spring	725
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6430】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ 語圏B [丸山 達也] 秋学期授業/Fall	726
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6431】 比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学 期授業/Spring	727

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6432】比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	728
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6433】ドイツ語圏の芸術A [林 志津江] 春学期授業/Spring	730
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6434】ドイツ語圏の芸術B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	732
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6437】ドイツ語圏の公共哲学A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	734
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6438】ドイツ語圏の公共哲学B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	735
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6439】ドイツ語圏の歴史A [辻 英史] 春学期授業/Spring	736
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6440】ドイツ語圏の歴史B [辻 英史] 秋学期授業/Fall	738
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6441】ドイツ語講読A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	740
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6442】ドイツ語講読B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	742
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	744
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	746
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	748
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	750
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6507】スポーツ科学A [魚住 智広] 春学期授業/Spring	752
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6508】スポーツ科学B [魚住 智広] 秋学期授業/Fall	754
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6509】スポーツ科学A [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	756
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6510】スポーツ科学B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	758
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6511】スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	760
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6512】スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	762
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6513】スポーツ科学A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	764
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6514】スポーツ科学B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	765
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6517】スポーツ科学A [中澤 史] 春学期授業/Spring	766
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6518】スポーツ科学B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	768
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6519】スポーツ科学A [魚住 智広] 春学期授業/Spring	770
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6520】スポーツ科学B [魚住 智広] 秋学期授業/Fall	772
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6525】スポーツ科学A [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	774
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6526】スポーツ科学B [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	776
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6527】教養ゼミ I [伊藤 マモル] オータムセッション/Autumn Session	778

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6528】 教養ゼミⅡ [伊藤 マモル] スプリングセッション/Spring Session	781
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6529】 スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	784
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6530】 スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	786
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6534】 エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A [林 容市] 春学期授業/Spring	788
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6535】 エビデンスから学ぶ健康と身体の変化B [林 容市] 秋学期授業/Fall	790
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6536】 データから考えるスポーツ政策A [藤岡 成美] 春学期授業/Spring	792
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6537】 データから考えるスポーツ政策B [藤岡 成美] 秋学期授業/Fall	794
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6540】 教養ゼミⅡ [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	796
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6601】 第三外国語としてのフランス語A [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	798
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6602】 第三外国語としてのフランス語B [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	799
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】 教養ゼミⅠ [大中 一彌] サマーセッション/Summer Session	800
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】 教養ゼミⅡ [大中 一彌] オータムセッション/Autumn Session	802
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6607】 教養ゼミⅠ [ル ルー 清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring	804
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6608】 教養ゼミⅡ [ル ルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	806
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6609】 フランス語コミュニケーション(中・上級)A [ル ルー 清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring	808
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6610】 フランス語コミュニケーション(中・上級)B [ル ルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	810
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6613】 フランス語講読A [大池 惣太郎] 春学期授業/Spring	812
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6614】 フランス語講読B [大池 惣太郎] 秋学期授業/Fall	813
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6617】 フランス語外部試験講座A [カレンス フィリップ] 春学期授業/Spring	814
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6618】 フランス語外部試験講座B [カレンス フィリップ] サマーセッション/Summer Session	816
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6701】 第三外国語としてのロシア語A [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	818
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6702】 第三外国語としてのロシア語B [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	819
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	820
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	821
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6705】 実用ロシア語A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	822
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6706】 実用ロシア語B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	823
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6707】 ロシア語講読A [木部 敬] 春学期授業/Spring	824
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6708】 ロシア語講読B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	825
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6709】 時事ロシア語A [小澤 裕之] 春学期授業/Spring	826

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6710】時事ロシア語B [小澤 裕之] 秋学期授業/Fall	827
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6801】第三外国語としての中国語A [渋井 君也] 春学期授業/Spring	828
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6802】第三外国語としての中国語B [渋井 君也] 秋学期授業/Fall	829
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6803】第三外国語としての中国語中級A [木村 佳代子] 春学期授業/Spring	830
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6804】第三外国語としての中国語中級B [木村 佳代子] 秋学期授業/Fall	831
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6805】中国語視聴覚中級A [劉 渴水] 春学期授業/Spring	832
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6806】中国語視聴覚中級B [劉 渴水] 秋学期授業/Fall	833
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6807】中国語作文中級A [楊 心苗] 春学期授業/Spring	834
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6808】中国語作文中級B [楊 心苗] 秋学期授業/Fall	835
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6809】中国語コミュニケーション中級A [周 重雷] 春学期授業/Spring	836
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6810】中国語コミュニケーション中級B [周 重雷] 秋学期授業/Fall	837
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6813】中国語翻訳・通訳C [王 安] 春学期授業/Spring	838
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6814】中国語翻訳・通訳D [王 安] 秋学期授業/Fall	839
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6815】中国語講読A [任 麗潔] 春学期授業/Spring	840
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6816】中国語講読B [任 麗潔] 秋学期授業/Fall	841
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6819】資格中国語中級A [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	842
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6820】資格中国語中級B [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	844
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6821】資格中国語上級A [任 麗潔] 春学期授業/Spring	846
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6822】資格中国語上級B [任 麗潔] 秋学期授業/Fall	847
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6901】第三外国語としてのスペイン語A [CAR MEN GARCIA] 春学期授業/Spring	848
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6902】第三外国語としてのスペイン語B [CAR MEN GARCIA] 秋学期授業/Fall	849
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6905】スペイン語上級A [大西 亮] 春学期授業/Spring	850
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6906】スペイン語上級B [大西 亮] 秋学期授業/Fall	851
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6907】スペイン語コミュニケーション中級A [O SNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	852
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6908】スペイン語コミュニケーション中級B [O SNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	853
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6909】教養ゼミⅠ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	855
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6910】教養ゼミⅡ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	856
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6911】スペイン語講読A [若林 大我] 春学期授業/Spring	857
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6912】スペイン語講読B [若林 大我] 秋学期授業/Fall	858
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R4281】ドイツ語コミュニケーションⅠ [JENS OSTWALD] 春学期授業/Spring	859

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R4282】 ドイツ語コミュニケーションⅡ [JENS OSTWALD] 秋学期授業/Fall	860
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R4283】 ドイツ語表現法Ⅰ [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	861
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R4284】 ドイツ語表現法Ⅱ [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	862
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R4287】 SDGsで学ぶドイツ語Ⅰ [上田 知夫] 春学期授業/Spring	863
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R4295】 ドイツ語の世界LA [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	864
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R4296】 ドイツ語の世界LB [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	865
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R4297】 ドイツの文化と社会LA [小川 敦] 春学期授業/Spring	867
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R4298】 ドイツの文化と社会LB [小川 敦] 秋学期授業/Fall	868
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5271】 フランス語の世界LA [廣松 勲] 春学期授業/Spring	869
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5272】 フランス語の世界LB [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	871
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R5273】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	873
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R5274】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	874
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R5277】 フランス語視聴覚(初・中級)Ⅰ [廣松 勲] 春学期授業/Spring	875
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R5278】 フランス語視聴覚(初・中級)Ⅱ [南 玲子] 秋学期授業/Fall	877
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R5279】 時事フランス語Ⅰ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	879
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R5280】 時事フランス語Ⅱ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	882
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R5285】 フランス語の発音レッスンⅠ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	885
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5291】 フランスの文化と社会LA [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	886
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5292】 フランスの文化と社会LB [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	888
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5295】 フランス生活文化論LA [梶谷 彩子] 春学期授業/Spring	890
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5296】 フランス生活文化論LB [梶谷 彩子] 秋学期授業/Fall	892
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R6211】 ロシア語4Ⅰ [木部 敬] 春学期授業/Spring	894
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R6212】 ロシア語4Ⅱ [木部 敬] 秋学期授業/Fall	895
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R6213】 ロシア語4Ⅰ [上野 理恵] 春学期授業/Spring	896
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R6214】 ロシア語4Ⅱ [上野 理恵] 秋学期授業/Fall	897
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R6215】 ロシア語5Ⅰ [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	898
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R6216】 ロシア語5Ⅱ [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	899
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6241】 ロシア語の世界LA [木部 敬] 春学期授業/Spring	900

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R6242】 ロシア語の世界L B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	901
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R6243】 ロシアの文化と社会 L A [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	903
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R6244】 ロシアの文化と社会 L B [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	905
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R6245】 検定のロシア 語A [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	907
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R6246】 検定のロシア 語B [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	908
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R7411】 中国語コミュニケー ション基礎I [楊 心苗] 春学期授業/Spring	909
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R7412】 中国語コミュニケー ション基礎II [楊 心苗] 秋学期授業/Fall	910
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R7413】 中国語コミュ ニケーション初級I [周 重雷] 春学期授業/Spring	911
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R7414】 中国語コミュ ニケーション初級II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	912
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R7437】 資格中国語 初級I [青木 正子] 春学期授業/Spring	913
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R7438】 資格中国語 初級II [青木 正子] 秋学期授業/Fall	914
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R7445】 中国語の世界L A [高柳 浩平] 春学期授業/Spring	915
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R7446】 中国語の世界L B [高柳 浩平] 秋学期授業/Fall	916
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R7447】 中国の文化と社会L A [山本 律] 春学期授業/Spring	917
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R7448】 中国の文化と社会L B [山本 律] 秋学期授業/Fall	918
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R7449】 中国の文化と社会L C [陳 瀟瀟] 春学期授業/Spring	919
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R7450】 中国の文化と社会L D [陳 瀟瀟] 秋学期授業/Fall	921
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R8301】 スペイン語 コミュニケーションI [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	923
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R8302】 スペイン語 コミュニケーションII [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	924
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語 (諸外国語)【R8303】 現代のスペイ ン語I [大西 亮] 春学期授業/Spring	925
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語 (諸外国語)【R8304】 現代のスペイ ン語II [結城 健太郎] 秋学期授業/Fall	926
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R8305】 スペイン語の世界L A [佐々木 直美] 春学期授業/Spring	927
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R8306】 スペイン語の世界L B [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall	928
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語 (諸外国語)【R9283】 朝鮮語4 B I (視聴覚) [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	929
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語 (諸外国語)【R9284】 朝鮮語4 B II (視聴覚) [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	930
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R9289】 朝鮮の文化と社会L A [梁 禮先] 春学期授業/Spring	931
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R9290】 朝鮮の文化と社会L B [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	932

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの消費生活では、契約トラブル、悪質商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。

学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。

消費者法 I では、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。

契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者法とは何か①	消費者法とは何か。消費者基本法。教科書 Unit1
第2回	消費者法とは何か②	消費者・事業者概念。教科書 Unit2
第3回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失。教科書 Unit3
第4回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺。教科書 Unit4

第5回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法4条など。教科書 Unit5
第6回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法4条など。教科書 Unit6
第7回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引。教科書 Unit7
第8回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その1	民法による不当条項規制、約款論。教科書 Unit8
第9回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その2	消費者契約法8条～10条。教科書 Unit9
第10回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要。教科書 Unit11
第11回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、通信販売規制、過量販売規制など。教科書 Unit12
第12回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続。教科書 Unit13
第13回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	クレジットカードの不正利用、預金トラブル。教科書 Unit14
第14回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法役割。教科書 Unit15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法（第2版）』（商事法務、2025年）
 このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第6版）』（日本評論社、2026年）
 河上正二＝沖野真巳編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）
 松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）
 大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100%とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話を聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。
 ・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。

・2026年度は「消費者法Ⅰ」を開講する。「消費者法Ⅱ」は2027年度に開講する予定である。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

経済法 I

渡邊 昭成

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講義上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。

講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。

事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。

事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

経済法 I および経済法 II では、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。

経済法 I では、独占禁止法による規制のうち「不当な取引制限」及び「私的独占」について学習する。講義ではルールを概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

本講義は教室における対面での開講を原則とする。講義形式でレジュメに沿って授業を進める。受講生の発言を求める場面がある。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等について回答することでフィードバックを図る。

数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。また、ゲストスピーカーを迎えて授業を行うことも予定している。いずれも、日程や実施方法については授業等で周知する。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。ゲストスピーカー回については、相手方の都合により実現できない可能性もある。何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。

また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済法総論（1）	独占禁止法の目的および体系
第2回	経済法総論（2）	独占禁止法とその他の経済的規制の関係
第3回	経済法総論（3）	経済法の現状と課題
第4回	独占禁止法のエンフォースメント（1）	行政上の効果（排除措置命令・課徴金・リニエーション制度）
第5回	独占禁止法のエンフォースメント（2）	民事・刑事上の効果、独禁法の実務

第6回	不当な取引制限（1）	概観、事業者概念
第7回	不当な取引制限（2）	成立要件－相互拘束
第8回	不当な取引制限（3）	成立要件－共同性
第9回	不当な取引制限（4）	成立要件－一定の取引分野における競争の実質的制限
第10回	不当な取引制限（5）	成立要件－公共の利益
第11回	私的独占（1）	概観、行為要件
第12回	私的独占（2）	事例（1）支配型私的独占の事例を扱う。
第13回	私的独占（3）	事例（2）排除型私的独占の事例を扱う。
第14回	独禁法の実務	ゲスト講師による実務経験に基づく独禁法運用の実情

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022年）2970円

【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第2版）』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験90%、平常点10%。

期末試験は持ち込み不可を予定している（事例問題、論述問題等を予定）。

小さな課題と小テストを課す可能性がある。これらはいずれも平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたは、おおむね好評だった。ゲストスピーカーによる講義は受講生に好評であるので、継続することとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を「学習支援システム」において共有する。また、数回オンライン授業を実施する可能性がある。PC やタブレット等の必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】

独占禁止法の基本的な内容について、経済法 I（春学期）及び経済法 II（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。独占禁止法の全範囲について基本的な内容を学習したいと考える学生には、春学期・秋学期あわせて履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

(1)Course Outline

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

(2)Learning Objectives

Acquiring basic concepts of antitrust law.

Understanding sufficiently the mechanism by which competition is restricted in the market due to restrictive competition actions by business operators.

Understanding the nature and necessity of "fair competition" in business activities.

(3)Learning Activities Outside of Classroom

Review the textbook, reference books, and lecture materials after the lecture. Students are expected to obtain information on recent cases from newspapers and other sources. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each class.

(4)Grading Criteria /Policy

90% for the final exam and 10% for others.

LAW200AB（法学 / law 200）

経済法Ⅱ

渡邊 昭成

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講義上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。

講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正で自由な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。この講義（経済法Ⅱ）では、独占禁止法による規制のうち「不正な取引方法」について学ぶ。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。

事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。

事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は教室における対面での開講を原則とする。講義形式でレジュメに沿って授業を進める。受講生の発言を求める場面がある。数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。また、ゲストスピーカーを迎えて授業を行うことも予定している。いずれも、日程や実施方法については授業等で周知する。ゲストスピーカー回については、相手方の都合により実現できない可能性もある。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。また何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。

本講義では、経済法Ⅰを履修済みで、独占禁止法についてかなりの知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ、不正な取引方法（1）	不正な取引方法の概要・共同の取引拒絶
第2回	不正な取引方法（2）	単独（その他の）取引拒絶
第3回	不正な取引方法（3）	差別対価、差別的取り扱い
第4回	不正な取引方法（4）	不当廉売

第5回	不正な取引方法（5）	ぎまんの顧客誘引、不当な利益による顧客誘引
第6回	不正な取引方法（6）	抱合せ取引
第7回	不正な取引方法（7）	排他条件付取引
第8回	不正な取引方法（8）	再販売価格維持行為
第9回	不正な取引方法（9）	拘束条件付取引
第10回	不正な取引方法（10）	優越的地位の濫用
第11回	不正な取引方法（11）	独禁法の実務の現状
第12回	不正な取引方法（12）	不当な取引妨害
第13回	不正な取引方法（13）	不正な取引方法－総括
第14回	不正な取引方法（14）	事業者団体規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022年）2970円

【参考書】

川濱昇ほか『経済法判例・審決百選（第3版）』（有斐閣、2024年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90 %、平常点 10 %。

期末試験は持ち込み不可を予定している（事例問題、論述問題等を予定）。

小さな課題と小テストを課す可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたに対しては、おおむね好評だったのではないかと。継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。ゲストスピーカーは受講生に好評だったので継続することになっている。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムを通じて共有する。また、数回オンライン授業を実施する可能性がある。PCやタブレット等の必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】

独占禁止法の基本的な内容について、経済法Ⅰ（春学期）及び経済法Ⅱ（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。経済法Ⅱ（秋学期）は、経済法Ⅰ（春学期）の講義内容の学習を通じて独占禁止法について十分な知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【Outline (in English)】

(1)Course Outline

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

(2)Learning Objectives

Acquiring basic concepts of antitrust law.

Understanding sufficiently the mechanism by which competition is restricted in the market by restrictive competition actions of business operators.

Understanding the nature and necessity of "fair competition" in business activities.

(3)Learning Activities Outside of Classroom

Review the textbook, reference books, and lecture materials after the lecture. Students are expected to obtain information on recent cases from newspapers and other sources. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each class.

(4)Grading Criteria /Policy

90% for the final exam and 10% for others.

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、継続して履修することを強く勧めます。

この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、都合により一部オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第2回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第3回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合・過半数代表者／労働法の法源

第4回	労働契約規制（1）	本体的権利義務／使用者の付随義務
第5回	労働契約規制（2）	労働者の付随義務
第6回	労働契約規制（3）	労働基準法上の規制／国際的労働契約
第7回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間
第8回	労働契約の終了（1）	合意解約と辞職／定年／解雇制限
第9回	労働契約の終了（2）	解雇権濫用法理
第10回	懲戒	懲戒処分の種類／根拠と限界
第11回	労働条件の決定（1）	労働契約・労使慣行／就業規則
第12回	労働条件の決定（2）	就業規則と労働契約法
第13回	労働条件の決定（3）	就業規則の不利益変更
第14回	労働紛争の実態	労働紛争の実態を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〔予習〕（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。

〔復習〕（3時間程度）

- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所 2020年）

大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』

三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間レポート、期末テストを、それぞれ実施します。

〔小テスト〕3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

〔中間レポート〕2割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

〔期末テスト〕5割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料については比較的评价が高かったので継続して利用します。中間レポートに対するフィードバックはより素早く行えるように準備します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

- ・労働基準法との連続履修を強く勧めます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

〔授業を受ける姿勢〕

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In this lecture, students learn about the framework of individual labor & employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-midterm exam(20%)

-final exam(50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、連続して受講することを強く推奨します。

この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働契約法の復習／労働基準法の全体像
第2回	賃金（1）	賃金総論／最低法賃金／賃金支払いの4原則
第3回	賃金（2）	賞与／退職金／休業手当

第4回	賃金（3）	賃金債権の確保／休業手当／解雇と賃金
第5回	労働時間（1）	労働時間の定義／休憩・休日
第6回	労働時間（2）	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第7回	労働時間（3）	弾力的労働時間制度／裁量労働制／労働時間法制の適用除外
第8回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第9回	人事制度（1）	配転／出向、転籍
第10回	人事制度（2）	昇進・降職／昇格・降格／人事考課
第11回	企業組織再編	合併／事業譲渡／企業分割
第12回	労災（1）	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険
第13回	労災（2）	過労死・過労自殺／労災民訴
第14回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〔予習〕（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。

〔復習〕（3時間程度）

- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
 大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[期末テスト] 7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料についてはおおむね良好な評価を得ているので、引きつづき利用を継続します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

- ・労働法総論・労働契約法との連続履修を強く勧めます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

【授業を受ける姿勢】

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-Final exam(70%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学部他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008年3月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月7日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、労働法とは？	講義内容や評価方法について 労働法の全体像について
第2回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第3回	労働関係のプレイヤ（1）	労働者について
第4回	労働関係のプレイヤ（2）	使用者について

第5回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第6回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第7回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について
第8回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第9回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第10回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第11回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第12回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第13回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第14回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80点）
- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web小テスト（20点）
- ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【専門領域と研究業績】

- ＜専門領域＞ 社会法（社会保障法・労働法）
- ＜研究テーマ＞ 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
- ＜主要研究業績＞

【主な著書】

- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
- （編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
- （分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
- （分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
- （分担執筆）「ニューレクチャー労働法〔第3版〕」（成文堂）
- （編著）「ファーストステップ労働法」（エデル研究所）
- （分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）
- （分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）

【主な論文】

「派遣労働者の均等・均衡処遇—労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」(労働法律旬報2095+2096号、) 2026年)

「労働契約申込みなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」(労働法律旬報2078号、2025年)

「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報(2071+2072号、2025年)

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号、2023年)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号、2023年)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号、2023年)」

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号、2023年)」

「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号、2022年)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. A basic principles of labor law;
- 2. A Labor Contract Act;
- 3. A case law concerning the Labor Contract Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律3～4年（他学部他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月22日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守らせるための手段について 均等待遇原則、強制労働の禁止について
第2回	労働者の人権	

第3回	労働者のプライバシー	個人情報保護法の労働関係への適用と労働者のプライバシーの尊重について
第4回	賃金（1）	賃金の定義、最低賃金規制について
第5回	賃金（2）	賃金支払規制について
第6回	賃金（3）	休業手当、賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第7回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第8回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第9回	労働時間規制（3）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制の残りの論点について
第10回	フレキシブルな労働時間制度	労働時間制・フレックスタイム制について
第11回	みなし労働時間制について	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第12回	労働時間規制の適用場外について	労働基準法41条及び同法41条の2の例外について
第13回	休暇	年次有給休暇等について
第14回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）
 ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
 Web小テスト（20点）
 ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

シラバスの内容を変更し、実務家の方による講演を実施することがあります。

【専門領域と研究業績】

＜専門領域＞ 社会法（社会保障法・労働法）
 ＜研究テーマ＞ 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
 ＜主要研究業績＞

【主な著書】

- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
- （編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
- （分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
- （分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
- （分担執筆）「ニューレクチャー労働法〔第3版〕」（成文堂）
- （編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
- （分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）

(分担執筆)「労働者派遣と法」(日本評論社)

【主な論文】

「派遣労働者の均等・均衡処遇—労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」(労働法律旬報2095+2096号、2026年)

「労働契約申込みみなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」(労働法律旬報2078号、2025年)

「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報(2071+2072号、2025年)

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号、2023年)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号、2023年)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号、2023年)

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号、2023年)

「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号、2022年)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. About a Labor Standards Act;
- 2. A case law concerning the Labor Standards Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法 I

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法（労働法中心）コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法 I では教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】

教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第2回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第3回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第4回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制の生成過程について
第5回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第6回	新・教育基本法制（旧法）	旧教育基本法について
第7回	新・教育基本法制（新法）	新教育基本法について
第8回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第9回	教育権一学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通して考察する。
第10回	教育権一学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通して考察する。
第11回	教育権一教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通して考察する。

第12回	教育権一教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通して考察する。
第13回	教育権一学力テスト事件（沿革、学説）	旭川学力テスト事件について沿革、学説を通して考察する。
第14回	教育権一学力テスト事件（判例）	旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法 2026年版』北樹出版、2026年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

・設題に対して、授業内容を踏まえたうえで論理的な解答ができていますか評価します。

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

・毎回の授業内容を踏まえたうえでの記述になっているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法Ⅱ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】

子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。

近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第2回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原則について
第3回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第4回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第5回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第6回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第7回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する

第8回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第9回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第10回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第11回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第12回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第13回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第14回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法 2026年版』北樹出版、2026年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

・設題に対して、授業内容を踏まえたうえで論理的な解答ができていますか評価します。

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

・毎回の授業内容を踏まえたうえでの記述になっているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

POL100AC (政治学 / Politics 100)

政治体制論 I

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。

【到達目標】

政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手が見出したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、今年度はさしあたり下記授業計画に示したようなかたちで、リベラル・デモクラシーとこれを脅かすものを検討することによって試みる。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の進め方・この講義における政治体制のとらえ方
第2回	フランシス・フクヤマ	『歴史のおわり』
第3回	フランシス・フクヤマ	『歴史のおわり』
第4回	ロバート・ダール	『ポリアーキー』
第5回	ロバート・ダール	『ポリアーキー』
第6回	アンソニー・ギデンズ	『第三の道』
第7回	アンソニー・ギデンズ	『第三の道』
第8回	春学期中間考察	前半の内容をふりかえる
第9回	サミュエル・ハンチントン	『文明の衝突』
第10回	サミュエル・ハンチントン	『文明の衝突』
第11回	スラヴォイ・ジジェク	『ポストモダンの共産主義』
第12回	ヤニス・ファロファキス	『テクノ封建制』
第13回	ヤニス・ファロファキス	『テクノ封建制』
第14回	春学期総括考察	後半と全体の内容をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない予定ですが、授業計画（テーマと内容）に記した著者名の文献の多くは文庫本で読むことができます。履修者は極力、事前・事後にそれらの文献を読むように心がけてください。

【参考書】

参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と期末試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

講義の実施形態や内容等に変更があった場合は、授業支援システムに記していきますので、履修者は必ず、同支援システムにも登録し、定期的に閲覧するようにしてください。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung ist ein Versuch, um ein Überblick über die verschiedenen politischen Regime zu verschaffen.

English Keywords: comparing political regimes

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ジェンダー論 I

浅野 幸子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既存の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だと言っても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論Ⅰでは、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。いわばジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来からの固定的な見方とは異なる形で再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そして、それがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、その要因はどのような政治的、社会的な事象と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2000年以降、5年ごとに策定されてきた「男女共同参画基本計画」をもとに様々な分野で推進されている政策を理解することによって、政策決定過程やあらゆるレベルの政策及びシステムをジェンダー平等にするための政策理念「ジェンダー主流化（Gender Mainstreaming）」概念を明確にします。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに、いくつか内容を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢。身近なくらしに埋め込まれたジェンダーに関わる社会通念についても考える。
第2回	ジェンダーとは？ ① ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	ジェンダーとは？ ② ジェンダーをめぐる最近の動向について考える	現在ジェンダーをめぐる課題が大きく取り上げられるようになっている。男性性をめぐる議論、多様性をどう考えるか、LGBTQやパートナーシップ制度等に関する法制度の整備も進んでいる。政策の動向についても考察する。また、各地の裁判所で出された判決についても言及する。
第4回	家族とジェンダー	未婚化、少子化が進んでいる。家族を形成する結婚や子育ての状況が変化している。歴史的な動向を説明すると主に現状の問題を考えるとともに、少子化に対応する子育て支援施策(異次元の少子化対策)についてジェンダーの視点から考える。
第5回	教育とジェンダー	一般に教育の場は男女平等など言われている。問題はないのかを考える。教育の中に潜むジェンダー問題を明らかにする。「理系は男子が得意で女子は文系が得意」といった、内在しているアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）についても理解する。

第6回	労働とジェンダー①	「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。 女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることとなった。また、「年収の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。	第13回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。 SDGs、GGGI等の国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし、その要因も考える。
第7回	労働とジェンダー②	男女ともに働きやすい職場環境を作るために「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいる。2022年に男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。男性が育児に関わることの意味と課題を考える。	第14回	授業内試験	持ち込み不可
第8回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
第9回	ジェンダーにもとづく暴力の根絶	性暴力、DVといったジェンダーに基づく暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力を根絶するためにはどうすべきかを考える。改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。	【テキスト（教科書）】 毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。		
第10回	政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画度合いは国際的に見ても非常に低く、その拡大は現在の日本において大きな課題となっている。特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。2018年に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」についても言及する。併せて、戦後の女性主体の各種の社会運動の歴史と、それらが政策形成や女性の政治参画にもつながっていたことも紹介する。	【参考書】 ・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書2023年） ・牧野百恵『ジェンダー格差』（中公新書2023年） ・関口洋平『イクメンを疑え！』（集英社新書2023年） ・神谷悠一『差別は思いやりでは解決しない』（集英社新書2022年） ・男女共同参画基本計画（シラバス作成時点では5次計画が最新が、今年前半に策定予定の第6次計画を参照のこと） https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/index.html ・国立女性教育会館 学校教育における男女共同参画推進 https://www.nwec.go.jp/research/teacher.html ・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ） http://www.gender.go.jp/c-challenge/ ・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進 http://www.jst.go.jp/diversity/index.html ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて http://www.cao.go.jp/wlb/index.html ・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html ・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html ・NWEC実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」 https://www.nwec.go.jp/about/publish/2018/ecdat60000002jgc.html ・若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材 http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html ・内閣府男女共同参画局 災害対応のページ https://www.gender.go.jp/policy/saigai/index.html		
第11回	災害とジェンダー	災害は平等に人を襲うわけではなく、ジェンダー、階級、人種などの要因により平時から不利な状況に置かれているひとは、被害が大きくなる傾向にある。ジェンダーは医療・福祉・保育の問題とも深く結びついている。防災対策上、ジェンダーは不可欠であることを、国内災害の実態と、政策動向などを通して理解する。	【成績評価の方法と基準】 内容ごとの課題レポートの提出（50%） 筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（50%）		
第12回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を中心に理解する。 さらにジェンダー平等に向けた法制度についても概観する。	【学生の意見等からの気づき】 本年度、授業担当者変更により、フィードバックできません。		
			【Outline (in English)】 Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. Course outline This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course. Learning Objectives The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena. Lecture/Exercise (two-credits) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading Criteria /Policies Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 50%		

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ジェンダー論 II

佐藤 信

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

現代日本を事例にジェンダーと政治の関係性を学ぶ。

【目的】

現代社会をよりよく生き抜くために基盤となるジェンダーの視角とジェンダーを取り巻く課題を理解する。

【到達目標】

- ・基礎的なジェンダーや関係する日本政治の知識を習得する
- ・さらに深い理解（他のジェンダー課題、政治・政策課題、理論化など）への基盤をつくる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。基本的に対面で行うが、オンデマンドで実施することがある。

出席は採らないが、課題のほか、学期中2-3回程度、レスポンス・ペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに(1)	ガイダンス＋gender/sexの基本
第2回	はじめに(2)	gender/sexと政治一視えていなかったところを埋める
第3回	日本の地域(1)	女性の不在？
第4回	日本の地域(2)	婦人会の系譜
第5回	日本の地域(3)	父兄会とPTA
第6回	日本の議会(1)	女性の不在？
第7回	日本の議会(2)	政治家の女性家族(1)
第8回	日本の議会(3)	政治家の女性家族(2)
第9回	日本の議会(4)	政治家を支えるその他の女性
第10回	日本の政党・支持団体(1)	女性の不在？＋政党婦人部
第11回	日本の政党・支持団体(2)	支持団体の婦人部（労働組合・宗教団体）
第12回	日本の政策(1)	天皇制・姓・働き方の戦前と戦後
第13回	日本の政策(2)	gender多様性と生殖技術の時代
第14回	おわりに	試験＋解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライドを利用した場合には著作権や個人情報に配慮したうえで授業後に一部を提供する。授業後にはよく咀嚼しておくこと。

講義はあくまで学習の端緒を用意するものに過ぎないから、授業で紹介された参考文献を読んだり、紹介された事例について調べたり、自ら学習を深めることが望まれる。

本授業の授業外学習は課題を除き2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

逐次指示するが、以下のものは全体を通して益する。

【参考書】

加藤秀一（2017）『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア

前田健太郎（2019）『女性のいない民主主義』岩波新書

牧野百恵（2023）『ジェンダー格差』中公新書

（課題に関するもの）

前田拓也ほか（編）（2016）『最強の社会調査入門』ナカニシヤ出版

佐藤信（編）（2025）『オーラル・ヒストリー入門』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】

課題提出30%、期末試験70%。

ただし、単位の可否の判断に際して授業態度やコメントペーパーを反映する。

【課題の方法と基準】

授業中に課題に従って、授業外学習で実施して、電子ファイルでレポートを提出する。

労力と正確性と独創性を評価する。

生成AIの利用について基本的には全学の方針に従うが（自身での課題や計画の検討にあたって利用することは認める）、文章の校正・校閲においてのみ追加でその使用を認める。（生成AI利用の巧拙によって左右される能力は評価対象ではないということである。）

【試験の方法と基準】

対面で期末試験を実施し、その後解説を行う。ノートや資料の持ち込みは不可。

授業で提供した知識と思考力を正しく得られているかをチェックする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはない。

ただし、随時レスポンス・ペーパーによる変更を行うほか、授業内でも発言や質問を促すことがある。

【学生が準備すべき機器他】

スライドの提供や課題の提出には学習支援システムを利用する予定であるため、活用できる環境が必要となる。

【その他の重要事項】

質問は授業中を基本とする。

非常勤講師のためオフィスアワーはないので、授業外での問い合わせなどはメール（shinsato@tmu.ac.jp）で行うこと。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course explores the relationship between gender and politics focusing on postwar Japan.

【Learning Objectives】

Students will be able to gain the perspective on gender and understand the challenges surrounding gender.

【Learning Activities outside of Classroom】

An essay will be assigned. Preparatory study and review time for this class are two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on an essay (30%) and a final exam (70%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

福祉政策 I

荒木 千晴

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は政策・都市・行政の分野に属する科目です。

日本の社会福祉制度は、対象者別に発展してきましたが、現在、「地域共生社会の実現」に向けて、社会福祉の各制度を、地域を基盤に包括化する方向で展開されています。

本授業では福祉政策の展開を理解するとともに、近年の福祉政策を特徴づける包括的支援体制について検討します。また、海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴の理解を深めます。

【到達目標】

- (1) 福祉政策が求められる背景にある社会問題を理解する。
- (2) 現在の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要と用語を理解する。
- (3) 近年における福祉政策の展開を理解する。
- (4) 福祉政策の内容と実際について、複数のテーマにおける事例をもとに理解する。
- (5) 海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉政策に関する基礎概念、政策、団体、海外の制度等、毎回中核となる主題をとりあげます。また、テーマに即した具体的な事例等を通じて、多角的・実践的な視点から福祉政策の理解をすすめます。教員による講義のほか、履修人数によっては、学生によるディスカッションの機会を設けることがあります。また、講義の内容について学生の理解を確認するため、リアクション・ペーパーの提出を求めます。これは不定期に合計4回ほど実施する予定で、成績評価の対象となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法等を説明する。 福祉政策を学ぶ際の視点について考える。
第2回	福祉政策の展開	日本における福祉政策の歴史的な展開を解説する。
第3回	今日の社会問題と福祉政策	現代における社会問題を概括し、福祉政策に何が求められているか考える。
第4回	福祉所得保障に関する福祉政策	所得保障に関する各制度の概要、生活保護、生活困窮者自立支援事業等、政策動向について解説、課題と展望について考える。
第5回	高齢者福祉政策	高齢者福祉に関する福祉政策について、介護保険をはじめ各制度の概要・政策動向を解説、課題と展望について考える。

第6回	障害者福祉政策	障害者福祉政策について、障害者自立支援制度をはじめ制度の概要・地域の支援体制を解説、課題と展望について考える。
第7回	子ども家庭福祉政策	子ども家庭福祉政策について、概要・政策動向を解説、課題と展望について考える。
第8回	権利擁護に関する福祉政策	地域における権利擁護体制の推進の現状、成年後見制度等権利擁護のための制度について解説し、課題と展望について考える。
第9回	社会的包摂に関する福祉政策	地域共生社会に向け、多文化共生や司法福祉など、社会的包摂の観点から求められる福祉政策の現状について解説し、課題と展望について考える。
第10回	災害と福祉政策	災害時の福祉的支援について、DWAT（災害派遣福祉チーム）による支援活動等の事例に基づき理解を深める。
第11回	地域福祉政策と包括的支援体制	包括的支援体制の構築の基盤となる地域福祉政策の展開、体制について、事例をもとに検討する。
第12回	福祉政策を推進する体制	福祉政策を推進するための各機関や人材等について紹介し、課題や各機関の連携・協働等今後の体制のあり方を考える。
第13回	海外の福祉政策	海外における福祉政策の展開を紹介し、日本の福祉政策の特徴を明らかにする。
第14回	授業のまとめ、到達度確認	授業を振り返り、その内容についてまとめる。また、授業内容に関する筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多様な複数のメディアを通じて、身近な福祉政策について関心をもつように心がけてください。

授業中は、重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、教員に質問したり、授業中に提供した資料、記録をもとに復習を行うとともに、各回のテーマについて居住する自治体の情報やニュース等、福祉政策の実際に触れ、情報収集を行い、理解を深めることが推奨されます。

学習支援システムを通じて教材を事前配布した場合には、授業前に読んで検討しておくことが準備学習として求められます。

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しません。毎回、学習支援システムを通じて教材の配布を行います。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）及び授業内リアクション・ペーパー（30%）により評価します。評価の基準については、授業の内容や課題への取り組みを通してみなさんがどのように考えたのかを重視しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業内アンケートを受け、各分野の福祉政策概要に加え、自治体等における具体的な福祉政策の展開事例を、映像等を用いて紹介を行います。

【Outline (in English)】

This course belongs to the “policy-related” field within the Political Science Department.

Japan's social welfare system has developed separately for different beneficiary groups. However, it is now being expanded toward the realization of a “community-based inclusive society,” aiming to integrate various social welfare systems on a community-based foundation.

This course examines the development of welfare policy and explores the comprehensive support systems that characterize recent welfare policies. Furthermore, by comparing with welfare policies overseas, it deepens understanding of the distinctive features of Japan's welfare policy.

Students will be Assessed by;

Written Exam 70%, Reaction paper 30%

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国語講読 (独語) I

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。
政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します (各回約2ページ進むことを目指します)。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	文献精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	文献精読 (第2回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	文献精読 (第3回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	文献精読 (第4回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	文献精読 (第5回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	文献精読 (第6回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	文献精読 (第7回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	文献精読 (第8回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	文献精読 (第9回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	文献精読 (第10回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	文献精読 (第11回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	文献精読 (第12回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論

第14回 まとめ

まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Rainer Forst, "Welten der Rechtfertigung: Die Diskursethik als kantischer Konstruktivismus," in: Vernünftige Freiheit: Beiträge zum Spätwerk von Jürgen Habermas, hrsg. Stefan Müller-Dohm, Smail Rasic und Tile Wesche (Berlin: Suhrkamp, 2024), 238-259.

初回にコピーを配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』(三修社)

『大独和辞典』(小学館)

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』(白水社)

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読することはしません。

文法について考えるのみではなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワーク接続ができ、Zoomが使えるPCまたはタブレット、および、オンライン会議に使えるカメラとマイク

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書または文法教科書も、必ず持ってきてください。

(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。(昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。)

事情によりオンラインで開講する場合があります (通算7回以内)。オンライン開催の場合は、事前に学習支援システムを通じて連絡します。

オンラインで開催する回は、カメラをオンにして参加すること、および、指名された場合に口頭で回答することを出席の条件 (平常点採点の対象) とします。

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to develop academic reading skills in German by reading Forst's work.

【Learning activities outside of the classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL300AD (政治学 / Politics 300)

アメリカ外交史 I

青野 利彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：「アメリカ政治外交史」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、現在のアメリカ外交を理解するために必要な、歴史的背景や経緯について基礎的な知識を獲得することである。講義では主として第二次世界大戦後からベトナム戦争が泥沼化した1960年代末までの時期を扱うが、戦後アメリカ外交を理解する上で重要な20世紀初頭までの歴史的背景についても概観する。アメリカの対外政策を規定した内政上の要因や、逆に対外関係が内政に与えた影響についても留意しながら講義を進める。（なお、1970年代～2020年代までのアメリカ外交は、2027年度にアメリカ外交史IIで扱う予定。）

【到達目標】

科目修得した時点で以下の諸点を把握していることが期待される。

- (1) 建国期に起源を持つアメリカ外交の思想的基盤と、それが以降のアメリカ外交に与えた影響。
- (2) 建国期から第二次世界大戦、冷戦開始期を経て、1960年代末にいたるまでのアメリカ対外政策の歴史の概要、
- (3) アメリカの対外政策形成に影響を与えた国際環境や国内政治の影響。
- (4) アメリカ外交が世界に与えたインパクト。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、受講者数次第で適宜ディスカッションを取り入れる可能性がある。定期的にリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アメリカ外交をどのような歴史的視角から見るべきかについて検討し、授業の概要を紹介する。
第2回	アメリカ外交の歴史的基盤（1）	建国（1776年）から19世紀末まで
第3回	アメリカ外交の歴史的基盤（2）	20世紀初頭から第一次世界大戦まで
第4回	第二次世界大戦と冷戦の起源（1）	戦間期から第二次世界大戦まで
第5回	第二次世界大戦と冷戦の起源（2）	第二次世界大戦末期～冷戦初期
第6回	朝鮮戦争と冷戦の軍事化（1）	戦後アメリカの東アジア政策の展開
第7回	朝鮮戦争と冷戦の軍事化（2）	朝鮮戦争の勃発とその影響、米国内におけるマッカーシズムの展開
第8回	アイゼンハワー政権とニュールック戦略（1）	アイゼンハワー政権の登場とニュールック戦略の概観、大量報復戦略の適用
第9回	アイゼンハワー政権とニュールック戦略（2）	第三世界への介入拡大、1950年代のアメリカの内政・社会と冷戦

第10回	ケネディ政権とベリン・キューバ危機（1）	アイゼンハワー政権後期の東西対立の高まり、ケネディ政権の冷戦戦略の概観
第11回	ケネディ政権とベリン・キューバ危機（2）	ケネディ政権期の米ソ関係とキューバ危機の勃発・展開・解決および影響
第12回	ベトナム戦争とアメリカの価値観の揺らぎ（1）（ケネディ期まで）	ジョンソン政権期の米ソ関係、ベトナム戦争の起源と展開
第13回	ベトナム戦争とアメリカの価値観の揺らぎ（2）	ジョンソン政権のアメリカの直接介入、戦争の泥沼化とその影響、1960年代末の米国社会
第14回	まとめ	講義内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに1時間、講義終了後に内容を復習したり関連文献を読解するのに2時間、合計3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定せず、毎回レジュメを配布する。各テーマの参考文献はレジュメで紹介する。なお教科書指定はしないが、授業内容の確認に役立つ書籍として以下を参照。

青野利彦『冷戦史』上下、中公新書、2023年（上巻全体および下巻7章）

青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎『現代アメリカ政治外交史－「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』（ミネルヴァ書房、2020年）序章～第4章。

【参考書】

参考書として以下もあげておく

小川浩之、板橋拓巳、青野利彦『国際政治史――主権国家体系のあゆみ〔新版〕』有斐閣、2024年。特に5～10章。

佐々木卓也編『新版 戦後アメリカ外交史 第3版』有斐閣、2017年
佐々木卓也『冷戦』有斐閣、2011年

西崎文子『アメリカ外交史』東京大学出版会、2022年
益田実・齋藤嘉臣編著『冷戦史－超大国米ソの出現からソ連崩壊まで』法律文化社、2024年

【成績評価の方法と基準】

学期中のリアクションペーパー：30%

期末試験：70%

上記合計の100点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者につきフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

無し

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic knowledge of the historical background and context essential to understand contemporary American foreign policy. While the lectures primarily cover the period from the end of World War II to the late 1960s when the Vietnam War became entrenched, they also provide an overview of the historical background from the American Revolution in the late 18 century to the first four decades of the 20th century, which is crucial for understanding postwar American diplomacy. It also pays attention to the intersections between domestic political and social factors and foreign policy. (Note: American foreign policy from the 1970s to the 2020s is scheduled to be covered in American Diplomatic History II in the 2027 academic year.)

POL200AC (政治学 / Politics 200)

都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・原則、対面方式で実施する（ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う）。
- ・授業資料は、授業前日（月曜日中）までに学習支援システムにアップロードする（印刷配布をしない）。
- ・受講者は、授業終了当日（火曜日）中（締切：23時59分）までに講義課題を提出する（ただし、第1回のみは翌週締切とする）。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明をしたあと、授業が対象とする都市とは何か、そして都市の成り立ちについて概観する。
第2回	工業化の進展と都市	工業化の進展とともに都市空間の在り方が変化し、また発生する課題への対応により近代都市計画の発生する経緯を概観する。
第3回	商業と都市空間	都市における経済活動が都市空間に与えた影響について概観する。
第4回	都市の住まい	都市住民の生活の器としての住宅が都市形成に与える影響、またセーフティネットとしての住宅を担保する住宅政策について概観する。
第5回	都市の防災	異常な自然現象などによって都市における活動や人名に被害を与える災害への対応などについて概観する。
第6回	都市の環境	私を取り巻く都市の環境問題、それらに対応するについて概観する。
第7回	都市計画概論	国土計画における都市計画、都市計画法の枠組みを概観する。

第8回	都市の基本計画	都市の将来の姿を共有し、実現のための都市計画の手段を表現した都市計画マスタープランを概観する。
第9回	土地利用規制	都市計画の実現手法の一つである土地利用規制（ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法））について概観する。
第10回	開発許可制度	現在の都市計画法制定の背景となった経済成長期の開発の問題とそれを踏まえた開発許可制度の導入について概観する。
第11回	市街地開発事業	都市空間における面的整備を行う手法である市街地開発事業の種類、また代表的な手法である土地地区画整理事業、市街地再開発事業について概観する。
第12回	都市施設	都市生活を支える機能を持つ都市施設、その代表的な施設である道路のあり方について概観する。
第13回	人口減少化の都市計画	人口減少社会における都市再生施策とコンパクトシティについて概観する。
第14回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスとそれに対する市民参加について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
<https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/>

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出席する課題（14回）」の合計（70%）、「②レポート課題（2回）」の合計点（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②（2回のレポートのいずれか）の未提出がある場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- 「①授業ごとに出席する課題」の評価（5段階）は下記になる。
 - 5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
 - 4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
 - 3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
 - 0：未提出、締切期限以降の提出（※提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない））。
- 「②レポート課題」（2回）について
 - ・出題は、説明用動画を用いて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。
 - ・提出は、学習支援システムを通じて行う。
 - ・評価（5段階）は下記とする。
 - 5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
 - 4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
 - 3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。
 - 2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。
- ※締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

【その他の重要事項】

受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第1回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること（動画のリンク先は、学習支援システムで連絡するので、必ず仮登録をすること）。

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、地域の課題解決や資源を活用した価値創造を目的とした地域住民、企業、行政等による取り組み（まちづくり）を対象とする。特に近講義では、地域住民等が主体的に関わる取り組みを中心として、各テーマごとに背景、関連する制度、具体的な取り組みなどを概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市において表出している課題の存在とその背景となる構造を認識できること
- 2) まちづくりが多様な主体の協働によって行われることを理解し、各主体の役割について理解できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・原則、対面方式で実施する（ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う）。
- ・授業資料は、授業前日（月曜日中）までに学習支援システムにアップロードする（印刷配布をしない）。
- ・受講者は、授業終了当日（火曜日）中（締切：23時59分）までに講義課題を提出する（ただし、第1回のみは翌週締切とする）。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業が対象とする「まちづくり」とは何かについて問題提起する。
第2回	地域防災	想定されている災害に備えた地域社会の取り組み等について理解する。
第3回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第4回	地域福祉	人口減少、少子・高齢化が進行する中で安心して生活できる社会をつくるために地域社会で取り組み取り組みについて理解する。
第5回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する。
第6回	公共施設マネジメント	人口減少、超高齢社会を進行し、かつ成長期に作られた公共施設が老朽化した中での公共施設のあり方、それへの対応について理解する。
第7回	ミクロの都市計画	地域環境の課題解決や価値の創造のために行う土地利用規制や施設整備などの都市計画（地区計画等）の仕組みを理解する。

第8回	都市における建物ストックの活用	人口減少等に伴う発生している空き家や空き店舗などの建物ストックの増加を予防したり、地域のために活用したりする取り組みを理解する。
第9回	郊外住宅地の再生	人口増加期に都市周辺に拡大した郊外住宅地の課題やそれに対する取り組みについて理解する。
第10回	歴史的町並みの保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第11回	景観形成とまちづくり	都市の魅力を高める街並みづくり、景観形成について理解する。
第12回	観光施策と都市	都市における経済効果が期待される観光の取組とそれによる都市への影響について理解する。
第13回	公共空間の利活用	まちなかの賑わい創出等を目的とした公共空間利活用に関する取り組みについて理解する。
第14回	地域を運営する仕組み	社会状況の変化、施設の老朽化等に伴う、公共施設の在り方の変化について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
 伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本 第二版」（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- 「②レポート課題（2回）」の合計点（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②（2回のレポートのいずれか）の未提出がある場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- 「①授業ごとに課題する課題」の評価（5段階）は下記になる。
- 5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
- 4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
- 3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
- 0：未提出、締切期限以降の提出（※提出締切時間は厳守すること、締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
- 「②レポート課題」（2回）について
- ・出題は、説明用動画をういて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。
- ・提出は、学習支援システムを通じて行う。
- ・評価（5段階）は下記とする。
- 5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
- 4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
- 3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。
- 2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。
- ※締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

【その他の重要事項】

- ・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める（ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める）。
- ・受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第1回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること。
- ・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the existence of challenges in cities and the structures that contribute to them.

B.Understand that machizukuri is carried out through the collaboration of a variety of actors, and be able to understand the role of each actor.

POL200AD (政治学 / Politics 200)

国際協力講座

木内 真理子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。

【到達目標】

- ・国際協力分野に携わる様々なアクターによる政策や活動について、また、アクター間の連携について知識を深める。
- ・国際協力分野の実態と課題について知る。
- ・国際協力分野における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ゲストスピーカーによる講義と学生からの質疑応答で授業を構成する。授業後には講義への理解度を確認するため、支援システムを通じて毎回課題の提出を求める。ゲストスピーカーの予定によってシラバスに変更が生じる場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際協力の形態と種類	国際協力の意義、形態と種類
第2回	国際協力の世界的潮流	開発協力専門家による講義と質疑応答
第3回	持続可能な開発のための2030アジェンダとSustainable Development Goals (SDGs)	開発援助専門家による講義と質疑応答
第4回	日本の国際協力：開発協力大綱と日本の政府開発援助 (ODA)	ODAの実務家による講義と質疑応答
第5回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第6回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第7回	国際機関の役割、活動と課題	国際機関職員による講義と質疑応答
第8回	国際協力における開発コンサルタントの役割、活動と課題	開発コンサルタントによる講義と質疑応答
第9回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答
第10回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答

第11回	国際協力における民間企業の役割、活動と課題	民間企業による講義と質疑応答
第12回	国際協力とメディア	報道機関の職員による講義と質疑応答
第13回	国際協力におけるアクター間の連携について	連携推進機関の職員による講義と質疑応答
第14回	まとめ	復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメ、資料を適宜Hoppii上で配布する。

【参考書】

- ・山田満ほか編著『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）明石書店、2023年
- ・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019年
- ・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年
- ・蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020年
- ・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして わたしのSDGsへの取り組み』国際書院、2018年
- ・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力 その新しい潮流 第3版』有斐閣選書、2016年
- ・浅沼信爾・小浜裕久『ODAの終焉』勁草書房、2017年
- ・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
- ・Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development Thirteenth Edition, Pearson, 2020.

【成績評価の方法と基準】

質疑応答への積極的な参加などの平常点（30%）、課題の提出状況と内容（70%）から総合的に判断する。
＊遅刻は20分まで。それ以降の入室は欠席と見なす。
＊4回以上課題未提出の場合は単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は、政府開発援助(ODA)とNGOの双方で開発支援事業を、NGOでは組織経営を経験した実務者です。これらの現場経験を踏まえて講義を進めます。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞開発経済学、開発社会学、国際協力、NPO/NGOマネジメント

【Outline (in English)】

This course will examine the various approaches, forms, and actors of international cooperation in different fields. Different lecturers who are involved in international cooperation from the Japanese government, international organizations, NGOs, and the private sector will give lectures on the activities that they are undertaking and hold discussions with the students. Through these lectures and discussions, the students will deepen their understanding on the broad range of international cooperation activities and issues involved.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の台頭、ウクライナ戦争やトランプ第二次政権の登場は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確定となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めようとして、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているのか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけて！と願う学生の積極的な受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	危機に瀕する国際協力	アメリカをはじめとする先進国における自国第一主義的な行動や排外主義の高まり、大国間競争の激化が国際協力をどのように難しくしているかを検討する。

3	危機に瀕する国際協力②	同上。
4	途上国が直面する課題	途上国が長年直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？ 日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学：「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開：途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。

木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題（40％）と最終試験（60％）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたいと願う学生の受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界の HIV-AIDS 患者の 7 割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では 30 代前半の女性の罹患率が 36 % という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。

3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990 年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970 年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015 年に採択された SDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000 年に策定された MDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000 年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。

11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。
12	日本の政府開発援助（ODA）の特徴②	日本のODAは借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
13	日本の政府開発援助（ODA）の特徴③	2015年に日本政府が発表し23年に改訂された「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱（1992年制定、2003年改訂）」と比較しながら読み解く。
14	授業内容の振り返りと総括	これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー（A4サイズで2枚以内）を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する（シラバス通りとは限らない）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しないが、第一回講義に際しては、事前に講読文献を指定し、その感想を当日講師に直接提出することを求める。これを提出しない学生は、それ以降の受講を一切認めないので留意すること。

【参考書】

近藤康太郎、2020年、『三行で撃つー＜善く、生きる＞ための文章塾』、CCCメディアハウス。

小坂井敏晶、2017年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題（70％）およびディスカッションへの積極的参加の度合い（30％）によって成績を評定する予定（最終試験は行わない）であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論Ⅰ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（案に単位が取れる科目）ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

平和・軍事研究Ⅱ

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事争点を解説する。

これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会（例えば、国際航空宇宙展など）や記念施設への展覧や感想文を求めることもある。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	終戦の状況と戦後日本のスタート	「過去の大戦」とは何か。戦争終結要因の分析、終戦の状況を解説
第2回	米国の対日占領政策	GHQの非武装政策、平和憲法、領土処理を解説
第3回	自衛隊創設と日本の主権回復	朝鮮戦争、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約、集団的自衛権問題を解説
第4回	日米安保Ⅰ	1951年の旧日米安保条約、日米行政協定を解説
第5回	日米安保Ⅱ	1960年の新日米安保条約を解説。極東条項と核戦争巻き込まれ論など。
第6回	領土問題Ⅰ	北方四島について
第7回	領土問題Ⅱ	独島・竹島、尖閣諸島、沖縄について
第8回	シビリアンコントロール	天皇統帥権、軍政軍令分離論、シビリアンコントロールの意味
第9回	日本の核政策	非核3原則、核燃料リサイクル政策、T-1政策について
第10回	日本の軍事計画Ⅰ	一次防から「防衛大綱達成(1990年)」まで
第11回	日本の軍事計画Ⅱ	冷戦終結以降の軍事計画について
第12回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第13回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力 南の韓国に対する戦略

第14回 韓国の軍事政策 北に対する戦略
通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～30％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course will explain and analyze the history of Japan's postwar military policy and the military situation in East-Asia surrounding Japan.

The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace, and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

オセアニアの政治と社会Ⅰ

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：定員制 ※詳細は【授業の進め方と方法 / Method(s)】に記載の通り

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアというとオーストラリアやニュージーランドを思い浮かべる人が多いであろう。近年の日本の報道では、「自由で開かれたインド・太平洋」を耳にする機会が増えたが、肝心の「太平洋」を構成する国や地域については、情報が圧倒的に少ない。

オセアニアはオーストラリア、ニュージーランド、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの存在から説明されるが、これらは外来者が区分し、命名したものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験をもち、そこで生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の「遺産」は、今なお島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、島の人びとの心身を傷つけ、難民化を促し、彼らには社会・文化の消滅すら現実的なものとして認識されている。

しかし、こうした状況にあるからこそ、オセアニアの島嶼国・地域はゆるやかな協力を通じて、大国中心の国際関係や平和の問い直しを促し、国際社会に提言してきた。また、植民地化の過程で外来のものの受け入れを強いられ、それと格闘しながら、祖先から引き継いだ知恵をいかし、共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりつつ、課題に取り組んできた。

本授業では、オセアニアの特に島嶼を対象に、政治、社会の特徴、抱える問題を理解するため、オセアニアへの人類の到達から第一次世界大戦までの歴史を学ぶ。「オセアニアの政治と社会Ⅱ」の前提となる授業である。

【到達目標】

1. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する問題の独自性を自然環境や歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する問題としても理解することができる。
2. オセアニアの特に島嶼に関する情報の所在を知り、それら情報を学術的な方法によって分析、理解し、自身の認識を再構成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要がある場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
2. レジュメは授業時に配布する。
3. リアクションペーパーを毎回提出する。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。注目すべきコメントや質問があれば授業で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
4. オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、注意事項の説明。
第2回	「オセアニア」とは？	オセアニア、太平洋に関する呼称、範囲、概念を学ぶ。
第3回	現代日本におけるオセアニア認識	日本社会および受講者のオセアニア認識を明らかにし、本授業のアプローチを確認する。
第4回	太平洋島嶼を学ぶための視点①	第3回までの授業を踏まえてトピックを選び、太平洋島嶼を学ぶための視点について考える。
第5回	太平洋島嶼を学ぶための視点②	第4回授業への受講生の関心を踏まえてトピックを選び、太平洋島嶼を学ぶための視点について考え、第6回授業につなげる。
第6回	オセアニアへの人類の進出とくらし①	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする海への認識、航海や漁労を学ぶ。
第7回	オセアニアへの人類の進出とくらし②	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする巨石文化を学ぶ。
第8回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化①	近代国際関係のなかでヨーロッパ人のオセアニア進出、島嶼の人々との「出会い」、これらが双方の社会にもたらした影響を学ぶ。
第9回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化②	近代国際関係のなかで列強による島嶼の植民地化を学び、現在の脱植民地化において直面する課題との関係を考察する。
第10回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化③	列強による島嶼の植民地化を、具体的な事例から学ぶ。
第11回	オセアニアにとっての第一次世界大戦①	ANZACを事例に、オセアニアにとっての第一次世界大戦を学び、その経験を今なお記念する意味を考察する。
第12回	オセアニアにとっての第一次世界大戦②	第一次世界大戦によるオセアニアの再分割を委任統治制度の創設から理解し、現代に続く問題を学ぶ。
第13回	受講生の関心に基づいたテーマ	第6回以後の授業での受講生の関心を踏まえてテーマを選び、学ぶ。
第14回	まとめ	春学期授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
2. オセアニア関連のHPなどを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための58章』明石書店、2005年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための58章』明石書店、2010年。
 中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための54章』2012年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014年。
 今泉裕美子「太平洋分割のなかの日本の南洋群島統治－委任統治と「島民」の創出」中野聡・安村尚己責任編集、棚橋訓編集協力『岩波講座世界歴史19 太平洋海域世界～20世紀』岩波書店、2023年。
 石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物などを総合したもの（50%）、セメスター末のテスト（50%）。

以上の成績評価をもとに、授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

・提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情とこれを示す証明資料の提出は定期試験のルールに則る。証明資料を提出しない場合は認めない。）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生はオセアニアに関する基礎知識が少ないため、適切な情報源の提示や解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

・Hoppiiを通じたお知らせや注意事項を必ず読んで下さい。

・リアクションペーパーは、今泉が指定した時間内に、指定した方法で提出すること。指定以外の提出は認めない。

・オセアニア島嶼に関する日本語の文献や資料が少ないため、英語の文献や資料を用いる場合がある。英語文献や資料は、受講生自身でも読んで理解を深めることを要する。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on before World War II. This course is highly recommended for those who are planning to take “Politics and Society of Oceania II”.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Develop an awareness of the Pacific Islands and their peoples by learning their politics, society, culture and historical experience.
2. Understand the history of imperialism, colonialism and militarism of Pacific islands and struggle against them by Pacific Islanders.
3. Reviewing key concepts and theories of International Studies and structure of international relations based on the history of Pacific Islands.
4. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world from the viewpoints of Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%

2. Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

POL300AD (政治学 / Politics 300)

オセアニアの政治と社会 II

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：定員制 ※詳細は【授業の進め方と方法 / Method(s)】に記載の通り

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説家・島尾敏雄は日本を太平洋世界のなかで特徴づけるために、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに着目し、複数の島々からなる日本を「ヤポネシア」と表現した。これら3つの「ネシア」を含むオセアニアの「島」にくらす人びとは、太平洋に生存を委ね、海は人びとを隔てる存在ではなく、つなぐ存在として捉えてきた。日本で生活し、日本を「島国」と表現する私たちに、そのような認識があるだろうか。

オセアニアはオーストラリア、ニュージーランド、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの存在から説明されるが、これらは外来者が区分し、命名したものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験をもち、そこで生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の“遺産”は、今なお島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、島の人びとの心身を傷つけ、難民化を促し、彼らには社会・文化の消滅すら現実的なものとして認識されている。こうしたオセアニアの植民地支配、軍事占領、そして核実験には、日本も大きく関わってきたことも殆ど知られていない。

本授業ではオセアニアの特に島嶼を対象に、政治、社会の特徴、抱える問題を理解するため、ミクロネシア（特に旧南洋群島）と日本との関わり合いの歴史を中心に学ぶ。

【到達目標】

1. ミクロネシア（旧南洋群島）と日本との関係史や現状について、研究や情報を適切に選び、批判的に考察するための視点や方法を身に着ける。
2. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面す問題の独自性を自然環境や歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する問題としても理解することができる。
3. ミクロネシア（旧南洋群島）に関する情報の所在を知り、それら情報を学術的な方法によって分析、理解し、自身の認識を再構成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要がある場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
2. レジュメは授業時に配布する。
3. リアクションペーパーを毎回提出する。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。注目すべきコメントや質問があれば授業で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
4. オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション－本講義の視点と方法、進め方	授業の進め方、注意事項の説明。「オセアニアの政治と社会 I」との関連づけ。
第2回	ミクロネシアと日本との現在の交流	ミクロネシアと日本との現在の交流を、日本統治下南洋群島で生活した人びとと土の草の根の交流を中心に戦前、戦後のミクロネシアと日本の関係を学ぶ意義を確認する。
第3回	日本の南洋群島統治を分析する視点	南洋群島統治をめぐる日本政府、研究者の評価を批判的に検討し、本授業のアプローチを学ぶ。
第4回	「南洋群島」時代のミクロネシア①－植民地の法制度から	国際連盟の委任統治制度のもとで行われた日本の南洋群島統治の特徴を、第一次世界大戦後の世界の植民地支配体制の中で、また日本の植民地法制度のなかで学ぶ。
第5回	「南洋群島」時代のミクロネシア②－植民地社会の特徴	現地住民人口の2倍もの日本人が移民し、なかでも沖縄出身者が多かった植民地社会の特徴を学ぶ。
第6回	「南洋群島」時代のミクロネシア③－チャモロとカリニアン	チャモロとカリニアン
第7回	The Typhoon of War－ミクロネシアの第二次世界大戦経験①	沖繩戦に先駆けて地上戦が行われた南洋群島での戦争を、沖繩戦と比較し関係づけながら学び、ミクロネシアにとっての戦争経験を考察する。
第8回	The Typhoon of War－ミクロネシアの第二次世界大戦経験②	南洋群島での戦争を生きのびた人々が戦争経験をどう捉え、若い世代に伝えようとしているか、非体験者として考察する。
第9回	ミクロネシアにみる Nuclear Colonialism ①	国際連合の戦略的信託統治として行われたアメリカのミクロネシア統治の特徴を、冷戦体制下アメリカの核軍力を支えたマーシャル諸島での初の核実験を中心に学ぶ。
第10回	ミクロネシアにみる Nuclear Colonialism ②	米国がビキニ環礁で行った水爆 Bravo 投下による実験での、住民の核被害の実態、その経験と継承から学び、現代世界の核兵器問題、放射能被害の考察につなげる。
第11回	ミクロネシアにみる Nuclear Colonialism ③	日本にとっての水爆 Bravo の経験、すなわち「ビキニ事件／第五福竜丸事件」を学び、現代世界の核兵器問題、放射能被害の考察につなげる。
第12回	ミクロネシアへの日本の再進出	「ミクロネシア協定」から始まる戦後日本とミクロネシアとの関係を学ぶ。
第13回	受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを選び、これまでの学びを深め、発展させる。
第14回	まとめ	授業を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
2. オセアニア関連のHPなどを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための58章』明石書店、2005年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための58章』明石書店、2010年。
 中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための54章』2012年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014年。
 今泉裕美子「太平洋分割のなかの日本の南洋群島統治－委任統治と「島民」の創出」中野聡・安村尚己責任編集、棚橋訓編集協力『岩波講座世界歴史19 太平洋海域世界～20世紀』岩波書店、2023年。
 石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023年。
 その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物などを総合したもの（50%）、セメスター末のテスト（50%）。以上の成績評価をもとに、授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
 ・提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情とこれを示す証明資料の提出は定期試験のルールに則る。証明資料を提出しない場合は認めない。）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

本授業ではディスカッションは行わないものの、リアクションペーパーの意見や質問を取り上げて紹介し、適切な情報源や情報を紹介したことが、積極的に学ぶ姿勢につながったとの意見が多いため、こうした取り組みを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

・Hoppiiを通じたお知らせや注意事項を必ず読んで下さい。
 ・リアクションペーパーは、今泉が指定した時間内に、指定した方法で提出すること。指定以外の提出は認めない。
 ・オセアニア島嶼に関する日本語の文献や資料が少ないため、英語の文献や資料を用いる場合がある。英語文献や資料は、受講生自身でも読んで理解を深めることを要する。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on Micronesia-Japan relations. It is strongly recommended that this course be taken after taking “Politics and Society of Oceania I.”

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the Oceania focused on the historical relationship between Micronesia and Japan with reviewing international relations and Japanese modern and contemporary history.
2. Acquire the fundamental understanding of Micronesia-Japan relations especially about imperialism, colonialism, militarism and decolonization.
3. Develop a critical thinking about the role and responsibilities of Japan/ Japanese as a member of Pacific Islands/ Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%

2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

POL300AD（政治学 / Politics 300）

国際機構論 I

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、国際政治学や国際関係論、あるいは国際法についての基本的な知識を活用しながら、国際社会が組織化したプロセスを検討することによって、現代の国際社会の姿をより正確に理解することを目的とする。国連およびその他の国際組織が、国際社会の秩序を維持・回復するためにどのような工夫を凝らして機能してきたのかについて、また、どのような課題に直面しているのかについて、理論と実践例から検討する。

【到達目標】

- ①時代とともに変容してきた国際機構の役割・機能について理解できるようにする。
- ②国際連合による国際の平和と安全維持への活動と課題について、理論と実践例から理解できるようにする。
- ③地球規模の問題を解決するために協働して取り組む多様なアクター（国家、地域・国際機関、市民社会など）について理解できるようにする。
- ④国際社会が直面する問題についての問題意識を明確にし、自分なりの意見を持つことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めるが、議論の場ももつ。毎回授業後に課題の提出を求める。課題に対するコメントは個別にフィードバックするとともに、質問については、次の授業の冒頭に全体に向けて質問内容を共有しながら回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際機構論をどのように学ぶのか？
2	国際機構とは？	国際機構小史
3	近代国際秩序の形成と国際機構の萌芽①	国際機構の創設と国家の関係
4	近代国際秩序の形成と国際機構の萌芽②	「共通利益」認識の出現
5	国際連盟と国際連合①	国際連盟設立の経緯・役割・機能
6	国際連盟と国際連合②	国際連合設立の経緯・役割・機能
7	現代の国際社会における国際機構	グローバル・ガバナンスと国際機構
8	国際機構の活動①	同盟と集団安全保障
9	国際機構の活動②	平和への活動
10	国際機構の活動③	植民地独立と開発援助
11	国際機構の活動④	福祉と人権
12	国際機構の活動⑤	国際機構と法
13	変容する国際秩序と国際機構	国際機構の限界と問題点、課題
14	国際機構と国際機構論の課題	まとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出席する前にテキストの関連箇所を熟読し、授業後には復習をすること。また、関心を持ったトピックについては、各自で調べ学習をして理解を深めること。授業の予習・復習時間は各2時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】

山田哲也『国際機構論入門』第2版（東京大学出版会、2023年）

【参考書】

石田淳ほか編著『国際平和論：脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）

山田満ほか編著『新しい国際協力論：グローバル・イシューに立ち向かう』第3版（明石書店、2023年）

その他、授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回授業後に提出する課題40%、期末試験60%のウェイトで成績評価を行う。「聴いて、書いて、考える」姿勢で授業に臨むこと。なお、毎回、出席と課題の提出をセットとして評価する。授業開始20分以降の入室は欠席とみなす。また、欠席した学生による課題の提出は認めない。4回以上欠席した学生（つまり4回以上課題の未提出者）は期末試験を受ける資格を失う。よって単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム上で配布する資料にアクセスしておくこと。

【その他の重要事項】

「国際機構論II」は2027年度秋学期に開講予定。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

＜研究テーマ＞

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

＜主要研究業績＞

最近の主な著書として、『『ルールに基づく国際秩序』の妥当性：修正か強化か？』『グローバル・ガバナンス』第11号（2025年3月）、『国際平和論』（有斐閣、2024年）、「主権国家体制と国連：グローバル化の潮流の中で』『国連研究』第25号（2024年6月）、『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（明石書店、2023年）、『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築』（明石書店、2021年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁』『国連の金融制裁』（東信堂、2018年）、Peacebuiding in Southeast Asia (Springer, 2024), COVID-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2023)," United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020) などがある。執筆した主な教科書として、『入門国際政治経済学』（法律文化社、2026年）、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）などがある。

【Outline (in English)】

This course aims to foster a deeper understanding of the contemporary international community. It examines the historical and institutional processes through which the international community has been formed and organized, drawing on fundamental knowledge of international politics, international relations, and international law.

And this course examines how the United Nations and other international organizations have functioned in maintaining and restoring order in the international community, using both theoretical perspectives and practical examples. It also analyzes the contemporary challenges faced by these organizations.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

朝鮮半島の政治と社会 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に1945年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。

【到達目標】

朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程、日韓関係の主要争点の概要と歴史を講義する。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第2回	朝鮮半島の分断	38度線の由来 分断の状況、分断の責任
第3回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第4回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第5回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第6回	4・19学生革命と 5・16軍事クーデター	4・19学生革命と5・16軍事クーデターを解説
第7回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第8回	日韓国交正常化	その過程、内容と問題点
第9回	全斗煥政権	1979-88年
第10回	民主化運動とその実現	1987年新憲法成立
第11回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第12回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第13回	李明博、朴槿恵、 文在寅、尹錫悦 李在明政権	その政策を中心に
第14回	対日政策	日本との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projector を使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the post-war political histories of Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course is to help students understand the political system and its situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

朝鮮半島の政治と社会 II

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に1945年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけではなく、北朝鮮についても説明する。

【到達目標】

南北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、朝鮮半島の経済制度・社会システム・文化を分析する。主に講義による説明によって授業を行うが、映像（Youtube、映画など）や書物の感想文の提出や特定テーマに関する意見交換を行うこともある。

授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第2回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略、敵対国家論
第3回	北朝鮮の核兵器や弾道ミサイル問題	核兵器、ミサイル能力
第4回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第5回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第6回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第7回	韓国の経済制度 1	財閥、不動産
第8回	韓国の経済制度 2	税金、福祉、雇用
第9回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第10回	教育制度	受験戦争、就職難
第11回	韓国の社会問題 1	地域対立、格差問題
第12回	韓国の社会問題 2	女性関連
第13回	日韓の主要争点	歴史認識の問題 領土問題、慰安婦問題
第14回	統一の可能性について	吸収合併論、急変事態論、漸進的統一論などを点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、課題（0～20%）、試験（60～80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projector を使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the economic, social and culture system of post-war Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

平和・軍事研究 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同時に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。

被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第2回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第3回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第4回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第5回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第6回	Middle Powerの核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第7回	冷戦終了後の核兵器状況	2024年の時点で、世界に1万2千発の核兵器が現存
第8回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第9回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。

第10回	日本の冷戦時代の戦略	「非核3原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第11回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第12回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第13回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第14回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.

It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and nuclear proliferation issues.

The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

現代政策学特講Ⅰ（千代田区）

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2単位

備考（履修条件等）：抽選科目※申請方法については法学部HPを参照（6月案内予定）

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する実習を中心とする2単位科目である。市ヶ谷キャンパスが所在する千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク（現地調査）を通じて発見し、考察すること。

なお、沖縄県の2大学（沖縄大学・名桜大学）、および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに参加する各大学（大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生も受講可能となっている。

【到達目標】

千代田区に関する事前学習、現地実習等を通じて、地域の特性（課題、魅力等）を理解し、課題解決のための方法を提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、オータムセッション期間を含む4日間（9月14日～17日：予定）に対面による講義と現地調査、発表を行う。それに加えて、事前にオンデマンド講義も行う。

なお、事前学習や講義や実習では小レポート提出をする。また授業の最後にグループごとに成果発表を行い、さらに終了後には個人レポートを提出する。これらの課題等に対しては、必要に応じて、事前学習、オータムセッション期間中は授業内で、終了後の課題については、学習支援システム上で講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
8月下旬	オリエンテーション	授業の進め方および目的について説明する（オンデマンド）。
8月下旬	事前学習「千代田区概論」	対象となる千代田区に概観を解説する（オンデマンド）。
9月10日 午前	現地実習オリエンテーション	実習の進め方等について共有する。
9月10日 午後	講義：千代田区の政策について	対象となる千代田区行政による取り組みについて、ゲストからの話題提供を行う。
9月11日 午前	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月11日 午後	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月12日 午前	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月12日 午後	グループワーク	調査報告のための作業を行う。

9月13日 成果発表
午前

グループごとに、調査報告や地域の課題解決や発展に関する提案の発表をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地実習準備、発表準備等のために、必要に応じて授業外の時間での作業が必要になる場合がある。

また、事前学習における小レポート作成、実習準備等は授業外の時間に行うことが前提としている。さらに授業終了後には個人レポート提出を予定している。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ別発表の評価（40%）、最終個人レポートの評価（10%）、小レポートの評価（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、対面で行うが、グループ発表とその準備のためにパソコンを使用することを想定している。また、資料配布はデータ配布、事前学習はオンデマンド教材利用することから、オンライン環境が必要になる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Chiyoda Ward.

To acquire the ability to grasp the characteristics of the region and propose methods for solving problems.

You work outside of classroom to prepare for on-site training and presentations.

Grading will be decided based on group presentation (40%), term-end report (10%), and short report (50%).

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国書講読（仏語）Ⅰ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

- ・中級レベル以上の読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。
- ・初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・文章の訳読をする他、文法の問題を解いたり、文章の音読の練習を行ったりします。
- ・課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	ルイーズ＝ルネ・ル デュック（1）	受動態
3	ルイーズ＝ルネ・ル デュック（2）	直接目的語と過去分詞の性数一致
4	ジョルジュ・サンド	関係代名詞（1）
5	ジョルジュ・サンド （2）	関係代名詞（2）
6	ルイーズ＝ミシェル	疑問代名詞
7	ルイーズ・ミシェル （2）	複合形の疑問代名詞
8	ユベルティース・ オークレー	非人称構文
9	ユベルティース・ オークレー（2）	強調構文
10	マドレーヌ・ペル ティエ	接続法
11	マドレーヌ・ペル ティエ（2）	接続法（2）
12	ココ・シャネル	比較級
13	ココ・シャネル（2）	最上級
14	総括	授業内課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の予習を行うこと。
- ・文章を音読する練習も行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フランス史のなかの「異人」たち 2－世界を変えた女性たち』南
コニー他著、朝日出版社、2025年（2050円＋税）

◎教科書を使わない可能性もありますので、授業内で教員が指示するまで教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社、2008年

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%

【学生の意見等からの気づき】

文法の補足と練習問題は最低限にし、できるだけ多くの文章を読むようにします。

【学生が準備すべき機器他】

- ・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）
- ・文法の知識が定着していない人は、初級のフランス語の授業（「フランス語1」「フランス語2」など）で使用した文法の教科書

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国書講読（仏語）Ⅱ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

- ・中級レベル以上の読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。
- ・初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・文章の訳読をする他、文法の問題を解いたり、文章の音読の練習を行ったりします。
- ・課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	ジョセフィン・ペイ カー	現在分詞
3	ジョセフィン・ペイ カー（2）	ジェロンディフ
4	シモーヌ・ド・ボー ヴォワール	条件法
5	シモーヌ・ド・ボー ヴォワール（2）	条件法（2）
6	シモーヌ・ヴェイユ	直説法単純未来
7	シモーヌ・ヴェイユ （2）	直説法前未来
8	ブリジット・バル ドー	代名動詞
9	ブリジット・バル ドー（2）	代名動詞（2）
10	ジェーン・パーキン	中性代名詞
11	ジェーン・パーキン （2）	中性代名詞（2）
12	クララ・ルティアー ニ他	不定形容詞
13	クララ・ルティアー ニ他（2）	不定代名詞
14	総括	授業内課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の予習を行うこと。
 - ・文章を音読する練習も行うこと。
- 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フランス史のなかの「異人」たち 2－世界を変えた女性たち』南
コニー他著、朝日出版社、2025年（2050円＋税）

◎春学期にこの教科書を採用した場合は春学期の続きを読みますが、教科書を使わない可能性もありますので、秋学期からの受講者は教員の指示を確認してから教科書を購入してください。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿
河台出版社、2008年

【成績評価の方法と基準】

平常点100%

【学生の意見等からの気づき】

教材を選ぶ際は受講者の関心を考慮します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）
- ・文法の知識が定着していない人は、初級のフランス語の授業（「フランス語1」「フランス語2」など）で使った文法の教科書

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL300AD (政治学 / Politics 300)

日本の政治と社会 I

塚本 英樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

日本近現代史を通じて、政治と社会の関係を歴史的視点から理解することを目指す。現在社会も過去の積み重ねによって成り立っている以上、それを理解するうえで歴史的視点は有効なものである。この授業では内政と外交の相互関係を意識しつつ、政治史・外交史的視点から日本近現代史の概要を示したい。

【授業の目的・意義】

歴史的視点に基づき、現代社会の成り立ちを理解し、相対化する視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

日本近現代史を通じて政治と社会の関係を歴史的に理解し、説明することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態 講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何故、歴史を学ぶのか？	ガイダンス
第2回	近世から近代へ（幕末・維新）	身分制社会が解体し、近代国家へと移行する過程について述べる
第3回	近代日本の国内政治①	初期議会期の政治過程を大日本帝国憲法と議会の関係を中心に講義する。
第4回	近代日本の対外関係①	近代日本の対外関係の変容を中国を中心とした朝貢体制から西洋国際法体制への移行という視点から講義する。
第5回	近代日本と国内政治②	近代日本における政治過程を政党政治の成立過程という視点から講義する。
第6回	近代日本の対外関係②	日清・日露戦争、第一次世界大戦に至る対外膨張を講義する。
第7回	近代日本の国内政治③	近代日本の政治過程を政党政治の確立と崩壊という視点から講義する。
第8回	近代日本の対外関係③	小テストを実施する。 第一次世界大戦の惨禍を受けて成立した国際協調体制の意義とその崩壊について講義する。
第9回	近代日本の国内政治④	政党政治崩壊後の国内政治について講義する。
第10回	近現代日本と選挙	近代日本における選挙を制度的変化を意識しつつ解説する
第11回	近代日本の対外関係④	国際協調体制離脱後の対外関係について講義する

第12回	対米開戦と終戦	対米開戦及び終戦への政治過程について講義する。
第13回	戦後史	戦後の政治過程・対外関係について講義する。 小テストを実施する。
第14回	現代史及び総括	講義全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するプリント、提示した参考文献の該当ページを読んだうえで、次の授業に臨んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

北岡伸一『日本政治史－外交と権力 増補版』（有斐閣,2017年）
 佐々木雄一『近代日本外交史 幕末の開国から太平洋戦争まで』（中公新書,2022年）
 季武嘉也『日本近現代史〔新訂〕：民意と政党』（放送大学教育振興会,2021年）
 村井良太『「憲政常道」の近代日本：戦前の民主化を問う』（NHK出版,2025年）

【成績評価の方法と基準】

リサーチペーパーの提出による平常点20%、小テスト2回30%、学期末提出のレポート50%。授業を5回以上欠席したものは単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

リサーチペーパーに記載されたコメントに対して、授業冒頭に適宜対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through modern and present Japanese history, the course aims and acquires aim to understand the relationship between politics and society from a historical perspective. Since present-day society is also built on the accumulation of the past, a historical perspective is useful for understanding it. In this class, we will provide an overview of modern Japanese history from the perspectives of political history and diplomatic history, while being conscious of the interrelationship between domestic and foreign affairs.

【Learning Objectives】

Based on a historical perspective, the course aims to understand the formation of contemporary society and acquire a perspective that allows us to view it in relative terms.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

アメリカ政治史 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国を理解するための前提について検討します。

【到達目標】

アメリカ合衆国を理解するのに必要な視点を構築することをめざします。

アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。

また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。
The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業をおこないます。

毎回、授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらいます。

次の週の授業では、そのうちのいくつかを取り上げて、復習をします。
In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「アメリカ」と「合衆国」について考える
第2回	アメリカ史における「時間」1	「時間」という視点からアメリカを考える1
第3回	アメリカ史における「時間」2	「時間」という視点からアメリカを考える2
第4回	アメリカ史における「時間」3	「時間」という視点からアメリカを考える3
第5回	アメリカ史における「空間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第6回	アメリカ史における「空間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第7回	アメリカ史における「空間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第8回	アメリカ史における「空間」4	「空間」という視点からアメリカを考える4
第9回	アメリカ史における「人間」1	「人間」という視点からアメリカを考える1
第10回	アメリカ史における「人間」2	「人間」という視点からアメリカを考える2
第11回	アメリカ史における「人間」3	「人間」という視点からアメリカを考える3
第12回	アメリカ史における「人間」4	「人間」という視点からアメリカを考える4

第13回	「時間・空間・人間」再考	アメリカのナショナリズムについて考える
第14回	「文脈」的理解	アメリカ現代社会をアメリカ史の「文脈」において捉える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。

授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

齋藤真『アメリカとはなにか』（平凡社ライブラリー、1995）（旧版、『アメリカ史の文脈』（岩波書店）でも可）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(50%)、リアクション・ペーパー (50%)

Grading will be decided on the term-end examination and attendance points.

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【Outline (in English)】

This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

アメリカ政治史Ⅱ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。

本学は、アメリカ合衆国の社会および人びとの思考様式について考察します。

【到達目標】

アメリカ社会の思考様式の特徴を理解することをめざします。

The goal of this course is to understand the American ways of thinking.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での講義形式で授業をおこないます。

毎回、授業終了時に、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。

In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リベラリズム 1	1776年と1619年ーliberalか illiberalか
第2回	リベラリズム 2	リベラリズム以外の思想が存在 しない社会
第3回	デモクラシーと共和 主義 1	「デモクラシーの行き過ぎ」と人 民主権
第4回	デモクラシーと共和 主義 2	リベラリズム vs. コミュニタリ アニズム論争
第5回	保守主義 1	欧米の保守主義の異同
第6回	保守主義 2	「リベラリズム」という保守主義
第7回	保守主義 3	レーガン保守主義
第8回	保守主義 4	「保守主義が存在しない」社会か ら国民の半分以上が保守主義者 を辞任する社会への変容
第9回	反知性主義 1	反知性主義とデモクラシー
第10回	反知性主義 2	ポピュリズム
第11回	宗教と政治 1	信仰復興運動
第12回	宗教と政治 2	キリスト教原理主義・福音主義
第13回	トランプ時代の保守 主義	トランプ政権を支える保守主義
第14回	アメリカ政治思想の 総括	アメリカ的思考様式を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。

授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(50%)、リアクション・ペーパーの提出(50%)

Grading will be decided on the term-end examination and attendance points.

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

A History of the American Ways of Thinking

POL200AC (政治学 / Politics 200)

協同組合論

杉崎 和久、上山 紀子、小林 幸治

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。

一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合やNPO等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバリズムが加速する中で、貧困・格差の是正や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は2012年を「国際協同組合年」として2013年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げ、さらに2025年を2回目の「国際協同組合年」とし、2025年12月15日の国連総会で10年ごとに国際協同組合年（IYC）を設けることが決議されました。

一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、少子化と労働者人口が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化しています。こうした問題に市場や政府・行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。このような中で2020年12月「労働者協同組合法」が成立し、協同組合運動は新しい段階を迎えています。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待が寄せられているのか、もう一つの世界は可能かー協同組合と社会的連帯経済、つながりの再構築・拡大・強化の実践、といった点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的・社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の研究者および実践者による講義を行います。

講座のポイントとして、「協同組合・生協」と「生活クラブ（運動）」の理解と共感を育み、生活クラブがすすめてきた各種事業活動の紹介を通じて伝えます。特に、協同組合の歴史的経緯、国連・諸外国等の動向や制度、組織・仕組みをはじめ、生活クラブ生協・東京を中心にした生活クラブ運動グループの取り組みを、「協同」、「共同」、「協働」の視点から多くの組合員や市民、生産者、関連団体、地域、自治体などと連携・協力のもとにすすめている点などをふまえた内容とします。

【到達目標】

- ① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。
- ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
- ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則「対面」で行う予定であるが、講師等の都合によりオンデマンド教材などを併用することがある。

この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心にした日本の協同組合やNPO等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合やNPO等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。

授業中に授業内容に関するコメントを提出する。なお、小レポート等から提出された質問等について、学習支援システムを通じて、適宜回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び協同組合の動向	協同組合の歴史的経緯、国連・諸外国等の動向、国内の協同組合や生活クラブ及び運動グループによる運動・取り組み（FEC-W、ローカルSDGs、など）、社会的連帯経済や国際協同組合年の国内での動向などの概要を紹介し、次回以降の講座の道しるべとします。
第2回	非営利活動と協同組合	協同組合法制の概要、NPO法（組織）をはじめとする非営利組織や労働者協同組合の制度や組織、諸外国との違いなどを中心にして「協同」の理念や政策・制度の動向などを紹介します。
第3回	生活クラブの消費材（づくり）と共同購入	生活クラブの運動と事業の根幹をなす「F（フード）自給への挑戦」の取り組みの背景（食を取り巻く課題）と現在を、組合員参加のもとにすすめる「消費材づくり」と「共同購入」の仕組みなどを中心に紹介します。
第4回	地球と身体にやさしい食～私の食が世界・地球をつくる～	日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きく、日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をとおした生活提案やまちづくりの取り組み、協同組合の役割などを紹介します。
第5回	協同（共同）でつなぐ都市農業・福祉・教育	生活クラブは、都市農業の保全、育成、強化を柱の一つとしてきました。2016年度から開始しました、「生活クラブ農園・あきるの野」の実践の意義や成果、都市農業が抱える課題などを紹介します。
第6回	協同でつくるエネルギー～エネルギー共同購入の試み	気候危機が地球規模での課題となっていますが、日本の施策は大幅に遅れています。「再生可能エネルギー」の開発と供給の実践、発電施設地域との交流と社会貢献など、生活クラブのエネルギー自給の取り組みや課題、今後の展望などを紹介します。
第7回	協同（共同）ですすめる地域福祉	協同組合型の市民事業として、地域福祉の推進と地域社会づくりをめざす、アビリティクラブたすけあい（ACT）の活動を中心に、誰もが尊厳をもって、住み慣れた地域で暮らしつつけるための、課題を共有します。また、市民版地域福祉計画を作る中で、地域の仕組みの確立をめざす取り組みなどを紹介します。

第8回	協同組合と子育て支援	平岡晴子 生活クラブ社会的連帯経済ネットワーク機構 ・・・ ・・・ワーカーズまちの縁がわ・・・ 「個人化」時代の中、生活クラブ及び生活クラブ運動グループが取組む地域活動として、子どもを中心にした多世代の「居場所づくり」と福祉事業・活動とのつながり、その促進のための助成のしくみ、実践事例などを紹介します。
第9回	協同（共同）でつくる地域のかたちづくり	次の時代を担う人を育む子育て支援事業は、サステナブルな社会を目指す取組みの一つです。「子育て・子育て」の取組などをとおして次世代・将来世代の子どもたちやその家族を社会がどのように支えるのかなど、生活クラブ保育園ばむと子育て広場ぶんこの実践などを紹介します。
第10回	ワーカーズ・コレクティブと労働者協同組合「協同労働」の実践	地域の社会的なニーズに対応して、市民相互の助け合い・支えあいを基本にした様々な事業活動を展開するワーカーズ・コレクティブとは何か、その働き方や実践事例などを紹介します。
第11回	「協同労働」とコミュニティワーク	人々が大事にされる働き方（ディーセントワーク）とデポワワーカーズなどによるコミュニティワークの実践の社会的な意義を紹介し、地域で働く地域（まち）づくりの担い手の取組みや働き方、共同・協同の仕組みなどを紹介します。
第12回	市民・組合員のお金の使い道・使い方	「草の根市民基金・ぐらん」など、資金助成による市民活動への支援や資金循環の流れや協同組合の役割などや「中間支援」の取組みによる地域社会づくり・市民セクターの強化の必要性などを紹介します。
第13回	協同の力で自治体政策をつくり・変える	地域づくりのためには自治体政策への関与、自治体との関係づくりが必要です。生活クラブ運動グループ政策担当、政策委員会、東京政策推進会議などの取組みから、地域づくりに必要な自治体政策づくりとその実現に向けた活動（政策提案運動）、「市民政治」活動の必要性、自治体議会への参加の取組みなどを紹介します。
第14回	協同組合で働く	講座全体の振り返りを通じて、非営利・協同組合（セクター）の今日的なミッションと意義について理解を深めます。また、そのミッションへの取組みとして、生活クラブが多様な働き方を推し進める可能性を紹介しまとめとします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。配布資料は、授業前日までに学習支援システムにアップロードしますので、各自対応してください。

【参考書】

適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出席する課題（14回）」の合計（84%）、「②レポート課題」（16%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②が未提出である場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- ・①は各回講義の最後に講義内容に関するコメントをリアクションペーパーに記入し提出する。
- ・なお、小レポートの評価は下記とする。

A：授業内容を踏まえて、独自の視点からの意見や考え方が記述されている。

B：適切な分量（リアクションペーパーの7割以上）を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。

C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。

D：未記入

なお、授業時間外に提出した場合には理由の如何に関係なく、受理しない。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問へは、なるべく早く対応したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講師によって、パワーポイント、映像を活用します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Learning about the status of activities in Japan and its significance and issues today, based on history of cooperatives and social enterprises around the world.

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

C.Acquiring the basic ability to think about the theory and practice of new public policy in which consumers and citizens are the main actors.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on reports at each class.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅰ（比較政治思想史）

金子 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：「政治学特殊講義Ⅰ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：この授業では、大日本帝国憲法（明治憲法）を、原文と英語訳（起草者らによる）とを読み比べることにより、条文の背景にある西洋および日本の政治史・政治思想史の流れを解説するとともに、そうした条文が戦前の政治史にどのような影響を与えたかについても併せて考察する。

授業の目的：授業で取り上げるテキストの内容を手がかりに、現代における政治の意味について自分なりの考えを組み立てることを目標とする。

【到達目標】

- ・政治に関する諸問題についての知識を獲得する。
- ・政治に関する諸問題について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に講義形式で行います。事前に配布資料に目を通しておい
- てください。
- ・授業は日本語で行います。高度な英語の知識は必ずしも必要とし
- ません。
- ・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考
- 察を深める材料とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。
第2回	憲法と政治	憲法が一般的にどのように成立し、どのように政治と関連するのか、予備的な知識をおさえる。
第3回	明治憲法ができるまで	明治憲法が成立するまでの政治状況・歴史的な経緯を知る。
第4回	序文	明治憲法序文の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第5回	第一章 天皇	明治憲法第一章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第6回	第二章 臣民の権利義務	明治憲法第二章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第7回	第三章 帝国議会	明治憲法第三章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第8回	第四章 国务大臣及枢密顧問	明治憲法第四章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第9回	第五章 司法	明治憲法第五章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第10回	第六章 会計	明治憲法第六章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。

第11回	第七章 補足、皇室典範	明治憲法補足と皇室典範の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第12回	天皇機関説論争	明治憲法の学説についての知識を知り、理解を深める。
第13回	大日本帝国憲法から日本国憲法へ	明治憲法と日本国憲法の関係について理解を深める。
第14回	授業内試験	これまでの内容のまとめと授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指定・配布する資料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメ・資料はHoppii等を通じて配布します。

【参考書】

・伊藤博文著・宮沢俊義校注『憲法義解』（岩波文庫、2019年）

【成績評価の方法と基準】

レポート（60％）、リアクションペーパー・授業内発言（40％）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし（教育活動レベルによってweb接続が可能なPCが必要となります）。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
- ・ヨーロッパ政治思想史Ⅰ、日本政治思想史Ⅰ・Ⅱ、憲法などの授業を事前あるいは同時に履修することによってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】

This course examines the Constitution of the Empire of Japan (the Meiji Constitution) through a comparative reading of the original text and its English translation prepared by its drafters. By analyzing the constitutional provisions, the course introduces the historical background of Western and Japanese political history and political thought that informed the drafting of the Constitution, and considers how these provisions influenced political developments in prewar Japan.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅱ (比較政治思想史)

金子 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：「政治学特殊講義Ⅱ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：この授業では、教育勅語と軍人勅諭について、原文と政府公式の英語訳とを読み比べることにより、テキストの背景にある西洋および日本の政治史・政治思想史の流れを解説するとともに、そうした条文が戦前の政治史にどのような影響を与えたかについても併せて考察する。

授業の目的：授業で取り上げるテキストの内容を手がかりに、現代における政治の意味について自分なりの考えを組み立てることを目的とする。

【到達目標】

- ・政治に関する諸問題について知識を獲得する。
- ・政治に関する諸問題について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に講義形式で行います。配布する資料をあらかじめ読んで内容を把握しておくことより深い理解につながるでしょう。
- ・授業は日本語で行います。高度な英語の知識を必ずしも必要とはしません。
- ・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考察を深める材料とします

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。
第2回	戦前日本における政治・道徳・軍事	教育勅語と軍人勅諭を取り巻く政治史的状況についての予備的な知識をおさえる。
第3回	教育勅語成立の背景	教育勅語成立までの歴史的状況について知識を深める。
第4回	教育勅語本文の検討①	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。
第5回	教育勅語本文の検討②	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。
第6回	教育勅語本文の検討③	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。
第7回	教育勅語の受容のされ方	教育勅語の解説書等を紹介することで戦前日本社会でどのように受容されたかを検討する。
第8回	軍人勅諭成立の背景	軍人勅諭成立までの歴史的状況について知識を深める。
第9回	軍人勅諭本文の検討①	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。
第10回	軍人勅諭本文の検討②	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。
第11回	軍人勅諭本文の検討③	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。

第12回	軍人勅諭の受容のされ方	軍人勅諭が戦前日本社会でどのように受容されたかを検討する。
第13回	まとめ	講義全体の内容を概観することで戦前の日本社会と天皇の関係について考察を行う。
第14回	授業内試験	授業全体のまとめとレポートの講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で指定・配布する資料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。
- ・本授業の準備・復習時間は、該当範囲の予習に3時間、復習に1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要なレジュメ・史資料類は配布します。

【参考書】

・葉袋善郎『英語で読む！日本の歴史を決めた公文書』研究社、2025年

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（70％）、リアクションペーパー・授業内発言（30％）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし（教育活動レベルによってweb接続が可能なPCが必要となります）。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
- ・ヨーロッパ政治思想史および日本政治思想史の事前あるいは同時履修によってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】

This course examines the Imperial Rescript on Education and the Imperial Precepts to The Soldiers and Sailors through a comparative reading of the original texts and their official English translations issued by the Japanese government. By analyzing these texts, the course explains the historical background of Western and Japanese political history and traditions of political thought underlying the rescripts, and considers how their provisions influenced political developments in prewar Japan.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

現代思想2 (フランスの思想) 1

大池 惣太郎

授業コード：A2245 | 曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランスの精神分析科ジャック・ラカンの講義録『精神分析の四基本概念』を講読します。同講義は、ラカンの理論が象徴界から現実界へ重点を移していく重要な時期のセミナーです。精神分析の四基礎概念として「無意識」と「反復」、「転移」と「欲動」が取り上げられるほか、シニフィアン機能、対象aの理論など、ラカン理論の重要な論点が多数扱われています。ラカンのテキストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりを学ぶことが授業目的です。

【到達目標】

- ・ラカンのテキストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりについて、一定程度の水準で理解すること。
- ・フランス現代思想における精神分析理論の重要性を理解した上で、コメント・ペーパー等を通じて、適切な問いや議論を提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
- ・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 精神分析家と精神科医の違い	授業の目的と進め方の説明 精神分析理論の概説
第2回	ラカン理論におけるセミネールXIの位置付け	教科書第一節の検討
第3回	無意識と反復	教科書第二節の検討
第4回	確信の主体	教科書第三節の検討
第5回	無意識とシニフィアン	教科書第四節の検討
第6回	チュケールとオートマトン	教科書第五節の検討
第7回	対象aの理論	教科書第六節の検討
第8回	アナモルフォーズ	教科書第七節の検討
第9回	眼差しの問題	教科書第八節の検討
第10回	騙し絵のメタファー	教科書第九節の検討
第11回	分析家と転移	教科書第十節の検討
第12回	分析における真理とは何か	教科書第十一節の検討
第13回	性の問題	教科書第十二節の検討
第14回	欲動について	教科書第十三節の検討

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・参加者は、指定された範囲や関連文献をあらかじめ読んだ上で授業に参加する。
- ・授業前に質問票を、授業後にリアクションペーパーを回収する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ジャック・ラカン『精神分析の四基本概念』(上・下) (岩波文庫、2020年)。

【参考書】

ブルース・フィンク『ラカン派精神分析入門：理論と技法』(誠信書房、2008年)
ブルース・フィンク『後期ラカン入門』(人文書院、2013年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (毎回の質問票40%、リアクション・ペーパー40%、授業内参加度20%) で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回参加者のリアクションを紹介することでフィードバックを確実に行う。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to understand some fundamental ideas of the Lacanian psychoanalysis. We read mainly Jacques Lacan's most important seminar: The Four Fundamental Concepts of Psychoanalysis (1964), to obtain basic knowledge and point of view of the Lacanian psychoanalysis theory concerning the "unconscious", "repetition", "transference", "drive", etc.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

Grading will be based on continuous assessment, including students' responses to weekly questionnaires (40%), reaction papers (40%), and in-class assignments (20%).

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

現代思想2 (フランスの思想) 2

大池 惣太郎

授業コード：A2246 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

前期に引き続き、ジャック・ラカンの第11セミナー『精神分析の四基本概念』を講読し、続いて第20セミナー『アンコール』を読みます。二つの講義録を読むことで、対象a、享楽、ディスクール、性的関係の不可能をはじめとする後期ラカンの理論を概観します。ラカンのテキストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の広がりを学ぶことが授業目的です。

【到達目標】

- ・ラカンのテキストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の広がりについて、一定程度の水準で理解すること。
- ・フランス現代思想における精神分析理論の重要性を理解した上で、コメントペーパー等を通じて、適切な問いや議論を提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
- ・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	前期のふりかえり	前期のふりかえり 後期ラカン理論についての概説
第2回	部分欲動について	教科書第十四節の検討
第3回	愛と快	教科書第十五節の検討
第4回	疎外について	教科書第十六節の検討
第5回	主体化と消失	教科書第十七節の検討
第6回	知の主体の想定	教科書第十八節の検討
第7回	分析における解釈の意味	教科書第十九節の検討
第8回	精神分析の倫理	教科書第二十節の検討
第9回	享楽について	『アンコール』第一、二節の検討
第10回	愛とシニフィアン	『アンコール』第三、四節の検討
第11回	性関係の不在	『アンコール』第五、六節の検討
第12回	愛、知、真理とディスクール	『アンコール』第七、八節の検討
第13回	女の享楽について	『アンコール』第九、十節の検討
第14回	総括	『アンコール』第十一節の検討 授業全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・参加者は、指定された範囲や関連文献をあらかじめ読んだ上で授業に参加する。
- ・授業前に質問票を、授業後にリアクションペーパーを回収する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ジャック・ラカン『精神分析の四基本概念』(上・下) (岩波文庫、2020年)

ジャック・ラカン『アンコール』(講談社、2019年)

【参考書】

ブルース・フィンク『ラカン派精神分析入門：理論と技法』(誠信書房、2008年)

ブルース・フィンク『後期ラカン入門』(人文書院、2013年)

佐々木孝次他『ラカン「アンコール」解説』(せりか書房、2013年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (毎回の質問票40%、リアクション・ペーパー40%、授業内参加度20%) で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回参加者のリアクションを紹介することでフィードバックを確実に行う。

【Outline (in English)】

This course continues from the first semester with a close reading of Jacques Lacan's Seminar XI, The Four Fundamental Concepts of Psychoanalysis, and then moves on to Seminar XX, Encore. By studying these two seminars, students will learn about Lacan's later ideas, including the concept of objet an and feminine jouissance. Through direct engagement with Lacan's texts, the course aims to help students understand the basic principles of psychoanalysis and how its key concepts developed over time.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

Grading will be based on continuous assessment, including students' responses to weekly questionnaires (40%), reaction papers (40%), and in-class assignments (20%).

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学 1（伝統宗教） 1

松本 カ

授業コード：A2251 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教学の準備として、三大宗教（仏教、キリスト教、イスラーム）を学ぶ。

【到達目標】

学生は、この授業を通して、宗教についての基本的な知識を獲得し、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	宗教学を学ぶために、予備作業としての宗教の知識を獲得する。
第2回	仏教①	仏陀について
第3回	仏教②	仏陀の教えについて
第4回	仏教③	仏教が目指したもの
第5回	キリスト教①	旧約聖書について
第6回	キリスト教②	キリスト教の受容と変化
第7回	キリスト教③	キリスト教の神について
第8回	キリスト教④	イエス・キリストについて
第9回	キリスト教⑤	キリスト教的人間像
第10回	キリスト教⑥	キリスト教の終末観
第11回	イスラーム①	ムハンマドについて
第12回	イスラーム②	クルアーンについて
第13回	イスラーム③	イスラーム共同体について
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、各4時間を標準とします、

【テキスト（教科書）】

資料を配布して授業を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島蘭進『宗教学の名著30』、ちくま新書。

渡辺照宏『仏教 第二版』、岩波新書。

エルンスト・ベント『キリスト教 その本質とあらわれ』、平凡社。

小杉泰『イスラームとは何か』、講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容についての学生の意見を求める課題（30％）と、授業内容全体についての理解度を確かめる試験（70％）によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

最終的には資料の内容について十分に理解できていることが求められます。課題に取り組みながら、資料の内容を読み込んでください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学1（伝統宗教）2

松本 力

授業コード：A2252 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教学で取り上げられるさまざまな著作について学ぶ。

【到達目標】

学生は、宗教に関するさまざまな著作を読むことで、宗教とは何かを説明できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	この授業で紹介する著作についての概容。
第2回	デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』	ヒュームの信仰について。
第3回	フリードリヒ・ニーチェ『反キリスト者』	ニーチェにとってのキリスト教について。
第4回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』①	キリスト教における経済的・社会的要因の考察。
第5回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』②	教会と福音との乖離について。
第6回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』①	スミノーゼについて。
第7回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』②	スミノーゼの諸要因。
第8回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』①	宗教的経験の特徴。
第9回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』②	トルストイの信仰の考察。
第10回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』①	道徳的責務について。
第11回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』②	動的宗教。
第12回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』①	宗教の次元。
第13回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』②	神について。
第14回	試験	まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では配布資料を使うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島園進『宗教学の名著30』、ちくま新書。

デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』、岩波文庫。

フリードリヒ・ニーチェ『ニーチェ全集 偶像の黄昏 反キリスト者』、ちくま学芸文庫。

H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』、ヨルダン社。

ルドルフ・オットー『聖なるもの』、岩波文庫。

ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相 下巻』、岩波文庫。

アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』、ちくま学芸文庫。

ヴィクトール・フランクル、ピンハス・ラビーデ『人生の意味と神 信仰をめぐる対話』、新教出版社。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容について学生に意見を求める課題（30％）と、授業全体の内容の理解度を確認する試験（70％）によって、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

資料の内容から、それぞれの著者の考え方について、自分なりに言葉でまとめられるようになることが求められます。課題を通して資料を読み込んでみてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

PHL200BB (哲学 / Philosophy 200)

日本思想史 1

山本 伸裕

授業コード：A2260 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本思想史」と銘打たれているが、近代以前の日本においては、思想の歴史的展開を明らかにすることは、ほぼ不可能である。この授業では、日本独自の思想哲学は、日本語の語彙や日本語表現の中に蓄積され、日本語を母国語として生活する人びとの血肉になってきたとする視点に立って、言葉の語源、特にやまと言葉の語源に焦点を当てる。そうした手法は、日本人の心根を明らかにするうえで、最も有効であると考えられる。

【到達目標】

- ◎古代から培われてきた日本人の思想の基底にある包括的な世界観を知ることができる。
- ◎日本人の倫理思想の基本構造を、明確に理解することができる。
- ◎西洋の思想哲学との共通点、相違点について明確に理解できるようになる。
- ◎現代思想の観点から、日本の思想を再評価する眼を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ◎対面による講義形式で行う。
- ◎毎回、授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本思想とは何か	i) 思想と哲学 ii) 言葉と人間
第2回	やまと言葉で考える	i) 日本語の多重性 ii) 「もの」と「こと」 iii) 日本人の宗教心 iv) 言葉と語り
第3回	日本倫理の基層	i) 意味の顛倒 ii) 「あわい（間）」の思想 iii) しなければならぬ iv) してはならぬ
第4回	日本人の職業倫理	i) 仕事の倫理 ii) 「士」の倫理 iii) 「農」の倫理 iv) 「工」「商」の倫理
第5回	生成する命	i) 「命」の概念 ii) おのずからの命 iii) つくる命、うむ命 iv) 命の本源
第6回	連鎖する命	i) 動的平衡 ii) 子孫繁栄を願う iii) 食と健康 iv) 慎ましく生きる
第7回	「老」に向き合う	i) 老いの苦しみ ii) 若さの価値 iii) 老いの成熟 iv) 老人を敬う
第8回	「病」の諸相	i) 東洋医学の発想 ii) 「闇」と「病」 iii) 「養生」のすすめ iv) 病に寄り添う
第9回	人生の悲哀	i) 哲学の動機 ii) 空虚な現実 iii) 世を捨てて iv) 振る舞いの優しさ
第10回	感謝と謝罪の倫理	i) 謝意の表明 ii) 罪過を認める iii) 日本語の謝罪表現 iv) 罪障を滅す
第11回	「死」の受容	i) 生死を見つめる ii) 死者の行方 iii) 魂の救済 iv) 「さよう」の確認
第12回	「死」を弔う	i) 死体の扱い ii) 死者を葬る iii) 魂の叫び iv) 死者の霊を祀る

第13回	まったき人生	i) 粋と野暮 ii) 強さと脆さ iii) へこたれない強さ iv) 有終の美を飾る
第14回	授業内テスト	前もって課題を出すので、実質的には授業内レポート。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ◎事前：参考文献などに目を通すなどして基本的知識を確認する。
事前学習時間の目安：約2時間
- ◎事後：配布されたレジュメに沿って、講義の内容を復習する。
- ◎事後：単元ごとにリアクションペーパーを作成する。
事後学習時間の目安：約2時間

【テキスト（教科書）】

山本伸裕『日本人の死生観を問うー「やまと言葉」の倫理学』 NHKブックス、2026年

【参考書】

竹内整一『やまと言葉の人間学』ベリかん社、2024年
 竹内整一『かなしみの哲学』NHK出版、2009年
 山本伸裕『日本人のものの見方ー〈やまと言葉〉で考える』青灯社、2015年
 荒木博之『やまとことばの人類学』朝日選書、1985年
 『日本国語大辞典（第二版）』小学館、2000年
 増井金典『日本語語源広辞典（初版）』ミネルヴァ書房、2010年 など

【成績評価の方法と基準】

- ◎期末試験：75%
- ※第13回目の講義終了後にテーマを提示するので、あらかじめ考えをまとめて、教室で事業時間内に各自レポートを作成する。持ち込み不可。
- ◎リアクションペーパー：25%

【学生の意見等からの気づき】

◎毎回授業の初めに前回のリアクションペーパーの中からいくつか学生のコメントをピックアップして紹介する。重要な質問などについてはその場で答える。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with Japanese thought before modern times, focusing on Japanese language; "Yamato Kotoba (やまと言葉)". It also enhances the development of student's skill in Western Philosophy.

【Learnig Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire basic knowledge in Japanese thought or ethics and to learn how to think for myself.

【Learnig activities outside of classroom】

Students will be expected to submit a short report after finishing each lecture. Your study time will be more than four hours for writing a paper.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in this class will be calculated according to the following process: Short reports 25%, Term-end report 75%.

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ラテン語 1

内山 真莉子

授業コード：A2268 | 曜日・時限：火4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ラテン語は、医学をはじめとした種々の自然科学・人文科学の分野で、学術用語として現代でも用いられています。そのために学んでいる方もいるでしょうが、ラテン語は教養として学ぶことにも大きな意義があります。実際、ヨーロッパの古典作品の多くは、原典がラテン語です。本授業では、古典ラテン語文法の初歩を学び、基本的な文法知識を習得することを目指します。

【到達目標】

- ・各品詞の格変化・人称変化を理解し、自力で辞書を引いて意味を調べられるようになること。
- ・簡単な文を読めるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業1～2回で教科書1課分を進める。
- ・各回毎のテーマとなる文法事項について説明したのち、練習問題を行い、解説する。
- ・宿題（和訳）を毎回出題するので、次回授業までに取り組む。
- ・次回授業冒頭にて宿題解説を行ってから、新しい文法事項の説明に入る。
- ・適宜、授業内にて小テスト（格変化の暗記確認など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：ラテン語とは	文字と発音、アクセント
第2回	第1課	直説法現在能動相、第1変化名詞
第3回	第2課	不規則変化動詞(1)、第2変化名詞
第4回	第3課	第1・第2変化形容詞、前置詞
第5回	第4課①	代名詞、未完了過去
第6回	第4課②	未来、第3変化名詞
第7回	第5課	完了、第3変化形容詞、第4・第5変化名詞
第8回	第6課	指示代名詞、直説法受動相未完了形3時称、受動文
第9回	第7課	疑問代名詞・形容詞、関係代名詞
第10回	第8課①	目的分詞、完了受動分詞、直説法受動相完了形3時称
第11回	第8課②	命令法、不規則変化動詞(2)
第12回	第9課	形容詞・副詞の比較
第13回	期末試験	試験形式での理解度確認
第14回	期末試験の返却・春学期のまとめ	試験内容の解説と春学期学習内容の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・ノートを見直し、各回の学習内容を復習する。
 授業毎に出される宿題にしっかりと取り組む。
 本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中山恒夫（1987）『標準ラテン文法』白水社

【参考書】

水谷智洋（2003）『改訂版羅和辞典』研究社（購入の必要はありません）。
 その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価します。

- ①平常点（宿題・授業内の発問・小テスト）：50%
- ②期末授業内試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Latin is still used today as an academic term in various fields of the natural sciences and the humanities, including medicine. While some students study it for this reason, there is also great significance in studying it as a liberal arts education. In fact, many classical European works were originally written in Latin. In this class, we will learn the basics of classical Latin grammar and acquire foundational grammatical knowledge.

【Learning Objectives】

- ・To understand the case and person conjugations of parts of speech and be able to look up meanings in a dictionary on your own.
- ・To be able to read simple sentences.

【Learning activities outside of classroom】

- ・Review your textbook and notes, and review the content learned in each lesson.
- ・Work hard on the homework assigned in each class.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In-class contribution: 50%, Term-end examination: 50%

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ラテン語 2

内山 真莉子

授業コード：A2269 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ラテン語は、医学をはじめとした種々の自然科学・人文科学の分野で、学術用語として現代でも用いられています。そのために学んでいる方もいるでしょうが、ラテン語は教養として学ぶことにも大きな意義があります。本授業では、ラテン語1から引き続き古典ラテン語文法の初歩を学び、基本的な文法知識を習得することを目指します。ラテン語2はラテン語1とは独立した科目ですが、ラテン語1で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語2をとる場合は、できる限りラテン語1を受講してください。

【到達目標】

ラテン語の基礎的な文法事項を理解し、単純な文であれば辞書を引ながら自力で読解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業1～2回で教科書1課分を進める。
- ・各回毎のテーマとなる文法事項について説明したのち、練習問題を行い、解説する。
- ・宿題（和訳）を毎回出題するので、次回授業までに取り組む。
- ・次回授業冒頭にて宿題解説を行ってから、新しい文法事項の説明に入る。
- ・適宜、授業内にて小テスト（格変化の暗記確認など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：ラテン語1の復習	動詞の人称・時制変化、名詞・形容詞の格変化など
第2回	第10課①	形式受動相動詞、分詞
第3回	第10課②	接合分詞、絶対的尊格
第4回	第11課	不定法、数詞
第5回	第12課①	代名詞型形容詞、不定代名詞、二重否定
第6回	第12課②	動名詞、動形容詞
第7回	第13・14課	非人称動詞、格の用法
第8回	第15課	主文の接続法
第9回	第16課①	時称対応、間接疑問文
第10回	第16課②	目的文、結果文
第11回	第17課	時の文
第12回	第18課	条件文
第13回	期末試験	試験形式での理解度確認
第14回	期末試験の返却・秋学期のまとめ	試験内容の解説と秋学期学習内容の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・ノートを見直し、各回の学習内容を復習する。
授業毎に出される宿題にしっかりと取り組む。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中山恒夫（1987）『標準ラテン文法』白水社

【参考書】

水谷智洋（2003）『改訂版羅和辞典』研究社（購入の必要はありません）。
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価します。

- ①平常点（宿題・授業内の発問・小テスト）：50%
- ②期末授業内試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Latin is still used today as an academic term in various fields of the natural sciences and the humanities, including medicine. While some students study it for this reason, there is also great significance in studying it as a liberal arts education. This class builds on Latin 1 and aims to teach the basics of classical Latin grammar and to help students acquire foundational grammatical knowledge. Latin 2 is a separate subject from Latin 1, but it presupposes the knowledge learned in Latin 1. Therefore, if you are taking Latin 2, we recommend taking Latin 1 as well, if possible.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to help students understand basic Latin grammar and read and understand simple sentences independently using a dictionary.

【Learning activities outside of classroom】

- ・ Review your textbook and notes, and review the content learned in each lesson.
- ・ Work hard on the homework assigned in each class.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class contribution: 50%, Term-end examination: 50%

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ギリシア語 1

文 景楠

授業コード：A2270 | 曜日・時限：金3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

すべての西洋文明の礎となっている古典ギリシア語の基礎を習得することを目指す。教科書に沿って進めるが、毎回予習復習を行い練習問題を解くことが要求される。読解の訓練のための補助教材も適宜配布する。

【到達目標】

古典ギリシア語の初歩的文法を理解し、簡単な文を訳せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教科書にもとづく講義形式で進める。毎回宿題を課し、最終回には全体を振り返るテストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容と評価基準の紹介
2	第1課、第2課	文字と発音、アクセント
3	第3課、第4課	第1・第2変化の名詞および形容詞、定冠詞
4	第5課、第6課	o動詞（直説法能動相現在および未来、直説法能動相未完了過去およびアオリスト）、不定詞を用いた間接話法
5	第7課、第8課	o動詞（直説法能動相第2アオリスト）、結果文、時の表現、前接辞と後接辞、疑問代名詞と不定代名詞、動詞eimiと phemi、所有の与格
6	第9課、第10課	第3変化名詞（子音幹）、限定の対格および与格、母音融合を行う第1・第2変化形容詞
7	第11課、第12課	第3変化名詞（母音幹）、関係代名詞、指示代名詞、強意代名詞autos
8	第13課、第14課	形容詞および副詞の比較、hedionの変化、母音融合動詞
9	第15課、第16課	流音・鼻音幹動詞の未来、人称代名詞、-us、-eia、-u型および-es、-es型の形容詞
10	第17課、第18課	pas、megas、polusの変化、mi動詞（histemiとdidomiの直説法能動相現在・未完了過去・アオリスト）
11	第19課、第20課	mi動詞（titheimi、hiemi、eimi、deiknumi）、o動詞の能動相現在・未来・第2アオリストの分詞、分詞の用法
12	第21課	o動詞の能動相アオリストの分詞、mi動詞の能動相現在および第2アオリストの分詞、分詞の用法
13	全体の振り返り	文法と練習問題の復習
14	まとめ	テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を復習し、練習問題に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

水谷智洋（1990）『古典ギリシア語初歩』岩波書店。

【参考書】

講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 毎回の課題を含む平常点（40%）② 最終回のテスト（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は該当なし

【その他の重要事項】

「ギリシア語2」と合わせて履修することを勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the fundamentals of Ancient Greek, which forms a foundation of Western culture. Students are required to review course materials and complete grammar exercises for each class. Additional readings will be assigned and provided by the instructor.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will have acquired a basic understanding of Ancient Greek grammar and will be able to translate simple sentences.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students are expected to spend approximately four hours preparing for and reviewing the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: 1. Class participation: 40%, 2. Final examination: 60%

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ギリシア語 2

文 景楠

授業コード：A2271 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

すべての西洋文明の礎となっている古典ギリシア語の基礎を習得することを目指す。教科書に沿って進めるが、毎回予習復習を行い練習問題を解くことが要求される。読解の訓練のための補助教材も適宜配布する。

【到達目標】

古典ギリシア語の初歩的文法を理解し、簡単な文を訳せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教科書にもとづく講義形式で進める。毎回宿題を課し、最終回には全体を振り返るテストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ギリシア語 1 のまとめ	先学期に学んだ内容の復習
2	第22課	接続法能動相現在およびアオリスト、主文における接続法の用法、接続法を用いた条件文
3	第23課	希求法能動相現在・未来・アオリスト、主文における接続法の用法、目的文
4	第24課	希求法を用いた条件文、hoti、hosによって導入される間接話法、話法転換時の動詞の法の変化、間接疑問
5	第25課	直説法中・受動相現在、直説法中動相未来、能動相欠如動詞、危惧・恐怖を表わす文
6	第26課	直説法中・受動相未完了過去、直説法中動相第2アオリスト、再帰代名詞、所有形容詞、配慮・努力を表わす文
7	第27課、第28課	直説法中動相アオリスト、事実に対する仮定の条件文、過去の可能性を表わす文、接続法中・受動相現在、接続法中動相アオリスト、heos、prinの用法
8	第29課、第30課	希求法中・受動相現在、希求法中動相アオリスト・未来、受動相アオリストおよび未来、行為者を表わすhupo+属格、手段・方法の与格
9	第31課	能動相完了・過去完了・未来完了
10	第32課	中・受動相完了・過去完了・未来完了、行為者の与格
11	第33課	命令法（o動詞）
12	第34課、第35課、第36課	命令法（mi動詞）、mi動詞型の変化をする第2アオリスト、動形容詞、動詞の主要部分、数詞
13	全体の振り返り	文法と練習問題の復習
14	まとめ	テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を復習し、練習問題に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

水谷智洋（1990）『古典ギリシア語初歩』岩波書店。

【参考書】

講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 毎回の課題を含む平常点（40%）② 最終回のテスト（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は該当なし

【その他の重要事項】

「ギリシア語 1」と合わせて履修することを勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the fundamentals of Ancient Greek, which forms a foundation of Western culture. Students are required to review course materials and complete grammar exercises for each class. Additional readings will be assigned and provided by the instructor.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will have acquired a basic understanding of Ancient Greek grammar and will be able to translate simple sentences.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students are expected to spend approximately four hours preparing for and reviewing the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: 1. Class participation: 40%, 2. Final examination: 60%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸批評史A

伊東 祐吏

授業コード：A2553 | 曜日・時限：水4/Wed.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組みあわせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本の近代文学の概説	前史と西洋近代文学の影響
第2回	批評とは何か	その特徴について
第3回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第4回	尾崎紅葉と幸田露伴	その後の文学の展開
第5回	森鷗外の評論	坪内逍遙との論争
第6回	北村透谷の批評	山路愛山との論争
第7回	高山樗牛の評論	作品と若者への影響について
第8回	斎藤緑雨の箴言	風刺と皮肉の効用
第9回	正岡子規の歌論	短歌・俳句と写生文
第10回	自然主義の誕生	国木田独步、島崎藤村、田山花袋
第11回	言文一致運動	その過程の論争
第12回	反自然主義	自然主義と違う立場の作家
第13回	平塚雷鳥と与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第14回	大逆事件	石川啄木や徳富蘆花の評論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特には必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇] および[昭和篇] (岩波文庫)。(ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。)

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸批評史B

伊東 祐吏

授業コード：A2555 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組みあわせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大正・昭和期の文学の概説	20世紀の西洋文学との比較
第2回	夏目漱石の批評	文明批評について
第3回	和歌と漢文	日本人の文化的喪失について
第4回	白樺派	武者小路実篤の作品と批評
第5回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛との論争
第6回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	純文学と通俗小説に関する論争
第7回	プロレタリア文学と新感覚派	関東大震災後の新たな潮流
第8回	小林秀雄の批評	日本における近代文芸批評の確立
第9回	戦時下の文学と言論	日本浪漫派と文学報国会
第10回	敗戦と占領下の批評	終戦直後の状況について
第11回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第12回	「政治と文学」論争	「近代文学」と中野重治の論争
第13回	吉本隆明と江藤淳	戦後を代表する左派と右派の思想
第14回	ポストモダンとその後	柄谷行人と加藤典洋について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇] および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

中国文芸史A

遠藤 星希

授業コード：A2561 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の古典小説について講義をする。中国でフィクションとしての本格的な小説が書かれるようになるのは唐代のことであり、それは「伝奇」と呼ばれた。本授業では、中国文学史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）に書かれた「小説」（正確には小説的なもの）について講義を行う。唐代伝奇の源泉となった、先秦から南北朝時代までの「小説」およびその土壌となった各時代の文化的背景について学ぶ。

【到達目標】

中国の先秦時代から南北朝時代までの古典小説史のアウトラインを把握する。また、各時代の代表的な作品を読解することを通して、古典小説の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な工具書を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受け付ける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国の古典小説と「小説」の原義についての概説
第2回	白話小説概説	明・清の時代に書かれた口語体の小説についての概説
第3回	小説前史（1）	神話（上）：中国の天地開闢神話とその特徴について
第4回	小説前史（2）	神話（下）：神話の時代の大洪水と大旱魃
第5回	小説前史（3）	諸子百家と漢代の賦：諸子百家による寓話と漢代の賦における小説的要素について
第6回	小説前史（4）	漢代の作とされる「小説」：中国古代の空想的地理書『山海経』をはじめとする、漢代の文献を読む
第7回	小説前史（5）	史伝の小説的要素：歴史文学として司馬遷の『史記』を読む
第8回	志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第9回	志怪小説（2）	志怪小説に見られる仙界訪問譚について
第10回	志怪小説（3）	志怪小説に見られる冥界訪問譚と仏教の影響
第11回	民間の物語詩	漢代から南北朝時代にかけて民間で歌われた、叙事的な物語詩を読む
第12回	志人小説	六朝時代に記録された著名人のエピソード集「志人小説」についての概説
第13回	男装の麗人の物語男装の麗人の物語	木蘭従軍故事について
第14回	春学期総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子化されたファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

- ・魯迅著；丸尾常喜訳注『中国小説の歴史的変遷 魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
 - ・魯迅著；中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
 - ・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
 - ・大塚秀高著『中国古典小説史』（ちくま学芸文庫、2024）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture is focused on Chinese classical novels. It is not until the Tang dynasty that people started writing serious novels as fictional tales in China. They were called chuan-qi. In this course, the lecture will be given on novels (more accurately quasi novels) from the most ancient periods in the history of Chinese literature covering the periods from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and the Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). We will learn “novels” from Pre-Qin to the Northern and Southern dynasties and the underlying cultural background for each period, which formed the foundation for chuan-qi during the Tang period.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. understand the outline of the history of classical novels from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
- B. have knowledge of the various genres of Chinese classical novels through reading representative works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
- C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

中国文芸史B

遠藤 星希

授業コード：A2563 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の古典小説のうち、唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説について概説する。日本人にとって馴染みのある中国の小説といえば、明代に成立した『三国志演義』や『水滸伝』『西遊記』などがまず想起されるであろうが、これらはいずれも当時の白話（＝話し言葉）で書かれた小説である。それに対して伝奇は、文言（＝書き言葉）で書かれており、漢文訓読による読解が可能である。唐代伝奇は昔から日本人に広く読まれており、日本の古典文学・近代文学に対する影響も大きい。本授業では、個々の作品の読解を通して、唐代伝奇が内包する文学性を探るとともに、その土壌となった当時の社会・文化背景について学ぶ。

【到達目標】

唐代小説史のアウトラインを把握する。また、唐代伝奇を鑑賞する力を身につける。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な文献を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受け付ける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	唐代伝奇についての概説
第2回	唐代伝奇（1）	唐代伝奇の先駆的な作品である「補江総白猿伝」を読む
第3回	唐代伝奇（2）	魂が肉体を離れて駆け落ちをした女性の話「離魂記」を読む
第4回	唐代伝奇（3）	象の恩返しの話「安南獬者」を読む
第5回	唐代伝奇（4）	成語「黄粱一炊の夢」の出典として知られる「枕中記」を読む
第6回	唐代伝奇（5）	狐の妖女と人間の男性との恋愛を描いた「任氏伝」を読む
第7回	唐代伝奇（6）	『雨月物語』の「夢応の鯉魚」や、太宰治「魚服記」の粉本として知られる「薛偉」を読む
第8回	唐代伝奇（7）	妓楼の高級娼婦と名門の御曹司との恋愛譚「李娃伝」を読む
第9回	唐代伝奇（8）	民間信仰「運命の赤い糸」の源泉として知られる「定婚店」を読む
第10回	唐代伝奇（9）	男装した女性による敵討ちの話「謝小娥伝」を読む
第11回	唐代伝奇（10）	中島敦「山月記」の粉本として知られる「李徴」を読む
第12回	唐代伝奇（11）	科挙の受験生と堅気の女性との恋愛譚「鶯鶯伝」を読む
第13回	唐代伝奇（12）	芥川龍之介による翻案で知られる「杜子春」を読む
第14回	唐代伝奇（13）	トイレの神様に取り憑かれた男の話「李赤伝」を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の週に読む作品を前の週に配布するので、授業前に必ず読んでおく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子化されたファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・岡本不二明著『「李娃伝」と鞭 唐宋文学研究余滴』（汲古書院、2015）

・溝部良恵著『中国古典小説選6 広異記・玄怪録・宣室志 他』（明治書院、2008）
・黒田真美子著『中国古典小説選5 枕中記・李娃伝・鶯鶯伝他』（明治書院、2006）
・成瀬哲生著『中国古典小説選4 古鏡記 補江総白猿伝 遊仙窟』（明治書院、2005）
・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
・鲁迅著；中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
・鲁迅著；丸尾常喜訳注『中国小説の歴史の変遷 鲁迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other Chinese classical novels, this course provides an overview of short novels called *chuan-qi* written during the Tang dynasty. Speaking of Chinese novels familiar to Japanese, you will be reminded of Romance of the Three Kingdoms, Water Margin, and Journey to the West all published during the Ming dynasty. These are all novels written in vernacular Chinese (=spoken language). In contrast, *chuan-qi* were written in literary language (=written language), which can be understood in kanbun. *Chuan-qi* during the Tang dynasty were broadly read by Japanese from ancient times and significantly influenced Japanese classical and modern literature. In this course, we will explore the literary qualities contained in *chuan-qi* during the Tang dynasty and learn about the underlying social and cultural background through reading individual works.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

A. understand the outline of the history of classical novels in the Tang dynasty;

B. acquire the ability to appreciate *chuan-qi*.; and

C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（3）中世A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立の問題を解説した後、代表的和歌について講義します。

春学期授業では万葉歌人の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。

各和歌の解釈は一義的なものではありません。『百人一首』編纂当時の解釈、室町時代の解釈、江戸時代の解釈がそれぞれ異なっていたり、また流派の違いによって異なる解釈がなされていたりします。そうした点に留意しながら、各歌がどのように享受されてきたかについて考えていきます。

また、江戸時代には、『百人一首』は和歌だけではなく、歌仙絵（作者の絵姿）や歌意絵（和歌の解釈を絵画化したもの）を掲載した本が刊行されました。代表的な絵入本（絵本）を紹介し、近世の人々がどのように『百人一首』を鑑賞していたかについても概観します。

上記の観点から、『百人一首』が和歌史、文化史にどのように位置づけられるかについて考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の成立・古注釈	成立の問題および中世・近世の古注釈に関する説明
第3回	『百人一首』講読	三番歌（柿本人麿「あしびきの」歌）に関する解説
第4回	『百人一首』講読	三番歌の古注釈（中世）に関する解説
第5回	『百人一首』講読	三番歌の古注釈（近世）に関する解説
第6回	『百人一首』講読	三番歌の歌意絵・人麿像について
第7回	『百人一首』講読	五番歌（猿丸大夫「おくやまに」歌）に関する解説
第8回	『百人一首』講読	五番歌の古注釈（中世）に関する解説
第9回	『百人一首』講読	五番歌の古注釈（近世）に関する解説

第10回	『百人一首』講読	五番歌の歌意絵について
第11回	『百人一首』講読	六番歌（中納言家持「かささぎの」歌）に関する解説
第12回	『百人一首』解説	六番歌の古注釈（中世）に関する解説
第13回	『百人一首』解説	六番歌の古注釈（近世）に関する解説
第14回	『百人一首』解説	六番歌の歌意絵について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

- ・講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）
 - ・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）
 - ・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）
- その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（3）中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では春学期にひきつづき、歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を勘案しながら、代表的和歌について講義します。

秋学期授業では六歌仙の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。

各和歌の解釈は一義的なものではありません。『百人一首』編纂当時の解釈、室町時代の解釈、江戸時代の解釈がそれぞれ異なったり、また流派の違いによって異なる解釈がなされていたりします。そうした点に留意しながら、各歌がどのように享受されてきたか考えていきます。

また、江戸時代に刊行された、歌仙絵（作者の絵姿）や歌意絵（和歌の解釈を絵画化したもの）を掲載した絵入本（絵本）『百人一首』を紹介し、近世の人々がどのように『百人一首』を鑑賞していたかについて概観します。

上記の観点から、『百人一首』がどのように享受されてきたか、和歌史、文化史にどのように位置づけられるかについて考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の成立・古注釈	成立の問題および中世・近世の古注釈に関する説明
第3回	『百人一首』講読	九番歌（小野小町「はなのいろは」歌）に関する解説
第4回	『百人一首』講読	九番歌の古注釈（中世）に関する解説
第5回	『百人一首』講読	九番歌の古注釈（近世）に関する解説
第6回	『百人一首』解説	九番歌の歌意絵・小野小町像について
第7回	『百人一首』解説	一二番歌（僧正遍昭「あまつかぜ」歌）に関する解説
第8回	『百人一首』解説	一二番歌の古注釈（中世）に関する解説
第9回	『百人一首』解説	一二番歌の古注釈（近世）に関する解説
第10回	『百人一首』解説	一二番歌の歌意絵について

第11回	『百人一首』解説	一七番歌（在原業平「ちはやぶる」歌）に関する解説
第12回	『百人一首』解説	一七番歌の古注釈（中世）に関する解説
第13回	『百人一首』解説	一七番歌の古注釈（近世）に関する解説
第14回	まとめ	一七番歌の歌意絵について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

- ・講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）
 - ・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）
 - ・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）
- その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (4) 近世A

小林 ふみ子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【近世文学と古典文学】

江戸時代には、出版文化を背景に中世までのさまざまな古典をふまえた作品が作られました。それら現代でいう二次創作の作品は、原作にたいして、ちやかしたり、オマージュを捧げたり、態度はさまざまですが、それぞれ原作を当世(現代)＝江戸時代化することで成りたっています。『源氏物語』『平家物語』をはじめ、さまざまな古典文学に親しみつつ、江戸時代的特徴を考える一挙両得の講義です。

【到達目標】

1. 江戸文芸に表れた近世の特徴を理解する。
2. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
3. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

2～3回で1ジャンルを学ぶ。
 提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。
 100分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成、作品の作り方を追体験してもらうべく、創作にも挑戦する。
 発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入 パロディ文芸のはじまり①	江戸時代の特徴を知る。 江戸時代初期のパロディ文芸のなかから『仁勢物語』『吉原徒然草』を読む
第2回	パロディ文芸のはじまり②	『吉原徒然草』にならってパロディに挑戦する
第3回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』①	西鶴の『好色一代男』巻一の一の設定から光源氏のやつしとしての世之介を考える
第4回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』②	『好色一代男』巻四二形見の水櫛において『伊勢物語』『源氏物語』がどう活かされているかを考える
第5回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ①	狂歌というジャンルと江戸狂歌について知る
第6回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ②	歌麿描く江戸狂歌の名作『画本虫撰』を読んで創作にチャレンジする
第7回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ③ +中間試験 (30分)	狂歌とことば遊びの妖怪見立絵本『画本纂怪興』を読み、創作にチャレンジする
第8回	『平家物語』のストーリーをちゃかす-黄表紙①	「源平の戦いも面倒なので」打たれる真似をして茶番で済ませる!?という設定の恋川春町画作『万歳集著微来歴』前半をよむ
第9回	『平家物語』のストーリーをちゃかす-黄表紙②	『万歳集著微来歴』後半を読む
第10回	『平家物語』を言葉でちゃかす-滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬が『平家物語』敦盛最期をちゃかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む
第11回	『平家物語』を言葉でちゃかす-滑稽本②	『大千世界楽屋探』を分析し、創作(大喜利)にチャレンジする
第12回	『源氏物語』を近世化する-合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学び、『修紫田舎源氏』の大枠を知る
第13回	『源氏物語』を近世化する-合巻②	『修紫田舎源氏』の『源氏物語』夕顔巻に該当する部分の前半を読む

第14回	『源氏物語』を近世化する-合巻③ まとめ・期末試験 (30分)	『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む 最後にこの時代の文芸の特徴を考える

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに小課題を出します。
 本授業の準備学習は30分・復習時間は平均して3時間程度を標準に考えます。

【テキスト (教科書)】

各回、資料提供し、参照すべきURLを提示します。

【参考書】

長島弘明編『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』(文学通信 2019)・小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』(集英社インターナショナル [インターナショナル新書]、2019) ほか

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー (30%)、中間・期末課題の得点 (各35%) を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と(予習も含めた)個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
 グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください！

【学生が準備すべき機器他】

デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も(スマホでもいいのですが)、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意すると便利です。図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。

【Outline (in English)】

Course Outline: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.

Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes and Review for **Course Outline:** Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.

Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes, review for 2hours for each class. It will be about 4 hours, including the time for writing 4 short reports/semester.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (20%), Two short reports (40%*2).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（４）近世B

齊藤 千恵

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『忠臣蔵』とその周辺文化について学ぶ

赤穂義士の討ち入り事件は広く世に知られ、早くから舞台化も行われました。なかでも大ヒットしたのは、「仮名手本忠臣蔵」です。人形浄瑠璃として作られ、すぐに歌舞伎化されたこの作品は、さまざまなジャンルの「忠臣蔵もの」作品を生み出す母体となりました。その流れは今日まで続き、「忠臣蔵」を扱った小説、テレビドラマや映画なども多く作られています。本講義では、「忠臣蔵もの」作品が生まれる母体となった「仮名手本忠臣蔵」と、その派生的作品をいくつか採り上げ、忠臣蔵文化の広がりを学びます。

【到達目標】

- ①人形浄瑠璃・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の特色を学び、日本人を魅了し続けた芸能について深く理解する。
- ②「仮名手本忠臣蔵」から派生した「忠臣蔵もの」の作品を分析できる。
- ③人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・近世小説・落語などに触れ、その楽しみ方、味わい方を身につける。
- ④現代にも通じる「忠臣蔵」文化の始原のあり様を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半年間で2回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・時代背景	物語の生み出された土壌と、史実の赤穂事件について理解を深める。
第2回	人形浄瑠璃と歌舞伎	人形浄瑠璃と歌舞伎の芸能としての特性を理解し、『仮名手本忠臣蔵』が生み出されるまでの流れを知る。
第3回	「仮名手本忠臣蔵」①	判官の無念の死はどのように引き起こされたのか。『仮名手本忠臣蔵』に描かれた事件の真相に迫る。
第4回	「仮名手本忠臣蔵」②	勘平はどのようにして追い詰められ、早すぎる死を選ぶのか。運命に翻弄された男の悲劇を味わう。
第5回	「仮名手本忠臣蔵」③	遊興にふける由良之助の真意はどこにあるのか。それを悟った兄妹の動向を理解する。
第6回	「仮名手本忠臣蔵」④	大星家と加古川家の関係を考える。本蔵の死によってもたらされたものを知る。
第7回	「仮名手本忠臣蔵」⑤	敵討を支える登場人物たちの動きから、上演の問題点を把握する。
第8回	歌舞伎「東海道四谷怪談」①	作品の成り立ちと初演時の上演形態から、「忠臣蔵」との関わりを読み解く。
第9回	歌舞伎「東海道四谷怪談」②	鶴屋南北の表現手法と演出技法に触れ、作品の魅力に迫る。
第10回	「忠臣蔵もの」の浮世絵	「忠臣蔵」を描いたさまざまな浮世絵に触れ、その面白さを知る。
第11回	「忠臣蔵もの」の草双紙	「忠臣蔵」のパロディ絵本を読み解く。
第12回	「忠臣蔵もの」の舌耕文芸	落語『中村仲蔵』『四段目』の面白さを味わう。
第13回	「忠臣蔵もの」の滑稽本と劇書	評論『忠臣蔵偏痴気論』『古今いろは評林』を読む。
第14回	まとめ 「忠臣蔵もの」のゆえ	「忠臣蔵もの」文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。

授業外に提出課題を課すことがある。

本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。近年多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します。

【参考書】

『仮名手本忠臣蔵を読む』（服部幸雄編、吉川弘文館、2008）

『新潮日本古典集成 浄瑠璃集』（土田衛校注、新潮社）

『新編日本古典文学全集 浄瑠璃集』（鳥越文蔵ほか校注・訳、小学館）
その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへの取り組み）：40％

小課題（×2回）：60％

【学生の意見等からの気づき】

講義中に用いる教材や配布資料を工夫し、近世芸能や周辺文芸の魅力を伝えられるよう心がけます。

講義で扱う近世文芸の各ジャンルについても、ジャンルの特性に触れられるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配付等には、学習支援システムを活用します（ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します）。

【その他の重要事項】

質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付けます。

第8回以降で扱う作品は、受講生の状況により変更する可能性もあります。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture course is about *Kanadehon Chūshingura* (*The Treasury of Loyal Retainers*) and derivative works. The historical incident of the revenge of the forty-seven *rōnin* of Akō is widely known, and was adapted for the stage from early on. One of the most successful stage productions was *Kanadehon Chūshingura*. Originally a puppet play (*ningyō jōruri*), it was soon performed on the *kabuki* stage, and many derivative works were born in various other genres. This trend has continued to the present day, and many novels, TV dramas, and movies have been produced on the same theme.

Learning Objectives: At the completion of this course, students will:

1. understand the characteristics of the *ningyō jōruri* and *kabuki* versions of *Kanadehon Chūshingura*;
2. will be able to analyze works derived from *Kanadehon Chūshin-gura*;
3. will have learned how to enjoy and savor *ningyō jōruri*, *kabuki*, *ukiyo*, early modern novels, *rakugo*, etc.
4. will understand the evolution of *Chūshingura* as a cultural phenomenon, which still retains its relevance today.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 2 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (reaction papers): 40%. Short assignments (2): 60 %.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講 (15) 国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人 (特にイギリス人) の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。

- ・内村鑑三 (1861-1930) *Representative Men of Japan* (代表的日本人、1908。 *Japan and the Japanese* [1894] の改訂版)。
 - ・新渡戸稲造 (1862-1933) *Bushido: The Soul of Japan* (武士道、1900)。
 - ・岡倉天心 (1862-1913) *The Book of Tea* (茶の本、1906)。
- 文学と芸術 (美術・音楽) にも触れます。

【到達目標】

- ・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
- ・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
- ・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会 (授業第5・9・13回) で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第2回	「(国際) 日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	文化圏の形成 中華思想・礼楽思想との接触 プレゼンテーションの準備 (続)
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞 (ザビエルとフロイス) 長崎 (出島) 歴代オランダ商館 長らの研究
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン

第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ Asiatic Society of Japan の設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第6回 参考書 pp. 10-17

第7回 参考書 pp. 18-23

第8回 参考書 pp. 64-69、70-77

第14回 参考書 pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書を使用しない。

【参考書】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパングまで』(中央公論社、1987) 中公文庫832 (ISBN4-12-100832-4) その他、授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー (35%)、プレゼンテーションと議論への参加度 (25%)、期末レポート (プレゼンテーションを文章化したものの、40%)。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

なお、担当教員は2026年度をもって退職しますので、本年度がこの授業の最後となります。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（15）国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた*The Chrysanthemum and the Sword*（菊と刀、1946）と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた*The Chrysanthemum and the Sword*の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
 ・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
 ・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・12回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第5章“Debtor to the Ages and the World”と第6章“Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンス・テッカー等の活躍
第7回	60～70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー

第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第7章“The Repayment Hardest to Bear”と第8章“Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラーの仕事
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保、ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第10章“The Dilemma of Virtue”と第12章“The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 参考書① pp. 182-187

第4回 参考書② pp. 31-55

第6回 参考書① pp. 214-219、266-271

第7回 参考書① pp. 248-253

第11回 参考書① pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。

【参考書】

①佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫832（ISBN4-12-100832-4）

②青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』（中央公論社、1990）中公文庫533、1999（ISBN4-12-203399-3）

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したものの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

なお、担当教員は2026年度をもって退職しますので、本年度がこの授業の最後となります。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict's *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict's book, students participate in one of three presentations on Benedict's discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 and 6), *giri* (Chapters 7 and 8), and *haji* (Chapters 10 and 12). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict's book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語学概論 A

廣田 友晴

授業コード：A2804 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学研究の諸領域を2セメスターにわたって概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、社会言語学、英語教育を中心に、英語学研究の基礎的な考え方を学びます。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春学期・秋学期を連続して履修することをお勧めします。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容とアプローチを学び、自分の興味のある分野を見つけるとともに、今後の自身の研究テーマを英語学研究の中に位置づけられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「言語」と一口にいっても、話し言葉、書き言葉、文法、話者の頭の中にある言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方の違いは、研究アプローチに反映されることも少なくありません。英語学には、理論的な側面から取り組む分野もあれば、具体的な言語事象に着目する分野もあります。本科目では、できるだけ多くの分野を講義形式で紹介していきます。リアクション・ペーパーは毎時間提出していただきます。興味深いコメントについては授業内で紹介し、さらなる学びや議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の進め方、教科書、履修条件について
第2回	英語学とは	英語学研究の概説
第3回	世界の英語（1）	世界語としての英語について
第4回	世界の英語（2）	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第5回	形態論（1）	形態論の概説、単語ができる仕組み
第6回	形態論（2）	形態論と形態素
第7回	意味論（1）	意味論の概説
第8回	意味論（2）	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9回	語用論（1）	語用論の概説、言葉の意味について
第10回	語用論（2）	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11回	言葉と社会	社会言語学の概説
第12回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第13回	春学期の振り返り	春学期の講義内容についての復習と演習
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目では次々と新しい内容を扱うため、教科書を事前に読んでから授業に出席してください。教科書は英語で書かれているため、辞書を引きながら読み、授業を通して復習し、理解を深めることを心がけましょう。授業後には、学んだ内容を再度確認することで、知識の定着や新たな視点の獲得につながります。本科目における予習・復習の目安時間は、それぞれ2時間です。

【テキスト（教科書）】

影山太郎・デ・シェン、ブレント・日比谷潤子・タツキ、ドナ（2021）『First Steps in English Linguistics (2nd edition) 英語言語学の第一歩』くろしお出版。

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、期末試験を60%とし、授業で取り扱う各分野の基礎知識を十分に理解できているかどうかで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本科目の担当は今年度が初めてです。気づいた点などがあれば、授業内外でお気軽にお知らせください。

【その他の重要事項】

英語学の基礎的知識を身につけるため、1年次には秋学期開講の「英語学概論B」とあわせて履修することを推奨します。授業の構成や進度については、学生の理解度に応じて適宜調整する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces students to various fields in English linguistics, with a focus on World Englishes, morphology, semantics, pragmatics, sociolinguistics, and English teaching.

(Learning objectives) The primary goal of this course is for students to acquire an overview of English linguistics and to be able to locate their own research interests within the field.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to read the relevant textbook chapter before class and review the content covered after class. Students are expected to spend approximately four hours per class.

(Grading criteria /policy) Students will be assessed based on their understanding of the course content: attendance and in-class contributions (40%) and a final examination (60%).

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語学概論 B

北澤 茉奈

授業コード：A2805 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語の歴史、統語論、音声学・音韻論、言語習得といった英語学の主要分野について、基礎的な概念や用語を学ぶことを目的とする。英語の発音の仕組みや文構造に関する基礎知識を身につけ、実際の英文を用いた分析や構造表記の練習を通して、英語という言語の成り立ちを理解する。また、日本語との共通点や相違点にも目を向けながら、英語がどのように理解され、習得されてきたのかを考察する。これらの学習を通して、英語を単なる学習対象として見るのではなく、言語そのものへの理解を深めるための基礎的な視点を身につけることを目指す。

【到達目標】

本授業を通して、学生は英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得といった英語学の主要分野について、基礎的な概念や用語を理解することを目指す。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史的变化、英語の音の体系、統語論における基本的な考え方、ならびに言語習得や伝統的文法から生成文法に至る理論の変遷について、基礎的な知識を身につける。また、言語学研究の諸分野のアプローチや研究の現状を理解し、英語という対象への理解を深めるとともに、英語を専攻する上で必要な基礎的知識をもとに、自身の関心や研究テーマを位置づけるための基盤を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得、ならびに学校文法から生成文法に至るまでの基礎的な概念や用語、理論の変遷について、講義形式を中心に進めます。発展的な内容については、動画等の教材も取り入れながら理解を深めます。また、事前に教科書内容の簡単なまとめや実例への気づきを準備してもらい、その一部を授業内で紹介してもらうことがあります。授業の冒頭では、前回提出されたリアクションペーパーの内容をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパーにおける良いコメントは授業内で共有し、議論の発展に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、教科書・参考文献、履修条件および評価方法の説明
第2回	英語学とは何か	英語学の対象と主要分野の概説
第3回	英語の歴史（1）	英語史の概説と英語の成立
第4回	英語の歴史（2）	英語の変化と語彙の成り立ち
第5回	統語論の基礎	統語論の概説と言語構造の基本的な考え方
第6回	統語構造	生成文法による統語構造の分析
第7回	統語構造の発展	助動詞・補文標識・疑問文の構造
第8回	音声・音韻論（1）	英語の音の体系と母音の仕組み
第9回	音声・音韻論（2）	子音の分類と英語の発音の特徴
第10回	言語習得（1）	言語習得の基礎的概念
第11回	言語習得（2）	言語習得を説明する主な理論
第12回	第二言語習得（1）	外国語習得の特徴と影響要因
第13回	第二言語習得（2）	外国語習得の過程と英語学習への示唆
第14回	期末試験	試験・全体のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に先立ち、教科書の該当箇所を目を通し、内容の概要を把握しておく。また、授業で扱うテーマに関連する身近な言語使用の実例や疑問点を探し、簡単に整理・まとめる。授業後は、講義内容や配布資料、授業内での議論を振り返り、理解を深めるとともに、リアクションペーパーや課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』
影山太郎, プレント・デ・シェン, 日比谷潤子, ドナ・タツキ 著
くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験40%、授業内課題30%、平常点（参加度、リアクションペーパー等）30%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を参考にしながら、可能な範囲で皆さんの意見や希望を授業に反映していきたいと考えています。

【Outline (in English)】

This course introduces students to major areas of English linguistics, including the history of English, syntax, phonetics and phonology, and language acquisition. Through the study of basic concepts and terminology, as well as analysis of actual English examples and occasional comparison with Japanese, students explore how English is structured, how it has changed over time, and how it is understood and acquired as a language.

The aim of this course is to help students develop a foundational understanding of English as a linguistic system, and to situate key theories and approaches within the broader field of linguistic research, providing a basis for further study in English linguistics.

Students are expected to read assigned materials before class, review lecture content after class, and complete short reaction papers or assignments. The standard amount of preparation and review time is approximately two hours per class.

Final grades will be evaluated based on the following criteria: final examination (40%), in-class assignments (30%), and class participation including reaction papers (30%).

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことを目指します。どの分野を自分が楽しめそうか、楽しめなさそうかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向き判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。基本的には講義です。リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入、および「音素」その1（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、 <i>party</i> はカタカナで何と言うべき？
第2回	「音素」その2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第3回	「音節」その1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第4回	「音節」その2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第5回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第6回	今日の文法理論その1（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第7回	今日の文法理論その2（統語論）	「5文型」の不適切さ、X-bar Theory
第8回	今日の文法理論その3（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？ そんなもの、本当に native speaker の頭の中にあるの？
第9回	今日の文法理論その4（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第10回	今日の文法理論その5（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第11回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	<i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？ …… 「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第12回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第13回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして U-curve development
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100%。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

割と良い評価をいただけたと思うのですが、理解度はもっと上げたいと思います。

【その他の重要事項】

この授業は『言語学概論 B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします（そのために、コロナ禍の頃の「読むテキスト」の一部復活も検討します）。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic sciences for novice.

(Learning Objectives) To clear up common misconceptions concerning language, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted.

(Learning activities outside of classroom) Reaction papers

(Grading Criteria /Policy) Final (100%)

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

言語学概論 B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、『経験科学』としての言語学入門です。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対して初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対して、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 形態
教室での「対面授業」を毎回実施する予定ですが、諸事情により部分的に「オンライン授業」を実施する場合があります。
2. 進め方
講義形式が基本となりますが、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。
教員は具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切に、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答やリアクションペーパーで積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパーで得られた面白い質問や意見は、時間の許す限りその後の授業内で紹介して、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。
なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要説明、「言語学って何を学ぶの?」、「語学と違うの?」、「言語学が科学?」
第2回	理論言語学とは?	下位分野とそれぞれで扱われる謎の種類
第3回	言語理論と言語観の変遷1	Saussure ～アメリカ構造主義言語学
第4回	言語理論と言語観の変遷2	Chomsky ～認知言語学
第5回	形態論1	語の内部構造と形態素
第6回	形態論2	語形成（派生と屈折）
第7回	音声学1	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第10回	統語論1	句構造と X-bar Theory
第11回	統語論2	句構造から文構造へ（生成文法における「移動」）
第12回	意味論1	意味の記述と語彙分解
第13回	意味論2	述語のアスペクト
第14回	音韻論	音節とモーラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業1回あたりの標準の準備・復習時間は、各2時間とします。

1. 準備

事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや授業後の質問などにて教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たもののを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。授業日の前にその日に使用するハンドアウトの PDF ファイルを学習支援システムにアップロードしますので、受講者は必ず各自でファイルを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください。なお、ハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはファイルに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験：100%
最終授業後の定期試験期間に実施します。
2. プラスアルファの加点
上記の通り、本科目の成績は期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には若干の加点をいたします。
(a) リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者
(b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者
3. 出席の確認

授業では出席を取りません。また、リアクションペーパーは出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見・質問・希望などを記すものであり、「出さない」と減点される」という類のものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

1. 昨年度は「内容が面白い」、「説明がわかりやすい」等の好意的な感想を一昨年度よりも多くもらうことができ、一昨年度からのハンドアウトや説明方法の改善の効果を実感できた。他方で、「話を聞くだけのことが多く、どうしても眠くなってしまった」という意見もいただいたので、練習問題の提示方法・頻度や下記のコメントアプリの使い方などをもう一度見直して、受講生が自分で手を動かしながらより主体的に学べるように授業の進め方を工夫したい。
2. 本科目では、受講生が授業中にスマホや PC から送信したコメントが教室内スクリーン上に匿名で流れるアプリを導入しているが、昨年度は受講生がアプリでコメントを送信する頻度が一昨年度よりも大幅に減ってしまった。教員・学生間の双方向の自由な意見交換や受講生の理解度確認のために、コメントアプリの授業における使用事例等を参考にして、学生が気軽にコメントを送信できる環境作りを進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

- (a) 双方向通信アプリの Zoom を使用できるデバイス
- (b) Zoom によるリアルタイム配信授業の視聴が可能なインターネット回線

【その他の重要事項】

学習支援システムからの授業や期末試験などに関するお知らせメールをきちんと受け取れるように、法政 Gmail の設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】

1. Course outline
This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.
2. Learning objectives
In this course, students are expected:
(a) to acquire the ability to understand basic knowledge in each field of linguistics.
(b) to become sensitive to, and to acquire the ability to give a rudimentary analysis of, facts about languages that are spoken around them.
(c) to correctly understand the scientific research methodology.
3. Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Before each class meeting, take a look at the handout to be delivered beforehand. In addition, you should also refresh your memory of the contents of the previous class meeting that are related to the upcoming meeting.
(b) Review

You should reflect on what you have learned in the classroom, and work on the assignment if any. If you encounter a problem, you should first tackle it yourself, and let me know the results, however imperfect they are; I will then give a feedback to your attempt. Furthermore, employ the analysis methods you have learned to solve the problem you encounter in your daily life that is similar to the phenomenon taken up in the class.

4. Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語・言語学講義A

廣田 友晴

授業コード：A2808 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「正しい英語」と聞いて、みなさんはどのような英語を思い浮かべるでしょうか。なぜその英語が「正しい」と考えられるのでしょうか。本講義では、さまざまな英語の特徴とそれに対する社会的評価を学び、言語にまつわるイデオロギーや現実社会への影響について考察します。

【到達目標】

さまざまな英語の特徴やその歴史・社会文化的背景を具体的に説明できること、さらに英語を取り巻く社会的評価や問題を批判的に考察できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はPPTを使った講義形式を基本とし、適宜ディスカッションやグループワークを行います。また、講義内容に基づき毎回、リアクションペーパーに気づいたことや考えたことなどを書き、提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
第2回	「正しい英語」とは何か (1)	英語における規範主義の歴史
第3回	「正しい英語」とは何か (2)	言語にまつわるイデオロギー
第4回	「正しい英語」とは何か (3)	言語変化に対する態度
第5回	内円圏の英語 (1)	イギリス英語
第6回	内円圏の英語 (2)	アメリカ英語
第7回	内円圏の英語 (3)	カナダ英語
第8回	中間試験	第2回から第7回の内容に基づく試験
第9回	世界の英語 (1)	World Englishesの概説
第10回	世界の英語 (2)	インド英語
第11回	世界の英語 (3)	シンガポール英語
第12回	リンガ・フランカとしての英語	共通語としての英語
第13回	秋学期の振り返り	秋学期の総括と演習
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目では、予習・復習の目安時間をそれぞれ2時間としています。メインテキストは英語で書かれているため、辞書を活用しながら読み、基本的な概念を事前に理解しておくよう努めてください。授業後は、予習や講義で学んだ内容を復習し、身の回りの言語事象に応用することで、学習の定着と応用を意識しましょう。

【テキスト（教科書）】

Peterson, Elizabeth. 2019. *Making Sense of "Bad English": An Introduction to Language Attitudes and Ideologies*. Routledge.

下記のリンクから、オープンアクセスでPDFをダウンロードできます。
<https://www.taylorfrancis.com/books/oa-mono/10.4324/9780429328343/making-sense-bad-english-elizabeth-peterson>

また、AmazonではKindle版を無料で入手することも可能です。
https://www.amazon.co.jp/Making-Sense-Bad-English-Introduction-ebook/dp/B0CZ38TTM2/ref=tmm_kin_swatch_0

【参考書】

授業内外で適宜、参考書や補助資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間試験30%、期末試験40%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

本科目の担当は今年度が初めてです。授業計画については、みなさんのバックグラウンドや理解度に応じて、柔軟に変更・対応したいと思っています。気づいた点などがあれば、授業内外でお気軽にお知らせください。

【Outline (in English)】

In this course, we will explore the diversity of English varieties and their social evaluation around the world. Students will learn about the history and features of different Englishes, language ideologies, and how these influence society. Through discussions, reaction papers, and group activities, students will develop critical thinking about language use in social contexts.

Students are expected to review the assigned readings in advance and are encouraged to reflect on and apply the lecture content after class. Approximately four hours of study per week outside of class are recommended.

Grades will be based on participation and reaction papers (30%), a midterm exam (30%), and a final exam (40%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要なものにはコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	巷の日本語論の嘘（その1）	うなぎ文（その1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第2回	巷の日本語論の嘘（その2）	うなぎ文（その2）：奥津説、菅井説、そして……
第3回	「訳」についての誤解（その1）	代名詞と「役割語」
第4回	「訳」についての誤解（その2）	意味と文法的手段
第5回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第6回	ハとガ、英語の冠詞（その1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第7回	ハとガ、英語の冠詞（その2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第8回	「黒人」英語（その1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第9回	「黒人」英語（その2）	無意識の規則
第10回	「黒人」英語（その3）	必要な（意味論的）概念の整備
第11回	「黒人」英語（その4）	細かい意味的な区別
第12回	強形・弱形・再強勢形	do の3単現（その1）
第13回	音節量	do の3単現（その2）
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは回答率がえらく低くて情報量がろくにないのですが……コンテンツをちょこちょこ増やしていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

(Course outline) Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

(Learning Objectives) To clear up misconception concerning language.

(Learning activities outside of classroom) Translations and compositions; reaction papers.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

社会言語学

廣田 友晴

授業コード：A2810 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは日々、意識的にも無意識的にも言葉を使い分けています。例えば、友人や家族、先生と話すときを想像してみてください。自然と話し方が変わっているのではないのでしょうか。こうした使い分けには、年齢・性別・地域・談話状況など、さまざまな社会的要因が影響しています。社会言語学は、言語と社会の深いつながりについて考え、探究する学問です。この授業では、言葉を通して社会を見つめ、社会を通じて言葉を見つめることで、身の回りの「ことばの世界」を批判的に捉え直す視点を養うことを目指します。

【到達目標】

この授業では、言語と社会の關係に着目し、さまざまな社会における言語の機能や、社会が言語に対して抱く態度・評価、さらには言語政策といったテーマを概観します。言語はコミュニケーションの中核を担い、私たちが「誰であるか」、他者に「どう見られるか」、そして社会的存在として「どう振る舞うか」に大きな影響を与えます。本講義では、以下の観点から社会と言語の關係を理解し、具体的な事例について説明・分析できるようになることを到達目標とします。
・ミクロ社会言語学の観点から、言語使用やバリエーション、言語変化と社会構造との關係を説明できる。
・マクロ社会言語学の観点から、言語に対する社会的態度や言語政策の事例を分析し、その背景を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、社会言語学の主要なトピックを幅広く取り上げ、ミクロからマクロへと段階的に視野を広げながら理解を深めていきます。授業はPPTを使った講義形式を基本とし、適宜ディスカッションやグループワークを行います。また、講義内容に基づき毎回、リアクションペーパーに気づいたことや考えたことなどを書き、提出していただきます。社会言語学的な現象は日常のあらゆる場面で観察できます。ぜひ「言語のアンテナ」を張り、自分や他者の言語使用を積極的に観察し、ちょっとした「フィールド・ワーク」のつもりで日常を眺めてみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の授業の進め方、教科書、履修条件について 社会言語学の背景・学問領域
第2回	言語と地域	「言語」と「方言」、地域変種
第3回	言語と社会階層	社会階層の差異と言語使用、標準変種と威信
第4回	言語と時間	実時間・見かけ上の時間、世代差
第5回	言語とジェンダー	ジェンダーの差異と言語使用
第6回	言語と文脈	状況に応じた言語使用
第7回	ポライトネス	ポライトネスという概念・理論
第8回	多言語社会	多言語主義、ダイグロシア、コード・スイッチング
第9回	言語接触	ビジンとクレオール
第10回	言語政策と計画	言語維持・喪失・移行・復興
第11回	言語と民族	民族と言語変種
第12回	教育と言語イデオロギー	教育と社会言語学的影響、言語とイデオロギー
第13回	春学期の振り返り	社会言語学的視点の再確認と今後への応用
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須ではありませんが、各回のテーマや内容について事前に自分なりに考えたり、関連事項を調べたりすることを推奨します。授業後は、講義で学んだ内容を自身の身近な言語環境に当てはめて考察するとともに、異なるトピック間の関連や接点を意識しながら、知識を相互に結びつけて理解を深めてください。本講義で扱う社会言語学の諸概念は相互に密接に関連しています。たとえば、話者の年齢、社会階層、ジェンダーは互いに影響し合う要因であり、またミクロ社会言語学とマクロ社会言語学は対立するものではなく、補完的な視点を提供します。

本授業における授業時間外の学習時間は、2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。

【参考書】

授業内外で適宜、参考書や補助資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーや授業参加による平常点：25%

自らの言語使用に関するリフレクションペーパー：15%

期末試験：60%

【学生の意見等からの気づき】

本科目の担当は今年度が初めてです。授業計画については、みなさんのバックグラウンドや理解度に応じて、柔軟に変更・対応したいと思っています。気づいた点などがあれば、授業内外でお気軽にお知らせください。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives) This course explores the relationship between language and society, focusing on the functions of language in different social contexts and the ways societies respond to language. Language plays a central role in communication, shaping who we are, how we are perceived, and how we function as social beings.

We will examine these issues from two perspectives: (1) how social structures influence the way people speak (e.g., gender, age, socioeconomic status), and (2) how societies deal with language (e.g., attitudes, language policy, bilingualism).

(Learning activities outside of classroom) Students are encouraged to reflect on the lecture content and relate sociolinguistic concepts to their own everyday language use. Students are expected to spend approximately two hours per class.

(Grading criteria/policy) Assessment is based on three components: participation (25%), linguistic self-reflection (15%), and a final examination (60%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。授業後にオンラインでいただいたコメント・質問には次の授業冒頭で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の内容説明
第2回	言語知識	子供と大人の言語知識
第3回	第一言語習得1	子供の言語習得
第4回	第一言語習得2	入力の問題点・生得性
第5回	第一言語習得3	臨界期仮説
第6回	第一言語習得4	第一言語習得の研究
第7回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第8回	第二言語習得1	第二言語習得における入力問題
第9回	第二言語習得2	L1とL2の相違点
第10回	第二言語習得3	言語差と難易度
第11回	SLA研究	実験方法の変遷
第12回	SLA理論1	パラメタと有標性
第13回	SLA理論2	パラメタの習得
第14回	SLA研究の教育への応用	理論と教育、第二言語教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDFファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

Lightbown, Patsy and Nina Spada 2011. How Languages Are Learned. Oxford University Press. [P. ライトバウン & N. スパダ『言語はどのように学ばれるか——外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』白井恭弘&岡田雅子（訳）2014. 岩波書店]
その他、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を100%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

半期の授業ではあるが、様々な研究を広く紹介するよう心がけた。受講生にとって気づきの多い授業だったなら幸いです。

【Outline (in English)】

Outline: This course deals with Applied Linguistics, focusing on the theory of Language Acquisition, especially second language acquisition. Through classes and participation in experiments, students will learn what kind of research has been conducted in the field of language acquisition.

Goal: The purpose of this course is to provide students with knowledge about language acquisition and to enable them to think logically about issues related to language acquisition.

Learning activities outside of classroom: The required amount of study time is a minimum of four hours for each meeting of the class.

Grading Criteria:

Final exam: 100%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

比較文学A

丸山 達也

授業コード：A2824 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：文学におけるマイノリティー社会的弱者はどのように描かれてきたか

本講義では、ヨーロッパの文学をはじめとする諸芸術が社会的弱者（移民／難民／女性／外国人／よそ者など）をどのようにに取り上げ、また描いてきたのかを、いくつかの時代や地域の文学・演劇・映画作品を通じて概観します。

【到達目標】

- ・作品をただ鑑賞するのではなく、歴史的・社会的・文化的コンテクストを踏まえて批判的に考察する力を養う。
- ・さまざまな時代・文化・ジャンルの作品の中で共通のテーマやモチーフがどのように扱われているかを比較検討することを通じて、多角的な視点と柔軟な思考力を養う。
- ・各文化圏における芸術や文化、歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を予定しています。それぞれ同時代で複数の作品を取り上げ、概要を紹介した後で、テーマに関わる主要部分を具体的に読んでいきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。毎回授業の終盤に時間を設けて、講義を通じて考えたことをリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 比較文学とは？
2	導入：社会的マイノリティ	マイノリティとは？ どのような人々が社会的に弱い立場に置かれるのか：身の回りの事例と歴史的事例から考える
3	異邦人：17世紀イギリス	シェイクスピア『オセロー』
4	異邦人：17世紀イギリス	シェイクスピア『ヴェニスの商人』
5	異邦人：17世紀イギリス	オセローとシャイロック
6	女性：18世紀ドイツ	レッシング『エミリア・ガロット』
7	女性：18世紀ドイツ	ヴァーグナー『嬰兒殺しの女』
8	女性：18世紀ドイツ	シラー『たくらみと恋』
9	女性：18世紀ドイツ	犠牲となる女性たち
10	移民：現代ドイツ	映画『不安は魂を喰い尽くす』
11	移民：現代ドイツ	映画『おじいちゃんの里帰り』
12	移民：現代ドイツ	ベルリーン・マクシム・ゴリキー 劇場とヒリエ『狂った血』
13	移民：現代ドイツ	「移民」と「移民の背景を持つ者」
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で取り上げる作品は、授業内では全てを扱うことはできないので、各自で通読・鑑賞しておいてください。（邦訳がないものは除く）
取り上げる作品の中には、映像化されているものや舞台上演されているものもあるので、機会があればぜひ鑑賞してみてください。
本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

- ・今橋映子／井上健監修『比較文学比較文化ハンドブック』東京大学出版会、2024年。
- ・亀井俊介編『現代の比較文学』講談社、1994年。
- ・中島健蔵編『比較文学講座 第1巻』清水弘文堂、1982年。

・芳賀徹他編『講座比較文学 第8巻 比較文学の理論』東京大学出版会、1976年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回のリアクションペーパー、授業への積極的な参加）：60%
- ・学期末試験（論述）：40%

なお、授業回数の3分の2以上の出席と期末試験を受けることが単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料の配布は原則的に学習支援システムを使用します。
- ・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要がある場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will analyse how minority groups are portrayed in literature and film.

At the end of this course, students are expected to think critically about representational issues concerning minorities in different cultural contexts.

Students will be expected to revise the content of each lecture. You will need to read the texts and watch the films independently outside of class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

比較文学B

丸山 達也

授業コード：A2825 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：文学作品とアダプテーション

翻案（アダプテーション）とは、ある作品（物語）を、形を作り替えて語り直す行為および作品を指します。この授業では、いくつかの文学作品と黒澤明によるそれらの翻案映画を比較します。比較を通じて、外国文学からの影響を読み取るだけでなく、原作がどのような時代・社会的文脈で書かれたのかを探っていきます。

【到達目標】

- ・作品をただ鑑賞するのではなく、歴史的・社会的・文化的コンテクストを踏まえて批判的に考察する力を養う。
- ・さまざまな時代・文化・ジャンルの作品の中で共通のテーマやモチーフがどのように扱われているかを比較検討することを通じて、多角的な視点と柔軟な思考力を養う。
- ・各文化圏における芸術や文化、歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を予定しています。それぞれ同時代で複数の作品を取り上げ、概要を紹介した後で、テーマに関わる主要部分を具体的に読んでいきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。毎回授業の終盤に時間を設けて、講義を通じて考えたことをリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 翻訳と翻案の違い
2	シェイクスピア『リア王』	シェイクスピアと『リア王』について
3	シェイクスピア『リア王』	黒澤明と『乱』について
4	シェイクスピア『リア王』	映像鑑賞
5	シェイクスピア『リア王』	『リア王』と『乱』比較検討
6	シェイクスピア『マクベス』	『マクベス』について
7	シェイクスピア『マクベス』	『マクベス』映像鑑賞
8	シェイクスピア『マクベス』	『蜘蛛巣城』について
9	シェイクスピア『マクベス』	『マクベス』と『蜘蛛巣城』比較検討
10	シラー『群盗』	シラーと『群盗』成立
11	シラー『群盗』	『群盗』さまざまなヴァージョン
12	シラー『群盗』	久保栄『吉野の盗賊』
13	シラー『群盗』	黒澤明『戦国群盗伝』
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で取り上げる作品については、自分でも目を通しておいってください。映画についても、授業内だけでなく、繰り返し観ることで理解も深まるので、ぜひ各自でも鑑賞してみてください。また、舞台上演等がある場合にはアナウンスするので、鑑賞してみることを推奨します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

- ・今橋映子／井上健監修『比較文学比較文化ハンドブック』東京大学出版会、2024年。
- ・亀井俊介編『現代の比較文学』講談社、1994年。
- ・中島健蔵編『比較文学講座 第1巻』清水弘文堂、1982年。

・芳賀徹他編『講座比較文学 第8巻 比較文学の理論』東京大学出版会、1976年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回のリアクションペーパー、授業への積極的な参加）：60%
- ・学期末試験（論述）：40%

なお、授業回数の3分の2以上の出席と期末試験を受けることが単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料の配布は原則的に学習支援システムを使用します。
- ・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要がある場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

'Adaptation' refers to the process of reshaping and retelling a story, as well as to the resulting work. In this course, we will compare several literary works with their film adaptations by Akira Kurosawa.

At the end of this course, students are expected to think critically about contextual and interpretive issues in different cultural contexts.

Students will be expected to read through the literary works covered in class independently beforehand. You will be need to review the content of each lecture. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LIT200BD（文学 / Literature 200）		
米文学史 A		
小島 尚人		
授業コード：A2905 曜日・時限：火3/Tue.3 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 テーマ： 〈アメリカとは何か〉を知るための米文学史 概要と目的： 自由と機会の国アメリカ、多様性の国アメリカ、人種差別の国アメリカ、好戦の国アメリカ……さまざまな顔をもつアメリカという国についての多面的で掘り下げた理解を得るには、その地で育まれてきた文学と文化について学ぶことがとても有用である。この授業では、アメリカ文学とはどんな文学なのかを概観する。そのことを通じてアメリカについての知見を深め、ひいては自分自身と世界の関係についてもよりよく知るためのきっかけを得ることを目的とする。それにくわえて、今まで触れたことのなかったさまざまな文学作品のおもしろさを感じてできるようになることも目指す。 春学期は、大航海時代のさなかにヨーロッパから植民者たちがやって来た頃から、ニューヨークやシカゴを中心に現代的な大都市中心の社会が形成されていった19世紀末までの時代を扱う。		
【到達目標】 ・アメリカという国とそこで生まれた文学の主な特徴について理解している。 ・米文学の主要な名作について、歴史的文脈に位置づけながら語ることができる。 ・辞書や和訳を参照しながらも、米文学作品の抜粋を原文で読める英語力を身につけている。 ・好きな作家や作品を見つけ、そこから将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 講義形式を基本とするが、受講者からの発信の機会も多く設ける。そこで出た考察・感想・意見・質問をできるかぎり紹介してコメントし、授業内容に積極的に組み込むことで、双方向的なコミュニケーションをおこないながら進める。また、映画・アニメ・音楽・マンガなどの資料も適宜用いる。そのような方法と題材の工夫を通じて、代表的な文学作品の紹介・読解を中心に据えながらも、文学以外の分野を専攻する学生にも幅広く興味をもってもらえるような授業にできればと考えている。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入講義	米文学史を学ぶ意義とは 米国とその文学の基本的特質
第2回	植民地時代①	2つの建国神話 ビルグリム・ファーザーズとポカホンタス
第3回	植民地時代②	ピューリタニズムから啓蒙思想へ EdwardsとFranklin
第4回	独立期から19世紀前半①	「情」と文学——感傷小説とゴシック小説 FosterとBrown
第5回	独立期から19世紀前半②	ロマン主義とフロンティア精神 IrvingとCooper
第6回	19世紀半ば①	超絶主義と自己信頼、自然と人間 EmersonとThoreau
第7回	19世紀半ば②	ゴシックの多様性、芸術至上主義と象徴主義 Poe
第8回	19世紀半ば③	「アメリカ小説」をさがして——ノヴェルとロマンス Hawthorne
第9回	19世紀半ば④	近代批判と自己懷疑 Melville
第10回	19世紀半ば⑤	アメリカ詩の隆盛——自己、アメリカ、世界 WhitmanとDickinson
第11回	南北戦争とアメリカ文学	黒人奴隷制と文学 Stowe, <i>Uncle Tom's Cabin</i> の達成
第12回	19世紀後半①	少年少女の成長物語と自由の探究 AlcottとTwain
第13回	19世紀後半②	アメリカ対ヨーロッパ、小説の革新とリアリズム JamesとHowells
第14回	世紀転換期	リアリズムから自然主義へ ChesnuttとCrane
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ・授業資料をあらためて読んでいろいろ考えたり、友人と話し合ったりする。（1時間） ・授業で学んだ作家の作品や、教員が紹介する関連映画・参考文献などを積極的にさがして触れ、自分の興味の幅を広げる。（3時間）		
【テキスト（教科書）】 なし（必要に応じてプリントを配布する）		
【参考書】 【主要参考書】 諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門 [新版]』（三修社、2023年） 【アメリカ文学・文化についてさらに深く学びたい人のための参考書】 平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010年） 亀井俊介『アメリカ文学史講義』全3巻（南雲堂、1997-2000年） 渡辺利雄『講義 アメリカ文学史』全4巻（研究社、2007-2010年） 竹内理矢・山本洋平（編）『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021年） 杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門 [新版]』（三修社、2023年） 巽孝之・宇沢美子（編）『よくわかるアメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2020年）		
【成績評価の方法と基準】 平常点20％： 毎回の提出課題（ワークシートまたはアクションペーパー） ブックレポート30％： 学期に2回、作品を読んでレポートを提出 学期末定期試験50％： 講義内容およびブックレポートで読んだ作品に関する論述問題		
【学生の意見等からの気づき】 他の担当科目と同様に、受講者からの発信の機会をできるだけ多く作り、それに対するフィードバックを丁寧におこなっていきたいと思っています。		
【学生が準備すべき機器他】 必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。		
【Outline (in English)】 [Outline and objectives] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is America" through literary texts. [Learning activities outside of classroom:] After each class meeting, students are expected to spend 4 hours respectively to understand the course content. [Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: 1) Participation and discussion (worksheets and reaction papers) (20%) 2) 2 papers ("book reports" on reading American literary work) (40%) 3) End-of-term examination (40%)		

LIT200BD（文学 / Literature 200）

米文学史 B

小島 尚人

授業コード：A2906 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：

〈アメリカとは何か〉を知るための米文学史

概要と目的：

自由と機会の国アメリカ、多様性の国アメリカ、人種差別の国アメリカ、好戦の国アメリカ……さまざまな顔をもつアメリカという国についての多面的で掘り下げた理解を得るには、その地で育まれてきた文学と文化について学ぶことがとても有用である。この授業では、アメリカ文学とはどんな文学なのかを概観する。そのことを通じてアメリカについての知見を深め、ひいては自分自身と世界の関係についてもよりよく知るためのきっかけを得ることを目的とする。それにくわえて、今まで触れたことのなかったさまざまな文学作品のおもしろさを感じてできるようになることも目指す。

秋学期は、現代的な大都市中心の社会が形成された19世紀末から、「アメリカ」「文学」の境界線が大きく揺らいでいる21世紀の現代までを扱う。

【到達目標】

- ・アメリカという国とそこで生まれた文学の主な特徴について理解している。
- ・米文学の主要な名作について、歴史的文脈に位置づけながら語ることができる。
- ・辞書や和訳を参照しながらも、米文学作品の抜粋を原文で読める英語力を身につけている。
- ・好きな作家や作品を見つけ、そこから将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者からの発信の機会も多く設ける。そこで出た考察・感想・意見・質問をできるかぎり紹介してコメントし、授業内容に積極的に組み込むことで、双方向的なコミュニケーションをおこないながら進める。また、映画・アニメ・音楽・マンガなどの資料も適宜用いる。そのような方法と題材の工夫を通じて、代表的な文学作品の紹介・読解を中心に据えながらも、文学以外の分野を専攻する学生にも幅広く興味をもってもらえるような授業にできればと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入講義	春学期の振り返りと今学期の概略
第2回	世紀転換期	自然主義文学と新しい女性 Norris, Dreiser, Wharton, Chopin など アメリカ現代詩の形成 Eliot, Pound, Stein など
第3回	20世紀前半①	ロスト・ジェネレーションとモダニズム Hemingway, Fitzgerald, Faulkner など
第4回	20世紀前半②	世界恐慌期の文学、ハードボイルド／ノワール小説 Steinbeck, Hammett, Chandler など
第5回	20世紀前半③	南部文学の隆盛 McCullers, Welty, O'Connor など
第6回	20世紀半ば①	戦後アメリカ社会と自己の探究 Salinger, Capote, Kerouac, Jackson など
第7回	20世紀半ば②	O'Neill, Hellman, Williams など
第8回	アメリカ演劇通史	大衆演芸、ミュージカルの歴史
第9回	20世紀後半～21世紀①	黒人文学の発展——ハーレム・ルネサンスからBLMまで Larsen, Wright, Baldwin, Morrison など
第10回	20世紀後半～21世紀②	ポストモダン小説の実験——メタフィクション・自己・歴史 Barth, Barthelme, Pynchon, Auster など

第11回	20世紀後半～21世紀③	SFと現代アメリカ文学 Vonnegut, Dick, Le Guin など
第12回	20世紀後半～21世紀④	探偵小説の多様化 Macdonald, Paretsky, Mosley など
第13回	20世紀後半～21世紀⑤	アジア系文学の展開 Kingston, Lee, Cao, Yamashita, Lahiri など
第14回	20世紀後半～21世紀⑥	マンガと小説、グラフィック・ノベル Spiegelman, Clowes, Bechdel など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業資料をあらためて読んでいろいろ考えたり、友人と話し合ったりする。（1時間）
- ・授業で学んだ作家の作品や、教員が紹介する関連映画・参考文献などを積極的にさがして触れ、自分の興味の幅を広げる。（3時間）

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じてプリントを配布する）

【参考書】

【主要参考書】

- 諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門 [新版]』（三修社、2023年）
- 【アメリカ文学・文化についてさらに深く学びたい人のための参考書】
- 平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010年）
- 亀井俊介『アメリカ文学史講義』全3巻（南雲堂、1997-2000年）
- 渡辺利雄『講義 アメリカ文学史』全4巻（研究社、2007-2010年）
- 竹内理矢・山本洋平（編）『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021年）
- 杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門 [新版]』（三修社、2023年）
- 巽孝之・宇沢美子（編）『よくわかるアメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2020年）

【成績評価の方法と基準】

- 平常点20％：
毎回の提出課題（ワークシートまたはアクションペーパー）
- ブックレポート30％：
学期に2回、作品を読んでレポートを提出
- 学期末定期試験50％：
講義内容およびブックレポートで読んだ作品に関する論述問題

【学生の意見等からの気づき】

他の担当科目と同様に、受講者からの発信の機会をできるだけ多く作り、それに対するフィードバックを丁寧におこなっていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is America" through literary texts.

[Learning activities outside of classroom:] After each class meeting, students are expected to spend 4 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (worksheets and reaction papers) (20%)
- 2) 2 papers ("book reports" on reading American literary work) (40%)
- 3) End-of-term examination (40%)

LIT200BD (文学 / Literature 200)

英米文学講義 I A

波戸岡 景太

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしうるかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。また、授業内で実施するアンケートについては、その都度、教員から総合的なフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代文学とカルチャー
第2回	第二次世界大戦の記憶	ホロコースト以後の文学
第3回	体制とカルチャー	1950年代の若者たち
第4回	超大国の挫折	1960-70年代のアメリカ
第5回	スター・ウォーズの時代	「帝国」への抵抗
第6回	経済成長の限界	ノスタルジア・ブーム
第7回	「るつぼ」の先へ	移民とフェミニズム
第8回	ファンタジーランド	陰謀論の台頭
第9回	暴力の表象	ダークな想像力
第10回	新しいファシズム	ナチス表象の再来
第11回	表象と倫理	ソントグの批評を読む
第12回	虚実混交の80年代	フィリップ・K・ディックの未来予想図
第13回	アメリカン・ナラティブ	1950年代から1980年代まで
第14回	まとめ／期末試験	ポストモダン文学の可能性／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】

授業内でプリントを配付します。

【参考書】

丸山俊一他『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）
Pynchon, Thomas. *Gravity's Rainbow*. Viking, 1973.
-. *Slow Learner*. Brown, Little, 1984.
Sontag, Susan. *Against Interpretation*. Picador, 2001.
-. *Under the Sign of Saturn: Essays*. Farrar Straus & Giroux, 1980.
-. *Illness as Metaphor and Aids and Its Metaphors*. Picador, 2001.
Vonnegut, Kurt. *Slaughterhouse-Five*. Delacorte, 1969.

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（70％）、最終回に実施する期末試験（30％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学・文化と政治の関わりがいかに深いかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったため、より具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 70%.
2. Final exam: 30%.

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義ⅠB

波戸岡 景太

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしているかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。また、授業内で実施するアンケートについては、その都度、教員から総合的なフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	嘘とフィクションの違い
第2回	文学における「若さ」	ビート世代からZ世代まで
第3回	1980年代のマイノリティ	文化の盗用について
第4回	ニュー・ロストジェネレーション	ハイパー資本主義
第5回	ポスト冷戦	新しいヒーロー像
第6回	ジェネレーションX	クープランド作品を読む
第7回	マトリックスの時代	情報化社会の文芸
第8回	大きな物語の終焉	ホワイト・ノイズとパルプ・フィクション
第9回	9・11と文学	フォアとピンチョン
第10回	デタッチメントとコミットメント	ティム・オブライエンと村上春樹
第11回	スローモーションの美学	デリーロの新たな試み
第12回	非暴力の力	ソローからバトラーへ
第13回	世代で考えるアメリカ文学	1980年代から2020年代までを振り返る
第14回	まとめ／期末試験	世界的課題と文学の役割について／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】

授業内でプリントを配付します。

【参考書】

丸山俊一他『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）
 Butler, Judith. *The Force of Nonviolence: An Ethico-Political Bind*. Verso Books, 2020.
 Davis, Lydia. *Almost No Memory*. Picador, 2001.
 DeLillo, Don. *White Noise*. Viking, 1985.
 ー. *Point Omega*. Scribner, 2010.
 Foer, Jonathan Safran. *Extremely Loud and Incredibly Close*. Penguin, 2006.
 Haraway, Donna. *Simians, Cyborgs and Women: the Reinvention of Nature*. Routledge, 1991.
 ー. *Companion Species Manifesto: Dogs, People, and Significant Otherness*. Prickly Paradigm, 2003.
 Kakutani, Michiko. *The Death of Truth: Notes on Falsehood in the Age of Trump*. William Collins, 2018.

Pynchon, Thomas. *Vineland*. Little, Brown, 1990.ー. *Bleeding Edge*. Penguin, 2013.

その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（70％）、最終回に実施する期末試験（30％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学・文化と政治の関わりがいかに深いかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったため、今年度はより具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 70%.
2. Final exam: 30%.

LIT200BD（文学 / Literature 200）		
英米文学講義Ⅱ A		
迫 桂		
授業コード：A2909 曜日・時限：水4/Wed.4 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：1～4年		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 戦後・現代女性英語作家による小説や短編、さらに、映画作品を、フェミニズムの視点から読みます。主な地理的文化的対象はイギリスです。社会文化的背景を考慮しながら作品を読み、現代フェミニズム思想や批評に重要な事柄—ジェンダー、セクシャリティー、家庭、自立、選択、身体、階級等—がいかに描かれ、探究されているかを考えます。 イギリスの文脈を主な対象とするものの、学生は、その他の社会や文学について考える際に有意義な知見を得ることが期待されています。		
【到達目標】 1. テキストの細部に注意を払い、分析的に読むことができる。特に、話しの内容だけでなく、テキストの形式、ジャンル、歴史文化的文脈を踏まえて、解釈ができる。 2. テキストについての自分の解釈を精査し、確立できる。 3. 自分の意見やテキスト解釈を正確に、他者に分かりやすく記述できる。 4. 他者の意見や解釈を理解し、評価し、それに応答できる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】 講義、学生によるプレゼンテーション、ディスカッション（クラスまたはグループ単位）、グループワークを組み合わせます。 講義では、文学分野でのフェミニズムの思想や議論を紹介し、ディスカッションでは、各学生が、自らの意見やテキスト読解を交換・共有します。 グループワークでは、テキスト分析と解釈、テキストについての議論構築を共同で行い、それを発表してもらう予定です。 各学生は、ディスカッションの前に作品を読む・視聴しておくことが必要になります。（詳細は下記【授業時間外の学習】を参照）。 フィードバックは授業内または学習支援システムを用いて行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	序：フェミニズムと文学	現代フェミニズムの思想・関心事の代表的なものを紹介する。それらと文学(批評)との関連を学ぶ。
第2回	フェミニズムの読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。
第3回	フェミニズムの読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。2週目の作品と比較することで、個々の文学作品独自の意味生産の仕組みに対する意識を高める。
第4回	女性の選択、労働と空間 作品：Margaret Drabble, <i>The Millstone</i> (1965)	第二波フェミニズムの関心事や課題を学ぶ。作品紹介。
第5回	女性の選択、労働と空間 作品：Margaret Drabble, <i>The Millstone</i> (1965)	作品についてディスカッションを行う。
第6回	女性の自立と教育 作品（映）：An Education (2009)	講義と作品についてのディスカッション。特に、女性と教育について考える。
第7回	女性の自由、セクシャリティー、階級、教養小説というジャンル 作品：Jeanette Winterson, <i>Oranges Are Not the Only Fruit</i> (1985)	セクシャリティーと階級、アイデンティティーの関係について考える。作品の形式面を考える上で重要なこととして、教養小説のジャンルについて学ぶ。
第8回	女性の自由、セクシャリティー、階級、教養小説というジャンル 作品：Jeanette Winterson, <i>Oranges Are Not the Only Fruit</i> (1985)	作品についてディスカッションを行う。
第9回	女性のライフコースとエイジング 作品：Anita Brookner, <i>Hotel du Lac</i> (1984)	エイジングという観点から、女性のライフコースについて考える。
第10回	女性のライフコースとエイジング 作品：Anita Brookner, <i>Hotel du Lac</i> (1984)	作品についてディスカッションを行う。
第11回	ポストフェミニズム：女性の"choice"と"empowerment" 作品（映）：Pride & Prejudice (2005)	ポストフェミニズムとその歴史文化的文脈について学ぶ。
第12回	ポストフェミニズム：女性の"choice"と"empowerment" 作品（映）：Bridget Jones's Diary (2001)	作品についてディスカッションを行う。
第13回	復習と授業内期末試験	学期中の学習内容を復習。授業内期末試験を行う。
第14回	まとめとフィードバック	授業内期末試験に対するフィードバックを行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ディスカッション前の標準的な準備内容は下記です。 （目安：作品を読む・視聴する時間＋1-2時間） 1. 授業で扱う作品を事前に読む、視聴する。小説作品は日本語の翻訳があるので、翻訳を読んでも構いません。映画作品は、日本語字幕付きで視聴しても構いません。但し、授業内で参照するのは英語版です。短編は翻訳がないものを扱う場合があります。 2. 事前にワークシートを配布します。ワークシートにはいくつかの問いが提示されています。これらの問いは、作品を読む際の着眼点を提示し、ディスカッションの方向性のある程度整えるために準備されたものです。これらの問いを念頭に、作品を読み、視聴してください。 3. 作品読解に必要と思われる歴史文化背景・事象があれば、調べる。 4. ワークシートの問いに対する自分の見解を書いておく。その他に気づいたこと、疑問に思うことなどもメモをし、授業内でのディスカッションに備える。 【テキスト（教科書）】 指定教科書はありませんが、授業で扱う小説作品（下記）については、紙媒体の英語版を購入してください。 Margaret Drabble, <i>The Millstone</i> Jeanette Winterson, <i>Oranges Are Not the Only Fruit</i> Anita Brookner, <i>Hotel du Lac</i> 【参考書】 参考文献・資料は授業内で紹介します。 【成績評価の方法と基準】 評価方法 平常点： ①プレゼンテーション（3分程度）：15％ ②レスポンスペーパー（A4半分～1枚）二回：15％ ③ワークシート、ディスカッションへの参加度：20％ 授業準備ができていないか、ワークシートの問いに対して自分なりの考えをもって答えられているか、ディスカッション・グループワークを通じて積極的に参加しているか、自分の見解を正確に、分かりやすく他の人に説明できているか。 ④授業内期末試験：50％ 作品を読み（視聴し）、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される論述中心のテスト 【学生の意見等からの気づき】 本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。 【学生が準備すべき機器他】 資料配布・課題提出等のために学習支援システム使用予定。 【その他の重要事項】 本科目は、文学作品を読むことが好きな方、作品について他者と意見交換をすることが好きな方に向いています。 【Outline (in English)】 This course will consider some examples of post-war/contemporary women's writing and films in English and explore issues that relate to feminism. Reading the selected texts in close relation to social and cultural contexts, we will explore issues such as gender, sexuality, the body, class, ageing and care. Although this course mainly focuses on the British context, it is hoped that students will gain insights that will be relevant to some other societies and literatures. Students will typically spend 1-2 hours (excluding the time needed to read/watch an assigned text) to prepare for each class meeting.		

- Before class discussion on the chosen text, students will be expected to have read/watched the text, completed a worksheet that will be provided by the instructor and researched on contexts that are relevant to the text.

Final grades will be decided on the following:

Presentations (15%); 2 Response Papers (15%); In-class participation & contribution (20%) and in-class term-end examination (50%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）		
英米文学講義 II B		
迫 桂		
授業コード：A2910 曜日・時限：水4/Wed.4 秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：1～4年		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 戦後・現代英語女性作家による小説や短編さらに、映画作品を、フェミニズムの視点から読みます。主な地理的文化的対象はイギリスです。社会文化的背景を考慮しながら作品を読み、現代フェミニズム思想や批評に重要な事柄—ジェンダー、人種、身体、階級、エイジング、生殖等—がいかに描かれ、探究されているかを考えます。また、語りの形式やジャンル（推理小説やSFなど）の役割についても考えます。 イギリスの文脈を主な対象とするものの、学生は、その他の社会や文学について考える際に有意義な知見を得ることが期待されています。		
【到達目標】 1. テクストの細部に注意を払い、分析的に読むことができる。特に、話しの内容だけでなく、テクストの形式、ジャンル、歴史文化的文脈を踏まえて、解釈ができる。 2. テクストについての自分の解釈を精査し、確立できる。 3. 自分の意見やテクスト解釈を正確に、他者に分かりやすく記述できる。 4. 他者の意見や解釈を理解し、評価し、それに応答できる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】 講義、ディスカッション（クラスまたはグループ単位）、グループワークを組み合わせます。 講義では、文学分野でのフェミニズムの思想や議論を紹介します。ディスカッションでは、各学生が、自らの意見やテクスト読解を交換・共有します。グループワークでは、テクスト分析と解釈、テクストについての議論構築を共同で行い、それを発表してもらう予定です。 各学生は、ディスカッションの前に作品を読む・視聴しておくことが必要になります。（詳細は下記【授業時間外の学習】を参照）。 フィードバックは授業内または学習支援システムを用いて行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	序：フェミニズムと文学	現代フェミニズムの思想・関心事の代表的なものを紹介する。それらと文学(批評)との関連を学ぶ。
第2回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。
第3回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。2週目の作品と比較することで、個々の文学作品独自の意味生産の仕組みに対する意識を高める。
第4回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	Contemporary women's writingにおける帝国の遺産、人種とアイデンティティーについての探究の試みを学ぶ。現代文学出版における人種、ジェンダー、市場の原理についても考える。
第5回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	作品の一部を視聴し、ディスカッションを行う。
第6回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	作品の一部を視聴し、ディスカッションを行う。
第7回	ジェンダー、人種 作品：Jackie Kay, <i>Trumpet</i> (1998)	ジェンダーと人種がアイデンティティーをどう形成するかを考える。イギリス帝国の歴史の現代的意義についても考える。
第8回	ジェンダー、人種 作品：Jackie Kay, <i>Trumpet</i> (1998)	作品を詳細に読み、ディスカッションを行う。
第9回	ジャンルとフェミニズム：SF 作品: Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> (1985)	SFやファンタジーのジャンルがフェミニズムの思想・議論の発展や表現に果たしている可能性について考える。
第10回	ジャンルとフェミニズム：SF 作品: Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> (1985)	作品についてディスカッションを行う。
第11回	ジャンルとフェミニズム：推理小説 作品（映）：Elizabeth Is Missing (2019)	エイジング、病い、ケアのテーマに推理小説というジャンルが果たしている役割について考える。
第12回	ジャンルとフェミニズム：推理小説 作品（映）：Elizabeth Is Missing (2019)	作品についてディスカッションを行う。
第13回	復習と授業内期末試験	学期中の学習内容を復習。授業内期末試験を行う。
第14回	まとめとフィードバック	授業内期末試験に対するフィードバックを行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ディスカッション前の標準的な準備内容は下記です。 （目安：作品を読む・視聴する時間＋1-2時間） 1. 授業で扱う作品を事前に読む、視聴する。小説作品は日本語翻訳を読んでも構いません。映画作品は英語字幕付きで視聴可能です。但し、授業内で参照するのは英語版です。短編は翻訳がないものを扱う場合があります。 2. 事前にワークシートを配布します。ワークシートにはいくつかの問いが提示されています。これらの問いは、作品を読む際の着眼点を提示し、ディスカッションの方向性のある程度整えるために準備されたものです。これらの問いを念頭に、作品を読み、視聴してください。 3. 作品読解に必要と思われる歴史文化背景・事象があれば、調べる。 4. ワークシートの問いに対する自分の見解を書く。その他に気づいたこと、疑問に思うことなどもメモをし、授業内でのディスカッションに備える。		
【テキスト（教科書）】 指定教科書はありませんが、授業で扱う小説作品（下記）については、紙媒体の英語版を購入してください。 Jackie Kay, <i>Trumpet</i> Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i>		
【参考書】 参考文献・資料は授業内で紹介します。		
【成績評価の方法と基準】 平常点： ①プレゼンテーション（3分程度）：15％ ②レスポンスペーパー（A4半分～1枚）二回：15％ ③ワークシート、ディスカッションへの参加度：20％ 授業準備ができていないか、ワークシートの問いに対して自分なりの考えをもって答えられているか、ディスカッション・グループワークを通じて積極的に参加しているか、自分の見解を正確に、分かりやすく他の人に説明できているか。 ④授業内期末試験：50％ 作品を読み（視聴し）、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される論述中心のテスト		
【学生の意見等からの気づき】 本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。		
【学生が準備すべき機器他】 資料配布・課題提出等のために学習支援システム使用予定。		
【その他の重要事項】 本科目は、文学作品を読むことが好きな方、作品について他者と意見交換をすることが好きな方に向いています。		
【Outline (in English)】 This course will consider some examples of post-war/contemporary women's writing and films in English and explore issues that relate to feminism. Reading the selected texts in close relation to social and cultural contexts, we will explore issues such as gender, sexuality, the body, class, ageing and care. Although this course mainly focuses on the British context, it is hoped that students will gain insights that will be relevant to some other societies and literatures. Students will typically spend 1-2 hours (excluding the time needed to read/watch an assigned text) to prepare for each class meeting. - Before class discussion on the chosen text, students will be expected to have read/watched the text, completed a worksheet that will be provided by the instructor and researched on contexts that are relevant to the text. Final grades will be decided on the following: Presentations (15%); 2 Response Papers (15%); In-class participation & contribution (20%) and in-class term-end examination (50%).		

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。また、英語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第2回	英文法の問題	実際に英語の問題を解いてみよう
第3回	品詞	英語の品詞について
第4回	英語の文型	5文型の分析
第5回	自動詞と他動詞	他動性について
第6回	意味役割	意味役割とは何か
第7回	テンス（1）	現在時制
第8回	テンス（2）	過去時制と未来表現
第9回	アスペクト（1）	進行相
第10回	アスペクト（2）	完了相
第11回	モダリティ（1）	法助動詞
第12回	モダリティ（2）	準助動詞
第13回	態	受動態
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、参考書などをもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。

期末試験60%、平常点40%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。

4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語学講義 B

北澤 茉奈

授業コード：A2912 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、異文化コミュニケーションの場面を念頭に置き、英語のさまざまな実例を取り上げながら、必要に応じて日本語とも対照しつつ、言語を通して人の認知や人を取り巻く社会のあり方について考察する。あわせて、ことばの選択やコミュニケーションの取り方の背後にどのような要因が関わっているのかを分析するための基本的な考え方を学ぶ。英語学、とりわけ認知言語学・社会言語学・語用論などの開放系言語学の視点を基盤として、ことばと人、ことばと社会との関係を多角的に理解し、異文化間の相互理解や円滑なコミュニケーションを考えるための基礎的な視点と知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】

認知言語学・社会言語学・語用論などの開放系言語学の基本的な考え方を理解し、英語を中心とした言語使用と人の認知や社会との関わりについて説明できるようになる。また、異文化コミュニケーションや日常的な言語使用の具体例について、自身の関心に基づいて分析の観点や手法を選び、簡単な分析を行うことができるようになる。さらに、ことばの選択やコミュニケーションの取り方が意味や人間関係に与える影響を意識し、状況や相手に応じた表現やコミュニケーションの選択肢を考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、教科書の内容を基礎としつつ、それを発展させた内容について、パワーポイントを用いた講義形式で進める。あわせて、学生には事前に教科書内容の簡単な整理や、実例に関する気づきをまとめてもらい、授業内で一部の学生に紹介してもらうことがある。また、授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーの内容をいくつか取り上げ、全体に向けたフィードバックを行う。リアクションペーパーや課題における優れた視点やコメントは授業内で共有し、理解の深化や議論の発展につなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的・内容、評価方法の説明 ／「英語学」とは何か
第2回	英語学の視点	英語学の歴史と対照研究の考え方
第3回	カテゴリー化	古典的カテゴリー理論とプロトタイプ理論
第4回	事態把握	出来事の捉え方とそれを反映する言語表現
第5回	メタファー	概念メタファー、メトニミー、シネクドキ
第6回	文法化	語や表現が文法的要素へ変化するプロセス
第7回	構文	形式と意味の対応関係
第8回	メンタルコーパス	用法基盤モデルと言語知識
第9回	イメージ・スキーマ	イメージ・スキーマと意味拡張
第10回	言語のバリエーション	World Englishes と英語の多様性
第11回	コードスイッチング	言語選択とアイデンティティ
第12回	ポライトネス	協調の原理と対人関係における言語使用
第13回	言語とコミュニケーション	文化の次元とコミュニケーション・スタイル
第14回	期末試験	試験・全体のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に先立ち、教科書の該当箇所に目を通し、内容の概要を把握しておく。また、授業で扱うテーマに関連する身近な言語使用の実例を探し、簡単に整理・まとめる。授業後は、講義内容や配布資料、授業内での議論を振り返り、理解を深めるとともに、リアクションペーパーや課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『実例で学ぶ英語学入門 ―異文化コミュニケーションのための日英対照研究―』

多々良 直弘・松井 真人・八木橋 宏勇(著)

朝倉書店

【参考書】

小池 生夫 編『応用言語学辞典』研究社

辻 幸夫 編『新編 認知言語学キーワード事典』研究社

井上 逸兵 著『英語の思考法 ―話すための文法・文化レッスン』ちくま新書

鈴木 孝夫 著『日本語と外国語』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験40%、授業内課題 30%、平常点（参加度、リアクションペーパー等）30%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を参考にしながら、可能な範囲で皆さんの意見や希望を授業に反映していきたいと考えています。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic concepts and approaches in English linguistics, focusing on language itself and how it reflects human cognition, social relationships, and communication. Through examples mainly from English, and occasional comparison with Japanese, students examine how meaning is shaped not only by language use as a tool, but also by the ways people understand, interpret, and categorize the world through language, especially in intercultural contexts.

The aim of this course is to help students develop a basic understanding of how language relates to human thought and society, drawing on perspectives from cognitive linguistics, sociolinguistics, and pragmatics. Students are expected to read assigned materials before class, review lecture content after class, and complete short reaction papers or assignments. The standard amount of preparation and review time is approximately two hours per class.

Final grades will be evaluated based on the following criteria: final examination (40%), in-class assignments (30%), and class participation including reaction papers (30%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義 I A

石川 潔

授業コード：A2913 | 曜日・時限：月3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（英語学習者または英語教師になる人のための）音声知覚、単語の聞き取りや文理解に関する心理言語学の入門

【到達目標】

（英語学習／教育にも役立つはずの）人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得

言語研究にも役立つけど、社会人一般にも役立つ、データ分析の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、実習（やグループ・ディスカッション？）を行う回もあります。

リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です（フィードバック方法は内容／文量によります）。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業全体の説明
第2回	<i>Olympic</i> を片仮名表記するとしたら、「オリンピック」と「オリムピック」の、どっちにすべき？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その1）
第3回	<i>rice</i> と <i>rise</i> 、語尾に母音を入れないで発音できる？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その2）
第4回	「しおり」は可愛い……のかな？ 比較対象は？	実験と統計分析の必要性：統制条件、仮説と予測
第5回	強形と弱形	syllable の概念が必要な理由、英語の stress の物理的実体
第6回	英語のリズム	知識を得た上で、聞き取り実習
第7回	英語のLとR、聞き分けられる？	フォルマント（遷移）の概念
第8回	英語その他での「有声・無声」の違い	VOT の概念
第9回	音響情報のままには聞き取れない場合	語彙効果など
第10回	「発音できたら聞き取れるようになる」って本当？	Motor Theory が解決してくれる／くれないこと
第11回	その単語、どういう意味？（その1）	意味ブライミング（その1）：単語検索
第12回	その単語、どういう意味？（その2）	意味ブライミング（その2）：ambiguity resolution
第13回	単語が聞き取れない!!	単語認識の諸モデル
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。

また、英語で歌う機会も設けてください（理由は、授業を受ければわかる……はず）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

1.（特に）専門用語で苦労するケースがあるようなので、そちらへの対策を特に考えたいと思います。

2.「授業で出てくる音声ファイルを pdf ファイルに埋め込んでほしい」という声がありましたが、以下、A～Cに分けてお答えすると……

A：ネットにあるものについてはリンクを貼ってあります。

B：自前のものについては、最近、手元のソフトで埋め込みがうまくいっていないのです。ちょっと検討します。

C：ネットにもなくて、自前でもないものは、著作権問題があり、学習支援システムで配布するのは難しいのです……（教室で聴かせるのは問題ないけど、学習支援システムでの配布はなぜか「公衆送信」扱いとなる）。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistic studies of speech perception, auditory word recognition and sentence processing (for English learners as well as prospective teachers of English).

(Learning Objectives) To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing on the other.

(Learning activities outside of classroom) Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English! (Why sing? Well, join the class to find out!)

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD (言語学 / Linguistics 200)

言語学講義 I B

石川 潔

授業コード：A2914 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を「文法」の面から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主として講義の予定です。
リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。
学生の理解度や要望などに応じて、計画は柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文法に関する日英比較の導入1：英語の「助動詞」って何なのか、改めて考える	統語論的な規則性と意味的な「直感」とのズレ
第2回	文法に関する日英比較の導入2：英語の「主語」、日本語の「主語」	「主語」は、「行為をする人」という意味では、ないです。
第3回	英語の時制とアスペクト1	述語の2分類
第4回	英語の時制とアスペクト2	英語の進行形の基本
第5回	英語の時制とアスペクト3	英語に「未来形」ってあるのか？
第6回	英語の時制とアスペクト4	英語の完了形の基本
第7回	英語の時制とアスペクト5	英語の完了形の応用
第8回	日本語の時制とアスペクト1	日本語に「現在形・過去形」はない？
第9回	日本語の時制とアスペクト2	telicity
第10回	日本語の時制とアスペクト3	主観 対 客観
第11回	日本語の時制とアスペクト4	絶対テンス 対 相対テンス
第12回	日本語の時制とアスペクト5	テイルの意味（基本編）
第13回	日本語の時制とアスペクト6	(un)accusative vs. (un)ergative
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日英語の文法比較のうち授業でカバーできるのは、ごく一部ですが、授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、見つけてください（きっと見つかるはず）。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加点となります）。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは回答率が低くてあまり情報量がないのですが、理解度向上のため、コロナ禍の頃の「読むテキスト」の（部分的な）復活も検討します。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese "grammars." (Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills. (Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom. (Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。春学期はとくに形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学を概観します。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	形態論(1)	形態素の種類
第3回	形態論(2)	派生と語の内部構造
第4回	形態論(3)	造語
第5回	統語論(1)	文の構成素分析
第6回	統語論(2)	句構造規則で文を作る
第7回	統語論(3)	変形規則で文を変える
第8回	意味論(1)	語、句、文の意味
第9回	意味論(2)	直喩、隠喩、換喩
第10回	語用論(1)	協調の原理と会話の公理
第11回	語用論(2)	発話行為、ポライトネス
第12回	社会言語学(1)	地域や人種による言語の変異
第13回	社会言語学(2)	ジェンダーと言語
第14回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006

『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようになります。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅱ B

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。秋学期はとくに音声学、音韻論、歴史言語学、心理言語学を概観します。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	音声学(1)	母音、子音
第3回	音声学(2)	自然類
第4回	音韻論(1)	弁別素性
第5回	音韻論(2)	音素と異音
第6回	音韻論(3)	音韻規則
第7回	音韻論(4)	強勢
第8回	歴史言語学(1)	イギリス史、語彙変化
第9回	歴史言語学(2)	音声変化、統語変化、意味変化
第10回	歴史言語学(3)	言語の系統
第11回	心理言語学(1)	文の解析
第12回	心理言語学(2)	言語習得
第13回	機能主義	機能主義的な文法現象の説明
第14回	秋学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006

『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようになります。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国の暮らしのなかでも、特に「音楽（歌）」に注目し、日本の音楽文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1）英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2）アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3）英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4）多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5）以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国との比較を念頭に置きながら、「音楽（歌）」を中心とした様々な文化的事象を学ぶ。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。実施されたプレゼンテーションについては、授業参加者全体でフィードバックを行い、最後に担当教員から総評を伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	履修者の自己紹介、日米の音楽文化史を学ぶ上での見取り図を提示する
第2回	ワークショップ①「身近なアメリカ音楽の発見」	比較文化を学ぶ前提として、自分たちのこれまでの音楽体験の中の「アメリカ」を振り返る
第3回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング①	第2回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第4回	アメリカの「戦争」と歌	愛国歌、行進曲、そしてアメリカ国歌の誕生
第5回	アメリカの「労働」と歌	西部開拓、鉄道敷設、奴隷労働
第6回	アメリカの「宗教」と歌	讃美歌、黒人霊歌、ゴスペル・ソング
第7回	ワークショップ②「日本の歌謡曲・ポップスとアメリカ」	グループワークを通じてプレゼンテーションの準備をする
第8回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング②	第7回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第9回	アメリカの「スポーツ」と歌	草競馬、野球、バスケット、アメフト
第10回	アメリカの「舞台」と歌	ミンストレル・ショーからブロードウェイ・ミュージカルまで
第11回	アメリカの「映画」と歌	ハリウッド映画史を「歌」の側面から考察する
第12回	ワークショップ③「音楽と異文化交流・異文化理解」	グループワークを通じてプレゼンテーションの準備をする
第13回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング③	第12回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第14回	まとめと期末試験	音楽・歌を用いた教授法を考える／授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2時間）

- ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1時間）
- ・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1時間）

【テキスト（教科書）】

教員が作成したプリントを授業開始時に配付します。

【参考書】

ウェルズ恵子『アメリカを歌で知る』（祥伝社新書、2016年）
 大和田俊之『アメリカ音楽史——ミンストレル・ショー、ブルースからヒップホップまで』（講談社選書メチエ、2011年）
 輪島裕介・永富真梨（編）『入門ポピュラー音楽の文化史——〈戦後日本〉を読み直す』（ミネルヴァ書房、2024年）

【成績評価の方法と基準】

授業内ワークショップ・プレゼンテーション：50%

授業内期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできませんが、他の担当科目同様、発言しやすい環境をつくるように努めます。

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。

履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American music, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grades will be determined based on the following:

1) Participation and in-class assignments (50%)

2) Final exam (50%)

ARS200BD

英米文化概論A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19世紀末から20世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	帝国主義とは
第2回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第3回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第4回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第5回	戦争詩人	第一次世界大戦
第6回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第7回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第8回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第9回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第10回	Yeats, "Easter, 1916"	イースター蜂起
第11回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第12回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	ポストコロニアリズムとは
第13回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	現代イギリスと移民
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル, K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%

期末テスト 70%

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

英米文化概論B

勝田 悠紀

授業コード：A2983 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが「リアルだな」と感じるのはどんな時でしょうか。それは文化的にどのように価値づけられ、どのように達成されてきたのでしょうか。考えてみると、私たちがそのような感覚を持つのは、絵画や文学や映画に対して、いわゆる芸術作品に限定しないとしてもなんらかの作り物に対してであることがしばしばです。それゆえリアルとは何かという問いは、フィクションとは何かという問いと不可分だということになります。

文学史を振り返ると、古くから詩作は現実の模倣を意味する「ミメシス」として理解され、近代小説は「リアリズム（現実－主義）」をその特徴とされてきました。いまでも続けられている活動です。しかしここでいう現実は何を指し、それは時代を通じてどのように変化してき、その技法にはどのようなものがあるのでしょうか。

結局のところ、歴史的に見て、また現代の私たちにとって、現実とは何なのか。本講義では、関連するテキストを取り上げながら、この問いをいろいろな角度から考えてみたいと思います。

【到達目標】

英米文化への理解を深める。

英米文化におけるリアリズムやミメシスに対する理解を深める。

あることについて考えたい、知りたいと思ったときに、読むべき文献を調べ、その文献を読んでいく能力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義

課題に対しては適宜授業中にコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の説明
2	現実と虚構（1）	主要な概念の導入
3	現実と虚構（2）	現代の事例の検討
4	プラトン『国家』	プラトンの虚構観
5	アリストテレス『詩学』	アリストテレスの虚構観
6	アウエルバッハ『ミメシス』	2つのミメシスの型
7	「小説の勃興」論（1）	イアン・ワットの理論
8	「小説の勃興」論（2）	デフォー『ロビンソン・クルーソー』
9	「小説の勃興」論（3）	リチャードソン『パメラ』
10	「陰謀論」論（1）	陰謀論の歴史
11	「陰謀論」論（2）	陰謀論と「現実」
12	「陰謀論」論（3）	「信用できない語り手」と陰謀論
13	まとめ	学期全体の振り返り
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。

テキストを読む。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時に出す課題（30％）

期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course examines the question of when and how we come to perceive something as “real.” It explores how such a sense of reality has been culturally valued and historically produced. Notably, this experience of the “real” is often associated not with everyday life itself, but with constructed forms—such as painting, literature, and film, or other kinds of made artifacts more broadly. From this perspective, the question of reality is inseparable from the question of fiction.

In literary history, poetry has traditionally been understood as mimesis, or the imitation of reality, and the modern novel has been closely associated with realism as a defining mode. These practices continue into the present. However, what has counted as “reality” in different historical periods? How has this notion changed over time, and what representational techniques have been developed to produce effects of realism?

By reading and discussing a range of texts, this course invites students to reconsider what “reality” has meant historically and what it means for us today.

Students are expected to deepen the understanding of realism and mimesis, and to develop the ability to identify relevant literature on a topic they get interested in and to read those works closely.

Grading will be decided based on short reports (30%) and the term-end examination (70%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本考古学

高橋 健

授業コード：A3113 | 曜日・時限：月2/Mon.2
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
 日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を理解し、歴史学・考古学の研究を行う上で不可欠な歴史的事実の解釈方法を身につけることを目標とする。

【到達目標】

考古学的な成果に基づいて、各時代における文化的な特色について説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広がった弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が発達した古墳時代までの展開について、考古資料を中心として学ぶ。また稲作導入後に異なる歴史をたどった北海道島についても扱う。

授業方法はパワーポイントを使用する講義形式で行う。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・概要説明	授業の方法・評価基準 この授業で扱う時代の概説
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の展開
第4回	縄文文化の姿	地域的・时期的な多様性と共通性
第5回	縄文文化の生業	狩猟・漁労と採集・栽培
第6回	縄文文化の社会	集落と墓からみる社会
第7回	弥生文化の成立	稲作の伝来と社会の変化
第8回	弥生のムラの姿	環濠集落と集団関係
第9回	青銅器と貝製品	遠くに運ばれる儀礼の道具
第10回	古墳の成立と社会	前方後円墳の成立と波及
第11回	続縄文文化	稲作を行わなかった地域
第12回	オホーツク文化とは何か	北からの外来文化
第13回	擦文文化とアイヌ文化	アイヌ文化の成立過程
第14回	総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等をよく読み、時代ごとの特徴を理解すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤宏之（2019）『旧石器時代 日本文化のはじまり』敬文舎
 今村啓爾（2017）『縄文文化 考古調査ハンドブック17』ニューサイエンス社
 石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書
 その他の参考書は、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績の50％は期末試験とする。平常点は50％とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業開始前にWebClassに講義資料のデータをアップロードし、授業を受けながら参照できるようにする。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will cover the historical development of Japan from the Paleolithic to the Kofun period.

(Learning Objectives)

Based on archaeological findings, students will be able to explain the cultural characteristics, of each era,

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the characteristics of each era.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on term-end test (50%) and in class contribution (50%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】

- ①城下町の特徴を説明できる。
- ②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
- ③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。論文講読の回は、事前に論文を読んでいることを前提に授業する。hoppiiに教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。13回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	都市とは何か
第2回	江戸前史	地層と地形
第3回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第4回	徳川の御威光	論文講読（渡辺浩「『御威光』と象徴」）
第5回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第6回	チョウの誕生	論文講読（朝尾直弘「惣村から町へ」）
第7回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第8回	日用層	論文講読（吉田伸之「日本近世都市下層社会の存立構造」）
第9回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第10回	武家拝領屋敷の相対替	主従関係と内実売買
第11回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第12回	公共空間の維持管理	道・橋・堀
第13回	総括	まとめ
第14回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ（東京大学出版会、1989～1990年）

吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社、1992年）

松本剣志郎『江戸の都市化と公共空間』（塙書房、2019年）

大石学・落合功編『江戸東京移行期論』（戎光祥出版社、2024年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS200BE（史学 / History 200）

考古学概論

高橋 健

授業コード：A3152 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考古学の基礎的な方法論の概要を学ぶ。
モノである考古資料からどのように過去の人間集団の行動を研究するか、考古学の研究に不可欠な資料の解釈方法を理解し、身につけることを目的とする。

【到達目標】

考古学における調査と研究の方法を理解する。考古学の論文や専門書を読み解き、発掘調査報告書から必要とする情報を引き出すのに必要な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	考古学とは何か
第2回	考古学の研究素材	考古資料の種類と特性
第3回	考古学の研究史	研究方法がどのように発展してきたか
第4回	考古学における調査	発掘調査と整理作業の手順
第5回	考古学的な時代区分	どうやって時代を区分するか
第6回	分類と型式学	モノをどう分けるのか
第7回	層位学	考古学的な年代決定の方法
第8回	年代測定法	自然科学的な年代測定の方法
第9回	年代をめぐる論争	日本考古学において展開された年代論争
第10回	資料の解釈①	資料の分布とその変化は何を意味するか
第11回	資料の解釈②	発掘された遺構をどう読み解くか
第12回	資料の解釈③	型式と人間集団の関係
第13回	考古学と文献史学	文字資料のある時代の考古学
第14回	まとめ	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、考古学の方法についての理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『考古学概論』山本孝文・青木敬・城倉正祥・寺前直人・浜田晋介、ミネルヴァ書房、2022年

【参考書】

参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末に筆記試験を行う。試験は成績評価の50%とする。平常点は成績評価の50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業開始前にWEBに講義資料のデータをアップロードし、授業を受けながら参照できるようにする。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will learn an overview of the basic methodology of archaeology.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand how to study past human activities using archaeological materials, which is essential for conducting archaeological research.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the archaeological method.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on term-end test (50%) and in class contribution (50%).

HIS200BE (史学 / History 200)

日本史特講IV

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世日本の18世紀ないし19世紀前期という時期は、文字文化の局部的一層の浸透と徐々なる拡散を力として、日本という枠組みの中で身分共通の文化の体现、ひいては常識の形成が進む時代であったのではない。殊にすでに文字の使用を前提とする支配の文化の中に生きることを所与としていた支配層にかかわってはなお一層そうであったのではない。事実、18世紀中期には歴史的テキストの中に再発見した伝統文化を当該のテキストに忠実に体现するよう要求する権力の出現があり、「和」の一語をもって括る復元的次元の文化のすり込み共有によって文化的統合を図らんとしたかと思わせる動きが活発化していた。

当科目では、このような理解の基底の共有を前提として、幕府医員丹羽貞機が延享五年（1748）に朝鮮国王派遣の通信使随行人に接触し、医員趙崇寿ら数人との間で行った筆談の再現記録「両東筆語」の読解に挑戦する。そして支配層において「和」の一語へ引き寄せる形で文化的統合への動きを目立たせはじめた時期の医員個人の日本表示のあり様を確かめる。

【到達目標】

①近世の日本人と朝鮮人との間で共有されていたとみられる対話のための作法、秩序について理解を深め、かつ対話の構造、布置秩序を説明することができる。
②一定の布置秩序の中ではじめて実現しえたと考えられる差異可視化の場面に注目し、その段階にいかなる形の日本表示が示されていたか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「両東筆語」は、丹羽本人が持ち帰った筆談紙をもとに後日場面再現された編集物とみるべき史料である。このため、当書には明らかに構成がある。ゆえに後日の作為等の有無について不注意であったはいけな。ただし、当書に確認されるその構成は、編集上の後日の作為というより、むしろ近世の日本人と朝鮮人との間で共有されていた、対話を成り立たせるための対談構成の作法の投影ではないか。当科目では一応このような立場をとる。要するに、対談、問答は思いつくままに進められるというのではなく、構成適合的に布置されるべきものと考えられており、その布置秩序に基づいて進められた。ゆえに後日の再現的編集も容易であったのではないかと考える。当科目では、このような観点から当書の構成順序を重視し、それ自体を講義順序として史料の読解に臨む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	(1) 18世紀日本の集中傾向について (2) 先行研究にみる筆談記録の歴史的意義、論点等
2	史料成立の背景	(1) 丹羽正伯と野呂元丈 (2) 延享五年の通信使
3	史料の特性	(1) 文章の実態 (2) 構成
4	一日目の記録	(1) 対談申し入れと当座の目的伝達 (2) 当座の目的に沿う暫時の筆談
5	一日目の記録（続）	(3) 仕掛けによる誘導 (4) 本当の対談目的の共有 一自己表明への一階梯— (5) 仮交渉、そして酬唱
6	二日目の記録	(6) 熱意の本交渉 (7) 間章—知識の交流、あふれ出る私のコトバー
7	二日目の記録（続）	(8) 学士・書記官との面会 一自己表明の徹底—
8	三日目の記録	(9) 間章—お互いの違いの確認— (10) 議論への展開予兆 (コラム) 趙崇寿「貴国では金銀を糞土のように扱ふと聞く、本当か」の意義
9	三日目の記録（続）	(11) 主張含みの議論の展開

10	三日目の記録（続）	(12) 間章（歓談）—緊張解放— (13) 肉親紹介
11	四日目の記録	(14) 間章—知識の交換— (15) 抱って立つ知識基盤をめぐる本格的討論の展開
12	四日目の記録（続）	(16) 酬唱 (17) 肉親をめぐる相互理解、交情確認
13	五日目・六日目の記録	(18) 筆談その後の行方
14	おわりに	(1) 相互理解の素地、知恵 (2) 丹羽正伯による日本表示のあり様

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習（事前配布資料の読解）・復習：各2時間
②参考書等にもとづく自習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。各回用のプリントを配布する。

【参考書】

初回授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点 (10%)
(2) 小レポート2回 (40%)
第1回 「両東筆語」にみる筆談の構成について
第2回 討議の内容について
※いずれも設題は授業実施期間中に提示する。
(3) 期末レポート (50%)
12月中に到達目標を満たす設題を提示する。

【学生の意見等からの気づき】

つねに講義が一方通行的となりがちなので、史料読解に参加形式を検討する。演劇活動等や何等か発話にかかわるサークル活動をしている学生がいれば積極的に補助をお願いしたい。

【Outline (in English)】
(Course outline)

The period of early modern Japan, roughly covering the 18th century to the early 19th century, can be seen as an era in which the partial penetration and gradual spread of a literate culture served to advance the embodiment of a culture shared across social classes within the framework of Japan, and ultimately the formation of common sense. This was particularly true for the ruling class, who were already accustomed to living within a culture of governance premised on literacy. Indeed, by the mid-18th century, there emerged authorities demanding that rediscovered traditional culture in historical texts be faithfully embodied in those texts, and there was an active movement that appears to have sought cultural integration through the shared inculcation of a restorative dimension of culture encapsulated by the term “Wa” (harmony).

In this subject, based on the assumption of a foundational shared understanding, we will attempt to interpret the recreated record of written conversations called ‘Ryoto Shitsugo,’ in which the shogunate physician 丹羽貞機 (正伯), in Enkyō 5 (1748), interacted with the envoys sent by the Korean king and a few physicians including 趙崇寿 (活庵). We will also examine how individual physicians represented themselves in Japan during a period when the ruling class began to prominently show movements toward cultural integration, drawing everything under the single concept of ‘harmony.’

(Learning Objectives)

1. Deepen understanding of the writing-based communication practices that are believed to have been shared by Japanese and Koreans in the early modern period. Also, be able to explain the rules for topic development that were actually used to make dialogue possible.
2. Focus on the instances in which early modern Japanese and Koreans consciously made their differences visible, and in particular, be able to explain what claims the Japanese of the 18th century made about their own country in such instances.

(Learning activities outside of classroom)

1. Pre-study of the materials distributed in advance and review after class: 2hours
2. Self-study on the history of interactions between early modern Japan and Korea based on reference books, etc.

(Grading Criteria /Policy)

・Two midterm paper (40%)

1. Creating a report explaining the content and structure of historical documents distributed as teaching materials.

2. Create a report explaining the content of discussions that took place between Japanese and Koreans in the early modern period, as found in the historical documents distributed as teaching materials.

・term paper (50%)

The report assignment to achieve the learning objectives is scheduled to be given in December.

・Willingness to participate in class (10%)

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展の側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年。（第4・5章）

久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016年。

丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30%

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70%

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

中国経済の動向に合わせて、授業計画を一部変更する場合がある（授業内で通知）。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern Chinese economy. The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅳ

皆川 卓

授業コード：A3171 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世から近代までの歴史を通してヨーロッパの「国家的アイデンティティ」(national identity) を学びます。最初に近代の「ナショナリズム」の構造を紹介し、近代人の中にも無限に多様な「ナショナリズム」があること、しかしそれにも拘わらず何らかの歴史的事情によって一定の地域毎に統合されていることを確認します。そののちそれぞれタイプの異なるフランス、ブリテン（イギリス）およびドイツ（旧神聖ローマ帝国）の状況を概観し、何がそれぞれをまとめるのかを学びます。

【到達目標】

「ナショナリズム」が近代主権国家の諸条件のもとで成立すること、その方向性が各国の近世の歴史的発展に依拠することを学ぶとともに、そこで創られたさまざまなコンセプトが、どのようなメカニズムのもとで国への感情的執着に発展するのかを、それぞれタイプの違う近世史を抱えるヨーロッパ三か国の例から理解し、歴史的観点から合理的・客観的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「国家的アイデンティティ」(national identity) とは何か	受講者が日々触れる現代生活における文化と情念の関係を分析しながら、社会秩序や社会的価値への愛情が成立・発展する心的条件を論じます。
第2回	ナショナリズムの光と影	ナショナリズムの出発点となる情念が社会価値化するメカニズムを解析し、ナショナリズムの多義性と多様性を各国近世・近代史の特徴的な出来事から明らかにします。
第3回	近代以前に国民主義は存在するか（1）	ナショナリズム現象とされる活動を歴史の諸例から取り上げ、ゲルナー、ホブズボーム、アンダーソン、スミスなど近年の諸説に照らしながら、その類型を提示します。
第4回	近代以前に国民主義は存在するか（2）	前近代史の中に、近代になって初めてナショナリズムの神話形成に用いられるトピックが多数あることを確認します。
第5回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（1）	現代ヨーロッパにおける遺伝子ビッグデータの成果などから、「民族」が文化的集団であることを確認し、その基準であるエスニシティとは何かを、機能的な側面から分析します。
第6回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（2）	君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。
第7回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「王国」のフランス（1）	君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。
第8回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「王国」のフランス（2）	君主の血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながら、普遍的な性格を持つ新しいエスニシティを発見する過程を分析します。

第9回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「帝国」のブリテン（1）	「議会の中の王」「幸いなる島国」「反カトリシズム」「商業国家」など多様なエスニック要素を組み合わせて小国を束ね、大国化したブリテン（イギリスの）例を紹介しします。
第10回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「帝国」のブリテン（2）	ブリテンに束ねられたスコットランド、アイルランドなどの小国の視点とそれらのリアクション形成、そしてそこから生じる垂直的・水平的なアイデンティティの多元性を論じます。
第11回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（1）	統一的な主権国家とは異なり、新旧の要素が同居する多元的な秩序を生み出した神聖ローマ帝国の特徴と、それをサポートするものとして生み出された「ドイツ」の観念の起こりを紹介しします。
第12回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（2）	神聖ローマ帝国の国家連合化によるアイデンティティの空白を埋める目的で「ドイツ」が文化的共同体に発展する過程を論じます。
第13回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（3）	「ドイツ」アイデンティティが他国との関係に対する優越的価値「民族」となり、秩序も個人もそれに支配されていく過程を分析します。
第14回	総合評価とまとめー「愛国」のカルテ	近世ヨーロッパ各国の国家的アイデンティティを構成する要素とその組み合わせのタイプを振り返り、それらとの比較から歴史的な「愛国」とは何かを、「少数民族」の観点も展望しながら相対化し、批判的にまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
- ・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
- ・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
- ・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】

- E. ホブズボーム／T. レンジャー『創られた伝統』紀伊国屋書店 1992
- E. ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店 2000
- B. アンダーソン『想像の共同体』NTT出版 1997
- A.D. スミス『ネイションとエスニシティー歴史社会的考察』名古屋大学出版会 1999
- F. ブローデル『フランスのアイデンティティ』（第1篇・第2編）論創社 2015
- H. トーマス『中世の「ドイツ」ーカール大帝からルターまで』創文社 2005
- 松本彰・立石博高『国民国家と帝国』山川出版社 2005
- 谷川稔『国民国家とナショナリズム』山川出版社 1999
- 指昭博編『王はいかに受け入れられたかー政治文化のイギリス史』刀水書房 2008
- 岩井淳・指昭博編『イギリス史の新潮流ー修正主義の近世史』彩流社 2000
- その他教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は平常点（30%）、単元毎の小テスト（20%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
- ・ナショナリズムを含む国家的アイデンティティの歴史の変遷を知識として正確に把握できているか【第1評価プロセス：単元毎の小テスト20%に照応】、各時代の国家的アイデンティティを歴史学の方法に従って経験科学的・論理的に分析し、説明できるか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】、が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・欠席者がついて行けなくなる事態を防ぐため、最初に15～20分程度、前回の内容の復習時間を取ることになります。
- ・小テストの回答はある程度時間を取っていますが（2週間程度）、事情により遅れても提出できるようにします（ただしやむを得ない事情以外、期日を守っている受講生の公平性を考慮し、一定の減点をします）。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

This course will explore European national identity through history from the Middle Ages to the modern era. First, we will introduce the structure of modern nationalism, and confirm that there are infinitely diverse nationalities among modern people, but that they are nonetheless integrated into certain regions due to certain historical circumstances. We will then provide an overview of the different types of nationalism in France, Britain (England), and Germany (the former Holy Roman Empire), and learn what unites them. (Learning activities outside of classroom)

- ・ Be sure to read the handouts distributed in advance before class and have a general understanding of the content (1 hour each time).
 - ・ Before class, look up any new terms or names you only vaguely know using reference books or the internet, and take notes on the handout (1 hour each time).
 - ・ After class, research any points you didn't understand during the lesson or ask the teacher questions (1 hour each time).
 - ・ Take notes on the points you thought about while listening to the class to prepare for writing the final report (1 hour each time).
- (Grading Criteria /Policy)
- ・ Evaluation will be based on a combination of regular class participation (30%), quizzes for each unit (20%), and the final report (50%).
 - ・ The criteria are whether students can accurately grasp, as knowledge, the historical changes in national identity including nationalism [Evaluation Process 1: Corresponding to unit quizzes 20%], and whether they can analyze and explain the national identity of each era in an empirical and logical manner according to historical methodology [Evaluation Process 2: Corresponding to the final report 50%].

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅴ

皆川 卓

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパにおける社会的流動性（social mobility：地位、身分、職業や職場、信仰、居住地などの変更）が、人や人の集団同士の生活やアイデンティティ、仕組みに与えた影響かについて、近年の研究成果を紹介します。受講者はそこから、社会的流動性が歴史の発展に深くかかわっていることを学ぶとともに、さまざまな成長期の社会に生きる人々が、いかにして社会に前向きに関われるかを省察します。

【到達目標】

近世ヨーロッパの人々は、現代から見れば経済成長率が極端に低い中であっても、自ら身分や地位、職業や活動地域の変更を求め、異なる環境の衝撃に耐えて自らを活かす可能性を拓くばかりでなく、自分の求めた自己を実現する社会的枠組みをも形成していった。この近世ヨーロッパ「社会」の動的側面の実相と、それが近代の形成に果たした役割を多角的に学び、社会的流動性が持つ可能性を客観的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会的流動性とは何か（1）	社会的流動性（社会移動）は人間生活の活力を左右する基礎的条件ですが、それが分析の対象となることは多くありません。身近な生活を例に、社会的流動性とは何かを簡単に紹介します。
第2回	社会的流動性とは何か（2）	社会的流動性を歴史的に見ると、どのようなことが分かってくるかを、高校までの既習知識の中にある事例から指摘し、それが過去の社会の分析に有効であることを論じます。
第3回	中近世ヨーロッパの「社会」編成（1）	中世ヨーロッパの厳格な身分が、権力者に強制された制度ではなく、むしろ職業教育の未発達やコミュニケーションの未熟な中、人々自身から作られたものであることを論じます。
第4回	中近世ヨーロッパの「社会」編成（2）	中世後期に徐々に活発化する社会的流動性が、人々の認識の変化を促し、それが社会の集団意識に逆反射して、仕組みや制度をも徐々に変えていく実態を紹介します。
第5回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（1）	近世ヨーロッパの人々に自分の生活環境を変えるチャンスとなった様々な場の中で、キリスト教の教会組織と信仰によるネットワークが大きな影響を及ぼしたことを論じます。
第6回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（2）	教会組織や信仰のネットワークにおける社会的流動性が、次第に既存の組織の持つバイアスを変化させ、教会の改革や信仰の自由に導いていく展開を説明します。
第7回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（1）	近世の厳格な身分の壁を超える場の一つに、権力者が宮廷と軍隊がありました。そのうち宮廷に注目し、どのような人材がそれを利用して流動性の波に乗れたのかを詳しく論じます。

第8回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（2）	前回到いて軍隊に注目し、そこでどのような能力が評価されたのか、またそこにはどのような限界があり、結果として軍隊の流動性はどのようなものになったのかを分析します。 第9回対面/face to face社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（1）近世ヨーロッパの都市は、ビジネスを通じてそれまで閉じ込められていた境遇から自分を解放し、流動性の波に乗る重要な場でした。そこではどのような可能性があったのかを概観します。 第10回対面/face to face社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（2）都市とビジネスの流動性は、そこで動く人々の内面をも変化させました。それがどのようなものであり、彼らはより望ましい場の実現を求めてどのような社会を促したのかを論じます。 第11回対面/face to face社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（1）近世ヨーロッパでは、様々な教育の場が、本来の目的であった宗教や職業を超えて生活に広く役立てられました。そこから生まれた流動性の特徴を、いくつかの事例に即して検討します。 第12回対面/face to face社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（2）近世ヨーロッパの流動性の特徴として、メディアによる流動性があります。直接地位や居住地を変えなくても、認識を共有した集団の中から生み出されたコミュニケーションと価値に注目します。 第13回対面/face to face社会的流動性の変質と「社会」の誕生近世ヨーロッパの流動性は、身分や資産の上下に留まらず、好み（ハビトゥス）や人生観、知性など精神面の発展も促しました。それが自由な個人の支える社会という発想を生み出すまでを論じます。 第14回対面/face to face総合評価とまとめ近世ヨーロッパの流動性が、単なる地位や富の上下を超え、多様性を承認する「市民」という新たな秩序の枠組みを創造しえたのはなぜなのか、これまでの授業を振り返りながらまとめます。
第9回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（1）	近世ヨーロッパの都市は、ビジネスを通じてそれまで閉じ込められていた境遇から自分を解放し、流動性の波に乗る重要な場でした。そこではどのような可能性があったのかを概観します。
第10回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（2）	都市とビジネスの流動性は、そこで動く人々の内面をも変化させました。それがどのようなものであり、彼らはより望ましい場の実現を求めてどのような社会を促したのかを論じます。
第11回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（1）	近世ヨーロッパでは、様々な教育の場が、本来の目的であった宗教や職業を超えて生活に広く役立てられました。そこから生まれた流動性の特徴を、いくつかの事例に即して検討します。
第12回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（2）	近世ヨーロッパの流動性の特徴として、メディアによる流動性があります。直接地位や居住地を変えなくても、認識を共有した集団の中から生み出されたコミュニケーションと価値に注目します。
第13回	社会的流動性の変質と「社会」の誕生	近世ヨーロッパの流動性は、身分や資産の上下に留まらず、好み（ハビトゥス）や人生観、知性など精神面の発展も促しました。それが自由な個人の支える社会という発想を生み出すまでを論じます。
第14回	総合評価とまとめ	近世ヨーロッパの流動性が、単なる地位や富の上下を超え、多様性を承認する「市民」という新たな秩序の枠組みを創造しえたのはなぜなのか、これまでの授業を振り返りながらまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
- ・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
- ・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
- ・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。（レジュメがテキストの機能を担います）

【参考書】

清水廣一郎『中世イタリアの都市と商人』講談社 2021
成瀬治『近代ヨーロッパへの道』講談社 2011
高澤紀恵／G・カレ『「身分」を交差させる－日本とフランスの近世』東京大学出版会 2023
J. ヴェルジェ（野口洋二訳）『ヨーロッパ中世末期の学識者』創文社 2005
L・ストーン（佐田玄治訳）『エリートの攻防－イギリス教育革命史』お茶の水書房 1985
角山栄他『生活の世界歴史(10)産業革命と民衆』河出書房新社 1992
Ch・ハルツィヒ他（大井由紀訳）『移民の歴史』筑摩書房 2023

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は平常点（30%）、単元毎の小テスト（20%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
- ・ヨーロッパ近世史の中に展開される社会的流動性の概要を理解することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト20%に照応】、そこから歴史のマクロ的な動きを読み取り、受講者の活きる現代社会と比較・相対化することで、歴史を客観的に論じるための俯瞰的な視点をどれだけ達成しているか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】をみます。

【学生の意見等からの気づき】

- ・様々な研究対象を持つ受講生の理解のために、現代社会や他の時代・地域との比較を交えながら論じます。
- ・受講生が欠席のため授業内容について行けなくなる事態を抑制するため、授業の最初に15～20分の復習を行います。そのため進度は多少変動します。
- ・学生が小テストやレポートにAIを使用するようになったため、成果物がそのまま学生の理解を反映しなくなっています。AI使用を前提とし、成果物をリアクションペーパーなどと照合し、学生の思考の足跡をも平常点に反映します。また自ら問いを立てる能力を計測できるよう、小テストや期末レポートの内容を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

This course will introduce recent research findings on the impact of social mobility (changes in status, status, occupation, workplace, faith, place of residence, etc.) in early modern Europe on the lives, identities, and structures of individuals and groups of people. Participants will learn how social mobility is deeply connected to historical development and reflect on how people living in societies of various growth periods can positively interact with society.

(Learning activities outside of classroom)

- ・ Be sure to read the handouts distributed in advance before class and have a general understanding of the content (1 hour each time).
- ・ Before class, look up any new terms or names you only vaguely know using reference books or the internet, and take notes on the handout (1 hour each time).
- ・ After class, research any points you didn't understand during the lesson or ask the teacher questions (1 hour each time).
- ・ Take notes on the points you thought about while listening to the class to prepare for writing the final report (1 hour each time).

(Grading Criteria /Policy)

- ・ The evaluation is based on a combination of normal scores (30%), quizzes for each unit (20%), and year-end reports (50%).
- ・ You will be able to understand the outline of social mobility that unfolds in early modern European history, and you will be able to understand how much you have achieved a bird's-eye view to objectively discuss history by reading the macro movements of history from there and comparing and relativizing it with the modern society in which the students are alive [2nd evaluation process: corresponding to 50% of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋近現代史

芦沢 知絵

授業コード：A3208 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「中国近現代史のなかの政治と社会・文化」をテーマとする。現在の中国は、自他ともに認める「グローバル大国」である。しかし、そこに至る近現代の中国の歴史は、対外関係の大きな変化から始まる激しい政治変動に揺さぶられてきた。そうした政治変動とともに、中国の社会や人々の生活も大きく変容し、例えば思想、文学、教育、メディア、日常生活様式など、様々な面で新しい文化潮流が生み出された。本授業では、中国近現代史における政治変動と、それにともなう社会・文化の変遷を追いつつ、現在の中国がどのように形成されてきたのか概観する。同時に、現代中国にみられる政治と社会・文化の関係性や、そこから見出される諸問題について、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代中国における政治変動と社会・文化の歴史の変遷をたどり、中国近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現在の中国が形成された過程、及び現代中国の政治と社会・文化の関係性や諸問題について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国近現代史入門	中国近現代史を学ぶ意義・方法
第2回	中国の近代	アヘン戦争と「西洋近代」との遭遇
第3回	清朝の危機	洋務から変法への思想展開
第4回	中華民国の成立	辛亥革命と進む「近代化」
第5回	軍閥割拠の時代	五四期の新文化運動とナショナリズム
第6回	南京国民政府の成立	国民党の国家建設と都市大衆文化
第7回	満州事変の勃発	「抗日」運動とプロパガンダ
第8回	日中戦争への突入	戦時期の中国民衆と知識人
第9回	中華人民共和国の成立	国共内戦下の中国共産党と農村社会
第10回	社会主義体制の確立	統制される社会・思想・人民
第11回	プロレタリア文化大革命	毛沢東の政治闘争と社会混乱
第12回	改革開放の始動	経済成長と変わりゆく生活文化
第13回	現代中国の行方	「グローバル大国」を生きる人々
第14回	中国近現代史の課題と展望	中国近現代史をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、現在の中国に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司・梶谷懐『新・図説中国近現代史（改訂版）——日中新時代の見取図』法律文化社、2020年。
 久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史——兩岸三地100年の歩み（第2版）』東京大学出版会、2019年。
 吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑥』岩波書店（岩波新書）、2010～17年。
 坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波書店（岩波新書）、2016年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30%

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末試験 70%

授業内容に関する論述問題を出题する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of modern China focusing on political, social and cultural changes from the Opium War to the present time.

The goal of this course is to understand the historical nation-building process and various problems of modern China.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

HIS100BE (史学/History 100)

東洋史序説

宇都宮 美生

授業コード：A3214 | 曜日・時限：木4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさげばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、中国・日本・朝鮮の対外関係を中心に、アジアと欧米の関係史についても理解を深めていく。

【到達目標】

中国の影響を受けた日本が諸外国とどのように交流していったか、日本・中国の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。

日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているか、諸外国の歴史とともに具体的にみていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古代の外交 1	倭国の対外関係 1
第2回	古代の外交 2	倭国の対外関係 2
第3回	古代の外交 3	遣隋使
第4回	古代の外交 4	遣唐使 1
第5回	古代の外交 5	遣唐使 2
第6回	古代の外交 6	遣唐使 3
第7回	中世の外交 1	日宋貿易
第8回	中世の外交 2	日元貿易と元寇
第9回	近世の貿易 1	日明貿易
第10回	近世の貿易 2	日清貿易 1
第11回	近世の貿易 3	日清貿易 2
第12回	近世の貿易 4	日清貿易 3
第13回	近代の外交	日欧外交
第14回	学習のまとめ	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

【参考書】

森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978年

鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017年、3800円+税

村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013年、1200円+税

中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979年、2500円+税

簗原俊洋・奈良岡聡智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016年、3000円+税

田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987年、13000円+税

*このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。

身近な物事に関心を持ち、その歴史や変遷の経緯について考える姿勢を持ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ビデオ・カメラ撮影を禁じる。

【担当教員の専門分野等】

中国史（都城史、水利史、交通史）、日中交流史

【事務への連絡事項】

パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。

パソコンの貸し出しも希望します。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Japanese, Chinese and Korean histories in respect to international relations with other Asian and Western countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS100BE（史学 / History 100）

西洋史序説

柴田 隆功

授業コード：A3215 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代までの西欧史（ドイツ史中心）の流れを整理し、各授業回でトピックとなっている時代や地域の政治・社会・文化を学ぶことが授業の目的です。興味を持った事柄について自ら調べものをする際の手がかりを獲得することも期待されます。

【到達目標】

(1) 前近代については、当時の社会が近現代の概念などを前提にしては把握しきれないことを認識でき、また、時代・地域ごとの違いに適切な注意を向けるようになることが重要です。

(2) 近現代については、現代に通ずる市民社会や国家体制の諸特性が発展し、人びとがその中でどのような困難や問題に直面してきたかを理解することが求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

〔授業の形式〕

●授業は対面の講義形式です。

●各授業では、ある時代・地域の通史的な基本事項を解説したうえで、講師が関心を寄せる特定側面を掘り下げる形をとります。

●授業の最後には10分間で400字（目安）のリアクションペーパーを作成してもらいます。学習支援システムからの提出を想定しています。リアクションペーパーでは授業で得た知識を整理し、自身の理解・関心・疑問を言語化することが求められます。

〔資料・プリント類〕

●パワーポイントの画像やレジュメを配布する予定はありません。必要に応じて各自でノートをとるようにしてください。

●自分で見返すためにパワーポイントの内容を何らかの形で記録してもよいですが、他人にデータを絶対に譲渡しないでください。

●授業中の電子機器の使用は講義内容を記録する場合や不明点を調べる場合に限りです。

〔質問・連絡の仕方〕

●質問や公欠等の欠席申告があれば、授業後に講師に話しかけるか、授業中に通知するメールアドレスに連絡してください。

〔注意事項〕

●私語は慎んでください。

●お手洗いに行く場合は、許可を求めずに退出してかまいません。

●高校以前の世界史等の履修経験は必須ではありません。

●授業担当者は本年度からの担当であるため、細部は変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／情報記録・伝達の変遷	情報処理の変遷を歴史学の観点から過去にさかのぼって見つめ直し導入とする
第2回	古代ギリシア	通史を概観したうえで現代とは大きく異なるアテナイの民主政の特徴を掘り下げる
第3回	共和政ローマ	ローマ支配下のギリシアに注目しつつローマの共和政体の歩みをみていく
第4回	ローマ帝国と属州統治	帝国の政治的・社会的な構造の観点で帝政前期から西ローマ帝国滅亡までを観察する
第5回	古代末期とポスト・ローマ社会	キリスト教の成立と蛮族の侵入を受けた古代社会の変容を論じ、メロヴィング朝フランク王国やランゴバルド王国の歴史に触れる
第6回	カロリング朝フランク王国	中世王国の原型が整えられる中で、史料証言が変化する様や社会構造・キリスト教文化の形成を解説する
第7回	初期中世の政治文化と教会	10-11世紀の貴族社会の特性や教会の役割を詳述し、その中での特権階級の位置づけを考察する

第8回	ヨーロッパ中世の文化と社会	十字軍の歴史をたどる中で、宗教熱や都市・学問の発展といった中世西欧社会の変化を解説する
第9回	皇帝・教皇・都市	皇帝と教皇の相克を軸に、諸侯身分・都市の立場が確立する展開や同時期の英仏の様子を概観する
第10回	後期中世から宗教改革へ	大学・法律家・人文主義を軸に、皇帝と諸侯の二元的な支配秩序が精緻化し、宗教改革に至る道筋を観察する
第11回	近世ドイツの政治秩序	ヴェストファーレン条約研究の刷新に絡んで、帝国国制・キリスト教宗派選択・主権概念などの理解を深める
第12回	新しい帝国と近代社会の諸側面	ビスマルクに注目してドイツの近代国家形成史を整理し、鉄道やアフリカ植民地の経営から近代社会の特徴を考える
第13回	ナチスとホロコースト	ユダヤ人虐殺の思想的背景や実行過程を説明し、フランスとの軋轢や戦後の戦争記憶の変化にも触れる
第14回	まとめと期末試験	授業のふり返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。特に授業後には書き留めたノートの整理や不確かな知識・情報を見直したり調べたりするとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

購入すべき教科書はありません。

【参考書】

以下、自習用に概説書や叢書を紹介します

●金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年

●池上俊一『ヨーロッパ史入門（岩波ジュニア新書 945-946）』岩波書店、2021-2022年（2冊）

●服部良久ほか編『大学で学ぶ世界史「古代・中世」』、小山哲ほか編『大学で学ぶ世界史「近現代」』ミネルヴァ書房、2006-2011年（2冊）

●ジョン・モリス・ロバーツ『図説 世界の歴史』創元社、2002-2003年（10冊）

●中公文庫『世界の歴史』シリーズ

●『岩波講座世界歴史』シリーズ

●山川出版社『歴史の転換期』シリーズ

●山川出版社『世界歴史大系』シリーズ

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 50%＋期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの授業担当者のため以前のフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具、または文章を記録できるスマートフォン・タブレット・ノートパソコン

【Outline (in English)】

This module offers an introduction to the history of Western Europe from antiquity to the present, aiming to provide a clear chronological framework while encouraging students to pursue further independent study.

Students are expected to recognise that pre-modern societies cannot be adequately understood through modern concepts. In the study of modern history, the module provides insights into the development of civil society and state institutions that have shaped present-day society, as well as the challenges and difficulties experienced by people living within these frameworks.

The module is taught through lectures, conducted in Japanese. At the end of each lecture, students are required to complete a short written response (approximately 400 Japanese characters). This exercise is designed to support reflection on the lecture content and to help students articulate their understanding, interests, and questions.

PowerPoint slides and handouts will not be distributed. Students may, however, make personal records of lecture materials for their own use. These materials must not be shared with others under any circumstances.

Assessment: Reflective responses (50%) and a final examination (50%).

HIS200BE (史学 / History 200)

日本史特講XI

小倉 慈司

授業コード：A3216 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、日本古代の史書について、特に「六国史」と呼ばれた「正史」のうちの『日本後紀』以降およびそれ以降の私撰国史を中心に、その基礎的な知識や調査・研究の方法を習得することを目的とする。古代の人々はどのようにして歴史を記録し、編纂したのか、そしてそのようにして完成した史書はどのように受け継がれて現在まで伝来してきたのか。史書に記された具体的な記事も読解しつつ、古代史研究の基礎を身につける。

【到達目標】

1 古代史史料に関する基礎知識を身につける。2 古代史の文献史料を読解する力を身につける。3 史料批判の能力を養い、論理的思考力を鍛える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式（対面授業）で進めます。実際に史料を読んでもらったり、アンケート・小テストを実施することもあります。主体的かつ問題意識をもって授業に取り組むことを望みます。アンケートや小テストの結果については、次回以降の授業のなかで紹介したり、授業内容に反映させていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	六国史と日本書紀	ガイダンス、古代日本における修史事業の開始
第2回	続日本紀の特徴	奈良時代の修史事業
第3回	日本後紀の編纂（1）	9世紀前半の修史事業(1)
第4回	日本後紀の編纂（2）	日本後紀の特徴
第5回	日本後紀とその逸文	日本後紀の逸文について
第6回	続日本後紀の編纂（1）	9世紀前半の修史事業(2)
第7回	続日本後紀の編纂（2）	続日本後紀の特徴
第8回	日本文徳天皇実録の編纂（1）	9世紀半ばの修史事業（1）
第9回	日本文徳天皇実録の編纂（2）	日本文徳天皇実録の特徴
第10回	日本三代実録の編纂(1)	9世紀後半の修史事業
第11回	日本三代実録の編纂(2)	日本三代実録の特徴
第12回	六国史以降の史書(1)	新国史の編纂
第13回	六国史以降の史書(2)	百練抄・本朝世紀
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料は事前に読んでおいてください。この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業に必要な史料は配布します。必ず持参してください。

【参考書】

遠藤慶太『六国史』（中公新書、2016年）
ほか、授業中に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業参加への積極性・小テスト・アンケートへの回答（30%）、テスト（70%）を総合しておこないます。

【学生の意見等からの気づき】

日本古代史を学ぶ上での基礎的な知識の確認を度々おこなっていきようしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course aims to teach students basic knowledge and research methods about the Japanese classical history book, "Rikkokushi"(Six National Histories of Japan chronicling the history of Japan from the earliest times to 887). At the end of the course, students are expected to be able to read Japanese classical records and investigate them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course contents.

The overall class grade will be determined by the following criteria:
Term-end examination: 70%, Contribution during class: 30%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講VII

久野 美樹

授業コード：A3217 | 曜日・時限：木1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド、中央アジア、中国の美術史を学びます。

【到達目標】

アジアの物質文化、思想を理解し、さらに日本文化とアジアの文化の関係を知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回配布するレジュメ（授業の要約）を基にスライドを見ながら学んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	美術史学について 仏教、仏教美術の基本	美術史学とはどういう学問かを学ぶ 上座部仏教と大乘仏教、その美術
第2回	B.C.3.-A.D.2c.の北西インド	仏像出現以前、以後の北西インド
第3回	大乘の仏像の誕生	A.D.1c.に仏像が誕生し、大乘仏教が興起して造られた仏像をみる
第4回	インドの石窟寺院	インドを代表する石窟寺院アジャンタ石窟、エローラ石窟を学ぶ
第5回	中央アジアの美術	西域北道クチャの美術、西域南道ホータンの美術
第6回	敦煌莫高窟初期窟	現存A.D.5c.-6c. 背半の敦煌莫高窟初期窟の造形と信仰を学ぶ
第7回	漢民族様式と北方民族様式	魏晉南北朝絵画にみる漢民族様式と北方民族様式
第8回	北魏の漢化と雲岡石窟	北魏の祭天儀礼の漢化と雲岡石窟概説
第9回	龍門石窟北魏窟	北魏龍門石窟の代表：古陽洞と皇帝勅願窟の賓陽中洞
第10回	唐代龍門石窟奉先寺洞像	日本奈良東大寺大仏像の思想的淵源である龍門奉先寺洞像の造形と思想的背景を学ぶ
第11回	敦煌莫高窟A.D. 6 c. 前半西魏時代窟第285、249窟	莫高窟第285窟の造形に西方（インド・中央アジア）様式、漢民族様式を学ぶと共に、そこで修行していた僧たちの信仰を考える
第12回	唐時代敦煌莫高窟の大画面形式の壁画	日本の仏教信仰にも大きな影響を与えた観音信仰、阿彌陀信仰を敦煌の壁画に学ぶ
第13回	密教と曼荼羅	大乘仏教が進み生み出された密教と曼荼羅を学ぶ
第14回	期末試験	配布するプリントにある5枚の図について解説していただく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書に挙げた『世界美術大全集 東洋編』小学館を中心に読むことで、授業後4時間以上復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

『世界美術大全集 東洋編』全18巻各国・時代別有 小学館 1997 - 2001、
 『中国の美術』昭和堂 2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局 2016、
 『増補新訂 カラー版東洋美術史』美術出版社 2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術 2012、『中国石窟 キジル石窟』全3巻 平凡社 1983 - 1985、
 『中国石窟 敦煌莫高窟』1巻 - 3巻 平凡社 1980 - 1981、高田修『アジャンタ』平凡社 1971、久野美樹『中国の仏教美術』東信堂 1999、
 『日本美術全集3 東大寺・正倉院と興福寺』小学館 2013

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、小テスト30%。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業終了後に質問を受け付けます。どのようなことでも遠慮なく質問してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)This course introduces Art History of India, Central Asia and China to students taking this course.

(Learning Objectives)By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding Asian Material Culture, Asian Thought and the Relationship between Japanese and Asian Culture.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:70%, Short reports:30%.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講VIII

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島の預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】

この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は講師による講義と受講生による課題の作成・提出で構成されます。課題は毎回の授業内容に関する論述です。提出された課題については次の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第2回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第3回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第4回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第5回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第6回	統一の崩壊と再生	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第7回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第8回	ウマイヤ朝の限界	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第9回	ウマイヤ朝の衰退、アッバース朝の誕生	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第10回	アッバース朝カリフ権力の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第11回	革命をもう一度	アミーンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第12回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第13回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出した課題を再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次のキーワードについて調べることが予習になります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】

・概説書

小杉泰,『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）, 講談社, 2016年。
菊地達也編著,『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年。

・工具書

大塚和夫ほか編,『岩波イスラーム辞典』, 岩波書店, 2002年。
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出の課題（50％）、期末レポート（50％）

課題については毎回素点をつけ、その累積を成績評価の50％に換算します。期末レポートについては、レポート作成要領を5月中に配布するので、それに基づいて計画的にレポート作成に取り組んでください。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価します。レポートの点数を成績評価の50％に換算します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDF ファイルを閲覧できるPC やスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

【Learning activities outside of classroom】

Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)

The papers will be graded based on the cumulative score.

The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講IX

篠原 琢

授業コード：A3219 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2025年は第二次世界大戦終結の80周年を迎えた年だった。しかし周年記念行事や記念出版の数は少なく、行われたとしても比較的小さな規模でしかなかった。第二次大戦を直接経験し、記憶を継承できる人々がこの世をさつつあるからばかりではない。ロシアのウクライナ侵攻やガザ戦争によって、第二次世界大戦後に成立した国際秩序の基礎が根本的に脅かされ、第二次世界大戦の終結を現代世界の出発点と考える歴史像が揺るがされているからでもある。

第二次世界大戦は計画的組織的な大量殺戮、大量破壊によって終末論的破局をもたらした。戦後秩序は（少なくともヨーロッパ半島、東アジアでは）、こうした破局を繰り返さないという前提の下に構築された。冷戦体制は「核戦争の恐怖」によって支えられていたばかりではない。二次大戦の経験が根本に置かれたのである。冷戦体制は第二次世界大戦の勝者の歴史像を規範的な語りとしていたが、1980年代以降、第二次世界大戦を過去に葬るために、さまざまなトラウマ的過去が想起され議論されるようになった。

中央ヨーロッパではナチの人種的社会的改造、ソ連の社会主義的実験、複雑な内戦状況の連鎖のなかで、破壊と暴力の急進化が進み、「歴史の断絶」といえるほどの破局がもたらされた。冷戦の終結前後から、中央ヨーロッパ社会はこの破局に社会的に向き合うことを求められたのであった。授業では第二次世界大戦の記憶をめぐる1980年代以降今日にいたる激しい議論を検討し、第二次大戦を「過去に葬る」努力とは何だったのか、歴史と記憶をめぐる議論が中央ヨーロッパ社会の未来の構想にどのように結びついていたのかを考える。戦争の影が濃くなる今日、第二次世界大戦の記憶を改めて見直し、歴史を現代社会の課題に結びつけて考えることが授業の目標である。

【到達目標】

中央ヨーロッパにおける第二次世界大戦を歴史的に理解するのに必要な知識を身につける。

過去と現在の対話を観察することで歴史のなかに未来像を考えることができる。

社会における「集合的記憶」の機能を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	1. イントロダクション	集合的記憶をめぐる和解と紛争について解説する。
講義	2. 中央ヨーロッパにおけるユダヤ人／ユダヤ教徒の略史	中央ヨーロッパで大きな存在感をもったユダヤ教徒／ユダヤ人の社会の歴史を略述する。
講義	3. 「植民地戦争」としてのナチ・ドイツの東欧支配	ナチ・ドイツの東欧占領政策を植民地的略奪の観点から考える。
講義	4. 絶滅政策の展開と東欧社会	ユダヤ人絶滅政策（ホロコースト）の焦点となった東欧社会の占領政策について講義する。

講義	5. 戦後の「記憶」	戦争経験者の「個人的記憶」のあり方を考える。
講義	6. ドイツ歴史家論争（1986／87年）何が問題だったのか。	ドイツ歴史家論争の論点とその意義を明らかにする。
講義	7. 東西ドイツの統合とナチズム・絶滅政策の過去	「歴史家論争」が統一ドイツにどのように引き継がれたのか検討する。
講義	8. 「多方向的な記憶」 移民国家としてのドイツにおける絶滅政策の記憶	「移民国家」となったドイツにおいてナチズム、ホロコーストの記憶をどのように継承すべきかの議論を跡づける。
講義	9. 「哀れなポーランド人がゲッソーを見つめている」（1987）	冷戦末期に論じられるようになったポーランドにおけるユダヤ人と絶滅政策の記憶の問題を考える。
講義	10. イェドヴァブネ論争から『夜は続く』まで	ポーランド社会に大きな波紋を呼んだ、絶滅政策に対する「ポーランド人の関与」について考える。
講義	11. 東部境界地域（Kresy）・西部「回復領」をめぐる	第二次世界大戦後、ポーランドからソ連に割譲された東部地域、ドイツからポーランドに移管された西部「回復領」をめぐる歴史の語りを検討する。
講義	12. チェコスロヴァキア異論派におけるドイツ人追放問題論	チェコスロヴァキアからのドイツ系住民の追放問題について、異論派（社会主義体制に抗議する人々）の批判的言論を検討する。
講義	13. スロヴァキア独立国の評価	ナチ・ドイツの後見の下に独立したスロヴァキア独立国家の評価をめぐる議論を考える。
講義	14. 「歴史家論争 2.0」とまとめ	1980年代の「歴史家論争」を参照しながら戦わせられた現代ドイツのホロコーストの記憶をめぐる議論を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する文献で予習・復習してください。本授業の標準的な準備・復習時間は100分程度です。The standard time for the preparation and the review of each lecture is about 100 min.

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメントシート全部で50%、期末のレポートで50%で評価します。

Comment sheets: 50% and Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The year 2025 marked the 80th anniversary of the end of World War II. However, commemorative events and publications were few in number, and those that did occur were relatively small in scale. This is not solely because those who directly experienced World War II and could pass on their memories are gradually passing away. It is also because Russia's invasion of Ukraine and the Gaza War have fundamentally threatened the foundations of the international order established after World War II, shaking the historical narrative that views the end of World War II as the starting point of the contemporary world.

World War II brought about an apocalyptic catastrophe through planned, systematic mass murder and mass destruction. The postwar order (at least in the European peninsula and East Asia) was built on the premise of preventing such a catastrophe from recurring. The Cold War system was not sustained solely by the “fear of nuclear war.” The experience of World War II was placed at its very foundation. While the Cold War system adopted the victors’ historical narrative as its normative discourse, from the 1980s onward, various traumatic pasts began to be recalled and debated in an effort to bury World War II into the past.

In Central Europe, amid Nazi racial social engineering, the Soviet socialist experiment, and a chain of complex civil wars, destruction and violence radicalized, bringing about a catastrophe that could be called a “rupture in history.” From around the end of the Cold War, Central European societies were compelled to confront this catastrophe socially. This course examines the intense debates surrounding the memory of World War II from the 1980s to the present. It explores what the effort to “bury the war in the past” entailed and how discussions about history and memory were linked to visions for the future of Central European societies. As the shadow of war grows darker today, the course aims to reexamine the memory of World War II and connect history to the challenges of contemporary society.

Learning activities outside of classroom: The standard time for the preparation and the review of each lecture is about 100 min.

Grading criteria: Comment sheets: 50% and Final report: 50%

HIS100BE（史学 / History 100）

日本史序説

齋藤 智志

授業コード：A3226 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年
備考（履修条件等）：史学科の2022年度以前入学生は「日本史序説II（A3213）」を履修する
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。
史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業（第2回～第12回）は前半・後半に分かれています。前半は、講義形式でそれぞれの時代の概観を行います。後半は、①各時代がどのようにイメージされてきたか・いるかをその社会的背景とともに考える回と、②史料を読んで自ら時代像を捉える回とがあり、これらを通じて、歴史の多角的な見方を学んでいきます。
レジュメとスライドを用いた講義を中心とし、適宜小課題（史料読解など）にも取り組んでもらいます。
毎回、リアクションペーパーに記入してもらい、次の授業や学習支援システムなどで共有する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概論	・授業方針について ・歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第2回	文化の黎明と国家形成	・時代の概観1 日本列島における文化の黎明 ・日本の黎明の描かれ方：神話的古代史像からサブカルチャーとしての縄文・古墳まで
第3回	古代の国家と社会	・時代の概観2 律令国家の成立と変容 ・古代遺跡の復元を考える：武蔵国府・国分寺付近を事例として
第4回	中世社会の成立	・時代の概観3 院政から武家政権へ ・絵巻物から見る中世社会：『一遍聖絵』を読む
第5回	中世社会の諸相	・時代の概観4 室町・戦国時代の動乱 ・戦乱の時代の英雄像と庶民像
第6回	幕藩体制の成立	・時代の概観5 江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 ・「江戸ブーム」の歴史と現在
第7回	幕藩体制の動揺	・時代の概観6 社会の変動と幕政改革 ・村の生活と社会変動：『聞聞集録』を読む
第8回	近代国家の形成	・時代の概観7 明治維新と立憲国家の成立 ・変遷する「明治」イメージ
第9回	近代国家の展開	・時代の概観8 デモクラシーと帝国主義 ・帝国を見せる：第五回内国勲業博覧会
第10回	近代の社会と文化	・時代の概観9 明治・大正期の文化変容と工業化 ・伝統文化の発見：文化財保護前史
第11回	第二次世界大戦と日本	・時代の概観10 軍部の台頭と総力戦 ・戦時下の雑誌を読む：『少年倶楽部』と『写真週報』

第12回	戦後日本の歩み	・時代の概観11 戦後改革と高度経済成長 ・昭和ノスタルジーを考える
第13回	歴史意識の歴史と現在	・授業全体のまとめ ・近現代の歴史学と歴史意識
第14回	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として一週間前にデータ共有するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。
授業終了後はレジュメ等の資料を読み返して復習し、内容の理解を深める。小課題が出された場合はこれに取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。配布資料を用いて授業を行います。

【参考書】

佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000年
『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全4巻）山川出版社、2016年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017年

【成績評価の方法と基準】

平常点60％（リアクションペーパーや小課題への取り組みなどを含みます）
期末試験40％
※期末試験の受験は必須とします。

【学生の意見等からの気づき】

私語への注意が不十分との指摘がありました。この授業では会話を可とする時間もありますが、そうでない時間帯での私語については注意していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、学習支援システム（WebClass）の機能を用いることがあります。学習支援システムにログインできる機器（ノートPC、タブレット、スマートフォンなど。いずれか）を持参してください。なお、特にノートPCかタブレットの持参を推奨する回があるので、その都度お知らせします。

【その他の重要事項】

毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。
また、授業期間中、学習支援システムおよびメールで常時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

HIS200BE（史学/History 200）

歴史特講

皆川 卓、柏木 一郎、内田 康太、高井 康行、宇都宮 美生

授業コード：A3227 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の歴史学界では、対象とする地域により日本史、東洋史、西洋史の3分野に分かれ、それぞれの内部で独自の問題意識に基づき研究が行われてきた。その一方で、各分野に共通するテーマや複数の地域にまたがる問題もあり、それらをさまざまな角度から考察してみることで、新たな歴史の見方や描き方を学べるのではないか。そのような機会を提供するのが、本授業の目的である。今年度の主題は、「帝国」である。時代と地域を越えた帝国の在り方について、帝国の果たした役割と影響（たとえば交流による共通化、民族のナショナリズム形成）やその歴史的意義などを考える。授業では時代も地域もさまざまな帝国についてみていく。

【到達目標】

- ・諸地域に現れた帝国の特徴とその歴史的意義を理解する。
- ・複数の地域の事例を比較検討したり、それらの相互関係を把握したりすることを通じて、歴史を複眼的・総合的に考える力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、複数の教員が交代で授業を担当するオムニバス形式（講義）で行う。各回の授業は原則として講義だが、資料に基づくディスカッションの機会も設けたい。質問や課題については、授業内で回答・コメントをするか、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで次の授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。 担当：皆川
第2回	帝国について：概要と論点	帝国と世界の一体化について考える。 担当：皆川
第3回	ローマ帝国1	ローマ帝国の概要について学ぶ 担当：内田
第4回	ローマ帝国2	ローマ帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：内田
第5回	モンゴル帝国1	モンゴル帝国の概要について学ぶ 担当：宇都宮
第6回	モンゴル帝国2	モンゴル帝国の多様性と共通化について学ぶ 担当：宇都宮
第7回	神聖ローマ帝国1	神聖ローマ帝国の概要について学ぶ 担当：皆川
第8回	神聖ローマ帝国2	神聖ローマ帝国の国際性について学ぶ 担当：皆川
第9回	征服王朝1	征服王朝の概要について学ぶ 担当：高井
第10回	征服王朝2	征服王朝と東アジア世界について学ぶ 担当：高井
第11回	大日本帝国1	大日本帝国の概要について学ぶ 担当：柏木
第12回	大日本帝国2	大日本帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：柏木
第13回	大日本帝国3	大日本帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：柏木
第14回	授業内試験	期末試験とまとめ 担当：皆川

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を復習するとともに、授業で示す参考文献を読み、自主的に理解を深めること。また、各講師の指示にしたがうこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でのプリント配付、あるいは学習支援システムからダウンロードする（各講師の指示にしたがうこと）。

【参考書】

山本有造編著『帝国の研究－原理・類型・関係』名古屋大学出版会、2003年
岡本隆司編著『宗主権の世界史－東西アジアの近代と翻訳概念』名古屋大学出版会、2014年
南塚信吾編著『国際関係史から世界史へ』ミネルヴァ書房、2020年
鈴木重編著『帝国の崩壊』（上下巻）山川出版社、2022年
その他、各講師が随時指示をする。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【重要】10分以上の遅刻は欠席とし、入室を認めない（遅延証明書持参のものは入室可）。授業中のPC使用を禁止する。写真撮影、録音、録画も禁止する。違反するものは退室させる。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心掛ける。

【Outline (in English)】

Japanese history is divided into three fields based on the region they focus on: Japanese history, Eastern history, and Western history. Within each field, research has been conducted based on a unique set of issues. However, there are also themes common to each field and issues that span multiple regions, and by examining these from various angles, it may be possible to learn new ways of looking at and depicting history. The purpose of this class is to provide such an opportunity.

This year's theme is "Empire." We will consider the role and influence of empires across time and region, their historical significance, and the role and impact they have played (for example, commonality through exchange and the formation of ethnic nationalism). In this class, we will look at empires from a variety of eras and regions.

(Learning activities outside of classroom)

The recommended time for preparatory study and review for this course is two hours each. Review the content of each class, read the reference materials provided in the lessons, and work independently to deepen your understanding. Also, follow the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy)

- ・Regular grade (class participation, effort on assignments): 50%
- ・Final exam: 50%

[Important] Being more than 10 minutes late will be considered absent, and entry will not be allowed (those with a late certificate may enter). Using a PC during class is prohibited. Taking photos, recording audio, or video is also prohibited. Violators will be asked to leave.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

自然環境論

福與 直人

授業コード：A3417 | 曜日・時限：木4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模および地域的な環境変動に焦点を当て、自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とします。過去の環境変動から現代の環境問題までを縛らずに抽出し、持続可能な未来に向けた課題を考察します。これにより、現代社会における環境問題を多角的に理解する能力を養います。

【到達目標】

過去の地球環境変動についての基礎知識を理解できる。
 現代の環境問題とその背景を説明できる。
 持続可能な社会に向けた課題について論述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、毎回スライドを投影します。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法を説明する。
2	地球環境の基礎1	現在の地球環境がどのように成り立っているのかを概説する。
3	地球環境の基礎2	現在の地球環境がどのように維持されているのかを概説する。
4	地球環境の基礎3	現在の地球環境がどのように維持されているのか、主に炭素に着目して概説する
5	過去の環境をどう確かめるか	過去の地球環境をどのように復元するのか学ぶ。
6	繰り返す寒冷期と温暖期："長時間"スケールの地球環境変動	比較的安定的な地球環境も「長時間」スケールでは変動してきたことを学ぶ。
7	気候が急に変わるとき："短時間"スケールの地球環境変動	「短時間」スケールでも地球環境は変動してきたことを学ぶ。
8	環境の変化が社会に関わる時	主に近代以前の環境変動と人類社会との関わりについて学ぶ。
9	社会が環境を変えるとき	主に近代以降の環境変動と人類社会との関わりについて学ぶ。
10	地球温暖化(1)	地球温暖化の実態やメカニズムについて学ぶ。
11	地球温暖化(2)	地球温暖化に対する影響と将来予測について学ぶ。
12	地球温暖化と環境問題	地球温暖化に対する緩和策と適応策、その他の環境問題について学ぶ。
13	人新世とはなにか	「人新世」と呼ばれる時代区分について概観する。
14	最終試験とまとめ	最終試験を行い、授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習し、授業で習った内容に関連することを自ら図書館やインターネットで自分なりに調べて、理解を深める努力が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目に従い、評価を行います。

平常点：10%

毎回のリフレクションペーパーによる評価：40%

期末試験：50%

なお、出席率が2/3に達しない者は評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

リフレクションおよび期末テストに関してはアンケートを踏まえ、実施方法を改善する。
 前年度よりも内容を絞り、より基本的な事項から立ち返って説明する。

【学生が準備すべき機器他】

文系系系問わず、また高校時代に地理や地学を履修していない学生も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course focuses on global and regional environmental changes, providing students with foundational knowledge about the natural environment. By examining past environmental changes and modern environmental issues, students will develop a multifaceted understanding of current environmental challenges and explore pathways toward a sustainable future.

Learning Objectives

By the end of this course, students should be able to:

Understand the fundamental knowledge of past global environmental changes.

Explain the background and causes of current environmental problems. Critically analyze and discuss challenges for achieving a sustainable society.

Learning Activities Outside of Classroom

Before and after each class, students are expected to review the course materials and independently research topics related to the lecture content using library resources or the internet. Students should dedicate at least 2 hours of preparation and review for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be calculated as follows:

Class participation: 10%

Reflection papers: 40%

Final examination: 50%

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（1）

村田 陽平

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化地理学において、主要な潮流であるジェンダー地理学を理解することを目的とする。

【到達目標】

空間や場所におけるジェンダーやセクシュアリティ、ポジショナリティを十分に理解し、文化地理学を身近なものとして認識できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、文化地理学とジェンダー、セクシュアリティをわかりやすく解説し、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の全体像の提示
第2回	文化地理学とジェンダー	フェミニスト地理学の誕生
第3回	文化地理学とセクシュアリティ(1)	LGBTの空間経験(1)
第4回	文化地理学とセクシュアリティ(2)	LGBTの空間経験(2)
第5回	文化地理学とセクシュアリティ(3)	「女性専用車両」の意味
第6回	文化地理学とポリティクス(1)	政治という場所
第7回	文化地理学とポリティクス(2)	男性・異性愛の空間構造
第8回	文化地理学と広告(1)	自然な風景
第9回	文化地理学と広告(2)	身体と空間
第10回	文化地理学と男性	ホモソーシャルな空間
第11回	文化地理学と女性	地理学界のジェンダー
第12回	文化地理学とポジショナリティ	建築、空間、場所
第13回	文化地理学と現象学(1)	空間の認識論
第14回	文化地理学と現象学(2)	よりよい空間へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の復習や授業中に紹介する関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会、¥3800円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100％）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

文化地理学 (2)

村田 陽平

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化地理学の概要について学ぶ。基本的には、指示するテキストの講読という形で、1980年代以降大きな変貌を遂げた「新しい」文化地理学の内容を知り、その批判的受容につとめることを目的とする。

【到達目標】

新しい文化地理学についての知識を得るとともに、それを基軸にして地球大の人間の生活空間を認識する視点を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

下記に指示するテキストを精読する。担当者が担当部分を読み、それに適宜解説を加えながら、議論していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的の確認
第2回	序章	読解と発表, 議論①
第3回	テキスト第1章	読解と発表, 議論②
第4回	テキスト第2章①	読解と発表, 議論③
第5回	テキスト第2章②	読解と発表, 議論④
第6回	テキスト第3章	読解と発表, 議論⑤
第7回	テキスト第4章①	読解と発表, 議論⑥
第8回	テキスト第4章②	読解と発表, 議論⑦
第9回	テキスト第5章①	読解と発表, 議論⑧
第10回	テキスト第5章②	読解と発表, 議論⑨
第11回	テキスト第6章	読解と発表, 議論⑩
第12回	テキスト第7章①	読解と発表, 議論⑪
第13回	テキスト第7章②	読解と発表, 議論⑫
第14回	テキスト終章	読解と発表, 議論⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。事前の文献読み込みが必須である。それをもとに授業で不明な箇所などを読み解き理解してゆく。

【テキスト（教科書）】

村田陽平（2012）『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』世界思想社

【参考書】

特に指定はしない。

【成績評価の方法と基準】

口頭の発表時の準備状況と問題設定(50%)、授業時の議論の内容(50%)を斟酌して判断・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>文化地理学

<研究テーマ>健康の地理学、感情の地理学、空間の男性学

<主要研究業績>

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会

村田陽平（2012）『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』世界思想社

【Outline (in English)】

This seminar is on Human Geography, especially on Social and Cultural Geography. The aims and goals of this seminar are to comprehend and present and discuss about contents of selected texts. In addition, for students who must write a graduation thesis can get some practical supports. Grading will be decided based on in-class contribution. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Judgment and evaluation will be made by taking into consideration the state of preparation and problem setting at the time of oral presentation (50%), and the content of discussion during class (50%).

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）		
民俗学Ⅰ		
室井 康成		
授業コード：A3809 曜日・時限：木5/Thu.5 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年 備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3859）で履修する。		
その他属性：〈他〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 日本民俗学の創始者・柳田国男（1875－1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。		
【到達目標】 「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第2回	DVD『柳田国男－民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第3回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第4回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第5回	詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第6回	近代化論と農政思想	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第7回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。
第8回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第9回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第10回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第11回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第12回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第13回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。		
【参考書】 福田アジオ『種明かししない柳田国男－日本民俗学のために』（2023年、吉川弘文館） 室井康成『柳田国男の民俗学構想』（2010年、森話社） 室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（2019年、中央公論新社） 室井康成『政治風土のフォークローア－文明・選挙・韓国』（2023年、七月社） 岩本通弥他編『民俗学の思考法－〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』（2021年、慶応義塾大学出版会） その他は、授業時に配布するレジュメで紹介しします。		
【成績評価の方法と基準】 ・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、最終講義の3～4回前の授業時にお知らせします。 ・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。		
【学生の意見等からの気づき】 特になし。		
【学生が準備すべき機器他】 特になし。		
【その他の重要事項】 特にありませんが、近現代の日本および東アジアの歴史に興味がないと、退屈な時間を過ごさざるを得なくなります。		
【Outline (in English)】 【Course outline】 In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan. 【Learning Objectives】 Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore. 【Learning activities outside of classroom】 Reading the bibliography. 【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination;100%		

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学Ⅱ

室井 康成

授業コード：A3810 | 曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3860）で履修する。
その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約2000ヶ所近く存在する。場合によっては1000年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、好奇の対象ともなっているが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探索する。

【到達目標】

過去に起きた戦争の死者をめぐる霊的処遇のあり方は、時に国際間の政治問題へと発展する。そうした場合、直近の戦争の事例（日本の場合はアジア・太平洋戦争）がクロースアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身につけることで、日本文化のより正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありませんが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。また、講義内で講師へのアクセス方法を通知しますので、講義時間外でも質問等は受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第2回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第3回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第4回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第5回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第6回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（1）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第7回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（2）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第8回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（1）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第9回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（2）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第10回	関ヶ原の戦いの戦死塚（1）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第11回	関ヶ原の戦いの戦死塚（2）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第12回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争（とくに鳥羽伏見の戦い）の事例を検討します。
第13回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、自身で積極的に調べてください。また授業時間外の学習は、テキストの通読（2時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円（税別）

【参考書】

テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、終講の3～4回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

特にありませんが、日本史全体への興味がないと、講義中は退屈な時間を過ごすことになります。ただし、上記の興味・知識がなくても、これを機会に本講義のテーマについて学んでみたいと考える履修生に対しては、丁寧に指導します。また、春学期の「民俗学Ⅰ」を履修しておくこと、より理解が深まります。

【Outline (in English)】

・ Course outline

in japan, there are about 2,000 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.

・ Learning Objectives

Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.

・ Learning activities outside of classroom

Review resumes and read references.

・ Grading Criteria /Policy

Written exam (100%) on the last day of the lecture

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論 I

松本 隆志

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広がっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラムという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラムという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を歴史的見地から主体的に考えるための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせない、イスラム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラムの基礎的知識について、後半部では、そのイスラムが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生の課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「イスラム世界」とは何か？
第2回	聖典『クルアーン』の世界	イスラムにおける『クルアーン』の内容とその重要性について
第3回	イスラムの教義	六信五行などイスラムの基本的な教義について
第4回	イスラムの世界観	一神教に共通する世界観とイスラム固有の世界観について
第5回	イスラムの誕生と共同体の成立	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラム共同体の拡大過程について
第6回	イスラム共同体の分裂	第一次内乱から世襲王朝ウマイヤ朝成立に至る過程と歴史的意義について
第7回	第二次内乱と神のカリフ	ウマイヤ朝半ばに生じたカリフのあり方をめぐむ争いについて
第8回	アッバース朝とカリフ権力	アッバース朝初期におけるカリフ権力確立の模索について
第9回	イスラム法とスーフィズム	アッバース朝半ばにおけるイスラム法とスーフィズムの確立・展開について
第10回	西方のイスラム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラム諸王朝について
第11回	イスラム世界とキリスト教世界	地中海を介した交易や十字軍における中東・ヨーロッパ世界の接触について
第12回	モンゴルとイスラム	アッバース朝滅亡後の歴史的展開について
第13回	イスラム世界と第一次世界大戦	オスマン帝国と第1次世界大戦後の国際社会について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では西アジアだけではなく、ヨーロッパや、時に中央アジア・南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みることで復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
佐藤次高『イスラム世界の興隆』中公文庫、2008
佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『バグダッド・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業資料にて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）と毎回の授業終了後に提出する課題（50%）で評価する。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。レポート作成要領を5月中に配布するので、そちらに基づいて計画的にレポート作成に取り組むこと。毎回提出される課題に素点を付し、学期終了時に課題合計点を成績評価の50%に換算する。また、学期末のレポートの点数を成績評価の50%に換算する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDF ファイルを閲覧できるPC やスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めに作成します。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.

【Learning Objectives】

Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)

Students are allowed to look at the materials in the exam.

The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論Ⅱ

松本 隆志

授業コード：A3812 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラムをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もなお進行中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラムの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラム認識を相対化する視座を提供することを目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラム、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせないイスラム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラムの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンについて
第3回	イスラムの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラム的な慣習について
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネスについて
第5回	イスラムにおける女性	イスラムにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観との関係について
第6回	日本におけるイスラム	在日・滞日ムスリムコミュニティの歴史と現状について
第7回	イスラム法学	イスラム法学の歴史的背景と現代での役割について
第8回	スーフィズム	スーフィズム（イスラム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割について
第9回	スンナ派とシーア派	イスラムの二大派閥の概要と歴史的背景について
第10回	イスラムにおける奴隷	前近代イスラム社会における「奴隷」のあり方について
第11回	イスラムの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラム特有の経済倫理について
第12回	イスラム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状について
第13回	現代の中東情勢	近現代中東史の文脈における「イスラム国」の経緯について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回授業資料をHoppiiにて配布します。

【参考書】

小杉泰, 江川ひかり編, 『イスラーム：社会生活・思想・歴史』, 新曜社, 2006年.
 小杉泰ほか編, 『大学生・社会人のためのイスラーム講座』, ナカニシヤ出版, 2018年.
 菊地達也編著, 『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年.
 その他、授業中に各テーマに適した参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40%）で評価します。毎回提出の課題に素点を付け、学期終了時に合計点を成績評価の40%に換算します。
 レポートについては、詳細を記した作成要領を10月中にHoppiiで配布予定です。授業で学習した内容を出発点とし、参考文献等の情報を加え、論理的に私見を述べられていることを評価します。レポートの点数を成績評価の60%に換算します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (=westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.

【Learning Objectives】

This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Termend examination: 60%, Short reports : 40%

HUG200BA (人文地理学 / Human geography 200)

歴史地理学 (1)

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅰ」を修得済みの場合は履修不可。
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史地理学について説明します。2. 日本における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。
大学の方針で、対面授業を基本としますが、オンライン授業も導入します。学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします。授業の効率化のため紙での配布しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など
第2回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論、歴史地理学史を学ぶ
第3回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第4回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ ヒロシマの原爆ドーム、姫路城などの事例を学ぶ
第5回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第6回	奈良の歴史地理	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第7回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第8回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、江戸時代の京都の名所、近代・現代の歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第9回	伏見の歴史地理	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第10回	江戸東京の歴史地理①	江戸の都市構造、江戸の名所について学ぶ

第11回	江戸東京の歴史地理②	東京の都市構造、東京の名所、人々の観光行動の変化について学ぶ
第12回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第13回	大阪の歴史地理②	近代以降の大坂城の意義、大阪のまちづくり
第14回	歴史観光都市・観光地の取り組み	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験50%、平常点50%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学部や他学部の学生も遠慮なく履修してください。ビデオなど映像教材も活用します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認することができるように、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.
【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and practice about historical geography of heritage and tourism.
【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end examination:50% and in class contribution:50%

HUG200BA (人文地理学 / Human geography 200)

歴史地理学 (2)

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水1/Wed.1
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可。
 ・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどのようなものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。大学の方針により、対面授業としますが、オンライン授業も導入します。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します。授業の効率化のため、紙での配布はありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について
第2回	画像資料を通して地理的認識をめぐる歴史地理学	画像資料の利用方法を中心に、新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHKスペシャルを鑑賞する
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地理	千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	現代に生きるアイヌ民族の若者たち	NHKスペシャルを鑑賞する

第14回 日本におけるアイヌ民族の政策と実態 日本における先住民族政策史をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的状况についておさえる
北海道平取町、白老町のウポポイについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局を使います。授業に持参してください。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、平常点50%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に教科書の記述をもとにパワーポイントで捕捉しながら説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination: 50%
and in class contribution:50%

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学A (1)

坪本 裕之

授業コード：A3905 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の中心的なテーマは、働く場たる「オフィス」の視点からの、就労・居住を中心として構成される現代都市空間の理解である。高次経済機能と就労の接点が、物理的空間としての「オフィス」である。21世紀に入ると、オフィスは「ワークプレイス」とも称されているが、それは「ワーカー」の存在によって成立しているからであり、ホワイトカラーの働く場としてより強く意識されるようになってきた。それは、グローバルスケール、国土スケールでは大都市に、都市内部では都心に立地し集積する。高次の経済機能はワーカーによって具現化され現実の都市空間に結びつき、オフィスというミクロな空間の集積によって地理的空間として認識される。経済のグローバル化、高度化が進行する中で、ホワイトカラーの働く場所のあり様も変化し多様化しているが、未だオフィスを旧態前とした画一的な性格の前提で立地や都心地域が語られることが多い。さらにオフィスの立地は、郊外住宅地の発生とともに職住分離を進行させ、都市域の拡大に寄与し居住にも強く影響してきたが、近年は都心居住が進み職住近接への変化が指摘されている。この講義では、大都市都心を中心として集積するオフィスを、立地をベースとして企業組織や場の構築など多様な視点から捉え、それが集積する「働く場所」としての業務地域＝地理的空間の特徴を考察する。加えて、働く場所のフィルターを通じて、これまで就労とは関係性が意識されず語られてきた都市居住も捉え直す。さらに授業では、「都心回帰」や「ジェントリフィケーション」「働き方改革」さらにはコロナ禍を経た働く場所のあり様の変容など、近年の都市をめぐる重要なトピックも取り上げる。近年の地域問題が発生するメカニズムについて考察する契機にして欲しい。それが、問題への対処や解決への道筋を考える一助となると考える。

【到達目標】

(1) 大都市の地理的拡大・再編プロセスや地理学の基礎概念を踏まえて、地域の問題を理解し説明すること、(2) 経済活動に伴うグローバル、国土、都市内部といった多元的な空間スケールとその関係性を理解すること、(3) 地理学的な図表を読み込み理解出来ること、を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面型授業を行う。授業資料の配布と課題の提出、課題についての個別の講評をToyoNet-Aceで行い、総評を授業内で行う。15回の講義とは別に、授業の理解を深めるため、希望者を対象として東京もしくは東京周辺地域を対象とした半日程度の日帰り巡検を予定している。詳細は授業内で告知する（希望者のみ、出席点・成績評価の対象としない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と内容、進め方、評価について解説する。
2	都市内部構造と都市の成長拡大	基本的な内部構造モデルと成長モデルをもとに、広域な都市地域の形成、特に職住分離が形成されるメカニズムについて考える。
3	「オフィス」をめぐる地理学的研究	オフィスの定義をもとに、都市システムの視点：国土スケール、都市内部スケールで立地する場所について考察する。
4	オフィス立地の広域的展開	国土スケールで階層的に拡大してきたオフィス立地について考える。
5	都市中心部の構築と再編	企業活動の広域化を前提とした、広域中心都市における都心部の形成と更新について紹介する。
6	産業の立地拡大と大都市の拡大管理	自然地理学的な視点を踏まえつつ、東京大都市圏が形成された過程と都市域のコントロールについて概説する。都心地域の再開発が進む東京都心の産業構造や就業構造の変化について概説する。加えて、再開発に伴う企業不動産の再構築過程についても取り上げる。
7	東京都心の空間再編	

8	新たなオフィス空間の創出と企業組織	知識産業の成長に伴う企業組織の変化と、新しいオフィス形態の具体的導入事例を紹介する。その下で起こる、大都市圏空間の再編や国土スケールでの立地の変化の可能性について考える。
9	企業移転：大手生命保険会社の事例	郊外移転した企業の具体的事例、移転に至るまでの経緯と地元自治体の対応、移転のメリットとデメリットを考える。
10	オフィス空間のグローバリ化・サービス化と都市空間	都市再生化にあるグローバル企業のオフィス戦略、「フレキシブルオフィス」のありようを紹介し、働く場所の今後を予測する。
11	大都市周辺都市の再編：横浜の事例	周辺都市の機能変化、特に「オープンノベーション」を前提としたまちづくりについて考える。
12	郊外住宅地の形成	東京多摩地域における住宅地域の形成過程について、職住分離に着目して考察する。
13	郊外住宅地の高齢化と持続性	12の内容を踏まえて、郊外住宅地の課題について近年の動向も併せて考察する。
14	都市中心地域の人口増加とジェントリフィケーション	仕事の変化に伴う居住の変化とそれに伴う働く場所との関係性について、人口の「都心回帰」現象を踏まえて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

複数回で課題（作業時間2時間程度）を出すので期限までに提出すること。下記の通り、事前に配布する資料を読んでおくこと（1時間程度）。加えて、最終課題レポートに向けて、授業で紹介する事例と対比できるよう、居住地や大学周辺の地域の問題についても適宜、新聞記事やwebなどの情報を集めておいて欲しい。（各回当たり1時間程度）。

【テキスト（教科書）】

事前に配布する資料をもとに授業を進める。

【参考書】

藤井 正・神谷浩夫編著（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房（定価2,860円＋税）
藤塚吉浩・高柳長直編著（2016）『図説 日本の都市問題』古今書院（定価2,750円＋税）
藤本典嗣（2017）『テキスト都市地理学』中央公論社（定価2,750円＋税）

【成績評価の方法と基準】

最終課題レポートの得点を70％、課題の提出状況出席点として30％とし、合計して法政大学の成績評価基準に基づき評価する。ただし、課題の3分の2以上が未提出の場合、最終課題レポートを受理しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

非常勤のためオフィスアワーは特に設けていません。連絡や相談は、授業前後もしくはメール（htsubo@tmu.ac.jp）までお願いします。

【Outline (in English)】

The main goal of this course is to understand the concept of the "office" as a modern urban space where one works and lives. The office is a physical space where higher economic functions and actual work coincide. In the 21st century, the office has come to be called a "workplace" because it was established by the existence of "workers," and has become increasingly recognized as a place for white-collar workers. Globally and nationally, these are located and concentrated in the centers of big cities and towns. Workers embody higher economic functions and form connections with this urban space, while workplaces are seen to consist of geographic locations formed of accumulated micro-spaces called offices. White-collar workplaces are changing and diversifying with the globalization and acceleration of the economy, but it is still often the case that offices are mainly located in the city center, as they have tended to be for years. Office locations have promoted the separation of workplaces and residences along with the emergence of suburban residential areas. They have contributed to the expansion of urban areas and have greatly affected housing and living arrangements, causing a shift in the proximity of workplaces and residential areas. This course will focus on offices concentrated in central areas of the metropolis. The construction of corporate organizations and venues, etc. will be viewed from various perspectives with location in mind. Business areas will be considered as the geographic locations where "workplaces" have accumulated. Students will understand urban living as it relates to workplaces in ways that they had not previously realized. This course will cover important current topics related to cities, such as "re-urbanization," "gentrification," "work-style reform," and so on. Students are encouraged to take this opportunity to investigate the reasons behind the occurrences of recent regional problems. By doing this, students will learn ways to deal with and solve problems.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学A (2)

堤 純

授業コード：A3906 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（1）（A3426）」として履修する
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本と世界の都市を事例に、都市の発達によって生じる様々な変化と、それに伴う諸問題について理解を深める。また、都市の発達に影響を与えてきた交通機関の影響や、都市に暮らす人々のライフスタイルやマインドの変化などの視点から、現代の都市および将来の都市の姿について展望する。
【到達目標】
1. 都市の形態的・機能的な特徴を説明できる。
2. 都市内部の構造や、各都市の性格を形成する諸要因について具体例を挙げて説明できる。
3. 都市に暮らす人々の視点から、現代の都市の特徴について一例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義/Lecture
【授業の進め方と方法】
対面による授業を予定していますが、担当教員の都合により3～5回程度のオンデマンドの回がある見込みです。いまのところ、授業形態としては、ひとまずすべて対面と表記しますが、前述の通り、オンデマンドの回がある見込みです。詳細は、法政大学のルールに従うことにします。どの回が対面で、どの回がオンデマンドになるかは、初回の授業時（初回は必ず対面）にアナウンスします。リアクションペーパー（500字未満）は毎回書く事を求めます。詳しくは、【成績評価の方法と基準】欄も併せて参照して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業で扱う内容や履修上の重要事項について解説する。
2	城下町と近代都市（東京、松山ほか）	日本の県庁所在都市の大半が城下町時代に起源があることとをふまえ、現代都市の発展に必要な諸要因について講義する。
3	都市の発達と発展サイクル（交通）	一般的に都市は誕生から成長、発展、衰退、そしてまた回復するライフサイクルがあることについて講義する。
4	地価と都市空間の立体化	利便性の高い土地には需要が集中し、その度合いは地価という指標で表すことができることを講義する。
5	世界と日本の都市システム（支店経済都市と世界都市）	都市は単体で存在するのではなく、他都市との関係性の中で成り立っていることを講義する。
6	都市の内部構造	都市の内部構造を示す代表的な3つの古典モデルを取り上げ、共通点と相違点について講義する。
7	インナーシティ問題とセグレーション	世界の大都市はインナーシティ問題を共通して抱えていることを講義する。
8	都市再開発とジェントリフィケーション	グローバリゼーションとともに急速に増加したジェントリフィケーションの功罪について講義する。
9	都市住民のライフスタイルからみた商業地域構造	日本の地方都市でとくに深刻化する空洞化や商業・サービス業の変化について、都市住民のライフスタイルの観点から講義する。
10	都市の時間と空間（時間地理学）	人々はさまざまな制約の中で合理的な選択を行うことを演繹的に説明した時間地理学のモデルについて講義する。
11	都市のイメージと文化景観	都市の発達は、社会・経済・歴史・文化などの側面から多様な形態をとることを講義する。
12	都市成長と移民（New York）	世界で最も魅力的な都市の一つであるニューヨークについて講義する。

13	新しい都市の形（サステナブルシティ、コンパクトシティ、スマートシティ）	これからの都市の将来像について講義する。
14	試験・まとめと解説	試験実施（LMSにレポートを提出するスタイルを予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で使うパワーポイントのスライド（空欄穴埋め式）はおおむね当該授業の前週の授業日までにはLMS上にアップされているので、次週の授業までの間にあらかじめ目を通して、空欄に入る用語を予習した上で当日の授業に臨むとよい（2時間）。パワーポイントの内容と、授業時の教官の口頭説明や板書内容を書き取った自筆ノートとを比較しながら復習する（2時間）。
The PowerPoint slides (filling-blank-space type) to be used in the class are subject to being uploaded on the LMS by the week before the class, so it is recommended that students read through the slides before the next class and try to find the terms that fit blanks before attending the class (2 hours). Review the contents of the PowerPoint slide by comparing your answer with the instructor's oral explanations (2 hours).

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。

【参考書】
特定の参考書は使用しない。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーで50%、期末試験（LMSにレポートを提出するスタイルを予定）にて50%。
50% on the reaction paper assigned in each class, and 50% on the final exam (report will be submitted to the LMS).

【学生の意見等からの気づき】
この授業は2026年度が初回につき、まだアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
LMS上にアップされる資料を閲覧できる端末（PCやタブレット等）。

【その他の重要事項】
毎回の授業で用いる教材（パワーポイント資料、授業動画）は、LMS上で公開します。
担当教官は非常勤講師ゆえ、オフィスアワーはありません。質問・連絡事項がある場合は、メール（jtsu@geoenv.tsukuba.ac.jp）で受け付けますが、その際、必ず「PCのメールアドレス（GmailなどのWebmail可）」から送信して下さい。未着トラブルが多いので、携帯ドメイン（docomo, ezweb, softbank等）からのメールには返信しません。

【Outline (in English)】
Using cities in Japan and around the world as case studies, I will explore our knowledge of the various urban changes brought about by urban development and the associated issues. Furthermore, I will explore the future of cities from the perspectives of transport systems, urban lifestyles, and urbanites' mindsets.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学B (1)

甲斐 智大

授業コード：A3907 | 曜日・時限：火4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（2）（A3427）」として履修する
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「所得機会—消費機会—共同生活機会」の関係性の変化を手がかりに、地域社会がどのように形成・変容してきたのかを解説する。その際、地域の変化と、人々の労働（生産）や子育て・食料消費（再生産）/といった実践が相互に影響しあうプロセスに注目する。さらに、統計や景観に表れる現象の背後で作用する社会的調整や排除・包摂のメカニズムを検討することで、資本主義社会における地域課題の発生メカニズムへの理解を深める。

【到達目標】

1 空間や地域をつくる過程において、非市場的な原理がいかに影響を与えるのかを理解する。
 2 名目的な「公正さ」を担保する過程で、いかなる「不公正」が生じているのかを理解する。
 3 多様な立場の人々の実践を分析することで、現代社会における社会的排除と包摂のメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行う。ただし、講義は学生の意見を確認しながら進める。また、講義中に学生同士での意見交換を行うことがある。一部ゲスト講師を招聘する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地理学における本講義の位置づけを解説する。
第2回	ローカルな共同体の中で成立した経済システムと保育	度経済成長期以前の地域社会における労働力調整と社会再生産の仕組みについて解説する。
第3回	郊外空間の成立と女性の働き方	日本の住宅政策と働き方の変化について整理し、郊外での子育ての特徴を整理する。
第4回	都心回帰時代の保育サービス需給のミスマッチ 1	都心回帰の背景と、それが保育サービス需給に与えた影響について解説する。
第5回	都心回帰時代の保育サービス需給のミスマッチ 2	世界都市の労働市場の特徴とそこでの保育サービス需給をめぐる課題について解説する。
第6回	外国人集住地区と子育て	多様な経済モデルを用いて、統計などに現れない外国人家族の子育ての困難さと、それを支える見えない社会的調整メカニズムの存在とその限界点を解説する。
第7回	日雇い労働が創り出した空間	家族形成から排除された労働者の空間の特徴とジェントリフィケーションについて解説する。
第8回	派遣労働と地域	派遣労働の地方への拡大の背景とリーマンショックが地方農村部に与えた影響について解説する。
第9回	農と食べ物と食文化	農と食べ物と食文化の関係性を解説する。
第10回	農，食，食文化を切り離したもの	農，食，食文化を切り離しが生じたメカニズムを解説する。
第11回	経済成長と食の変化	経済成長による食の変化について解説する。
第12回	農業の競争力を決めるもの	農業政策の変化を踏まえつつ、農業の競争力がいかに規定されているかを解説する。
第13回	情報を消費する食	情報化と食の関係について
第14回	まとめ	現代社会における地域課題を理解する枠組みについて整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義中に適宜示す。

【成績評価の方法と基準】

・各回の内容に関するコメントカード内容（毎回ではありません） 30%
 ・講義の全体に関する試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本講義では複数回の休講—補講を予定している。
 詳細については初回の講義で説明する。

【Outline (in English)】

This course explores how regional societies are formed and transformed through changes in the relationships among income opportunities, consumption opportunities, and opportunities for collective life. It focuses on the ways in which regional change and people's everyday practices — such as work (production) and childcare and food consumption (reproduction)— interact with one another. The course also examines the underlying mechanisms of social coordination, exclusion, and inclusion that shape regions beyond what is visible in statistics or landscapes, in order to better understand the emergence of regional issues in contemporary capitalist societies.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学B (2)

甲斐 智大

授業コード：A3908 | 曜日・時限：火4/Tue.4
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、2014年以降の地方創生政策を中心に、現代日本の地域政策と地域労働市場の実態を社会経済地理学の視点から批判的に検討する。具体的にはグローバル・国家・地域・個人の各スケール間での複雑な権力関係と相互作用を分析することで、東京一極集中の是正を謳う地方創生政策が、実際には地域間格差・地域内格差を拡大させる逆説的側面を内包していることを理解させる。同時に、政策の隙間を縫って展開される地域独自の生存戦略―過疎ビジネス、ヤンキー文化、介護労働市場、特定地域づくり協同組合など―に着目し、中央の政策論理では捉えきれない地域社会の複雑な適応メカニズムについて解説する。

【到達目標】

- 1 多様な経済モデルとマルチスケール分析による分析視角を身につける。
- 2 地方創生政策の持つ「逆説的側面」や「利用される地方」という批判的分析の内容を理解できる。
- 3 画一的な政策論理では捉えきれない地域独自の適応戦略の意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では学生の意見を確認しながら講義を進める。場合によってはペアワークなどを実施することも想定される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	氷山モデルとマルチスケール概念について解説する。
第2回	地方への人口流出のメカニズム	高度経済成長期以降、地方から都市部への人口移動が本格化した要因を解説する。
第3回	国土政策と地方1	国土政策によって発展した地方都市について解説する。
第4回	国土政策と地方2	地方における公共事業に意義と問題点について解説する。
第5回	国土政策と地方3	国土政策によって発展した地方都市が抱える現代的課題を解説する。
第6回	地方消滅論と地方間格差	特定地域づくり事業協同組合制度を事例に社会連帯経済と地方間格差の発生要因について解説する。
第7回	地方創生と不良文化	地域の担い手として元不良をどの様に位置づけるかについて解説する。
第8回	地方創生と不良文化	不良文化と独自の教育システムが支える地方の労働市場について解説する。
第9回	地方創生政策と人的資源の外部調達	地方創生に関わる政策とこれに関わる多様な主体の役割について解説する。
第10回	特産品を起点とする地域活性化	産業集積と地域活性化について解説する。
第11回	国際情勢の変化が地方にもたらすもの	トランプ関税を含む国際情勢による地域産業への影響について解説する。
第12回	産業・地域・行政 DX の推進と地方の課題	DXが推進される社会的背景を踏まえつつ、地方におけるこうした取り組みの必要性を解説する。
第13回	地方創生施策の問題点	ふるさと納税やデジタル田園都市国家構想がもたらす逆説的側面について解説する。
第14回	まとめ	本講義で登壇したゲスト講師を含めたディスカッションを行い、各回の内容を理論的に位置付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「新産業都市大分の60年」 2026年8月末発売予定

【参考書】

講義中適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の内容に関するコメントへの記入 30%

期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ゲスト講師の登壇を予定している。

【Outline (in English)】

This course examines regional policy and labor markets in contemporary Japan through the lens of socio-economic geography, focusing on local revitalization policies introduced since 2014. By analyzing interactions and power relations across global, national, regional, and individual scales, the course highlights the paradox that policies intended to reduce Tokyo-centered concentration may actually deepen regional and local inequalities. In addition, the course explores region-specific survival strategies — such as depopulation-related businesses, Yankii youth culture, care labor markets, and special regional cooperative schemes — that develop outside formal policy frameworks, shedding light on the complex ways in which regional societies adapt to changing conditions.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学C (1)

佐々木 達

授業コード：A3909 | 曜日・時限：火3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可
 その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済現象は地域性をどのように作り出すかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて、地域社会や地域経済の変容メカニズムについて企画的な方法論を学習することを狙いとする。

【到達目標】

到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。
 到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること
 到達目標③：産業立地の基本的枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域の特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理の見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。

授業開始時には、前回のリアクションペーパーに基づいて、講義内容に関する質問や感想について答える。また、講義内容に関する理解度を推し量るために、小問題を課し、回答をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済現象の地域性の解明とは？	経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。
第2回	社会科学としての地理学	社会を科学するとは？
第3回	社会的分業と地域の形成①	地域は最初からあるものではなく、作られるものである。
第4回	社会的分業と地域の形成②	資本主義社会の元での地域
第5回	産業立地と地域経済の発展	立地論と地域経済の理論について解説する。
第6回	農業立地論と日本の農業地域	チューネンの農業立地論
第7回	食料供給の地理学	これからも腹いっぱい食べることができるか？
第8回	食のグローバル化はどう進んだか？	グローバル商品としての「醤油」を事例に
第9回	工業立地論と日本の工業地域	ウェーバーの工業立地論
第10回	工業の地方分散と農村工業化	立地論の適用事例
第11回	中心地理論とコンビニの立地戦略	同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？
第12回	立地競争と日本の商業環境	均衡立地と最適立地
第13回	土地利用を読み解く地図学習の方法	仙台市の交通渋滞の原因は伊達政宗にある！？
第14回	試験とまとめ	試験を実施し、まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から日本経済新聞等に目を通して、社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

中澤高志『経済地理学とは何か』、旬報社、2021年
 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著『経済地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2020年
 竹中克行編著『人文地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2015年
 竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本 第9版』、東洋経済新報社、2014年
 松原宏編著『地域経済論』、古今書院、2014年
 川端基夫『改訂版立地ウォーズ』、新評論、2013年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（50%）、期末試験（50%）に基づいて総合的に成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic framework of economic geography.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the basic characteristics of economic geography.
2. Understanding the mechanisms of regional socio-economic transformation.
3. Understanding the explanation of industrial location theory.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学C (2)

佐々木 達

授業コード：A3910 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（3）（A3428）」として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから、日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】

授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌

到達目標①：日本経済の変化とそのもとでの国土空間の利用の特徴を理解すること

到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること

到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。第2部は、日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて、現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。

また、上記の方法を確認するために、双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本の経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生産構造と国土利用	近代的産業、植民地、地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年、食料消費の多様化、食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』、大明堂、1978年
 石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』、古今書院、1986年
 生源寺真一『日本農業の真実』、ちくま新書、2011年
 吉川洋『高度成長』、中公文庫、2012年
 増田寛也編著『地方消滅』、中公新書、2014年
 中澤高志『住まいと仕事の地理学』、旬報社、2019年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（50%）、試験（50%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use
2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.
3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学

奥西 好夫

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。中間課題は個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第3回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン (1)	・組織構造
第10回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものだ。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に1回課題提出を行い、それと期末試験の合計得点（ウェイトは50：50）で成績を評価する。

・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。

・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非こちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・The final grade depends on the total points of the assignment and the final exam (the weights are 50:50).

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）

奥西 好夫

経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。中間課題は個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第3回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン (1)	・組織構造
第10回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものだ。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に1回、課題提出を行い、それと期末試験の合計（ウェイトは50:50）で成績を評価する。

・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。

・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。

履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam (the weights are 50:50).

MAN200FD (経営学 / Management 200)

日本経営論 I

金 容度

市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4 (市場経営学科) 3～4 (経営学科・経営戦略学科) 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特異性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、毎週授業で講義についての質問を提出してもらい、次の授業でその質問について答える。それに、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
第2回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観する。
第3回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリアパス、経営上の特性、経営者報酬などについて講義する。
第4回	トップマネジメントの日米比較	20世紀の日米企業の経営者にどのような共通点と相違点があるかを講義する。
第5回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンス(企業統治)の特徴を検討する。
第6回	日本のコーポレートガバナンスの変化	1990年代以降、日本のコーポレートガバナンスはどのように変化しているかを講義する。
第7回	コーポレートガバナンスの日独比較	日本とドイツのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第8回	コーポレートガバナンスの日米比較	日本とアメリカのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第9回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究開発活動の特徴を講義する。
第10回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本の経営の「3種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義する。
第11回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	内部労働市場が形成された戦後日米企業で、70年代まで、労使関係・人的資源管理上にどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第12回	労使関係・人的資源管理の日米比較③	1980年代以降最近まで、日米企業の労使関係・人的資源管理においてどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第13回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を時期別に分析、講義する。
第14回	日本の企業経営の展望	今後の日本の企業経営の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は毎週授業支援システムに掲載する。

【参考書】

①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直(2018)『現代日本経済第4版』有斐閣

②金容度(2021)『日本の企業間取引』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験(70%)、授業中の小試験(30%)である。授業中の小試験は3回行われる。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文(1回)についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】

【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on business management in Japan. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論Ⅱ

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間の取引のケースが取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、毎週授業で講義についての質問を提出してもらい、次の授業でその質問について答える。それに、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
第2回	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
第3回	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
第4回	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
第5回	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
第6回	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
第7回	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
第8回	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第9回	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第10回	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
第11回	鉄鋼の企業間関係 1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
第12回	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
第13回	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、その企業間取引を検討する。
第14回	日本の企業間関係の展望	今後の日本の企業間関係の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- ①金容度(2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
- ② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
- ③金容度(2006)『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験70%、授業中の小テスト30%(1回10%×3回)。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文(1回)についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】

【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on the inter-firm relationships. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN300FD（経営学 / Management 300）

広告論

宮井 弘之

市場経営学科専門科目300 番台市場経営学科専門科目300 番台 市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

【到達目標】

広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる。

学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる。

広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる。

広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室による対面での授業を前提とする。ゲストスピーカーの講義は過去評判の良かったものを録画として上映する。その場合ZOOMとなる。数回グループワークを行う。授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく。

また、実務家からいただいた講話に関して質問を行ってもらう。課題などに対するフィードバックは、適宜議論の土台となりそうな生徒のものを匿名で取り上げて解説することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第2回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第3回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】大手広告代理店 営業部長（録画を利用）
第4回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第5回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第6回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】広告制作会社 プランナー（録画を利用）
第7回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第8回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】大手広告代理店 クリエイティブ・ディレクター（録画を利用）
第9回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】大手メディアレップ テレビ担当（録画を利用）
第10回	インターネット広告（1）	インターネット広告とは インターネット広告の種類 【講話】若手デジタルマーケティングプランナー（録画を利用）
第11回	インターネット広告（2）	インターネット広告の実例紹介

第12回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例
第13回	広告効果測定と法務	広告測定の様々な手法 グローバル広告の可能性と実例 広告規制と法務
第14回	これまでの総まとめ	これまでの総まとめ（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、具体的な広告事例を収集してもらう準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり4時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

「現代広告論 第3版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

期末試験は行わない

1) 授業毎のグループワーク等を通じた、リアクションペーパーの内容 (50%)
2) 最終回におけるレポート課題 (50%)

授業中は私語は一切禁止するので、静かに聴講できない生徒は受講しないこと。特に入学以来オンライン講義が多い世代はグループディスカッションの経験が少ないため、授業内にグループワークを取り込む。グループワークに参加できないものには単位を与えないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

就職活動など将来の進路に悩む学生も多く、実務家の講話が極めて有効であることがわかったため、本年も実務家の講話は継続する

【学生が準備すべき機器他】

実務家の講話は、ZOOMで実施になるので、視聴できる機器等を準備すること。

【その他の重要事項】

現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家になるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

【関連科目】

マーケティング論

【Outline (in English)】

【Outline】In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.

【Goal】

1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.
2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.
3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising
4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend about 4 hours per class for preparation and review.

【Grading criteria】

No final exam will be given.

1. reaction paper through group work in each class (50%)
2. final report assignment (50%)

No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.

Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツメディア論

小池 隆俊

配当年次／単位：1～4年年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアには新聞・雑誌や放送などの既存メディアと近年急速に発達したインターネットメディアがある。それぞれがスポーツをどう捉え、どのような形で情報を発信してきたのかの実態を深く知るところを目的とする。メディアが歴史的にどう発生し、どんな変化を遂げてきたのか。その軌跡と現状を把握しながら、今後予想されるスポーツメディアの世界を読み解く能力を身に着けることを目指す。

【到達目標】

放送、インターネット、新聞・雑誌、それぞれのメディアの特徴が何かを説明することができる。スポーツメディアの変化について、自分なりに分析する力を身に付けることができる。判断する力、自分の考えを構築する力を養い、それを言語化し表現する力を持つことをゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で行う。ニュース記事やテレビ番組、ネット動画などを随時取り上げ理解の促進材料とする。学習支援システムを用い、授業ごとに数問の選択式小テストを行い理解度を確認し、その内容について次回にフィードバックする。講師自身がスポーツ放送に携わっていることから、現場体験も伝える。スポーツの注目すべき出来事が起きた場合は授業の内容や順番を変更することもある。また、状況によりオンデマンドに変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス	講師の自己紹介。授業内容や授業の進め方、成績評価方法の説明。受講生のスポーツ歴やメディア使用状況などのアンケート。
2回	オリンピックと平和	国連で休戦決議がされても今年のミラノ・コソティナオリンピックは戦火が止まない中での開催となった。創設者クーベルタンは平和運動としてオリンピックを提唱したが何度も戦争や紛争に影響を受けてきた。その歴史を描いた番組を通じてオリンピックと平和について考察する。
3回	スポーツメディアのさきがけ新聞・雑誌	スポーツを伝えるメディアの中で歴史が最も長い活字メディア。始まりとともにスポーツに関心を寄せ、報道するだけでなくスポーツの主催者とも深くかかわってきた。新聞・雑誌といった活字メディアの歩みを追う。

4回	放送メディアの誕生と発展	ラジオの誕生はスポーツ報道に劇的な変化を生む。それはLIVE（同時性）を手に入れたことによる。さらに映像を加えたテレビは大衆を虜にした。オリンピックを節目に技術を進化させスポーツメディアの中核とになっていった放送メディアの歴史を見る。
5回	スポーツの商業化によるアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化・商業化を促し、一方で近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。この過程を追うことはスポーツの発祥と発展の歩みを知ることにつながる。
6回	テレビによるスポーツ支配	スポーツ組織、スポンサー企業そしてメディア企業、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げてきた。その過程で競技日程の変更や競技ルール変更などテレビによるスポーツ支配とも呼ばれる状況が生じた。
7回	放映権料高騰の歴史と要因	1984年のロサンゼルスオリンピックは商業化路線の始まりとして広く認知されている。その後、衛星放送やpayテレビの普及とも相まって放映権料は高騰が続く。そしてネット配信の登場によりさらに激化の様相を呈している。
8回	OTTの台頭とユニバーサルアクセス権	サッカーW杯やWBCに見るようにビックイベントではOTTによる有料配信が台頭している。一方、誰もが視聴できるようにすべきというユニバーサルアクセス権も叫ばれ始めている。その現状を分析する。
9回	スポーツ中継	スポーツ報道には、ニュース、中継、ドキュメンタリー、スタジオ番組などあるが、なかでも高視聴率をマークし長時間視聴者を釘付けにするのがナマ中継。その中継現場に身を置く経験からスポーツナマ中継の仕組みや演出についての考え方などを解説する。
10回	スポーツドキュメンタリー	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。優れた作品を見ながらテレビスポーツドキュメンタリーを紐解く。
11回	スポーツイノベーション	スポーツ競技をとらえるカメラの高度化、解析システムの発達、CG技術の進化などはスポーツの見方を変え、競技力の向上や戦略にも多大な変化をもたらしている。変化の真ただ中にある現状を洞察する。
12回	誰もがメディアになる時代	SNSで選手が情報発信することは日常的になっている。マスメディアに頼らず自己プロデュースする動きも盛んに行われている。具体的事例を見ながら、そこに潜む問題点にも目を向ける。

13回	スポーツメディアの 近未来	インターネットがメディアの中 心となりつつある中、既存メ ディアのネット展開も急速に進 展し、大融合時代を迎えている。 また5Gの実用化で新たな映像 技術が次々に開発され、その進 歩は目覚ましい。メディアのこ れからを探る。
14回	授業全体のまとめと レポート提出	これまでの授業で取り上げてき た内容・用語を整理し再確認す る。課題として提示したリポー トの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、インターネット、新聞・雑誌によるスポーツ報道に日々目を配り、目にとまった出来事をメモに留めておきたい。それぞれの報道を鵜呑みにせず、自身の経験や他人の意見も取り込みながら、自分なりの考えを構築してることが重要。準備学習・復習時間合わせて4時間以上をとりながら授業に向かおう。

【テキスト（教科書）】

特に使用せず

【参考書】

「21世紀スポーツ大辞典」中村敏雄ほか編集主幹 大修館書店
「日本スポーツ放送史」橋本一夫 大修館書店
「よくわかるスポーツ文化論」井上俊 菊幸一編著 ミネルヴァ書房
「スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった」佐塚元章 文芸社
「情報爆発時代のスポーツメディア」滝口隆司 創文企画
「現代スポーツ評論 2・4・1」 清水論責任編集 創文企画

【成績評価の方法と基準】

各授業内での小テストもしくはレポート50%。
学期末レポート課題50%。両方の内容を総合的に判断して評価する。
レポートは記述のオリジナリティ、論理構成、表現方法を重点に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に則した写真や映像資料が大変好評であった。今年度も授業の理解促進に役立つものを随時提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを持参すること。

【その他の重要事項】

40年以上にわたりアナウンサー、プロデューサーとして仕事をしてきた講師が、その経験をもとにスポーツメディアを論じる講義。

【Outline (in English)】

【Course outline】There has been a variety of sports media such as long-standing newspapers, broadcasts, and modern internet-oriented media. The objectives of this course are to develop a vast knowledge on how these media have been approaching and reporting the sporting news.

【Learning Objectives】This course is designed to help students learn to become able to:1.Explain the characteristics of each media such as broadcasting, the Internet, and newspapers.2.Analyze the ever-changing media situation in one's own way.

【Learning activities outside of classroom】Keep an eye on sporting events in daily basis and take a note of the events that caught your attention.Summarize your own thoughts on the events that you found interesting.At least 4 hours of preparation and review.

【Grading Criteria/Policy】Submission of assignments after each class 50%. Submission of a term paper 50%. Students will be evaluated based on the total score of the class assignments and the term paper.

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

リーダーシップ論

浅井 玲子

配当年次／単位：1～4年年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：2023年度までに「リーダーシップ論Ⅰ」を修得済の場合、履修不可

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える

本授業ではスポーツに関わる視点を中心にリーダーシップに関する理論を学び、それを踏まえて自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。

リーダーシップに関する知識習得と合わせて、それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」について考える礎となることを期待します。

【到達目標】

- ・リーダーシップを自分自身の問題として捉える
- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
- ・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
- ・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのビジョンを獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の学習と合わせて、自己分析やグループワークなどを通じて「自分の影響力」や「自分なりのリーダーシップ」について振り返りを実施し、授業内での課題やリアクションペーパーの提出を行います。

課題は学習支援システムを通じて提出、採点を行い、各履修生へ適宜返却をします。

情勢を鑑みて可能であれば、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは
2	リーダーシップに関する理論①	・リーダーシップの概念とは
3	リーダーシップに関する理論②	・リーダーシップ研究の主な流れ
4	リーダーシップに関する理論③	・リーダーシップとフォロワーシップ
5	リーダーシップを学び、育てるために必要なこと	・リーダーシップ開発に必要な視点 ・経験学習のモデル
6	リーダーシップと自己概念	・カール・ロジャーズの理論 ・ジョハリの窓
7	リーダーシップに関する行動	・フィードバックの視点
8	【特別講義】リーダーシップの実際	・スポーツチームにおけるリーダーシップの実際（外部講師招聘予定）

9	リーダーシップとコミュニケーション①	・コミュニケーションに関する視点
10	リーダーシップとコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）
11	リーダーシップとチームビルディング①	・チームとは何か ・集団規範 ・場の理論
12	リーダーシップとチームビルディング②	・タックマンモデル ・心理的安全性
13	総括	リーダーシップを活用するための展望
14	授業内試験	習熟度確認のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りの基準で総合的に成績評価を行います。

A. 毎回の課題…各10点とし、提出回数および内容によって評価します。

B. 最終授業におけるレポート…100点満点で評価します。

A. と B. をそれぞれ50%ずつ成績評価に反映します。

提出回数や提出物の内容が評価の基準を満たさない場合には、単位が取得できないので、注意してください。各回の課題では、体験を踏まえたあなた自身の意見が求められます。授業内容をもとに、自身の体験を活かし持論が展開されているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での自己分析や、他の履修生の意見を取り入れることによって気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるように工夫いたします。

また、所属が異なる履修生との意見交換によって視野が広がる有益な機会を得たという感想が多くありましたので、可能な限りそのような機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出は学習支援システムを通じて行う予定です。パソコン、スマートフォン、タブレットなどの学習支援システムにアクセスできる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

公欠届など、欠席に関する届け出は学習支援システムの所定のフォルダのみで受理します。初回ガイダンスの内容を十分に理解して履修してください。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of theories on leadership, and also consider about ideal leadership in your team. The work of the course is done via lecture and group works.

【Goal】

The goals of this course are to

- ・ Obtain basic knowledge about the theories on leadership
- ・ Discover individual ideal leadership style

【Grading criteria】

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ Class attendance and attitude in class, contribution to group work: 50%
- ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours . As a preparation, please get into the habit of checking current events related to "leader" and "leadership" by yourself. You may be asked to speak up in class, so come to class with the image of a leader who will serve as your own model.

HSS200LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

チームビルディング論

浅井 玲子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：2023年度までに「リーダーシップ論Ⅱ」を修得済の場合、履修不可

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：チームビルディングに関わる理論を学び、チームにおいて自分自身を活かし、実践できることを目指す

本授業ではスポーツに関わる視点を中心チームビルディングに関する理論を学び、優れたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。「シェアードリーダーシップ」の観点から「個々の持ち味を活かしたチームビルディング」について考える礎となることを期待します。

【到達目標】

- ・チームビルディングに関する理論や背景となる知識を習得する
- ・チームの状況や課題について振り返る視点を獲得する
- ・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
- ・チームにおけるリーダーシップを自分自身の問題として捉える
- ・自分らしいリーダーシップのスタイルについて実践、検証する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の学習と合わせて、自己分析やグループワークなどを通じて「自分の影響力」や「自分が所属したことのあるチーム」について振り返りを実施し、授業内での課題提出を行います。課題は学習支援システムを通じて提出、採点を行い、各履修生へ適宜返却をします。情勢を鑑みて可能であれば、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・チームビルディングとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意
2	チームビルディングに関する理論① 「チームとは何か」	・チームビルディング研究の主な流れ ・交流分析
3	チームビルディングに関する理論② 「効果的なチームとは」	・チームビルディング研究の主な流れ ・アドラーの理論
4	チームビルディングに関する理論③ 「チームビルディングにおけるふりかえり」	・コッターの理論 ・カーネギーの理論
5	チームビルディング実習① 「チームをつくる」	・グループワーク
6	チームビルディングに関する理論④ 「チームのバランス」	・PM リーダーシップ理論
7	中間まとめ	・前半のふりかえり

8	チームの評価 「変化について」	・チームワーキング ・グループワーク
9	チームの評価 「変化に適応する」	・レジリエンス ・価値観 ・グループワーク
10	コミュニケーションの分析 「自己理解と他者理解」	・アタッチメント ・内的作業モデル ・グループワーク
11	リーダーシップとチームビルディング② 【特別講義】 チームビルディングの実際	・スポーツチームにおけるチームビルディングの実際（外部講師招聘予定）
12	チームビルディング実習②	・グループワーク
13	総括	授業のまとめ
14	授業内試験	習熟度確認のための試験（レポート形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前準備として、「チーム」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるチーム像やリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りの基準で総合的に成績評価を行います。

A. 毎回の課題…各10点とし、提出回数および内容によって評価します。

特に第12回・第13回授業におけるグループワークの活動を重視します。

B. 最終授業におけるレポート…100点満点で評価します。

A. と B. をそれぞれ50%ずつ成績評価に反映します。

提出回数や提出物の内容が評価の基準を満たさない場合には、単位が取得できないので、注意してください。各回の課題では、体験を踏まえたあなた自身の意見が求められます。授業内容をもとに、自身の体験を活かし持論が展開されているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での自己分析や、他の履修生の意見を取り入れることによって気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるように工夫いたします。

また、所属が異なる履修生との意見交換によって視野が広がる有益な機会を得たという感想が多くありましたので、可能な限りそのような機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出は学習支援システムを通じて行う予定です。パソコン、スマートフォン、タブレットなどの学習支援システムにアクセスできる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

・ 外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

★ 欠欠届など欠席に関する資料は学習支援システムの所定のフォルダのみで受理します。初回ガイダンスの内容を十分に理解して履修してください。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of theories on team building and also consider about ideal leadership in your team. The work of the course is done via lecture and group works.

【Goal】

The goals of this course are to

- ・ Obtain basic knowledge about the theories on team building

- ・ Discover individual ideal leadership style

【Grading criteria】

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ Class attendance and attitude in class, contribution to group work: 50%
- ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours . As a preparation, please get into the habit of checking current events related to "leader" and "leadership" by yourself. You may be asked to speak up in class, so come to class with the image of a leader who will serve as your own model.

HSS200LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツビジネス論

得田 進介

配当年次／単位：1～4年年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：2023年度までに「スポーツビジネス論Ⅰ」を修得済の場合、履修不可

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。

本講義では経営管理強化の具体的な事例を解説し、日本のスポーツ産業の発展に寄与するための基礎知識およびビジネスにおいて最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】

- ・マネジメント人材として、組織経営に必要な専門知識を習得する
- ・組織で生じている課題に対して対応策を立案することができる
- ・自分の考えを伝えて他者を巻き込んでいけるリーダーシップを備えている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業は作成資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについてリアクションペーパーを提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	日本のスポーツ産業の現状（市場規模や課題など）を理解する。
2	マネジメント	マネジメントとは何か、マネジメントの必要性を知る。 組織におけるマネジメントを学ぶ。
3	ガバナンス、コンプライアンス	ガバナンスおよびコンプライアンスとは何か、それらの必要性を知る。 組織体制を整備するために何が必要であるか、どのような対応策を講じるべきかを実際の事例を基に理解する。
4	スポーツチームのビジネスモデル	スポーツチームがどのように運営されているか、主な収益と費用について理解する。
5	アカウンタビリティ	アカウンタビリティとは何か、アカウンタビリティの必要性を知る。 スポーツチームの公開情報を読み取り、スポーツチームの「いま」を知る。

6	スポーツイベントの経済効果	2026年に開催されるビッグイベントについて、ビジネスの視点から理解する。 経済効果について正しく理解する。
7	スタジアム・アリーナの現状	国内のスタジアム・アリーナの現状を把握する。 海外との比較により課題を抽出し、対応策を考える。
8	スタジアム・アリーナの事例	実際のスタジアム・アリーナの開発事例を基に、スタジアム・アリーナ開発の実務を理解する。
9	スポーツマーケティング	マーケティングとは何か、基本知識を知る。 スポーツマーケティングの特徴を理解する。
10	スポーツの価値	スポーツの価値とは何か。 スポーツの価値を具体的に可視化する必要性を理解する。
11	スポーツの経済的価値と社会的価値	スポーツにおける経済的価値と社会的価値を理解する。
12	スポーツチームの露出効果と限界	スポンサーシップの変遷、スポンサーの権利、スポンサーアクティベーションを理解する。
13	これからのスポンサーシップ	スポンサーシップの最新事例、今後のスポンサーシップの姿について理解する。
14	講義まとめ	講義内容についての振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「スポーツチーム経営の教科書」有限責任 あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁
「社会的インパクト評価の手法を用いたスタジアム・アリーナ効果検証モデル報告書」株式会社日本経済研究所

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界における課題と対応策について自らの意見を述べるができるか、で評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー：50%、
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

公認会計士としてスポーツチームの運営や組織体制強化、スタジアム・アリーナ開発に携わっている経験を踏まえて、スポーツ界で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The class will explain specific examples of strengthening business management, and will aim at acquiring the basic knowledge and the minimum necessary professional skills in business to contribute to the development of the sports industry in Japan.

【Learning Objectives】

- ・To acquire the expertise necessary to manage an organization as a management personnel.
- ・To be able to plan countermeasures against problems that arise in organizations.

- ・ To be equipped with leadership skills to convey one's own ideas and to involve others in the process.

【Learning activities outside of classroom】

After attending the class, please review for about four hours to make sure you understand the contents of the class, using related articles and other materials introduced in the class.

【Grading Criteria /Policy】

Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

HSS100LB (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)

アスリートキャリア論

片上 千恵

配当年次／単位：1～4年年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

招聘講師のスポーツにまつわる多様なキャリアに関する講義を聞き、受講者が自身のキャリア形成というテーマのもと、大学での学びをいかに仕事につなげていくか、その手掛かりとなるキャリアプランについて考える。また、日本のスポーツのしくみや現状を理解し、スポーツキャリアの可能性を知ることが目的とする。

【到達目標】

日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わるキャリアについて知る。

講義を通じて、自分のキャリアをイメージし、キャリアプランを立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学生時代に競技活動に励み、現在は社会で活躍している方(ゲストスピーカー)を招いて講義を行う。そこで得られるさまざまな情報や学びを基に自分なりに考察して各種レポートを作成することで、自らのキャリアを考えていく。授業の講義、課題を通して自身のキャリア形成プランニングを行い、キャリア形成に必要なスキルとは何か、スキルを高めるにはどうしたらよいかを学んでいく。授業で記入してもらったリアクションペーパーはゲストにも共有し、いただいたフィードバックは次の授業内、もしくは「学習支援システム」を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション ： 授業の概要の説明 (全体)	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。
2	招聘講義: 広告代理店	講師(ゲストスピーカー)の広告代理店の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
3	招聘講義: サービス	講師(ゲストスピーカー)のサービス業の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
4	招聘講義: 審判員	講師(ゲストスピーカー)の審判員の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
5	招聘講義: 通訳	講師(ゲストスピーカー)の通訳の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
6	招聘講義: スポーツ組織①	講師(ゲストスピーカー)のスポーツ組織における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。

7	招聘講義: スポーツ組織②	講師(ゲストスピーカー)のスポーツ組織における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
8	招聘講義: メディア	講師(ゲストスピーカー)のメディアにおける仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
9	招聘講義: スポーツ広報	講師(ゲストスピーカー)のスポーツ広報における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
10	招聘講義: 競技指導者	講師(ゲストスピーカー)に競技指導者における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
11	招聘講義: 研究	講師(ゲストスピーカー)の研究に関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようになる。
12	招聘講義: メーカー	講師(ゲストスピーカー)のメーカーに関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようになる。
13	招聘講義: 起業家	講師(ゲストスピーカー)の起業家に関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようになる。
14	総括	講義のまとめ：この授業を通して学んだこと、これからのキャリアプランにどのように生かしていきたいかを期末レポートとしてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義前に次回ゲストに関するキャリアについて調べたことを課題とします。講義後は授業で学んだこと、感じたことを復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

その都度授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①毎回の授業レポート（講義の感想並びに自身の意見をまとめる。）70%

②最終レポート 30%

合計：100%

【学生の意見等からの気づき】

受講者が少しでもアスリートや自らのキャリアに興味をもち、これからのキャリア形成を計画的に進めるための有意義な機会となるように努める。講義内では、学生が自由に質問しやすいようアプリを導入するなどしてゲストと学生間の双方向性を高める。

【学生が準備すべき機器他】

授業を通して、講義を聞くだけではなく、自ら発言し、自己表現の場を多くつくることで、社会生活において必要なコミュニケーション能力を高める。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になることがあります。

【Outline (in English)】

Learning Objectives

Athletes will be invited to give lectures on their diverse careers to help students understand the current state of the Japanese sports world. Students will be trained to create a career plan based on what they learn during their university years and how they will connect what they learn to their careers after graduation.

Learning activities outside of classroom

Review what you have learned in each lecture. As a preparation, try to find out about the career and backgrounds of the next lecturers.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on

① Every class report (summarize your impressions of the lecture and your own opinions) 70%

② Final report 30%

Total: 100%

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）		4回	放送メディアの誕生と発展	ラジオの誕生はスポーツ報道に劇的な変化を生む。それはLIVE（同時性）を手に入れたことによる。さらに映像を加えたテレビは大衆を虜にした。オリンピックを節目に技術を進化させスポーツメディアの中核とになっていった放送メディアの歴史を見る。
スポーツメディア論		5回	スポーツの商業化によるアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化・商業化を促し、一方で近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。この過程を追うことはスポーツの発祥と発展の歩みを知ることにつながる。
小池 隆俊		6回	テレビによるスポーツ支配	スポーツ組織、スポンサー企業そしてメディア企業、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げてきた。その過程で競技日程の変更や競技ルール変更などテレビによるスポーツ支配とも呼ばれる状況が生じた。
配当年次／単位：1～4年年／2単位		7回	放映権料高騰の歴史と要因	1984年のロサンゼルスオリンピックは商業化路線の始まりとして広く認知されている。その後、衛星放送やpayテレビの普及とも相まって放映権料は高騰が続く。そしてネット配信の登場によりさらに激化の様相を呈している。
開講セメスター：春学期授業/Spring キャンパス：多摩		8回	OTTの台頭とユニバーサルアクセス権	サッカーW杯やWBCに見るようにビックイベントではOTTによる有料配信が台頭している。一方、誰もが視聴できるようにすべきというユニバーサルアクセス権も叫ばれ始めている。その現状を分析する。
その他属性：〈他〉		9回	スポーツ中継	スポーツ報道には、ニュース、中継、ドキュメンタリー、スタジオ番組などあるが、なかでも高視聴率をマークし長時間視聴者を釘付けにするのがナマ中継。その中継現場に身を置く経験からスポーツナマ中継の仕組みや演出についての考え方などを解説する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		10回	スポーツドキュメンタリー	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。優れた作品を見ながらテレビスポーツドキュメンタリーを紐解く。
メディアには新聞・雑誌や放送などの既存メディアと近年急速に発達したインターネットメディアがある。それぞれがスポーツをどう捉え、どのような形で情報を発信してきたのかの実態を深く知るところを目的とする。メディアが歴史的にどう発生し、どんな変化を遂げてきたのか。その軌跡と現状を把握しながら、今後予想されるスポーツメディアの世界を読み解く能力を身に着けることを目指す。		11回	スポーツイノベーション	スポーツ競技をとらえるカメラの高度化、解析システムの発達、CG技術の進化などはスポーツの見方を変え、競技力の向上や戦略にも多大な変化をもたらしている。変化の真ただ中にある現状を洞察する。
【到達目標】		12回	誰もがメディアになる時代	SNSで選手が情報発信することは日常的になっている。マスメディアに頼らず自己プロデュースする動きも盛んに行われている。具体的事例を見ながら、そこに潜む問題点にも目を向ける。
放送、インターネット、新聞・雑誌、それぞれのメディアの特徴が何かを説明することができる。スポーツメディアの変化について、自分なりに分析する力を身に付けることができる。判断する力、自分の考えを構築する力を養い、それを言語化し表現する力を持つことをゴールとする。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
【主な授業方法】				
L 講義 /Lecture				
【授業の進め方と方法】				
対面の講義形式で行う。ニュース記事やテレビ番組、ネット動画などを随時取り上げ理解の促進材料とする。学習支援システムを用い、授業ごとに数問の選択式小テストを行い理解度を確認し、その内容について次回にフィードバックする。講師自身がスポーツ放送に携わっていることから、現場体験も伝える。スポーツの注目すべき出来事が起きた場合は授業の内容や順番を変更することもある。また、状況によりオンデマンドに変更する場合もある。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
なし / No				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1回	授業全体のガイダンス	講師の自己紹介。授業内容や授業の進め方、成績評価方法の説明。受講生のスポーツ歴やメディア使用状況などのアンケート。		
2回	オリンピックと平和	国連で休戦決議がされても今年のミラノ・コツティナオリンピックは戦火が止まない中での開催となった。創設者クーベルタンは平和運動としてオリンピックを提唱したが何度も戦争や紛争に影響を受けてきた。その歴史を描いた番組を通じてオリンピックと平和について考察する。		
3回	スポーツメディアのさきがけ新聞・雑誌	スポーツを伝えるメディアの中で歴史が最も長い活字メディア。始まりとともにスポーツに関心を寄せ、報道するだけでなくスポーツの主催者とも深くかかわってきた。新聞・雑誌といった活字メディアの歩みを追う。		

13回	スポーツメディアの 近未来	インターネットがメディアの中 心となりつつある中、既存メ ディアのネット展開も急速に進 展し、大融合時代を迎えている。 また5Gの実用化で新たな映像 技術が次々に開発され、その進 歩は目覚ましい。メディアのこ れからを探る。
14回	授業全体のまとめと レポート提出	これまでの授業で取り上げてき た内容・用語を整理し再確認す る。課題として提示したリポー トの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、インターネット、新聞・雑誌によるスポーツ報道に日々目を配り、目にとまった出来事をメモに留めておきたい。それぞれの報道を鵜呑みにせず、自身の経験や他人の意見も取り込みながら、自分なりの考えを構築してることが重要。準備学習・復習時間合わせて4時間以上をとりながら授業に向かおう。

【テキスト（教科書）】

特に使用せず

【参考書】

「21世紀スポーツ大辞典」中村敏雄ほか編集主幹 大修館書店
「日本スポーツ放送史」橋本一夫 大修館書店
「よくわかるスポーツ文化論」井上俊 菊幸一編著 ミネルヴァ書房
「スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった」佐塚元章 文芸社
「情報爆発時代のスポーツメディア」滝口隆司 創文企画
「現代スポーツ評論 2・4・1」 清水論責任編集 創文企画

【成績評価の方法と基準】

各授業内での小テストもしくはレポート50%。
学期末レポート課題50%。両方の内容を総合的に判断して評価する。
レポートは記述のオリジナリティ、論理構成、表現方法を重点に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に則した写真や映像資料が大変好評であった。今年度も授業の理解促進に役立つものを随時提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを持参すること。

【その他の重要事項】

40年以上にわたりアナウンサー、プロデューサーとして仕事をしてきた講師が、その経験をもとにスポーツメディアを論じる講義。

【Outline (in English)】

【Course outline】There has been a variety of sports media such as long-standing newspapers, broadcasts, and modern internet-oriented media. The objectives of this course are to develop a vast knowledge on how these media have been approaching and reporting the sporting news.

【Learning Objectives】This course is designed to help students learn to become able to:1.Explain the characteristics of each media such as broadcasting, the Internet, and newspapers.2.Analyze the ever-changing media situation in one's own way.

【Learning activities outside of classroom】Keep an eye on sporting events in daily basis and take a note of the events that caught your attention.Summarize your own thoughts on the events that you found interesting.At least 4 hours of preparation and review.

【Grading Criteria/Policy】Submission of assignments after each class 50%. Submission of a term paper 50%. Students will be evaluated based on the total score of the class assignments and the term paper.

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

リーダーシップ論

浅井 玲子

配当年次／単位：1～4年年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

備考（履修条件等）：2023年度までに「リーダーシップ論Ⅰ」を修得済の場合、履修不可

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える

本授業ではスポーツに関わる視点を中心にリーダーシップに関する理論を学び、それを踏まえて自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。

リーダーシップに関する知識習得と合わせて、それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」について考える礎となることを期待します。

【到達目標】

- ・リーダーシップを自分自身の問題として捉える
- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
- ・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
- ・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのビジョンを獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の学習と合わせて、自己分析やグループワークなどを通じて「自分の影響力」や「自分なりのリーダーシップ」について振り返りを実施し、授業内での課題やリアクションペーパーの提出を行います。

課題は学習支援システムを通じて提出、採点を行い、各履修生へ適宜返却をします。

情勢を鑑みて可能であれば、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは
2	リーダーシップに関する理論①	・リーダーシップの概念とは
3	リーダーシップに関する理論②	・リーダーシップ研究の主な流れ
4	リーダーシップに関する理論③	・リーダーシップとフォロワーシップ
5	リーダーシップを学び、育てるために必要なこと	・リーダーシップ開発に必要な視点 ・経験学習のモデル
6	リーダーシップと自己概念	・カール・ロジャーズの理論 ・ジョハリの窓
7	リーダーシップに関する行動	・フィードバックの視点
8	【特別講義】リーダーシップの実際	・スポーツチームにおけるリーダーシップの実際（外部講師招聘予定）

9	リーダーシップとコミュニケーション①	・コミュニケーションに関する視点
10	リーダーシップとコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）
11	リーダーシップとチームビルディング①	・チームとは何か ・集団規範 ・場の理論
12	リーダーシップとチームビルディング②	・タックマンモデル ・心理的安全性
13	総括	リーダーシップを活用するための展望
14	授業内試験	習熟度確認のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りの基準で総合的に成績評価を行います。

A. 毎回の課題…各10点とし、提出回数および内容によって評価します。

B. 最終授業におけるレポート…100点満点で評価します。

A. と B. をそれぞれ50%ずつ成績評価に反映します。

提出回数や提出物の内容が評価の基準を満たさない場合には、単位が取得できないので、注意してください。各回の課題では、体験を踏まえたあなた自身の意見が求められます。授業内容をもとに、自身の体験を活かし持論が展開されているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での自己分析や、他の履修生の意見を取り入れることによって気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるように工夫いたします。

また、所属が異なる履修生との意見交換によって視野が広がる有益な機会を得たという感想が多くありましたので、可能な限りそのような機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出は学習支援システムを通じて行う予定です。パソコン、スマートフォン、タブレットなどの学習支援システムにアクセスできる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

公欠届など、欠席に関する届け出は学習支援システムの所定のフォルダのみで受理します。初回ガイダンスの内容を十分に理解して履修してください。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of theories on leadership, and also consider about ideal leadership in your team. The work of the course is done via lecture and group works.

【Goal】

The goals of this course are to

- ・ Obtain basic knowledge about the theories on leadership
- ・ Discover individual ideal leadership style

【Grading criteria】

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ Class attendance and attitude in class, contribution to group work: 50%
- ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours . As a preparation, please get into the habit of checking current events related to "leader" and "leadership" by yourself. You may be asked to speak up in class, so come to class with the image of a leader who will serve as your own model.

HSS200LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

チームビルディング論

浅井 玲子

配当年次／単位：1～4年年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

備考（履修条件等）：2023年度までに「リーダーシップ論II」を修得済の場合、履修不可

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：チームビルディングに関わる理論を学び、チームにおいて自分自身を活かし、実践できることを目指す

本授業ではスポーツに関わる視点を中心チームビルディングに関する理論を学び、優れたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。「シェアードリーダーシップ」の観点から「個々の持ち味を活かしたチームビルディング」について考える礎となることを期待します。

【到達目標】

- ・チームビルディングに関する理論や背景となる知識を習得する
- ・チームの状況や課題について振り返る視点を獲得する
- ・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
- ・チームにおけるリーダーシップを自分自身の問題として捉える
- ・自分らしいリーダーシップのスタイルについて実践、検証する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の学習と合わせて、自己分析やグループワークなどを通じて「自分の影響力」や「自分が所属したことのあるチーム」について振り返りを実施し、授業内での課題提出を行います。課題は学習支援システムを通じて提出、採点を行い、各履修生へ適宜返却をします。情勢を鑑みて可能であれば、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・チームビルディングとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意
2	チームビルディングに関する理論①「チームとは何か」	・チームビルディング研究の主な流れ ・交流分析
3	チームビルディングに関する理論②「効果的なチームとは」	・チームビルディング研究の主な流れ ・アドラーの理論
4	チームビルディングに関する理論③「チームビルディングにおけるふりかえり」	・コッターの理論 ・カーネギーの理論
5	チームビルディング実習①「チームをつくる」	・グループワーク
6	チームビルディングに関する理論④「チームのバランス」	・PM リーダーシップ理論
7	中間まとめ	・前半のふりかえり

8	チームの評価「変化について」	・チームワーキング ・グループワーク
9	チームの評価「変化に適応する」	・レジリエンス ・価値観 ・グループワーク
10	コミュニケーションの分析「自己理解と他者理解」	・アタッチメント ・内的作業モデル ・グループワーク
11	リーダーシップとチームビルディング②【特別講義】チームビルディングの実際	・スポーツチームにおけるチームビルディングの実際（外部講師招聘予定）
12	チームビルディング実習②	・グループワーク
13	総括	授業のまとめ
14	授業内試験	習熟度確認のための試験（レポート形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前準備として、「チーム」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるチーム像やリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りの基準で総合的に成績評価を行います。

A. 毎回の課題…各10点とし、提出回数および内容によって評価します。

特に第12回・第13回授業におけるグループワークの活動を重視します。

B. 最終授業におけるレポート…100点満点で評価します。

A. と B. をそれぞれ50%ずつ成績評価に反映します。

提出回数や提出物の内容が評価の基準を満たさない場合には、単位が取得できないので、注意してください。各回の課題では、体験を踏まえたあなた自身の意見が求められます。授業内容をもとに、自身の体験を活かし持論が展開されているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での自己分析や、他の履修生の意見を取り入れることによって気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるように工夫いたします。

また、所属が異なる履修生との意見交換によって視野が広がる有益な機会を得たという感想が多くありましたので、可能な限りそのような機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出は学習支援システムを通じて行う予定です。パソコン、スマートフォン、タブレットなどの学習支援システムにアクセスできる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

・ 外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

★ 欠欠届など欠席に関する資料は学習支援システムの所定のフォルダのみで受理します。初回ガイダンスの内容を十分に理解して履修してください。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of theories on team building and also consider about ideal leadership in your team. The work of the course is done via lecture and group works.

【Goal】

The goals of this course are to

- ・ Obtain basic knowledge about the theories on team building

- ・ Discover individual ideal leadership style

【Grading criteria】

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ Class attendance and attitude in class, contribution to group work: 50%
- ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours . As a preparation, please get into the habit of checking current events related to "leader" and "leadership" by yourself. You may be asked to speak up in class, so come to class with the image of a leader who will serve as your own model.

HSS200LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツビジネス論

得田 進介

配当年次／単位：1～4年年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。

本講義では経営管理強化の具体的な事例を解説し、日本のスポーツ産業の発展に寄与するための基礎知識およびビジネスにおいて最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】

- ・マネジメント人材として、組織経営に必要な専門知識を習得する
- ・組織で生じている課題に対して対応策を立案することができる
- ・自分の考えを伝えて他者を巻き込んでいけるリーダーシップを備えている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業は作成資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについてリアクションペーパーを提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	日本のスポーツ産業の現状（市場規模や課題など）を理解する。
2	マネジメント	マネジメントとは何か、マネジメントの必要性を知る。 組織におけるマネジメントを学ぶ。
3	ガバナンス、コンプライアンス	ガバナンスおよびコンプライアンスとは何か、それらの必要性を知る。 組織体制を整備するために何が必要であるか、どのような対応策を講じるべきかを実際の事例を基に理解する。
4	スポーツチームのビジネスモデル	スポーツチームがどのように運営されているか、主な収益と費用について理解する。
5	アカウンタビリティ	アカウンタビリティとは何か、アカウンタビリティの必要性を知る。 スポーツチームの公開情報を読み取り、スポーツチームの「いま」を知る。
6	スポーツイベントの経済効果	2026年に開催されるビッグイベントについて、ビジネスの視点から理解する。 経済効果について正しく理解する。

7	スタジアム・アリーナの現状	国内のスタジアム・アリーナの現状を把握する。 海外との比較により課題を抽出し、対応策を考える。
8	スタジアム・アリーナの事例	実際のスタジアム・アリーナの開発事例を基に、スタジアム・アリーナ開発の実務を理解する。
9	スポーツマーケティング	マーケティングとは何か、基本知識を知る。 スポーツマーケティングの特徴を理解する。
10	スポーツの価値	スポーツの価値とは何か。 スポーツの価値を具体的に可視化する必要性を理解する。
11	スポーツの経済的価値と社会的価値	スポーツにおける経済的価値と社会的価値を理解する。
12	スポーツチームの露出効果と限界	スポンサーシップの変遷、スポンサーの権利、スポンサーアクティベーションを理解する。
13	これからのスポンサーシップ	スポンサーシップの最新事例、今後のスポンサーシップの姿について理解する。
14	講義まとめ	講義内容についての振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「スポーツチーム経営の教科書」有限責任 あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁
「社会的インパクト評価の手法を用いたスタジアム・アリーナ効果検証モデル報告書」株式会社日本経済研究所

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界における課題と対応策について自らの意見を述べるができるか、で評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー：50%、
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

公認会計士としてスポーツチームの運営や組織体制強化、スタジアム・アリーナ開発に携わっている経験を踏まえて、スポーツ界で必要とされている人材や知識について事例を基に講義していきます。
スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The class will explain specific examples of strengthening business management, and will aim at acquiring the basic knowledge and the minimum necessary professional skills in business to contribute to the development of the sports industry in Japan.

【Learning Objectives】

- ・To acquire the expertise necessary to manage an organization as a management personnel.
- ・To be able to plan countermeasures against problems that arise in organizations.
- ・To be equipped with leadership skills to convey one's own ideas and to involve others in the process.

【Learning activities outside of classroom】

After attending the class, please review for about four hours to make sure you understand the contents of the class, using related articles and other materials introduced in the class.

【Grading Criteria /Policy】

Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

HUI100NA（人間情報学 / Human informatics 100）

認知科学 建築・他学部公開

SEONG YOUNG AH

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の‘こころ’と脳の仕組みや働き、関係性を科学的に理解すること。認知科学的視点から人を観察することを学ぶ。

【到達目標】

人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。感覚、知覚、認知とは何か、人を生体と心理、社会との関係からとらえる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

認知科学は‘こころ’を主たる学問領域とし、知覚、記憶、思考、創造性といった、‘こころ’に影響を与えると考えられる脳の働きおよび両者の関係を解明する学問である。本講義では、様々な認知科学に関する実験結果とその考察を紹介しながら授業を行う。これらの知見について理解を深め、日常生活に活用していく方法について学ぶ。

課題等の提出・お知らせは「学習支援システム」を通じて行う予定である。全ての回を「オンライン」で実施する。具体的には学習支援システムのお知らせを確認することと、前の週に次の講義について毎回告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：	授業内容の説明、認知科学の歴史と応用
2	感覚：	味覚、嗅覚、聴覚、視覚、触覚
3	知覚・認知：	トップダウン、ゲシュタルト、形状知覚、空間知覚、認知地図
4	錯覚：	錯視、錯覚、クロスモーダル
5	脳と認知：	脳の構造と特性、BCI
6	記憶：	記憶の種類と特徴
7	注意：	注意資源、注意のモデル、選択的注意
8	思考：	知識、概念とカテゴリー、問題解決
9	情動：	二重課程理論、感情の分類、感情センシング方法
10	社会的認知：	表情、対人認知、顔、態度、集団
11	コミュニケーション：	言語、説得的コミュニケーション、ネットコミュニケーション
12	選択と誘導：	物理的環境、デフォルト効果、選択と誘導
13	身体と自己：	身体所有感、自己
14	認知と表現：	環世界、認知世界、表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回毎の授業の復習。レポートがある場合は、期限内に自分で資料等を調べ整理して、ポイントを押さえて、分かりやすい構成と文章で仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はない

【参考書】

講義資料を作成する際に参考にしている本をご紹介します。下記の本に限らず、webやyoutubeの情報を合わせて紹介します。

イラストで学ぶ認知科学

認知科学講座1 心と身体

認知科学講座2 心と脳

認知科学講座3 心と社会

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ1 はじめての認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ5 表現する認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ6 感じる認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ10 選択と誘導の認知科学

認知心理学 知のアーキテクチャを探る

認知心理学への招待

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に小テストまたはレポート課題が与えられる。

小テスト及びレポート課題：60%、最終テスト：40%の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で扱うテーマについて、補足説明等でシラバスから飛躍した話しの内容になる可能性もあるが、シラバスに書かれた内容を重点的に説明するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、接続記録を元に出席を取るため、安定したネットワークを確保し、授業に参加すること。

【その他の重要事項】

講義内態度が特に優れている・問題がある場合は平常点として成績に加点・減点する場合がある。

【Outline (in English)】

In this course students will learn how to scientifically comprehend the organization, processes and relations of human feelings and the brain, and observe humans from the perspective of cognitive science. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short tests : 60%、Final test : 40%

HUI100NA（人間情報学 / Human informatics 100）

認知科学 SD

SEONG YOUNG AH

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の‘こころ’と脳の仕組みや働き、関係性を科学的に理解すること。認知科学的視点から人を観察することを学ぶ。

【到達目標】

人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。感覚、知覚、認知とは何か、人を生体と心理、社会との関係からとらえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

認知科学は‘こころ’を主たる学問領域とし、知覚、記憶、思考、創造性といった、‘こころ’に影響を与えと考えられる脳の働きおよび両者の関係を解明する学問である。本講義では、様々な認知科学に関する実験結果とその考察を紹介しながら授業を行う。これらの知見について理解を深め、日常生活に活用していく方法について学ぶ。
課題等の提出・お知らせは「学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的には学習支援システムのお知らせを確認することと、前の週に次の講義について毎回告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：	授業内容の説明、認知科学の歴史と応用
2	感覚：	味覚、嗅覚、聴覚、視覚、触覚
3	知覚・認知：	トップダウン、ゲシュタルト、形状知覚、空間知覚、認知地図
4	錯覚：	錯視、錯覚、クロスモーダル
5	脳と認知	脳の構造と特性、BCI
6	記憶：	記憶の種類と特徴
7	注意：	注意資源、注意のモデル、選択的注意
8	思考：	知識、概念とカテゴリー、問題解決
9	情動：	二重課程理論、感情の分類、感情センシング方法
10	社会的認知：	表情、対人認知、顔、態度、集団
11	コミュニケーション：	言語、説得的コミュニケーション、ネットコミュニケーション
12	選択と誘導：	物理的環境、デフォルト効果、選択と誘導
13	身体と自己：	身体所有感、自己
14	認知と表現：	環境世界、認知世界、表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回毎の授業の復習。レポートがある場合は、期限内に自分で資料等を調べて整理して、ポイントを押さえて、分かりやすい構成と文章で仕上げること。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はない

【参考書】

講義資料を作成する際に参考にしている本をご紹介します。下記の本に限らず、webやyoutubeの情報を合わせて紹介します。

イラストで学ぶ認知科学

認知科学講座 1 心と身体

認知科学講座 2 心と脳

認知科学講座 3 心と社会

日本認知科学「認知科学のスミ」シリーズ 1 はじめての認知科学

日本認知科学「認知科学のスミ」シリーズ 5 表現する認知科学

日本認知科学「認知科学のスミ」シリーズ 6 感じる認知科学

日本認知科学「認知科学のスミ」シリーズ 10 選択と誘導の認知科学

認知心理学 知のアーキテクチャを探る

認知心理学への招待

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に小テストまたはレポート課題が与えられる。

小テスト及びレポート課題：60%、最終テスト：40%の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で扱うテーマについて、補足説明等でシラバスから飛躍した話しの内容になる可能性もあるが、シラバスに書かれた内容を重点的に説明するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、接続記録を元に出席を取るため、安定したネットワークを確保し、授業に参加すること。

【その他の重要事項】

講義内態度が特に優れている・問題がある場合は平常点として成績に加点・減点する場合がある。

【Outline (in English)】

In this course students will learn how to scientifically comprehend the organization, processes and relations of human feelings and the brain, and observe humans from the perspective of cognitive science. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short tests : 60%, Final test : 40%

HUI100NA（人間情報学 / Human informatics 100）

認知科学 都市

SEONG YOUNG AH

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の‘こころ’と脳の仕組みや働き、関係性を科学的に理解すること。認知科学的視点から人を観察することを学ぶ。

【到達目標】

人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。感覚、知覚、認知とは何か、人を生体と心理、社会との関係からとらえる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	50%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

認知科学は‘こころ’を主たる学問領域とし、知覚、記憶、思考、創造性といった、‘こころ’に影響を与えられ思考される脳の働きおよび両者の関係を解明する学問である。本講義では、様々な認知科学に関する実験結果とその考察を紹介しながら授業を行う。これらの知見について理解を深め、日常生活に活用していく方法について学ぶ。

課題等の提出・お知らせは「学習支援システム」を通じて行う予定である。全ての回を「オンライン」で実施する。具体的には学習支援システムのお知らせを確認することと、前の週に次の講義について毎週告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：	授業内容の説明、認知科学の歴史と応用
2	感覚：	味覚、嗅覚、聴覚、視覚、触覚
3	知覚・認知：	トップダウン、ゲシュタルト、形状知覚、空間知覚、認知地図
4	錯覚：	錯視、錯覚、クロスモーダル
5	脳と認知	脳の構造と特性、BCI
6	記憶：	記憶の種類と特徴
7	注意：	注意資源、注意のモデル、選択的注意
8	思考：	知識、概念とカテゴリー、問題解決
9	情動：	二重課程理論、感情の分類、感情センシング方法
10	社会的認知：	表情、対人認知、顔、態度、集団
11	コミュニケーション：	言語、説得的コミュニケーション、ネットコミュニケーション
12	選択と誘導：	物理的環境、デフォルト効果、選択と誘導
13	身体と自己：	身体所有感、自己
14	認知と表現：	環境世界、認知世界、表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回毎の授業の復習。レポートがある場合は、期限内に自分で資料等を調べて整理して、ポイントを押さえて、分かりやすい構成と文章で仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はない

【参考書】

講義資料を作成する際に参考になっている本をご紹介します。下記の本に限らず、webやyoutubeの情報を合わせて紹介します。

イラストで学ぶ認知科学

認知科学講座1 心と身体

認知科学講座2 心と脳

認知科学講座3 心と社会

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ1 はじめての認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ5 表現する認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ6 感じる認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ10 選択と誘導の認知科学

認知心理学 知のアーキテクチャを探る

認知心理学への招待

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に小テストまたはレポート課題が与えられる。

小テスト及びレポート課題：60%、最終テスト：40%の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で扱うテーマについて、補足説明等でシラバスから飛躍した話しの内容になる可能性もあるが、シラバスに書かれた内容を重点的に説明するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、接続記録を元に出席を取るため、安定したネットワークを確保し、授業に参加すること。

【その他の重要事項】

講義内態度が特に優れている・問題がある場合は平常点として成績に加点・減点する場合がある。

【Outline (in English)】

In this course students will learn how to scientifically comprehend the organization, processes and relations of human feelings and the brain, and observe humans from the perspective of cognitive science. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short tests : 60%、Final test : 40%

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、個人研究やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、個人研究や意見発表により進めます。

※次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。

- ・zoomのURL・ID・パスコード
- ・授業で使用する教材
- ・授業計画の回、日程、内容の変更
- ・休講や自習の連絡 など

※授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
※授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。学習支援システムに受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。

※なお、質問の際には ①シラバス ②学習支援システム ③学校が発信する通知-などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

※本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。従って、各種証明書の提出の必要はありません。

※個人研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。

※本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、メールアドレスに送信のあった場合の返信はしません。質問などは学習支援システムを通して行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	個人研究① 新製品・サービスの発表	個人研究の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	個人研究② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。

7	個人研究③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性和収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
13	企業の社会責任とマーケティング	企業の社会責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。
14	まとめとレポートの提出	各人が本授業の内容を総括するとともに、レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P.F. ドラッグー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10%とします。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
2. 言語：日本語
3. 提出する際のファイルの種類：PDF
4. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内（参考文献の字数は除く）、フォント指定なし、ポイント10.5
5. 提出期限：第14回授業終了時（午前10時30分）。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
6. 提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
7. 留意事項
(1) レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムと互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
(2) 学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
(3) レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
(4) 講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
(5) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
(6) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
(7) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
(8) レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
(9) 大学では、①成績に関する嘆願の連絡 ②提出期日を過ぎた課題の受理依頼-を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
<平常点>

意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

個人研究において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞いたことがよかった」などの感想が寄せられた。個人研究が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に個人研究を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】

＜講師について＞

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

＜授業に関する質問について＞

授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでもどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、個人研究やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力

(D) 専門基礎学力

(E) 専門知識の活用・応用能力

(F) 総合デザイン能力 25%

(G) コミュニケーション能力 25%

(H) 継続的学習能力 25%

(I) 業務遂行能力 25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、個人研究や意見発表により進めます。

※次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。

- ・zoomのURL・ID・パスワード
- ・授業で使用する教材
- ・授業計画の回、日程、内容の変更
- ・休講や自習の連絡 など

※授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。

※授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。学習支援システムに受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。

※なお、質問の際には ①シラバス ②学習支援システム ③学校が発信する通知-などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

※本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。従って、各種証明書の提出の必要はありません。

※個人研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。

※本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、メールアドレスに送信のあった場合の返信はしません。質問などは学習支援システムを通して行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	個人研究① 新製品・サービスの発案	個人研究の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	個人研究② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	個人研究③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
13	企業の社会責任とマーケティング	企業の社会責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

- 14 まとめとレポートの 各人が本授業の内容を総括する
提出 とともに、レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション

P.F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社

そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10%とします。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
2. 言語：日本語
3. 提出する際のファイルの種類：PDF
4. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内（参考文献の字数は除く）、フォント指定なし、ポイント10.5
5. 提出期限：第14回授業終了時（午前10時30分）。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
6. 提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
7. 留意事項

（1）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。

（2）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。

（3）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。

（4）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。

（5）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。

（6）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。

（7）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。

（8）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

（9）大学では、①成績に関する嘆願の連絡 ②提出期日を過ぎた課題の受理依頼 - を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。

<平常点>

意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

個人研究において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。個人研究が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に個人研究を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<授業に関する質問について>

授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、個人研究やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、個人研究や意見発表により進めます。

※次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。

- ・zoomのURL・ID・パスワード
- ・授業で使用する教材
- ・授業計画の回、日程、内容の変更
- ・休講や自習の連絡 など

※授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。※授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。学習支援システムに受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。

※なお、質問の際には ①シラバス ②学習支援システム ③学校が発信する通知-などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

※本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。従って、各種証明書の提出の必要はありません。

※個人研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。

※本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、メールアドレスに送信のあった場合の返信はしません。質問などは学習支援システムを通して行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	個人研究① 新製品・サービスの発案	個人研究の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。

6	個人研究② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	個人研究③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
13	企業の社会責任とマーケティング	企業の社会責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。
14	まとめとレポートの提出	各人が本授業の内容を総括するとともに、レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P.F. ドラッグラー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10%とします。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システム WebClassにて告知します。
2. 言語：日本語
3. 提出する際のファイルの種類：PDF
4. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内（参考文献の字数は除く）、フォント指定なし、ポイント10.5
5. 提出期限：第14回授業終了時（午前10時30分）。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
6. 提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システム WebClassを通して提出。
7. 留意事項
(1) レポート提出は、学習支援システム WebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
(2) 学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
(3) レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
(4) 講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
(5) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
(6) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。
(7) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
(8) レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

(9) 大学では、①成績に関する嘆願の連絡 ②提出期日を過ぎた課題の受理依頼 - を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。

<平常点>

意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

個人研究において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞いたことがよかった」などの感想が寄せられた。個人研究が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に個人研究を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<授業に関する質問について>

授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

ECN100NA (経済学 / Economics 100)

エコノミクス

李 江南

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解することを目指します。効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。実際にゲームを行い、ゲーム理論の研究手法を学ぶことで、今後の人生や仕事に役立つ考え方を身につけることができます。授業は配布する資料をもとに、講義を進めます。試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分けて行います。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の2点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的处理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。2回の課題を課し、期末試験は選択、穴埋め、記述式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。

5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	ゲームを複数回する場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用 1ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用 2ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎 1	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎 2	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 1	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 2	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習してください。課題に取り組む際は、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】

特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】

出席評価：40 %
課題2回：20 %
期末試験：40 %
合計：100 %

【学生の意見等からの気づき】

時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点があれば、記載してください。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。

【その他の重要事項】

シラバスの内容や講義の順番を変更する場合があります。ご了承ください。

対面授業で行う予定です。

授業終了後に教室で質問を受け付け、または随時、電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course, Economics, we will study the core principles of microeconomics and macroeconomics in order to understand how modern economies function. Students will learn how resources are allocated under different institutions and incentives, and will develop analytical tools to examine economic behavior. Topics include consumer choice, firm behavior and production decisions, market equilibrium and efficiency, game theory, and macroeconomic policy.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students will be able to explain key concepts in microeconomics and macroeconomics using standard economic reasoning;

analyze decision-making by consumers and firms and interpret market outcomes;

understand the basic framework of game theory and apply it to strategic interactions in economics and everyday situations.

This course places particular emphasis on game theory as a foundational method in modern economics. Lectures will be conducted primarily based on the materials distributed in class.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are expected to review the distributed materials regularly, as lectures will follow these materials closely. Careful review is also necessary to complete the assigned problem sets. The standard amount of preparation and review time is 1– 2 hours per class session.

[Grading Criteria / Policy]

Grades will be determined based on attendance, two homework assignments, and a final exam.

Attendance: 40%

Homework assignments (2): 20%

Final exam: 40%

Total: 100%

ECN100NA (経済学 / Economics 100)

エコノミクス

李 江南

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解することを目指します。効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。実際にゲームを行い、ゲーム理論の研究手法を学ぶことで、今後の人生や仕事に役立つ考え方を身につけることができます。授業は配布する資料をもとに、講義を進めます。試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分けて行います。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の2点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的处理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

¥講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。2回の課題を課し、期末試験は選択、穴埋め、記述式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。

3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します。
7	繰り返しゲーム	ゲームを複数回する場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用 1ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用 2ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎 1	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎 2	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 1	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 2	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習してください。課題に取り組む際は、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】

特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】

出席評価：40 %
課題 2 回：20 %
期末試験：40 %
合計：100 %

【学生の意見等からの気づき】

時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点があれば、記載してください。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】

シラバスの内容や講義の順番を変更する場合があります。ご了承ください。

対面授業で行う予定です。

授業終了後に教室で質問を受け付け、または随時、電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.

[Learning Objectives]

Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.

[Grading Criteria / Policy]

The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.

Attendance evaluation: 40%

Two homework assignments: 20%.

Final exam: 40%.

Total: 100%.

ECN100NA (経済学 / Economics 100)

エコノミクス

李 江南

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解することを目指します。効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。実際にゲームを行い、ゲーム理論の研究手法を学ぶことで、今後の人生や仕事に役立つ考え方を身につけることができます。授業は配布する資料をもとに、講義を進めます。試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分けて行います。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の2点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
 そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
 ②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的处理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
 教養力：◎

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
 デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
 デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。2回の課題を課し、期末試験は選択、穴埋め、記述式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。

2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介しします。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介しします。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介しします。数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介しします。
4	動学ゲームの研究手法と事例	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介しします。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介しします
6	銀行破綻とコミットメント	ゲームを複数回する場合の戦略の決め方を紹介しします。
7	繰り返しゲーム	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介しします。
8	ゲーム理論の応用 1ーオークション	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
9	ゲーム理論の応用 2ー給料の決定方法	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
10	マクロ経済学の基礎 1	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
11	マクロ経済学の基礎 2	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 1	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 2	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。
14	宿題の解説と期末試験の説明	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習してください。課題に取り組む際は、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】

特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】

出席評価：40％
 課題2回：20％
 期末試験：40％
 合計：100％

【学生の意見等からの気づき】

時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点があれば、記載してください。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】

シラバスの内容や講義の順番を変更する場合があります。ご了承ください。

対面授業で行う予定です。

授業終了後に教室で質問を受け付け、または随時、電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.

[Learning Objectives]

Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.

[Grading Criteria / Policy]

The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.

Attendance evaluation: 40%

Two homework assignments: 20%.

Final exam: 40%.

Total: 100%.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで、のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法、発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○	○	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍、気候変動の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携、総合産業	農商工連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン 発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画、物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築、新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル、素人発想・玄人実行、発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造 演習1、 ブレインマップを活用した素人発想	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 演習2、 ブレインマップを活用した玄人実行	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合 第2刷』中央経済社，2021年。

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文真堂，2022年。

境新一（編著）、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美（著）

『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。

『日経 業界地図2025年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度（演習を含む）20％ 期中レポート40％ 期末試験または期末レポート40％ の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。

講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題2回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超えるなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法、発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍ならびに気候変動のなかで、新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍、気候変動の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法

第2回	農商工連携、総合産業	農商工連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画、物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築、新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル、素人発想・玄人実行、発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造 演習1、ブレインマップを活用した素人発想	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 演習2、ブレインマップを活用した玄人実行	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農商工連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。

- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習 (90分)。
- (9) 経営と法律, 知財について教科書・資料での予習 (90分)。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習 (90分)。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習 (90分)。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習 (90分)。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習 (90分)。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習 (90分)。

【テキスト (教科書)】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合 第2刷』
中央経済社, 2021年。

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点 (第5版)』文真堂, 2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文真堂,
2022年。

境新一 (編著)、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井
真美 (著)

『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社, 2020年。

『日経 業界地図2025年版』日本経済新聞社, 2024年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度 (演習を含む) 20% 期中レポート40% 期
末試験または期末レポート40% の総合評価とします。なお, 期
末試験/期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表
します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として, 各
テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。

講義を中心として進めますが, 期中レポート (小課題2回), 期末レ
ポート, 演習も交えて行います。毎回, 学習支援システムに講義資
料を掲載しますので, 受講生諸君は各自で資料ファイル (PDF) を
ダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介しします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法、発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	50%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	50%
(G) コミュニケーション能力	30%
(H) 継続的学習能力	30%
(I) 業務遂行能力	50%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで、新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍、気候変動の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携、総合産業	農商工連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画、物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築、新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル、素人発想・玄人実行、発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造 演習1、ブレインマップを活用した素人発想	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 演習2、ブレインマップを活用した玄人実行	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。毎回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合 第2刷』中央経済社，2021年。

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂，2018年。
 境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文真堂，2022年。

境新一（編著）、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美（著）

『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。

『日経 業界地図2025年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度（演習を含む）20％ 期中レポート40％ 期末試験または期末レポート40％ の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。

講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題2回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山 肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化することになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と課題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と課題②	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④ まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらいたい。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かし自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."

[learning goal]

This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form. [Learning activities outside the classroom]

The standard time for preparation and review for this class is one hour each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding. Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山 肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化することになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点から整理し、形として表現する能力を養う。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と課題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と課題②	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素と都市デザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会における都市デザインのあり方を考える。

13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④ まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらい。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
- ・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."

[learning goal]

This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form. [Learning activities outside the classroom]

The standard time for preparation and review for this class is one hour each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding. Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山 肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と諸問題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と諸問題②	多様化するまちづくりの課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④ まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらいたい。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
- ・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."

[learning goal]

This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form. [Learning activities outside the classroom]

The standard time for preparation and review for this class is one hour each.

【Evaluation Criteria/Policy】

Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding. Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築フォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しの特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、 in class contribution: 10%

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力

(D) 専門基礎学力

30%

(E) 専門知識の活用・応用力

40%

(F) 総合デザイン能力

30%

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクロモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義/Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○	◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院

猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しの特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

- 1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
- 2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
- 3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しの特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
6回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90%）となる。質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価（10%）として加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

【Learning Objectives】

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマを組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？

ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？

建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？

建築でも土木でもない新しい分野とは？

アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？

今日コミュニティはどのような意味をもっているか？

こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にすることだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に付ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時間分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。

フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。

授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

MAN200ND（経営学 / Management 200）

アントレプレナーシップ

姜 理恵

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アントレプレナーシップ（起業家精神）の基礎理論を学んだのち、大学生に向けたアントレプレナーシップ教育プログラム案をグループで作成し、教育会社に向けてプレゼンし、フィードバックをもらうことを通じて、知識の定着と理解を深める。

ここでいうアントレプレナーシップ（起業家精神）とは、企業を自分で起こすことに限定しない。イノベーションを産むすべての活動に必要な精神を指す。これを学び、実践し、身につけることは、コロナ禍を経て不確実性を増す現代社会に対応できるようになることでもある。

いつか自分で会社を設立したい方、変化の速いスタートアップの世界で働きたい方、企業の中から行動を起こしたい方など、その立場を問わず歓迎する。この科目では機会を特定し、行動を起こすための方法を扱う。この科目は座学やディスカッション、プレゼンテーションだけにとどまらず、実際に自分が行動することを通して学んだり、チームと協力して深刻な問題を特定し、革新的なソリューションを開発することに挑戦する。

これを通して、科学としてのアントレプレナーシップに対する知識を高めると同時に、マインドセットの成長を目指す。この科目を通じて行動と内省を繰り返すことで、アントレプレナーシップが自分のキャリア形成にどのように影響するか、強い確信を得ることを期待する。

【到達目標】

社会に新しい価値をもたらすというアントレプレナーシップの本質を、現在の自分自身に照らし合わせて理解することを目的とする。「大学生向けの起業家精神教育プラン」を作成することで、自分ごととして、起業家精神を考えることができる。

それにより、今後のキャリアプランと併せて考えられるようになり、さまざまな企業の新規事業や起業家の活動を、起業家精神の視点から観察し、議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義、演習、実習、発表などを組み合わせて授業を進める。科目の特性上、通常の科目よりも更に積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ビジネスゲーム1	授業の進め方 商才とは何か いかに意思決定を行うか
2	ビジネスゲーム2 姜とゲームで対決する	ビジネスでのリスクをいかに取るかをゲーム上で再現する
3	起業家の特性、天才研究、創造性	起業家は天才か？ 後から起業家になれるのか？ 創造性は先天的か後天的か？
4	発想のプロセス 発想の元となるアイデアの源泉、その育て方	良い発想はどうやって生まれるのか？ アイデアを取捨選択する方法
5	発想ワークショップ	良いアイデアを生み出すワークを実践してみる

6	起業家マインド セット 何があっても折れない心 はがねのメンタル	起業家の強いメンタルはいかにして成立するか
7	起業家的になれない人々 リスクが取れない 安定を選ぶ心理	創造性も、強いメンタルも持てない人々は、どうしたらいいのか
8	起業家の弱点	起業家の弱みを探る それをいかに克服するか理論と事例
9	起業家精神を教える、学ぶ、教えながら自分も育つ	姜研究室が実践している子どもや女性に起業家精神やベンチャーを教えている事例を紹介 カリキュラムの構成を学ぶ
10	教育プログラムの開発1	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
11	教育プログラムの開発2	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
12	教育プログラムの発表	開発したプログラムを研修会社や大学教員などに発表 フィードバック
13	起業家精神を学んだ人々の成長 授業のまとめ	起業家精神を学んだことも、女性、学生の学びのプロセス、実体験を整理
14	期末試験	持ち込み可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前・事後の配布資料リーディング、課題などを授業内で指示。本授業の準備学習・課題への対応時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

Neck, H. M., Neck, C. P., & Murray, E. L. (2024). Entrepreneurship: The practice and mindset. Sage publications.
洋書なので英語が得意な人はチャレンジしてみてください

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（出席、コミットメント） 50%
2. 期末テスト（持ち込み可、理解と思考を問う） 50%

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの機会を複数設け、授業の進め方や内容の参考にする。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC持参のこと

【Outline (in English)】

In this course, you will develop an entrepreneurial mindset through the creation of an entrepreneurial program for undergraduate students. You will learn, practice, and acquire entrepreneurial skills to create and discover solutions to an increasingly complex and uncertain post-Corona society. You will learn how to identify opportunities and take action, whether you want to start your own business one day, work in the fast-paced startup world, or work within a company. This course is not limited to classroom lectures, discussions, and presentations. It also includes learning by doing and the challenge of working with a team to identify a serious problem and develop an innovative solution. The goal is to increase the knowledge of entrepreneurship as a science and at the same time to grow in the mindset of entrepreneurship. Through repeated action and reflection, you are expected to develop a strong belief in how entrepreneurship can impact your career development. Students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の気候変化とともに、日本では人口減少・高齢化、国土の二極化など社会構造の変容が著しい。ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において、人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには、災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である。地震災害、土砂災害、風水害など自然災害の実態を理解し、国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ。

【到達目標】

多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し、技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年の推移を理解し、災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ。自然災害規模がハザード、暴露率、脆弱性の関数であり、暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する。前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する。後半では、気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し、減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ。いずれの種類のハザードに関しても、環境と防災の一体化、生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ。授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策、BCP、地域社会のあり方など、減災の社会工学的アプローチを学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震に対する減災施策：リスク管理、地震保険
2	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
3	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
4	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
5	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
6	地震	地震によるライフライン（ガス、水道）の被害と復旧
7	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧
8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について

12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自学自習に努めること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配付

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

自然災害の発生メカニズム、社会インフラの被災と減災、気候変動が自然災害に及ぼす影響、防災・減災と環境施策の一体性、持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命、などに関する理解度を各回の演習レポート（100%）により総合評価する。100点満点に換算した上、60点以上を合格とする。欠席4回以上の場合には単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

地盤力学及演習（必修）、地盤環境工学（必修）、水理学Ⅰ及演習（必修）、河川環境工学（必修）、ならびに水文気象学、流域水文学、水理学Ⅱを履修していることが望ましい。

オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies. (Learning Objectives)

Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer.

(Learning activities outside of classroom)

Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (100%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

CST300NA (土木工学 / Civil engineering 300)

減災工学

丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の気候変化とともに、日本では人口減少・高齢化、国土の二極化など社会構造の変容が著しい。ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において、人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには、災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である。地震災害、土砂災害、風水害など自然災害の実態を理解し、国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ。

【到達目標】

多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し、技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年的推移を理解し、災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ。自然災害規模がハザード、暴露率、脆弱性の関数であり、暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する。前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する。後半では、気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し、減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ。いずれの種類のハザードに関しても、環境と防災の一体化、生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ。授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策、BCP、地域社会のあり方など、減災の社会工学的アプローチを学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震に対する減災施策：リスク管理、地震保険
2	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
3	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
4	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
5	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
6	地震	地震によるライフライン（ガス、水道）の被害と復旧
7	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧

8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について
12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自学自習に努めること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配付

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

自然災害の発生メカニズム、社会インフラの被災と減災、気候変動が自然災害に及ぼす影響、防災・減災と環境施策の一体性、持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命、などに関する理解度を各回の演習レポート（100%）により総合評価する。100点満点に換算した上、60点以上を合格とする。欠席4回以上の場合には単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

地盤力学及演習（必修）、地盤環境工学（必修）、水理学Ⅰ及演習（必修）、河川環境工学（必修）、ならびに水文気象学、流域水文学、水理学Ⅱを履修していることが望ましい。

オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies. (Learning Objectives)

Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer. (Learning activities outside of classroom)

Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (100%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の気候変化とともに、日本では人口減少・高齢化、国土の二極化など社会構造の変容が著しい。ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において、人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには、災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である。地震災害、土砂災害、風水害など自然災害の実態を理解し、国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ。

【到達目標】

多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し、技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	20%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	30%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年的推移を理解し、災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ。自然災害規模がハザード、暴露率、脆弱性の関数であり、暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する。前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する。後半では、気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し、減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ。いずれの種類のハザードに関しても、環境と防災の一体化、生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ。授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策、BCP、地域社会のあり方など、減災の社会工学的アプローチを学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
2	地震	地震によるライフライン（ガス、水道）の被害と復旧
3	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧
4	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
5	地震	地震による道路インフラの被害と復旧

6	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
7	地震<-防災・減災計画	地震に対する減災施策：リスク管理、地震保険 <-総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について
12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自学自習に努めること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配付

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

自然災害の発生メカニズム、社会インフラの被災と減災、気候変動が自然災害に及ぼす影響、防災・減災と環境施策の一体性、持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命、などに関する理解度を各回の演習レポート（100%）により総合評価する。100点満点に換算した上、60点以上を合格とする。欠席4回以上の場合には単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

地盤力学及演習（必修）、地盤環境工学（必修）、水理学Ⅰ及演習（必修）、河川環境工学（必修）、ならびに水文気象学、流域水文学、水理学Ⅱを履修していることが望ましい。

オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies. (Learning Objectives)

Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer.

(Learning activities outside of classroom)

Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (100%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

公共経営戦略

平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会インフラに関する様々な政策やその進め方を実例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】

社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは何か？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般（新幹線を例にとって）	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達（講義&グループディスカッション）
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 インフラストラクチャーの投資・運営	・構想の動機 ・構想の推進要因・挫折要因 ・新規・更新投資 ・事業の運営（講義&グループディスカッション）
第4回	インフラストラクチャーの維持管理 インフラストラクチャー事業の海外展開	・維持管理 ・更新と除却 ・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス（講義&グループディスカッション）
第5回	未来社会の創造と公共経営戦略	・バックキャストによる未来社会の創造 ・望ましい未来社会と公共経営戦略（講義&グループディスカッション）
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析（1）
第7回	公共事業評価	・費用便益分析（2） ・費用対効果分析 ・政策・事業のマネジメント

第8回	海外プロジェクト	・海外プロジェクトの種類 ・事例紹介①（大エジプト博物館運営・展示プロジェクト） ・事例紹介②（スリランカ国観光開発プロジェクト） ・事例紹介③（中南米三角協力事業評価）
第9回	集客事業	・集客事業における行政の関わり方 ・具体的な事例（遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等） ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出（簡易な方法）
第10回	国土計画の形成	・国土計画とは？ ・国土計画の歴史と変遷 ・現代の国土計画
第11回	スマートシティ	・スマートシティの考え方 ・スマートシティの事例 ・スマートシティの実装
第12回	公共施設マネジメント	・公共施設のマネジメント計画 ・ライフサイクルコスト算定方法（グループ学習）
第13回	公共施設マネジメント	・ライフサイクルコストの算定方法（グループ学習）
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・建設分野へのICT、DX導入政策 ・インフラ老朽化対策、国際規格（講義&事例紹介）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】

無し

【参考書】

無し

【成績評価の方法と基準】

最終レポート：80％、講義への積極的参加度：20％

※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】

社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.

Grade evaluation: Reports 80% + Activities 20% =100%.

Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

公共経営戦略

平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会インフラに関する様々な政策やその進め方を実例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】

社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは何か？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般（新幹線を例にとって）	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達（講義&グループディスカッション）
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 インフラストラクチャーの投資・運営	・構想の動機 ・構想の推進要因・挫折要因 ・新規・更新投資 ・事業の運営（講義&グループディスカッション）
第4回	インフラストラクチャーの維持管理 インフラストラクチャー事業の海外展開	・維持管理 ・更新と除却 ・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス（講義&グループディスカッション）

第5回	未来社会の創造と公共経営戦略	・バックキャストによる未来社会の創造 ・望ましい未来社会と公共経営戦略（講義&グループディスカッション）
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析（1）
第7回	公共事業評価	・費用便益分析（2） ・費用対効果分析
第8回	海外プロジェクト	・政策・事業のマネジメント ・海外プロジェクトの種類 ・事例紹介①（大エジプト博物館運営・展示プロジェクト） ・事例紹介②（スリランカ国観光開発プロジェクト） ・事例紹介③（中南米三角協力事業評価）
第9回	集客事業	・集客事業における行政の関わり方 ・具体的な事例（遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等） ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出（簡易な方法）
第10回	国土計画の形成	・国土計画とは？ ・国土計画の歴史と変遷 ・現代の国土計画
第11回	スマートシティ	・スマートシティの考え方 ・スマートシティの事例 ・スマートシティの実装
第12回	公共施設マネジメント	・公共施設のマネジメント計画 ・ライフサイクルコスト算定方法（グループ学習）
第13回	公共施設マネジメント	・ライフサイクルコストの算定方法（グループ学習）
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・建設分野へのICT、DX導入政策 ・インフラ老朽化対策、国際規格（講義&事例紹介）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】

無し

【参考書】

無し

【成績評価の方法と基準】

最終レポート：80％、講義への積極的参加度：20％
※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】

社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。

オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.

Grade evaluation: Reports 80% + Activities 20% =100%.

Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

公共経営戦略

平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会インフラに関する様々な政策やその進め方を事例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】

社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは何か？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般（新幹線を例にとって）	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達（講義&グループディスカッション）
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 インフラストラクチャーの投資・運営	・構想の動機 ・構想の推進要因・挫折要因 ・新規・更新投資 ・事業の運営（講義&グループディスカッション）
第4回	インフラストラクチャーの維持管理 インフラストラクチャー事業の海外展開	・維持管理 ・更新と除却 ・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス（講義&グループディスカッション）
第5回	未来社会の創造と公共経営戦略	・バックキャストによる未来社会の創造 ・望ましい未来社会と公共経営戦略（講義&グループディスカッション）
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析（1）

第7回 公共事業評価

- ・費用便益分析（2）
- ・費用対効果分析

第8回 海外プロジェクト

- ・政策・事業のマネジメント
- ・海外プロジェクトの種類
- ・事例紹介①（大エジプト博物館運営・展示プロジェクト）
- ・事例紹介②（スリランカ国観光開発プロジェクト）
- ・事例紹介③（中南米三角協力事業評価）

第9回 集客事業

- ・集客事業における行政の関わり方
- ・具体的な事例（遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等）
- ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出（簡易な方法）

第10回 国土計画の形成

- ・国土計画とは？
- ・国土計画の歴史と変遷
- ・現代の国土計画

第11回 スマートシティ

- ・スマートシティの考え方
- ・スマートシティの事例
- ・スマートシティの実装

第12回 公共施設マネジメント

- ・公共施設のマネジメント計画
- ・ライフサイクルコスト算定方法（グループ学習）

第13回 公共施設マネジメント

- ・ライフサイクルコストの算定方法（グループ学習）

第14回 i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント

- ・建設分野へのICT、DX導入政策
- ・インフラ老朽化対策、国際規格（講義&事例紹介）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】

無し

【参考書】

無し

【成績評価の方法と基準】

最終レポート：80%、講義への積極的参加度：20%

※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】

社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.
Grade evaluation: Reports 80% + Activities 20% =100%.

Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

PR1200GA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

統計処理法

吉田 一星

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、インターネット・新聞・テレビなどを通してデータに日々接しています。大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方を学んでいきます。また、自然言語処理技術の研究開発の実務に携わっている講師が、現在ブームとなっている生成AIに使われている確率統計の考え方を紹介したいと思います。例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLMを理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLMの中で使われている確率統計の考え方を学び、LLMを実現する仕組みへの理解を深めます。

【到達目標】

- ・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・データを解釈する方法を身につける
- ・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
- ・確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する
- ・生成AIの仕組みと確率・統計との関係を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。期末試験とその他の課題のフィードバックは、主に学習支援システムを通して行います。また、みなさんからの質問・コメントに対する解説・補足を授業内で随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとデータの理解方法1	授業の進め方についての説明・数値データの可視化・度数分布表とヒストグラム
第2回	データの理解方法2	データの代表値とその性質
第3回	データの理解方法3	散布図と相関係数
第4回	データの理解方法4	回帰分析
第5回	確率1	確率の定義
第6回	確率2	確率の様々な計算方法
第7回	確率3	条件つき確率とベイズの定理
第8回	確率分布1	確率変数と確率分布
第9回	生成AIの仕組み	生成AIの仕組みと確率・統計との関係 期待値と分散 二項分布
第10回	確率分布2	連続型確率変数と正規分布
第11回	確率分布3	確率分布の応用
第12回	確率分布4	期末試験
第13回	確率分布5	
第14回	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。本授業のそれぞれの回は前回までの内容の理解を前提として進めますので、自分の理解度に応じて必ず自習して下さい。また、わからない点をそのままにせず、自分で調べても不明な場合は教員に積極的に質問して下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

【参考書】

以下の参考書をお勧めします。

"経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ", 竹内広宜著, 講談社, 2021.

この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う小テストなどの平常点と期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、平常点30%、期末試験70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が毎回好評ですので、到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義時間で演習を行います。電卓がないと計算できないような問題は演習内では扱いませんが、授業に電卓などの情報機器を持ち込んでも構いません。ただし試験（小テスト・期末試験）での情報機器の持ち込みは不可です。

【その他の重要事項】

担当教員は、情報科学技術、とくに人工知能（Artificial Intelligence; AI）の研究開発を行う企業に所属しており、自然言語処理・機械学習分野に関して新技術の開発や製品化の実務経験を有しています。

例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLMを理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLMの中で使われている確率統計の考え方を学び、LLMにできることとそうでないことを理解します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.

[Learning Objectives]

Students should be able to do the followings at the end of this course:

- Master basics of data visualization (graphs)
- Understand some ways of interpreting results of data analytics
- Understand basic statistical values (mean, variance, correlation coefficient, etc.)
- Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
- Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems
- Understand the relationship between statistics and how generative AI works

The lecturer has practical experience in research and development of generative AI, especially large language models (LLMs). He will introduce how probability and statistics are used in LLMs to generate natural language responses to queries by a human user.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to complete homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is two hours.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

FRI200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2026年度の本授業では、「Art and Cosmotekhnics」というテーマで、西洋芸術の論理と中国芸術の論理を形式化し、現在のテクノロジーの新たな方向性を哲学的に考察することから「文化情報学」にアプローチしていきます。

本授業で取り上げるのは、最近、活躍の著しい中国人哲学者・ユク・ホイ氏の著書『芸術と宇宙技芸』（春秋社、2024年）です。

《授業の目的》

本科目では、「芸術と宇宙技芸」に関するユク氏のテキストを読むことを通じて、現在の情報社会で生じている文化事象について考えていきます。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」を構築するにあたって、私たちが、いかにして〈ヴァーチャリティ社会〉を生き抜くかという実践的な問いについて、各自が自らの生き方を反省的に考察することにあります。

【到達目標】

- (1) 本科目の到達目標は、現代社会を〈ヴァーチャル社会〉として捉えることによって、現代の情報文化の中で、私たちがどのように〈ヴァーチャリティ〉と関わっていくかを考えるを身につけることを目指します。
- (2) 情報哲学のテキストを哲学的に読むことができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。

- (1) テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みます。
- (2) 受講生各自の授業内容に関する理解を確認するために、リアクションペーパーを用います。
- (3) リアクションペーパーの内容について、ディスカッションすることも考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第2回	『芸術と宇宙技芸』読解	0. はじめに
第3回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第一節 悲劇的宇宙の歴史心理学

第4回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第二節 悲劇の芸術における再帰的論理
第5回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第三節 芸術的経験の諸相
第6回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第四節 道家の宇宙技芸 対悲劇者の宇宙技芸
第7回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第五節 再帰的機械が凌駕する
第8回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第六節 ヨーロッパ、芸術、哲学のうとで
第9回	『芸術と宇宙技芸』読解	第1章 世界と大地 第七節 哲学の終わりのあとの芸術
第10回	『芸術と宇宙技芸』読解	第1章 世界と大地 第八節 芸術からのもうひとつの始まり
第11回	『芸術と宇宙技芸』読解	第1章 世界と大地 第九節 人工物のなかの真理
第12回	『芸術と宇宙技芸』読解	第1章 世界と大地 第十節 思考と絵画
第13回	『芸術と宇宙技芸』読解	第1章 世界と大地 第十一節 芸術と宇宙的なもの
第14回	まとめ	これまでの授業の総括——〈ヴァーチャル社会〉を生きるとはどういうことか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

① ユク・ホイ『芸術と宇宙技芸』春秋社、2024年

【参考書】

1. ユク・ホイ『中国における技術への問い 宇宙技芸論』, genron, 2022年
2. ユク・ホイ『ポストヨーロッパ』岩波書店、2026年

【成績評価の方法と基準】

- (1) テキストの読解などを行うことで授業の理解度を確認する。
- (2) 学期末に試験（レポート）を課すことで、授業における達成度を測る。
- (3) リアクションペーパーによって、授業に対する姿勢を問う。

※ 両者の結果から総合的に判断する。

三者の配分は、下記の通り。

- (1) 小テスト・リアクションペーパーによる平常点（30％）

- (2) 期末試験（70％）

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータやタブレット（可能な限りスマートフォン）は、授業時間中に授業担当者が許可しない限り、原則として使用不可です。
・情報哲学を学ぶこと、情報機器を用いることは異なります。大学で学ぶために必要なのは五感と〈ひらめき〉（＝直感・直観）であり、情報機器は「道具」（紙と筆記用具）の延長に過ぎません。

【その他の重要事項】

【注意点】

- (1) 「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。
- (2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】

・概論としては内容も含めて授業は極めて難しいです。それゆえ、大人数にはならないとは思いますが、今流行りのVtuberなどに言及するからと言って、興味本位だけの人は、なるべく参加をご遠慮ください。

- ・受講生数が多い場合は、教室のキャパシティーとは無関係に初回に選抜テストを実施します。受講希望者は、初回の授業に必ず出席してください。
- ・議論は大いに推奨しますが、仲間同士の「私語」は厳禁です。居眠りは「受講拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course is an “introduction” to the study of “Informatics of culture” proposed by the Faculty of Intercultural communication. “Informatics of Culture” is the study of various cultural phenomena as cultural information.

In the 2025 academic year, under the theme of “Cultural Philosophy of Virtual Society,” we will position the current information society as a “virtual society” and approach “Informatics of Culture” by philosophically examining the various cultural phenomena that arise in this society.

The “virtual society” discussed in this class is the subject of a book written by philosopher Takehiko Daikoku (Professor at Meiji University, 1961-), in which he discusses specific themes related to “virtuality”. For example, “mode,” VR, surveillance society, metaverse, generative AI, and so on.

In this class, in addition to these, we will consider the cultural philosophy of “virtual society” with a view to “Theory of Vtubers” and “Philosophy of Vtuber,” which are derived from the discussion of metaverse.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to examine a theory of visual culture.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

ART200GA (芸術学 / Art studies 200)

社会と美術

平野 真弓

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、普段接する機会の少ない、先進的な表現領域に対する理解を深めるための入門的な授業です。この講義では、特に21世紀以降に関心を集めている社会と芸術との関係に焦点を当て、パフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界の様々な事例を参照し、社会と芸術の接点や関係性について探求します。本授業は、「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」という2つのテーマで構成されており、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

第一部 「近現代の芸術史と理論」では、18世紀以降から21世紀までの美術史と理論を包括的に学び、芸術表現の変遷とその背後にある思想や理論を探求します。

第二部 「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

近現代の美術史と現代社会と美術に関する課題の事例を紹介していきます。近現代美術史の基本を理解すること、各時代の社会的課題と芸術との関連を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近代美術の誕生 古典主義、ロマン派、 写実主義、印象派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進화가、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派などの芸術運動は、単なる美的表現にとどまらず、社会の変動や文化の転換を反映し、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では、これらの芸術運動を通して、近代社会の多様性や複雑性に迫り、芸術が社会と相互の作用について学んでいきます。印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれる画家のゴッガン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第3回	アバンギャルドの時代Ⅰ フォービズム、表現主義、キュビズム	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれる画家のゴッガン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第4回	アバンギャルドの時代Ⅱ 未来派、ダダイズム シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて、またロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて学びます。この時代登場した芸術運動は、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような新しいアイディアが登場します。
第5回	ワークショップ1 単元の復習とワークショップ	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代Ⅰ、アバンギャルドの時代Ⅱの復習及びワークショップを行います。

第6回	第二次世界大戦と戦後アメリカ美術 抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦により、ヨーロッパ各地は大きなダメージを受け、芸術の中心地としての地位をアメリカに譲ることとなりました。アメリカではその経済力を背景に、現代芸術の躍動的な拠点となり、さまざまな芸術運動が登場します。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。	第11回	ジェンダーとアート	社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会的な枠組みを拡大し、偏見や差別に対抗するための意識を喚起する役割を担い、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
第7回	1960年代の市民運動と新しい動向 フルクサス、パブリッシング、ビデオアートミニマリズム、コンセプチュアルアート、ランド・アート、アルテ・ポーヴェラ	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。1960年代の芸術シーンでは、伝統的な絵画や彫刻に留まらず、さまざまな新しい表現手法が登場しました。物質生よりも思想や概念に焦点を当てたミニマルアートやコンセプチュアルアート、ハプニングやパフォーマンスアートは身体や行為を介して会への関与をするなど、新しい芸術の動向が登場します。	第12回	環境とアート	私たちは古くから自然を観察し、芸術作品の主題としてきました。自然が提供する様々な風景や生態系は、画家や彫刻家などのアーティストにとって永遠のインスピレーション源となっています。また、19世紀の自然主義の考え方や、近年のランドアートの試みなど、自然は芸術において重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では地球規模での環境問題が深刻化し、私たちは自然との関係性を再評価せざるを得なくなっています。地球の温暖化、生態系の破壊、資源の枯渇など、環境問題は私たちの生活に直接関わるものとして認識されるようになりました。地球温暖化と関連するエネルギー問題は、世界の大きな課題となっており、日本においては東日本大震災をきっかけとした自然災害と原発問題が今でも続いています。アートの世界では環境問題への関心を高め、作品を通じて社会に対話を呼びかけます。アートを通じた環境問題へのアプローチは、単なる美的な観点だけでなく、社会的な意識を喚起し、持続可能な社会を喚起します。
第8回	多文化の時代 ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1989年にベルリンの壁が崩壊して東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、1980年代以降アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャルリズムにより生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント、ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）とリレーショナルアートについての理解を深めます。21世紀に入り、芸術はますます社会に関与する方向へと進化しています。ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスといった社会に関与する芸術運動が盛んになっています。	第13回	感染症の時代	2020年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の状況に直面しました。現在では、私たちにとってパンデミックはすでに少し以前にあった出来事のように感じています。過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症が引き起こす社会的課題は、その時代背景や科学技術の進歩によって異なる側面を持ちます。アートはその時代の複雑な感情や社会的な変化を反映してきました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。
第9回	ワークショップ2 ・単元の復習とワークショップ	戦後アメリカ美術、1960年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。			
第10回	政治とアート 退廃芸術展と大ドイツ展、戦争画、東日本大震災とアート、表現の不自由展	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることになります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争、文化政策の変化など、政治とアートについてプロパガンダ、社会主義リアリズム、ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、表現の不自由展などの具体的な事例を通じて、アートが政治的な状況にどのように対応し、影響を与えてきたのかについて理解します。	第14回	ワークショップ3 単元の復習、ワークショップ	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
 デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
 『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
 『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
 『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

実務経験のある教員による授業

平野真弓はフィリピン・マニラ在住のキュレーター・リサーチャーです。フィリピンを中心に東南アジアの展覧会史やキュレーションにまつわる思想や実践方法を研究しています。実践と研究活動で得た知識と経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)

2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

LIT200GA (文学 / Literature 200)

言語文化概論

衣笠 正晃

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

- 1) テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
- 2) 言語（ことば）と文化・社会との密接なかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
- 3) 学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回とも、出席者がテキストおよび事前配付資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。

授業形式は講義が中心となります。皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、原則として毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。リアクションペーパーのコメントや質問については次回授業で取り上げてフィードバックをおこないます。また復習を兼ねたミニレポートを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／イントロダクション	授業計画の説明＋4つの「ポスト状況」と現代思想の問い（テキスト第1章）（リアルタイムオンラインで実施）
2	19世紀から20世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
3	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第2章）
4	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第4章）
5	ことばとしての文化	構造主義革命と一般記号学（テキスト第5章）
6	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第7章）
7	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第8章）
8	メディア・テクノロジーと文化産業(1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第9章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業(2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第10章）
10	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第13章）

11	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第14章）
12	「人文知」のあり方の転換(1)	20世紀思想の問題圏（テキスト第15章）
13	「人文知」のあり方の転換(2)	ポスト・ヒューマニズムをめぐる
14	学期授業の総括	学期末試験・振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストや事前配付資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までに作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平15章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010年）
※上記テキスト以外にも随時プリントを配付・使用します。

【参考書】

・岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015年）
・石田英敬『記号論講義——日常生活批判のためのレッスン』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2020年）
※その他、授業で随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50％）をあわせて評価します。評価にあたっては以下の4点の達成度にもとづいて判断します。

- 1) テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
- 2) 思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
- 3) 授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもてているか。
- 4) 授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者による自発的・主体的な問題発見や取り組みをさらに促すように努めたい。またクラス規模を考慮したうえで、出席者による議論や意見交換の機会を取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料の配付や提出物の回収、授業に関する連絡など、学期を通じて学習支援システムを利用します。小テスト等で利用することがありますので、指示があった場合は授業にデバイス端末（PCやタブレットなど）を持参してください。

【その他の重要事項】

・初回授業はリアルタイムオンラインで実施します（詳細は秋学期開始時に学習支援システムに掲示します）。万一受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題にもとづき選抜をおこないます。
・履修者数などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。

【Outline (in English)】

This course outlines the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called “linguistic turn” on the humanities. The goals of this course are to obtain basic knowledge of 20th-century cultural and social theories and theorists, to understand the inextricable relationship between language and culture, and to have a critical awareness toward the issues of the contemporary world. Students are expected to come to class well prepared by completing the required assignments; the required study time is more than four hours per class. The overall grade will be decided based on class participation (50%) and the final examination (50%).

PHL200GA（哲学 / Philosophy 200）

現代思想

森村 修

サブタイトル：「生まれてこない方がよかった」とはどういうことか？ — 反出生主義入門

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年／隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。

2026年度も、デイヴィッド・ベネター（1966-）の『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』（2006/邦訳新訂版2024）を通じて、世界中にさまざまな影響を与えた思想としての「反出生主義」について哲学的に考察する。その際に、ベネターのテキストを十分に理解するために、ベネターのテキストを翻訳した小島和男氏（学習院大学教授）の『反出生主義入門——「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか』（2024）を用いて授業を進める。

【到達目標】

(1) 「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができるようになる。
(2) 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

毎回、授業概要を講義形式で行い、テキストの読解を授業内で試み、その理解を深める。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー	・授業の概要説明 ・デイヴィッド・ベネターとは誰か？
2	『反出生主義入門』①	I. 反出生主義にふみ込む前に① 1. なぜ倫理の問題を考えなければならないのか？ 2. 中絶は不道徳か否か？
3	『反出生主義入門』②	I. 反出生主義にふみ込む前に② 3. 未来への責任はあるか？
4	『反出生主義入門』③	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ① 1. 『生まれてこないほうが良かった』全体の構成 2. 可能的存在についての価値判断
5	『反出生主義入門』④	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ② 3. 基本的非対称性とその説明力
6	『反出生主義入門』⑤	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ③ 4. 快が苦を打ち消せば良いのはいかという反論
7	『反出生主義入門』⑥	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ④ 5. 人生の質の評価と世界における苦痛
8	『反出生主義入門』⑦	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ⑤ 6. 子どもを作る権利について 7. 妊娠中絶賛成派

9	『反出生主義入門』⑧	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ⑥ 8. 段階的絶滅 9. 子どもを持たないことへの偏見とベネターの思い
10	『反出生主義入門』⑨	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと① 1. 『生まれてこないほうが良かった』がミソジニーである理由
11	『反出生主義入門』⑩	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと② 2. 自殺について
12	『反出生主義入門』⑪	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと③ 3. 親を責めても良いのか？
13	『反出生主義入門』⑫	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと④ 4. 子どもを作っては絶対にいけないのか？ 5. 「始める価値」と「続ける価値」の違いをベネターが強調しない理由
14	反出生主義とは何だったのか——総括	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと⑤ 6. パズル解きか実存的な自分の問題か？ 7. 反出生主義と教育、それと養子について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

(1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2024年
(2) 小島和男『反出生主義入門——「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか』、青土社、2024年

【参考書】

(1) David Benatar, *Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence*, Harvard University Press, 2006.

(2)

※ テキスト以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験・レポート（30％）、授業内レポート・レジュメ（30％）、平常点（40％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※ 成績評価の方法と基準については、あくまで対面式授業の場合であり、リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法ならびに基準が変更されるので注意が必要。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

※ リアルタイム・オンライン授業に際しては、インターネット環境が整っていること、そのための機材が用意されていることが必須である。

【その他の重要事項】

1. 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
3. テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第1回目の授業には必ず参加すること。
4. 2025年度では、受講生数が多すぎたため、事前に「選抜テスト」を行った。2026年度も同様の事態が危惧されるため、受講生が多数の場合には授業登録前に「選抜テスト」を行う予定である。

【Outline (in English)】

The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about origin and essence of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the thought of modern trends. The purpose of this class is to philosophically examine "anti-natalism" through David Benatar's (1966-) "Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence" (2006/New Revised Japanese Edition 2024).

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー 国際文化協力とはー	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際文化
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力ー期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関係している。各自入手すること。

松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力ーイメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%。
- ・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）。
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない。
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
- ・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
- ・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
- ・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。単に学生が意見を言うだけでなく、それをもとに教員とやり取りを行うことで考えが深まると、学生から好評。

【学生が準備すべき機器他】

・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】

NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to;

- 1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
- 2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
- 3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
- 4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA (政治学 / Politics 200)

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実際に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務などでやむを得ない場合はオンデマンド授業を行う場合もある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高

めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとするについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内討論への参加度）20%、授業後課題30%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。

・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。

・学生からは「学びが大きい」「思考が深まる」というフィードバックが多いので、毎回のグループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・国際開発協力NGOやNHK記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
- 2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
- 3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

LIN300GA（言語学 / Linguistics 300）		
世界の言語Ⅱ		
内山 政春		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
・この授業は「世界の言語Ⅰ」と交替で隔年開講されています。「世界の言語Ⅰ」がヨーロッパ諸言語に関する内容であるのに対して、この授業ではアジアの言語、特に東アジア漢字文化圏各国（日本、南北朝鮮、中国、台湾、ベトナム）の言語を中心に取り上げたいと思います。しかしそれに限らず、言語をとりまくさまざまな現象に関して言及しながら、みなさんの学習言語が何語であれ、その学習に少しでも役立つような話をしたいと思っています。人工言語として知られるエスペラントについても取り上げる予定です。		
【到達目標】		
・言語について公平な視点をもてるようになること（一例をあげれば「日本語は非論理的、英語は論理的」のような俗説に惑わされないようになること）。そして学習言語と日本語をさまざまな側面から対照できる力をつけること。以上のことを目標にして履修してください。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
・基本的には講義形式で行ないますが、SA先の言語に関して言及するときは、該当する学生に質問することもあるでしょう。毎回のみなさんの感想や質問は、次の授業で言及する予定です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	言語と方言—ひとつの「ことば」とは—	・世界の国家数と言語数 ・言語と方言 ・日本の言語
2	言語の分類—やさしい言語と難しい言語—	・やさしい言語と難しい言語 ・系統論による分類 ・類型論による分類 ・外国語の難しさと文法
3	音声と音素—同じ「音」と異なる「音」—	・日本語のローマ字表記 ・音声と音素 ・ローマ字表記と音素 ・外国語学習と音
4	言語と文字—文字は「音」をあらわすものか—	・言語数と文字数 ・文字の系統と分類 ・ローマ字の広がり ・文字の目的
5	漢字と漢字文化圏	・言語としての漢字文化圏 ・中国語と漢字 ・漢字の伝播 ・表音文字の発達 ・漢字のしくみ ・形を失った漢字 ・漢字圏での固有名詞の読み方
6	中国語とその周辺 1	・「中国語」とは？ ・「中国語」の表記
7	中国語とその周辺 2	・「中国語」の用いられる地域 ・「中国語」は存在するか？
8	中国語とその周辺 3	・中国語を用いる2つの国家
9	台湾の言語 1	・台湾の中国語
10	台湾の言語 2	・「多言語国家」としての台湾
11	朝鮮語とその周辺 1	・朝鮮語の使用領域 ・言語と文字の名称 ・歴史と系統 ・朝鮮語の表記
12	朝鮮語とその周辺 2	・ハングルの出現 ・近代の朝鮮語 ・戦後の朝鮮語 ・ハングルの海外「進出」 ・南北の朝鮮語のちがひ ・語彙と文法
13	ヨーロッパの諸言語と文法カテゴリー	・ヨーロッパ諸言語の系統 ・ヨーロッパ諸言語の話者数 ・ヨーロッパ主要言語の語彙 ・語彙の借用 ・文法カテゴリー
14	エスペラント	・人工言語の試みとエスペラント
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
・SA先の言語はもちろん、その他の外国語にも、そして日本語にも、ことばと名のつくものに広く関心を持ってください。関連する本を積極的に読んでください。		
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
・特にありません。		
【参考書】		
・特に指定はしませんが、各項目に関して興味のある人は『言語学大辞典』（三省堂）を参照してください。		
【成績評価の方法と基準】		
・従来の対面授業では、毎回の授業の終わりに講義に関する感想や質問を書いてもらっていましたが、今回は授業では出席確認のみにし、感想や質問はHoppiiで提出してもらうことにしようと思います。その方が時間の余裕をもってまとまったことを書けると思うからです。リアクションペーパーの内容は最低字数を定め（200字）、毎回の内容を総合して評価します（100%）。100点満点で60点以上を合格とします。		
・あまりにも出席が少ない場合、リアクションペーパーの内容があまりにもいかにげん場合には、毎回の提出評価の対象から外することもあります。		
【学生の意見等からの気づき】		
・授業が始まっているのに遅刻者が教室にゾロゾロ入ってくると、他の学生の迷惑にもなり、授業の進行も遅れがちになります。授業開始の時点で学生が着席しているのは「あたりまえ」のことです。それが守れない人、また私語をする人は、他の学生に迷惑となりますので、受講しないでください。		
【学生が準備すべき機器他】		
・教員が準備した映像資料を見てもらいながら話を進めます。		
【その他の重要事項】		
・順序と内容に若干の変更がある可能性があります。		
【Outline (in English)】		
< Course outline >		
The aim of this course is to help students acquire general knowledge about languages in Asia, especially East Asia, including Japan, Korea, China, Taiwan and Vietnam.		
This course will also deals with so-called constructed language "Esperanto".		
< Learning Objectives >		
The goal of this course is to acquire a fair perspective on language.		
< Learning activities outside of classroom >		
Students will be expected to submit a reaction paper after class.		
< Grading Criteria/Policy >		
Your overall grade in the class will be decided based on your reaction papers.		

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

メディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう

PC を使ったマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつかの課題制作に取り組む。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】

Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法(講義と実習)

・デザインの基礎と Photoshop の応用技法

- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用

- レイヤー、マスク、フィルタの技法

- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な

作品作りに必要な写真理論

- DTP に向けてのスクリーン、プリンタの利用法

●クリティーク (合評) と制作メモの提出

各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

・デジタル写真のリタッチ

・ポスター作り (Photoshop + 大判プリンタ・Web)

・写真表現の作品化 (アルバム・Web)

・自由なテーマによる最終課題 (Photoshop + 大判プリンタ・Web)

●大事にしたいこと

・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。

・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。

・「コンピュータに簡単に打ち込めない世界」を大事にしよう。

・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性 (音声、音響、文書・画像・映像)、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAP の原理 (近接、反復、整列、コントラスト) を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前 2 回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク (合評) をおこなう。

4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。
5	メディア処理ソフトウェアの実践 - 画像レタッチソフト (Adobe Photoshop CC)	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング (前編)	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング (後編)	第 9 回に引き続き、制作実習の後半。
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB、CMYK などカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoTone などの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラやスマートフォンを携帯し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを平日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

制作テキスト (必要部分の和訳プリント配布) : Adobe Photoshop 5.5 and

Illustrator 8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X

制作テキスト (必要部分のみをプリント配布) : Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499

制作テキスト (CMYK 変換、色域外警告について参照) : Adobe Photoshop Classroom in a Book (2022 release): ISBN-13: 978-0137621101

デザイン論テキスト (初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布) : R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ (1998)、ISBN 4895630072

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キット タケナガ (著) 東京写真学園 (監修)、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社(2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業参加の積極性, 30%)、クリティーク (課題作品の相互批評, 15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作 (35%)、ePortfolio 個人の作品集づくり (20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。2023 年度は印刷出力に関し色域外警告の取り扱いと CMYK への変換について説明内容を増補充実させた。また 2022 年度より継続的に PC 実習機の問題解消に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

素材撮影のためにデジタルカメラが必要、光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるデジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。制作のためのフォトリント用紙など課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。提出作品はePortfolioにて保存公開する。

【その他の重要事項】

【重要】生成AIの出力をそのまま作品またはその一部に使用することは禁じる。受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshopの応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique and review: 15%

Homework and in-class assignment: 35%

Individual e-Portfolio: 20%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

メディアアートの世界

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう

本講義では芸術表現のためのプログラミング言語Processingのプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつあるp5.js環境でのProcessing流プログラムのWeb環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】

メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processingの制作環境での描画や対話機能を身に着け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。

IoTやMakerムーブメントなどWebと現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

Processingプログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：Processing入門	Processingとは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processingの基礎（1）：簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題からProcessingプログラミングの基礎を習得する。
3	Processingの基礎（2）：基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processingの基礎（3）：変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース【制作課題1】	マウス追従、キーボード入力などユーザのGUI操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。 【課題1】習得した技法を総合して写真コンテンツのWebを制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出【制作課題2：学習成果のまとめとWeb化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。 【課題】学習成果を活用してProcessing作品を制作する。p5.jsによるWeb化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。

10	オブジェクト【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。 【課題】学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用なビスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON形式の外部データ、API経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。 【課題】制作物の実装方法の構想発表。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduinoマイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるため、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアをProcessing作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processingをはじめよう 第2版 (Make: PROJECTS)」、オライリージャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】

【Processing】

Daniel Shiffman (著)、尼岡 利崇 (翻訳)、「初めてのProcessing」、オライリージャパン (2018)、ISBN-13 : 978-4873118611

【p5.js プログラミング】

Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津貴之 (監修)「Generative Design with p5.js—ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974

【メディアアートのためのプログラミング】

Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design — Processingで切り拓く、デザインの新たな地平」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134

【ジェネラティブ・アート】

マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修)、沖 啓介 (翻訳)、「普及版ジェネラティブ・アート—Processingによる実践ガイド」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性,20%)、中間課題(30%)、最終課題(40%)、相互批評(10%)を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定しProcessingの可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できるPCとWeb環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。メディアアートの動向にも触れる機会としたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行う。各自のPCや携帯端末を実習の検証に活用する。
ePortfolio(WebClass)に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】

自分できざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。
情報系教員によるクラス授業であり、Webを基盤とするICTの活用実習、ならびに発見型学習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。
関連科目：「デジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 20%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 40%
Critique: 10%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅡ

K r e g g J o h n s t o n

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course aims to help students accomplish the following: 1) develop their knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics, 2) understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically, and 3) analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. Students read individual chapters in the book.
 2. A teacher-led discussion on the material from each chapter is held.
 3. Student-led discussions in small groups covering self-check questions, review questions, and critical thinking questions are held.
 4. End of chapter quizzes are taken.
 5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter) are given.
 6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting) are assigned and given.
- Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Welcome to Economics: Why Economics is Important/ Macroeconomics & Microeconomics	English reading and lecture and on why it is important for everyone to be able to understand Economics.
Week 3	Welcome to Economics: Economic Theories & Models/ Economic Systems	English reading, discussion and written assignment on economic systems.
Week 4	Choice in a World of Scarcity: Choice & Budget Constraints/ Production Possibilities Frontier	English reading and lecture on the concepts of scarcity and the choices people and companies must make because of limited budgets.
Week 5	Choice in a World of Scarcity: Social Choices & Objections to the Economic Approach	English reading, discussion and written assignment on economic & social choices.

Week 6	Demand & Supply: Demand, Supply, & Equilibrium/ Changes to Equilibrium	English reading and lecture on the concepts of supply and demand.
Week 7	Demand & Supply: Student Presentations	Students make presentations on real world experiences with demand & supply using vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	Elasticity: Price Elasticity of Demand	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of demand.
Week 9	Elasticity: Price Elasticity of Supply	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of supply.
Week 10	Cost & Industry Structure: Explicit & Implicit Costs/ Accounting & Economic Profit	English reading and lecture on the concepts of cost, revenue, and profit.
Week 11	Cost & Industry Structure: The Structure of Costs in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on short & long run costs.
Week 12	Perfect Competition: Perfect Competition & Firm Output	English reading and lecture on the concepts of market competition.
Week 13	Perfect Competition: Entry & Exit Decisions in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on why companies open or close.
Week 14	Examination/ Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Read the assigned chapters in the book.
 2. Complete the assigned self-check & review questions at the end of each chapter.
 3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
 4. Come to class ready to participate actively in each class by reading the material, completing the homework assignments, and ask questions or offer own opinions in English on topics covered in class.
- The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

OpenStax, Principles of Microeconomics. OpenStax. 19 March 2014. <<http://cnx.org/content/col11627/latest/>> .

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Quizzes 50%
- ・ Participation 20%
- ・ Homework 15%
- ・ Written Assignments 15%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More practice on using economic terminology and expressing own opinions on economic topics.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring a digital device to class, such as a computer or ipad so that they can view the material in the textbook, or print out each unit and bring it to class. The textbook should be downloaded so that it can be viewed or accessed easily during class.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅢ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to talk about their experiences abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Youth Culture: Examining aspects of youth trends such as tattoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.	English lecture, and reading on trends in youth culture such as tattoos, piercings, selfies, and various type of social media. Followed by question and answer session, and small group discussions on these trends.
Week 3	Youth Employment: Where does the money go? Youth shopping trends for services and products	English lecture, and reading on youth trends in working styles, and new ways to shop and spend money. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 4	Elderly Trends: Shopping for health, plastic surgery and Internet dating	English lecture, and reading on trends among older people including plastic surgery and internet dating. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 5	Careers and Employment: Working life What is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Research Habits: Conducting group research-different sharing tips	English lecture, reading and small group discussions on new trends in working and career styles. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.

Week 6	Alternative Career Tracks: Unusual fields for employment Outlining of Presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions on alternative forms of employment. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Medical Advances: How medical technology is shaping our world of diseases & viruses Presentation Tip—Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion on the effects of new medical technologies. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Medical Research: Big pharma and how medicine changes our reality Presentation Tip—Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on the implications of large-scale for profit medical research. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do when making a presentation.
Week 9	Health Issues: Diet considerations for life stages Presentation Tip—Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how people diets change at different times during a person's life. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Mental Health Considerations: Overworking, group and relationship stresses Presentation Tip—Group Work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on stresses caused by relationship at work. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentation.
Week 11	Technology in Our Blood: Technology changes Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up Presentation Tip—Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions on new technologies creating the sharing society. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	Youth Trend Presentations: Presentations and discussions of youth trend themes	Student Group Presentations on youth trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	Elderly Presentations: Presentations and discussions of elderly trend themes	Student Group Presentations on elderly trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course Overview Discussions: Discussion of life themes used in the semester	Recap lecture and group discussion of the social and technological themes cover in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
 25% Short Presentations

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work would be useful.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact

kasmersensei@gmail.com

LANe300GA (英語 / English language education 300)					
英語アプリケーションⅣ					
ウォルター・カズマー					
配当年次／単位：3～4年／2単位					
旧科目名：英語アプリケーション					
旧科目との重複履修：○					
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall					
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること					
その他属性：〈他〉〈優〉					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.					
【到達目標】					
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to make contrasts and comparisons with life in Japan.					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.	Week 6	Explaining Customs in Selected Western European Countries: Holidays, national/regional habits Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions of some Western European holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 2	Describing Your Life: Language activities centering around student life	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing student centered life experiences.	Week 7	Discussion of Asian and Western National Differences: National holidays, national/regional habits Presentation Tip—Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion of difference between Asian and Western holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 3	Describing Other Lives: Language activities centering around family and acquaintance routines	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing the daily routines and life experiences of other people.	Week 8	Discussion of South American Customs in Selected Countries: Discussing cultural difference Presentation Tip—Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on some South American customs. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do and not do when making a presentation.
Week 4	Explaining Customs in Your Country: Holidays, national/regional habits	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on Japanese customs, holidays, and regional or national habits.	Week 9	Discussing Food Habits: Diet and how it affects customs Presentation Tip—Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how customs are affected by people's diets and food supplies. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 5	Explaining Customs in Selected Asian Countries: Holidays, national/regional habits Research habits: Conducting group research—different sharing tips	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on different Asian customs, holidays, and regional or national habits. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.	Week 10	Habits of Selected Parts of Africa: National holidays, national/regional habits Presentation Tip—Group Work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on some African national holidays and habits. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentations.
			Week 11	Examination of Sports by Continent in Selected Countries: Sports comparison by types, number of players Presentation tip—Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions of sports in some countries and they can differ. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
			Week 12	African Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What would you do? — Culture clash examples	Student Group Presentations on African cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
			Week 13	South American Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What are the rules? — Relook at sports, but ones with unusual rules	Student Group Presentations on South American cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 14 Course Overview Recap lecture and group
Discussion of discussion of the cultural and
Contrasting regional themes covered in the
Presentation Themes: semester.
Discussion of cultural
contrasts from
country to country
and region to region

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)

25% Short Presentations

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅤ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social/global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pair work and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pair work practice of a preassigned conversation, (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic, (d) a news item pair work reading and listening, and (e) a task-based pair work activity. Students' progress in pair work activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'What personality type are you?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #1 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Money & Shopping' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #1
Week 3	Topic: 'Single Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Some artists are misunderstood.' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #2 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Single Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #2

Week 4	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'History is my best subject!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #3 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Age and Youth' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #3
Week 5	Topic: 'What if...?'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I'm against animal testing!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #4 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'What if...?' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #4
Week 6	Topic: 'Children'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #5 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Children' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #5
Week 7	Topic: 'Cities'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'The 60s counterculture!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #6 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cities' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #6
Week 8	Topic: 'University Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'After all, it's only a game!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #7 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'University Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #7
Week 9	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #8 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cellphones' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #8
Week 10	Topic: 'Travel'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Does capital punishment work?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #9 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Travel' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #9

Week 11	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'My Cat is Cool!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #10 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Teenagers' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #10
Week 12	Topic: 'Home'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Staying Fit' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #11 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Home' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #11
Week 13	Topic: 'Time'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #12 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Time' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Examination/ Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Final Exam – 30%
- ・ Weekly Conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests – 40%
- ・ Class Participation – 20%
- ・ Word-up Tests – 10%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションVII

ANDREW JONES

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s and continuing into the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The Italian Renaissance - The Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Italian Renaissance - The High Renaissance: Michelangelo, Leonardo	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	Presentation style - Presentation structure, posture, eye contact, gestures	English reading, and class discussion on good presentation style.
Week 5	The Italian Renaissance - Research presentation topic, draft scripts	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 6	The Italian Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 7	The Italian Renaissance - Student presentations	Students make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

Week 8	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 9	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: Historical context	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 10	Presentation style - Creating effective visuals and presenting them effectively	English reading, and class discussion on effective presentation of visual aids.
Week 11	The Netherlandish Renaissance - Research presentation topic, draft script	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 12	The Netherlandish Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 13	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	First half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 14	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	Second half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

60% Presentations, students will give two presentations during the course (2 x 30%).

20% Course participation, enthusiasm and willingness to speak English in class.

20% Portfolio of notes taken during lectures.

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションVIII

DANIEL G DUSZA

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse using a variety of communication methods related to presentations and discussions of both Japanese and foreign cultural topics. Students will discuss and present from a selection of topics provided in each class. Following each presentation, there will be a brief lecture and Q&A session. Students will then write a reflection, which will be submitted as homework.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is to discuss, research, present, and report cultural topics of interest at a level for academic writing or presentation. Students will have opportunities to practice and improve these skills in each class. Cultural issues will be drawn predominantly from news and advertising media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第2回	Presentation Introduction: How to format and deliver an academic presentation	Introduction to key vocabulary in presentations: cohesive devices, transition statements, and signposting.
第3回	Traditional Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind Acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第4回	Contemporary Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind Acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第5回	Future Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind Acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第6回	Present Theme of Choice	Student skills will be assessed by delivering two presentation summaries in class. The first will be chosen from one of their previous works, and the second will be from a unique set of themes.

第7回	National Festivals and Events (Descriptive)	Students prepare a descriptive presentation of a chosen national event, depending on their nationality, present it to the group, and fill out a reflection of what they have learned from their peers.
第8回	International Festivals and Events (Comparative)	Students prepare a comparative presentation of a favorite national event, depending on their nationality, present it to the group, and fill out a reflection of what they have learned from their peers. This presentation has a research component.
第9回	National and International Customs (Process)	Students prepare a presentation or essay explaining two kinds of processes (i.e., directional and informational). At the end of the class, students reflect and summarize what they learned from their peers.
第10回	Introduction to Debating and Arguing: Traditional Cultural Themes	Students learn a framework for preparing a single-sided argument. A debate topic will be chosen from a list and will prepare their single-sided argument manuscript or presentation.
第11回	Practicing Debate and Argument: Contemporary Cultural Themes	Students use the single-sided argument framework to present or write about a contemporary issue of their choice.
第12回	Introduction to Presenting a Two-sided Argument: Contemporary Global Themes	Students learn a framework for preparing a two-sided argument on a topic related to "Making a Better Future for Humanity." Students will choose their topic (e.g., cultural, economic, political, and environmental) and provide a summary of what they would like to discuss. Students will then develop support for their two-sided argument essay/presentation/speech/poster presentation.
第13回	Delivering a Two-sided Argument	Students will continue developing their two-sided argument by adding opposing evidence from interviews, web searches, AI interactions, and research. Referencing, cohesive devices, and formatting will be discussed. Students will then have one week to complete their artifact for final assessment.
第14回	Comments/ Summaries/ Conclusions	Students will receive detailed feedback and comments regarding their achievements and how to continue to improve their academic communication skills in the future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading and research on assigned topics.
 The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Material will be sourced online or provided in class.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.
 Weinschenk, S. (2012). 100 things every presenter needs to know about people. New Riders.

【成績評価の方法と基準】

30% Class Participation (Miscellaneous)
 30% Written Assignments (Summaries)
 40% Presentation(s) (Speech, Presentation, Poster, Essay)
 Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅩ

ラスカイル L.ハウザー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: The Principles of International Presentation	Brief English lecture and reading on the differences between Japanese and International business presentation styles. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	Presenting with Yourself Confidence: The keys to presenting yourself as a confident professional	Brief English lecture on the main ways a presenter can show professional confidence. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Three Critical Questions: The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.	Brief English lecture, reading and question and answer session on the three questions a presenter needs to ask before beginning to prepare a presentation. Followed by small group discussions of topics and a written assignment.
Week 4	Creating a Powerful and Persuasive Message: Developing the one point you want your audience to hear and remember	Brief English lecture, reading and question and answer session on what every presenter needs to do: Create a powerful and persuasive message. Followed by small group discussions of the main point for the audience and a written assignment.
Week 5	The Structure of a Presentation: How to build an effective presentation	Brief English lecture on effective presentation structure. Followed by small group discussions and a written assignment on outlining a presentation.

Week 6	Mid-term Presentation Preparation: Students work on their mid-term presentations	Students discuss and edit their presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 7	Mid-term Presentations	Individual Student Presentations to the class
Week 8	The Principles of Effective Visual Presentation: How to present visually	Brief English lecture on the principles of making effective visual presentations. Students take notes, followed by class discussion, and question and answer session.
Week 9	Designing PowerPoint 1 - Working with the Software	Reading, question and answer session, and actual practice working with the standard business presentation software PowerPoint.
Week 10	Designing PowerPoint 2 - Text, Color and Composition	Instructor lead discussion, and actual practice working with PowerPoint. Observing both the effective and ineffective use of text, color and composition.
Week 11	Using Logic and Emotion to Persuade: The elements of persuading others	Brief English lecture on the concepts of using logic and emotion to persuade others. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 12	Group presentation skills	Brief English lecture on the keys to making effective group presentations. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 13	Developing Your Group Presentation	Students discuss and edit their group presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 14	Final Group Presentations: Evaluation and Feedback	Group Student Presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In Class Work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANd300GA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語アプリケーション

林 志津江

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでのドイツ語学習やSAプログラム・派遣留学などを通じて獲得したドイツ語運用能力を維持向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く・話す楽しみをともに味わって参りましょう。

【到達目標】

- 1) A2 B1 レベルのドイツ語テキストを辞典類を用いて読解し、その表現を用いて自らもドイツ語で叙述・表現することができる。
- 2) ドイツ語で読んだテキストを関連付け、ドイツ語圏の生活、文化、社会など各種トピックについての理解を深めることができる。
- 3) 特定のテーマについてドイツ語で意見を述べたり聞き取ったり、平易なレベルの議論を行うことができる。
- 4) まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションです。各参加者のドイツ語学習経験、ドイツ語圏滞在体験に配慮しつつ、テキストの理解を深めていきます。
- ・各回、指定されたドイツ語テキストを前もって読んでおきます（予習）
- ・授業は各回、テキストの読解分析が中心です。テキストの内容と重要概念（語彙）を確認しつつ、読解で確認した構文を使った作文練習をします。
- ・ペアワーク、グループワークと並行して、学期中に各参加者はプレゼンテーションを行います。
- ・プレゼンテーション課題の詳細と担当割り振りは授業第1回目に説明・確認します。
- ・LMSとして、Google Classroomを使用します。連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、全体と個別に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などを確認します。
2	Moderne Geschichte: Vom Reich zur Republik	ドイツ近代の歴史：ドイツ帝国の成立 — 激動の19世紀、そして第1次世界大戦
3	Der Anfang vom Ende - Die Weimarer Republik	ヴァイマル共和国 — 黄金の20年代・終わりの始まり
4	Terror und Vernichtung - Der Dritte Reich	第3帝国下のドイツ — 恐怖政治と絶滅政策

5	Politik und Parteien / プレゼンテーション (1)	選挙には行きますか？
6	Krisen und Konflikte (I)	ドイツにはどんな社会問題が？？！
7	Krisen und Konflikte (II) プレゼンテーション (2)	ドイツにはどんな社会問題が？？！
8	Beginn der Moderne: Vom Mittelalter zur Romantik	近代の始まり — 中世からロマン派の時代
9	Bildung als Lebenssinn / プレゼンテーション (3)	人生の意義としての教養・ウィーンと音楽
10	Das Paradigma der Moderne - Bis heute	学問と表現の自由 — 科学の発展と表現主義、バウハウス
11	Kunst und Wissenschaft (I) プレゼンテーション (4)	「芸術」の様式とは？！
12	Kunst und Wissenschaft (II)	「芸術」の様式とは？！
13	Im Nordwesten von Deutschland(I) プレゼンテーション (5)	ドイツ北西部とはどんなところ？
14	Im Nordwesten von Deutschland(II)	リュネブルクってどんなところ？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各1時間以上を標準とします。
- ・授業ごと所定の予習・復習課題を行い提出します。授業時間外の課題（プレゼンテーションの分担）については別途指示します。
- ・インターネットやSNS等も使ってドイツ語圏のメディアに積極的にアクセスしてみましょう。新聞（日刊紙）などのニュース記事にチャレンジできればなお良しです。

【テキスト（教科書）】

„ Dreimal Deutsch“ (Klett) (2025年度「ドイツ語7」使用教科書)
 ISBN: 978-3-12-675237-4

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）
 その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献：50%、プレゼンテーションおよび提出課題：50%を合わせ、総合的に判断します。
 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典および1～2年次で使用したドイツ語文法の教科書は必携です。

【その他の重要事項】

- ・指定教科書をお持ちでない方については、科目担当者が販売します。履修登録・初回授業参加時にお知らせください。
- ・本科目はドイツ語圏SAプログラム参加学生や派遣留学を目指す方、学部専門科目に役立つドイツ語読解能力を身に付けたい方にフィットしています。目安としては4セメスター以上のドイツ語学習経験があることですが、学習進度には個人差もあります。迷う場合はぜひ担当者にご相談ください。
- ・授業内容（テーマ）と順序等はクラスの状況によって変更されることがあります。

- ・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受験を推奨します。以上の受験結果は2026年7月25日頃（予定）までに担当者に通知された場合のみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。
- ・質問・相談などは担当者宛にメールで、あるいは授業の前後にも受け付けます。

【Outline (in English)】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
- ・To be able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
- ・To be able to write texts of a certain length in German.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
- ・There are prescribed preparation and review tasks.
- ・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
- ・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of some ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of the others (presentations, submitted assignments).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300GA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語アプリケーション

小川 敦

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Gymnasium等、ドイツ語圏の中等教育（中学校・高校）で用いられる地理や歴史、公民の教科書を、辞書や文法書を用いながらじっくり読むことでこれまでに身につけたドイツ語力をさらに高めます。

【到達目標】

語彙や文法の複雑なドイツ語テキストにじっくり向き合うことでレベルの高いドイツ語を読めるようになる。ドイツ語圏に生きる人々の意識を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

内容を吟味しながらテキストを読んでいきます。また、学生と教員、学生同士で解釈に違いが出た場合はじっくり議論し解決していきます。

試験の返却の際に間違えやすいポイントを解説します。

受講生の関心や授業の進度に応じて、内容のある程度柔軟に修正・変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教材や授業の進め方の確認
2	ドイツ語圏の教科書を読む・その1	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。関係代名詞に注意して読みます。
3	ドイツ語圏の教科書を読む・その2	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き関係代名詞に注意して読みます。
4	ドイツ語圏の教科書を読む・その3	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。書き言葉としての受動態に注意して読みます。
5	ドイツ語圏の教科書を読む・その4	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き書き言葉としての受動態に注意して読みます。
6	ドイツ語圏の教科書を読む・その5	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。zu 不定詞句の使い方に注意して読みます。
7	ドイツ語圏の教科書を読む・その6	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いて zu 不定詞句の使い方に注意して読みます。

8	中間のまとめ、および読解の続き	前半で扱ってきたことのまとめを行います。
9	ドイツ語圏の教科書を読む・その7	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。属格に注意して読みます。
10	ドイツ語圏の教科書を読む・その8	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に続いて属格に注意して読みます。
11	ドイツ語圏の教科書を読む・その9	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。英語にはない修飾語句に注意して読みます。
12	ドイツ語圏の教科書を読む・その10	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いて英語にはない修飾語句に注意して読みます。
13	ドイツ語圏の教科書を読む・その11	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。ざっと読んで内容を把握する練習をします。
14	授業の最終的なまとめ	学期後半で学んだことを中心に、授業で扱ったまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の教材や資料は、学習支援システムで配布します。予習・復習ともに重要です。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は用いません。地理、歴史、政治をテーマとした教材をこちらで用意します。

辞書（独和辞典）は必須です。紙媒体でもアプリ（有料のものに限る）でも構いません。

【参考書】

・1回生で用いたドイツ語文法を扱った教科書

・中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加30%、中間試験30%、期末試験40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】

教材は基本的に電子データでの配布となります。授業にはスマートフォンではなくタブレットまたはPCを持参してください。

【その他の重要事項】

内容は決して難しいものではありませんし、扱うテキストの性格上、機械翻訳を用いればほとんどの日本語訳はできると思います。授業ではドイツ語の文そのものを文法的に解析する力や多様な語彙力を身につけるようにしてください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Students further develop their German language skills through close reading of geography and history textbooks used in secondary education in German-speaking countries, using dictionaries and grammar books.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students learn to read German texts with complex vocabulary and grammar at a high level. Students will also gain an insight into the attitudes of people living in German-speaking countries.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Active participation 30%

Midterm examination 30%

Final examination 40%

LANd300GA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語アプリケーション

Schmidt Ute

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Alltagskultur im deutschen Sprachraum

ドイツ語圏の日常文化 — 日本と比べてのぞいてみよう

この授業では、日常のちょっとした話題から最新の時事問題まで、ドイツ語圏の多彩なテーマを取り上げます。受講者はそれらを理解するだけでなく、自分自身の経験や日本の社会と比較しながら考え、意見を交換していきます。

簡単なディスカッションにも挑戦し、「違い」を楽しみつつ、物事を批判的に捉える力や、自分の生活文化をあらためて見つめ直す視点を養います。

また、本授業は Goethe-Institut などのドイツ語検定試験の準備としても役立つ内容です

【到達目標】

- 1) 中級以上のテキストを理解できる。
- 2) 様々な領域の語彙を習得する。
- 3) 基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
- 4) 幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、
長所、短所を挙げることができる。
- 5) 簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
- 6) 簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

中級レベルの教科書のテキスト、新聞や雑誌の記事、音楽、テレビなどを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。課題等の提出・フィードバックは授業中または「学習支援システム」を通じて行う予定です。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	Einstufung
	自己紹介	Selbstvorstellung
第2回	Stadt oder Land	Vorteile und Nachteile vergleichen und vorstellen
第3回	Männer und Frauen	Über Klischees sprechen Statistiken und Grafiken beschreiben
第4回	Hast du Netz ?	Mediensprache
第5回	Tiere	Die Tierliebe der Deutschen Adjektive Wiederholung

第6回	Reparieren und Selbermachen	Etwas reklamieren Passiv Wiederholung
第7回	Musik	Festivalsommer Deutschsprachige Hits Liedtexte verstehen
第8回	Filme	Mein Lieblingsfilm Filme vorstellen
第9回	Regional - global	Eine Region vorstellen
第10回	Lebensträume	Glück als Schulfach
第11回	Klima und Umwelt	Nachrichten verstehen Widersprüche, Bedingungen und Konsequenzen ausdrücken
第12回	Ein Blick in die Zukunft	Prognosen
第13回	Wie peinlich!	Knigge interkulturell
第14回	Präsentation	Vortrag und Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

予習はテキストを事前に読むと、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

教材は学習支援システムで配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業での発言 (30%)、宿題提出 (30%)、プレゼンテーション (40%))

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will explore a wide range of topics related to the German-speaking world, from familiar aspects of everyday life to current social issues. Students will not only work to understand these topics, but also compare them with their own experiences and with contemporary Japanese society, and exchange opinions on each theme.

We will also try out simple discussions, fostering a critical approach to social issues as well as encouraging students to reflect on their own everyday culture.

This course will also be useful as preparation for German language proficiency examinations, such as those offered by the Goethe-Institut.

Grading will be decided based on class participation (30 %), homework (30 %) and presentation (40%)

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野 ブレンダン

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que le concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.

Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。

課題等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation des participants Organisation et calendrier des activités
2	La famille	Famille recomposée, vie de famille
3	DELF B1	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°1)
4	Caricatures ① Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
5	Question de génération	Participe passé Génération et éducation
6	Des amis pour toujours	Discours indirect au présent Différentes définitions de l'amitié

7	Vidéo ① Contenu informatif	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	Se retrouver et se séparer	Rencontres, désaccords, disputes
9	DELF B1	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°2)
10	Vidéo ② Contenu humoristique	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
11	Caricatures ② Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
12	La famille: bilan	Révisions: passé composé, plus-que-parfait, participe passé, pronoms personnels...
13	Projet	Présentons nos proches
14	Caricatures ③ Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので、法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い、本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur Hoppii ou Google Classroom.

【参考書】

Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.

Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】

・宿題、ミニ発表、クラス内業務、その他の小テスト：約 25 %

・リーディングマラソン(フランス語多読)：約 25 %

・作文：約 25 %

・平常点(授業への参加状況)：約25%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分以上の遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、特に工夫する必要のある点がないように思いました。改善を全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, short tests and presentations: app.25 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %

・Essays: app.25 %

・Class participation: app.25%。

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野 プレندان

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que du concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.

Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン（フランス語多読）のような課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。
課題等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Quoi de neuf? (vacances) Présentation des participants, organisation et calendrier des activités
2	Les clés du bonheur	Se changer les idées, se divertir: loisirs créatifs
3	DELF B1 (ou B2) ①	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°1)
4	Caricatures ① Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
5	Art de vivre	Conditionnel présent et expression du souhait
6	Action!	Sports extrêmes Il faut / il ne faut pas + subjonctif
7	Vidéo ① Contenu informatif	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	Activité physique	Donner des conseils, demander des informations
9	DELF B1 (ou B2) ②	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°2)
10	Vidéo ② Contenu humoristique	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
11	Caricatures ② Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité

12	Les clés du bonheur: bilan	Verbes prépositionnels, souhait, conditionnel...
13	Projet	Organisons une activité de plein air
14	CBC/Radio Canada	Compréhensions orale et écrite

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので、法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い、本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur Hoppii ou Google Classroom.

【参考書】

Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.

Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】

・宿題、ミニ発表、クラス内業務、その他の小テスト：約 25 %

・リーディングマラソン（フランス語多読）：約 25 %

・作文：約 25 %

・平常点（授業への参加状況）：約 25%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要のある点は特になく思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.

Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, short tests and presentations: app.25 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %

・Essays: app.25 %

・Class participation: app.25%

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

カレンス フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年間学んだフランス語の知識（語彙や文法など）を生かして、フランス語のコミュニケーション能力を高める授業です。日常の場面に応じて、フランス語で様々な練習問題を行い、フランス語を話す力を強めます。文法を復習しながら、新しい語彙や表現を覚えながら、フランスとフランスの文化についてもっと詳しく学びます。

【到達目標】

授業の目標はコミュニケーションの力を上げることです。

次の三つのポイントに重点を置きます。

- 1. フランス語の日常会話をもっと聞き取れるようにする。
- 2. フランス語の文法の知識を高め、色々な練習に通じて強化する。
- 3. フランス語の語彙や言い方を増やして、使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行することがあったら、お知らせします。学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

授業の内容に関しては、まず、テキストを見ずに対話を聞き、理解し、少しずつ繰り返し音読します。その後、テキストを見ながら再び音読します。さらに、内容と関連がある練習問題を行います。最後に学んだものをもう一度使い、ロールプレーをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications du programme L1 p10 Chez le traiteur la quantité encore/ne … plus) pronom “en” L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	自己紹介 プログラムの説明 1課 素材屋で 部分冠詞 量の表現 “en” 代名詞
②	L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	2課 食事の注文 願う
③	L3 p18 A la boutique de bijoux pronoms démonstratifs	3課 宝石のブチックで 指示代名詞
④	L5 p22 Modifier une réservation (table ou chambre) verbe conjugués +verbe infinitif	5課 予約の変更 レストラン／ホテル 動詞＋不定詞
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom: ”de”	6課 銀行で 名詞補語 ”de”
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	7課 交換する 返済してもらう 時間の表現＋複合過去
⑦	Révisions Test de mi-trimestre	復習 中間テスト

⑧	L9 p32 Faire des comparaisons verbes construits sur des adjectifs, comparatif superlatif	9課 比較する 比較法 最上級
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte L11 p40 Localiser prépositions/adverbes de lieu	10課 問い合わせする 間接法 位置、 場所の前置詞と副詞
⑩	L12 p44 A l'agence immobilière Subjonctif/indicatif	11課 不動産屋で 接続法か直接法
⑪	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive Révisions Test final	15課 窃盗の被害届 される 受動態 復習 期末テスト
⑫	Correction du test Culture française	テストの返却 フランスの文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題（宿題）を出すので、よく復習してください。

本授業の宿題・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l'élève + Cd-audio, Editions Clé International, Claire MIQUEL (ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】

辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくとう便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 中間テスト・期末試験:60 %
- 2. 課題:30 %
- 3. 積極性:5 %
- 4. 平常点:5 %

【学生の意見等からの気づき】

より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。
さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiにある教材にアクセスするには、スマートフォンかパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【Outline (in English)】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panels of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture. Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following:
Mid-term and Term end examination: 60 %, Assignments: 30 %, and in class contribution 10 %.

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし、維持することを第一の目的とします。ロシア語の動画を視聴してロシアやエストニアの文化や社会に触れ、ロシア語の文法力とリスニングの力を高めると同時に慣用表現、決まった口語表現を覚えて使えるようにします。

【到達目標】

ロシア語能力検定試験3級程度、またロシア語検定試験（ТРКИ）基礎レベル（A2）から第1レベル（B1）のロシア語運用能力（聴解と文法）を身につけること、その能力の維持を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語の動画を視聴して質疑応答に答え、文法とリスニングの力がつくように進めます。映像や説明文を通して、ロシアやエストニアの文化や慣習を楽しみながら知ることも可能となります。小テストのフィードバックは翌週の教場で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。使用教材、視聴覚資料の確認。
第2回	What Estonians Think about Russian? 1	エストニアのロシア語話者、移民へのロシア語でのインタビュー。リスニングと質疑応答。
第3回	What Estonians Think about Russian? 2	エストニアのロシア語話者、移民へのロシア語でのインタビューの続き。リスニングと質疑応答。
第4回	What Estonians Think about Russian? 3	エストニアのロシア語話者、移民へのロシア語でのインタビューの続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第5回	Narva: What Is It Like to Live at the Border with Russia? 1	エストニアとロシアの国境の都市ナルヴァのロシア語話者へのインタビュー。リスニングと質疑応答。
第6回	Narva: What Is It Like to Live at the Border with Russia? 2	エストニアとロシアの国境の都市ナルヴァのロシア語話者へのインタビューの続き。リスニングと質疑応答。

第7回	Narva: What Is It Like to Live at the Border with Russia? 3	エストニアとロシアの国境の都市ナルヴァのロシア語話者へのインタビューの続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第8回	Эстонцы - "Балтийские тигры". Почему они так успешны? 1	「バルトの虎」の異名をとるエストニア人、その成功の理由を探る概説。リスニングと質疑応答。
第9回	Эстонцы - "Балтийские тигры". Почему они так успешны? 2	「バルトの虎」の異名をとるエストニア人、その成功の理由を探る概説の続き。リスニングと質疑応答。
第10回	Эстонцы - "Балтийские тигры". Почему они так успешны? 3	「バルトの虎」の異名をとるエストニア人、その成功の理由を探る概説の続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第11回	Минусы жизни в Эстонии 1	エストニアでの生活、そのデメリットに関する概説。リスニングと質疑応答。
第12回	Минусы жизни в Эстонии 2	エストニアでの生活、そのデメリットに関する概説の続き。リスニングと質疑応答。
第13回	Минусы жизни в Эстонии 3	エストニアでの生活、そのデメリットに関する概説の続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第14回	これまでのまとめ	これまで培ってきたロシア語の表現を確認する簡単な小テストの実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で視聴した動画内容の習得のために、1回につき1.5時間程度の予習・復習が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付、もしくはは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくはは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、小テスト20%とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

みなさん一人ひとりのロシア語運用能力に合わせたテキスト選びを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

予習と復習の際、ネット上の動画を視聴する環境が必要となります。教場では、PC持参の必要はありません。

【Outline (in English)】

● Course outline

The aim of this course is to maintain and improve Russian grammar and listening skills. We would like to share the pleasure of learning about the culture and customs of Russia and Estonia through the short movies in Russian.

● Learning Objectives

The purpose is to further develop and maintain the Russian language proficiency that has been cultivated so far(A2 to B1 in the CEFR) .

● Learning activities outside of classroom

It takes about 1.5 hours for class review.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80%) and quizzes(20%). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア映画を3編とりあげ、それぞれの作品に関する解説文をロシア語で読み、これを確認するかたちで映画作品を部分的に鑑賞します。ロシア語の読解力と聴解力を身につけること、維持することが目的となります。読解についてはT P K II第1レベル程度の力をつけることが可能となり、ロシアやウクライナの日常や慣習、歴史について知識を得ることができるでしょう。

【到達目標】

読解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めるために、ロシア(ソ連)映画の解説文・作品論をロシア語で読み、これを確認するかたちでロシア映画の珠玉に触れます。そうすることで、T P K II第1レベルの読解力、文法力を身につけると同時に、ロシアの文化や世相に関する知識を獲得できるでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア（ソ連）映画の3つの作品に関する資料を講読します。みなさんの予習に基づいて進め、文法事項や文章の構造の説明をおこないます。作品に関する情報を把握した後、これを確認するために実際の映画作品を部分的に鑑賞します。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。『火の馬』（1964）は、ウクライナの少数民族の神秘的な伝説を描いた不朽の名作。『太陽に灼かれて』（1994）はスターリン体制下の人間模様を描いた歴史的心理ドラマ。『夏の終り符』（2010）はソ連時代を象徴する上司と新生ロシアを象徴する実習生の青年、ただ二人によって展開される驚くべき心理劇です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。資料配付。
第2回	映画"Тени забытых предков"について1	"Тени забытых предков"の内容について読解。映画の一部を鑑賞。
第3回	映画"Тени забытых предков"について2	"Тени забытых предков"の内容と反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第4回	映画"Тени забытых предков"について3	"Тени забытых предков"の内容と反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第5回	映画"Утомлённые солнцем"について1	"Утомлённые солнцем"の概要と内容について読解。映画を鑑賞。

第6回	映画 "Утомлённые солнцем"について2	"Утомлённые солнцем"の内容について続きを読解。映画の一部を鑑賞。
第7回	映画 "Утомлённые солнцем"について3	"Утомлённые солнцем"の内容、反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第8回	映画 "Утомлённые солнцем"について4	"Утомлённые солнцем"の反響について続きを読解。映画の続きを鑑賞。
第9回	映画 "Утомлённые солнцем"について5	"Утомлённые солнцем"の反響について続きを読解。映画の続きを鑑賞。
第10回	映画 "Как я провёл этим летом"について1	"Как я провёл этим летом"を分析した論文を読解。映画の一部を鑑賞。
第11回	映画 "Как я провёл этим летом"について2	"Как я провёл этим летом"を分析した論文の続きを読解。映画の続きを鑑賞。
第12回	映画 "Как я провёл этим летом"について3	"Как я провёл этим летом"を分析した論文の続きを読解。映画の続きを鑑賞。
第13回	映画 "Как я провёл этим летом"について4	"Как я провёл этим летом"を分析した論文の続きを読解。映画の続きを鑑賞。
第14回	まとめと確認	小テストと解説（フィードバック）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映画作品に関するテキスト読解の予習に、1回につき2時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付、もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点80％、小テスト20％とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語の読解力向上とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みました。

【その他の重要事項】

生成AI翻訳機能等の使用は、履修者の読解力向上にはまったく役に立ちません。辞書をひき、考えながら読む努力を惜しまないでください。

【Outline (in English)】

● Course outline

We will pick up some Russian film works, read the texts about them in Russian, and watch some scenes from the films while checking the texts. You will acquire reading comprehension and listening comprehension skills. You will be able to gain knowledge about the daily life, customs and history of Russia and Ukraine.

● Learning Objectives

Students will acquire the level of CEFR B1 of reading comprehension and grammar, as well as knowledge of Russian culture and social conditions.

● Learning activities outside of classroom

It takes about 1.5 hours to prepare for reading comprehension of texts about the Russian movies.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80％) and quizzes(20％). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語アプリケーション

エレナ 三神

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし維持することを第一の目的とします。ロシア語ネイティブ講師との会話、リスニング練習、簡単な作文課題によりロシア語のコミュニケーション力を楽しくのびましょう。以前ロシア語短期語学研修に参加した学生は、培ったロシア語運用能力の維持のため履修を勧めます。

【到達目標】

ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ТРКИ）の基本レベル（CERF A2）又は第1レベル（CEFR B1）のロシア語運用能力（聴解と会話）を身につけるべく頑張ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。教材データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、提出した課題に関するコメントなどの方法で行います。教員のフィードバックは課題内容によって授業時または学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介（復習）	インテラクティブな教材を使って初めて会った学生同士のスモールトークを練習する。
第2回	友達を作る	挨拶や簡単なフレーズを使って相手と自分について話す。使える表現幅を拡大する。
第3回	大学での勉強	学習を表す動詞を使い分けて勉強などについて話す。聴解、会話練習。
第4回	移動動詞の復習	移動を表す動詞を使って行ったや行きたいところについて話す。聴解、会話練習。
第5回	会話のエチケット	ロシア語の会話エチケットについて学ぶ。読解、会話練習。
第6回	海外旅行- 1	移動の動詞を使って旅行のルートについて話す。聴解、会話練習。
第7回	海外旅行- 2	移動の動詞を使い分けて移動手段について話す。聴解、会話練習。

第8回	海外旅行- 3	接頭辞のある移動の動詞を使って細かく移動を説明する。聴解、会話練習。
第9回	交通案内	接頭辞のある移動動詞を使って交通機関の使い方などについて話す。聴解、会話練習。
第10回	海外から来たお客の出迎え	位置と行き方について話す。聴解、会話練習。
第11回	待ち合わせ	時間表現を使い分けて「時間」と「期間」について話す。聴解、会話練習。
第12回	友達のところで- 1	所有表現を使って友達との会話をすすめる。聴解、会話練習。
第13回	友達のところで- 2	お客としてロシアの家を訪ねる。聴解、会話練習。
第14回	これまでのまとめと試験	これまで培ってきた会話表現を確認する試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に扱った単語の復習、作文又は聴解宿題があります。授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配布もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

宿題30%、授業への取り組み30%、期末試験40%とし、総合的に判断します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

期末テストの範囲はもっと明確にするようにします。

【Outline (in English)】

●Course outline

The aim of this course is to further develop and maintain the Russian language skills. Through conversation and listening practice with a native Russian-speaking instructor, students will enjoy improving their Russian communication skills. Students who participated in a Russian language program abroad are encouraged to take this course to improve their Russian language skills.

●Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test ТРКИ A2-B1.

●Learning activities outside of classroom

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for some lessons to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

●Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination 40%, in class contribution 30% homework 30%

To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語アプリケーションIV

鈴木 靖

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。

中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主にe-Learningを利用した「聞く」力と「読む」力を重点的に育成する。

【到達目標】

HSK4・5級の高スコア取得に必要な「聴力」（リスニング力）と「閲読」（リーディング力）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はe-Learningや過去問による事前学習と教室での発音練習や解説を組み合わせて行う。

授業の具体的な進め方は、次のとおり。

〔授業前の事前学習〕

授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSKの「聴力」問題の指定範囲のディクテーションと「閲読」問題の予習を行う

〔授業の進め方と方法〕

- ①前回の復習のための小テスト
- ②「聴力」問題のリピート練習と解説
- ③「閲読」問題の解答と解説

〔課題等に対するフィードバックの方法〕

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加するLINEのグループを用意し、これを通じて全員または個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明した後、事前学習に使用するe-Learning教材の利用方法を解説する
第2回	HSK4級対策①	・聴力問題第一部分
第3回	HSK4級対策②	・閲読問題第一部分
第4回	HSK4級対策③	・聴力問題第二部分（上）
第5回	HSK4級対策④	・聴力問題第二部分（下）
第6回	HSK4級対策⑤	・聴力問題第三部分（上）
第7回	HSK4級模擬試験	・聴力問題第三部分（中）
第8回	HSK5級対策①	・聴力問題第三部分（下）
第9回	HSK5級対策②	・HSK4級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う
第10回	HSK5級対策③	・聴力問題第一部分（上）
第11回	HSK5級対策④	・聴力問題第二部分（上）
第12回	HSK5級対策⑤	・聴力問題第二部分（下）
第13回	HSK5級対策⑥	・聴力問題第三部分（上） 4
		・聴力問題第三部分（中）
		・書写
		・聴力問題第三部分（下）

第14回 HSK5級模擬試験

HSK5級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に下記の事前学習を行うこと。

- ①教材ページ上に用意されたe-Learning教材を使い、HSKの「聴力」問題の中から毎回指定された範囲のディクテーションを行う
- ②教材ページ上に用意された問題冊子を使い、HSKの「閲読」問題の中から毎回指定された範囲の予習を行う

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教材用ページに用意したe-Learning教材やHSKの問題冊子などを利用する。教材用ページのURLと利用方法については、第一回のガイダンス時に説明する

【参考書】

- ・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）
- ・中国教育部中外語言交流合作中心著・株式会社スプリックス編『中国語検定 HSK公式過去問集4級 2021年度版』（スプリックス、2021年）
- ・中国教育部中外語言交流合作中心著・株式会社スプリックス編『中国語検定 HSK公式過去問集5級 2021年度版』（スプリックス、2021年）

【成績評価の方法と基準】

- ①事前学習（ディクテーション・リーディング）の実施状況と小テストの成績（60％）
- ③HSK模擬試験の成績（40％）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

HSKの必修単語を覚えるのが難しいという声が多く寄せられたので、単語やフレーズを復習するe-Learningを用意した。

【学生が準備すべき機器他】

e-Learningによる事前学習にはパソコンが必要となる。

【Outline (in English)】

〔Course outline〕

Chinese Application I ~ IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I ~ IV is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four language skills, of listening, speaking, reading and writing.

This course will focus mainly upon improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams.

Chinese Application IV is a Chinese course designed specifically for the students who want to prepare for the HSK, Chinese proficiency test, level 4 and 5. This course will focus upon expanding vocabulary and improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams. Students will also do mock examinations of the HSK through the use of a test simulator to help students prepare for the HSK tests.

〔Learning Objectives〕

The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use Chinese language at a level required of the HSK6.

〔Learning activities outside of classroom〕

Students will be expected to have completed the required assignments before each class. These assignments are expected to require four or more hours for students to complete.

〔Grading Criteria /Policy〕

Grading will be decided based on assignments(80%) and mock examinations(20%).

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語アプリケーションIII

周 重雷

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学期中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである：

- 1、正確な発音で中国語を話す。
- 2、日常会話を流暢に話す。
- 3、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
 - 2、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
 - 3、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
 - 4、総括する。
- 課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1、シラバスの配布 2、中国語による自己紹介
第2回	文章の読解・日常用語（1）	1、短い文章を読み、文法の基本を確認する 2、簡単な日常会話を練習する
第3回	文章の読解・日常用語（2）	1、会話文を朗読し、発音をチェックする 2、言い回しを使って日常会話を練習する
第4回	文章の読解・日常会話（3）	1、文章を読み、文法の基本を確認する 2、簡単な日常会話を練習する
第5回	授業内発表（1）	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第6回	文章の読解・日常用語（4）	1、文章を朗読し、発音をチェックする 2、日常会話を練習する
第7回	授業内発表（2）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第8回	実力テスト	HSK問題を解く
第9回	解説	HSK問題の解説を行う
第10回	文章の読解・日常会話（5）	1、文章の読解をする 2、日常会話の練習をする

第11回	授業内発表（3）	先生と一対一で面接のシミュレーションをする
第12回	文章の読解・日常会話（6）	1、長文を読む 2、日常会話をする
第13回	授業内発表（4）	スピーチの個人発表をする
第14回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。本授業の準備時間は2時間を標準とします。
 また作文の課題も2回ほど課される。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布

【参考書】

劉月華 他『実用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館
 日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

要望に応じて会話パターンの変更も可能。
 基本は対面授業。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定の受験を推奨される。
 留学生の受講をも歓迎する。

【Outline (in English)】

Chinese Application I ~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.

We should achieve to these levels:

Talk by accurate pronunciation.

Talk the daily conversation well.

Achieve to the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

We maybe do the task of writing about two times.

Term-end test:60%

presentation:40%

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語アプリケーションⅡ

張 勝蘭

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。具体的には、作文や翻訳を行う際に注意すべきことをルール化して編纂されたテキストを用い、そこに提示されたルールを講師が解説し、そのルールを応用した各種の練習問題に取り組むことで作文力の育成を図る。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題等の練習を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認（本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など）
2	第1課、第2課	中国語作文をする際に必要となる基本的文法事項の確認
3	第3課、第4課	存在・存在の表現、程度副詞“很”の機能、“吗”の使用条件、日中両言語の勧誘表現、「何か／どこか／だれか」の訳し方
4	第5課、第6課	疑問詞＋名詞の用法、疑問詞呼応構文、動詞の省略可能性、適切な動詞を補う必要性
5	第7課、第8課	多用される“来”と“去”、「動目」構造の語の特徴、「思う」を表す語の種類、動詞の重ね型
6	第9課、第10課	文脈に隠れた代名詞、“这么／那么”が必要な場合、副詞“就”の用法、副詞“才”の用法
7	第11課、第12課	副詞“都”の用法、副詞“只”の用法、副詞“也”の用法、副詞“再／又／还”の用法、副詞“再”の用法
8	第13課、第14課	「…から」と“从…”の対応関係、「…まで」と“…到”の対応関係、動詞後の“…到”、日中両言語のコピュラ文、“是…的”構文
9	第15課、第16課	「で／に／から／と／まで」を表す中国語の介詞、介詞句を含む文の否定、「…について」の表し方、「ちょっと・少し」の表し方、形容詞の動詞化および命令化

10	第17課、第18課	量詞の出現情況、数量の位置、形容詞を用いた過去事態の表現法、結果状態を表す“了”、過去の習慣的動作と“了”
11	第19課、第20課	補語の使用における動詞の重要性、日本語の観点からは訳出しにくい補語、“要”の使用条件、可能性を表す“会”、可能を表す“能”“会”“可以”
12	第21課、第22課	“被”構文の諸特徴、日本語の受身表現と“被”構文の対応関係、日本語の自動詞受身文の中国語での表現法、“把”構文の使用条件、“把”構文の使用制限
13	第23課、第24課	授受表現の特徴、目的表現の後置、将来表現、主語表現としての“人”、道具・手段や原因を表す“で”、否定と肯定の入れ替え、逆転の発想
14	全体のまとめ	試験とその解説、学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業開始後は、テキストの復習を十分にを行い、学習内容の定着を図ること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂（著）2006『作文ルール66 日中翻訳技法』朝日出版社（2,300円＋税）

【参考書】

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・木村英樹2017『中国語はじめての一步（新版）』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
- ・三宅登之2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしく かわいい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点を50%、期末試験を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、原則として日本語母語話者向けの授業である。そのため、中国語母語話者（留学生等）の受講は推奨しない。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。
- ・適宜、補足資料を配付することもあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。
- ・授業の進み具合により、授業内容を調整することがありますが、必ず事前に周知する。

【Outline (in English)】

【Outline】

Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, students will mainly improve their writing skills. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To understand the Chinese grammar through reading explanations shown in the textbook.
- (2) To be able to appropriately compose complicated Chinese sentences through exercises such as Japanese-Chinese translation, word order, etc.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・After every class, students are required to review the textbook.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

- ・Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end test (50%).

LANK300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に身につけている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出ていない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現を学んで自ら表現できることを目指します。授業は朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】

朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。また、自分の意見を自信をもって積極的に話したり、討論に積極的に参加できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

韓国の映像や資料などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通して話す力を定着していきます。

授業は、朝鮮語で進めていきます。

課題等に対するフィードバック方法は、リアクションペーパー提出や学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第2回	日韓の違いについて	内容を読んで意見を話し合います。
第3回	韓国だけの文化などについて	内容を読んで意見を話し合います。
第4回	韓国の映像を見る	韓国の映像を見て、内容を把握します。
第5回	韓国語の随筆を読む	韓国の随筆を読みます。
第6回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第7回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第8回	韓国の映像を見る	韓国の話題の映像を見て内容を把握します。
第9回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第10回	韓国の映像を見る	韓国の映像を見ます。
第11回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第12回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第13回	韓国語で発表する	討論をする。
第14回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国のコンテンツを利用したり、新聞、小説などを読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント、インターネットなど。

【参考書】

韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を話したり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して(50%)と、期末レポート(50%)と、これらの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な主題を活用すべきことなど。

また、この授業は、出席して授業での討論や意見交換などを重要視しております。

そのために、平常点が50%になっております。出席が大事です。欠席が成績評価に大きく反映されるということです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。あまり欠席をしないでください。

【Outline (in English)】

< Course outline > We aim to utilize knowledge of Korean language that we already have and to absorb knowledge more comprehensively. Using Korea newspapers, magazines, and videos, we aim to be able to express ourselves by learning how to use natural Korean language, various expressions, and newly built language. This course will be mainly conducted in the Korean.

< Learning Objectives >

The goal is to speak your opinion with confidence. Please actively participate in the discussion.

< Learning activities outside of classroom >

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination : 50 %, little exams and in class contribution: 50%.

LANk300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一定のテーマを決めてディスカッションを実施したり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】

積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。

映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。課題等に対するフィードバック方法は、リアクションペーパー提出や学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第3回	話題のテーマについて	意見交換する
第4回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第5回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第6回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第7回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第8回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第9回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第10回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第11回	個別プレゼンテーション	意見交換をする
第12回	個別プレゼンテーション	グループワーク
第13回	個別プレゼンテーション	討論をする
第14回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で説明します。

【参考書】

韓国の近代文学作品

湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して(50%)、期末レポート(50%)、など、これらの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品だけではなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

また、この授業は、出席して授業での討論や意見交換などを重要視しております。

そのために、平常点が50%になっております。出席が大事です。欠席が成績評価に大きく反映されるということです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。あまり欠席をしないでください。

【Outline (in English)】

< Course outline > To improve your level of Korean language, we will choose a topic and discuss, read Korea literature works, and learn Korea traditions, customs, and literary expressions. The aim of this class is to build comprehensive Korean language skills.

< Learning Objectives >

Please actively participate in the discussion in Korean.

The goal is to be able to read Korean literary works as well.

< Learning activities outside of classroom >

Check out the content of the theme. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination (100%)

LANK300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語アプリケーション

李 蕙臣

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、朝鮮語中上級学習者を対象とし、韓国の文学作品を読み進めることを通じて、朝鮮語の世界の広がりを体験することを目的とする。文学作品に込められた韓国人の情緒や価値観に触れながら、言語理解のみならず文化への理解を深めていく。

【到達目標】

韓国の文学作品を読むことを通じて、朝鮮語による比較的易しい長文を読み進める力を身につける。中級レベルの語彙や表現を復習しながら、より高いレベルの新しい語彙や文法事項を習得する。
また、朝鮮語で韓国の文学作品を読むことにより、韓国文化への理解を深める。さらに、作品の内容について、クラスメートに朝鮮語で質問したり、意見交換を行ったりすることができる運用能力を養う。加えて、同じジャンルの文学作品について調査し、その内容を朝鮮語で発表できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各作品のテーマやジャンルについて簡単なウォーミングアップを行った後、テキストに沿ってリーディングを進め、語彙や表現を学習しながら、朝鮮語を翻訳に頼らず理解する練習を行う。あわせて、内容理解を確認するための問題演習を行う。
また、作品に対する自身の感想を朝鮮語で書いたり発表したりする活動を通じて、表現力の向上を図る。さらに、同じジャンルの文学作品について調査し、朝鮮語によるプレゼンテーションにも取り組む（期末プレゼンテーション1回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 韓国の随筆を読む①	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	韓国の随筆を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
3	韓国の小説を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
4	韓国の小説を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
5	韓国の詩を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
6	韓国の詩を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
7	韓国の古典小説を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
8	韓国の古典小説を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
9	韓国の建国神話を読む	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
10	韓国の映画評論を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
11	韓国の映画評論を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
12	期末プレゼンテーション	個人による発表を行う。
13	期末プレゼンテーション	個人による発表を行う。
14	期末試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、作品を読み、新出語彙や表現を調べる予習が必要です。本授業の準備、復習時間は各2時間を標準とします。
期末プレゼンテーションの準備（原稿、PPT）が必要です。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末プレゼンテーション50％、期末筆記試験30％、平常点20％
期末プレゼンテーションおよび試験は必須とし、いずれか一方を欠いた場合は、単位修得の要件を満たさない。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

期末プレゼンテーション用の機器は各自が用意すること。

【Outline (in English)】

< Course outline and Learning Objectives >

This course is designed for upper-intermediate learners of Korean and aims to broaden students' understanding of the Korean language through the reading of literary works written in Korean. By engaging with the emotions and values embedded in these literary texts, students will deepen not only their linguistic competence but also their cultural understanding.

In this course, students will present their own reflections on the literary works in Korean, as well as research other works within the same genre and present their findings in Korean. Through these activities, the course seeks to reinforce previously acquired speaking and writing skills and to develop students' ability to independently interpret and express ideas within the Korean linguistic and cultural world.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
final presentation 50%, final exam 30%, attendance & participation (continuous assessment) 20%.

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

文化情報のデザインワークショップ

松田 美奈子

サブタイトル：ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報コミュニケーションI

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講状況により選抜することがあります
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザーの体験をデザインする『面白さ』と『奥深さ』を、実践的に学ぶ科目 私たちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

このワークショップでは、「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という2つのテーマに取り組む。 道具をデザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバランスよく配置して、実践的に学べる科目である。

● ユーザー調査を行い、特性を理解し、道具を使いやすくデザインする
講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。

私たちの日常を様々な側面で支えてくれる道具たちを、使いやすい魅力あるのするにはどうすればよいのか？ その鍵は、ユーザの特性と、ユーザに起こっている出来事の的確な理解にある。 道具のデザインを改良する具体的な方法論を、実習を通じて学ぶ。

● 新しい、近未来の道具をデザインする
講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。

まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？ その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。 利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

「道具をもっと使いやすいデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」、この2つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。

● 2つのテーマは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え方、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、実践できるようになる。

● グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の工夫を学び、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この2つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。

● 前半では、身近で気になる道具を1つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的な方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。

● 後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を1つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。

● 各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイデアを深められるように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン
2	道具の使いやすさ	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ（理論編）

3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	「未来のモノのデザイン」の考え方	未来に向けたデザインとHCD（人間中心設計）プロセス
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイデア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.

・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017

・「デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕」（ティム・ブラウン著、早川書房）2019

・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA編、ワークスコーポレーション）2014.

他については適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・レスポンスシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合い（50％）

・課題レポート、プロトタイプなど制作物（50％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義と実習を効果的に組み合わせ、理解がより深まるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

「文化情報学の実践」科目群〔共通のテーマ〕

「文化情報学の実践」科目群では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告などを実践的に学ぶ。実務経験のある教員による授業

教員は一般企業で製品/サービスのデザインに関わる業務に20年以上従事。ビジネスの現場でも幅広く活用できる実践的なデザインアプローチを学ぶ。

【前提科目と関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

P C、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline (in English)】

This class provides you with an unique "Design Workshop". This class allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User Experience (UX) Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

文化情報のためのネットワーク技法

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：情報コミュニケーションII

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化研究と成果発表の方法を身に着ける（旧科目：情報コミュニケーションII）

【旧科目：情報コミュニケーションI～III共通テーマ】

文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。

【本科目の学習の目的】

本講義の前半において、Study Abroad環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと、研究倫理・データ倫理に基づいた問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。GAS (Google Apps Script) を使った Google Workspace の統合・自動化の実習を例に、SA等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】

SAや卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に着ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通してSA等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。

課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにとまなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。抽選の可能性があるため、履修予定者は必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体）インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体）インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IPアドレス枯渇とその対応技術、無線LANの利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IPアドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の対応を考える。また大学VPN環境を確認する。
4	情報活用のための実践知識（2）	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、問題点を整理・理解する。
5	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
6	文化研究にむけての準備	質的研究と量的研究の違いを学び、取り組みたい研究課題とその手法の計画を立てる。

7	研究倫理・データ倫理	大学の研究倫理規定を参照し、研究倫理やデータ倫理の意味や目的、あるいはその手続きを確認する。
8	研究課題の計画	各々の研究課題に沿った調査計画とその中間報告を行う。
9	研究調査成果の蓄積・共有方法の検討	Google フォームやGoogle ドライブを用い、研究調査や情報共有を確認・実践する。
10	蓄積した情報の統合・自動化	GAS (Google Apps Script) を用いて Google フォームやメールなどの統合・自動化を学ぶ。
11	情報公開の手法	調査研究の結果の公開対象や手法を検討し、準備する。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。進捗と問題点を報告する。
13	研究計画の確認と成果の公開	調査研究成果を Google サイトを用いて限定公開し、互いに議論する準備を行う。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前の研究計画を基に研究の進め方や問題を振り返り、SA研究計画との接続を図る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。

1. (SA準備として)個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
 2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
 3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
 4. 個人研究テーマの検討
 5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
 6. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

佐藤郁哉、「フィールドワーカー書を持って街へ出よう」、新曜社；増訂版（2006/12/20）ISBN 978-4788510302

水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版（1996）、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業参加（20%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（30%）、発表（10%）を目安とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、学習支援システムで公開する資料等を教室PCあるいは持ち込みPCで確認しながら使用して進める。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、PCを用いて大学のGoogle Workspaceを利用して作業することを前提とする。
最終課題となる発表や授業の補足はZoomあるいはWebexを用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者数が定員を超過する場合は抽選を行う。
初回授業はZoomを用いたオンライン授業となるが、受講者数把握のため、受講希望者は初回授業日の前日までに学習支援システムに仮登録した上で初回授業に出席すること。
詳細は学習支援システムを参照し、授業資料や「お知らせ」を必ず確認すること。

SAをはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。

Webを基盤とする高度なICTの活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
SA環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を前提、あるいは並行履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The first half of the course reviews practical techniques of digital network communication, research and data ethics. In the second half, students learn how to use GAS and other tools for editing cultural information. (Learning Objectives)
- To acquire a methodology for research and study of cultural information.

- To make full use of the internet environment to publish and accumulate the results of their studies.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the practical assignments (20%), in-class contribution(30%), and term-end presentation (10%) and content creation(40%).

DES200GA (デザイン学 / Design science 200)

視覚デザインと文化情報

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：情報コミュニケーションIII

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「視覚デザインと文化情報」は、情報デザインに関する入門的かつ実験的な実習科目です。ロゴタイプ、シンボルマーク、ピクトグラム、イラストレーションなどを題材に、デザインやアートに関わる基礎的なトレーニングを行います。

【到達目標】

作品制作と並行して行う毎回の対話を通じて、デザインの概念や視覚言語に関する理解を深め、人と人とのコミュニケーションを円滑にする視覚表現の基礎的なトレーニングを行います。あわせて、創作活動全般にも通じる、クリエイティブな造形表現に必要な知識・感覚・技術を養います。

また、絵を描くことに苦手意識のある人や、デジタルによる写真加工やデザイン制作が初めての人も、難しく考えずに積極的に手や体を動かすことで、「つくること」の楽しさを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、視覚言語の基礎となる以下の3つのテーマを中心に、課題制作を行います。

1. ロゴタイプとシンボル（タイポグラフィ）
 2. ピクトグラム（インフォグラフィックス）
 3. イラストレーションとデザイン（グラフィックデザイン）
- 各課題に取り組むにあたっては、課題の意義や制作の進め方について講義を行うとともに、制作のポイント、使用する材料・道具、ソフトウェアの操作方法について説明します。各課題の最終段階では、作品発表（プレゼンテーション）および講評・フィードバックを実施します。

実習では、実習室に設置されている **Adobe Illustrator** を使用します。また、授業を円滑に進めるため、以下のオンラインツールを活用します。

- ・ Google Sites（授業関連コンテンツの配信）
- ・ Google Classroom、Google Forms（課題提出およびフィードバック管理）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要
第2回	ロゴタイプとシンボル (1)	講義 ロゴタイプとシンボルマーク ワークショップ 基本的な図形の書き方とシンボルマーク
第3回	ロゴタイプとシンボル (2)	講義 フォントと書体 ワークショップ ロゴタイプの制作 (1)

第4回	ロゴタイプとシンボル (3)	ワークショップ ロゴマークの制作 (2)
第5回	ピクトグラム (1)	講義 ピクトグラムとは ワークショップ ピクトグラムの模写
第6回	ピクトグラム (2)	講義 オリンピックのピクトグラム ワークショップ スポーツ・文化をテーマとしたピクトグラムの作成
第7回	ピクトグラム (3)	ワークショップ 大学構内の案内用サインの作成
第8回	インフォグラフィック (1)	講義 インフォグラフィックについて ワークショップ 気になったポスターをコピーする
第9回	インフォグラフィック (2)	講義 ZINEについて ワークショップ ZINEの制作1
第10回	インフォグラフィック (3)	ワークショップ ZINEの制作2
第11回	レイアウト (1)	講義 インフォグラフィックを元としたイラストの作成 ワークショップ パンフレット表紙レイアウト (1)
第12回	レイアウト (2)	ワークショップ パンフレット表紙レイアウト (2)
第13回	レイアウト (3)	ワークショップ パンフレット表紙レイアウト3 作品の制作 (3)
第14回	作品の講評	課題作品のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

街の中のサインやポスター、本や雑誌、さまざまなプロダクトなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫を意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのもよいと思います。

また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思うものをスマートフォンやデジタルカメラ等で撮影し、ストックしておいてください。制作の材料として使用します。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

永井 弘人「デザイナーになる！ 伝えるレイアウト・色・文字の大切な基本と生かし方」エムディエヌコーポレーション
原研哉「デザインのデザイン」岩波書店
ロビン・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」マイナビ出版
坂本伸二「デザイン入門教室〔特別講義〕確かな力を身につけられる ～学び、考え、作る授業～」SBクリエイティブ

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点 (50%)
2. 課題とレポート (50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ソフトの操作や専門用語などをわかりやすく解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

使用するソフトは以下の通りです。

Adobe Illustrator（イラストレーションを描くためのソフト）
また、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】

初心者の皆さんには、各ソフトを用いた作品制作のコツをまず掴み、さらに完成度を高めていく方法をお伝えします。技術的な経験は問いませんので、アートやデザインの作品制作に自信のない人も、ぜひチャレンジしてみてください。

課題制作については、各受講者の能力やそれぞれが取り組みやすい進め方などを考慮し、毎回の内容や目標を固定的に定めていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。

初回のオンラインによるガイダンスには必ず出席してください。

登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜を行います。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティストです。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で行っており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】**Outline and objectives**

This practical lesson is an introductory and experimental valuable lesson on information design. Basic training related to design and art such as logotypes, symbol marks, pictograms and illustrations.

Learning Objectives

Through each lecture held in parallel with the production of the work, we will deepen the understanding of the design concept and visual language and provide basic training on visual expression that facilitates communication between people. In addition, we will cultivate the knowledge, sense, and skills necessary for creative modelling expression that is familiar to all creative activities.

People who are not good at drawing or are new to digital photo processing and design production will experience the joy of making by actively moving their hands and body without thinking difficult.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)

2. Issues and reports (50%)

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

COT300GA (計算基盤 / Computing technologies 300)

情報アプリケーションⅡ

大嶋 良明

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考 (履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

誰でも参加できる自由なモノづくりの世界的潮流、**Maker**ムーブメントについて親しむ。実習形式でオリジナル電子楽器の製作を学ぶ。光、温度、圧力などの変化を検知してスピーカー、ディスプレイ、モーターなどの反応を制御する方法 (意外と簡単！) やマイコン上のAI技術の活用法、スマホ、インターネットと連携したIoTの構築などを学び、自分のアイデアを作品として実現させる。

【到達目標】

Makerムーブメントの背景と現状について理解する。

楽器音の基本的理解にもとづく電子楽器の構成法を知る。

Arduinoマイコンによるセンサー入力の処理方法が理解できる。オーディオ信号を中心とした出力の制御方法が理解できる。

課題実習と作品制作を通じて、アイデアを成果物に実現する方法を構想できる。作りながら考える、考えながら作る自由闊達なモノづくりの精神を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した講義および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法で進めます。実習の内容はPBLの考え方にもとづき、ワークショップ形式でのモノづくりを体験します。作りながら考える、考えながら作るをモットーにワークショップを運営します。マイコン、配線材など必要な実習機材は用意します。ほかに各自の作品構想に必要な部品は、既製品を分解する、100均で手に入れる、自作する…などの方法でクリエイティブな試行錯誤を楽しみながら調達しましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： Arduino 入門	授業内容の説明と導入、 Maker ムーブメントとは何か、モノづくりの実例に学ぶ。 開発環境 Arduino IDE の使い方と Tinkercad を併用した学習環境を学ぶ。
2	初歩の実習：LEDの点滅実験 (Lチカ)	Arduino を用いたLEDの点滅実験 (Lチカ) をする。ブレッドボードでの配線を学ぶ。
3	光らせてみよう：LEDの点滅、明暗、色の表現	スイッチ、抵抗、可変抵抗、LEDの回路構成と配線方法を学美、 Arduino での制御方法を学ぶ。
4	ディスプレイを作ろう：表示の高機能化、文字やグラフィックスの電光表示	LCD、LED、OLEDディスプレイの活用と Arduino での実現方法を学ぶ。
5	いろいろ測ってみよう：各種センサーの活用	温度センサー、圧電センサー、距離センサー、人感センサー、加速度センサーなど外界の状態を入力する方法を学ぶ。
6	音を出してみよう、メロディを演奏しよう：ブザー音や音階の出力	圧電ブザーやスピーカーから音階を出力する方法、メロディの演奏を Arduino での実現する方法を学ぶ。
7	演奏を自動化しよう：シークエンサーの製作	自動演奏の仕組みを理解する。インターフェースを追加し演奏機能を拡張する。自動演奏の実行を視覚化する方法を学ぶ。楽器として完成させる。
8	人間の動作を取り込もう：ゲームパッド、ジョイスティックの利用	タッチスイッチ、ゲームパッド、ジョイスティックなどインタラクティブな操作情報を利用する方法を学ぶ。

9	IoTを実現しよう (1) : センサー情報の取得	IoTマイコンを使って各種センサー情報を取得、蓄積し送信する。
10	IoTを実現しよう (2)	IoTマイコンを使って送信したセンサー情報をスマホ、インターネットと連携させる。
11	身近なAI (1) : 顔認識による人物検出	AIマイコン上でニューラルネットワーク TensorFlow Lite を使った顔認識による人物検出を稼働させる。
12	身近なAI (2) : 音声認識によるコマンド	AIマイコンで登録済み音声による起動ワード認識を稼働させる。
13	身近なAI (3) : 手指のジェスチャー認識	AIマイコンのセンサーでジグザグ、円環、斜線など簡単な空間描画を認識させる。
14	ハード、ソフトの相互接続：MIDIとOSC	MIDIやOSCによるコンピュータ、楽器、電子装置の相互接続と制御の仕組みを理解する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【手を動かすことを大事にしよう】

Arduinoマイコンの開発環境はフリーソフトでWindows、Mac、Linuxいずれの環境でも利用可能です。また実習で使う**Arduino**は互換機であれば安価に入手できます。興味のある人はどんどん使って応用力を身につけてください。

【感性を磨こう】

「**Make:**」の関連書籍は図書館にも整備されつつあります。また作品発表の多くはオンラインでも閲覧可能なので、授業内でも折に触れてご紹介します。ぜひそれらの作品にふれることでアタマを柔らかくしてモノづくりの豊かな楽しさを感じ取ってください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。**Maker**ムーブメント (モノづくりの世界) を楽しく学べる2冊と電子楽器の自作やプロトタイピングについての参考書を以下に紹介します。ぜひチェックしてください。

【何か作りたい！でも何を作ろう…？】

Karen Wilkinson(著), Mike Petrich(著), 金井哲夫(訳), 「ティンカリングをはじめようーアート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ」、オライリージャパン(2015)、ISBN:978-4873117263

【Arduino+音楽】

中西宜人, 「**Arduino**ではじめる手作り電子楽器」、工学社(2015)、ISBN: ISBN978-4-7775-1916-3

【モノづくり+デバイスアート】

青木直史(著), 「**Arduino**とProcessingではじめるプロトタイピング入門」、講談社(2017)、ISBN: 978-4061565692

小林茂(著), 「Prototyping Lab 第2版ー「作りながら考える」ための**Arduino**実践レシピ」、オライリージャパン(2017)、ISBN:978-4873117898

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、学期末に提出する作品発表(30%)、合評(10%)により評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生に興味を持ってもらえるよう、単元や実習内容にいろいろ工夫を盛り込みました。受講者のスキルやモノづくりへの好みの違いをお互いの刺激として各自が成長できるよう、課題演習や理解度チェックのバリエーションを用意しました。2020年度からは実機の**Arduino**とクラウド上のシミュレータ**Tinkercad**を併用することで自宅での学習環境も整備されています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用し、実習に必要なPC、**Arduino**など共通の電子部品と配線材は用意します。

課題作成時および提出時には貸与PCまたは個人PCが必要になります。

【その他の重要事項】

情報アプリケーション科目は情報学の総合力を育む科目であり、本科目ではモノづくりのための発想、知識、スキルの全てを身につけることを目指して欲しい。

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with the creative development of original digital gadgets such as electronic percussion and sensory lights, gesture detection, wake word speech recognition, IoT applications by using various sensor devices, interactive human interface devices and display devices enabled by **Arduino** and RP2040-based micro-controllers. Students will become well familiar with the **Arduino IDE** (Integrated Development Environment) in a small classroom workshop environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 30%

Critique: 10%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

PHL300GA（哲学 / Philosophy 300）

こころとからだの現象学

森村 修

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こころとからだの関係を考える

あなたたちには「こころ」が「あります」か？多くの人が「こころがある」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「こころがある」ならば、それは「どこにあります」か？」。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「脳にある」と答えるかもしれません。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、こころと脳とは、どのように関係していますか？。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか？」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどのようにして「ある」と言えるのでしょうか？あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから」「こころはある」のですか？それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか？こころで体験するのですか？からだで体験するのですか？

私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という本科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していく、現象学（Phänomenologie）（独）という哲学的立場から考察する科目なのです。

「こころ」は存在しない

人間が思考する能力が始まって以来、「こころ」（魂）について徹底的に考えられました。それにもかかわらず、「こころ」を十分に理解できたという学説は、自然科学も含めて存在しません。いまだに、「こころ」と「からだ」の関係すら明らかになったとは言えません。「こころとからだの現象学」では、「こころの哲学」の歴史から様々な哲学者の見解をおさらいし、「こころの哲学」が具体的にどのような問題に取り組んできたかを学びます。そして、20世紀後半から現在に至るまで、認知科学や「こころの科学」と言われる分野と交流をしながら、新しい「こころとからだの哲学」を学んでいきます。

【到達目標】

- ・「こころの哲学」の歴史を学ぶことによって、「こころとからだ」の関係について、哲学的に説明できるようになる。
- ・哲学的な立場としての「現象学」の基礎を学ぶことができる。
- ・「こころとからだの現象学」を通じて、科学的にアプローチする「こころの科学」との関係性を明らかにすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

本科目は、原則的には講義形式で行います。また、必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生1人ひとりが自分の「こころとからだの関係」に対して自覚的になるように、授業を進めます。というのも、現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場だからです。

- ・事前に文献の一部を読んできてもらい、文献の内容を深く理解してもらうために、授業で文献内容についての要約を試みます。
- ・受講生の要約やコメントを受講生全員で検討し、互いの読解力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	こころとからだについての基本的な講義の概略と進め方
2	こころの働きは、ア・プリオリ（非経験的）のものか、ア・ポステリオリ（経験的）なものか？	認識の働きは、科学的に解明できるのか？ —— カントとヴァント
3	意識の働きは、どのように記述できるのか？	意識の志向性 —— フッサール超越論的現象学(1)

4	楽しい時はすぐに時間が過ぎるのに、退屈な時はなかなか時間が過ぎないのはなぜ？	時間意識の現象学 —— フッサール超越論的現象学(2)
5	からだは「存在する」のに、こころは「存在する」とはなかなか言えないのはなぜ？	世界内存在と道具 —— ハイデガー実存的現象学(1)
6	私が生きているうちは「存在する」なら、私が死んだら、私は存在しないのか？	実存的自己と死への「不安」 —— ハイデガー実存的現象学(2)
7	私たちの知覚は、どのように環境と関わるのか？	原子論的心理学への批判 —— ゲシュタルト心理学
8	私たちの知覚は、どのように身体に根ざしているのか？	現象学と心理学 —— メルロ＝ポンティの現象学(1)
9	私たちのからだは、どのようにして生きているのか？	身体の現象学 —— メルロ＝ポンティの現象学(2)
10	自己はひとりぼっちなのか？	自己の存在論 —— サルトルの現象学的実存主義
11	知覚は環境との相互作用なのか？	生態学的心理学 —— ジェームズ・J・ギブソンの生態学的心理学
12	コンピュータには何ができないか？	認知主義への現象学的批判 —— ヒューバート・ドレイファスの哲学
13	こころとからだの現象学に向けて	エナクティヴィズム —— 現象学的身体性認知科学
14	総合討議と、まとめ	「こころとからだ」について再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で用いる文献を事前に読んでもらうことがある。
- ・また、各講義に生じた疑問について、そのつど発表できる準備をしておく。

【テキスト（教科書）】

・ステファン・コイファー&アントニー・チェメロ『現象学入門——新しい心の科学と哲学のために』田中彰吾・宮原克典訳、勁草書房、2018年 (Stephan Käufer and Anthony Chemero, *Phenomenology: An Introduction*, Polity Press, 2015.)

【参考書】

- ・ショーン・ギャラガー&ダン・ザハヴィ『現象学的な心——心の哲学と認知科学入門』石原孝二他訳、勁草書房、2011年 (Shaun Gallagher and Dan Zahavi, *The Phenomenological Mind: An Introduction to Philosophy of Mind and Cognitive Science*, Routledge, 2008/2nd Edition, 2012.
- ・Tim Bayne and Michelle Montague eds. *Cognitive Phenomenology*, Oxford University Press, 2011.

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%：討議への参画、小レポートを含む)と、試験あるいは課題レポート(60%)。以上を総合的に評価し、評定を決める。

【学生の意見等からの気づき】

「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をもとに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる（甲先生）。

・「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているので、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」はこころとコミュニケーションの関係をテーマにしていますし、「文化情報の哲学」は、精神異常や発達障害など「こころ」が病んだり障碍したり、また遺伝的に脳が障碍したりした人と精神やこころとの関係を論じています。

【Outline (in English)】

In this class, through the history of "phenomenological philosophy", we will confirm how "the relationship between mind and body" has been discussed and examine what kind of problems the phenomenological philosophy has tackled concretely. And from the latter half of the 20th century to the present, we will learn a new "phenomenology of mind and body" evolving under the influence of cognitive science and "mental science".

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

道具のデザイン学

松田 美奈子

サブタイトル：魅力的な体験をデザインする、という考え方

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：ヒューマンインターフェイス論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
旧：ヒューマンインターフェイス論の修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● デザイナーだけではない。利用者の視点がデザインに役立つ！
日常生活はたくさんの道具やサービスであふれている。日常生活で出会う道具にはコンタクトレンズのような小さなモノから建築物やアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

利用者としてのあなたの体験に目を向けよう。お気に入りの道具を楽しむこともあれば、面倒な操作で不快になった体験もあるだろう。

● デザインすると、暮らしはもっと快適になる

暮らしの道具やサービスを使いやすく魅力的にデザインすることは、その道具の利用者の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結している。道具のデザインは重要である。そのデザインに、ユーザからの視点が非常に役立つことが分かってきた。

● ユーザの体験（エクスペリエンス）をデザインする、という考え方
ではどうデザインするか。本講義では、利用者にとって使いやすく、魅力的なものをデザインすることを目指す方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。

文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会に重要な、人と人工物が共生する社会について考える際の基礎となる。

【到達目標】

UXデザインの基礎が身につく

- ・使いやすく魅力的な道具やサービスをデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方を説明できるようになる。
- ・デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。
- ・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス(experience=体験)の観点からデザインし、企画を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」を、基本から実践までを体系的に学ぶことができる。

●各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。受講生どうしの討議・意見交換の機会を適宜促すとともに解説を行う。改良アイデアがさらに得られるように工夫する。

●「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する
特に後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。講義での説明に基づいて、各自が練習課題に取り組む。その成果を蓄積していくとレポートが仕上がるように工夫されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	暮らしはデザインの可能性であふれている
2	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
3	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい

4	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
5	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
6	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
7	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
8	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」① <i>User Experience (UX) Design</i>	ユーザの特性を理解し、体験 (<i>experience</i>) をデザインする、という考え方
9	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」②理論	<i>UX Design</i> の考え方の基礎と基本原則を学ぶ
10	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」③手順	デザインの流れと、具体的な手順
11	道具のデザイン実習①商品の企画、ユーザー分析	魅力ある企画書を作るためにユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習②デザインプロセス	ユーザの快適な体験 (<i>experience</i>) をデザインする
13	道具のデザイン実習③評価技法の例	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を兼ねて、課題練習を少しずつ積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「誰のためのデザイン」（D.A. ノーマン、新曜社）2015

【参考書】

- ・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
- ・「ユーザビリティエンジニアリング」（樽本徹也、オーム社）2014
- ・「UXデザインの教科書」（安藤昌也著、丸善出版）2016
- ・NPO 人間中心設計推進機構： <http://www.hcdnet.org/>
- ・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）
- ・「人間計測ハンドブック」（甲ほか、朝川書店）2013

【成績評価の方法と基準】

- ・レスポンスシート、授業・討議における積極的な貢献度合い(50%)
- ・発表とレポート(50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

【実務経験のある教員による授業】

教員は一般企業で製品/サービスのデザインに関わる業務に20年以上従事。ビジネスの現場でも幅広く活用できる実践的なデザインアプローチを学ぶ。

【履修条件】

- ・国際文化学部生は「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。
- ・他学部生（国際文化学部生以外）は初回の授業に出席し必ず先生に履修の許可について相談すること。

【関連科目】

- ・姉妹科目の「文化情報のデザインワークショップ」は、ユーザーエクスペリエンス・デザイン手法の実践ワークショップになっている。これと併行履修することで知識と実践の相乗効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PC、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn the "User Experience (UX) Design". By the end of the course, student understands the basic principles of the "UX Design" and should be able to understand how to apply some basic methods.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

HUI300GA（人間情報学 / Human informatics 300）

文化情報空間論

甲 洋介

サブタイトル：人工知能について考える、人間を捉える新たな視点
配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を捉える新たな視点として、『人工知能による人間と社会の拡張』の問題を取り上げる。時間軸の異なる3つの技法に着目する。

● 人工物を次々に生み出すことで自らの限界を超える

人間は自然界で非力な存在である。人工物を次々に生み出すことで、自分の身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。その結果、この世界は自然的な世界と言えなくなりつつある。私たちは自ら作り出した人工的世界に生きている、と考えるほうがむしろ自然だろう。

● 3つの『知』の仕組みに焦点をあてる そしてどこに向かう？

知的人工物は、ロボットのように人間から独立した分かりやすいモノだけではない。身体に装着したり、服に埋め込んだり、脳波で作動させたり、ヒトの身体や能力と一体化して機能する人工物も存在する。知的人工物は日常生活の至るところに埋め込まれ、暮らしと一体化することだろう。その時に、何が起るのか。

● これは人間の拡張なのか、人工的世界の拡張なのか

まず「人工物の科学」(H.A.サイモン)を理解することから始め、それをベースとして「知的人工物との暮らしのデザイン」について学ぶ。講義の終わりには、「都市」や「社会」もある意味で空間化した知的人工物として捉えることができるようになる。

【到達目標】

- ・人工物とは何か、それはどのように登場し、人間のもつ制約をどのように拡張してきたのか、「人工物の科学」の基礎を理解する。
- ・人工物が知的に振舞う技法として、知識表現、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズム、3つの仕組みの基礎を理解する。
- ・人間と人工物の共生を捉える幾つかの分析観点を学び、ある具体的な場面を切り出して、人工物によって拡張された暮らしのデザインに取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、受講生と教員の対話に加え、受講生どうしが討論し合い共に学び合う場を作りながら進める。

まず「現在」を人間と知的な人工物との共生社会として捉えることから始まる。そして、私たちの生活空間のさまざまな局面に人工物が浸透する様態に着目し、

- ①人間と独立したモノとして存在するいまの人工物、
 - ②人間の身体や能力と一体化して作動し、人間を拡張する人工物、
 - ③空間化し人間を包み込む環境として存在する人工物、
- の3つの存在形態について検討する。

これらの人工物が日常生活に埋め込まれることによって、私たちの生活習慣や文化はどのように変容し、生活空間はいかに拡張されるのか。最後に、幾つかの生活場面を取り上げ、人間と社会の拡張を具体的にデザインすることに取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	知的人工物との暮らし ～サイバーパンクSFを超えて
2	暮らしの人工物のサイエンス	日常生活を構成する人工物
3	暮らしの人工物のサイエンス②	人工物を科学する、とはどのようなことか
4	人間のもつ制約を超える	人間の身体・感覚・認知の諸特性を拡張する人工物と、その方向性
5	変化に適応する人工物	環境を感じとり、身体を持つ知能としてのロボット
6	環境を感じ取り適応する知的な人工物	ニューラルネットワーク（神経回路網）モデル

7	環境を感じ取り適応する知的な人工物②	自然淘汰と遺伝的アルゴリズム
8	人間と一体化する人工物	身体と人工物の境界はすでにあいまいである
9	人間と一体化する人工物②	人間の知覚、感覚的諸能力との一体化
10	人間と協調する知的人工物	人間の認知的諸能力と一体化する
11	人間と協調する知的人工物②	人工物に感情は必要か
12	空間化する知的人工物	情報化する空間と、空間化する情報
13	人工物との暮らしのデザイン	具体的な場面を切り出して、人工物との暮らしをデザインする
14	まとめ	人間拡張学に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に、講義と討議を通じて各自で考えた事柄をまとめ、学習支援システムに蓄積する。受講生からのコメントは講義で活かされる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・システムの科学 第3版 (H.サイモン著、パーソナルメディア) 1999. 可能なら、The Sciences of the Artificial (The MIT Press, English Edition) 2019 が良い。J.E.Lairdによる序文が追補された。
他については、講義の進行に応じて指示する。

【参考書】

・「複雑さと共に暮らす」(D.A. ノーマン、新曜社)2011.
・「深層学習：ディープリーニング」(麻生英樹他、近代科学社)2015.
・Society 5.0 (内閣府・科学技術政策) https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
・「攻殻機動隊」(監督：押井守、ワーナー) 他一連の作品群
他については、講義の進行に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

・期末レポートまたは試験(50%)、
・授業・討議における積極的な貢献度合い（発表、レスポンスシートを含む）(50%)
を総合して評価する。
期末レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を増やし、分かりやすい説明を試みる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

こころ、空間デザイン、人工知能、ロボットに興味のある皆さんに参画を期待する。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「仮想世界研究」「こころの科学」「システム論」と組み合わせで受講することにより、履修効果が高まるようにデザインされている。

【Outline (in English)】

This class addresses the "Augmented Human", "Virtual Society" and "Intelligent Artifacts", as one of the essential issues of our modern society. It allows you to learn basic principles for designing the symbiosis and augmentation of human, society, and artifacts.

By the end of the course, students should be able to (a) explain basic concepts and framework of the augmentation of human and the intelligence of artifacts, and (b) discuss the design of the symbiosis of the "Augmented Human/Society" and "Intelligent Artifacts".
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT300GA（計算基盤 / Computing technologies 300）

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PCでシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語であるPure Data(Pd)を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時にMIDIやOSCによる他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoTなど現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】

コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd)に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしてのPdの利点を認識し、Windows、MacなどOSや機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ビジュアルプログラミング言語Pdを使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスタ内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pdによる音響モデリングの先端的な実現例をAndy Farnellのサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびPureData(Pd)の概要	【講義と実習】PureData(Pd)とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。【音響モデリング】DTMF トーン（ブッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pdの基礎	【講義と実習】パッチ（Pdのプログラム）を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。
3	音を出す	【音響モデリング】ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。【講義と実習】音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。【音響モデリング】雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。【音響モデリング】時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】オーディオサンプルの再生や録音した音をPdで使う方法を学ぶ。【音響モデリングの世界】ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。

6	リズムマシン (1)	【講義と実習】サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。【音響モデリング】ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。
7	リズムマシン (2)	【講義と実習】リズムマシン基本形を发展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。【音響モデリング】人間の歌声のモデル化を学。
8	シンセサイザーとMIDI(1)	【講義と実習】波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDIによる電子楽器の制御方法を理解する。【音響モデリング】ロボット（スターウォーズR2D2）の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーとMIDI(2)	【講義と実習】シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。MIDI信号による制御を付加する。
10	音響効果の実装：リバーブ、ディレイ、フランジャー	【講義と実習】ディレイ音と直接音かなる音声再生と聴感上の効果の関係理解し、空間系エフェクトの実装に組み込む。【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】音に映像を連携させる手法を学ぶ。Webカメラから信号をPdで加工する方法やPdで映像を制御する方法を学ぶ。
12	ネットワーク環境への拡張	【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。【講義と実習】OSCプロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数のPdパッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。【講義と実習】Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motionなどフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。PduinoによるPdとArduinoの連携方法を学ぶ。
14	まとめ	学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報リテラシー、メディア情報基礎、デジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。PdはオープンソースのソフトウェアでありWindowsでもMacでもフリーで配布されており、情報カフェテリアのPCにもインストールされている。スマホ用にもPdの実行環境は提供されている。授業時間外でのPdの実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】

参考書・参考資料等

【Pure Data】

美山千香土、『Pure Data チュートリアル&リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424

松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Dataではじめるサウンドプログラミング』、ピー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804

中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821

【音響モデリング】

Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press (2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、課題（30％）、最終課題の評点（40％）で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人のPCを利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。またWeb公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。

期中アンケートにおいて音楽知識に関する意見を貰ったので改めて明記するが、普通科での音楽の知識や簡単なポピュラー音楽用語のみで受講には十分であり、高度な楽典知識は前提としていない。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のデスクトップPCを使用する。Pdはフリーにダウンロードできるので個人PC（Mac版、Linux版もある）にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

実務経験のある教員による授業：

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理（特にデジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識）、マルチメディア処理（音楽音響、電子透かし）分野の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

文化情報の哲学

森村 修

サブタイトル：

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。

そこで、本授業では、テクノロジーの進歩が私たちの生活のみならず社会構造を大きく変えていく現状を、「テクノロジーの哲学」の観点から考察していきます。特に、私たちの社会とテクノロジーとの関係を中心に、哲学理論研究から実際のテクノロジーの進歩がどのように社会を変えてきているか、また私たちの意識や心までも変化させているかを哲学的に考えていきます。

【授業の目的】

そこで、本授業では、マーク・クーケルバーク（Mark Coeckelbargh, 1975-）の「テクノロジーの哲学」を取り上げ、テクノロジーの進歩と社会との関係、さらには私たちの心や意識の問題から道徳や倫理、社会制度の問題にまで、テクノロジーが関わっていることを考察します。クーケルバークは、日本語翻訳が次々と出版されており、「テクノロジーの哲学」研究の分野では大いに議論されているベルギーの哲学者です。

【到達目標】

- (1) 21世紀を生きる私たちにとって、テクノロジーを「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
(2) 哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

講義形式で行う。その際に、必要に応じてテキストの読解を行う。また、テキストについて教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ・「テクノロジーの哲学」 講義①	・本科目の意図の説明など 第Ⅰ部「テクノロジーの哲学」とは何か？ 第1章「テクノロジーを考える」とは？
2	「テクノロジーの哲学」 講義②	第2章 「テクノロジーの哲学」の歴史と背景 1. テクノロジーの哲学の成り立ち 2. テクノロジーの哲学の背景
3	「テクノロジーの哲学」 講義③	第Ⅱ部 理論からテクノロジーを考える 第3章 現象学と解釈学 1. ハイデガーの「テクノロジーへの問い」 2. マクルーハンのメディア論 2. テクノロジーの現象学
4	「テクノロジーの哲学」 講義④	第4章 ポスト現象学・物質的解釈学・媒介理論 1. ドン・アイディのポスト現象学 2. フェルベークのポスト現象学 3. 物質的道徳性

5	「テクノロジーの哲学」 講義⑤	第5章 批判理論とフェミニズム 1. マルクスとテクノロジー 2. テクノロジーをめぐるフェミニズムの思考 3. フェミニズムの「テクノロジーの哲学」
6	「テクノロジーの哲学」 講義⑥	第6章 プラグマティズム、分析的アプローチ、異文化間・文化横断的な「テクノロジーの哲学」 1. プラグマティズム 2. 間文化的な「テクノロジーの哲学」
7	「テクノロジーの哲学」 講義⑦	第Ⅲ部 具体的な技術から考える 第7章 情報テクノロジーから哲学、そして情報倫理へ 1. フロリディの情報哲学・情報倫理 2. フェイクニュースとインターネット
8	「テクノロジーの哲学」 講義⑧	第8章 ロボット工学とAIから道徳的地位と人間関係をめぐる考察 1. モラル・マシーン 2. 道徳的被行為者性 3. セックスロボットと人間関係
9	「テクノロジーの哲学」 講義⑨	第9章 遺伝子工学とサイボーグからトランスヒューマニズムとポストヒューマニズム 1. トランスヒューマニズムとヒューマン・エンハンスメント 2. ポストヒューマニズムとサイボーグ
10	「テクノロジーの哲学」 講義⑩	第10章 気候変動とジオエンジニアリングから「自然」への問いと「人新世」の考察 1. 「自然」の問題 2. 人新世——哲学からの応答
11	「テクノロジーの哲学」 講義⑪	第11章 テクノロジーの哲学を超えてテクノロジーを考える 1. ソーシャルメディアと道徳哲学 2. 哲学的人間学 3. 言語の考察とテクノロジーの考察
12	「テクノロジーの哲学」 講義⑫	第12章 テクノロジーの哲学とその他の学問 1. ロボット工学 2. 社会科学 3. 人文科学
13	「テクノロジーの哲学」 講義⑬	第13章 テクノロジーの哲学とアカデミア外の実践 1. イノベーション、政策 2. 芸術 ・「テクノロジーの哲学」研究の未来と教育への応用
14	「テクノロジーの哲学」 講義——総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・必要に応じて配布された資料に基づいて、レジュメを作成する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

M・クーケルバーク『技術哲学講義』直江清隆・久木田水生監訳、丸善出版、2023

【参考書】

- ① M・クーケルバーク『AIの倫理学』直江清隆他訳、丸善出版、2020年
- ② M・クーケルバーク『AIの政治哲学』直江清隆他訳、丸善出版、2023年
- ③ M・クーケルバーク『デジタルテクノロジーと時間の哲学』直江清隆他訳、丸善出版、2024年
- ④ M・クーケルバーク『ロボット倫理学——ソーシャルロボットから軍事ドローンまで』田畑暁生訳、青土社、2024年

【成績評価の方法と基準】

- ・期末テスト（70％）、授業内（30％）
- ※ この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする
- ※要注意【変更】
- リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・テクノロジーを哲学的に考察するためには、皆さんの頭脳と身体があれば十分です。

【その他の重要事項】

- ・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩ですので、考えることを実践してみましょう。
- ・授業担当者（森村）の他の科目との関連が極めて強いので、他の科目も併せて受講することをお勧めします。
- 1. 「文化情報学概論」は、科目名からも近いように、「文化情報学」の基礎を学ぶ科目です。そこでは、テクノロジーが情報社会と密接に関わっている点を、〈ヴァーチャル社会〉という観点から哲学的に捉えていきます。
- 2. 「こころとからだの現象学」では、私たちの「こころ」がどのように、私たちの〈外〉にある〈ヴァーチャル社会〉から影響されているかを哲学的に考えていきます。

3.「現代思想」では、「生まれてこないほうがよかった」という反出生主義を哲学的に考えていきます。そこでは、人工妊娠中絶などテクノロジーが関わる医療問題を取り上げていきます。

4.ILAC科目「倫理学」では、ロボットを使用する際の倫理問題や、テクノロジーによる自動運転の行為者責任などについて、倫理学・道徳哲学からアプローチするための、基礎的な倫理学的思考を学びます。

5.ILAC科目「倫理学L」では、「ケアの倫理学」という観点から、テクノロジー機器による介護・看護の問題から、「ケアする」側は、なぜ「人間」でなければならないのか、また介護ロボットの倫理的問題などについても考察していきます。

【哲学することの姿勢について】

・本授業は、テキストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。

・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテキストを正確に読めること、第二に、正確なテキスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".

In this class, based on the perspective of "philosophy of technology," we will examine the current situation in which technological progress is drastically changing not only our lives but also the social structure.

In particular, we will focus on the relationship between our society and technology, and philosophically consider how actual technological advances are changing our society and even our consciousness and minds.

【Objective of the class】

This class will therefore focus on Mark Coeckelbargh's (1975-) "Philosophy of Technology" to examine the relationship between technological progress and society, and how technology is involved in issues ranging from our minds and consciousness to morality, ethics, and social institutions. Coeckelbargh is a Belgian philosopher whose work has been published in a series of Japanese translations and is much discussed in Philosophy of Technology.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. to learn how important it is for us to philosophize.
- B. to learn to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

SES300GA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

ソーシャル・プラクティス

稲垣 立男

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：情報デザイン

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティス、あるいはソーシャル・エンゲージド・アートと呼ばれる、環境や政治、コミュニティ、ジェンダーなど、さまざまな社会的問題に直接働きかけるアートの分野について学びます。社会と直接関わる現代アートのアプローチに関する理論と実践を扱い、ワークショップ形式の実習授業を行います。

【到達目標】

この授業では、下記の3つのテーマで実習を行います。

1. 環境と社会
2. 共生社会
3. 政治課題

自分たちを取り巻くさまざまな社会的課題を捉え直し、調査を基に各自が課題を設定し、それを作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施し、グループワークによる調査やディスカッションを経て、さまざまな発表形式による作品制作を行います。ワークショップの冒頭では、課題と関連した社会的課題に関する解説を行うとともに、美術史や美術理論に関する基本的な知識を確認します。

次に、資料調査や大学内外でのフィールドワークを通じて問題を探ります。

最後に、各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。

○ 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使用します。

Google Sites（授業の基礎となるコンテンツの配信）

Google Classroom、Google Form（課題提出、そのフィードバック、質問など）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 ソーシャル・プラクティスについて
第2回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 講義と対話	地球温暖化、原発問題、海洋汚染など環境問題に関する対話
第3回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 グループワーク	言語による表現を通じて環境に関するテーマについて考える

第4回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 プレゼンテーション1	言語による表現によるプレゼンテーションと対話（1）
第5回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 プレゼンテーション2	言語による表現によるプレゼンテーションと対話（2）
第6回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 講義と対話	コミュニティの崩壊、移民、難民問題など共生と社会に関する対話
第7回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 グループワーク	視覚表現を通じて共生社会について考える
第8回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 制作1	映像による作品制作と対話（1）
第9回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 制作2	映像による作品制作と対話（2）
第10回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス 講義と対話	ジェンダー、貧困問題、表現の自由などに関するテーマについて考える
第11回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス グループワーク	インスタレーション・パフォーマンスによるプレゼンテーションと対話
第12回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス アクション1	インスタレーション・パフォーマンスによる行為と対話（1）
第13回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス アクション2	インスタレーション・パフォーマンスによる行為と対話（2）
第14回	フィードバック	授業全体を俯瞰し、各課題の意義について、参考例を見ながら振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google Sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会を多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice (Berg Pub Ltd)

パブロ・エルゲラ『ソーシャル・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社、2015年
アート&ソサイエティ研究センター SEA研究会『ソーシャル・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐる』フィルムアート社、2018年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

作品のアイデアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through group work surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.

Learning Objectives

In this course, we will practice the following three themes.

1. Environmental problems and society
2. A symbiotic society
3. Political issues

We will re-examine the various social issues surrounding us and develop the ability to set problems and express them as works based on research.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

パフォーマンスの美学

森村 修

サブタイトル：〈おぞましさ〉と〈かわいい〉の美学

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：パフォーマンス・スタディーズ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり・選抜試験

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「パフォーマンスの美学」では、いわゆる「身体表現」だけでなく、思考を表現した作品・対象（=オブジェ, objet）も、何らかの「実演＝パフォーマンス」として捉え、そこに内在する感性学=美学（aesthetics）を考察することを目的とする。それゆえ、いわゆる芸術表現としての「パフォーマンス・アート」には一般的には属さない「ファイン・アート」や、デザイン、詩などの文藝作品も、何らかの実演された表現として捉え、そこに見出せる「美」や「美意識」について哲学的に考察する。また、いわゆる「前衛芸術」や「実験芸術」など、政治的・イデオロギー的・宗教的な理由などで従来の学校教育では取り上げることがないアート運動や表現活動も「パフォーマンス」として含めて考察する。

2026年度は、山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』（青弓社、2026年）を参照しながら、フェミニズム美学における〈おぞましさ〉と〈かわいい〉の理解を検討する。

【授業の意義】

フェミニズム美学の手法を用いて、少女表象が展開する美術作品、映像作品などを通じて、少女表象が単なる〈かわいいさ〉だけを追求しているのではないことを明らかにする。その際に、「パフォーマンスの美学」という観点から、現代の美意識や美の価値観ではなかなか捉えにくい〈おぞましさ〉を探ることが、本授業の意義である。

【到達目標】

- (1) 既成の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
- (2) 自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
- (3) 高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点でアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
- (4) アートの領域の内部で生じた、20世紀以降のさまざまな変遷を辿ることで、「前衛芸術」のあり方について、現在のアートのあり方を予測することができる。
- (5) 「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

本講義では、「フェミニズム美学」の観点から、少女表象が〈おぞましさ〉とともに展開する美術作品や映像作品を取り上げ、少女表象に何が託されているかを、学生と議論していく。

【授業の方法】

- ①基本的には、授業は「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行う。特に文学（俳句・短歌・詩）作品については、教員による解釈を提示しながら、受講生の感想・解釈を積極的に取り入れていく。
- ②少女表象が典型的に見られる代表的な映像作品（実験映像・映画・演劇の記録など）を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・寺山修司の略歴紹介 ・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・パフォーマンス・スタディーズの歴史について概観する。
3	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・パフォーマンス・スタディーズの概念について概観する。
4	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・フェミニズム美学研究①
5	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・少女／アブジェクト
6	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・文化論としての少女論
7	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・「少女趣味」とは何か
8	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・日本美術における少女
9	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・フェミニズム・アートの分析①
10	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・フェミニズム・アートの分析②——現代芸術の「アニメ化」
11	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・少女たちの自己主張
12	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・少女のアブジェクト
13	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・少女の怪物化
14	〈おぞましさ〉と〈かわいい〉	・総括とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・なるべく多くの作品に触れるようにしてもらいたい

【テキスト（教科書）】

山田萌果『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』（青弓社、2026年）

【参考書】

その都度指示する

【成績評価の方法と基準】

【成績評価】

①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（30％）

②期末レポート（70％）

【評価基準】

①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。

②期末レポートは、あくまで「批評（critique）」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準（criterion）」が前提されている必要がある。寺山修司の生き方や作品について「批評文」を書くためには、次の4点が明確に意識されていることが、本科目の「成績の評価基準」になっている。

【学生の意見等からの気づき】

学生からのリアクション・ペーパーを活用する

【学生が準備すべき機器他】

映像作品の上映があるので、各自がPCやタブレットを持参する必要がある。逆に、それらを使用することによって、授業に集中できない可能性もあるため、持参しなくても構わない。

【その他の重要事項】

・本講義がめざしているのは、受講生の美意識や価値観の問い直しである。そこで、参加者全員に、既成の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇気をもつ学生の参加を望む。インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。

・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性（presentation）」は「表象（representation）」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「現場性」・「直接性」・「現在性」に特化した「パフォーマンス性（performativity）」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。

・「表象文化概論」（特に、森村担当「現代視覚文化論」）も合わせて受講することで、「パフォーマンス・スタディーズ」や「パフォーマンスの美学」という考えが、いわゆる視覚重視の「表象文化」を批判する視座をもつことを確認してもらいたい。

【お知らせ】

・「パフォーマンスの美学」という科目は、授業担当者（森村）の他の科目との関連が強いように思われるかもしれませんが、しかし、実は深いところで、他の科目と関わっているため、他の科目と併せて受講することをお勧めします。

1. 「文化情報学概論」は、科目名からも近いように、「文化情報学」の基礎を学ぶ科目です。そこでは、テクノロジーが情報社会と密接に関わっている点を、〈ヴァーチャル社会〉という観点から哲学的に捉えていきます。〈ヴァーチャリティ〉と〈リアリティ〉の関係が深く関わっており、身体を媒介する「パフォーマンス」と2Dの世界観がどのように関わるか学ぶことができます。

2. 「こころとからだの現象学」では、私たちの「こころ」と「からだ」に着目することによって、私たちの〈外〉にある〈ヴァーチャル社会〉と身体とその表現の問題を哲学的に考えていきます。

3. 「現代思想」では、「生まれてこないほうがよかった」という反出生主義を哲学的に考えていきます。そこでは、誕生や死について身体を含めて取り上げていきます。

4. ILAC科目「倫理学」では、身体によるパフォーマンスや言葉によるパフォーマンスが「暴力」として発現する可能性があることを倫理学・道徳哲学からアプローチします。

5. ILAC科目「倫理学Ⅰ」では、「ケアの倫理学」という観点から、さまざまなパフォーマンスが「ケア」として倫理的問題を引き起こすことなどについても考察していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline

The purpose of this course, "Aesthetics of Performance," is to consider all forms of expression as a kind of "performance" and to philosophically examine the "beauty" inherent in it. Therefore, by expanding the concept of "performance", not only "physical expression", but also works of art and objects (objet) that express thoughts will be considered as a kind of "performance" or "result of performance".

Therefore, "fine art," design, poetry, and other works of literature and art that do not generally belong to the so-called "performance art" as artistic expressions are also regarded as a kind of performed expression, and the "beauty" and "aesthetics" found in them are philosophically discussed.

In addition, art movements and expressive activities such as the so-called "avant-garde art" and "experimental art", which are not covered in conventional school education for political, ideological, or religious reasons, will also be considered as "performance".

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

現代美術論

平野 真弓

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術の分野（美術、建築、音楽、パフォーマンスアート、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この講義では、現代美術の多様性に焦点を当て、理論と実践の両面から探求します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学など他の領域かと対比しながら分析し、その中で多文化主義・関係性・コミュニケーションなどのテーマを読み解いていきます。こうしたアプローチを通じて、現代美術がどのように社会的、文化的な変化と相互作用しているかを深く理解するための基盤について学びます。学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイディアについての理解を深めます。みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料などの授業コンテンツを Google sites 全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40- 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について	講義内容について 授業の進め方と方法について 評価方法と基準
第2回	メディアとアート 絵画・彫刻・ドローイング・写真・映像・インスタレーション	美術における様々な技法やメディアの探究について、その発展と変遷を詳細に考察します。この授業ではメディアの歴史の変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。美術の歴史的なコンテクストの中で、異なる技法やメディアがどのように位置付けられ、進化してきたのかについて、探究していきます。
第3回	20世紀の美術 未来派・ダダ、シュルレアリスム、アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。第二次世界大戦で壊滅的なダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。60年代以降には、概念的なアートや、ハプニング、ランドアートのような従来の絵画や彫刻にとらわれない表現様式が多く登場します。これらの表現は、芸術の領域に現代的な多様性をもたらしました。
第4回	21世紀の美術 新表現主義、YBA、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。新表現主義は、表現主義的なスタイルを追求し、絵画における感情的な表現と物質的な豊かさを再評価しました。また、ミレニアム前夜には、イギリスやフランスを中心に、二つの重要な芸術運動が登場しました。「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）」と呼ばれる運動で、若手アーティストの作品が国際的な注目を集めました。「リレーショナル・アート」は観客との関係性や環境との対話を重視することで、芸術の社会的な役割を再考しました。2010年代には「ソーシャリー・エンゲージド・アート」と「ソーシャル・プラクティス」という、社会的な関与をテーマにした芸術運動が注目を集めています。これらは芸術を社会問題に関与させ、社会的な変化を促すことに焦点を当てています。
第5回	ワークショップ1 単元のまとめ・ワークショップ	メディアとアート、20世紀の美術、21世紀の美術の講義内容の確認をします。

第6回	現代アートとパフォーマンス1 パフォーマンス・アートの始まり／アクション、ハプニング、インスタレーション	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カブローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第7回	現代アートとパフォーマンス2 社会と関わるアート／ビデオパフォーマンス、エンデュランスアート、テクノロジーとパフォーマンス、芸術と社会、委託されたパフォーマンス	パフォーマンス・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレーに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第8回	身体とパフォーマンス パフォーマンス・アーツ、バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、舞踏	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んで行きます。
第9回	音とパフォーマンス 現代音楽 ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプチュアルアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリーリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第10回	言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	現代美術とパフォーマンス1、現代美術とパフォーマンス2、身体とパフォーマンス、音とパフォーマンス、言葉とパフォーマンスの講義内容の確認をします。
第11回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	ワークショップ・パフォーマンス
第12回	アートのある場所 美術館、国際展、アーティスト・イン・レジデンス、アート（アーティスト）・コレクティブ、オルタナティブスペース	アートの生まれる場所について、美術館・国際展のような公的な場所、そしてアーティスト・イン・レジデンス、アーティスト・コレクティブやオルタナティブスペースなど。それぞれの場所とそれに関わる人々について学びます。
第13回	批評/キュレーション 批評、モダンアートとコンテンポラリーアート、キュレーション	キュレーターは学術的な専門知識によって美術資料の収集や保管、展覧会の企画や構成、運営などを担当します。また、作品の理解や価値判断に関する美術批評のあり方について学びます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	美術のある場所、批評/キュレーションの授業内容の確認をします。

ワークショップ・スライス・オブ・ライフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sites で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sites を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020
小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroom を使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をお願いいたします。

実務経験のある教員による授業

平野真弓はフィリピン・マニラ在住のキュレーター・リサーチャーです。フィリピンを中心に東南アジアの展覧会史やキュレーションにまつわる思想や実践方法を研究しています。実践と研究活動で得た知識と経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

This course is about contemporary art theory and practice.

Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.

The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

Learning Objectives

The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.

It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)

2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)
マルチメディア表現法
大嶋 良明
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり (15名)。希望者多数の場合は選抜します。初回授業に出席すること。
備考 (履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習です。わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Webマルチメディア、DTPなどの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品やDTP作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】

写真表現、ポスター作り、DTP、レーザー加工、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

少人数での演習設備を備えた教室においてワークショップ形式で講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法(講義と実習)

- ・デザインの基礎
- ・ポスター作り (Photoshop・Web)
- ・多様な出力形態 (大判ポスター、アクリル板彫刻)
- ・写真技法：ライティング、構図、光の読み方
- ・写真表現の作品化 (アルバム・Web・アクリルパネル)
- ・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム

●クリティーク

各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・ポスター作り (Photoshop+大判プリンタ・Web)
- ・レーザーカッターによるアクリル板彫刻
- ・写真表現の作品化 (アルバム・Web)
- ・Jingle (短い15秒程度のCM的映像)
- ・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。

●大事にしたいこと

- ・コンピュータ上でのメディアデータの特性とtangibleなモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
- ・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
- ・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAPの原則を学ぶ。 【写真課題：line、pattern、texture】

2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：line、pattern、texture 各自の写真作品を合評する。【写真課題：モノクロ、ライティング】
3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド 実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク：モノクロ、ライティング 【写真課題：人物ポートレート、ライティング】
4	コミュニケーションデザインの手法－Web	Webの特性とデザインについて理解する。 【写真課題 (承前)：人物ポートレート、ライティング】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア (CD、DVDなど)の構成法を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Premiereによる短いビデオ 【課題：Premiere オンライン教材の学習】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース	【学期末課題：ショートムービー】情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Preziによるオンライン・プレゼンテーション 【課題：Web写真アルバム】
7	タイポグラフィの基礎	タイポグラフィの基礎を学ぶ。 クリティーク：各自のWebポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 【課題：紙の写真アルバム】
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク：Webアルバム 【課題：ポスターのデザイン】
9	多様な出力形態 (1): DTP	【学期末課題：企画書・絵コンテ提出】印刷についての知識を学、DTP作業のワークフローを理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	モノづくりとマルチメディア	Makerムーブメントを題材とするモノづくりとマルチメディアの関係を学ぶ。 クリティーク：広告 【学期末課題：予告編ジングル仮提出】
11	多様な出力形態 (2): レーザー加工	レーザー加工機による 【実習】簡単な版下の作成とレーザーカッターによるアクリル板加工 【課題】アクリル板切り出しと表面彫刻のためのレーザーカッター版下の作成
12	コンテンツプラットフォームとしてのインターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。 【実習】各自デザインによるアクリル板のレーザー加工
13	コンテンツの流通、管理、知的所有権とメディア表現	コンテンツの流通、管理の仕組みとクリエイティブ・コモンズの考え方を学び、オンラインメディアの知的所有権の扱いを理解する。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力やWeb上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するにはDTPやWeb制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

【マルチメディア全般】

参考書 (1) CG-ARTS協会、「第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8

参考書 (2) CG-ARTS協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1

※上記2冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

【デザイン技法】

Robin Williams (著), 吉川 典秀 (翻訳)、「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ (1998)、ISBN-13: 978-4895630078

【写真技法】

キット タケナガ (著) 東京写真学園 (監修)、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3

【ショートムービー制作】

ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956

【DTP、印刷】

松田 哲夫 (著), 内澤 旬子 (イラスト)、「印刷に恋して」、晶文社 (2002)、ISBN: 978-4794965011

【オンライン・プレゼンテーション】

吉藤 智広 (著)、「あなたのプレゼンが劇的に変わる！ Prezi デザインブック」、日経BP (2018)、ISBN-13: 978-4822254520

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点(20%)、中間課題(30%)ならびに最終課題(20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

2011年度までは3～4年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を取り入れ、また教学上の配慮も含め、2012年度より2年次より履修可能とした。2017年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけでなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

本科目は国際文化学部・情報セミナー室 (BT#0704) にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PCを必要とする。

長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびにePortfolioに提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】

【重要】生成AIの出力をそのまま作品またはその一部に使用することは禁じる。学生へのメッセージ：Adobe系アプリはじめ様々なツールを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PCやソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため20名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。

情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、高度なICTの活用実習、ならびに作品制作を通じて本科目では学生の就業力育成を支援します。

受講希望者は初回授業に出席すること。少人数ワークショップなので受講希望者が受入可能な上限人数を超える場合には抽選を実施することがある。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）

Photoshopの応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【教員の実務経験】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, laser engraving, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 20%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

フィールドワークと表現

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：メディア表現ワークショップ1

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、表現活動へとつながるフィールドワークを中心とした実習科目です。各回の実習はワークショップ形式で行います。教室および大学構内外をフィールドとし、「カメラを持って旅に出よう」「スケッチブックに記録しよう」「動きや音を拾うことから」という3つのテーマに基づいたフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションとして発表します。

【到達目標】

みなさんは各課題を通じて、さまざまな表現活動に通じる取材・調査の方法や、複数のメディアを用いた表現方法を学びます。課題に取り組むにあたっては、自由な発想と臨機応変な対応が求められます。柔軟な姿勢をもって、積極的に（楽しみながら）課題に取り組んでください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

下記の3つの内容に基づいて、制作実習をします。

第1課題 カメラを持って旅に出よう。

記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。

第2課題 スケッチブックに記録しよう。

スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録していきます。

第3課題 動きや音を拾うことから。

拾った動きや音をきっかけとして、何かを始めてみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
第2回	カメラを持って旅に出よう。(1)	課題説明と講義 記録としての写真
第3回	カメラを持って旅に出よう。(2)	ワークショップ 私の決定的瞬間
第4回	カメラを持って旅に出よう。(3)	ワークショップ 写真による「組曲」
第5回	カメラを持って旅に出よう。(4)	ワークショップ 私の原風景
第6回	スケッチブックに記録しよう。(1)	講義 スケッチの技法
第7回	スケッチブックに記録しよう。(2)	ワークショップ シュルレアリスムの実験
第8回	スケッチブックに記録しよう。(3)	ワークショップ 架空の研究
第9回	スケッチブックに記録しよう。(4)	ワークショップ 就職するためのスケッチ
第10回	動きや音を拾うことから。(1)	課題説明と講義 音や映像による記録

第11回	動きや音を拾うことから。(2)	ワークショップ 日常の音に注目してみよう
第12回	動きや音を拾うことから。(3)	ワークショップ 反復する音
第13回	動きや音を拾うことから。(4)	ワークショップ 社会人になるための音
第14回	講評会	課題作品の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにあまり経験してこなかった表現の基となる取材活動に取り組めます。また、調べることに積極的な人、面白いことを知ることが好きな人は受講してみてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史—欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

藤田 結子『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践（ワードマップ）』新曜社、2013年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんにとってわかりやすく、取り組みやすい課題とします。楽しい授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

スケッチブック及びスマートフォンが必要となります。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

This course is a practical training course centred on fieldwork that leads to expressive activities. Each session is conducted in a workshop format.

Using classrooms and locations both on and off campus as fields of practice, students carry out fieldwork based on three themes: Going on a journey with a camera

Recording in a sketchbook

Starting from capturing movement and sound

The outcomes of this fieldwork are presented in the form of presentations.

Through the course, students engage in research and investigative activities that form the basis of creative expression, including approaches they may not have previously experienced. Students who are proactive in research and enjoy discovering new and interesting perspectives are encouraged to enrol.

The standard amount of preparation and review time for this course is two hours per session.

Grades are determined by a combination of class participation and assignments/reports, with particular emphasis placed on experimental approaches and active engagement. The grading breakdown is as follows:

1. Class participation (50%)
2. Assignments and reports (50%)

Students who achieve 60% or more of the course learning objectives, based on this evaluation method, will receive a passing grade.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

映像文化論

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員60名。それを超えたら選抜

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高畑勲・宮崎駿の作品を、欧米や日本のアニメ映画と比較しながら、主に彼らの作品のスタイルや映画史・アニメーション史上の位置を学習します。

【到達目標】

1960年代～2020年代の日本のアニメの映画的・アニメの特徴や制作体制について学び、現代のアニメ状況がどのように形成されたのかを知ることができます。またアニメや映画のスタイルを分析できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週、アニメの制作体制、表現技術、スタッフ、制作体制などについての講義と、実作の抜粋の鑑賞を行います。そして鑑賞した映画について気づいたことを、学習支援システムを通じて書いてもらいます。それらのフィードバックは授業およびhoppiiを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび選抜	授業の内容、進め方について説明後、アニメを15分ほど鑑賞してもらい映像的分析を提出し、それをもとに受講資格者を選抜する。
第2回	古典的アニメーション映画と高畑勲の初監督映画の差異	『ピノキオ』『雪の女王』『太陽の王子ホルスの大冒険』
第3回	日常生活と心象の表現	『アルプスの少女ハイジ』『赤毛のアン』
第4回	海外ロケーション	
第4回	宮崎駿の独立	『未来少年コナン』『ルパン三世 カリオストロの城』
第5回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えた外国のアニメーションと実写映画	『王と鳥』『市民ケーン』
第6回	高畑勲・宮崎駿の日本帰	『ジャリ子チエ』『さらば愛しきルパンよ』
第7回	スタジオジブリの誕生	『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』
第8回	東京西郊外の里山	『となりのトトロ』『平成狸合戦ぽんぽこ』
第9回	聖地巡礼とロケハン	『耳をすませば』『パトレイバー 2 the Movie』
第10回	メタモルフォーゼ	『崖の上のポニョ』『ハウルの動く城』

第11回	戦争・災害の表現	『火垂るの墓』『風立ちぬ』
第12回	高畑勲の影響	『マイマイ新子と千年の魔法』『この世界の片隅に』
第13回	宮崎駿の影響	『時をかける少女』『天気の子』
第14回	まとめ	レポート提出 レポートについての総評 補習：その他関連作品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業で部分的に観た映画を、できるかぎり自主的に鑑賞することを望みます。

【テキスト（教科書）】

随時、プリントを配布します。

【参考書】

高畑勲『映画を作りながら考えたこと』岩波文庫

宮崎駿『出発点』徳間書店

叶精二『宮崎駿全書』フィルムアート社

ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト宮崎駿 奇異なもののボエジー』みすず書房

ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト高畑勲 アニメの現代性』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とレポート（50％）。

平常点は出席だけでなく、コメントを通して評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

なおコメントシートのフィードバックは、授業支援システムや授業を通じて行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業時に積極的に意見を求める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回に選抜テストを実施するので、必ず出席し試験を受けること。講義の重点は映像の形式面にあります。

【旧科目との重複履修】

なし。

【Outline (in English)】

In this class, we study Isao Takahata and Hayao Miyazaki's work, through their style and their position in the history of animation and movie.

【Learning Objectives】At the end of course, students are expected to understand the history and style of the Japanese animation from the 50's to 90's.

【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】Term-end report : 50%, in class contribution: 50%

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

映像と文学

林 志津江

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありませんか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テキスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて、自ら考えを深めていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体に、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】

- 1) さまざまな文学作品や映画に触れながら、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
 - 2) 「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学やアダプテーションの理論の基本を学ぶこと。これは読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
 - 3) 美的形式（表象）の分析を通じ、古典的なメディア論のテーゼの真意を理解すること。
 - 4) 「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
 - 5) この授業の経験で、どんな分野であれ、ゼミ論や卒論執筆その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。
- その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しく思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・各回、対面授業で行います。
- ・理論的導入の後、文学作品とその映像化（劇映画）、ないし文学作品と文学作品に触発されて作られた翻案映画作品の組み合わせについて、特定の部分・シーンを対照的に検討する作業を繰り返しながら、文学作品と劇映画の形式、双方から読み取れるものについて考察します。
- ・扱う文学作品のテキストについてはご自分で用意していただきます。図書館で借りる形で構いません。
- ・授業ごと、所定の課題を作成・提出します（文学作品が手元にないと作成できません）。
- ・LMSとして、主にGoogle Classroomを使用します（予定）。
- ・提出物のフィードバックは、適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（1）	この授業について・文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入

2	オリエンテーション（2）	メディアと技術革新が可能にしたもの・文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入（2）
3	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説1995年、映画2001年）その1	ファンタジー小説V.S.映像テクノロジー・人物と背景を構成するためのメディア（1）
4	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説1995年、映画2001年）その2	「魔法（使い）」の表象・「見えないはずのもの（が見える）」の表現
5	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説1967年、映画1983年）その1	身体感覚の記憶の表現・人物と背景を構成するためのメディア（2）
6	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説1967年、映画1983年）その2	時間芸術と「タイムトラベル」・「ラブシーン」の成立条件・科学と私たちの未来
7	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説2006年、映画2009年）その1	青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）・人物と背景を構成するためのメディア（3）
8	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説2006年、映画2009年）その2	「空想の事物」の表象・コンピュータゲームが変えた映像の知覚
9	S. フィッツジェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説1925年、映画1974年）その1	「悩める若者たち」・人物と背景を構成するためのメディア（4）
10	S. フィッツジェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説1925年、映画1974年）その2	作品解釈の歴史が映画化に与える影響
11	S. フィッツジェラルド／B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説1925年、映画2013年）	「時代を超えた真実」V.S.「現代風にアレンジ」
12	R. ブラッドベリ／F. トリュフォー『華氏451（度）』（小説1955年、映画1966年）その1	サイエンス・フィクションとディストピアの表現、メディアによるメディア批判
13	R. ブラッドベリ／F. トリュフォー『華氏451（度）』（小説1955年、映画1966年）その2	メディア批判から政治批判へ・政治批判から愛の物語へ
14	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・授業で扱う文学作品をあらかじめ読んで準備してください。

【テキスト（教科書）】

- ・授業資料および授業内で視聴・確認する映像はこちらで用意します。
- ・授業で扱う文学作品5点（文庫本・全て日本語）
 - ①J. K. ローリング著（松岡佑子訳）『ハリー・ポッターと賢者の石』（静山社）1997年
 - ②筒井康隆『時をかける少女』（角川書店）1967/2006年
 - ③万城目学『鴨川ホルモー』（角川書店）2006年
 - ④スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）1974／2013年
 - ⑤レイ・ブラッドベリ（伊藤典夫訳）『華氏451度（新訳版）』（早川書房）2003/2014年

(図書館等を利用する形で全く問題ありません)

文学作品のテキストが手元にないと、各回の提出課題は作成・提出できません。

【参考書】

- ・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など(浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション(1)(2)』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収)
 - ・M・マクルーハン(栗原裕ほか訳)『メディア論』(みすず書房)1987年
 - ・F・キットラー(石光泰夫・石光輝子訳)『グラモフォン・フィルム・タイプライター』(筑摩書房)1999年
 - ・L・ハッチオン(片渕悦久・鴨川啓信・武田雅史訳)『アダプテーションの理論』(晃洋書房)2012年
 - ・J・ヘーリッシュ(川島建太郎・津崎正行・林志津江訳)『メディアの歴史ービッグバンからインターネットまで』(法政大学出版局)2017年
 - ・A・バザン(野崎敏ほか訳)『映画とは何か(上)(下)』(岩波文庫)2015年
 - ・R・バルト(蓮實重彦ほか訳)『映像の修辞学』(ちくま学芸文庫)2005年
 - ・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』(ちくま学芸文庫)1990年
 - ・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 映画のなかの社会/社会のなかの映画』(ミネルヴァ書房)2011年
 - ・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 交錯する映画ーアニメ・映画・文学』(ミネルヴァ書房)2013年
 - ・波戸岡景太『映画原作派のためのアダプテーション入門: フィッツジェラルドからピンチンまで』(彩流社)2017年
 - ・岩田和男・武田美保子・武田悠一(編)『アダプテーションとは何か 文学/映画批評の理論と実践』(世織書房)2017年
 - ・小川公代・吉村和明(編)『文学とアダプテーションIIーヨーロッパの古典を読む』(春風社)2021年
 - ・小倉孝誠(編)『批評理論を学ぶ人のために』(世界思想社)2023年
 - ・民間の各種映像ストーリーミングサービス(あればベターです)
- その他、適宜授業内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業毎作成・提出課題(平常点)100%

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・紙媒体にて使用できる筆記用具
 - ・授業で扱う文学作品5点(文庫本・全て日本語・図書館等利用可)
- ①J. K. ローリング著(松岡佑子訳)『ハリー・ポッターと賢者の石』(静山社)1997年
 - ②筒井康隆『時をかける少女』(角川書店)1967/2006年
 - ③万城目学『鴨川ホルモー』(角川書店)2006年
 - ④S・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』(新潮文庫)1974/2013年
 - ⑤R・ブラッドベリ(伊藤典夫訳)『華氏451度(新訳版)』(早川書房)2003/2014年
- (詳細は授業支援システム上で、秋学期開始前に周知します)

【その他の重要事項】

- ・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
- ・理由なく提出期限を超過した課題、所定のルート以外の方法で提出された課題は、原則として受理しません。欠席の代替措置(未提出課題の埋め合わせ)等も特に用意しません。
- ・部活動の公欠届や、就職活動を理由にした欠席届等の類の提出や通知は不要です。
- ・授業の進め方や課題に関する詳細は、第1回目の授業で説明します。質問や疑問のある方はできるだけ第1回目の授業に参加してください。

【Outline (in English)】

Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film adaptation or film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
 - ・To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above, especially about literature, films and its adaptation.
- 【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
 - ・There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on 100% of ordinary marks (submitted assignments/report) as a result of active participation. On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

ポピュラー音楽論

大高 徹

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後から平成期にかけての日本の大衆音楽、ポピュラー音楽を歴史的に学ぶ。歌謡曲やアイドルやロックなどは、いままも娯楽として聴かれ続けている一方で、すでに多くの評論やファンの語りによって意味づけられてきた、歴史的な音楽でもある。本授業では、そうした語りを前提としながら、なぜ、どのようにして私たちの日常に浸透している音楽を「歴史」として語ることができるのかを、社会史、文化理論、文化産業論などの論点を交えて検討する。現代の音楽観を歴史の中に置き直すことで、日本の音楽文化をめぐる理解の前提そのものを問い直す。

【到達目標】

- ・戦後～平成期の日本の大衆音楽の変遷を、年代・社会的背景・音楽様式を結びつけて大まかに概説できる。
- ・複数の理論的視点から現代の音楽観を相対化して捉えた上で、個別の作品や現象について客観的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。リアクションペーパー等で質問を受け付け、授業内で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	授業の目的と概要の説明
2回	戦前戦後の連続と断絶 ：ラジオ放送とレコード産業	GHQ 占領期のレコード産業とラジオ放送を対象に、音楽をめぐるメディア・制度・実践の戦前からの連続と断絶について。
3回	進駐軍施設の文化的影響	進駐軍キャンプ内の音楽施設を中心に、占領が残した音楽文化への直接的な影響について。
4回	美空ひばりの戦後像	1940～50年代における美空ひばりの伝承のかつ雑食的な音楽性と戦後文化について
5回	音楽産業の構造転換	テレビ時代における音楽産業の構造転換と、専属契約制度の解体・外部制作システムの形成について。
6回	ロカビリーからGSまで	産業構造転換期における洋楽風流行歌（ポップス）について。
7回	歌謡曲の音楽生産	テレビメディアを集約点とする1970年代の音楽生産について
8回	テレビ芸能界の「偶像」 生産：アイドル	日本型アイドルの歴史と特徴について。
9回	日本調歌謡の再編：演歌	「日本の心の歌」として商業的に再編された演歌について。
10回	前衛と大衆	前衛（政治／芸術）が大衆と接続した動きである「うたごえ運動」と「大阪万博」について。
11回	対抗文化と資本主義① ：関西フォークと ニューロック	1960年代アメリカ合衆国を中心に開花した対抗文化の日本への移入について。
12回	対抗文化と資本主義② ：70年代フォークと ニューミュージック	フォーク／ロックが音楽産業と折衝し、理念と商品化のあいだで変容する諸相について。
13回	都市オムニボアの正統性： はっぴいえんど史観と渋谷系	外来音楽を雑多に取り込み再編する都市音楽が、混淆の過程そのものを通じて獲得した〈本物らしさ〉の系譜について。
14回	Jポップとは何か	1990年代以降の主流的な大衆音楽＝Jポップの歴史的経緯とその特徴について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読み直しながら音源を聴く。配布資料掲載の参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート50%。

リアクションペーパー50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに返答する時間を設けるなどして、学生からの要望や質問に応じられるよう工夫する。

【Outline (in English)】

This course examines Japanese popular music from the postwar period through the Heisei era from a historical perspective. Genres such as kayōkyoku, idol music, and rock continue to be enjoyed today as forms of entertainment, yet they are also historical forms of music whose meanings have long been shaped by criticism, commentary, and fan discourses.

Building on these existing narratives, the course explores why and how music that permeates our everyday lives can be discussed and analyzed as history. Drawing on perspectives from global music history, social history, cultural theory, and cultural industry studies, students will critically examine the historical positioning of popular music. By situating contemporary understandings of music within a broader historical context, the course aims to reconsider the underlying assumptions through which Japanese music culture has been understood.

【Grading Criteria /Policy】

Report assignment: 50 %

Reaction paper for each class 50 %

Preparatory study and review time for this class are 2 hours.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

コミックス論

野田 謙介

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で日本のマンガが人気だという話をしばしば耳にします。実際、日本のアニメ・マンガを原語で楽しむために日本語を学ぶ外国の若者は、おどろくほど多いです。しかしながら海外における日本マンガ受容の実態を、わたしたちは本当に知っていると言えるのでしょうか。あるいは、そもそも日本語における「マンガ」は、どこまでを指し示せる言葉なのでしょう。

本授業では、マンガを理論的、歴史的、社会的な側面から概観します。そうすることによって、自覚的／客観的に「マンガ」をとらえなおすきっかけを提供したいと考えています。

【到達目標】

- ◆マンガの歴史について基礎的な知識を身につける。
- ◆マンガが自明な概念でないことを理解し、社会的な観点から説明できるようになる。
- ◆普段なにげなく読んでいるマンガについて、その表現の仕組みを理論的に分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式です。毎回リアクションペーパーの提出をお願いします。リアクションペーパーや提出課題は適宜授業内でとりあげ、フィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： まんが、マンガ、漫画、 コミックス？	マンガの呼称と現状
2	マンガの読み方Ⅰ	マンガの要素について
3	マンガの読み方Ⅱ	時間/運動、音について
4	マンガの読み方Ⅲ	世界制作の方法
5	マンガの歴史	起源について
6	マンガの歴史：日本編Ⅰ	戦前
7	マンガの歴史：日本編Ⅱ	戦前から80年代まで
8	マンガの歴史：日本編Ⅲ	80年代以降
9	マンガの歴史：日本編Ⅳ	コミケ
10	マンガとアニメーション	マンガ版とアニメ版の『ナウシカ』比較
11	マンガの歴史：海外編Ⅰ	日本マンガの受容史
12	マンガの歴史：海外編Ⅱ	米・仏のマンガ史
13	マンガの読み方Ⅳ	翻訳についてと授業内試験
14	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定作品を読んで/見てきてもらい、設定した質問に口頭で答えてもらうことがあります。また、課題を提出してもらうことがあります。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要なテキストについては適宜配布します。

【参考書】

各回のテーマにそって、授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（60%）、提出物（30%）、授業内発言（10%）。

文化を相対化する視点と分析的に漫画を読む方法を身につけたかどうかを評価基準とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者人数がそれほど多くなければ、出席者の発言をより促す工夫をします。

【Outline (in English)】

It is widely recognized that Japanese manga enjoys significant popularity in foreign countries. Indeed, many young people outside Japan study the Japanese language in order to engage with Japanese anime and manga in their original form. However, do we really know the actual situation overseas? First of all, what is "Manga" in Japanese? This course provides an overview of manga from a theoretical, historical, and social points of view, giving clues for rethinking the manga that has been considered to be self-evident.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- have a basic knowledge on the history of manga.
- understand that manga is not an obvious concept, and explain it from a social perspective.
- analyze the mechanism of expression of manga, which we usually read unconsciously.

You may be asked to read the assigned works as a preparatory activity and answer the questions orally in class. You may also be asked to submit assignments.

Term-end examination: 60%, Short reports: 30%, in-class remarks: 10%

The evaluation criterion will be whether or not the student has acquired the perspective of relativizing own culture and the means of reading manga consciously. Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will be considered to have passed the class.

LIT300GA（文学 / Literature 300）

世界の中の日本文学

LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、一つの国、一つの言語、一つの文化に限定されない国境を越えた文学について学びます。さまざまな作家・作品を読みながら、日本文学における世界/世界文学における日本について考えます。また、現代小説を分析しながら世界における日本文学の位置付けについて考え、現代社会を考察するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1）現代日本文学についての基礎的な知識を身につける。
- 2）日本文学のテキストを分析できるようになる。
- 3）文学と社会の関連性について学び、世界から見た日本/日本から見た世界について自分の考えをまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。
第2回	移動する文学	バイリンガルな文学について考える。
第3回	バイリンガルな文学：多和田葉子	多和田葉子の作品を取り上げる。
第4回	バイリンガルな文学：水村美苗	水村美苗の作品を取り上げる。
第5回	移動する女性作家たち	須賀敦子の作品を取り上げる。
第6回	李良枝を読む	李良枝の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第7回	温又柔を読む	温又柔の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	文学における震災	震災文学論について考える。
第10回	多和田葉子と川上弘美の震災文学	多和田葉子、川上弘美の作品を取り上げる。
第11回	川上未映子の震災文学	川上未映子の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第12回	世界における日本文学（1）	日本国外における村上春樹文学のブームや村田沙耶香の小説の翻訳とその受容について考える。
第13回	世界における日本文学（2）	松田青子、小山田浩子、柚木麻子らの小説の翻訳やその受容について考える。
第14回	期末試験	第9回～第13回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてPDFでテキストを配布します。

【参考書】

辛島デイヴィッド『Haruki Murakamiを読んでいるときに我々が読んでいる者たち』（みすず書房、2018年）
辛島デイヴィッド『文芸ビープル「好き」を仕事にする人々』（講談社、2021年）
木村朗子『震災後文学論—あたらしい日本文学のために』（青土社、2013年）
木村朗子『その後の震災後文学論』（青土社、2018年）
木村朗子、アンヌ・バヤール＝坂井（編）『世界文学としての〈震災後文学〉』（明石書店、2021年）

郭南燕（編）『バイリンガルな日本語文学—多言語多文化のあいだ』（三元社、2013年）

鴻巣友季子『なぜ日本文学は英米で人気があるのか』（早川書房、2025年）
新・フェミニズム批評の会（編）『現代女性文学論』（翰林書房、2024年）
高橋源一郎、斎藤美奈子『この30年の小説、ぜんぶ—読んでしゃべって社会が見えた』（河出新書、2021年）
山出裕子『移動する女性たちの文学—多文化時代のジェンダーとエスニシティ』（御茶の水書房、2010年）

【成績評価の方法と基準】

グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー：20%

中間試験：30%

期末試験：30%

期末レポート：20%

毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解を深めるためにグループディスカッションが効果的だという意見が多かったため、引き続きグループで作品分析の時間を確保したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成のためのパソコン。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を紹介することもあります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of contemporary society through literature. In this class, we will learn about literature that transcends national borders and is not limited to one country, one language, or one culture. While reading various authors and their works, we will consider the world in Japanese literature and Japanese literature in the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

- a) Have basic knowledge of contemporary Japanese literature.
- b) Analyze texts of Japanese literature.
- c) Understand the relationship between literature and society.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session and submit comments sheets (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

ARSe200GA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200）

中国の文化Ⅰ（現代中国社会）

張 勝蘭

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、現代中国社会に関する基礎知識を習得し、歴史・政治・経済・民族・文化などの側面から、現代中国を総合的に理解することを目的とする。現代中国の社会と文化の多様性に加え、日本を中心とする東アジアとの繋がりにも注目し、多角的視点から思考を深める。

具体的には、社会の各側面や文化的現象を取り上げ、その背景となる歴史的・政治的・経済的要因や日中関係について解説する。

個別のトピックを通じて、固定的なイメージにとらわれない、等身大の中国社会を理解することを目指す。

【到達目標】

- ①現代中国社会に関する基礎知識を習得する。
- ②現代中国社会に関する重要な事柄について、多角的視点から根拠に基づいて考察し、自らの見解を論理的に説明できるようになる。
- ③等身大の中国を知り、中国に関するマスメディアの情報を客観的かつ多角的に捉える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、歴史・政治・民族・経済・社会構造・教育・環境・文化・日本と中国の関係といった観点から、現代中国社会の現状と変化を概観する。

一般民衆の暮らしに焦点を当て、社会の変容や価値観の変化について考察を行う。

質問の受付および課題へのフィードバックは、授業内のほか、学習支援システムおよびメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	「現代中国社会」のアウトラインを説明し、行政区分・地域区分とその特徴、多民族の状況といった予備知識を紹介する。併せて授業の進め方、シラバスの使い方、成績評価について説明する。
第2回	歴史：中華人民共和国の成立とその後の歩み	現代中国社会を理解するために、まず「中国とは何か」という問いを出発点として、その歴史的背景に触れた上で、中華人民共和国成立の経緯、及び成立後から現在に至るまでの歴史を概観する。

第3回	政治：多民族国家—中国	多民族国家である中国社会を理解するために、国家統合について知っておく必要がある。「民族識別」工作や「民族区域自治」制度、「優遇政策」に焦点をあて、それらが民族間関係にどのように関わってきたのかを考察する。
第4回	民族①：マジョリティの漢族について—少数民族社会との関わりから	現代中国社会を理解するには、まず中国総人口の九割以上を占める漢族を理解することが不可欠である。中国社会における漢族とは何かについて整理したうえで、漢族のサブグループとされる客家人を事例として取り上げ、少数民族社会との関わりについても検討する。
第5回	民族②：漢族の伝統文化と多様な地域性	漢族の主な伝統文化について、衣・食・住の側面から整理し、そこにみられる多様な地域性について講義する。
第6回	経済：改革開放と経済格差	中国経済の大転換である改革開放政策の実施を概観し、それに伴って生じた内陸部・沿岸部、都市部・農村部の経済格差の拡大について講義する。併せて三農問題、出稼ぎ者、留守児童、ポイント制度といった具体的な事例に焦点を当て、社会の構造的課題について考察する。
第7回	社会構造：拡大する「中間層」の実態	経済発展と共に形成されてきた「中間層」（中等収入者）の実態、そして、彼らは海外との接触などにより、人権意識をはじめとする社会的政治的意識の変化について講義する。
第8回	教育：超学歴社会と教育格差	現代中国は熾烈な学歴社会となっており、教育をめぐる格差が拡大しつつある。進学をめぐる競争、若者の就職難といった問題を通じて、その背景と実態について考察する。
第9回	環境：南・北の違いと「南水北調」	中国の多様な風土や地域差に着目し、それらが社会に与えた影響について考える。経済発展と共に喫緊の課題となっている「水資源問題」について、「南水北調」プロジェクトを事例として取り上げ、考察する。
第10回	文化①：「80後」・「90後」・「00後」の「新人類」文化から見る日中交流	1980年代、1990年代、2000年代に生まれの、いわゆる「新人類」と呼ばれる世代の文化に注目する。特にアニメ・コスプレなどのサブカルチャーを通して、中国と日本の間で生まれている新たな文化交流のあり方について講義する。
第11回	文化②：中国の言語文化	漢語から少数民族の言語に至るまで中国における多様な言語文化を概観する。併せて、現代の世相や社会状況を反映する「新語」などにも注目し、言語と社会の関係について講義する。

第12回	日本と中国①： 近代の日中関係	近代における日中関係の形成過程を、西洋との接触という国際環境の変化を背景に考察する。「開国」した日本が「和魂洋才」を掲げ、和製漢語を通じて西洋文化を吸収していった。「開港」した中国は「中体西用」を基本方針とし、西洋文化との距離を保とうとした。こうした対応の違いのもとで、日本と中国の間に様々な対立が生じる一方、多くの協力関係も形成された。中国社会の近代化における日本の影響について考察する。
第13回	日本と中国②： 戦争から国交正常化・日中協力へ	日中戦争を経て、日中関係が長く凍結された後、1972年に国交正常化が実現した。その後、1978年から中国では経済の大転換となる「改革開放」政策が実施され、日本はその過程において重要な役割を果たした。戦争の記憶を含め、この時期の日中関係が中国社会にどのような影響を与えたのかについて考察する。
第14回	日本と中国③： 戦略的互惠関係	改革開放を経て、世界第二の経済大国に成長した中国は、日本の最大貿易相手国となっている。また日本も中国にとって重要な貿易相手国である。両国は様々な問題を抱えながらも、戦略的互惠関係の構築を模索してきた。民間交流に注目し、現在の日中関係とそれが中国社会にどのような影響を与えているのかについて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppiiにアップロードされた講義資料を参照し、シラバスに記載された参考書および各回で提示する追加参考文献の該当箇所を読むことで、授業内容への理解を深める。

受講者は、各回につき事前・事後あわせておおむね2時間を目安に、関連知識の予習および授業内容の振り返りを行い、理解の深化に努める。また疑問点を整理し、まとめることが求められる。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。毎回、事前に講義資料をHoppiiにアップロードする。

【参考書】

中国研究所編『中国年鑑』（2025年版）明石書店、2025年
エズラ・F・ヴォーゲル/益尾知佐子訳『日中関係史—1500年の交流から読むアジアの未来』、2019年

藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
富坂聡『中国の論点』角川oneテーマ21、2014年

毛里和子/園田茂人編『中国問題—キーワードで読み解く』東京大学出版社、2012年

家近亮子・唐亮・松田康博編著『5分野から読み解く現代中国—歴史・政治・経済・社会・外交』（改訂版）晃洋書店、2009年

興梠一郎『中国激流—13億のゆくえ』岩波書店、2005年

また授業時に各テーマについての参考文献を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①現代中国社会に関する基礎知識が習得できているか。

②授業で扱った重要な現代中国社会の問題や文化事象を理解し、根拠に基づき論理的に説明できているか。

以上の2点に着目し、期末レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、受講態度（授業中の発言・質問）（20%）を用いてその到達度を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるため、音声・映像などのコンテンツを適宜活用する。私語等について注意を行い、受講者が授業に集中しやすい学習環境の維持に努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces the changing values and lifestyle of Chinese people from viewpoints of politics, nation, economy, social structure, education, environment, culture, Japan-China relations to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to comprehensively understand the real China.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, participants will be expected to read the relevant chapter(s) from the text and write the reaction paper. Your required study time is two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: term-end report (60%), reaction paper (20%), and in-class contribution (20%).

ARSe200GA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200）

中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）

張 勝蘭

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国文明は、多様な風土のもとで、独自の歴史と文化を築いてきた様々な民族が、交流・衝突・融合を繰り返すなかで形成されてきた。
1949年中華人民共和国成立後、かつて400以上あるとされたエスニック・グループは、国家制度である「民族識別」によって、55少数民族として再編され、人口の90％以上を占める漢族とあわせて新たな「中華民族」という枠組みが提唱された。広大な領土に内包している複雑な民族間のせめぎ合いは、現代中国社会が抱える重要な課題である。
本講義の目的は、歴史および伝統文化の側面から中国における民族の多様性を理解するとともに、20世紀以降、国家統合を進める中で少数民族社会に生じた変化を検討することである。そのうえで、中国における国家と民族集団との関係、民族間関係、ならびに民族意識の現状について考察し、多民族社会としての中国を多角的に理解する力を養う。

【到達目標】

「民族」をキーワードとして中国社会を読み解く力を養う。特に、民族の多様性と国家統合との関係およびその現状について理解を深め、異文化理解・多文化共生の視座から中国社会を捉えることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、絶対多数を占める漢族をはじめ、西南部において内部に多様なサブグループを抱えるミャオ族、ならびに比較的高度な同一性を有する東北部のモンゴル族などを取り上げ、地域ごとの代表的な少数民族の歴史、社会、伝統文化について講義する。
これらの事例を通じて、辺境地域の人々がどのようにして独自の存在を維持してきたのかを検討し、政治的統一性と文化的多様性との関係に着目しながら、異文化理解および多文化共生のあり方について考察する。
質問の受付および課題へのフィードバックは、授業内およびHoppiiを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義「多民族社会中国」の全体像を説明するとともに、中国における多民族の状況を概観する。併せて、授業の進め方、シラバスの使い方、成績評価について説明する。
第2回	中国の民族識別と民族政策	中国の民族問題を理解するために、中国における「民族識別」工作とは何かを確認したうえで、現在の民族政策の内容について整理する。
第3回	マジョリティー：漢族①	中国全人口の9割以上を占めるマジョリティーである漢族について概観する。特に、「漢人」という名称の由来とその拡大過程、ならびに「漢族」という民族カテゴリーが形成されていくプロセスを考察する。
第4回	マジョリティー：漢族②	漢族の伝統文化について、秦漢時代にまで遡る「歳時風俗」を手がかりに講義する。そのうえで、地域差や生活様式の違いに着目し、現代における漢族の多様性を検討する。
第5回	西南地域の少数民族：ミャオ族①	中国南部を代表する少数民族であるミャオ族について、その歴史と伝統文化を概観する。あわせて、進化論・人種論に基づく「ミャオ族先住説」をめぐる議論を紹介し、近代国民国家の形成過程におけるミャオ族の位置づけについて考察する。

第6回	西南地域の少数民族：ミャオ族②	「着る史書」とも称されるミャオ族の伝統衣装に着目し、その歴史の変遷について講義する。あわせて、中国国内およびユネスコによる評価を踏まえ、衣装文化とミャオ族アイデンティティとの関係について考察する。ミャオ族の伝統文化の「核心」とされる祖先祭祀を取り上げ、その代表的な形態を紹介する。そのうえで、中国国内でのナショナリズムの高まりや観光化、グローバル化の進展に伴い、祖先祭祀が新たな民族表象として展開していく状況を検討する。
第7回	西南地域の少数民族：ミャオ族③	ミャオ族の祖先祭祀の中でも特徴的な「敲牛祭祖」を事例として取り上げ、サブグループの次元から少数民族地域社会の内部多様性を具体的に検討する。
第8回	西南地域の少数民族：ミャオ族④	西南地域に居住する少数民族の多くが固有の文字を持たなかったのに対し、イ族（彝族）は独自の文字体系と社会制度を有してきた民族である。イ族の伝統文化を概観したうえで、現代中国におけるイ族の言語・文字教育の現状について考察する。
第9回	西南地域の少数民族：イ族	仏教王国チベットの歴史とチベット族について概観したうえで、歴史的に見た中国とチベットの関係を整理し、現代におけるチベット問題について考察する。
第10回	西南地域の少数民族：チベット族	シルクロードの民として知られるウイグル族は、新疆ウイグル自治区に居住している。本回では、清朝期・民国期・中華人民共和国建国後における「新疆」の位置づけの変遷を整理したうえで、ウイグル族の伝統文化と現状について考察する。
第11回	西北地域の少数民族：ウイグル族	漢語を母語とする中国のムスリムである回族について紹介する。中国の少数民族の中で第三位の人口規模を有する回族は、その統一的な指標は身分証明書に「回族」と記載される点に限られるとも指摘されている。本回では、こうした特徴を踏まえ、回族の民族アイデンティティの形成過程を中心に考察する。
第12回	西北地域の少数民族：回族	「内モンゴル」と「外モンゴル」の歴史的展開を手がかりに、中国におけるモンゴル族の形成過程を理解し、その伝統と現状について講義する。
第13回	東北地域の民族：モンゴル族	中国最後の統一王朝である清朝を建国した満族を取り上げ、その歴史的
第14回	東北地域の少数民族：満族	形成過程、伝統文化、および現代における位置づけについて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppiiにアップロードされた講義資料を参照し、シラバスに記載された参考書および各回で提示する追加参考文献の該当箇所を読むことで、授業内容への理解を深める。
受講者は、各回につき事前・事後あわせておおむね2時間を目安に、関連知識の予習および授業内容の振り返りを行い、理解の深化に努める。また疑問点を整理し、まとめることが求められる。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。毎回、事前に講義資料をHoppiiにアップロードする。適宜プリントも配布する。

【参考書】

費孝通編著（西澤治彦・菊池秀明・塚田誠之・吉開将人・曾士才共訳）『中華民族の多元一体構造』風響社、2008年
未成道男・曾士才編『世界の先住民族—ファースト・ピープルの現在 01 東アジア』明石書店、2005年
毛里和子『現代中国の構造変動7 中華世界—アイデンティティの再編』東京大学出版会2001年
毛里和子『周縁からの中国—民族問題と国家』東京大学出版会、1998年
可児弘明・国分良成・鈴木正崇・関根政美編『民族で読む中国』朝日新聞社、1998年
松村一弥『中国の少数民族—その歴史と文化および現況』毎日新聞社、1983年
また授業時に各テーマについての参考文献を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①中国の多民族社会に関する基礎知識が習得できているか。
②授業で扱った代表的な民族を通して、中国における国家と民族集団との関係、民族間関係、ならびに民族意識の現状を理解し、根拠に基づき論理的に説明できているか。
以上の2点に着目し、期末レポート（60％）、リアクションペーパー（20％）、受講態度（授業中の発言・質問）（20％）を用いてその到達度を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるため、音声・映像などのコンテンツを適宜活用する。私語等について注意を行い、受講者が授業に集中しやすい学習環境の維持に努める。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces the ethnic diversity in China, especially focus on history, traditional culture and the changing values and lifestyle of them under the national integration of China to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to obtain basic knowledge about ethnic minorities in China, and also to be able to evaluate the relationship between ethnic diversity and national integration in China.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, participants will be expected to read the relevant chapter(s) from the text and write the reaction paper. Your required study time is two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: term-end report (60 %), reaction paper (20 %) , and in-class contribution (20 %) .

HIS200GA（史学 / History 200）

中国の文化III（日中文化交流史）

鈴木 靖

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

二千年以上に及ぶ交流の中で、中国の人々は日本にどのようなイメージを持ってきたのか。各種文献や映像資料を通じて、古代から現在までの対日イメージの変遷を概観し、そこから何を学ぶことができるか考える。

【到達目標】

中国の人々の対日イメージがどのように変遷してきたのか、また、いかなる要因によって変化したかを歴史的に理解することにより、この隣国の人々とどのようにつきあっていくべきかについて、適切な判断ができる力を身につける。

By the end of the course, students will be able to:
Understand the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are perceived by China and Taiwan from a historical perspective.
Take appropriate actions to build good relations with both China and Taiwan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はスライドを使い、映像資料などを併用して行う。
課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本人とは？	人類史の視点から“人種”、“民族”、そして“日本人”とは何かを考える 【キーワード】 ・分子人類学 ・日本人三重構造説
第2回	（1世紀～6世紀）日本語文化圏“倭”の登場	縄文文化や弥生文化、古墳文化を築いた人々は、遺伝的にはアジア各地にルーツを持つ多様な集団であった。彼らはやがて日本語を共通言語とする独自の文化圏「倭」を形成し、中国大陸や朝鮮半島との交流を開始する。 【キーワード】 ・漢委奴国王金印 ・稲荷山古墳出土金錯銘鉄剣 ・江田船山古墳出土銀象嵌銘大刀 ・南朝梁蕭繹「職貢図」
第3回	（6世紀末）朝貢から外交へ	東海に浮かぶ一朝貢国に過ぎなかった倭は、隋がおよそ二百七十年ぶりに中国全土を統一したのを機に、使節を送り、対等な外交関係を求める。 【キーワード】 ・遣隋使 ・渡来人
第4回	（7世紀～9世紀）遣唐使の時代	日本は中国の先進的な制度や文化を学ぶため、多くの優れた学生や学僧を中国に派遣する。彼らの勤勉で礼儀正しい行動は、中国の対日イメージを大きく変えていく。 【キーワード】 ・遣唐使 ・阿倍仲麻呂 ・鑑真

第5回	（9世紀～13世紀）民間交流の時代へ	唐の衰退により遣唐使の派遣を停止した日本は、やがて独自の文化や技術を生み出していく。民間交流を通じて中国に輸出された日本の製品は、中国で高い評価を受ける。 【キーワード】 ・菅原道真 ・仮名文字 ・扇子
第6回	（13世紀～14世紀）元寇	唐王朝の滅亡後、東アジアは征服王朝の時代を迎える。モンゴルがユーラシア大陸を席捲する中、日本も白村江の戦い以来の大規模な対外戦争＝元寇に襲われる。 【キーワード】 ・征服王朝
第7回	（15世紀～16世紀）倭寇と遣明使	南北朝の争乱に始まった室町時代、日本を拠点する武装集団が朝鮮半島や中国沿海部を襲うようになる。東アジアの人々の対日イメージを180度変える最初の原因となった倭寇である。モンゴルを駆逐して漢民族王朝を復興した明は、倭寇対策のため民間貿易を禁じ、朝貢貿易への一本化を行う。 【キーワード】 ・「倭寇図巻」（東大史料編纂所所蔵） ・「明人抗倭図巻」（中国国家博物館所蔵）
第8回	（16世紀末）豊臣秀吉の朝鮮出兵	朝鮮半島や中国沿海部を襲った倭寇に続き、1592年から前後7年に及んだ豊臣秀吉の朝鮮出兵は、東アジアの人々に日本に対する負の記憶を刻み込む。朝鮮出兵の際、日本へ拉致された被虜人（捕虜）を通じて、朱子学が伝えられると、江戸幕府はこれを武士の正学と定め、平和で秩序ある社会を再構築した。また被虜人となった朝鮮の陶工たちは日本に磁器の生産技術を伝えた。
第9回	（20世紀初）魯迅と藤野先生	近代中国を代表する作家・魯迅が日本留学時代の恩師の思い出を書いた小説「藤野先生」。中国ではいまでも中学校用教科書に収録され、毎年1600万以上の中学生がこの作品を通じて日中友好の大切さを学んでいる。 【キーワード】 ・藤野厳九郎 ・魯迅
第10回	（1920～30年代）霧社事件	日清戦争の勝利により最初の植民地・台湾を獲得した日本。漢民族の抵抗運動を鎮圧し、植民地経営も軌道に乗ったと思われた1930年、山地に住む先住民が突如叛旗を翻した。「霧社事件」と呼ばれるこの戦いは、テレビドラマや映画を通じて、いまでも台湾の人々に語りつがれている。 【キーワード】 ・ドラマ「風中緋桜」 ・映画「セデック・バレ」
第11回	（1930～40年代）李香蘭が見た戦時下のポップカルチャー	1931年、日本軍現地部隊の謀略による満鉄爆破事件（柳条湖事件）を発端として、日中両国は十四年あまりにおよぶ戦争へと突入する。そうした中、旧満州（中国東北部）に生まれ、銀幕とステージを通じて、日中両国民から愛されたスターがいた。山口淑子、芸名・李香蘭である。彼女の眼を通して見た戦時下の日中関係について考える。 【キーワード】 ・李香蘭 ・平頂山事件 ・満州映画協会と中華電影
第12回	留用された日本人たち	終戦後、中国にいた日本の軍人や医療関係者、技術者の多くが、新中国建設のために「留用」された。留用された人々の証言を通じて、いまでも中国で高く評価される日本人の事績について考える。 【キーワード】 ・「留用」された日本人

- 第13回 (1952～72) 日中国交正常化と「二分論」 1937年から終戦まで8年に及んだ日中戦争は、戦場となった中国の人々の心に大きな傷を残した。一方、戦後の東西冷戦の中で、日本との早期講和を求めた中国政府は、「二分論」によって国民の理解を求め、72年の国交正常化を実現する。しかし、この「二分論」に対する日中双方の認識の違いが、やがて両国民の間に新たな対立を生じさせることになる。

【キーワード】

- ・田中角栄
- ・周恩来

- 第14回 (1972～現在) 今日の日中関係 日中両国の関係にいまも影を落とす歴史問題、領土問題、台湾問題という三つを取り上げ、その原因と解決方法について考える。

【キーワード】

- ・靖国問題
- ・尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題
- ・台湾有事

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の前に教材用ページの資料で事前学習を行う。本授業の準備学習時間は4時間を標準とする。

Students will be required to have completed the given, relevant assignments before each class. Study and class preparation will amount to at least four hours per class.

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しないが、事前学習の資料として、下記のページに資料を掲載しているので必ず参照すること。

<https://hosei-ch.xsrv.jp/wp>

【参考書】

- ①王勇『中国史のなかの日本像』（農山漁村文化協会、2000年）
- ②王曉秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000年）
- ③柳本通彦『台湾・霧社に生きる』（現代書館、1996年）
- ④服部龍二『日中国交正常化 - 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』（中公新書、2011年）
- ⑤孫崎亨『日本の国境問題』（ちくま新書、2012年）

【成績評価の方法と基準】

成績は以下の2つの基準をもとに評価する。

- ①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパーの内容（80％）

- ②期末レポート（20％）

これらの成績をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

Final grade will be calculated according to the following process:

1. Reaction papers(80%)
2. Term-end report (20%)

【学生の意見等からの気づき】

授業の復習に必要なとの要望があったため、授業用スライドのPDFを配布することにした。

【学生が準備すべき機器他】

授業用サイトを通じて資料の配布を行う。サイトへのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【Outline (in English)】

How does Japan's self image differ from the ideas and opinions held by the people of China and Taiwan throughout history?

What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?

Understanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by China and Taiwan through the use of text and visual materials.

By the end of the course, students will be able to:

Understand the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are perceived by China and Taiwan from a historical perspective.

Take appropriate actions to build good relations with both China and Taiwan.

Students will be required to have completed the given, relevant assignments before each class. Study and class preparation will amount to at least four hours per class.

Final grade will be calculated according to the following process:

1. Reaction papers(80%)
2. Term-end report (20%)

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
(2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。
(3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・本授業は、授業方法分類上は「講義」であるが、ディスカッションを行う機会や練習問題の解答を学生が発表する機会も適宜設け、講義形式と演習形式を組み合わせた形で行う予定である。
・練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現 2	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把”構文と“被”構文	「“把”構文（処置文）」、「“被”構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。

12	その他の重要表現・構文 1	「存現文」、「“是…的”構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
13	その他の重要表現・構文 2	「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
14	まとめ	授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】
・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店
・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017『中国語ははじめの一步 [新版]』(ちくま学芸文庫) 東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店
・劉月華 他 2019『実用現代漢語語法 (第三版)』北京：商務印書館
・朱德熙(著)、杉村博文・木村英樹(訳) 1995『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説一』, 東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】
・期末レポートを50%、平常点（練習問題への取り組み状況等）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業では期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
様々な背景を持つ受講生（SA中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】
・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
【Outline】
In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To review grammatical items learned in Chinese course for beginners.
(2) To learn advanced grammatical items and systematically understand Chinese grammar.
(3) To be able to properly understand and express difficult Chinese sentences.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・After every class, students are required to review the materials.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
・Grading will be decided based on term-end report (50%) and in-class contribution (50%).
・No final exam will be held in this course.

LANc300GA（中国語 / Chinese language education 300）		
中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）		
渡辺 昭太		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 初級中国語の学習を終えて、中級段階に進んだ際に、難易度の高い中国語の意味を取り違えたり、中国語作文において間違った表現を使った経験がある人は多いだろう。また、中国人日本語学習者の日本語に触れた時、その日本語が不自然だと思いがちでもその理由をうまく説明できないという経験をした人もいるかもしれない。本授業では、このような誤用例にスポットをあて、なぜそのような誤用が起きるのか、どのような表現にすれば適切な中国語／日本語表現になるのかを的確に分析できる力を養う。また、日中対照研究的視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。		
【到達目標】 本授業の到達目標は以下の通りである。 (1) 中国語／日本語学習者の誤用例の検討を通じて、その原因を自分なりに説明できる。 (2) 授業資料に示された事柄の考察等を通じて、日中両言語の文法的諸特徴を適切に理解する。 (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 ・本授業は、授業方法分類上は「講義」であるが、ディスカッションを行う機会や練習問題の解答を学生が発表する機会も適宜設け、講義形式と演習形式を組み合わせた形で行う予定である。 ・練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	動詞関連表現 1	中国語／日本語のアスペクト表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
3	動詞関連表現 2	中国語／日本語の助動詞、副詞的表現、否定表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
4	形容詞関連表現 1	中国語／日本語の形容詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
5	形容詞関連表現 2	中国語／日本語の比較表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
6	名詞関連表現 1	中国語／日本語の名詞、数量詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
7	名詞関連表現 2	中国語／日本語の連体修飾に関する誤用例の分析と考察を行う。
8	補語 1	中国語の結果補語、方向補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
9	補語 2	中国語の可能補語、数量補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
10	様々な構文 1	中国語の把構文、受身文、使役文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
11	様々な構文 2	中国語の存現文、是…的構文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
12	日本語と中国語の表現論的特徴 1	日本語と中国語の表現論的相違（相対的表現と絶対的表現など）に関して考察する。
13	日本語と中国語の表現論的特徴 2	日本語と中国語の表現論的相違（言語と文化など）に関して考察する。
14	まとめ	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。 ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】 特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。		
【参考書】 ・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店 ・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社 ・木村英樹 2017『中国語ははじめの一步 [新版]』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房 ・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社 ・守屋宏則 他 2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店 ・寺村秀夫 1982, 1984, 1991『日本語のシンタクスと意味Ⅰ～Ⅲ』東京：くろしお出版 ・寺村秀夫 1992, 1993『寺村秀夫論文集Ⅰ, Ⅱ』東京：くろしお出版 ・劉月華 他 2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館 ・朱德熙(著), 杉村博文・木村英樹(訳) 1995『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』, 東京：白帝社		
【成績評価の方法と基準】 ・期末レポートを50%、平常点（誤用例分析への取り組み状況や考察内容、発表・質疑応答内容など）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。 ・本授業は期末試験は実施しない。		
【学生の意見等からの気づき】 様々な背景を持つ受講生（SA中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。		
【学生が準備すべき機器他】 PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。		
【その他の重要事項】 ・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。 ・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。 ・本授業は、誤用例の分析を手がかりに、日中両言語の諸特徴を考察する授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。 ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。		
【Outline (in English)】 【Outline】 In this course, we will acquire the basic skills of contrastive study of Chinese and Japanese. Especially, by analyzing various misuses of Japanese and Chinese, we will try to explain why learners make these mistakes and consider how to correct them. 【Goal】 The goals of this course are as follows: (1) To be able to explain the cause in your own way by examining examples of misuses by Chinese / Japanese learners. (2) To understand the grammatical features of both Japanese and Chinese languages. (3) To be able to properly understand and express difficult Chinese sentences. 【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】 ・After every class, students are required to review the materials. ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading criteria】 ・Grading will be decided based on term-end report (50%) and in-class contribution (50%). ・No final exam will be held in this course.		

LIT300GA（文学 / Literature 300）

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

横打 理奈

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、中国の古典を幅広く紹介します。代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『孟子』『史記』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら中国の古典は古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。また、『唐詩』などの文学についても幾つか取り上げ、現在の我々がいかに中国の古典との接点を持っているのかを理解できるようになります。

【到達目標】

＊中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯

＊中国古典を現代語訳で読むときの注意点

＊中国古典の背景となる当時の社会環境

以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回アクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『孟子』『史記』の全体像を説明します。また唐詩など文学についても説明します。
2	『論語』と孔子、その学び	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
3	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
4	『易経』の世界観と実践	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。またテキストを使って、実際に易占いを行います。
5	『孟子』を読み、内容を 知る	孟子の中にあるよく知られている故事成語や熟語なども漢文から学びます。
6	『孟子』と日本の関わり について	日本の古典にあらわれる『孟子』を知り、どのように日本の文化や思想と関わりがあたったかを学びます。
7	『史記』を読み、内容を 知る	中国の正史の最初に置かれる歴史書を学びます。また、日本でどのように読まれていたのかを説明します。
8	『史記』の世界	膨大な『史記』の中から、幾つか取り上げて実際に読み、そこに書かれていることを学びます。
9	唐詩について（1）歴史 を知る	唐詩が書かれた時代について、説明します。また、中国の韻文の世界も簡単に説明します。
10	唐詩について（2）作品 を読む（初唐・盛唐）	日本人によく知られている作品、あるいはその時代の特徴がよく現れている作品を紹介します。
11	唐詩について（3）作品 を読む（中唐・晩唐）	日本人によく知られている作品、あるいはその時代の特徴がよく現れている作品を紹介します。

12	その他の文学（1）志怪 小説と伝奇小説	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	その他の文学（2）四大 奇書など	『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』などについて簡単に説明します。
14	試験とまとめ	論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）
『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）
『孟子』（佐野大介、角川ソフィア文庫、2015）
『史記』（福島 正、角川ソフィア文庫、2010）
『老子・莊子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）
『唐詩選』（深澤一幸、角川ソフィア文庫、2010）
※初回の授業で説明します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）50％、期末試験50％で成績を評価します。
なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline

This course provides a wide-ranging introduction to the Chinese classics, focusing on the Analects, the Book of Changes, the Mencius, and the Records of the Grand Historian.

We will also cover some literary works such as Tang poetry, allowing you to understand how we today have a connection with Chinese classics.

Learning Objectives

To be able to deeply understand modern Japanese society by learning the basic knowledge of Chinese philosophy.

Learning activities outside of classroom

Read the parts of the textbooks that were not mentioned in the lesson to supplement the understanding of the lesson contents. The standard time for preparation and review outside of class is two hours each.

Grading Criteria/Policy

Grades will be evaluated with 50% reaction paper (submitted each time at the end of class) and 50% final exam.

If you are absent five times or more, you will not be eligible to take the final exam. In addition, if you are late for class twice, it will be counted as one absence.

LIT300GA (文学 / Literature 300)

中国の文化Ⅷ (現代文学)

桑島 道夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1949年「新中国」建国後から現在までの文学を振り返ります (数篇、映画も取り上げます)。中国大陸に限らず、中国語圏である香港や台湾の文学を含みます。

【到達目標】

中国現代文学とその時代的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国現代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。

授業でコメントを求めることがあります。

授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります (毎回というわけではありません)。次回の授業の初めにコメントペーパーをいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

あるいは、事前に課題 (作品の読み込み) に対してコメントペーパーを書いてもらい、授業の解説の際にそのなかからいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに――中華人民共和国建国後の政治と文学	胡風批判、反右派闘争ほか
2	文化大革命	白毛女の表象――民間伝承、集団創作歌舞劇、映画、そして革命現代京劇へ
3	みずからの言葉を取り戻す文学者たち	1970年代の傷痕文学から新時期文学へ
4	中国の不条理の表現――モダニズムの復活	王蒙「胡蝶」、高行建「ある男の聖書」、残雪「黄泥街」ほか
5	土着の習俗や民間伝承を取り込む情念――ルーツ文学派	莫言「赤い高粱」
6	もの言う農民作家	閻連科「人民に奉仕する」「丁庄の夢」「四書」ほか
7	中国の前衛作家群像――先鋒派	余華、蘇童、格非ほか
8	女性が自己を語る意味――女性作家の作品に表現された内面	鉄凝「大浴女」
1		

9	女性が自己を語る意味――女性作家の作品に表現された内面	林白「たったひとりの戦争」、陳染「プライベートライフ」
2		
10	女性が自己を語る意味――女性作家の作品に表現された内面	衛慧「上海ベイベー」、棉棉「上海キャンディ」、アニー・ 베이「さよなら、ピピアン」「蓮の花」
3		
11	「80後」(80年代生まれ)の青春小説	韓寒「三重の門」、郭敬明「悲しみは逆流して河になる」
12	香港文学と中国映画	李碧華「ルージュ」「さらばわが愛――霸王別姫」ほか
13	台湾文学	李昂「夫殺し」ほか
14	おわりに	中国現代文学の特殊性と普遍性

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして (調べて) もらうことがあります。併せて2時間程度でしょうか。

【テキスト (教科書)】

随時配布。

【参考書】

『原典で読む：図説中国20世紀文学』(中国文芸研究会、白帝社、1995年)、『中国語圏文学史』(藤井省三著、東京大学出版会、2011年)、『規範』からの離脱――中国同時代作家たちの探索』(尾崎文昭編、山川出版社、2006年)ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：60%

コメントペーパー・平常点：40%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上に達した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

中国現代文学・文化のおもしろさをまだまだ伝えきれていないのでは、と自問する一方、皆さんの主体的な参加によってそれは「発見」されるものだとも感じます。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course introduces modern Chinese literature through an examination of social developments in China since the early twentieth century.

Learning Objectives

The goal of this course is to help students understand modern Chinese society and culture.

Learning Activities Outside the Classroom

Before each class meeting, students are expected to read the assigned chapter(s) from the text. Students should plan to spend at least two hours preparing for each class session.

Grading Criteria / Policies

The final grade for this course will be determined as follows:

・ Term-end examination: 60%

・ Short reports and in-class participation: 40%

HIS200GA（史学 / History 200）

朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）

神谷 丹路

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮半島は、日本の隣国、隣人であり、地理的にも歴史的にも、日本と密接な関係のある地域です。この授業では、朝鮮半島の文化や歴史、社会についての基礎事項を学びます。近年、朝鮮半島は、アジアへ、また世界への影響力を増しています。長い歴史の中で、朝鮮半島は、中国の影響を受けつつも、独自の文化・歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきました。朝鮮半島についての基本的な知識を身につけ、あるべきパートナーシップとは何かを探索することを目的とします。

【到達目標】

朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって、日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します。さらに興味のある分野について、自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的な流れは、以下の通りである。
朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し、基礎的な知識を確認する。その上で、朝鮮半島と日本とのあいだの文化的相互作用、共通点などに着目するとともに、一つの事象であっても、日本と朝鮮半島では、とらえかたが相違することもあり、それらを俯瞰的な視点から学ぶ。視覚資料を多く取り入れた授業資料を用い、幅広い、朝鮮半島の文化、歴史、社会の知識を吸収する。小テストを随時実施し、間違いの多かった問題などについては、次の授業時に解説する。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の2つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、綱渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百濟・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮（王宮の再建から王妃虐殺事件まで） ・徳寿宮（大韓帝国の近代） ・昌徳宮（最後の国王、植物園、動物園）

7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労働動員
8	解放から1950年代	・38度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960年代、70年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成
10	1980年代、90年代、2000年代	・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明（歴史の再評価）
11	朝鮮沿岸漁業の百年	・朝鮮の漁業 ・20世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女
12	歴史の和解とは	・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
13	世界のコリアン・韓国の外国人	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

朝鮮語の知識は必要ありません。朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち、関連する本を積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業資料を配布します。

【参考書】

参考文献はその都度指示します。
『新訂増補 韓国朝鮮を知る事典』（平凡社）2014年
『日韓でいっしょに読みたい韓国史』（明石書店）2014年
『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編下』（青木書店）2006年
『学び、つながる日本と韓国の近現代史』（明石書店）2013年

【成績評価の方法と基準】

授業の理解度を確認するために、随時、課題、小テストを行う。学期末には、学習のまとめとして期末試験を行う。課題および小テスト（30%）、期末試験（70%）で評価する方針である。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

S A韓国2年生はかならず受講してください。他学部の学生の受講も歓迎します。なお順序と内容に若干の変更がある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, the students will learn the basics of culture, history, and society on the Korean Peninsula.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to help to acquire a historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%, Assignments & little exams : 30%.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）		
アジアの伝統芸能		
鈴木 靖		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
中国には「戯曲」と総称される300種あまりの伝統歌劇と「曲藝」と総称される400種ほどの語り物がある。こうした芸能を通じて、中国庶民の文芸世界を垣間見ようというのが本講義の目的である。中国の庶民が、どのような物語に笑い、怒り、涙したのかを、彼らの一番身近にあったメディアを通じて体験していく。		
【到達目標】		
この授業を通じて、中国の伝統芸能の全体像とその代表的作品、演出・技法などを体系的に学び、そうした伝統文化が新たな文化の創出にどのような役割を果たすかを理解することができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
授業は、講義とリアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせて行う。講義では、できるだけ多くの映像資料を使い、中国の伝統芸能とそこから生まれた音楽や映画などの世界を体感していきたい。		
課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通じて行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	はじめに～講義の目的と内容について	中国の伝統芸能を学ぶ目的と意義について考える
第2回	中国の伝統芸能とは	中国の伝統芸能にはどのようなものがあるのかを概観する
第3回	伝統芸能の美～川劇「白蛇伝」を例に	魯迅が祖母から聞いたという杭州の雷峰塔にまつわる伝説を紹介した後、四川省の地方劇である川劇「白蛇伝」の第一幕から第二幕までを鑑賞しながら、雲牌という表現技巧を例に、「有声必歌、無動不舞」（声あれば必ず歌い、舞わざる動きなし）といわれる中国伝統演劇の特色について学ぶ
第4回	川劇「白蛇伝」の世界（一）	川劇「白蛇伝」の第三場から第五場前半までを鑑賞しながら、中国伝統演劇の表現技法である翎子功、船槳、臉譜、水袖功について学ぶ
第5回	川劇「白蛇伝」の世界（二）	川劇「白蛇伝」の第五場後半から第八場までを鑑賞しながら、中国伝統演劇の表現技法である假嗓、水袖功、水旗、毯子功を学んだ後、川劇独自の特殊技法である開慧眼、変臉について学ぶ
第6回	白蛇故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「白蛇伝」の歴史の変遷について学ぶ
第7回	現代によみがえる伝統芸能～映画「舞台姐妹」から見た中国伝統演劇の世界	中国の伝統演劇の役者たちはどのような暮らしをしていたのか。越劇の女優たちを描いた映画「舞台姐妹」を通じて、役者たちの近代への歩みを学ぶ
第8回	現代によみがえる伝統芸能～越劇から西洋音楽へ	越劇と西洋音楽を融合させ、梁山伯と祝英台の伝説を音楽によって克明に描き出したバイオリン協奏曲「梁祝」と、その誕生の背景についての学ぶ
第9回	現代によみがえる伝統芸能～映画「梁祝 Butterfly Lovers」を例に（一）	「梁祝」故事の映画化の歴史を学ぶとともに、バイオリン協奏曲「梁祝」をテーマ曲として、この故事に新たな解釈を加えた映画「梁祝 Butterfly Lovers」の前半を鑑賞する
第10回	現代によみがえる伝統芸能～映画「梁祝 Butterfly Lovers」を例に（二）	映画「梁祝 Butterfly Lovers」の後半を鑑賞するとともに、バレエやド라마など、この故事に取材した新たな作品について学ぶ
第11回	梁祝故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「梁祝故事」の歴史の変遷について学ぶ
第12回	日本の伝統芸能とアジア（一）狂言「附子」「鏡男」を例に	19世紀の末、敦煌莫高窟から発見された敦煌写本『啓顔録』を通して、日本の狂言と中国との関わりについて学ぶ
第13回	日本の伝統芸能とアジア（二）落語・歌舞伎「牡丹灯籠」を例に	（明）瞿佑の怪異小説集『剪灯新話』を淵源とする日本の三大怪談の一つ「牡丹灯籠」を例に、中国の物語が、日本の落語や歌舞伎など古典芸能の演目となった歴史を学ぶ
第14回	伝統芸能を学ぶ意義とは	日米間の演劇交流の架け橋となったフォービアン・パワーズを例に、異文化としての伝統芸能を学ぶ意義について考える
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
授業に使用したスライドは、教材のページにアップしていく。これを参考に復習を行い、講義への理解を深めてほしい。		
【テキスト（教科書）】		
なし		
【参考書】		
・村松一弥『中国の音楽』（勁草書房、1965年）		
【成績評価の方法と基準】		
成績評価は次のような基準で行う。		
①毎回の授業後に提出するリアクションペーパー（80％）		
②期末レポート（20％）		
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】		
隔年開講科目のため、昨年度は未開講。		
【Outline (in English)】		
[Course outline]		
In China, there still remains more than three hundred forms of theatres and around four hundred types of traditional performing arts. This course aims to increase students' knowledge and understanding of Chinese folk literature through appreciating and studying these performing arts.		
[Learning Objectives]		
The goals of this course are to gain a deeper understanding of Chinese traditional performing arts and their original literary works and stagecraft. By the end of the course, students should be also able to understand the contribution of Chinese traditional performing arts as sources of popular culture.		
[Learning activities outside of the classroom]		
Before each class, students will be expected to have read the relevant article(s). Required study/preparation time will be four, or more, hours per class.		
[Grading Criteria/Policies]		
Grading will be decided based on reflection essays (80%) and an end of term report(20%).		

ARsb300GA（地域研究（ロシア・スラブ地域） / Area studies(Russia/Slab) 300）

ロシア・中央アジアの文化

佐藤 大雅

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・「ロシア・中央アジアの文化」は、主にロシア・中央アジア（ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズスタン（キルギス）、タジキスタン、トルクメニスタン）・南コーカサス（アゼルバイジャン、ジョージア（グルジア）、アルメニア）と呼ばれる地域を対象に、旧ソヴィエト連邦構成国の文化を広く取り上げる入門的な授業です。本授業ではソ連時代を中心に、ロシア帝国から現代に至るまでの文化とその背景について学んでいきます。

・ロシアとその「周辺」地域（中央アジア、南コーカサス等）は、歴史・政治・経済的な繋がりを背景に、相互浸透的にその文化を構築してきました。この地域の文化の特殊性は、ある文化的事象をひとつ切り取るだけでは理解することが難しく、常に近隣諸国との関係の中で捉える、広い視座を必要とします。

・この授業では、それぞれの国の政治・経済等の特徴に加え、文学／美術／建築／音楽／映画／思想などの分野における重要な人物や事柄に触れる機会を提供したいと思います。皆さんの興味の引き出しを増やしつつ、文化についての見方や考える力を深めてほしいと思います。

・本講義は、SAロシアの事前学習科目なのでSAエストニア（SAロシア代替）の2年生は必ず履修してください。

【到達目標】

- (1) ロシア・中央アジア・南コーカサスの文化について、その背景と共に理解できるようになる。
- (2) ロシア・中央アジア・南コーカサスの文化の重要な事項について、簡単な説明ができるようになる。
- (3) 文化の考え方・論じ方について知見を深め、批判的思考ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・基本的には講義形式で授業を行います。加えて、適宜学生との議論や、グループディスカッションの時間を設けることもあります。

・授業毎にコメントシートを作成・提出してもらいます（成績評価の要件）。

・前回授業時のコメントシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法についてのガイダンスを行う。
第2回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：①ロシア	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。①では、この授業で扱う地域の総合的な把握を行うと共に、ロシアの現在の概況について学習する。

第3回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：②中央アジア	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。②では、中央アジア5か国（ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズスタン、タジキスタン、トルクメニスタン）の現在の概況について学習する。
第4回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：③南コーカサス	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。③では、南コーカサス3か国（アゼルバイジャン、ジョージア、アルメニア）の現在の概況について学習する。
第5回	国家・民族とは何か	ロシアとその「周辺」地域を理解する上で必要な、国家・民族の概念について学習する。
第6回	帝政期の文化	ロシア帝国における文化の展開を幅広く学習する。
第7回	ロシア革命とソヴィエト政権の樹立：ロシア・アヴァンギャルドの時代	ロシア・アヴァンギャルド芸術の展開について学習する。
第8回	スターリン時代：社会主義リアリズムの誕生	スターリン期のソヴィエト文化について学習する。
第9回	「雪どけ」期の文化①	ソ連における「雪どけ」期の文化：雪どけ期の文化とは何か？
第10回	「雪どけ」期の文化②	「雪どけ」以降の文化の一例として、ソ連でロック／ジャズは可能だったのか？
第11回	「雪どけ」期の文化③	「雪どけ」以降の「公式芸術」の展開を見ることで、社会主義リアリズムがソ連の芸術に与えた影響について学習する。
第12回	ソ連の「非公式芸術」	ソ連の「非公式芸術」を学習することで、ソ連における「公式」と「非公式」の間の対立を考える。
第13回	「民族文化」の現在	後期ソ連～ソ連崩壊後にかけて、それぞれの「民族文化」がどのように展開してきたかについて学習する。
第14回	まとめ・振り返り	本授業で学習した内容を振り返ると共に、文化研究への取り組み方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示した参考文献等をもとに、自分なりに興味を抱いた内容について図書館等での文献調査や読書をしてほしいと思います（この作業は、期末レポートの題材選定や執筆の準備を兼ねています）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。授業で使用する資料は、適宜紙媒体または学習支援システム等で配布します。

【参考書】

参考文献は適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、①平常点（授業への取り組み姿勢、および授業後のコメントシート提出）：50%、②期末レポート：50%、に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出のために学習支援システム等を利用します。なお、授業時のPC持参は不要です。

【その他の重要事項】

生成AIツール（ChatGPT等）に関する注意事項：本授業では、成績評価対象となる期末レポートの作成に使用することは禁止とします。期末レポートの要件については、別途授業内で詳細に指示しますが、正確な引用注の記載や参考文献の表示等、内容の正確性を検証可能な条件を付けて出題することとします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces students to the cultural history of Russia, Central Asia, and the South Caucasus, especially in the Soviet period.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) Have a basic knowledge of the cultural history of Russia, Central Asia, and the South Caucasus.
- (2) Briefly explain the important cultural phenomena of these regions.
- (3) Think critically about cultural phenomena.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Class Participation / Reaction Paper: 50%
- ・ Final Essay: 50%

AR5b300GA (地域研究 (ロシア・スラブ地域) / Area studies(Russia/Slab) 300)

ロシア・東欧の文化

佐藤 千登勢

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方がEU加盟を果たした東欧諸国。しかしそのなかで経済的に「優等生」と位置付けられてきたハンガリーが政治的にはEUにおいて足並みを揃えない傾向にあったり、ポーランドでは宗教的倫理観に根差した法令が制定され、女性の権利が縮小される傾向も見られます。この講義では、ロシアと東欧諸国（おもに、ハンガリー、ポーランド、チェコ）と今では北欧に分類されるエストニアのそれぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を概観すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の民族が共生するとはどういうことかをみなさんに考えてほしいと思います。本講義はSAロシアの事前学習科目であるため、SAエストニア（SAロシア代替）の2年生は必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞したりするのではなく、多数の情報から自身の見解を導き、適切な文章でこれらをまとめる力をコメントシートを通して養うことを目的としています。学生のみなさんは、つねに問題意識をもちながら授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義で扱う「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及）。さらに、北欧に属するエストニアについても講義を行います。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、美術）、社会情勢を視聴覚資料を通して概観しながら東欧諸国とロシア（ソ連）との関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや現代の社会問題を提起していきます。私たちににとってもアクチュアルな問題として考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに見解をまとめてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、翌週の授業でフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと東欧諸国の言語・宗教／日本とポーランドの関係の一面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、ヨーロッパ・ピクニック事件など。

第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉文化について映像をまじえて解説。
第4回	ハンガリー：音楽と映画をめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ペーラらの独特な作風の映画を紹介。地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所について。伝統音楽からショパンの作品を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。アンジェイ・ワイダ作品の一部を鑑賞しながら史実を後世に伝える映画の力について考える。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	ポランスキー、ケシロフスキ、スコリモフスキ、シュモフスカ、パヴリコフスキらの映画を一部鑑賞しつつ、そこに描かれる社会情勢を汲みとる。
第6回	ポーランド：街並みと風土、そして歴史からみる音楽と映画	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『ブラハ！』に描かれるチェコ事件について。
第7回	ポーランド：社会を反映する映画	ブラハ、チェスキー・クルムロフの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第8回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	ブラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリヤ、愛のブラハ』を紹介。
第9回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのバペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第10回	チェコ：文学と映画をめぐって	被抑圧の歴史からe-Estoniaの社会に至るまでの軌跡。
第11回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	首都タリンの旧市街、カドリオルグ宮殿、「歌と踊りの祭典」、世界遺産について。
第12回	エストニアの歴史外観：ソ連・ロシアとの関係	キヴィラフク、クロス、ヘインサーの文学、映画『ノベンバー』（サルネット監督）／アルボ・ペルトの音楽を通してエストニアの精霊信仰や死生観について考える。
第13回	エストニア：街並みと風土	
第14回	エストニア：文学と映画、音楽をめぐって	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品のDVDソフトは大学のAVライブラリコーナー、もしくは国際文化学部資料室にある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。予習・復習を行う時間には毎回4時間以上、期末レポートの作成には、1週間以上かけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50％、コメントシート30％、期末レポート20％に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

静かな環境で講義を進められるよう、配慮しますが、何よりも、皆さんの協力を期待します。

【Outline (in English)】

● Course outline

The course covers the history, culture and art of Russia and Eastern Europe (Hungary, Poland and the Czech Republic), as well as Estonia. In the process, students will understand and appreciate the domination and nationalism of the satellite countries.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia, Eastern Europe and Estonia, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Students should have the opportunity to re-watch the films, literary works, and music introduced in class. DVD software for movie works can be found in the AV library of the university or in the library of the Faculty of Intercultural Communication, and literary works can be borrowed at the library. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Please take about a week to create the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score (50％), Short reports (30％) and term-end reports (20％). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSA300GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 300）

ドイツ語圏の文化 I

林 志津江

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【近現代ドイツの歴史と文化】

ドイツ語圏のうち、主に近現代のドイツとオーストリアを扱います。18～20世紀のドイツ語圏の人々のライフスタイルや価値観から、21世紀の日本に住む私たちがどのような示唆に与ることができるのでしょうか。この授業ではドイツ帝国の成立から二度の大戦、東西冷戦と東西ドイツ国家・ドイツ再統一に至る歴史を、文化現象と芸術作品を通じて概観します。

【到達目標】

- 1) 近現代ドイツ語圏の歴史と文化に関する理解を深めるとともに、抽象的な概念や文化に対する知的なアプローチの方法を学ぶ。
- 2) ナショナル・アイデンティティの実体や困難に対する思考・反省能力の涵養：「ドイツっぽい」と同様、「日本ならではの…」の正体もそこまで安心・確実なものではないかもしれません。
- 3) 言語テキスト、文化現象や芸術の形式・分析の分析を通じて、抽象的な議論に慣れる：文化や芸術と呼ばれる現象を知的に理解し楽しめる能力は、人生を楽しく豊かに彩るため（だけ）にあるのではなく、むしろ21世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・18世紀後半～20世紀のドイツ語圏における文化現象を、時系列に沿って扱います。
- ・各回、担当者による解説やテキスト講読を中心とする講義が中心ですが、適宜ペアワーク、グループワークの時間も設け、参加者が相互に授業内容の理解を深める機会を持ちます。
- ・LMSとしてGoogle Classroomを使用します。連絡手段として、学期を通じて法政Gメールをチェックしてください。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、全体と個別に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第2回	「皇帝」から「フォルク（Volk）へ」 — 「ドイツ人」って誰ですか	ハイドン『弦楽四重奏曲第77番ハ長調「皇帝」』／「神よ、皇帝フランツを守り給え」（1797年）／H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」（1841年）
第3回	都市化するベルリン — 歴史を伝える絵画	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1947年）／『サンスーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）／『鉄匠延機工場』（1872-1875年）
第4回	革命あるいは父と息子の確執 — ヴィーンのワルツ・ビジネス	「リング」の建設／J. シュトラウス『ラデッキー行進曲』（1848年）／J. シュトラウス2世『美しき蒼きドナウ』（1867年）
第5回	自然への脱出（1） — 「芸術家」になるために	「青騎士」と「ブリュッケ」／O・ミュラー『水浴する風景』（1906年）、E.L. キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912年）、『ポツダム広場』（1914年）など
第6回	自然への脱出（2） — 徒歩旅行と合唱の「運動」	「現実から逃避したい」／感情と行動の共同体／「ヴァンダーフォーゲル」から「自由ドイツ青年」へ
第7回	審美眼から機能主義へ — 「バウハウス」の誕生	W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919年）／G. ムヒエ「ハウス・アム・ホルン」（1923）／O. シュレンマー『トリアディック・パレエ』（1922年）など

第8回	女性と創造性（1） — 機械の時代の芸術	O. ディックス『大都会』（1927/28年）／C. シャート『ソーニャ』（1929年）／A. ザンダー『20世紀の人々』（1929年）など
第9回	女性と創造性（2） — 「デザイン」と「広告」	デッサウのバウハウス校舎（1925年）／バウハウスの織物工房・金属工房・タイポグラフィと写真について
第10回	ナチの権力掌握とプロパガンダ（1） — 「ドイツ的な芸術」？！	「表現主義」をどう理解するか／「頽廃芸術展」と「大ドイツ芸術展」（1937年）
第11回	ナチの権力掌握とプロパガンダ（2） — 「ユダヤ系」の意味	ジャズとダンスホールの行方／「私は音楽がやりたいだけなので」？！
第12回	ドイツにモダニズムを取り戻す — 経済の奇跡と「過去の克服」	カッセルの「庭園見本市」から「ドクメンタ」へ／J. ボイス『7000本の樫の木』（1982-1987年）など
第13回	闘争の音・ベルリンの壁 — 「聴いてはいけない音楽」からのクラブカルチャー	Th. プルスキヒ『太陽通り』（1999年）／「ラブ・パレード」（1989-2010）
第14回	まとめ	今学期のまとめ・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

- ・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
- ・資料に記載の参考文献を読み、次授業に備えて準備すること。
- ・首都圏近郊の美術館（「キャンパス・メンバーズ」を活用）等で実際に様々な作品に触れること。

【テキスト（教科書）】

各回こちらからプリントを配布します。

【参考書】

- ・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017年
- ・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
- ・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001年
- ・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
- その他、適宜授業内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への積極的な参加と貢献・提出課題の作成（50%）
- ・筆記試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具およびWiFiの受信可能なデジタルガジェット

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】

This course introduces the art scene in German-speaking areas and countries from the end of the 19th century (modernism) to the present era. It deals with mainly fine arts (including architecture and handicrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (German-like)" as concepts that we may feel we understand, but that are actually difficult to grasp without careful reflection. The work in this class will also lead us to reconsider general ideas and categorical ways of thinking, such as “Japanese,” “Japan,” or “Japanese-like.”

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・To be able to reflect on issues such as national identity or representational culture, express their own opinions and write texts of a certain length on the themes mentioned above.

ARSd300GA (地域研究 (中・南アメリカ) / Area studies(Middle and South America) 300)

スペイン語圏の文化Ⅱ

佐々木 直美

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを越えた場合は抽選とする

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「食」と「音楽」を通じて、スペイン語圏の社会と文化を理解することを目的とします。授業ではスペイン語のテキストやスペイン語の歌を数多く取りあげますが、スペイン語学習歴がなくても授業を理解できるように丁寧に説明するため、スペイン語既修者でなくても受講に問題はありません。「食」と「音楽」に関心があり、視野を広げる好奇心がある方なら大歓迎です。各テーマに関連する料理と歌を手がかりに、ラテンアメリカを理解するためのいくつかの重要なテーマについて一緒に考えましょう。

【到達目標】

- ①スペイン語圏の代表的な料理について、その社会の歴史と関連付けて理解できる。
- ②スペイン語圏の代表的な歌と音楽について、それが誕生し、広く支持された社会的背景を説明できるようになる。
- ③スペイン語の正しい発音を習得できるようになる。
- ④スペイン語圏の出来事について、積極的に関心を持ち、自身の意見を述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講生同士のグループワークを組み合わせで行います。各回のテーマについて、毎回音楽や映像資料を活用した講義のあと、グループ・ワークを行い、最後に各人がリアクションペーパーを提出することが必須です。授業内で提出する課題や発言などは平常点として評価します。課題等に関するフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アンデス文化（ペルー）	◆ジャガイモ料理の代表（パパ・ア・ラ・ワンカイナ） ◆アンデス音楽と祭り
2	都市と農村（ペルー）	◆チチャとは？ トウモロコシのお酒と同じ名前の音楽
3	ペルー海岸地域（ペルー）	◆ペルー料理の代表（セビーチェ） ◆国民的舞踏マリネラ
4	首都リマ（ペルー）	◆トウモロコシを使った人気料理（タマレス） ◆行商人の歌声：プレゴネス ◆クリオーリョ音楽
5	ペルーにおけるアフリカ文化（ペルー）	◆黒人たちの料理（モンドongo） ◆スサナ・バカ
6	民衆の声（アルゼンチン）	◆アルゼンチン国民のシチュー（ロクロ） ◆南米のfolklore ◆メルセデス・ソーサ
7	新しい歌（チリ、アルゼンチン、キューバ）	◆人生をありがとう ◆ビオレッタ・バラ ◆メルセデス・ソーサ ◆パブロ・ミラネス ◆シルビオ・ロドリゲス
8	移民Ⅰ（1960年代～アメリカ）	◆サルサ ◆映画「ウエスト・サイド・物語」が描くヒスパニック
9	移民Ⅱ（1960年代～アメリカ）	◆映画「ウエスト・サイド物語」 ◆ウィリー・コロソ
10	移民Ⅲ（2000年代以降アメリカ）	◆映画「イン・ザ・ハイツ」が描くヒスパニック
11	移民Ⅳ（2000年代以降アメリカ）	◆映画「イン・ザ・ハイツ」と「ウエスト・サイド物語」の比較

12	カリブ諸国（キューバとドミニカ）	◆コーヒー ◆グロリア・エステファン ◆フアン・ルイス・ゲーラ
13	ラテンアメリカのクリスマス（メキシコ）	◆チレス・エン・ノガータ ◆マリアッチ ◆ルイス・ミゲル
14	境のないスペイン語圏文化	◆ペルー料理 ◆パッド・バニー ◆シャキータ ◆レナタ・フローレス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示する資料を読んだり鑑賞したりすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

購入が必要な教科書はありません。

参考図書や映像資料は授業内で適宜指示するので、図書館や大学のAVライブラリーなどを上手に活用すること。

【参考書】

伊藤嘉章・岡本郁生監修 『ラテン音楽入門』世界文化社、2025年。

そのほか、授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題や授業内での貢献を含む平常点70%、期末レポート30%を総合して評価します。

4回以上の欠席は評価「不可」とします。

また、15分以上の遅刻は2回で1回分の欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【その他の重要事項】

受講者はスペイン語既修者に限らない。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to understand Spanish-speaking society and culture through < food > and < music > .

We use teaching materials in Spanish and a lot of Spanish songs, but even if you don't understand Spanish, we will explain everything carefully. It doesn't matter if you have no prior experience of studying Spanish. We welcome anyone who is interested in food and music and has curiosity to broaden their horizons.

Using recipes and lyrics related to each lesson's theme as clues, students will learn about topics that will help them understand Spanish-speaking countries and communities.

< Learning activities >

Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria/Policy >

Short reports: 70%, in class contribution: 30%.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。

本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。

なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- ①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。

具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。

なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション： フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について 説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	・ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。

第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第14回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
- ・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】

- ・各分野の参考書は、各授業において提示する。
- ・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための56章【第2版】』エリアスタディーズ・72巻，明石書店，2023年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40％
②期末レポート：60％
- ・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
- ・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】

- ・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
- ・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】

This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.

The goals of this course are to understand and explain the socio-cultural situation of Quebec. Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading the relevant documents. Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

LIT200GA（文学 / Literature 200）

フランス語圏の文化III（歴史）

ル ルー 清野 プレンダン

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではフランス語圏の歴史を、フランスの植民地帝国という導きの糸に沿って、様々なテーマについて考えながら勉強していきます。現在の「フランス語圏」(pays / régions francophones)のほとんどがフランスの植民地帝国にその由来をたどることができますので、フランスの植民地帝国を勉強することにより世界各地に広がるフランス語圏の諸地域との関係性が明らかになるはずです。

【到達目標】

この授業では、学生達はフランスの植民地帝国を導きの糸にフランス語圏の歴史に関する様々な側面を探索したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

- ①フランスの植民地帝国について基本的知識を獲得し、説明できる。
- ②植民地の概念を概ね理解できる。
- ③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。
- ④フランス語圏への留学に備える。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な資料(歴史的文章、論文、図や絵画など)を分析し、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し、質問に答えることで、フランスの植民地帝国を導きの糸にフランス語圏の歴史に関する共通の知識を築いていくことを目指します。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。歴史や資料、特にフランスの植民地帝国及びフランス語圏の歴史に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えます。

また、「フランス語圏の文化」という授業題名ですので使用する資料の多くはフランス語になりますが、必ずしもそれらを完璧に読解する必要はありません（並行して訳文を使う場合もあります）ので、フランス語の能力というよりはフランス語（圏）への興味が重要です。この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのグループワーク等のアクティビティに積極的に参加することです。課題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業紹介 植民地とは何か①	シラバスの確認 授業運営の紹介 植民地の定義、概要
②	植民地とは何か②	植民地の類型①
③	植民地とは何か③	植民地の類型②
④	植民地とは何か④	植民地（化）は過去の現象なのか？

- ⑤ フランス植民地帝国の オランジーナ名残①
- ⑥ フランス植民地帝国の バナニア、ビスケット、遊園地名残②
- ⑦ フランス植民地帝国の 北米の地名名残③
- ⑧ まとめと中間テスト 「植民地とは何か」及び「フランス植民地帝国の名残」（前半）
- ⑨ フランス植民地帝国の 言語状況について①北米①名残④
- ⑩ フランス植民地帝国の 言語状況について②北米②名残⑤
- ⑪ フランス植民地帝国の 言語状況について③アフリカ名残⑥
- ⑫ Nouvelle-France開拓 「新」大陸への探検への道①
- ⑬ Nouvelle-France開拓 「新」大陸の探検と開拓への道②
- ⑭ まとめと期末テスト 「フランス植民地帝国の名残」（後半）及び「Nouvelle-France開拓への道」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

Pierre Singaravélou (dir.), "Colonisations. Notre histoire", éditions du Seuil, 2023

それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・中間テスト：30 %
- ・期末テスト：30 %
- ・発表やリフレクションシートなどの課題：20 %
- ・平常点（授業への参加状況）：20 %

※ 尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分以上の遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。何らかの理由で欠席した・する場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特に明記されていないように思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

前もって合意した特別な状況以外は、授業中の電子機器（スマホ、パソコン等）の使用を認めません。ただし、資料を解説するための電子辞書の使用は認めます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about the history of the French colonial empire. One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written mainly in French.

It is not a goal of this course to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading (or watching...) various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the the history of the French colonial empire and its links to the "francophone" world.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

The grading criteria shall be as follows:

- ・Mid-term exam: 30%
- ・Final exam: 30%

- ・ Presentations, reflection papers, and/or other activities: 20 %
- ・ Class participation: 20%

LANs300GA（スペイン語 / Spanish language education 300）

カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）

PLAZA BALAGUE Marta

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本コースは、初級レベル（A1）のカタルーニャ語を対象とした実践的な入門講座です。コミュニケーションアプローチを採用し、日常生活における基本的な場面で簡単なやり取りができるようになること、また、簡単なメッセージの理解と発信を通じてカタルーニャ語への基礎的な理解を育むことを目的としています。

この授業の続きとして「カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）」もあるので、関心を持った学生はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）」および「カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）」を履修することを強く推奨します。

【到達目標】

本コース修了時には、以下のことができるようになります。

- 挨拶や自己紹介ができる。
- 基本的な個人情報を伝えられる。
- 人物や日常の行動を簡単に説明できる。
- 好みや嗜好を表現できる。
- 簡単な情報のやり取りができる。
- 近い将来の予定を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本コースではタスク中心のコミュニケーションアプローチを採用し、聞く力と話す力を重視します。文法はガイド付きのアクティビティを通して機能的かつ帰納的に導入します。

- 授業態度：授業の内容を理解したり深めたりすること、カタルーニャ語圏の社会・文化に触れようとする等、興味を持って授業に参加すること。
- 自己紹介の発表：自己紹介の短い個人発表を行います。
- 期末試験。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	カタルーニャ語入門。	挨拶と自己紹介。
2	個人情報①	アルファベット。発音と表記。 動詞 ser、dir-se、人称代名詞。
3	個人情報②	疑問文、否定文、数字。
4	人と家族①	語彙と動詞 tenir。
5	人と家族②	人物の描写、基本的な所有表現 および指示表現。
6	日常生活	生活習慣と直説法現在形。頻度 副詞。
7	街	場所・施設、道案内。前置詞と 位置表現。情報を尋ねる。

8	食事と飲み物	食事と飲み物：好みと嗜好の表現。動詞 agradar、voler。数量表現。
9	余暇	余暇：趣味や活動。動詞 agradar とその類似表現。
10	時間と予定	曜日、時刻、スケジュール管理。動詞 anar、fer。
11	予定を立てる	近接未来（anar a + 不定詞）。
12	買い物	数量と価格。動詞 voler、necessitar。
13	総復習と口頭表現。	自己紹介。
14	期末試験。	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に重要です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

配布資料（文法・練習・語彙を含みます）。

【参考書】

詳細な参考書リストは授業で提示します。

田澤耕（2002）『カタルーニャ語辞典』大学書林。

——（2007）『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。

——（2013）『カタルーニャ語小辞典』大学書林。

——（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。

Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, *Catalan: An Essential Grammar*, Routledge.

Baptista Xuriguera, Joan, 2007, *Els Verbs Catalans Conjugats*, Claret.

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参加度および評価課題：30%

2) 口頭表現評価（第13回）：30%

3) 期末試験：40%

成績は100点満点とし、本コースの合格基準は60点以上とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院（Institut Ramon Llull）の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides a practical introduction to the Catalan language at A1 level, following a communicative approach. Its main objective is to enable students to interact in very basic everyday situations, understand and produce simple messages, and develop an initial awareness of the Catalan language.

Finally, this class is followed by “Catalan Culture II (Language B)”, so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture III (History and Society A)” and “Catalan Culture IV (History and Society B)” as well.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

- Greet others and introduce themselves
- Provide basic personal information
- Describe people and daily routines
- Express likes and preferences
- Ask for and give simple information
- Make immediate plans

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria / Policy】

1. Class participation and assessed coursework: 30%
2. Oral production assessment (Session 13): 30%
3. Final exam: 40%

The maximum score is 100 points. A minimum score of 60 points is required to pass the course.

LANs300GA（スペイン語 / Spanish language education 300）		
カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）		
PLAZA BALAGUE Marta		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
本コースは、カタルーニャ語入門コース（A1）の継続講座として設計されており、カタルーニャ語への学習経験が非常に限られている学習者を対象としています。CEFRのA2～pre-B1レベルに位置づけられ、これまでに習得したコミュニケーションの基礎を定着させるとともに、表現の幅を広げ、口頭表現における自立性を高めることを目的としています。		
本コースでは、コミュニケーションかつタスク中心のアプローチを採用し、聞く力と話す力を特に重視します。文法は段階的かつ機能的に導入され、常に実際のコミュニケーション場面と結びつけて学習します。過去の経験の語り、意見や必要性の表現、助言や推薦の表現に加え、接続法、関係文、間接話法といった文法構造も、ガイド付きで導入します。		
本コースの目的はB1レベルを完全に習得することではなく、B1への確かな移行を支援し、日常のおよび簡単な学術の場面における自信と対話能力を育成することにあります。		
最後に、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）」および「カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）」を履修することを強く推薦します。		
【到達目標】		
本コース修了時には、以下のことができるようになります。		
- 日常生活および基本的な学術の場面で自信をもってやり取りができる。		
- 構成がやや複雑な短い口頭・筆記テキストを理解・作成できる。		
- 過去の経験を語り、日常的な状況をより正確に描写できる。		
- 意見、必要性、義務、助言を明確に表現できる。		
- 簡単な関係文を用いて人・物・状況を説明できる。		
- 間接話法の導入を通して、他者の発言内容を伝えることができる。		
- 口頭表現における一貫性と流暢さの基本的な戦略を身につける。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
コミュニケーションかつタスク指向型の教授法を採用します。聞く・話す・読む・書く技能を統合的に扱います。文法は機能的かつ文脈に沿って導入します。動画、短い文章、音声などの実際の資料を学習者向けに調整して使用します。学生の積極的な参加と協力的学習を重視します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	もう一度はじめよう！	カタルーニャ語の復習と経験の共有、A1内容の定着と拡張、直説法現在形の復習、 ser / estar 、基本的なコミュニケーション戦略、自己紹介を広げる語彙
2	昔と今	過去、思い出、経験、変化について話す、習慣、比較・頻度・様態の副詞、比較級・最上級、時間表現、形容詞の一致
3	人生の物語	経歴や出来事を語る、過去①：現在完了、現在完了の形成、規則・不規則過去分詞、時間表現、最近の経験の語り
4	今と昔の姿	人・場所・状況をより詳しく描写する、過去②：線過去（未完了過去）、形成と用法、文脈と描写、現在完了との対比
5	意見と視点	意見、賛成・反対を表現する、談話の構成、時間接続詞、物語構成、弱形代名詞の機能的導入（em, et, li, en, hi）
6	出来事の流れ	時間・原因・結果による構成、意見と評価の表現、意見動詞（pensar, creure, trobar など）、 que を用いた構文、賛成・反対、従属構文への導入
7	現代の日常生活	生活習慣と文化比較、接続法①：願望・必要性・助言、接続法現在の形成、 voler que / cal que / és important que 、助言や願望の表現
8	わかり合える？	依頼、助言、必要性の表現、接続法②：意見と感情、感情・評価の動詞、直説法と接続法の使い分け、実際の場面での練習
9	人や物を説明する	関係文による精密な表現、関係文①、 que / on / qui 、関係文の機能、人・場所・物の描写
10	こう言っていました…	間接話法で伝える、関係文②、前置詞付き関係文、 el qual / la qual （限定的使用）、描写の精度向上
11	感情と願い	実際の文脈での接続法、より複雑な状況、問題と解決策の表現、 haver de / caldre / poder 、口頭相互作用の戦略
12	起こりうる状況	簡単な仮定・条件・反応、間接話法（導入）、 dir / explicar / preguntar + que / si 、メッセージの言い換え、他者の発言の伝達
13	口頭発表	口頭発表
14	期末試験	期末試験
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に大事です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。		
【テキスト（教科書）】		
配布資料（文法・練習・語彙を含みます）。		
【参考書】		
詳細な参考書リストは授業で提示します。		
田澤耕（2002）『カタルーニャ語辞典』大学書林。		
——（2007）『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。		
——（2013）『カタルーニャ語小辞典』大学書林。		
——（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。		
Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, <i>Catalan: An Essential Grammar</i> , Routledge.		
【成績評価の方法と基準】		
①授業参加度および授業内課題：30%		
②口頭発表（第13回）：30%		
③期末試験：40%		
成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。		

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは、授業の進度および学生の関心に応じて変更される場合があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院 (Institut Ramon Llull) の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course is a continuation of the introductory Catalan language course (A1) and is designed for students with very limited prior exposure to Catalan. It is positioned between A2 and pre-B1 levels of the CEFR and aims to consolidate previously acquired communicative foundations, expand expressive resources, and develop greater oral autonomy.

The course follows a communicative, task-based approach, with a clear priority given to oral comprehension and production. Grammar is introduced progressively and functionally, always linked to real communicative situations. The course works on, among other aspects, narrating past experiences, expressing opinions and needs, making recommendations, as well as a guided introduction to structures such as the subjunctive, relative clauses, and indirect speech.

The goal is not to achieve full mastery of the B1 level, but rather to facilitate a solid transition towards it, strengthening students' confidence and their ability to interact in everyday and simple academic contexts.

Finally, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take "Catalan Culture III (History and Society A)" and "Catalan Culture IV (History and Society B)" as well.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

- Interact confidently in everyday and basic academic situations.
- Understand and produce short oral and written texts with a more developed structure.
- Narrate past experiences and describe habitual situations with greater precision.
- Express opinions, needs, obligations and recommendations clearly.
- Describe people, objects and situations using simple relative clauses.
- Convey information and report what others have said through an introduction to indirect speech.
- Develop basic strategies for coherence and fluency in oral production.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the "amount" of time, but also to its "quality". Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria / Policy】

1. Class participation and in-class tasks: 30%
2. Oral presentation (Session 13): 30%
3. Final exam: 40%

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

HIS300GA（史学 / History 300）

カタルーニャの文化III（歴史・社会A）

PLAZA BALAGUE Marta

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本コースは、歴史的・社会的・文化的観点からカタルーニャ文化を総合的に紹介することを目的としています。学生は、言語、伝統、芸術、現代社会に特に焦点を当てながら、カタルーニャのアイデンティティを形作る主要な要素について学びます。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化IV（歴史・社会B）」もあるので、関心を持った人はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャの世界に本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化I（言語A）」および「カタルーニャの文化II（言語B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

本コース修了時に、学生は以下のことができるようになります。

- カタルーニャ文化の主な特徴を理解する。
- 社会におけるカタルーニャ語の役割を理解する。
- カタルーニャの主要な歴史的出来事を把握する。
- 伝統、芸術表現、社会的慣習を解釈する。
- 現代のカタルーニャ社会を分析する。
- 特に日本との比較を通して、自身の文化的背景と照らし合わせながら異文化理解を深める。

本コース修了時には、学生はグローバルかつ異文化的な視点のもとで、現代社会におけるカタルーニャ文化について基礎的かつ体系的な理解を示すことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 視聴覚資料を用いた参加型の講義。
- 文化的テキストやメディア資料の分析。
- 指導付きディスカッションおよび異文化理解を促す振り返り活動。
- 言語能力の習得を目的としない、文化理解に重点を置いたアプローチ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	コース導入＋カタルーニャと言語（1）	コースの目的と進め方の説明。カタルーニャの地理的位置、社会的多様性、使用されている言語の概要。
2.	カタルーニャと言語（2）	現代のカタルーニャ語。多言語社会としてのカタルーニャと言語・アイデンティティの関係。
3.	カタルーニャの歴史（1）	起源から18世紀までの歴史の流れ。主要な歴史的出来事の整理。
4.	カタルーニャの歴史（2）	19世紀以降の歴史：産業化、内戦、フランコ独裁政権、民主化、現代社会。

5.	伝統と祝祭（1）	年間行事と祝祭のカレンダー。宗教行事と市民的祝祭の役割。
6.	伝統と祝祭（2）	昔から続いている民俗文化：カステル（人間の塔）、火祭り、地域協会の文化。
7.	芸術と文学（1）	カタルーニャ文学の概要と文化的背景。代表的な作家と作品。
8.	芸術と文学（2）	音楽、映画、視覚芸術など現代カタルーニャ文化の表現。
9.	現代のカタルーニャ社会（1）	日常生活、家族観、教育、労働、社会的価値観。
10.	現代のカタルーニャ社会（2）	現在の社会的課題と議論（若者、ジェンダー、多文化共生など）。
11.	カタルーニャと日本	歴史的接点、文化交流、相互イメージと比較の視点。
12.	世界の中のカタルーニャ	国際的な発信、文化外交、カタルーニャのイメージとブランド。
13.	映画鑑賞&ディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、グループでディスカッションを行います。
14.	口頭発表	コース全体で学習した中で、事前に教師とトピックを決め、口頭発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に重要です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

教場では細かい参考書リストを提供します。

田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。

——（2019）『物語 カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。

立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための50章』明石書店。

Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell & Brewer.

Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

1) 授業への参加と授業内活動：30%

2) 小課題／振り返り：30%

3) ミニテスト：10%

4) 最終プレゼンテーション：30%

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは、授業の進度および学生の関心に応じて変更される場合があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院（Institut Ramon Llull）の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides a general introduction to Catalan culture from a historical, social and cultural perspective. Students will explore the key elements that shape Catalan identity, with particular attention to language, traditions, the arts and contemporary society. The course adopts an intercultural and comparative approach, especially suited to an international university context.

Finally, this class is followed by “Catalan Culture IV (History and Society B)”, so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture I (Language A)” and “Catalan Culture II (Language B)” as well.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

- Understand the main features of Catalan culture.
- Identify the role of the Catalan language in society.
- Recognise key historical milestones in Catalonia.
- Interpret traditions, artistic expressions and social practices.
- Analyse contemporary Catalan society.
- Develop intercultural awareness through comparison between Catalonia and their own cultural background, with particular reference to Japan.

Upon completion of the course, students will demonstrate a solid introductory understanding of Catalan culture and its contemporary context within a global and intercultural framework.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria / Policy】

- Participation and in-class activities: 30%
- Short assignments / reflections: 30%
- Minitests: 10%
- Final presentation: 30%

The maximum score is 100 points. A minimum score of 60 points is required to pass the course.

HIS300GA（史学 / History 300）

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）

PLAZA BALAGUE Marta

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本コースは、現代カタルーニャ社会と文化について、歴史的・政治的・社会的・文化的な主要プロセスを通して深く学ぶことを目的とする。特に、産業化の時代から現代に至るまでの期間に焦点を当て、フランコ独裁体制、民主化への移行、現代の政治的議論、そして集団的アイデンティティの形成に関わる日常的実践を重点的に扱う。本コースでは、歴史分析と文化・社会的視点を組み合わせ、スポーツ、食文化、言語、社会運動などの具体例を用いることで、カタルーニャ社会を文脈的かつ批判的に理解することを目指す。

最後に、カタルーニャの世界を本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）」および「カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

コース修了時に、学生は以下のことができるようになる：

- 1) 現代カタルーニャ社会を形成してきた主要な歴史的プロセスを理解する。
- 2) フランコ独裁体制および民主化移行期がカタルーニャに与えた影響を分析する。
- 3) 現在のカタルーニャの政治制度および社会的議論の主要要素を把握する。
- 4) スポーツや食文化を文化的・アイデンティティ的表現として解釈する。
- 5) カタルーニャの社会的・言語的・文化的多様性について、批判的かつ情報に基づいた視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、参加型活動、テキスト分析、映像資料、ガイド付きディスカッション、個人またはグループによる短いリフレクション課題を組み合わせて行う。学生の積極的な参加と批判的思考の育成を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	産業化と社会的闘争（19世紀～20世紀初頭）Ⅰ	コースⅡ導入＋社会的闘争と文化の枠組み
2.	産業化と社会的闘争（19世紀～20世紀初頭）Ⅱ	産業化と社会的闘争（19世紀～20世紀初頭）
3.	フランコ独裁体制、抑圧と文化的抵抗Ⅰ	フランコ独裁体制Ⅰー政治・文化・言語の抑圧
4.	産業化と社会的闘争（19世紀～20世紀初頭）Ⅱ	フランコ独裁体制Ⅱー文化的抵抗と日常生活

5.	民主化移行、自治とグローバル化	民主化移行、自治の復活、新しい社会運動
6.	カタルーニャ政治と独立運動Ⅰ	現代カタルーニャ政治ー制度と政治体制
7.	カタルーニャ政治と独立運動Ⅱ	独立運動ー歴史、重要人物、現代の議論
8.	経済・日常生活・アイデンティティ：スポーツと食文化Ⅰ	カタルーニャ経済ー産業化、内戦、自治
9.	経済・日常生活・アイデンティティ：スポーツと食文化Ⅱ	移民、多文化共生、カタルーニャ・アイデンティティ
10.	経済・日常生活・アイデンティティ：スポーツと食文化Ⅲ	スポーツ・経済・アイデンティティーFCバルセロナ
11.	経済・日常生活・アイデンティティ：スポーツと食文化Ⅳ	日常文化とカタルーニャの食文化
12.	言語・ジェンダー・将来展望Ⅰ	現代のカタルーニャ語ー使用、教育、将来の課題
13.	言語・ジェンダー・将来展望Ⅱ	ジェンダー、フェミニズム、LGBTI+
14.	口頭発表	口頭発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に重要です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

配布資料。

【参考書】

詳細な参考書リストは授業で提示します。

田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。

——（2019）『物語 カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。

立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための50章』明石書店。

Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell & Brewer.

Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

評価は以下に基づいて行う：

- 授業参加およびクラス内活動：50%

- ミニテスト：20%

- 教員と事前に決めたテーマに基づく口頭発表：30%

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは、授業の進捗および学生の関心に応じて変更される場合があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院（Institut Ramon Llull）の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers an in-depth approach to contemporary Catalan society and culture through the main historical, political, social and cultural processes that have shaped present-day Catalonia. Particular emphasis is placed on the period from industrialization to the present, with special attention to the Franco dictatorship, the democratic transition, contemporary political debates, and everyday practices that contribute to the construction of collective identity.

The course combines historical analysis with a cultural and social perspective, incorporating concrete examples such as sport, gastronomy, language and social movements in order to foster a contextualised and critical understanding of Catalan reality.

Finally, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture I (Language A)” and “Catalan Culture II (Language B)” as well.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

1. Understand the main historical processes that have shaped contemporary Catalan society.
2. Analyse the impact of the Franco dictatorship and the democratic transition in Catalonia.
3. Identify the key elements of the current Catalan political system and ongoing social debates.
4. Interpret everyday practices such as sport and gastronomy as cultural and identity expressions.
5. Develop a critical and informed perspective on the social, linguistic and cultural diversity of Catalonia.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria / Policy】

1. Active participation and in-class activities: 50%
 2. Mini-tests: 20%
 3. Oral presentation on one of the course topics, previously agreed with the instructor: 30%
- 100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

ARSk300GA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)			第9回	論文の解説A(3)	Shakespeareの「越境性」について、大衆及び社会秩序との関連性から考える
英語圏の文化Ⅰ（文化史）			第10回	論文の解説A(4)	Shakespeareの「越境性」について、メディアの問題から考える
宇治谷 義英			第11回	論考の解説A(5)	Shakespeareの「越境性」について、文学作品の観点から考える
配当年次／単位：2～4年／2単位 旧科目名： 旧科目との重複履修： 毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring 人数制限・選抜・抽選： その他属性：〈他〉〈優〉			第12回	論考の解説B(1)	文化的生産物(cultural products)の異文化圏における受容の課題と意義について、第二次大戦前から1960年代以前のShakespeare作品を題材にした米ブロードウェイ・ミュージカルから考える
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 近世イギリス演劇の事情について、基本的な情報を学んだ後、英語で書かれた論文を読むことで、各時代状況の中で、英米のみならず日本などの異文化圏においても、それらの演劇作品がどのように変化をして大衆に受け入れられてきたか、そしてその今日性について、他者とのディスカッションもおこなうことによって、学生一人一人が確認していく。			第13回	論考の解説B(2)	文化的生産物(cultural products)の異文化圏における受容の課題と意義について、1960年代以降のShakespeare作品を題材にした米ブロードウェイ・ミュージカルから考える
【到達目標】 異文化間における交流、つまり異文化間コミュニケーションを図るためには、異なる文化的背景を持った者同士が、お互いの文化を理解し合うことが必須である。そして、異なる文化的背景を持つ他者の文化的生産物(cultural products)を受容、理解するためには、その異文化間に横たわる文化的境界を越境するもの、つまり架け橋のような要素の存在が重要である。 本授業では、時代を超えて英語圏を代表する作家であるWilliam Shakespeareの演劇を中心とした近世イギリス演劇を、「異文化圏間」、「異時代間」を縦横に巡る「越境性」、「今日性」をキーワードに、変化する時代、そして異文化圏、特に日本の文化と関連させて把握できるようになること、そして演劇のみならず、時代の変革期における大衆文化と社会を関連づけて考えられるようになることを目指す。 さらには、英文で書かれた関連する論考を自分で読み解くこと、また特定のShakespeare作品の「越境性」「今日性」について受講生同士、そして外国人等の異なる文化的背景を持った人とのディスカッションを通して、自身による異文化の「越境」を体験することも目指す。			第14回	異文化間交流の実体験(2)	事前に決めたShakespeare作品に関して、第7回から13回までの授業を踏まえて留学生や日本に滞在する外国人とディスカッションをおこなうことによって、お互いの文化的背景の違いが作品の受容方法に与える影響について実際に体験する。そこから受講生自身も含めて、異文化間を「越境」することの意義とは何かについて改めて考える
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 講義形式の授業では内容に関して毎回課題を与えられる。論考を扱う授業では前もって当てられた範囲について発表できるように準備する。発表では前もってテーマを決めて準備しておく。 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture			【テキスト（教科書）】 特に使用しない。		
【授業の進め方と方法】 基本的な事項の講義の後、あらかじめ割り当てられた受講生に劇作品および論文について発表をもらう。毎回リアクションペーパーの提出は必須とする。出されたリアクションペーパーは次の授業で取り上げてフィードバックをおこなう。			【参考書】 <i>The Cambridge Companion to Shakespeare and Popular Culture</i> , ed. Robert Shaughnessy (Cambridge: Cambridge University Press, 2007). <i>The Cambridge Companion to English Renaissance Drama</i> , eds. A.R. Braunmuller, Michael Hattaway (Cambridge: Cambridge University Press, 1990).		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes			【成績評価の方法と基準】 リアクションペーパー等課題の提出およびプレゼンによる平常点(20%)と試験(80%)。なお、教員による講義中および受講生による発表中の私語、やむを得ない場合を除く教室の出入りは厳禁。		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No			【学生の意見等からの気づき】 担当した文献の英語について、教員から前もってある程度の道しるべ的な助言を与えるようにしたいと思っています。		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			【Outline (in English)】 In this course, students will learn about early modern English drama and how it was/is received through discussion with others. The goal of this course is to acquire the above-mentioned knowledge and the ability to discuss it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end exam: 80%, assignments: 20%		
第1回	「演劇から始める異文化理解」	その目的、今日まで廃れない理由について、日本における歌舞伎、新劇、小劇場文化、同時に各受講者の身近な演劇体験と比較しながら考察する			
第2回	「劇場」	近世イギリスの劇場と現代との違い、そして日本の劇場との類似性について			
第3回	「テキスト」	近世イギリス演劇の上舞台本の事情と現代との違いと類似性について			
第4回	「文化と社会」	文化的生産物(cultural products)から当時の社会状況を割り出す意義			
第5回	「近世イギリス演劇の今日性」	文化的生産物(cultural products)が持つ、異文化間、異なる時代と場所を越える要素を見つける方法について			
第6回	異文化間交流の実体験(1)	事前に決めたShakespeare作品に関して、第1回から5回までの授業を踏まえて留学生や日本に滞在する外国人とディスカッションをおこなうことによって、お互いの文化的背景の違いが作品の受容方法に与える影響について実際に体験する。そこから受講生自身も含めて、異文化間を「越境」することの意義とは何かについて改めて考える			
第7回	論文の解説A(1)	Shakespeareの「越境性」について、劇団と劇場から考える			
第8回	論文の解説A(2)	Shakespeareの「越境性」について、演劇性から考える			

LIT300GA（文学 / Literature 300）

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）

須藤 祐二

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写から読み取れるアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、絵画、映画、音楽などどのような影響を相互に及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】

受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。
第1回授業で、いくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマから、アメリカの文学が文化や社会環境とどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察するというプロセスが繰り返されるだろう。時間的な制約から、時系列に沿ったアメリカ史全体の説明はできない。受講生はアメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。
最終授業でそれまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、それまでに回答した質問等についてもフィードバックとしてもう一度解説をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第2回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第3回	怖いものはなにか	アメリカのゴシック小説の特徴をヨーロッパのゴシック小説と比較して、前者における恐怖の描き方から「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第4回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第5回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19世紀から20世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第6回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品が当時のアメリカの拡大志向やエスニシティへの意識をどのようにに反映しているのかを考察する。
第7回	時間、都市、産業化	19世紀後半以降のアメリカの都市化や産業化の進展、そして、社会における時間表象や都市表象がどのようにに変化したのかを紹介し、それらがモダニズムの文学作品にどのようにに反映されているのかを考察する。

第8回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのようにに変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのようにに表象されているのかを考察する。
第9回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのようにに変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第10回	観念としての「黒人」は誰のものか	20世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのようにに位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第11回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのようにに表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第12回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第11回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのようにに描いているかを検討する。
第13回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する、併せて、彼女たちの作品と20世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第14回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で資料を配布するため、授業後に復習としても読み込むこと。
また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習が重要である。

【テキスト（教科書）】
授業で使用する資料は配布する。

【参考書】
有賀夏紀（編）油井大三郎（編）『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003年
亀井俊介（編）『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』昭和堂、2006年
板橋好枝、高田賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1991年
鈴木透『実験国家アメリカの履歴書——社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡（第2版）』慶應義塾大学出版会、2016年

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（授業の理解度を測る）を70％、課題図書/映画レポートを30％とする。
両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
例年、視覚資料が理解に役立ったという感想があるため、今年度も積極的に使用するつもりである。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course is designed to introduce students to the history of American literature and, through it, provide insight into various aspects of American culture and society. Students will not only explore the critical perspectives of authors as expressed in their works but also examine how American society during different historical periods is reflected in the underlying themes of these writings. Additionally, the course aims to deepen students' appreciation of American literature by examining its influence on visual arts, film, and music across different eras.

【Learning Objectives】
By the end of this course, students should be able to explain key characteristics of American literature and its cultural significance.

【Learning Activities Outside the Classroom】
Students are expected to spend approximately two hours before or after each class reviewing and engaging with the course materials to fully grasp the content.

【Grading Criteria】
First Report: 30%, Second Report: 70%

LIT300GA（文学 / Literature 300）

英語圏の文化VI（文学と社会C）

中和 彩子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名誉革命後の18世紀イギリスで発展した小説という文学ジャンルは、進歩と科学の世紀でもあった19世紀、とりわけヴィクトリア時代(1837-1901)の間に作品も媒体も、そして読者も多様化し、影響力のある一大文化産業となる。この授業では、19世紀末のイギリス小説に焦点を当て、さまざまな不安——ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖——を描いた代表的な作品を読むことを通じて、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】

イギリス小説の代表的な作品を読み、テキスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。

作品と作者の文学史における位置づけを理解する。

イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講者が、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートに沿って準備学習をしていることを前提として授業を進める。グループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理し解説を加えるというのが授業の基本的な進め方であるが、講義を中心とする回もある。

授業の終わりに、理解の確認のためのリフレクションペーパーを課す場合がある。

提出されたワークシートやリフレクションペーパーへのフィードバックは、翌週の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス イントロダクション(1) イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18～20世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	イントロダクション (2) 19世紀後半のイギリス文学・文化	授業で扱う作品、作家、その背景についての概説
3	ロバート・ルイス・スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説前半	演習（小説前半の分析）
4	『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説後半	演習（小説後半の分析）
5	『ジキル博士とハイド氏』（1886年）全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
6	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』（1890年）小説前半	演習（小説前半の分析）
7	『四つの署名』小説後半	演習（小説後半の分析）
8	『四つの署名』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
9	H.G. ウェルズ『タイム・マシン』（1895年）	演習（原文抜粋の分析）・講義
10	H.G. ウェルズ『モロー博士の島』（1896年）	演習（原文抜粋の分析）・講義
11	ジョセフ・コンラッド『闇の奥』（1902年）小説前半	演習（小説前半の分析）
12	『闇の奥』小説後半	演習（小説後半の分析）
13	『闇の奥』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
14	まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の準備学習として、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートの問題に解答し、提出すること。

本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とする。なるべく準備学習に重点を置くことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

(1) 3作品については、以下の邦訳の紙の書籍を使用する。受講許可を受けたあと、授業の予習に間に合うように、大学生協等で購入すること。

①スティーヴンソン、村上博基訳『ジキル博士とハイド氏』 光文社古典新訳文庫、2009.

②アーサー・コナン・ドイル、日暮雅通訳『四つの署名』 新訳シャーロック・ホームズ全集、光文社文庫、2007.

③コンラッド、黒原敏行訳『闇の奥』 光文社古典新訳文庫、2009.

(2) その他の作品については抜粋を配布する。

【参考書】

石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014.

※そのほか随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ワークシートやリフレクションペーパー等の提出物 70%）と、試験の成績（30%）の総合評価。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

・互いのワークシートの内容を共有することで、より多角的にテキストを理解できるので、グループワークの時間を長めにとる。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを利用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC等の端末（デバイス）を持参してください。

【その他の重要事項】

・授業に関する連絡は、学習支援システム（Webclass）を通じておこないます。
・初回授業について

受講希望者多数の場合、授業の最後に作成・提出してもらったペーパーをもとに、選抜をおこないます。

初回授業をやむを得ず欠席した受講希望者（仮登録者）は、当日中にWebclassを通じて仮登録者宛に出される「メッセージ」の指示にしたがってください。Webclassの「教材一覧」でも同じ指示を見られるようにしておきます。万が一「メッセージ」が届かなかった場合は、そちらを確認し、指示に従ってください。

選抜を実施した場合、追加で受講者希望者を受け入れることはできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: “Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)” aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will analytically and critically read some representative British literary works, published around the turn of the 20th century, that are obsessed with Victorian fin-de-siècle anxieties, and be introduced to their social and cultural contexts.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following: 1) understand the details of each novella/novel, and its cultural and historical context. 2) understand these works and their authors in the context of British literary history. 3) read and understand parts of each work, in English.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to come to each class meeting well prepared by reading the assigned part of the text and doing the worksheet, given online, in advance. The required study time is about 4 hours per class.

Grading Policies: Grading will be decided based on worksheets and reflection papers (70%), and the term-end examination (30%)

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語圏の文化Ⅶ (英語の構造)

興石 哲哉

配当年次／単位: 3～4年／2単位
旧科目名:
旧科目との重複履修:
毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選:
その他属性: <他> <優>

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、学生が現代英語の構造について、様々な面から考察するを目標にするものです。良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は、どのような言語であるのか、学生は、担当者とともに、授業を通じて考察していきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の音声面、文法面等の構造について、知識を得られること。
 2. 学生が英語の構造についての研究の仕方について、ある程度の知識を得られること。
 3. 学生が英語という言語に関しての様々な問に対して、答えるべき道筋をつけられること。
 4. 併せて、学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること。
- なお、上記の1、2で述べた知識ですが、ヤマとなる点は以下の通りです。
- a) 音声器官、発音記号。
 - b) 音素の考え方 (構造主義)。
 - c) 言語の知識を構成する各部門の考え方。
 - d) 記述上のさまざまな単位。
 - e) 統語範疇 (品詞論)。
 - f) 直接構成要素分析、句構造。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
現時点で考えていることは以下の2点です。
1. 当面の間は学習支援システムを用いて学習に必要な資料を配布していきますが、質問、コメント等を受け付けることによって可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思います。
2. 何をトピックにするか明確にし、履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います。
課題等のフィードバックについては、「学習支援システム」や、個人メール等により行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方、教材について説明します。後半は、英語という言語について、どこでどのように話されているかなどを見た上で、英語史について簡単に触れます。英語の音声について、その特徴を学んでいきます。言語音声に関する初回になりますので、音声研究において必要な調音器官などの用語、発声の原理について学びます。
2	英語の音声について (1)	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。今回は、英語を離れ、一般的に単音の記述について見た後、子音・母音の分類原理について学習します。
3	英語の音声について (2)	英語の音声について学ぶ3回目です。英語の母音について、その分類を学んだ後、各母音について見ていきます。英語の音声について学ぶ4回目です。二重母音、弱母音等について触れ、その後、フォニックスについて学習します。
4	英語の音声について (3)	英語の音声について学ぶ5回目です。母音についてまとめ、英語の子音を見ていきます。
5	英語の音声について (4)	
6	英語の音声について (5)	

7	英語の音声について (6)	英語の音声について学ぶ6回目です。子音についてまとめた後、音節、音結合について触れます。最後に、かぶせ音素 (アクセント、リズム、イントネーション等) について解説します。
8	英語の文法について (1)	英語の文法について学ぶ1回目です。初回ですので、文法という用語の伝統的な意味と、新しい意味、生成文法の考え方等について学びます。
9	英語の文法について (2)	英語の文法について学ぶ2回目です。日英の語順の相違について概観した後、形態素、語、語彙素といった基本的な用語について学びます。
10	英語の文法について (3)	英語の文法について学ぶ3回目です。統語範疇という概念について概観します。具体的に、形容詞を例にとって、いかに統語範疇が規定されるか、検討します。
11	英語の文法について (4)	英語の文法について学ぶ4回目です。形容詞についての話をまとめ、他の統語範疇と形容詞の関係について学びます。英語の辞書の記述についても、検討します。
12	英語の文法について (5)	英語の文法について学ぶ5回目です。構成素という概念 (おおまかな説明: 語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか) について学びます。そして、不連続構成素をどのように扱うかについての話をします。
13	英語の文法について (6)	英語の文法について学ぶ最後の回です。この回は、SVO+不定詞という構文を例にとり、それがどのように分析されるか、検討します。
14	まとめ～今後につなげて	これまでの授業を総括し、その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか、授業で学んでいきます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みますので、学生は、基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。

【参考書】

授業中、随時指定いたしますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。
・加島祥造 (1976). 『英語の辞書の話』。東京: 講談社[のちに講談社学術文庫に収載。]
・加島祥造 (1983). 『新・英語の辞書の話』。東京: 講談社[のちに講談社学術文庫に収載。]
・竹林滋・斉藤弘子 (1998). 『改訂新版 英語音声学入門』。東京: 大修館書店。
・中島文雄 (1991). 『英語学とは何か』。東京: 講談社[講談社学術文庫]。
・田中菊雄 (1992). 『英語研究者のために』。東京: 講談社[講談社学術文庫]。
・竹林滋 (1991). 『英語発音に強くなる』。東京: 岩波書店[岩波ジュニア新書]。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。(やむを得ない場合に限り、欠席3で-10% (大体のところ評価にして1段階下がる)、5で失格、というのを一応の目安とします。)
基本的に、最終試験で評価をいたします。その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利ですし、発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
 2. 本科目はグローバル・オープン科目のStructure of Englishと内容が同一ですので、重複履修はできません。
 3. 初回授業に必ず参加してください。
 4. かなり速いペースで進みますので、真面目な態度で出席しないと履修は困難です。
- 授業形態については、「対面」となっていますが、場合によっては周知の上、「オンライン」も採り入れていきたいと思っています。したがって、その点を考慮の上、履修をお願いします。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。(科目の性質上, SA英語圏の履修者が多いことが予想されます。)英語の構造をひと通り駆け足で学び、言語文化演習(あるいは卒業研究)へ結びつける科目です。半期ですので、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の構造について、基本的な知識は網羅するように心がけます。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of the course, students will be able to:

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English should be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

【到達目標 (Learning Objectives)】

The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:

- a) articulatory organs and phonetic symbols,
- b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
- c) modular approach to linguistics,
- d) various units in linguistic description,
- e) syntactic categories (parts of speech),
- f) immediate constituent analysis, phrase structural analysis.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:

- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.

Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

興石 哲哉

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の歴史は、ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります。本授業では、担当者とともに、学生は、本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから、どのような変化を遂げて、21世紀の今のような国際的な言語となっていったか学んでいきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の歴史について、ひと通りの知識を得ること。
2. 学生が英語の歴史に興味を持ち、現代英語の様々な事象について、歴史的な説明を試みること。
3. 学生が言語の歴史研究について、その大まかな方法論を知ること。
4. 学生が英語の運用力をつけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

本授業では、担当者が授業用に用意したスライドを用いて講義型の授業をします。受講生は、講義に出席しつつ、併せて教材（以下の教科書）を各自読みすすめてください。読みやすい教材ですので、基本的な事柄の把握に重点をおきつつ読んでいってください。

各授業のフィードバックについては、「学習支援システム」にて詳細に行いますので、そちらを読んで内容の把握に努めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説。 - 現代英語の状況、話者数、分布等。 - 英語史上の時代区分。
2	EARLY HISTORY 1	- IE studies & comparative linguistics - Proto-Indo-European
3	EARLY HISTORY 2	- Proto-Indo-European (cont'd) - Celts - Romans
4	OLD ENGLISH 1	- Latin influence on English - Anglo-Saxon invasion - Germanic languages sub-divisions
5	OLD ENGLISH 2	- Place name studies - <i>Angli vs wealas</i> - Christianisation - Viking raids - King Alfred's reign - OE runic inscriptions - Undley Bracteate and Franks Casket - OE pronunciation - 'Back to front' movements of OE pronunciation
6	OLD ENGLISH 3	- OE documents and poems (Law of Æthelberht, Gospels, <i>Beowulf</i>) - Oral tradition, alliteration, and OE compounding
7	OLD ENGLISH 4	- OE poems and alliteration - Norman Conquest - Social bilingualism in England
8	OLD ENGLISH 5	- ME: social bilingualism - English started to be spoken! - ME grammar, lexis - OE and ME dialects - Word order

9	MIDDLE ENGLISH 1	- ME documents (<i>Sumer Is Icumen In</i> , <i>The Canterbury Tales</i> , <i>Piers Plowman</i>) - Social changes - Great Vowel Shift
10	MIDDLE ENGLISH 2	- Great Vowel Shift (cont'd) - English becoming commoner! - Borrowed words - Shakespeare and the King James Bible
11	MIDDLE ENGLISH 3	- Biblical parallel text for comparison of OE, ME, and ModE - Shakespeare in original pronunciation - Spelling innovations
12	MODERN ENGLISH 1	- The first dictionaries (<i>A Table Alphabeticall</i> , Johnson's dictionary) - Linguistic prescriptivism - New words - <i>The Oxford English Dictionary</i>
13	MODERN ENGLISH 2	The Oxford English Dictionary (cont'd) - Received pronunciation and General American - Regional varieties - Regional varieties (cont'd)
14	MODERN ENGLISH 3	- Jargon and slang - The future of English

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、まず、テキストを読んでくることから始めてください。この際、批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか、曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと）、出てくる用語等を資料、ネット等を用いて調べること、を意識的に行うことが重要です。授業後、復習をして固めれば、理解力が高まります。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Viney, Brigit (2008). *The History of the English Language*. Oxford University Press.

【参考書】

- 授業中、随時指定しますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。
- ・北村達三 (1980). 『英語を学ぶ人のための英語史』。東京：桐原書店。（内容として一番標準的ですが、最近の英語についての記述が少々足りません。）
 - ・寺沢盾 (2008). 『英語の歴史 過去から未来への物語』。東京：中央公論新社 [中公新書]。
 - ・中尾俊夫, 寺島廸子 (1988). 『図説 英語史入門』。東京：大修館書店。
 - ・ブラッドリ, H. 寺澤芳男訳 (1982). 『英語発達小史』。東京：岩波書店 [岩波文庫]。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、5で失格、というのを一応の目安とします。）

基本的に、最終試験で評価をいたします。その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します。）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度休講のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「学習支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
2. 本科目はグローバル・オープン科目の *History of English* と内容が同一ですので、重複履修はできません。
3. 今年度はテキストを読んでいくことを中心にした授業構成に変えました。
4. 「英語史」と「英国史」とは異なります。ことばに焦点を当てる授業です。
5. 初回授業に必ず参加してください。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。（科目の性質上、SA英語圏の履修者が多いことが予想されます。）英語の歴史をひと通り駆け足で学び、言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です。半期のため、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の歴史の基本的な知識は網羅できると思います。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

Towards the end of this course, students will be able to:

1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and

2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

【到達目標 (Learning Objectives)】

The following are the concrete goals of this course:

1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students are expected to visit the relevant LMS site and get as much information as needed.

Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested on the LMS site posted immediately after each class session by the instructor. Approximately two hours of preparation and reviewing are necessary for this course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.

- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

ARSa200GA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランス語圏の文化Ⅳ (複言語・複文化社会)

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈D〉〈C〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界5大陸に広がるフランス語圏 (フランコフォニー) 社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。

具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マグレブ、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】

- (1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知る。
- (2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知る。
- (3) 言及する各社会において、「現地言語・文化」と「フランス語・文化」とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。

2～3コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性 (歴史・政治・社会・言語状況など) を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏 (フランコフォニー)」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説 ・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニック島】 ・フランス語とクレオール語の関係
2	I. カリブ海域諸島①	【グアドループ島】 ・クレオール語の地位復権運動
3	I. カリブ海域諸島②	【クレオール文学運動】 ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり
4	I. カリブ海域諸島③	・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明 【ケベック】 フランス系カナダ人からケベック人へ ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
5	II. カナダ・ケベック州①	【ケベック】：インテリカルチャーとトランスカルチャー ・母語とフランス語の関係 【移動するエクリチュール】 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
6	II. カナダ・ケベック州②	・マグレブの歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
7	II. カナダ・ケベック州③	
8	III. マグレブ (北アフリカ諸国) ①	

9	III. マグレブ (北アフリカ諸国) ②	【モロッコ】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
10	III. マグレブ (北アフリカ諸国) ③	【チュニジア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	IV. サハラ以南のアフリカ①	・サハラ以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	IV. サハラ以南のアフリカ②	【ルワンダ、コンゴ民主共和国】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	V. ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【ベルギー】 ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
14	V. ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【スイス】 ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。

授業で言及・提示する資料の邦訳 (可能であれば原典) などにも当たり、できるだけ理解を深めること。

本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・特になし。
- ・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】

授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。

- ・鳥羽美鈴著、『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。
- ・平野千香子著、『フランス植民地主義の歴史』人文書院、2002年。
- ・中村隆之著、『カリブー世界論』人文書院、2013年。
- ・小畑精和著、『ケベック文学研究』御茶の水書房、2003年。
- ・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
- ・鶴戸聡著、「アラブ・フランコフォニーと越境の文学」『反響する文学』(土屋勝彦編、名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号)、風媒社、2011年。
- ・梶茂樹・砂野幸稔編著、『アフリカのこぼれと社会：多言語状況を生きるということ』三元社、2009年。
- ・岩本和子著、『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナリズムの変遷』松籟社、2007年。
- ・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマンド文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】

- ・評価配分は、以下の通り
 - ①平常点 (コメントシートなど) : 30%
 - ②期末レポート : 70%

・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域 (または国) における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料に基づいた説明が緩慢にならないように、できる限り映像・音声資料なども盛り込むことでメリハリをつけるようにする。

【その他の重要事項】

フランス語の知識は前提としません。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance understanding of the situation of the French-speaking world (la francophonie) in focusing on the social problems concerned with French language. For this purpose, we will learn from a global perspective about the history and social situation of each countries or regions around the world.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French speaking regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

in class contributions: 30%, term-end reports: 70%.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

比較表象文化論

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】

- ・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に着ける。
- ・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。

毎回、課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを準備してから授業に出席することが必須です。回答は、授業前に提出してもら場合も、また、授業内で書いてもらう場合（小テスト）もあります。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズムⅠ	オペラ『蝶々夫人』台本分析
3	オリエンタリズムⅡ	オペラ『蝶々夫人』演出分析
4	オリエンタリズムⅢ	映画『ラスト・サムライ』鑑賞
5	オリエンタリズムⅣ	映画『ラスト・サムライ』分析
6	オリエンタリズムⅤ	映画『ベイマックス』鑑賞
7	オリエンタリズムⅥ	映画『ベイマックス』分析
8	ジェンダー論Ⅰ	「シンデレラ」コンプレックス
9	ジェンダー論Ⅱ	アニメ『シンデレラ』鑑賞
10	ジェンダー論Ⅲ	アニメ『シンデレラ』分析
11	ジェンダー論Ⅳ	映画『エバーアフター』鑑賞
12	ジェンダー論Ⅴ	映画『エバーアフター』分析
13	ジェンダー論Ⅵ	バレエ「シンデレラ」分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、課題（SQ）への回答を準備しておくこと。事前提出が求められる課題には、定められた期限までに学習支援システムにレスポンスを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・提出課題と授業内小テスト：50%
- ・積極的な授業参加（ディスカッション）：20%
- ・期末テスト：30%
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ・4回以上欠席した場合は、単位修得の権利を失います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の回答を授業内で多く紹介します。

【その他の重要事項】

履修希望者の数によっては初回の課題をもとに選抜を行いますので、必ず初回授業後、定められた締切日までに課題を提出してください。本授業の課題への回答作成にあたって、生成AIを含むオンライン上の資料収集は固く禁止します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).

【Learning Objectives】

Students will learn how to compare and analyze films and theatrical performances while taking into consideration their sociohistorical contexts.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.

【Grading Criteria/Policy】

Assignments and review exams: 50%

Active Participation in class discussion: 20%

Final exam: 30%

LIN200GA（言語学 / Linguistics 200）

言葉と社会

小川 敦

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言葉と社会」「多言語社会」「言語（教育）政策」をテーマに、言語と社会がどのように関わっているのか、社会において言語はどのような役割を果たしているのかなどについて考えていきます。

「標準語と方言」「二言語併存」「国語」「少数言語」などの基本的な概念について解説し考察した上で、歴史的な経緯でいくつもの言語が用いられる社会、移民が多く住む社会での言語の話題について多く取り上げます。

【到達目標】

- ・社会的なコンテキストで言語がどのような役割を担っているかを理解する。
- ・それぞれの社会において言語の持つ役割や重要性が異なっていることを理解する。
- ・言語に対する価値観は人によって異なることを理解し、相対化して考えるべきことを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式ですが、できるだけ授業中にも学生同士で話し合うようにします。授業の最後にならずリアクションペーパーを書いてもらいます。

授業の最初にリアクションペーパーに対してこちらからコメントをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：言語と国家	言語についている名前と国家の名前が必ずしも一致しないことや、「〇〇人なら〇〇語を話す（べき）」といった言説が自明ではないことを理解し、これからの授業につなげていきます。
第2回	言語と変種（標準語と方言）	日常的に「標準語」「方言」と呼んでいるものの実態について扱い、さらに社会集団語などのさまざまな言語変種について扱います。
第3回	国家と言語、標準語と方言の関係	前回に引き続き、何が変種を「方言」「言語」とらしめるのかについて、社会や国家との関係から考えます。
第4回	方言のイメージ	地域変種（「方言」）に対して抱くイメージがどのように形成されてきたのかを考えます。また、「方言コスプレ」と呼ばれる現象について、「役割語」の視点も踏まえて見ていきます。

第5回	言語とジェンダー	これまでのテーマと関連付けて、言語をジェンダーの視点から考えます。
第6回	危機言語	アイヌ語や琉球諸語から、危機に瀕する言語について考えます。
第7回	少数言語・言語権	少数言語の定義を見た上で、言語に対する権利や法律上の位置づけなどについて考えます。
第8回	移民社会としての日本と言語	日本では移民背景を持つ人がますます増えています。日本社会の対等な一員とするための言語的な配慮や権利について考えます。「やさしい日本語」についても扱います。
第9回	言語景観と言語サービス	前回の授業を踏まえて、多民族化・多言語化する日本社会における「言語景観」について考えます。何気なく通り過ぎていた標示について、この授業を機に気をつけるようにしてください。
第10回	ケーススタディ：フランス・アルザスの言語教育とアイデンティティ	フランスの東部、ドイツに接するアルザス地方の言語の歴史を見た上で、今日のフランス語とドイツ語の二言語教育、そしてアルザス人の言語アイデンティティについて考えます。
第11回	ケーススタディ：イタリア・南チロルの言語問題	イタリアの最北端に位置する南チロル地方（アルト・アディジェ）ではドイツ語系住民とイタリア語系住民が長年対立と和解を繰り返してきました。複数の言語集団の共存について、言語教育の点から考えます。
第12回	ケーススタディ：「方言」から「言語」を創り出した国家、ルクセンブルク	フランス語、ドイツ語、民衆の言語であるルクセンブルク語を公用語とする、多言語社会であるルクセンブルクを扱います。複数の言語を使えることを標榜しながら、アイデンティティの象徴として独自の言語を創り出してきた歴史を見ていきます。
第13回	ケーススタディ：「移民国家」としてのルクセンブルク	前回に続いてルクセンブルクを扱います。ルクセンブルクは人口の半数近くが外国籍であり、言語教育の面で課題に向き合っています。最近の事例を紹介しながら、ルクセンブルクでの課題と日本社会への示唆について考えます。
第14回	本講義のまとめ	講義でこれまでに扱ってきたテーマをもとに、試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の書籍を購入する必要はありません。

こちらに紹介した文献や授業中に紹介した文献について、できるだけ図書館やインターネットで探して勉強してください。

【参考書】

以下のようなものが挙げられますが、全て読みましようというわけではありません。

そのほか、授業中に紹介します。

- ・井上・田邊（編著）『社会言語学の枠組み』くろしお出版、2022年
- ・柿原・仲・布尾・山下『対抗する言語 日常生活に潜む言語の危うさを暴く』三元社、2021年
- ・言語権研究会（編）『ことばへの権利』三元社、1999年
- ・佐野直子『社会言語学のまなざし』三元社、2015年
- ・真田信治（編）『社会言語学の展望』くろしお出版、2006年
- ・杉野（監修）田中・波多野（編著）『言語と教育 多様化する社会のなかで新たな言語教育のあり方を探る』明石書店、2017年

・平高・木村（編）『多言語主義社会に向けて』くろしお出版、2017年
・田中・木村・宮里（編）『移民時代の言語教育－言語政策のフロントニア(1)』ココ出版、2009年
・三宅・新井『境界と周縁－社会言語学の新しい地平』ひつじ書房、2025年

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、コメントペーパーを含めた授業への参加40%とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。
初回授業には必ず参加してください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンだけでなくPCやタブレット端末を準備すると受講しやすいです。

【その他の重要事項】

履修の条件として、第1回の授業には必ず参加してください。
授業中はよく話を聞き、ノートをとることに専念してください。
受講生の関心にあわせて、授業内容を柔軟に変更・修正することもありますので、ご承知おきください。
教員の専門の関係もあり、事例紹介ではヨーロッパ、とりわけドイツ語圏の話題が多くなりがちですが、受講生は必ずしも英語以外にドイツ語や他のヨーロッパ語を学んでいる必要はありません。言語と社会の関係に関心がある人、多言語社会や言語政策に関心がある人はご検討ください。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (plan du cours)】

Dans ce cours, nous explorerons la relation entre la langue et la société, ainsi que le rôle que celle-ci y joue. Après avoir présenté divers concepts de base, nous traiterons plusieurs questions linguistiques liées aux régions multilingues historiques ainsi qu'aux zones à forte population immigrée.

【到達目標 (Objectifs d'apprentissage)】

À l'issue de ce cours, les étudiants seront capables de comprendre les fonctions du langage dans les contextes sociaux. Ils prendront également conscience de la diversité des valeurs associées au langage et développeront un esprit critique et comparatif.

【授業時間外の学習 (Travail hors séance)】

Il est attendu des étudiants qu'ils consacrent deux heures à la préparation et à la révision de chaque cours.

【成績評価の方法と基準 (Critères d'évaluation)】

Participation active 40%

Examen final 60%

HIS300GA（史学 / History 300）

宗教社会論Ⅱ

佐々木 一恵

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
- 各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。
- 提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。

4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪惡とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	キリスト教とセクシュアリティ	キリスト教とセクシュアリティの係を歴史的に概したのち、昨今のクィア神学の取り組みについて議論する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

○岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。

- 田村秀夫『千年王国論—イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
- 森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
- 小檜山ルイ『帝国の福音—ルーシー・ピーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会、2019年。
- グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
- 土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。
- アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。
- Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).
- ミラ・ゾンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教—近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019年。
- パトリック・S・チェン（工藤万里江訳）『ラディカル・ラブクィア神学入門』新教出版社、2014年。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（30％）

2. 期末試験（70％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.

Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.

Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.

The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

HIS300GA（史学 / History 300）

宗教社会論III（イスラーム思想）

久木 正雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：宗教社会論III（イスラーム思想）

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム学に初めて触れる学生が、イスラームの教義と思想およびムスリムの歴史、社会、文化に関する基本的な知識を得るとともに、他の宗教や宗派・教派といった「異文化」との関係性について考える。

【到達目標】

イスラームとムスリムへの理解と関心を深めるとともに間文化的な視点を養い、各自の考えをリアクションペーパーと学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回の授業の最後に学生からリアクションペーパーを提出してもらい、次の回の授業の中でそれに対するフィードバックを行う。リアクションペーパーの提出とフィードバックに関しては、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	世界の諸宗教とイスラーム	世界のさまざまな宗教の中でイスラームが占める位置と、それらの関係性について学ぶ。
3	イスラームの成立	ムハンマドの人物史を主軸に据えて、イスラームの成立過程について歴史的な観点から学ぶ。
4	六信五行	イスラームの世界観と価値観、そしてそれらに基づいたムスリムの生活について知る。
5	ウンマ／ハラール	イスラームにおける共同体をめぐる思想と、「合法」と「非合法」の概念について学ぶ。
6	クルアーン／ハディース	イスラームの二大聖典であるクルアーンとハディースについて、それぞれの成立過程、形態、概略的な内容を知る。
7	シャリーア	シャリーア（イスラーム法）と法学者および諸学派について学ぶ。
8	イスラーム諸宗派	イスラームの諸宗派について、二大宗派であるスンナ派とシーア派を中心に、それぞれの成立過程と特徴を学ぶ。
9	スーフィズム	スーフィズム（イスラーム神秘主義）について、成立過程と文化的・社会的な広がりを知る。

10	「イスラーム世界」と「西洋世界」	「イスラーム世界」と「西洋世界」の関係について、これらの用語を批判的に定義した上で考察する。
11	日本におけるイスラーム	日本におけるイスラームの受容について、歴史と現在の姿を知る。
12	イスラームと女性	イスラームにおけるジェンダーについて、イスラーム世界の内外双方からの女性表象を中心に考察する。
13	イスラームと現代世界	現代におけるイスラームの姿について、他の宗教や文化圏との関係の中で考察する。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に配布した資料や指示した参考書を熟読しておくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

- 東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社（世界史リブレット）、1996年、ISBN9784634341500、本体価格729円。
- 『クルアーン 日本語読解』東京ジャーミイ出版会、2022年、ISBN9784910474007 (https://tokyocamii.org/wp-content/uploads/2024/07/QuranNihongoDokkai_edition01_03.pdf)。その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーに基づく平常点：40%、学期末レポート：60%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の多様な問題関心を、リアクションペーパーなどを通じて恒常的にすくい上げ、授業に反映させることに努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- この授業は、偶数年度の春学期にのみ開講する隔年開講の授業である。奇数年度となる来年度は開講されないため、履修計画を立てる上で注意すること。
- この授業では、イスラームに関してもその他の宗教に関しても宗教教育を目的とせず、宗教とその信仰集団を専ら学問の対象としてのみ扱う。
- アラビア語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of Islam and Muslims, and intercultural perspectives to other religions and denominations.

《Learning Objectives》

Students will gain basic knowledge of the religion, history, society and culture of Islam and Muslims, and the intercultural perspectives between different religions and denominations, as well as the ability to express their ideas accurately in reaction papers, and an end-of-term report.

《Learning activities outside of classroom》

Students are expected to complete the required assignments before and after each class meeting. Each class will require more than four hours of study time.

《Grading Criteria / Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Reaction papers (40%), and end-of-term report (40%).

POL200GA (政治学 / Politics 200)

国際関係研究 I

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究 I（アクターに着目した理論の捉え方）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：×

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係で、オンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業内討論：毎回グループ討議・発表を行い、教員がフィードバックする。また、数回は演習型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム（アプローチ）であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	NGOとは何か	NGOの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのNGO	国際社会におけるNGOの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	NGOは国家を補完しているのか、国家を「脱している」(trans)のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにNGOが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のNGO活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。

- 14 まとめ（プライベートレゲーム） 「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編（2013）『NGOから見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま—』ミネルヴァ書房。

【参考書】

毛利聡子（2011）『NGOから見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内討論への参加度）20%、授業後課題30%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・特になし。

【その他の重要事項】

・長年NGOとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくNGOの現状を交えて講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
- 2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
- 3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARSf200GA（地域研究（東南アジア） / Area studies(Southeast Asia) 200）

国際関係研究Ⅱ

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン地域／メコン河流域国／大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】

- （1）「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
- （2）メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
- （3）演習型（ゼミ形式）の反転学習を通して、国際関係研究としての「地域」を分析するための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。

■発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。履修者は最低1回は発表を担当する。第3回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。大学2年生でも理解できる文献の講読、発表、グループ討議といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第1回授業で説明する。

■発表担当者：2人1組となって担当する。事前にレジュメを準備し共同で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か（メコン全体）	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題（中国、ラオス、タイ）	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジーム論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの（ラオス、タイ）	ラオスの小さな村の30年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」（メコン全体）	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文学（タイ、ラオス）	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題（ミャンマー）	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源（カンボジア）	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害（カンボジア、ベトナム）	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引（タイ、ミャンマー）	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界（メコン全体）	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。

12	重複の機能（メコン全体）	メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。
13	歴史から考えるメコン開発（メコン全体）	ここまで取り上げた事例を解釈学、系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
14	開発と責任（メコン全体）	開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当にあたっていない場合でも、必ず課題文献は読んできて下さい。比較的短い日本語で書かれた文章です。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、発表20%、グループ討議への貢献度20%、期末レポート40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求めます。レポートの狙いや書き方は、授業の中で丁寧に説明します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の感想は、後日学習支援システムに掲載します。受講前は、課題文献や発表を恐れていた学生もいましたが、実際にやってみると、読みやすい文献で、発表もいい経験になったという声がほとんどです。一方的に話をする講義ではないので、演習（ゼミ）に近い、大学生らしい学びができたという意見も多いです。どんな文献を読むのかは、履修を検討する際に、学習支援システムを通じて共有しますので、あまり心配はいりません。

【学生が準備すべき機器他】

課題文献を入手するために、授業コードを使って必ず学習支援システム（Hoppii）に自己登録して下さい。

【その他の重要事項】

■第1回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第1回授業に出席して下さい。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡して下さい（smatsumoto[at]atmarkhosei.ac.jp）。

■学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の講義形式の授業や、演習（ゼミ）とも異なる学びがあります。

■メコン河流域国で30年以上にわたってNGO活動に従事してきた実務家教員が、その活動経験を事例や余談に組み込みながら授業を進めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
- 2) explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
- 3) understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

ARSk300GA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)		
人の移動と国際関係Ⅱ		
高柳 俊男		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：人の移動と国際関係Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）		
旧科目との重複履修：×		
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：×		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
朝鮮民族のディアスポラ（離散）について考察する。 私たちの暮らす日本社会には、「在日韓国人」「在日朝鮮人」「在日コリアン」などと呼ばれる韓国・朝鮮系の人々が大量に住んでいるが、同様の現象は中国・旧ソ連・アメリカなど、世界各地で見られる。これらの人々が朝鮮半島を離れ、各地に移住した歴史やその後の変化、とくに現地社会での他民族との衝突や共生の営みを、各種の研究成果や教員自身の見聞をもとに、ともに考える。 朝鮮民族の移動と定着という個別のテーマを探究することを通して、移民過程や移住地での多文化共生・文化の変容という、世界に普遍的にみられる現象への理解につながるようにする。		
【到達目標】		
・各地に暮らす朝鮮民族について、その形成の歴史や現状の概略を理解する。 ・それらをもとに、朝鮮民族のディアスポラ（離散）全体について考察する。 ・朝鮮民族の事例を普遍化し、移民や多民族共生全般について考えを深める契機をつかむ。 ・とりわけ私たちの住む日本における移民や多民族共生について、具体性を伴いつつ考えられるようにする。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
世界各地に散らばっている朝鮮民族について、中国・旧ソ連・日本・アメリカを中心に、各数回ずつ取り上げて講義する。関連する映像資料を随時使用し、条件が許せばゲストをお招きした授業を実施したこともある。 毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次の授業冒頭で活用するなど、限定的ながら双方向的な授業になるよう心がけたい。 また、ネット上の学習支援システムを、もう1つの授業の場として活用し、授業の補足や発展に資したい。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
第1回	テーマ 導入	内容 授業計画の解説、参考書紹介、受講理由書の記入など。導入として、日本の各界で活躍する外国ゆかりの人物について触れる。
第2回	概況	ディアスポラ概念および朝鮮民族のディアスポラの概要について、まず学ぶ。
第3回	朝鮮内ディアスポラ	朝鮮内における歴史的な人口移動の典型として、火田民・土幕民の存在とその実態を知る。
第4回	中国の朝鮮族①	多民族国家中国の少数民族の一つに位置づけられる朝鮮族について、その概要を知る。
第5回	中国の朝鮮族②	前回学んだ中国の朝鮮族について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第6回	旧ソ連の高麗人①	旧ソ連の高麗人（朝鮮系の人々）について、その概要を知る。とくに1937年、スターリンによる極東から中央アジアへの強制移住について学ぶ。
第7回	旧ソ連の高麗人②	前回学んだ旧ソ連の高麗人について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第8回	在日韓国・朝鮮人①	私たちにとって一番身近であるはずの在日韓国・朝鮮人については、回数をかけて重点的に学ぶ。今回はまず、その概要として、形成史を知る。
第9回	在日韓国・朝鮮人②	在日韓国・朝鮮人史に関して、とくに海峡を越えた人の移動の観点から再整理する。
第10回	在日韓国・朝鮮人③	海峡を越えた人の移動の一つで、現在にも大きな影響を及ぼしている1959年からの北朝鮮帰国事業について、詳しく学ぶ。
第11回	在日韓国・朝鮮人④	在日韓国・朝鮮人についてここまで学んできた内容を、映像視聴を通してまとめる。
第12回	在日韓国・朝鮮人⑤	在日韓国・朝鮮人についての最終回として、若い世代の複合的なアイデンティティについて考察する。
第13回	在米コリアン	在米コリアンについて、ごく大まかな概要と、とくに1992年のロス暴動に関して学ぶ。
第14回	海外養子問題	韓国から戦後、孤児や私生児などが多数、養子として欧米に送られた。近年、当事者自らによってつくられた映画も紹介しながら、この問題を重点的に考察してまとめとする。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
毎回配付するプリントに「自習課題」を設定し、同じものを学習支援システム上にも載せる。これは「自習」なので必ずしも提出を要しないが、認識を深化させるためにもやってみることをお勧めする。提出した学生には、たとえば就職活動による授業の欠席などを補う要素として加味する。		
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
特定の書籍をテキストとしては使用せず、毎回、A3で表裏1枚のプリントを作成して配付する。		
【参考書】		
参考文献はそのつど指示するが、事典として『韓国朝鮮を知る事典（新版）』（平凡社）、『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』（岩波書店）、『世界民族問題事典』（平凡社）、『世界民族事典』（弘文堂）、『人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』（丸善出版）などを適宜参照すること。		
【成績評価の方法と基準】		
毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40%、学習支援システムを利用した中間での小課題20%、学期末のレポート40%を基準とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】		
過去のアンケートでは、以下のような好評をいただいた。 今回も、そうした授業になるよう努力したい。 ・リアクションペーパーに毎回フィードバックしてくれたので、他の学生がどのように考えたのかを知れてよかった。 ・映像資料が普段では見れないものが見れて良かった。 ・ゲストを招いた講義が面白かった。 ・学部の中でもすばらしい授業の一つ。		
【その他の重要事項】		
朝鮮半島の歴史や文化についての一定の知識を前提に話を進める、やや応用篇の授業である。事前に、毎年開講の「朝鮮語圏の文化Ⅰ 朝鮮半島の文化史」を受講しておくことが望ましい。未受講の場合は、そうした前提知識を自分で補うよう努めながら授業に臨むこと。 また、中華系や日系の移民を扱う「人の移動と国際関係Ⅰ」「人の移動と国際関係Ⅲ」（ともに隔年開講）も用意されているので、あわせて受講することをお勧めする。		
【Outline (in English)】		
This class examines the history and present condition of Korean residents living in various countries around the world. Through the case of Koreans, students are expected to think universally about the migration, settlement, ethnic conflicts, and integration. Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.		

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。

授業を紹介する動画を2つ用意しました。ぜひご覧ください：

《なぜ国は買えないのか》 <https://x.gd/aZ8no> ※学内者限定

《西ヨーロッパと自由》 <https://x.gd/6bP6e> ※学外からも閲覧できます。

学内には他にもヨーロッパ関連の科目があります。これらの授業と比較しながら、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足を置きつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、2025年度にひきつづき、2026年度も、リアルタイム・オンラインで実施します。
- ・授業時間（100分）の前半65分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（45-50分）にあてています。
- ・授業時間（100分）の後半35分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料はGoogle Classroomをつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界

5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特徴とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、チューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲慘を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲慘」。クリュセ、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
2. グループ・ディスカッションの課題の提出（授業時間内に提出まで至らなかった場合のみ）
2. 本学学則基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】

教科書を買う必要はありません。Google Classroom上で資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末テストは行いません 0%
- 2. 期末レポートは出題しません 0%
- 3. 小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※1）】60%
（※1）小テストは授業の復習であり、授業で配る資料をみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
- 4. オンライン授業への参加【リアルタイム・オンライン授業＝月4限のZoomミーティングへの各学生による接続（※2）】20%
（※2）ただし、第1回、第2回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）の活動についてのめ、この項目●4.ではなく、●6.における評価対象といたします。
- 5. グループ・ディスカッション&学生間の共働【グループ・ディスカッションにおける意見交換への積極的参加や、グループ・ディスカッションにおける学生間のやりとりのとりまとめ、所定のGoogleフォームを用い、とりまとめた成果物を教員に提出（送信）する、等（※3）】20%
（※3）グループ・ディスカッションは、3～6人程度の学生グループをZoomのブレイクアウト・ルーム機能を用いて毎回新たに作り、複数人の共同作業として行っています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループとして提出した成果物に記載されていれば、加点されます。
- 6. その他【1.～5.の合計100%には含めず、その外枠で10%程度まで加算します。】
（ア）運営への協力（協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、WebClassやGoogle Classroom等のLMSの設定の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象）
（イ）第1回、第2回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）と関連する活動への参加
（ウ）小テスト以外の提出物（アンケート等）で加点対象とするものが提出された場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることで参加のハードルを下げ、そうした方（かた）が必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやWebClassを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。

- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Word ファイル）<https://x.gd/1W2Mf>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).

1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考えられる。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに短く書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。

12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。あらかじめ何に留意して読むかは教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】

W.エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後課題20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度40%、授業内試験40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、授業内試験は紙媒体のものは全て持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

- ・100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、初めのうちは、1つのケースに授業2回分を充てる。
- ・教員から指定される分析をグループ討議で行い、その結果を発表した上で、全体でも討論をするのには100分間は非常に短いという声が多い。その一方で、短時間で深い議論を行い、一定の結論をグループで出す訓練の場になるという意見も聞かれる。そうした力を大学時代に養いたい学生にはお勧めの授業と言えそうである。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】

■国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例も議論のためのケースとして取り上げる。

■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、なるべく出席すること。

■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは2-3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第2回授業日前日までに履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
- 2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
- 3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.

【Learning activities outside of classroom】

-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.

-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

-Totally, your study time will be at least four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

SOC300GA（社会学 / Sociology 300）

実践社会調査法

松本 悟

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的社会調査の実践と量的社会調査のリテラシーを学ぶことで、卒業研究などで活かせるような研究方法を身に付けることを目指す。なお、量的社会調査についてはリテラシーを学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】

- (1) 統計的な社会調査データの読み取りができる。
- (2) 質的調査（ドキュメント調査、ライフストーリーインタビュー調査）を実践できる。
- (3) 卒業研究などに必要な、問いの構想、妥当な調査、収集したデータを適切に使った論文を執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業の方法：①事前課題をもとに議論と講義を行う反転授業、②学生が提出した原稿などを全員で事前に読んできてコメントし合う方法、③教員が用意した課題をもとにしたグループ討議・発表などアクティブラーニングをフルに導入する、④文章力を向上するために、受講生が書いた文章に丁寧なコメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、履修希望者が40人を超える場合は選抜のための課題に取り組む。
2	社会調査とは何か？	事前課題文献を読んだ上で、今まで思っていた社会調査との違いを議論する。
3	問いについて考える	社会調査はただ何かを調べることではない。必ず問いが必要である。調査をする際のよい問いとは何かを議論する。
4	ライフストーリーインタビュー調査の問いと構想	ライフストーリーインタビュー調査で明らかにする問いの発表とグループ討議。ライフストーリーインタビュー調査の方法と研究倫理に関する講義。
5	ドキュメント調査の問いと構想	ドキュメント調査で明らかにする問いの発表とグループ討議。ドキュメント調査の方法に関する講義。
6	プレゼンテーション	調査結果をどのように発表すると効果的かを演習形式で考える。
7	ライフストーリーインタビュー調査結果の口頭発表	ライフストーリーインタビュー調査の結果を口頭発表し議論する。
8	ドキュメント調査結果の口頭発表	ドキュメント調査の結果を口頭発表し議論する。
9	論文作法	これから執筆する論文の技法について講義と実習を行う。
10	執筆	ライフストーリーインタビュー調査もしくはドキュメント調査の結果を論文にする。
11	ライフストーリーインタビュー調査論文初稿	ライフストーリーインタビュー調査を選択した履修者の論文を事前に読んできて、グループでコメントし合う。

12	ドキュメント調査論文初稿	ドキュメント調査を選択した履修者の論文を事前に読んできて、グループでコメントし合う。
13	量的調査のリテラシー	数量化された量的調査の読み取り方を演習形式で学ぶ。
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことをKJ法を用いて整理する。論文の最終稿提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は多いが、その分まちがいがなく実践的な力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

大谷他（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法［第2版］』ミネルヴァ書房。

鹿島茂（2003）『勝つための論文の書き方』文春新書。

その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】

ライフストーリーインタビュー調査論文もしくはドキュメント調査論文の最終稿が60%、口頭発表など授業課題が40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文を書く意思のある2～4年生を主な対象とした授業であり、履修者は確実にその力がついている。毎年、授業で書いた論文をもとに法政大学懸賞論文に応募した受講生数名が入賞している。一方で学生の負担が大きいため、2025年度から、口頭発表まではライフストーリーインタビュー調査とドキュメント調査の両方を習得するが、執筆するのはライフストーリーインタビュー調査論文かドキュメント調査論文のどちらか1本とするやり方に変更した。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】

1. 調査のハワツを学ぶ授業ではない。論文を目的とした調査法の授業である。
2. この授業はアンケート（質問紙）などを使った統計分析は行わない。実践するのは質的調査法である。
3. 履修の意思があるものの初回授業に出席できない場合は、必ず初回授業より前に担当教員にその旨を伝えること（smatsumoto[at]hosei.ac.jp）。
4. 事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
5. 課題は比較的多いが、その分学びも大きい。
6. 遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。
7. 担当教員は社会調査士の資格を持ち、海外での質的社会調査を実践してきた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course contains lecture / practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as life-story interview and document analysis and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) develop their literacy skills to understand the quantitative data.
- 2) practice the qualitative research (life-story interview and/or document analysis).
- 3) acquire the academic skills to develop a research question, an appropriate research method and write a short paper in academic manner.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the assigned book chapter, to write a draft paper or to have completed the required assignments and so on.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following one research paper: 60%, class assignments: 40%

CUA200GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

国際関係研究IV

宮本 佳和

サブタイトル：家族と結婚の人類学

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究VII

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「夫婦」「親子」「血縁」「性別役割」などの概念を自明視しがちですが、これらは社会や時代によって多様な形をとってきました。本授業では、文化人類学の理論や民族誌的事例を通して、世界各地の多様な親族体系、婚姻形態、生殖技術、そしてケアのネットワークを概観します。血のつながりとは何か、家族を定義するのは何かという問いを通じ、現代社会における家族の変容（非婚化、共同養育、LGBTQ+の家族形成など）を相対化し、批判的に考察する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
- ・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
- ・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族は普遍的か？
第3回	家族と親族②	生物学的父と法的父という考え方
第4回	家族と親族③	親子の絆とは何か
第5回	性と婚姻①	生殖技術と現代社会
第6回	性と婚姻②	LGBTQ+の家族形成と選ばれる家族
第7回	中間テスト	第2回～第6回の内容の理解度テストと解説
第8回	婚姻をめぐる社会関係①	インセストタブーと交換
第9回	婚姻をめぐる社会関係②	体系的な親族組織
第10回	婚姻の諸形態①	一夫多妻、一妻多夫、通い婚
第11回	婚姻の諸形態②	結納、婚資、持参金
第12回	血縁を超えた関係①	擬制的親族関係
第13回	血縁を超えた関係②	ケアと共同性

第14回 期末テストと総括 第8回～第13回の内容の理解度テストと解説、全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト:25%、期末テスト:25%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:50%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）の提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
- ・初回授業において教室定員の都合で着席できなかった学生がいた場合は、当該学生に対してオンデマンドで授業資料を後日提供します。なお、第2回以降は教室を変更する予定です。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20%以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course covers the basics of social and cultural anthropology, which seeks to understand social and cultural diversity around the world. We focus especially on parent-child relationships, kinship, and marriage to understand social relations that connect people in everyday life.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from an anthropological perspective.

[Learning Activities Outside of the Classroom]

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours studying the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid- and final examinations (25% each) and in-class contributions (50%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環17：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに 国際法の構造	本講義の対象範囲 国際法の内容、近代国際法の特徴
第2回	法源	条約、国際慣習法、法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第3回	条約法	締結手続、留保、効力、無効、改正と終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第6回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第10回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第11回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第12回	国家責任法（1）	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第13回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法 [第2版]』東京大学出版会、2023年。4,840円。
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選 [第3版]』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 瑠・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
その他、適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にコメントはありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society.

By the end of this course, students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper(100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法Ⅱ

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環37：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底
第4回	南極、空域、宇宙	国際化地域、国際航空法、宇宙空間
第5回	個人	国籍、外国人の地位、難民
第6回	国際人権法（1）	人権保障の歴史、条約による人権保障
第7回	国際人権法（2）	国際組織による人権保障、履行確保、人道的介入
第8回	国際刑事法	国際犯罪、国際刑事裁判所
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続、裁判的手続
第11回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第12回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第13回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法〔第2版〕東京大学出版会、2022年。

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選〔第3版〕』有斐閣、2021年。

繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 壤・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。その他、適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環37：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と 接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ、 共通に有しているが差異ある責任、 人類共通の関心事
第8回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第9回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第10回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、 情報交換、事前の情報に基づく同意、 環境影響評価、モニタリング
第11回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第12回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第13回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック国際環境法』（東信堂、2026年）。

その他、授業内に指示する。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。2,800円。

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環コ7：経、ゲ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。

第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）

大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）
正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環コ7：経、ゲ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	途上国経済論Ⅰの概要の復習と 途上国経済を見る
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1） 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2） 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。

第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インドー 目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイー 東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナムー 戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジルー 南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカー アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナー 資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義内容にメリハリをつけるとともに、学生からの質問コメントへのフィードバックを充実する予定です。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam.

Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

現代社会論Ⅰ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性、人権等に関する課題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式で行いますが、双方向的な学びを促進するため、授業中にオンラインツールを用いたクイズやアンケート等を適宜実施します。また、毎回の授業の最後に、その回の内容に関する小課題を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	理論と概念の重要性、社会学と持続可能な社会の構築、授業の進め方
第2回	「社会を社会的に考える」とは	社会学的想像力
第3回	近代化と社会	分業、連帯、アノミー、社会的事実
第4回	個人と社会	社会的存在としての人間、アイデンティティ、社会化
第5回	資本主義と労働、格差の再生産	労働、階級、ハビトゥス、文化資本
第6回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第7回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第8回	フェミニズム理論	知識とジェンダー、労働としての家事、感情労働、インターセクシュナリティ
第9回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	異性愛規範、シスノーマティシティ
第10回	ポストコロニアリズム	オリエンタリズム、サバルタン、人種、多様性
第11回	人種と民族	歴史的背景、マイクロアグレッション、日本におけるレイシズム

第12回	インターセクシュナリティ	権力、アイデンティティ、個人の経験
第13回	社会変化	構造機能主義と紛争理論、社会運動論、人権、民主主義を考える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史Ⅰ』有斐閣
クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎週の小課題を含む）50%、試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

課題に書かれた考えや質問を共有しコメントする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society.

【Course outline】

Specific topics to be covered include modernization, inequality, identity, education, and diversity. Each class consists of lectures and activities to apply theories to social issues we have today.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including small weekly assignments) 50%;
Exams 50%

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

現代社会論Ⅱ

島袋 海理

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代社会における重要なトピックである、ジェンダー／セクシュアリティに関する問題を扱う。ジェンダー／セクシュアリティの視点は、現代社会における日常生活の出来事からマクロな社会問題まで、幅広い課題を考えるツールとなる。本授業では、ジェンダーのみならずセクシュアリティ（第4回）、また性的マイノリティ（第3-5回）についても紹介する。また、生物学（第6回）や教育社会学（第8-10回）、家族社会学（第13回）など、ジェンダー／セクシュアリティをめぐる問題が多様な学問領域を背景にして成立し、時には学問の垣根を越えて展開されてきたことを紹介する。さらに、ジェンダーの関わる問題は日常生活の様々な場面において現れることを示すために、（学校）教育（第8-9回）、大学（第10回）、労働（第11-12回）、結婚・出産（第13回）といった、多くの人々の人生に関わる問題について、ジェンダー／セクシュアリティの観点から考えていく。

【到達目標】

- ①現代社会をジェンダー／セクシュアリティの観点から捉えることができる
- ②現代社会におけるジェンダー／セクシュアリティ問題の射程の広さや議論・立場の多様さを理解する
- ③ジェンダー／セクシュアリティが関わる問題を自分事として考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式（対面またはオンライン）を採用する。

第1回目はオリエンテーションとして、授業の目標と内容、計画等を詳述する。

第2回目以降は、以下のように進める。

- (1)前回の授業のコメントシートの内容を取り上げ、前回の復習を行う（10-20分）
- (2)担当教員から、当該授業回のテーマについてレクチャーを行う（60-70分）
- (3)当該授業の内容に関する小課題を提示し、提出する（20分）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要、講義の進め方
第2回	ジェンダーの定義①	<分類>としてのジェンダー、フェミニズム【教科書ははじめに・1章】
第3回	ジェンダーの定義②	インターセックス／性分化疾患、アイデンティティ【教科書2章】
第4回	ジェンダーとセクシュアリティ①	トランスジェンダー、ジェンダー・マイノリティ【教科書3章】
第5回	ジェンダーとセクシュアリティ②	同性愛者・両性愛者、セクシュアル・マイノリティ【教科書4章】
第6回	生物学とジェンダー／セクシュアリティ	性差と性役割、生物学のジェンダー的偏見【教科書5・6章】

第7回	前半のまとめ、中間試験	前半で扱った内容について問う試験と解説
第8回	教育学とジェンダー	進路の性差、学校文化とジェンダー【教科書7章】
第9回	教育学とセクシュアリティ	青少年の性行動、性教育と家族・国家【教科書8章】
第10回	性暴力／ハラスメントと大学	被害者と加害者の視点、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント【教科書9・10章】
第11回	仕事とジェンダー	「女性優遇」、男女間の賃金格差【教科書11章】
第12回	仕事とセクシュアリティ	性別役割分業、マタニティ・ハラスメント【教科書12章】
第13回	結婚・出産とジェンダー／セクシュアリティ	母性愛神話、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ【教科書13章】
第14回	後半のまとめ、期末試験	後半で扱った内容を中心に問う試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、次回授業のテーマが扱われている教科書の章を事前に講読し、授業テーマについて予習することが求められる（1時間）。本講義は教科書の予習を必須としているため、教科書の事前講読がない場合、授業についていけなくなる可能性がある。また、担当教員が指定するテーマやキーワードについて調べたり、近年起こった事件について調べてもらったりすることが求められる（1時間）。復習としては、授業で取り上げた内容についての振り返りが必要である（1時間）。さらに、教科書や授業内で紹介した参考書を講読することを通じて、当該テーマについて考える時間が必要である（1時間）。参考書に関するレポートの提出が成績評価にも含まれる。

【テキスト（教科書）】

加藤秀一『はじめてのジェンダー論 改訂版』有斐閣、2025年 [ISBN: 9784641151413]

※2017年に出ている初版 [ISBN: 9784641150393]ではなく、2025年の改訂版を使用する。

※本講義は予習必須である。受講生は第2回目以降の授業に臨むにあたって、事前に教科書の指定された範囲を講読する必要がある。講義では教科書の内容についても触れるが、教科書を講読したことを前提に発展的な内容を扱うため、予習をしなければ授業についていけなくなる可能性がある。

【参考書】

<新書>

大越愛子『フェミニズム入門』筑摩書房、1996年 [ISBN: 4480056629]

若桑みどり『お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』筑摩書房、2003年 [ISBN: 9784480061157]

荻野美穂『女のからだ：フェミニズム以後』岩波書店、2014年 [ISBN: 9784004314769]

森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』筑摩書房、2017年 [ISBN: 9784480069436]

清水晶子『フェミニズムって何ですか？』文藝春秋、2022年 [ISBN: 9784166613618]

周司あきら・高井ゆと里『トランスジェンダー入門』集英社、2023 [ISBN: 9784087212747]

デボラ・キャメロン『はじめてのフェミニズム』筑摩書房、2023年 [ISBN: 9784480684622]

<入門書・教科書>

加藤秀一『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』朝日新聞出版、2006年 [ISBN: 9784023303737]

千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013年 [ISBN: 9784641177161]

風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018年 [ISBN: 9784589039705]

石田仁『はじめて学ぶLGBT：基礎からトレンドまで』ナツメ社、2019年 [ISBN: 9784816365829]

新ヶ江章友『クィア・アクティビズム：はじめて学ぶクィア・スタディーズ』花伝社、2022年 [ISBN: 9784763420022]

三橋順子『これからの時代を生き抜くためのジェンダー&セクシュアリティ論入門』辰巳出版、2023年 [ISBN: 9784777829484]

池田緑『ジェンダーの考え方：権力とポジショナリティから考える入門書』青弓社、2024年 [ISBN: 9784787235497]

守如子・前川直哉編著『基礎ゼミ ジェンダー・スタディーズ』世界思想社、2025年[ISBN: 9784790717997]

上掲以外の参考文献については、適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー・小課題の内容：30%

＊コメントペーパーは、毎回の授業内容に関する小課題が含まれる。
＊①小課題の内容を理解した上で記述できているか、②授業で紹介した基本概念や語句を援用して説明できているか、③自分と身近な問題と関連して記述できているか、という3つの観点から評価する。

レポート課題：20%

＊教科書で紹介されている参考文献、あるいは授業中で紹介される参考文献を講読したうえで、その文献に関するレポートを課す。

＊レポートでは、①授業で学んだ内容と選定した文献の関連、②文献から学んだ重要なポイント、③文献から得られた知識や視点を応用して、現代社会における問題に対する論評、の3つの内容が含まれる必要がある。

筆記試験：中間20%、期末30%

＊概念や語句を問う問題と、論述問題で構成される。

＊①授業で紹介した基本概念や語句の意味を理解しているか、②設問の意図を理解したうえで論述できているか、③ジェンダー／セクシュアリティの観点を援用して論述できているか、という3つの観点から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2回目以降の授業の冒頭にて、前回の授業で提出されたコメントシートへのフィードバックを行い、受講生との対話の機会を確保する。
上掲機会とは別に、受講生から授業に対する肯定的・否定的フィードバックを定期的に求める。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに接続可能なデバイス（パソコン、スマートフォン、タブレット端末等）：出欠をオンラインで確認するため（ただし、やむを得ない事情に応じて、紙による提出も認める）。

【その他の重要事項】

・本授業では、教科書の予習を求める。授業は教科書を読んでいることを前提に発展的な内容を取り扱うため、読まずに参加した場合、授業についていけなくなる可能性が高い。

・授業ではからかいやいじめ、差別や暴力、性的な描写や話題について扱うことがある。そうした際は事前に告知するが、授業の途中で居心地が悪くなったりいたたまれなくなった場合、また気分が悪くなった場合には、担当教員の許可なしに離席しても構わない。その他、配慮を求める場合は遠慮なく申し出て欲しい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will address issues related to gender/sexuality, an important topic in contemporary society. By acquiring a perspective on gender/sexuality, students will acquire the tools to think about a wide range of issues in contemporary society, from everyday life events to macro social problems.

Learning Objectivities: (1) View contemporary society from the perspective of gender/sexuality, (2) understand the wide scope of gender/sexuality issues in contemporary society, and (3) consider issues related to gender/sexuality as one's own personal matter

Learning Activities outside of Classroom: Students are required to read the relevant textbook chapter before class. After class, they are expected to read suggested references and explore articles related to the class theme.

Grading Criteria/Policy: Comment Papers and Short Assignments (30%), Short Report (20%), Written Exams (50%): Midterm (20%) and Final (30%)

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

環境社会論Ⅰ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】

日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（～1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代～1980年代）、地球環境問題期（1990年代～）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

2026年度春学期は、Zoomでのリアルタイム配信によるオンライン授業を予定している。大学で受講する場合は、薩埵ホールなどのオンライン受講スペースを利用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義とタイプ、環境社会学のアプローチ、住民・市民のかかりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造論について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏論について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から80年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	自動車排気ガス規制と技術革新を事例に、生産の踏み車論とエコロジーの近代化論について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモングの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。

第8回	都市・生活型公害期④	森は海の恋人運動を事例に、集合行為、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第10回	地球環境問題期②	市民風車の取組みを事例に、環境NGO・NPOの役割と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	外来種問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	長良川河口堰問題を事例に、河川政策の展開について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	河川法改正を事例に、住民参加の意義、ローカルな知の役割について学ぶ。
第14回	地球環境問題期⑥／まとめ	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。 環境問題解決への住民・市民のかかわりという観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。

平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on how residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and actions for solving them based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Explain the history of environmental problems and policies in Japan.

- Point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology.

- Propose actions for solving environmental problems.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅱ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直と新規就農支援について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。

第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。 環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。
坂本治也編、2017、『市民社会論』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったため、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is neither the government nor the business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.
- Propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be class participation and submitting reaction papers and assignments.

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

川副 早央里

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害はどの地域においても、誰にでも起こりえることです。大規模な災害が起こると、地域社会が大きな打撃を受け、急激な地域変容が生じます。そこで暮らしていた人びとは、生命、仕事、財産、家族や友人関係、自然環境などさまざまなものを失う経験をします。災害は平常時の社会のあり方や構造を露わにします。災害時に発生するこうした諸問題を理解するときには、災害前から社会に潜んでいた問題に着目する視点が求められます。

本講義では、地域社会やそこで暮らす人々の視点から災害と地域復興を捉え、いくつかのテーマと実際の事例から、災害政策が形成されてきた背景やプロセス、残された課題について検討し、私たちが生きる社会について改めて考えたいと思います。東日本大震災のほか、一部海外の事例も取り上げます。

【到達目標】

- (1) 災害復興のリアリティに触れ、災害時の社会状況についての想像力を養う。
- (2) 「災害」「復興」の概念を理解し、災害時に生じる諸課題の背後にある社会構造を学ぶ。
- (3) 災害時の政策が形成された背景、経緯、残された課題を理解する。
- (4) 災害を日常の延長にあるものとして捉え、災害という切り口から日常生活や地域社会の在り方を見直す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を基本としますが、できるだけ多くのグループディスカッションを行いたいと考えています。また、さまざまなドキュメント資料や映像資料を活用して、できるだけ被災地域および被災者の置かれた実状に触れ、災害と復興について考えたいと思います。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらいます。次の授業の冒頭にその内容を振り返り、問題意識を共有し補足説明も行いながら、災害に関する理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方を確認する。
第2回	災害とは何か	災害とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第3回	避難（1）：緊急避難	災害発生から避難に至る過程と課題を学ぶ。
第4回	避難（2）：広域的長期的避難	長く広域に避難した被災者の生活実態と課題を学ぶ。
第5回	地域コミュニティの変容（1）：分断と喪失	災害後のコミュニティの分断や喪失の実態を学ぶ。
第6回	地域コミュニティの変容（2）：再編と創造	災害後のコミュニティの再編や創造の実態を学ぶ。

第7回	被災地・被災者支援（1）：支援の実際	被災地および被災者の復興における支援の実際と課題を学ぶ。
第8回	被災地・被災者支援（2）：多様な支援	多様な支援の事例を紹介し、被災地・被災者復興に求められる支援について検討する。
第9回	災害とジェンダー・多様性（1）：災害時のジェンダー課題	災害時のジェンダー課題への対応の実際と課題を学ぶ。
第10回	災害とジェンダー・多様性（2）：災害時の多様性配慮	災害時に求められる多様性への配慮について学び、議論する。
第11回	復興とは何か（1）	復興とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第12回	復興とは何か（2）	復興の事例を紹介し、実際の復興状況と課題を検討する。
第13回	授業内試験	授業内試験を行う
第14回	試験の講評と補論	試験に関する講評と授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・適宜授業のなかで関連する参考文献や資料を紹介するので、事前に学習してから受講すること（60分程度）。
- ・授業中に配布するレジュメと自身のメモ・ノートをもとに復習し、リアクションペーパーの提出により学習内容や自分の考えを整理するとともに、理解できていない部分を確認すること（40分程度）。
- ・各回の授業に関する課題として、授業内で扱った知識や概念を応用させた課題に取り組み、授業内容の理解を深めること（90分程度）

【テキスト（教科書）】

授業で使用する資料は、授業前にWebClassに掲載する。

予習・復習については、配布資料を使って学習するほか、授業内で紹介する参考書や各種情報を参照すること。

【参考書】

大矢根淳ほか（2007）『災害社会学入門（シリーズ災害と社会）』弘文堂。

その他は授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（リアクションペーパーおよび授業への参加度）：60%
 - ・授業内期末試験：40%
- ＊期末試験未受験の場合には成績評価の対象とはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

本授業では、履修生の理解度を確認しながら授業を進めていく。具体的には、学生同士のディスカッションやリアクションペーパーの提出を通じて、意見を共有するほか、質問への回答や補足説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用するPDF資料は、事前にWebclass上に掲載します。紙資料は配布しないので、必要に応じてPCやタブレットを持参して受講してください。

【Outline (in English)】

Disasters can strike anywhere and affect anyone. When a large-scale disaster occurs, local communities suffer significant damage and undergo rapid transformation. People living there experience the loss of life, livelihoods, property, family and friends, and the natural environment. Disasters lay bare the nature and structure of society during normal times. Understanding the problems that emerge during disasters requires a perspective that focuses on issues latent within society before the disaster struck. This lecture will examine disasters and regional recovery from the perspective of local communities and their residents. Through several themes and real-world case studies, we will explore the background and processes behind the formation of disaster policies, the challenges that remain, and rethink the society in which we live. In addition to the Great East Japan Earthquake, we will also cover some international examples.

SHS300HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300）

科学技術社会論Ⅰ

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術と社会は相互に複雑に作用し、その相互作用からさまざまな社会問題が生じています。本講義では、そうした問題が生じる背景や原因について、具体例を取り上げながら、専門家と市民の両方の観点から考察できるようになることを目指します。それを通して、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方の基礎づくりを行います。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

- ・科学技術がもたらす社会問題について、具体例を挙げながら説明できる。
- ・科学技術がもたらす社会問題について、専門家および市民の立場から考察できる。
- ・科学技術がもたらす社会問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッション（ケースメソッド学習）を行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	ケースメソッド授業①	事例を通して、専門家としての意思決定を疑似体験し、そのあり方を考察します。
第3回	巨大技術システムがもたらす問題	スペースシャトル・チャレンジャー号事故を取り上げて、巨大技術システムがもたらす問題について説明します。
第4回	ケースメソッド学習②	事例を通して、先端技術がもたらす可能性のある問題について考察します。
第5回	ケースメソッド学習③	先端技術がもたらす可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。

第6回	ケースメソッド学習④	先端技術がもたらす可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第7回	科学技術社会における専門家の役割	専門家のあり方について、具体例を取り上げながら考察します。
第8回	科学技術とリスク	具体例を取り上げながら、科学技術とリスクの問題について説明します。
第9回	科学技術社会における市民の役割	科学技術の発展と市民の役割について、具体例を取り上げながら考察します。
第10回	ケースメソッド学習⑤	事例を通して、企業が直面する可能性のある問題について考察します。
第11回	ケースメソッド学習⑥	企業が直面する可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。
第12回	ケースメソッド学習⑦	企業が直面する可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術について専門家と市民の協働の観点から考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

金沢工業大学・科学技術応用倫理研究所編『科学技術者倫理：本質から考え行動する』白桃書房、2017年
 札幌順編著『新しい時代の技術者倫理』放送大学教育振興会、2015年
 小林傳司『誰が科学技術について考えるのか：コンセンサス会議という実験』名古屋大学出版会、2004年
 金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（20％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology and society interact with each other in a complex manner, and various social issues arise from this interaction. The aim of this course is to enable students to consider the background and causes of such issues from the perspectives of both experts and citizens, taking up specific examples. By doing so, students will build a foundation for thinking about how to deal with future social issues related to technology.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social issues brought about by technology, giving specific examples.
- Examine social issues brought about by technology from the perspective of experts and citizens.
- Think critically about the social issues that technology can bring about.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (20%), and in class contribution (60%).

SHS300HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300）

科学技術社会論 II

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を生きる上で科学技術は不可欠の存在です。しかし、科学技術は常に新しい事態をもたらし、時にそれを振興すべきか規制すべきかといった意思決定を迫ります。本授業では、科学技術をめぐる社会的決定に参加する一市民あるいは専門家として、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方、態度、行動について具体例を通して学びます。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

- ・科学技術がもたらす光と影について、具体例を挙げながら説明できる。
- ・科学技術がもたらす新しい事態について、批判的に思考できる。
- ・本授業で扱う事例について、自らの意思決定を他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	科学技術と社会をめぐる諸理論	パラダイム論、社会構成主義、モード論などについて説明します。
第3回	「公害」から学ぶ	公害を取り上げながら、科学および科学者の役割などを考察します。
第4回	「遺伝子組み換え作物」から学ぶ	遺伝子組み換え作物を取り上げながら、フレーミングの問題などを考察します。
第5回	「BSE問題」から学ぶ	BSE問題を取り上げながら、専門家と市民の協働などを考察します。

第6回	「Winny事件」から学ぶ	Winny事件を取り上げながら、最先端技術と法の関係について考察します。
第7回	「地球温暖化」から学ぶ	地球温暖化を取り上げながら、通訳不可能性や合理性などについて考察します。
第8回	「動物実験」から学ぶ	動物実験を取り上げながら、二重基準や自然さからの議論などについて考察します。
第9回	「チャレンジャー号事故」から学ぶ	チャレンジャー号事故を取り上げながら、巨大技術システムの問題を考察します。
第10回	「モーゼスの橋」から学ぶ	モーゼスの橋の事例を取り上げながら、技術の政治性の問題を考察します。
第11回	事例分析に向けて	各自で実施する事例分析について、方法論やアプローチの仕方を説明します。
第12回	プレゼンテーション「事例分析」	各自で実施した事例分析について、クラス内で発表・議論します。
第13回	これからの科学技術と私たち	こらからの科学技術にどのようにかかわるのかについて考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005年
伊勢田哲治[ほか]編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013年
藤垣裕子責任編集『科学技術社会論とは何か』（科学技術社会論の挑戦1）東京大学出版会、2020年
平川秀幸『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』（生活人新書）日本放送出版協会、2010年
金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（20％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology is an essential part of living in modern society. However, technology always bring new situations and sometimes force us to make decisions about whether to promote or regulate them. In this course, we will learn how to deal with future social problems related to science and technology as a citizen or an expert who participates in social decisions about science and technology through specific examples.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the light and shade brought about by technology, giving specific examples.
- Think critically about new situations brought about by technology.
- Explain your own decision-making to others regarding the cases covered in this course.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (20%), and in class contribution (60%).

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

環境倫理学 I

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環17：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。メールで質問を募り、授業に反映させる。チェックテストとレポートについては個別にメールで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と倫理学理論	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	環境問題と現代社会	環境問題が「現代社会」の仕組みに由来する問題であることを示す
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	土地倫理と自然の権利	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」と「自然の権利」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	生物多様性の価値	生物多様性はなぜ保全すべきなのかについての議論を紹介する
6	加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
7	鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
8	公害の環境倫理	公害に関する映画を見て意見交換する
9	環境正義	環境正義について議論する
10	リスク論	リスク論の概要を紹介する
11	中間チェックテスト	ここまでの内容を理解しているかを確認する
12	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電についての論点を紹介し議論する
13	災後の環境倫理学：復興のありかについて	震災復興についての論点を紹介し議論する
14	人新世の環境倫理学	人新世と気候工学について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（序章、第4章～第10章）

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40点）と書評レポート（60点）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

環境倫理学Ⅱ

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環17：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市の環境倫理」について学ぶ。その中で、哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論などを紹介する。さらに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論:ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二と桑子敏雄の議論を紹介する
7	都市論:ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する
10	環境と観光:白川郷と妻籠	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
11	環境と観光:湯布院の地域づくり	湯布院のドキュメンタリーを見て議論する
12	アメニティマップの発表(1)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
13	アメニティマップの発表(2)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップの発表(3)全体の講評	アメニティマップについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第11章～第14章）

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（40％）とマップ作成（60％）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with urban environmental ethics. At the end of the course, students are expected to understand human environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, amenity map:50%, term-end examination:50%.

HIS300HA（史学 / History 300）

ヨーロッパ環境史論Ⅰ

辻 英史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：グ、文

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパ各国の都市における生活世界と周囲の自然環境の変化を、空間利用、食糧供給、保養、衛生など、さまざまな角度から考察する。これにより、ヨーロッパの地理的歴史的な条件のなかでの人々の生活の展開や意識の成り立ちをさぐるとともに、人間社会と環境の共生がいかに達成されてきたのかを理解する。

【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、そこに暮らす人々の生活世界（Lebenswelt）がどのように時代によって変化してきたか、また人間と自然環境との関係はどのように変化してきたかを考察することで、ヨーロッパだけでなく日本を含む世界の他地域の都市社会の歴史や文化的独自性についての理解を広げるための視座を提供する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、各地域で特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第2回	古代都市から中世都市へ	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第3回	近世絶対主義のもとでの都市の造形	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第4回	近代都市の出現と都市計画	近代都市の特徴と、各国でおこなわれた国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業について
第5回	都市の拡大と交通	道路、鉄道、河川交通など、都市の内部および都市と近郊を結ぶ交通の発展と都市の人口規模の増大

第6回	都市と食料供給	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第7回	都市における水と衛生問題	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水との関わりと、衛生と清潔さの歴史。
第8回	都市と自然・災害	都市の外部に広がる自然のとらえ方は近世から近代にかけてどのように変化したか。災害への見方を例に考える。
第9回	都市と緑	都市内の公園・緑地の役割の変化を追う。住民の保養・休養から、教養と学習、政治活動の場まで。
第10回	20世紀の都市問題	20世紀前半から後半にかけて、都市社会の機能変化と、景観および生活空間の変化を関連づける。
第11回	田園都市と郊外の開発	20世紀初頭から各国で都市郊外でのニュータウン建設の試みが始まった。その課題と問題点をあきらかにする。
第12回	20世紀後半の都市改造	第二次世界大戦後の都市では、戦災からの復興や自動車化と消費社会化などの新しい傾向への対応として、どのような対策がおこなわれたのか。
第13回	現代における都市の再生	1980年代ごろから、都市内部および郊外ニュータウンの衰退が問題となってきた。これに対する再生の試みを紹介する。
第14回	まとめ：日本とヨーロッパの都市社会と環境	ヨーロッパの都市社会の発展の過程と日本のそれとを比較検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のレジュメや資料を使用して復習をすること。

授業期間中に2回、授業内容に関するミニレポートを作成し、提出すること。

そのほか、授業中に紹介する文献を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

2回のミニレポート（40％）と学期末の筆記試験（60％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度休講につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

History of daily life and environment in European cities from the middle ages to the 20th century.

By examining the historical development of European cities, how the lifeworlds (Lebenswelten) of their inhabitants have changed over time, and how the relationship between humans and the natural environment has changed, we will provide a perspective that will broaden our understanding of the history and cultural uniqueness of urban societies not only in Europe but also in other parts of the world, including Japan.

Students should review using the lecture resume and materials. In addition, students are required to prepare and submit mini-reports on class content twice during the semester. Reading the literature introduced in class will enhance your understanding of the course content. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be based on two mini-reports (40%) and a written exam at the end of the semester (60%).

HIS300HA (史学 / History 300)

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

伊東 直美

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環17：G,文

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進むなか、世界各地で移民・難民排斥運動、外国人嫌いの風潮が高まり、極右政党が台頭した。もはや我々の社会を考える際に、移民の存在を無視することは出来ない。しかしこの現象は今に始まったことではない。歴史的にどこで、どのような時、人とモノは大きく移動した、もしくは移動せざるを得なかったのか。その結果として何が生じたのか。ヨーロッパにおける人とモノの流れを分析することで、現代における我々の移民との共生の可能性を探ることを授業の目標とする。

【到達目標】

本講義ではヨーロッパ近現代を中心とした歴史を環境との関わりから考えていく。最近の歴史学の動向を学び、理解を深めることにより、現代社会の問題について比較検討する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

映像資料を使った講義を行う。毎回リアクションペーパーを提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オリエンテーション	移民と私たち	日本の場合
歴史学の成立	歴史学の動向	なぜ歴史を学ぶのか
産業革命	産業革命1	大いなる分岐
産業革命	産業革命2	なぜイギリスで起きたのか
啓蒙主義	啓蒙のヨーロッパ1	知の転換
啓蒙主義	啓蒙のヨーロッパ2	探検と「文明化」使命
フランス革命	フランス革命とそのインパクト	フランス革命の影響
奴隷制	奴隷制とその廃止	現代奴隷制を考える
ナポレオン	ナポレオンの台頭と没落	フランス革命後のヨーロッパ
ジャガイモ飢饉	ジャガイモ飢饉と1848年革命	1848年革命の影響
長い19世紀	ホブズボームの解釈1	第一次大戦以前
短い20世紀	ホブズボームの解釈	第一次大戦
ナチスの台頭	ヒトラーの権力掌握	ナチズム
第二次大戦	第二次大戦の始まり	戦争について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は西洋近現代史に関する授業となっている。『世界史リブレット』（山川出版社）などの該当巻を読むことでよりよい理解が得られる。

準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

レジュメをhoppiiより配布する。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（40%）、学期末テスト（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Anti-immigrant and anti-refugee movements, xenophobia, and far-right parties have risen globally. We can no longer ignore the presence of immigrants. However, this phenomenon is not new. Historically, when did large-scale movements of people and goods occur? What resulted from them? By analyzing the flow of people and goods in Europe, this lecture aims to explore the possibility of coexistence with immigrants in our contemporary world.

This course examines modern and contemporary European history through its relationship with the environment. Students will develop the ability to study history and critically compare and analyze issues in contemporary society.

Standard preparation and review time is two hours each.

Grading will be based on reaction papers (40%) and the final exam (60%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅰ

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。本授業・環境科学Ⅱを通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。

環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】

本授業では、主に地球規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。

具体的には、（１）気候変動、（２）生物多様性、（３）化学物質汚染について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を行う。

資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	気候変動（１）	気候変動の歴史、IPCCの将来予測
第3回	気候変動（２）	エネルギー資源
第4回	気候変動（３）	再生可能エネルギー
第5回	気候変動（４）	緩和策
第6回	気候変動（５）	適応策
第7回	気候変動（６）	国際環境政策の変遷、国連気候変動枠組条約の仕組み
第8回	気候変動（７）	日本国内における取り組み（気候変動適応法など）
第9回	気候変動（８）	気候変動と防災・減災
第10回	生物多様性（１）	生物多様性の意義、現状と課題
第11回	生物多様性（２）	国内外の取り組み（生物多様性条約・生物多様性基本法など）
第12回	化学物質汚染（１）	化学物質汚染の現状と課題
第13回	化学物質汚染（２）	国内外の取り組み（水俣条約・POPs条約など）
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門 [第3版]』 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a global scale.

[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.

[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅱ

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。環境科学Ⅰ・本授業を通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。

環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】

本授業では、主に地域規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。

具体的には、（１）大気環境汚染、（２）水環境汚染、（３）土壌・地下水汚染、（４）廃棄物処理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を行う。

資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	大気環境汚染（１）	大気環境汚染の歴史と現状
第3回	大気環境汚染（２）	大気環境汚染のメカニズム、硫酸化物（SO _x ）、窒素酸化物（NO _x ）、微小粒子状物質（PM _{2.5} ）
第4回	大気環境汚染（３）	大気環境汚染への対策
第5回	水環境汚染（１）	水環境汚染の歴史と現状
第6回	水環境汚染（２）	水環境汚染のメカニズム、富栄養化、BOD、COD
第7回	水環境汚染（３）	水環境汚染への対策
第8回	土壌・地下水汚染（１）	土壌・地下水汚染の歴史と現状
第9回	土壌・地下水汚染（２）	土壌・地下水汚染のメカニズム、土壌環境基準
第10回	土壌・地下水汚染（３）	土壌・地下水汚染への対策
第11回	廃棄物処理（１）	廃棄物処理の歴史と現状
第12回	廃棄物処理（２）	日本における廃棄物の定義・区分
第13回	廃棄物処理（３）	廃棄物対策
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門 [第3版]』 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a regional scale.

[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution. [Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環17：G,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通して共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり

第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第11回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	海洋島の自然	海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第14回	世界の自然とツーリズム	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論 I

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環コア：経,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、PFAS（ペルフルオロアルキル化合物）に代表される残留性有機化合物やマイクロプラスチックによる水質汚染が国際的に注目されている。気候変動による豪雨や淡水の枯渇により利用できる水が減少しており、水危機の時代ともいわれている。人間は水が無いと生きていけないが、我々が日々安全で安心な水を利用するためには水源である河川や地下水を汚染しないことが重要である。日本は1960年代に水俣病に代表されるような甚大な産業公害を経験し、現在は水質保全のための法律が整備され、工場による法順守が徹底されることで公害防止が行われている。本講座では水質保全のために企業が行うべき水環境管理について学ぶ。具体的には、水質汚濁防止に関する法律、水質汚染の現状と発生源、水質汚染機構と健康影響、水の浄化技術と水質測定について学ぶ。

【到達目標】

水質汚濁防止に関連する法律や工場内における公害防止管理者の役割について理解する。工場から排出される汚染物質の種類とその処理方法について理解する。具体的には水質を管理するための指標となるBOD、COD、SS等の専門用語、凝集沈殿処理、活性汚泥法等の水処理の基本的技術の概要を理解する。実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルを養う。講義内で公害防止管理者国家試験の問題を解く訓練を行い、授業終段階では、水質概論及び汚水処理特論の問題を7割程度正解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

公害防止管理者試験水質1種及び2種に出題される問題が解けるレベルの水質概論、汚水処理技術及び水質測定の知識を効率的に取得するため、毎回、講師の作成したパワーポイントを用いて要点を絞った講義を行う。講義内で公害防止管理者国家試験の過去問題に挑戦することで、出題傾向を知り、解答テクニックを取得する。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	公害の歴史と公害防止管理者の役割	日本の環境問題の変遷と公害防止管理者法について学ぶ。
2	水質汚濁の発生源、汚濁機構、環境影響	水質汚濁の発生源と富栄養化、赤潮発生、生物濃縮、地下水汚染等の環境影響について学ぶ。
3	水質汚濁に関連する法律	環境基本法及び水質汚濁防止法について学ぶ。
4	演習1 公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（水質概論の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
5	汚水処理を学ぶための基礎知識	BOD、COD等の用語定義を学び、溶解度、酸とアルカリ、酸化還元、化学反応、錯体とキレート等の化学の基礎を復習する。

6	汚水処理1 排水処理計画、沈降分離	工場における水利用の考え方について学ぶ、排水の基本処理である沈殿分離について理解する。
7	汚水処理2 凝集分離と浮上分離	凝集分離及び浮上分離の原理と装置構成を学ぶ。
8	汚水処理3 ろ過分離、化学処理	砂ろ過の機構、中和、酸化還元、活性炭吸着等の各種物理・化学処理について学ぶ。
9	汚水処理4 生物処理法（活性汚泥法）	生物処理法の概要、活性汚泥法の原理や装置について学ぶ。
10	汚水処理5 生物処理法（嫌気処理法）	嫌気処理法の原理や装置について学ぶ。
11	汚水処理6 窒素及びリンの処理、汚泥の脱水	生物処理による脱硝脱窒方法およびリン除去技術、汚泥の脱水技術について学ぶ。
12	演習2 公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（汚水処理技術の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
13	水質測定	公害防止管理者試験に出題される、BOD及びCOD等の水質測定項目に的を絞って学ぶ。
14	期末テスト	本講座で学んだ、法律および排水処理、水質測定に関連する問題に関する理解度を確認するテストを行う。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義で配布するパワーポイントを講義前に学習支援システムにアップするので、ダウンロードして予習する。「新・公害防止技術と法規（水質編）」のテキストで講義に関連する箇所を予習、復習する。授業の予習は1時間、復習も2時間程度行うこと。

【テキスト（教科書）】

基本的に講義毎にパワーポイントの資料を配布する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（水質編） （一社）産業環境管理協会 出版

【成績評価の方法と基準】

演習の講義で小テストを行う。その点数を20点満点とする。期末テストは80点満点とする。課題と期末テストの合計（100点満点）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

排水処理技術は化学式や計算が多く出てくるため、化学知識がゼロベースの学生にも分かりやすく、基礎から教えるよう心掛ける。講義内で大学教養レベルの化学の基礎知識について適宜、復習する。文系の学生にも興味を持ってもらえるよう、近年の水質汚染が社会に与える影響なども交えて講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

講師は中国及びタイ、カンボジア、ミャンマー、カンボジア等の東南アジアにおいて、公害防止管理者制度及び公害防止技術の移転事業に18年携わっており、さらに、水質測定の日本産業標準規格（JIS）及びISO（国際標準化機構）において水質測定関連の規格開発を長年行っている。これらの経験を活かし、学生には、国内だけでなく、国際的視点で水質汚濁問題をとらえるような講義を行う。関連資格は公害防止管理者資格（水質）、関連する科目は環境法規、環境ビジネスなどである。

【Outline (in English)】

In recent years, water pollution by persistent organic compounds represented such as PFAS (perfluoroalkyl compounds) and microplastics has attracted international attention. Heavy rainfall and the depletion of fresh water due to climate change have reduced the amount of available water, and we are said to be in an era of water crisis. Humans cannot live without water, but in order for us to use safe and secure water on a daily basis, it is important not to pollute rivers and groundwater, which are the sources of water. Japan experienced enormous industrial pollution in the 1960s, as exemplified by Minamata disease, and now laws have been established to protect water quality, and pollution is being prevented through thorough compliance with the law by factories. In this course, students learn about water environment management that companies should implement to protect water quality. Specifically, students learn about laws related to water pollution control, the current status and sources of water pollution, water pollution mechanisms and health effects, water purification techniques, and water quality measurement.

The evaluation for this course is as follows: Students should perform a report assignment. Submission of the assignment can be worth a maximum of 20 points. The final exam is worth a maximum of 80 points. The grade will be based on the sum of the assignments and the final exam. You should spend about one hour preparing for class and two hours reviewing.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：経,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を抑制、管理するための関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業のESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫黄酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。

公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題（その1）	気候変動とエネルギー問題、環境関連の国際的な取組について学ぶ。
第3回	近年の大気環境問題（その2）	国内の大気の状態について、環境基準の達成率やPM2.5及び光化学オキシダント生成、水銀排出等の問題について学ぶ。
第4回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。

第5回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第6回	アクティブラーニング 課題1	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDGsの17のゴールとの関連についても考察する。
第7回	燃焼管理技術	カーボンニュートラル達成のための新技術について触れながら、日本のエネルギー事情について学ぶ。また、燃料の種類や効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第10回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第11回	アクティブラーニング 課題2	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第12回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第13回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第14回	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味をもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

新・公害防止の技術と法規（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（大気編） 発行所（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート2回の評価 各20(%)×2 期末テスト60(%)

【学生の意見等からの気づき】

化学式や数式が出てくると、難しく感じるなどの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で配布した資料

【その他の重要事項】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

Course outline：

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities. The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives :

- To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.
- To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.
- To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.
- To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom :

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Each Report : 20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

SEE300HA（科学教育・（教育工学） / Science education/ Educational technology 300)

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。

今年度は特に「自然とかかわる環境教育（自然体験）」がテーマです。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。

また、環境問題および環境教育・ESDを「自分とは無関係な知識」ではなく、自らの立場・経験・価値観と結びつけて捉え、批判的かつ建設的に評価できる力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業形態は、講義のほか参加型（グループワークなど）を行う。詳細は、授業支援システムで連絡する。

リアクションペーパーや提出された課題に対しては、代表的なものをいくつか授業内で取り上げコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と導入
第2回	環境教育の基礎（講義）	環境教育についての基礎（定義・歴史・特徴および実践事例）
第3回	環境教育の変遷～知識教授から参加体験型へ	環境教育は、なぜ知識教授だけでなく参加体験型の方法をとるのか？
第4回	環境教育の実践例ー自然体験学習	自然とかかわりや自然を守る環境教育の事例を学ぶ
第5回	持続可能な開発のための教育（ESD）	持続可能な開発のための教育について解説 最近の環境教育の特徴を紹介
第6回	環境教育を「評価する視点」	良い環境教育とは何か、環境教育を評価するとはどういうことか考える
第7回	中間課題準備：環境教育施設を調べよう	環境教育施設を調べ、訪問し、発表の準備を行います
第8回	中間課題発表	第7回までに調べた環境教育施設について発表（プレゼン）を行う
第9回	環境教育を深める・1～持続可能な開発と環境正義	環境教育への理解を発展させる キー概念を学ぶ

第10回	ゲストスピーク「地域で取り組む環境教育の事例」	地域に根差した環境教育の意義や可能性を学ぶ
第11回	ソーシャルアクションワークショップ	環境問題を解決するアクション（行動）について考える
第12回	環境教育を深める～子どもの権利の視点から	子どもの権利の視点から、環境教育をとらえなおす
第13回	環境教育を深める～自然学校の事例から	教育と地域の持続可能性について実践事例を通じて考える
第14回	まとめ・論述試験	これまでの学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。

環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず授業内で資料を適宜配布・紹介する

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版

『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編

『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版

『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

『知る・わかる・伝える SDGs I』、阿部治・野田恵編著、学文社

『知る・わかる・伝える SDGs II』阿部治、二ノ宮リムさち編著、学文社

『子ども白書2024』子どもを守る会編、かもがわ出版

【成績評価の方法と基準】

詳細はガイダンスおよび授業内で指示します。

・平常点：授業参加度、学習状況、授業内小テスト（5%×10回＝50%）

※授業内で、毎回（第6、7、8、14回は除く）コメントペーパー又は小課題を出します

・中間課題：環境教育施設を訪問しレポート、授業内（第8回）で発表する（35%）

※課題の内容と発表方法は、授業内で詳しくお知らせします

・最終論述テスト：第14回に、授業内で論述試験を行います。（15%）

※持ち込み可、スマホPC使用不可

授業のねらいが「自分なりの考えを持つこと」なので、生成AIの使用防止のため

対面授業内で論述試験に取り組む

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評だったので、引き続き取り入れる。課題が多かった、文字制限が厳しかったという意見があったので改善する。

【学生が準備すべき機器他】

初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。

資料やお知らせは、WebClass経由で配布します。授業時間中にアクセスできるようにパソコンやスマホ・タブレットなども機器を準備してください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the Environmental Education, and Education for Sustainable Development(ESD). you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to explain the role and examples of Environmental Education and ESD.

【Learning activities outside of classroom Before/after】 each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Policies】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (35%), term-end examination (15%), and in-class contribution with comment sheet.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想（個人の自由と反差別）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに20世紀の思想を扱います。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑十次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。

単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	個人の自由と反植民地主義 (1)	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (1) : 『存在と無』と『嘔吐』を中心に (i)
第3回	個人の自由と反植民地主義 (2)	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (1) : 『存在と無』と『嘔吐』を中心に (ii)
第4回	個人の自由と反植民地主義 (3)	ライシテとフランス現代社会 (i)
第5回	個人の自由と反植民地主義 (4)	ライシテとフランス現代社会 (ii)

第6回	個人の自由と反植民地主義 (5)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (I) ——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) : 『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に (a)
第7回	個人の自由と反植民地主義 (6)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (I) ——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) : 『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に (b)
第8回	個人の自由と反植民地主義 (7)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (I) ——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) : 『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に (b)
第9回	個人の自由と反植民地主義 (8)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (I) ——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) : 『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に (c)
第10回	個人の自由と反植民地主義 (9)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (II) ——フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (a)
第11回	個人の自由と反植民地主義 (10)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (II) ——フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (b)
第12回	実存とフェミニズム (1)	実存・フェミニズム・老い——シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想 (1) : 『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に (a)
第13回	実存とフェミニズム (2)	実存・フェミニズム・老い——シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想 (1) : 『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に (b)
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100 %

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近現代社会哲学・思想（「規律と権力」、「記憶のエチカ、歴史のエチカ」）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期については、前半はミシェル・フーコーの思想を中心に、規律と権力の関係について考察します。後半は、私たちが、「記憶」と「歴史」をめぐる、過去の出来事を語るときにどのようなかたちで語るのか？、また、無数ある出来事と記憶とのどのような関係をもつのか？ などについて討究します。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第3回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（1）
第4回	権力と規律社会（3）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（2）
第6回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバールの市民権論
第7回	記憶と語り	長崎原爆の言説の変遷

第7回	全体主義批判と人間性の問題（1）	フランク・パプロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』などを中心に
第8回	全体主義批判と人間性の問題（2）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅰ）
第9回	全体主義批判と人間性の問題（3）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅱ）
第10回	全体主義批判と人間性の問題（4）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅲ）
第11回	全体主義批判と人間性の問題（5）	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』、『エルサレムのアイヒマン』
第12回	全体主義批判と人間性の問題（6）	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』
第13回	歴史的建造物の修復	ヴィオレ＝ル＝デュクの仕事
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

進捗と学生の理解度、双方を勘案して、シラバスの授業計画通りに進められるようにする。

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100 %

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学習の社会史A

山口 真里

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5061

科目名：学習の社会史A

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5061

科目名：学習の社会史A

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、歴史的にどのような「学び」を経験してきたのでしょうか。また、現在の「教育」や「学習」のありかたは、どのような経緯で形作られてきたのでしょうか。

この授業では、おもに西洋における「学び」の展開を時代背景や地域的な事情に照らしながら辿り、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。また、現代の「教育」や「学校」が直面する多くの問題が、それらの歴史とどのように関わっているのかを掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることにより、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】

- ・西洋における学びや教育の変遷を、背景にある歴史事象と共に理解する。
- ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業が中心ですが、必要に応じてオンラインで授業を行います。
- ・授業資料を提示しながら授業を進めます。
- ・授業内容の理解を深めるため、リアクションペーパーを実施します。提出されたリアクションペーパーは、次の授業で適宜コメントし、フィードバックします。
- ・講義中心ですが、授業に関わるテーマをグループでディスカッションし、他の受講生がどのように考察したのかを共有する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第2回	近代以前の子育てと 徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第3回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第4回	近代における子どもの 発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざし の変化
第5回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第6回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育

第7回	家庭、主婦の誕生と 子どもの教育	家庭における女性の位置づけと 教育の変容
第8回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第9回	近代学校の成立と子 どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第10回	民衆学校の進展と義 務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第11回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救 済事業 権利主体としての子どもと「子 どもの権利条約」
第12回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第13回	現代の子どもの学び と諸問題	多様化する家族と学校 子どもの学習における諸問題
第14回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業資料を用いて復習し、知識の定着を図ります。
- ・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
- ・本授業の学習準備・復習時間は各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、授業資料を提示します。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題60%、リアクションペーパー30%、授業への意欲・貢献・平常点10%を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の2/3以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からのフィードバックを重視し、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom使用）を受講するためのパソコン等、情報機器を準備してください。
- ・オンラインの授業およびグループ・ディスカッションは、カメラおよびマイクをONにできる環境で受講してください。
- ・授業についてのお知らせや資料配布・課題提出等に、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

In this course, we will trace the development of "learning" mainly in the West in the light of historical backgrounds and regional circumstance, and examine how schools as institutions for children's learning were established and developed.

In addition, we will delve into the many issues facing "education" and "schools" today and consider how these issues relate to history.

(Learning Objectives)

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

(Learning activities outside of classroom)

After each class, students will be expected to have completed the reaction paper. Your study time will be about four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports: 60%, Reaction papers: 30%, in class contribution: 10%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

学習の社会史B

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5062

科目名：学習の社会史B

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5062

科目名：学習の社会史B

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっているのかを考察する。

【到達目標】

授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史の基礎的な知識をベースとし、現代の教育問題と関連付けて考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

必要な資料は事前に学習支援システムで配布する。履修者は必要に応じて適宜ノートをとること。

授業内で課題提出を課すことがある。また、知識の定着を促すため、中間まとめの小テストを二度、課す。

課題提出は授業支援システムを通じて行う。課題や小テストに対するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。（オンデマンド）
第2回	教育制度と学歴	近・現代社会における教育の役割について、教育制度と学歴という観点から考える。 古代、中世、近世における諸制度と教育機関について振り返る。
第3回	学歴主義の誕生	立身出世主義、受験生をキーワードに、近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第4回	教育制度の成立過程と学校間格差	学校間の威信の格差について、学校教育制度の成立過程から考える。
第5回	中間まとめ①教育制度と学歴主義	小テストを実施し、その後、教育生徒と学歴主義に関する内容を復習する。
第6回	学校という場の権力性	学校が持つ規律訓練の力について考える。
第7回	試験と競争	学力や学歴をめぐる競争の仕組みの誕生について、試験制度を切り口に学ぶ。

第8回	学校の教育と村の教育	学校の教育と村の教育は何が異なっていたのか、考える。
第9回	中間まとめ②学校と試験	小テストを実施し、その後、学校と試験に関する内容を復習する。
第10回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第11回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第12回	女性にとっての成功	女性が学歴をめぐる競争にいかに関与されていったのかについて学ぶ。
第13回	女子の身体観をめぐる教育の葛藤	女子の制服と運動用制服の成立過程を通して、女子の身体観をめぐる学校教育の役割について考える。
第14回	まとめと試験	制度の成立は我々の学ぶという行為にどのような影響を及ぼしたのか、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定文献や配布資料の精読を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト40％、提出課題10％、試験50％

【学生の意見等からの気づき】

学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.

Learning Objectives: To be able to explain historical events using the concepts and theories learned in the class.

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: In-class review mini-test and assignment submission 50%, final report 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

コミュニティ社会論Ⅰ

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5085

科目名：コミュニティ社会論Ⅰ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5085

科目名：コミュニティ社会論Ⅰ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜他＞＜優＞＜ア＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通した異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

（１）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。

（２）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。

オンライン授業の場合、Zoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめて提出してもらいます。次の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第2回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第3回	性別役割分業の歴史の変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する

第4回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第5回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第6回	19世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第7回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第8回	官僚制の歴史の変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第9回	地理的世界の拡大とネットワークングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第10回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第3回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第11回	歴史と社会を見る目（１）	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第12回	歴史と社会を見る目（２）	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第13回	歴史と社会を見る目（３）	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第14回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70％）、平常点（30％）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.
- B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

アート・マネジメント論

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5089

科目名：アート・マネジメント論

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5089

科目名：アート・マネジメント論

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜他＞＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアートのな要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートの持つ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしるきを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。

なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。個別の質問等は随時教室内やメール等で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第2回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第2回	ポストコロナにおけるアートの現状と変化	ポストコロナにおける文化芸術の現状と変化について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第3回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。

第4回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第5回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第6回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第8回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第9回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第10回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実践について学ぶ。
第11回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第12回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこの課題や問題点を学ぶ。
第13回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。
第14回	授業のまとめ・最終課題 説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールド活動の際に、入場料などの費用が若干かかる可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布したり読むべきリンク先を指示したりします。

【参考書】

『アーツ・マネジメント概論三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）

『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（45％）と最終課題（55％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

美術、デザイン、舞台芸術、様々なアートにかかわる事象を紹介しながら学んでいきます。また、授業内のゲストは、皆さんの関心に応じて決定していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

- Learning activities outside of the classroom : Students will be expected to research art sites such as museums, theatres, live music venues, music festivals and local art projects and conduct field research on various aspects of art and its challenges in contemporary Japan. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on regular marks such as in-class short reports and assignment reports (45%), and the final assignment (55%).

PSY300MA (心理学 / Psychology 300)

産業・組織心理学Ⅱ

今城 志保

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：金1/Fri.1 | 配当年次：2025年度以降入学者：3～4
 2024年度以前入学者：2～4年
 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
 授業コード：C5110
 科目名：産業・組織心理学Ⅱ
 ＜2024年度以前入学者＞
 授業コード：C5110
 科目名：産業・組織心理学Ⅱ
 ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を考えられるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で、学んだ概念を用いることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。授業の中で、オンラインのアンケートフォームを用いて、概念の確認や自分の考えを深めるために、数項目の質問に回答していただきます。回答内容については、適宜次の授業の中で、フィードバックを行います。また、アンケートフォームでは任意の質問を記入できますので、そこに質問が記入された場合は、翌授業回の冒頭に、全体に対して回答を行います。7回目か8回目の授業で、グループ課題をお知らせします。グループ課題は、原則授業外の時間を使って進めていただきます。最終日に、グループ課題をまとめたレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリアに関する主な理論を学びます
第3回	キャリアを理解する②	日本企業のホワイトカラーのこれまでの典型的なキャリアと今後の可能性について考えます
第4回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第5回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第6回	ダイバーシティ①	ダイバーシティに関する理論や研究知見を紹介します

第7回	ダイバーシティ②	比較文化心理学の知見を用いて、文化の異なる人とともに働くことについて考えます
第8回	ダイバーシティ③	女性のキャリアについて考えます
第9回	ダイバーシティ④	高齢者就労について考えます
第10回	職場の学習・職場以外の学習①	大人の学びについて考えます
第11回	職場の学習・職場以外の学習②	企業における研修や能力開発について、紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習③	経験学習について考えます
第13回	予備	上記の授業での積み残しや遅れを回収するための時間にあてます
第14回	グループ課題の発表	各グループから口頭で、グループ課題について、報告していただきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP新書
 守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫
 外島 裕・田中 堅一郎 産業・組織心理学エッセンシャルズ 2019
 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中のアンケートで60％、グループ課題で作成したレポートとその発表の評価を40％とします。なお、グループ課題については、自身と他のメンバーの課題への貢献度合いを申告してもらい、それを加味したうえで、グループ課題の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

Students will study major topics in industrial/organizational psychology. Psychology II will focus specifically on career-related areas and human resource management.

The three objectives of this class are as follows.

- (1) To understand the main concepts of industrial/organizational psychology and to be able to think about various organizational problems using these concepts.
- (2) To be able to understand the impact of various HR practices on employees.
- (3) To be able to use the concepts learned in considering one's own career.

Take an interest in the environment surrounding our careers. Read widely newspaper and magazine articles on careers, "working," and "human resource management." Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The evaluation will be based on a questionnaire given in each class (60%) and a report and presentation on a group assignment (40%). For group assignments, I will ask each student to report the degree of their own and other members' contribution to the assignment, which will be taken into account in the evaluation of the group assignment.

MAN300MA（経営学 / Management 300）

キャリア開発論

高崎 美佐

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
 ～4 2024年度以前入学者：2～4年
 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
 授業コード：C5111
 科目名：キャリア開発論
 ＜2024年度以前入学者＞
 授業コード：C5111
 科目名：キャリア開発論
 ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、キャリアに関する理論の基礎を学びつつ、企業側の人材開発（HRD）や人事管理のメカニズムの中で、個人のキャリアがどのように開発・形成されるのかを考えます。「会社に入れば一生安泰」という時代は終わり、「人生100年」となり、働く期間は長期化しています。

そういった環境の変化の中で、従来のように組織にキャリアをゆだねるだけでなく、自律的にキャリアを形成していくことが求められるようになってきています。

本講義では、個人のキャリアという視点だけでなく、社会や雇用の仕組みとともに学ぶことで、より実態に即したキャリア開発の視点を身に付けることを目指します。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- ①キャリアに関する基礎的な理論や知識の習得し、働くことと関連させて考えられる
- ②個人のキャリア開発においての日本型雇用システムのメリットとデメリットを説明できる
- ③個人のキャリア開発に関する課題を発見し、それをマネジメントし解決する方法がわかる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発関連した理論等の概説や講義を中心に進めますが、ディスカッションや発表も取り入れることがあります。授業中にミニレポートを書いていただく等によって出席確認をします。ミニレポートの内容は、授業中などに全体に対してフィードバックすることがあります。

使用する資料等は、「学習支援システム」において事前に提供します。授業に出席する際には、事前に目を通し、必要に応じてご自身で準備をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、オリエンテーション。 キャリア開発と人材開発	講義の進め方と評価方法を理解する。キャリア開発と人材開発の違いを学ぶ。（テキスト第1章）
第2回	キャリア開発に関する理論	主要なキャリア理論を学ぶ。（テキスト第1章）

第3回	日本型雇用と個人のキャリア	日本型雇用の特徴を把握し、個人のキャリア開発への影響を考える。キャリア開発の主体についての考え方を整理する。（テキスト第2・3章）
第4回	キャリア自律	キャリア自律の考え方について学び、支える仕組みについて知る。（テキスト第4章）
第5回	大学から社会への移行	大学までの学びと就職後のキャリア形成について学ぶ
第6回	ライフイベントとキャリア	結婚・出産等の転機と、キャリア継続の課題を整理する（テキスト第8章）
第7回	仕事と生活の両立とキャリア	仕事と生活の両立によってキャリア継続を支える法制度や、企業の具体的な支援策を理解する。（テキスト第9・10章）
第8回	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題について考える。（テキスト第7章）
第9回	多様な人材を活かす	多様な人材を活かす、ダイバーシティ経営について学ぶ。（テキスト第5章）
第10回	正社員の多元化とそのキャリア	正社員の働き方の現状、限定正社員等多元化の動向、勤務地政策の現状について学ぶ。（テキスト第9章）
第11回	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題を知る。（テキスト第11章）
第12回	管理職と専門職	組織内での昇進や、専門性を追求するキャリアの存在とその違いを理解する。
第13回	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処について知る（テキスト第12章）
第14回	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。事前にテキスト（教科書）や資料に目を通して授業に臨んでください。また、キャリア開発に関する企業事例やトピックスの収集も行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（第2版）』（中央経済社）です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果60%と、平常点（授業への主体的な参加、ミニレポート等の提出やその内容）40%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

各回の内容は、進捗状況などに応じて、変更・調整する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The learning objectives for this course are as follows:

- ① Acquire fundamental theories and knowledge about careers and be able to relate them to working life
- ② Explain the advantages and disadvantages of the Japanese employment system in the context of individual career development
- ③ Identify challenges in individual career development and understand methods to manage and resolve them

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

SOC300MA (社会学 / Sociology 300)

コミュニティ社会論Ⅱ

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
 ～42024年度以前入学者：2～4年
 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
 授業コード：C5115
 科目名：コミュニティ社会論Ⅱ
 ＜2024年度以前入学者＞
 授業コード：C5115
 科目名：コミュニティ社会論Ⅱ
 ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
 その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。

オンライン授業におけるZoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第2回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する

第3回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第4回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第5回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第4回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第6回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第7回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第6回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第8回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第9回	社会史的視点（1）	19世紀末から20世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第10回	社会史的視点（2）	20世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第11回	社会史的視点（3）	戦後の流行歌を取り上げ、大衆の生活の様相について理解する
第12回	社会史的視点（4）	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる
第13回	歴史と社会の再生産	第12回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第5回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第14回	まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思っています。

【Outline (in English)】

(Course outline)

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

上西 充子、梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5298

科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-
＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5298

科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン（労働組合）リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	【オリエンテーション】 労働組合とは何か	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する
第2回	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 (2025年度ゲストは教育文化協会)
第3回	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。(2025年度ゲストは生保労連)
第4回	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらう。(2025年度ゲストは伊藤ハム米久労働組合)
第5回	【ケーススタディ③】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差は正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。 (2025年度ゲストは自治労)
第6回	【ケーススタディ④】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 (2025年度ゲストはKDDI労働組合)
第7回	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに生き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 (2025年度ゲストは全労金)

第8回	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。サブライヤーを多く抱える中小企業労組が働く者の労働条件改善に向けてどのような取り組みを実施しているのか、事例を聞き、理解してもらう。 またJAMで働く若手職員とのグループディスカッションを通じて、現場の実態について理解を深める。(2025年度ゲストはJAM。若手職員を含めたグループディスカッションあり)。
第9回	【課題への対応①】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割とワークルールの重要性について理解してもらう。(2025年度ゲストは連合総合組織局)
第10回	【課題への対応②】 働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。(2025年度ゲストは連合 労働条件・中小地域対策局)
第11回	【課題への対応③】 あらゆるハラスメントの根絶に向けた労働組合の取り組み	セクハラ・パワハラをはじめとするあらゆるハラスメントは人権をも脅かす重大な問題であり、誰もがいきいきと働き続けられる社会の実現に向けてはあらゆるハラスメントの根絶が必要不可欠である。あらゆるハラスメントの根絶に向けて労働組合がどのような取り組みを実施しているのか、連合もしくは産別の取り組みを聞き、その重要性を理解してもらう。(2025年度ゲストは連合 ジェンダー平等・多様性推進局)
第12回	【課題への対応④】 国際労働運動の役割 ～グローバリゼーションへの対応～	進行するグローバリゼーションに労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関の役割や、多国籍企業問題に対する取り組み、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割・取り組みについて考えてもらう。(2025年度ゲストはITUC)
第13回	【修了講義】 連合運動の現在と未来 ～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。(2025年度ゲストは連合事務局)
第14回	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	担当教員が、ケーススタディー「働くということ」と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全14回の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】

授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定していませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association.

Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples.

Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace.

In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

【Learning Objectives】

Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.

They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class contributions (including comments): 50%

Term-end report: 50%.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5299

科目名：就業応用力養成 I

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5299

科目名：就業応用力養成 I

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を確認し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の理解・修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

※「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
⇒組織を効率よく運営参画するスキル
⇒社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
⇒データの収集（質問票調査）を行う定量調査スキル
⇒フィールドワークによる定性調査スキル
⇒定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
⇒共感・質問・提言する個別対人スキル
⇒カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
⇒社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
⇒チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
⇒モチベーション・マネジメント
⇒4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
⇒キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
⇒自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
⇒暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
⇒メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（レポート&プレゼンテーション）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

※受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
第2回	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレインストーミング
第3回	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
第4回	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
第5回	ビジネス事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業 ・株主重視経営 ・MBA
第6回	ビジネス事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
第7回	社会人ケーススタディ－1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
第8回	食品関連業界事例研究 世界に通用するBtoB技術 知られざる世界の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
第9回	文房具旅行用品業界事例研究 モノづくりの魅力 企業提案ワーク ショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
第10回	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ

第11回	社会人ケーススタ ディー2 20代のキャリア形成 副業・兼業・越境 学習 コンサルティング業 界とは	新しい就労形態 ・パラレルキャリア ・進路の意志決定 ・大学生活とビジネスの接続
第12回	プロジェクトベース ラーニング（PB L）-2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
第13回	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
第14回	プロジェクトベース ラーニング（PB L）-3 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

- ・「大学とは何か」吉見俊哉（岩波新書）
- ・「論文・レポートの基本」石黒圭、日本実業出版社
- ・「大学生のためのレポート・論文の書き方」石井一成、ナツメ社
- ・「スマホ脳」アンデシュ・ハンセン（新潮新書）

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容）⇒30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒30点
- ・授業期間中レポート⇒20点
- ・期末レポート⇒20点

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、学習支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。

PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。

＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。

＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

(Learning Objectives)

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

(Learning Activities Outside of Classroom)

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Grade score

- ・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks / contribution in group work) ⇒ 30 points
- ・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
- ・ Report during class period ⇒ 20 points
- ・ Term-end report ⇒ 20 points

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5300

科目名：就業応用力養成Ⅱ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5300

科目名：就業応用力養成Ⅱ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜他＞＜優＞＜実＞＜未＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組めます。

未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。

アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりますが、グループワークを中心に、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アカデミックスキル 大学生で学べきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
第2回	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル	応談スキル ・カウンセリング ・コーチング
第3回	共感・質問・提案 法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
第4回	ライフスタイル 研究－1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
第5回	21世紀の生き方へ ライフスタイル 研究－2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
第6回	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
第7回	課題レポート&プレゼンテーション－1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
第8回	ライフスタイル 研究－3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
第9回	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力（ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
第10回	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
第11回	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
第12回	人生の3つのカーブ 文庫・統計・フィールドワークのデータ	世代別の課題 ・J字カーブ（20代） ・M字カーブ（30代） ・X字カーブ（40代）

第13回	課題レポート&プレゼンテーション-2 法政大学の実践知とは	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
第14回	授業総括 課題発表ふりかえり	アカデミックスキル確認 ・受講生講評・プレゼンテーション力 ・課題確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
- ・統計学や社会調査の素養があると有効です。

＊春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

- ・「大学とは何か」吉見俊哉（岩波新書）
- ・「リーダーシップの心理学」國分康孝、講談社新書
- ・「性格スキル」鶴光太郎 祥伝社新書
- ・「成功するプレゼンテーション」箱田忠明、日本経済新聞社
- ・「ファシリテーターの道具箱」森時彦、ダイヤモンド社
- ・「スマホ脳」アンデシュ・ハンセン（新潮新書）

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容）⇒30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒30点
- ・グループワークでの貢献度⇒20点
- ・期末レポート⇒20点

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立つとのことでした。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、学習支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。

大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。

＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。

＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

(Learning Objectives)

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

(Learning Activities Outside of Classroom)

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 20 points

・ Term-end report ⇒ 20 points

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

AGC300YA（農芸化学 / Agricultural chemistry 300）

食品科学

三浦 豊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持てるようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学 1	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学 2	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学 3	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学 4	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学 5	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学 1	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学 2	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントを用いて行うが、講義資料は学習支援システムを介して配布する。

【参考書】

「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－ 小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、中間テスト（30%）、期末テスト（60%）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】

Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.

For this lecture, a work outside of class is not needed particularly, but the content of the lecture may be familiar for you and your daily life. So, the knowledge you will get in the lecture may be anticipated to be applicable for your healthy life.

For grading, your attitude in the class (10%), midterm test (30%), and final test (60%) will be evaluated. Both the midterm test and the final test will assess the level of understanding of the lecture content.

BME300YB (人間医工学 / Biomedical engineering 300)

医用生体工学

金子 智行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

【到達目標】

生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメージング技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルに応じてオンライン(Zoom)でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第2回	顕微鏡と顕微操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第3回	脂質とリボソーム	脂質膜やリボソームの形成法、安定性
第4回	リボソームの応用技術	リボソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第5回	細胞の再構築	リボソーム内タンパク質発現や機能性リボソーム
第6回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第7回	中間テストの解説	中間テスト-1の解説と結果に基づいた補足
第8回	微細加工技術	光リソグラフィ、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第9回	ES細胞・iPS細胞	ES細胞やiPS細胞を中心とした幹細胞やMuse細胞などの最新のトピックス
第10回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第11回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第12回	再生医療	最新の再生医療技術について
第13回	中間テスト-2	中間テスト-1以降の理解到達度確認
第14回	中間テストの解説	中間テスト-2の解説と結果に基づいた補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験30％・中間試験(1と2)20％・発表点30％・平常点20％の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

【その他の重要事項】

学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine.

The goals of this course are to understand the basics of biochemistry, molecular cell biology, and biophysics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short presentation (30%), and in class contribution (20%).

COT211KA-CS-205 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング(MATLAB)

伊藤 克亘

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／4単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルメディアの代表的データである画像や音声をコンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようにすることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどのような特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「デジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

科目名には、MATLAB とあるが、python(numpy) も対象とする。

【到達目標】

3年次や卒業研究で、デジタル信号処理が必要になったときに MATLAB(もしくは python) で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB(もしくは python) でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようになる。

数式やアルゴリズムを示されただけで、どのような結果になるか、想像できるようになる。

MATLAB または Python を用いて基本的な音声・画像処理を実装できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。

課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。

最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、最終課題のレポートに関しては、第1版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス /MATLAB(numpy) 入門	授業の目的の説明、および MATLAB(numpy)の紹介
2	簡単な音声処理(音声 の時間領域処理)	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFTの使用方法和音声の周波数処理
5	フィルタ(音声の時間 領域処理)	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFTを用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性

9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類
13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき予習2時間、復習2時間、課題4時間を標準とする。

準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

MATLAB の場合

書名: MATLABで学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2019

python の場合

書名: Pythonで学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2018

【参考書】

書名: はじめての画像処理技術

著者名: 岡崎

出版社: 工業調査会

出版年: 2000

MATLAB Documentation (MathWorks公式オンラインマニュアル)

MATLAB Copilot (MathWorks公式AI支援機能)

【成績評価の方法と基準】

成績は、原則として定期試験(50%)および最終課題(50%)により評価する。

これに加えて、授業への積極的な参加、発表、課題への取り組み状況等を評価し、必要に応じて最大20%の範囲で成績に反映することがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノートPCを利用することを前提とする。演習は貸与PCを利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

FFTの知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学2」を並行して履修することを勧める。

また、受講希望者のうち MATLAB 希望者は、第1回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2025a をインストールすること。もしくは、MATLAB Online を利用することもできる。

<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>

https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB_manual.pdf

この授業に必要な Toolbox は、

Image Processing Toolbox
Signal Processing Toolbox
Statistics and Machine Learning Toolbox
である。

python の場合は、google colab を利用することを強く勧める。
本講義の内容は担当教員の通商産業省工業技術員電子技術総合研究所での音声・知能情報処理に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by ourselves. Most of these methods are based on mathematics. As an introduction, to getting used to programming using mathematical algorithms, this lecture is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing, and speech processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours.

Final grades will be primarily based on a term-end examination (50%) and a final project (50%).

Active participation in class, presentations, and assignments may also be reflected in the final grade, up to 20% if necessary.

COT211KA-CS-106 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング演習1(python)

伊藤 克亘

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Pythonを用いたデータ分析を題材として、プログラムや分析結果を読み取り、その意味、前提および限界を理解したうえで説明できる能力を養うことを目的とする。単にプログラミング技法を習得することにとどまらず、生成AIを補助的な道具として活用しながら、分析結果を根拠として判断し、他者に分かりやすく伝える力の育成を重視する。

本授業は、情報科学部における情報技術を社会課題や実データに応用する能力、専門の内容を他者に分かりやすく伝える能力の育成を目的とする。

あわせてデータを根拠として考え、判断し、説明する力は、学部・専門分野を問わず重要な基礎的能力であり、本授業を通じてその習得を目指す。

【到達目標】

本授業の修了時に、受講者は以下を達成することを目標とする。

1. Pythonによるデータ分析スクリプトの処理内容を、日本語で説明できる
2. 分析結果から言えること・言えないことを区別して整理できる
3. 生成AIを補助的な道具として活用しつつ、自身の判断を言語化できる
4. 技術的背景の異なる他者に対して、分析結果の意味や注意点を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」、「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面およびオンラインを併用したハイブリッド形式で実施する。

各回の授業は、以下を基本構成とする。

- 教科書および配布資料に基づく内容確認
- スクリプトや分析結果を「読む力」を確認する小テスト
- 課題および発表を通じた分析結果の解釈・説明

課題では、受講者が「開発側（実装や仕組みを説明する立場）」または「分析・企画側（結果を解釈し判断につなげる立場）」の役割を自己申告で選択し、それぞれの視点から取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業の考え方	本授業の目的、進め方、評価方法および生成AIの利用方針について説明する。 教科書の位置づけと、データ分析における役割(開発/分析・企画)の考え方を共有する。 (教科書：第1章)

2	データの基礎的な扱い	数値データおよび文字データの特徴を理解し、データの型や構造が分析に与える影響を学ぶ。スクリプトを「書く」だけでなく「読む」ことを通じて処理内容を確認する。 (教科書:第2章)
3	代表値と分布	平均やヒストグラムを用いて、データの特徴を要約する方法を学ぶ。 数値結果そのものではなく、代表値の選択や分布の解釈に重点を置く。 (教科書:第3章)
4	相関と回帰	相関係数および回帰分析を通じて、データ同士の関係性を調べる方法を学ぶ。 相関と因果の違い、回帰モデルの前提や限界について理解する。 (教科書:第4章・第5章の一部)
5	クラスタリング	クラスタリングを用いて、データの特徴に基づいて分類する考え方を学ぶ。 分類結果の解釈や、手法選択の妥当性について検討する。 (教科書：第6章)
6	予測モデル(1):決定木	決定木による予測モデルの考え方を学ぶ。 モデルの構造や説明しやすさ、過学習の問題について理解する。 (教科書:第7章)
7	予測モデル(2):ランダム・フォレスト	ランダム・フォレストを用いた予測手法を扱う。 精度向上と説明性のトレードオフについて考察する。 (教科書:第8章・第9章)
8	施策効果と因果推論	傾向スコア・マッチングを通じて、施策の効果を評価する考え方を学ぶ。 観察データを用いた因果推論の難しさと注意点を理解する。 (教科書:第10章)
9	テキストデータ分析	形態素解析を用いて文章データを扱う方法を学ぶ。 テキストを数値化する際に失われる情報や解釈上の注意点を確認する。 (教科書:第14章)
10	実データ分析の考え方・最終課題告知	教科書データ以外の実データを扱う際の注意点を説明する。 最終課題の内容、進め方および評価基準について説明する。
11	最終課題:分析設計・相談	最終課題に向けて、データ選択や分析計画の妥当性を検討する。 教員およびTAによる個別相談を行う。

12	最終課題：復習・重点指導(1)	最終課題の進捗状況を踏まえ、受講者が共通してつまづきやすい点について復習および補足説明を行う。 実データの扱い方、分析結果の解釈、記述上の注意点などについて整理し、最終課題の完成度向上を図る。
13	最終課題：復習・重点指導(2)	前回に引き続き、最終課題に関連する内容について復習および重点指導を行う。 分析計画の妥当性、結果の言語化、過度な一般化を避けるための注意点などを確認し、必要に応じて途中経過の共有を行う。
14	レポート講評・発表・最終版作成指示	事前提出されたレポートを基に、構成や記述上の注意点を解説する。 指摘を踏まえて成績評価用の最終版レポート作成を促す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、各回の授業に対して、授業時間外に1回あたりおおむね4時間程度の学習を想定する。
その内訳は以下のとおりである。

- 準備学習（約1時間）

教科書の該当章および配布資料を事前に読み、授業で扱う分析手法や用語の概要を把握する。

- 復習（約1時間）

授業内で扱ったスクリプトや分析結果について、処理内容や前提条件、解釈上の注意点を振り返る。

- 小テスト・課題への取り組み（約1時間）

Moodle等を用いた小テストや課題に取り組み、スクリプトを「読む力」および分析結果の理解を確認する。

- 最終課題に向けた作業（約1時間）

実データの収集・確認、分析計画の検討、レポート作成および修正作業を段階的に進める。

これらの学習を通じて、授業内で扱った内容の理解を深めるとともに、最終課題に必要な分析力および説明力の習得を目指す。

【テキスト（教科書）】

書名: 文系のための Python データ分析

著者名: 友原章典

出版社: 有斐閣

出版年: 2024

価格: 2100円

オリジナルオンライン資料

【参考書】

資料名: データサイエンス・スクール 上級者向けテキスト

著者名: 総務省統計局

URL: <https://www.stat.go.jp/dss/getting/pdf/upper.pdf>

価格: 無料

そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下を総合的に評価する。

- 小テスト（読む力の確認・一部自動採点）：約35%

- 課題および最終レポート（分析内容・解釈・説明）：約50%

- 授業内活動・発表への参加：約15%

授業内発表については、内容の正確さではなく参加そのものを評価対象とする。

プログラムが完全に書けるかどうかや、数値結果の正確さのみで評価することはない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC(受講場所インターネット接続ができるもの)が望ましいが、タブレットでも、次の条件を満たすものであれば構わない。

授業では、ブラウザ上のクラウドサービスである google colab を使って演習を行うので、それが実行できる環境が必要。

【その他の重要事項】

- プログラムの、説明力・応用力を求める

- 生成AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用は認めるが、AIの出力をそのまま提出することは評価しない

- 小テストおよび課題には、授業内外での継続的な取り組みが必要である

本授業は、情報系・非情報系の学生が混在して履修することを想定している。

プログラミング経験の有無に関わらず、データを理解し、説明し、判断に活用する力の習得を重視する。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course introduces data analysis using Python, focusing on reading, interpreting, and explaining analysis results rather than only writing code.

Students learn how to understand assumptions, limitations, and implications of data analysis methods, and how to communicate insights based on data.

The course includes quizzes, assignments, presentations, and a final project using real-world datasets.

Learning Objectives

By the end of the course, students will be able to:

1. Explain the purpose and process of Python-based data analysis scripts in their own words.

2. Interpret analysis results and distinguish between valid conclusions and overstatements.

3. Use generative AI tools as supportive aids while maintaining their own judgment and reasoning.

4. Communicate data analysis results clearly to audiences with different technical backgrounds.

Learning Activities Outside of the Classroom

Students are expected to:

- Review textbook chapters and supplementary materials before and after each class.

- Complete online quizzes to confirm their understanding of scripts and concepts.

- Work on assignments and a final project, including data selection, analysis, and report writing.

- Revise their reports based on feedback from presentations and instructor comments.

Grading Criteria / Policy

Final grades are determined based on the following components:

Quizzes (including automatically graded quizzes): approximately 35%

Assignments and final report (analysis, interpretation, and explanation): approximately 50%

In-class activities and participation, including presentations: approximately 15%

Presentations are evaluated based on participation rather than correctness of content.

Grades are not determined solely by programming accuracy or numerical results.

Notes

Students with and without prior programming experience are welcome.

The use of generative AI tools such as ChatGPT or Gemini is permitted; however, submitting AI-generated outputs without personal interpretation will not be evaluated positively.

MAT247KA-GMP-351 (数学 / Mathematics 200)

フーリエ級数と変換

秋野 喜彦

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声や画像の信号を振動数ごとに分解・再構築する手法の基本となるフーリエ級数やフーリエ変換を学びます。応用上で重要な離散フーリエ変換についても基本を理解します。

【到達目標】

フーリエ級数とフーリエ変換に親しみ、さらに離散フーリエ変換の特徴を理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

現象を数式を用いて扱う能力を養うため、講義だけでなく自ら問題を解くようにしてもらいます。さらに、毎回課題を解き・提出してもらいます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。また課題や試験問題の中から、理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックしていきます。

「微積分法の基礎」の単位取得が前提となります。数学の道具立てを使いこなせるようになるため、出される課題に正面から取り組むことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No.1	【周期現象と三角関数】	周期現象を表すための基本である三角関数の性質を復習します。とくにサイン・コサインの直交性と呼ばれる関係が重要です。
No.2	【フーリエ三角級数の定義と基本的な性質】	サインとコサインの重ね合わせで表され周期関数のバラエティに注目します。逆に、周期関数をサインとコサインに展開するフーリエ三角級数を定義します。サインとコサインを使う意味を考えます。
No.3	【フーリエ三角級数の計算例】	フーリエ三角級数の具体例を見ます。振動数スペクトルについて理解します。
No.4	【複素指数関数と複素フーリエ級数の定義】	複素平面の使いかた、複素指数関数の定義と基本的な性質（直交性、微積分）、サイン・コサインとの関係を復習します。フーリエ三角級数と複素フーリエ級数の関係を理解します。
No.5	【複素フーリエ級数の例】	複素フーリエ級数の計算例を見ていきます。
No.6	【複素フーリエ級数の性質】	パーセバルの等式、ギブス現象、一様収束と平均収束など。
No.7	【フーリエ変換の定義】	周期が無限大の極限でフーリエ係数がどのように変化するかを観察し、フーリエ変換と逆変換を定義します。フーリエ変換の意味を理解します。

No.8	【フーリエ変換の例】	サイン・コサイン、単一パルス、指数関数、ガウス関数のフーリエ変換を計算します。
No.9	【フーリエ変換の性質】	実部と虚部の意味、変数をシフトした影響、導関数のフーリエ変換など。δ関数や階段関数にも注意します。
No.10	【フーリエ変換の応用】	微分方程式の解法と畳み込み積分の計算を学びます。
No.11	【系の応答特性】	線形系と時不変系のインパルス応答と周波数応答
No.12	【離散フーリエ変換の定義】	波形のサンプリングとデータから復元できる波形について学びます。DFTの定義を導入します。
No.13	【離散フーリエ変換の性質】	周期、対称性、直交性など、実際に計算して理解します。
No.14	【離散フーリエ変換とフーリエ変換】	DFTをフーリエ変換によりシミュレートし、DFTについて理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は、学習支援システムあるいは講義時間中に指示します。

なお、本授業の準備・復習・課題等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

フーリエ解析（理工系の数学入門）大石進一著 岩波書店

また必要に応じて学習支援システムを通じて資料を配布します。

【参考書】

フーリエ解析に関する一般的な書籍であれば参考になります。入門書の例として以下を挙げておきます。

・すぐわかるフーリエ解析 石村園子著 東京図書

【成績評価の方法と基準】

課題（15％）・授業内ミニテスト（15％）・中間試験（20％）、および期末試験（50％）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

音声・画像処理など情報科学の応用を目指すときに基本となる内容を学びます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class, we will study Fourier series and Fourier transform, which are the basis of deconstructing and reconstructing the sounds and image signals. Basics of discrete Fourier transform, which is an important tool for real applications, will also be explained.

【Learning Objectives】

To be familiar with Fourier series, Fourier transform, and discrete Fourier transform, and to understand how to use those in real problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Four hours will be your standard study time for this class.

【Grading Criteria/Policies】

Overall grade in this class will be decided based on the followings;

Assignments: 15%, Quizzes in each class: 10%,

Mid-term examination: 25%, Final examination: 50%

COT211KA-CS-106 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング演習1(python)

伊藤 克亘

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Pythonを用いたデータ分析を題材として、プログラムや分析結果を読み取り、その意味、前提および限界を理解しうえて説明できる能力を養うことを目的とする。単にプログラミング技法を習得することにとどまらず、生成AIを補助的な道具として活用しながら、分析結果を根拠として判断し、他者に分かりやすく伝える力の育成を重視する。データを根拠として考え、判断し、説明する力は、学部・専門分野を問わず重要な基礎的能力であり、本授業を通じてその習得を目指す。

【到達目標】

本授業の修了時に、受講者は以下を達成することを目標とする。

1. Pythonによるデータ分析スクリプトの処理内容を、日本語で説明できる
2. 分析結果から言えること・言えないことを区別して整理できる
3. 生成AIを補助的な道具として活用しつつ、自身の判断を言語化できる
4. 技術的背景の異なる他者に対して、分析結果の意味や注意点を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」、「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面およびオンラインを併用したハイブリッド形式で実施する。

各回の授業は、以下を基本構成とする。

- 教科書および配布資料に基づく内容確認
- スクリプトや分析結果を「読む力」を確認する小テスト
- 課題および発表を通じた分析結果の解釈・説明

課題では、受講者が「開発側（実装や仕組みを説明する立場）」

または

「分析・企画側（結果を解釈し判断につなげる立場）」

の役割を自己申告で選択し、それぞれの視点から取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業の考え方	本授業の目的、進め方、評価方法および生成AIの利用方針について説明する。 教科書の位置づけと、データ分析における役割(開発/分析・企画)の考え方を共有する。 (教科書：第1章)
2	データの基礎的な扱い	数値データおよび文字データの特徴を理解し、データの型や構造が分析に与える影響を学ぶ。 スクリプトを「書く」だけではなく「読む」ことを通じて処理内容を確認する。 (教科書：第2章)

3	代表値と分布	平均やヒストグラムを用いて、データの特徴を要約する方法を学ぶ。 数値結果そのものではなく、代表値の選択や分布の解釈に重点を置く。 (教科書：第3章)
4	相関と回帰	相関係数および回帰分析を通じて、データ同士の関係性を調べる方法を学ぶ。 相関と因果の違い、回帰モデルの前提や限界について理解する。 (教科書：第4章・第5章の一部)
5	クラスターリング	クラスターリングを用いて、データの特徴に基づいて分類する考え方を学ぶ。 分類結果の解釈や、手法選択の妥当性について検討する。 (教科書：第6章)
6	予測モデル(1): 決定木	決定木による予測モデルの考え方を学ぶ。 モデルの構造や説明しやすさ、過学習の問題について理解する。 (教科書：第7章)
7	予測モデル(2): ランダム・フォレスト	ランダム・フォレストを用いた予測手法を扱う。 精度向上と説明性のトレードオフについて考察する。 (教科書：第8章・第9章)
8	施策効果と因果推論	傾向スコア・マッチングを通じて、施策の効果を評価する考え方を学ぶ。 観察データを用いた因果推論の難しさや注意点を理解する。 (教科書：第10章)
9	テキストデータ分析	形態素解析を用いて文章データを扱う方法を学ぶ。 テキストを数値化する際に失われる情報や解釈上の注意点を確認する。 (教科書：第14章)
10	実データ分析の考え方・最終課題告知	教科書データ以外の実データを扱う際の注意点を説明する。 最終課題の内容、進め方および評価基準について説明する。
11	最終課題: 分析設計・相談	最終課題に向けて、データ選択や分析計画の妥当性を検討する。 教員およびTAによる個別相談を行う。
12	最終課題：復習・重点指導(1)	最終課題の進捗状況を踏まえ、受講者が共通してつまづきやすい点について復習および補足説明を行う。 実データの扱い方、分析結果の解釈、記述上の注意点などについて整理し、最終課題の完成度向上を図る。

- 13 最終課題：復習・重点指導(2) 前回に引き続き、最終課題に関連する内容について復習および重点指導を行う。
分析計画の妥当性、結果の言語化、過度な一般化を避けるための注意点などを確認し、必要に応じて途中経過の共有を行う。
- 14 レポート講評・発表・最終版作成指示 事前提出されたレポートを基に、構成や記述上の注意点を解説する。
指摘を踏まえて成績評価用の最終版レポート作成を促す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、各回の授業に対して、授業時間外に1回あたりおおむね4時間程度の学習を想定する。
その内訳は以下のとおりである。

- 準備学習（約1時間）

教科書の該当章および配布資料を事前に読み、授業で扱う分析手法や用語の概要を把握する。

- 復習（約1時間）

授業内で扱ったスクリプトや分析結果について、処理内容や前提条件、解釈上の注意点を振り返る。

- 小テスト・課題への取り組み（約1時間）

Moodle等を用いた小テストや課題に取り組み、スクリプトを「読む力」および分析結果の理解を確認する。

- 最終課題に向けた作業（約1時間）

実データの収集・確認、分析計画の検討、レポート作成および修正作業を段階的に進める。

これらの学習を通じて、授業内で扱った内容の理解を深めるとともに、最終課題に必要な分析力および説明力の習得を目指す。

【テキスト（教科書）】

書名: 文系のための Python データ分析

著者名: 友原章典

出版社: 有斐閣

出版年: 2024

価格: 2100円

オリジナルオンライン資料

【参考書】

資料名: データサイエンス・スクール 上級者向けテキスト

著者名: 総務省統計局

URL: <https://www.stat.go.jp/dss/getting/pdf/upper.pdf>

価格: 無料

そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下を総合的に評価する。

- 小テスト（読む力の確認・一部自動採点）：約35%

- 課題および最終レポート（分析内容・解釈・説明）：約50%

- 授業内活動・発表への参加：約15%

授業内発表については、内容の正確さではなく参加そのものを評価対象とする。

プログラムが完全に書けるかどうかや、数値結果の正確さのみで評価することはしない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC(受講場所でインターネット接続ができるもの)が望ましいが、タブレットでも、次の条件を満たすものであれば構わない。

授業では、ブラウザ上のクラウドサービスである google colab を使って演習を行うので、それが実行できる環境が必要。

【その他の重要事項】

- プログラミング未経験者の履修を妨げない

- Pythonの経験がある学生には、説明力・応用力を求める

- 生成AI (ChatGPT, Gemini 等) の利用は認めるが、

AIの出力をそのまま提出することは評価しない

- 小テストおよび課題には、授業内外での継続的な取り組みが必要である

本授業は、情報系・非情報系の学生が混在して履修することを想定している。

プログラミング経験の有無に関わらず、データを理解し、説明し、判断に活用する力の習得を重視する。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course introduces data analysis using Python, focusing on reading, interpreting, and explaining analysis results rather than only writing code.

Students learn how to understand assumptions, limitations, and implications of data analysis methods, and how to communicate insights based on data.

The course includes quizzes, assignments, presentations, and a final project using real-world datasets.

Learning Objectives

By the end of the course, students will be able to:

1. Explain the purpose and process of Python-based data analysis scripts in their own words.

2. Interpret analysis results and distinguish between valid conclusions and overstatements.

3. Use generative AI tools as supportive aids while maintaining their own judgment and reasoning.

4. Communicate data analysis results clearly to audiences with different technical backgrounds.

Learning Activities Outside of the Classroom

Students are expected to:

- Review textbook chapters and supplementary materials before and after each class.

- Complete online quizzes to confirm their understanding of scripts and concepts.

- Work on assignments and a final project, including data selection, analysis, and report writing.

- Revise their reports based on feedback from presentations and instructor comments.

Grading Criteria / Policy

Final grades are determined based on the following components:

Quizzes (including automatically graded quizzes): approximately 35%

Assignments and final report (analysis, interpretation, and explanation): approximately 50%

In-class activities and participation, including presentations: approximately 15%

Presentations are evaluated based on participation rather than correctness of content.

Grades are not determined solely by programming accuracy or numerical results.

Notes

Students with and without prior programming experience are welcome.

The use of generative AI tools such as ChatGPT or Gemini is permitted; however, submitting AI-generated outputs without personal interpretation will not be evaluated positively.

BSC100CA (基礎化学 / Basic chemistry 100)
化学A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「化学」の基礎知識は、大学生や市民の皆さんが生きていくために重要です。身のまわりにあるさまざまな自然現象を理解することは、私たちの生活を豊かにすることに直結しています。この授業では、身近なところにある“物質”や“反応”を題材にします。受講者は、物質によって支えられている私たちの体や地球環境、めまぐるしく発展する科学技術の姿について「化学」を通じて理解を深めます。

【到達目標】

身近なものや現象の中から、その物質の性質や変化について、基礎的で正確な知識の習得を通して「化学」を学ぶ。社会的、文化的、政治的、経済的、および倫理的な絡み合いの中にある「化学」の位置づけを理解し、合理的な判断力を養うこと（科学リテラシーの修得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

親しみある身近なトピックスを主体に「化学」の知識と理解を深めていきます。ほぼ毎回課題で理解度チェックを行います。学生へのフィードバックとして代表的なものを授業内でフォローします。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上またはオフィスアワーで解説などの対応をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「化学」の役割	講義のガイダンス。「化学」の必要性を考えます。
第2回	『地球の化学』	元素の種類と性質。小さな粒子の概念（原子、分子、素粒子）
第3回	『水の化学』	化学結合の役割と姿、身近な水を通じたミクロの世界
第4回	『生き物と化学』	私たちの体を作っている物質や化学反応
第5回	『文明と化学』	紙と鉛筆、写真、印刷、絵具の実体
第6回	『調理と空調の化学』	衣食住に関わる熱とエネルギーの化学
第7回	『食品と農業の化学』	栄養、味、発酵、土、食品添加物、香料
第8回	『電気エネルギーの化学』	水溶液、電池、原子力、火力発電
第9回	『おしゃれの化学』	ヘアカラー、パーマ、化粧品、ファッション、宝石
第10回	『キレイの化学』	セッケン、シャンプー・コンディショナー、腐敗、臭い、汚れ、洗濯
第11回	『健康と化学』	免疫、人工骨・人工関節・サプリメント、衛生商品
第12回	『毒の化学』	毒の仕組み、リスク管理
第13回	『環境問題の化学』	大気、地球温暖化、水質、プラスチック、廃棄物、リサイクル
第14回	授業内試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業時に、次回授業の予定を説明するのであらかじめ教科書と資料集に目を通すこと。毎回の授業に演習を授業支援システムを通じて課すので事前登録をしておくこと。高校の化学の図録は資料として役立つので入手しておいてください（出版社は問わない）。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間ずつを標準とします。

【テキスト（教科書）】

山崎友紀 著『みつけよう化学－ヒトと地球の12章－』 裳華房 2023年3月刊

【参考書】

- 1 日本化学会編『感動する化学』（東京書籍、2010年）。
- 2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS出版、2015年）。
- 3 『三訂版 フォトサイエンス化学図録』（数研出版、2017年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を50%、課題（各授業ごと）や授業中の取り組み等の平常点を50%として100点中の60点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な「化学」と「社会」、「文化」等との関わりを理解できるような講義、演習に努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

学習支援システムのお知らせや課題は授業の前後に必ずチェックしてください。

【Outline (in English)】

The knowledge of chemistry is important for the students who are learning economics to understand the various natural phenomena around us. In this class, we will use familiar substances and reactions as the main topics of study. Through "chemistry," students will deepen their understanding of our bodies and the global environment, which are supported by materials, as well as the rapid development of science and technology.

The standard preparation and review time for this class is two hours for each.

・ Evaluation of class work and assignments (50%)

・ Evaluation of examinations related to class content (50%)

Total score will be 100 points.

BSC100CA (基礎化学 / Basic chemistry 100)
化学B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学は自然科学の中心的存在として位置づけられ、自然現象を理解するために重要な学問です。本講義では、観察や実験を多く取り入れ、生活に関する身近な化学について体験的に学びます。学生たちは実験実習体験を繰り返すことによって、科学的な根拠に基づいた判断力や批判力を身に付けます。

【到達目標】

化学の実験や学習を通じて、身近な自然現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた、判断力、応用力を身につけること（科学リテラシーの取得）を目標とする。

毎回の授業では、予習と下調べ、実験の準備、実験の実施、結果についての考察、片付け、復習を一連の流れの活動ができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的な知識内容に加え、演習（実験）を通じて、より発展的な学習を行う。実技を伴う授業を行うために研究実験棟の化学実験室を利用する。毎回の授業で理解度チェックの課題を課す。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上または対面で対応をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと「元素の化学の基礎」	化学の基礎を確認し、2回目以降の準備をする。
第2回	実験器具の取り扱いとその考察	化学実験の器具および設備の扱いを学ぶ。
第3回	実験1	身近な環境水や、水溶液に関する実験
第4回	実験2	身近な食品に関する実験
第5回	実験3	「滴定」について説明し、実際に器具を操作して実験を行う。
第6回	実験4	クロマトグラフィーの原理について説明する。また、実際に薄層クロマトグラフィー (TLC) に関して実験を行う。
第7回	実験5	ゲル、コロイドについて説明する。また、「固体燃料」を作成することで、実際にゲル化を観察する。
第8回	実験6	界面活性剤に関する実験。
第9回	実験7	水質検査に関する実習
第10回	実験8	結晶や沈殿に関する実験
第11回	実験9	高分子や、色と染料、染色機構について説明する。
第12回	実験10	自由実験
第13回	成果発表	これまでの実験の総括として各自から成果を発表する。
第14回	予備日	欠席回への対応など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに予習・復習課題を課す。基本的には学習支援システムを利用する。薬品を使用する場合は、その性質について調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間ずつを標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』（数研出版）を購入すること。

毎回、実験データ記入用のプリントを配布します。

【参考書】

1. 山崎友紀 著『みつけよう化学－ヒトと地球の12章－』 裳華房 2023年3月刊
2. アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS出版、2015年）。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実験の取組みを50%、提出課題を50%として、トータル100点で評価し60点を合格とする。初回授業を含み3回以上の欠席で単位を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

実験を多く取り入れる。できるだけ多くの学生さんが理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、インターネット接続環境

【その他の重要事項】

- ・この授業では、実験・実習を行います。丁寧な指導のために受講人数の上限を定めます（30名以内）。
- ・受講希望者が多すぎる場合には初回に抽選を行います。
- ・安全のため、30分以上の遅刻者はその日の授業を受講できません。
- ・別途、必要な資料は配布します。

【Outline (in English)】

It is important to understand chemistry in modern society. In this course, we learn the basics of chemistry through experiments. Through repeated hands-on laboratory experiences, students will develop the ability to make scientifically based judgments and criticisms.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

- ・ Evaluation of your effort in the experiment (50%)
- ・ Evaluation of each assignment related to the class content (50%)

Total score will be 100 points.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第3回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(1) 基本モデル
第4回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第5回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第6回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(1) 所得支出モデル
第7回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(2) IS-LMモデルと財政金融政策の効果
第8回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(3) IS-MPモデル、開放経済モデル
第9回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	消費関数・投資関数の理論
第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第14回	期末試験と総括	試験等

第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of macroeconomics, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from a macroeconomics perspective. Students are expected to spend approximately four hours each on preparation and review. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
日本経済論 A
青野 幸平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、第2次世界大戦後以降の「日本経済」の変遷についてデータを用いた客観的な視点・マクロ経済学やミクロ経済学に基づく経済学的な視点を通じて理解した上で、日本経済の現状を理解することが目的である。そのために、国民経済計算や資金循環統計などの経済統計に関する知識、ミクロ経済学・マクロ経済学についての知識を利用・応用することが必要になる。日本経済を理解する上で重要な指標や統計については授業内でも説明する。ミクロ経済学やマクロ経済学に関連する知識についても講義に関連する範囲で確認していく予定であるが、基礎的な知識を事前に学習していることが望ましい。

【到達目標】

「データ」に基づく客観的な視点とマクロ経済学・ミクロ経済学に基づく経済学的な視点から日本経済の現状について理解できることが到達目標である。具体的には、「日本経済新聞」に掲載される日本経済に関連する記事について、背景の知識も含めて理解出来るようになる事が目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、原則として対面で実施する。授業は板書・電子板書とスライドを利用した対面講義を基本として授業を進める。事前に配布を予定しているレジュメにある空欄を授業中に穴埋めする形式で進めていく。質問等があれば授業の前後に対応する。電子板書に記載した内容については授業終了後に公開する。毎回の授業後に「確認テスト」を実施する予定なので、その場合は次回の授業の開始時間までに回答すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・日本経済の全体像（1）	講義内容・授業の進め方・評価の方法などの説明したうえで、日本経済の現在地を様々な統計で確認する。
2	日本経済の全体像（2）	日本経済の現在地を様々な統計で確認する。
3	戦後における経済成長（1）	高度経済成長とその要因を考察する。
4	戦後における経済成長（2）	バブルの発生と崩壊について理解する。
5	戦後における経済成長（3）	アベノミクスについて理解する。
6	日本における景気循環	日本における景気循環とその要因を理解する。
7	物価の変動と日本経済	インフレとデフレとその背景を理解する。
8	日本の産業構造と日本型企業（1）	日本における産業構造とその変遷を理解する。
9	日本の産業構造と日本型企業（2）	日本型企業・メインバンク制度について理解する。

10	雇用の変動と日本型労働（1）	雇用と景気変動の関係を理解する。
11	雇用の変動と日本型労働（2）	日本型雇用慣行について理解する。
12	為替レートと日本経済（1）	為替レートに関連した理論を理解する。
13	為替レートと日本経済（2）	為替レートの変動と日本経済の関係を理解する。
14	まとめ	第1回から13回までの講義に関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う各種統計指標の公表や関連するニュースを新聞記事などで確認することが重要である。事前学習として事前に配布するレジュメを確認することが求められる。復習として授業で扱ったデータについて、政府統計の総合窓口（e-Stat）などを利用して自身で確認することが求められる。本講義の事前学習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、最初にあげている参考書をベースに授業は進めていく。また、レジュメは事前に配布する予定である。詳細は初回の授業で説明する。

【参考書】

・『最新日本経済入門第7版』（小峰隆夫・村田啓子著、日本評論社）
 ・『新入門・日本経済』（浅沼和美・飯塚信夫・篠原総一（編集）、有斐閣）
 ・『日本経済論』（伊藤隆敏・星岳雄著、東洋経済新報社）
 など。
 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）と毎回の確認テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to understand the current state of the Japanese economy by first comprehending its post-World War II evolution through an objective, data-driven perspective and an economic viewpoint grounded in macroeconomics and microeconomics. To achieve this, students will need to utilize and apply knowledge of economic statistics, such as national accounts and financial circulation statistics, as well as microeconomics and macroeconomics. Key indicators and statistics crucial for understanding the Japanese economy will be explained during class. While knowledge related to microeconomics and macroeconomics will be reviewed within the scope of the lectures, it is desirable that students have already acquired foundational knowledge beforehand.

【Learning Objectives】

The learning objectives of this course are to understand the current state of the Japanese economy from an objective perspective based on “data” and from an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grades will be based on final exams (70%) and regular quizzes (30%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差

第14回 期末試験と総括 試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学15講』新世社
配布資料

【参考書】

スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of public economics, including various theories of public finance and tax, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from the perspective of public economics. Students are expected to spend approximately four hours each on preparation and review. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
日本経済論 B
青野 幸平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現在の日本経済が抱えている問題である財政（政策）に関連した課題、金融政策に関連した課題、格差に関連した課題、社会保障・労働に関連した課題などについて、データを用いた客観的な視点・マクロ経済学やミクロ経済学に基づく経済学的な視点を通じて理解することが目的である。そのために、国民経済計算や資金循環統計などの経済統計に関する知識、ミクロ経済学・マクロ経済学についての知識を利用・応用することが必要になる。日本経済を理解する上で重要な指標や統計については授業内でも説明する。ミクロ経済学やマクロ経済学に関連する知識についても講義に関連する範囲で確認していく予定であるが、基礎的な知識を事前に学習していることが望ましい。

【到達目標】

「データ」に基づく客観的な視点とマクロ経済学・ミクロ経済学に基づく経済学的な視点から日本経済の課題について理解できることが到達目標である。また、それぞれの課題について経済学的な視点から自身の考えを説明できるようになることも到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、原則として対面で実施する。授業は板書・電子板書とスライドを利用した対面講義を基本として授業を進める。事前に配布を予定しているレジュメにある空欄を授業中に穴埋めする形式で進めていく。質問等があれば授業の前後に対応する。電子板書に記載した内容については授業終了後に公開する。毎回の授業後に「確認テスト」を実施する予定なので、その場合は次の授業の開始時間までに回答すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・授業の進め方・評価の方法などの説明する。
2	日本経済における課題の整理	様々な統計指標によって日本経済の課題を確認する。
3	財政政策と日本経済（1）	経済学における政府・財政政策の役割を確認する。
4	財政政策と日本経済（2）	日本における財政政策を確認する。
5	財政政策と日本経済（3）	財政赤字と財政健全化に関する議論を確認する。
6	金融政策と日本経済（1）	経済学における金融・金融政策の役割を確認する。
7	金融政策と日本経済（2）	日本における伝統的金融政策を確認する。
8	金融政策と日本経済（3）	日本における非伝統的金融政策を確認する。
9	金融システムと日本経済	日本における金融システムを確認する。
10	格差と日本経済（1）	格差の考え方と日本における格差を確認する。

11	格差と日本経済（2）	格差を解決する方向性を確認する。
12	グローバル化と日本経済	外国人労働者と近年のグローバル化について確認する。
13	デジタル化と日本経済	DX革命やAIと日本経済の関係を確認する。
14	まとめ	第1回から第13回までの授業内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う各種統計指標の公表や関連するニュースを新聞記事などで確認することが重要である。事前学習として事前に配布する予定のレジュメを確認することなどが求められる。復習として授業で扱ったデータについて、政府統計の総合窓口（e-Stata）などを利用して自身で確認することが求められる。本講義の事前学習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、最初にあげている参考書をベースに授業は進めていく。また、レジュメは事前に配布する予定である。詳細は初回の授業で説明する。

【参考書】

・『最新日本経済入門第7版』（小峰隆夫・村田啓子著、日本評論社）
 ・『新入門・日本経済』（浅沼和美・飯塚信夫・篠原総一（編集）、有斐閣）
 ・『日本経済論』（伊藤隆敏・星岳雄著、東洋経済新報社）など。
 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）と毎回の確認テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to understand the challenges facing the current Japanese economy — such as issues related to fiscal policy, monetary policy, inequality, and social security/labor — through an objective perspective using data and an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics. To achieve this, knowledge of economic statistics (such as national accounts and funds flow statistics) and microeconomics/macroeconomics will be necessary to utilize and apply. Key indicators and statistics crucial for understanding the Japanese economy will be explained during class. Knowledge related to microeconomics and macroeconomics will also be reviewed within the scope of the lectures, though prior study of foundational concepts is recommended.

【Learning Objectives】

The learning objectives of this course are to understand the current state of the Japanese economy from an objective perspective based on “data” and from an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grades will be based on final exams (70%) and regular quizzes (30%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
国際経済論 A
坪田 建明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。貿易利益・貿易政策の効果といったトピックを理解できることを目的とします。

【到達目標】

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade?	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	I(Gains from trade)	
4	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
5	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
6	Trade Policy	貿易政策とは何か
7	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
8	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
9	What do we trade?	比較優位
10	(Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	
11	General equilibrium	一般均衡の考え方
12	Real problems with international trade (1)	貿易に関係する実際の問題についての検討
13	Real problems with international trade (2)	貿易に関係する実際の問題についての討議
14	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
15	Spatial Economics	空間経済学/経済地理的国際経済学
16	Reviews and summaries	まとめと総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナルテキストを配布する。

【参考書】

武智、東田、黒田(2025)『トピックで読み解く国際貿易論』、ミネルヴァ書房
石川・菊池・棕(2013)『国際経済学をつかむ』、有斐閣（第二版）

【成績評価の方法と基準】

課題およびレポート（40%）、期末試験(60%)により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【その他の重要事項】

進捗状況によって、適宜、シラバスの内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade. Our learning objective is to understand the basic concepts of international trade. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments and a report (40%) and final exam (60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題（小テスト）を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済	生産の国際立地
第8回	輸出判断と多国籍企業	グローバル経済の企業
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第12回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第13回	地域貿易協定の効果	F T Aが与える影響
第14回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023 年
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策』（原書第10版）上: 貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、2013 年
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022 年
武智一貴・東田啓作・黒田知宏著『トピックで読み解く国際貿易論』ミネルヴァ書房、2025 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（12回を予定）（30％）と、期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 12 quizzes(30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 B
坪田 建明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	ISバランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か、経常収支と金融収支
5	Exchange rate	為替レート：平価レート
6	Purchasing Power Parity	購買力平価
7	Interest parity	金利平価
8	Real exchange rate	実質為替レート
9	Financial Crisis	金融危機
10	More on Crises	経済危機について
11	Needs for Financial Education	金融リテラシーの重要性について
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムパズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Reviews and summary	総復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

飯島、五百旗頭、佐藤、菅原（2017）身近に感じる国際金融、有斐閣ストゥディア

【成績評価の方法と基準】

成績は課題およびレポート（40%）、期末試験（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics. Our learning objective is to understand the basic concepts of international finance. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments and a report (40%) and final exam (60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 B
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題(小テスト)を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次回の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表	国際収支表の項目
第2回	日本の国際収支	国際収支データの推移
第3回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第4回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第5回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第6回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第7回	金融政策と為替レート	2国間の金融政策の違い
第8回	長期の為替レート決定	購買力平価
第9回	実質為替レート	購買力平価からの乖離
第10回	固定為替レート	外国為替市場介入
第11回	国際通貨制度	通貨トリレンマ
第12回	金融のグローバル化	リスクと銀行危機
第13回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第14回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023 年
クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）下:金融編』丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著「入門国際金融（第4版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題(小テスト・12回を予定) (30%) と、授業内に行う期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨らんでしまった政府債務残高や低成長に対して有効な経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面している問題を理解します。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学はどのような内容か
2	市場の役割(1)	価格メカニズムの働き
3	市場の役割(2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
4	市場の役割(3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
5	財政の3つの機能(1)	資源配分機能（外部性、公共財）
6	財政の3つの機能(2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
7	財政の3つの機能(3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
8	政府の大きさ(1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
9	政府の大きさ(2)	国民負担率
10	財政と予算(1)	一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
11	財政と予算(2)	一般会計歳入(租税と公債)
12	財政と予算(3)	一般会計歳出(社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等)、プライマリーバランス
13	財政投融资	財政投融资の仕組み、財政投融资改革と規模の推移
14	予算のしくみと編成(1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方

14 予算のしくみと編成 予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解していることこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。財政学を通して学ぶ：江成穰・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙『Why not?! 財政学 超入門からホットイシューまで』有斐閣、2025年。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムも利用します。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話しますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, the government of Japan must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth-rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the government of Japan is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.

Learning objective:

The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A
廣川 みどり
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では、少子高齢化にともなう社会保障費による政府債務残高や低成長への経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場への介入がどのようなときに必要なのかについて、そして、後半では日本の財政制度とデータを見ることで、政府が直面している問題を把握し、どのように考えるべきかの材料を提供します。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。また、学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第2回	市場の役割(1)	価格メカニズムの働き
第3回	市場の役割(2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
第4回	市場の役割(3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
第5回	財政の3つの機能(1)	資源配分機能（外部性、公共財）
第6回	財政の3つの機能(2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
第7回	財政の3つの機能(3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
第8回	政府の大きさ(1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
第9回	政府の大きさ(2)	国民負担率
第10回	財政と予算(1)	一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
第11回	財政と予算(2)	一般会計歳入（租税と公債）
第12回	財政と予算(3)	一般会計歳出（社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等）、プライマリーバランス
第13回	財政投融资	財政投融资の仕組み、財政投融资改革と規模の推移
第14回	予算のしくみと編成(1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
第15回	予算のしくみと編成(2)	予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方をを用いるため、1年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安がある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。また、日経新聞なども参考に日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

- ・財政学を通して学ぶ：畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ、第3版』有斐閣。
- ・素朴な疑問から現在の話題を考える：江成稔・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙(2025)『Why not?! 財政学 超入門からホット 이슈まで』有斐閣。
- ・税を中心に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。
- ・制度・データの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。（最新年度版）

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価します。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、接続・ブラウザ環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムにより、情報共有・教材配布します。履修生は必ず登録すること。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
Currently, the Japanese government must deal with a variety of issues, including huge social security costs due to a declining birthrate and aging population, and huge government debt caused by economic policies to address low growth. In this class, students will understand these issues facing the Japanese government and learn how to think about them from an economics perspective.

Learning objective:
The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学 A の内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり 国と地方との関係(1)	財政学 A のふりかえり。 地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2) 租税の転嫁と帰着(1)	国から地方自治体への移転のつづき。 税の転嫁と帰着、直接税と間接税。
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響。
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析。
5	所得税、一般消費税、個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果。
6	所得税、一般消費税、個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較。
7	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税。
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史。消費税に関わる制度。
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数。
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果。
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果。

11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数。政府支出増大による IS のシフト。
12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、その均衡。貨幣供給増大による LM のシフト。
13	IS-LM 分析(3)	IS と LM の交点。財政政策・金融政策の効果。
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題。MMT の考え方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。財政学を通して学ぶ：江成穰・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙『Why not?! 財政学 超入門からホット 이슈まで』有斐閣、2025年。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムも利用します。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.

Learning objective:

The goal of this course is to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 B
廣川 みどり
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学 A の内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）の理解を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。また、学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり 国と地方との関係(1)	財政学 A のふりかえり 地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2) 租税の転嫁と帰着(1)	国から地方自治体への移転のつづき 税の転嫁と帰着、直接税と間接税
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析
5	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果
6	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較
	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史、消費税に関わる制度
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果
11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数 政府支出増大による IS のシフト

12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、およびその均衡 貨幣供給増大による LM のシフト
13	IS-LM 分析(3)	IS と LM の交点 財政政策・金融政策の効果
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題 MMT の考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方をを用いるため、1年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安がある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。また、日経新聞なども参考に日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
・財政学を通して学ぶ：畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ、第3版』有斐閣。
・素朴な疑問から現在の話題を考える：江成穰・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙(2025)『Why not?! 財政学 超入門からホットイシューまで』有斐閣。
・税を中心に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。
・制度・データの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。（最新年度版）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%で評価します。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、接続・ブラウザ環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムにより、情報共有・教材配布します。履修生は必ず登録すること。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話しますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.

Learning objective:

The goal of this course is to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
金融論 A	
武田 浩一	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて大学で金融を学ぶ人が、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶことを通じて、まず金融に興味を持ち、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけることです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義は、対面講義形式で行います。

この講義では、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即したup-to-dateな金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション ：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第5回	日本の金融システム ①	日本の金融システムの特徴と銀行について
第6回	日本の金融システム ②	協同組織金融機関と証券会社について
第7回	日本の金融システム ③	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	流動性のわなと貨幣供給	流動性のわなとマネーストックについて
第13回	企業の資金調達	企業の資金調達について
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、講義ノートや教科書を復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学などで学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20%）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に提出します。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示、フィードバックなどに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)	
金融論 A	
高橋 秀朋	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、金銭の貸借やそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は、金融システムにおける諸問題を経済学的観点から理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようにすることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、演習回では課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。また、EXCELを利用したセミナー形式の演習もあわせて行う。学生の解答を確認し、誤答が多かった箇所については解説動画をアップロードするなどしてフィードバックを行う。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義ではEXCELを利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
3	貨幣の時間価値1	将来価値、現在価値
4	貨幣の時間価値2	株価、債券価格の計算への応用
5	貨幣の時間価値3	株価、債券価格の計算への応用
6	債券管理	金利リスク
7	リスク評価1	2状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価2	複数状態モデルと分散化
9	リスク評価3	複製戦略によるオプション評価
10	リスク評価4	状態価格によるオプション評価
11	演習1	小テスト（将来のCFが確実な証券の価格評価）
12	演習2	小テスト（将来のCFが不確実な証券の価格評価）
13	演習3	EXCELの関数を利用した将来価値、現在価値の計算
14	演習4	リスク資産の収益率の記述統計量（EXCEL利用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、F T等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストのPart 2が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験80%、3～4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5～7%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてWebClassにアップロードしておく。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems in the real world from the academic perspective. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be evaluated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて大学で金融を学ぶ人が、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶことを通じて、まず金融に興味を持ち、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけることです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義は、対面講義形式で行います。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か
第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルデンス政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	金融と情報の非対称性	金融と情報の非対称性について

第14回 ヨーロッパの金融システム ヨーロッパの経済通貨統合について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、講義ノートや教科書を復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学などで学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20%）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に提出します。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示、フィードバックなどに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
金融論 B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを一通り学習した者を対象として、金融システムの役割や現実の金融における諸問題を分析する力を身につけることにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを、金融論Aの知識を発展させ、情報の経済学を利用して分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、金融取引における情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、演習回では課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。学生の解答を確認し、誤答が多かった箇所については解説動画をアップロードするなどしてフィードバックを行う。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学のフレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論Aの復習	金融の機能
2	リスクと資産評価	債券、株式の評価
3	情報の非対称性1	逆選択問題
4	情報の非対称性2	モラルハザード
5	情報の非対称性3	自己選択、インセンティブメカニズム
6	契約の不完備性	不完備契約における諸問題
7	金融市場と仲介機関	金融市場概観
8	金融市場への応用1	証券の発行市場
9	金融市場への応用2	証券の流通市場
10	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
11	演習1	小テスト（2状態モデルとリスク）
12	演習2	小テスト（逆選択）
13	演習3	小テスト（モラルハザード）
14	演習4	小テスト（契約の不完備性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、F T等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論 第2版』（日本評論社、2016年）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストのPart 3 およびPart 4が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験80%、4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてWebClassにアップロードしておく。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to introduce more sophisticated concepts and frameworks than those students learn in Monetary and Finance A (Kin-yuron A). Students are expected to acquire ability to analyze real financial activities with knowledge related to information economics. In this lecture, employing the information theory and fundamental knowledge of Finance, we apply the theories to analysis of the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCELをもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは？ 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか？ 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か？
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散

14 重回帰分析の基本 回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013)「入門計量経済学—Excelによる実証分析へのガイド (経済学叢書Introductory)」新生社

中室牧子・津川友介 (2017)「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017)「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of classical regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using EXCEL.

(Learning Objectives)

Classical regression analysis where the error term follows a normal distribution will be taught according to the text. Review of probability theory, review of statistics, and basics of simple and multiple regression models will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
計量経済学B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがわないの現代的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。重回帰モデルの復習、頑健な標準偏差、操作変数法、パネル分析などを講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら？ 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」 有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016) 「Rによる実証分析 一回帰分析から因果分析へ」 オーム社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of modern regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using R.

(Learning Objectives)

Modern regression analysis where the error term does not follow a normal distribution will be taught according to the text. Review of multiple regression models, robust standard error, instrumental variables regression, panel analysis, etc. will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
企業と経済・応用 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は1年次の「企業と経済・基礎」に続く内容として、「独占・寡占とその応用」「ゲーム理論の基礎」「交渉とオークション」を中心に学習する。受講生は、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を習得し、現実経済（特に企業経済）を考察する力をさらに高めることができる。

【到達目標】

1年次の「企業と経済・基礎」（ミクロ・パート）からの接続を意識し、そこからの積み上げとして、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は授業用のレジュメ、後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』を使って授業を進める。講義では、過年度に好評だった「Zoomによる動画配信」のコンテンツも活かしながら、丁寧に進めていきたい。受講生は、リアクションペーパーや課題提出の積み重ねが、最終試験の準備としても重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は対面授業であるが、「Zoom 動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	完全競争企業	復習。価格所与の下での利潤最大化行動。
第2回	独占企業①	独占企業の行動原理。最適解(独占価格公式)の導出と図解①
第3回	独占企業②	独占企業の行動原理。最適解(独占価格公式)の導出と図解②
第4回	独占企業③	応用問題：価格差別とその応用。部品の内製 v s 外部市場調達など。
第5回	寡占企業①	クールノー競争(数量競争)
第6回	寡占企業②	ベルトラン競争(価格競争)
第7回	寡占企業③	シュタッケルベルク競争(先手・後手の区別)
第8回	ゲーム理論の基礎①	3つのモデルの比較(余剰分析)
第9回	ゲーム理論の基礎②	ナッシュ均衡
第10回	ゲーム理論の基礎③	サブゲーム完全均衡
第11回	交渉とオークション①	支配戦略、弱支配戦略、被支配戦略の繰り返し削除など。
第12回	交渉とオークション②	展開型交渉ゲーム
第13回	交渉とオークション③	ナッシュ交渉問題
第14回	交渉とオークション④	オークション①基礎
		オークション②応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021 および授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）を怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021

【参考書】

1. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
2. ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT出版
3. アセモグル＋レイブソン＋リスト『ALL ミクロ経済学』（岩本訳）東洋経済
4. 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社
5. 伊藤元重『ビジネス・エコノミックス 第2版』日本経済新聞出版
6. 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
7. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（2回）、リアクションペーパーの内容、最終試験（教科書・授業ノート参照可）の合計で評価する。評価ウェイトは、課題提出（練習問題への解答）（45％）、リアクションペーパー（5％）、最終試験（50％）の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

説明はできるだけ分かりやすく、丁寧に行うよう心がけたい。簡単な数値例や図を使い、レジュメなども配って、直観的理解に訴える工夫を心がける。後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿った形で進め、内容をフォローしやすくする。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

【Outline (in English)】

In the spring semester, students will focus on "monopoly, oligopoly and their applications," "basics of game theory," and "bargaining and auction" as a content that follows the "Elementary Business Economics" of the first year. Students will be able to acquire more advanced concepts, ideas, and analytical methods of economics related to firms and businesses, and further enhance their ability to analyze the industrial economy. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content. Grading is based on Two Assignments (Problem Sets as Homework)(45%), Reaction Papers (5%), and a Final Exam (50%).

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
企業と経済・応用 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と経済基礎Aで均衡GDP（国民所得）の決定の説明（45°線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策がGDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

【到達目標】

- ・IS-LM分析に基づくGDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・総需要-総供給分析に基づくGDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・財政政策及び金融政策が金利およびGDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（IS-LM分析の仕組みに基づき）
- ・財政政策及び金融政策が物価水準およびGDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業により行う。秋学期中に、1回課題を出すので、1週間を目途に授業支援システムの「課題」にその解答をアップしてほしい。締め切り直後に、授業内で正解の解説を行う。後半の5回分は、zoomによる授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づきGDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄性向）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利とGDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルのkなど）
6	貨幣需要	IS-LM分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利とGDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM分析に基づく均衡GDPおよび金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM分析に基づく2つの市場を均衡させるGDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利およびGDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させるGDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	国全体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させるGDP及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準とGDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準とGDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させるGDP（国民所得）および物価水準の導出
14	総需要－総供給分析に基づく金融政策、財政政策の効果	金融政策および財政政策の変化がGDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対面授業の回については、基本的に板書で説明を行う。その際は、授業を録画し、その録画ファイルのzoomでのリンクをお知らせする。オンラインの授業の回については、授業の説明に使った電子ノートのPDFファイルを授業支援システムにアップする。本授業は、主に図による説明により行う。そのため、複雑な図による説明や例題もあるので、録画ファイルまたはPDFファイルでの復習が2時間程度必要と思われる。

【テキスト（教科書）】

特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、授業の際に紹介する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、期末試験期間中の授業曜日、授業時限開始時に期末課題を授業支援システムの「課題」にアップします。解答作成し、「解答」を収めたファイルを、授業曜日、授業時限中に、「課題」にアップにより提出してもらいます。その課題解答の素点に関して85%、1回行う学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して15%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義での板書は、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

【Outline (in English)】

The objective to this course is to understand IS-LM model, and AD(Aggregate Demand)-AS(Aggregate Supply) model to determine the levels of interest rate, price level, and GDP in short run. Moreover, The effects of fiscal and monetary policy on GDP, price level and, interest rate could become to be determined, based on IS-LM model, and AD-AS model.

The learning objectives are for students to determine the levels of GDP, interest rate, and overall price, and predict the effects of fiscal/monetary policies on GDP, interest rate, and overall price level correctly, based on IS-LM model and, AS-AD model.

More than 2 hours are required to get the views of many graphical explanations, and follow the logic of these, after each classroom.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 90%, Mid-term report: 10%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
現代ファイナンス入門A	
湯前 祥二	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。

井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。

井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance.

It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
現代ファイナンス入門B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は『『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする』ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社

井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社

井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
経済データ分析 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの一環として統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。EXCELでの演習を通じて基本的なデータ処理の方法も学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、PC上でEXCELを使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使ってExcelを用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excelと統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定(1)	・仮説検定と有意水準 ・1つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定(2)	・2つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較(1)	・分散分析 ・1元配置法
12	平均に関する群間比較(2)	・2元配置法 ・相互効果

13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワットソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PCを使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準4時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題(30%)と課題レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室でPCを利用します。必要に応じてUSBメモリなどを準備して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Outline: This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in exercises using PC and statistical software (MS Excel).

Goal: To master basics of statistics and econometrics, and data-analysis skills using MS Excel.

Extracurricular exercise: weekly homework assignments need to be submitted through the online system (4 hours)

Grading: homework(30%) and final report(70%)

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスのスキルを身に着けるため、統計パッケージを利用したより高度な経済データの分析手法を学ぶ。

【到達目標】

この統計パッケージRを用いた演習を行います。Rの特徴はExcelよりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学的手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学とRの操作方法について解説します。その後実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	Rの設定	・Rについて ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	Rの操作とデータ管理(1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	Rの操作とデータ管理(2)	・基本統計量
5	Rの操作とデータ管理(3)	・行列の操作
6	Rの操作とデータ管理(4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰(1)	・クロスセクションデータ ・K変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
8	クロスセクションデータに対する線形回帰(2)	・Rでの回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰(3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習(1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰(1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰(2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman 検定
13	演習(2)	・パネルデータを用いた演習

14 まとめ

- ・授業のまとめと復習
- ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析Aに加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

毎回の講義内容をしっかり復習して下さい（標準4時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジメを配布します。

【参考書】

Rの操作やデータ分析については

- ・「Rによる統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009
- ・「Rによるデータ分析入門—経済分析の基礎から因果推論まで—」松浦寿幸、東京図書、2024

計量経済学については

- ・山本拓「計量経済学」新世社、1995
- ・田中隆一、「計量経済学の第一歩—実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

- ・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
- ・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題(30%)と課題レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室でPCを使うので、必要に応じてUSBメモリ等を用意して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Oulline: Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).

Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).

Grading: homework assignment (30%), final report (70%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの多層的な空間スケールを念頭におき、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、産業立地の空間的パターン、都市化と空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では経済立地や産業立地の基礎モデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	人口と現代経済①	人口構造と人口動態
第3回	人口と現代経済②	人口問題
第4回	都市化と人口移動	都市化の現状と問題
第5回	経済発展と産業構造	工業化と産業構造の高度化
第6回	立地論の基礎①	立地論の系譜と工業立地論
第7回	立地論の基礎②	農業立地論と中心地理論
第8回	立地論の応用	立地論の拡張と動態的視角
第9回	現代の都市経済①	土地利用と内部構造
第10回	現代の都市経済②	都市規模と都市システム
第11回	都市問題と都市政策	都市問題と開発の歴史と現在
第12回	地域構造と国土政策①	日本の地域構造と論点
第13回	地域構造と国土政策②	国土政策の系譜と新たな政策
第14回	まとめ・総括	講義のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

小田宏信編著（2024）『日本経済地理読本（第10版）』東洋経済新報社
河野綱果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
富田和暁（2020）『地域と産業—経済地理学の基礎—（新版）』原書房
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣

デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン桐原

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（40%）、各回的小テスト等の課題（60%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】

Course outline:

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

Learning Objectives:

By learning the theory and practice of industrial location, students will understand the formation of diverse geographic landscapes in the modern economy through the mechanisms of economics.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

ECN200CD (経済学 / Economics 200)
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、各産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第9回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方②	日本の生産システムとグローバル戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグローバル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
松原 宏編（2018）『地域経済論入門（改訂版）』古今書院

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（40%）、各回の小テスト等の課題（60%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

This lecture focuses on the history and geography of industry, and outlines the impact of the modern industry on regional economies, with the aim of cultivating concrete and practical thinking skills about the mechanisms of the rise and fall of industrial regions and industrial agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

MAN200CA (経営学 / Management 200)
コーポレートガバナンス論A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Aのテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示、モノ言う株主（アクティビスト）などと株価との関連について学び、データから資本市場の役割を理解する。

【到達目標】

2025年の中居正広氏問題で、フジテレビの親会社フジHDの大株主の海外ファンドが全経営陣の交代を要求した事例からわかるように、株式会社は株主によって所有され、株主は株主総会で議決権を行使することなどで経営の重要事項に自らの意見を反映させる。コーポレート・ガバナンス論Aの学習目標は、株主総会と議決権行使との関連で、機関投資家などの大株主の議決権行使の個別開示などのスチュワードシップ・コード制度を学び、データから議決権行使と資本市場によるコーポレート・ガバナンスを理解することである。

学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。インターネットやオンラインデータベースなどを通じて、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてデータ資料を収集し、グループで議論し、課題解決型学習を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コーポレート・ガバナンス vs コーポレート・ファイナンス	財務情報と非財務情報の違いから、コーポレート・ガバナンスの基礎概念・用語を解説する
第2回	株式投資のリターンとリスク	EXCELの数値例で株式投資のリターンとリスクについて学ぶ
第3回	すべての玉子を同じかごに入れるな：株式投資の要はリスク分散	2銘柄の株式投資の数値例でリスクといりターンとの関連を理解する
第4回	株式相場のことは相場に聞け	情報リリースなどが株価に対する効果の分析ツールを学ぶ
第5回	短期株価と長期株価	数日の日次株価変動と数年の株価変動の違いについて学ぶ
第6回	コンプライアンス違反と株価急落	事例で非財務リスクと株価について勉強する

第7回	経営と所有の分離：株主総会と株主の議決権行使	ビジュアル資料とデータを用いてわかりやすく説明する
第8回	株主総会の要：取締役選任	機関投資家の議決権行使方針との関連で取締役選任について説明する
第9回	アクティビストと株価	株式を一定数保有するアクティビストとも呼ばれる物言う株主の経営陣に対する経営戦略・株主利益還元・ガバナンス改善などの積極的な提言が企業価値向上につながるかどうかを考察する
第10回	敵対的買収対策と株価	事例とデータを交えながら説明する
第11回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第12回	MBOとは	株式を市場から取得することで非上場の意味を理解する
第13回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第14回	課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、練習課題の際にステップバイステップで積み重ねたものをまとめて提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手でやる。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】

練習課題(30%)、中間課題(30%)と学期課題(40%)で総合的に評価する。練習課題の際に、中間課題と学期課題の作成についてステップバイステップで丁寧に解説する。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn voting rights, the general shareholders' meeting, the roles of the Japan Stewardship Code, and the market for control. The goals of this course are to understand how corporate governance systems mitigate the conflicts between shareholders and management. Before/after each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Comprehensive assessment will be based on practice assignments (30%), midterm assignments (30%), and term assignments (40%). During the practice assignments, detailed step-by-step instructions will be provided on how to create midterm and term assignments.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
コーポレートガバナンス論B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Bのテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

世間で上場企業の社長は偉いと思われているが、実際には社長などのトップ経営者は、株主総会の議決で選任される。社長やCEOは、会社法上の代表取締役や代表執行役である。株主の最も重要な権限は、取締役を選任することである。また、経営者全体の報酬も株主総会の議決で決議されることが多い。この授業の学習目標は、取締役選任や取締役報酬との関連で、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、日本版コーポレート・ガバナンス・コード及びESGなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第2回	取締役会	規模、構成と独立性
第3回	会社の組織形態：監査役設置会社、監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社	監査役は目付役
第4回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第5回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第6回	監査役の中立性と長期株価	月次株式投資収益で監査役の中立性と長期株価との関連を考察する
第7回	監査等委員会設置会社への移行と株価	月次株式投資収益で監査等委員会設置会社への移行と長期株価との関連を考察する

第8回	監査等委員の中立性と株価	月次株式投資収益で監査等委員の中立性と長期株価との関連を考察する
第9回	ESG投資とは	環境・社会・ガバナンスと会社のサステナビリティ
第10回	ESG投資の手法	ネガティブ・リストなどのESG投資の手法について解説する
第11回	コンプライアンス違反と株価	コンプライアンス違反会社の長期株価を考察する
第12回	1億円以上役員報酬の開示	1億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第13回	高額役員報酬と株価	高額役員報酬と長期株価との関連について考察を行う
第14回	学期課題	今までの勉強の理解を確かめるために、練習課題の成果をまとめて提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年
 参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

練習課題(30%)、中間課題(30%)と学期課題(40%)で総合的に評価する。練習課題の際に、中間課題と学期課題の作成方法についてステップバイステップで丁寧に解説する。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory B is to learn the board of directors and the roles of the Japan Corporate Governance Code. The goals of this course are to understand how the board of directors works to mitigate the conflicts between shareholders and management. Before each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Comprehensive assessment will be based on practice assignments (30%), midterm assignments (30%), and term assignments (40%). During the practice assignments, detailed step-by-step instructions will be provided on how to create midterm and term assignments.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
企業経営史 A
飯塚 陽介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。Aでは、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面式の回とオンライン実施の回とがあります（オンライン回を最大7回程度追加する可能性があります）。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価）。小テストとレポートの採点結果についてはオンラインについて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営史学とは何か？	経営史学の歴史とその問題意識
2	「規模の経済」の発見と企業者活動	産業革命期の企業者活動
3	市場経済の中の企業	産業革命期の企業活動
4	在来産業における革新	産業革命期の在来産業における革新
5	産業革命と金融ビジネス	産業革命を支える金融ビジネス
6	大量生産体制への途	製造業における互換性生産
7	見えざる手から見える手へ	アメリカにおける大企業の出現
8	経営階層組織と専門経営者の出現	鉄道業における経営階層組織
9	経営者企業の成立	米国大企業の国際化・多角化
10	ヨーロッパにおける現代企業の登場	ヨーロッパにおける大企業の出現
11	ヨーロッパ大企業の組織と経営者	ヨーロッパ大企業の組織
12	日本における大企業の形成	後発性ゆえの大規模性
13	両大戦間期日本のビジネス	産業構造の変化、財閥のコンツェルン化など
14	前期の振り返り	13回目講義までに終えられなかった内容、前期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 学期末の期末レポートに向けての調査・研究（20時間）
- (2) 毎回の確認小テスト（各回2時間）。
- (3) 授業内で紹介した関連文献からの学習（8時間）

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義にて紹介します。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30%）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70%）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

企業経営に関する基礎的な知識があることが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to review the course content and answer the quiz after each class meeting. This will take 2 hours for a class. In addition, students will be expected to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. This will take 20 hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
企業経営史 B
飯塚 陽介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。Bでは、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面式の回とオンライン実施の回とがあります（オンライン回を最大7回程度追加する可能性があります）。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価）。小テストとレポートの採点結果についてはオンラインについて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前期の振り返り	レポートの総括と前期の振り返り
2	アメリカの大企業体制	大企業体制の成立と「豊かな社会」の出現。
3	「豊かな社会」が生み出したもの	「豊かな社会」を背景としたビジネスシステム。
4	政府の関与が生み出したもの	政府の関与による新しい産業の出現。
5	ヨーロッパの大企業	戦後ヨーロッパにおける大企業の出現と「アメリカ化」の限界。
6	戦後改革とその影響	戦後改革の戦後企業システムへの影響。
7	日本のビジネス・システム	企業集団やメインバンク・システムについてのその形成と機能。
8	日本型雇用制度の生成	日本型雇用制度の「三種の神器」の生成。
9	消費の大衆化と企業の対応	大衆消費社会の形成と企業行動。
10	モノ離れの時代と企業行動	サービス業における企業行動。
11	戦後日本の政府・民間関係	戦後日本における産業政策。
12	戦後日本の大企業体制	日本企業の戦略・組織における特色と問題点。
13	大企業体制下の産業集積	大企業体制下の産業集積と金融センターの興亡
14	ポスト大企業体制の時代	経営者企業への進化は必然なのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 学期末の期末レポートに向けての調査・研究（20時間）
- (2) 毎回の確認小テスト（各回2時間）。
- (3) 授業内で紹介した関連文献からの学習（8時間）

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義にて紹介します。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30％）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70％）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

春学期の「企業経営史A」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to review the course content and answer the quiz after each class meeting. This will take 2 hours for a class. In addition, students will be expected to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. This will take 20 hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
企業経営論 A
内田 彬浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では企業経営を体系的に理解するために、経営学の各分野における基本的な考え方について学ぶ。またその経営学の基本的な考え方に沿って自らのビジネスアイデアを具体化してプレゼンテーションし、クラス全体で議論することを通じて、それらの考え方を実践的に活用できるようになることを目指す。

【到達目標】

- (1) 経営学の各分野における基本的な考え方を理解する
- (2) 経営学の各分野における基本的な考え方を実際の事例と結び付けて議論できるようになる
- (3) 議論・検討した内容を整理して効果的にプレゼンテーションできるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

以下の講義・演習・発表・討議のサイクルにより授業を進める。

- (1) 講義：経営学の基本的な考え方について解説する
- (2) 演習：グループに分かれてビジネスアイデアを立案し、経営学の基本的な考え方に沿って具体化するための検討を行う
- (3) 発表：各グループで検討した結果をプレゼンテーションする
- (4) 討議：各グループの発表内容についてクラス全体で質疑・議論する

授業内で、個別のプレゼンテーションおよびプレゼンテーション全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要および進め方について説明する。また提示された課題に取り組む。
2	ビジネスモデル	前回の講義を踏まえて設定されたグループで課題に取り組む。
3	企業論・経営戦略論 1（講義・演習）	会社はどのようにして社会に役立ち、どのような方針で動いているのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
4	企業論・経営戦略論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
5	企業形態論・経営組織論 1（講義・演習）	会社は誰がどんな仕組みで動かしているのか、他の会社とどのように協力しているのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
6	企業形態論・経営組織論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

7	競争戦略論・マーケティング論 1（講義・演習）	会社はどのようにして商品を提供するのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
8	競争戦略論・マーケティング論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
9	国際経営論・会計制度 1（講義・演習）	会社は海外でどのように経営しているのか、会社の利益はどのように測定するのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
10	国際経営論・会計制度 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
11	人的資源管理論・生産管理論 1（講義・演習）	会社で働く社員と生産管理について学ぶ。また提示された課題に取り組む。
12	人的資源管理論・生産管理論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
13	講義のまとめ・最終プレゼンテーション準備	これまでの講義内容について整理し、最終プレゼンテーションにむけた準備を行う。
14	最終プレゼンテーション	講義全体を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「経験から学ぶ経営学入門（第3版）」2024年、有斐閣ブックス

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表内容：60%

クラス全体での議論への貢献：40%

【学生の意見等からの気づき】

理解の促進のため、企業事例の紹介等をより重視する。

【学生が準備すべき機器他】

調査や発表の準備・実施に必要となるため、PCを準備すること。

【その他の重要事項】

履修にあたっては、本講義では筆記試験を行わず、グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションが授業および成績評価の主な要素となることに留意してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this class, learn basic concepts of business administration to understand business management systematically. The goal is to enable students to put these concepts into practice by presenting and discussing business ideas aligned with basic concepts of business in class.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Understand the basic concepts of business administration
- (2) To be able to discuss practical cases in accordance with the basic concepts of business administration
- (3) To be able to organize and effectively present what has been discussed

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

The standard time to prepare and review for this class is four hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Presentations at each class: 60%

Contribution to the class discussion: 40%

MAN300CA (経営学 / Management 300)
企業経営論 B
内田 彬浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では企業経営についてより深く理解するために、企業経営における重要な論点であるイノベーションに関する基本的な考え方について学ぶ。またそのイノベーションに関する基本的な考え方を踏まえて実際の企業について調査してプレゼンテーションし、クラス全体で議論することを通じて、それらの考え方を実践的に活用できるようにすることを目指す。

【到達目標】

- (1) イノベーションに関する基本的な考え方を理解する
- (2) イノベーションに関する基本的な考え方を実際の事例と結び付けて議論できるようにする
- (3) 議論・検討した内容を整理して効果的にプレゼンテーションできるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

以下の講義・演習・発表・討議のサイクルにより授業を進める。

- (1) 講義：イノベーションに関する基本的な考え方について解説する
- (2) 演習：グループに分かれてイノベーションの事例を調査し、イノベーションに関する基本的な考え方に沿って検討・整理する
- (3) 発表：各グループで検討した結果をプレゼンテーションする
- (4) 討議：各グループの発表内容についてクラス全体で質疑・議論する

授業内で、個別のプレゼンテーションおよびプレゼンテーション全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要および進め方について説明する。また提示された課題に取り組む。
2	イノベーション事例の調査	前回の講義を踏まえて設定されたグループで課題に取り組む。
3	イノベーションの歴史・イノベーションと企業の栄枯盛衰1（講義・演習）	イノベーションの全体像について学ぶ。特にその歴史と企業の栄枯盛衰に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
4	イノベーションの歴史・イノベーションと企業の栄枯盛衰2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
5	産業とイノベーション・イノベーションの測定1（講義・演習）	イノベーションの全体像について学ぶ。特にその産業との関係と測定方法に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
6	産業とイノベーション・イノベーションの測定2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

7	アントレプレナーシップ・資源動員と知識創造・新製品開発1（講義・演習）	イノベーションの創出プロセスについて学ぶ。特にアントレプレナーシップ、資源動員と知識創造、新製品開発マネジメントに焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
8	アントレプレナーシップ・資源動員と知識創造・新製品開発2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
9	イノベーションと企業戦略・イノベーションと企業間システム1（講義・演習）	イノベーションの創出プロセスについて学ぶ。特に企業戦略および企業間システムとの関係に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
10	イノベーションと企業戦略・イノベーションと企業間システム2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
11	イノベーション創出のための知的財産権の制度とマネジメント1（講義・演習）	イノベーションと経済政策の関係について学ぶ。特に知的財産権の制度とマネジメントに焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
12	イノベーション創出のための知的財産権の制度とマネジメント2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
13	講義のまとめ・最終プレゼンテーション準備	これまでの講義内容について整理し、最終プレゼンテーションにむけた準備を行う。
14	最終プレゼンテーション	講義全体を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「マネジメント・テキスト イノベーション・マネジメント入門（新装版）」2022年、日本経済新聞出版

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表内容：60%

クラス全体での議論への貢献：40%

【学生の意見等からの気づき】

理解の促進のため、企業事例の紹介等をより重視する。

【学生が準備すべき機器他】

調査や発表の準備・実施に必要なため、PCを準備すること。

【その他の重要事項】

履修にあたっては、本講義では筆記試験を行わず、グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションが授業および成績評価の主要要素となることに留意してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this class, learn basic concepts of innovation, an important topic in business management, to better understand business management. The goal is to enable students to put these concepts into practice by researching, presenting, and discussing real companies based on the basic concepts of innovation in class.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Understand the basic concepts of innovation
- (2) To be able to discuss practical cases in accordance with the basic concepts of innovation
- (3) To be able to organize and effectively present what has been discussed

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

The standard time to prepare and review for this class is four hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Presentations at each class: 60%

Contribution to the class discussion: 40%

CAR200CA（キャリア教育 / Career education 200）
企業実務研究A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ8人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

講師の話をともに自らのキャリアプランを描けるようになることが目的である。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。

そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面講義形式で開講する。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。学習支援システムで教材としてガイダンス資料を配布する。この講義の履修を検討する学生は、講義に出席してガイダンス資料をよく読んだ上で、履修するかどうかを検討されたい。

第2回以降の講義は、原則として教室での対面講義形式で実施する予定である。教室での講義では、講師と受講生によるクロストークの時間を設け、リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求められる。

実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況を認識して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、教室またはオンラインのリアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	企業実務研究A・Bの概要とサマーインターンシップ実習について

第2回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第3回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第4回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第5回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第6回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第7回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第8回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第9回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第10回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第11回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第12回	キャリア形成に関する外部講師による指導（1）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第13回	キャリア形成に関する外部講師による指導（2）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第14回	キャリア形成に関する外部講師による指導（3）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジュメ

【参考書】

各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価する。

教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められ、私語するなど授業態度の悪い学生は不可となる。

※企業実務研究A、Bは必ず同年度に登録すること。2単位だけの登録は認められない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第1回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

多数の外部講師を招いての講義となる。講師の方々へ敬意を持って受講すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with the knowledge and skills to understand the global business environment within which Japanese multinational firms operate. It also enhances the development of students' skill in reflecting this understanding in their future career.

The purpose of this course is to be able to draw up one's own career plan based on the lecturer's talks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

CAR200CA（キャリア教育 / Career education 200）
企業実務研究B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO等を含む）でインターンシップ実習に参加し、通常の講義だけでは得られない就業体験を通じて現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。
インターンシップの経験や実習報告会での議論を通じて、企業や団体で働くときに求められる仕事への取り組み姿勢やコミュニケーション方法、ビジネスマナーなどの、将来の進路選択を主体的に行うために役に立つ実践的な知識への理解を深めることができる。
講義を通じて自らのキャリアデザインを行えるようになることが目的である。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的にわかりやすくプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義は実習形式で行われ、原則として、本年度の経済学部サマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので、履修を検討する際には注意されたい。

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定である。講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を随時通知する。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムで本科目に仮登録して、学習支援システム上で通知される講義に関するお知らせを講義前に確認し、第1回講義に出席した上で、履修するかどうかを検討されたい。第1回講義では、履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので、履修者は第1回講義に必ず出席すること。

第2回以降の講義では、サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、毎回の授業の中で行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明・実習報告スケジュールの説明と調整
第2回	実習報告会の説明と準備	実習報告会の説明と準備および実習報告スケジュールの最終確認
第3回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①

第4回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第5回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第6回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第7回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第8回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第9回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第10回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第11回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第12回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第13回	グループ・ディスカッションの説明と準備	仕事に関するグループ・ディスカッションの説明と準備
第14回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
 - ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000字、A4）（25%）
 - ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
 - ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）
- 派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。
サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。
※企業実務研究A、Bは必ず同年度に履修登録すること。2単位だけの登録は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1回目の講義に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with the summer internship opportunities to gain knowledge and skills from work experiences not available in the classroom setting. It also enhances the development of students' skill in planning and delivering effective presentation on career design development. The purpose of this course is to enable students to design their own careers through lectures.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on workplace competencies evaluated by work-site supervisors (25%), internship report (25%), presentation (25%), and in-class contribution (25%).

POL200CA（政治学 / Politics 200）	
国際関係論 A	
富永 靖敬	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際関係論の射程	本授業の狙い、授業の概要
第2回	国際システムの構造	主権国家とは、主権国家システム
第3回	伝統的国際関係論の視点 I	リアリズム:国家のパワーゲーム、古典的リアリズム、ネオリアリズム
第4回	伝統的国際関係論の視点 II	勢力均衡と同盟論
第5回	伝統的国際関係論の視点 III	リベラリズム:協力と平和の可能性、国際制度と国際協調
第6回	伝統的国際関係論の視点 IV	構成主義：社会的な意味とアイデンティティ
第7回	理論間の対立	「イズム」の限界
第8回	交渉理論に基づく戦争論	戦争はなぜ起こるのか？、事例：イラク戦争
第9回	交渉理論I	情報の非対称性
第10回	交渉理論II	コミットメント問題
第11回	国内政治と戦争	なぜ国内要因が重要なのか
第12回	リーダーと戦争	評判(reputation)と信頼(credibility)、リーダーの個人的性質、結集効果
第13回	今学期のまとめ	春学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多湖淳(2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574). 定価880円（本体 800円） ISBN978-4-12-102574-6.

【参考書】

【特に推薦するのは以下の三冊】

1. Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.
2. クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか—』草思社。定価 3,740 円（本体 3,400 円）ISBN978-4-7942-2662-4
3. Spaniel, William (2023). Formal Models of Crisis Bargaining: Applications in the Politics of Conflict. Cambridge: Cambridge University Press.

【その他】

草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体 3,200円）ISBN978-4-623-09577-3
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052円（本体 1,900円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体 2,600円）ISBN 978-4-641-14904-5
浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体 2,600円）ISBN978-4-641-14928-1
村田晃嗣・塚塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376円（本体 2,200円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】

本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テスト、期末試験ともに「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

以下に生成AI使用のルールを明示します。

【ルールの目的】

本授業では、学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが、論述やレポートの文章自体をAI任せにしまうと、本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで、生成AIの利用に関しては、以下のルールを設けます。

【生成AIはあくまでリサーチの補助】

- ・許容される行為例
 - ・ キーワード・用語の検索
 - ・ 史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限る）
 - ・ 参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
- ・ 禁止される行為例
 - ・ AIに要約や文章を生成させ、そのまま引用・転用すること
 - ・ AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
 - ・ 「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること

【AIが作成した文章の使用禁止】

- ・ 論述・レポート
 - ・ AIが作成した文章を、一部でもそのままあるいは表面的な改変（接続語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
 - ・ これはコピーに準ずる行為とみなし、学問的誠実性に反する行為と判断します。
 - ・ 引用・参考資料
 - ・ AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり、正確性や一次性を保証しません。
 - ・ AIが提示した文献・統計を活用したい場合は、必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。
- 【チェッカーによる検証と不正行為の判断】
- ・ AIチェッカーの活用

- ・提出された論述・レポートに対し、複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。
- ・AI生成の可能性が高いと検知された場合、さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。
- ・不正が疑われる場合
 - ・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合、剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。
 - ・不正行為と認定された場合は、大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。

【適切なAI利用のすすめ】

- ・AIはあくまで“補助”です
 - ・上記のようなルールを設けても、「AIを一切使わない」という意味ではありません。実際には、キーワード検索や概要把握、論点の整理など、学習者が合理的にAIを使う方法があります。ただし、最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。
- ・情報の真偽は自分で確認する
 - ・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory course that intends to provide students with basic knowledge which is essential to understand the nature of current international relations. This course pays particular attention to security issues exploring causes and consequences of war.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of theoretical conceptions of international politics
2. To acquire the ability to explain current issues of international politics logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Term-end exam (70%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

POL200CA（政治学 / Politics 200）	
国際関係論B	
富永 靖敬	
開講時期：秋学期授業/Fall	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論Aでは、主権国家システム、国内・国際制度、リーダーの性質など、国際政治現象一般を分析する際に必要となる諸モデルを紹介したが、国際関係論Bでは、国家間戦争、内戦やテロリズムといった国家間・国家内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（またGoogle Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	前学期の復習、本授業の概要
第2回	核兵器と軍備管理・抑止論	国際危機外交，安全保障のジレンマ，シグナリング，評判，抑止論とその効果
第3回	テロリズム・非国家主体の暴力	テロリズムの定義、原因、対策
第4回	内戦・国内紛争の国際化	内戦の原因論（民族，食欲と不満），交渉モデル
第5回	紛争解決：平和への道筋	交渉、仲介、調停など紛争解決の理論と実践
第6回	事例分析	スリランカ内戦・コロンビア内戦・ミャンマー内戦など
第7回	制度と規範：国際社会の秩序形成	国際制度と国際規範が国家の行動をどのように制約し、協力を促進するのか
第8回	国際規範と人権	国際人権規範の発展と課題
第9回	気候変動と国際協力（地球規模の課題への対応）	気候変動が国際社会に与える影響を分析し、気候変動問題への国際的な取り組みを検討する
第10回	サイバーセキュリティと国際関係	新たな脅威の出現，サイバー空間における国家間の競争と協力
第11回	貧困と開発	資源の呪い，国連の持続可能な開発

第12回	貧困と開発の制度的説明	富の独占と政治体制，selectorate theory
第13回	学期のまとめ	秋学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価880円（本体800円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】

Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.

草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体3,200円）ISBN978-4-623-09577-3

クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか—』草思社。定価3,740円（本体3,400円）ISBN978-4-7942-2662-4

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価2,052円（本体1,900円）ISBN978-4-641-15025-6

鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体2,600円）ISBN978-4-641-14904-5

浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体2,600円）ISBN978-4-641-14928-1

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価2,376円（本体2,200円）ISBN978-4-641-17722-2

山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円（本体2,800円）ISBN978-4-8188-1720-3

東大作（2020）『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価968円（本体880円）ISBN978-4-12-102576-0

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】本授業の評価は、小テスト（30%）と期末テスト（70%）で行う。テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

以下に生成AI使用のルールを明示します。

【ルールの目的】

本授業では、学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが、論述やレポートの文章自体をAI任せにしまうと、本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで、生成AIの利用に関しては、以下のルールを設けます。

【生成AIはあくまでリサーチの補助】

- ・許容される行為例
 - ・キーワード・用語の検索
 - ・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限り）
 - ・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
- ・禁止される行為例
 - ・AIに要約や文章を生成させ、そのまま引用・転用すること
 - ・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
 - ・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること

【AIが作成した文章の使用禁止】

- ・論述・レポート
 - ・AIが作成した文章を、一部でもそのままあるいは表面的な改変（接統語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
 - ・これはコピーに準ずる行為とみなし、学問的誠実性に反する行為と判断します。
- ・引用・参考資料
 - ・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり、正確性や一次性を保証しません。

・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は、必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。

【チェッカーによる検証と不正行為の判断】

・AIチェッカーの活用

・提出された論述・レポートに対し、複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。

・AI生成の可能性が高いと検知された場合、さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。

・不正が疑われる場合

・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合、剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。

・不正行為と認定された場合は、大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。

【適切なAI利用のすすめ】

・AIはあくまで“補助”です

・上記のようなルールを設けても、「AIを一切使わない」という意味ではありません。実際には、キーワード検索や概要把握、論点の整理など、学習者が合理的にAIを使う方法はあります。ただし、最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。

・情報の真偽は自分で確認する

・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with essential knowledge to understand international relations. This course focuses on not just traditional security issues such as nuclear deterrence and balance of power but also non-traditional security issues such as civil war and terrorism.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of the essential conceptions of international relations
2. To acquire the ability to explain the phenomenon of international relations logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Term-end exam (70%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）
経済人類学A
友松 夕香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わたしたちは日々働き、モノを消費し、他者に与え、分かち合いながら生きています。しかし、こうした日常の営みは、「市場」や「お金」だけで説明できるでしょうか。経済人類学は、数字やモデルによってではなく、社会関係や信仰、感情が織りなす生活世界として経済を分析する学問です。本授業では、文化人類学の理論と視点を用いながら、大学生が関心を寄せる身近なテーマを取り上げ、経済がどのように人びとを結びつけたか、軋轢を生み出しているのかを、ミクロなレベルから考察します。グローバル化やデジタル化の文脈で経済的なやりとりが生み出す関係性や不平等を読み解くことで、経済を「人間の営み」として捉え直し、実体経済を理解することを目指します。

【到達目標】

- ・経済人類学の基本的な理論・概念（市場、互酬性、贈与、再分配、交換、商品化など）を理解できるようになる
- ・経済的な社会現象を、人類学的視点から分析できるようになる
- ・経済を文化的・社会的関係のなかで捉え直し、既存の経済観を批判的に検討できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。授業中にエッセイへのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済とはなにか	文化と社会から経済を読み解く
第2回	お金で買えるもの	市場と社会の関係の現代の変容
第3回	文化の盗用	芸術の商品化と創造性をめぐる軋轢
第4回	差異の経済	文化の商品化とステレオタイプ化
第5回	グローバル性産業	セックスワーカーの主体性と法的介入をめぐる課題
第6回	ブルシットジョブ	仕事の価値を問い直す
第7回	専門分化社会	なぜ世界金融危機は起きたのか
第8回	信仰と経済	イスラーム銀行の倫理と論理
第9回	職場の多様性	人間の有用性、権利、包摂をめぐる課題
第10回	経済の3形態	市場・再分配・互酬性
第11回	贈与論	3つの義務と社会関係
第12回	情の経済	非物質的価値が生み出す人間の経済と関係性
第13回	物々交換	デジタル時代の経済の原型
第14回	まとめ	授業内容の整理と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。準備・復習時間は合わせて1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容を整理・考察するエッセイ15点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】

We live our daily lives by working, buying, giving, and sharing. But can these activities be explained only in terms of “markets” and “money”? Economic anthropology approaches the economy not through numbers and models, but as a lived world shaped by social relationships, beliefs, and emotions. This course introduces anthropological perspectives on everyday economic practices, examining how they connect people while also producing divisions and inequalities in an era of globalization and digitalization. Grades will be based on fourteen one-paragraph essays written in or after class (100%). Students are expected to engage in 4 hours of review per week.

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）
経済人類学 B
友松 夕香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済の多様性は、数式や効率性・合理性といった近代経済学の枠組みだけでは十分に捉えきれません。経済人類学 B では、狩猟採集、農耕、漁労など世界の多様な生業だけではなく、ローカル・グローバルな市場取引、格差、知的交流、さらにジェンダーと再生産労働、AI をめぐるポスト産業社会をテーマに取り上げます。生産、消費、交換、分配がどのような社会関係を生み出しているのかを分析することで、「生きられた実践」として人間の経済を理解する視点を身につけることが、本授業の目的です。

【到達目標】

- ・統計では捉えられない人びとの間の経済的なやり取りの過程、構造、意味を分析できるようになる。
- ・ミクロレベルでの観察、解釈と意味づけから理論を導き出す方法を習得する。
- ・世界の経済の多様性を読み解くうえで、フィールドワークの有効性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。授業中にエッセイへのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済人類学とはなにか	経済の多様性と接続・変容
第2回	食物分配	なぜ人は食べ物を分け合うのか
第3回	財と自由	豊かさとはなにか
第4回	脱国家	支配をめぐる空間論
第5回	道徳規範と反乱	モラルエコノミー論と弁証法
第6回	人間がつくる市場	駆け引きと騙し合いの取引交渉
第7回	グローバル格差①	貿易をめぐる経済の不均衡
第8回	グローバル格差②	消費と倫理的ジレンマ
第9回	グローバル格差③	格差の感情と日常の抵抗
第10回	グローバル格差④	「物は要らない」
第11回	グローバル格差⑤	異文化の知的交流はなにを生むか
第12回	再生産労働	ジェンダーをめぐる力学と制度
第13回	ポスト産業社会	知識・サービス・AI をめぐる価値と権力
第14回	まとめ	授業内容の整理と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。準備・復習時間は合わせて1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容を整理・考察するエッセイ14点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】

Economic practices cannot be fully captured by the frameworks of modern economics that emphasize mathematical models and efficiency alone. Economic Anthropology B examines a wide range of themes, from food distribution, market negotiation, and moral economy to global inequalities related to trade and consumption. The course also explores emotions and forms of resistance produced by inequality, gender and reproductive labor, economic transformations driven by intellectual exchange, and post-industrial societies in which knowledge, services, and AI play central roles. The aim of this course is to cultivate a perspective for understanding the economy as “lived practice” embedded in social and cultural contexts. Grades will be based on fourteen one-paragraph essays written in or after class (100%). Students are expected to engage in 4 hours of review per week.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類. 「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税, 有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策, 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方. 「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業 III - システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ

第10回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担. EPR の物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論. 容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法. PC リサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第2版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類. 「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税, 有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策, 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方. 「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業 III - システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ

第10回	費用支払いと費用負担 I - PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担 II - PPPとEPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担. EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論. 容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR II - E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法. PCリサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論Aを既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第2版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CD (経済学 / Economics 200)
経済地理 A
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第2回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
第3回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
第4回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第5回	産業の立地①	立地論の基礎
第6回	産業の立地②	工業立地論と事例
第7回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第8回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
第9回	経済の空間構造②	都市発展と都市システム
第10回	経済の空間構造③	都市の理論・モデルと実際
第11回	国土政策と地域経済①	日本の地域構造と地域間格差
第12回	国土政策と地域経済②	国土政策と地域政策の系譜と現状
第13回	都市・地域開発と政策	都市・地域問題の現状と新たな政策

第14回 まとめ・総括

経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会

デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン

桐原

松原宏編著（2002）『立地論入門』古今書院

山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣

竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（40%）、各回の小テスト等の課題（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。

詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	集積論の系譜①	A.WeberとA.Marshallの集積論
第3回	OD 集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
第4回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第5回	OD 現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
第6回	OD 現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
第7回	OD 現代の集積論③	空間経済学と集積
第8回	OD 日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第9回	OD 日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第10回	OD 産業集積のダイナミズム	産業のグローカル化
第11回	OD 自動車産業の集積①	系列、近接性、JIT生産システム
第12回	OD 自動車産業の集積②	日本の生産システムの海外展開
第13回	OD ハイテク産業の集積	シリコンバレーモデルと産学連携
第14回	講義の小括・まとめ	経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（40%）、各回の小テスト等の課題（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ヨーロッパ経済論 A
進藤 理香子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現在のEUにつながる欧州経済統合の礎となる1945年から80年代半ばまでのヨーロッパの社会経済的発展を東西ドイツの軌跡及び冷戦期の国際関係から考察することを目的とする。

【到達目標】

冷戦体制の国際関係と欧州経済統合の歴史のプロセスを理解する。また今日のEUに受け継がれる西ドイツ社会的市場経済概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間にZoomによる講義を行う。授業時間外での資料の閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	春学期の導入	欧州の社会経済的発展をドイツの軌跡を中心に学ぶ意義について。
第2回	第一次大戦後の欧米とドイツ	ヴェルサイユ体制、戦間期の欧米社会と経済について見る。
第3回	第二次大戦と欧州	ドイツによる欧州諸国侵略、占領、戦争経済について見る。
第4回	第二次大戦の終わりとドイツ敗戦	連合国によるドイツ分割統治と占領政策について学ぶ。
第5回	マーシャルプランと西欧の経済復興	アメリカ主導の欧州復興支援、東西陣営の形成について見る。
第6回	ドイツ連邦共和国（西ドイツ）の建国	東西ドイツ問題、通貨改革について学ぶ。
第7回	西ドイツ社会的市場経済	社会的市場経済の理論と政策的実践について学ぶ。
第8回	西ドイツ経済の奇跡	戦後復興から高度経済成長の過程、大衆消費社会と生活水準向上について。
第9回	西欧の協調と市場統合の模索	欧州石炭鉄鋼共同体の形成について見る。
第10回	ドイツ民主共和国（東ドイツ）とベルリンの壁	ソ連占領政策、東ドイツ建国と社会主義の建設について見る。
第11回	西ドイツ・ブランド首相の東方政策とデタント	東西緊張の緩和と全欧安全保障協力会議について見る。
第12回	ヨーロッパ福祉国家の諸モデル	イギリス、スウェーデン、西ドイツの福祉政策について学ぶ。
第13回	ブレトン・ウッズ体制の崩壊とオイルショック	70年代世界経済の停滞、高度経済成長の終焉について学ぶ。
第14回	ケインズ主義から新自由主義へ	80年代の欧米新自由主義的政策について見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の準備・復習時間は一回あたり各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を指示。

【参考書】

青野利彦（2023）『冷戦史（上）：第二次世界大戦終結からキューバ危機まで』中央公論新社。

青野利彦（2023）『冷戦史（下）：ベトナム戦争からソ連崩壊まで』中央公論新社。

猪木武徳（2009）『戦後世界経済史：自由と平等の視点から』中央公論新社。

トニー・ジャット（2008）『ヨーロッパ戦後史：上巻1945－1971；下巻1971－2005』みすず書房。

藤澤利治/工藤章（編）『ドイツ経済・EU経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019年

古内博行（2007）『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

評価方法は学期末レポート100%。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット接続とコンピュータ。

【Outline (in English)】

Course outline:

The aim of this course is to study the socio-economic and political developments in Europe from 1945 to the mid-1980s, mainly during the Cold War period, in an historical perspective. Particular interest will be paid to the development of Germany which was divided into two states, in the West and in the East, after the country's defeat in World War II.

Learning Objectives:

The goal of this course is to understand the socio-economic development of Europe since 1945.

Lecture:

Two-credits.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies:

Final grade will be calculated according to the following process: A term-end report (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ヨーロッパ経済論 B
進藤 理香子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では1980年代後半から現在に至るヨーロッパの社会経済的発展について学ぶ。冷戦の終結、東欧平和革命、ドイツ再統一、ソ連崩壊、欧州連合EUの成立といった流れを把握しつつ、現在に至るEUの発展と諸政策について学ぶ。

【到達目標】

冷戦終結からEU成立、東方拡大への国際政治の流れを理解する。また欧州単一市場形成と通貨統合などEU独自のガバナンス及び域内・域外に対するEUの役割を理解する。さらに直面する現代の危機（英国EU離脱、コロナ危機、ロシアのウクライナ侵攻、移民難民問題）へのEUの対応を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間にZoomによる講義を行う。授業時間外での資料の閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	秋学期の導入	現代ヨーロッパの社会経済を学ぶ意義について。
第2回	ソ連社会主義体制の停滞と改革の限界	ペレストロイカ、グラスノスチ、チェルノブイリ原発事故について見る。
第3回	東欧平和革命とベルリンの壁崩壊	民主化運動と社会主義政権の崩壊について見る。
第4回	ドイツ再統一とソ連崩壊	ドイツ最終規定条約、統一の負担、ソ連崩壊の帰結などについて学ぶ。
第5回	欧州共同体から欧州連合EUへ	マーストリヒト条約単一市場問題について学ぶ。
第6回	経済通貨統合と欧州中央銀行	欧州通貨統合、単一通貨ユーロ導入について学ぶ。
第7回	EUの機構と運営	EUの諸組織とEU独自のガバナンスを学ぶ。
第8回	EU東方拡大とEU諸国の経済・社会構造	EU東方拡大、EU加盟国間の諸特徴と不均衡について見る。
第9回	EUの通商と農業	共通通商政策と共通農業政策について学ぶ。
第10回	欧州と環境問題	環境問題への様々な取り組みについてドイツの事例を見る。
第11回	欧州と移民・難民問題	難民問題へのEUの対応についてドイツの事例を中心に見る。
第12回	イギリスのEU離脱	英国EU離脱の過程と影響について見る。
第13回	ロシアによるウクライナ侵攻と欧州	EUのウクライナ支援、エネルギー危機、安全保障問題などについて見る。
第14回	秋学期のまとめ	今学期の授業の要点を復習し期末レポート対策を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示。

【参考書】

青野利彦（2003）『冷戦史（上）：第二次世界大戦終結からキューバ危機まで』中央公論新社。

青野利彦（2003）『冷戦史（下）：ベトナム戦争からソ連崩壊まで』中央公論新社。

井上淳（2020）『はじめて学ぶEU：歴史・制度・政策』法律文化社。

川越修・河合信晴(編)（2016）『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版。

工藤章・藤澤利治（2019）『ドイツ経済：EU経済の基軸』ミネルヴァ書房。

田中素香・長部重康（2022）『現代ヨーロッパ経済』第6版 有斐閣。

羽場久美子・小森田秋夫・田中素香（2006）『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

評価方法は学期末レポート課題100%。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course focuses on the socio-economic and political developments in Europe from the end of the Cold War period until today's European Union. Special consideration will be given to the historical events like the collapse of the Soviet Union, the peaceful revolution of 1989 in Eastern Europe, the reunification of the two German states, and the establishment of the European Union and its enlargement to the east. Learning Objective: The goal of this course is to understand the development of the EU.

Lecture:

Two-credits.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies:

Final grade will be calculated according to the following process: a term-end report (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアNIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。この講義受講の意義として、単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学んでほしい。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジアNIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史的経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半では対象となる対象国・地域の現状について、オンラインデータベースの紹介と実際の使用方法を学習しつつ進めていく。中盤では経済発展のエンジンとなる産業や貿易などの育成とグローバル化に焦点を置く。後半は第二次世界大戦後の経済発展史を学ぶ。授業進展に伴い、理解力などを実施し、適宜フィードバックや講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	アジアNIEsの俯瞰	GDP、一人当たりGDPの理解と所得基準
3	アジア経済の底流 1	貧困の悪循環を抜け出せ！
4	アジア経済の底流 2	工業化戦略、投資、貿易
5	アジア経済の底流 3	為替レートがもたらす構造変化とアジアの発展
6	アジアNIEs1	初期の発展の共通点
7	アジアNIEs2	経済発展モデルと各国の実際
8	アジアの工業技術獲得 1	OEM・ODMとスマイルカーブ
9	アジアの工業技術獲得 2	OEM・ODMで発展した現地資本メーカー
10	アジアの工業技術獲得 3	技術導入経路と学習パターン
11	シンガポール	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
12	韓国	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
13	台湾・香港	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習1時間半・復習時間2時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL は URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を100点に案分し評価を行う（100%）。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義スライドの事前配布を望む声があった。本講義ではまず授業時間内にしっかりと講義を聞いてもらい、講義後に配布するスライドを復習として用いてもらう方針なので、なにとぞ理解願いたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義はWebexで行い、理解力テストはHoppiiで行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好なWifi環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などはPCの方が行いやすい。PC利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B双方での履修を望む。

Webexによる授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。またWebex講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

本講義は受講人数の関係でWebexを用いる可能性がある。WebexについてはHoppiiからのリンクで説明が行われているので事前にご参照願いたい。アドレスが変わっていなければ、Webex マニュアル (<https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-enkaku-Webex.html>)。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
現代アジア経済論 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEANについてASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史の内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジアNIEsに次いで高度経済成長を果たしたASEAN諸国についてASEAN4を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Webexによるリアルタイムオンラインで講義を行う。授業ではまずASEAN全体について概観したのち、各国ごとに国の地理、特徴、第二次世界大戦後の発展史などについて学ぶ。授業進展に伴い、理解力テストを実施し、適宜フィードバックや講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN 1	ASEANの成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	ASEAN 2	経済指標での概観、国の発展戦略
4	タイ 1	独立を保てた理由、初期の発展、産業政策、自動車産業、コメ産業など
5	タイ 2	軍人政治・文民政治、赤シャツと黄シャツなど
6	タイ 3	経済成長、貿易、アジア経済通貨危機、大洪水など
7	マレーシア 1	英国からの独立、マハティール、ブミプトラ、ルックイーストなど
8	マレーシア 2	貿易、産業政策、自動車産業、ICT産業など
9	インドネシア 1	世界最大のイスラム国家、資源大国、オランダからの独立、スカルノ、スハルトなど
10	インドネシア 2	貿易、自動車産業、プリブミ、汚職撲滅など
11	フィリピン 1	米国からの独立、マルコス、アセアンの優等生から落第生など
12	フィリピン 2	ピープルパワー革命、OFW、テロ、スラムなど
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習1時間・復習時間3時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸(2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料とURL詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を100点に案分し評価を行う（100%）。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】

Webex については Hoppii からのリンクで説明が行われているので事前にご参照願いたい。アドレスが変わっていなければ、Webex マニュアル (<https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-enkaku-Webex.html>)。

【学生が準備すべき機器他】

講義はWebexで行い、理解力テストはHoppiiで行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好なWifi環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などはPCの方が行いやすい。PC利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】

その他重要事項

本講義とともに現代アジア経済論B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B双方での履修を望む。

Webexによる授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。またWebex講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
中国経済論 A
王 威
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】

中国経済に関しては、マクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済成長のマクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。対面実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第2回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニューダム仮説）とマディソンの長期GDP推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第3回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第4回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第5回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第6回	人口変動と労働力(1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する

第7回	人口変動と労働力(2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第8回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する
第9回	経済成長と格差問題(1)	農産部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第10回	経済成長と格差問題(2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第11回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第12回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第13回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第14回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	中国経済の展望と問題点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間(合計4時間)を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著(2016)『中国経済入門 第4版』日本評論社。
 2. 加藤弘之(2016)『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著(2018)『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著(2013)『中国経済はどう変わったかー改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫(2013)『21世紀の中国経済篇－国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点および宿題（70％）
 2. 期末試験（30％）
- 両者の組み合わせ：100％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The lecture introduces the trajectory of China's economic growth from historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will explore the factors behind China's economic growth from multiple perspectives, including history, economic development, and institutional transitions. Additionally, we will clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the United States, and European countries.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy from macroeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the features of Chinese economy based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data source and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
中国経済論 B
王 威
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済発展の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、格差問題（例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差）などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済発展の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済発展のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。対面実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第2回	国有企業改革(1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第3回	国有企業改革(2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第4回	世界の工場—中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDIと中国経済発展について理解する
第5回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第6回	農村改革(1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第7回	農村改革(2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する
第8回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎—農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する

第9回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第10回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第11回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」（「高考」）の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第12回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第13回	労働雇用・賃金政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第14回	ミクロレベル：中国経済の展望と問題点	ミクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第4版』日本評論社。
 2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
 6. 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度改革』、京都大学学術出版会。
 7. 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動—「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点および宿題（70％）
 2. 定期試験（30％）
- 両者の組み合わせ：100％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This lecture introduces the determinants of the economic development in China from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., government official statistical data, academic survey data etc.). The topics' targets focus on individuals, households, firms, and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise innovation, industrial structural transformation, inequality issues such as income and social security inequality between rural and urban residents and understand the facts, issues and mechanisms in Chinese economy from a microeconomic perspective.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy development from a microeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic development based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, microeconomics, industrial organization economics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)

2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

LANd200CA (ドイツ語 / German language education 200)
ドイツ語セミナー A
北岡 幸代
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、社会背景、人々の考え方を学びます。発音や文法なども受講者の理解度に応じて、確認・復習しながら進めていきます。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

特定の具体的な場面で使われる、定型的表现・語彙・文脈に沿った表現・文法などを学びます。提出された課題については、添削や授業内でのフィードバック、「学習支援システム」を通じてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方、勉強方法について
第2回	住まいについて(1)	住まいのつくり
第3回	住まいについて(2)	感想や評価の表現
第4回	住まいについて(3)	賃貸住宅の広告を読む
第5回	お気に入りの街角(1)	街の景色
第6回	お気に入りの街角(2)	私の街の紹介
第7回	お気に入りの街角(3)	好みを伝える表現
第8回	ホテルでのトラブル(1)	ホテルの設備
第9回	ホテルでのトラブル(2)	助けを求める表現
第10回	ホテルでのトラブル(3)	予定を伺うメール 言い訳と謝罪の表現
第11回	夢と計画(1)	将来の夢を語る
第12回	夢と計画(2)	どこで何を学んでいるの？
第13回	夢と計画(3)	創造的に書いてみよう
第14回	授業内試験とまとめ	口頭試験あるいはプレゼンテーションと筆記試験 今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Menschen Kursbuch A1.2』(Hueber)

【参考書】

参考書等は授業中に適宜紹介し、補助教材・動画教材等は「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。

正当な理由のない欠席が全体の4分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

例年少人数編成である利点を生かし、受講者の皆さんの特に学びたいことを授業に反映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】

ドイツ語を1年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。ドイツ語の学習内容やドイツ語圏に関する受講者の興味関心にできるだけ寄り添い、映画や動画教材も積極的に利用します。したがって、シラバスに提示してあるテーマも若干変更する場合もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, social background and the way people think in German-speaking countries while studying German at the beginner level. Pronunciation and grammar will be checked and reviewed according to the student's level.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to express simple matters in German.

【Learning activities outside of classroom】 The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), an in-class written test (35%), and an in-class oral examination and presentation (35%), with 60% or more of the total passing grade.

If the number of absences without justifiable reason exceeds one-fourth of the total number of absences, the student will be excluded from the grading system.

LANd200CA (ドイツ語 / German language education 200)
ドイツ語セミナーB
北岡 幸代
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、社会背景、人々の考え方を学びます。発音や文法なども受講者の理解度に応じて、確認・復習しながら進めていきます。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

特定の具体的な場面で使われる、定型的表现・語彙・文脈に沿った表現・文法などを学びます。提出された課題については、添削や授業内でのフィードバック、「学習支援システム」を通じてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、勉強方法について
第2回	身体と健康(1)	体調不良をめぐる表現
第3回	身体と健康(2)	命令形の表現
第4回	身体と健康(3)	身体部位と体調をめぐる表現
第5回	人物評(1)	人物の外見について 過去形の表現
第6回	人物評(2)	人物像について 非分離動詞の使い方
第7回	人物評(3)	驚きの表現
第8回	家事とシェアハウス(1)	日記を読む 命令形
第9回	家事とシェアハウス(2)	家事をめぐる表現
第10回	家事とシェアハウス(3)	シェアハウスについて
第11回	服装について(1)	服装に関する表現
第12回	服装について(2)	評価・感想の表現 比較の表現
第13回	服装について(3)	強調する表現
第14回	授業内試験とまとめ	口頭試験あるいはプレゼンテーションと、ヒヤリング・筆記試験 今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Menschen Kursbuch A1.2 (Hueber)

【参考書】

参考書等は授業中に適宜紹介し、補助教材・動画教材は「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。正当な理由のない欠席が全体の4分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

例年少人数編成である利点を生かし、受講者の皆さんの特に学びたいことを授業に反映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】

ドイツ語を1年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。ドイツ語学習内容やドイツ語圏に関する受講者の興味関心に応じてだけ寄り添い、映画や動画教材も積極的に利用します。したがって、シラバスに提示してあるテーマも若干変更する場合もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, social background and the way people think in German-speaking countries while studying German at the beginner level. Pronunciation and grammar will be checked and reviewed according to the student's level.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to express simple matters in German.

【Learning activities outside of classroom】 The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), an in-class written test (35%), and an in-class oral examination and presentation (35%), with 60% or more of the total passing grade.

If the number of absences without justifiable reason exceeds one-fourth of the total number of absences, the student will be excluded from the grading system.

LANf200CA（フランス語 / French language education 200）
フランス語セミナー B
桑原 旅人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

文法および会話事項、さらにフランスの文化的背景について講義を行った後、特に文化的背景を中心に、日本語で対話する時間を設ける。状況によってオンデマンド授業を行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業進行の説明
第2回	意見を述べる	「意見を持つこと」が前提の社会
第3回	賛成・反対・違和感	対立を前提とする会話文化
第4回	評価と批評	批評文化の基礎
第5回	公共空間で話す	フォーマル／インフォーマルの切替
第6回	世俗主義と宗教	laïcité の基本理解
第7回	中間まとめ	教場レポート
第8回	政治・社会問題を「軽く」語る	断定を避けつつ語る技法
第9回	抽象語に慣れる	フランス語の抽象度
第10回	主語をぼかす戦略	曖昧さに伝える技法
第11回	違いを説明する	比較の言語化
第12回	意見交換	文化的テーマ
第13回	言語と権力	フランス語における 非人称主語（on / il faut）の役割
第14回	まとめ	教場レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかけける準備・復習の時間は合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業ないで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、二回のレポート50%

【学生の意見等からの気づき】

今学期からの担当となります。

【Outline (in English)】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANf200CA（フランス語 / French language education 200）
フランス語セミナー A
桑原 旅人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

文法および会話事項、さらにフランスの文化的背景について講義を行った後、特に文化的背景を中心に、日本語で対話する時間を設ける。状況によってオンデマンド授業を行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業進行の説明
第2回	自己紹介	フランス社会における個人性
第3回	出身を語る	フランス人の国民国家意識と共和国
第4回	社会的属性を語る	フランス人の職業・所属意識
第5回	好みを言語化する	「意見を言う」ことの前提
第6回	注文の仕方	フランスのカフェ文化
第7回	中間まとめ	教場レポート
第8回	場所・都市・空間感覚	パリについて
第9回	予定と時間意識	フランス人の時間管理
第10回	感情と評価	感情表現の許容度
第11回	依頼提案の仕方	直接性と対等性
第12回	日常会話での衝突	誤解が生まれる場面
第13回	家族を語る	フランス人の家族感
第14回	まとめ	教場レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計4時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業のなかで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

二回のレポート50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

今学期からの授業となります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANr200CB（ロシア語 / Russian language education 200）
ロシア語セミナー A
松澤 暢子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を終え、中級以上を目指す学生のための授業です。基礎文法の習得を完成し、中級文法を学びながら、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語能力を伸ばしていきます。ロシア語圏で通用するロシア語能力の基礎を身につけること、そして、様々なジャンルの文章や視聴覚教材を通じ、言語だけでなくロシアの生活、文化、歴史への知識を深めることを目的とします。

【到達目標】

1. 基礎文法、基本的な語彙に加え、主に以下の4点を習得することで、ロシア語能力検定試験4級、3級の合格、または同程度のロシア語能力を身につけることを目指す。
 - ・辞書を使わずに短い文章を読解、和訳できる。
 - ・ゆっくりとしたテンポで読まれた文章、簡単な日常会話を聞きとることができる。
 - ・発音、アクセント、イントネーションを意識した、滑らかな音読、会話（挨拶や簡単な日常会話）ができる。
 - ・基本的な語彙を使い、挨拶や自己紹介などを書くことができる。
2. 中級文法を学習し、辞書を使いながら文学作品を含む様々なジャンルの文章を読み解く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面で行います。基礎文法を総復習し、5月、10月のロシア語能力検定試験（4級、3級）の受験を視野に、文法、露文和訳、和文露訳等の対策問題を解いていきます。基礎文法の復習後は、中級文法を学習します。このほか、文学作品を含む幅広いジャンルの文章の読解、音楽や朗読、映画等の視聴覚教材を使用したリスニングの練習、そして音読や会話の練習を毎回行います。随時小テストを実施し、課題を出します。課題等に対する講評や解説は授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、進め方 ロシア語能力検定試験の概要 発音、アクセント、イントネーション
第2回	名詞と人称代名詞	名詞の性別と複数形、人称代名詞
第3回	形容詞、所有代名詞、指示代名詞	形容詞、所有代名詞、指示代名詞とその格変化
第4回	格変化	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第5回	動詞 1	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、命令形）
第6回	動詞 2	動詞（完了体と完了体）
第7回	副詞	副詞、無人称文
第8回	移動の動詞 1	「歩いていく」と「乗り物で行く」、定動詞と不定動詞
第9回	移動の動詞 2	その他の移動の動詞

第10回	前置詞	生格、対格、造格、前置格を要求する前置詞など
第11回	関係代名詞	関係代名詞、関係副詞、接続詞
第12回	比較級	比較級、最上級
第13回	数詞	数詞（数詞と名詞の変化）、個数詞、順序数詞
第14回	春学期のまとめ	文法、露文和訳、和文露訳、音読など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨み、課題は期限までに必ず提出してください。予習・復習を合わせた授業外の学習時間は、毎回2時間程度が目安です。そのほか、NHKラジオ『まいにちロシア語』やインターネットなどを通じ、日頃からロシア語に触れ、知識と興味を深めていきましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。

露和辞典（『博友社ロシア語辞典（改訂新版）』[1995年]が望ましい）

【参考書】

『初級ロシア語20課』桑野隆著、白水社、2012年

『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年

『研究社露和辞典』、研究社、1988年

『研究社和露辞典<改訂版>』、研究社、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価50%で評価します。課題は、文法の練習問題、単語・表現の意味調べ、音読などです。詳細は初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見や希望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。ロシア語能力検定試験4級、3級の合格を目指す学生も受験を予定していない学生も歓迎します。なお、受講生の習熟度やロシア語能力検定試験受験予定者の有無、社会情勢等により授業計画およびその進捗、形態（基本対面）は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is designed for students who have taken beginner Russian and wish to advance to the intermediate level. While completing the acquisition of basic grammar and learning intermediate grammar, students will develop their Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing". The objective is for students to acquire a foundation of Russian language skills that can be used in Russian-speaking countries, and to deepen their knowledge not only of the language but also of Russian life, culture, and history through a variety of texts and audiovisual materials of different genres. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test or acquire the same level of Russian language proficiency. Four hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANr200CB（ロシア語 / Russian language education 200）
ロシア語セミナーB
松澤 暢子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を終え、中級以上を目指す学生のための授業です。基礎文法の習得を完成し、中級文法を学びながら、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語能力を伸ばしていきます。ロシア語圏で通用するロシア語能力の基礎を身につけること、そして、様々なジャンルの文章や視聴覚教材を通じ、言語だけでなくロシアの生活、文化、歴史への知識を深めることを目的とします。

【到達目標】

1. 基礎文法、基本的な語彙に加え、主に以下の4点を習得することで、ロシア語能力検定試験4級、3級の合格、または同程度のロシア語能力を身につけることを目指す。
 - ・辞書を使わずに短い文章を読解、和訳できる。
 - ・ゆっくりとしたテンポで読まれた文章、簡単な日常会話を聞きとることができる。
 - ・発音、アクセント、イントネーションを意識した、滑らかな音読、会話（挨拶や簡単な日常会話）ができる。
 - ・基本的な語彙を使い、挨拶や自己紹介などを書くことができる。
2. 中級文法を学習し、辞書を使いながら文学作品を含む様々なジャンルの文章を読み解く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面で行います。基礎文法を総復習し、5月、10月のロシア語能力検定試験（4級、3級）の受験を視野に、文法、露文和訳、和文露訳等の対策問題を解いていきます。基礎文法の復習後は、中級文法を学習します。このほか、文学作品を含む幅広いジャンルの文章の読解、音楽や朗読、映画等の視聴覚教材を使用したリスニングの練習、そして音読や会話の練習を毎回行います。随時小テストを実施し、課題を出します。課題等に対する講評や解説は授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと復習	授業の概要、進め方 春学期の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策 1	過去問題を時間内で解く練習： 文法、リスニング、朗読
第3回	ロシア語能力検定試験対策 2	過去問題を時間内で解く練習： 和文露訳、リスニング、朗読
第4回	ロシア語能力検定試験対策 3	過去問題を時間内で解く練習： 露文和訳、リスニング、朗読
第5回	前置詞 イントネーション 1	様々な前置詞 ロシア語のイントネーション
第6回	動詞 イントネーション 2	移動の動詞と接頭辞 イントネーションを意識した音読：平叙文
第7回	形動詞 1 イントネーション 3	能動形動詞 イントネーションを意識した音読：疑問詞を伴う疑問文

第8回	形動詞 2 イントネーション 4	被動形動詞 イントネーションを意識した音読：疑問詞のない疑問文
第9回	副動詞 イントネーション 5	副動詞 イントネーションを意識した音読：感嘆詞を伴う感嘆文など
第10回	読解と朗読 1	文学作品の和訳と朗読練習
第11回	読解と朗読 2	文学作品の和訳と朗読練習
第12回	読解と朗読 3	文学作品の和訳と朗読練習
第13回	読解と朗読 4	文学作品の和訳と朗読練習
第14回	秋学期のまとめ	視聴覚教材でのリスニング練習、朗読など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨み、課題は期限までに必ず提出してください。予習・復習を合わせた授業外の学習時間は、毎回2時間程度が目安です。そのほか、NHKラジオ『まいにちロシア語』やインターネットなどを通じて、日頃からロシア語に触れ、知識と興味を深めていきましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典『博友社ロシア語辞典（改訂新版）』[1995年] が望ましい。

【参考書】

『初級ロシア語20課』桑野隆著、白水社、2012年
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年
『研究社露和辞典』、研究社、1988年
『研究社和露辞典＜改訂版＞』、研究社、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価50%で評価します。課題は、文法の練習問題、単語・表現の意味調べ、音読などです。詳細は初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見や希望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。ロシア語能力検定試験4級、3級の合格を目指す学生も受験を予定していない学生も歓迎します。なお、受講生の習熟度やロシア語能力検定試験受験予定者の有無、社会情勢等により授業計画およびその進度、形態（基本対面）は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is designed for students who have taken beginner Russian and wish to advance to the intermediate level. While completing the acquisition of basic grammar and learning intermediate grammar, students will develop their Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing". The objective is for students to acquire a foundation of Russian language skills that can be used in Russian-speaking countries, and to deepen their knowledge not only of the language but also of Russian life, culture, and history through a variety of texts and audiovisual materials of different genres. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test or acquire the same level of Russian language proficiency. Four hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANe200CA (中国語 / Chinese language education 200)
中国語セミナー A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。

授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。

中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第2回	第1課	読解 (成語は邯鄲の代名詞)
第3回	第2課	読解 (中国のサブカルが世界で人気)
第4回	1、2課のまとめ、発表	発表
第5回	第3課	読解 (中国パビリオンに見る未来社会)
第6回	第4課	読解 (民間サッカーリーグ人気を考える)
第7回	3、4課のまとめ、発表	発表
第8回	第5課	読解 (幸せも量産する中国トヨタ)
第9回	第6課	読解 (中国の若者の婚活事情)
第10回	5、6課のまとめ、発表	発表
第11回	第7課	読解 (ASEANと雲南、20年来的パートナー)
第12回	第8課	読解 (伝統の窯に新たな息吹)
第13回	7、8課のまとめ、発表	発表
第14回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は4時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2026年度版』朝日出版社、2026年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、試験70%

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

2年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30% regular marks and 70% examinations.

LANe200CA（中国語 / Chinese language education 200）
中国語セミナー B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。
学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	前期のまとめ
第2回	第9課 (推し活が消費を動かす)	読解
第3回	第10課 (防空壕が面目一新)	読解
第4回	9、10課のまとめ、発表	発表
第5回	第11課 (鉄道こぼれ話)	読解
第6回	第12課 (日本人留学生のヒットハイク旅行記)	読解
第7回	11、12課のまとめ、発表	読解
第8回	第13課 (EUが注目する中国産EV)	読解
第9回	第14課 (ハイテク企業の揺りかご、杭州)	読解
第10回	第15課 (山全体をキャンパスに)	読解
第11回	13、14、15課のまとめ、発表	発表
第12回	補助教材（新聞記事）	読解、発表
第13回	補助教材（新聞記事）	読解、発表
第14回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は4時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2026年度版』朝日出版社、2026年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、試験70%

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30% regular marks and 70% examinations.

LANs200CA（スペイン語 / Spanish language education 200）
スペイン語セミナー A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、三十数年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、リサーチし、各自のできる範囲でスペイン語も使って発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できる。
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読める。興味関心あることは簡単なスペイン語で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第2回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第3回	復習②と基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第4回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第5回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第6回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第7回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第8回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第9回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第10回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第11回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第12回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第13回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第14回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90％＋口頭試験10％で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。キャンパス探検会話実習は好評だったため状況次第で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布はHoppii上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもあり、年度によって様々）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic issues for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of a Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned parts of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentations about relevant topics. Students are expected to spend four hours per class. [Grading Criteria / Policy] Grades will be based on the term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

LANs200CA（スペイン語 / Spanish language education 200）
スペイン語セミナー B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、三十数年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、リサーチし、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第2回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第3回	復習②と基礎的知識	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義
第4回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第5回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第6回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第7回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第8回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第9回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第10回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第11回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第12回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第13回	復習③	口頭試験の準備
第14回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成、スペイン語作文等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru（2000）／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）／エル・コメルシオ紙（<http://elcomercio.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90％＋口頭試験10％で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布はHoppii上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもあり、年度によって様々）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic issues for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of a Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned parts of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentations about relevant topics. Students are expected to spend four hours per class. [Grading Criteria / Policy] Grades will be based on the term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
開発経済入門A	
池上 宗信	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済学の様々なトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部1年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、相関と因果を学びます。

また、経済発展の潜在的な要因として、貿易を取り上げ、理論と実証を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きいのに、サブサハラ・アフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、2025年度の履修者数に基づいて、教室を割り当てられていない、オンライン授業が確定している科目です。

授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	高校地歴の教育における本授業の意味、労働需要1	生産関数、等利潤線
第2回	労働需要2	利潤最大化（図による導出）、微分
第3回	労働需要3	利潤最大化（数式による導出）
第4回	労働需要4	労働と資本、所得分配
第5回	相関と因果1	平均、期待値、大数の法則、推定
第6回	相関と因果2	条件付き期待値、回帰分析
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から6回までの内容を復習、中間試験
第8回	相関と因果3	疑似相関、ルービンの因果モデル
第9回	相関と因果4	セレクション・バイアス、ランダム化比較試験
第10回	貿易1	比較優位、絶対優位
第11回	貿易2	2財1時点モデル
第12回	貿易3	国際価格比と比較優位、貿易政策下の予算制約線
第13回	貿易4	輸入代替工業化、実証分析

第14回 まとめと解説、期末試験 第8回から13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

必要・興味に応じて、各講義のスライドの2ページ目にある参考文献を読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

各講義のスライドは、スライドの2ページ目にある参考文献に基づいています。

以下のような文献などです。

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社

高野久紀（2025）『開発経済学 実証経済学へのいざない』日本評論社

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社

高橋和志、樋口裕城、牧野百恵編（2025）『実証から学ぶ開発経済学』有斐閣

戸堂康之（2021）『開発経済学入門 第2版』新世社

西山慶彦他（2019）『計量経済学』有斐閣

ハ・ナジ ャ、デ ュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず 書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。

学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答率は2022- 24年度は8.2- 10.3%だったのですが、2025年度は1.6%に激減しました。授業改善アンケートへの回答をお願いします。

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline

Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and correlation and causality, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students. We will study trade as factor of economic development.

- Learning Objectives

Why do East Asian countries have large proportions of financial sectors, while Sub-Saharan Africa have smaller proportions? The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
開発経済入門B	
池上 宗信	
開講時期：秋学期授業/Fall	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門Aでは、開発経済学を学ぶ準備として、労働需要、所得分配、相関と因果を学びました。また、経済発展の潜在的な要因として、貿易を学びました。

開発経済入門Bでは、経済発展の潜在的な要因として、金融、起業を取り上げ、理論と実証を学びます。

また、経済成長、貧困の罅、産業構造転換の理論、実証を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラ・アフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょう？

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、金融の深化が進んでいるのに、サブサハラ・アフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、2025年度の履修者数に基づいて、教室を割り当てられていない、オンライン授業となることが確定している科目です。

授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融1	異時点間予算制約線、割引現在価値、消費者の異時点間効用最大化
第2回	金融2	企業の利潤最大化、資本制約
第3回	金融3	1財2期間モデル（消費者かつ生産者）
第4回	金融4	マクドゥーガル＝ケンプ・モデル、実証分析
第5回	起業	職業選択
第6回	貧困の罅	信用制約、実証分析
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習、中間試験
第8回	経済成長1	対数、成長率、人口、貧困、国民総生産、購買力平価
第9回	経済成長2	経済成長の記述統計
第10回	経済成長3	ソロー・モデル
第11回	経済成長4	一人あたり資本の成長率、技術進歩

第12回	経済成長5、構造転換1	貯蓄率、労働成長率の変化、条件付き収束、成長会計、構造転換の記述統計
第13回	構造転換2	ルイス・モデル、ハリス＝トドロ・モデル、トドロの逆説
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

必要・興味に応じて、各講義のスライドの2ページ目にある参考文献を読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

- 各講義のスライドは、スライドの2ページ目にある参考文献に基づいています。

- 以下のような文献などです。

- 植田健一（2022）『金融システムの経済学』日本評論社

- 高野久紀（2025）『開発経済学 実証経済学へのいざない』日本評論社

- 澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社

- ジェトロ・アジア経済研究所他編（2015）『テキストブック開発経済学 第3版』有斐閣

- 高橋和志、樋口裕城、牧野百恵編（2025）『実証から学ぶ開発経済学』有斐閣

- 高橋基樹、福井清一編（2008）『経済開発論 研究と実践のフロンティア』勁草書房

- 戸堂康之（2021）『開発経済学入門 第2版』新世社

- バナジエ、デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。

学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答率は2021-22年度は9.0-19.3%だったのですが、2023-24年度は3.9-4.3%に激減しました。授業改善アンケートへの回答をお願いします。

- 授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline

In Introductory Development Economics A, we studied labor demand, income distribution, correlation and causality. We reviewed economics models showing benefits of trade and empirical studies.

In Introductory Development Economics B, we will study finance and entrepreneurship as factors of economic development.

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization.

- Learning Objectives

Why are the economies of Sub-Saharan African countries small and growing rapidly while Japan's economy is large and growing slowly? Why do East Asian countries have large proportions of financial sectors, while Sub-Saharan Africa have smaller proportions? The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）
環境科学 A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は初回のガイダンスからスタートします。

講義概要としては、1－環境を構成する要因、2－環境の変動、3－テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4－環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。

履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。

試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境2	上水道と下水道
4	水と環境3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス2	ESCO事業・ISOビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義期間内に小試験（10点）を複数回行い、さらに期末に試験（100点）を行う。両試験とも講義に出席し受験した場合にのみ得点を認める。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

hosei-wifiに接続できるノートパソコンまたはタブレット端末必須。スマホは不可。

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

Learning objectives:

The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.

Learning activities outside of classroom:

Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).

Grading criteria:

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）
環境科学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の4つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。

試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネスA：	ESCO事業1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネスB：	ESCO事業2（適用実例）
第13回	環境・エコビジネスC：	エコファンド・土地関連ビジネス

第14回 海外の環境ビジネス 米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義期間内に小試験（10点）を複数回行い、さらに期末に試験（100点）を行う。両試験とも講義に出席し受験した場合にのみ得点を認める。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

hosei-wifiに接続できるノートパソコンまたはタブレット端末必須。スマホは不可。

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

Learning objectives:

The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.

Learning activities outside of classroom:

Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).

Grading criteria:

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論Aまたは公共経済論A・Bを履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第2回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から20世紀末まで
第3回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第4回	地球温暖化対策①	エネルギー政策、カーボンプライシング
第5回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第6回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第7回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第8回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第9回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第10回	環境税	ビグー税、汚染者負担原則
第11回	排出取引	税との比較、EUの制度
第12回	補助金・デポジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第13回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第14回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木(2024)『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣
一方井誠治(2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines environmental policies from the viewpoint of economic theory.

The goals of this course are to graphically comprehend the economic mechanism of environmental conservation measures. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論Aにつづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。環境政策論Aを履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境政策の諸原則	6つの原則
第2回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第3回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第4回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第5回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第6回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第7回	生物多様性	生態系サービス
第8回	生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第9回	自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第10回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第11回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第12回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第13回	企業と環境問題①	環境マネジメント
第14回	企業と環境問題②	サステナブルファイナンス、ESG投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

竹本和彦編(2020)『環境政策論講義』東京大学出版会
西尾哲茂(2025)『わか～る 環境法 第3版』信山社
神山智美(2024)『自然環境法を学ぶ 第2版』文真堂
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews current environmental law, politics, and policy in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand environmental policies and their policy process in Japan and to discuss the future direction of environmental policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
社会経済思想史 A
山本 英子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経済学を取り巻くさまざまな思想がどのように経済学に関わってきたのかについて、歴史的視点で学んでいきます。春学期のこの社会経済思想史Aでは、西洋の思想の源流となる古代ギリシャの思想から始めて、中世、ルネサンス、重商主義、啓蒙思想、そして産業革命が進行する19世紀までの思想をとりあげ、経済学との関連を理解することができるように進めます。例えば、18世紀のアダム・スミスが何を批判し何を主張していたのか、そこに至るまでにどのような思想的バックグラウンドや論争があったのか、など、歴史上の主要な思想家たちが継承してきた議論のプロセスを時系列に追体験していくことによって、経済学の役割や意義を各自で考えられるようになることをめざします。

【到達目標】

社会が発展する歴史的过程の中で、多くの思想家たちがそれぞれどのような問題に直面し、どのような思想的根拠に基づき、どのような論争を行いながら経済学の土台を築こうとしていたのかを理解して説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者の理解の定着のため、授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらいます。次の授業時に前回のリアクションペーパーの優れていた点や問題点等を示して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・思想史的視点から見る経済学についての解説
第2回	経済学黎明期から重商主義に至るまでの経済思想	・アリストテレス、アキナス ・イングランドの重商主義：マン、ベティ、ロック
第3回	重商主義の影響	・フランスの重商主義：コルベール ・三大バブル：ロー、カンティロン、ムロン
第4回	18世紀：啓蒙の世紀	・商業社会と奢侈論争：マンデヴィル、グルネ、ヒューム ・重農主義：ケネー
第5回	18世紀の古典派経済学と経済思想（1）	・スミス『道徳感情論』：公平な観察者、同感
第6回	18世紀の古典派経済学と経済思想（2）	・スミス『国富論』①：全体の構成、分業、価値論
第7回	18世紀の古典派経済学と経済思想（3）	・スミス『国富論』②：見えざる手、資本蓄積、重商主義批判
第8回	18世紀の古典派経済学と経済思想（4）	・スミス『国富論』③：小さな政府、植民地問題
第9回	スミスの時代の諸学説	・ステュアートの重商主義 ・フランスとイタリアの主観価値学説の萌芽
第10回	19世紀初頭の思想	・功利主義：ベンサム ・第一次産業革命の影響：オウエン、リスト
第11回	19世紀の古典派経済学と経済思想（1）	・マルサス：人口問題 ・リカード：投下労働価値説、差額地代論、比較優位
第12回	19世紀の古典派経済学と経済思想（2）	・J.S. ミル：生産分配差別論、賃金基金説、質的功利主義
第13回	マルクス経済学と経済思想	・弁証法的唯物論、剰余価値と搾取
第14回	授業の総括	・春学期に学んだ内容についての授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を各自で再読しながら理解を深め、紹介する文献等を読むことも求められるので、各自の集中力によって目安は異なるとしても、標準の準備学習と復習は各2時間とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとします。

欠席者のために毎回授業後に学習支援システムにも掲載します。

【参考書】

各回の授業に関連する文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

第2回から第13回のリアクションペーパーでの理解度（3%×12回：36%）と、第14回の授業内試験の得点（64%）によって評価します。第14回に行う授業内試験は「第2回から第13回の配布資料のみ持込可」で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特にありません。

【その他の重要事項】

社会経済思想史Aが前編、社会経済思想史Bが後編となるので、通年での履修が望ましいですが、一方だけの受講も可能です。

【Outline (in English)】

This course focuses on the study of socio-economic thought from ancient Greece through the 19th century and aims to understand the relationship between the ideas and debates of each era.

The goals of this course are to understand and explain what problems various thinkers faced, what intellectual foundations they relied upon, and what debates they engaged in as they sought to establish the foundations of economics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be determined based on short reports (36%) and on in-class exam (64%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
社会経済思想史 B
山本 英子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経済学を取り巻くさまざまな思想がどのように経済学に関わってきたのかについて、歴史的視点で学んでいきます。秋学期のこの社会経済思想史Bでは、春学期の社会経済思想史Aの内容に続く19世紀後半から20世紀に焦点を当てて、歴史的な出来事をおさながら、経済学が多くの思想と複雑に関連しながら変遷していることを理解できるように進めます。例えば、20世紀のJ・M・ケインズが何を批判して彼の経済学が生まれ大きく支持されたのか、それがその後どのような主張と対峙したのか、など、主要な学者たちの思想や理論の背景や影響そして転換を、激動の歴史的事象とともに時系列に追体験していくことによって、経済学のダイナミズムを各自が改めて実感できることをめざします。

【到達目標】

社会が発展する歴史のプロセスの中で、多くの思想家たちがそれぞれどのような問題に直面し、どのような思想的根拠に基づき、どのような論争を行いながら経済学の土台を築こうとしていたのかを理解して説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者の理解の定着のため、授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらいます。次の授業時に前回のリアクションペーパーの優れていた点や問題点等を示して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・19世紀末～21世紀の経済学的展望
第2回	新古典派経済学と経済思想（1）	・限界革命：ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー
第3回	新古典派経済学と経済思想（2）	・マーシャル： 部分均衡論、余剰分析、経済学騎士道
第4回	新古典派経済学と経済思想（3）	・効率的な資源配分：エッジワース、パレート
第5回	20世紀諸初頭の諸学派	・ドイツ歴史学派、オーストリア学派、ローザンヌ学派、制度学派、ケンブリッジ学派
第6回	厚生経済学	・ピグー、カルドア、アロー
第7回	ケインズ経済学と経済思想（1）	・ケインズ経済学の形成と影響
第8回	ケインズ経済学と経済思想（2）	・『一般理論』① 古典派経済学批判、雇用理論、有効需要
第9回	ケインズ経済学と経済思想（3）	・『一般理論』② 乗数理論、資本理論、利子理論、IS-LM分析
第10回	新古典派総合	・2つの経済成長理論の対立
第11回	資本主義観の変容	・シュンペーターの経済思想：新結合、創造的破壊、管理資本主義
第12回	自由主義への転換	・ハイエク：社会主義経済計算論争、自生的秩序 ・フリードマン：マネタリズム、新自由主義
第13回	グローバリゼーションの行方	・20世紀末から21世紀の社会と経済
第14回	授業の総括	・秋学期に学んだ内容についての授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を各自で再読しながら理解を深め、紹介する文献を読むことも求められるので、各自の集中力によって目安は異なるとしても、標準の準備学習と復習は各2時間とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとします。
欠席者のために毎回授業後に学習支援システムにも掲載します。

【参考書】

各回の授業に関連する文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

第2回から第13回のリアクションペーパーでの理解度（3%×12回：36%）と、第14回の授業内試験の得点（64%）によって評価します。第14回を行う授業内試験は「第2回から第13回の配布資料のみ持込可」で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特にありません。

【その他の重要事項】

社会経済思想史Aが前編、社会経済思想史Bが後編となるので、通年での履修が望ましいですが、一方だけの受講も可能です。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of socio-economic thought from the late 19th century through the 20th century and focuses on understanding the relationship between the ideas and debates of each era.

The goals of this course are to understand and explain what problems various thinkers faced, what intellectual foundations they relied upon, and what debates they engaged in as they sought to establish the foundations of economics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be determined based on short reports (36%) and on in-class exam (64%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済政策論 A
小原 拓也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

完全競争市場という理想的な取引環境においては、資源配分の効率性と公平性が実現される。しかし、現実的には市場で解決できない問題（市場の失敗）が存在するため、政府の市場への介入が必要となる。本講義では、様々な市場の失敗に対して政府はどのように政策介入すべきなのかを考察する。また、関連する現実の経済問題を紹介することで理解を深める。

【到達目標】

本講義では、歳出（政府の支出）の観点における経済政策の内容を習得することで、政府がどのような目的で現実の経済問題に対処しているのか経済的に理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、自作のパワーポイント資料（PDFファイル）を用意し、授業の前日までに学習支援システム（WebClass）にアップロードするので、各自で印刷しないしPCを持参して講義に出席すること。また毎回ではないが、講義内容を復習するための確認問題を講義資料に掲載する。フィードバック（解答解説等）は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策の目的
2	市場と政府(1)	政府の活動、余剰分析
3	市場と政府(2)	完全競争市場とパレート効率性
4	市場と政府(3)	公平性(機会の平等と結果の平等)
5	公共財理論(1)	公共財の定義と分類
6	公共財理論(2)	公共財の最適供給
7	外部性(1)	外部性の定義、金銭的外部性と技術的外部性、外部性における余剰分析
8	外部性(2)	外部性の公的解決と私的解決
9	独占	供給独占、独占における余剰分析
10	自然独占	費用逓減産業、自然独占における余剰分析、価格規制とインセンティブ規制
11	社会保障制度(1)	社会保障制度の概観、年金制度
12	社会保障制度(2)	医療制度、介護制度、生活保護制度、子育て支援策
13	講義総括	春学期の学習内容を総括する
14	試験と解説	春学期の学習内容について期末試験および解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の準備としては、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習を行うこと。
1回の授業につき、準備・復習それぞれ約2時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。自作のパワーポイント資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 麻生良文・小黒一正・鈴木将寛著『財政学15講』新世社、2018年
- ② 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学 第2版』日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は、教室内で実施する試験（100%）によって行う。試験では、経済政策論Aで扱うテーマに関する基本的な計算問題または記述問題を出題し、授業内容の理解度を測る。

【学生の意見等からの気づき】

授業内アンケートでは、「政府の経済活動に関する理論とその現実への応用を学ぶことで、経済ニュースをより理解できるようになった」といった感想が寄せられている。これらの意見を踏まえ、今後は講義内容の一層の深化と改善を進めていく予定である。

【Outline (in English)】

Course Outline

In the ideal trading environment of a perfectly competitive market, efficiency and fairness in resource allocation are achieved. In reality, however, there are problems that cannot be solved by the market (market failures) and require government intervention in the market. In this lecture, we will examine how the government should intervene in response to market failures. It will also deepen understanding by introducing related real-world economic problems.

In this course, the objective is to develop an understanding of economic policy from the perspective of government expenditure, enabling students to grasp, from an economic viewpoint, the purposes for which the government addresses real-world economic issues.

For lecture preparation, it is important to review Microeconomics AB (allocated for the second year).

For each class, approximately two hours of preparation and two hours of review are recommended.

Evaluation will be conducted through an in-class examination (100%). The exam will include fundamental calculation problems or written questions related to the topics covered in Economic Policy A to assess students' understanding of the course content.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学のIS-LMモデルを用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ経済統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ経済統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、スライドを用いた講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。期末試験に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ経済統計1	GDPの概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ経済統計2	物価指数の概念と作成方法
4	経済政策のためのマクロ経済統計3	失業率の概念と作成方法
5	労働政策1	失業の原因
6	労働政策2	失業への政策的対処
7	労働政策3	賃金の硬直性と失業
8	財政・金融政策1：IS-LMモデルの構築1	ケインジアンの交差図、乗数効果
9	財政・金融政策2：IS-LMモデルの構築2	IS曲線の導出
10	財政・金融政策3：IS-LMモデルの構築3	貨幣量の測定とコントロール
11	財政・金融政策4：IS-LMモデルの構築4	LM曲線の導出
12	財政・金融政策5：IS-LMモデルの応用1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	財政・金融政策6：IS-LMモデルの応用2	金融政策の効果と流動性のわな

14 まとめと期末試験 まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

濱秋純哉，2025年、『経済政策』新世社

【参考書】

1. N・グレゴリー・マンキュー，2024年、『マクロ経済学 I（第5版）』東洋経済新報社
2. ダロン・アセモグル，デヴィッド・レイブソン，ジョン・リスト，2019年、『ALLマクロ経済学』東洋経済新報社
3. 福田慎一・照山博司，2023年、『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらうことがある。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

本講義を履修するにあたり、経済政策論Aを履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線・供給曲線、余剰や弾力性の概念、及び余剰分析の方法などを学習済みなら、必ずしも履修済みの必要はない）。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours each on preparation and review.

Grading Policy

The final grade will be determined as follows:

Term-end examination: 100%

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
社会政策論 A
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンド配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。】

社会政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会政策である。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か－定義と歴史的展開－	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開 少子高齢化社会の動向と社会保障	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
4	老齢年金制度の概要 障害年金・遺族年金の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
5	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
6	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
7	診療報酬制度とその課題	診療報酬制度の課題
8	わが国の医療提供体制 これからの医療と地域政策の展開	医療提供体制の概要 地域の変貌とこれからの医療
9	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
10	雇用保険事業の沿革・課題 労働者災害補償保険の概要と課題	雇用保険二事業の概要 労働者災害補償保険の意義と体系
11	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
12	介護保険の沿革と制度改正	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改正による課題対応
13	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な社会（保障）政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、講義内容に該当する部分の参考書に予め目を通しておくこと。日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックスについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しない。独自の講義スライド資料を利用する。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第22版）』有斐閣、2025年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と学期末試験により実施する。

講義全体の受講（視聴）状況（視聴時間（12.5%）・出席回数（12.5%）」、「実施される確認テストの受験状況（12.5%）と点数（12.5%）」を併せて平常点（50%）として換算し、「学期末試験の点数」を50%として全体で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的にオンデマンドの授業形態となるが、特定日時に質問を受けるためのオフィスアワー（オンライン実施）やメールでの質問を受け付けることで、学生の学習の便宜を図りたい。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせ当該分野の現状や課題について解説する。

授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】The purpose of this lecture is to provide an overview of the social policy issues facing Japan (labor and employment, medical care, pensions, long-term care, public assistance, and welfare for the elderly and children) and their backgrounds, and to provide an overview of the system, basic knowledge of policy trends, and a deeper understanding of institutional responses to these issues.

【Learning activities outside of classroom】

The objectives, history, and background of various social policies and systems will be explained in the lectures, but students are encouraged to read reference books on the topics relevant to the lecture content in advance. It is desirable that students voluntarily take an interest in current topics related to social security that they are exposed to in newspapers, magazines, etc. on a daily basis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on both regular attendance and the final exam.

Regular attendance (50%) is calculated by combining lecture attendance (viewing) status (time (12.5%) and frequency (12.5%)), along with participation in and scores on the quizzes administered (12.5% each). The final exam score (50%) completes the overall evaluation.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
社会政策論 B
菅原 琢磨
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会政策論A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会保障上の問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促すことを講義の目的とする。

【到達目標】

わが国が直面する主要な社会保障政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会保障政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義では特に高齢化に対する対応が進む医療制度改革やその政策対応にも触れつつ、進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か 社会保障を巡る今日の状況	社会保障の定義、我が国の現状と将来
2	新型コロナウイルスのパンデミック発生時の政策対応と評価	新型コロナに対する政策対応と今後の課題の検討
3	医療財政と医療政策 「医療保険制度の課題と将来」	給付と負担の見直しに向けた今後の展望
4	高額薬剤など新たなイノベーションに対する対応	高額薬剤の現状と画期的イノベーションを創発する制度設計
5	地域医療連携政策とその理論（Ⅰ）	地域医療連携を進める意義とその理論的背景
6	地域医療連携政策とその理論（Ⅱ）	地域医療連携を進めるうえでの政策的な留意点
7	社会保障政策の政策評価（Ⅰ）	行政評価制度の概要
8	社会保障政策の政策評価（Ⅱ）	政策評価手法：費用便益分析の概要
9	社会保障政策の政策評価（Ⅲ）	政策評価（費用・便益分析）の実際の適用例
10	保健医療福祉政策の視座と国際比較	保健医療福祉政策の目標と各国のアプローチ
11	医療費の増加要因 欧米先進国の医療制度	医療費増加要因、欧州、米国等の医療制度
12	アジア・環太平洋地域の医療制度 主要国における医療制度改革の潮流	オーストラリア、シンガポールの医療制度 各国のこれまでの医療制度改革の鳥瞰
13	国際比較を通じた日本医療の特徴	OECD Health Statistics にもとづく、我が国の医療の特徴
14	社会保障制度に対する対応の世界的潮流	これからの社会保障制度と課題対応の考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて2時間、講義後に講義資料を参考に2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。

講義で必要な資料がある場合は、適宜、学習支援システム上で配布する。

【参考書】

島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011年
小黒一正・菅原琢磨『薬価の経済学』日本経済新聞出版社、2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と学期末試験により実施する。

講義全体の受講（視聴）状況（視聴時間（12.5%）・出席回数（12.5%））、「実施される確認テストの受験状況（12.5%）と点数（12.5%）」を併せて平常点（50%）として換算し、「学期末試験の点数」を50%として全体で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的にオンデマンドの授業形態となるが、特定日時に質問を受けるためのオフィスアワー（オンライン実施）やメールでの質問を受け付けることで、学生の学習の便宜を図りたい。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。

授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】Based on the overview of “Social Policy A,” the course will take up noteworthy themes from among actual policy trends and social problems, and provide in-depth discussions and explanations. The purpose of the lecture is to encourage students to develop the ability to examine and think about real-life social security issues on their own as materials.

【Learning activities outside of classroom】

Students should voluntarily take an interest in and read up on current topics related to social security policy that are mentioned in newspapers and magazines on a daily basis. The standard study time for each lecture item is 2 hours before the lecture using reference books and 2 hours after the lecture using the lecture materials as reference.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on both regular attendance and the final exam.

Regular attendance (50%) is calculated by combining lecture attendance (viewing) status (time (12.5%) and frequency (12.5%)), along with participation in and scores on the quizzes administered (12.5% each). The final exam score (50%) completes the overall evaluation.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
労働経済論 A
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。具体的には、「人手不足」、「外国人労働力」、「教育の経済学」といったトピックについて取り上げる。また、「少人数制は生徒の学力を上げるのか？」といったことに関しても、実証分析を基に議論する。

【到達目標】

この労働経済論Aでは、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本とする。期末試験の内容を想定した演習問題を授業内で解説する。また、数回の小テスト（オンライン）でおこなうことで理解度を確認する。小テストで出来の悪かった問題については、授業内で解説する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	データで見る日本の労働市場
3	労働供給（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要（1）	短期・長期の労働需要モデル
6	労働需要（2）	調整費用モデル等
7	労働市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスとその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

阿部正浩『基本講義 労働経済学』（新世社、2021年）
清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020年）

【成績評価の方法と基準】

2回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・受講者が関心のある労働問題のトピックにも触れるように心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

諸般の事情から、一部の講義をオンラインで実施する場合がある。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論Aで学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例：「人事の経済学」、「介護離職」、「両立支援策」等）また、労働市場のセーフティネットについても議論を多く割く予定である。

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本とする。期末試験の内容を想定した演習問題を授業内で解説する。また、数回の小テスト（オンライン）でおこなうことで理解度を確認する。小テストで出来の悪かった問題については、授業内で解説する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	失業（1）	日本の失業の概観
5	失業（2）	失業を説明する理論
6	失業保険	失業保険に関する実証分析
7	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
8	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
9	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
10	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題、高齢者の労災
11	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
12	両立支援策	女性の就業と保育サービス
13	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すことが望ましい。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会、2020年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末テストのみ（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・講義は「労働経済論A」の内容を前提として進めるので、「労働経済論A」を受講しておらず講義内容を理解できない場合は、各自でその内容を学習する必要がある。

・進捗状況等に応じて、講義で取り上げるトピックの内容や順番を変更することがある。

・諸般の事情から、一部の講義をオンラインで実施する場合がある。

【Outline (in English)】

Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safetynets for workers are also discussed. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based only on term-end exam (100%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第3回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDPと社会保障給付費、財源
第4回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第5回	年金制度 2	年金制度の問題点
第6回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第7回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第8回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第9回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第10回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第11回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第12回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第13回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版

鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, the goals of this course are to understand the current situation and issues of the Japanese social security system. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論Bでは、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第3回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第4回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第5回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第6回	所得再分配	所得格差の指標
第7回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第8回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第9回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第10回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第11回	世代間格差	世代会計
第12回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第13回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学15講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第2版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. The goals of this course are to understand the roles of the social security system from an economics perspective. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

SES300CA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300)
地球環境論A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解するために、身の回りの自然環境から、地球または宇宙規模での環境について学びます。様々な人間の経済活動と地球環境との相互関係について理解を深めるため、環境保全、資源、エネルギー、生物多様性など多面的な学習を展開します。

【到達目標】

諸資料を活用し、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。さらに、自発的に地球規模での問題に気づき、的確な情報によって批判できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTRなどによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性と意義
14	授業内試験	これまでの学習の理解度を筆記試験でチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

試験（60%）、提出課題と授業への取組の総合点（40%）とし、合計の60%以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【その他の重要事項】

学生は授業中にPC、スマートフォン、タブレットを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないように配慮します。

【Outline (in English)】

In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading criteria is Assignments(60%), Class Contribution(20%), and

Report or Quiz contribution(20%).

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）
地球環境論B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。様々なエネルギー問題、廃棄物問題、環境保全などについて、正しい情報とともに課題と解決策を見出す力を養う。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	授業内試験	理解度を筆記試験で評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1)『地球環境学入門 第3版』 山崎友紀 （講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】

1)『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2)『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

試験（60%）、提出課題と授業への貢献度（40%）とし、合計の60%以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

理系科目の苦手な学生も理解できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

学生は授業中にPC、タブレット、スマートフォンを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline (in English)】

The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading criteria is Assignments(60%), Class Contribution(20%), and

Report or Quiz contribution(20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基礎知識を講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
- ・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）リアクションペーパーのコメントや質問を授業の最初にフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	マクロ経済学とは (1)	マクロ経済学の登場人物
3	マクロ経済学とは (2)	市場均衡
4	マクロ経済を観察する (1)	国内総生産
5	マクロ経済を観察する (2)	名目と実質
6	マクロ経済を観察する (3)	消費者物価指数
7	マクロ経済を観察する (4)	労働に関する統計
8	マクロ経済学を支える 金融市場 (1)	金融市場の実際
9	マクロ経済学を支える 金融市場 (2)	金利 (利子率)
10	貨幣の機能と中央銀行の役割 (1)	貨幣の機能
11	貨幣の機能と中央銀行の役割 (2)	中央銀行の役割
12	財政の仕組みと機能 (1)	財政の仕組み
13	財政の仕組みと機能 (2)	税制と国債
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第4版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2026年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年
「マクロ経済学への招待（ライブラリ経済学への招待 3）」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・リアクションペーパー (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学 B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学 A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates, t his class lectures on basic knowledge of macroeconomics.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基本モデルを講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
- ・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）リアクションペーパーのコメントや質問を授業の最初にフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDPと金利の決まり方（1）	45度分析
3	GDPと金利の決まり方（2）	ISLMモデル
4	総需要・総供給分析（1）	物価とGDPの同時決定
5	総需要・総供給分析（2）	経済政策の限界
6	インフレとデフレ（1）	実質金利と名目金利
7	インフレとデフレ（2）	インフレと失業
8	国際収支・為替レートとマクロ経済（1）	海外との取引を測る
9	国際収支・為替レートとマクロ経済（2）	金利平価
10	経済が成長するメカニズム（1）	ソローモデル
11	経済が成長するメカニズム（2）	経済成長の要因分解
12	資産価格の決まり方（1）	資産価格の決まり方
13	資産価格の決まり方（2）	資産価格バブル
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第4版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2026年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年
「マクロ経済学への招待（ライブラリ経済学への招待 3）」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）・リアクションペーパー（30%）・試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates, this class lectures on basic macroeconomic models.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
ミクロ経済学A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Aでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分を中心に学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学のより専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済現象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則的には対面講義の形式でおこなう。諸事情でオンラインとする場合は事前に連絡する。資料を授業支援システム上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション・数学準備	講義内容の概説と講義の進め方、数学準備
2	消費者行動(1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現、
3	消費者行動(2)	予算制約
4	消費者行動(3)	限界代替率と需要の導出
5	消費者行動(4)	価格・所得の変化と需要の変化
6	消費者行動(5)	準線形選好
7	生産者行動(1)	生産関数・費用最小化
8	生産者行動(2)	費用関数の性質
9	生産者行動(3)	完全競争市場における供給関数の導出
10	生産者行動(4)	独占市場における生産者の行動
11	市場均衡(1)	部分均衡分析
12	市場均衡(2)	一般均衡分析
13	市場均衡(3)	厚生経済学の基本定理
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド(穴埋め式)を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 林貴志「ミクロ経済学 増補版」2013年、ミネルヴァ書房、4500円+税
- ② 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014年、日本評論社、3200円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐[監訳]、高遠裕子[訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017年、東洋経済新報社、3200円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

スライド送りが早くなりすぎないように気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」や「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

講義の進め方および平常点の内容については新年度から新しく導入される学習支援システムの機能によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially focusing on the price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to think the real-life economic phenomenon by using the idea of microeconomics; C) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy) Final exam 80%; Class participation 20%.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bではゲーム理論およびそのミクロ経済学への応用を中心的に学ぶ。現在では、ゲーム理論は多くの分野でミクロ経済的な分析をおこなうための必須ツールになっているので、基礎を確実に身に着ける。

【到達目標】

- ・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を、そうすることが適切な場合に、ゲーム理論と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則的には対面講義の形式でおこなう。諸事情でオンラインとする場合は事前に連絡する。資料を授業支援システム上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方、数学準備
2	戦略形ゲーム(1)	戦略形ゲーム、双行列表現
3	戦略形ゲーム(2)	最適反応戦略とナッシュ均衡
4	戦略形ゲーム(3)	(弱)支配戦略、第二価格オークション
5	戦略形ゲーム(4)	混合戦略ナッシュ均衡
6	展開形ゲーム(1)	展開形ゲーム、ゲームの木
7	展開形ゲーム(2)	部分ゲーム完全均衡、後向き帰納法
8	展開形ゲーム(3)	繰返しゲーム
9	不完全競争市場(1)	数量競争市場
10	不完全競争市場(2)	価格競争市場
11	不完全競争市場(3)	カルテルとしての独占の発生
12	公共財供給(1)	公共財供給問題
13	公共財供給(2)	VCGメカニズム
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド(穴埋め式)を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

① 渡辺隆裕「一歩ずつ学ぶ ゲーム理論 -数理で導く戦略的意思決定」2021年、裳華房、3300円＋税

② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C. [著], 安田洋祐[監訳], 高遠裕子[訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円＋税
③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014年、有斐閣アルマ、1900円＋税

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

スライド送りが早くなりすぎないように気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」、「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

講義の進め方および平常点の内容については新年度から新しく導入される学習支援システムの機能によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces elementary game theory and its microeconomic applications.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand basic concepts of game theory and become able to explain them; B) become able to capture real-life economic phenomenon by utilizing the game theory when applicable; C) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of the classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Class participation 20%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年CDEFGHIJKLMNO組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システム内のWebClassを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	科学としてのマクロ経済学、マクロ経済学のデータ	マクロ経済学概説、国内総生産、消費者物価指数、失業率
第3回	科学としてのマクロ経済学、マクロ経済学のデータ	トピック講義
第4回	国民所得	生産・所得・分配
第5回	国民所得	トピック講義
第6回	国民所得、開放経済	支出、財市場の均衡、金融市場の均衡、開放経済（小国）モデル
第7回	国民所得、開放経済	トピック講義
第8回	開放経済、貨幣システム	為替レート：名目対実質・為替レートの決定要因、銀行の役割・マネーサプライ
第9回	小テスト	小テスト

第10回	開放経済、貨幣システム	トピック講義
第11回	インフレ、労働市場	貨幣数量説、インフレと利子率、貨幣需要、失業率の長期均衡、労働市場と賃金決定メカニズム
第12回	景気変動	総需要、総供給、総需要・総供給モデルを使った短期と長期の分析
第13回	インフレ、労働市場、景気変動	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験45%、小テスト25%、宿題25%、練習問題5%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 45%, Quiz: 25%, Homeworks: 25%, Problem Sets: 5%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年CDEFGHIJKLMNO組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足かりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システム内のWebClassを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	総需要1	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、均衡
第3回	総需要1	トピック講義
第4回	総需要2	財政・金融政策、総需要・総供給モデルの短長期分析
第5回	総需要2	トピック講義
第6回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線、フィリップス曲線と自然失業率
第7回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	トピック講義
第8回	経済変動の動学モデル	モデルの要素および解、動学モデルを使った政策分析
第9回	小テスト	小テスト

第10回	経済変動の動学モデル	トピック講義
第11回	経済変動の動学モデル、経済成長	動学モデルを使った政策分析（続き）、資本の蓄積、定常均衡、貯蓄、資本の黄金律水準
第12回	経済成長	人口成長・経済ショック・技術進歩、実証分析・政策
第13回	経済変動の動学モデル、経済成長	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅰ：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円＋税

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験45%、小テスト25%、宿題25%、練習問題5%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 45%, Quiz: 25%, Homeworks: 25%, Problem Sets: 5%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ミクロ経済学 A
西村 健
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済理論分析の基礎であるミクロ経済学について学ぶ。議論の中心となるのは「完全競争市場」である。その市場では、消費者や企業が数多く存在し、各経済主体はモノ・サービスの価格に決定力を持たない。市場において、消費者や企業はどのように行動するか、その結果として資源配分がどのように決まるか、結果的な資源配分は社会的観点からどのような性質を持つかといった点について、数理的に解き明かす。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学における重要な用語および概念を理解し、説明できるようになる。
- ・ミクロ経済学の標準的手法を用いて、消費や生産などの経済活動がどのようになされるかについて、数理的に分析できるようになる。
- ・ミクロ経済学的な観点から、現実の経済データについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には対面形式で行うが、最大7回（1回目と6回目を含む）まで、動画配信によるオンライン形式にする場合がある。この点については、講義における指示にしたがうこと。
- ・システム上で講義スライドを配布する。事前にダウンロードまたは印刷して、講義に持参してもらいたい。
- ・システム上で小テストを出題する。
- ・授業内で、講義内容のまとめや復習、および、小テスト等に対する講評や解説をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、講義のルール
2	完全競争市場（1）	需要と供給、消費者の需要曲線、市場の需要曲線、需要曲線のシフト
3	完全競争市場（2）	企業の供給曲線、市場の供給曲線、供給曲線のシフト
4	完全競争市場（3）	市場の均衡
5	完全競争市場（4）	消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰、効率性
6	経済数学の準備	関数、連立方程式、微分
7	消費者理論（1）	効用関数、無差別曲線、限界代替率
8	消費者理論（2）	予算制約、効用最大化問題、需要関数
9	消費者理論（3）	需要の所得弾力性、需要の価格弾力性
10	消費者理論（4）	代替効果と所得効果
11	生産者理論（1）	企業、短期費用関数、短期供給曲線
12	生産者理論（2）	長期生産関数、長期費用関数、長期供給曲線
13	競争均衡	交換経済、競争均衡
14	総復習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・システム上で事前に講義スライドを配布するので、事前に予習しておくこと。
 - ・講義後、講義の復習をすること。
- （予習と復習、各4時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義スライドを配布する。

【参考書】

- ・伊藤秀史 著、『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣
- ・伊藤元重 著、『ミクロ経済学』、日本評論社
- ・神取道宏 著、『ミクロ経済学の力』、日本評論社
- ・柳川隆、町野和夫、吉野一郎 著、『ミクロ経済学・入門—ビジネスと政策を読みとく』、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、平常点 30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義中に演習問題を出すなど、理解しやすい講義を心がけたい。
- ・難解な箇所は板書等を交えてなるべく丁寧に説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

システムを頻繁に利用するため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】

数学を頻繁に用いるため、「ビジネス数学入門」や「数学」の履修を推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through prices in competitive markets. Students should surely acquire the contents of this course because microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final examination 70% and Class performance 30%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ミクロ経済学B
西村 健
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の基礎を踏まえ、その発展的内容について学ぶ。具体的には、ゲーム理論、産業組織論、情報の非対称性、マーケットデザインの問題が分析対象となる。競争が不完全なときに企業はどのように振る舞うか、経済主体間で情報の非対称性があるときにどのような非効率性が生じるか、制度設計者は市場をどのように設計すべきかといった点について、数理的に解き明かす。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学とゲーム理論における重要な用語および概念を理解し、説明できるようになる。
- ・ミクロ経済学とゲーム理論の標準的手法を用いて、産業組織論、情報の非対称性、マーケットデザインの各種の問題を分析できるようになる。
- ・ミクロ経済学的な観点から、現実の経済データについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には対面形式で行うが、最大7回（1回目と13回目を含む）まで、動画配信によるオンライン形式にする場合がある。この点については、講義における指示にしたがうこと。
- ・システム上で講義スライドを配布する。事前にダウンロードまたは印刷して、講義に持参してもらいたい。
- ・システム上で小テストを出題する。
- ・授業内で、講義内容のまとめや復習、および、小テスト等に対する講評や解説をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、前期の復習、講義のルール
2	ゲーム理論（1）	囚人のジレンマ、支配戦略
3	ゲーム理論（2）	合理的なボタ、支配される戦略の逐次除去、ナッシュ均衡
4	ゲーム理論（3）	参入ゲーム、部分ゲーム完全均衡
5	産業組織論（1）	独占市場、独占価格、死荷重
6	産業組織論（2）	寡占市場、ベルトラン価格競争
7	産業組織論（3）	寡占市場、クールノー数量競争
8	情報の非対称性（1）	リスクと不確実性、リスク態度
9	情報の非対称性（2）	モラルハザード、アドバースセレクト
10	情報の非対称性（3）	シグナリング理論、完全ペイジアン均衡
11	マーケットデザイン（1）	オークション理論
12	マーケットデザイン（2）	マッチング理論
13	マーケットデザイン（3）	マッチング理論
14	総復習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・システム上で事前に講義スライドを配布するので、事前に予習しておくこと。
 - ・講義後、講義の復習をすること。
- （予習と復習、各4時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義スライドを配布する。

【参考書】

- ・伊藤秀史 著、『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣
- ・岡田章 著、『ゲーム理論・入門 新版』、有斐閣
- ・坂井豊貴 著、『マーケットデザイン：最先端の実用新世代的な経済学』、ちくま新書
- ・鈴木伸枝、西村健 著、『ゲーム理論15講』、新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義中に演習問題を出すなど、理解しやすい講義を心がけたい。
- ・難解な箇所は板書等を交えてなるべく丁寧に説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

システムを頻繁に利用するため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】

数学を頻繁に用いるため、「ビジネス数学入門」や「数学」の履修を推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially industrial organization, asymmetric information, and market design. This course also introduces game theory, which is essential for analyzing these problems.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and game theory and become able to explain them; B) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final examination 70% and Class performance 30%.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
特別講義 (寄付講座 証券市場論)
大和証券 (株)
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
 - ②金融商品市場での主な商品 (株式・債券・投資信託) を学ぶ。
 - ③M & Aなど、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
- 講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

At the end of the course, the students are expected to be able to explain the social significance of direct financing using securities such as stocks and bonds, and to explain the characteristics and risks of price movements of these securities under various economic environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

As a way to proceed, we plan to read the materials carefully and take a small test of about 15 to 20 minutes. As for feedback, we will announce the summary of the quiz results during the next week's lecture, and we will instruct you to recognize the areas where your understanding is low and to focus on studying again.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M & A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み

第14回 試験・まとめ 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。
Nothing in particular about preparatory study. Approximately 4 hours of study time.

【テキスト (教科書)】

各回講義用のレジュメを配布する。
Distribute resumes for each lecture.

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。
Indicate references where necessary.

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施 (50%)
期末試験 (50%)

Implementation of a quiz after each lecture to measure the degree of understanding of the lecture content (50%)

Final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline (in English)】

This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.

1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.

(2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts) (3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions

The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

LANj300CA（日本語 / Japanese language education 300）
特別講義（ビジネス日本語A）
大石 有香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

留学生が日本で就職活動を行う上で必要になる知識と日本語力を身につけることを目的とする。日本における就職活動の仕組みや、就職活動の様々なプロセスにおいて必要になる「聞く」「話す」「読む」「書く」能力に関する理解を深め、将来の就職活動に備える。

【到達目標】

次の3つである。

1. 日本における就職活動の仕組みとプロセスを理解し、計画的に準備できる。
2. 効果的な方法を理解し、適切な表現を用いて自己表現ができる。
3. 様々なコミュニケーションの場面に応じて、適切な表現を使い分けることができる。

This course has three goals.

- 1.Understand the structure and process of job hunting endeavors in Japan and be able to prepare systematically,
- 2.Understand effective methods and be able to express oneself using appropriate forms.
- 3.Be able to use expressions appropriately in different communication situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実践的演習からなる。実践的演習にはエントリーシートの作成、Eメールの作成、模擬面接などが含まれる。必要に応じてリアクションペーパーの提出が求められる。課題等の提出はGoogle Classroomを通じて、課題のフィードバックは次回授業で行う。

The course consists of lectures and practical exercises. Practical exercises include writing entry sheets, composing emails, and participating in mock interviews. Students may be required to submit reaction papers as needed. Assignments must be submitted via Google Classroom, and feedback on assignments will be provided in the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、日本での就職活動 Guidance, Job Search Process in Japan	授業運営に関する説明、日本における就職活動の特徴とそのプロセス Course Administration, Characteristics and Process of Job Search Process in Japan
2	自己分析 Self-Analysis	自己分析の意味と方法 Significance and Methods of Self-Analysis
3	業界・企業研究 Industry and Company Research	業界・企業研究の方法と実践 Methods and Practice of Industry and Company Research
4	学生時代に力を入れたこと Activities You Were Committed to During Your Student Years	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
5	自己PR Self-Promotion (Self-PR)	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
6	志望動機 Motivation for Applying	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
7	エントリーシート Entry Sheet (ES)	エントリーシートの作成と相互検討 Entry Sheet Writing and Peer Review
8	履歴書 Resume (Rirekisho)	履歴書の作成と相互検討 Resume Writing and Peer Review
9	敬語 Keigo (Honorific Language)	敬語の種類と性質 Types and Characteristics of Keigo (Honorific Language)
10	Eメール Email	Eメールの書き方 How to Write an Email

11	面接 Interview	面接選考の種類と仕組み Types and Structure of Interview Selection
12	模擬面接 Mock Interview	模擬面接の実施・相互評価 Conducting Mock Interviews and Peer Evaluation
13	模擬面接 Mock Interview	模擬面接の実施・相互評価 Conducting Mock Interviews and Peer Evaluation
14	まとめと解説 Summary and Explanation	提出物の再検討 Review of Submitted Materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間である。

予習: 事前課題の実施

復習: 講義内容や活動の振り返り、課題の作成および提出準備

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: pre-assignment

Review: review of lecture content and activities, preparation of assignments and submissions

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

Distributed as needed.

【参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド2027』日本学生支援機構

Job Hunting Guide for International Students

(https://www.jasso.go.jp/ryugaku/after_study_/job/guide.html)

【成績評価の方法と基準】

平常点: 30%

課題: 50%（ワークシート、振り返りシート、エントリーシート等）

模擬面接: 20%

Ordinary marks: 30%.

Assignments: 50% (e.g. worksheets, reflection sheets, entry sheets)

Mock interviews: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

就職活動時において必要な日本語運用力も養成できたのでよかったとの声が聞かれたため、就職活動に必要な基本的な知識を学ぶとともに日本語運用力を向上させる課題も取入れる。

There was the feedback that the course helped develop the Japanese language skills necessary for job hunting. Therefore, tasks aimed at improving Japanese proficiency will be incorporated alongside learning the fundamental knowledge required for job hunting.

【学生が準備すべき機器他】

なし。

Non applicable.

【その他の重要事項】

本科目は日本語非母語話者を対象とする。

This course is designed for non-native speakers of Japanese.

【Outline (in English)】

This course aims to equip international students with the necessary knowledge and Japanese language skills for job hunting in Japan. By understanding the structure of the Japanese job-hunting process and enhancing their listening, speaking, reading, and writing skills required at various stages, students will be better prepared for their future job search.

LANj300CA（日本語 / Japanese language education 300）
特別講義（ビジネス日本語B）
大石 有香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本の企業で働く上で必要となる日本語の知識と、基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。敬語に関する講義や、仕事場面を想定した実践的な演習を通して、職場での様々な課題に適切に対応できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

次の2つである。

1. 敬語の性質と使い方を正しく理解し、状況や場面に応じて適切に使用できる。
2. 人の紹介、電話応対、Eメールの作成などを含め、日本語で適切にコミュニケーションを取ることができる。

This course has two goals.

- 1.Understand the nature and use of honorific expressions accurately and be able to use them appropriately according to the occasion and situation.
- 2.Be able to communicate appropriately in Japanese,including introducing people, answering the telephone and composing emails.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、講師による講義、課題やテーマをめぐる学生同士の話し合い、クラス全体での共有という流れで進める。課題等の提出は Google Classroom を通じて、フィードバックは次回授業内で行う。

Each class will follow a structure consisting of a lecture, discussions among students on assigned topics, and a class-wide sharing session. Assignments must be submitted via Google Classroom, and feedback will be provided in the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、尊敬語 Guidance, Sonkeigo (Respectful Language)	授業運営に関する説明、尊敬語の性質と使い方 Course Administration, Characteristics and Usage of Sonkeigo (Respectful Language)
2	謙譲語 Kenjōgo (Humble Language)	謙譲語の性質と使い方 Characteristics and Usage of Kenjōgo (Humble Language)
3	その他の敬語 Other Types of Keigo (Honorific Language)	丁寧語・美化語、うちそとと敬語の使い分け Teineigo and Bikago (Polite and Beautifying Language), and Distinguishing Keigo Usage Based on "Uchi" and "Soto"
4	言語表現の丁寧さ Politeness in Language Expressions	「丁寧さの原理」と表現の使い分け Principle of Politeness and Differentiation in Language Usage
5	敬語のまとめ Summary of Keigo (Honorific Language)	復習、使い分けの練習 Review and Practice of Usage Distinctions
6	敬語テスト、あいさつと紹介 Keigo Test, Greetings and Introductions	復習テストの実施、表現の検討とロールプレイ Review Test, Expression Analysis and Role-Playing
7	電話を受ける Receiving Phone Calls	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing
8	電話をかける Making Phone Calls	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing
9	訪問 Business Visits	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing

10	ビジネスメール Business Emails	表現の検討、Eメールの作成 Expression Analysis and Email Writing
11	職場でのコミュニケーションのまとめ Summary of Workplace Communication	ロールプレイトストとフィードバック Role-Play Test and Feedback
12	プレゼンテーションの準備 Presentation Preparation	資料と原稿の作成 Preparation of Materials and Script
13	プレゼンテーション Presentation	プレゼンテーションの実施 Conducting the Presentation
14	まとめ Summary	授業全体の振り返りとフィードバック Overall Course Review and Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間である。

予習: 事前課題の実施

復習: 講義内容や活動の振り返り、課題の作成および提出準備

The standard preparation and review time for this lesson is 2 hours each.

Preparation: e.g. preparation of worksheets for the next activity.

Review: e.g. preparation of assignments, quizzes and tests.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料配布する。

Materials will be distributed as needed.

【参考書】

『伸ばす！就職能力・ビジネス日本語力：日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック【改訂版】』植木香・木下由紀子・小島美智子著、国書刊行会、2025年、1,980円（税込）ISBN 978-4-336-07728-8

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション: 20%

課題: 50%（状況や場面に応じた日本語運用課題）

平常点: 30%

Presentations: 20%,

Assignments: 50% (Japanese language operational tasks appropriate to the situation/occasion), Ordinary marks: 30%.

【学生の意見等からの気づき】

学生から要望したところ敬意表現が詳しく学べたのでよかったとの意見が寄せられた。今期も要望を取り入れながら進めていく。

Feedback indicated that students appreciated the opportunity to learn honorific expressions in greater detail as requested. In this course, we will continue this term by incorporating such requests into the class.

【学生が準備すべき機器他】

なし。

Non applicable.

【その他の重要事項】

本科目は日本語非母語話者を対象とする。

This course is designed for non-native speakers of Japanese.

【Outline (in English)】

This course aims to equip international students with the necessary Japanese language knowledge and fundamental communication skills for working in Japanese companies. Through lectures on keigo (honorific language) and practical exercises simulating workplace situations, students will develop the ability to respond appropriately to various challenges in a professional environment.

MAN100CA (経営学 / Management 100)
簿記Ⅰ A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※国際経済学科生のみ履修可 ※他学部は社会学部のみ履修可
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記とは、企業等で行われる経済活動とその結果を一定のルールによって記録・集計する仕組みのことである。講義では、複式簿記のシステムに従って、企業で行われる日々の活動（取引）を整理・記録して、最終的に損益計算書と貸借対照表にまとめるまでの過程を学習していく。簿記の初学者を対象とし、日商簿記検定3級程度の基礎的な知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 複式簿記の仕組みを理解する、2. 日常の取引を処理することができる、3. 決算手続きの流れを理解する、4. 損益計算書・貸借対照表を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業会計の意義	会計の意義と種類、経営活動と会計、簿記の基本原則
第2回	貸借対照表の仕組み	資産・負債・資本、貸借対照表を用いた損益計算
第3回	損益計算書の仕組み	収益と費用、損益計算書を用いた損益計算、B/SとP/Lの関係
第4回	勘定と取引	勘定の意義、簿記上の取引、取引要素と取引の二重性
第5回	仕訳と転記	貸借平均の原理、仕訳のルール、元帳への転記
第6回	試算表	合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
第7回	現金預金	通貨代用証券、現金過不足の処理、現金出納帳
第8回	当座預金	当座預金、当座預金出納帳
第9回	小口現金	インプレスト・システム、小口現金出納帳
第10回	商品売買①	三分法、掛け売買、手付金・内金の処理
第11回	商品売買②	商品券、返品処理、諸掛りの処理
第12回	商品売買③	売掛金元帳、買掛金元帳
第13回	商品売買④	商品有高帳、売上原価の計算
第14回	復習	春学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容、特にテキストの例題、練習問題をもう一度解いておくこと。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

理論説明、問題演習、解説をバランスよく配分する。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of double-entry bookkeeping system.(Learning Objectives)At the end of the course, students are expected to acquire the principles of bookkeeping system and produce financial statements.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN100CA (経営学 / Management 100)
簿記ⅠB
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※国際経済学科生のみ履修可 ※他学部は社会学部のみ履修可

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記とは、企業等で行われる経済活動とその結果を一定のルールによって記録・集計する仕組みのことである。講義では、複式簿記のシステムに従って、企業で行われる日々の活動（取引）を整理・記録して、最終的に損益計算書と貸借対照表にまとめるまでの過程を学習していく。簿記の初学者を対象とし、日商簿記検定3級程度の基礎的な知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 複式簿記の仕組みを理解する、2. 日常の取引を処理することができる、3. 決算手続きの流れを理解する、4. 損益計算書・貸借対照表を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	手形取引	約束手形、手形記入帳、手形による借入れ・貸付け
第2回	各種帳簿、電子記録債権・債務	主要簿と補助簿、各種帳簿の関係、電子記録債権・債務
第3回	有形固定資産	有形固定資産の取得・売却・賃借
第4回	債権債務	未収入金・未払金、仮払金・仮受金、立替金・預り金
第5回	決算	決算の意味、決算手続き
第6回	決算整理①	租税公課、貯蔵品の処理
第7回	決算整理②	売上原価を算定するための仕訳と勘定記入
第8回	決算整理③	貸倒引当金の設定
第9回	決算整理④	有形固定資産の減価償却
第10回	決算整理⑤	前払費用、前受収益、未払費用、未収収益
第11回	精算表、帳簿の締切と財務諸表	8桁精算表、決算振替仕訳、財務諸表の作成
第12回	株式会社の会計	株式の発行、利益剰余金の配当・処分、税金
第13回	伝票会計	三伝票制、一部現金取引（分割法、擬制法）
第14回	復習	秋学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容、特にテキストの例題、練習問題をもう一度解いておくこと。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

理論説明、問題演習、解説をバランスよく配分する。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of double-entry bookkeeping system.(Learning Objectives)At the end of the course, students are expected to acquire the principles of bookkeeping system and produce financial statements.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

LAW200CA（法学 / law 200）
日本国憲法A
村元 宏行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいるが、どの学問分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、春期科目として人権を主にとりあげ（秋期科目で統治機構を扱う）、それらの歴史的、社会的背景もとりにあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。

日本国憲法の構造（人権）について理解できる。

現実には生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講に際しての諸注意など。
第2回	憲法とは何か	立憲主義について学ぶ。
第3回	日本国憲法の誕生	憲法の制定過程について学ぶ。
第4回	国民主権と象徴天皇制	国民主権の意義や象徴天皇制の概要を学ぶ。
第5回	憲法9条と平和主義（その1）	憲法9条制定の背景等を学ぶ。
第6回	憲法9条と平和主義（その2）	憲法9条をめぐる裁判等について学ぶ。
第7回	基本的人権（基本的人権とは）	憲法で基本的人権が保障されている意義について学ぶ。
第8回	基本的人権（基本的人権の類型と人権保障の限界）	自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。
第9回	基本的人権（包括的基本権）	憲法13条の幸福追求権について学ぶ。
第10回	基本的人権（自由権 その1）	精神的自由権について学ぶ。
第11回	基本的人権（自由権 その2）	人身の自由と経済的自由権について学ぶ。
第12回	基本的人権（社会権 その1）	生存権について学ぶ。
第13回	基本的人権（社会権 その2）	教育を受ける権利、勤労の権利について学ぶ。
第14回	基本的人権（参政権）、国民の義務	選挙権などの参政権と、国民の義務について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。

小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを利用する。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the fundamental principle of constitutionalism.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200CA (法学 / law 200)
日本国憲法B
村元 宏行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいるが、どの分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実を生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、秋学期授業として統治機構を主にとりあげ（人権は春学期に取り上げる）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。

日本国憲法の構造（統治機構）について理解できる。

現実を生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、統治制度と権力分立制	権力分立制の意義について学ぶ。
第2回	立法権（その1）	立法権について概要を学ぶ。
第3回	立法権（その2）	立法権を担う国会の諸問題について学ぶ。
第4回	行政権（その1）	行政権についてその範囲や概要を学ぶ。
第5回	行政権（その2）	行政権を担う内閣や、行政機関をめぐる諸問題について学ぶ。
第6回	司法権（その1）	司法権の独立など、司法権の概要を学ぶ。
第7回	司法権（その2）	司法権を担う裁判所をめぐる諸問題を学ぶ。
第8回	地方自治	地方自治の本旨や、地方自治をめぐる諸問題を学ぶ。
第9回	財政	財政民主主義など、財政規定の概要を学ぶ。
第10回	憲法改正（その1）	憲法改正について、議論の変遷を学ぶ。
第11回	憲法改正（その2）	憲法改正をめぐる現代的争点を学ぶ。
第12回	憲法をめぐる現代的課題（その1）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題を取り上げて学ぶ。
第13回	憲法をめぐる現代的課題（その2）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題をもう一つ取り上げて学ぶ。
第14回	授業のまとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。

小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを利用する。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the separation of powers.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200CA (法学 / law 200)
民法一部A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、市場におけるあらゆる経済取引に共通する「総則」を中心に学ぶ。また、売買や賃貸借といった契約の効果（所有権や占有権の移転）に関わる「物権」法との関連性に意識が向けられる。

【到達目標】

民法総則(民法典第1編)について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行いながら知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民法概論	民法とは何か
第2回	総則①	契約の成立
第3回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第4回	総則③	意思表示（2）錯誤
第5回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第6回	総則⑤	権利の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第7回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第8回	総則⑦	代理（2）無権代理
第9回	総則⑧	代理（3）表見代理
第10回	総則⑨	法人制度概論
第11回	総則⑩	法人
第12回	総則⑪	契約の一般的有効要件
第13回	総合①	物権法導入
第14回	総合②	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（15％）と学期末に課される「春学期最終課題」（レポート又は試験）による評価（85％）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用（図解）に心掛ける。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an understanding of contract law, and examination of personal property law in the context of commercial transactions. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report or examination: 85%)

LAW200CA (法学 / law 200)
民法一部B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

物権（第2編第1，2，3章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

物権法について、あらかじめ配信されたレジュメの流れに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行い、知識の定着を確実に図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総則1	契約の効力発生時期
第2回	総則2	時効（1）時効制度概論
第3回	総則3	時効（2）効果、援用権者、法律行為論
第4回	物権①	物権制度概論
第5回	物権②	所有権の内容、所有権の効力（1）
第6回	物権③	所有権の効力（2）物権的請求権
第7回	物権④	所有権の取得
第8回	物権⑤	共同所有関係
第9回	物権⑥	占有権（1）
第10回	物権⑦	占有権（2）
第11回	物権⑧	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第12回	物権⑨	物権変動（2）對抗要件主義
第13回	物権⑩	物権変動（3）動産物権変動、公信の原則
第14回	総合	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、毎回、学習支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（15%）と学期末に課される「秋学期最終課題」（レポートまたは試験）による評価（85%）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に関心がある。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an examination of property law in the context of commercial transactions. The expected outcomes will be understanding of how property law interrelates with contract law, and understanding of basic concepts of the general civilian idea of 'contract' and of the civilian contract of sale in particular. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report or examination: 85%)

(2024 年度以前入学生) LAW200CA ／ (2025 年度以降入学生) LAW300CA	
商法一部A	
笹久保 徹	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

- ・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
- ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第2回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第3回	株主総会1	株主総会の権限等の解説
第4回	株主総会2	株主総会の議事等の解説
第5回	株主総会3	株主総会の決議等の解説
第6回	取締役1	取締役の権限等の解説
第7回	取締役2	取締役会の決議等の解説
第8回	取締役3	代表取締役の解説
第9回	取締役4	取締役の義務の解説
第10回	取締役5	取締役の会社に対する責任の解説
第11回	取締役6	責任追及の方法の解説
第12回	取締役7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第13回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第14回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回につき、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

- ・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
- ・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
- ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2026 令和8年版』（三省堂、2025）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）及び平常点（30％）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【注意】授業に出席しない学生が本講義の単位を取得することは困難である。授業に出席するつもりのない学生は本講義を登録しないこと。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【注意】本講義は法律系の科目であり、授業に出席しないで単位を取得することは困難となる。授業に出席するつもりのない学生は本講義を登録しないこと。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

(2024 年度以前入学生) LAW200CA ／ (2025 年度以降入学生) LAW300CA	
商法一部B	
笹久保 徹	
開講時期：秋学期授業/Fall	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

- ・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
- ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第2回	会社法 総論	設立の概要に関する解説
第3回	株式会社の設立1	設立手続きの解説
第4回	株式会社の設立2	設立の瑕疵に関する解説
第5回	株式会社の設立3	設立の論点に関する解説
第6回	株式会社の設立4	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第7回	株式1	株式の内容・種類の解説
第8回	株式2	株主名簿・株券の解説
第9回	株式3	株式譲渡の解説
第10回	株式4	株式併合・分割等の解説
第11回	株式5	募集株式の概要の解説
第12回	募集株式1	募集株式の発行等の手続きに関する解説
第13回	募集株式2	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第14回	募集株式3	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

- ・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
- ・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
- ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法2026 令和8年版』（三省堂、2025）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）及び平常点（30％）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【注意】授業に出席しない学生が本講義の単位を取得することは困難である。授業に出席するつもりでない学生は本講義を登録しないこと。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【注意】本講義は法律系の科目であり、授業に出席しないで単位を取得することは困難となる。授業に出席するつもりでない学生は本講義を登録しないこと。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記ⅠA,Bの内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1)非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2)株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3)上記の(1), (2)を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4)全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。演習問題、中間試験、および期末試験の解答と解説はHoppiiにアップする。講義は対面8回、オンデマンド6回で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／商品売買取引	講義計画／分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、
第2回	商品の期末評価	棚卸減耗損、商品評価損の会計処理方法と損益計算書における表示方法
第3回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第4回	債権・債務	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第5回	有価証券の種類と取得原価	有価証券の意義と種類、移動平均法、総平均法による購入時の会計処理
第6回	有価証券の売却処理と期末評価	有価証券の売却時の会計処理、期末評価方法
第7回	有形固定資産の取得、減価償却、売却	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第8回	中間試験および解説	第1回～第7回までの内容に関する中間試験および解説
第9回	その他の有形固定資産取引	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第10回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第11回	無形固定資産取引と研究開発費、引当金	特許権、商標権、研究開発費の会計処理、評価性引当金および負債性引当金の会計処理
第12回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理

第13回 課税所得の算定と税効果会計 企業会計上の利益と課税所得の相違、永久差異と一時差異、税効果会計の処理方法

第14回 期末試験および解説 第8回から第13回までの内容を中心に期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

TAC出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

簿記Ⅰと比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁を推奨）、プリントを綴じるための2穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
簿記ⅡB
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記ⅠA,Bおよび簿記ⅡAの内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3) 上記の(1), (2)を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4) 全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説はHoppiiにアップする。講義は対面8回、オンデマンド6回で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、株式の発行	講義計画／株式会社の純資産構成、株式発行時の会計処理
第2回	剰余金の配当と処分	利益剰余金の配当と処分の会計処理、株主資本等変動計算書の作成方法
第3回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役務収益と役務原価の計上
第4回	本支店会計の基礎	本支店会計の意義、本支店間取引、本支店会計における決算手続、合併財務諸表の作成方法
第5回	本支店会計演習	本支店会計における決算手続、および合併財務諸表作成の演習
第6回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第7回	中間試験および解説	第1回～第6回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第8回	連結会計(1) 連結会計の基礎	連結財務諸表の意義、親会社説と経済的単一体説、子会社取得時の投資と資本の相殺消去、部分所有の場合の資本連結
第9回	連結会計(2) 連結1年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結1年度における資本連結と期中仕訳、連結財務諸表の作成
第10回	連結会計(3) 連結2年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結2年度における開始仕訳と期中仕訳、連結財務諸表の作成

第11回	連結会計(4) 成果連結① 会社間取引と債権債務の相殺消去	内部取引の相殺消去、貸倒引当金の連結修正処理、アップストリームとダウンストリーム
第12回	連結会計(5) 成果連結② 未実現利益の消去	期末商品、期首商品に含まれる未実現利益の消去方法、その他の会社間取引によって生じる未実現利益の消去方法
第13回	連結会計(6) 連結会計総合演習	連結会計に関する集中的な問題演習
第14回	期末試験および解説	第13回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト40%，期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁）、プリントを閉じるための2穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学ぶ。まず論文の作りを理解する。そして、テーマ設定、先行研究の選び方とまとめ、リサーチクエスションの立て方、データ収集の方法、考察の仕方、まとめ方など一通り理解する。そのうえで、リサーチプロポーザルを提出し、Introduction, Literature review, Methodまでを執筆する。

【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper. 受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation. Individual feedback will be provided.

- (1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.
- (2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal
- (3) Collect data, and summarize them for analysis

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion

6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works
7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation
8	Write Introduction 1	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction 2	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Questions and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎著 ミネルヴァ書房

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』中山書店
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房(2012)
『APA論文作成マニュアル 第2版』医学書院（2011）[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

50% In-class participation in activities
50% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline (in English)】

The students will learn how to write quantitative and qualitative research papers. They will understand the structure of a research paper and then learn how to decide one's theme, to review literature, to create their research questions, to collect data and summarize it. Once research proposal is accepted, they will write introduction, literature review and method parts. The students are expected to spend about one hour on their work. Grading will be made of in-class participation in activities, 50%, and documents submitted, 50%.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けて Results (Analysis), Discussion, Conclusion, References (APA style) までを執筆し完成する。

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

- (1) Briefing the organization of a paper
- (2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts
- (3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research

12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables
14	Oral presentation of finalized work	Feedback provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing：本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎著 ミネルヴァ書房

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房(2012)

『APA論文作成マニュアル 第2版』医学書院（2011）[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

50% Individual consultation

50% Final paper

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】

秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを2週目までに準備できることが条件です。

【Outline (in English)】

Following the research proposal created in the former semester, the students will compile the data they collected and continue writing their paper. Concretely following the part of introduction and method, results (analysis), discussion, and conclusion parts will be completed with references organized by APA style. The students are expected to spend about one hour on their work daily. Grading will be made of individual guidance, 50%, and the final paper, 50%.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar A
伊藤 健彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の読み方、調査・実験・分析の方法、そして論文の書き方までを一通り学ぶ。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ることで、自分の考えを発信する力をつける。

【到達目標】

- 1) 論文の構造（序論・方法・結果・考察）が理解出来るようになる。
- 2) 調査・実験・分析の方法が理解出来るようになる。
- 3) 論文の書き方が理解出来るようになる。
- 4) 他の学生と交流し、自分の考えを発信できる力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Structure of Research Paper	研究論文の構成に関する説明
3	How to Write a Paragraph	パラグラフの書き方の説明と実践
4	How to Write Multiple Paragraphs	複数のパラグラフの書き方の説明と実践
5	How to Read a Research Paper	文献の読み方の説明と実践
6	How to Quote a Research Paper	文献の引用方法の説明と実践
7	How to Write Introduction 1	研究テーマの設定に関する説明と実践
8	How to Write Introduction 2	序論の書き方の説明と実践
9	Literature Review & Summary of Introduction	先行研究のレビューと序論に関するまとめ
10	How to Write Method 1	研究方法の書き方の説明と実践
11	How to Write Method 2	データ分析の方法の説明と実践
12	Making an Outline	受講生によるアウトラインの作成
13	Discussion	受講生が考えた論文内容に関する議論
14	Presentation	受講生が考えた論文内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低2時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低2時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方ーIMRaDでわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店

『APA論文作成マニュアル 第2版』 アメリカ心理学会 医学書院

『Writing Scientific Research Articles Second Edition』

Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 40%

宿題 30%

レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

英語セミナーBと関連する授業内容のため、英語セミナーBも履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

This course aims to prepare students to understand how to read a research paper, the methods of survey, experiment, and analysis, as well as how to write a research paper. Through discussion and presentation, students are expected to communicate effectively with classmates and develop the skills to present their ideas. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (40%), homework (30%), and writing reports (30%).

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar B
伊藤 健彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語セミナーAに引き続き、論文の読み方、調査・実験・分析の方法、そして論文の書き方までを一通り学ぶ。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ること、自分の考えを発信する力をつける。

【到達目標】

- 1) 論文の構造（序論・方法・結果・考察）が理解出来るようになる。
- 2) 調査・実験・分析の方法が理解出来るようになる。
- 3) 論文の書き方が理解出来るようになる。
- 4) 他の学生と交流し、自分の考えを発信できる力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Review of Structure of Research Paper	研究論文の構成のおさらい
3	Review of Reading & Quoting a Research Paper	文献の読み方と引用方法のおさらい
4	Review of Writing Introduction	序論の書き方のおさらい
5	Review of Writing Method	研究方法の書き方のおさらい
6	How to Write Result 1	統計データの書き方の説明と実践
7	How to Write Result 2	図や表の書き方の説明と実践
8	How to Write Discussion 1	仮説検証の書き方の説明と実践
9	How to Write Discussion 2	貢献や今後の課題の書き方の説明と実践
10	How to Write Conclusion	結論の書き方の説明と実践
11	How to Write Abstract	要約の書き方の説明と実践
12	Making a Research Paper	受講生による研究論文の作成
13	Discussion	受講生の研究論文に関する議論
14	Presentation	受講生が作成した研究論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低2時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低2時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』 片山晶子 他 中山書店

『APA論文作成マニュアル 第2版』 アメリカ心理学会 医学書院

『Writing Scientific Research Articles Second Edition』 Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 40%

宿題 30%

レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

英語セミナーAと関連する授業内容のため、英語セミナーAも履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course aims to prepare students to understand how to read a research paper, the methods of survey, experiment, and analysis, as well as how to write a research paper. Through discussion and presentation, students are expected to communicate effectively with classmates and develop the skills to present their ideas. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (40%), homework (30%), and writing reports (30%).

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar A
王 キョウ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語による学術研究の遂行に関わる一連の個人活動およびグループ活動に学生が取り組みます。特に、グループでの交渉、議論、問題解決を重視し、さまざまな情報源から情報を収集し、その内容を要約し、研究結果や結論を聴衆に向けて発表するために必要な英語運用能力の育成を目指します。

本授業を修了した学生は、図書館やインターネットを通じて特定のテーマに関する情報を収集し、それをグループ内で議論した上で、情報源を適切に明示しつつ、国際的な聴衆にも理解可能な発音およびイントネーションを伴った整った英文で、調査結果を発表できるようになることが期待されます。

【到達目標】

1. Work in a group and solve simple problems in English with teacher assistance.
2. Present simple findings to an audience in well-formed sentences from a prepared script.
3. Prepare and deliver a convincing speech with comprehensible pronunciation and intonation.
4. Write three-to four-paragraph reports based on the information discussed/researched.
5. Use Internet and library resources to find information on a chosen topic.
6. Understand the concepts related to plagiarism and include proper source acknowledgment in work produced.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

The instructor will lecture on basic skills in conducting academic research in English while the students will actively participate in group discussions to complete relevant tasks. The students will form groups to conduct a group research project and present the research finding in class. The instructor will give individual and group feedback to student presentations and writing assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Introduction to the course and tools to be used.
2	Unit One: Processes	Learn how to properly describe research processes accurately.
3	Unit 2: Result (1)	Learn how to describe data and findings in research (Part 1).
4	Unit 2: Result (2)	Learn how to describe data and findings in research (Part 2).

5	Unit 3: Problem Solving (1)	Learn how to engage in logical thinking in order to address a problem (Part 1).
6	Unit 3: Problem Solving (2)	Learn how to engage in logical thinking in order to address a problem (Part 2).
7	Unit Four: Ranking and Debate (1)	Learn how to debate with research partners, rank factors, and reach agreements within a group (Part 1).
8	Unit Four: Ranking and Debate (2)	Learn how to debate with research partners, rank factors, and reach agreements within a group (Part 2).
9	Internet Research and Plagiarism	Learn how to gather information from the Internet, including Generative AI, while doing proper source acknowledgement.
10	Group Project (Stage 1)	Form research groups, negotiate roles and selecting a broad research topic
11	Group Project (Stage 2)	Decide on a research proposal and collect background information
12	Group Project (Stage 3)	Collate information and plan group presentations
13	Group Project (Stage 4)	Prepare presentations and the final report
14	Group Project (Stage 5)	Group presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read the textbook in preparation for classes and to review the teacher's instructions regularly. Students should complete writing assignments based on classroom discussions and submit these for grading. In the group project, they will also gather information from online resources and other sources and prepare oral and written reports based on the information found. On average, the work to be done outside of class is expected to be 4 hrs per week.

【テキスト（教科書）】

Concept Building and Discussion - Foundations (2019). DTP Publishing. Authors: Laurence Anthony, Ralph Rose, Chris Sheppard

【参考書】

Other materials provided by the teacher.

【成績評価の方法と基準】

Exam: 30%. Students will be administered two tests during the semester: a Mid-Term Discussion Test worth 20%, and an Internet Research and Source Acknowledgement Quiz worth 10%.

Writing assignments: 55%. During the semester, students will need to complete four written assignments (each worth 10%) based on in-class discussions and one final report (worth 15%). Group presentation: 15%. Students will need to make an oral presentation of findings obtained through a group project. Grading will be based on each individual student's contributions to the presentation.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

A computer or a tablet for searching online information.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. As students will be working in groups, absence impacts the whole group.

【Outline (in English)】

In this course, students will be engaged in a series of individual and team activities related to conducting academic research in English. Emphasis will be placed on negotiation, discussion, and problem-solving in a group setting, and the language skills needed to gather information from a variety of sources, summarize that information, and present results and conclusions to an audience. After completing the course, students should be able to find information on a topic through library and Internet sources, discuss this information in a group, and present findings with proper source acknowledgment to an audience in well-formed sentences with pronunciation and intonation comprehensible to an international audience.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar B
王 キョウ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「Academic Research Seminar A」で修得した技能を基礎として、英語による個人およびグループでの研究活動に取り組みます。特に、グループにおける交渉、議論、問題解決を重視するとともに、調査研究や実験の実施、データ分析を行い、その成果を聴衆に向けて発表するために必要な英語運用能力の育成を目的とします。

本授業を修了した学生は、個人およびグループの両方の形態において英語で学術研究を遂行し、研究報告書を作成するとともに、国際的な聴衆にも理解可能な発音およびイントネーションで研究成果を発表できるようになることが期待されます。

【到達目標】

1. Work in a group and individually to conduct academic research in English.
2. Use Internet and library resources to find information on a chosen topic.
3. Conduct survey research and relevant data analysis.
4. Conduct experiments and relevant data analysis.
5. Prepare and deliver a convincing speech with comprehensible pronunciation and intonation.
6. Make posters for research projects.
7. Write three-to-four-page reports based on the research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

The instructor will lecture on the essential skills in conducting academic research in this course, while the students will work with group members and individually to complete the relevant tasks. Specifically, students will conduct a survey research and an experiment, and present the research findings in class. The instructor will give individual and group feedback to student presentations and writing assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Review of Academic Research Seminar A, introduction to this course and tools used.
2	Group Research Project (Stage 1)	Form groups, discuss topics and finalize a group project topic for survey research.
3	Group Research Project (Stage 2)	Collate information, decide on research questions and form hypothesis.
4	Group Research Project (Stage 3)	Design survey questions, decide survey distribution population and method
5	Group Research Project (Stage 4)	Gather and analyze data from respondents

6	Group Research Project (Stage 5)	Draw conclusions and report findings
7	Group Research Project (Stage 6)	Prepare for group presentation of research and research reports.
8	Group Research Project (Stage 7)	In-class presentations of group research projects.
9	Individual Research Project (Stage 1)	Form support groups, share individual topics and search for background information.
10	Individual Research Project (Stage 2)	Form research questions and hypothesis.
11	Individual Research Project (Stage 3)	Design experiments: understand dependent, independent and control variables, design appropriate methods and tools.
12	Individual Research Project (Stage 4)	Analyze collected data and draw conclusions.
13	Individual Research Project (Stage 5)	Present findings in support groups and learn how to make posters.
14	Individual Research Project (Stage 6)	In-class poster presentations on individual projects.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to preview lecture contents in textbooks before classes. After class, students will gather background information on research topics, distribute surveys, conduct experiments, prepare for presentations and draft research report. On average, the work to be done outside of class is expected to be 4 hrs per week.

【テキスト（教科書）】

Concept Building and Discussion: Applications. (2019) DTP Publishing.

Authors: Ralph Rose, Laurence Anthony

【参考書】

Other materials provided by the teacher.

【成績評価の方法と基準】

1. Examinations =20%

Students will be administered two discussion tests during the semester: one in the first half relating to group projects, and another in the second half relating to individual projects. Each test is worth 10%.

2. Reports =30%

During the semester, students will need to complete two written reports (each worth 15%): one for the group project, and the other for the individual project.

3. Presentations =40%

Twice during the semester, students will need to make oral presentations of findings obtained first through a group research project, and then through an individual research project. Each presentation is worth 20% of the final grade.

4. In-Class Performance =10%

Students will regularly be evaluated on their contributions to discussion and problem-solving tasks assigned in class.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A laptop computer or a tablet for searching for online information and conducting research.

【Outline (in English)】

In this course, students will build on the skills acquired in Academic Research Seminar A to conduct a series of individual and group research activities in English. Emphasis will be placed on negotiation, discussion and problem-solving in a group setting, and the language skills needed to conduct survey research and experiments, engage in data analysis and present findings to an audience. After completing the course, students should be able to conduct academic research in English in both group and individual settings, draft research reports and present findings with pronunciation and intonation comprehensive to an international audience.

MAN200CA（経営学 / Management 200）
原価計算 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第2回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第3回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第4回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第5回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第6回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第7回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第8回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第9回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第10回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第11回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第12回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第13回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第14回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA（経営学 / Management 200）
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第2回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第3回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第4回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第5回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第6回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第7回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第8回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第9回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第10回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第11回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第12回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第13回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第14回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA (経営学 / Management 200)
会計学入門A
古賀 裕也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計は、企業活動を理解するための有用な情報源を提供します。そのため、事業の言語とも呼ばれます。会計の中でも投資家を中心とする外部の利害関係者に財務情報を報告することを目的とした会計を財務会計といいます。この科目では外部報告目的の財務会計の基礎を包括的に学習します。

【到達目標】

この科目の到達目標は次の通りです。

- (1)財務会計の語彙（専門用語）を説明できる
- (2)会計処理の理論的背景を説明できる
- (3)財務諸表の基礎的な分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面実施時

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。
- ③講義終了後に小テストに回答してもらいます（google classroomで実施）。

※講義資料はgoogle classroomで講義開始前に配布します。

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroomに講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画 70 分、②問題演習等 25 分、③アンケート 5 分

※時間配分目安であり講義内容によって変わります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代の企業会計①	企業会計とは
2	現代の企業会計②	近年の企業会計を巡る動向
3	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計の目的、タイプ、機能
4	会計制度の論理と体系①	基礎概念、制度会計
5	会計制度の論理と体系②	企業会計原則と一般原則
6	企業のディスクロージャー制度	ディスクロージャー制度、インサイダー取引
7	損益計算書の会計①	損益計算書の構造と5つの利益
8	損益計算書の会計②	収益認識、費用収益対応の原則、収益認識基準
9	損益計算書の会計③	収益認識基準、損益計算書の分析
10	損益計算書の分析（反転講義）	損益計算書の分析に関する事前課題のディスカッション
11	キャッシュ・フロー計算書	キャッシュ・フロー計算書
12	貸借対照表の構造	貸借対照表の構成要素

13	キャッシュ・フロー計算書の分析（反転講義）	キャッシュ・フロー計算書の分析に関する事前課題のディスカッション
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計4時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。講義資料は google classroomで配布します。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2026年4月現在の最新版。

・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2026年4月現在の最新版。そのほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

反転講義の事前課題提出とディスカッションへの参加：20%

小テストの提出：30%

【学生の意見等からの気づき】

学生から反転講義における発表者の負担が大きいという指摘がありました。そのため、反転講義の実施方法について改善を行います。具体的には、発表者に対する平常点追加を実施します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること。期末試験では電卓を使用を認めます。

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Financial accounting provides a useful source of information for understanding corporate activities. For this reason, it is also called the language of business. Within accounting, financial accounting refers to accounting that aims to report financial information to external stakeholders, particularly investors. In this subject, you will learn the basics of financial accounting for external reporting purposes in a comprehensive manner.

【Learning Objectives】

The learning objectives for this course are as follows.

(1) Explain the vocabulary (technical terms) of financial accounting

(2) Explain the theoretical background of accounting procedures

(3) Perform basic analysis of financial statements

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to understand the content of previous lectures and are expected to prepare for and review each lecture. (At least 4 hours total each time)

【Grading Criteria/Policies】

Final exam: 50

Submission of pre-class assignments and participation in discussions: 20

Submission of quizzes: 30

MAN200CA (経営学 / Management 200)
会計学入門B
古賀 裕也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計は、企業活動を理解するための有用な情報源を提供します。そのため、事業の言語とも呼ばれます。会計の中でも投資家を中心とする外部の利害関係者に財務情報を報告することを目的とした会計を財務会計といいます。この科目では外部報告目的の財務会計の基礎を包括的に学習します。

【到達目標】

この科目の到達目標は次の通りです。

- (1) 財務会計の語彙（専門用語）を説明できる
- (2) 会計処理の理論的背景を説明できる
- (3) 財務諸表の基礎的な分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面実施時

- ① 講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
 - ② アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。
 - ③ 講義終了後に小テストに回答してもらいます（google classroomで実施）。
- ※講義資料はgoogle classroomで講義開始前に配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	資産の会計①流動資産の会計	流動資産
2	資産の会計②有形固定資産の会計	有形固定資産の会計
3	資産の会計③無形固定資産の会計	無形固定資産の会計
4	資産の会計④投資・その他の資産、繰延資産の会計	投資・その他の資産、繰延資産の会計
5	減損会計	減損とは
6	負債の会計	流動資産と固定負債
7	純資産の会計	純資産
8	貸借対照表の分析（反転講義）	事前課題についてのディスカッション
9	連結財務諸表①	連結会計の目的、連結範囲の決定、連結財務諸表の基本フォーマット
10	連結財務諸表②	連結貸借対照表の作成、連結損益計算書の作成、包括利益
11	ファンダメンタルズ分析①	財務諸表分析の目的、構成比率法、安全性分析
12	ファンダメンタルズ分析②	収益性分析と効率性分析
13	ファンダメンタルズ分析の実践（反転講義）	事前課題のディスカッション
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計4時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。講義資料は google classroomで配布します。

【参考書】

- ・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2026年4月現在の最新版。
- ・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2026年4月現在の最新版。そのほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

反転講義の事前課題提出とディスカッションへの参加：20%

小テストの提出：30%

【学生の意見等からの気づき】

反転講義での発表者の負担について学生から意見があった。そのため、発表者については平常点の加点を行うように改善する。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること。期末試験では電卓を使用を認めます。

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Financial accounting provides a useful source of information for understanding corporate activities. For this reason, it is also called the language of business. Within accounting, financial accounting refers to accounting that aims to report financial information to external stakeholders, particularly investors. In this subject, you will learn the basics of financial accounting for external reporting purposes in a comprehensive manner.

【Learning Objectives】

The learning objectives for this course are as follows.

- (1) Explain the vocabulary (technical terms) of financial accounting
- (2) Explain the theoretical background of accounting procedures
- (3) Perform basic analysis of financial statements

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to understand the content of previous lectures and are expected to prepare for and review each lecture. (At least 4 hours total each time)

【Grading Criteria/Policies】

Final exam: 50

Submission of pre-class assignments and participation in discussions: 20

Submission of quizzes: 30

MAN200EB (経営学 / Management 200)

中小企業論

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「日本経済の根幹を支える中小企業の可能性と挑戦を学ぶ」ことをテーマに、理論と実践の両面から中小企業の経営戦略を探究します。中小企業は、大企業にはない柔軟性や地域との強い結びつきを活かし、新たな価値を生み出す力を持っています。一方で、限られた経営資源の中で生き残り、成長し続けるために独自の経営手法を採用してきました。

本講義では、従来の研究が提示してきた「資源制約により発展が妨げられる『問題型』の中小企業論」と「小さいからこそ持つ発展性や競争優位性に着目する『貢献型』の中小企業論」の両面を学びながら、中小企業の実態を深く理解していきます。特に、多摩地域で活躍する中小企業の経営者を毎回異なるゲストとして、計8回程度の講演を実施します。これにより、「リアルな経営の現場」に触れる機会を大幅に増やし、実践的な知識を得ることができます。ゲスト講演では、企業の成長戦略、新規事業の立ち上げ、地域との関わり方、経営者の決断など、教科書では学べない生の経営の知恵を直接聞くことができます。

本講義は、「経営戦略を学びながら、実際の経営者の話を聞ける、まさにビジネスの最前線を体感できる授業」です。中小企業の可能性や課題を深く理解し、将来のキャリアに活かしたい学生にとって、実りの多い学びの場となるでしょう。

【到達目標】

本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。

- ・中小企業が持つ「問題性」と「発展性・競争優位性」の両面を理解し、企業規模が経営に与える影響を考察する力の習得
- ・多摩地域の中小企業経営者の実体験を通じて、企業経営の現場に即した実践的な知識を獲得する力の向上
- ・ベンチャー企業や地域密着型企業の成長戦略を分析し、持続可能な経営モデルについて考える力の育成
- ・中小企業と地域社会の関係性を理解し、地域経済における中小企業の役割を考察する視点の強化
- ・講義で学んだ理論と実践を統合し、自らのキャリアやビジネスに応用するための思考力と判断力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、講義形式とゲストスピーカーによる講演を組み合わせた「アクティブ・ラーニング型授業」です。

前半（1～5回）では、中小企業の基本理論を学び、企業規模の特性や経営戦略の違いを理解します。

後半（6～13回）では、多摩地域で活躍する中小企業経営者をゲストに迎え、リアルな経営の現場について学びます。受講生は、事前にゲスト講演に関連する課題を調査し、講演後にディスカッションやリアクションペーパーを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の目的・進め方の説明

第2回	中小企業とは？	中小企業の定義と、日本経済における役割を理解
第3回	複眼的視点からの中小企業論	資源制約の中で競争優位を確立する戦略
第4回	イノベーションと中小企業	独自の技術やビジネスモデルを生み出す中小企業を分析
第5回	産業集積と産業クラスター	産業クラスターを活用した中小企業の成長戦略
第6回	多摩地域の中小企業(1)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第7回	多摩地域の中小企業(2)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第8回	多摩地域の中小企業(3)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第9回	多摩地域の中小企業(4)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第10回	多摩地域の中小企業(5)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第11回	多摩地域の中小企業(6)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第12回	多摩地域の中小企業(7)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第13回	多摩地域の中小企業(8)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第14回	中小企業論のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー提出40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、教室での学びに加えて、経営者のリアルな経験を直接聞くことができる貴重な機会を提供します。授業で得た知識を活かし、実際の経営者に質問することで、より深い学びにつなげることができます。

「将来、経営や起業に関心がある」「企業経営のリアルを知りたい」「中小企業の持つ魅力と可能性を学びたい」という学生にとって、大変有意義な講義です。

【Outline (in English)】

The course "Small and Medium-Sized Enterprise (SME) Management" explores the role, challenges, and growth strategies of SMEs, which are the backbone of the Japanese economy. While SMEs face resource constraints, they also possess unique competitive advantages such as flexibility, innovation, and strong regional ties. This course provides both theoretical insights and practical knowledge, incorporating guest lectures from successful SME entrepreneurs in the Tama region to offer firsthand perspectives on real-world management challenges and strategies. Through these interactions, students will gain a deeper understanding of how SMEs adapt, innovate, and contribute to regional economic development.

By the end of the course, students will be able to understand both the challenges and competitive strengths of SMEs, analyze business strategies for growth and sustainability, evaluate the role of SMEs in regional economies, and integrate theoretical and practical knowledge to formulate management insights applicable to real-world business situations.

Students are expected to actively engage in discussions and prepare for guest lectures by researching the industries and companies in advance. Additionally, they should allocate at least two hours per week for reviewing lecture content and completing assignments.

Grading will be based on reaction papers (40%), assessing students' reflections and questions on guest lectures, and a final exam (60%), evaluating their understanding of SME management theories and practical applications.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

産業社会学 I

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。
課題等に対するフィードバックは、授業の中でリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	産業と社会変動 1	仕事とは何か？（工業社会、産業・分業、社会学的視点から働くことを考える）
第3回	産業と社会変動 2	技術と近代（テイラーリズム、フォードイズム、ポストフォードイズムなど）
第4回	産業と社会変動 3	技術と未来（産業社会・情報社会、自動化と省力化、人工知能、雇用と失業）
第5回	社会関係・制度 1	職場組織と人間関係（人間関係論、ホワイトカラー、感情労働における感情の管理）
第6回	社会関係・制度 2	労働市場と労使関係（労働市場論・労使関係論から見る今日の変容）
第7回	社会関係・制度 3	労働組合・労働運動（雇用類似の働き方と労働運動、ドキュメンタリーを観て考える）
第8回	意識・文化 1	労働の意味、労働者であること（労働倫理、アイデンティティ、社会化、満足、疎外）
第9回	意識・文化 2	今日的な労働の諸側面（官僚制、フレキシビリティと労働者の意識、技能の意味）

第10回	再生産 1	労働者になること（労働者文化、社会階層の再生産、名著を読む）
第11回	再生産 2	日本における教育と職業（教育の職業的意義、キャリア教育、適応と抵抗）
第12回	持続可能性 1	身体と脆弱性（身体イメージ、社会学における身体と社会、仕事の社会学、労働災害）
第13回	持続可能性 2	グローバル化と相互依存（移動の拡大と労働移民、アジア、移動をめぐる諸理論）
第14回	まとめ	授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

資料講読や動画視聴などを取り入れつつ、能動的な授業参加を促す工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers in the era of globalization. The issues student will learn in this course cover various topics including social division of labor, industrialization/development and its consequences, human relations in workplace, ideology and alienation related to work, labor movement, labor migration and so on.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports: 40%, term-end examination: 60%

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

産業社会学Ⅱ

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会構造変動の下で、これまでの産業社会が前提としてきた雇用慣行や労働のあり方が問い直しを迫られている。雇用形態の変化、環境問題やリスクの拡大、グローバル化や多様性の包摂など、現在、社会が直面している問題について、身近なテーマや具体的な社会問題を通じて考える。

【到達目標】

産業と労働に関わる諸問題について、①その背景と実態を理解し、②自らに関連するものとして捉え、③問題解決のためにどのような対策・制度・政策が求められているのかについて、他者と議論し、考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・適宜、映像資料等を活用し、グループ・ディスカッションなどを取り入れながら、リアクションとフィードバックを重ねることで、参加者の問題意識の発展を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	雇用を問い直す1	雇用はどう変化しているのか？
第3回	雇用を問い直す2	働き方の曖昧化について考える
第4回	労働時間について1	産業社会と労働時間（『モモ』を読む、グループ・ディスカッション）
第5回	労働時間について2	産業社会と労働時間（『ブルシット・ジョブ』を読む、グループ・ディスカッション）
第6回	労働と環境について1	労災・公害問題を考える（ゲスト講師、アスベスト労災問題を考える）
第7回	労働と環境について2	エッセンシャルワークをめぐる労働環境と処遇について考える
第8回	労働と環境について3	地域における生業と公害問題を考える（『阿賀に生きる』を観る）
第9回	インフラと労働について1	開発主義と労働の戦後史について考える
第10回	インフラと労働について2	開発主義の現在について考える
第11回	越境的な移動について1	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第12回	越境的な移動について2	日本とアジア諸国における越境的労働市場について考える

第13回 越境的な移動について3 移動の拡大と社会統合について考える

第14回 まとめ 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など

②期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション回はメンバーを固定せず引き続きランダムで座席表を指定することで、多様な意見に触れるようにする。全体討議では黒板を利用して、議論の流れや多様な論点を可視化する。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセスできるもの）

【その他の重要事項】

・秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。

・授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. Students will learn various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy. Student will be expected to actively participate in group discussion on each issue.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have knowledge and multiple perspectives on various labor issues and to develop communication skills in discussion.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports: 40%, term-end examination: 60%

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

金融システム論

松田 岳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融システム論は金融を初めて学ぶ学生に向けて、具体的な金融仕組みを金融理論と結びつけて学ぶ科目です。金融の仕組みと働きの基礎から学修し始め、最新の金融動向やリーマンショック、金融危機後の非伝統的金融政策、フィンテックの発展なども取り上げます。学生が金融に関する幅広い知識と理解を養い、金融システム、金融取引、金融政策、および金融システムの安定性に関する複雑な概念を総合的かつ深いレベルで理解し、説明できるようにすることが本科目の目的です。

【到達目標】

この科目の到達目標は第一に金融システム（資金循環、金融機関、金融市場、新しい金融の仕組み等）を、第二に金融取引（貨幣の時間価値、イールドカーブ、不確実性、情報の非対称性、情報の不完備性、銀行の経済的機能、取引所・格付の機能、公的部門の役割等）を、第三に金融政策と金融システムの安定（貨幣の機能、信用創造、貨幣と物価、金融政策、ブルーデンス政策）を理解し、説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「授業時間外の学修」で指定した方法で学生が準備学修・復習を行うことを前提として、授業は実施されます。授業は教科書のポイント解説を行う「講義」を中心とし、学生から質問が提出された場合は「質疑応答」の時間を設けます。また、教科書の内容の理解度を測定する確認問題（課題）を実施し、学生自らが到達目標がどれだけ近づいているかを確認する機会とします。また、達成度合いが低い課題については、次の授業内で復習と解説から構成されるフィードバックを行います。授業の最後に振り返りの機会を設け、理解不足の点が無いかわ問自答して頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融の仕組みと働き	金融システムと金融取引（意義、特徴、情報の非対称性、契約の不完備性）、金融システムの働き（資金移転と取引費用の軽減、流動性の付与、リスク移転、価格メカニズムと情報公示機能）、金融方式と資金の流れ（直接金融と間接金融、多様な資金の流れ）について学修する。

第2回 資金の流れ

最終的な貸し手と借り手の変遷（経済部門別の資金過不足、戦後日本の部門別資金過不足の推移、高度成長期、安定成長期の貸し手と借り手、バブル期・失われた10年の貸し手と借り手、資金の流れの変化と金融システム）、現代日本の資金循環（バランスシートと資金循環統計、資金循環の経路と形態、日本における資金の流れの特徴）、日本の金融機関（民間金融機関と公的金融機関、預金取扱金融機関、その他の金融機関、専門金融機関制度）について学修する。

第3回 銀行

銀行の制度、銀行の活動（銀行の業務、金融自由化と規制緩和）、銀行経営（銀行のバランスシート、銀行の収益構造、収益構造の現状）、主要な経営課題、新規参入銀行について学修する。日本の金融市場（金融市場の分類、金融市場の担い手）、短期金融市場（インターバンク市場、オープン市場）、株式市場（株式の特徴と種類、株式市場の現状、株式市場間競争と取引所再編）、債券市場（債券の特徴と種類、債券市場の現状、社債市場改革）について学修する。

第5回 金融の新しい仕組み

金融の流動化・証券化（流動化・証券化の仕組みと分類、現状、課題）、投資信託（投資信託の仕組みと分類、現状、課題）、フィンテック（定義、通貨決済、クラウドファンディング、家計資産管理、保険）、ブロックチェーン（貨幣発行自由化論、人工知能）について学修する。貨幣の時間価値と金利（現在価値と将来価値、さまざまな金利の概念、金利の働き）、満期の長さと金利の関係：金利の期間構造（利回り曲線、長短金利の関係、金利裁定、金利の期間構造の理論、金融政策と金利の期間構造、イールドカーブ・コントロール）について学修する。

第6回 金融取引と金利

第7回 金融取引の特徴と課題

不確実性と金融取引（取引相手をみつける問題、不確実性とリスク負担の問題）、情報の非対称性と金融取引（モラルハザードの問題、逆選択の問題）、契約の不完備性と金融取引（契約の不完備性、契約の不完備性のモデル、中古車市場と保険市場における逆選択とモラルハザード）について学修する。

第8回 中間試験

授業の前半部分の内容（金融システム、金融取引）について理解し、説明できるようになっているかを測定するために中間試験を実施する。試験範囲は第1回目から第7回目の授業内容とし、選択、空欄補充、記述などの形式で出題する。

第9回	銀行の働き	銀行の経済的機能（資産変換機能、情報生産機能）、規模の経済性と範囲の経済性、銀行と企業の取引関係（契約の不完備性と再交渉、日本のメインバンク制、リレーションシップ・バンキング）について学修する。
第10回	金融取引と政府の役割	公的金融の仕組み（金融に政府介入が必要な理由、金融への介入手段、日本の公的金融、平時と危機時）、民間金融機関貸出の信用補完（公的信用保証の仕組み、信用保証制度の機能と弊害、信用保証制度の今後）、金融市場への政府の関与（インフラとしての金融市場、債権の証券化、ベンチャーキャピタル、ファンド）について学修する。
第11回	貨幣の働きとマクロ経済	貨幣の働き（3つの機能、現代の貨幣、マネーストック統計）、決済（決済の仕組み、決済システム）、信用創造（数値例、実際の信用創造、マネーストックと銀行貸出の増減）、貨幣と物価（貨幣数量説、最近の流通速度の働き、マネー・ビュー、クレジット・ビュー）について学修する。
第12回	日本銀行と金融政策	日本銀行と金融政策運営（日本銀行とは、金融政策の目標と手段、金融政策の運営）、金融政策手段と準備預金の需給、金融政策の効果、金融政策をめぐる近年の議論（量的緩和とその効果、金融政策の新しい試みと課題、マイナス金利政策、中央銀行の破綻）について学修する。
第13回	金融危機とブルーデンス政策	金融危機の背景（マクロ経済の環境、金融機関のリスク管理）、ブルーデンス政策の手段（事前的措施と事後的措施、中央銀行の最後の貸し手機能、公的資金の注入）、ブルーデンス政策の将来像について学修する。
第14回	授業内試験	全ての授業内容について理解し、説明できるようになっているかを測定するために試験を実施する。選択、空欄補充、記述などの形式で出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書(電子書籍)は授業開始時に指定します。

【参考書】

参考書を指定しません。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 金融システムについて理解し、説明できるようになること。38.5%
- (2) 金融取引について理解し、説明できるようになること。38.5%
- (3) 金融政策と金融システムの安定について理解し、説明できるようになること。23%

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業進行を求める声がありました。この意見に応え、今年度からは授業内容に関する質問を学修支援システムを通じて収集し、翌週にフィードバックをお返しすることとします。

【学生が準備すべき機器他】

1)学修支援システム等を利用できる環境を整えてください。2)学修支援システムの情報を授業前に確認しておいてください。3)大学のメールアドレスとパスワード、QRコードを読み取るためのスマートフォン等を必ず携帯してください。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学、マクロ経済学の単位を事前に修得しておく、本科目の理解が深まると考えます。本科目と関連する科目としては、国際経済論I、国際経済論II、社会・イノベーション論II、社会保障法I、社会保障法IIが挙げられます。

【Outline (in English)】

Course outline

Financial System Theory is a course for students new to finance to learn about specific financial systems in the context of financial theory. Starting with the basics of how finance works and functions, the course also covers recent financial trends, the Lehman shock, non-traditional monetary policy after the financial crisis, and the development of FinTech. This course aims to help students develop a broad knowledge and understanding of finance so that they can understand and explain complex concepts related to the financial system, financial transactions, monetary policy, and financial stability at a comprehensive and in-depth level.

Learning Objectives

The objectives of this course are, first, to understand and explain the financial system (the flow of funds, financial institutions, financial markets, new financial structures, etc.), second, financial transactions (time value of money, yield curves, uncertainty, information asymmetry, information incompleteness, economic functions of banks, functions of exchanges and ratings, role of public sector, etc.), third, monetary policy and financial system stability (the function of money, credit creation, money and prices, monetary policy, prudential policy) should be understood and explained.

Learning activities outside of classroom

The required home study hours outside of class are 4 hours per week (6 hours per week if the student is absent). The required study hours may be longer if the student lacks academic ability or basic knowledge of economics and finance. In terms of preparation, please read through the relevant sections of the textbook three times and summarize the essential points of the textbook in your notebook. If you have any questions, please submit them before class. For post-lesson study, re-read your notes to consolidate your understanding of the class content. If you fail to answer correctly on the in-class confirmation test, review the corresponding section of the textbook. If possible, try the practice questions in the textbook.

Grading Criteria /Policy

Evaluation Percentage by Achievement Goals

- (1) To be able to understand and explain the financial system. 38.5%
- (2) To be able to understand and explain financial transactions. 38.5%
- (3) To understand and be able to explain monetary policy and financial system stability. 23%.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境経済学Ⅰ

蒲谷 景

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではまず、経済活動の結果として生じている気候変動や生物多様性の劣化などの環境問題を理解します。その上で、これらへの経済学的な対策のひとつとして実施されている環境の価値評価について学んでいきます。この環境評価については、費用便益分析の基礎などを理解した上で、その意義や手法、課題を詳細に学習していきます。

【到達目標】

人間の経済活動による環境問題を理解し、課題解決のための方策について経済学的な視点から論じることができるような力を養うことが目標です。具体的には以下の通りです。

- ・環境問題の現状を認識し、その原因について述べることができる。
- ・環境の価値評価の意義を理解し、その手法や課題について論じられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めます。各回の冒頭には前回の授業の復習の時間を設けます。この他、演習問題を解いてもらったり、関連する内容についてインターネットなどを通じて調べてもらったりすることもあります。また、小テストについては解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方などについて説明する。
第2回	持続可能な開発	持続可能な開発の内容や歴史、SDGsなどについて概観する。
第3回	気候変動	気候変動について理解する。
第4回	生物多様性	生物多様性の劣化について理解する。
第5回	汚染・廃棄物	汚染や廃棄物の問題について理解する。
第6回	環境問題まとめ	これまでの環境問題について復習しつつ、小テストを実施する。
第7回	費用便益分析	費用便益分析の基礎や割引率などの考え方を理解する。
第8回	環境評価の理論	環境評価の理論的枠組みについて理解する。
第9回	統計分析の基礎	環境評価に必要な統計分析の基礎を理解する。
第10回	仮想評価法	環境評価手法のひとつである仮想評価法について理解する。
第11回	選択実験	環境評価手法のひとつである選択実験について理解する。
第12回	ヘドニック法	環境評価手法のひとつであるヘドニック法について理解する。

第13回 トラベルコスト法 環境評価手法のひとつであるトラベルコスト法について理解する。

第14回 総括 これまでのまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜紹介します。

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%：講義内容を正しく理解できているかどうかを評価基準とします。

平常点40%：復習を兼ねた小テストを授業内に実施します。また、授業内での設問への回答や授業課題への参画などについても評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

環境評価の授業についてはパソコンを持参してください（Excelを使用します）。

【Outline (in English)】

In this course, we first aim to understand environmental problems such as climate change and biodiversity loss that arise as outcomes of economic activities. We then study environmental valuation as one of the economic approaches used to address these issues. With respect to environmental valuation, after gaining an understanding of the fundamentals of cost – benefit analysis, we will examine its significance, methodologies, and challenges in detail.

SES300EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

環境経済学Ⅱ

蒲谷 景

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではまず、需要と供給などミクロ経済学の基礎を理解します。そして、外部不経済やコースの定理など環境経済学における基礎的な理論について学んでいきます。これらを踏まえ、環境税や排出権取引などの具体的な環境経済政策について詳細に学習していきます。

【到達目標】

人間の経済活動による環境問題を理解し、課題解決のための方策について経済学的な視点から論じることができるような力を養うことが目標です。具体的には、環境経済の理論を理解し、環境経済政策の必要性を説明できるということです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めます。各回の冒頭には前回の授業の復習の時間を設けます。その他、演習問題を解いてもらったり、関連する内容についてインターネットなどを通じて調べてもらったりすることもあります。また、小テストについては解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	消費者理論	ミクロ経済学における消費者理論について理解する。
3	生産者理論	ミクロ経済学における生産者理論について理解する。
4	余剰分析	ミクロ経済学における余剰分析について理解する。
5	外部性	外部経済と外部不経済について比較しながら理解する。
6	公共財	公共財の性質や共有資源の課題について理解する。
7	コースの定理	コースの定理について理解する。
8	経済理論まとめ	これまでの学習内容を復習しつつ、小テストを実施する。
9	環境税	環境税を経済学的に理解する。
10	補助金	補助金を経済学的に理解する。
11	キャップアンドトレード	排出権取引制度などのキャップアンドトレードについて理解する。
12	ポリシーミックス	価格規制や数量規制、それらのポリシーミックスについて理解する。
13	環境ナッジ	ナッジの理論と環境分野における応用について理解する。
14	総括	これまでのまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜紹介します。

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%：講義内容を正しく理解できているかどうかを評価基準とします。

平常点40%：復習を兼ねた小テストを授業内に実施します。また、授業内での設問への回答や授業課題への参画などについても評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this course, we first develop an understanding of the fundamentals of microeconomics, including demand and supply. We then study basic theories in environmental economics, such as negative externalities and the Coase theorem. Building on these foundations, we examine specific environmental economic policies in detail, including environmental taxes and emissions trading schemes.

LAW200EB（法学 / law 200）

社会保障法Ⅰ

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険、金融業界と保険会社
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	雇用保険①	失業したらどうするか
5	雇用保険②	育児休業や介護休業、再就職のための給付
6	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
7	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
8	労働保険・補説	前半部分の補説、まとめ
9	医療保険①	病気になったらどうするか
10	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
11	医療保険③	どういう医療を受けられるのか、高齢者医療
12	介護保険①	（親が）寝たきりや認知症になったら
13	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
14	補説、まとめ	後半部分の補説、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。（なお基本的にテキストに沿って進めることもあり、授業のオンライン配信等はいりません。）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（一部を秋学期の社会保障法Ⅱに回すこともあり得ます。）

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB（法学 / law 300）

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 公的年金①	（春学期の復習、） 年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか――全国共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか――サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、 障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか（iDeCo等）
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	どういうときに支給されるのか、 保護の補足性、稼働能力の要件
10	生活保護②	いくら支給されるのか、基準及び 程度の原則
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、ひとり親家庭への 手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。
（なお基本的にテキストに沿って進めることもあり、授業のオンライン配信等はいりません。）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（春学期の社会保障法Ⅰの内容の一部を扱うこともあり得ます。）
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅰ

高橋 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、環境問題の構図を理解し、それへの公的対処行動である環境政策を学ぶことにある。現代において環境問題は、景観など身近な問題から地球規模の気候変動問題まで多様であるが、政府による環境政策は一般に十分と言えない場合が多い。学際的な観点から、そのような政策課題にアプローチし、環境政策のあり方を考えていく。

環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅰの後にⅡを履修することを強くお勧めする。

【到達目標】

- 1：環境問題の構図や背景を理解する
- 2：環境問題に対する公共政策の基礎概念を習得する
- 3：環境問題への具体的な対処策を考察し、提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の2日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを書くことをお勧めする。

講師は授業中に様々な質問をする。いくつかの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくる。受講生は質問への回答をWebClassのチャット欄に記入することが求められ、それをその場で紹介することで議論や理解を深める。第12回授業では、環境問題をテーマにしたグループ討論を行う。また、リアクションペーパーにはコメントを付けて返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明、自由討論
第2回	環境問題の定義と分類	環境と環境問題の定義、環境問題の分類
第3回	環境問題の具体例と歴史的変遷	産業公害型環境問題、都市生活型環境問題、地球環境問題
第4回	「市場の失敗」から考える環境問題	公共財・コモンプール財・自由財、負の外部性と外部費用
第5回	持続可能性と環境正義	エコロジーの概念、定常経済論、持続可能性の概念、環境正義の概念
第6回	公共政策の基礎概念	公共政策の定義、公共政策論の基礎概念、政策分析論と政策過程論
第7回	環境政策の原則	未然防止原則と予防原則、汚染者負担原則と拡大生産者責任原則
第8回	環境政策の手法	規制的手法と経済的手法、合意的手法、情報的手法

第9回	環境政策の主体	環境省、経済産業省、環境NGO、地方自治体
第10回	環境法の体系と環境訴訟	環境基本法、環境権、国際環境法、環境訴訟
第11回	国際経済における環境問題	多国籍企業と汚染逃避仮説、公害輸出、自由貿易と環境保護
第12回	グループ討論	特定のテーマについてグループ単位で討論
第13回	環境政策の展望	21世紀の環境問題と環境政策
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特になし。講義用スライドは、学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

- ・大塚直他『18歳からはじめる環境法 第2版』（法律文化社、2018年）
- ・環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』（有斐閣、2006年）
- ・環境省編『環境・循環型社会・生物多様性白書』各年版
- ・倉阪秀史『環境政策論 第3版』（信山社、2015年）
- ・デイリー、H.『持続可能な発展の経済学』（みすず書房、2005年）
- ・松下和夫『環境政策学のすすめ』（丸善出版、2007年）
- ・森品寿他『環境政策論』（ミネルヴァ書房、2014年）

【成績評価の方法と基準】

以下の4つの要素から100点満点で評価する。

- 1：授業貢献点＝20点（授業での発言、質問等）
- 2：授業内アンケート＝10点
- 3：リアクションペーパー＝8点
- 4：期末試験＝62点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】

授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。

【学生が準備すべき機器他】

WebClassに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、資料をダウンロードする。WebClassのチャットやアンケートの機能を授業中に使うため、パソコンやスマートフォン等でアクセスできるようにする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経済産業省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This course teaches basic knowledges and ways of thinking of environmental problems and environmental policies to solve them. You will be able to understand mechanism and background of environmental problems, master concepts of environmental policies, and propose concrete solutions. You will be graded by such criteria as class participation, a reaction paper, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅱ

高橋 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、環境政策論Ⅰを踏まえ、様々な環境問題の事例を取り上げ、それへの政策的対処策を考察することにある。高度経済成長時代の公害問題、廃棄物問題、気候変動問題などを取り上げ、それぞれの環境問題の構図を理解するとともに、その政策過程を踏まえ、対処策を実践的に議論していく。

環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、それを前提に環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅱを履修する前にⅠを履修することを強く勧める。

【到達目標】

- 1：代表的な環境問題の事例について、理論を踏まえつつ実践的に理解する
- 2：気候変動問題などに対して、具体的な対処策を提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の2日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを記すことをお勧めする。

教員は授業中に様々な質問をする。多くの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくる。受講生は質問への回答をWebClassのチャット欄に記入することが求められ、それをその場で紹介することで議論や理解を深める。第12回授業では、エネルギー・気候変動をテーマにしたグループ討論を行う。また、リアクションペーパーにはコメントを付けて返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明：授業の内容、進め方、評価方法
第2回	公害問題としての水俣病	公害の定義、水俣病の被害、水俣病訴訟
第3回	公害問題の構図と環境基準	環境基準、水質汚濁防止法、大気汚染防止法、経済調和条項
第4回	環境庁設置の政治過程	省際紛争と総合調整、革新自治体と公害防止条例、公害国会
第5回	自然環境保護と生物多様性	自然公園制度、自然の権利、生物多様性条約
第6回	廃棄物問題と循環型社会	産業廃棄物と一般廃棄物、循環型社会と3R、産廃処理事業と豊島事件
第7回	都市における環境問題	都市計画、都市緑化、交通環境政策、省エネルギー
第8回	気候変動問題と気候変動枠組み条約	気候変動の被害、温室効果ガスと化石燃料、パリ協定、気候変動訴訟

第9回	エネルギー転換と脱炭素	カーボンプライシング、グリーン成長、デカップリング、脱炭素宣言
第10回	原子力発電と東京電力福島第一原発事故	国策民営と立地交付金、放射能汚染と避難、事故責任と損害賠償
第11回	再生可能エネルギーと地域社会	再エネと地域経済、メガソーラーの景観破壊問題、営農型太陽光発電
第12回	グループ討論	エネルギー・気候変動問題に関するテーマを取り上げ、グループ別に討論
第13回	環境政策の展望	グループ討論のまとめ、21世紀の環境問題
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特になし。講義用スライドは学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

- ・大沼あゆみ・岸本充生『汚染とリスクを制御する』（岩波書店、2015年）
- ・亀山康子『新・地球環境政策』（昭和堂、2010年）
- ・環境省編『環境白書』各年版
- ・倉阪秀史『環境政策論 第3版』（信山社、2015年）
- ・高橋洋『エネルギー政策論』（岩波書店、2017年）
- ・新澤秀則・高村ゆかり『気候変動政策のダイナミズム』（岩波書店、2015年）
- ・政野淳子『四大公害病』（中公新書、2013年）
- ・森品寿他『環境政策論』（ミネルヴァ書房、2014年）
- ・鷲田豊明・笹尾俊明編『循環型社会をつくる』（岩波書店、2015年）

【成績評価の方法と基準】

以下の4つの要素から100点満点で評価する。

- 1：授業貢献点＝24点（授業での発言、質問等）
- 2：授業内アンケート＝10点
- 3：リアクションペーパー＝8点（A4・1枚程度）
- 4：期末試験＝58点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】

授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。24年度は授業の最後に時間が足りなくなりがちな点を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、資料をダウンロードする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経産省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This course discusses cases of environmental problems and related policies based on Environmental Policy 1. You will be able to understand mechanism and background of various cases of environmental problems, such as environmental pollutions and climate change, and propose concrete solutions to them practically. You will be graded by such criteria as class participation, a reaction paper, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

国際協力論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業ノート」を作成してくる。「授業ノート」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④自分なりに考えてみたこと、あるいはみんなで話し合ってみたいこと、を書いてください。さらに、授業後には、⑤授業中の分科会の議論の論点、講師の説明、それについて授業後に自分で考えたこと、を書いてください。授業前半では少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の報告係になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらに深い問いをもてるようにする。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連SDGsの論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円＋税。

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円＋税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、授業ノートの5項目について、20%ずつ100%で評価します。何らかの事情で参加できなかった場合は、⑤の項目でその理由とともに、さらに別の資料を用いて調査し、わかったこと、考えたことを書いてください。具体的な問題について、事実に基づいて批判的に考える力を身につけるのが授業のねらいなので、考察のもとになる資料の書誌情報がなかったり、項目だけが書かれていて具体的な内容のある文章になっていない場合は、評価の対象にならないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラム社会とは、イスラム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

中東・イスラム世界研究の著作を受講生全員で手分けして読みつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業ノート」を作成してくること。「授業ノート」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④自分なりに考えてみたこと、あるいはみんなで話し合ってみたいこと、を書いてください。さらに、授業後には、⑤授業中の分科会の議論の論点、講師の説明、それについて授業後に自分で考えたこと、を書いてください。授業前半では少人数分科会で全員が各自の授業ノートを共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の報告係になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。

受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。 テーマについて知りたいことに 関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と 中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東における イスラム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中 東とレバント国家 ：レバント国家再 考	受講生報告と教員を交えた議論

5	エジプト—民衆は 時代の転換に何を望 んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニ ジアの国家=社会関 係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」を めぐる語りの変容・ イスラエルの国家安 全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難 民、およびロジャ ヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ—新自由主 義・親イスラム政 党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけ るアラビア半島諸国 の台頭を支える安定 性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラム 統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を 巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	ヨルダン—紛争と の共生	受講生報告と教員を交えた議論
14	中東・イスラム研 究の課題	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円+税。
そのほか、岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる諸論文。

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。
岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、授業ノートの5項目について、20%ずつ100%で評価します。何らかの事情で参加できなかった場合は、⑤の項目でその理由とともに、さらに別の資料を用いて調査し、わかったこと、考えたことを書いてください。具体的な問題について、事実に基づいて批判的に考える力を身につけるのが授業のねらいなので、考察のもとになる資料の書誌情報がなかったり、項目だけが書かれていて具体的な内容のある文章になっていない場合は、評価の対象にならないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

SOC100EB, SOC100EC (社会学 / Sociology 100, 社会学 / Sociology 100)

コミュニティ・デザイン論Ⅰ

樋口 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、コミュニティという言葉が注目されている。かつては、「ご近所さん」のように、地域性が重要な意味を持っていた。ところが、現在では、NPOやネット・コミュニティのように、伝統的な地域性にとらわれない、新たな共同性の形が出現している。現代社会において、なぜコミュニティは争点になるのか。様々な領域のケース・スタディを通じて、その理由を探る。

【到達目標】

①ケース・スタディを通じて、コミュニティが果たす役割の初歩的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義。授業内でゲスト講義を1回行う予定。また、多摩におけるまちづくりの実践を紹介するため、ソーシャル・イノベーション・センター（SIC）と共同した講義を行う予定。そのため、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	社会と世間のはざま
2	理論的考察①	地域性と共同性の乖離
3	理論的考察②	「離脱・発言・忠誠」というオプション
4	ケース・スタディ①	相互扶助と社会保障の相克
5	ケース・スタディ②	町内会・自治会とNPO
6	ケース・スタディ③	商人とまちづくり
7	ケース・スタディ④	防犯という戦略
8	ケース・スタディ⑤	アートという新たなメディア
9	ケース・スタディ⑥	孤独をめぐる闘い
10	ケース・スタディ⑦	親密性と公共性
11	ケース・スタディ⑧	移住と二拠点生活
12	将来展望の検討①	サード・セクターの役割
13	将来展望の検討②	社会的包摂という政策フレーム
14	ゲスト講義	（詳細未定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。授業で用いる教材は、講義前に、学習支援システムにアップロードするので、事前にダウンロードすること。

【参考書】

各回の講義にて指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験（60％）

②ゲスト講義参加を含む平常点（40％）

【学生の意見等からの気づき】

新しい講義テーマの導入、パワーポイントの見やすさの改善

【Outline (in English)】

This lecture is about community development. The goal is to acquire basic knowledge of it. Your study time will be more than two hours for a class. Grading will be decided based on Term-end exam (90%), and the short report for a guest lecture (10%).

ARSe200EC (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 200)

地域研究 (中国)

大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古来、独自の文化的秩序観による一つの「世界」を形成してきた中国 (中華) の歴史をふまえ、グローバル化が進展する現代国際社会の中で、その特徴をさまざまな具体的事例で検証、分析、考察します。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえる練習を重ね、現在の中国共産党と中華人民共和国の諸政策を的確に分析していく視座を形成します。脅威論や仮想敵国論ばかりが跋扈するこの国のメディアの報道も分析対象とします。一緒に学んだ後、そうしたニュースについて、不足している観点や記者の不勉強や取材不足をきちんと指摘できる media literacy も身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論の形とします。後半はテーマ別に個人や小グループでの発表、議論など少し規模の大きなゼミのような形に展開できればと考えています。そのために学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時空としたいと思います。

コロナ前までは隔週でやりとりする「交換日記」を実施してきましたが、コロナ後は、ハイフレックス方式をとっていることもあり、webの学習管理システムを利用し、応答しています。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有します。

授業計画は、実際の展開によって若干の変更をすることもあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中国とは？	中国的 (中華) 世界秩序
2	近現代史 (1)	屈辱の近代 (1)
3	近現代史 (2)	屈辱の近代 (2)
4	近現代史 (3)	中華人民共和国 (1)
5	近現代史 (4)	中華人民共和国 (2)
6	近現代史 (5)	「改革・開放」
7	近現代史 (6)	香港、台湾
8	近現代史 (7)	日・中関係
9	事例研究 (1)	「課題1」の検討
10	事例研究 (2)	内政 (1)
11	事例研究 (3)	内政 (2)
12	事例研究 (4)	外交 (1)
13	事例研究 (5)	外交 (2)
14	事例研究 (6)	総合討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定の「教科書」はありません。毎回プリントを配布します。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1)「課題1」 関連する新聞記事を3本とりあげ、重要語句などに脚注をつけ、コメントをしてください。

(2)「課題2」 この時間にとりあげた内容をさらに深掘りして小論文を作成してください。

(3)参加 「交換日記」+ 授業内発表

(1) 35% + (2) 45% + (3) 20% で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時空としたいと思います。グループ討論による相互学習等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきます。「交換日記」等で意見や質問や連絡など、遠慮なくどうぞ。

【その他の重要事項】

大学の自称「学習支援システム」WebClassは、とても使いものにならない劣悪な「学習支援『できない』シロモノ」でしかないので、最初の連絡以外は使いません。連絡や課題の提出等は、すべて別の有用なLMS (学習管理システム) を使用しますので、必ず登録、活用してください。

1980年、中華人民共和国奨学金留学生として留学し、その後、北京駐在記者 (特派員) として市井の民から中国共産党総書記まで取材し、民主化要求運動の武力鎮圧 (1989年いわゆる「天安門事件」) の現場取材なども経験。現代中国に関する情報収集や分析の literacy を具体的に伝え、メディアの伝える「中国像」の歪みと実像とを比較考量したいと考えています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (30%), term-end report (40%), and in-class contribution (30%).

FRI200EB, FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

社会ネットワーク論Ⅰ

宇野 斉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークのシステムのな見方とともに、学びます。

【到達目標】

- 1 社会現象のネットワーク的な見方の理解
- 2 企業や地域を社会ネットワークとして捉える有効性の理解
- 3 社会のシステムのな見方とネットワークの理解
- 4 ネットワーク分析が自分で出来る基本的技法の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心として演習問題、いくつかの課題を絡めながら進めます。
毎回学習支援システム等での授業に出席した上でのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会におけるネットワーク現象(1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介しします。
03	社会におけるネットワーク現象(2)	社会現象を起こすネットワークの振る舞いを考察します。
04	ネットワーク分析のための理論提示	小規模ネットワークの分析理論と背景を提示します。
05	ネットワークの理論的分析	小規模ネットワークの状況比較分析を紹介しします。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における代表値、一般的な指標を説明します。
07	ネットワーク、システム上の主体と関係	システム論的見方を提示し、ネットワークの主体の役割と相互関係を考察します。
08	ネットワークの中に生じる認知組織	ネットワーク内に認知される組織を論じます。
09	企業のネットワーク(1)	企業内の制度におけるネットワークを考察します。
10	企業のネットワーク(2)	企業内の制度外のネットワークを考察します。
11	地域のネットワーク(1)	地域を成立させているネットワークを考察します。
12	地域のネットワーク(2)	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	社会における多段階のネットワーク関係を系統的に考察します。
14	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムで提示します。結果の印刷物の提出を求める事があります。本授業の平均的な準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等30%、レポート30%、期末試験40%（受験しないと評価対象になりません）。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関する個別アンケートの回答に以下の内容（要約）がありました。引き続きなるべく、社会に出てから有益な内容を提供します。

「ネットワークを現実社会に結びつけて考えられるようになり、視野が広がった。」「特にコメントフィードバックが丁寧で学習意欲が高まった。」「全体を通して詳しく社会ネットワークについて説明して頂いたことで、組織についてや社会に出てから生き残るために必要になると考えられる生きた知識を身につけることが出来たので非常に有益であった。」「(他学部生) 社会学部の友人からの勧めをきっかけに履修したが、自学部では得られない社会の繋がりが、組織の役割などを学ぶことができた。普段当たり前のように溶け込んでいる組織への見方が変わった気がした。」

【学生が準備すべき機器他】

授業時にも学習支援システム等を使用します。大学付メールアドレスのメールを随時チェックしてください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを授業内でも利用します。

表計算ソフト（MS-Excel）を利用します。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。
なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the process of viewing and understanding various social situations as social networks, along with the systemic view of social networks.

【Learning Objectives】

- 1 Understanding the network view of social phenomena
- 2 Understanding the validity of viewing companies and regions as social networks
- 3 Understanding the systemic view of society and networks

【Learning activities outside of classroom】

Presented in the class support system.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

30% of regular scores and exercises during lectures, 30% of report(s), and 40% of final exams(Students must take the exam to be eligible for evaluation).

FRI200EB, FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野 斉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 組織内のネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学びます。

2 実験によってネットワークを体感し、あわせて分析方法も学びます。

【到達目標】

1 ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得

2 組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

3 実験によるネットワークとスモールワールドの体感と理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と実験、演習問題、いくつかの課題によって進めます。

主に組織内のネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱います。個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を行います。また、スモールワールドについても実験を交えて扱います。

毎回学習支援システム等での授業に出席した上でのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション、実験準備	概観内容を説明し、学生と教員間で確認します。実験の準備をします。
02	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
03	実験結果の分析	データを理論との対比で分析します。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
05	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な関係状況の分析を考察します。
06	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の関係の同時状況分析を考察します。
07	スモールワールドの理論	スモールワールドの理論分析モデルを学びます。
08	スモールワールドの実験	スモールワールドの状況を感じる実験を行います。
09	スモールワールドの実験と理論	実験結果を分析し理論との接合を考察します。
10	組織内リンク追加の効果1	モデルでの関係追加の組織全体への効果を考察します。
11	組織内リンク追加の効果2	モデルでの関係追加の個人への効果を考察します。
12	組織内リンク追加の効果3	モデルでの関係追加の個人と組織への効果の差異を考察します。

13 クラスタ、ネット 4つの段階の様相相互の関係をワーク、組織、個人 考察します。

14 まとめと、質疑および議論 各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムで提示します。結果の印刷物の提出を求める事があります。

本授業の平均的な準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等30%、レポート30%、期末試験40%（受験しないと評価対象になりません）。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関する個別アンケート回答に次の内容（要約）がありました。引き続き、なるべく楽しく、社会に出てから有益な内容を提供します。

「理論はもちろん面白かったのですが、就活や就職後に重要なお話も多かったので、深く考えることができました」「実験やワーク、授業の内容がとても興味深いものが多く、学ぶこと自体がとても楽しかったです」「人と人との繋がりを数値で表したり、言語化したり、実際に実験をして体験してみるなど、分からない事ばかりでしたが、人間関係で納得できる部分などもあり、とても楽しい授業でした」

【学生が準備すべき機器他】

授業時にも学習支援システム等を使用します。大学付与メールアドレスのメールを随時チェックしてください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを授業内でも利用します。

表計算ソフト（MS-Excel）を利用する事があります。（社会学部の）コンピュータ入門の内容程度はできると想定しています。さらに自習が必要な場合があります。

【その他の重要事項】

必ず先に社会ネットワーク論Ⅰを履修しておいてください。同科目の修得を前提としています。

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に実験が出来ない場合、関連する時間に関して代替する内容に差し替えることがあります。

対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

1. You will learn theories and methods for analyzing networks within organizations from a social network perspective.

2. You will experience networks through experiments and learn analytical methods.

(Learning Objectives)

1. Acquire organizational analysis methods using network analysis techniques

2. Understand the meaning and behavior of organizations as social networks

3. Experience and understanding of networks and small worlds through experiments

(Learning activities outside of classroom)

The content will be presented on the learning support system. You may be asked to submit a printed copy of your results.

The average preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

30% of the grades are based on regular class performance, 30% on reports, and 40% on the final exam (you will not be evaluated unless you take the exam).

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツトレーニング論Ⅰ

木村 新

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニング科学を理解する上で必要な基礎的知識（バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等）を学び、適切なトレーニング計画をデザインするための基礎を習得する。

【到達目標】

・トレーニング科学を学ぶ上で必要な基礎的知識（バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等）を理解する。
・各種トレーニング（レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等）の内容と方法および、トレーニング実践での留意点についての科学的知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントやVTR等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	トレーニング科学の対象、位置づけ、方法とは何かを説明した後に、今後の講義の流れについて確認する。
第2回	トレーニング指導者論	トレーニング指導者としての役割や実務、またトレーニングに関するデータの測定・分析・評価・活用の方法について概説する。
第3回	トレーニング方法の基礎	トレーニング方法の種類（レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等）を解説し、トレーニングを計画する際の留意点について確認する。加えて、トレーニング方法の種類に応じた負荷のかけ方や相互関係について説明する。
第4回	骨格筋の科学①	骨格筋の生理学的な側面について説明する。
第5回	骨格筋の科学②	骨格筋と腱の力学特性について説明する。
第6回	トレーニング動作のバイオメカニクス	トレーニング動作をバイオメカニクスの観点から評価できるようになることを目指す。
第7回	生体エネルギー論	運動様式に応じたエネルギー供給機構を説明する。
第8回	レジスタンストレーニング①	レジスタンストレーニングにおける頻度や強度の標準的な組み方を説明する。
第9回	レジスタンストレーニング②	レジスタンストレーニングの各種エクササイズを概説し、各種エクササイズをバイオメカニクスの観点から説明する。
第10回	持久性トレーニング①	持久性トレーニングに伴う身体内部の変化について説明する。
第11回	持久性トレーニング②	持久性トレーニングの標準的な組み方について説明する。
第12回	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクストレーニングとは何かを説明し、プライオメトリクストレーニングの各種エクササイズとそれらのバイオメカニクスについて概説する。
第13回	リカバリー方法	リカバリーの各種技法の紹介、効果のメカニズムを解説する。
第14回	期末試験	1～13回目までの内容について、修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

なし（各授業回、資料を作成して学習支援システム「教材」にアップロードする）

【参考書】

・「ストレングストレーニング&コンディショニング[第4版]」G. Gregory Haff, N. Travis Triplett (編集), Book House HD
・「NSCA スポーツ科学の基礎知識」Duncan N. French, Lorena Torres Ronda, NSCA ジャパン

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

スポーツトレーニング論Ⅱの内容と合わせて理解するとトレーニングに関する見解が深まると思われるので、スポーツトレーニング論Ⅱの受講を勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

To learn the basic knowledge required to understand training science (biomechanics, physiology, neuroscience, etc.).

To learn the fundamentals for designing training plans.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand findings in the training science and to use them in the application of training.

【Learning activities outside of classroom】

Students try to apply their understanding to sports fields. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.

【Grading criteria/Policy】

Test: 100%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：備考参照年次／2単位

曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：2024年度以降入学者は1年次から履修可能。
2023年度以前入学者は2年次から履修可能。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、重大外傷、熱中症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。さらに発展させて、あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、社会的危機に直面した時に、これを科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題などを課すが、ハンドアウトは予習や授業内で使用することを想定している。
- ⑤ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	パンデミックから学ぶリスクマネジメント	新型コロナウイルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」—スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	「アスリートが命を落とすとき」—突然死の機序とスポーツ現場における実態—	人が死ぬときに何が起きているのか？なぜ運動中に命を落とすのか？若年アスリートスポーツ中の内因性突然死、中高年者の運動中の突然死について講義する。

4	心肺蘇生（成人と小児のBLS） —スポーツ現場で Hands Only CPR—	成人の一次救命処置（BLS）と小児の救命処置（PBLIS）の理論的基礎と適切に行うために必要な技術的ポイントについて学習する。またスポーツ現場における Hands Only CPRの役割について学ぶ。 競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。 事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
5	インフォームドコンセントと誓約書	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
6	競技参加のためのメディカルチェック	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致死性の頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。 ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	「なぜスポーツしてはいけないのか？」 —競技スポーツ参加の可否判断—	スポーツ現場における熱中症対策のビットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。またスポーツ現場における落雷対策について学ぶ。 減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
8	スポーツにおける重大外傷	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントとその対策
9	スポーツと脳振盪	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。 （mass gatheringとしての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。Emergency Action Plan (EAP) および AED（自動体外式除細動器）の役割について学ぶ。
10	環境とスポーツ —熱中症と落雷—	
11	スポーツ選手と減量	
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	
13	ドーピングとアンチドーピング	
14	スポーツイベントのリスクマネジメント —EAPとAED—	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
- ④ 下記【参考書】欄に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】特に定めず

【参考書】

- 第1回：『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）※資料室収蔵
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可
『臨床雑誌 内科：特集：感染症2020：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020年125巻1号）（医書jpよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第2回：『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）、（特に第1章～第6章）
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）※資料室収蔵
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤真理子、エネルギーフォーラム、2018）※多摩図書館収蔵
第3回：『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号、（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第4回：

『BLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2020 準拠』（2022 年、シナジー）※資料室収蔵

第5回：

『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵

第6回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック－心臓突然死を未然に防ぐために－、pp.570-573）

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－、pp.153-162.）

『雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第7回：

木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.

(<http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf>)

『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵

第8回：

『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013 年改訂版）

『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015 年第 4 版）

いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。

『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵

第9回：

『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵

『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵

『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：「頭部外傷 10 か条の提言」から考える』（2016 年 33 巻 7 号）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第10回：

『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）

『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）

『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）

『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）

『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）

(<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能)

『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会

https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf)

『サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針』（日本サッカー協会 https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20060413_17_01.pdf)

『落雷事故の防止について』（文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm)

第11回：

木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－。（1998 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. <http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf> から参照）

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害。臨床スポーツ医学。2014;31(9):858-867.

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第12回：

『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学。 <http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）

(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』

(<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)

第13回：

日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)。ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。

『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）※資料室収蔵

『ランス・アームストロングツール・ド・フランス 7 冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には 3 部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなるが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）

『アンチ・ドーピング徹底解説! スポーツ医薬：服薬指導とその根拠』（鈴木秀典ほか編、中山書店、2020 年）※多摩図書館収蔵

『ドーピングの歴史: なぜ終わらないのか、どうすればなくせるのか』（エイプリル・ヘニングほか、青土社、2023 年）※多摩図書館収蔵

第14回：

『マラソン・ロードレース 救護・医療体制 整備指針: フルマラソンから小規模レースまで一安全に運営するために』（野口 宏（編）, 山澤文裕（監修）、真興

交易医書出版部、2020 年）※多摩図書館収蔵

『人を助ける心』（高木 修、サイエンス社、1998 年）。（特に第 1 章、第 2 章、第 4 章）※研究室収蔵

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』。2009 年 26 巻 11 号（特に「BLS と AED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

その他に下記の書籍などを追加的に参考にするとよい。

・Herb Appenzeller: "Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵

・入澤 充、『学校事故：知っておきたい! 養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題などを課す。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】

授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドを含め関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に強く改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。当該資料は予習および授業内演習に使用するため、各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【実務の経験】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医、日本医師会認定産業医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】

上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】

[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.

[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.

[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). A quiz (mini test) will be provided in the classroom. The score of the quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

ECN100IA（経済学 / Economics 100）

スポーツビジネス論 I

片上 千恵

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、スポーツ産業の市場規模や特徴を理解するとともに、現在スポーツ業界が直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツ現場のトレンドを知り、直面する問題を明らかにする。また、スポーツビジネスを展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回授業内容をまとめたリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スポーツビジネスの特徴 他のビジネスとの相違点
2	スポーツに関わる人々とビジネス	クラブ、リーグ、選手、メディア、スポンサー、ファンなどステークホルダーとスポーツ関連ビジネス
3	スポーツ施設	スタジアム、アリーナ運営にまつわるビジネス
4	健康ビジネス	フィットネス産業など、競技以外のビジネス
5	スポーツとメディア	放映権、スポーツ中継の変遷
6	スポンサーと広告	企業がスポーツを支える目的、ROI、イメージとリスク
7	ゲストスピーカー招聘（球団関係者）	スポーツ施設に関する最新情報
8	アスリート個人のビジネス	肖像権、SNSと個人ブランディング
9	メディアトレーニング入門	「自由に話す」と「戦略的に話す」
10	ファンビジネス	ファンエンゲージメント 消費者行動
11	スポーツツーリズム	経験価値、補完行動、官民連携
12	デジタル時代のスポーツビジネス	オウンドメディア、D2C
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	期末テスト	授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト(80%)および授業内レポートの評価(20%)から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の感想や気づき、質問を記入してもらいう。その内容をもとに次の授業冒頭でフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. (Learning Objectives) This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 80%、Short reports : 20%.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツコーチング論A

NEMES ROLAND JANOS

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ競技者育成のためのスポーツコーチング、また生涯スポーツのためのコーチングについてその本質と理論を理解する。新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学ぶ。

【到達目標】

効果的なスポーツコーチングに必要な専門的知識を習得し、応用する能力を養う。様々な競技スポーツやレクリエーションスポーツなどに関するコーチングの本質と理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、毎時限課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業の進め方のガイダンス	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
2回	スポーツの意義と価値	スポーツの文化的特性・スポーツ精神 スポーツ基本法とスポーツ基本計画
3回	日本のコーチングの今	グッドコーチに向けた「7つの提言」 スポーツインテグリティ
4回	多様なコーチング文脈	種類別コーチに求められるもの参加 型スポーツのコーチングパフォーマンススポーツのコーチング
5回	コーチに求められるもの	コーチの主な機能（職務）
6回	コーチの学び	コーチが学ぶための方法論 省察の流れ
7回	コーチのセルフコントロール	自分の心理的、行動的な特徴 セルフコントロールの技法の理解
8回	コーチのコミュニケーションスキル	コミュニケーション プレゼンテーション ファシリテーション
9回	コーチングとリーダーシップ	集団、チーム リーダーシップ理論の流れ リーダーの成長を促す経験
10回	多様な思考法に基づくコーチング	理論的思考法 分析的思考法 創造的思考法 判的思考法
11回	発育発達と女性アスリートのコーチング	成長期の子どものコーチングの特徴 女性アスリートのコーチングの特徴
12回	障がいのある人のコーチング	アダプテッドスポーツ インクルーシブスポーツ 障がいのある人のコーチングの特徴
13回	リスクマネジメント	暴力的指導のリスクマネジメント スポーツ事故のリスクマネジメント
14回	試験・まとめと解説	授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に課題を与えることはしないが、参考書に目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間以上を標準とする（準備学習2時間・復習2時間）。

【テキスト（教科書）】

特に設けない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館
 「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
 「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
 「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業状況（20%）および授業内に行う課題レポート（30%）、学期末試験（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行が速かったので、丁寧に授業を進行するよう努力します。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course examines the fundamental principles and theoretical foundations of sports coaching for both athlete development and lifelong engagement in sport. Coaching in the contemporary era is understood as a socially responsible practice that carries accountability for the future of athletes and sport as a whole. To realize this responsibility in practice, the course explores coaching philosophy and ethics, intrapersonal and interpersonal competencies, and effective management of coaching environments in real-world settings.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to:

Acquire and apply the specialized knowledge required for effective sports coaching across competitive and recreational sporting contexts. Understand the core philosophy and ethics of coaching, including the coach's roles, responsibilities, and approaches to self-management and communication.

Demonstrate understanding of coaching principles as they apply to diverse populations, including youth athletes, female athletes, and athletes with disabilities.

Apply risk management strategies to address issues such as abusive coaching practices and sports-related accidents.

Learning Activities Outside of Classroom:

Students are encouraged to read the designated reference books to supplement their understanding of course content. No mandatory assignments will be given, but reviewing materials covered in each session is strongly recommended. Your required study time is at least four hours for each class meeting (two hours for preparation and two hours for review).

Grading Criteria / Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In-class participation and attitude: 20%

In-class assignment reports: 30%

Term-end examination: 50%

A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

ECN200IA（経済学 / Economics 200）

スポーツマーケティング論

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4年次／2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、スポーツマーケティングに関する理解を深め、重要な概念や関連する理論についても学習することを目的とする。

【到達目標】

スポーツに関連する組織において、顧客の維持・拡大は重要な課題であり、マーケティング的な視点は必須である。しかしながら、スポーツ消費者は余暇時間の価値を高めるためにスポーツを消費するため、消費者の理解や市場を捉えることがとても困難であると言える。

本講義では、スポーツマーケティングの基本的な考え方やスポーツサービスの特徴などの理解を深めるだけでなく、組織や市場に適したマーケティング戦略について検討しうる能力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこない、プロジェクターを使用します。

本講義は、パワーポイントをういた講義部分と、個人もしくはグループ単位でマーケティング戦略を検討し、発表するプレゼンテーションで構成されるため、講義外での作業や準備が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要について解説し、スポーツが社会に果たす役割や機能について解説する
2	スポーツマーケティングとは	スポーツをビジネスの視点でとらえ、その存在意義や社会における役割について解説する
3	スポーツビジネスの考え方	マーケティング志向、交換、商品特性
4	消費者構造とマーケティングセグメンテーション	市場の細分化、マーケティングの変遷
5	スポーツマーケットの業務	スポーツクラブの組織の在り方について理解を深め、具体的な業務内容について解説する
6	スポーツマーケティングの特性	スポーツサービスの特異性について理解を深める
7	スポーツ市場の理解	スポーツビジネスの市場規模と我が国の特徴について理解する
8	リスクマネジメント	スポーツクラブ運営に関するリスクの存在について説明する
9	ブランドについて	スポーツクラブにおけるブランドについて説明する
10	CSR	スポーツクラブの社会的責任とガバナンスについて説明する
11	コミュニケーション戦略	ステークホルダーとの良好な関係構築のためのコミュニケーション戦略について解説する
12	スポーツマーケティングの実際（国内の事例）	国内のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
13	スポーツマーケティングの実際（国外の事例）	国外のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
14	総括	本講義のまとめおよびプレゼンをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき、準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤眞・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017年

【参考書】

特に設けない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト(60%)および授業内レポート(40%)の評価から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

専門性の高さを維持しながら、他のコースを選択している学生にも理解しやすいような内容にしていくとともに、参考となる配布資料の改善もおこなう

【Outline (in English)】

(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. (Learning Objectives) This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport management. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports : 40%.

SOC100IA (社会学 / Sociology 100)

スポーツメディア論

片上 千恵

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4年次／2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの進化はスポーツ中継の進化と言われるほど、スポーツはメディア、とりわけテレビ技術の発展とともに繁栄してきた。衛星放送が可能になったことで、世界中のスポーツ競技がリアルタイムに視聴できるようになり、競技レベルの高度化やファン層の拡大に大きく貢献してきた。一方で、テレビ視聴に適したルール変更が行われるなど、スポーツはメディアの影響を受けながらその姿を変えてきた。近年では、スポーツ競技やリーグ自体がオウンドメディアを所有するようになり、メディアとスポーツの関係は時代とともに変化し続けている。

本講義では、スポーツとメディアの変遷を辿り、メディアがスポーツに与えてきた影響と、今後の関係性について考察する。さらに、SNSの出現以降、アスリートは従来のメディアを介さずに自ら情報発信を行うことが可能となった。本講義では、スポーツの価値を高める情報発信を支援する「メディアトレーニング」についても学ぶ。

【到達目標】

- ・スポーツとメディアの関係性を歴史的、社会的な視点から理解できる。
- ・スポーツにおけるメディアトレーニングの機能を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを活用した講義形式。毎授業の冒頭に、履修者からスポーツに関するトピックを提供してもらいディスカッションする時間を設ける。学期後半ではグループに分かれ、模擬記者会見を通してメディアトレーニングを実践的に学ぶ。中間テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明。メディアスポーツとは何か？
2	活字メディア（雑誌・新聞）	メディアの成り立ちと宗教の関係。グーテンベルグによる印刷革命から新聞・雑誌メディアが誕生する過程でスポーツはどのように扱われてきたか。
3	ラジオ①	電波メディアの誕生。1920年アメリカのKDKAにおける世界最初のラジオ放送とスポーツ中継の始まり。ラジオが生んだ日本独自のスポーツ文化であるラジオ体操と高校野球について考える。
4	ラジオ②	ラジオが伝えたオリンピックについて。「実感放送」やオリンピックが生んだスポーツ実況スタイルを事例に時代ごとにメディア技術の発達とスポーツが社会に与えた影響について考える。
5	映画	1936年ナチス政権下で行われたベルリンオリンピックで製作された記録映画はプロパガンダの様相を帯びているとされる。その他にも社会の常識やルールに変革をもたらしたスポーツ映画を題材にスポーツの歴史を振り返る。
6	テレビ	戦後の経済発展とともにテレビはスポーツを大衆化した。「メディアスポーツ」の概念を理解し、「メディアイベント」としての箱根駅伝や高校野球を例にスポーツとメディアの関係を考察する。

7	ニューメディア①	SNSをはじめとするインターネットメディアの出現により、情報発信の仕方が大きく変化した。スポーツ取材現場の変化とともにインターネットメディアの功罪を考える。
8	ニューメディア②	テクノロジーの進化に伴い、従来のメディア企業はビジネスモデルの変革時期に直面している。特にスポーツエンターテインメントの分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）がもたらす変化は目覚ましい。スポーツ界におけるDX化事例から未来のスポーツとメディアの関係について考える。
9	放映権	放映権の高騰はスポーツのルールにまで影響を及ぼした。オリンピックとサッカーW杯を事例に放映権ビジネスについて学ぶ。
10	中間テスト	これまでの授業のまとめ
11	メディアトレーニング	スポーツにおけるメディアトレーニングとは何か？日本や世界における歴史と現状を把握し、その機能を理解する。
12	危機管理対応	スポーツを取り囲む様々なリスクを整理し、過去の様々な事例から、状況に応じたリスクマネジメントとメディア対応を考える。
13	模擬記者会見 ゲスト招聘（PRコンサルタント）	スポーツ組織における不祥事案件を想定した模擬記者会見を実施。グループに分かれて適切な対応を議論し、想定問答の作成から記者会見の対応までを体験する。
14	総括	模擬記者会見の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。日頃のスポーツニュースをチェックする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート（30%）、授業内発表（20%）、期末テスト（50%）の評価から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

好評だった模擬記者会見において、入念に事前準備ができるよう資料を充実させ、学生がリアリティを持ってより多くの学びを得られるような仕様にブラッシュアップさせる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will track the evolution of sports and media, examine the impact of media on sports, and consider future relationships. We will also learn about media training to support information dissemination that enhances the value of sports.

【Learning Objectives】

The goals of this course are:

- To understand the relationship between sports and media from historical and societal perspectives.
- To be able to explain the function of media training in sports.

【Learning activities outside of classroom】

Review what you have learned in each lecture. Checking sports news regularly. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Midterm exam (50%), in-class reports (20%), and in-class presentations (30%).

ECN200IA（経済学 / Economics 200）

スポーツビジネス論Ⅱ

望月 拓実

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2年次／2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツビジネスを推進していくうえで必要となる多様な領域のマネジメントを解説する。具体的には、新たに登場したIT分野に関連するマネジメントや施設運営・管理に関するマネジメント、行動経済学的視点から見たスポーツマネジメントや財務に関するマネジメントを理解する。

【到達目標】

- 1：スポーツビジネスを推進するうえで必要となる要素を説明できる
- 2：スポーツファシリティマネジメントの概要を説明し、課題と解決策を提示できる
- 3：行動経済学からみたスポーツビジネスの特徴を説明できる
- 4：スポーツファイナンスの概要を説明し、課題と解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義では各回で設定された課題に対するグループワークを行い、自ら意見・アイデアを発信する。その後座学形式による講義を行ったうえで、その内容をふまえた問いに対する意見(リアクションペーパー)を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容、講義の流れ、グループワークの解説、成績評価の解説
第2回	ニューススポーツにおけるビジネス実態と課題	eスポーツ、エクストリームスポーツの特徴と課題
第3回	スポーツテクノロジーにおけるビジネス実態と課題	VAR, ホークアイがもたらすスポーツへの影響、VR観戦の可能性
第4回	スポーツファシリティマネジメント1	スポーツファシリティの歴史的発展、指定管理者制度
第5回	スポーツファシリティマネジメント2	スポーツファシリティとスポーツ政策、運営組織論
第6回	スポーツファシリティマネジメント3	スポーツファシリティの組織間連携、ホスピタリティマネジメント
第7回	スポーツファシリティマネジメント4	スポーツファシリティの建設プロジェクト、管理業務と事業計画
第8回	中間まとめと小テスト	これまでの学習内容をふりかえったうえで、その内容をふまえての穴埋め小テスト
第9回	行動経済学とスポーツ1	顧客ロイヤリティ、感情一致効果、フレーミング効果、ヒューリスティック
第10回	行動経済学とスポーツ2	マーケティングの落とし穴、マーケティングリサーチの実際、イノベーションのジレンマ
第11回	スポーツファイナンスの基礎	ファイナンスとは何か、スポーツファイナンスの特徴、固有性
第12回	クラブファイナンス1	法人格、財務諸表、資金繰り、スポーツ組織の「価値」構造について
第13回	クラブファイナンス2	資本金、株式上場、プロスポーツの企業価値計算、情報開示
第14回	最終テスト	学習の総括と最終テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う内容に関連する参考書および関連文献を授業前に熟読し、授業時に発言、またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度(リアクションペーパー、グループワークへの参加、講義内での発言等)：30%

講義内小テスト：20%

最終課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークメンバーの定期的な入れ替えを導入しました。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】

グループワークはオンラインツールを用いて行うため、原則パソコンを持参すること。所有していない場合はタブレットなど一定以上の画面サイズがある電子端末でも可とする。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will explain the various areas of management that are necessary to promote sports business. Specifically, students will understand management related to the newly emerging IT field, management related to facility operation and management, sports management from a behavioral economics perspective, and management related to finance.

【Learning Objectives】 1：To be able to explain the elements necessary to promote sports business 2：To be able to give an overview of sports facility management and present challenges and solutions 3：To be able to explain the characteristics of sports business from the perspective of behavioral economics 4：To be able to give an overview of sports finance and present issues and solutions

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read carefully the reference books and related literature related to the contents of the class before the class, and to be able to reflect them in their comments and reaction papers.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Class participation (reaction papers, participation in group work, speaking in class, etc.): 30%.

In-class quiz: 20%.

Final report assignment: 50%.

MAN300IA（経営学 / Management 300）

マーケティングリサーチ実習

山口 和真

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4年次／1単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる。
- ・課題に対して、仮説を立てることができる。
- ・仮説を調査票にすることができる。
- ・回答しやすい調査票作成ができる。
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法を理解し、統計解析ソフトspssを利用することができる。
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査を行うことによって理論的・技術的な理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点や調査をする上での心構えを学ぶ。
第2回	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ。
第3回	調査課題の立て方	調査課題とは何かを複数の例に基づいて考える。
第4回	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる。
第5回	調査課題の立て方に関するまとめ	第4回でまとめた調査課題について発表し、ブラッシュアップする。
第6回	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ。
第7回	調査の種類を学ぶ	定量調査や定性調査の研究を学ぶ。
第8回	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ。
第9回	定量調査の調査票作成	第5回でまとめた調査課題についての簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップを図る。
第10回	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成を学ぶ。
第11回	定性調査の調査票作成	第5回と第9回の結果を踏まえて定性調査の調査票を作成する。
第12回	定量調査の実践	第9回の調査票について実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する。
第13回	定性調査の実践準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作成する。
第14回	定性調査の実践	インタビュー調査を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】

調査票 (50%)、分析・レポート (50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で利用する資料について、わかりやすく提示するよう心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限(52名)を超えた場合には、受講者選抜を実施します。受講者は、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目の履修を条件とします。

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives)

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and use analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is 2hours each.

(Grading Criteria / Policy)

The grade is comprehensively evaluated by questionnaires(50%), analysis / reports(50%).

MAN300IA（経営学 / Management 300）

マーケティングリサーチ演習

山口 和真

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4年次／2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる。
- ・課題に対して、仮説を立てることができる。
- ・仮説を調査票にすることができる。
- ・回答しやすい調査票作成ができる。
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法を理解し、統計解析ソフトspssを利用することができる。
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本講義の具体的な内容は、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる。
第2回	スポーツに関する調査概要	調査に関する概要について検索し、現在のテーマとその背景を考える。
第3回	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する。
第4回	調査課題の仮説の設定	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する。
第5回	事前調査の実施	事前調査を実施し、課題の妥当性や仮説の方向性をまとめる。
第6回	事前調査結果の発表	第5回で得られた結果を発表し、ブラッシュアップを図る。
第7回	定量調査の調査票設計	課題解決や仮説検証のための調査票設計を行う。
第8回	定量調査の調査票の妥当性の確認	定量調査票設計についての妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップを図る。
第9回	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認および調査方法のシミュレーションを行う。
第10回	定量調査の実施	定量調査を実施する。
第11回	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ。
第12回	調査の集計、分析、仮説検証	調査の分析を実施し、仮説を検証する。
第13回	調査の集計、分析結果の考察	第12回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う。
第14回	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】

調査票(50%)、分析・レポート(50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で利用する資料について、わかりやすく提示するよう心がける。専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限(52名)を超えた場合には、受講者選抜を実施します。受講者は、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目の履修を条件とします。

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives)

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and use analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is 2hours each.

(Grading Criteria / Policy)

The grade is comprehensively evaluated by questionnaires(50%), analysis / reports(50%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ戦術論（サッカー）

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4年次／2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー競技力向上ならびに普及、育成を目指した実践現場・指導現場において、自身が戦術を科学的に理解・実践できる競技者になるため、また、戦術を科学的に観察・分析でき合理的に指導できる指導者になるための基礎知識を身につける。

【到達目標】

サッカーにおける様々な戦術を多角的に理解し、さらに競技者・指導者としてもいかに分析、指導方法も習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

サッカーに関する戦術を講義・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（授業の進め方など）	講義の進め方・聴講に際して留意すべき点・評価の方法を確認する
第2回	戦術とは何か	戦術の語源・サッカー戦術に関する用語等の理解
第3回	サッカーとは何か①	サッカーの歴史について学ぶ
第4回	サッカーとは何か②	サッカーの競技特性について学ぶ
第5回	サッカーにおける戦術とは何か①	サッカーにおける戦術の考えかたを理解する
第6回	サッカーにおける戦術とは何か②	サッカーにおける戦術の考えかたについて、辞令を用い、より理解を深める
第7回	サッカーにおける個人・グループ戦術（攻撃）	サッカーにおける個人グループ戦術のうち攻撃について理解する
第8回	サッカーにおける個人・グループ戦術（守備）	サッカーにおける個人グループ戦術のうち守備について理解する
第9回	サッカーにおけるチーム戦術①	サッカーにおけるチーム戦術について理解する
第10回	サッカーにおけるチーム戦術②	サッカーにおけるチーム戦術について、事例を用いより理解を深める
第11回	サッカー戦術の実践現場・指導現場での活用方法①	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（チームづくり）を学ぶ
第12回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法②	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（トレーニング）を学ぶ
第13回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法③	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（映像編集、ミーティング）を学ぶ
第14回	まとめ	本講義に関する総括・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サッカー戦術に関し、異なるレベルや年齢や性別、国内外のサッカー事情を含め情報を収集しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない、必要であればその際に資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない、必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容に関するリアクションペーパー 80%、学期末レポートまたは課題 20%で評価する
全講義における出席（リアクションペーパーの提出）が 70%以上の者を成績評価対象者とする

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline

This course aims to provide students with a comprehensive understanding of both the theoretical foundations and practical applications of football. Through systematic study, students will develop the knowledge and skills necessary to enhance individual and team performance.

Learning Objectives

Upon completion of the course, students will be able to:

Explain and evaluate a range of soccer tactics from multiple perspectives.

Apply basic methods of tactical analysis.

Demonstrate an understanding of instructional approaches applicable to both players and coaches.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to engage in preparatory study and review by collecting and analyzing information on soccer tactics across different competitive levels, age groups, genders, and both domestic and international contexts.

The standard amount of time required for preparation and review for this course is approximately four hours per class session.

Grading Criteria / Policy

Student performance will be assessed based on the following criteria:

Class reports and assignments related to each lesson: 80%

Final report or final examination: 20%

Only students who attend at least 70% of the classes and submit the required reports will be eligible for final evaluation.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

青少年指導実習（サッカー）

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4年次／1単
位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本サッカー協会（JFA）公認C級コーチライセンス講習会のカリキュラムに準拠し、青少年期のサッカー指導に必要な基礎的知識および実践的指導力を身につけることを目的とする。具体的には、サッカーの技術・戦術に関する基本的理解に加え、発育発達段階に応じた指導方法、安全管理、指導者としての倫理観やコミュニケーション能力について学ぶ。さらに、実技演習や指導実践を通して、指導計画の立案、トレーニングの構成、指導の振り返りができる指導者としての基礎的能力の習得を目指す。

【到達目標】

サッカー指導者としての初歩として、指導に必要な基本的な知識、スキルを身につけ、育成年代の選手に対する指導が適切に行えるようにする。
日本サッカー協会公認C級コーチライセンスを取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment
【授業の進め方と方法】
サッカーの指導に関し、講義・ディスカッション・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第2回	発育発達と一貫指導 サッカーの競技精神	発育による心と身体の変化を知る。 プレーする心がまえについて理解を深める。
第3回	チームマネジメント	チーム運営の方法を学ぶ。
第4回	メディカル ゲーム	医学的な理解を深める。 ゲームから課題を見つける。受講生同士でディスカッションを行い、観る眼を養う。
第5回	テクニク	サッカーにおけるテクニクについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第6回	戦術	サッカーにおける戦術についての講義から実際に指導実践に取り組む。
第7回	ゴールキーパー	サッカーにおけるゴールキーパーについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第8回	プランニング	トレーニングのプランニングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第9回	コーチング	コーチングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第10回	指導実践①	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第1グループ1回目。
第11回	指導実践②	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第2グループ1回目。
第12回	指導実践③	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第1グループ2回目。
第13回	指導実践④	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第2グループ2回目。
第14回	筆記試験	本講義全体を通した内容についての試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておく。1回につき4時間以上が望ましい。

【テキスト（教科書）】

JFA サッカー指導教本
公益財団法人日本サッカー協会

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

日本サッカー協会公認C級コーチライセンス講習会の基準に基づき採点をする
指導実践評価（90％）
筆記テスト（本授業に関する内容に関する小テストを行う）（10％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本授業は集中形式で行う。受講人数を制限して行うため、受講者選抜を後期開始時に行う

必要に応じてオンラインによる講義を実施する可能性がある
指導実践ならびに実技実践を伴うため、そうした活動ができる学生に限る
This class is basically conducted in an intensive format.

Guidance and online lectures (during the second semester) will be given in advance for the 2nd and 3rd lectures.

Since the number of participants is limited, student selection will be conducted at the beginning of the second semester.

Limited to students who can perform such activities because it involves teaching practice and practical skill practice.

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to develop students' understanding of both the theory and practice of football coaching.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to understand and conduct basic football coaching.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to complete required assignments after each class meeting, and the expected study time is more than four hours per week.

【Grading Criteria / Policy】

The overall grade will be determined based on practical coaching assessment (90%) and a written quiz related to the course content (10%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

青少年指導演習（サッカー）

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4年次／2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本サッカー協会（JFA）公認C級コーチライセンス講習会のカリキュラムに準拠し、青少年期のサッカー指導に必要な基礎的知識および実践的指導力を身につけることを目的とする。具体的には、サッカーの技術・戦術に関する基本的理解に加え、発育発達段階に応じた指導方法、安全管理、指導者としての倫理観やコミュニケーション能力について学ぶ。さらに、実技演習や指導実践を通して、指導計画の立案、トレーニングの構成、指導の振り返りができる指導者としての基礎的能力の習得を目指す。

【到達目標】

サッカー指導者としての初歩として、指導に必要な基本的な知識、スキルを身につけ、育成年代の選手に対する指導が適切に行えるようにする。
日本サッカー協会公認C級コーチライセンスを取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サッカーの指導に関し、講義・ディスカッション・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第2回	発育発達と一貫指導 サッカーの競技精神	発育による心と身体の変化を知る。 プレーする心がまえについて理解を深める。
第3回	チームマネジメント	チーム運営の方法を学ぶ。
第4回	メディカル ゲーム	医学的な理解を深める。 ゲームから課題を見つける。受講生同士でディスカッションを行い、観る眼を養う。
第5回	テクニク	サッカーにおけるテクニクについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第6回	戦術	サッカーにおける戦術についての講義から実際に指導実践に取り組む。
第7回	ゴールキーパー	サッカーにおけるゴールキーパーについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第8回	プランニング	トレーニングのプランニングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第9回	コーチング	コーチングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第10回	指導実践①	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第1グループ1回目。
第11回	指導実践②	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第2グループ1回目。
第12回	指導実践③	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第1グループ2回目。
第13回	指導実践④	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第2グループ2回目。
第14回	筆記試験	本講義全体を通した内容についての試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておく。1回につき4時間以上が望ましい。

【テキスト（教科書）】

JFA サッカー指導教本
公益財団法人日本サッカー協会

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

日本サッカー協会公認C級コーチライセンス講習会の基準に基づき採点をする
指導実践評価（90％）
筆記テスト（本授業に関する内容に関する小テストを行う）（10％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本授業は集中形式で行う。受講人数を制限して行うため、受講者選抜を後期開始時に行う

必要に応じてオンラインによる講義を実施する可能性がある
指導実践ならびにに実技実践を伴うため、そうした活動ができる学生に限る
This class is basically conducted in an intensive format.

Guidance and online lectures (during the second semester) will be given in advance for the 2nd and 3rd lectures.

Since the number of participants is limited, student selection will be conducted at the beginning of the second semester.

Limited to students who can perform such activities because it involves teaching practice and practical skill practice.

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to develop students' understanding of both the theory and practice of football coaching.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to understand and conduct basic football coaching.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to complete required assignments after each class meeting, and the expected study time is more than four hours per week.

【Grading Criteria / Policy】

The overall grade will be determined based on practical coaching assessment (90%) and a written quiz related to the course content (10%).

TRS100JA（観光学 / Tourism Studies 100）

ホスピタリティ論

山田 祐子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、講師のホテル業やサービスに関するリサーチやコンサルティング経験をもとに、ホスピタリティの基本概念を学んだ後、いくつかのケース・スタディを通じて課題や現状を学ぶ。本講座の目的は、受講生が、表象的なホスピタリティだけではなく、サービス産業の経営戦略にホスピタリティの概念が用いられている重要性を理解できるようになることである。

【到達目標】

1. ホスピタリティの基本的な概念や本質を理解できるようになる。
2. サービス産業の構造を理解し、ホスピタリティの位置づけを説明することができる。
3. 授業の一環で行う小テストやケース・スタディの学修によって情報収集力や課題発見力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進められる。受講生は、講義期間中の小テストを受け、ケース・スタディへのリアクションを提出することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ホスピタリティの概念	授業の進め方や注意点を説明。ホスピタリティの概念を解説する。
第2回	ホスピタリティと産業	ホスピタリティと産業界の関係を解説する。
第3回	ホスピタリティと顧客満足	ホスピタリティと顧客満足度の関係を解説する。
第4回	ホスピタリティと従業員満足	ホスピタリティと従業員満足度の関係を解説する。
第5回	ホスピタリティと感情労働	感情労働やクレーム対応を解説する。
第6回	ホスピタリティの実践	ホスピタリティの実践に有効な思考法を解説する。
第7回	クレームやカスタマーハラスメント対応	クレームやカスタマーハラスメント対応方法を解説する。
第8回	ケース・スタディ① 宿泊業(1)	ホテル旅館業がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第9回	ケース・スタディ② 宿泊業(2)	ホテルコンシェルジュがホスピタリティを実践する事例を紹介する。
第10回	ケース・スタディ③ 鉄道業、清掃業	観光列車や鉄道の清掃会社がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第11回	ケース・スタディ④ テーマパーク業	テーマパーク業がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第12回	ケース・スタディ⑤ 医療機関	医療機関がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第13回	ケース・スタディ⑥ 販売業	販売業がホスピタリティを活用する事例を紹介する。

第14回 ホスピタリティの展 全授業内容の総括。
望、講座の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前週に翌週の受講に必要な情報収集や小テストの範囲を連絡するので予習（2時間）をして授業に臨む。また、小テストの結果とリアクションの内容を講師の解説をもとに復習（2時間）しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。講義資料は映写し、授業後、学習支援システム上に格納する。

【参考書】

1. 日本サービス大賞 サービス産業生産性協議会
<https://service-award.jp/>
2. 日本の優れたサービス—選ばれ続ける6つのポイント・松井 拓己 /樋口 陽平・生産性出版・2017年・1980円
3. 日本の優れたサービス〈2〉6つの壁を乗り越える変革力・松井 拓己・生産性出版・2019年・1980円

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30%（授業参加度）
2. 小テスト 40%（10点×4回）
3. リアクション 30%（10点×3回）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学生は、講義中に資料閲覧や小テスト受験のために学習支援システムを使用する。システムが利用できる電子機器類の持参が求められる。

【その他の重要事項】

1. 出欠席や遅刻の扱い
第1回目の授業で説明する。
2. 授業進行や評価方法の変更
極端に履修者数が多い場合や少ない場合には、授業の進行方法や評価方法を変更する場合がある。その際には、授業中の告知と学習支援システムにより周知する。
3. 実務経験の有無
宿泊業（ホテル）の業務経験、宿泊業や地域活性化のコンサルティング業務経験

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the concept of hospitality, its necessity and characteristics in today's society to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to explain basic concepts of hospitality, explain the position of hospitality in the Service industry. At the end of the course, students are expected to consider the challenges of hospitality in the Service industry.

【Learning activities outside of classroom】

The instructor will provide information needed for the following week's class and the scope of the examination the previous week, so students are expected to prepare (2 hours) for the class. Additionally, students should review (2 hours) the examination results and the content of their reflection writing based on the instructor's explanation.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on in-class contribution(30%), multiple midterm examination(40%), reflection writing on the case study (30%),

EDU100JA（教育学 / Education 100）

教育学

藤本 典裕

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5058」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（授業の概要）本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

（授業の目的）1. 日常的な経験を通じて教育に関する基礎概念を検討する。人類はなぜ、どのように教育を基礎的な社会機能として維持してきたのかを学ぶ。

2. 教育に関する思想の概要を学ぶ。3. 学校制度の機能を学ぶ。4. 教育に関する権利と義務、誰が権利主体なのか、なぜそうなのか、教育を保障するのは誰かを学ぶ。

（授業時間外の学習）提示する資料を読み、次回授業までに課題に定めること。授業後、その内容についてミニ・レポートを作成すること（詳細は授業時に指示する）。

（成績評価の基準）学期末レポート（60％）及びミニ・レポート（40％）を総合的に評価する。

【到達目標】

下記の諸点を本講の到達目標に設定する。

1. 教育に関する諸概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2. 近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
3. 学校制度の役割、問題点について自分の考えを整理して述べることができる。
4. 教育を受ける権利とその保障について理解し、その問題点を指摘し、それについての見解を整理して述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。

学期末にレポートの提出を求めるが、学期中に小レポートの提出も求める。

下記に授業計画を示しているが、授業の進行状況に応じて変更を行うこともありえる。変更の場合はその都度連絡する。学習支援システムに講義資料などを提示するので確認して受講すること。その他、必要な連絡も基本的には学習支援システムを通じて行うので注意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか（講義概要の説明など）
第2回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第3回	子育て・教育の自立化	子育て・教育が他の活動と区別される特性を検討する。

第4回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第5回	教育可能性	人間という生物の特性を教育可能性という視点から検討する。
第6回	ルソーに学ぶ	ルソーの子ども観・教育観から近代教育思想について考える。
第7回	発達の段階	ピアジェの研究成果などから人間の発達段階について整理し検討する。
第8回	能力モデルと教育の規定	人間の能力のとらえ方を整理し、それを育成する教育のあり方について検討する。
第9回	学校の誕生と発展	学校という社会制度が誕生する経緯とその発展の過程を整理する。
第10回	日本の学校	日本の学校制度の誕生と発展の経緯を整理し、学校制度が歴史的に担ってきた役割を検討する。
第11回	教育を受ける権利と義務	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第12回	教育を受ける権利と教育費	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響について検討する。
第13回	子どもの貧困をめぐって	子どもの貧困が子どもたちから奪っているものについて考える。
第14回	さまざまな問い	第13回目でに取り上げられなかった諸課題について検討するヒントを提示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】

堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994年
橋本俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験またはレポート（60％）、小レポート（40％）を総合的に評価する（配点は目安）。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、教育に関する多くの事象を取り上げることが主目的としている。このため、さまざまな事項について深く検討することは困難であるが、参考文献の紹介などで補足したい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will learn about "education" as a necessary social function for human-being, the meaning of education for human-being, the basic thoughts of contemporary education and educational system and the problems concerning contemporary education.

【Learning Objectives】

At first, basic educational concepts will be discussed through daily-life experiences. We will learn how and why we human-being have kept "education" as a basic social function.

Second, we will learn about the thoughts on education.

Third, we will learn about the functions of schooling system.

Fourth, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education, why so, and who guarantee the rights.

【Learning activities outside of classroom】

I will show you about the contents of next lesson and the activities you must do. So after each lesson, by reading the materials (I present on web-site) , review the contents of the lesson and make a short report (I will show you the detail at each lesson) by the next lesson.

【Grading Criteria】

Grading will be decided by term-ending report and short reports held in lessons. (Term-ending report:60%、Short reports:40%)

MAN100JA (経営学 / Management 100)

経営学

首藤 聡一郎

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2026年度の授業実施日は、9月14日・15日・16日。現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5107」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は狭義の企業経営だけでなく、非営利組織や公的機関など幅広い分野に応用されるようになっている。そのため、受講生が将来的にどのような進路を選択するとしても、経営学の基本的な考え方を理解できるような授業を目的とする。

【到達目標】

1. 受講生が経営学の基本的な枠組みを理解できるようになる。
2. 受講生がマネジメントについて考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式である。

講義前に教科書を読み、経営学の全体像について把握したうえで授業に参加してもらう必要がある。

授業中は、それぞれの回の内容について講師から解説した後、小グループに分かれて課題に取り組んでもらい、プレゼンテーションしてもらう。質疑応答の後、講師からフィードバックを行い、その回の内容について補足説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、テキスト、成績評価方法について理解する。 また、マネジメントについての概要を理解する。
第2回	イノベーション	イノベーションについて理解する。
第3回	ビジネスモデル	ビジネスモデルについて理解する。
第4回	セグメンテーションとターゲティング	セグメンテーションとターゲティングについて理解する。
第5回	マーケティングの4Pと収益モデル	マーケティングの4Pと収益モデルについて理解する。
第6回	サプライチェーンと補完財	サプライチェーンと補完財について理解する。
第7回	経営資源	経営資源について理解する。
第8回	外部の脅威と機会	外部の脅威と機会について理解する。
第9回	財務・会計	事業をめぐるお金の流れとそのルールについて理解する。
第10回	モチベーションのマネジメント	モチベーションとそのマネジメントについて理解する。
第11回	リーダーシップ	リーダーシップについて理解する。
第12回	階層組織とマネジメントコントロール	階層組織とマネジメントコントロールについて理解する。
第13回	組織デザイン	組織デザインについて理解する。

第14回 フラットな組織と組織学習 フラットな組織と組織学習について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に企業活動に関するニュースに積極的に触れることが必要である。

この授業の準備学習・復習時間は各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中川功一・佐々木将人・服部康宏（2021）『考える経営学』有斐閣、2,000円＋消費税。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 40%

期末レポート 60%

具体的な講義方法と基準等は、ガイダンスで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例で考えてもらおうと理解とモチベーションの両面で有用であることに改めて気付かされた。できるだけ身近な例を盛り込んでいくつもりではあるが、さらにその方向性で工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では教室で行われる授業の中でグループワークや課題に取り組んでもらう時間をとる。それらの活動のアウトプットを作成して学習支援システム経由で提出するため、パソコンやスマートフォン等の情報機器と hosei-wifi 等のインターネットへの接続環境が必要である。なお、パワーポイントファイルでの提出を求める場合もあり、それらの課題のアウトプットの作成を考えると、スマートフォンではなく、パソコンが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Business administration has come to be applied not only to corporate management, but also to a wide range of fields such as non-profit organizations and public institutions.

Therefore, the purpose of this course is to enable students to understand the basic concepts of business administration, no matter what career path they choose in the future.

【Learning Objectives】

1. Students will be able to understand the news about business management.
2. Students will be able to think about the management.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to be actively exposed to news about business and management.

The standard preparation and review time for this class is two hours each, for a total of four hours.

【Grading Criteria /Policy】

Presentation 40%

Final Report 60%

SOC100JA（社会学 / Sociology 100）

社会学特講

左古 輝人

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の構造、その過去、現在、未来。

【到達目標】

社会学の基本的なキーワードを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式。学習支援システムを用いた質問・感想を歓迎する。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。

授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。

不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要がある場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
第2回	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
第3回	産業社会の形成	18・19世紀における産業社会の歴史的形成を概観する
第4回	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
第5回	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
第6回	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第7回	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった20世紀初頭を概観する
第8回	消費化社会の構造	20世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
第9回	消費化社会の展開	消費化社会の歴史的形成を概観する
第10回	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第11回	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
第12回	脱工業化の進行	1970年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
第13回	新中間層の解体	脱工業化とともに進行した新中間層の解体を概観する
第14回	今後について	今後の産業社会の行方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前にテキストの該当箇所を読了しておくことが、講義への理解を容易にする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

左古輝人『畏怖する近代』法大出版2006年。
佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書1992年。
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書1998年。
早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房2011年。

【参考書】

適宜紹介する。ウェブリソースとしては「現代ビジネス」「東洋経済オンライン」「荒木優太(youtube)」「信州読書会(youtube)を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%。

【学生の意見等からの気づき】

授業運営の適切さを改めて確認できた。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定していない。必要があれば電子メールで問い合わせる。

【Outline (in English)】

The course overviews the history and the structure of modern society as a whole. 【Learning Objectives】 The students learn the powerful theoretical tools to understand and describe the characteristics of modern society including contemporary Japan. 【Learning activities outside of classroom】 1) The students need to read a small piece of text before each lecture (about 120 minutes). 2) The students need to write a small report after each lecture (about 200 words). 【Grading Criteria /Policy】 Term-end exam (70%), Class participation (30%).

SOC100JA (社会学 / Sociology 100)

老年学

新名 正弥

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考(履修条件等)：現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5117」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】

老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックはLMS等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係

第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第14回	高齢社会の構造（グロバリゼーション、老いを取り巻く社会構造の変化）	少子高齢社会の展開と政策課題について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業前に資料を配付する。

【参考書】

国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

高齢社会白書（厚生労働省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる各回の振り返り、クイズ、レスポンスペーパー（40%）、期末レポート（60%）によって総合的に判定する。

【学生の意見等からの気づき】

領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】

老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度を理解するための基盤となる科目なので、高齢者や高齢社会に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline (in English)】

Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the aging of humans and society surrounding the elderly. The lecture aims to comprehensively describe the biological, psychological, social-psychological, and sociological perspectives of gerontology and explain the themes, especially in social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding aging and its policy response.

By the end of the course, students are expected to understand the basic terms and theories concerning aging.

Before the lecture, students must tackle assignments (about 2 hours). After the class, students are asked to answer quizzes (about 2 hours).

The course's grading will be based on quizzes/assignments (40%) and term-reports (60%).

SOW200JB (社会福祉学 / Social Welfare 200)

福祉国家論

渡辺 寛人

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、資本主義システムのなかで福祉国家が成立していく歴史のプロセスに焦点を当て、近代家族と福祉の諸制度、慈善組織協会（COS）やセツルメント運動など初期の社会福祉の実践、それらと優生学介入との関係を考察する。また、こうした歴史的な論点が現代においてどのような意味をもつのか、身近な社会問題と接続させて考える。

【到達目標】

- 1) 福祉国家が成立した歴史的背景を理解する
- 2) 福祉国家をめぐる基礎的な理論を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行なう。講義ごとにリアクションペーパーの提出を求め、毎回の講義のはじめにフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と、福祉国家についての概説
第2回	福祉国家の前身①救貧法体制	貧困問題の発生と救貧法の成立過程を学ぶ。
第3回	福祉国家の前身②魔女狩り	「魔女狩り」を通じて労働力の再生産領域がどのように変容したかを学ぶ。
第4回	福祉国家の前身③近代家族の形成	近代家族の形成プロセスについて学ぶ。
第5回	慈善組織協会とケースワークの誕生	慈善組織協会とケースワークの誕生について学ぶ。
第6回	ケースワークと優生学	ケースワークと優生学との関係について学ぶ。
第7回	セツルメント運動の展開と優生学	セツルメント運動の展開と優生学との関連について学ぶ。
第8回	福祉国家の形成とソーシャルワーカー	アメリカを中心に、福祉国家におけるソーシャルワーカーの役割を学ぶ。
第9回	福祉権運動	福祉権運動の展開と背景について学ぶ。
第10回	福祉国家と新自由主義	福祉国家に対する批判とバックラッシュについて学ぶ。
第11回	福祉国家スウェーデンと優生学	福祉の優等生と呼ばれたスウェーデンで進められていた優生学的介入について学ぶ。
第12回	現代の家族廃止論、共同ケア	欧米における家族廃止論や共同ケアに関する議論について検討する。
第13回	世界の福祉国家	世界の福祉国家を概観する
第14回	講義まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎講義のリアクションペーパーの提出（30%）と期末テスト（70%）によって評価します。期末テストの内容については授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布およびリアクションペーパー、レポートの提出については学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on the historical process of the welfare state's formation within the capitalist system. It examines the relationships between the modern family, welfare institutions, and early social work practices (such as the Charity Organization Societies [COS] and the Settlement House Movement) and eugenic interventions. Furthermore, we will consider the contemporary significance of these historical issues by connecting them to familiar social problems.

【Learning Objectives】

- 1) Understand the historical background to the establishment of the welfare state
- 2) Understand the basic theories surrounding the welfare state.

【Learning activities outside of classroom】

A total of four hours of preparatory study and review time for this class is standard.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on the submission of reaction papers for each class (30%) and a final examination (70%). Details regarding the content of the final exam will be announced in class.

ENG200JB (その他の工学 / Engineering 200)

社会的包摂論

水野 雅男

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】

バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第2回	バリアフリー政策①	バリアフリー、国内の政策の変遷
第3回	国内バリアフリー政策②	日米のバリアフリー政策の相違
第4回	移動とUD①	国内の交通施設や公共交通機関
第5回	移動とUD②	欧州の交通政策とトラム
第6回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第7回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第8回	障害者の能力①	エイブルアート
第9回	障害者の能力②	めだかの育成プログラムによる障害者の就労支援事業
第10回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第11回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策とNPO活動
第12回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第13回	ホームレス支援②	NPOによるホームレス支援アプローチ
第14回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに当日の教材を掲載するので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007年
「インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004年
「ストラスプールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire understanding of the community in which all people live a healthy and cultural life.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the social background of barrier-free, universal design, and the emergence of social inclusion, as well as the differences in their concepts.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

① Normal score 70% ② Report 30% Comprehensive evaluation of ① and ②.

MAN200JB（経営学 / Management 200）

コミュニティビジネス論

土肥 将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における経済的・社会的問題の解決を求めて、革新的なアイデアを持つ社会的企業者が地域の資源を生かして活動する事業体＝コミュニティ・ビジネスが求められている。政府・行政の活動、大企業の活動からは漏れ落ちるような地域の多様で個別的なニーズや価値に柔軟に応えようとするコミュニティ・ビジネスは、コミュニティの再生という目的と事業活動をつなげていく社会的企業者たちによって担われるものであり、ソーシャル・ビジネスの一部分とみなすことができる。本講義では、こうしたコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義や経営課題を、国内外の事例やゲストスピーカーとの対話を通して明らかにする。

【到達目標】

- ①コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの定義や要件を理解する。
- ②コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの意義や経営課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業による講義形式である。毎回講義内でのディスカッションやミニレポートの提出を求める。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、テキストの紹介、成績評価方法について。
第2回	コミュニティ・ビジネス / ソーシャル・ビジネス とは何か①	「コミュニティ・ビジネス」とは何かを理解する。
第3回	コミュニティ・ビジネス / ソーシャル・ビジネス とは何か②	「ソーシャル・ビジネス」とは何かを理解する。
第4回	事業型NPOによる取り組み①	NPOの3つのパターン（事前型・監視批判型・事業型）について理解する。
第5回	事業型NPOによる取り組み②	国内外の事業型NPOの広がりについて理解する。
第6回	事業型NPOによる取り組み③	病児保育事業の事例を通して理解する。
第7回	事業型NPOによる取り組み④	貧困問題と健康問題を解決する事業活動事例を通して理解する。
第8回	事業型NPOによる取り組み⑤	海外の事業型NPOの事例を通じて理解する。
第9回	株式会社による取り組み①	社会志向型企業の意義や特徴について理解する。
第10回	株式会社による取り組み②	社会志向型企業の具体的な事例を通して理解する。
第11回	株式会社による取り組み③	大企業とコミュニティの関係を理解する。
第12回	株式会社による取り組み④	大企業の社会貢献活動やソーシャル・ビジネスの理論を理解する。
第13回	株式会社による取り組み⑤	大企業の具体的な社会貢献活動やソーシャル・ビジネスを通して理解する。
第14回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌・書籍などを通じて、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

土肥将敦（2022）『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房
谷本寛治編（2015）『ソーシャル・ビジネス・ケース：少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』中央経済社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義内でのミニレポートとプレゼンテーション 70%、期末レポート 30%。具体的な講義方法と基準等は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くのゲストスピーカーをお招きし、彼らとの対話を通してダイナミックな講義を目指す。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(70%), term-end report(30%).

ARSx200JB（地域研究（その他） / Area studies(Others) 200)

ローカルイノベーション論

野田 岳仁、水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】

ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員4名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。1地域を2回の講義で構成し、1回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。2回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第2回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第5回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①（水野）	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー

第9回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括（水野・図司・土肥・野田）	6事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

講義を担当する4名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies.

【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

雇用政策論

渡辺 寛人

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本型雇用の成り立ちおよび諸特徴を踏まえ、外国人や高齢者、障害者、LGBTなど近年の多様化の流れと雇用政策について検討していく。雇用政策を理解することで、私たちの社会がどのように成り立っているのかを理解することを目的とする。

【到達目標】

- (1) 雇用について基本的な内容を理解する。
- (2) 日本型雇用の成り立ちと特徴を理解する。
- (3) 近年の多様化の流れと雇用政策との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行なう。講義ごとにリアクションペーパーの提出を求め、毎回の講義の始めにフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学生にとって身近な「アルバイト」を取り上げ、「雇用」について考える
2	現代の労働問題	「ブラック企業」問題をはじめ、現代の労働問題を学ぶ
3	日本型雇用①採用と職業紹介制度	採用と職業紹介制度について理解する
4	日本型雇用②配置・技能形成	配置・技能形成のしくみについて理解する
5	日本型雇用③人事評価制度	人事評価制度のしくみと潜在的な能力主義について理解する
6	日本型雇用④退職・解雇	退職・解雇について理解する
7	正社員雇用制度改革	成果主義人事やジョブ型雇用について理解する
8	非正規雇用①パート・有期雇用	パート・有期雇用について理解する
9	非正規雇用②労働者派遣制度	労働者派遣制度について理解する
10	ジェンダーと雇用政策	ジェンダーの観点から雇用政策について理解する
11	高齢者と雇用政策	高齢者の就労問題と雇用政策について理解する
12	障害者と雇用政策	障害者の雇用関係について理解する
13	プラットフォームワークと雇用政策	近年広がるプラットフォームワークと雇用政策について理解する
14	全体まとめ	全体の振り返りを行なう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎講義のリアクションペーパーの提出（30％）と期末試験（70％）によって評価を行なう。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布およびリアクションペーパーの提出については学習支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the origins and various characteristics of Japanese-style employment, this lecture will examine employment policies and the recent trend of diversification, including foreigners, the elderly, people with disabilities and LGBT. The aim is to understand how our society is structured by understanding employment policies.

【Learning Objectives】

- (1) Understand the basic content of employment.
- (2) Understand the origins and characteristics of Japanese-style employment.
- (3) Understand the relationship between recent diversification trends and employment policies.

【Learning activities outside of class】

A total of four hours of preparation and review time for this class is standard.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation is based on the submission of a reaction paper for each lecture (30%) and a final examination (70%).

ENG300JB（その他の工学 / Engineering 300）

都市住宅政策論

水野 雅男

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第13回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第14回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年

「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年

「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年

「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年

「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年

「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年

「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、NPO法人金澤町家研究会、NPO法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

① Normal score 70% ② Report 30% Evaluate ① and ② comprehensively.

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域文化政策論

杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化をつくり、支える制度と人とはどのようなものか。その歴史と現状について、日本を中心としたいくつかの地域に即して学んでいく。さらには地域の文化活動をどう支援するかについて、現代的課題と可能性についても考える。

【到達目標】

地域文化を支える教育・文化政策の歴史と現状についての基本的な理解を得る。また、地域文化の継承や創造に直接・間接的に関わるものの意味、具体的な職業などについても学ぶことで、日々の生活の中で文化を身近に感じ、自分自身もその作り手として意識し行動できるような関心を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式によるが、適宜ディスカッションを交えながら進める。可能であれば、ゲストスピーカーによる講義も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のガイダンス、私たちの身の回りにある文化に目を向ける
第2回	地域文化を支える政策(1)	学校教育
第3回	地域文化を支える政策(2)	社会教育・生涯学習
第4回	地域文化を支える政策(3)	文化行政(文化財保護を含む)
第5回	地域文化を支える施設(1)	学校
第6回	地域文化を支える施設(2)	公民館・図書館・博物館・公共ホール
第7回	地域文化を支える人	担い手を育む仕事
第8回	各地の地域文化実践(1)	地域文化はどのようにつくられるか
第9回	各地の地域文化実践(2)	地域文化の創造を支援する
第10回	各地の地域文化実践(3)	担い手としての成長
第11回	学ばれる地域文化(1)	文化伝承
第12回	学ばれる地域文化(2)	災害の記憶
第13回	地域文化の再創造	地域文化をめぐる課題と再創造への試み
第14回	まとめと期末試験	講義全体の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域文化に関連する報道や博物館展示等に関心を持ち、身近な事例や展示などに積極的に触れたり、足を運ぶことで授業の予習・復習に取り組んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

山崎功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子編『地域文化の再創造—暮らしのなかの表現空間』水曜社、2024
佐藤一子『地域文化が若者を育てる—民俗・芸能・食文化のまちづくり』農山漁村文化協会、2016
ほか適宜示す。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー、小レポートを含む平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】

上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course discusses the history and current state of Japan's policies related to regional culture. It also addresses contemporary challenges and prospects in supporting local cultural activities.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to gain a basic understanding of the history and current status of educational and cultural policies that support local culture.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to be interested in news reports and museum exhibitions related to local culture, and to actively visit there. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report (30%), term-end examination (70%)

ENV300JB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境政策論

藤澤 浩子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取り組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取り組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取り組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めたいこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境政策はPDCAサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 1	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク（FW）
第2回	オリエンテーション 2	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第3回	SDGsについて	SDGs関連情報（国際的取り組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第4回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取り組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第5回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第6回	環境問題を知る 1	温暖化、エネルギー問題
第7回	環境問題を知る 2	生物多様性、地球環境問題
第8回	環境問題を知る 3	循環型社会、地域環境問題
第9回	環境問題を知る 4	化学物質、震災関連の問題等

第10回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説
第11回	各主体の役割・活動 1	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取組み、企業の取組み
第12回	各主体の役割・活動 2	市民（個人、NPO等）の取組み、身近な環境に関する市民の取組み事例（DVD視聴等）
第13回	身近な環境保全の取組み実践体験 全体ワーク 1	かるた制作（読み札づくり）
第14回	身近な環境保全の取組み実践体験 全体ワーク 2	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。

関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

東京商工会議所（2025）『環境社会検定試験eco検定公式テキスト改訂10版』。

その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史(2014)『環境政策論（第3版）』信山社、竹本和彦編（2020）『環境政策論講義：SDGs達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編(2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3. 採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点70%、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

過去12年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループやクラス単位でのワークショップを行ってきました。全回オンライン形式となった2020年度以外、全体ワークで、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でのアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。質問等については、リアクションペーパーで受け付ける他、必要に応じ、授業終了後に教室で、または電子メールで受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces basic knowledge of the environment/environmental problem and policy to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the knowledge necessary for solving familiar environmental problems. Please refer to the schedule for detailed information. 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the importance of each citizen's efforts.
- understand the significance of actually touching and feeling the environment around us.

-get the right information, make wise decision, and tell others, listen and share with others.

-willing to do good activities for the familiar/global environment.

【Learning activities outside of classroom】

1.Find out about environmental issues of your interest.

2.Try participating in environmental activities, if possible.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

・ Normal point 70% : Preparations, reaction papers, approaches, contribution to group work

・ Report (Field-note, Mid-term, Final) 30%

POL300JB（政治学 / Politics 300）

政策評価論

倉根 明徳

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2026年度の授業実施日は、9月14日・15日・16日。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策評価の理論だけではなく、政策立案や評価プロセスの実例を学ぶことで、行政経営や政策の意義について理解することを目的とする。

【到達目標】

日本に政策評価が導入された背景や政策評価の理論と手法、政策立案のプロセスを把握した上で、政策評価が政策のマネジメントサイクルの中で果たす役割について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は3日間の集中講義となります。政策評価と政策立案の理論を学んだ上で、ワークシート等を使った演習を行いながら理解を深めます。最終日には各自またはグループで政策の立案と評価指標の設定をしていただき、発表とディスカッションを行います。

また、授業の初めに、前日の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

各回のテーマに応じて適宜資料を提供しながら講義を進めますが、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、短期間で理解できる内容にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体概要、講義の進め方について
2	政策評価の概要	政策評価導入の背景や評価の類型等について
3	政策評価の手法①	事業評価方式、実績評価方式、総合評価方式の概要と評価手順について
4	政策評価の手法②	実際に行われている政策評価について（ケーススタディ）
5	政策立案の手法①	目標設定から政策立案の流れについて
6	政策立案の手法②	2018年度以降、主流になりつつあるEBPM（エビデンスに基づく政策立案）について
7	政策立案の手法③	海外との比較について（NZの震災復興計画等を事例に）
8	政策立案と評価の実例①	政策・評価の実例紹介（健康福祉政策）
9	政策立案と評価の実例②	政策・評価の実例紹介（まちづくり政策）
10	政策立案と評価の実例③	政策・評価の実例紹介（官民連携政策）
11	政策立案と評価の実践①（演習）	各自（またはグループ）で政策の立案と評価指標設定を実施
12	政策立案と評価の実践②	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション

13	政策立案と評価の実践③	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション
14	講義のまとめ	全体の振り返りと修得内容の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。関心のあるテーマに関わる施策について国や地方自治体のHPなどを調べてみてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義の際に紹介します。

【参考書】

必要に応じて講義の際に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、演習及びディスカッション50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

例年「理論＋具体例＋ミニ演習で理解が深まった」「講師や学生同士でのディスカッションが良かった」と意見をいただいているため、令和8年度も引き続き同様のスタイルで講義を進めます。また、最終日の施策発表には若手市役所職員も参加し、一緒にディスカッションに加わってもら予定です。

【その他の重要事項】

約20年間、県や国で実務を経験し、令和7年に市役所に転職。主にまちづくり分野に関わる政策立案や評価を数多く担当してきました。学生が利用する公共施設（公園や図書館など）がどのような背景でつくられ、評価され、運営されているかなど、具体的な事例を参考にしながら、政策評価や政策のマネジメントを学びます。特に行政職員を目指している学生の受講を奨励します。

【Outline (in English)】

This course introduces students to policy evaluation, policy making, and public management. The objective of this course is the role of policy evaluation. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content.

Your overall grade in the course will be based on the following
Class participation: 50%, Exercises and Discussions: 50%

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

国際協力論

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせ実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGsと現代福祉①	SDGsと国際社会に関する学び①
第3回	SDGsと現代福祉②	SDGsと国際社会に関する学び②
第4回	SDGsと現代福祉③	SDGsと国際社会に関する学び③
第5回	国際機関と国際協力	国連による現代福祉に関する学び
第6回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第7回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第8回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第9回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第10回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第11回	NGO/民間企業と国際協力③	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践③
第12回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%

課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course introduces fundamental theories, best practices, and significant findings in international cooperation and development within the developing world, with a specific focus on inclusive development.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational understanding of international cooperation within the framework of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to dedicate two hours to preparatory study and two hours to review for each session (four hours total) to ensure a thorough understanding of the course material.

【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined based on the following:

Reaction papers: 50%

Reports and presentations: 50%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

地域経営論

遠藤 聖子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6151」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、人口減少に直面した我が国では、地域でその社会的課題に対し様々な手法で解決に取り組んでいます。本講義では、この取り組みを「地域経営＝地域のまちづくり」と捉え、誰が、何を、どのようにマネジメントして、持続可能な地域づくり・まちづくりを行っているか事例を中心に学びます。そして、地域で起きている課題を自分ごととして考え、地域のあり方、まちづくりにおける市民・行政・企業・大学などの役割と協働のあり方について考察します。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とします。

- ・地域経営に関する基本的な枠組み、法制度及び諸制度、考え方
- ・地域経営に関する国と地方の関係、地方分権と自治
- ・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域経営の手法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体、またはグループ討議等」により進めます。受講生が、地域経営、地域づくり、まちづくりについて具体的なイメージを持って思考できるよう事例紹介を中心に進めます。各回講義のに対するリアクションペーパーで示された問いやつぶやきを講義の中で紹介し、双方向のやりとりをしながら受講者全体の理解が深まるよう進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営とは	・講義ガイダンス ・「地域経営」の全体像とまちづくり ・視点の整理 ・各回講義の要点解説
第2回	地方分権と地方自治、その系譜	・講義ガイダンス（再） ・「地方分権」「地方自治」の系譜 ・今日的課題
第3回	地域経営における行政の役割とは	・行政が取り組む事例の紹介
第4回	住民参加とまちづくり①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の役割 ・まちづくり条例の系譜 ・まちづくりを担う組織
第5回	住民参加とまちづくり②	・まちづくりセンター ・まちづくりにおける紛争とその歴史 ・住民参加の意義 ・地域経営における合意形成の方法とあり方の考察

第6回	官民産学連携のまちづくり	各地の ・エリアマネジメント ・アーバンデザインセンター等、果たす役割と取り組み
第7回	地域のストックを活かすまちづくり①	・風景づくり ・歴史、文化を活かす ・リノベーション 等、まちづくりの取り組みと課題
第8回	地域のストックを活かすまちづくり②	・公共施設、公共空間の更新と魅力化 ・空き家、空き地の活用 等、各地の取り組みと課題
第9回	商業地・中心市街地のまちづくり①	・商業地、中心市街地の現状と課題 ・まちなか再生の動き 等、各地の取り組みと課題
第10回	商業地・中心市街地のまちづくり②	・まちづくり会社（TMO） ・まちなか観光（DMO）等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第11回	郊外住宅地のまちづくり	・戸建て住宅地の管理 ・ニュータウン、郊外住宅地の取り組み ・団地、マンション管理組合と自治会 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第12回	災害とまちづくり	・大規模災害、大規模震災にみる地域、まちづくりの課題と取り組みの系譜 ・これからの課題
第13回	福祉・スポーツとまちづくり	・各地で取られる福祉やスポーツをキーワードにしたまちづくりの現在 ・レポート課題の解説
第14回	講義の総括	・受講生の感想 ・講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・少子高齢化、人口減少社会における地域経営、地域づくり、まちづくりに関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦めます。本講義の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦めます。

- ・「平成都市計画史―転換期の30年間で残したもの・受け継ぐもの」 饗庭 伸 著（共栄書房/2021年）
- ・「アーバンデザイン講座」前田 英寿 等 著（彰国社/2018年）

【成績評価の方法と基準】

①講義または、その後の全体またはグループ討議等の内容を踏まえたリアクションペーパーの提出40％
②レポートの提出60％（レポート課題は6月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】

まちづくりの実務者がその経験を踏まえて、具体的な事例を授業で紹介している点が本講義の特徴です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Faced with a declining birthrate, an aging population, and a shrinking population, Japan's local communities are using a variety of methods to address social issues. In this lecture, this approach will be considered as "regional management = regional community development. You will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. The course will also consider local issues as if they were their own, and examine the roles of citizens, government, business, and universities in community development and how they should work together. In Japan, facing declining birthrates, an aging population, and a shrinking population, local communities are working to solve social issues using a variety of methods. In this lecture, we will consider these efforts as "regional management = regional community development. We will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. We will also consider issues that arise in the community as if they were our own, and discuss how the community should be, and the roles and collaboration of citizens, government, businesses, and universities in community development.

【Learning Objectives】

The objective of the course is to provide participants with a basic understanding of the following issues, and to raise their awareness of the issues and policies related to each theme.

- ・Basic framework, legal system, and various systems and ideas related to regional management
- ・Relationship between the national and local governments, decentralization, and self-governance related to regional management
- ・Collaboration, cooperation, and sharing of responsibilities among citizens (residents), businesses, and governments related to regional management
- ・Methods of regional management

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

- (1) Reaction paper based on the lecture and subsequent plenary discussions, mini-workshops, etc.: 50%
- (2) Report: 50% (report assignment will be presented in the first half of June)

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルイノベーション論

土肥 将敦

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが2000年代以降世界的に広まってきた。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれる。また近年では、従業員や地域社会、環境へ配慮した事業活動を行なっている企業に与えられる国際的なB Corp認証も増加してきている。本講義では、こうした事業やビジネスモデルがなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどこが革新的でどのようなインパクトをもたらされるのかについて、国内外の事例をもとに検討する（なお、過去数年は、数多くの社会的企業者やB Corp認証企業の実務家にゲスト講師としてお越しいただいている）。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSRの枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】

本講義では、以下の3点を履修者の到達目標とする。

①グローバル/ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業者によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③B Corpなど社会志向型企業の意義や経営課題を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業者にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。今年度はB Corp認証を取得している国内外のゲストスピーカーも招聘する予定である。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第2回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3つの要件、活動する事業領域を理解する。
第3回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第4回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第5回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタプライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第6回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第7回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第8回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第9回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第10回	大企業におけるCSR①	企業と社会の関係を理解する。
第11回	大企業におけるCSR②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第12回	B Corporationについて理解する①	各種事例を通してB Corpについて理解する（A事例）。
第13回	B Corporationについて理解する②	各種事例を通してB Corpについて理解する（B事例）。
第14回	B Corporationについて理解する③	各種事例を通してB Corpについて理解する（C事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトを目を通し、講義中のディスカッションや掲示板へのコメント記入に備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。特に、毎回の講義後に掲示板などへのコメントの書き込みが必須となり、これが成績評価の基準となる予定ですので注意してください。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示します。

【参考書】

土肥将敦（2022）『社会的企業者—CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房

Marquis, C（2020）Better Business, Yale University Press（土肥将敦監訳・保科京子訳（2022）『ビジネスの新形態 B Corp入門』ニュートンプレス）
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義へのコメント課題（60％）及び講義中におけるアプリケーションを活用したフィードバック（40％）を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義はオンラインで展開し、履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。市ヶ谷キャンパスや小金井キャンパスからの受講生は、キャンパスごとに時間割が異なっているため、各学部が定めるルールや時間割を必ず確認した上で履修するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business. The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(60%), in class contribution(40%).

MAN300JB (経営学 / Management 300)

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、前半は経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。後半はProject Based Learningを採用し、選定地域の産業振興や地域創生を議論を中心に、グループ単位でのプロジェクト型の演習を実施する。また、事前課題がある場合は、その取り組み内容に対する議論をグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。各回の講義資料や講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要を紹介
2	CSR経営におけるSDGsの主流化	企業CSR経営を起点としたソーシャルマネジメントとSDGsの位置づけについて議論
3	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術①	企業組織におけるコミュニケーションとその活性化について議論
4	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術②	企業組織において「相手」に届くコミュニケーションとプレゼンテーションを实践
5	企業におけるプロジェクト活動	プロジェクト型マネジメントを知る
6	行政とコミュニティ組織	行政組織の特色とコミュニティの役割を知る
7	今年度の地域活性化プロジェクト先の選定とグルーピング	学生に身近な地域の選定とプロジェクトの進め方に関する議論
8	事例研究①官民連携	特定地域の官民連携事例について議論

9	事例研究②企業組織の光と陰	企業の不正（不正開示不正会計）はなぜ起きてしまうのかについて議論
10	演習①	ローカルなフィールドでのプロジェクトの進め方を議論
11	演習②	同フィールドでのマネジメントを進める
12	演習③	特定地域での活性化企画の立案
13	演習④	特定地域での活性化計画の設計
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では、全5回の事前課題レポート（A4 1枚以内）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

樋口邦史編著「Z世代のキャリアデザイン」水曜社；まち創り叢書（2026年3月20日頃発刊）

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

課題レポート10点×5回、最終レポート50点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する（最高10点）

【学生の意見等からの気づき】

これまでの講義参加者からの要望に基づき、学生にとって身近な地域を選んだ演習を実施します。今年度も、2年生から4年生まで「学部横断型」の多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に「実践型」の講義を実施します。経済学部、社会学部からの参加者も期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identify social responsibility of the company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.

【Learning activities outside of classroom】 Before the every session, students will be expected to have read the relevant case study on web site or news paper. And some text will be introduced in the session for reference of group discussion.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leadership on work shop.

MAN300JB (経営学 / Management 300)

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

非営利団体の活動資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。スライドは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には毎授業提出してもらうリアクションペーパーを活用し、各授業の初めにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	本講の概要、目的
第2回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第3回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第4回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第5回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第6回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第7回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第8回	遺贈寄付	その定義と実態
第9回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第10回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第11回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第12回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第13回	事業収益	非営利団体らしい事業収益の上げ方
第14回	エピローグ	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「改訂新版 非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社

<https://www.amazon.co.jp/dp/4788718820/>

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、期末テスト（80％）※期末テストはマークシート形式。資料持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、すべての学部生が社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、本講座の共感を軸とした資金調達の学びを、一般企業に就職した際にも役立てられるようにします。

【Outline (in English)】

1) Course Outline

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds. In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

2) Learning Objectives

The goals of this course is to know how to fundraise.

3) Learning activities outside of class room

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.

4) Grading Criteria/Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80% In class contribution: 20%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論

渡真利 紘一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6155」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

- ・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる

- ・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ

NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。

各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション / NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係について把握する。

第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	協力関係をつくる理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題に向けた準備1	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第13回	期末課題に向けた準備2	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。

また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。

授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（１）平常点（出席・リアクション）50点、（２）中間課題（NPO活動計画書）10点、（３）期末課題（準備の過程、レポート）40点。平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。

なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。

- ・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
- ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
- ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか

（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。

（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
- ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

居住福祉論

大原 一興

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：隔週開講。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。
国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定2級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。

基本的に隔週でおこなう。第2回目以降から第4、5時限の2時限続きでおこない、初回と最終回は第4時限のみとする。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。

第1回：4月7日 4時限

第2・3回：4月21日 4・5時限

第4・5回：5月12日 4・5時限

第6・7回：5月26日 4・5時限

第8・9回：6月9日 4・5時限

第10・11回：6月23日 4・5時限

第12・13回：7月7日 4・5時限

第14回：7月21日 4時限 基本的に対面授業での開講となる。それにとまう各回の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。

課題に対するフィードバックとしては、授業中に発表をした学生に対しては講評し、他の学生に対しては提出物について適宜コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第2回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第3回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第4回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第5回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみたICFの考え方
第6回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境

第7回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第8回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第9回	ハウスマダプターション・住宅改造福祉機器の活用	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第10回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第11回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第12回	コハウジング 共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第13回	コハウジング 共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第14回	くらしの先進国に学ぶレポート提出・発表	北欧社会における福祉居住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料や参考資料の予習

平日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に授業の際に学習支援システムにて資料を配付するので、必要に応じて各自ダウンロードしてほしい。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣

東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定1、2、3級公式テキスト』東京商工会議所

住総研高齢期居住委員会 編『住みつなぎのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と毎回の小レポート（リフレクションシート）（70%）、レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行くと疲れてしまうので、適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。毎回の資料は学習支援システムから各自ダウンロードしてほしい。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students learn the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

Learning Objectives

The aim of this course is to help students acquire the theory and the practice for living environment and well-being.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 30%, in class contribution and short report at each class: 70%

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

災害支援論

青木 信夫、正谷 絵美

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探究していく。

【到達目標】

被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。
 ・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。
 ・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に3次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充填させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	防災講話 ・地域防災（自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び発災時の行動について考える。
4	ロープワーク ・結びの基本 ・水難救助と引上げ救助	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。

5	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。
6	図上演習DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／AED操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫とAED操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
9	避難計画、避難行動	・避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
10	避難所HUG	・避難所の開設、運営を模範的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	国の支援対策	・災害が発生した時に自衛隊、海上保安庁がどのように行動するのか、その仕組みと実体験について学ぶ。
12	国の支援構造	・災害時、有事の際、国がどのように行動し、どのように支援するかその構造を学ぶ。
13	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問にYESまたはNOで答え、自分ならどのように対応するかを考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
 授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期定期試験50%、平常点40%、レポート10%
 演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.

—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.

—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.

[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 40%, report 10%

Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

CMF300JB (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300)

コミュニティアート

吉野 裕之

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6162」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業というアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	NPO・市民主体のまちづくりの意義	NPO・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	NPO・市民主体のまちづくりの事例（1）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域のまちづくりの歴史）の紹介と解説。
第4回	NPO・市民主体のまちづくりの事例（2）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第5回	NPO・市民主体のまちづくりの事例（3）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第6回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とNPO・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第7回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史の変遷や芸術家のことばなど）の説明。

第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷、コミュニティアートの要件と機能	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明、コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（基本的な考え方を理解するための事例）の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（5）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーなど）：30点 期末レポート：70点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度について確認する。
期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to do the followings:

- Analysis and evaluation of cases about community art
- Planning of community art

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Reviewing the class meeting
- Reading literature related to the class meeting
- Participating in events related to community design and art

(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process.

Short reports : 30%、Term-end report : 70%

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域遺産マネジメント論

須田 英一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめNPOなどが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。近年の文化政策の展開も視野に入れながら、文化財の保存と活用についての知識と、実務に展開可能な適応力を身に着ける講義を展開します。

【到達目標】

さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第2回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第3回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第4回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第5回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第6回	地域遺産保護と専門家(1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第7回	地域遺産保護と専門家(2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割、さまざまな地域遺産
第8回	世界遺産条約	世界遺産の成り立ちとしくみ
第9回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第10回	地域遺産の再生と活用(1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第11回	地域遺産の再生と活用(2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第12回	地域遺産の再生と活用(3)	地域遺産としての名勝・天然記念物・食文化

第13回	地域遺産の再生と活用(4)	地域遺産としての伝統的建造物群
第14回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私たちの生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きつとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に選定しません。資料を毎授業時に配布します。

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

・試験方法：期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点（リアクションペーパー）40%、課題レポート60%により総合的に評価します。課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。地方自治体勤務を希望している学生においては、自治体の仕事の進め方などを理解するうえで、参考になると考えます。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area. The goals of this course are to acquire the ability to utilize regional heritage and build regional networks. Students will try to find a community heritage that is related to our lives in their area. Students should also visit museums and museum exhibitions. Your study time will be more than four hours for class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, term-end report (70%) ,and in-class contribution (30%) .

TRS300JB（観光学 / Tourism Studies 300）

地域ツーリズム

野田 岳仁

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6165」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー（10%）、期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

PSY300JB, PSY300JC (心理学 / Psychology 300, 心理学 / Psychology 300)

異文化心理学

奥山 今日子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するように、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々とものごとを経験していますが、そのような経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。

私たちが持って生まれた資質と私たちのこれまでの諸経験の相互作用の結果が、いまの私たちの感じ方、知り方、解釈の仕方を規定しているとも言えるでしょう。

私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものの異文化/他者が私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知る機会になればと考えています。

授業内で映画を視聴し、私が提示するテーマについて、グループディスカッションを行うことを通じて、異質なものの異文化/他者に触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生のみなさんに目指していただきたいのは、①自分自身の経験に気づき、②それを他者に伝えることができるようになり、③自分の経験について自分自身がより考えられるようになり、④他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で行います。講義では刺激素材として主に映画を上映します。その際、みなさんはそれらの映画をどのように経験しているかに注意を払いながら視聴します。まずは、みなさんそれぞれが感じたり想ったり思ったり考えたことを可能な限り言語化し、その上で、グループディスカッションを通じて、異質なものに触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

受講者の反応に従って、視聴するDVD素材の内容・順序を変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第2回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第3回	アサーション・トレーニング (2)	さらにアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ
第4回	映画視聴 (1) とディスカッション	家族関係について
第5回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	家族関係について更に学ぶ
第6回	映画視聴 (2) とディスカッション	心理的な成長や発達とは何か

第7回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長や発達とは何かについて更に学ぶ
第8回	映画視聴 (3) とディスカッション	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まり
第9回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まりについて更に学ぶ
第10回	映画視聴 (4) とディスカッション	人生に登場する壁のような存在について
第11回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	人生に登場する壁のような存在について更に学ぶ
第12回	映画視聴 (5) とディスカッション	夢と現実、無意識とは
第13回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	夢と現実、無意識について更に学ぶ
第14回	映画視聴 (6)	ある人生を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・授業への能動的参加）40％
期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline (in English)】

The definition of "culture" varies. In this lecture, the interaction between all individuals is considered as cross-cultural exchange to contribute to the lives of the students. We experience things from time to time, and many of those experiences are shaped in ways we don't realize.

It can be said that the result of the interplay between our qualities and our previous experiences defines the way we feel, know and interpret now.

I hope this lecture will be an opportunity for you to see that the alien / different culture / others that we unknowingly exclude have the potential to make us richer.

The students will be exposed to the alien / different culture / others through watching several movies and holding group discussions on the themes I will present. I will introduce a psychoanalytic point of view.

【Goal】

Through this course, I would like to encourage students to (1) become aware of their own experiences, (2) become able to communicate them to others, (3) become more self-reflective about their own experiences, and (4) acquire skills that can enrich themselves through interaction with others.

【Methods】

In the lecture, movies are mainly shown as stimulus materials. You watch these movies paying attention to how you experience them. First, you will try to put what you feel, imagine, reflect and think into words as much as possible, and then touch on the alien / different culture / others through group discussions. I will introduce a psychoanalytic point of view.

I will change the contents to be viewed according to the student's response. We have a hybrid of face-to-face and online classes. The learning support system will show you which way the next class will be. Feedback on assignments, etc. is given sequentially and comprehensively in class. If you personally wish to receive feedback, please let us know by email.

【Work to be done outside of class】

Pay attention to what and how you are experiencing — what you feel, what you imagine, reflect, think, and do.

【Grading criteria 】

Normal point (reaction paper, active participation in class) 40%

Year-end Report 60%

IDN100LA (アイデンティティ教育 / Identity studies 100)

大学を知らう <法政学>への招待 2017年度以降入学者待

小林 ふみ子、金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

2018年度までに「法政学への招待」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！みなさんのこの大学や学部がいつどのようなに、どうして作られたのか知ってみたいはありませんか？

この授業では、創立から146年めとなる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らのみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。【なお多くの学生さんに愛されてきたこの科目ですが、昨年度をもって閉講予定でしたが、一年のみ延長になりました。法政大学について学んでおきたい方は本年度中に履修してください】

【到達目標】

・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
・「法政大学らしさ」を考え、ここで学ぶ自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者2名のコーディネートのもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。

講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の学習支援システムのコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介する。（小倉淳一）
2	市民社会の開明とノンエリートの夢～法政大学と日本近現代史①	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（科目責任者＝金子匡良）
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	開学後約30年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡考）
4	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）

5	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古俣達郎）
6	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	20世紀初頭の清国留学生受け入れに始まる本学の国際関係を、近隣のアジア諸国を中心に概観する。（高柳俊男）
7	校歌「よき師よき友つどひ結べり」	成立背景や作詞・作曲者、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながらアカデミー合唱団のみなさんより歌唱指導を受ける予定。（児美川孝一郎）
8	大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。（横内正雄）
9	先輩からのエール	社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度は法学部を卒業後、いちどはアナウンサーになるも落語家転身された入船亭扇七さんをお呼びしています。
10	ユニークな研究所	多数の研究所のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。
11	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌した90年代以降の改革と、市ヶ谷に設置された国際文化・人間環境学部について学ぶ。（職員・各学部教員）
12	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑥、そして未来へ	前回に引き続き2000年代に市ヶ谷に設置されたキャリアデザイン学部・GIS（グローバル教養学部）について学んだうえで、総長に本学の現在と未来の展望を聞く。（各学部教員・ダイアナ・コー総長）
13	「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える	法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。（科目責任者＝小林ふみ子）
14	まとめのワーク	「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。総長の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。（ダイアナ・コー総長、科目責任者＝小林）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。オープン6周年を迎えたHOSEIミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！ デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の学習支援システムのコメントにみえる取り組み70%、期末レポート30%で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設16年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていこう努めます。みなさんにとって興味深く、楽しく、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は、学習支援システムを通じても配付します。

【その他の重要事項】

- ・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう1年次での履修を推奨します。2年生以上の受講もちろん歓迎します。
- ・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to study for four hours before and after each class.

(Grading Policies) The final grade will be calculated based on the small report submitted in each class (70%) and the final report (30%).

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L A2017年度以降入学者

サブタイトル：ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ

中平 千彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、春学期開講『経済学 LA』（担当:中平）です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学 LB』（担当:中平）に接続されます。
春学期開講『経済学 LA』では、学部基礎レベルの「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」を担当教員がコンパクトに解説し、受講生にそれらの要点を速習してもらうことを目指します。
受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？ 経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

【到達目標】
・ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。
・ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学に関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
経済理論を大別すると、「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」の2つになります。「ミクロ（マイクロ）経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得分配の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの2分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ（マイクロ）経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ（マイクロ）的基礎」は不可欠な要素となっています。

この講義では「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ（マイクロ）経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ（マイクロ）的基礎などのトピックも採り入れたいと思っています。
我々には、講義回数14回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よくミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力します。また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第01回	経済学の基本問題と経済システム	経済学の基本問題と市場の仕組み、経済システム
第02回	消費者と生産者の行動 (I)	選好と効用関数、需要関数
第03回	消費者と生産者の行動 (II)	生産技術と費用関数 (I)
第04回	消費者と生産者の行動 (III)	生産技術と費用関数 (2)、供給関数
第05回	市場均衡 (I)	完全競争市場と調整過程、余剰と比較静学
第06回	市場均衡 (II)	部分均衡と一般均衡、独占市場と独占的競争市場

第07回	経済厚生	市場の失敗、パレート効率性、厚生経済学の基本定理
第08回	国民所得分析の基礎	SNA、マクロ経済指標
第09回	消費関数	消費と消費関数
第10回	投資関数	投資と投資関数
第11回	有効需要と乗数理論	有効需要の原理、乗数効果
第12回	IS・LM曲線と総需要曲線・総供給曲線	IS曲線・LM曲線および総需要曲線・総供給曲線による経済分析
第13回	インフレ需要曲線	インフレ需要曲線による経済分析
第14回	インフレ供給曲線	インフレ供給曲線による経済分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・受講後に講義ノートとテキストによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】
・塩澤修平 (著) (2011) 『基礎コース 経済学 (第2版)』新世社。

【参考書】
・浅田統一郎 (著) (2022) 『マクロ経済学基礎講義 (第4版)』中央経済社。
・浅田統一郎 (著) (2017) 『ミクロ経済学の基礎 (第2版)』中央経済社。
・アセモグル、ダロン／レイブソン、デヴィッド／リスト、ジョン (著)、岩本康志 (監訳)、岩本千晴 (訳) (2020) 『入門経済学』東洋経済新報社。
・井堀利宏 (著) (2021) 『入門経済学 (第4版)』新世社。
・クルーグマン、ポール／ウェルス、ロビン (著)、大山道広／石橋次／塩澤修平／白井義晶／大東一郎／玉田康成／蓮田守弘 (訳) (2025) 『クルーグマン 入門経済学』東洋経済新報社。
・スティグリッツ、ジョセフ・E. /ウォルシュ、カール・E. (著)、薮下史郎／秋山太郎／磯川靖浩／大阿久博／木立力／宮田亮／清野一治 (訳) (2012) 『スティグリッツ 入門経済学 (第4版)』東洋経済新報社。
・福岡正夫 (著) (2008) 『ゼミナール経済学入門 (第4版)』日本経済新聞出版社。
・マンキュー、N. グレゴリー (著)、片桐満／篠潤之助／溝口哲郎 (訳) (2025) 『マンキュー入門経済学 (第4版)』センゲージ・ラーニング。
・Bade, Robin and Michael Parkin (2022) *Foundation of Economics* (9th ed.)(global edition, pap.), Pearson.
・Hirshleifer, Jack, Glazer, Amihai and David Hirshleifer (2005) *Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information* (7th ed.)(pap.), Cambridge Univ. Press.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien (2018) *Essentials of Economics* (6th ed.), Pearson.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien (2024) *Economics* (9th ed., Global ed.), Pearson.
・Krugman, Paul and Robin Wells (2024) *Essentials of Economics* (7th ed.), Worth Publishers.
・Landsburg, Steven E. (2024) *Price Theory and Applications* (10th ed.)(pap.), World Scientific Publishing.
・Mankiw, Gregory N. (2026) *Essentials of Economics* (11th ed.)(pap), Cengage Learning.
・Mateer, Dirk, Coppock, Lee, and Brian O'Roark (2026) *Essentials of Economics* (3rd ed.), W. W. Norton & Company.
・Schiller, Bradley R., Gebhardt, Karen, and Christopher D. Blake, (2025) *Essentials of Economics* (13th ed.)(pap), McGraw-Hill Education.
・Sloman, John and Dean Garratt (2023) *Essentials of Economics* (9th ed.)(pap), Pearson Education Limited.

【成績評価の方法と基準】
・[定期試験点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】
・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】
・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。
・本講義の趣旨は、アカデミックな経済学の基礎理論を平易に解説することですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種資格・就職試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

【オフィス・アワー】
・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】
・秋学期のリベラルアーツ科目『経済学 LB』（担当：中平）、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】
【Course outline】
* This course is designed to provide the student with an opportunity to understand the basic theory of microeconomics and macroeconomics. Generally, economic theory broadly divided into two parts - microeconomics and macroeconomics. Microeconomics focuses on decision making at the individual level, while macroeconomics studies the economy as a whole.

* This course is a comprehensive guide on how to get started with microeconomics and macroeconomics.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:

- explain the basic theories of microeconomics and macroeconomics;
- think and express basic issues of economics from the aspect of social science.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：観光経済学の基礎を学ぶ

中平 千彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ(マイクロ)経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

【到達目標】

- ・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
- ・観光経済学に関する基本的問題をミクロ(マイクロ)・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

観光経済学は、経済学理論に基づき、また、経済学の関連領域に属する学問を包含し、広義の観光活動を分析する、応用経済学の一つと位置付けられるものです。さらに、現代における広義の観光経済学は、観光客の支出決定、観光市場の構造、観光行動における意思決定、観光企業間の連携、観光による外貨発生効果と範囲、観光資源の貢献可能性、観光政策などを包括的に研究する分野となっています。

本講義では、観光の現状と課題、観光統計、投資理論、消費理論、消費者行動と観光、観光需要、観光サービス供給、観光市場の機能、観光市場の失敗、経済成長と観光、世界遺産と観光、我が国の観光と課題などの項目を学びます。なお、必要に応じて、公共経済学などの知識を補充し、学習内容の拡充を試みます。

我々には、講義回数14回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よく観光経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力します。また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	観光の現状と課題、SNAと観光統計(1)	観光のもたらす課題、SNAの概念と観光統計
第02回	SNAと観光統計(2)	SNAの基本構造、サテライト勘定の意義と分類
第03回	観光市場の機能	市場需要曲線と市場供給曲線、市場均衡と市場調整、観光財・サービスの価格決定メカニズム
第04回	消費理論と観光(1)	消費と消費関数、消費関数における短期と長期
第05回	消費理論と観光(2)	消費決定の仮説、観光消費の性質
第06回	投資理論と観光(1)	投資と投資の決定要因、限界効率と投資判断
第07回	投資理論と観光(2)	投資の限界効率表と投資量の決定
第08回	消費者行動と観光(1)	消費者行動と需要曲線、観光サービスの対象と選択
第09回	消費者行動と観光(2)、観光需要	観光需要と弾力性、観光需要の実際
第10回	観光サービス供給	観光サービス供給、観光市場の構造

第11回	観光市場の失敗	市場の失敗と観光分析
第12回	公共財とコモンプール財	公共財、コモンプール財と資源の過剰利用
第13回	観光成長と観光	インバウンド市場とアウトバウンド市場、観光発展の将来
第14回	世界遺産とエコツーリズム、観光の課題	世界遺産の基礎知識、エコツーリズムの事例と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
- ・受講後に講義ノートとテキストによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

- ・中平千彦／数田雅弘(編著)『観光経済学の基礎講義』九州大学出版会、2017年。

【参考書】

- ・麻生憲一(編著)(2025)『観光経済論』原書房。
- ・M.T.シンクレア／M.スタブラー(著)、小沢健市(監訳)(2001)『観光の経済学』学文社。
- ・ジェームズ・マック(著)、瀧口／藤井(監訳)(2005)『観光経済学入門』日本評論社。
- ・スティープン・J. ページ(著)、木谷／松下／図師(訳)(2001)『交通と観光の経済学』日本経済評論社。
- ・A.ブル(著)、諸江／吉岡／菊池／小沢／原田／池田／和久井(訳)(1998)『旅行・観光の経済学』文化書房博文社。
- ・山内／山本／山崎／川口(編)(2022)『観光経済学：理論とデータで学ぶ』有斐閣。
- ・Bull, Adrian (1995) *The Economics of Travel and Tourism* (2nd revised ed.), Longman.
- ・Dwyer, Larry, Forsyth, Peter, and Wayne Dwyer (2020) *Tourism Economics and Policy* (2nd ed.), Channel View Books.
- ・Hall, C. Michael and Allan M. Williams (2019) *Tourism and Innovation* (2nd ed.), Routledge.
- ・Stabler, Mike J., Papatheodorou, Andreas., and M. Thea Sinclair (2009), *The Economics of Tourism* (2nd ed.), Routledge.
- ・Sullivan, Charlotte (ed.)(2016) *Leisure and Tourism Economics*, Ingram Pub Services.
- ・Tribe, John (2020) *The Economics of Recreation, Leisure and Tourism* (6th ed.), Routledge.
- ・Vanhove, Norbert (2026) *The Economics of Tourism Destinations : Theory and Practice* (5th ed.), Routledge.
- ・Chen, Yong (2021) *Economics of Tourism and Hospitality : A Micro Approach*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

- ・[定期試験点(90%)＋平常点(10%)＝総合点(100%)]の評点配分で成績が決定されます。
- ・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
- ・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

- ・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

- ・出席確認を行いますので注意してください。
- ・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】

- ・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】

- ・春学期のリベラルアーツ科目『経済学LA』（担当：中平）、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】

【Course outline】

*The aim of the course is to provide students with an opportunity to gain and enhance the knowledge of tourism economics. Namely, this course is designed to provide a basic understanding of the scientific approaches to economics of tourism, particularly in the field of economic theory.

*In this course, you will learn how the microeconomics and macroeconomics are applied to the analysis of tourism.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:

- explain the fundamental problems of tourism economics;
- think and express basic issues of tourism economics from the aspect of microeconomics and macroeconomics.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%)+ Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 英子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、歴史の中で経済学がどのように生成されてきたかということに焦点を当てながら、経済学的思考を学んでいきます。春学期のこの経済学LAでは、西洋的思想の源流となる古代ギリシャから19世紀までの経済思想と、そこから徐々に導き出された理論を理解できるように進めます。例えば18世紀のアダム・スミスが何を批判し何を主張していたのか、そこに至るまでにどのような思想的変遷があったのか、など、歴史上の主要な学者たちが継承してきた議論のプロセスを時系列に追体験していくことによって、経済学の役割や意義を考えられるようになることをめざします。

【到達目標】

社会が発展する歴史的过程の中で経済思想や理論が生成されてきたこと理解することによって経済的思考を習得し、経済活動に対して各自で考えて判断できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者の理解の定着のため、授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらい、次の授業時に前回の授業で提出されたリアクションペーパーの優れていた点や問題点等を示して、全体に対してフィードバックを行います。履修者は授業の要点を配布資料にしっかり書き込みながら授業に臨み、授業内容の理解に努めましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・歴史的視点から見る経済学についての解説
第2回	重商主義に至るまでの経済思想	・古代ギリシャの議論：アリストテレス ・中世の経済思想：アキナス ・イングランドの重商主義：マン、ペティ、ロック
第3回	重商主義とその影響	・フランスの重商主義：コルベール ・三大バブル
第4回	18世紀の商業社会と重農主義	・自由主義の芽生え：マンデヴィル ・商業社会論と啓蒙：ヒューム ・重農主義：ケネー
第5回	18世紀の古典派経済学（1）	・A・スミス『道徳感情論』から『国富論』へ
第6回	18世紀の古典派経済学（2）	・A・スミス『国富論』①分業、価値論、見えざる手、資本蓄積
第7回	18世紀の古典派経済学（3）	A・スミス『国富論』②重商主義批判、貿易、自由主義、植民地問題

第8回	19世紀初頭の諸学説	・ベンサム：功利主義 ・マルサス：人口論
第9回	19世紀の古典派経済学	・リカード：投下労働価値説、差額地代論、比較優位 ・J.S.ミル：生産分配峻別論、賃金基金説、質的功利主義
第10回	第一次産業革命の影響	・社会主義思想の萌芽 ・オウエン、リスト
第11回	マルクスの経済学	・弁証法的唯物論、剰余価値と搾取
第12回	第二次産業革命の影響	・大衆消費社会 ・ヴェーバー：資本主義観、マルクス批判
第13回	新古典派経済学	・限界革命：ジェヴォンズ、メンガー、ワルラス
第14回	黎明期から19世紀までの総括	・春学期に学んだ内容についての授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとします。
欠席者のために毎回授業後に学習支援システムにも掲載します。

【参考書】

必要に応じて授業で提示します。

【成績評価の方法と基準】

第2回から第13回のリアクションペーパーでの理解度（3%×12回：36%）と、第14回の授業内試験の得点（64%）によって評価します。第14回に行う授業内試験は「第2回から第13回の配布資料のみ持込可」で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特にありません。

【その他の重要事項】

経済学LAが前編、経済学Bが後編となっているので、通年での履修が望ましいですが、一方だけの受講も可能です。

【Outline (in English)】

This course focuses on how economics emerged throughout history while studying economic thinking. In the spring semester, students will progress through economic thought from ancient Greece — the source of Western ideas — through the 19th century, gaining an understanding of the theories gradually derived from it.

The goal of this course is to acquire economic thinking by understanding how economic ideas and theories have been generated within historical processes.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be determined based on short reports (36%) and on in-class exam (64%).

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 英子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、歴史の中で経済学がどのように洗練されてきたかということに焦点を当てながら、経済学的思考を学んでいきます。秋学期のこの経済学L Bでは、春学期の内容に続く19世紀後半から今日に至る経済政策の推移と関連させながら、ミクロ・マクロ経済学理論の基礎を学修します。例えば20世紀のJ・M・ケインズが何を批判して彼の経済学が生まれ大きく支持されたのか、それがその後どのような主張と対峙したのか、など、主要な学者たちの理論の背景、影響、そして転換を、激動の歴史的事象とともに時系列に追体験していくことによって、経済学のダイナミズムを実感できるようになることをめざします。

【到達目標】

経済学の基礎的知識とその発展のプロセスを理解することによって、経済学的思考を習得し、現実の経済活動や経済政策に対して各自で考えて判断できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者の理解の定着のため、授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらい、次の授業時に前回の授業で提出されたリアクションペーパーの優れていた点や問題点等を示して、全体に対してフィードバックを行います。履修者は授業の要点を配布資料にしっかり書き込みながら授業に臨み、授業内容の理解に努めましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・19世紀～20世紀の経済学的展望
第2回	新古典派経済学	・マーシャル ・20世紀諸初頭の諸学派 ・厚生経済学：ピグー
第3回	ミクロ経済学（1）	消費者行動
第4回	ミクロ経済学（2）	生産者行動
第5回	ミクロ経済学（3）	最適な資源配分
第6回	マクロ経済学（1）	国民所得と国内総生産
第7回	マクロ経済学（2）	財政政策
第8回	マクロ経済学（3）	金融政策
第9回	ケインズの経済学（1）	古典派経済学批判、雇用理論、有効需要
第10回	ケインズの経済学（2）	乗数理論、資本理論、利子理論、IS-LM分析
第11回	新古典派総合	・2つの経済成長理論の対立
第12回	資本主義観の変容	・シュンペーター：新結合、創造的破壊、管理資本主義

第13回	新自由主義の経済学と21世紀の経済状況	・ハイエク：社会主義経済計算論争、自生的秩序 ・フリードマン：マネタリズム、新自由主義
第14回	19世紀～20世紀の経済学の総括	・秋学期に学んだ内容についての授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとします。
欠席者のために毎回授業後に学習支援システムにも掲載します。

【参考書】

必要に応じて授業で提示します。

【成績評価の方法と基準】

第2回から第13回のリアクションペーパーでの理解度（3%×12回：36%）と、第14回の授業内試験の得点（64%）によって評価します。第14回に行う授業内試験は「第2回から第13回の配布資料のみ持込可」で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特にありません。

【その他の重要事項】

経済学LAが前編、経済学Bが後編となっているので、通年での履修が望ましいですが、一方だけの受講も可能です。

【Outline (in English)】

This course focuses on how economics has developed throughout history while studying economic thinking. In the fall semester, students will learn the basic theories of microeconomics and macroeconomics, linking them to the evolution of economic policy from the late 19th century to the present day.

The goal of this course is to acquire economic thinking by understanding how economic ideas and theories have been generated within historical processes.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be determined based on short reports (36%) and on in-class exam (64%).

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：東アジア経済論

陳 文挙

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21はアジアの時代だと言われている。特に、中国や東南アジア新興国の台頭によって東アジア地域の存在感は増している。東アジア経済の発展は世界情勢の影響を受ける一方、世界に与える影響も大きくなっている。

本講義は東アジア経済の発展研究を目標とする。その中で、経済発展の基礎理論を学習しながら、東アジア経済発展の歴史、過程、最近の動向について経済学やリベラルアーツの視点から研究する。また、本講義は最新の国際政治経済情報を取り入れることもあり、授業を通じて学生諸君の考察力、分析力、危機対応力を向上させる。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察する力が必要になる。当該授業を聴講して、学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。特に、トランプ米大統領の再登場による世界の地政学は新しい局面を迎え、混沌化が増す世界、そして東アジア地域に関するリスクのヘッジ方、危機対応型思考力を鍛える学習ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1, 大学の授業計画に従って対面式で開講するが、事情によってまたデジタル社会適合のためオンライン（Zoom方式）の開講もある。但し、オンライン授業の場合は事前に学習支援システムを通じて知らせする。
- 2, 一回の講義で基本的に1つの話題を中心に議論、展開、解明、まとめる。
- 3, 情報化時代のニーズに応えるために図表や統計資料、事例学習も多用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	東アジア経済入門基礎、講義概要、成績評価等説明
2	現代経済社会の仕組み	家計、企業、政府；資本、労働、技術進歩；市場の原理；経済成長と経済発展の原動力分析
3	東アジア経済近代化の始まり	商業とシルクロード、産業革命、国際貿易と植民地の歴史、アヘン戦争
4	日中近代工業化歴史比較研究	清王朝近代化の失敗と日本明治維新ならびに日本近代化成功の比較分析
5	国際貿易とグローバル化の形成	アダム・スミスの絶対優位性仮説とリカードの比較優位性仮説の検証

6	農業の発展と人口問題	マルサスの人口論と「マルサスの罠」
7	中間進捗状況確認	前半復習、「機会費用」、経済発展と人口の両面性問題
8	農業の発展と様々な制約	「豊作貧乏」現象と需要の価格弾力性
9	東アジア地域の工業化と労働移動	都市化とインフォーマル部門、スラム街の形成
10	東アジア地域の工業化と国際化	「輸入代替」政策の失敗から「輸出振興」政策の成功まで
11	東アジア地域の産業移転	ベティ・クラークの法則と「雁行形態」、「産業移転」、「世界の工場」の背景と実態
12	経済成長と所得格差	クズネッツの「逆U字仮説」から「エレファントカーブ」まで
13	さまざまな格差と計測	ジニ係数の意義、計算の仕方、経済格差検証
14	まとめ：東アジア地域経済統合の行方は	半期の復習、まとめ、期末レポート作成要領説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて宿題として課題レポートを完成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『アジア経済とは何か—躍進のダイナミズムと日本の活路』、後藤健太（著）、中公新書。
『アジア経済論』、小林尚朗、山本博史、矢野修一、春日尚雄（著、編集）、文真堂。
『東アジアの論理—日中韓の歴史から読み解く』、岡本隆司（著）、中公新書。

【成績評価の方法と基準】

- 1、授業参加（出席）状況（20%）
 - 2、リアクションペーパーや課題、宿題の提出状況（60%）
 - 3、期末レポートの完成状況（20%）
- などによって総合的に評価する。
ただし、各項目の配分など詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1、学生皆さんの関心事、質問等についてよく聞く、確認する。
- 2、課題や質問に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
ただし、学習支援システムの活用、オンライン（Zoom方式）学習環境の確保などを事前にしておく。

【その他の重要事項】

秋期『経済学LB：中国経済入門』の継続履修を推奨。

【Outline (in English)】

The 21st century is widely regarded as the Asian century. In particular, the presence of the East Asian region has been growing significantly due to the rise of China and Southeast Asian nations. While the economic development of East Asia is influenced by global affairs, its own impact on the world has also become substantial.

This course aims to study the economic development of East Asia. Students will learn the fundamental theories of economic development while examining the history, processes, and recent trends of East Asian economies from the perspectives of economics and liberal arts. Furthermore, by incorporating the latest information on international political economy, this course seeks to enhance students' critical thinking, analytical skills, and crisis management capabilities.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing regional economy about its variability and complexity in east-Asia from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/ reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (20%)
- 2, Reaction paper or homework (60%)
- 3, Term-end report (20%)

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国経済論

陳 文挙

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2022年に中国の経済規模（名目GDP）は日本の4倍より大きく、アメリカの7割に相当するようになった。中国と日本とは近隣であり、東アジア地域の政治安定、経済発展、安全保障などにおいて重要な役割を担っている。

本講義では「経済学LA」に続き、アヘン戦争以降の中国近現代史、社会主義建設、計画経済から「改革・開放」を経て社会主義市場経済への移行、そして「世界工場」から「世界の市場」への経済発展について研究し、中国の真の姿を明らかにする。

現在、日中関係はとても困難な時期に入っており、中国を知ることが重要なリベラルアーツの1つになる。この講義を通じて、中国に対する観察力、分析力が高められる。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について、特に世界第2位の経済規模を持つ中国の経済動向について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1, 大学の授業計画に従って対面式で開講するが、事情によってまたデジタル社会適合のためオンライン（Zoom方式）の開講もある。但し、オンライン授業の場合は事前に学習支援システムを通じて知らせする。

2, 一回の講義で基本的に1つの話題を中心に議論、展開、解明、まとめる。

3, 情報化時代のニーズに応えるために図表や統計資料、事例学習も多用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	中国経済の基礎、講義概要、中国最新経済情報、成績評価等
2	中国近代史①	アヘン戦争から太平天国、日清戦争、辛亥革命、日中戦争、国共内戦
3	中国近代史②	中国共産党の誕生、武力闘争から政権の奪取、中国人民共和国の樹立
4	朝鮮戦争と社会主義国家建設	戦後処理と冷戦、朝鮮戦争と日中両国に与える影響：ソ連の対中経済援助と日本の「朝鮮特需」
5	計画経済期の中国経済と政治	社会主義経済大実験：大躍進、人民公社と文化大革命

6	計画経済の行き詰まりと改革開放の始まり	貧しい農民たちの「下剋上」と郷鎮企業の発展：「世界の工場」礎の形成
7	企業改革と日本の役割	中国の改革開放を支える日本人割
8	中間進捗状況確認	中国の企業改革：「効率」か「平等」か
9	企業改革と工業の発展	世界最大白物家電メーカーハイアール（Haier）社の事例研究
10	世界の工場と労働移動	世界工場と世界サプライチェーンの真実
11	中国の技術革新とニュービジネスの拡大	ネット通販、スマホ決済、EVシフト、AI開発競争など
12	中国の経済発展と格差問題	ジニ係数と格差の測り方、中国経済格差の実態と最新動向
13	中国経済展望	トランプ関税2.0、米中「貿易戦争」、世界のデカップリング、中国の現状と未来
14	復習とまとめ	期末レポート作成要領、成績評価再確認など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて課題、宿題もあり、期末にはレポートの提出がある。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『現代中国経済』（新版）、丸川知雄、有斐閣アルマ。
『幸福な監視国家・中国』、梶谷懐・高口康太、NHK出版新書。
『中国S級B級論 一発展途上と最先端が混在する国』、高口康太・伊藤聖他著、さくら舎。

【成績評価の方法と基準】

1, 授業参加（出席）状況（20%）
2, リアクションペーパーや課題の提出状況（60%）
3, 期末レポートの完成状況（20%）
などによって総合的に評価する。
ただし、各項目の配分など詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

1, 学生皆さんの関心事、意見などをよく聞く、確認する。
2, 課題や質問等に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
ただし、学習支援システムの活用、オンライン（Zoom方式）学習環境の確保などを事前にしておく。

【その他の重要事項】

1, 前期の『経済学LA：東アジア経済論』とセットにして履修してもらいたいが、必要条件ではありません。
2, 中国経済の話題が中心だが、政治、歴史、文化、社会、企業経営等の話もあり、興味があればぜひ履修していただきたい。

【Outline (in English)】

In 2022, China's economic scale (nominal GDP) exceeded four times that of Japan, reaching approximately 70% of that of the United States. As neighboring nations, China and Japan play crucial roles in the political stability, economic development, and security of the East Asian region.

Following "Economics LA," this course examines China's modern and contemporary history since the Opium War. We will study the nation's trajectory from the construction of socialism and the planned economy to the transition to a "socialist market economy" through "Reform and Opening-up," and its evolution from the "World's Factory" to the "World's Market." Through these lectures, we aim to clarify the true state of the Chinese economy.

Today, Japan-China relations have entered an exceptionally challenging period, making the understanding of China an essential component of liberal arts. This course is designed to enhance students' observational and analytical skills regarding China.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing China economy about its variability and complexity from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/ reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (20%)
- 2, Reaction paper or homework (60%)
- 3, Term-end report (20%)

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：経済学の歴史から現代を見る

小峯 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Lでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。前期LAでは「過去の経済学者の苦闘から、現代の経済問題・社会問題を考える」をテーマにします。なぜ金持ちと貧乏人がいるのか。失業や低所得は自己責任なのか。転売や金貸しになぜ嫌悪感が付きまとうのか。意外にも、経済学者は単にカネの亡者や利己的な人間像ではなく、社会全体の幸福（＝厚生）について多くの見解を示してきたのです。この授業では、経済学の見取り図を提供することによって、個人と社会の関係を経済という観点から見ることの重要性を喚起します。

【到達目標】

「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「経済学の歴史から現代を見る」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めたいと思います。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（LGBTQ、アメリカ大統領選、イギリスのEU離脱など）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。グループ討議や発表タイムをときおり混ぜて、討論や発表の技法も学ぶこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介（教科書：第1章）
2	全体の概観～経済学の歴史から；古代の経済問題	金儲け・商売は民主主義を危うくするか？（教科書：第2章）プラトン、アリストテレス
3	経済の発見～中世の経済問題	金儲けはなぜ非道德的なのか？信用・バブル・利子・利潤（教科書：第2章）トマス・アクイナス
4	社会契約説の三巨人～民主主義から資本主義へ	経済はゼロサムゲームか、プラスサムか？（教科書：第3章）ホップズ、ロック、ルソー
5	スミス以前の経済把握～科学精神、重農主義・重商主義	貿易黒字は悪か？ 自然に任せるとは何か？（教科書：第3章）ベーコン、ケネー

6	経済学の生誕～アダム・スミスの利己心と共感	経済はどのように成長するのか？ 人間らしい金儲けとは？（教科書：第5章）
7	経済論争の時代～ナポレオン戦争以後のイギリス	日銀はインフレを抑制できるか？ 「穏和な貿易」とは？（教科書：第6章）マルサス、リカード
8	資本主義か社会主義か～J.S. ミルとマルクス	社会を変革して、人間は幸せになれるのか？（教科書：第7・9章）
9	限界革命～身分から契約へ、経済理論の刷新	欲望を肯定して良いのか？（教科書第10章）ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー
10	ケインズ革命～失業と貨幣	大恐慌を抜け出す手段は？（教科書第12章）
11	孤高の経済学者（1）～シュンペーター、ハイエク	イノベーションとは何か？ 自生的秩序とは？（教科書：第13章）
12	孤高の経済学者（2）～ガルブレイス、都留重人	広告が欲望を左右できるのか？ 科学を戦争目的に使うべきか？（教科書：第13章）
13	経済学の現代的発展～1930年代からの精緻化	現代の経済学の特徴は何か？ どのように発展してきたのか？（教科書：第14章）
14	まとめ（経済学の歴史）理解度小テスト	振り返り；チェックテスト（教科書：第15章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

【参考書】

・小峯敦編（2024）『福祉の経済思想家たち【第三版】』ナカニシヤ出版。（福祉社会論Aの教科書）
<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b10134458.html>
・小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』見洋書房。（経済学LBの教科書）
<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【成績評価の方法と基準】

- （1）平常点：40％
（2）理解度小テスト：60％
（1）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の内容および提出回数、その他授業への参加度合い等によって定めます。
（2）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセン（択一式）8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ1枚）が持ち込み可能です。
（3）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を目指す学生や教職課程の学生にも有用です。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thinking?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy-oriented. The first-semester LA course takes as its theme: "Considering contemporary economic and social problems through the struggles of past economists." Why do rich and poor people exist? Are unemployment and low income solely the individual's responsibility? Why is there persistent aversion to reselling and money lending? Surprisingly, economists have not merely portrayed people as money-grubbers or selfish individuals; they have offered numerous perspectives on the welfare of society as a whole. This course aims to provide an overview of economics, thereby highlighting the importance of examining the relationship between the individual and society from an economic viewpoint.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：戦争と平和の経済思想

小峯 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Lでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。後期LBでは「戦争と平和の経済思想」を取り上げます。過去から現在にかけて、世の中には戦争・紛争が溢れています。同時に、その原因や解決策を模索する学問的営みも多いのです。この授業では、経済学の立場や経済の観点から、この問題をどのように考えられてきたか／考えるべきかを学びます。

【到達目標】

「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「戦争と平和」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めたいと思います。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（露ウ戦争、パレスチナ紛争）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。学生の希望があれば、グループ討議や発表タイムを混ぜても良いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介
2	全体の概観～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・序章）
3	近代国家と戦争	重商主義、主権国家、経済学の生成（教科書・第1章）
4	アダム・スミスにおける国防と経済	『国富論』、商業の発展、自由の確立（教科書・第2章）
5	古典派経済学と戦争～リカード、マルサス、ミル	平和的な分業（比較生産費説）、植民地経営（人口問題）、黒人問題
6	エッジワースの契約モデルと戦争	限界革命による経済学の刷新、価格交渉（教科書・第3章）
7	ヴェブレンの平和連盟構想	アメリカ異端派の現状分析、国際連盟の誕生（教科書・第4章）
8	戦後構想における経済助言者の役割（1）	ケインズ～ベヴァリッジ体制とは何か、伝記的アプローチ（教科書・第5章）

9	戦後構想における経済助言者の役割（2）	福祉国家の誕生、連邦主義、国際連合の誕生（教科書・第5章）
10	ミュルダールにおける戦争と平和（1）	福祉国家から福祉社会へ、累積的因果関係、南北問題（教科書・第6章）
11	ミュルダールにおける戦争と平和（2）	スウェーデンモデルとは何か、国際平和研究所（教科書・第6章）
12	冷戦期以降の戦争と経済思想	シューマッハー、ガルブレイス、ボールディング（教科書・第7章）
13	帝国主義・総力戦と日本の経済学者	石橋湛山、新渡戸稲造（教科書・第8章）
14	全体のまとめ～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・終章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』晃洋書房。
<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【参考書】

・小峯敦編（2025）『福祉の経済思想家たち【三版】』ナカニシヤ出版。（福祉社会論Aの教科書）
<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b134734.html>
・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。（経済学LAの教科書）
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

【成績評価の方法と基準】

（1）平常点：40%

（2）理解度小テスト：60%

（1）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の提出回数、その他授業への参加度合い等によって定めます。

（2）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ1枚）が持ち込み可能です。

（3）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を受ける学生や教職課程の学生にも有用なはずで、教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thought?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy. In the second semester, we will take up "War and Peace in the History of Economic Thought". From the past to the present, the world is full of wars and conflicts. At the same time, there are many academic endeavors that search for their causes and solutions. In this class, students will learn how this issue has been/should be considered from the standpoint of economics and the economy.

LANk300LA (朝鮮語 / Korean language education 300)

第三外国語としての朝鮮語 A 2017年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて朝鮮語・韓国語を学ぶクラスです。朝鮮語の仕組みからハングルの文字を一つずつ学びながら、発音を丁寧に学習します。書き方も基本から一つずつ学びます。

【到達目標】

ハングル文字を正しく読み・書きを学ぶのがねらいです。朝鮮語・韓国語が正しく読める、書けることが可能であることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

定員制授業です。第1回目の授業で出席者だけで抽選します。連絡はHoppiiにて行います。

毎回、小テストを実施します。

テキストに沿って進めます。第10課からは、本文を全員に読んでもらいます。

初めての朝鮮語・韓国語ですので、誰にでもわかりやすく覚えられるように、ゆっくり進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
	第1課 基本母音	基本母音を学ぶ
2	第2課 基本子音	基本子音を学ぶ
3	第3課 激音	激音を学ぶ
4	第4課 濃音	濃音を学ぶ
5	第5課 合成母音字	合成母音字を学ぶ
6	第6・7課 終声	終声を学ぶ
7	第8課 日本語のハングル表記と辞書の引き方	日本語のハングル表記と辞書の引き方を学ぶ
8	第9課 知っておきたい教室用語	知っておきたい教室用語を学ぶ
9	第10課 初めまして	本文、文法解説、練習問題
10	第11課 今日授業がありますか	本文、文法解説、練習問題
11	第12課 今日は9月25日です	本文、文法解説、練習問題
12	第13課 図書館はどこですか	本文、文法解説
13	第13課 図書館はどこですか	練習問題
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習・復習をしましょう。

毎回小テストがあるので、0点にならないように、音を出しながら覚えてください。

文法解説と練習問題は、事前にやっておいてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『やさしい韓国語初級』(梁禮先、権点淑、曾恩美 著)朝日出版社,2018年,2300円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題など30%、期末試験70%。60点以上が合格点です。

※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

音読をすること。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30%.

LANk300LA (朝鮮語 / Korean language education 300)

第三外国語としての朝鮮語 B 2017年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語A」を修了したレベルの人対象の講座です。ハングルの読み書きの基礎を理解し、読み書きができる人が対象です。

「第三外国語としての朝鮮語B」では、読み書きの定着を図りながら、簡単な会話の練習も進めていきます。

【到達目標】

発音に気を付けながら、スムーズに読めることを目標にします。また、簡単な会話ができるようになることもこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進めます。本文を全員に読んでもらいます。

文法解説と練習問題は、事前にやって来てください。

発音の練習にも力を入れます。

毎回、授業前の小テストがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期の進め方と復習	秋学期の進め方と春学期の簡単な復習。
	第14課：家族は何人ですか？	本文と文法解説
2	第14課：家族は何人ですか？	練習問題
3	第15課：どこへ行きますか？	本文と文法解説
4	第15課：どこへ行きますか？	練習問題
5	第16課：友だちと会います	本文と文法解説
6	第16課：友だちと会います	練習問題
7	第17課：今何時ですか？	本文と文法解説
8	第17課：今何時ですか？	練習問題
9	第18課：かなり待ちましたか？	本文と文法解説
10	第18課：かなり待ちましたか？	練習問題
11	第19課：私はK-POPが好きです	本文と文法解説
12	第19課：私はK-POPが好きです	練習問題
13	第20課：韓国語で質問	会話練習

14 期末試験

秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習・復習をしましょう。

本文の音読を毎日やりましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『やさしい韓国語初級』梁禮先、権点淑、曾恩美著、朝日出版社、2018年、2300円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題など30%、期末試験70%。60点以上が合格点です。

※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

音読を毎日欠かさずやってください。韓国について何か一つは興味を持ちましょう。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 13 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30%.

LANk300LA (朝鮮語 / Korean language education 300)

第三外国語としての朝鮮語 A 2017年度以降入学者

高柳 俊男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語＝韓国語を初めて学ぶ方のための、週1回の授業です。

ハングルの文字と発音の基礎を学び、そのうえで文法の初歩を身につけます。自己紹介など、ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・文字を見たら、正確に発音できる。
- ・簡単な文の読み書きができる。
- ・あいさつや自己紹介など、簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・30人までの定員制授業です。第1回授業（対面）に必ず参加すること。その中から抽選します。選抜結果の連絡はHoppiiにて行いますので、必ず「仮登録」しておいてください。
- ・授業のはじめに前回の復習を行います。
- ・確認の小テストを随時行います。
- ・テキストには簡単にしか書かれていない事項は、補助プリントを配付して補います。
- ・なお、進度はあくまでも予定です。皆さんの理解度に応じて若干変化することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 朝鮮語・韓国語の呼称の説明 選抜の実施
2	第1課	文字の構造と母音
3	第2課	子音：平音
4	第3課	子音：激音
5	第4課 第5課	単語の発音、子音：濃音
6	第6課	複合母音
7	第7課	パッチム
8	第8課	連音ほか
9	第9課	発音変化、日本語のハングル表記
10	第10課 第11課	辞書の配列 平叙文、疑問文
11	第12課	体現否定文
12	第13課	漢数詞
13	第14課	「～といひます」
14	期末試験	春学期の学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ある外国語を週1回、100分の授業でマスターすることは、まず無理です。授業以外に、家で復習を欠かさず行うという覚悟を持ってください。

また、外国語学習にとって音は大事です。テキスト付属の音声できるだけ聞くよう、努力してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高島淑郎『書いて覚える初級朝鮮語 改訂版』（白水社）

【参考書】

辞書などについては、授業内で触れます。

【成績評価の方法と基準】

小テストなどの平常点30%、期末試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

初めて担当する授業です。

【その他の重要事項】

定員制（30名）です。

受講希望者は、第1回授業時（2026年4月10日）までに必ずHoppiiで「仮登録」をして、教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者（「仮登録」者）の中から抽選します。

この授業は、あくまでも初歩の方向けの授業です、以下をはじめ、すでに相当の実力がある方は受講できません。

- ・本学の第二外国語での「朝鮮語」受講者
- ・日本における朝鮮学校の卒業生
- ・韓国で小、中、高校課程を修了している人

【Outline (in English)】

This course covers the fundamentals of Korean characters, pronunciation, and grammar. The goal is to master pronunciation and engage in very simple conversations.

Grades are based on 30% regular participation and 70% final exam.

LANk300LA (朝鮮語 / Korean language education 300)

第三外国語としての朝鮮語 B 2017年度以降入学者

高柳 俊男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語＝韓国語を4月から初めて学び始めた方のための、第三外国語としての週1回の授業です。

春学期に身につけたハングルの発音と初歩の文法の基礎のうえに、もう少し複雑な文法や会話を学びます。

【到達目標】

- ・発音変化も含めて、ハングルをすべて正確に発音できる。
- ・やや複雑な文法が理解できる。
- ・やや高度な挨拶や会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・30人までの定員制授業です。第1回授業（対面）に必ず参加すること。その中から抽選します。選抜結果の連絡はHoppiiにて行いますので、必ず「仮登録」しておいてください。
- ・授業のはじめに前回の復習を行います。
- ・確認の小テストを随時行います。
- ・テキストには簡単にしか書かれていない事項は、補助プリントを配付して補います。
- ・なお、進度はあくまでも予定です。皆さんの理解度に応じて若干変化することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 選抜の実施 春学期の復習
2	第15課	固有数詞、時刻の言い方
3	第16課	一般動詞とそのハムニダ体
4	第17課	各種の助詞
5	第18課	意思の表現
6	語基	語基という概念
7	第19課	尊敬形、年齢の言い方
8	第20課	用言否定
9	第21課	へヨ体
10	第22課	「～してください」
11	第23課	過去形
12	第24課①	連体形
13	第24課②	ハンダ体
14	期末試験	秋学期の学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ある外国語を週1回、100分の授業でマスターすることは、まず無理です。授業以外に、家で復習を欠かさず行うという覚悟を持ってください。

また、外国語学習にとって音は大事です。テキスト付属の音声をできるだけ聞くよう、努力してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高島淑郎『書いて覚える初級朝鮮語 改訂版』（白水社）

【参考書】

辞書などについては、授業内で触れます。

【成績評価の方法と基準】

小テストなどの平常点30%、期末試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

初めて担当する授業です。

【その他の重要事項】

定員制（30名）です。

受講希望者は、第1回授業時（2026年9月18日）までに必ずHoppiiで「仮登録」をして、教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者（「仮登録」者）の中から抽選します。

この授業は、あくまでも初歩の方向けの授業です、以下をはじめ、すでに相当の実力がある方は受講できません。

- ・本学の第二外国語での「朝鮮語」受講者
- ・日本における朝鮮学校の卒業生
- ・韓国で小、中、高校課程を修了している人

【Outline (in English)】

This course builds upon the Korean grammar fundamentals covered in the spring semester. The goal is to enable students to understand more complex sentences and conversations.

Grades will be determined by active participation in class (30%) and the final exam (70%).

LIT300LA (文学 / Literature 300)

漢字・漢文学A

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求める。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第2回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介
第3回	権力者と文字による予言	・予言の種類 ・歴史書に見える予言 ・「拆字」の紹介
第4回	文字が左右した運命①	・「志怪」と「伝奇」 ・文字が動かした寿命 ・読めない文字
第5回	文字が左右した運命②	・三つの予言 ・詩を用いた予言
第6回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・近代諸国での流行 ・中国の「扶鸞」信仰

第7回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・「扶鸞」の方法と来歴 ・「扶鸞」の流行と評価
第8回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・宋代知識人の体験 ・明代のオカルト趣味 ・近代中国と「扶鸞」信仰
第9回	恋愛作品と文字	・『詩経』と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第10回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第11回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第12回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第13回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩談」の説
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価＞

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40％、期末の試験またはレポート60％。

＜基準＞

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

[Learning Objectives]

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

漢字・漢文学B

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第2回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第3回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え

第8回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第9回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み
第10回	夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第11回	夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儚い栄達 ・動物への変身
第12回	他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅
第13回	日本における夢	・他人が見る夢 ・日本文学における夢
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

[Learning Objectives]

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものか、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今セメスターで書いた作品は、秋セメスターで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めよう。

第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2週間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ） 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

50% submission of the work, 30 % active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今 semester では、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えて臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。

第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2週間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出35%、授業内討議および編集作業への積極的な参加35%、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品〔三作以上〕への批評文）30%。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline/Leaning Objectives

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

文芸創作講座A

2017年度以降入学者

LETTIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての人間の中に物語が潜んでいます。その物語を引き出すために、この授業では小説を書くための基礎について学びながら、自分自身を語る力を身に付けます。

【到達目標】

- 1) 小説を読む/書くための基礎について学ぶ。
- 2) 書きたい世界を明確にし、言語化することができる。
- 3) 小説を読んで講評することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 小説家を目指すには何が必要なのかについて考える。
第2回	ジャンル	フィクション、ノンフィクション、オートフィクションについて学ぶ。
第3回	小説の始まり	書き出しについて考える。
第4回	語り手と読者	語り手と視点、また読者について考える。
第5回	小説の設定 (1)	時間の設定について考える。
第6回	小説の設定 (2)	舞台設定について考える。
第7回	小説を書く (1)	これまでの授業を踏まえ、自分の小説の構想について考える。
第8回	小説を書く (2)	小説を書きはじめる (2,000字程度)。各グループでフィードバックをし合う。
第9回	小説を書く (3)	小説を書き続ける (前回に加えて 2,000字程度)。各グループでフィードバックをし合う。
第10回	小説を書く (4)	小説を書き続ける (それまで書いたものと合わせて 6,000字程度)。各グループでフィードバックをし合う。
第11回	小説を書く (5)	小説を書き続ける (それまで書いたものと合わせて 7,000字程度)。各グループでフィードバックをし合う。
第12回	ブラッシュアップ	最終原稿 (それまで書いたものと合わせて 8,000字程度) の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第13回	講評 (1)	作品をみんなで読み、講評する。
第14回	講評 (2)	作品をみんなで読み、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018年）
キング、スティーヴン『書くことについて』（小学館、2013年）
ロッジ、デイヴィッド『小説の技巧』（白水社、1997年）

Febos, Melissa. Body Work: The Radical Power of Personal Narrative. Catapult, 2022.

Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014

Wood, James. How Fiction Works. Picador, 2009.

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（20%）、グループワークと合評への参加度（30%）、学期末までに完成させた小説（50%）で総合的に評価します。
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

なし（昨年度は休講だったため）

【Outline (in English)】

There is a story hidden in each of us. Students will learn to bring out their own stories by learning the basics of writing a novel.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understand the basics of writing fiction.
- 2) Identify the story they want to write about and give voice to the character(s).
- 3) Read literature critically.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (four hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes. Students who are more than 15 minutes late will be marked as absent.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

文芸創作講座 B

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学と音楽と芸術との関係を考えながら小説を書くための基礎について学びます。受講者が好きな歌あるいは芸術作品を選び、それをテーマにした物語を書くという実習授業です。

【到達目標】

- 1) 文芸作品を分析することができる。
- 2) 小説を書くための基礎について学ぶ。
- 3) 多角的な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

・前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。
・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 文学と音楽と芸術との関係について考える。
第2回	小説の始まり	様々な文芸作品を読みながら、小説の書き出しについて考える。
第3回	語り手と視点	語り手や視点の設定について考える。
第4回	時間	物語における時間の設定について考える。
第5回	空間	物語の舞台設定について考える。
第6回	小説の技巧	意識の流れや内的独白について学ぶ。
第7回	小説を書く（1）	これまでの授業を踏まえ、自分の小説の構想について考える。
第8回	小説を書く（2）	小説を書きはじめる（1,000字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第9回	小説を書く（3）	小説を書き続ける（前回に加えて2,000字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第10回	小説を書く（4）	小説を書き続ける（それまで書いたものと合わせて5,000字程度）。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第11回	小説を書く（5）	小説を書き続ける（それまで書いたものと合わせて7,000字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第12回	ブラッシュアップ	最終原稿（8,000程度）の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第13回	講評（1）	作品をみんなで読み、講評する。
第14回	講評（2）	作品をみんなで読み、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読む、原稿を書き上げるなど、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018年）
キング、スティーヴン『書くことについて』（小学館、2013年）
ロッジ、デイヴィッド『小説の技巧』（白水社、1997年）
Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014
Wood, James. How Fiction Works. Picador, 2009.

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（20%）、グループワークと合評への参加度（30%）、学期末までに完成させた小説（50%）で総合的に評価します。
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

なし（昨年度は休講だったため）

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of writing a story while considering the relationship between literature, music, and art. Students will write a story based on the theme of a work of art or a song of their choice.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

- a) Analyze literary works.
- b) Understand the basics of writing a novel.
- c) Develop multiple perspectives.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their projects. They will also read other students' stories (four hours per session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

日本芸能論A

2017年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本の豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

春学期前半は雅楽、能楽について講義をします。現代人は欧米の文化に慣れ親しんでいることもあり、むしろ日本の古典芸能に対してはなんとなく苦手意識があるかもしれませんが、この授業を通して、鑑賞のポイントをつかめば、その面白さやこんにちまでそれらが継承されてきた理由が理解できるようになるかもしれません。

春学期後半は受講生による発表・討論で授業を進めます。発表テーマは、日本の芸能であれば時代やジャンルは問いません。発表後、受講生による討論を行い、また新たな視点で日本の芸能について見直し、考察を深めていきます。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループ（3人まで）で、関心を持っている芸能について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【参考】これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「歌舞伎舞台の変遷」「香道について」「寄席の歴史」「日本における『第九』の受容と定着について」「マク・ロの解体ショー」「青森ねぶた祭り 芸術を作る」「女性だけで構成される劇団が生む芸能の特性－宝塚歌劇団の独自性と影響力－」「芸能人とインフルエンサーの境界線」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて

第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	雅楽について
第5回	伝統芸能概説(2)	伎楽について
第6回	伝統芸能概説(3)	能について
第7回	伝統芸能概説(4)	狂言について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容70%（①②③）またはレポート70%（①②④）※、平常点および討論への参加状況30%（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらった課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

※春学期「日本芸能論A」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。秋学期「日本芸能論B」も続けて履修し、そちらで発表する予定の人は、春学期「日本芸能論A」については、発表の代わりにレポートにすることが出来ます。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時にを行いますので、秋学期の受講希望者も、春学期「日本芸能論A」の学習支援システム上で行う連絡を必ず確認してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

日本芸能論B

2017年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で育まれてきた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

秋学期前半は人形浄瑠璃、歌舞伎について講義をします。2025年に公開された映画『国宝』を御覧になって、歌舞伎に関心を持った人も多いのではないのでしょうか。歌舞伎やそれと大きな関わりを持つ人形浄瑠璃に関する知識を身につけることで、それぞれ作品のどこが面白さがわかるようになり、深い鑑賞眼を持つことができるようになるでしょう。

秋学期後半は受講生による発表・討論で授業を進めます。発表テーマは、日本の芸能であれば、時代やジャンルは問いません。発表後、受講生による討論を行い、また新たな視点で日本の芸能について見直し、考察を深めていきます。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ① 芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ② 研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③ プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④ 論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループ（3人まで）で、関心を持っている芸能について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

〔参考〕 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「新能」「文楽の歴史と現在」「茶道の歴史」「落語の演技」「石見神楽の現在に至るまでの変化」「アイヌ文化と芸能の歴史」「新たな芸能の形としての2.5次元ミュージカル」「書道パフォーマンス～表現形態の変遷～」「日韓アイドルの歴史と現代で求められるアイドル像」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	人形浄瑠璃の成立について
第5回	伝統芸能概説(2)	人形浄瑠璃の様相について
第6回	伝統芸能概説(3)	歌舞伎の成立について
第7回	伝統芸能概説(4)	歌舞伎の様相について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容70%（①②③）またはレポート70%（①②④）※、平常点および討論への参加状況30%（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

※秋学期「日本芸能論B」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。春学期「日本芸能論A」から続けて履修し、そちらですでに発表した人は、秋学期「日本芸能論B」については、発表の代わりにレポートにすることができます。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時にを行いますので、当科目の受講を希望する人は、「日本芸能論A」の学習支援システム上で行う連絡を確認してください。

なお、秋学期「日本芸能論B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論A」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

身体表現論 A

2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋舞踊の文化史について講義する。舞踊は最も古い芸術形式である。その発生・発展の経緯を概観する。また、時代ごとに異なる舞踊のスタイルを紹介し、それがどのように文化や社会を反映しているのかについても検討する。舞踊のテクニクについての講義ではないので、注意すること。

【到達目標】

- ・西洋舞踊の文化史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は毎月1回、その月に受けた授業に関するリアクション・ペーパーを提出する。
- ・提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～先史時代の舞踊	授業に必要な概念・用語の説明～舞踊の発生と種類
2	古代文明の舞踊	古代エジプト、古代ギリシア、古代ローマの舞踊
3	中世～ルネサンスの舞踊	中世の社会階層、コメディ・デラルテ、宗教・祭祀と舞踊、死の舞踊、世俗の舞踊
4	ルネサンスの舞踊～宮廷舞踊（16～17世紀）	宮廷舞踊、宮廷バレエの種類（バレエ・コミック、他）、仮面劇、仮面舞踏会
5	宮廷舞踊から劇場へ（18～19世紀）	カマルゴとサレ、ノヴェールのバレエ・ダクシオン、メヌエット、オペラとバレエ（出張中のため、録画した講義を提供する予定）
6	ロマンティック・バレエ（19世紀）	タリオ二、グリジ、エルスラー、ワルツの登場、『ラ・シルフィード』と『ジゼル』
7	クラシック・バレエ（19世紀）	『 Coppélia 』、プティパとイワノフ、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』
8	クラシック・バレエからバレエ・リュスへ（19～20世紀）	『白鳥の湖』、フォーキン、ディアギレフのバレエ・リュス
9	19世紀アメリカの舞台芸術	ミンストレル・ショー、フリーク・ショー、ヴァラエティ・ショー、ヴォードヴィル・ショー

10	アメリカのダンスの誕生	社交ダンス、ジャズ・ダンス
11	アメリカのダンスの成熟	モダン・ダンス～アメリカン・バレエ～ディスコ、ストリート・ダンス
12	ポストモダン・ダンス（1）	モーリス・ベジャール、ピナ・バウシュ
13	ポストモダン・ダンス（2）	ウィリアム・フォーサイス、ローザス
14	講義のまとめ	講義の補足とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

Gayle Kassing. History of Dance. Second Edition. Human Kinetics. Kindle.

クルト・ザックス『世界舞踊史』

邦正美『舞踊の文化史』

【成績評価の方法と基準】

平常点30%：リアクション・ペーパーによる。講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価

期末レポート70%：舞踊の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western dance culture. Dance is the most ancient form of art. This course will survey the origin and development of dance as an art, and present dance styles of various ages. The class will focus on how these dance styles reflect culture and society of a specific age. Be sure that this course will not teach the technique of dance, but the culture of dance.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western dance culture, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of dance critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

身体表現論 B

2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、演劇はその時代の文化と社会を反映している。各時代の文化や社会が、身体表現にどのように影響を及ぼしているかを検討する。

【到達目標】

- ・西洋演劇の歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は毎月1回、その月に受けた授業に関するリアクション・ペーパーを提出する。
- ・提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇（1）	原始社会から古代文明における演劇の発生、アイスキュロス、ソフォクレスについて
3	古代ギリシア演劇（2）	劇場の構造、ソフォクレス（続）、エウリピデスについて
4	中世演劇～エリザベス時代演劇（1）	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の演劇への影響から、エリザベス時代演劇への歴史的展開について
5	エリザベス時代演劇（2）	シェイクスピアの喜劇について
6	エリザベス時代演劇（3）	シェイクスピアの悲劇について
7	フランス古典主義演劇	コルネイユとル・シッド論争、モリエールについて
8	風俗喜劇、市民劇	イギリスの風俗喜劇、フランスの市民劇とその周辺について。マリヴォー、ボーマルシェ、モーツァルトなど
9	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
10	近代演劇（1）	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンダベリ、チェーホフについて

11	近代演劇（2）	ヨーロッパ近代演劇、特にバーナード・ショー、オスカー・ワイルドについて
12	現代演劇（1）	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
13	現代演劇（2）	アメリカのリアリズム演劇について
14	講義のまとめ	秋学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恒存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・ブレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）

【成績評価の方法と基準】

平常点30%：リアクション・ペーパーによる。講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価
期末レポート70%：演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body which is anchored in everyday life and reveals the possibility of a new movement of the body. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. Theatre is always a reflection of culture and society. The class will focus on examining how culture and society of a particular age have influenced the movement of the human body.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western drama, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

美術論A

2017年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2026年度美術論Aでは、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

- ・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
- ・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）

について段階的に幅広い視点で学んでいきます。

以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）

- ・古代美術、中世美術、近世美術
- ・近代美術
- ・現代美術

また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】

西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、具体的な作品や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの実践的なチャレンジに取り組みます。美術の理論と実践の密接な結びつきを理解し、創造的なアプローチを身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方 文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。原始・先史美術からメソポタミア、エジプト、ギリシア、ローマまでの古代美術について扱います。広範な内容となります。歴史を学ぶことはその広がりや考えを果てがありませんが、まずは大きな流れを捕まえておくことが大切だと思います。
第2回	古代美術 原始美術/先史美術、 メソポタミア美術、 エジプト美術、エー ゲ美術、ギリシャ美 術、ローマ美術	ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。ローマ時代からルネサンス以前までのキリスト教と関連した美術の流れについて学びます。この後出てくるルネサンスの美術と比較して、シンプルでわかりやすい装飾的な図像という印象です。形骸化しているという側面もありますが、キリスト教の拡大のために必要であったと想像できます。それぞれの美術が展開した場所と時期は以下のようになっています。
第3回	中世美術 初期キリスト美術、 ビザンティン美術、 初期中世美術、ロマ ネスク美術、ゴシック美術	初期キリスト教美術（西ヨーロッパ）（2～7世紀） ビザンティン美術（東ヨーロッパ）（4～15世紀） 初期中世美術（ドイツ、フランス、アイスランド）（5～10世紀頃） ロマネスク美術（西ヨーロッパ）（11～12世紀） ゴシック美術（西ヨーロッパ）（12～15世紀）
第4回	近世美術 ルネサンス美術、バ ロック美術、ロココ美術	ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。

第5回	ワークショップ（1） 単元の復習・古代美術、中世美術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ	これまで学んだ時代の文化を違うベクトルから見てみましょう。この時代は文字の発達した時代でもあり、情報を残し、伝えるために絵を描くことの発見、それらが発展（もしくは変化）して現在の文字の発明につながっていきました。ギリシア時代には現在使われているアルファベットとほとんど同じものが使われていました。 絵画や文字が発明されたことで、人間は様々な過去の事柄を記録することができるようになり、これらはコミュニケーションの手段の一つとなって、メディアが登場します。芸術の分野でも近代になってコンセプチュアル・アートのような概念的な表現が多くなり、文字は中心的な存在となります。 近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義、ありのままの自然を描こうとするバルビゾン派、芸術を通じて道徳や真実を探究するラファエル前派について学びます。	第8回	ワークショップ（2） 単元の復習・近代美術1、近代美術2 ワークショップ・デッサンの手法	中世、近世、近代美術の復習とワークショップをします。ワークショップでは、絵画を違う観点から考えてみましょう。絵画の目的は現実の世界を平たい紙やキャンバスに定着させることにありますが、歴史の中で様々なテクニックが生まれました。色をだんだん薄くしてみる、前後のものを重ねてみる、近いものを下、遠いものを上の方に描いてみるなどで、奥行きは表現できます。私たちの学んだ中世、近世から近代美術にかけて最も進化したのは線遠近法と呼ばれる方法です。今日は遠近法について理解を深めましょう。 ポスト印象派以降の絵画の新しい試みについての講義です。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。後期印象派という言葉は1906年に美術批評家ロジャー・フライが最初に使い、また1910年にロンドンのグラフトン・ギャラリーで彼は「マネと後期印象派の作家たち」という展覧会を企画し、そのタイトルで正式にこの言葉を用いました。ゴーギャンやゴッホの大胆な色彩や画家の内面性を追求する姿勢は印象派にはなかったもので、またセザンヌは形態の解釈にエネルギーを注ぎました。これらの発想は、フランスを中心としたフォービズムやキュビズム、ドイツを中心とした表現主義の芸術運動に大きな影響を与えました。
第6回	近代美術1 新古典主義 ロマン主義 写実主義 バルビゾン派 ラファエル前派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。 19世紀のフランスを中心としたヨーロッパでは、印象派を軸として次々と新しい芸術運動が現れてきます。アーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーボーなど、生活と結びついた芸術運動も生まれてきました。今回の授業ではそうした様々な動向について扱いますが、見るものをどのように解釈するのか、心の中で感じ取ったものをどのように表現するのかといった写真が発明された以降の課題（そのまま写しとるのではなく、絵画独自の特徴を追求する）について、様々な取り組みや実験がスタートします。	第9回	近代美術3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派、世紀末芸術、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー	1914年から起きた第一次世界大戦は、ドイツ・オーストリア・イタリアが中心の同盟国とロシア・フランス・イギリスの連合国との戦いでした。また、1917年のロシア革命を発端としてソビエト連邦ができました。 この講義では、ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。また、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような作品が登場します。
第7回	近代美術2 印象派、新印象派、ポスト印象派 ナビ派 世紀末芸術 象徴主義（ロシア象徴主義） 素朴派 アーツアンドクラフツ運動 アール・ヌーヴォー 分離派	1914年から起きた第一次世界大戦は、ドイツ・オーストリア・イタリアが中心の同盟国とロシア・フランス・イギリスの連合国との戦いでした。また、1917年のロシア革命を発端としてソビエト連邦ができました。 この講義では、ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。また、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような作品が登場します。	第10回	近代美術4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スティール、パウハウス、ロシア構成主義	今日は「表現の生まれる場所」というテーマで表現の原理原則のような出来事を体験するワークショップをしましょう。特に以下のキーワードについて考えていきます。 ・テキスト ・音 ・身体
			第11回	ワークショップ（3） 単元の復習 近代美術3、近代美術4	

第12回	現代美術1 アンフォルメル 抽象表現主義 ヌー・ポーク・レアリズム、アルテ・ポーヴェラ	第二次世界大戦前後の芸術運動についてお話をします。大戦を挟んでアートの現場がヨーロッパからアメリカに移行します。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義などアメリカを中心として登場した芸術運動、アンフォルメル、ヌー・ポーク・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第13回	現代美術2 ネオダダ、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート 新表現主義	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1970年代の嵐のようなカウンターカルチャーの時代が過ぎ去り1980年代に入り登場したアメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義についても学びます。
第14回	現代美術3 YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート ワークショップ(4) 単元の復習・現代美術1・現代美術2 ワークショップ「テキストとアート」	1989年にベルリンの壁が崩壊し東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。そして、東西対立の時代からアメリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャルリズムを一つのきっかけとして生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニウム前夜に起こったイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist、リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
参考書

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2014年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle Classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

* Art history and art theory which is the basis for understanding art

* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

Learning Objectives

Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google sites contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

美術論B

2017年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2026年度美術論Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。

- ・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
 - ・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
- これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）

- ・原始・古代美術
- ・中世美術、近世美術
- ・近代美術
- ・現代美術

さらに、各単元ごとにワークショップを実施し、実践的な美術活動を通じて学びを深めていきます。

【到達目標】

日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されているので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
第2回	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術について学びます。縄文時代は約1万年前から約3千年前までの時代であり、人々は主に狩猟採集生活を営み、豊かな自然環境と共存しながら、土器や土偶などの芸術作品を生み出しました。紀元前3世紀から紀元3世紀ごろまでの弥生時代には、農耕や稲作が発展し、集落が形成されました。弥生時代の終わりから紀元7世紀頃までの古墳時代には、各地に巨大な古墳が築かれ、そこからは豪華な副葬品や装飾品が発見されています。
第3回	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代について学びます。6世紀後半から7世紀前半にかけての飛鳥・白鳳時代には、仏教が伝来して社会や文化に大きな影響を与えました。8世紀から9世紀にかけての奈良時代には、律令制度が確立し国家の行政や法制度が整備されました。9世紀後半から12世紀半ばまでの平安時代には、貴族文化が隆盛し、平安時代の文学や芸術が栄えました。
第4回	ワークショップ（1） 単元の復習・原始美術、古代美術 プレゼンテーション とディスカッション	原始美術、古代美術に関する単元の復習と、縄文時代以前の道具に関するワークショップを行います。
第5回	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。12世紀末から14世紀半ばまでの鎌倉時代は、武士の政権が台頭しました。禅宗や浄土宗などの新興宗教が台頭しました。室町時代は、14世紀後半から16世紀前半までの時代であり、禅宗美術が更なる発展を遂げ、水墨画が盛んになりました。
第6回	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。16世紀後半から17世紀初頭にかけての桃山時代は、戦国時代の混乱から徳川家康による統一を経た時代です。この時代には茶道、茶室建築が隆盛し、また絵画や彫刻、陶芸など、豊かな文化が開花しました。17世紀初頭から19世紀末までの江戸時代には、風俗や歌舞伎、日常生活の情景を描いた浮世絵が大衆の間で広く愛されました。また、琳派や俳句、狂言など様々な文化が栄えました。

第7回	ワークショップ (2) 単元の復習・中世美術、近世美術 プレゼンテーション とディスカッション	中世美術、近世美術に関する単元の復習と「異文化交流」と「身の回りにある江戸時代」に関するワークショップを行います。
第8回	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化政策により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画が描かれます。第二次世界大戦後の1950年代には実験工房、具体美術協会が結成され、従来の美術の枠を超えた実験的なアプローチや表現が試みられました。続いて1960年代にはアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンターなど新しい芸術運動が始まります。これらの芸術運動は、戦後の日本の芸術に新たな風を吹き込み、アーティストの多様な表現を促進しました。
第9回	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房	近代美術のはじまり、戦後美術に関する単元の復習と、教室内のひととひとの関係性に関するワークショップを行います。
第10回	ワークショップ (3) 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術 プレゼンテーション とディスカッション	1960年代から1970年代の美術に大きな影響力を持ったもの派ともの派以降の美術やアーティストについて学びます。
第11回	1960-1970年代 もの派ともの派以降、新しい表現	1980年代には若いアーティストたちは、前衛的な動きを引き継ぎながら、新たな表現手法に挑戦しました。特にビデオアート、インスタレーション・パフォーマンスなどが注目されました。
第12回	新しい表現 パフォーマンス、ビデオアート、インスタレーション	1990年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
第13回	1990-2020年代 1990年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010年以降	1960-1980年代、1990-2020年代に関する単元の復習と、授業全体のまとめのワークショップを行います。
第14回	ワークショップ (4) 単元の復習・1960-1980年代、1990-2020年代 プレゼンテーション とディスカッション	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle Classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

We will learn a wide range of them step by step.

Learning Objectives

We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

芸術と人間A

2017年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もっても具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を広げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、hoppiiを通してコメントを書いてもらったりすることになります。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。受講希望者が50名を超える場合、初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	-ジョン・フォード -宮崎駿
3	地を走る	-チャールズ・チャップリン -バスター・キートン
4	地で踊る	-フレッド・アステア -ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	-S・エイゼンシュテイン -アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	-キング・ヴィダー -ニコラス・レイ
7	馬に乗る	-ジョン・フォード
8	列車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -黒沢明
9	自動車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	-エルンスト・ルビッチ -ハワード・ホークス
11	壁の向うを聴く	-フリッツ・ラング -ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	-アルフレッド・ヒッチコック -宮崎駿
13	鏡を見る	-オーソン・ウェルズ -吉田喜重

14 まとめ

講義のまとめや補足

課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、映画館やDVDでの作品鑑賞等。本授業の復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点50%＋レポート50%（ただしレポートを提出しなければE評価とします）。

平常点は、出席回数ではなく、毎回のコメントシートでカウントします。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50名以上受講希望者がいる場合、初回（対面式なので注意）に選抜試験を实践し、受講資格を得た学生が受講できます。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価になります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the style of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

芸術と人間B

2017年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域です。本講義は「芸術と人間A」の発展形にあたり、より大きな空間のスケールで映画表現を学びます。主に古典的作品を通し、都市や自然の表現が問題となります。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、鑑賞力を深めることができます。表現技法や映画史の基本知識も身につきます。自分の観る映画のジャンル・年代・地域を広げることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、毎回、hoppiiを通してコメントを書いてもらいます。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。

受講希望者が50名を超える場合、初回（対面式）に、「芸術と人間A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行いますので注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと選抜	-授業の概要の説明 -「芸術と人間A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	-キング・ヴィダー -フリッツ・ラング
3	迷宮都市	-ジャン＝リュック・ゴダール -ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	-ヴィム・ヴェンダース -黒沢清
5	日本家屋	-成瀬巳喜男 -小津安二郎
6	水と船	-溝口健二 -ジャン・ヴィゴ
7	雨	-山中貞雄 -宮崎駿
8	水の宇宙	-アンドレイ・タルコフスキー -ユーリー・ノルシュテイン
9	風	-ジャン・エプスタン -グル・ダッド
10	動物1	-ハワード・ホークス -宮崎駿
11	動物2	-アピチャポン・ウィラセタクン -タル・ペーラ

12	外国人監督による東京1	-クリス・マルケル -ヴィム・ヴェンダース
13	外国人監督による東京2	-ジャン＝ピエール・リモザン -ホウ・シャオシェン
14	まとめ	補遺 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、宿題、映画館やDVDでの映画観賞等。本授業の復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫
その他、随時提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%＋レポート50%（ただしレポートを提出しなければE評価）。

平常点は出席回数ではなく、毎回のコメントシートでカウントします。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却します。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

「芸術と人間A」（春学期）未受講者は選抜試験をする可能性がある。必ず初回に出席すること。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the style of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

仏教思想論 A

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第6回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 四つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』

第7回 仏教の基本思想（3） 仏陀のさとり得た真理とその特徴

『梵天勧請』
『縁』経、他
比較思想的考察第8回 仏教の基本思想（4） 「諸法無我」
人無我と法無我
ミリンダ王経第9回 仏教教団と教団運営
律蔵文献
戒・波羅提木叉第10回 初期仏典講読（1）
第11回 初期仏典講読（2）
『ダンマパダ』
『スッタニパータ』
「慈しみ」他第12回 初期仏典講読（3）
『スッタニパータ』
「田を耕すパーラドヴァージャ」
他第13回 初期仏典講読（4）
『スッタニパータ』
真理についての争い第14回 授業内試験・まとめ
筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、2013年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。

学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

「配布資料の内容が興味深かった」という感想をくれた学生がいました。資料を読み、仏陀自身のことば・思想を、先入見を持たずに、正しく真直ぐに捉え、深く理解することに努めてほしいと思います。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

仏教思想の本質、特に仏教の人生観・世界観の理解のためには、春学期の「仏教思想論A」だけでは不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

仏教思想論 B

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

(本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論A」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(3～4回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について インド仏教思想展開史概説
第2回	部派仏教の成立	仏教思想の多様性・多様化 諸部派成立から大乘仏教へ
第3回	部派仏教(説一切有部)の思想(1)	ダルマの体系(1)： 五位七十五法
第4回	部派仏教(説一切有部)の思想(2)	ダルマの体系(2)： 有為ダルマの二性質
第5回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第6回	大乘仏教(1)	大乘仏教の教理的特徴
第7回	大乘仏教(2)	大乘諸経典(1)： 『般若経』 『阿闍世王経』
第8回	大乘仏教(3)	大乘諸経典(2)： 『維摩経』 ナーガールジュナ(1)： 思想史上的位置づけ 二真理説

第9回	大乘仏教(4)	ナーガールジュナ(2)： 空性、中道 縁起の思想(1)： 外縁起・内縁起 『入楞伽経』
第10回	大乘仏教(5)	縁起の思想(2)： 『稻苳経』
第11回	大乘仏教(6)	縁起の思想(3)： 『稻苳経註』 縁起二種観察法・中道
第12回	大乘仏教(7)	大乘仏教の人生観(1)： 到達目標・理想的境地・中道
第13回	大乘仏教(8)	大乘仏教の人生観(2)： 『維摩経』
第14回	大乘仏教(9)	大乘仏教の人生観(3)： 仏教論理学派と後期中観思想； 仏陀・經典の権威について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin選書、2013年

桜部健・上山春平著『仏教の思想 2 存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、1996年

計良龍成著『中道を生きる：中観』、春秋社、2023年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。

期末レポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

インド本来の大乘仏教思想、特に東アジアには殆ど伝わらなかった後期中観思想等を初めて学ぶ学生に対しては、その人生観等の思想は、新鮮な驚きを感じさせるようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、大乘仏教思想に関心のある方はぜひ受講してほしいと思います。わかりやすい丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン(学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

授業内容の深い理解のために、春学期の「仏教思想論A」から履修することを強く推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (Shrāvākayāna) Buddhism and Mahayana (Bodhisattvayāna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. Sarvāstivādin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
2. Later Madhyamaka philosophy consisting of the ideas of dependent origination, emptiness, middle way and non-abiding nirvana.

3. Dharmakīrti's and later Mādhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

HIS300LA（史学 / History 300）

中国の民族と文化A

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀

第14回 試験と解説

試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

中国の民族と文化B

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする
と全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA (史学/History 300)

古代日本・中国の法と社会 A

2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舎利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察

14 試験

受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読むこと。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

岡野浩二『日本史特講（日本仏教史）』（法政大学通信教育部、2023年）
末木文美士編『新アジア仏教史 11日本1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50%、毎回の出席確認の小テスト50%をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの2段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA (史学/History 300)

古代日本・中国の法と社会B

2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本は、中国から多くの文明・文物を移入した。その重要な役割を担ったのが入唐僧である。ここでは9世紀の円珍の関係史料を主な素材として、入唐僧の実情を探る。その前提として7・8世紀の入唐僧について概観する。9世紀には、円仁が『入唐求法巡礼行記』、円珍が『行歴抄』という旅行記を残しており、円珍関係の古文書も園城寺に現存する。それらの記事から、日本・唐の宗教・政治・社会を比較研究する。

【到達目標】

円珍の旅行記『行歴抄』、円珍の伝記『天台宗延暦寺座主円珍伝』、円珍関係の古文書『園城寺文書』の主要な記事を読解する。それらを素材として、日本・唐の宗教・政治・社会の相違点や特質を把握する。そして、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	道昭・玄昉・鑑真	7・8世紀の入唐交流を概観する
3	最澄・空海・円仁	9世紀の入唐僧を概観する
4	円珍の入唐と身分証	僧侶・俗人の身分証について日唐を比較する
5	円珍の通行許可証	唐の交通路と許可証を考察する
6	円珍がみた天台山	会昌の廃仏とその影響を概観する
7	円珍と円載	入唐僧どうしの交流と確執を読み取る
8	円珍がみた長安・洛陽	唐の寺院・施設・人物を概観する
9	円珍がみた唐の文物	仏教行事や風俗を日唐で比較する
10	円珍の帰国	仏典の保管、天皇・貴族との交流を概観する
11	後続の入唐僧	宗叡・高丘親王らの入唐と円珍との関係を探る
12	円珍と唐の僧侶・商人	帰国後の円珍と天台山・長安の僧侶や貿易商との交流を概観する
13	日本と唐の関係・比較	入唐僧の活動から日本と唐の関係を考察する
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

佐伯有清『円珍』（吉川弘文館、1990年）
佐伯有清『智証大師伝の研究』（吉川弘文館、1989年）
小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下（法蔵館、1982・83年）
園城寺編『園城寺文書 第一巻』（講談社、1998年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』（書苑、1985年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）

【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50％）、②途中で実施する確認試験（30％）、③予習事項の紙面での提出（20％）。以上の3者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3) ①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Enchin's historical materials .

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: Through the travelogues written by monks who visited China from Japan, what is the religious, political, and social differences between ancient Japan and China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの米軍基地が配置された沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との関係、太平洋の島々との関わり、辺野古の新基地建設に反対する民意形成の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で苛烈な地上戦が行われ、県民の4人に1人が犠牲になる過酷な被害を受けました。その後も1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれ、本土との生活格差は広がり、米軍基地の縮小に取り組むと約束した日本政府の約束も果たされません。米国のアジア戦略や中国との関係が、時代と共に変化する中でも沖縄の状況は変わらず、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争後の米国施政下から現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
- ・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
- ・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室でリアルタイムに受講する形式を基本とします。市ヶ谷キャンパス以外の学生の履修や、部活・就活による欠席者らに配慮し、「Zoom」で撮影した授業内容の映像を可能な限り後日配信します。毎回の授業後、感想や質問をリアクションペーパーで提出してもらい、次の授業に活用します。リアルタイムで受講できなかった学生がリアクションペーパーを提出した場合は、出席扱いとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史（1）	ドキュメンタリー動画などを参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史（2）	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、政府の対応に変化

6	1995年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑
7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の15年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日米政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化と日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史（1）	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	朝鮮半島の戦後史（2）	北朝鮮とはどのような国か。現地の映像を参考にして考察。
14	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・準備学習として、教科書や参考書に指定した書籍を読むこと。
- ・復習として、各回の授業後に配信する授業映像を見直したり、リアクションペーパーを策定したりすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・『いま沖縄をどう語るか〜ジャーナリズムの現場から』 高文研、2024年

【参考書】

- ・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年
- ・『観光コースでない沖縄・第5版』 高文研、2023年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、授業への参加度（50%）

期末レポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。

2014年から16年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）なども主宰しています。

【その他の注意事項】

①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。

②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。

③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史B」の前提となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through the current situation and history of Okinawa, which is home to many U.S. military bases, students will learn about Japan's security policy, relations with China and the Korean Peninsula, relations with the Pacific islands, and the process of shaping public opinion in opposition to the construction of a new base in Henoko.

Okinawa was the site of fierce ground battles during the Pacific War, suffering severe damage with one in four residents killed. It remained under U.S. administration until its return to Japan in 1972, and the living standards gap between Okinawa and the mainland widened. The Japanese government's promise to reduce U.S. military bases remains unfulfilled. While U.S. strategy in Asia and relations with China have changed over the years, Okinawa's situation has remained unchanged, with the Self-Defense Forces continuing to be deployed there in the name of preparing for a Taiwan emergency.

Learning about Okinawa will also be beneficial in understanding Japan's modern history and its international relations with Asian countries.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア・太平洋地域には、多くの島嶼および島嶼国家が存在する。本授業では、その中でも特に沖縄に注目する。沖縄は現在、日本の一県・一地域として位置づけられているが、前近代には琉球王府の統治下にある独自の政治体制を有していた。

近代以降、沖縄は「琉球処分」による日本への併合、同化政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）を経て、復帰後も米軍基地の集中と強化など、外部からの政策決定を繰り返し受けてきた。その過程において、沖縄の人びとはさまざまな形で異議申し立てを行いながら、独自の社会と文化を形成してきた。

本授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼地域をめぐる国際関係が生み出してきた現代社会の諸問題を検討する。それを通じて、この地域に生きる生活者としての視点と問題意識を養うことを目的とする。

【到達目標】

本授業では、「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認したうえで、アジア・太平洋国際関係の中で沖縄が現在直面している具体的な課題や問題についてリサーチし、議論する。あわせて、生活者の視点から国際関係と地域社会の問題を考察し、受講生それぞれが関心をもつ、沖縄に関するテーマについて、資料調査を行い、史資料に基づいて議論する力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第2回	「琉球処分」ー東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」の内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第3回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティの模索と思想・文化について考えます。
第4回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。

第5回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第6回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗う民衆運動の展開について確認します。
第7回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第8回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題についてリサーチテーマを検討します。
第9回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第10回	現代沖縄の課題（2）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第11回	現代沖縄の課題（3）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第12回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第13回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第14回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書くこと。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目ー沖縄、占領の今ー』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比呷『沖縄戦、米軍占領史を学びなおすー記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（40%）

レポート中間発表（30%）

リサーチレポート（30%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの文字数、枚数は、受講生の専門やリサーチテーマによって図表を用いるなどの場合を踏まえて、検討します。

【Outline (in English)】

In this class, we will focus on the modern and contemporary history of Okinawa and examine the various problems of contemporary society that have been created by international relations surrounding the Asia-Pacific islands. Through the program, the students aim to develop a perspective and awareness of problems as residents living in this region.

HIS300LA (史学/History 300)

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポートの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明、映像
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン、映像
3	1)「口絵・プロローグ」	学生によるテキストの報告、討論.
4	2) 映像①	関連映像視聴、討論.
5	3)「密航1946年 関釜の間の海〜」	学生によるテキストの報告、討論.
6	4) 映像②	関連映像視聴、討論.
7	5)「第1章植民地の子ども1 朝鮮 1911-24 鯨の町長生浦〜」	学生によるテキストの報告、討論.
8	6) 映像③	関連映像視聴、討論.
9	7)「第1章植民地の子ども2 日本 1924-44 関東大震災の横浜で〜」	学生によるテキストの報告、討論.
10	8) 映像④	関連映像視聴、討論.

11	9)「第1章植民地の子ども3 朝鮮 1944-46 朝鮮に逃げる〜」	学生によるテキストの報告、討論.
12	10)「送還1946 失敗した密航〜」	学生によるテキストの報告、討論.
13	資料館見学	資料館見学
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房 1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書 990円。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50%.

HIS300LA (史学/History 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・在日コリアン概説	自己紹介、授業計画の説明、在日コリアン概説、映像。
2	1)「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（1）密航のち18年の人生～163Pまで）	戦後の在日コリアンの歴史。学生によるテキストの報告、映像、討論。
3	2) 映像⑤	関連映像視聴、討論。
4	3)「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（2）横浜の検閲生活～（164P～）」	学生によるテキストの報告、討論。
5	4) 映像⑥	関連映像視聴、討論。
6	5)「第2章2大津登志子 満州から38度線へ～」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	6) 映像⑦	関連映像視聴、討論。
8	7)「第2章泰玄 money,money,money ～」	学生によるテキストの報告、討論。

9	8) 映像⑧	関連映像視聴、討論。
10	9)「第2章逸己 歴史を準備する人～」	学生によるテキストの報告、討論。
11	10) 映像⑨	関連映像視聴、討論。
12	12)「エビログ、補遺密航の時代」	学生によるテキストの報告、討論。
13	13) 資料館見学	資料館見学
14	14) まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房 1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書 990円。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講された教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution:50%.

GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズA

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動とLGBTQ+運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	クィア・スタディーズとは何か？	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第3回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第4回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo運動	90年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第5回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	欧米におけるLGBTQ運動の歴史を振り返る。
第6回	エイズ危機の時代	アメリカと日本における「エイズ禍」について講義する。
第7回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	日本におけるLGBTQ運動	「府中青年の家」事件やトランスジェンダーの歴史について講義を行う。

第10回	ダイバーシティとインターセクショナルリティ	ダイバーシティとインターセクショナルリティについて考える。
第11回	カミングアウトとアウトティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウトティングについて考える。
第12回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第13回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（ラーニング・ジャーナル）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

浅井春夫、遠藤まめた、染矢明日香、田代美江子、松岡宗嗣（編）『Q&A多様な性・トランスジェンダー・包括的性教育：パッシングに立ちむかう74問』（大月書店、2023年）
 岩渕功一（編）『多様性との対話—ダイバーシティ推進が見えなくなるもの』（青弓社、2021年）
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく1』（見洋書房、2019年）
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく2』（見洋書房、2022年）
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく3』（見洋書房、2023年）
 清水晶子『フェミニズムってなんですか?』（文春新書、2022年）
 周司あきら、高井ゆと里『トランスジェンダー入門』（集英社新書、2023年）
 新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶクィア・スタディーズのために』（花伝社、2022年）
 トッド、マシュー『ヴィジュアル版 LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）
 森山至貴『LGBTを読みとくクィア・スタディーズ入門』（ちくま新書、2017年）

【成績評価の方法と基準】

ラーニング・ジャーナル（毎回Hoppiiを通じて提出すること）：20%
 中間試験：30%
 期末試験：30%
 期末レポート：20%
 毎日出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
 15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。講義内容にセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ+ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

- a) Have basic knowledge of queer studies.
- b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session and submit their learning journal entries (four hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Learning journal (Submit your journal entries via Hosei University Learning Management System at the end of each session): 20%

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

Active participation in class is required.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズB

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
- 2) クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について講義する。
第2回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第3回	性暴力と文学	#MeToo運動と文学の関係について講義する。
第4回	クィア・スタディーズとは？	クィア理論の誕生について講義する。
第5回	近代家族の誕生と再生	アート作品やメディアにおける家族の表象について考える。
第6回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ！』（2001年）を取り上げる。
第7回	恋愛伴侶規範（アマトノーマティビティ）	『そばかす』（2022年）を取り上げる。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	ゲイ解放運動	映画におけるLGBT運動の表象について考える。
第10回	トランスジェンダー問題	トランスジェンダーの歴史について講義する。
第11回	トランスジェンダーの過去と現在	トランスジェンダーの表象について考える。
第12回	日本におけるレズビアン	レズビアン
第13回	の歴史	の可視性やその表象について講義する。
第14回	カミングアウトとアウトティング	映像作品におけるカミングアウトとアウトティングについて考える。
第15回	中間試験	第13回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（ラーニングジャーナル）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』（見洋書房、2021年）
黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉？』（見洋書房、2016年）
新々江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022年）
トッド・マシュー『ヴィジュアル版LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）

平林美都子『女同士の絆 レズビアン文学の行方』（彩流社、2020年）
森山至貴『LGBTを読みとく クィア・スタディーズ入門』（筑摩書房、2017年）
Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

【成績評価の方法と基準】

ラーニング・ジャーナル（毎回Hoppiiを通じて提出すること）：20%

中間試験：30%

期末試験：30%

期末レポート：20%

毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【学生が準備すべき機器他】

授業内試験のためノートパソコンを用意してください。

【その他の重要事項】

基本的な教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, comics, etc.

Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.

b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.

Learning activities outside of the classroom:

Students must read the reference material by the next session and submit their learning journal entries (four hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Learning journal (submit your journal entries via Hosei University Learning Management System at the end of each session): 20%

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

Active participation in class is required.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

キリスト教思想史A

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。春期授業（キリスト教思想史A）は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4回から5回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第2回	第1章 ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第3回	第2章 ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第4回	グループワークと質疑応答	第1章と第2章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第5回	第3章 教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第6回	第4章 アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。

第7回	第5章 中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。
第8回	第6章 中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第9回	グループワークと質疑応答	第3章から第6章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第10回	第7章 トマス・アキナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第11回	第8章 後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第12回	第9章 神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナルの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第13回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどについて学びます。
第14回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇（著）『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズムー』筑摩選書、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13：978-4163909455、2019年、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we as human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage that explores these fundamental questions of existence. This course examines this heritage from the perspectives of faith (believing) and reason (knowing). The course aims to: (1) Deepen students' understanding of Christian doctrine and its historical development. (2) Enhance comprehension of philosophical concepts closely related to Christianity. (3) Explore Christianity's influence on politics, economics, society, and culture (including art and the liberal arts).

Grading Criteria: (1) Evaluation of assignments submitted after each class. (2) Final report at the end of the semester. Each component (1) and (2) will account for 50% of the final grade, and students' overall performance will be assessed comprehensively.

Preparation: Students should read the relevant sections of the textbook in advance. Additionally, they should use reference books to understand technical terms and key concepts (2 hours). Review: Students should go through the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). After each session, they must complete the assigned tasks using the class support system. Furthermore, they should summarize their thoughts on the topic, incorporating insights from discussions with other students (2 hours).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

キリスト教思想史B

2017年度以降入学者

鶴澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業（キリスト教思想史B）は、ルネサンスと宗教改革から近代ヨーロッパ文学の人間観までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、3回から4回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第2回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の歴史的展開、ダンテの『新生』『神曲』、ペトラルカの文学を学びます。
第3回	第11章 キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』を解説します。
第4回	グループワークと質疑応答	第10章と第11章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第5回	第12章 ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルター信仰特質およびキリスト教的靈性の定義などについて説明します。
第6回	第13章 宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。

第7回	第14章 近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第8回	第14章続き パスカールと信仰	パスカルの生涯、決定的回心（メモリアル）、イエズス会との論争について学びます。
第9回	グループワークと質疑応答	第12章から第14章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第10回	第15章 啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライマハーの宗教論について解説します。
第11回	第16章 ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第12回	第17章 ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第13回	第18章 近代ヨーロッパ文学の人間観	中世から近代への歴史的変遷、近代ヨーロッパ文化および文学について学習します。
第14回	秋期授業のまとめと質疑応答	秋期授業の内容を振り返った後で、第15章から第18章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇（著）『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズムー』筑摩選書、2021年、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、2019年、ISBN-13：978-4163909455、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. Scope of autumn classes: students will study everything from the Renaissance and Reformation to modern European literature's view of the human person.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).

Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

LIN300LA (言語学 / Linguistics 300)

異文化コミュニケーション論 A 2017年度以降入学者

鈴木 麻由

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なる文化背景をもつ人との対話は、日常の中に多く存在する。同じ日本人でも、世代や性別などによって価値観は大きく異なる。学業やビジネスにおいて、語学力があっても文化背景の違いから意思疎通が難しい場面もある。この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化（主に日本文化）を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションの基礎である文化背景の異なる人への開かれた心と態度について学習し、理解を深める。
- ③異文化コミュニケーションの理論を学び、積極的な発信型のコミュニケーションであるアサーティブ・コミュニケーション能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・第1回～12回は、講義形式。
- ・第13回は受講者による発表を行う。
- ・第14回は期末試験を行う。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。
- ・Google Classroom を使って授業を行う。
連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 異文化コミュニケーションとは	・授業運営に関する説明・新しい常識発見・ステレオタイプ
第2回	異文化コミュニケーションとは－異文化理解への態度・文化とコミュニケーション－	・日本文化を紹介するなら・文化とは何か・コミュニケーションの定義
第3回	コミュニケーションスタイル－高コンテクストと低コンテクスト－	・コンテクスト・双方向コミュニケーション：ターンテイキング

第4回	コミュニケーションスタイル－パラ言語について考える－	・自己開示・異文化シミュレーション
第5回	言語コミュニケーション－「文化的な意味背景」を理解する－	・ほめ方・叱り方・謝り方
第6回	言語コミュニケーション－文化によるコミュニケーションスタイルの違い－	・自己紹介・誘い方と断り方
第7回	非言語コミュニケーション－いろいろな文化のしぐさ－	・表情・アイコンタクト・しぐさとジェスチャー・タッピング
第8回	非言語コミュニケーション－対人距離を意識化する－	・空間と対人距離・時間の感覚
第9回	価値観	・ことわざ・異文化ケーススタディ・基本価値志向
第10回	自分を知る	・対立管理スタイル・異文化適応力チェック・共感（エンパシー）
第11回	異文化コミュニケーションスキル－相手の理解の枠組みから物事を見る－	・アサーティブコミュニケーション・DIE メソッド
第12回	異文化コミュニケーションスキル－ケーススタディ「対立を解決する」－	・相手の話を聞く（エポケー）・相手を責めない（アイ・ステートメント「わたし文」）・アサーション、総合エクササイズ
第13回	履修者発表	・個人もしくはグループによる発表
第14回	期末試験	・第1～13回のまとめ試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は5時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は60分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

八代京子 荒木晶子 樋口容視子 山本志都 コミサロフ喜美 『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度(平常点)	25%
リアクションペーパー	15%
発表	20%
期末試験	40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・期末試験時にはPCまたはタブレット端末
- ★グーグルクラスルームへの登録を行うこと。

【その他の重要事項】

★受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第1回目に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
(Outline)

We often have to converse with people from different cultural backgrounds in our daily lives. Even among Japanese people, values vary greatly depending on factors such as generation and gender. In academic and business settings, even with language proficiency, there are situations where communication is difficult due to differences in background. This course aims to encourage students to reexamine their own culture and acquire the flexible and open attitude necessary for cross-cultural understanding.

(Learning Objectives)

Students will be able to recognize and appreciate cultures (mainly Japanese culture). They will also learn intercultural communication theory and acquire assertive communication skills, which are positive and diplomatic communication.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 20%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 25%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA (言語学 / Linguistics 300)

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

鈴木 麻由

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化コミュニケーションは「自分探しの旅」だと捉えることができる。それは、異文化理解が自他の文化の違いを通して自分と自文化を見つめ直す営みだからである。他者との出会いは文化同士の出会いでもあり、交流は潜在していた価値観を浮かびらせ、新たな視点に気づく契機となる。異文化接触は往々にして衝突を引き起こすが、同時に融和や創造を生む。この授業では、参加者の内省や意見交換を通して、異文化に対する柔軟な態度と思考を養うことを目的とします。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ③異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・第1回～第12回は講義形式で行う。
- ・第13回は履修者による発表を個人もしくはグループで行う。
- ・第14回は期末試験を行う。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。
- ・課題へのフィードバックは適宜、授業内もしくはクラスのgoogle classroomで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己、アイデンティティ、文化「他を知り己を知る」	・授業運営に関する説明 ・自己の形成への文化のかかわりを整理する
第2回	コミュニケーションと文化	・既存のコミュニケーションモデルの限界 ・異文化接触による文化融合
第3回	コミュニケーションと意識構造	・意識/世界の衝突と異文化コミュニケーション
第4回	空間の認識	・空間の認識と様々な感覚 ・固定空間と半固定空間
第5回	時間の認識	・共同社会と利益社会におけるテンポの違いが人間関係に与える影響
第6回	言語の力	・サピア・ウォーフの仮説を日本語と英語とその言語世界を比べ、検証する

第7回	場の形成	・なわばりについて考える ・文化的コンセンサス
第8回	カルチャーショック	・U型曲線とW型曲線が示す適応のプロセス ・「適応」とはどのような状態か 「カルチャーショック」とはどのような現象か
第9回	価値・規則と異文化接触	・規範および慣習の違いから起こりうる軋轢について考える
第10回	コミュニケーション能力と相互理解	・相互理解のプロセス ・「コミュニケーション能力が高い」とはどのようなことか
第11回	グローバル化	・文化の画一化 ・世界の画一化および二分化を回避するための議論
第12回	グローバル化とアイデンティティ	・「グローバル市民」「文化を越えたアイデンティティ」という考え方に含まれる矛盾
第13回	履修者発表	・個人もしくはグループによる発表
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

池田理知子/E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション入門』有斐閣アルマ

古田暁/石井敏/岡部朗一/平井一弘/久米昭元『異文化コミュニケーションキーワード[新版]』有斐閣

その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（平常点） 25%

リアクションペーパー 15%

発表 20%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

・本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。

・期末試験時にはPCまたはタブレット端末

★授業の運営はグーグルクラスルームで行う。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ・法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

Intercultural communication can be seen as a "journey of self-discovery." This is because intercultural understanding is an endeavor to reexamine oneself and one's own culture through the cultural differences between oneself and others. Encounters with others are also encounters between cultures, and exchanges can bring to light hidden values and provide an opportunity to become aware of new perspectives. Intercultural contact often leads to conflict, but at the same time, it can also produce harmony and creativity. The purpose of this class is to foster flexible attitudes and thinking toward different cultures through participants' introspection and exchange of opinions. (Learning Objectives)

1. Become aware of and put into perspective cultures that you may not have been aware of before.
2. Consider how to apply knowledge and skills in actual communication.

3. Acquire basic academic knowledge about intercultural communication (knowledge of terminology, concepts, theories, etc.).

(Learning activities outside of classroom)

Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 20%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 25%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、小説やマンガ、映像作品を通じて、主に女性作家が愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や、労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の実相を考察することにあります。それは、社会における〈居場所さがし〉の軌跡に迫ることであり、ジェンダー規範生成の内実を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。

受講人数によりますが、可能な限りやペアワークをグループワークを取り入れます。また、各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った女性史の内側や、文学史の外部を参照しながら、抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を追求します。適宜、映画・ドラマなどの映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。受講人数によりますが対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、導入として、「白雪姫」のパロディの読み比べ
対面授業	池田理代子『ベルサイユのばら』、手塚治虫『リボンの騎士』	〈男装〉による居場所さがし①・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『大奥』（ドラマ参照）	〈男装〉による居場所さがし②・グループワークと意見交換

対面授業	萩尾望都『あそび玉』、小川洋子『密やかな結晶』	管理社会における居場所さがし①・グループワークと意見交換
対面授業	管理社会と文学② マーガレット・アトウッド「侍女の物語」	管理社会における居場所さがし②・グループワークによる意見交換
対面授業	大島弓子『ロングロングケーキ』	〈病〉における居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	小山田浩子「工場」	労働と居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	笠野頼子「母の発達」、萩尾望都「イグアナの娘」	〈母娘〉における居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	吉本ばなな「キッチン」（映画参照）	家族の多様性と居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	グループ発表①	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表②	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表③	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表④	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在—貧困・労働・格差』（2016・4、青柿堂）、『新編』日本女性文学全集 全12巻（矢澤・12巻責任編集、2020・3、六花出版）、新・フェミニズム批評の会編『現代女性文学論』（2024・12、翰林書房）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表等の平常点が50%、期末レポートが50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料はできるだけ早めに配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、小説やマンガを通じて、主に女性作家が愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、社会における〈居場所さがし〉の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範生成の内実を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。

各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかにより時代に結びついているのかを学びます。

現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った経緯を女性史の内側や文学史の外部を参照しながら追求し、抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を考えます。

適宜、映画・ドラマ等の映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめた簡単なレジュメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。希望者による個人発表も計画します（加点あり）。

＊都合があれば、時には海外の研究者をお呼びして講演してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学期の振り返り／発表に導入として、「世界の子の昔話」を読む。
対面授業	江國香織『きらきらひかる』（映画参照）	性の多様化と居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『きのう何食べた？』（ドラマ参照）	性の多様化と居場所さがし② ・グループワークと意見交換

対面授業	須藤佑実『夢の端々』	性の多様化と居場所さがし③ ・グループワークと意見交換
対面授業	村田沙耶香『コンビニ人間』	「普通」概念と居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	ハン・ガン『菜食主義者』	「普通」概念と居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	津島佑子『寵児』、八木詠美『空芯手帳』	「産む性」と居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	川上未映子「青かける青」、村田沙耶香「無」	コロナ禍における居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	山下紘加「あくてえ」／上村裕香「泣いてんじゃねえよ」	ケアと居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	メアリー・シェリー「フランケンシュタイン」、大原富枝「婉という女」	「歴史」と居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	川上未映子「あなたの鼻がもう少し高ければ」、上村裕香「美華とミカ」	ルッキズムと居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	個人発表①	報告者による報告と討議
対面授業	個人発表②	報告者による報告と討議
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 振り返り 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【予習】報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジュメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト（教科書）】

取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、葺柿堂）、『[新編] 日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、2020・3、六花出版）、新・フェミニズム批評の会編『現代女性文学論』（2024・12、翰林書房）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が50％、期末レポートが50％とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料は事前にできるだけ早く配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

徳と倫理 A

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。春学期は其中でも古代・中世に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていく。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】

- ・古代・中世における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	古代から中世の徳倫理学
第2回	プラトン①	徳と知
第3回	プラトン②	善とイデア
第4回	アリストテレス①	徳と善と幸福
第5回	アリストテレス②	幸福と社会
第6回	エピクロス	快と幸福
第7回	ストア派	理性と幸福
第8回	アウグスティヌス①	キリスト教と徳
第9回	アウグスティヌス②	悪と自由
第10回	トマス・アキナス①	徳と神
第11回	トマス・アキナス②	神と幸福
第12回	キリスト教における救済論	徳と死生観
第13回	主意主義とキリスト教的倫理思想	理性と信仰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編、ミネルヴァ書房、1996年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concepts to focus on are "virtue" and "goodness."

【Learning Objectives】

This course aims to deepen your understanding of ethical thought in ancient and medieval times, to practice considering ethical issues, and to enhance your self-awareness by exploring a range of ethical ideas.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

徳と倫理B

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。秋学期は中でも近世～現代に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていくのだが、とりわけ「徳倫理学」について重点的に扱う。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】

- ・近世～現代における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	徳倫理学とは
第2回	ルターと信仰	自由意志と奴隷的意志
第3回	ヒュームと徳	人間本性と共感
第4回	義務倫理	カントの自律
第5回	功利主義	幸福と利益
第6回	メタ倫理と情緒主義	「善」とは何か
第7回	ロールズと正義	善と正
第8回	アンスコムと徳①	道徳哲学の有益性について
第9回	アンスコムと徳②	行為と意図
第10回	マッキンタイアと徳	倫理思想の歴史
第11回	共同体主義と徳	個人は共同体に先立つか
第12回	現代の徳倫理学①	アリストテレスへの回帰
第13回	現代の徳倫理学②	徳倫理学は何を問うのか
第14回	倫理的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
ダニエル・C・ラッセル編『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』立花幸司監訳、春秋社、2015年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to provide a roadmap for ethical conversations by offering an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concept to focus on is virtue ethics.

【Learning Objectives】

This course aims to deepen your understanding of ethical thought from early modern to modern times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

人間存在論 A

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「人間存在論A」〔哲学専攻科目「人間学5（人間存在論）A」〕では、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心に考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラ、スラヴォイ・ジジェク、カトリヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理的に考察する。

【到達目標】

- ①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
- ②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
- ③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には、講義形式で行う。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
- ・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	ドゥルーズの『フーコー』を読む①	古文書からダイアグラムへ① 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『知の考古学』分析

3	ドゥルーズの『フーコー』を読む②	古文書からダイアグラムへ② 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『言語表現の秩序』分析
4	ドゥルーズの『フーコー』を読む③	古文書からダイアグラムへ③ 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『言葉と物』分析
5	ドゥルーズの『フーコー』を読む④	古文書からダイアグラムへ④ 2.新しい地図制作者（『監獄の誕生』） ・『監獄の誕生』分析
6	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑤	古文書からダイアグラムへ⑤ 2.新しい地図制作者（『監獄の誕生』） ・『性の歴史』第1巻「知への意志」分析
7	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑥	トポロジー、「別の仕方で考えること」① ・地層あるいは歴史的形成物
8	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑦	トポロジー、「別の仕方で考えること」② ・可視的なものと言表可能なもの（知）
9	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑧	トポロジー、「別の仕方で考えること」③ ・戦略あるいは地層化されないもの①
10	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑨	トポロジー、「別の仕方で考えること」④ ・外の思考（権力）
11	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑩	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑤ ・褶曲あるいは思考の内（主体化）
12	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑪	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑤ ・『性の歴史』第2巻「快楽の活用」分析
13	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑫	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑥ ・『性の歴史』第3巻「自己への配慮」分析
14	ドゥルーズの『フーコー』とは何だったのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

・ジル・ドゥルーズ『フーコー』河出文庫、2007年

参考文献

- ① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ② 岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】

参考文献

- ① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ② 岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年
- ④ 船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
- ⑤ 船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
- ⑥ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年

⑦ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
- (2) 期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・秋学期科目「人間存在論B」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）B）」と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。

・また「受講上の注意」として、秋学期科目「人間存在論B」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）B）」については、選抜試験で「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A）」の受講許可のある学生のみが登録・履修できることに注意してもらいたい

【受講上の注意】

- ・本授業は、定員（30名）が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。
- ・初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course "Human Ontology A" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) A"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Žižek, Catherine Malabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

人間存在論 B

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「人間存在論 B」〔哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論）B〕は、春学期科目「人間存在論 A」（哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論）A」との連続性がある科目である。「人間存在論 A」と同様に、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心に考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラ、スラヴォイ・ジジエク、カトリーヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理的に考察する。

【到達目標】

- ①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
- ②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
- ③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には、講義形式と演習形式の双方で行うことを考えている。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
- ・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明

2	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む①	序論①
3	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む②	1. 哲学 ① ひとつの概念とは何か
4	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む③	1. 哲学 ② 内在平面
5	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む④	1. 哲学 ③ 概念的人物
6	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑤	1. 哲学 ④ 哲学地理
7	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑥	2. 哲学——科学、論理学、そして芸術 ⑤ ファンクティブと概念
8	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑦	2. 哲学——科学、論理学、そして芸術 ⑥ 見通しと概念
9	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑧	2. 哲学——科学、論理学、そして芸術 ⑦ 被知覚態、変様態、そして概念
10	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑨	3. 結論 ・カオスから脳へ
11	ドゥルーズ哲学解説①	千葉雅也『働きすぎではいけない』① ・切断論・生成変化の原理
12	ドゥルーズ哲学解説②	千葉雅也『働きすぎではいけない』② ・関係の外在性、存在論的ファシズム
13	ドゥルーズ哲学解説③	千葉雅也『働きすぎではいけない』③ ・『ニーチェと哲学』における〈結婚存在論〉の脱構築
14	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑩	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・ジル・ドゥルーズ『哲学とは何か』河出文庫、2012年
 - ・近藤和敬『ドゥルーズとガタリの『哲学とは何か』を精読する——〈内在〉の哲学試論』講談社選書メチエ、2020年
 - ・千葉雅也『働きすぎではいけない——ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』河出文庫、2017年
- ※ドゥルーズのテキストについては、授業参加者は必ず各自で準備すること。
- ※他のテキストについては、随時、こちらで準備するが、各自がなるべく準備することが望ましい。

【参考書】

- ① 船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
- ② 船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
- ③ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年

- ④ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年
- ⑤ 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ⑥ 岡本裕一朗『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ⑦ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
- (2) 期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業内の質問は授業内で解決する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・本科目の内容は、春学期科目「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A）」と内容的に連続しており、またその内容を前提しているため、できる限り両科目を受講することが望ましい。
- ・現代哲学のなかでも、ドゥルーズの哲学は極めて難解であり、本科目のテキストは、難解を極めるので、出席する場合は、準備を怠らないでもらいたい。

【受講上の注意】

- ・本授業は、定員（30名）が決められている。「人間存在論A」の初回の授業で、選抜試験を合格し、授業担当者から受講許可がある学生のみが受講登録できる。
- ・春学期「人間存在論A」の試験を未受験の人は、受講登録できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course "Human Ontology B" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) B"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Žižek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

POL300LA (政治学 / Politics 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後イギリスの政治と社会の変化とロック・ミュージックの交錯を検討することによって新自由主義と何であるかに学ぶ。特にマンチェスターのロック・シーンに注目する。また、日本との比較を行う。

【到達目標】

新自由主義について知る。

戦後イギリスの政治・社会の転換点としての1979年の意味について知る。

イギリスにおけるマンチェスターがもつ意味について知る。

MADCHESTERについて知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テーマに関する文献講読、映像視聴、個人&グループ発表、ディスカッションを行う。

授業の初めに、前回の授業に関する復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	話し合いによるゼミの具体的な内容の決定
#2	映像視聴（1）	Seven Ages of Rock 3 Blank Generation: Punk rock の視聴と議論
#3	映像視聴（2）	Seven Ages of Rock 7 What the World Is Waiting For: British Indie rock の視聴と議論
#4	映像視聴（3-1）	マンチェスターの歴史と音楽に関する映像の視聴と議論（1）
#5	映像視聴（3-2）	マンチェスターの歴史と音楽に関する映像の視聴と議論（2）
#6	文献講読（1-1）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：ビートルズを中心に
#7	文献講読（1-2）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：豊かな社会と労働者階級の変容
#8	文献講読（1-3）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：フォードイズムの崩壊とパンクロック
#9	文献講読（1-4）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：サッチャリズムとマンチェスター
#10	音楽聴取と映像視聴	Madchester

#11	文献講読（2）	Joy Division~New Order: マンチェスターの再生あるいはthe Neoliberal City化
#12	文献講読（3）	OASIS と新自由主義
#13	文献講読（4）	イギリスの労働者階級の現在：モリッシーの言説を通して
#14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回に決定

【参考書】

デヴィッド ハーヴェイ『新自由主義：その歴史的展開と現在』（作品社、2007年）

ミシェル フーコー『ミシェル・フーコー講義集成〈8〉生政治の誕生（コレージュ・ド・フランス講義1978-79）』（筑摩書房、2008年）
小関隆『イギリス1960年代-ビートルズからサッチャーへ（中公新書、2021年）

ジョン サヴェージ『イングランド・ドリーミング』（シンコーミュージック、1998年）

マーク フィッシャー「もはや喜びはない——ジョイ・ディヴィジョン」 in 『わが人生の幽霊たち——うつ病、憑在論、失われた未来』（ele-king books、2019年）

Martin J. Power, Eoin Devereux, and Aileen Dillane eds, Heart and Soul: Critical Essays on Joy Division (Rowman & Littlefield International, 2018)

Leonard Nevarez, “How Joy Division Came to Sound Like Manchester: Myth and Ways of Listening in the Neoliberal City,” Journal of Popular Music Studies, Volume 25, Issue 1, Pages 56– 76.

nevarez-how-joy-division-came-to-sound-like-manchester.pdf
ジェームズ・ナイス『ファクトリー・レコード全史』（シンコーミュージック、2025年）

横田勇司(著), 大和田良(写真)『マッドチェスターの光芒：ニュー・オーダーからザ・ストーン・ローゼズへ MADCHESTER 1988-1992』（スローガン、2024年）

Seven Ages of Rock (BBC, 2007)

NHK BS 世界のドキュメンタリー / みんなロックで大人になった（2009年）

3 Blank Generation: Punk rock

7 What the World Is Waiting For: British Indie rock

Seven Ages of Rock - Wikipedia

Grant Gee, Joy Division (2007 DVD)

ニュー・オーダー・ストーリー（1993/2005, DVD）

デボラ カーティス『タッチング・フロム・ア・ディスタンス：イアン・カーティスとジョイ・ディヴィジョン』（蒼水社、2006年）
バーナード・サムナー『ニュー・オーダーとジョイ・ディヴィジョン、そしてよく』（ele-king books、2015年）

ジョン サヴェージ『この灼けるほどの光、この太陽、そしてそれ以外の何もかも——ジョイ・ディヴィジョン ジ・オーラル・ヒストリー』（ele-king books、2019年）

ブレイディみかこ『いまモリッシーを聴くということ（ele-king books、2017年）

ジョニー・マー『ジョニー・マー自伝 ザ・スミスとギターと僕の音楽』（シンコーミュージック、2017年）

アレックス・ニヴン『オアシスの階級闘争《Definitely Maybe》で読み解く、音楽とポピュリズム』（DU BOOKS、2025年）
OASIS『スーパーソニック 完全、公式、ノーカット・インタビュー』（光文社、2025年）

【成績評価の方法と基準】

ゼミの課題にたいする対応度

【学生の意見等からの気づき】

新規の内容のゼミなので言及すべき点はない。

【学生が準備すべき機器他】

PCあるいはタブレット

【その他の重要事項】

学期中、以下のことを考えてください。

Oh Manchester, so much to answer for

“Suffer Little Children “by The Smith
Manchester, so much to be thankful for

Phil Gatenby

Morrissey’s Manchester: The Essential Smiths Tour: 2nd
Edition(2009)

【Outline (in English)】

This seminar investigates the nature of neoliberalism through
an analysis of how postwar political and social transformations
in Britain intersected with the evolution of rock music, with
particular attention to Manchester’s rock scene. A comparative
examination with Japan is also undertaken.

SOC300LA (社会学 / Sociology 300)

福祉社会論 A

2017年度以降入学者

小峯 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉社会論Aでは「経済思想から福祉社会を考える」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。過去から現在にかけて、世の中には貧困や格差など、福祉に直結する経済問題が溢れています。この授業では、イギリスの救貧法を出発点として、福祉に関する考え方がどのように変化していったのか、そこに経済学者を含めた多くの思想家がどのような貢献を果たしたのかを辿ります。意外にも経済学者は単にカネの亡者や利己的な人間像ではなく、社会全体の幸福（＝福祉）について多くの見解を示してきたのです。この授業では、経済学の助けを借りながら、福祉社会に関する知見を学ぶしたいと思います。

【到達目標】

「どのような社会が望ましいのか、福祉社会とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「経済思想から福祉社会を考える」に関して、過去と現在の経済学者・経済思想家の発想を借りて、現在の福祉問題（生きづらさ、学習障碍、ハラスメント、働き方、ケア、外国人排斥、少子高齢化など）に対し、触れる・知る・理解するという三段階で、外部の知を自分の血肉にするのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業を次の三段階で構成します。（１）現代の福祉問題に触れる。（２）過去の経済思想を知る。（３）まとめとして、グループ討論またはreaction paperによって、自分なりに問題を理解する。授業の順序は、教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めます。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（LGBTQ、アメリカ大統領選、イギリスのEU離脱など）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～福祉と／の 経済思想	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介；現代の不安・不利益とは何か（教科書・第1章）
2	経済の発見と福祉の問題～旧救貧法の成立まで	経済と福祉の関係；死刑や元受刑者の問題（教科書・第2章）
3	スミスと労働貧民～商業文明の開化	分業、国富；推し活（サービス業、消費文化）、外国人労働者（教科書・第3章）
4	ベンサムと改正救貧法～監獄の誕生	功利主義；マイナ保険証、監視社会（教科書・第4章）
5	マルサス・リカードの経済論争～救貧法批判へ	人口論；少子化・避妊・人工中絶（教科書・第5章）

6	J.S. ミルの協同組合～自湯主義の二側面	定常状態；不倫、選択的夫婦別姓問題（教科書・第6章）
7	マルクスの資本主義観～疎外、搾取	産業革命の負の遺産；非正規雇用、働き方改革、ハラスメント（教科書・第7章）
8	マーシャルの経済騎士道～論語と算盤	科学的貧困調査；社会的企業、企業の社会的責任（教科書・第11章）
9	ビグーの福祉経済学～welfareとは	自由党の改革；世界幸福度調査、ウェルビーイング（教科書・第12章）
10	日本の福祉思想～福田徳三と河上肇	経世済民；震災復興（教科書第16章）
11	福祉国家の合意～ケンズとベヴァリッジ	完全雇用と社会保障；生活保護は恥辱か（教科書・第17章）
12	福祉国家の変貌～ミュルダール、ハイエク、フリードマン	福祉世界へ、負の所得税；高等教育の無償化（教科書第21章・第22章・第23章）
13	サッチャー・ブレアの挑戦～リベラリズムの興隆	新しい福祉国家像；働き方改革、移民問題、正義の戦争（教科書第25章）
14	この授業のまとめ 理解度小テスト	現代の福祉問題（触れる）→過去の経済思想（知る）→討論とRP（理解する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

・小峯敦編（2025）『福祉の経済思想家たち【第三版】』ナカニシヤ出版。

<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b10134458.html>

【参考書】

・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。（経済学LAの教科書）
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

・小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』見洋書房。（経済学LBの教科書）

<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【成績評価の方法と基準】

（１）平常点：40％

（２）理解度小テスト：60％

（１）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の内容および提出回数、その他授業への参加度合い（特にグループ討論）等によって定めます。

（２）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ1枚）が持ち込み可能です。

（３）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「福祉社会とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を目指す学生や教職課程の学生にも有用です。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

'Welfare Society Theory A' focuses solely on “considering welfare society through economic thought”, approaching this issue from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy-based. From the past to the present, society has been rife with economic problems directly linked to welfare, such as poverty and inequality. This course traces how welfare concepts evolved, beginning with Britain's Poor Laws, and examines the contributions made by numerous thinkers, including economists. Surprisingly, economists have not merely been portrayed as money-grubbers or self-serving individuals; they have offered numerous perspectives on the welfare of society as a whole. This course aims to explore insights into the welfare society with the aid of economics.

SOC300LA (社会学 / Sociology 300)

福祉社会論 B

2017年度以降入学者

服部 あさこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉は、実践と呼応しながら理論が洗練され、制度が形成されてきた。若くて健康な人々にとって福祉は身近に感じにくい、実際には人々はみな福祉の受益者であり担い手でもある。日本の社会保障制度を軸として、形成と変動の歴史、諸外国との比較を通して、社会福祉に関連する概念を整理する。また、制度ではカバーしきれない対象への福祉実践の事例を知り、福祉がわれわれ一人一人の尊厳を守るものであることを理解する。

【到達目標】

社会保障制度について、自身ととくに深いかかわりのあるものの概略を説明できる。

諸外国の実践と比較して、日本の社会福祉の考え方の特徴を説明できる。

制度と個別のニーズは必ずしもマッチングしないという事例を挙げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に対して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取りあげて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、福祉のイメージ	あなたと社会福祉について思い出を教える
2	社会福祉制度（1）	日本における社会保障制度の概要
3	社会福祉制度（2）	日本の社会福祉の歴史
4	社会福祉制度（3）	欧米の社会福祉の歴史
5	生活困窮者と福祉（1）	自分は困窮者にならないといえるか
6	生活困窮者と福祉（2）	オリンピックが排除したもの
7	子どもの福祉（1）	子どもが「守られるべき存在」ではなかった時代
8	子どもの福祉（2）	社会で育てるといふこと
9	女性、母子と福祉	「女ばかりが優遇される」言説の周辺にあるもの
10	障害と福祉（1）	バスはいつから低床になったのか
11	障害と福祉（2）	隔離しない国が考えていること、してきたこと

12	地域福祉	「この土地で暮らしたい」をいかにしてかなえるか
13	厚生と正義	主観的な満足は数字で測れるか
14	総括	「頑張る」ことに疲れても、安心して生きるための知

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

阿部彩、2011『弱者の居場所がない社会——貧困・格差と社会的包摂』講談社

安積純子ほか編著、1990『生の技法——家と施設を出て暮らす障害者の社会学』藤原書店

杉田真衣、2015『高卒女性の12年 不安定な労働、ゆるやかなつながり』大月書店

湯浅誠、2008『反貧困：「すべり台社会」からの脱出』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Learn about Japan's social security system.

Learn about the history of social welfare in other countries.

The standard preparation and review time for this class is two hours each. Read your notes. Research the concepts you have learned in your book.

Grades are distributed 70% based on test scores and 30% based on regular class behavior.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー A

増淵 敏之

授業コード：Q6209 | 曜日・時限：月4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年年
 備考（履修条件等）：定員制(30)
 地理学科生は選択科目として履修する。
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来の例えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス/Guidance. /Guidance.

第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.
第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面 /Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/Ryotaro Shiba and Shohei Fujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata.	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出 /Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象 /The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介 /Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考 1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考 /Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興 /"Girls & Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る /Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。
 The class will focus on the resume.

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之、彩流社
 「物語を旅するひとびと2」増淵敏之、彩流社
 "People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha

"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

30% for regular classes, 70% for reports

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】

映像を使用することもある。

Sometimes video is used.

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16～18時。

Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー A

2017年度以降入学者

増淵 敏之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的に言えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていく。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス/Guidance.
第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.

第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面/Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/Ryotaro Shiba and Shohei Fujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata."	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出/Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象/The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介/Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考/Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興/"Girls & Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る/Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。
The class will focus on the resume.

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社
「物語を旅するひとびと2」増淵敏之, 彩流社
"People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha
"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

30% for regular classes, 70% for reports

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】

映像を使用することもある。

Sometimes video is used.

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16～18時。

Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー B

2017年度以降入学者

増淵 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】

- ・セミナーAの発展的授業です。
- ・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
- ・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
- ・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
- ・This is an advanced seminar A class.
- ・Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
- ・Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
- ・We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。

Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス /guidance	授業の概要/Class outline

第2回	取り巻く環境の変化 /Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済、社会状況の変化についての説明 /Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content
第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象 /Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ /Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ /Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化 /Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介 /Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Uonuma, Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来） /Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。

Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】

特にありません。PP（授業資料）を配布します。

Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】

増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha
Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。

Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケートを授業に反映させていく。

The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

Nothing in particular.

【その他の重要事項】

- ・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
- ・オフィスアワー月曜日16～18時
- ・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
- ・ We recommend taking Seminar A before taking this class.
- ・ Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
- ・ As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

- ・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

- ・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

- ・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

- ・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー B

増淵 敏之

授業コード：Q6210 | 曜日・時限：月4/Mon.4
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年
 備考（履修条件等）：定員制(30)
 地理学科生は選択科目として履修する
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】

- ・セミナーAの発展的授業です。
- ・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
- ・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
- ・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
- ・This is an advanced seminar A class.
- ・Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
- ・Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
- ・We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。

Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス /guidance	授業の概要/Class outline

第2回	取り巻く環境の変化 /Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済、社会状況の変化についての説明 /Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content
第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象 /Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ /Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ /Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化 /Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介 /Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来） /Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。

Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】

特にありません。PP（授業資料）を配布します。

Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】

増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha
Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。

Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケートを授業に反映させていく。

The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

Nothing in particular.

【その他の重要事項】

- ・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
- ・オフィスアワー月曜日16～18時
- ・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
- ・ We recommend taking Seminar A before taking this class.
- ・ Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
- ・ As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

- ・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

- ・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

- ・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

- ・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

CUA300LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

文化人類学方法論 A

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、私たちの日常生活の場における、他者や自然や世界についての別様の「しり方」とその表現を学ぶ。自らに対する感受性を麻痺させること（自分に対する抑圧者になること）と、様々な形の暴力の問題（植民主義／開発や自然環境破壊など）との結びつきについて学ぶ。日々の暮らしの中で自分自身への感性を取り戻すことで、他者への感受性や想像力を育むことはますます重要になっている。国内外の様々な文芸作品や映像などに触れながら、自分や世界に対する感性の回復を試み、それを足場にして自他を理解する人類学の可能性を探る。思考や分析によってのみならず、感じることや「他者」に圧倒されること、自己変容することを通じて、他者や世界、そして自分を「しる」方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然と人間との関わり方について、異なる文化や社会の人々の視点や、環境破壊の現場を生きる人々の思想から理解できる。
- ・自分自身や自然に対する感性の摩耗と、植民主義／開発や自然環境破壊とが地続きであることが理解できる。
- ・自然とのつながりの回復を通じて、自分自身とのつながりを取り戻すという経験について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッションの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
- ・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
- ・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
- ・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	アラスカ先住民の世界①	・アラスカ先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第3回	アラスカ先住民の世界②	・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション

第4回	アラスカ先住民の世界③	・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション
第5回	北米先住民と植物の世界①	・北米先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第6回	北米先住民と植物の世界②わたしたちが享受するもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第7回	北米先住民と植物の世界③わたしたちがお返しするもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第8回	水俣病の思想 ①	・水俣病についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第9回	水俣病の思想②近代とシステム社会、「加害者」／「被害者」	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第10回	水俣病の思想 ③「魂のゆくえ」と救済、「命のふるさと」／おのれに還る	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第11回	自然と自分に対する感性を取り戻す①	・文献発表、ディスカッション ・R. カーソン『沈黙の春』
第12回	自然と自分に対する感性を取り戻す②	・R. カーソン『センス・オブ・ワンダー』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第13回	自然と自分に対する感性を取り戻す③	・映像鑑賞とディスカッション
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表、朗読に使用する文献やテキストの予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・緒方正人. 2020『チッソは私であった 水俣病の思想』河出書房新社。
- ・キマラー, R. W. 2018『植物と叡智の守り人: ネイティブアメリカンの植物学者が語る科学・癒やし・伝承』三木直子訳 築地書館。
- ・星野道夫.
- 1998『イニユニック』新潮社。
- 2000『ノーザンライツ』新潮社。
- ・ネルソン, R. 1999『内なる島：ワタリガラスの贈り物』星川淳訳 めるくまー。
- ・Carson, R.

1962 Silent Spring, Houghton Mifflin. (『沈黙の春』渡辺政隆訳 光文社)

1965 The Sense of Wonder: A Celebration of Nature for Parents and Children, Harper & Row. (『センス・オブ・ワンダー』新潮社 上遠恵子訳)

(その他、必要に応じて関連資料を配布する。)

【参考書】

- ・落合一泰. 1997『東方の驚異、ワイルド・マン、インディアン、グリーザー：近代西欧＜民族人類学＞によるアメリカ大陸の＜占有＞』青木保ほか編『岩波講座 文化人類学 第1巻 新たな人間の発見』岩波書店 pp. 141-80.
- ・松村圭一郎. 2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版。
- ・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社。
- (その他、必要に応じて紹介する。)

【成績評価の方法と基準】

- ・発表と討論の内容、毎回のリアクション・ペーパー、授業への参加態度など平常点 (40%)
- ・学期末レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通して置いて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course deals with other ways of “knowing” others, nature, and the world in our daily lives. The goal of this course is to learn the relationship between numbing one’s sensitivity to oneself (becoming one’s own oppressor) and various forms of violence (colonialism/development, destruction of the natural environment, etc.). It is becoming increasingly important to nurture sensitivity and imagination toward others by regaining sensitivity to oneself in daily life. Through various literary works and videos from Japan and abroad, students will attempt to regain sensitivity to themselves and the world, and explore the possibilities of anthropology in understanding the self and others. Students will learn ways to “know” others, the world, and themselves, not only through thinking and analysis, but also through feeling, being overwhelmed by the “other,” and self-transformation.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report (60%) and in class contribution including presentation and reaction paper (40%).

CUA300LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

文化人類学方法論B

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、これまでの文化人類学的研究における議論や実践を踏まえて、他者と自分を別様に理解し、表現する方法について学ぶ。1) 理性や客観的分析による理解を見直し、身体的な経験の次元から他者や社会を捉えなおそうとする人類学の情動論、2) 儀礼とパフォーマンスの人類学とにおける議論や実践、3) 文化人類学の新しい民族誌の可能性を拓いている作品に触れることを通じて学ぶ。「わからないまま」他者に圧倒され、他者との新たな関係性に自分を見いだすという、他者と自分を理解することの可能性を学ぶ。また、戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ということや新たに創造（表現）するということについて学ぶ。

【到達目標】

- ・人類学の情動論、儀礼とパフォーマンスの人類学的研究における議論を理解できる。
- ・民族誌や映像の読解だけでなく、それに揺さぶられる経験や、それを通じて他者と自分を「しる」という実践から、自他を別様に理解する方法を身につける。
- ・戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ということや新たに創造（表現）する方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッション、ドラマリーディングの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
- ・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
- ・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
- ・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	情動の人類学①	情動の人類学的研究の紹介
第3回	情動の人類学②	文献発表とディスカッション
第4回	別様の「しり方」と表現①	スリランカ、内戦についての概説
第5回	別様の「しり方」と表現②	映像鑑賞
第6回	別様の「しり方」と表現③	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション

第7回	別様の「しり方」と表現④	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第8回	他者の傷みの「しり方」	・スリランカ内戦にまつわる憑依儀礼に関する民族誌的研究の紹介 ・ディスカッション
第9回	儀礼とパフォーマンスの人類学①	儀礼・パフォーマンス研究についての講義
第10回	儀礼とパフォーマンスの人類学②	文献発表とディスカッション
第11回	儀礼とパフォーマンスの人類学③	文献発表とディスカッション
第12回	ドラマリーディング①他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第13回	ドラマリーディング②他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表、ディスカッション、朗読、ドラマリーディングに使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーション、朗読、ドラマリーディングの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・シェークナー, R. 1998『パフォーマンス研究：演劇と文化人類学の出会い』高橋雄一郎訳 人文書院
- ・ターナー, V. 1996『儀礼の過程』新思案社。
- ・初見かおり 2001『ハレルヤ村の漁師たち：スリランカ・タミルの村 内戦と信仰のエスノグラフィー』左右社。
- （その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】

- ・小栗宏太 2022「情動の人類学：感情史との対話」『文化人類学』87(1): 94-105.
- ・西井涼子 2013『情動のエスノグラフィー：南タイの村で感じる・つながる・生きる』京都大学学術出版会。
- ・西井涼子・箭内匡編 2020『アフエクトクス（情動）：生の外側に触れる』京都大学学術出版会。
- ・Das, V. 2015. What does Ordinary Ethics Look Like. In M. Lambek, V. Das, D. Fassin, and W. Keane (eds) Four Lectures on Ethics: Anthropological Perspectives, pp. 53-117. The University of Chicago Press.
- ・Lawrence, P. 1997. Work of Oracles, Silence of Terror: Notes on the Injury of War in Eastern Sri Lanka. unpublished Ph.D. thesis submitted to the Faculty of the Graduate School of the University of Colorado.
- . 2000. Violence, Suffering, Amman: The Work of Oracles in Sri Lanka's Eastern War Zone. In Veena Das et al. (eds) Violence and Subjectivity, pp.171-204. Oxford University Press.
- （以上の他、授業時に適宜紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

- ・発表内容、リアクション・ペーパー、演劇、授業への参加態度など 平常点（40％）
- ・映像鑑賞文（10％）
- ・学期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

【その他の重要事項】

- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。

・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn theoretical discussion on anthropology of affect and anthropology of performance, and feeling and performing ethnography to explore possibilities of anthropology. The goals of this course are to understand different ways of understanding and expressing others and oneself. In addition, through performing a play, students will learn about what it means to "become" others, to "know" oneself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report(50%), briefing paper on short film(10%) and in class contribution including presentation and reaction paper(40%).

POL300LA (政治学 / Politics 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業ですこしずつ検討していきます。今年度に扱うテキストは、デイヴィッド・ヒュームの書簡です。
 ＊この授業は、ILACの総合科目（300番台）ですが、法学部政治学科のみなさんのみ、政治学科選択科目「政治思想 I」として履修することになります。

【到達目標】

- ・ 英文翻訳のスキルアップをめざす人、
 - ・ 翻訳家や編集者の仕事に興味のある人、
 - ・ 人文学・社会科学の研究者志望の人、大学院進学に興味がある人、
 - ・ 哲学や思想史に興味のある人、
 - ・ 機械翻訳の精度を確かめてみたい人、
 - ・ 少人数・双方向のきちんとした授業を履修したい人、
- など、各人のニーズに応じた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ検討していきます。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。原則として対面開講を予定。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	ヒュームの書簡
3	翻訳の検討	ヒュームの書簡
4	翻訳の検討	ヒュームの書簡
5	翻訳の検討	ヒュームの書簡
6	翻訳の検討	ヒュームの書簡
7	翻訳の検討	ヒュームの書簡
8	翻訳の検討	ヒュームの書簡
9	翻訳の検討	ヒュームの書簡
10	翻訳の検討	ヒュームの書簡
11	翻訳の検討	ヒュームの書簡
12	翻訳の検討	ヒュームの書簡
13	翻訳の検討	ヒュームの書簡
14	翻訳の検討	ヒュームの書簡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（２単位）では１回につき４時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

今年度は、デイヴィッド・ヒューム（1711-1776）の書簡（手紙）を翻訳します。必要なテキストは、履修者に配付します。

2023年度・2024年度は、ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）をテキストとしていましたが、今年度は、手紙の翻訳なので、哲学書を訳す場合とは異なる翻訳スキルが必要となります。

【参考書】

ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありません。分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作もいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年、『ヒューム イングランド史I/II』名古屋大学出版会、2025年）。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating David Hume's correspondences into Japanese. This class can contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL300LA (政治学 / Politics 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業ですこしずつ検討していきます。今年度に出るテキストは、デイヴィッド・ヒュームの書簡です。
＊この授業は、ILACの総合科目（300番台）ですが、法学部政治学科のみなさんのみ、政治学科選択科目「政治思想Ⅱ」として履修することになります。

【到達目標】

- ・ 英文翻訳のスキルアップをめざす人、
 - ・ 翻訳家や編集者の仕事に興味のある人、
 - ・ 人文学・社会科学の研究者志望の人、大学院進学に興味がある人、
 - ・ 哲学や思想史に興味のある人、
 - ・ 機械翻訳の精度を確かめてみたい人、
 - ・ 少人数・双方向のきちんとした授業を履修したい人、
- など、各人のニーズに応じた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期の続き。担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ検討していきます。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。原則として対面開講を予定。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	ヒュームの書簡
3	翻訳の検討	ヒュームの書簡
4	翻訳の検討	ヒュームの書簡
5	翻訳の検討	ヒュームの書簡
6	翻訳の検討	ヒュームの書簡
7	翻訳の検討	ヒュームの書簡
8	翻訳の検討	ヒュームの書簡
9	翻訳の検討	ヒュームの書簡
10	翻訳の検討	ヒュームの書簡
11	翻訳の検討	ヒュームの書簡
12	翻訳の検討	ヒュームの書簡
13	翻訳の検討	ヒュームの書簡
14	翻訳の検討	ヒュームの書簡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（２単位）では１回につき４時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

今年度は、デイヴィッド・ヒューム（1711-1776）の書簡（手紙）を翻訳します。必要なテキストは、履修者に配付します。
2023年度・2024年度は、ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）をテキストとしていましたが、今年度は、手紙の翻訳なので、哲学書を訳す場合とは異なる翻訳スキルが必要となります。

【参考書】

ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありません。分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作もいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年、『ヒューム イングランド史Ⅰ/Ⅱ』名古屋大学出版会、2025年）。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating David Hume's correspondences into Japanese. This class can contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

人間行動学 A 2017年度以降入学者

田中 慎太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代心理学には、人生上の様々な困難に対応する上で、仏教に代表される歴史のある精神文化と協働を深める動きがある。本授業では、マインドフルネスに関する文献の丁寧な精読を通して、現代心理学と精神文化の協働の在り方に理解を深める。

【到達目標】

- ・マインドフルネスがどのような実践なのか説明出来るようになること
 - ・自分自身の日常の体験を元に、マインドフルネスに関連した心理学的現象に理解を深めること
- 人間行動学Bとの連続履修を勧める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は対面でのゼミ形式（学生発表と議論）で行う。受講生全員が、三回目以降、授業前までに指定された箇所について精読を行う。授業は、担当する学生が発表を行った後の、受講生全員でのディスカッションを中核とするが、講師の主導に基づき、マインドフルネスの実践演習を行うことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス/マインドフルネスとは何か	授業の概要・進め方・注意事項の説明を行う
第二回	現代心理学と仏教の接近の背景	近年の心理学と仏教の関連について説明する。学生発表の順番を決定する
第三回	『仏教と心の科学の出会い』序文～第1章 マインドフルネスを紐解く	・担当者の発表とディスカッション
第四回	『仏教と心の科学の出会い』第2章こころの地図1～4	・担当者の発表とディスカッション ・自動操縦、知覚プロセス
第五回	『仏教と心の科学の出会い』第2章こころの地図5～8	・担当者の発表とディスカッション ・体験の入り口としての注意、不一致モニター
第六回	マインドフルネス認知療法の体験実習①	・呼吸瞑想の実習
第七回	『仏教と心の科学の出会い』第3章こころの地図1～4	・担当者の発表とディスカッション ・さまよう心、文脈
第八回	『仏教と心の科学の出会い』第4章仏教心理学の地図	・担当者の発表とディスカッション ・2本の矢、悩みの3つの領域

第九回	マインドフルネス認知療法の体験実習②	・マインドフルムーブメントの実習
第十回	『仏教と心の科学の出会い』第5章悩みと苦しみの統合された地図	・担当者の発表とディスカッション ・悩みと苦しみの維持、悪の花
第十一回	『仏教と心の科学の出会い』第6章変容	・担当者の発表とディスカッション ・注意を安定させる、洞察
第十二回	『仏教と心の科学の出会い』第7章実践における心情	・担当者の発表とディスカッション ・四つの態度
第十三回	マインドフルネス認知療法の体験実習③	・困難と共に座る瞑想の実習
第十四回	全体のまとめ	・受講者全員で、本授業での学びを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講生は、第一回、第二回の講義の合間に教科書全体を通読し、その後、授業でのディスカッションと実習を繰り返しながら、教科書の精読を行う。

【テキスト（教科書）】

クリスティーナ・フェルドマン&ウィレム・カイケン「仏教と心の科学の出会い マインドフルネス」（北大路出版、2024年）

【参考書】

ケネス・タナカ「アメリカ仏教」（武蔵野大学出版、2010年）
シャロン・ペグリー「「脳」を変える「心」」（バジリコ、2010年）

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（60%）

期末レポート（40%）

期末レポートの文字数はクラスで発表した学生は約2,000文字以上、発表しなかった学生は約3,000文字以上とする。講義中に行うマインドフルネスの実習への参加や中断の有無は、成績評価に反映されない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートは実施していない。

【その他の重要事項】

本科目では、マインドフルネスを体験的に理解する上で、講師の主導による、マインドフルネスの実践演習が含まれる。マインドフルネスの実践は運動に似ており、受講生は自分への負荷に応じて中断をしたり、参加せずに静かに過ごすことも選択が出来る。

【Outline (in English)】

Modern psychology has increasingly engaged with spiritual traditions — most notably Buddhism — in addressing various difficulties encountered in life.

In this course, students will deepen their understanding of how contemporary psychology can collaborate with long-standing spiritual traditions through the careful close reading of key texts on mindfulness.

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

人間行動学B

2017年度以降入学者

田中 慎太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の心理療法の知見を学び、可能な範囲で実践（実験）を試みることを通して、人間および人間の行動に関して体験的に視野を広げることが目的とする。本授業ではACT（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）の基礎を学ぶ。

【到達目標】

・人間行動学Aでのマインドフルネスの学びを踏まえて、ACT（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）の概要を理解すること
・「人間の行動」を現代の行動主義心理学がどのように扱うのかの概要を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は対面でのゼミ形式（学生発表と議論）で行う。担当する学生が発表を行った後の、受講生全員でのディスカッションを中核とするが、講師の主導に基づき、ACT/マインドフルネスの実践演習を行うことがある。担当箇所や授業の進め方は受講生のニーズに応じて変更・調整を行う。人間行動学Aからの連続受講を推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	授業の概要・進め方・注意事項の説明を行う
第二回	「ハピネス・トラップ」第一部	・担当者の発表とディスカッション ・幸福、前進行動、後退行動
第三回	「ハピネス・トラップ」第二部①	・担当者の発表とディスカッション ・脱フュージョン、エクスポージャー
第四回	「ハピネス・トラップ」第二部②	・担当者の発表とディスカッション ・セルフコンパッション、マインドフルネス
第五回	「ハピネス・トラップ」第三部	・担当者の発表とディスカッション ・価値、コミットされた行為
第六回	前半の振り返り	・前半部分の受講生全員での内省とディスカッション
第七回	人間関係①	・担当者の発表とディスカッション ・普遍的な人間関係に対するACTの応用を検討する
第八回	人間関係②	・担当者の発表とディスカッション ・身近な人間関係にACTの応用を検討する

第九回 自信と行動①

・担当者の発表とディスカッション
・自信について考える

第十回 自信と行動②

・担当者の発表とディスカッション
・自信についてACTの応用を検討する

第十一回 人生の困難①

・担当者の発表とディスカッション
・人生の困難について検討する

第十二回 人生の困難②

・担当者の発表とディスカッション
・人生の困難に対するACTの応用を検討する

第十三回 後半の振り返り

・後半部分の受講生全員での内省とディスカッション

第十四回 全体の総括

・授業全体の受講生全員での内省とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ラス・ハリス(2023)「定本ハピネストラップ マインドフルに生きる人のための心理療法ACT入門」筑摩書房

【参考書】

ラス・ハリス(2019)「相手は変えられないならば自分がかかわればよい マインドフルネスと心理療法ACTでひらく人間関係」筑摩書房
ラス・ハリス(2021)「自分自身にやさしくすれば悩みの出口がみえてくる マインドフルネスと心理療法ACTで人生のどん底からはい上がる」筑摩書房

ラス・ハリス(2019)「自信がなくても行動すれば自信はあとからついてくる マインドフルネスと心理療法ACTで人生が変わる」筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み(60%)

期末レポート(40%)

期末レポートの文字数はクラスで発表した学生は約2,000文字以上、発表しなかった学生は約3,000文字以上とする。講義中に行うマインドフルネスの実習への参加や中断の有無は、成績評価に反映されない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートは実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出に学習支援システムを使う場合がある。

【その他の重要事項】

・本授業は、主に心理学・臨床心理学を専攻としていない学生を想定しているが、自分の体験や行動に関心を持ち、学んだことを試してみる気概のある学生であれば、学部学科と問わず歓迎したい。
・本授業では、教科書や参考書に書かれている作業を試してみるかどうかを各自が選択する場面がある。実際に作業を試したか否かは成績評価に関係しない。
・本授業はあくまで講義であるため、本授業は、直接に心身の健康向上に寄与するものでも、医療専門職の診察や支援を代替するものでもない。

【Outline (in English)】

This course aims to foster an experiential understanding of clinical psychology by introducing key concepts from contemporary psychotherapy and, where appropriate, engaging in limited practical exercises. The course focuses on the fundamentals of Acceptance and Commitment Therapy (ACT).

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 300)

沖縄を考えるA

2017年度以降入学者

中野 勝郎、大里 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ること、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形に残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていなかったため、シラバスの内容は暫定的です。

初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。

授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄を知るための基礎知識①	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②	沖縄の歴史と地理に関する概説
4	琉球沖縄の歴史①	考古学からみた琉球沖縄（先史時代）
5	琉球沖縄の歴史②	「古琉球」時代
6	琉球沖縄の歴史③	「近世琉球」時代
7	琉球沖縄の歴史④	「近代沖縄」
8	琉球沖縄の歴史⑤	「沖縄戦」
9	琉球沖縄の歴史⑥	「戦後沖縄」
10	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の言語
11	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の文学
12	琉球沖縄の文化③	琉球沖縄の芸能①
13	琉球沖縄の文化④	琉球沖縄の芸能②
14	春学期のまとめ	琉球沖縄を再考する視点をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

2.毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。

3.本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席票：リアクションペーパー付き）（50点）と学期末レポート（授業最終回に教室で作成）（50点）によって成績評価をします。

学期末レポートの作成の仕方については追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 300)

沖縄を考える B

2017年度以降入学者

中野 勝郎、大里 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ること、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形に残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。

初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。

授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄の政治①	沖縄の政治問題
3	沖縄の政治②	日本の中の沖縄
4	沖縄の社会①	沖縄の経済
5	沖縄の社会②	沖縄のジェンダー問題
6	琉球沖縄の芸術①	琉球沖縄の美術工芸
7	琉球沖縄の芸術②	琉球沖縄の音楽
8	平和を考える①	沖縄の視点から平和を考える①
9	平和を考える②	沖縄の視点から平和を考える②
10	沖縄の自然環境①	沖縄の自然
11	沖縄の自然環境②	沖縄の環境問題
12	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の食文化
13	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の祭祀
14	秋学期のまとめ	「万国津梁」と沖縄

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席票：リアクションペーパー付き）（50点）と学期末レポート（授業最終回に教室で作成）（50点）によって成績評価をします。

学期末レポートの作成の仕方については追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の「沖縄を考えるA」の前半は基礎的な内容に重点を置いており、この秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ECN300LA (経済学 / Economics 300)

ヨーロッパ政治経済論 A

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論Aでは、国際政治経済学の基礎理論を学んだ上で、国際体制の基本構造とその体制の中で主軸となってきたヨーロッパの歴史的展開を、EUの経済政治統合（EU統合）の歩みとともに学んでいきます。そしてグローバル市場化の進行による国際体制の構造的変容の中でのEUの新たな立ち位置を踏まえて、世界が直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対し考察出来るベースを身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

- ・政治経済学のアプローチを身に付けられる。
- ・世界動向への基盤となる基礎知識を体系的に身に付けられる。
- ・米中だけでなく、もう1つの主軸であるヨーロッパを知ることで、国際社会の変容と直面する問題を体系的に把握し、それらを解釈、論議していける力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。

必要に応じて英語での解説も加えます。

後半にグループディスカッションが入ります。

最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 国際体制の変容の理論	政治と経済 政治経済学とは？ 学際的アプローチとしての国際政治経済学 世界情勢と政治経済学
2	国際政治経済学基礎理論 1	国際秩序と国際ガバナンス構造を巡る体制論 (理念、思想としてのリアリズム、リベラリズム、マルクス主義)
3	国際政治経済学基礎理論 2	新たな学際アプローチへの基礎理論 (重商主義、バランスオブパワーの基礎理論としての古典派経済学(アダム・スミス、リカード、J.B.セイ))
4	国際政治経済学基礎理論 3	「埋め込まれた自由主義」と国際協調への理論基礎 (ケインズ経済学の思想と理論)
5	19世紀ガバナンス体制	19世紀ガバナンス体制の成立と行き詰まり
6	ブレトンウッズ体制	戦後ブレトンウッズ体制の成立と展開

7	欧州統合の展開 1	ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての欧州統合の展開
8	欧州統合の展開 2	ECからEUへ 統合深化と拡大の歩み 欧州連合の成立とユーロの誕生
9	グローバル市場化の進行と国際ガバナンスの分断	グローバル化の進行 グローバル化の暴走と世界金融危機 (リーマンショックの展開と衝撃)
10	グローバル市場化と国際ガバナンスの分断	欧州国家債務危機 EUソブリン危機の波及と帰結
11	反グローバリズムの台頭とEUの分断危機	世界格差の進行と反グローバリズムの台頭 閉じる帝国化とレジリエンス 歴史的危機の位相
12	反グローバリズムの波及と反統合、EU民主主義の危機	反グローバリズムの世界的台頭と極右反欧州主義勢力の台頭 政治分断化とEU民主主義の危機
13	EUの東欧拡大とウクライナ戦争	EU統合拡大の文脈から見たウクライナ戦争
14	期末試験およびまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験＝80%

課題およびディスカッション評価：20%

【学生の意見等からの気づき】

世界で起こっている様々な問題をより深く理解できるようになった。
ヨーロッパの現状についての理解が深まった。

などの感想をいただきました。

今年度も興味を刺激する授業を心がけていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

「ヨーロッパ政治経済論B」では、直面する問題とEUの新たな役割、日本への示唆へと発展的に学びを進めるので、合わせて受講することをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a comprehensive overview to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as case studies to provide further understanding on world issues.

At the end of the course, students

- ・ Should have gained a good grasp of the fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- ・ Should have comprehensive knowledge about EU and its relation in the world.

・ Should have acquired a firm base for pursuing further studies in political economy as well as ongoing crisis in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

ECN300LA (経済学 / Economics 300)

ヨーロッパ政治経済論 B

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論 Bでは、ヨーロッパ政治経済論 Aで学んだ内容を掘り下げ、世界経済のグローバル統合の進行に伴う国際社会の構造変化、国際ガバナンス構造の変容が生起した問題、課題への学習を進めます。具体的には、グローバル市場化と国際経済構造の変容、グローバル市場化の暴走と社会の分断、EUの分断化と政治危機、市場と国家の力学構造の変質等を取り上げ、EUが地域統合の発展過程で培ってきた多様性の中での統合の知見とソフトパワーの活用を含め、変容する国際社会の中で、現在直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対するEUの新たな立ち位置と役割を考察していきます。欧州の歴史上の展開と国際ガバナンス体制の変容の実態を深く理解することで、グローバルな視点から日本への示唆を考察していく知識と力も同時に身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

- ・政治経済学のアプローチを通じて世界を理解出来るようになる。
- ・国際社会の実態と問題、課題の把握に不可欠なヨーロッパについて、専門基礎のレベルで体系的に知識を身に付け、国際的な視座から直面する問題、課題を把握し、論じていける知識基盤と力を身につけていける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心とします。

必要に応じて英語での解説を加えます。

授業後半にグループディスカッションを行います。

最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ政治経済論Aのレビュー	政治経済学とは ヨーロッパとは
2	国際政治経済学専門基礎理論	国際ガバナンスへの学際アプローチの思想と理論 (体制思想としてのリベラリズム、リアリズム、マルキシズム、学際アプローチに向けたバランスオブパワーの理論ベースとしての古典派経済学、埋め込まれた自由主義と国際協調体制への理論、ケインズ経済学)
3	国際システムとガバナンス体制	国際システムとガバナンス体制 (市場経済と統治、史的推移5つのフェーズ)

4	戦後の米ドル、ブレトンウッズ体制の成立と欧州共同体（EC）の形成	戦間期からECSC、EC形成への目的と意義 ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての位置づけと限界 通貨統合計画の挫折と統合の行き詰まり
5	市場統合計画の推進と統合拡大を経て欧州連合への基盤形成	経済統合の深化、拡大とEC機構の整備拡充 欧州の戦後体制の終焉、その実態と意義
6	市場統合の深化と通貨統合の実現、EU連合の成立からリスボン条約へ	通貨統合の意義 条約としながら欧州憲法の中身をもつリスボン条約 政治体制としての欧州連合の位置づけ
7	グローバル市場化の進行と国際経済構造の変容	情報ネットワーク化と規制緩和が決定づけたグローバル市場化
8	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断1	リーマンショック ギリシャ危機とユーロクライシス、EU国家債務危機
9	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断2	ポピュリズムと自国ファースト、極右の台頭とEU内部分断の政治危機
10	統合への疑念と分断、英国のEU脱退（BREXIT）	英国と大陸欧州 参加の損益と機能的統合（英国）vs 理念と制度的統合の根源的相違 防衛・安全保障では存在大きい英国とのねじれの関係
11	市場と国家の力学構造の変質	情報プラットフォーム革命 グローバル経済統合の進行が国家と市場の力学構造を変える 同時に国家間の分断と相互の力学関係を変え、中国の台頭に伴う覇権国家構図と国際関係の変容を含め、国際ガバナンス構造の変容を生起
12	グローバル化の進行と地域統合、EUの果たす役割と日本への示唆	ハードパワーとソフトパワー 多様性の中の統合で積み上げたノウハウと企画政治力としてのソフトパワー ブリュッセル効果、グリーンディール、SDGsにおける主導的役割 EUの立ち位置と日本への示唆
13	ウクライナ戦争 新たな欧州新秩序への模索	EUの対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中の対ソ依存からのシフト
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験＝80%

課題およびディスカッションへの参加＝20%

【学生の意見等からの気づき】

国際社会が直面する様々な問題、特にロシア・ウクライナ問題に対するEUの立ち位置が理解できた、また変容するグローバル社会におけるEUの役割を理解できた、などの感想をいただきました。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

本講義は、基礎となる「ヨーロッパ政治経済論A」をあらかじめ受講しておくことをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a further understanding to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as analysis and case studies to provide further understanding on Europe and related world issues.

At the end of the course, students

- Should have the ability to use fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- Should have improved her/his skills in analyzing important political events around Europe and across the globe.
- Should have acquired a firm base for pursuing further research in the European Union and elsewhere in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

LAW300LA（法学 / law 300）

法の人間学A

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法の人間学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学B」も続けて履修することが望ましい。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。

②現代社会の具体的な課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。

③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法制度と人間本性（1）	もしも法がなかったらどうなるか？
第3回	法制度と人間本性（2）	ホップズの自然状態について
第4回	法制度と人間本性（3）	ロックの自然状態について
第5回	法制度と人間本性（4）	ルソーの自然状態について
第6回	死刑制度の是非（1）	死刑制度の歴史と現状について
第7回	死刑制度の是非（2）	袴田事件について
第8回	死刑制度の是非（3）	死刑制度をめぐる立場の対立について

第9回	裁判員制度と死刑（1）	国民が刑罰を決める意義と問題点について
第10回	裁判員制度と死刑（2）	法制度と個人の生命の関係について
第11回	人工妊娠中絶（1）	人工妊娠中絶の歴史と現状について
第12回	人工妊娠中絶（2）	人工妊娠中絶をめぐるアメリカでの動向について
第13回	人工妊娠中絶（3）	人工妊娠中絶をめぐる理論的な立場の対立について
第14回	人工妊娠中絶（4）	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。（レジュメや配布資料に即して授業を進める。）

【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003年
 神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の6つの視点』中公新書、2018年
 ベン・フィリップス『今すぐ格差を是正せよ！』ちくま新書、2022年
 萱野稔人『死刑 その哲学的考察』ちくま新書、2017年
 塚原久美『日本の中絶』ちくま新書、2022年
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文課題（もしくは授業内試験）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文課題（授業内試験）：80%、コメント等：20%の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法の人間学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学B」も続けて履修すること。（春学期の「法の人間学A」受講者には、秋学期の「法の人間学B」の履修を優先的に認める。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

LAW300LA (法学 / law 300)

法の人間学B

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法の人間学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学A」から続けて履修することが望ましい。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法と道徳と復興増税（1）	法と道徳の関係について
第3回	法と道徳と復興増税（2）	「危害のない不道德行為」の規制について
第4回	法と道徳と復興増税（3）	支援の法的義務について
第5回	法と道徳と復興増税（4）	個人の自由と法的強制の関係について
第6回	一夫一婦制と婚姻の自由（1）	日本の婚姻制度の歴史と現状について
第7回	一夫一婦制と婚姻の自由（2）	一夫一婦制の根拠について

第8回	一夫一婦制と婚姻の自由（3）	契約婚の考え方について
第9回	一夫一婦制と婚姻の自由（4）	個人の生き方と婚姻制度の関係について
第10回	代理出産と親子関係（1）	親子に関する法的取り扱いについて
第11回	代理出産と親子関係（2）	代理出産の歴史と現状について
第12回	代理出産と親子関係（3）	代理出産をめぐる最近の事例について
第13回	代理出産規制の是非（1）	代理出産規制をめぐる法的論点について
第14回	代理出産規制の是非（2）	個人の生き方と「子供を持つこと」の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。（レジュメや配布資料に即して授業を進める。）

【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003年
 神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の6つの視点』中公新書、2018年
 蔵研也『リパタリアン宣言』朝日新書、2007年
 森村進『自由はどこまで可能か』講談社現代新書、2001年
 ロバート・ライト『モラル・アニマル』(上)(下)講談社、1995年
 デヴィッド・M・バス『女と男のだましあい：ヒトの性行動の進化』草思社、2000年
 ヘレン・E・フィッシャー『愛はなぜ終わるのか：結婚・不倫・離婚の自然史』草思社、1993年
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文課題（もしくは授業内試験）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文課題（授業内試験）：80%、コメント等：20%の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法の人間学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学A」から続けて履修すること。（春学期の「法の人間学A」受講者には、秋学期の「法の人間学B」の履修を優先的に認める。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

計算と言語のしくみ

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景の下で、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようなになっているか?」「そうした機械仕掛けの上で、言語に関する様々な処理ができるのは何故なのか?」などの疑問に対して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みを理解すること」を目標としている。（例えば、電卓とPCの違いを尋ねられた時、皆さんは説明できるでしょうか?）また、「コンピュータでの言語処理に関する幾つかの活用方法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。（例えば、コンピュータに大量の文章データを機械学習させると、各単語を数値データとして捉えるようになり「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか? 実際に実験してみれば確認できます。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の様子を考慮して対応する。（特に、手間が掛かる内容は教員によるデモンストレーションによって確認することにして、作業面で負担が掛からないように配慮します。）学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違い易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	PCが動作する様子とその特徴を紹介する。
第02回	計算機の歴史	コンピュータ開発の歴史を解説する。
第03回	計算できる言語(1)	電卓的な機械の仕組みについて解説する。
第04回	計算できる言語(2)	電卓的な仕組みで計算できる言語について紹介する。
第05回	計算できる言語(3)	そのような言語の計算を日常文書の編集に活用する例を学ぶ。
第06回	計算できる言語(4)	そのような言語の計算を表計算に活用する例を学ぶ。
第07回	計算機のしくみ(1)	汎用コンピュータの理論的な仕組みについて紹介する。

第08回	計算機のしくみ(2)	現代的なコンピュータの仕組みについて説明する。
第09回	計算機のしくみ(3)	コンピュータにおける文字・数値の表現を確認する。
第10回	自然言語とAI(1)	Web上でプログラムを動かす方法を確認する。
第11回	自然言語とAI(2)	日本語の文章を品詞に分解する方法を学ぶ。
第12回	自然言語とAI(3)	「吾輩は猫である」の全文を機械学習させてみる。
第13回	自然言語とAI(4)	学習済みAIを用いて法政大学のシラバス文章を分析する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)、計算機を使う小課題(50%)を行い、平常点(10%)と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとっても負担にならない程度で、内容を体験できればと考えています。実験についても、特別な電算環境は必要なく、このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫です。課題なども相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います。）

【Outline (in English)】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

コンピュータと数理の活用 2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で勉強する様々な計算方法は理にかなったものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に1000人分のデータの平均値を手で計算する人はいない。）一方で、身の回りにある問題はむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力不足を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める経験は重要となる。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の計算方法」と「コンピュータの計算力」を組合せて活用する事例を体験することを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「コンピュータと数理を組み合わせることの良さを体験し（場合によっては自分好みに調整して）活用の勘を養うこと」を目標としている。（各々の事例で扱う数学の内容は独立していて、1つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないことになります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の様子を考慮して対応する。（特に、手間が掛かる内容は教員によるデモンストレーションによって確認することにして、作業面で負担が掛からないように配慮します。）学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決の流れを確認する。
第02回	コンピュータで数学	Web上でプログラムを実行する方法について説明する。
第03回	コンピュータで数学	大政奉還があった日は何曜日か計算してみる。
第04回	コンピュータで数学	SymPyと呼ばれる関数電卓機能を統計に活用してみる。
第05回	平方根の計算(1)	開平法と呼ばれる筆算で平方根を計算してみる。
第06回	平方根の計算(2)	より効率的な方法で平方根を限りなく正確に計算してみる。
第07回	行列の応用(1)	数学の知識として、行列の掛算について学ぶ。
第08回	行列の応用(1)	行列の掛算を行うプログラムを紹介する。

第09回	行列の応用(3)	今後100年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第10回	経営計画への応用(1)	上手な経営計画を立てるための数学分野を紹介する。
第11回	経営計画への応用(2)	上手な経営計画を立てるプログラムを紹介する。
第12回	経営計画への応用(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行ってみる。
第13回	機械学習への応用	機械学習を行うプログラムを紹介する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)、計算機を使う小課題(50%)を行い、平常点(10%)と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとっても負担にならない程度で、内容を体験できればと考えています。実験についても、特別な電算環境は必要なく、このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫です。課題などは、相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います。プログラミング言語に限らず、知っていると有利なアプリケーションなどを見つけたら、積極的に使い方を紹介してみたいと考えています。）

【Outline (in English)】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

確率の世界 A

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率を学ぶには、数学の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味をもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	確率の基礎 1	確率とは
第3回	確率の基礎 2	確率の性質
第4回	確率の基礎 3	確率空間とは
第5回	確率の基礎 4	事象の独立性
第6回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第7回	確率の基礎 6	期待値とは
第8回	確率の基礎 7	期待値の性質
第9回	確率の基礎 8	分散とは
第10回	確率分布 1	分散の性質
第11回	確率分布 2	二項分布とは
第12回	確率分布 3	二項分布の性質
第13回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

確率の世界B

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、数学の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば確率や統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	様々な分布 1	離散分布とは
第3回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第4回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第5回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第6回	様々な分布 5	正規分布とは
第7回	様々な分布 6	正規分布の性質
第8回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第9回	推定と検定 1	標本の定義
第10回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第11回	推定と検定 3	点推定
第12回	推定と検定 4	区間推定
第13回	推定と検定 5	仮説と棄却
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界A」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

集合論 A

2017年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無限とは何か 〜〜 無限の個数

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限の「大きさ」について考察し、それらの比較方法を学ぶ。具体例の一つ以下に挙げよう。〜〜

普通のサッカーは1チーム11人であり、反則により退場者が出た側は不利になるが、自然数と同じ数だけ選手のいる2つのチームが試合をした場合はどうであろうか。赤組と白組それぞれ背番号1、2、3、…の選手全員で試合をしていたところ、赤組は奇数番号の選手が皆退場してしまい、背番号2、4、6、…の選手だけ残った。そのとき赤組の選手が自分と同じ背番号の白組の選手に付けば、白組の奇数番号の選手が動き回るので大変不利である。しかし赤組の選手が自分の半分の番号をつけた白組の選手に付けば、つまり赤2が白1、赤4が白2という具合に対応したら、互角に戦うことができる。さらにこの考えを進めれば、赤組のほうが逆に有利になる戦略を見つけ出すことさえ可能である。どのようにすればよいか。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・無限集合が持つ、有限集合とは異なる性質とは？
- ・無限にも大小はあるか。1個、2個、…の先は？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	無限の不思議	概要説明
第2回	集合の表記	外延と内包
第3回	部分の全体	冪集合
第4回	対応関係	写像の定義
第5回	特別な対応	全射と単射
第6回	「3」とは	全単射
第7回	無限の大きさ	濃度の定義
第8回	最小の無限	可算集合
第9回	真に大きい？	有理数全体
第10回	色々な単語	可算な文字列
第11回	真に大きい！	対角線論法
第12回	小数表記	実数全体

第13回 無限に大きく 冪集合再考
第14回 半期のまとめ 総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

- ・志賀浩二『集合への30講』（朝倉書店）1988年、新装改版2024年
- ・上江洲忠弘『集合論・入門』（遊星社）2004年、増訂版2013年
- ・松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店）1968年、新装版2018年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- （1）秋期科目「集合論B」の予備知識となる内容を含む。
- （2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理3（集合論）A」。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite cardinal numbers.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should understand the difference between countable sets and uncountable sets,

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

集合論B

2017年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無限とは何か 〜〜〜 無限の順序

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限列の「長さ」について考察し、それらの比較方法を学ぶ。具体例の一つ以下に挙げよう。〜〜〜

長男一郎、次男二郎、三男三郎の三人兄弟を一行に並べるとき、並べ方は全部で6通りある。そこで、先頭になった者を改めて長男、中央を次男、末尾を三男と呼ぶことにすると、6通りのいずれも、長男、次男、三男という兄弟構成ができることに変わりはない。さて、同じような並べ替えを、長男一郎、次男二郎、三男三郎、…と、各自然数 n に対して n 男の n 郎がいるような無限の兄弟で行うとどういうことが起こり得るであろうか。例えば、長男を二郎、次男を三郎、三男を四郎、…とし、さらに一郎は他の誰と比べても弟として全員を並べてみよう。このとき、元々の長男、次男、三男、…よりも「長く」伸びた兄弟構成ができる。人の集合としては同じであるが。では、もっと長い構成とするには、どうすればよいのか。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・物を並べる、つまり物の間に順番を与える、とは？
- ・無限の物を並べられるか。1番、2番、…の先は？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	二種類の数	基数と序数
第2回	派閥分け	同値関係
第3回	順序とは	順序集合
第4回	順序の練習	有限順序集合
第5回	順序の形	同型写像
第6回	比較可能性	線形順序
第7回	無限に降下？	整列順序
第8回	順序の順序	順序数
第9回	直線上の表現	実数の部分順序
第10回	順序をつなぐ	順序数の和
第11回	順序上の順序	順序数の積
第12回	順序と写像	順序数の冪

第13回 日常の順序 順序数の実例

第14回 半期のまとめ 総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

- ・志賀浩二『集合への30講』（朝倉書店）1988年、新装改版2024年
- ・上江洲忠弘『集合論・入門』（遊星社）2004年、増訂版2013年
- ・松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店）1968年、新装版2018年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- （1）春期科目「集合論A」で扱う内容を既知として授業を進める。
- （2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理3（集合論）B」。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite ordinal numbers.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to generate "longer" orders on the set of natural numbers.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

相対性理論と宇宙A

2017年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について学ぶ。

[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[11]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について学ぶ。
[12]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[13]	反物質	相対論により存在が予言された反粒子について学ぶ、
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回学習支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

- ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

- ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

相対性理論と宇宙 B

2017年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのかを理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。

[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。
[12]	ブラックホール（1）	ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
[13]	ブラックホール（2）	銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
[14]	重力波	重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

- ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

(ブルーバックス；B-2087)、(講談社、2019.2)

- ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

(ニュートン別冊)、(ニュートンプレス、2019.2)

(その他、必要に応じて授業中に紹介する。)

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

現代の錬金術 A

2017年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。

春学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	原子は存在するか？（1）—化学反応の基本法則	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第3回	原子は存在するか？（2）—気体の法則	気体の法則と分子運動論について
第4回	原子は存在するか？（3）—気体の分子運動論	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第5回	原子は構造を持つのか？（1）—元素の周期律	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第6回	原子は構造を持つのか？（2）—電気分解や原子が出す光	第5回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する

第7回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第8回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第9回	原子構造（1）—電子配置からわかること	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第10回	原子構造（2）—量子力学の世界	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第11回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第12回	原子核と放射線	放射性同位体や半減期に特に注目しながら、原子核がどのようなものかを解説する
第13回	春学期のまとめ（1）と関連する話題	春学期中に実施した小テストの解説を通して授業内容を振り返るとともに、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第14回	春学期のまとめ（2）と試験	春学期の授業内容のまとめを行うとともに、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、春学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
- ・Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)	
現代の錬金術 B	2017年度以降入学者
井坂 政裕	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 4/Fri.4	
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金(元素)を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。
秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。
講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	20世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第2回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第3回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第4回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第5回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第6回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第7回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する

第8回	標準模型	第7回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第9回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第10回	宇宙における元素合成（1）ービッグバン	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第11回	宇宙における元素合成（2）ー恒星内での元素合成	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第12回	宇宙における元素合成（3）ー恒星の最期と超新星爆発	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第13回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する。また、秋学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。
第14回	まとめと試験	秋学期授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in the modern physics
- ・ Explain the origin of matters in the universe
- ・ Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

原子核と素粒子A

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていました。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当しています。この授業では、ミクロの世界に焦点をあてて、生物や地球、宇宙における元素存在比の話題からスタートして、結晶構造とその構造が生じる原因となる原子の構造、そしてそれらに関連する様々な現象・応用についての理解を深めることを目的としています。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定です。

【到達目標】

この講義では、原子、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としています。また、元素の存在比や原子の構造を理解することによって、原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体的な紹介する。
第2回	元素の周期表	元素周期表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第3回	元素の存在比（地球）	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第4回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第5回	結晶構造	物体がもつ3次元的な立体構造について解説し、氷やダイヤモンド等いくつかの具体例を紹介する。
第6回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質について解説する。
第7回	原子のスペクトル	原子から光（電磁波）が放出される仕組みについて解説する。
第8回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。

第9回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について紹介する。
第10回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第11回	原子の構造（電子配置）	第5回の内容に関して、物体が立体構造をもつ仕組みについて紹介する。
第12回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象（超伝導・超流動）について紹介する。
第13回	原子核の構造	原子核の構造について解説する。
第14回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course mainly introduces the atom by focusing on the microscopic world. In particular, the aim of this course is to help students understand the abundance ratio of elements not only on the Earth but also in the universe, the structure of crystal and atom, and the various phenomena and applications related to these. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

原子核と素粒子B

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていました。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当しています。この授業は、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深めると共に、原子核反応の応用技術についても理解を深めることを目的としています。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定です。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としています。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊に伴うエネルギーについて紹介する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第5回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉の構造などについて紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉などの核融合反応の応用について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第9回	太陽ニュートリノ問題とニュートリノ振動	スーパーカミオカンデなどで行われているニュートリノ研究について紹介する。

第10回	素粒子（クォークとレプトン）	現時点でのこの宇宙における万物の基となる素粒子などについて紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。
第12回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	宇宙論などの最新の研究について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the nucleus and elementary particle by focusing on the microscopic world. In particular, the aim of this course is to help students understand the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei and their applied technologies. Finally this course introduces the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe to students taking this course. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）。

用いる教科書は内容的に難しく感じるが、これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し、レポートをまとめ、討議してもらう。オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて；調査の進め方；自然発生説；ダーウインの自然選択説；DNAの変異
第2回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か；43億年前に海が形成された証拠；熱水噴出孔での化学進化、など。
第3回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生；高熱性アーキアと高熱性細菌；超高熱性菌のDNA2本鎖が解離しない仕組み

第4回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成；好気性生物の出現；シアノバクテリアの光合成、など。
第5回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現；真核生物がアーキアに由来する証拠；真核生物の起源となった原核生物、など。
第6回	多細胞かと有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物；多細胞生物の出現；有性生殖のはじまり、など。
第7回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖；有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した；遺伝子ファミリーの形成、など。
第8回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた；脊椎動物の出現；エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発、など。
第9回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源；コケ植物が先か；前維管束植物が先か、など。
第10回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出；哺乳類の出現；鳥類の出現、など。
第11回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる；ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ；タンパク質は自律的に細胞を形成する、など。
第12回	エポデボー体制の進化ー	ダーウインフィンチの嘴の進化；節足動物の付属肢の進化；鳥エンハンサーが鳥類を進化させた、など。
第13回	エポデボー特異体制の進化ー	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構；フグの特異な形態をつくるしくみ、など。
第14回	まとめ。重要用語の振り返り。博物館について、生物の名前の付け方。	まとめと振り返り。ホモサピエンスの7万年前の大発明；博物学について；生物の名前の付け方。など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy & pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

更科 功 (著)2025

「世界—シンプルな進化論講義 生命・ヒト・生物—進化をめぐる6つの問い」（ブルーバックス B 2282）

講談社 ISBN 978-4065382929

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う授業内の小レポート（60%）および、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（40%）も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための、交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

島野 智之

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

定員制(20)

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡでは、オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、現地調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では、生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう。

つぎに、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークⅠ (1).	博物館学と博物学。博物館 フィールドワークについて【講義】
第2回	フィールドワークⅠ (2)	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第3回	フィールドワークⅡ (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (1)

第4回	フィールドワークⅡ (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (2)
第5回	フィールドワークⅡ (3)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (3)
第6回	フィールドワークⅡ (4)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (4)
第7回	フィールドワークⅢ (1)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第8回	フィールドワークⅢ (2)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第9回	フィールドワークⅢ (3)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（3）
第10回	フィールドワークⅣ (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第11回	フィールドワークⅣ (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第12回	フィールドワークⅤ (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する（1）
第13回	フィールドワークⅤ (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する（2）
第14回	フィールドワークⅥ 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう。 フィールドワークのまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy & pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

進化生物学 ―ゲノミクスが解き明かす進化―、赤坂甲治（著）、裳華房、2021年出版、定価3520円（本体3200円＋税10%）

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行うフィールドワーク後のレポート（60%）および、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（40%）も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもら。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための、交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります.）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月11日～9月17日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月11日～9月17日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

イオンの科学A

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫のように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明。
第2回	原子の構造	原子の構造と性質について。
第3回	砂糖と塩	有機化合物と無機イオンの違いについて。
第4回	金属の酸化とイオンの還元	金属を溶かしたり、鏡を作る実験。
第5回	炎色反応	花火の原理についての学習と炎色反応の実験。
第6回	化学発光	ルミノール発光やサイリウムの原理とその実験。
第7回	ホウ砂球反応	イオンの状態変化による色変化を利用したガラス玉を作る実験。
第8回	酸と塩基	酸塩基の定義の種類について。
第9回	色素の色変化	物質の色変化に及ぼすイオンの働きについて。
第10回	金属イオンの沈殿反応	イオンの組み合わせによる溶解度の違いについて。
第11回	金属イオンの分離1	様々なイオンが溶けた水溶液から特定のイオンを分離する実験。
第12回	金属イオンの分離2	様々なイオンが溶けた水溶液から分離したイオンを同定する実験。

第13回 金属イオンの定性分析 未知試料にどのイオンが含まれているかを検査する実験。

第14回 まとめ これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回実験を行い、その結果のまとめを平常点(配分80%)として評価し、学期末の試験(配分20%)とあわせて評価します。実験結果のまとめは、その授業時間内に提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるような配分にしています。

【その他の重要事項】

この授業はボアソナードタワー 10階のサイエンスルームで行われます。

受講希望者数が過剰な場合、抽選を行う場合があります。

過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

イオンの科学B

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第2回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数の数え方について。
第3回	中和反応とpHの変化	中性のpHが7の理由と、中和反応におけるpH変化の測定。
第4回	弱酸と解離定数	重曹が洗剤、料理、消火剤に使われる原理について。
第5回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて。
第6回	ボルタの電池	電池における電解質の役割について。
第7回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験。
第8回	亜鉛めっきと合金	金属でできた銅製品を銀色にしたり、金色に変える実験。
第9回	自己触媒型無電解めっき	電気を使わないめっきの原理とその実験。
第10回	フォトレジスト	光化学反応を利用して金属表面に保護膜で模様を作る実験。
第11回	エッチング	ガラスにめっきされたニッケル薄膜を溶かして目的の模様を作る実験。

第12回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止する方法について。
第13回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について。
第14回	まとめ	これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポートを平常点(配分80%)とし、学期末試験(配分20%)とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるよう時間配分に気をつけています。

【その他の重要事項】

この授業はボアソナードタワー10階のサイエンスルームで行われます。受講希望者数が過剰な場合、第1回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

PRI300LA (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

ITリテラシー

2017年度以降入学者

高田 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、ITリテラシーに関する話題について学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数（1）	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数（2）	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数（3）	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム（2）	LMS、SNSを中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ（1）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第10回	情報セキュリティ（2）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクトに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム WebClassを活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40% and attendance score of 60%.

PRI300LA (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

コンピュータ科学

2017年度以降入学者

高田 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析（ソフトウェア工学）、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第3回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第4回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第5回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第6回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	データベース	データベースについて学ぶ。
第8回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第9回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第10回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第11回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第12回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。

第13回 コンパイラ（2） 基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。

第14回 まとめ 本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム WebClass 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム WebClass を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40% and attendance score of 60%.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在「持続可能性」はキーワードとして国際的に広く認識されています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困などの社会経済的な問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、持続可能性の観点から人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、特に、誰もが接点を持つ「食」に関連する農業に注目し、環境問題の科学的側面だけでなく関連する社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 食を接点として授業で扱われる諸問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各回の授業内容へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	多重危機の時代と持続可能性	導入として、全体のキーワードとなる持続可能性の概念について解説し、食と種々の環境問題との関連性を概観します。
第2回	生態系の基礎理解	生態系の基本的特徴について、システムとしての構造、機能、振る舞いの観点から考えます。
第3回	生物多様性とは	生物多様性の基本的特徴を解説するとともに、その保全が求められる理由について考えます。
第4回	土中環境	普段目を向けない地中の環境並びに自然環境の基盤としての土壌の重要性について考えます。
第5回	演習1：農地を支える生物	農地という生態系に着目し、食糧生産に関連する生物的要素についてグループワークを通して考えます。

第6回	農業の歴史と近代化	農業の歴史を概観するとともに、近代化のもたらした変化と食糧生産における成果について考えます。
第7回	近代農業の環境負荷	「慣行農法」として定着した近代的生産手法の環境負荷について考えます。
第8回	食糧生産と環境保全1：慣行農法からの展望	慣行農法における食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第9回	食糧生産と環境保全2：代替農法からの展望	慣行農法に代わる「代替農法」について概観するとともに、食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第10回	アグロエコロジーとは	持続可能なフードシステムの枠組みとして注目されるアグロエコロジーについて事例を交えて解説します。
第11回	畜産と感染症	新型コロナウイルスパンデミックを機に対策が急務とされている人獣共通感染症について、畜産との関係性から考えます。
第12回	演習2：飽食時代の飢餓	一見食糧が溢れているように見える現代における飢餓の問題について、グループワークを通して考えます。
第13回	フードシステムと需要・消費側の問題	食糧供給に伴う問題について、農作物自体の生産以外の面から考えます。
第14回	ローカリゼーションとコモンズ	食にまつわる諸問題の解決策について、「ローカリゼーション」と「コモンズ」の2つの視点から模索します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（30%）、平常点（30%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種WebClassの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】

30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

人間と地球環境

宇野 真介

授業コード：Q6335 | 曜日・時限：月3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年年
 備考（履修条件等）：定員制(30)
 地理学科生は選択科目として履修する
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在「持続可能性」はキーワードとして国際的に広く認識されています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困などの社会経済的な問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、持続可能性の観点から人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、特に、誰もが接点を持つ「食」に関連する農業に注目し、環境問題の科学的側面だけでなく関連する社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3）食を接点として授業で扱われる諸問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各回の授業内容へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	多重危機の時代と持続可能性	導入として、全体のキーワードとなる持続可能性の概念について解説し、食と種々の環境問題との関連性を概観します。
第2回	生態系の基礎理解	生態系の基本的特徴について、システムとしての構造、機能、振る舞いの観点から考えます。
第3回	生物多様性とは	生物多様性の基本的特徴を解説するとともに、その保全が求められる理由について考えます。
第4回	土中環境	普段目を向けない地中の環境並びに自然環境の基盤としての土壌の重要性について考えます。

第5回	演習1：農地を支える生物	農地という生態系に着目し、食糧生産に関与する生物的要素についてグループワークを通して考えます。
第6回	農業の歴史と近代化	農業の歴史を概観するとともに、近代化のもたらした変化と食糧生産における成果について考えます。
第7回	近代農業の環境負荷	「慣行農法」として定着した近代的生産手法の環境負荷について考えます。
第8回	食糧生産と環境保全1：慣行農法からの展望	慣行農法における食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第9回	食糧生産と環境保全2：代替農法からの展望	慣行農法に代わる「代替農法」について概観するとともに、食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第10回	アグロエコロジーとは	持続可能なフードシステムの枠組みとして注目されるアグロエコロジーについて事例を交えて解説します。
第11回	畜産と感染症	新型コロナウイルスパンデミックを機に対策が急務とされている人獣共通感染症について、畜産との関係性から考えます。
第12回	演習2：飽食時代の飢餓	一見食糧が溢れているように見える現代における飢餓の問題について、グループワークを通して考えます。
第13回	フードシステムと需要・消費側の問題	食糧供給に伴う問題について、農作物自体の生産以外の面から考えます。
第14回	ローカリゼーションとコモンズ	食にまつわる諸問題の解決策について、「ローカリゼーション」と「コモンズ」の2つの視点から模索します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（30%）、平常点（30%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種WebClassの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】

30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 300)

Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental issues; 2) to understand social problems related to the environmental issues addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The course is divided roughly into three parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem, biodiversity, and soil, in other words, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources and services. The second part will focus on environmental issues related to agriculture (food production). Finally, the third part will mainly address socioeconomic aspects of relevant issues. The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format; however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group work and discussion. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions in the subsequent class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Era of multiple crises and sustainability	As an introduction to the course, the concept of sustainability will be discussed, and an overview will be given on the connection between food and environmental issues.
Week 2	Understanding ecosystem	Basic characteristics of ecosystem will be discussed from the viewpoints of structure, function and behavior as a system.
Week 3	What is biodiversity?	Basic characteristic of biodiversity will be discussed, and the reasons why its conservation is necessary will be considered.
Week 4	Soil environment	General features of soil environment will be described, and its importance as the foundation of natural environment will be discussed.
Week 5	Agricultural field as a habitat	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 6	Historical background and modernization of agriculture	An overview of historical development of agriculture will be given, and changes and achievements brought about by modernization will be discussed.
Week 7	Environmental impact of modern agriculture	Environmental impact of modern production method or "conventional agriculture" will be discussed.
Week 8	Environmental conservation in the case of conventional agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of conventional agriculture.
Week 9	Environmental conservation in the case of alternative agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of alternative agriculture.
Week 10	Agroecology	Agroecology will be discussed as a framework for achieving a sustainable food system.
Week 11	Livestock production and infectious diseases	The risk of zoonotic diseases will be discussed in relation to activities related to livestock production.
Week 12	Abundance and scarcity	Group work will be used to explore the complexity of the issue of hunger in the age of abundance.
Week 13	Localization and food system	The significance and importance of localized food production/supply system will be discussed.
Week 14	Thinking about solutions from the consumer side	Solutions for agriculture and food-related issues will be explored from the consumer side of food system.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare for classes by thoroughly reading distributed materials and utilizing the online learning support system (WebClass) and also to review contents of individual lectures. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40%), a final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course materials by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hosei's e-learning system (WebClass). Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

【その他の重要事項】

There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded, and, to be included in the selection, you will be required to pre-register for the course a few days before the semester begins. Additional information will be provided through WebClass, as needed.

【Outline (in English)】

[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物へ進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・授業では、実験・観察の開始前に、方法と注意点を説明します。受講生はグループごとに課題に取り組み、結果を授業ノートに記録します。講義は、内容や進行状況に応じて、実験・観察の前または後に行います。
- ・毎回、授業内容に関する練習問題を学習支援システムに用意します。授業後、指定期限までに提出してください。
- ・授業内テストは学期中に数回実施します（実施回は授業内で告知）。
- ・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
- ・課題・練習問題・質問に対しては、授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	ボルボックスの観察①	レーウェンフックの顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第3回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野法や暗視野法によって生物を観察します。
第4回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、その周りの水の流れを観察します。
第5回	淡水産プランクトン①	池や川の水の採集方法や観察方法を学び、どのような生き物がいるかを調べます。
第6回	淡水産プランクトン②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察し、その変化について考察します。
第7回	淡水産プランクトン③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。

第8回	プラナリア①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。
第9回	プラナリア②	切断したプラナリアが一週間後にどのように再生しているかを観察します。
第10回	プラナリア③	プラナリアの採餌行動を観察し、からだの作りと機能を学びます。
第11回	走光性①	ボルボックスが環境の光を感知して遊泳方向を変える「走光性」を観察します。
第12回	走光性②	細胞から生える「鞭毛（繊毛）」が生み出す水流が、光によってどのように変化するかを調べます。
第13回	走光性③	光を感知する構造「眼点」を観察し、ボルボックスの走光性のしくみを考察します。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%（授業内での実験や観察への取り組み）
- ・授業後の練習問題および授業ノート 30%（提出状況・理解度等を評価）
- ・授業内テスト 40%
- ・期末試験は行いません。
- ・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】

授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知ることができてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Course Outline:

The course introduces Volvox, a freshwater green alga, as a model organism for studying the evolution from unicellular to multicellular life. Through lectures, experiments, and observations, students work in groups and observe living organisms under the microscope.

Learning Objectives:

Through experiments and observations using Volvox and other organisms, the course aims to help students develop the ability to observe and describe objects accurately. The course also aims to help students consider results and develop problem-solving skills.

Learning Activities Outside the Classroom:

Students are expected to do a brief background search before each class and to organize their course notes on in-class experiments and observations after each class. The standard study time is two hours for preparation and two hours for review.

Grading Criteria / Policy:

The final grade is based on in-class work in experiments and observations (30%), practice questions and the course notebook (30%), and in-class tests (40%). There is no final exam. The course notebook is submitted at the end of the semester. Three or more unexcused absences result in no credit. Arriving 20 minutes late or more counts as an absence.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論B

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物へ進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・授業では、実験・観察の開始前に、方法と注意点を説明します。受講生はグループごとに課題に取り組み、結果を授業ノートに記録します。講義は、内容や進行状況に応じて、実験・観察の前または後に行います。
- ・毎回、授業内容に関する練習問題を学習支援システムに用意します。授業後、指定期限までに提出してください。
- ・授業内テストは学期中に数回実施します（実施回は授業内で告知）。
- ・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
- ・課題・練習問題・質問に対しては、授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの無性生殖個体を観察しながら顕微鏡の扱いに慣れましょう。
第3回	有性生殖とその進化②	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第4回	有性生殖とその進化③	異なる種の有性生殖様式を比較し、性の進化について考察します。
第5回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌（変形菌）の探餌行動を調べる実験を行います。
第6回	粘菌の行動②	粘菌内部の原形質が往復流動するようすを顕微鏡で観察・撮影します。
第7回	粘菌の行動③	粘菌が基質の上を移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。

第8回	生活環と形態形成①	ボルボックスの美しい球形を生み出す過程である「インバージョン」について学びます。
第9回	生活環と形態形成②	40分程度かかるインバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第10回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみとその進化について考えます。
第11回	鞭毛・繊毛の生理学①	ボルボックスの遊泳や光行動の観察を通して、真核生物が普遍的に持つ鞭毛・繊毛について学びます。
第12回	鞭毛・繊毛の生理学②	細胞膜を取り除いて死んでしまった細胞の運動を復活させる「ゾンビ・クラミドモナス実験」を行います。
第13回	鞭毛・繊毛の生理学③	鞭毛・繊毛がATPのエネルギーで動き、カルシウムイオンで調節されることを実験を通して学びます。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%（授業内での実験や観察への取り組み）
- ・授業後の練習問題および授業ノート 30%（提出状況・理解度等を評価）
- ・授業内テスト 40%
- ・期末試験は行いません。
- ・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】

授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知ることができてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Course Outline:

The course introduces Volvox, a freshwater green alga, as a model organism for studying the evolution from unicellular to multicellular life. Through lectures, experiments, and observations, students work in groups and observe living organisms under the microscope.

Learning Objectives:

Through experiments and observations using Volvox and other organisms, the course aims to help students develop the ability to observe and describe objects accurately. The course also aims to help students consider results and develop problem-solving skills.

Learning Activities Outside the Classroom:

Students are expected to do a brief background search before each class and to organize their course notes on in-class experiments and observations after each class. The standard study time is two hours for preparation and two hours for review.

Grading Criteria / Policy:

The final grade is based on in-class work in experiments and observations (30%), practice questions and the course notebook (30%), and in-class tests (40%). There is no final exam. The course notebook is submitted at the end of the semester. Three or more unexcused absences result in no credit. Arriving 20 minutes late or more counts as an absence.

BAB300LA (基礎生物学 / Basic biology 300)

バイオイメーキングの世界A 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

そのために、本授業ではデジカメを使って生物が生きている様子を記録し、その記録画像を動画として編集したり、画像解析ソフトで数値解析する事で生きる謎の解明に挑戦します。その過程で、生き物について学び、新しい発見をする喜びを体験して頂く事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

先ず入門編として、ソバの発芽について学びます。種を植えれば芽が出てくると言う、一見当たり前の事も、その過程を映像として再現するためには様々な工夫が必要です。インターバル撮影を使うと、アサガオが花芽をつけて花を咲かせるまでの過程も映像化できるようになります。

プラナリアは、半分に切っても、また再生して2つの個体になります。この再生過程についても映像として記録します。

カイコでは、まゆ作りの過程を記録します。

アリについては、巣作りの様子や、6本脚歩行の様子の記録・解析を行います。

粘菌では、迷路のような成長過程を、画像解析で調べます。

これらの活動を通じて、生き物の映像を記録し解析するための基本的な手法を学ぶ事になります。なを、扱う生物材料は、その時の生き物の育成状況によって変わることがあります。

受講生は、授業で行ったことを発表するポスターを製作します。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	接写法	花などの生き物に近づいて、大きく撮るための撮影法を習得します。
③	インターバル撮影法	カメラを固定して長時間の定点観測を行う方法を習得します。
④	種々の長時間記録法	インターバル撮影の応用法について学びます。
⑤	拡大撮影法・プラナリア走性の観察	より小さな生き物の撮影法を学びます。
⑥	画像解析法・粘菌の移動速度の測定	動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。

⑦	画像の整理法・根の成長の観察	様々な条件で撮影した画像の整理方法を学びます。
⑧	スタジオ撮影手法・芽生えの回転運動	撮影環境の設定法について学びます。
⑨	ストロボ撮影手法・種子の回転運動	ストロボによって動きを止めて撮影する方法を学びます。
⑩	ハイスピード撮影技法・カイコの飛翔	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	ハイスピード撮影技・アリの歩行	アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	データ整理法・芽生えの記録1	様々な種子の芽生えを記録した後、そのデータを整理して比較する方法を学びます。
⑬	動画編集手法・芽生えの記録2	様々な種子の芽生えを記録した後、動画として編集する手法を学びます。
⑭	春学期データ整理	春学期のデータについて、ノート上で整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して週4時間以上の学習を行って頂きます。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

最終プレゼンを30%、授業中の活動を70%として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合もありますので、ご通知お下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

上記のリストに嫌いな生き物がいる場合は、活動の観察者として直接生き物とかかわらないように配慮しますので、事前に申告して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the required presentations(30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

BAB300LA (基礎生物学 / Basic biology 300)

バイオイメーキングの世界B 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、各班ごとに、独自のテーマ設定をして生命活動のしくみを画像記録して、その解明を行います。これらの活動を通じて、班ごとのプロジェクト遂行能力を身につけて頂くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業では、春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、特定の生き物に的を絞って、より高度な記録に挑戦します。そのために、それぞれの生き物の特徴を理解し、何を調べたら良いかを考えます。例えば、春学期に学んだソバの発芽過程で、光の方向を変えるとどうなるでしょう？ プラナリアを10等分したらどうなるでしょう？ そんな問題点を設定し、その解決法を探って行きます。

班別に決めたテーマについての活動は、班ごとのプロジェクトとして進行し、最終的にプレゼンテーションとしてまとめて頂きます。これまでのテーマには「アリの6足歩行」「様々な種子の栄養貯蔵と発芽速度の関係」「女王アリの産卵行動」「プラナリアの再生」等でした。（BT0900教室の前に掲示中です）

授業では、実際に自分で機材の使い方を学ぶ実習的な要素が強くなりますので、出席が単位取得の前提となります。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	秋学期プロジェクト計画	プロジェクト計画作成法
③	秋学期プロジェクト計画	班別にプロジェクト計画を作成します
④	秋学期プロジェクト計画発表会	班ごとにプロジェクト計画を発表します。
⑤	秋学期プロジェクト開始	班別作業
⑥	秋学期プロジェクト第2回	班別作業
⑦	秋学期プロジェクト第3回	班別作業。

⑧	秋学期プロジェクト・中間発表	各班のプロジェクト進行状況を報告します。
⑨	秋学期プロジェクト第4回	班別作業
⑩	秋学期プロジェクト第5回	班別作業
⑪	秋学期プロジェクト第6回	班別作業
⑫	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業1	データ整理、表・グラフ作成などポスターのコンテンツを作ります
⑬	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業2	プロジェクトの活動報告ポスターを作成します。
⑭	ポスターコンテスト	班毎に10分程度(質疑応答を含む)のポスターの発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して、週4時間以上の学習を行って下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

最終プレゼンを30%、授業中の活動を70%として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合もありますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the required presentations (30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

環境の科学 A

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】

環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	分析化学の基礎 (1)	有効数字など分析データの取り扱いについて解説します。
第3回	分析化学の基礎 (2)	酸化剤(還元剤)の濃度を分析する酸化還元滴定を行います。
第4回	分析化学の基礎 (3)	金属濃度を分析するキレート滴定を行います。
第5回	環境中の物質循環	地球上の水などの物質の循環について解説します。
第6回	大気環境の科学 (1)	地球大気の大気構造とオゾン層について解説します。
第7回	大気環境の科学 (2)	温室効果ガスについて解説します。
第8回	大気環境の科学 (3)	大気汚染物質について解説します。
第9回	水環境の科学	水環境や水質基準について解説します。
第10回	水試料の分析[春学期](1)	環境水試料を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[春学期](2)	環境水試料[春学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。

第12回	水試料の分析[春学期](3)	環境水試料[春学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[春学期](4)	環境水試料[春学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末レポート(30%)により取り組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの記載はありませんでしたが、講義資料等のアップロードを早めに行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis. Your required study time is at least two hours for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following required assignments: 70%, Term-end report: 30%

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

環境の科学B

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】

環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	土壌環境の科学	土壌の構成物質、土壌の機能、土壌汚染などについて解説します。
第3回	土壌試料の分析(1)	土壌試料の土壌pH、土壌溶液などを調べます。
第4回	土壌試料の分析(2)	土壌試料の陰イオン吸着能を調べます。
第5回	土壌試料の分析(3)	土壌試料の陽イオン吸着能を調べます。
第6回	土壌試料の分析(4)	土壌試料の分析結果について考察します。
第7回	化学物質と環境	化学物質による環境影響について解説します。
第8回	水中の金属分析(1)	水道水やミネラルウォーターの硬度を調べます。
第9回	水中の金属分析(2)	水試料の電気伝導度や重金属濃度を調べます。
第10回	水試料の分析[秋学期](1)	環境水試料[秋学期]を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[秋学期](2)	環境水試料[秋学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。

第12回	水試料の分析[秋学期](3)	環境水試料[秋学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[秋学期](4)	環境水試料[秋学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
 ・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
 ・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
 その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末試験(30%)により取り組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの記載はありませんでしたが、講義資料等のアップロードを早めに行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

required assignments: 70%, Term-end report: 30%

総合科目：LANe300LA、GBP：HUM200LA

Issues in Modern Japanese Society A 2017年度以降入学者

L A S S E G A R D J A M E S

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制

レベル3～4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigration, minorities, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to examine and think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan, engage in discussion, and express their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates, and a final presentation by students. Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate

6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues: Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】

No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor either in paper or PDF format.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 20%

Midterm essay: 30%

Final report: 40%

Presentation: 10%

Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English. Students will do short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】

Students in GBP will be given some priority in terms of enrollment, but a primary goal is to have a diverse classroom setting in terms of nationality and experience.

【Outline (in English)】

Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics in society interest them the most.

総合科目：LANe300LA、GBP：HUM200LA

Issues in Modern Japanese Society B 2017年度以降入学者

L A S S E G A R D J A M E S

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制

レベル3～4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, gender, etc.) using authentic materials. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics related to society that they would like to investigate and discuss during the semester.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking (discussion, debate) and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members. Course feedback will be provided in class and on written assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with implementation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion, debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate

6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due
7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers (reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to have some experience writing a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. The instructor will provide reading materials each week either as handouts or PDF files.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 20%

Midterm Paper: 30%

Final Paper: 40%

Presentation: 10%

Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the number of students enrolled.

【学生が準備すべき機器他】

Student should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping and organizing class handouts and readings.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than three unexcused absences may not receive credit for this course. Students should have some experience in writing essays or reports in English. Students may enroll in this course for one or two semesters.

GBP students may receive some preference for taking this course, but a primary objective is to have a diverse classroom setting, in terms of nationality and gender.

【Outline (in English)】

This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

第三外国語としてのドイツ語A 2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じてドイツ語文法の基礎を学ぶとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

【到達目標】

1) ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解できる。具体的には「ドイツ語技能検定試験（独検）」の4級～5級合格レベル到達を目指します。

2) ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを理解できる。

3) ドイツ語・ドイツ語圏という異文化との接触を通じて、自分の属する文化と言語圏について反省的に思考できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar、L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。

・LMSとして主にGoogle Classroomを使用します。法政Gメールも随時チェックしてください。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ Lektion1：発音の規則（1）、あいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベットと発音の規則1、あいさつの表現1
2	Lektion1：発音の規則（2）、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ ふたつの二人称
3	Lektion1 & Lektion2：発音の規則（3）、動詞の不定詞と現在人称変化（1）、並列の接続詞	自己紹介1：人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（1）、平叙文と定動詞第2位の原則
4	Lektion2：動詞の現在人称変化（2）	人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（2）、自己紹介2、さまざまな疑問文のパターン

5	Lektion3：名詞の性と格（1）	名詞の格（1）、定冠詞と不定冠詞（1）
6	Lektion3：名詞の性と格（2）	名詞の格、定冠詞と不定冠詞、否定冠詞keinと否定文
7	Lektion4：名詞の複数形・人称	「品詞」について今一度理解度を確認する（1）、人称代名詞と所有冠詞をしっかりと区別する
8	Lektion5：不定冠詞類・定冠詞類	「品詞」について今一度理解度を確認する（2）、人称代名詞と所有冠詞をしっかりと区別する
9	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（1）	動詞の現在人称変化（3）
10	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（2）	動詞の現在人称変化（4）
11	Lektion7：命令法と態（Modus）	2人称と依頼の表現、ドイツ語の日常的なモノと人の感覚について
12	Lektion7：話法の助動詞（1）	「話法の助動詞」の構文、枠構造の意味
13	Lektion7：話法の助動詞（2）	話法の助動詞を使うそのココロを理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次週扱うテキストの箇所を読んでくこと。

復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（¥ 2,200）

・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】

中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『（改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（¥1,728）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（50%）および学期末試験（50%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい（辞書類については第一回授業時に説明をします）

・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】

・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。

・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2026年7月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.

【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

第三外国語としてのドイツ語B 2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。（春学期開講の「第三外国語としてのドイツ語A」に引き続き）初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。専門課程でドイツ語の読解能力が必要となる方についてはその基礎固めを目指します。

【到達目標】

- 1) ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解できる。具体的には「ドイツ語技能検定試験（独検）」の4級～5級合格レベル到達を目指します。
- 2) ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを理解できる。
- 3) ドイツ語・ドイツ語圏という異文化との接触を通じて、自分の属する文化と言語圏について反省的に思考できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や自分の文法理解を確認します。

- ・LMSとして主にGoogle Classroomを使用します。法政Gメールも随時チェックしてください。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	動詞の現在人称変化、名詞の格変化（冠詞）と人称の格変化、話法の助動詞
2	Lektion8：再帰代名詞・再帰動詞	他動詞の再帰表現、再帰代名詞を用いた表現
3	Lektion9：分離動詞・非分離動詞	動詞の前綴りの話、複合動詞のいろいろ、前つづりと定動詞・枠構造の関連を理解する
4	Lektion9：zu不定詞	不定詞とzu不定詞およびその用法、zu不定詞句を使った表現
5	Lektion9：従属の接続詞	従属接続詞と副文の作り方、主文と副文の違いを理解する
6	Lektion10：動詞の3基本形（I）（1）	現在完了形を使うそのココロとは？

7	Lektion10：動詞の3基本形（I）（2）	過去時制と過去人称変化、現在完了形と過去時制の違いとは？
8	Lektion11：動詞の3基本形（II）・受動態	なんで受動態にしなきゃいけないワケ？ 受動の助動詞2種類（行為受動、状態受動）
9	Lektion12：形容詞（1）	形容詞の用法と形容詞の格変化
10	Lektion12：形容詞（2）	並列の接続詞、従属の接続詞、形容詞の用法、付加語的用法と格変化
11	Lektion12：関係代名詞（1）	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞（副文）
12	Lektion12：関係代名詞（2）	関係副詞・不定関係代名詞
13	補足：接続法	接続法第I式および第II式について
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次週扱うテキストの箇所を読んでおくこと。

復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（¥ 2,200）
- ・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】

中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『（改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（¥1,728）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（50%）および学期末試験（50%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。
- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】

- ・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
- ・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2027年1月下旬までに担当者に通知されたものに限りま）。す。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.

【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the course, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen vorstellen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteile
8	Beschreiben, wo/wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では

- ・児童文学の古典とされる作品を精読することを通じて
- ・考えたことを論理的に再構成して、議論することで
- ・この作品が書かれた当時のドイツ語圏（ドイツとスイス）のあり方を考えることを学びます。

【到達目標】

この授業を履修することで

- ・単なる印象に左右されないテキストの読み方
- ・自らが読解した内容を、他人に伝わるかたちで表現する方法
- ・ドイツ語圏の19世紀の社会についての理解することについて学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。したがって、事前のテキストの精読を前提とします。事前に指定箇所を精読し、その中で重要だと思われることを2箇所指摘し、学習支援システムを通じて提出していただきます。

授業では、皆さんから提出された論点について、全員で議論します。事前提出の論点については、授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	著者のヨハンナ・シュピリと作品の果たした役割についての紹介
第2回	第1部1章および2章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第3回	第1部3章および4章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第4回	第1部5章および6章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第5回	第1部7章および8章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第6回	第1部9章および10章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第7回	第1部11章および12章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第8回	第1部13章および14章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第9回	第2部1章および2章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第10回	第2部3章および4章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する

第11回	第2部5章および6章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第12回	第2部7章および8章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第13回	第2部9章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第14回	まとめ	まとめおよび授業内で行った課題の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は準備学習を基本とし、テキストとして指定された箇所を精読し、事前に議論すべき論点を2つ提案してから、出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ヨハンナ・シュピリ、松永美穂（訳）、『アルプスの少女ハイジ』（角川文庫、2021年）

【参考書】

川島隆、『ハイジの生みの親ヨハンナ・シュピーリ』（青弓社、2024年）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回、該当の章を読んでから出席することを基本とし、
 - ・事前にテキストについて授業で議論すべきことを2つ提出すること（52%）
 - ・議論への参加度（42%）
 - ・期末のレポート（8%）
- を基準として成績評価します。

テキストを読まずに出席している場合、または、議論への貢献をしない場合は、議論への参加度を評価する平常点をつけられません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度はテーマを変更しましたのでフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワーク接続ができ、Zoomが使えるPCまたはタブレット、および、オンライン会議に使えるカメラとマイク

【その他の重要事項】

オンラインで開講します。カメラをオンにして参加すること、および、指名された場合に口頭で回答することを出席の条件（平常点採点の対象）とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】In this course, students will read Johanna Spyri's classic works on Heidi and discuss/learn about the societal background of the time when the text was written.

【Learning Objectives】Students will acquire the skills to read texts logically, discuss them in line with their understanding, and learn about the society and culture of the German-speaking region in the 19th century.

【Learning activities outside the classroom】Participation requires detailed reading of the text and the submission of two discussion points in advance.

【Grading Criteria /Policy】Submission of prior discussion points (52%) + Active participation (42%) + term paper (8%)

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

ドイツの思想A

2017年度以降入学者

大久保 歩

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツは「詩人と思想家の国」と呼ばれるように、後世に大きな影響を与えた思想家たちを多く輩出してきました。

この授業では主に18世紀終わりから19世紀前半に活躍した哲学者たちの思想を学びます。

個々の哲学者たちの思想を学ぶだけでなく、彼らが活躍した時代の歴史背景も合わせて学びます。この時代は、ドイツという国が成立していく過程でもありました。思想と歴史文脈を合わせて学ぶことで、より多面的な思想理解を目指します。

これにより現代に対する批判的な視点を養うことも目指します。

【到達目標】

- ・19世紀前半のドイツ哲学の概要を説明できる。
- ・扱われた哲学者の思想を、当時の歴史背景と関連づけながら説明できる。
- ・自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。
- ・現代の事象に対して批判的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて講義形式で進めます。スライドは事前に配布します。

毎回の授業では、授業内容について考えたことに関してリアクションペーパーの提出を求めます。

すぐれたリアクションペーパーについては次回授業で取り上げ、コメントを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜドイツは「詩人と思想家の国」になったのかについて学ぶ。授業の進め方の確認。
第2回	「ドイツ思想」のはじまり	ルターやライプニッツなど、のちのドイツの思想を方向づけた思想家たちについて学ぶ。
第3回	カント前夜	デカルトやイギリス経験論など、カント哲学の前提となる思想について学ぶ。
第4回	カント（1）	『純粋理性批判』を中心に、カントの認識論について学ぶ。
第5回	カント（2）	『実践理性批判』を中心に、カントの実践哲学について学ぶ。
第6回	カント（3）	『判断力批判』を中心に、カントの美学について学ぶ。
第7回	ドイツ観念論	フィヒテやシェリングなど、カント以後のドイツ哲学の展開を学ぶ。
第8回	ヘーゲル（1）	『精神現象学』を中心に、ヘーゲルの認識論を学ぶ。

第9回	ヘーゲル（2）	『精神現象学』を中心に、ヘーゲルの実践哲学を学ぶ。
第10回	ヘーゲル（3）	『精神現象学』や『美学講義』を中心に、ヘーゲルの美学を学ぶ。
第11回	ショーペンハウアー（1）	『意志と表象としての世界』を中心に、ショーペンハウアーの認識論と実践哲学について学ぶ。
第12回	ショーペンハウアー（2）	『意志と表象としての世界』を中心に、ショーペンハウアー実践哲学と美学について学ぶ。
第13回	近代ドイツ思想とは何か	これまで学んできたことを振り返る。
第14回	まとめと最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業前に配布されるスライドに事前に目を通しておくこと。また、授業内・授業後にリアクションペーパーを執筆すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業ごとにスライドを事前に配布します。

【参考書】

御子柴義之『自分で考える勇気ーカント哲学入門ー』（岩波ジュニア新書）
川瀬和也『ヘーゲル（再）入門』（集英社新書）
梅田孝太『ショーペンハウアーー欲望にまみれた世界を生き抜くー』（講談社現代新書）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 50%

授業最終回での試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーは学習支援システム（予定）を通して提出してもらうので、PCやタブレットを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合わせて履修することは必ずしも必要としません。

【Outline (in English)】

Germany has produced many influential thinkers who have left a profound impact on posterity, earning the nation the title "the land of poets and thinkers" (Das Land der Dichter und Denker). This course focuses on the philosophical ideas of thinkers active primarily from the late 18th to the early 19th century. In addition to examining individual philosophical systems, we will explore the historical context of the era—a pivotal period in the formation of the German nation. By examining thought within its historical context, this course aims to foster a multifaceted understanding of philosophy and develop a critical perspective on the contemporary world.

Reaction papers: 50%, Term-end examination: 50%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)	
ドイツの思想 B	2017年度以降入学者
大久保 歩	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀後半のドイツは激動の時代でした。そしてこの時代の思想家たちはそれ以前の思想を徹底的に批判することで、20世紀の思想を準備しました。この授業では19世紀後半のドイツで活躍した思想家たちの思想を学びます。個々の思想家たちの思想を学ぶだけでなく、彼らが活躍した時代の歴史背景も合わせて学びます。思想と歴史文脈を合わせて学ぶことで、より多面的な思想理解を目指します。これによって、現代に対する批判的な視点を養うことも目指します。

【到達目標】

- ・19世紀後半のドイツ思想の概要を説明できる。
- ・扱われた思想家の思想を、当時の歴史背景と関連づけながら説明できる。
- ・自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。
- ・現代の事象に対して批判的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて講義形式で進めます。スライドは事前に配布します。毎回の授業では、授業内容について考えたことに関してリアクションペーパーの提出を求めます。すぐれたリアクションペーパーについては次回授業で取り上げ、コメントを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	19世紀後半のドイツがどのような時代だったのか概観する。授業の進め方の説明。
第2回	カントからヘーゲルへ	19世紀前半のドイツ哲学を概観し、19世紀後半の思想家たちにとっての思想的前提を学ぶ。
第3回	マルクス（1）	『ドイツ・イデオロギー』を中心に、マルクスの唯物論史観について学ぶ。
第4回	マルクス（2）	『資本論』を中心に、マルクスの資本主義批判について学ぶ。
第5回	マルクス（3）	『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』を中心に、マルクスの政治理論について学ぶ。
第6回	ニーチェ（1）	『悦ばしき知識』などを中心に、ニーチェのニヒリズムの思想を学ぶ。
第7回	ニーチェ（2）	『ツァラトゥストラはこう語った』などを中心に、ニーチェのニヒリズム克服の思想を学ぶ。

第8回	ニーチェ（3）	『道徳の系譜学』を中心に、ニーチェの道徳批判について学ぶ。
第9回	フロイト（1）	『精神分析入門講義』を中心に、フロイトの無意識についての理論を学ぶ。
第10回	フロイト（2）	『精神分析入門講義』を中心に、フロイトの精神分析の理論を学ぶ。
第11回	フロイト（3）	『快感原則の彼岸』を中心に、フロイトの自我論を学ぶ。
第12回	ドイツからフランス・ポストモダニズムへ	マルクス、ニーチェ、フロイトから大きな影響を受けたフランスのポストモダニズム思想を概観する。
第13回	ドイツの「反哲学」	これまで学んできたことを振り返る。
第14回	まとめと最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業前に配布されるスライドに事前に目を通しておくこと。また、授業内・授業後にリアクションペーパーを執筆すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業ごとにスライドを事前に配布します。

【参考書】

佐々木隆治『カール・マルクス―「資本主義」と闘った社会思想家―』（ちくま新書）
永井均『これがニーチェだ』（講談社現代新書）
フロイト『精神分析入門講義』上下巻（岩波文庫）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 50%
授業最終回での試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーは学習支援システム（予定）を通して提出してもらうので、PCやタブレットを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合わせて履修することは必ずしも必要としません。

【Outline (in English)】

The late 19th century was a period of great upheaval in Germany. The thinkers of this era paved the way for 20th-century thought by radically critiquing the philosophical traditions that preceded them. This course examines the ideas of key figures active during this turbulent time. Beyond analyzing individual philosophical systems, students will explore the historical backdrop of their era. By integrating the study of thought with its historical context, the course aims to foster a multifaceted understanding of philosophy, thereby cultivating a critical perspective on the contemporary world. Reaction papers: 50%, Term-end examination: 50%

LIT300LA (文学 / Literature 300)

カルチュラル・スタディーズで見 2017年度以降入学者のドイツ語圏A

丸山 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

2021年度までに「ドイツ語圏の文学A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：移民・難民・アウトサイダー

2015年、ドイツがシリア内戦などを背景に100万人規模の難民を受け入れたことが話題となりました。また近年では、ウクライナからの難民も100万人を超えています。「移民国家」を自認し、移民の背景を持つ市長が誕生するなど、移民政策において成功しているように見える一方で、極右政党をはじめとする移民排斥の声も年々高まってきているのが現在のドイツです。

本講義では、文学や演劇、映画などにおいて、「移民」「難民」というテーマがどのように扱われてきた／いるのかを、複数の作品を通じて多角的に捉えていきます。

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏との相互関係に対する関心や理解を深める。
- ・作品をただ鑑賞するのではなく、歴史的・社会的・文化的コンテキストを踏まえて批判的に考察する力を養う。
- ・さまざまな時代・文化・ジャンルの作品の中で共通のテーマやモチーフがどのように扱われているかを比較検討することを通じて、多角的な視点と柔軟な思考力を養う。
- ・各文化圏における芸術や文化、歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を予定しています。約2回の講義でひとつの作品を取り上げ、作品の概要を説明した後で、主要部分を実際に鑑賞／読解していきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。

毎回授業の終盤に時間を設けて、こちらの提示する課題について小レポートを書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 カルチュラル・スタディーズとは？
2	導入	ドイツの移民政策
3	外国人労働者に向けられる社会の眼差し	映画『不安は魂を喰い尽くす』
4	外国人労働者に向けられる社会の眼差し	映画『不安は魂を喰い尽くす』
5	難民を受け入れる側	映画『はじめてのおもてなし』
6	難民を受け入れる側	映画『はじめてのおもてなし』
7	悪いのは移民か？	映画『女は二度決断する』
8	悪いのは移民か？	映画『女は二度決断する』
9	世代間の葛藤	映画『おじいちゃんの里帰り』

10	世代間の葛藤	映画『おじいちゃんの里帰り』
11	当事者たちの取り組み	ベルリン・マクシム・ゴーリキー劇場
12	当事者たちの取り組み	『狂った血』
13	移民排斥に対する挑発	シュリンゲンジーフと『外国人よ出ていけ』
14	旧東ドイツの移民	『マッドジャーマンズ』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

各回で取り上げる映画作品については、日本語字幕付きで観られるので、自分でもぜひ鑑賞してみてください。最後に取り上げるマンガ作品も邦訳があるので、実際に手に取ってみることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

- ・本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店、2002年。
- ・吉見俊哉『カルチュラル・スタディーズ』岩波書店、2001年。
- ・宮田眞治／畠山寛／濱中春編著『ドイツ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房、2015年。
- ・新野守弘／飯田道子／梅田紅子編著『知ってほしい国ドイツ』高文研、2017年。
- ・墓田桂『難民問題』中央公論新社、2017年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的な参加、質問、発言など）：40%
- ・毎回の小レポート：60%

なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料の配布は原則的に授業支援システムを使用します。
- ・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

In 2015, Germany accepted around one million refugees, against the backdrop of the Syrian civil war and other conflicts. Moreover, in recent years, the number of refugees from Ukraine has also exceeded one million. Although immigration policies appear to be succeeding, the reality today is that opposition to immigration is also growing, as evidenced by the rise of far-right parties. This lecture will explore how the themes of 'immigration' and 'refugees' are depicted in literature, theatre and film, examining them from various angles through a selection of works.

At the end of this course, students are expected to think critically about issues in different situations

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 40%, short reports for each lecture: 60%

LIT300LA (文学 / Literature 300)

カルチュラル・スタディーズで見 2017年度以降入学者のドイツ語圏B

丸山 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

2021年度までに「ドイツ語圏の文学B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本においてドイツ語圏の文化はどのように受容されてきたのか

私たちの日常には、さまざまな領域・場面においてドイツ語圏由来のものが存在しています。私たちは意識してか無意識にかかわらず、日頃からドイツ語圏の文化に触れているわけです。しかし、日本での受容には、ドイツ語圏でのそれと差異はないのでしょうか。この授業では、ドイツ語圏の文学作品が、日本でどのように受容されているかを検討し、またそれらを原作とする翻案作品と比較します。テキストの読解および映像の視聴を通じて、ドイツ語圏の社会や文化、歴史的な文脈について学んでみましょう。

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏（英米・日本など）との相互関係に対する関心や理解を深める。
- ・作品をただ鑑賞するのではなく、多角的な視点に基づいて批判的に考察する力を養う。
- ・文学作品や映像作品の内容と文化的文脈を的確に理解し、その認識を相手にわかるように表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を予定しています。2～3回の講義でひとつの作品を取り上げます。原作と日本での受容のあり方を、実際にテキストを読んだり、映像を鑑賞しながら比較していきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。毎回授業の終盤に時間を設けて、講義を通じて考えたことなどをリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。内容によっては次の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 身近にあるドイツ語圏
2	グリム童話集について	成立と背景
3	グリム童話集『赤ずきん』	赤い「ずきん」？
4	グリム童話集『死神の名付け親』1	作品の内容について
5	グリム童話集『死神の名付け親』2	古典落語『死神』
6	シラーについて	人物と作品
7	シラー『歓喜に寄せて』1	成立と内容
8	シラー『歓喜に寄せて』2	ベートーヴェンの「第九」

9	シラー『歓喜に寄せて』3	「第九」合唱の文化
10	シラー『群盗』1	成立と内容
11	シラー『群盗』2	黒澤明『戦国群盗伝』
12	シラー『群盗』3	宝塚版『群盗』
13	日本からドイツへ	ブレヒト『イエスマン・ノーマン』と能『谷行』 オペラ『松風』と能『松風』
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回で取り上げる作品で邦訳があるものについては、講義期間中に自分で手に取って読んでみることを推奨します。取り上げる作品の中には、映像化されているものや舞台上演されているものもあるので、機会があればぜひ鑑賞してみてください。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

- ・宮田眞治／畠山寛／濱中春編著『ドイツ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房、2015年。
- ・新野守弘／飯田道子／梅田紅子編著『知ってほしい国ドイツ』高文研、2017年。
- ・手塚富雄／神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波書店、1993年。
- ・柴田翔編著『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房、2018年。
- ・畠山寛／吉中俊貴／岡本和子編著『ドイツ文学の道しるべーベルンゲンから多和田葉子まで』ミネルヴァ書房、2021年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回のリアクションペーパー、授業への積極的な参加）：60%
- ・学期末試験（論述）：40%

なお、授業回数の3分の2以上の出席と学期末試験を受けることが単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料の配布は原則的に授業支援システムを使用します。
- ・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

German-speaking regions have a presence in many areas of our daily lives. We are constantly exposed to German-speaking culture in our daily lives, whether we are aware of it or not. This course examines the reception of German-language literary works in Japan, comparing them with adaptations based on the original texts.

At the end of this course, students are expected to think critically about issues in different situations

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

ARSk300LA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

比較文化A

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力を培うこと。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	TVの料理ドキュメンタリー（1）	テレビの料理ドキュメンタリーの比較から偏見を見直す。
③	TVの料理ドキュメンタリー（2）	課題、ディスカッション
④	TVのCooking Show（1）	TVのCooking Showの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑤	TVのCooking Show（2）	課題、ディスカッション
⑥	TVの食品調査番組（1）	日本には存在していない食品調査番組の紹介で文化の違いを学ぶ。
⑦	TVの食品調査番組（2）	課題、ディスカッション
⑧	Youtubeの料理チャンネル（1）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑨	Youtubeの料理チャンネル（2）	課題、ディスカッション
⑩	Webの料理検索・レシピサイト（1）	Webの料理検索・レシピサイトを比較する。

⑪	Webの料理検索・レシピサイト（2）	課題、ディスカッション
⑫	Foodfilm（1）	フードフィルムの分析を学ぶ。
⑬	Foodfilm（2）	課題、ディスカッション
⑭	試験・まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

出席及び授業内の課題達成度：60%

学期末試験：40%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

- To deepen understanding of different cultures and own culture.
- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Attendance and achievement of in-class assignments: 70%

Normal points such as participation attitude in class: 30%

If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

比較文化 B

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、グリム童話や日本昔話だけでなく、ウェス・アンダーソンの映画や近代絵画など、幅広いメディアに登場する「動物」を比較・分析します。キツネ、ウサギ、白鳥といった身近な動物が、日本とヨーロッパでいかに異なる「シンボル（象徴）」として扱われているかを探ります。動物は単なる「かわいい」存在ではなく、実は人間社会のルール、政治、あるいはジェンダー観を映し出す「鏡」であることを学びます。具体的な作品比較を通じて、「日本は優しい、西洋は残酷」といった文化的な固定観念（ステレオタイプ）を問い直すことも重要なテーマです。最終的には、動物たちの表象を通して、異文化と自文化の意外な共通点や深い違いを読み解く力を養います。

【到達目標】

- ・日欧の動物観の比較・分析：文学・美術・映画における動物の描かれ方を比較し、日本とヨーロッパの文化的価値観の共通点と相違点を論理的に説明できる。
- ・ステレオタイプの再考：「日本文化は優しく、西洋文化は残酷である」といった単純な二項対立やステレオタイプ（固定観念）を、具体的な作品分析を通して客観的に問い直す力を身につける。
- ・視覚メディア・リテラシーの向上：物語のあらすじだけでなく、映像表現（構図・色彩・演出）や絵画の様式が持つ意味を読み解き、映画やアートを分析する視座を養う。
- ・社会的・政治的背景の理解：動物が単なるキャラクターではなく、ジェンダー・政治・社会風刺（風刺画やプロパガンダなど）の道具として機能していることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは何か：文化の鏡としての動物たち	本講義の目的である「日欧の動物表象の比較」について、その意義と分析手法（文学・映画・美術）を解説する。なぜ動物がステレオタイプや社会風刺の道具として使われるのか、具体的な例を挙げながら導入を行う。
②	昔話と童話における狐	日本の昔話「狐の恩返し」とグリム童話「キツネと馬」を比較し、両文化におけるキツネの役割の違いを分析する。

③	「ファンタスティック Mr. Fox」における狐	映画『ファンタスティック Mr. Fox』を題材に、主人公がヨーロッパの伝統的な「キツネ像」をどのように継承しているか、また現代においてどのような新たな象徴性を帯びているかを考察する。
④	芸術史における兎	独仏ドキュメンタリー映画『素晴らしき長耳たち』を鑑賞し、美術史におけるウサギの表象の変遷をたどる。
⑤	昔話と童話における兎	日本の昔話「かちかち山」とグリム童話「うさぎとはりねずみ」を比較し、物語における「暴力」と「知恵」の役割の違いを分析する。
⑥	「ハーメルンの子供たち」におけるネズミ（ラット）の象徴性	「ハーメルンの笛吹き男」の伝説と、それが現代の政治風刺（カリカチュア）でどのように引用されているかを比較・分析する。
⑦	聖書におけるシンボル動物たい日本（中国）におけるシンボル動物	聖書における動物の象徴的意味を分析する。特に「ネズミ」を事例として取り上げ、中国文化（干支）における「富と繁栄」のイメージと、聖書における「不浄と災い」の象徴性を比較・対照する。
⑧	異類婚姻譚とシンボル動物（1）	日本の「鶴女房」とヨーロッパ広域に伝わる「白鳥の乙女」伝説を比較し、異類婚姻譚（動物との結婚）という普遍的なモチーフの共通構造と文化的差異を分析する。
⑨	異類婚姻譚とシンボル動物（2）	アンデルセンの原作『人魚の姫』を、単なる恋愛譚ではなく「不滅の魂」をめぐる実存的な物語として再読する。
⑩	世紀末の白鳥	世紀末芸術における「白鳥」のイメージを比較する。
⑪	王様としてのカエル	シェイクスピアの『マクベス』を分析する。
⑫	ロバとロバの皮の象徴性	ジャック・ドゥミ監督の映画『ロバと王女』におけるロバの多層的な象徴性を分析する。
⑬	クリスマスと食材としての象徴動物	クリスマスの「牛とロバ」および「鯉とガチョウ」の象徴性を分析する。
⑭	試験・まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

出席及び授業内の課題達成度：60%

学期末試験：40%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course analyzes "animals" appearing in a wide range of media, including Grimm's fairy tales, Japanese folktales, Wes Anderson's films, and modern art. We will explore how familiar animals like foxes, rabbits, and swans function as different "symbols" in Japan and Europe. Students will learn that animals are not merely "cute" but serve as "mirrors" reflecting social rules, politics, and gender views. A key theme is questioning cultural stereotypes (e.g., "Japan is gentle, the West is cruel") through specific comparisons.

Learning Objectives

Students will be able to:

- Logically explain similarities and differences in Japanese and European values by comparing animal depictions in literature, art, and film.
- Objectively rethink cultural stereotypes through specific case studies.
- Improve visual media literacy by analyzing film composition, color, and artistic style.
- Understand how animals function as tools for gender expression, politics, and social satire

Learning Activities Outside of Classroom

Students are expected to read materials and gather information before and after class to engage in independent thinking and formulate their own questions. The standard study time is approximately 4 hours per week, including preparation and review.

Grading Criteria / Policy

Class participation and assignments: 60%

Final Exam: 40%

Note: Students who miss more than one-third of the classes will not be evaluated.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

ドイツ語圏の芸術A

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から19世紀にかけて、現在のドイツ、オーストリアとその周辺（中部ヨーロッパ）には「ドイツっばい（deutsch）」や「ドイツ人（Deutsche）」といった概念を、芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。この授業では「ドイツ語圏の芸術B」（秋学期開講）とあわせ、近代ドイツ語圏の造形芸術や音楽、建築、デザイン等を概観しながら「ドイツ語圏」あるいは「芸術」のさまざまな内実に迫ります。

【到達目標】

- 1) 近代ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）とその周辺諸地域の文化・芸術に関し、知識と理解を深める。今日に一般的な「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という社会通念の形成には、ドイツ語圏をはじめとする近代ヨーロッパの歴史が大いに関係しています。
- 2) 造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れること。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけでなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質でもあります。
- 3) 芸術と社会をめぐる文化闘争の言説とナショナル・アイデンティティとの関連、自己同一性の実体や困難について思考できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・諸芸術のうち、今学期は近代初期～19世紀の建築と造形芸術、音楽を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、時代背景、受容とその影響について確認する作業が中心です。
- ・一連の導入作業の後、ペアワーク／グループワークの時間を設け「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深める時間とします。
- ・各回授業後にペアワーク／グループワークの成果を課題としてまとめ、提出します。
- ・Google Classroomを主たるLMSのツールとして使用します。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては主に授業の場でフィードバックを行います。提出物のフィードバックとあわせ適宜全体に向けて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第2回	近代の視覚（1）－キリスト教思想と修道院	「大聖堂」の建設／「スコラ」と「ユニヴェルシタス」／ロマネスク様式からゴシック様式へ
第3回	近代の視覚（2）－フランス絶対王政の影響	宮殿と庭園／「バロック」と「ロココ」と「新古典主義」／眼前の風景＋ルネサンスの英知

第4回	イタリアに憧れて－息子に「音楽家」にしたい	貴族とお城とオペラの関係／モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782年）・『魔笛』（1791年）など
第5回	「趣味は音楽鑑賞」－音楽ビジネスの始まり	市民階級の台頭／エステルハーゼ家と音楽出版／ハイドン『交響曲第94番ト長調（驚愕）』（1792年）
第6回	革命とナポレオン後の世界（1）－真理を「聴く」	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調作品67（「運命」）』（1808年）・『交響曲第九番ニ短調作品125（合唱付）』（1824年）
第7回	革命とナポレオン後の世界（2）－ロマン派の世界	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814年）／ゲーテ『ファウスト（悲劇第一部）』（1808年）
第8回	プロイセンの台頭－「ドイツ人なら誰でも知ってる絵」？！	メンツェル『サンサーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）ほか
第9回	「音楽の国ドイツ」の成立（1）－「合唱」と「伝統」	F.ヘンゼルの音楽サロンとベルリンの「ジグ・アカデミー」／メンデルスゾーン＝バルトロディによるバッハ『マタイ受難曲』再演（1827年）
第10回	「音楽の国ドイツ」の成立（2）－ライブツィヒとヴィーン	「フィルハーモニー」と「定期演奏会」／「有名な曲」を作る方法
第11回	「音楽の国ドイツ」の成立（3）－フランスには負けられない？！	「音楽学校」と「スター誕生」／音楽家の営業活動／ピアノの先生と「家庭の音楽」
第12回	装飾とデザイン（1）－ヴィーン世紀末の都市計画	城壁の撤去とリング通り／O.ヴァーグナーによる都市計画／ヴィーン工房とヴィーン分離派
第13回	装飾とデザイン（2）－産業革命とユークンシュティール	古のヴィーンを優雅なベンチと曲木の椅子で蘇らせる／カフェーハウスの芸術家たち
第14回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- ・授業資料に再度目を通すこと。
- ・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品をインターネット上やカタログ等で見る／聴くなどできればなお良いです。
- ・コンサート／ライブや観劇、映画館・展覧会訪問はもちろん、他の授業で学んでいることなど、現在進行形で経験されていることは全て関係があります。この授業でもぜひあなたの体験を共有してください。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

- ・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
- ・石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会）2014年
- ・高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）1990年
- ・神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社）1995年
- ・饗庭孝男、伊藤哲夫、加藤雅彦、小宮正安、西原稔、檜山哲彦、平田達治『ウィーン 多民族文化のフーガ』（大修館書店）2010年
- その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献・課題の作成）（50%）
- ・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・紙媒体で利用できる筆記用具

- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)	
ドイツ語圏の芸術B	2017年度以降入学者
林 志津江	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金4/Fri.4	
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ベルリンの物語】二度の大戦と都市の分断・再統一を経験したドイツとその首都であるベルリンは、圧倒的な強度で描かれ続けているメトロポールです。この授業では、ベルリンあるいはドイツを舞台とする絵画や文学作品、映画（劇映画）、映像作品を通して、ベルリンとドイツを描く映像表象の形式・様相を確認するとともに、変化し続けるメトロポールの姿からその社会の内実に迫ります。春学期開講の「ドイツ語圏の文学A」と比べると、格段に「女性」「弱者」「マイノリティ」がクローズアップされる内容かと思います。多様性とマージナルなものに対する眼差しの中にこそ、都市と国家の分断の歴史が鋭く見出されるのかもしれません。

【到達目標】

- 1) ドイツ（語圏）とその周辺諸地域の歴史と文化に関する知識と理解を深める
- 2) 文学作品や劇映画の読解を通じて、美的形式を分析する抽象的な議論に慣れる
- 3) 文化闘争の言説とナショナル・アイデンティティとの関連、自己同一性の実体や困難について思考できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・20世紀～現代の造形芸術（絵画）、映画および文学作品の映像二次創作を時系列的に扱います。
- ・各回、担当者による解説を行います。文学・映像作品を扱う回では次いで該当テキストの抜粋を読み、映画の該当部分の内容を確認します。
- ・一連の導入作業の後、ペアワーク／グループワークの時間を設け「ここまでの内容・解説についてどう理解しどう思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深める時間とします。
- ・各回授業後にペアワーク／グループワークの成果を課題としてまとめ、提出します。
- ・Google Classroomを主たるLMSのツールとして使用します。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては主に授業の場でフィードバックを行います。提出物のフィードバックとあわせて適宜全体に向けて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第2回	大都市の誕生ー表現主義の絵画	E.L.キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912年）『ポツダム広場』（1914年）など
第3回	地下鉄の走る街・映画の時代	E・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その1／W.ルットマン『ベルリンー大都会交響楽』（1927年、ドイツ）

第4回	大都会で見つける人間の絆	E・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その2／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
第5回	「エル・ドラド」の世界・大都市の光と影	「両性具有」というイメージの流行／O.ディックス『大都会』（1927/28年）／C.シャート『ソーニャ』（1929年）など
第6回	文化／映画産業の現実ーサイレントからトーキーへ	H.マン『ウンラート教授』（1905年）／スタンバーク『嘆きの天使』（1930年、ドイツ）その1
第7回	魅惑的な映画スターー「ニーチェ小説」から「脚線美」へ	H・マン『ウンラート教授』（1905年）／スタンバーク『嘆きの天使』（1930年、ドイツ）その2
第8回	「ベルリン／都会で成功したい」	E・ケストナー『ファビアンーあるモラリストの物語』／映画『さよなら、ベルリン またはファビ안의選択について』（2021年、ドイツ）
第9回	一度きり（比類なき）の分断・一度きりの人生	L・クラウメ『僕たちは希望という名の列車に乗った』（2019年、ドイツ）
第10回	支配者にとってベルリンとは	L・デイトン『ベルリンの葬送』（1964年）／G・ハミルトン『バーマーの危機脱出』（1966年、英国）
第11回	壁の向こう側	L・ハウスマン『ゾンネンアレー（太陽通り）』（1999年、ドイツ）／W・ベッカー『グッバイ・レーニン』（2002年、ドイツ）
第12回	映画の時間・再統一の空気	T・ティクヴァ『ラン・ローラ・ラン』（1997年、ドイツ）
第13回	ミレニアル世代のリアリティ	W.ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走（2010年）／F・アキン『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その1
第14回	ロードムービーの誘惑	W.ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走（2010年）／F・アキン『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- ・授業資料に再度目を通すこと。
- ・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品を読んだり観たりできるとな幸いです。
- ・映画をみる／映画館へ行く、コンサート／ライブや観劇、展覧会訪問はもちろん、他の授業で学んでいることなど、現在進行形で経験されていることは全て関係があります。この授業でもぜひあなたの体験を共有してください。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

- ・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
- ・W.ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など〔浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』（ちくま学芸文庫）1995年/1996年所収〕
- その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献・課題の作成）（50%）
- ・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・紙媒体で利用できる筆記用具

- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

(Century of image - Berlin Story) This course introduces cinema and visual culture from the era of German modernism (Berliner Moderne) and contemporary works, especially deal with "Berlin" as metropole and divided West- and East Germany as well as after reunification. In the course, we also focus on the sense of big city (Großstadt) and its people that has been developed intensively by Weimar classics as well as by entire German modernism and culture. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

ドイツ語圏の公共哲学A

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語圏における社会哲学・公共哲学の展開を、とりわけ20世紀における「批判理論」(Kritische Theorie)に着目しながら、概観します。

「批判理論」(あるいはその揺籃の地にちなんで「フランクフルト学派」)と呼ばれる思想潮流に属する哲学者たちは、個人と社会の関係をめぐる哲学理論を展開するとともに、実践的な歴史や政治の諸問題に対する公共の議論に参画してあります。個人が社会によって構成されているという自己反省は、現実の人々がいかに既存の社会体制によって歪められているかという批判的洞察と不可分なのです。だからこそ批判理論は、ファシズムの台頭やホロコーストを可能にしてしまったドイツ社会と対峙しています。授業においては、社会的・政治的コンテクストを踏まえつつ、批判理論の哲学者たち(ベンヤミン、ホルクハイマー、アドルノ、ハーバーマスら)の言説を検討し、その思想内容を理解・考察することが目指されます。

【到達目標】

- (A)「批判理論」における)ドイツ語圏の社会哲学・公共哲学の議論を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、社会的・政治的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示(必要に応じて配布)します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	批判理論における社会哲学・公共哲学とは？	個人と社会の関係についての自己反省と既存体制の内在的批判
第3回	批判理論の背景	20世紀ドイツの「危機」意識とファシズムの台頭 西欧マルクス主義とフロイト思想
第4回	批判理論の生成 (1)	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」

第5回	批判理論の生成 (2)	ベンヤミン「歴史哲学テーゼ」と「進歩」への問い
第6回	批判理論の生成 (3)	ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第7回	批判理論の展開 (1)	ファシズムと反ユダヤ主義、権威主義的パーソナリティ
第8回	批判理論の展開 (2)	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」への問い 68年運動と批判理論
第9回	批判理論の展開 (3)	ハーバーマスと「公共圏」の思想、コミュニケーション的行為の理論
第10回	批判理論と社会 (1)	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」
第11回	批判理論と社会 (2)	東西ドイツの再統一 ハーバーマスとデリダのヨーロッパ論
第12回	批判理論と社会 (3)	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティへの反省
第13回	批判理論の社会哲学のこれまでとこれから	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望めます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望めます。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・細見和之『フランクフルト学派 ホルクハイマー、アドルノから21世紀の「批判理論」へ』中央公論新社〔中公新書〕
 - ・三島憲一『戦後ドイツその知的歴史』『現代ドイツ統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
 - ・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点(リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価)40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoomに接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を別々に履修することができますが、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with social philosophy and public philosophy in the German speaking region (especially regarding Critical Theory).

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand Critical Theory's social philosophy, (B) examine it from social and political perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

ドイツ語圏の公共哲学B

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語圏における公共哲学・社会哲学の展開を、とりわけ「公衆」(Publikum)や「公共圏」(Öffentlichkeit)という概念に着目しながら、概観します。

現在、私たちは、単に個人として(「私」として)生きるのみならず、様々な人々と共に社会という場で(「私たち」として)生きています。個人と社会というこの二項の関係をめぐっては、公共哲学・社会哲学において、「公衆」や「公共圏」の概念とともに、様々な議論が展開されてきました。このことは、社会的存在としての人間を問うことであると同時に、民主主義体制や憲法のあり方といった政治の問題を考察することにも通じています。授業においては、こうした社会的・政治的な問題意識も踏まえつつ、ドイツ語圏を中心とした哲学者たち(カント、キルケゴール、ハイデッガー、シュミット、アーレント、ハーバーマスら)の言説を検討し、その思想内容を理解・考察することが目指されます。

【到達目標】

- (A)「公衆」・「公共圏」をめぐるとドイツ語圏の公共哲学・社会哲学の議論を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、社会的・政治的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示(必要に応じて配布)します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	「公衆」・「公共圏」をめぐると公共哲学・社会哲学とは？	個人と社会の関係および「公衆」・「公共圏」概念をめぐると議論の確認
第3回	カントの公共哲学(1)	「公衆」による啓蒙と理性の公的使用
第4回	カントの公共哲学(2)	公開性の原理と公共の福祉
第5回	「大衆」と公共哲学(1)	キルケゴールとハイデッガーの大衆論

第6回	「大衆」と公共哲学(2)	シュミットの議論文と政治的決断主義
第7回	アーレントの公共哲学(1)	複数性からみる公共的領域
第8回	アーレントの公共哲学(2)	政治的権力と政治的自由
第9回	ハーバーマスの公共哲学(1)	公共性の構造転換とコミュニケーション的行為
第10回	ハーバーマスの公共哲学(2)	討議デモクラシーと憲法パトリオティズム
第11回	宗教と公共哲学(1)	公共圏における宗教と世俗言語への「翻訳」
第12回	宗教と公共哲学(2)	ポスト世俗の社会と「相互学習」
第13回	「公衆」・「公共圏」をめぐると公共哲学のこれまでとこれから	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・齋藤純一／谷澤正嗣『公共哲学入門 自由と複数性のある社会のために』NHK出版
 - ・川崎修／杉田敦(編)『現代政治理論 新版補訂版』有斐閣
 - ・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点(リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価)40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoomに接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を別々に履修することができますが、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with public philosophy and social philosophy in the German speaking region (especially regarding the concept of "the public").

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of public philosophy in the German speaking region, (B) examine it from social and political perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

HIS300LA (史学/History 300)

ドイツ語圏の歴史A

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代世界とドイツの歴史

この授業では、「長い19世紀」における近代ドイツの発展を、世界のさまざまな国と比較しながら概観し、その特殊性と普遍性について理解することを目的とする。比較の対象としては、国民国家・植民地国家として先行したイギリス・フランスや 国民国家として同時期に成立したイタリア、ドイツ語圏のもう一方の中心であったハプスブルク君主国（オーストリア）、さらにアメリカ合衆国や明治・大正期の日本を想定する。

【到達目標】

ドイツ史において18世紀の末から20世紀の初頭にいたるいわゆる「長い19世紀」は、激動の時代であった。この時代、ドイツはナポレオン戦争や1848/49年の革命を経て統一された国民国家への歩みを始動し、政治的に分立していた多くの領邦が1871年にドイツ帝国として統一された。同時に産業革命を経験して経済的にも大きく発展し、ヨーロッパ有数の強国として確固とした地位を占めるようになった。この時代は第一次世界大戦（1914-1918）によって終わりを告げる。

この授業では、「長い19世紀」のなかで世界史的に見て重要性を有するトピックを4つのモジュールに分けて扱う。モジュールは以下の通りである。

1. ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり
2. 近代国家の世界基準？ 一国民国家と自由民主主義
3. 資本主義産業社会の繁栄と矛盾—19世紀後半の経済と社会
4. 国連なき時代の外交と第一次世界大戦

これらのモジュールにより、今なお大きな影響力を持つさまざまな制度や仕組みがつくられた近代という時代を理解するとともに、その地域的な多様性をドイツを中心として理解することが可能となる。そのことを通じて、現代の日本の状況に対しても批判的な考察をおこなう視座を獲得することができるだろう。

なお、20世紀初頭以降の時代については、秋学期開講の「ドイツ語圏の歴史B」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

それぞれのモジュールは、概説、演習、発展という3つのパートで構成される。

まず、概説では、モジュールの対象とする時代についてドイツをはじめとするヨーロッパ各国の状況を学び、その特徴について考える。19世紀の社会がどのようなものであったかを理解することは、続く20世紀の時代を理解するためにも欠かせない。

次に、演習では、モジュールのテーマにかかわるさまざまな史料を取り上げ、その史料を解説することで得られる情報を分析し、理解を深める。取り上げる史料は文書だけでなく画像・映像や芸術作品を含める（テキストは日本語のものを用意する）。

最後に、発展では、それまでの2つのパートの内容をふまえ、ドイツだけでなく他国の状況と比較し、歴史の学びを多面的なものとする。

参加者はいずれのモジュールにおいても主体的な参加が求められる。毎回リアクションペーパーを提出するとともに、各モジュールの発展パートでは自分が選択したテーマに関し簡単な発表をおこなう（少なくとも1回以上）。それらをもとに期末レポートを執筆する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ語圏の特徴とは何か、なぜその近代の歴史を学ぶのかについて考える。
第2回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」概説	19世紀初頭の神聖ローマ帝国の解体とナポレオン戦争について扱う。
第3回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」演習	啓蒙主義の出現と友に始まった新しい公共性のあり方について、史料をもとに分析する。
第4回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」発展	ヨーロッパ各国における新古典主義やロマン主義の文化・芸術の展開と、それを生んだ社会について理解を深める。
第5回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」概説	19世紀前半のウィーン体制から1871年のドイツ帝国創建まで、ドイツ統一をめぐるさまざまなビジョンの競合と対立を扱う。
第6回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」演習	ドイツ・ナショナリズムの出現と発展について、モニュメントや建築・絵画などの史料をもとに解説する。
第7回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」発展	1848/49年にヨーロッパを揺るがした革命の経緯と、そこに参加したさまざまな勢力の置かれた状況とその政治的要求を比較分析する。
第8回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」概説	資本主義の発展と、工業化と都市化の進展による社会の変容について扱う。
第9回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」演習	市民層と労働者階級や下層民との関係、社会のジェンダー秩序構造について論じる。
第10回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」発展	19世紀後半のヨーロッパでは各国でさまざまな芸術文化が開花した。それら新たな芸術潮流について扱う。
第11回	第4モジュール「第一次世界大戦」概説	：第一次世界大戦はどのようにして勃発し、どのように進化したのか、史上最初の「総力戦」について概観する。
第12回	第4モジュール「第一次世界大戦」演習	大戦の結果それまでのヨーロッパ社会はどのように変化したのか。大戦をどのように記録し、評価し、表象したのか。さまざまな史料から読み取る。
第13回	第4モジュール「第一次世界大戦」発展	大戦に関わった各国でのその影響の違いや、大戦後の社会の発展を取り上げる。
第14回	総括と展望	「長い19世紀」とはどのような時代だったのかを総括し、1920年代以降の歴史への展望をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業への参加・リアクションペーパー(30%)、各モジュール第3パートでの報告(20%)、期末レポート(50%)により総合的にこなう。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of modern Germany's development during the "Long Nineteenth Century," comparing it with various other nations, and to understand its particularities and universal aspects. Countries for comparison include Britain and France, which preceded Germany as nation-states and colonial powers; Italy, which emerged as a nation-state during the same period; the Habsburg Monarchy (Austria), the other major center of the German-speaking world; as well as the United States and Japan during the Meiji and Taisho periods.

This course examines topics of global historical significance within the "Long Nineteenth Century," divided into four modules. The modules are as follows:

1. The Napoleonic Wars and the Dawn of Modern Europe
2. The Global Standard of the Modern Nation-State?— Nation-States and Liberal Democracy
3. The Prosperity and Contradictions of Capitalist Industrial Society— Economy and Society in the Late Nineteenth Century
4. Diplomacy in the Era Without the UN and World War I

These modules enable students to understand the modern era, which created various systems and mechanisms still exerting significant influence today, while also grasping its regional diversity, centered on Germany. Through this, students will gain a perspective for critically examining the situation in contemporary Japan.

The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

Grading will be based on a comprehensive evaluation of class participation and reaction papers (30%), presentations in Part 3 of each module (20%), and the final report (50%).

HIS300LA (史学 / History 300)

ドイツ語圏の歴史B

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ナチズムを中心に20世紀のドイツ語圏の歴史を扱う。ナチスとその支配をドイツ＝ヨーロッパ史の文脈のなかに位置づけ、その特質を理解することを目的とする。

【到達目標】

20世紀の前半のドイツを中心とするヨーロッパの状況について学ぶ。とくに、歴史上例のない破壊と犯罪行為をおこなったナチ政権の成立に至る過程とその支配のイデオロギーや構造、およびナチ政権の下での「普通の人びと」の日常生活について理解する。ナチスの引き起こした第二次世界大戦とユダヤ人迫害（ホロコースト）を、そのヨーロッパワイドな広がりという文脈において理解する。さらに、大戦後から現代に至るまでのナチスをめぐる歴史認識についても考察する。

なお、19世紀末までの時代については、春学期開講の「ドイツ語圏の歴史A」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は以下の3つのパートからなる。

- ①概説：政治・経済を中心に、時代の流れを説明する。
 - ②論点：経済・社会・文化を中心に、その時代の重要な特徴をいくつか抜き出し、解説する。
 - ③演習：それまでに得た知見を踏まえ、同時代史料（文書、画像、映像、芸術作品など）を読み解き、解釈する。史料は日本語のものを留意する。
- 参加者は随時意見を述べたり、ディスカッションに参加することを要求される。また、毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。提出課題は次回授業の冒頭でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの近現代史における特殊性と他地域との共通性について知る。
第2回	近現代ドイツ史の歩みとナショナリズム	ナポレオン戦争からドイツ帝国創建にいたるドイツのナショナリズムの発展を概観する。
第3回	第一次世界大戦とその帰結	ヴェルサイユ体制と敗戦国ドイツの処遇について学ぶ。
第4回	ヴァイマル共和国の誕生	ドイツ革命、ヴァイマル共和国の成立から1920年代半ばの相対的安定期までを扱う。
第5回	ヴァイマル共和国の崩壊	世界大恐慌から、ナチ党の台頭過程を経てその権力掌握に至るまでを明らかにする。

第6回	ナチ独裁支配の確立	全権委任法や「グライヒシャルトゥンク」と呼ばれる国内支配体制の足固め、「経済の奇跡」を達成するまでを概観する。
第7回	ナチ体制への国民統合	ドイツ国民の「民族共同体」への統合と、「共同体異分子」と呼ばれた人びとの排除について扱う。
第8回	ナチ・ドイツと国際社会	ヨーロッパ・グローバルな視点から1930年代の国際情勢を明らかにする。
第9回	「電撃戦」から「総力戦」へ	第二次世界大戦の開戦の経緯とドイツの戦争遂行体制の内実について知る。
第10回	ヨーロッパ・ユダヤ人の「絶滅計画」	大量虐殺に至るユダヤ人迫害の累進的急進化のプロセスについて学ぶ。
第11回	支配と協力のあいだで	ナチ支配体制に対するヨーロッパ各国の協働と抵抗について知る。
第12回	第二次世界大戦後のドイツ（1）	「崩壊社会」と呼ばれた敗戦後の混乱から、東西ドイツの建国にいたる時期を扱う。
第13回	第二次世界大戦後のドイツ（2）	戦後の東西ドイツにおける「過去の克服」の状況、とくに戦争犯罪人の訴追の問題を扱う。
第14回	再統一後のドイツと「記憶の文化」	統一ドイツにおけるナチズムの過去に関する「記憶の文化」の形成について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。
 芝健介『ホロコーストナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書、2008年。
 石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書、2015年。
 芝健介『ヒトラー—虚像の独裁者』岩波新書、2021年。
 ウルリヒ・ヘルベルト（小野寺拓也訳）『第三帝国—ある独裁の歴史』角川新書、2021年。
 小野寺拓也／田野大輔『検証ナチスは「良いこと」もしたのか？』岩波ブックレット、2023年。
 原田昌博『ナチズム前夜』集英社新書、2024年。
 ほか、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加(20%)、リアクションペーパー(20%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを書いてもらう時間を、毎回の授業時間の最後になるべく長く確保するようにします。フィードバックはなるべく手短にしますが、学生諸君との意見交換をいつも楽しみにしています。

【Outline (in English)】

This course covers the history of the German-speaking world in the 20th century, with a focus on National Socialism. The aim is to place the Nazis and their rule in the context of German-European history and to understand its particularities. Students will pay close attention to the process led to the establishment of the Nazi regime, which committed destruction and criminality unprecedented in history, the ideology and structure of its rule, and the daily lives of "ordinary people" under the Nazi regime. The course will also provide students with an understanding of the role of the Nazi regime in the Second World War and the persecution of the Jews (the Holocaust) in the context of its Europe-wide spread. The course will also examine historical perceptions of the Nazis from the end of the war to the present day.

Students are required to submit a reaction paper each time.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語講読A

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。

『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テキストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。

授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテキストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。春学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の序説を講読する予定です。

【到達目標】

(A) 辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテキストを読解できる。

(B) ニーチェの思想を、テキストに即して精確に理解できる。

(C) 理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

はじめにニーチェの生涯や思想、著作について導入をした後、『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*)のドイツ語原文を輪読形式で講読します。

講読に際しては、受講者全員が事前にテキストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テキストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。受講者には積極的な参加が望まれます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。

学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認 テキストについて導入
第2回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (1)	ニーチェの生涯や思想、著作の背景について導入 7頁の精読、検討

第3回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (2)	7-8頁の精読、検討
第4回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (3)	8-9頁の精読、検討
第5回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (4)	10-11頁の精読、検討
第6回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (5)	11-12頁の精読、検討
第7回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (6)	12-14頁の精読、検討
第8回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (7)	14-15頁の精読、検討
第9回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (8)	15-16頁の精読、検討
第10回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (9)	17-19頁の精読、検討
第11回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (10)	19-21頁の精読、検討
第12回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (11)	21-22頁の精読、検討
第13回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (12)	23頁の精読、検討
第14回	春学期のまとめ 課題もしくは試験	春学期の講読内容についての整理と議論 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テキストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam

※テキストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】

・独和辞典（必須）

・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社

・『ニーチェ全集9・10 ツァラトゥストラ 上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕

・須藤訓任「ニーチェ」(『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁)

・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社

その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（講読時のテキスト理解、議論への参加、担当時の発表、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60%、学期末課題もしくは試験の評価40%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

・読解のスピードや方法について、受講者の人数やテキスト理解の度合いに応じて、柔軟に無理なく進めるよう努めます。

・わかりにくいドイツ語の文法事項や表現について、必要に応じて初級文法に立ち返りつつ、丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。

・オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。
- ・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれませんが。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことが大切です。
- ・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and term-end report or examination (40%).

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)	
ドイツ語講読B	2017年度以降入学者
吉田 敬介	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月2/Mon.2	
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。

『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テキストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。

授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテキストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。秋学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の幾つかの説話を講読する予定です。

【到達目標】

- (A) 辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテキストを読解できる。
- (B) ニーチェの思想を、テキストに即して精確に理解できる。
- (C) 理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

はじめに序説の内容や論点を確認した後、春学期に引き続き、『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*)のドイツ語原文を輪読形式で講読します。

講読に際しては、受講者全員が事前にテキストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テキストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。受講者には積極的な参加が望まれます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。

学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 序説の振り返り	授業の進め方の確認 <i>Also sprach Zarathustra</i> , 7-23 頁の内容・論点の確認
第2回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (1)	24-26頁の精読、検討

第3回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (2)	26-27頁の精読、検討
第4回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (3)	27-29頁の精読、検討
第5回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (4)	29-31頁の精読、検討
第6回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (5)	31-32頁の精読、検討
第7回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (6)	32-33頁の精読、検討
第8回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (7)	33-34頁の精読、検討
第9回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (8)	34-36頁の精読、検討
第10回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (9)	36-37頁の精読、検討
第11回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (10)	38-39頁の精読、検討
第12回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (11)	39-41頁の精読、検討
第13回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (12)	41-44頁の精読、検討
第14回	秋学期のまとめ 課題もしくは試験	秋学期の講読内容についての整理と議論 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テキストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam

※テキストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】

- ・独和辞典（必須）
 - ・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社
 - ・『ニーチェ全集9・10 ツァラトゥストラ 上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕
 - ・須藤訓任「ニーチェ」(『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁)
 - ・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（講読時のテキスト理解、議論への参加、担当時の発表、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60%、学期末課題もしくは試験の評価40%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・読解のスピードや方法について、受講者の人数やテキスト理解の度合いに応じて、柔軟に無理なく進めるよう努めます。
- ・わかりにくいドイツ語の文法事項や表現について、必要に応じて初級文法に立ち返りつつ、丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。

・オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。
- ・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれませんが。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことが大切です。
- ・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and term-end report or examination (40%).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20~30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiやwebclassにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ 教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments

(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワーク「他己紹介」を通じたアイスブレイク。（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	運動の心理的効果 バドミントン	運動の心理的効果について、気分調査尺度を用いて検証する。（講義及び実習）
5	運動の身体的効果 バドミントン	運動の身体的効果について学ぶ（講義及び実習）

6	技術を高める効果的な練習法：注意の焦点 バスケットボール(+派生バスケ)	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として注意の焦点を学ぶ。（講義および実習）
7	技術を高める効果的な練習法：フィードバック法 ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてフィードバック法を学ぶ（講義および実習）
8	技術を高める効果的な練習法：運動イメージ ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として運動イメージを学ぶ（講義および実習）
9	技術を高める効果的な練習法：ブロック・ランダム法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてブロック・ランダム法を学ぶ（講義および実習）
10	技術を高める効果的な練習法：観察学習法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として観察学習法を学ぶ（講義および実習）
11	効果的な練習方法の探索 卓球	グループワークを通じて、効果的に運動を学習するための方法について探索する（講義及びグループワーク）
12	効果的な練習方法の実践 ビッケルボール	「効果的な運動学習法の探索」での結果を踏まえて、効果的に運動を学習するための方法を実践する（講義および実習）
13	Tea(お茶)とスポーツユニホック	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。

ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。（講義）
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	プレッシャーとスポーツ：実践 バスケットボール(+ 派生バスケ)	スポーツの場面ではしばしば緊張が高まる場面でのプレーが求められる。バスケットボールのフリースローを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）

5	プレッシャーとスポーツ：基礎理論 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ：実践」での結果を踏まえてプレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
6	プレッシャーとスポーツ：あがりへの対処 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ」での結果と基礎理論を踏まえて、プレッシャーがかかる場面でも実力発揮をするための方法とあがりへの対処法を学ぶ（講義および実習）
7	スポーツの価値 卓球	これまでに五輪スポーツから地域レベルでのレクリエーションスポーツまで数多のスポーツ種目が生み出されてきた。既存のスポーツ種目を概観すると共にスポーツの本質的価値を学ぶ（講義および実習）
8	Tea(お茶)とスポーツ 卓球	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
9	運動の功と罪 卓球	運動による健康効果についてはよく知られている。一方で、運動が心身に及ぼす負の影響についてはあまり知られていない。運動の功と罪について学ぶ（講義および実習）
10	ニュースポーツと地域活性 ネオテニス	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義および実習）
11	スポーツ栄養 ネオテニス	食の欧米化と多様化により、様々な健康リスクが増加した。近年、危惧されている超加工食品の摂取と健康リスクの関連について学ぶ（講義および実習）
12	睡眠の効果 ピックルボール	睡眠は健康に大きな影響を及ぼす。睡眠の効果について学ぶ（講義および実習）
13	スポーツとコーピング ユニホック	社会生活を営む中で、様々な心理的ストレスを受ける。ストレスに対処する方法を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括およびレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	消費とスポーツ	（講義）余暇、記号、物語
第6回	教育とスポーツ	（講義）「効果」の誤認、規格化、体罰
第7回	卓球①	道具操作、ルール
第8回	卓球②	基礎動作、サーブ
第9回	ピックルボール①	道具操作、ルール
第10回	ピックルボール②	基礎動作
第11回	トレーニング①	器具の使用法
第12回	トレーニング②	基礎動作
第13回	社会階層とスポーツ	（講義）社会移動、ハビトゥス、再生産
第14回	科学とスポーツ	（講義）必然性、客観性、合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度(68%)、講義授業後に提出する課題(8%×4=32%)の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません(講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします)。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3(10回出席)に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか(盗用・剽窃などの不正行為をしていないか)

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にいただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).

2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、観光のまなざし、ジェントリフィケーション
第6回	メガスポーツイベント	（講義）レガシー、ショック・ドクトリン、ナショナリズム
第7回	卓球①	道具操作、ルール
第8回	卓球②	基礎動作、サーブ
第9回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第10回	ピククルボール②	基礎動作
第11回	トレーニング①	器具の使用法
第12回	トレーニング②	基礎動作
第13回	障害とスポーツ	（講義）感動ポルノ、社会モデル、インペアメント
第14回	差別とスポーツ	（講義）歪められたカテゴリー、構造的差別、アクティビズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度(68%)、講義授業後に提出する課題(8%×4=32%)の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません(講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします)。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3(10回出席)に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか(盗用・剽窃などの不正行為をしていないか)

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks ($8\% \times 4 = 32\%$).
2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）		3	身体運動と健康（講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。
スポーツ科学A				運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
朝比奈 茂		4	ヨーガの哲学とアーサナー（講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月3/Mon.3		5	ヨーガの起源とアーサナー（講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
単位数：2単位		6	ヨーガと呼吸（講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
定員制（20～30）		7	スポーツウォーキングの概要（講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉		8	スポーツウォーキングと基本技術（講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、慣性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		9	スポーツウォーキングの基本姿勢（講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を理解し実践する。
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。		10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果（講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。		11	スポーツウォーキングと健康（講義および実習）	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
【到達目標】		12	ヨーガと Meditation（瞑想）（講義および実習）	Meditation について概説し、ヨーガを実践することで Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。		13	ヨーガと健康（講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。		14	まとめ（講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。				
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。				
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。				
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。				
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。				
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。				
9. スポーツ傷害について説明できる。				
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1				
【主な授業方法】				
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment				
【授業の進め方と方法】				
本講義は対面授業を基本として実施する。				
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。				
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。				
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。				
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
あり / Yes				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス（対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。		
2	体力測定（講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。		
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】				
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。				
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。				
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。				
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。				
【テキスト（教科書）】				
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。				

【参考書】

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，1986
 佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%
- 2) 期末レポート 20%
- 3) 授業への参画状況 20%

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
 この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
 配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
 それ以外については、随時メールにて対応する。
 オフィスアワーとして毎週月曜日の 16 時 50 分～18 時 30 分までの 100 分を設ける。
 オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）		3	身体運動と健康（講義）	体力測定フィードバックおよびレポート作成を行う。
スポーツ科学B				運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
朝比奈 茂		4	ヨーガの哲学とアーサナー（講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月3/Mon.3		5	ヨーガの起源とアーサナー（講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
単位数：2単位		6	ヨーガと呼吸（講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
定員制（20～30）		7	スポーツウォーキングの概要（講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉		8	スポーツウォーキングと基本技術（講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、慣性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		9	スポーツウォーキングの基本姿勢（講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を理解し実践する。
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。		10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果（講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。		11	スポーツウォーキングと健康（講義および実習）	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
【到達目標】		12	ヨーガと Meditation（瞑想）（講義および実習）	Meditation について概説し、ヨーガを実践することで Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。		13	ヨーガと健康（講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。		14	まとめ（講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。				
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。				
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。				
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。				
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。				
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。				
9. スポーツ傷害について説明できる。				
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1				
【主な授業方法】				
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment				
【授業の進め方と方法】				
本講義は対面授業を基本として実施する。				
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。				
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。				
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。				
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
あり / Yes				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス（対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。		
2	体力測定（講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。		
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】				
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。				
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。				
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。				
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。				
【テキスト（教科書）】				
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。				

【参考書】

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，1986
 佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%
- 2) 期末レポート 20%
- 3) 授業への参画状況 20%

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
 この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
 配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
 それ以外については、随時メールにて対応する。
 オフィスアワーとして毎週月曜日の 16 時 50 分～18 時 30 分までの 100 分を設ける。
 オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ（講義及び実習）

6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える（コンディショニング）ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.

(2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ（講義及び実習）

6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える（コンディショニング）ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。

ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

- 1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
- 2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
- 3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
- 4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
- 5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.

(2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合を展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は2年生以上を対象としており、A・B連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。

第8回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	集団的技術（三段攻撃の使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第10回	集団的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第11回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第12回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第13回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第14回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60％）を主な基準として、筆記試験（40％）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】

- ・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

[Learning Objectives]

- 1.Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
- 2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
- 3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
- 4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（スポーツ科学B）は2年生以上を対象としており、スポーツ科学Aを受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及びビーチバレーのルールについて（講義）	授業のガイダンスを行い、ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第2回	基本的な動きとボールに慣れる（実習&講義）	スポーツ科学Bからの受講者のために各技術の基本を説明する。
第3回	基本技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本技術を復習する。
第4回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本的技術や集団技術を復習する。
第5回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第6回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第7回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第9回	集団的技術（トスアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（トスアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	集団的技術（総合的）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い等を理解し、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、授業内でのレポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】

- ・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

[Learning Objectives]

- 1.Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
- 2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
- 3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
- 4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 目標達成に寄与する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar、E 実験/実習/実技/Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業の主な流れは次の通りである。①授業の初期では、安全講習、トレーニングの理論の学習、トレーニング目標の設定等に取り組む。②各授業では、トレーニング効果を促進する栄養、サプリメント等について学習した後、トレーニング実習に取り組み、トレーニング内容を記録するとともに、授業から得た知識や気づき等をリアクションペーパーにまとめる。③最終授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの成果をレポートにまとめる。最終授業時にリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等を行う（講義）
2	トレーニングの理論と実習1	安全講習及び各種機器の使用方法を学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
3	トレーニングの理論と実習2	体組成の測定及びトレーニング目標を設定した後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
4	グループワーク1	描画法を用いたグループワークに取り組む（講義）
5	グループワーク2	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
6	トレーニングの理論を学ぶ	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義）

7	トレーニングの理論と実習3	サプリメントとその摂取方法について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習4	栄養不足が招く悪影響について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習5	スポーツ現場での栄養指導について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習6	栄養摂取のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習7	アミノ酸の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習8	脂質の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習9	糖質の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
14	総括、トレーニングの理論と実習10	体組成とトレーニング記録を測定した後、レポートの作成に取り組む（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. ①授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパーが80%、②課題・レポートが20%の配分として総合評価します。
2. 本授業ではトレーニング記録の測定・収集・分析等を行う性質上、やむを得ない理由がない限り、全回出席を原則とします。やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。課題・レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
5. 授業内容の説明や受講者の決定等を実施するため、必ず初回授業から出席してください。また、授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定します。本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学A・Bの通年履修が理想的です。
3. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館5階の予定です。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students learn the basic theory and methods of physical training that contribute to the achievement of own goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

1. to learn the basic theory and methods of training.
2. to devise and implement original training program that contributes to the achievement of own goals.
3. to acquire knowledge of nutrition and supplements to promote the effects of training.
4. to understand that training is a means of contributing not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. to practice systematic training.
2. to record your meals and sleeping hours.
3. to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2. Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業の主な流れは次の通りである。①授業の初期では、トレーニングの理論に関する学習やトレーニング目標の設定等に取り組む。②各授業では、トレーニング効果を促進するリカバリーの方法、睡眠、栄養、減量のポイント等について学習した後、トレーニング実習に取り組み、その内容を記録するとともに、授業から得た知識や気づき等をリアクションペーパーにまとめる。③最終授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの成果をレポートにまとめる。最終授業時にリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明及び受講者の決定を行う（講義）
2	トレーニングの理論と実習1	安全講習及び各種機器の使用方法を学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
3	トレーニングの理論と実習2	体組成の測定及びトレーニング目標を設定した後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
4	トレーニングに関する教養教育1	スポーツ傷害に関する予備知識を習得する（講義）
5	トレーニングに関する教養教育2	トレーニング効果を高める予備知識を習得する（講義）
6	トレーニングに関する教養教育3	栄養、発汗、睡眠に関する予備知識を習得する（講義）

7	トレーニングの理論と実習3	睡眠の質について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習4	睡眠時間と就寝法について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習5	リカバリーとトレーニングの関係について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習6	生体リズムと体内時計について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習7	最終目標から逆算した栄養戦略について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習8	減量のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習9	増量のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
14	総括、トレーニングの理論と実習10	体組成とトレーニング記録を測定した後、レポートの作成に取り組む（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. ①授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパーが80%、②課題・レポートが20%の配分として総合評価します。
2. 本授業ではトレーニング記録の測定・収集・分析等を行う性質上、やむを得ない理由がない限り、全回出席を原則とします。やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。課題・レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
5. 授業内容の説明や受講者の決定等を実施するため、必ず初回授業から出席してください。また、授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。

【学生の意見等からの気づき】

新規の人間関係の構築を目的とした体験型学習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定するため、本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Bの履修者は春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will acquire practical theories and methods of physical training that contribute to achieving individual goals such as performance enhancement, body sculpting, weight loss, and health maintenance and improvement, and will design their own training programs. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

1. to acquire practical training theory and methods
2. to devise and implement effective and practical training program that contribute to the achievement of own goals.
3. to acquire knowledge of recovery, nutrition and sleep methods that promote the effects of training.
4. to understand that training is a means of contributing not only to physical health, but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. to practice systematic training.
2. to record your meals and sleeping hours.
3. to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2. Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	卓球①	道具操作、ルール
第6回	卓球②	基礎動作、サーブ
第7回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第8回	ピククルボール②	基礎動作
第9回	消費とスポーツ	（講義）余暇、記号、物語
第10回	教育とスポーツ	（講義）「効果」の誤認、規格化、体罰
第11回	社会階層とスポーツ	（講義）社会移動、ハビトゥス、再生産
第12回	ピククルボール③	戦術、ポジショニング
第13回	卓球③	ダブルスの動き方
第14回	科学とスポーツ	（講義）必然性、客観性、合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にいただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).

2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	(講義) スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第6回	ピククルボール②	基礎動作
第7回	ピククルボール③	戦術、ポジショニング
第8回	ピククルボール④	ダブルスゲーム
第9回	地域の生活とスポーツ	(講義) 開発、観光のまなざし、ジェントリフィケーション
第10回	メガスポーツイベント	(講義) レガシー、ショック・ドクトリン、ナショナルリズム
第11回	障害とスポーツ	(講義) 感動ポルノ、社会モデル、インペアメント
第12回	卓球①	道具操作、ルール
第13回	卓球②	基礎動作、サーブ
第14回	差別とスポーツ	(講義) 歪められたカテゴリー、構造的差別、アクティビズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度(68%)、講義授業後に提出する課題(8%×4=32%)の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません(講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします)。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3(10回出席)に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか(盗用・剽窃などの不正行為をしていないか)

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks ($8\% \times 4 = 32\%$).
2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を、健康づくりの三本柱である「ストレッチング」「ジョギング」「ストレングス（筋力トレーニング）」を通して改善し、心身のコンディショニングを整えることを目的としたアクティブラーニング型の科目です。

受講者自身が体を動かしながら学ぶ実践的なプログラムを通して、コンディショニングに関する基礎的な知識と、日常生活に応用できる実践力を身につけます。2年生以上の学生を対象とし、自らの健康管理を主体的に行うためのスキル習得を目指します。

【到達目標】

1. トレーニングの原理・原則および運動の功罪を理解している。
2. スマートフォンアプリ等を用いて、身体コンディショニングに関わる測定と記録が正しく行える。
3. ストレッチングを目的に応じて正しく実践できる。
4. ジョギングまたはウォーキングを安全かつ適切なフォームで行える。
5. ストレングストレーニングを安全に実施し、その効果をレポートとしてまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。

- 1) シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
 - 2) ウォームアップ時にセルフコンディショニングチェックを行う
 - 3) 授業のテーマに取り組む
 - 4) ウォームダウンを行う
 - 5) リアクションペーパーを提出する
- 授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラウドルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	＜トレセン＞ ①Inbodyを用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価
3	シェイプアップ・トレーニング I	＜トレセン＞ ①ストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する

4	筋力の測定	＜トレセン＞ ストレングスマシンを利用した筋力測定と評価を行う
5	シェイプアップ・トレーニング II	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（大きな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
6	有酸素能力の測定	＜トレセン＞ ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う
7	シェイプアップ・トレーニング III	＜大学周辺＞ ①カルボーネン法による運動強度にしたがったウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
8	シェイプアップ・トレーニング IV	＜大学周辺＞ ①ウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
9	シェイプアップ・トレーニング V	＜トレセン＞ ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
10	シェイプアップ・トレーニング VI	＜トレセン＞ ①バランスボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニング VII	＜大学周辺＞ ①ボルグ指数を意識したウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニング VIII	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（小さな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニング IX	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（ピラミッド法を用いる） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	＜トレセン＞ ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

具体的には、授業外でトレーニングセンターや自宅において授業で扱ったトレーニング等の課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版

5. 山本ケイイチ著, 仕事ができる人はなぜ筋トレをするか, 幻冬舎新書
6. 山本利春著, 疲れたときは、からだを動かす, 岩波書店
7. 吉江和彦著, エグゼクティブが身体を鍛えるワケ, グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 春学期の学修過程をまとめたレポート：40%

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) スポーツウエア：運動を安全で効率的に実践できる
- 2) スマートフォン：活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能
- 3) タオル：汗を拭いたりストレッチの補助として使えるため、衛生面と実技の安全性向上に役立つ
- 4) 飲料（水またはスポーツドリンク）：脱水や熱中症を防ぎ、安全に運動を継続するために必要である
- 5) 必須ではないが、活動量計（スマートウォッチ等）：心拍数や歩数を正確に把握でき、学習記録や自己管理の精度を高められる
- 6) 筆記用具（またはタブレット）：セルフチェックや気づきの記録、リアクションペーパー作成に必要である
- 7) 室内用・屋外用シューズ：トレーニング施設のルールに対応し、安全に実技を行うために求められる
- 8) 替えのウエア：汗をかいた後に着替えることで、衛生的かつ快適に授業を継続できる
- 9) 小型ビニール袋またはランドリーバッグ：汗で湿ったウエアを持ち帰る際の衛生管理のために必要である

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、スポーツ科学Bまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This active-learning course aims to improve reduced physical functions caused by hidden obesity and lack of exercise through the three pillars of health promotion: stretching, jogging/walking, and strength training. Students learn foundational conditioning knowledge and practical skills through hands-on activities.

【Learning Objectives】

Students will be able to:

Understand fundamental training principles and the benefits and risks of exercise.

Conduct and record physical measurements using smartphone applications.

Perform stretching appropriately for specific purposes.

Execute jogging or walking safely with proper form.

Perform strength training safely and summarize its effects in a written report.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review and practice exercises introduced in class at the Training Center or at home. They should monitor changes in body weight, body fat, body temperature, diet, hydration, sleep, and bowel movements, applying course learning continuously. Standard preparation and review time is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation is based on the five learning objectives and consists of:

Participation in training during class: 30%

Reaction papers: 30%

Final report summarizing the semester's learning process: 40%

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、各自の目的に応じたトレーニング方法に着目したプログラムを作成計画し、実践した効果を検証します。

履修者自ら作成したトレーニング・プログラムを実践していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

授業では、履修者自身が設定した目的に基づいてトレーニング・プログラムを作成し、その実践と検証を行うアクティブラーニング型の方法で進めます。前半は身体組成や筋力などの測定結果を分析し、トレーニング方法の検討とプログラムの立案を行います。後半は作成したプログラムを段階的に実践し、種目・順序・強度・方法を適宜見直しながら完成度を高めます。最終回には、実践結果の測定と効果の評価を行い、学修過程と成果をまとめて発表します。毎回、トレーニングの記録と振り返りを行い、主体的に学びを深めることを重視します。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラスルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・測定	<トレセン> ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録とGoogle フォームへの回答 ⑦Inbodyを用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う
2	課題検討期Ⅰ・筋力（下肢）測定	<トレセン> ①Inbodyを用いた測定の結果を分析し、評価を行う ②下肢の筋力を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
3	課題検討期Ⅱ・筋力（上肢）測定	<トレセン> ①上肢の筋力を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
4	課題検討期Ⅲ・柔軟性測定	<トレセン> ①柔軟性を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
5	計画立案期Ⅰ・トレーニングの目的とプログラム	<トレセン> ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討し、個々に取り組む課題を明確にする
6	計画立案期Ⅱ・トレーニングプログラムの決定	<トレセン> ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③トレーニングプログラムを作成する
7	トレーニング課題研究Ⅰ（施設利用・実践トラブル編）	<教室またはオンライン> ①トレーニング施設の利用やトレーニング中に生じる典型的な問題を取り上げ、グループまたは個人で解決策を検討する ②提示した解答をAIで評価し、不足する知識や経験に関する情報をAIから収集して学修を深める
8	トレーニング課題研究Ⅱ（食事・休養・コンディショニング編）	<教室またはオンライン> ①食事、休養、体調管理などコンディショニングに関する課題を提示し、グループまたは個人で解決策を検討する ②考えた解答をAIに評価させ、必要な知識や改善点をAIを活用して補いながら理解を深める
9	計画実行期Ⅰ・トレーニングプログラム種目の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する

10	計画実行期Ⅱ・トレーニング強度に着目	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期Ⅲ・トレーニング方法に着目	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の実践	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する
13	効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・発表・総括	<教室> ①取り組んだ学修過程を発表する ②今後の課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

具体的には、授業外でトレーニングセンターや自宅において授業で扱ったトレーニング等の課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
3. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した6項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 本授業の学修過程をまとめたレポート：40%

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) スポーツウェア：運動を安全で効率的に実践できる

- 2) スマートフォン：活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能
- 3) タオル：汗を拭いたりストレッチの補助として使えるため、衛生面と実技の安全性向上に役立つ
- 4) 飲料（水またはスポーツドリンク）：脱水や熱中症を防ぎ、安全に運動を継続するために必要である
- 5) 必須ではないが、活動量計（スマートウォッチ等）：心拍数や歩数を正確に把握でき、学習記録や自己管理の精度を高められる
- 6) 筆記用具（またはタブレット）：セルフチェックや気づきの記録、リアクションペーパー作成に必要である
- 7) 室内用・屋外用シューズ：トレーニング施設のルールに対応し、安全に実技を行うために求められる
- 8) 替えのウェア：汗をかいた後に着替えることで、衛生的かつ快適に授業を継続できる
- 9) 小型ビニール袋またはランドリーバッグ：汗で湿ったウェアを持ち帰る際の衛生管理のために必要である

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずと全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】

The subject is over 2nd grade.

【Course outline】

This course is designed for second-year students and above. Students develop a personalized strength-training program based on their individual goals and evaluate its effectiveness through measurement, analysis, and practice. In the first half of the course, students assess body composition, muscular strength, and flexibility. In the second half, they implement and refine their training program, concluding with an evaluation and presentation of their learning outcomes.

【Learning Objectives】

Students will be able to:

Use training equipment safely.

Conduct appropriate physical measurements using training devices.

Evaluate training effects based on measurement results.

Perform training methods suited to individual goals.

Accurately record training results.

Present the learning process based on the verification of training effects.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review and practice training tasks at the Training Center or at home. They should monitor changes in body weight, body fat, temperature, diet, hydration, sleep, and bowel movements to support self-management. Standard preparation and review time is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Assessment is based on the six learning objectives and consists of:

Participation in training during class: 30%

Reaction papers: 30%

Final report summarizing the learning process: 40%

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

定員制

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

もし授業中に大きな地震が起きて、そのまま大学に泊まることになったら？

この授業では、「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、大学で帰宅困難になった状況を想定し、一泊二日の「キャンパス型避難所演習」を行います。ライフラインが制限された環境の中で、トイレ対策、非常食、教室での就寝などを実際に体験しながら、災害時でも健康を保ち生活する力（レジリエンス）を学びます。防災を「知識」ではなくリアルな体験から学ぶ授業です。自分の身を守る力と、周囲と協力して問題を解決する力を身につけた人の参加を歓迎します。

帰宅困難という厳しい状況においても、自分の健康を損なわず、安全に滞在し、自宅に帰るための自助防災力と、協働的な問題解決力を身に付けることを目的としています。

具体的には、断水時のトイレ処理、非常食の栄養評価、教室での就寝環境が身体に与える影響などを、健康測定データと主観的記録の両面から検討し、災害時のコンディショニングを科学的に理解します。あわせて、最小限の携行品で生活の質を高める工夫をグループワークで明確にし、自立した避難者として行動する意義と、共助につながる視点を学びます。

さらに、体験から得た知見を医学・公衆衛生・歴史など多角的に整理し、現代の環境に適した実効性の高い対応策へと発展させます。最終的には、日常の備えや携行品を自ら見直し、どのような環境下でも心身の健康を保ちながら安全に行動できる判断力の獲得を目指します。

【到達目標】

1. 災害時に自分の健康と安全を守る行動判断ができる。
2. トイレ・食事・携行品・就寝環境の課題を見つけ、改善案を示せる。
3. グループで協働し、実行可能な解決策をまとめられる。
4. 専門的な見地に立って、解決策を検証・修正できる。
5. 学びを日常の備えに生かし、自助防災力を高められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

本授業はオータムセッション期間中に市ヶ谷キャンパスにおいて開講します。授業の定員は30名とします。履修希望者が定員を超過した場合は履修者を選抜します。

授業は、講義・演習・体験学習・グループワークを組み合わせ実施します。

第1回から第4回の事前授業では、災害に関する基礎知識、帰宅困難者の実態理解、健康リスクや避難時の課題抽出、健康に関するデータの計測方法などを学びます。

第5回から第14回は一泊二日の大規模自然災害後の帰宅困難者を疑似体験する授業を行います。

本授業は「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、教室での宿泊を通じて、トイレ衛生、非常食、携行品、就寝環境などの生活課題を体験的に学び、体験から得られた問題について、個人・グループで解決策を検討し、その評価と知識補足を通じて内容を深化させます。最終回では体験結果をレポートとしてまとめ、自助防災力の向上につなげます。

【履修希望者へ】

1. 履修申請方法

履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。

●申込フォーム（Google フォーム）

<https://forms.gle/npwtTr725NCiv9Yi8>

●申請期間

2026年3月14日（土）17:00～3月31日（火）12:00

※期間外の申請は受け付けられません。

2. 申込に関する注意

1) 履修者選抜について：本科目には定員があります。

応募者が募集定員を超過した場合は、履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。

2) 申請後の流れ・注意事項

①申込完了後、Google フォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。

内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。

※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。

②履修者の決定は**4月9日（木）**です。何らかの事情で履修を取り消す場合は、**4月5日17:00**までに、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。

※ mam01@hosei.ac.jp

③履修登録は**2026年度春学期**に所属学部事務局が一括して登録します。学生自身による履修登録は不要です。

④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。受講しなかった場合の成績は**E**評価となるので注意してください。

3) 授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。

4) 申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラスルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	9月11日（2限）：ガイダンス	1) 防災教育授業の目的 2) 授業におけるリスク管理と誓約 3) 大規模自然災害時の帰宅困難者の実態把握 4) 一泊二日の疑似的帰宅困難者体験を「実証実験」と定義するマインドセット
2	9月11日（3限）：健康リスク・ブレインストーミング	1) グループワーク（アイスブレイク） 2) 帰宅困難者に生じる身体的・精神的な健康問題を抽出
3	9月11日（4限）：発表と課題共有	1) 解決策を議論する 2) 発表資料を作成する 3) 発表会（グループごとの発表資料をもとに） 4) クラス全体での課題（トイレ・食・装備・睡眠）の再認識

4	9月11日(5限)：宿泊の諸注意・健康測定・モニタリング	1) 一泊二日の授業に関するオリエンテーション 2) 健康に関する測定の意義を再確認する 3) 日常の健康データ計測(歩数・睡眠・心拍等)の開始指示	12	9月14日(2限)：携行品・非常食に関する問題_自助の最適化	1) 個人ワーク： 今回の装備と食事の過不足を振り返り、生存と健康保持に「真に必要なリスト」を再考 2) グループ議論： 「快適に過ごし、安全に再会する」ための、携行品と非常食を決定 3) 栄養学・生存科学の視点から欠落を指摘してもらい、社会実装可能なレベルまで「自助」の質を引き上げる
5	9月13日(2限)：集合・疑似体験シナリオの確認	1) 教室集合 2) 健康測定 3) スマホ・PC以外の外部連絡制限など、疑似帰宅困難者としてのルールを徹底 4) 一泊二日のスケジュールと安全管理を確認 5) 自分が持ってきた「携行品」を全公開 6) 何があり、何が足りないか、リスト化して現状の「自助レベル」を可視化する	13	9月14日(3限)：整理・資料作成	1) 4つのテーマ(トイレ・食・携行品・睡眠)について、体験・問題抽出・グループの共有解・最終回答を整理 2) 帰宅困難者となった時の多くの問題を解決するための多様なシミュレーションをグループで統合
6	9月13日(3限)：トイレ実習	1) 断水したトイレでの排泄物処理を体験 2) 手順の難しさ、処理袋の扱い、臭いへの懸念など、現場で直面する精神的負荷を記録	14	9月14日(4限)：レポートの作成と総括	1) 健康測定結果の解析： 1泊2日の心身への影響を、実体験と客観データから多角的に分析する 2) サバイバル戦略の構築： 健康を維持して帰宅するための、論理的な災害対応策を構造化する 3) 行動計画の策定： 帰宅困難者体験の成果を、日頃の備えや「自助」をアップデートする具体的な指針としてまとめる
7	9月13日(4限)：非常食摂取	1) 夕食 2) 大学備蓄品等の特定食のみを摂取 3) 空腹感、喉の渇き、食事の中の孤独感や焦燥感など、心理的变化をサンプリングする	【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。 これに加えて、指定資料や関連ニュースの確認、非常持出品や防災用品の調査・点検、体験学習で得た気づきや健康データの整理、レポート作成に向けた記録の見直しを行うことを求めます。 また、授業外学習として、事前に日常生活における簡易的な健康測定(睡眠時間、歩数、心拍数等)を各自で行ってもらいます。これは、帰宅困難者疑似体験時に生じるストレス下の心身状態と比較し、体験による変化や健康リスクを客観的に把握することを目的とします。		
8	9月13日(5限)：健康測定・就寝準備	1) 就寝前の健康測定 2) 教室の床・机・椅子を使い「朝まで眠れる環境」を設営 3) この時点での疲労度とストレス値を記録	【テキスト(教科書)】 特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。		
9	9月13日(6限)：健康測定・朝食	1) 起床 2) 直後の健康測定 3) 不十分な睡眠が身体に与えた「痛み・重だるさ」を記録 4) 簡素な朝食(大学の備蓄品)を摂り、活動を再開	【参考書】 1. 『自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究(千代田区キャンパスコンソーシアム)』、令和3年度～5年度の共同研究報告書 2. 『最期の声 ドキュメント災害関連死』(山川徹 著 / KADOKAWA) 3. 『いのちを守るために知る 災害メカニズム図鑑』(京都大学防災研究所 監修 / 二見書房) 4. 『人が死なない防災』(片田敏孝 著 / 集英社新書) 5. 『帰宅困難者対策ハンドブック』(内閣府 / 東京都) 6. 『避難所でのトイレ対策マニュアル』(特定非営利活動法人 日本トイレ研究所 編) この他にも必要に応じて紹介する。		
10	9月13日(7限)：就寝環境に関する問題_安眠と健康維持	1) 個人ワーク： 硬い床や椅子での就寝による身体的・精神的苦痛を言語化し、改善案を考案 2) グループ議論： 互いの案を共有し、教室内の資源で可能な「健康を守る寝床」の解をまとめる 3) 医学的エビデンス(エコノミー症候群等)に基づく修正と、より高度な環境改善の問いを得る	【成績評価の方法と基準】 1) 授業中の活動への参画状況および授業態度(成果発表)：60% 2) レポート・作成した資料等：40% 授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。 ただし、成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。		
11	9月14日(1限)：トイレに関する問題_衛生管理と尊厳	1) 個人ワーク： 実習で感じた処理の不便さや、回数制限に伴う「水分抑制」等の健康リスクを整理 2) グループ議論： 臭気・衛生・プライバシーを両立させる、受入施設でのトイレ運用ルールを策定 3) 過去の災害時の公衆衛生の失敗学や、科学的消毒・処理の最新知見を引き出し、解を深める			

【学生が準備すべき機器他】

本授業は、想定外の事態に対応する「実証実験」の要素をもった授業です。

重要なことは、本授業が「被災直後に十分な物資を持たずに集合せざるを得ない状況」を想定し、可能な限り日常的に身につけている物や、手元にある最小限の携行品で行動する体験を重視していることです。一方で、大学の授業として安全面への配慮も不可欠であることから、過度な装備や特別な購入は求めませんが、健康と安全を守る観点から、最低限の物品については各自の判断で持参することを推奨します。

また、本授業は大学の教室内での宿泊活動を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての同意確認書（保護者確認を含む書類）を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。

以上の趣旨を踏まえ、必要な物品は事前授業において「持参が望ましい例」として、改めて説明します。自身の体調や特性を考慮し、「健康を保持し、安全に帰宅する」ために必要な備えは各自で調整してください。

【その他の重要事項】

1. 本授業では、身体的・精神的に一定の負荷がかかる疑似体験を含みます。持病、過度な閉所・暗所恐怖症、心身の不調がある場合は必ず事前に相談してください。授業中、体調に異変を感じた際は直ちに教員に申し出ること。安全確保のための離脱は成績評価に不利に働くものではありません。

2. 授業期間中は、授業目的（報告・分析・AI壁打ち）以外のスマートフォン利用（SNS、動画視聴、外部への私的な連絡等）を原則禁止します。インフラ寸断時の孤立感や、限られたバッテリーをどう配分するかという『資源管理』のシミュレーションを徹底してください。

3. 本授業で得られた健康測定結果や議論の内容、演習風景の写真は、統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは演習終了時までに申し出てください。

4. 授業終了直後の帰宅路そのものが、最後の実証実験です。教室での体験と、自身の現在の住環境・備蓄・家族との連絡手段を照らし合わせ、即座に改善行動に移すことを強く期待します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course provides an experiential, problem-based disaster preparedness program through a one-night, two-day campus-based shelter simulation. Students experience challenges such as toilet use during water outages, emergency food, personal belongings, and sleeping conditions, while monitoring their physical and psychological responses. They refine their proposed solutions with generative AI and learn how to maintain health, make sound decisions, and strengthen personal disaster-preparedness skills.

【Learning Objectives】

Students will be able to:

Make safe and appropriate decisions during disasters.

Identify and improve issues related to toilet use, food, belongings, and sleeping environments.

Collaborate to develop realistic solutions.

Use generative AI to validate and refine proposals.

Apply learning to everyday preparedness and enhance personal resilience.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected, as a general rule, to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each of the 14 class sessions.

Additional tasks include reviewing materials, checking personal emergency supplies, organizing health data and notes from the simulation, and conducting basic daily health monitoring before the autumn session.

【Grading Criteria / Policy】

Class participation and engagement: 60%

Assignments and report: 40%

Attendance at all class sessions is expected as a general principle, and absences are particularly discouraged given the nature of the course, in which sports, training, and communication activities constitute core learning materials. However, the evaluation policy represents a general standard, and individual accommodations and assessments will be provided for students who are in poor health, observers, or those who face special physical circumstances that make standard participation difficult.

Evaluation will be comprehensive.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：スプリングセッション/Spring Session | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

定員制

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

もし大きな災害が起きて、避難所ではなく、自分でキャンプ生活をしながら避難する選択をしたら？

本授業は、「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、首都圏で大規模災害が発生した際に想定される「帰宅困難」状況をテーマに、1泊2日の滞在型演習を通して、健康管理・行動判断・協働行動の防災リテラシーを実践的に学ぶ社会連携フィールドワーク科目です。実際の防災環境を想定した演習やグループ活動を通して、「自分の身を守る力」と「他者と協力して行動する力」を身につけることを目的としています。

キャンプを楽しみながら、災害時に本当に役立つスキルを身につけたい人の参加を歓迎します。

日本の指定避難所における雑魚寝や集団生活は、プライバシーの欠如に加え、エコノミークラス症候群や感染症、精神的ストレスといった深刻な健康被害（災害関連死のリスク）を抱えています。また、乳幼児を擁する家族など要配慮者への対応も十分とは言えず、2021年の制度改定後も、一般避難者には「自立した避難」の知恵が求められています。

本授業では、こうした屋内避難の限界を背景に、「避難所に行かない選択肢」としての大学キャンパスでの屋外キャンプ型避難を「新しい避難スタイル」として実践的に学びます。特に、不自由な環境下で食事・睡眠・衛生を自らマネジメントする術を習得します。身体データに基づき、過酷な状況下で心身の健康を維持するためのセルフヘルスケアスキルを学びます。

【到達目標】

1. 災害時における自助行動の選択肢として「キャンプ避難」の可能性と限界を説明できる
2. 猛暑・衛生・睡眠・栄養・水分に関するリスクを理解し、対策を立てられる
3. テント設営、生活動線設計、役割分担ができる
4. 自身の健康状態をモニタリングし、異常に気づき行動できる
5. グループで課題を議論し、実行可能な解決策を導出できる
6. 実習前後の身体・心理データをもとに振り返り、科学的に考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業は、スプリングセッション期間内に、事前授業（2027年3月8日）は市ヶ谷キャンパスにて、宿泊を伴う実践演習（2027年3月11日～12日）は多摩キャンパスにおいて開講する。授業の定員は30名とする。履修希望者が定員を超過した場合は履修者を選抜します。

授業では、テント設営、生活環境づくり、健康管理、役割分担、食料・水の確保等について、学生主体で計画・実行し、その過程と成果を振り返ります。

【授業実施形態】

1. 事前授業は市ヶ谷キャンパスで行う（第1～4回授業）。

2. 事前授業では、教員から提示された課題に対して、①グループ討議⇒②問題抽出⇒③対策案作成⇒④発表（意見交換）の流れで、グループごとに「自分たちの答え」を導くプロセスを踏む。
3. 数日間の準備期間を経て、多摩キャンパスにおいて一泊二日のロールプレイ型キャンプ実習（第5～14回授業）を実施する。
4. 強い寒気や悪天候時には内容を変更または中止し、暖房設備のある校舎内に宿泊する場合がある。

【授業時間に関する注意】

本授業は、市ヶ谷キャンパスで実施する回は市ヶ谷の時間割、多摩キャンパスで実施する回は多摩の時間割に基づいて行う。キャンパスによって授業時限が異なるため、履修者は各回の実施時限を事前に必ず確認すること。

【履修希望者へ】

1. 履修申請方法

履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。

- 申込フォーム（Google フォーム）

<https://forms.gle/7BcazVda5FVytKQaA>

- 申請期間

2026年10月16日（月）17:00～11月13日（金）15:00

※期間外の申請は受け付けられません。

2. 申込に関する注意

- 1) 履修者選抜について：本科目には定員があります。

応募者が募集定員を超過した場合は、履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。

- 2) 申請後の流れ・注意事項

①申込完了後、Google フォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。

内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。

※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。

②履修者の決定は**11月24日（月）**です。何らかの事情で履修を取り消す場合は、**11月19日17:00**までに、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。

※ mamol@hosei.ac.jp

③履修登録は**2027年度春学期**に所属学部事務局が一括して登録します。学生自身による履修登録は不要です。

④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。受講しなかった場合の成績はE評価となるので注意してください。

3) 授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。

4) 申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラウドルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回：	3月8日（2限）：ガ	1) 授業の目的・評価方法・安市ヶ谷キャンパス
	イダンス&アイズブ	全配慮説明
	レイク_なぜ「生きる	2) 災害時の帰宅困難問題の共有
	力」を学ぶのか	3) アイスブレイク「もしここで災害が起きたら？」
		4) キャンプ避難という選択肢の提示
		5) 実習シナリオ骨子の共有（大地震・孤立・停電）

第2回：	3月8日（3限）：課題発見ワークⅠ_寒冷環境と健康リスクを見抜く	※教員から課題提示：「真冬に暖房と電気が止まったら何が起きるか？…誰にとって一番厳しい環境か？」 ＜ヒント＞ 1）低体温症 2）脱水・エコノミークラス症候群 3）睡眠障害 4）呼吸器感染症と乾燥 5）火気・電力使用に伴う二次災害 6）その他
第3回：	3月8日（4限）：課題発見ワークⅡ_生存に必要な生活要素を設計する	※教員から課題提示：「48時間、生き延びるには何が必要か」 ＜ヒント＞ 1）水 2）食料 3）睡眠 4）衛生…トイレ・ゴミ 5）体温調整 6）防犯 7）情報
第4回：	3月8日（5限）：安城市ヶ谷キャンパス 全管理・健康管理理解_自分を守れない人は誰も守れない	宿泊の諸注意・健康測定・モニタリング 1）一泊二日の授業に関するオリエンテーション 2）中止基準・応急対応 3）健康に関する測定の意義と方法 4）持参物最終確認 5）健康測定（歩数・睡眠・心拍数等）の開始
第5回：	3月11日（2限）：多摩キャンパス キャンプ構築実習Ⅰ_災害後、安全なルートで集合せよ	1）現地集合 2）被災した前提の詳細シナリオ提示：役割分担 3）フィールド選定・整地 4）テント構造理解・設営講習
第6回：	3月11日（3限）：多摩キャンパス キャンプ構築実習Ⅱ_生活空間を完成させる	1）グループごとの設営完遂 2）耐風・浸水対策 3）動線設計 4）簡易昼食（各自持参）
第7回：	3月11日（4限）：多摩キャンパス 火気管理とエネルギー確保_熱源を制する者は夜を制す	1）薪・焚き付け採集 2）火起こし 3）安全管理 4）モバイルバッテリー残量計算 ※教員から課題提示：「スマホの電池切れ後、何を見る？」
第8回：	3月11日（5限）：多摩キャンパス 野外炊事マネジメント_限られた資源で食を成立させる	1）下処理 2）加熱 3）食中毒予防 4）水使用量管理
第9回：	3月11日（6限）：多摩キャンパス ロープワーク&空間拡張_結べる人は生き残る	1）各種結索 2）タープ設営 3）資材固定 4）タープやブルーシートで簡易更衣室を作る
第10回：	3月11日（7限）：多摩キャンパス 夜間安全管理・健康測定_夜をどう越えるか	1）夕食 2）衛生管理 3）健康測定 4）夜間リスク確認 5）就寝環境整備 6）照明・騒音環境の把握 7）睡眠環境と他者配慮
第11回：	3月12日（1限）：多摩キャンパス 起床・健康評価・朝食_野外生活は身体に何を与えたか	1）睡眠評価 2）心身データ確認 3）火起こし・朝食

第12回：	3月12日（2限）：多摩キャンパス 突発課題ロールプレイ_想定外に対応せよ	※教員から課題提示：「現場で高確率で発生する問題に対応せよ」 1）水不足 2）体調不良者 3）電源喪失 4）食料欠乏 5）追加推奨：盗難・騒音・プライバシー問題 6）幼児がいる家族が合流 7）犬を連れた避難者が来た 8）女性の更衣場所がない
第13回：	3月12日（3限）：多摩キャンパス 撤収・LNT実習_痕跡を残さず立ち去る	LNT実習：Leave No Trace Training 1）装備清掃 2）乾燥 3）分別 4）フィールド点検 5）迅速移動シミュレーション
第14回：	3月12日（4限）：多摩キャンパス 振り返りと社会実装_自助から共助へ	1）データ共有 2）改善点抽出 3）「理想のキャンパス避難モデル」提案 4）レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
これに加えて、指定資料や関連ニュースの確認、非常持出品や防災用品の調査・点検、体験学習で得た気づきや健康データの整理、レポート作成に向けた記録の見直しを行うことを求めます。
＜例＞

- 1）災害時の避難生活や避難所環境に関する新聞、雑誌、書籍、Web記事等の事前確認
- 2）授業で扱った事例や課題についての追加調査・振り返り
- 3）実習に向けた個人装備・持参物の確認と準備
- 4）グループ課題に関する情報収集・意見整理

また、スプリングセッション前には日常生活における簡易的な健康測定（睡眠時間、歩数、心拍数等）を各自で実施する予定です。これらは、帰宅困難者疑似体験時に生じるストレス下の心身状態と比較し、体験による変化や健康リスクを客観的に把握することを目的とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

1. ビジュアル「生きる技術」図鑑：防災・キャンプに役立つサバイバルテクニック、かざまりんべい／子供の科学編集部（ナツメ社）
2. キャンプ×防災のプロが教える 新時代の防災術、寒川 一（学研プラス）
3. 防災のサバイバル、国崎信江／山本典生（監修）（主婦の友社）
4. ぼくらの災害サバイバルBOOK、国崎信江（監修）（主婦の友社）
5. みんなが知りたい！自然災害のすべて：日本でおきる災害のしくみから防災へのとりくみまで、菅井貴子（技術評論社）

【成績評価の方法と基準】

- 1）授業中の活動への参画状況および授業態度（成果発表）：60%
- 2）レポート・作成した資料等：40%

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくありません。ただし、成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していないため、学生の意見を取り入れながら柔軟に実施します。

【学生が準備すべき機器他】

本授業は、「被災直後に十分な物資を持たずに集合せざるを得ない状況」を想定し、可能な限り日常的に身につけている物や、手元にある最小限の携行品で行動する体験を重視しています。一方で、大学の授業として安全面への配慮も不可欠であることから、テントは大学が貸与し、過度な装備や特別な購入は求めませんが、健康と安全を守る観点から、最低限の物品（寒冷対策：シュラフ等の寝具、食料等）については各自の判断で持参してください。なお、授業で扱う健康指標の計測（活動量計・気温湿度等）に必要な機材も貸与します。

また、本授業は屋外での宿泊活動を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての同意確認書（保護者確認を含む書類）を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。

以上の趣旨を踏まえ、必要な物品は事前授業において「持参が望ましい例」として、改めて説明します。自身の体調や特性を考慮し、「健康を保持し、安全に帰宅する」ために必要な備えは各自で調整してください。

【その他の重要事項】

1、本科目の授業形態は対面形式を予定していますが、新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ状況に至った際は変更となる場合があります。授業形態の変更については、学習支援システムを通じて担当教員より周知します。なお、対面形式で実施する場合、実施場所までの交通費は参加学生の自己負担となります。

2. 本科目の扱い

本科目は2026年度スプリング・セッションとして開講され、履修登録・成績付与は2027年度春学期扱いとなります。

※以下に該当する学生は履修できません：

2026年度に卒業予定の4年生

2026年度秋学期に前期留学・SA参加予定の学生

2027年度春学期に休学予定の学生

2027年度春学期に派遣留学・SA参加予定の学生

※本科目は2026年度秋学期および年間履修上限単位に含まれません。2027年度春学期に休学した場合、または派遣留学・SA参加により成績処理が行えない場合、成績は付与されません。

3. その他

1) この授業で用いるグループLINEにおいて、誹謗中傷・迷惑行為や嫌がらせ等の悪質なメッセージが確認された場合は、授業運営上の安全管理の立場から、その発信者個人を特定し適切に対応します。

2) 2022年度は台風の影響を受け、授業計画を大幅に変更したことがありました。そのため、履修する場合はスプリングセッション期間（授業予定日：3/8～3/12）に旅行や就職活動等の個人的な予定を組むことを控えてください。

3) 3/11のテント泊について

寒冷環境下で行うテント泊に関する説明は事前授業で行います。避難所を想定したキャンプをより現実的に体験するために暖房器具は使用しません。しかし、健康障害のリスクが高まる状況では臨機応変に対応します。

4) 本授業では、身体的・精神的に一定の負荷がかかる疑似体験を含みます。持病、過度な閉所・暗所恐怖症、心身の不調がある場合は必ず事前に相談してください。授業中、体調に異変を感じた際は直ちに教員に申し出てください。安全確保のための離脱は成績評価に不利に働くものではありません。

5) 授業期間中は、授業目的（報告・分析・AI壁打ち）以外のスマートフォン利用（SNS、動画視聴、外部への私的な連絡等）を原則禁止します。インフラ寸断時の孤立感や、限られたバッテリーをどう配分するかという『資源管理』のシミュレーションを徹底してください。

6) 本授業で得られた実習風景の写真や健康測定結果、議論の内容は統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは授業終了時まで申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course addresses the health and privacy problems of Japan's evacuation shelters and introduces outdoor, campus-based camping as a practical "alternative evacuation style." By combining sports medicine with essential outdoor skills, students learn to manage food, sleep, and hygiene independently and maintain physical and mental health in lifeline-free environments.

The course aims to build personal disaster self-reliance by:
Health Management – Learning methods to prevent disaster-related health issues, including DVT and basic nutrition.
Practical Skills – Acquiring minimal-gear "disaster camping" techniques usable as everyday-based evacuation training.
Resilience – Developing the mindset and cooperative ability to adapt and improve living conditions under hardship.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

Explain the potential and limitations of camp-based self-evacuation as a disaster response option.

Understand risks related to heat, sanitation, sleep, nutrition, and hydration, and propose appropriate countermeasures.

Set up tents, design living flow lines, and assign roles effectively.

Monitor their own health status and take appropriate action when noticing abnormalities.

Discuss challenges collaboratively and develop feasible, actionable solutions.

Analyze pre- and post-exercise physical and psychological data and reflect scientifically on the outcomes.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to:

Review news articles, books, and online materials related to disaster shelters and evacuation conditions.

Conduct additional research and reflection on issues discussed in class.

Prepare personal gear, supplies, and necessary items for the practical camp exercise.

Collect information and organize ideas for group activities.

Spend approximately two hours on preparation and review for each class session.

【Grading Criteria / Policy】

Class participation and engagement: 60%

Assignments and report: 40%

Attendance at all class sessions is expected as a general principle, and absences are particularly discouraged given the nature of the course, in which sports, training, and communication activities constitute core learning materials. However, the evaluation policy represents a general standard, and individual accommodations and assessments will be provided for students who are in poor health, observers, or those who face special physical circumstances that make standard participation difficult.

Evaluation will be comprehensive

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20~30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii や webclass にて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20~30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ 教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments

(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A 2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「生理学的変化（特に体脂肪・体組成を対象）に貢献する諸要因の理解」、「健康関連指標（特に体脂肪・体組成）の測定と評価」、「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理的および心理的效果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ。
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。

その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第2回	身体活動によって変化する生理的要因1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第3回	身体活動によって変化する生理的要因2	身体組成（体脂肪量・骨格筋）について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第4回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価1	身体組成のうち、特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する（演習）
第5回	身体活動によって変化する生理的要因3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ

第6回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第7回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する（プレゼンテーション）
第8回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて、グループで改善・修正案を検討する（演習）
第9回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて、仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する（演習）
第10回	身体活動によって変化する生理的要因4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第11回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ（演習）
第12回	身体活動によって変化する生理的要因5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第13回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚の運動強度について学ぶ（演習）
第14回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少や身体組成（骨格筋の増減など）に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめたから次回の授業に出席することを求めます。これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%、2) プレゼンテーションの内容：20%、の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者はさほど多くありませんでしたが、非常に積極的に活動をしてくれました。体組成の測定時には方法によっては理解し難いように見えたものがあったため、次年度は前年度よりも時間をかけて説明したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者の上限を原則20名とします。第1回目の授業時において履修希望者が20名を超えた場合には、履修人数の制限を行う予定です。そのため、第1回目の授業には必ず出席してください。体調不良等でどうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

また、本授業では、演習を行う回がありますが、単に履修者が運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

なお、履修者数によって、シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化B 2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、健康行動を科学的に理解し、目的や対象に合わせて計画・実践・評価することができる基礎的な知識と方法の理解と習得を目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康やQoLの本質を踏まえて、健康状態を把握するための測定方法と評価の視点を学び、客観的なデータに基づいて自らの健康行動を見直す力を養います。理論と実践を往復しながら、継続可能な健康づくりを主体的に考える態度の形成を目的とします。

【到達目標】

- ・健康行動を支える基礎理論と評価の枠組みを説明できる。
- ・自身の生活習慣を踏まえた健康行動計画を立案し、実践結果を測定・評価できる。
- ・得られたデータを適切に解釈し、改善につなげる思考力を身につける。
- ・科学的根拠に基づき、健康行動を継続的に設計・調整できる基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義と演習を組み合わせる構成とします。授業目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。そのため、前半では健康行動の理論、測定方法、評価の基礎を講義形式で学び、中盤以降は、各自が立案した健康行動計画をもとに実践と記録を行い、測定結果の共有と検討を通して理解を深めます。演習では、他者の視点を踏まえたグループ討議や発表を取り入れ、理論学習と実践的活動の両者を踏まえた主体的な学習を促します。

なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ（講義）
第2回	健康行動としての身体活動と心理的背景(1)	運動などの健康行動を継続するための要因を学ぶ（講義）
第3回	健康行動の計画と実践(1)	自らを取り巻く環境を確認し、健康行動（体力の維持・向上、減量、食習慣の改善等）を継続するための要因を検討し、生活習慣の改善計画を立てる（講義および演習）

第4回	健康行動の計画と実践(2)	前回策定した生活習慣の改善計画を実践した結果を報告し、他者からの情報や意見を踏まえて再検討する（講義および実践）
第5回	健康行動の効果を測定するための手法(1)	様々な健康関連指標（主に循環器系指標）の原理学び、実際の測定方法を習得する（講義および演習）
第6回	健康行動の効果を測定するための手法(2)	様々な健康関連指標（主に神経系指標・心理的指標）の原理学び、実際の測定方法を習得する（講義および演習）
第7回	健康行動実践時の生理的反応の測定と評価	運動を行った際の健康関連指標の変化（血圧など）について確認し、運動の効果について確認する（演習）
第8回	健康行動実践時の心理的反応の測定と評価	運動や食事などを行った際の健康関連指標の変化（主に神経系指標・心理指標）について確認し、運動の効果について確認する（演習）
第9回	健康行動実践時の身体的・心理的反応の根拠	運動や食事などを行った際の健康関連指標の変化について、その理論を学び、実際の健康行動への適用可能性について学ぶ（講義）
第10回	健康行動としての身体活動と心理的背景(2)	健康行動を生じさせる心理行動的要因と様々な行動変容モデルについて学ぶ（講義）
第11回	健康行動の計画と実践(3)	これまでに学習した内容を踏まえ、個々人で健康行動を行う目的を設定し、実践の可能性について検討する（講義および演習）
第12回	健康行動の計画と実践(4)	前回の授業で検討した健康行動を行った結果をグループ内で報告し、教員や他の受講生からの評価を踏まえて実践できるよう再検討する（演習）
第13回	健康観に対する意識と主観	健康観や健康行動におけるパラダイムシフトについて学ぶ（講義）
第14回	健康行動の実践とその評価	継続して実践してきた健康行動について、その成果や実践過程における状況を報告する（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、前週の授業で指示された内容について、事前に情報を収集してから授業に参加してください。また、各履修者の健康行動について報告を求める回がありますので、その回の前には教員の指示に従って準備をしてください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

※購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業における参画状況（課題への取り組みや学習状況など。単なる出席ではない）が60点、プレゼンテーションやグループでのディスカッションの状況40点、合計100点で評価を行います。

欠席・遅刻をした場合は、授業へ参画することができず、授業内の学習時間も減ることになるため、評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度休講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本授業は、「エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A」の単位を取得していることを前提としています。ただし、第1回目の授業において履修希望者が定員（20名）を下回っている場合には、担当者との面談を経て履修を認める場合があります。

また、履修者数によって、シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course develops a scientific understanding of health behavior and provides the basic knowledge and methods required to plan, implement, and evaluate health behaviors according to different purposes and target populations. Students examine not only methods for weight loss, body-fat reduction, and muscle gain, but also the essential concepts of health and quality of life (QoL). The course emphasizes measurement and evaluation of health status and encourages students to review their own behaviors using objective data. By connecting theory with practice, students develop an independent and sustainable approach to health promotion.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students will be able to:

1. Explain fundamental theories and evaluation frameworks related to health behavior.
2. Design a health behavior plan based on their own lifestyle and evaluate its outcomes.
3. Interpret collected data and apply it to behavioral improvement.
4. Continuously adjust health behaviors based on scientific evidence.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to collect information in advance based on the instructions given in the previous class and attend with preparation. There are sessions in which students report their own health behaviors, and preparation is required according to the instructor's instructions before those sessions. The standard time required for preparation and review is approximately two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grades are based on class engagement (60%), including work on in-class assignments and learning activities, and on presentations and group discussions (40%), for a total of 100%. Attendance alone does not constitute engagement. Absence or tardiness reduces opportunities to participate in learning activities and therefore significantly lowers the final evaluation.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

データから考えるスポーツ政策 A 2017年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現在、わが国で立案・実行されているスポーツ政策および関連データの紹介を通じて、する・みる・ささえるスポーツの実態を理解し、学生自身がスポーツ政策に関する現状と課題を論理的に説明できる能力の獲得を目指します。

【到達目標】

- (1) スポーツ政策の立案・実行に関わる法や計画、組織、財源を理解している
- (2) 現在わが国で進められているスポーツ政策の全体像を理解している
- (3) わが国のスポーツ政策に関わる問題・課題を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則、対面で授業を実施します。感染症罹患等による欠席に関しては、証憑書類を提出の上で配慮対象として認めます。それ以外の欠席事由に関しては、配慮対象として認めません。また、仮登録期間に授業が行われる場合でも、その出席と課題提出状況は成績に加味しますので、初回から出席することを推奨します。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※授業回によって入れ替わることがあります。

- (1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループによる成果物の発表など
- (2) 講義
- (3) 個人またはグループでのワーク

各回の授業時間内に提出されたワークやリアクションペーパーの内容は、次回授業の冒頭にて紹介・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要や進め方を説明するとともに、授業の導入として政策の枠組みやプロセスを概説する。
第2回	法・計画・組織・財政	スポーツ基本法、スポーツ基本計画の概要を理解し、わが国のスポーツ政策に関わる財源と組織を学ぶ。
第3回	地域住民(1)	国民の運動・スポーツの実態を捉え、住民のスポーツ環境をささえるスポーツ施設やスポーツクラブに関する政策と課題を学ぶ。
第4回	地域住民(2)	スポーツを通じた住民の健康増進政策、障害者スポーツ政策の現状と課題を学ぶ。

第5回	子ども・青少年	子ども・青少年の体力の現状を理解し、子ども・青少年の主なスポーツ環境となる運動部活動に関する政策を学ぶ。
第6回	国際競技力	国際競技力向上のための政策とその要素を学び、わが国の国際競技力向上のための事業やその環境を理解する。
第7回	地方創生	スポーツイベントやスポーツツーリズム等の事例をもとに、地方創生の目的および現状と課題を理解する。
第8回	産業振興	スポーツを通じた経済活性化の潮流およびわが国のスポーツ経済規模を理解し、政策による支援と課題を学ぶ。
第9回	人材	スポーツに従事する人材を概説し、人材育成に関わる政策や現在の課題を考える。
第10回	ワーク(1)	発表テーマに関するアイデア出しと問題設定を行い、統計調査等を実際に調べる。
第11回	ワーク(2)	テーマに関連した先行研究を調べ、内容を整理する。
第12回	ワーク(3)	テーマに関する重要課題を特定し、発表資料を作成する。
第13回	ワーク(4)	過去のワークをまとめた内容を発表する。
第14回	授業総括	政策評価の必要性およびその方法を概説し理解するとともに、授業全体を振り返り総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ各2時間です。予習では、参考書等の関連ページを事前に読んでおいてください。復習では、予習と同様に参考書や配付資料を再度確認するとともに、各回の授業に関する新聞記事・ニュースを閲覧してください。

【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】

菊幸一、齋藤健司、真山達志、横山勝彦. (2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3850円(税込). ISBN：978-4792380670
 笹川スポーツ財団(編). (2023). スポーツ白書 2023～次世代のスポーツ政策～. 日経印刷, 4180円(税込). ISBN：978-4915944857
 真山達志、成瀬和弥(著・編集), 日本体育・スポーツ政策学会(監修). (2021). 公共政策の中のスポーツ. 見洋書房. 2200円(税込). ISBN：978-4771035010

【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した3項目について、以下の基準をもとに評価します。
 (1) 講義回のワーク…60点（第1～9回、第14回の計10回分）
 各講義回のワークについて、6点満点で採点します（6点×10回）。
 (2) ワーク・発表…40点（第10～13回の計4回分）
 個人またはグループでのワークおよび発表について、10点満点で採点します（10点×4回）。
 最終的に(1)と(2)の合計点で評価します。なお、出席回数が9回未満の場合は、上記の成績にかかわらず単位認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より名称変更の上で開講するため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上でPCを毎回必ず持参してください（スマホのみは不可）。その他準備が必要な物に関しては、授業前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

本授業では「各回の授業テーマを、自身の過去の経験や現在の状況と照らし合わせて考えること」「自身の考えをアウトプットすること」「他者の意見を聞き、考えを深めること」を重視します。各回のリアクションペーパーでは、授業を受けた上で自身の意見を積極的に記述するようにしてください。

また、各回の授業テーマに関連した時事ニュースを取り上げることがあります。こうした時事ニュースに普段から触れるように努め、ニュースに対する疑問・自身の考えを持つように意識してください。

【Outline (in English)】

■ Course outline

This course aims to help students understand the situation of participating in, watching, and volunteering for sport by introducing the sport policies currently being formulated and implemented in Japan, along with related statistics. It also aims to develop students' ability to logically explain the current state and challenges of the sport policy.

■ Learning Objectives

- (1) At the end of the course, students are expected to understand the laws, plans, organizations, and finances behind the policies.
- (2) Students are also expected to understand the overall sport policies currently being implemented in Japan.
- (3) Students are required to understand problems and issues related to Japan's sport policies.

■ Learning activities outside of classroom

The time required for preparation and review for this course is approximately 2 hours each.

For preparation, students will be expected to read the reference books on topics related to the following lecture. For review, students will be expected to review the reference books and the distributed materials again. In addition to preparation and review, students are required to read the news articles related to each class session.

■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- (1) Lecture-based assignments...60 points (total of 10 sessions: Sessions 1-9 and 14)

Each lecture-based assignment will be graded on a scale of 6 points (6 points × 10 sessions).

- (2) Work and Presentations...40 points (total of 4 sessions: Sessions 10-13)

Individual or group work and their presentations will be graded on a scale of 10 points each (10 points × 4 sessions).

The final grade will be the sum of (1) and (2). Note that if attendance is less than 9 sessions, credit will not be granted regardless of the scores above.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

データから考えるスポーツ政策B 2017年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、スポーツに関連する定量・定性調査のプロセスを体験することで、データの収集方法や結果のまとめ方を学びます。これらのワークを通じて、スポーツ政策へのデータの活かし方や、データを読み解く際の注意点を理解します。

なお、本授業は春学期開講科目「データから考えるスポーツ政策A」の発展編となります。したがって、本授業の受講希望者やスポーツ政策の基礎を学びたい学生は、先に「データから考えるスポーツ政策A」を受講しておくことを推奨します。

【到達目標】

- (1) 政策プロセスにおいて必要となる社会調査法の基礎を理解しているとともに、その結果を解釈できる
- (2) 学生自身の興味関心に応じて仮説を設定し、適切な調査方法を選択できる
- (3) 社会調査から得られた結果を政策へ活用する際の注意点を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則、対面で授業を実施します。感染症罹患等による欠席に関しては、証憑書類を提出の上で配慮対象として認めます。それ以外の欠席事由に関しては、配慮対象として認めません。また、仮登録期間に授業が行われる場合でも、その出席と課題提出状況は成績に加味しますので、初回から出席することを推奨します。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※授業回によって入れ替わることがあります。

- (1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループによる成果物の発表など

- (2) 講義

- (3) 個人またはグループでのワーク

各回の授業時間内に提出されたワークやリアクションペーパーの内容は、次回授業の冒頭にて紹介・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要や進め方を説明するとともに、授業の導入として問題や課題の設定方法、リサーチエスションの立て方を概説する。データセットの作成方法を学ぶ。
第2回	定量調査(1)	
第3回	定量調査(2)	Excelによる単純集計の出力方法を学ぶ。
第4回	定量調査(3)	Excelによるクロス集計の出力方法を学ぶ。
第5回	定量調査(4)	Excelによるグラフの作成方法を学ぶ。

第6回	定量調査(5)	仮説検定の考え方を理解し、結果を出力・解釈する。
第7回	定量調査(6)	自由に設定した仮説に基づき結果を出力し、発表する。
第8回	定性調査(1)	半構造化インタビューの質問項目を検討する。
第9回	定性調査(2)	半構造化インタビューを実施し、文字起こしを作成する。
第10回	定性調査(3)	文字起こしをもとに小見出しを付与する。
第11回	定性調査(4)	小見出しをもとにコードを作成する。
第12回	定性調査(5)	コードをもとに概念モデルを作成する。
第13回	定性調査(6)	完成した概念モデルを発表する。
第14回	授業総括	過去のワークをもとに定量・定性調査における注意点を理解し、授業を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおよそ各2時間です。

予習では、配布資料を事前に読んでおいてください。復習では、予習と同様に配付資料を再度確認するとともに、ワークに再度取り組むなど、次回授業に向けて不明点がないようにしておいてください。

【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】

津島昌寛, 山口洋, 田邊浩(編). (2014). 数学嫌いのための社会統計学

第3版. 法律文化社, 2,970円(税込). ISBN : 978-4589042682

石村友二郎, 加藤千恵子, 劉晨, 石村貞夫. (2019). Excelでやさしく学ぶアンケート調査の統計処理 2019. 東京図書, 2,750円(税込).

ISBN : 978-4489023286

佐藤郁哉. (2008). 質的データ分析法 原理・方法・実践. 新曜社,

2,310円(税込). ISBN : 978-4788510951

【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した3項目について、以下の基準をもとに評価します。

- (1) ガイダンスおよび授業総括…10点（第1回，第14回の計2回分）
授業参加および提出された課題について、5点満点で採点します（5点×2回）。

- (2) 各回のワーク…70点（第2～6回，第8～12回の計10回分）
個人またはグループでのワークについて、7点満点で採点します（7点×10回）。

- (3) 各回のワークを取りまとめた成果発表…20点（第7回，第13回の計2回分）

定量および定性調査の最終回（第7回，第13回）にて行われる発表について、10点満点で採点します（10点×2回）。

最終的に(1)～(3)の合計点で評価します。なお、出席回数が9回未満の場合は、上記の成績にかかわらず単位認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より名称変更の上で開講するため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上でPCを毎回必ず持参してください（スマホのみは不可）。また、社会調査の一部プロセスを体験するため、二次分析や模擬インタビューを行います。二次分析の際はマウスがあると操作しやすいですが、必須ではありません。模擬インタビューでは録音機材が必要となります（スマホ・PC等の利用可）。準備が必要な物に関しては、授業前にアナウンスします。

【Outline (in English)】

■ Course outline

This course aims to learn data research methodologies and result summarization techniques through the process of conducting quantitative and qualitative research in sport. It also aims to understand how to use this evidence for sport policy and the key considerations for interpreting it.

■ Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the following:

- (1) Understand the fundamentals of research methodologies necessary for the policymaking process and be able to interpret the results
- (2) Be able to set hypotheses based on their own interests and select appropriate research methods
- (3) Understand key considerations when applying findings from the research to policy

■ Learning activities outside of classroom

The time required for preparation and review for this course is approximately 2 hours each.

For preparation, students will be expected to read the distributed materials in advance. For review, students will be expected to read the distributed materials again and retry exercises to ensure they have no unresolved questions before the next class.

■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- (1) Orientation and Course Summary...10 points (total of 2 sessions: Sessions 1 and 14)

Class participation and submitted assignments will be graded on a scale of 5 points (5 points $\times$ 2 sessions).

- (2) Weekly Assignments...70 points (total of 10 sessions: Sessions 2-6 and 8-12)

Individual or group work will be graded on a scale of 7 points (7 points $\times$ 10 sessions).

- (3) Final Presentation of Each Research Method Session...20 points (total of 2 sessions: Sessions 7 and 13)

Presentations conducted during the final sessions of quantitative and qualitative research methods (Sessions 7 and 13) will be graded on a scale of 10 points (10 points $\times$ 2 sessions).

The final grade will be the sum of (1) to (3). Note that if attendance is less than 9 sessions, credit will not be granted regardless of the above grades.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では「なぜ人は病気になるのか」という身近で根源的な問いを出発点に、人間に備わっているホメオスタシス（恒常性）の考え方が手がかかりとして、健康や病気について考察する。人間の存在や「生きること」の意味といった哲学的視点も取り入れ、単一の正解を学ぶのではなく、多様な視点から考える姿勢を重視する。

また、日常生活習慣（食事・運動・休養・睡眠）が心身の状態にどのように関わっているのかについて、生理的・心理的な仕組みを踏まえながら検討する。文献調査や討論を通して、自ら問いを立て、根拠をもとに考えを深め、他者と共有する力を養うことを本授業の目的とする。

【到達目標】

- 1) WHOの健康の定義について理解できる。
- 2) 人間とは何か、生きているとはどのような状態であるかが理解できる。
- 3) ホメオスタシス（恒常性）が備わっている理由が理解できる。
- 4) 生活習慣が病気の予防や改善に効果的であることが理解できる。
- 5) 食事、運動、休養、睡眠について、より効果的な方法を理解できる。
- 6) 各自研究テーマを選定し、自分の意見をレポートまとめることができる。
- 7) 文献講読をし、その内容をまとめ、全体に対して発表できる。
- 8) グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各自が設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を整理・列挙したうえで、グループ内で共有する。グループでは、互いのテーマについて調査方法や分析方法などを議論し内容を深める。授業は主にSGD（スモールグループディスカッション）形式で行う。毎回の授業では個人の調査内容をグループ内で報告し、発表技術の向上に努める。

授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーの中からいくつかを取り上げ、全体に向けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の概要、ねらい、到達目標を明示し、半期のスケジュールを確認する。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第2回	文献の講読、プレゼンテーションの発表、レポート作成	テーマ選びから文献の検索及び講読、プレゼンテーションの基本、レポート作成に関する説明を行なう。

第3回	研究テーマの設定と調査方法（1）	WHOの健康の定義について説明し、各自で文献講読し、グループに分かれ意見交換を行い、理解を深める。
第4回	研究テーマの設定と調査方法（2）	「人間とは何か、生きているとはどのような状態であるか」についてグループに分かれ意見交換を行う。
第5回	研究テーマの設定と調査方法（3）	人間に備わっている「ホメオスタシス（恒常性）」について文献講読し、理解を深める。
第6回	研究テーマの設定と調査方法（4）	これまでの内容をまとめ、自分の研究テーマを決定する。テーマに沿った研究の進め方について説明する。
第7回	中間発表	各自で設定した「研究テーマ及びその調査方法」について発表する。
第8回	文献講読とディスカッション	各自設定したテーマに関する文献をグループに分かれて共有し、意見交換を行う。
第9回	データ収集と分析、グループワーク	グループに分かれて、各自のテーマに沿ったデータを分析し議論する。
第10回	グループワーク及び個人調査	グループワークでの議論を参考に各自により調査を進める。
第11回	研究テーマの調査報告（プレゼンテーション資料の作成）	これまでの内容をレポートにまとめる。また全体発表に向けてプレゼンテーション資料を作成する。
第12回	調査結果の発表（1）	作成した資料をもとにプレゼンテーションを実施し、質疑応答の後、ディスカッションを行う。（前半グループ）
第13回	調査結果の発表（2）	作成した資料をもとにプレゼンテーションを実施し、質疑応答の後、ディスカッションを行う。（後半グループ）
第14回	まとめ	これまでの授業を振り返り、得られた知見や残された課題などについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEBを活用して調べおく。
- ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
- ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- ・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫
- ・ホモ・デウス 上: テクノロジーとサピエンスの未来, ユヴァル・ノア・ハラリ, 河出書房新書
- ・ホモ・デウス 下: テクノロジーとサピエンスの未来, ユヴァル・ノア・ハラリ, 河出書房新書
- ・基礎からわかる論文の書き方, 小熊英二, 講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

授業の参画状況（80％）、プレゼンテーション（10％）、レポート（10％）を総合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。

配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 40 分～18 時 30 分の 100 分を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course begins with the familiar yet fundamental question, “Why do people become ill?” and explores health and illness through the concept of homeostasis, an inherent regulatory capacity of the human body. Incorporating philosophical perspectives on human existence and the meaning of living, the course emphasizes developing the ability to think from multiple viewpoints rather than learning a single correct answer.

In addition, students examine how daily lifestyle practices — such as diet, exercise, rest, and sleep — affect physical and mental well-being, with attention to both physiological and psychological mechanisms. Through literature review and group discussion, the course aims to cultivate the ability to formulate one’s own questions, deepen thinking based on evidence, and share ideas with others.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Explain how lifestyle habits contribute to the prevention and improvement of illness.
- 2) Describe effective approaches to diet, exercise, rest, and sleep for maintaining physical and mental health.
- 3) Select an individual research topic and articulate their own viewpoints in a written report.
- 4) Read and analyze academic literature, summarize key points, and present the findings to seminar members.
- 5) Engage constructively in group discussions and exchange ideas with others.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Participation in class activities (not attendance): 80%
- 2) Presentations: 10%
- 3) Assignments and reports: 10%

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）
第三外国語としてのフランス語A 2017年度以降入学者
江澤 健一郎
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制(40)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞avoir ・否定のde ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方

8	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
10	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞pouvoir
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞prendre, attendre
12	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞devoir
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」をしてください。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂二版）』、駿河台出版社、2023年。

（※自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60％）と小テスト（40％）の点数を基準にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

term-end test: 60%, mini-test: 40%.

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

第三外国語としてのフランス語B 2017年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 7	人・ものを描写する ・ IR 動詞 ・ 形容詞 ・ 動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・ 数量表現 ・ 名詞 + à + 不定詞 ・ 動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気と言う ・ 目的補語人称代名詞 ・ 非人称構文 ・ 動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気と言う ・ 数字 21～69 ・ 動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞 ・ 日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・ 日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 直説法単純未来 ・ 形容詞・副詞の比較級

8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 形容詞・副詞の最上級 ・ 特殊な優等比較級・優等最上級 ・ 指示代名詞
9	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・ 数字 70～100 ・ 直説法複合過去 ・ 目的補語人称代名詞を含む複合過去
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・ 代名動詞を含む複合過去 ・ 中性代名詞 en
11	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・ 直説法半過去 ・ 直説法複合過去と直説法半過去の違い
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・ 直接法大過去 ・ 中性代名詞 y と le ・ 様々な否定表現
13	Leçon 13	関係代名詞、強調構文
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」をしてください。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年。

（※自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%）と期末テスト（60%）の結果をもとにして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent. The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

term-end test: 60%, mini-test: 40%.

ARSa300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この教養ゼミ I を紹介する動画です <https://x.gd/LgDjY> (約7分8秒；学内者のみ視聴できます)

【履修登録にかかわる特記事項】

●あなたが所属している学部の履修登録期間の最終日までに、この科目「教養ゼミ I」(Q6605)の履修登録を済ませるとともに、学習支援システムにて仮登録をおこなってください。

●この科目「教養ゼミ I」(Q6605)は、他の教養ゼミと異なり、定員がないため、選抜や抽せん、およびそれらの結果通知はありません。履修登録の流れは、一般的な春学期科目と同じとお考え下さい。

●興味・関心のある方は、教養ゼミ II：ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～(9月中旬)【授業コード：Q6606】もぜひ履修しましょう。社会人として知っておいたほうが良い、現代の政治・経済・文化のあり方について、初学者が学ぶコースになっています。

【科目のかんたんな説明】

●この教養ゼミ I は、2026年8月3日(月)・8月4日(火)・8月5日(水)・8月6日(木)の4日間で開催される集中講座です(2単位)。

●短い日数で効率よく学べる利点があります。

●いわゆるグローバル・サウスから、より政治的に安定し、社会福祉の制度が整った、いわゆる先進国に旅する移民や難民の動きがテーマです。

●移民や難民といったテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」が軸となる内容ですので理解がしやすく、視野が広がります。

●映像作品に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけになるでしょう。

【到達目標】

コースの終わりに、学生の皆さんは次のことができるようになります：

- 1) 人口1700万人強のオランダが、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのはなぜかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
- 2) 欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方(政教分離)や、就労を促進するための雇用の流動化(福祉国家の変容)といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミ I の授業形態は、基本的に「対面」です。

(イ) 2026年8月3日(月)・8月4日(火)・8月5日(水)・8月6日(木)の4日間に開催されます。

(ウ) 希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画 / Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。

(エ) 4日間でいきますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。

(オ) そのため「まとめコメント」の早期提出を認めています。

(カ) とはいえ、4日間参加していれば、それだけでちゃんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/FK17p>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

(キ) 問い合わせは、Wordファイル「教養ゼミ I『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～(8月上旬)」URL <https://x.gd/SBUYw>にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月3日(月)2限、Zoom併用あり】	シラバス(授業の概要と成績評価)や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月3日(月)3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【8月3日(月)4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月3日(月)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月3日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【8月4日(火)2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の1人として溶け込むのに何が必要か【8月4日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【8月4日(火)4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【8月4日(火)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月4日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
9	他の人の意見を知る【8月5日(水)2限、Zoom併用なし】	2日目のまとめコメントへの学生投票／映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【8月5日(水)3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【8月5日(水)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【8月6日(木)2限、Zoom併用なし】	3日目のまとめコメントへの学生投票／《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【8月6日(木)3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える

- 14 考える・まとめる【8月6日分の「まとめコメント」月6日(木)4限、を作成・提出する。※遠隔・事Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する 出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

8月のサマー・セッションの時期を待つことなく、Google Classroomをつうじ、4月から資料を事前に配布します。

【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 =15%
2. まとめコメント =52%
3. まとめコメントの早期提出（教員への相談が必要です）
4. 教室内活動への参加 =33%
5. その他

※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/FK17p>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。

※サマー・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部ご連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。ただし、サマー・セッションは春semester（前期）科目であるため、8月上旬には法政大学に学生の成績を提出する必要があります。そのため出席停止になった学生側は、仮に感染症から健康状態が回復したとして、代替の課題を8月7日ぐらいまでに提出する手はずになります。感染症で出席停止となった学生のための配慮については、オータム・セッション科目である教養ゼミⅡ（Q6606）のほうが、配慮に使える時間的な余地が大きいことを、あらかじめご承知おきください。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
・この教養ゼミⅠは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料を共有したり、課題を提出したりするさいに、Google ClassroomやBOX、Office365等を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。

・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください URL <https://x.gd/pbONn>

【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
- 2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
- 3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この教養ゼミⅡを紹介する動画です <https://x.gd/tB16R> (約7分53秒；学内者のみ視聴できます)

【履修登録にかかわる特記事項】

- この科目「教養ゼミⅡ ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～」(Q6606)は、ひとりひとりの学生ではなく、市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) が一括して履修登録を行います。
- 履修を希望する方は**2026年4月10日(金)午前11時30分**までに学習支援システムにて仮登録を行ってください。
- 仮登録された学生は全員、この「教養ゼミⅡ」に履修登録されますが、念のため、あなたが所属している学部の履修登録期間になったら、この科目「教養ゼミⅡ」の履修登録がきちんとなされているか、確認を行ってください。

【科目のかんたんな説明】

- 教養ゼミⅡ「ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～」は**2026年9月11日(金)・9月12日(土)・9月14日(月)・9月15日(火)**の4日間で開催される集中講座です(2単位)。
- 世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている、ポピュリズムがテーマです。
- こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。
- 短い日数で効率よく学べる利点があります。
- 映像作品に興味のある方にとっては、作品を知る機会になるでしょう。

【到達目標】

- (1)さまざまな国と地域、歴史時代に存在した、ポピュリズムの構成要素とされる事象に幅広く触れることで、現代の政治・社会現象としてのポピュリズムにかんし、批判的な距離を保ちながら、意見を述べることができる。
- (2)ポピュリストと反ポピュリスト、無関心層のような、ポピュリズムをめぐる異なる態度を産みだす感情的なバネについて、ひとつひとつの映像作品や人物の性格、ならびに制度的な背景(例 メリトクラシー)を掘り下げながら、研究上の問い(リサーチ・クエスチョン)を練ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- (ア) この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。
- (イ) **2026年9月11日(金)・9月12日(土)・9月14日(月)・9月15日(火)**の4日間に開催されます。
- (ウ) 希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画/Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
- (エ) 4日間でいきますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
- (オ) そのためセッション授業終了後の話題提供を認める予定です。

(カ) とはいえ、4日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/ytbHb>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

(キ) 問い合わせは、Wordファイル「2026年度：教養ゼミⅡ ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～(9月中旬)」URL <https://x.gd/q4xhC>にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月11日(金)2限、Zoom併用あり】	シラバス(授業の概要と成績評価)や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月11日(金)3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【9月11日(金)4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月11日(金)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月11日(金)分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【9月12日(土)2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか(政治的動員)
6	対立の構図を理解する【9月12日(土)3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【9月12日(土)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月12日(土)分の「まとめレポート」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
8	他の人の意見を知る【9月14日(月)2限、Zoom併用なし】	2日めのまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す。
9	ポピュリズムと女性【9月14日(月)3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【9月14日(月)4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【9月14日(月)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月14日(月)分の「まとめコメント」を作成・提出する。遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【9月15日(火)2限、Zoom併用なし】	3日めのまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私(たち)はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【9月15日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える
14	考える・まとめる【9月15日(火)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月15日(火)分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。※ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

9月のオータム・セッションの時期を待つことなく、Google ClassroomやBOX、WebClass等をつうじ、資料を事前に配布します。

【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がもっと進むでしょう。

カス・ミューデ&クリストバル・ロピラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 =15%
2. まとめコメント =52%
3. 教室内活動（授業時間内の個別の発言やグループディスカッション、各種の投票）への参加 =33%
4. セッション授業終了後の話題提供
5. その他

※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/ytbHb>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」を求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。

※オータム・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
- ・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有や課題の提出に、Google ClassroomやBOX、Office 365を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

- ・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せてください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～（9月中旬）」URL <https://x.gd/q4xhC> をご覧ください。

【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue: "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

【Learning Objectives】

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミ I 2017年度以降入学者

ル ルー 清野 プレンドン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「日欧交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、英語（もしくは日本語や他の言語）で史資料を読み、分析する方法について学び、活用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日欧交流の歴史」の多様な側面を探究したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日欧交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日欧交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な史資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar、L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的文章を読解し、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史資料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日欧交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日欧交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における、日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	西洋人の来日（1）	マスケット伝来
6	西洋人の来日（2）	キリスト教伝来
7	日欧交流の発展（1）	日本における宣教師達①
8	日欧交流の発展（2）	日本における宣教師達②
9	日欧交流の発展（3）	南蛮屏風
10	日欧交流の発展（4）	日本語学習の曙
11	日欧交流の変容	来日西洋人の多様化
12	学生による発表①	史料の紹介と分析
13	学生による発表②	史料の紹介と分析
14	学生による発表③及びまとめ	史料の紹介と分析 前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、予習、課題や発表の準備等が毎回求められます。それらは、大学設置基準によれば2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされていますので、そのぐらいかかると予測されます。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト、宿題、「予習シート」等：約40%
- ・発表（史料の紹介と説明）：約40%
- ・平常点（授業への参加状況）：約20%

※ 尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。10分までの遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特にないよう思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景（言語レベル等）、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

University guidelines suggest that preparation and review should take around four hours per week for a two-credit course.

The grading policy should be the following:

- Group work, quizzes, homework, preparatory sheets, etc.: approximately 40%
- Presentations (introduction and explanation of historical materials): approximately 40%
- Regular assessment (class participation): approx. 20%

※ Please note that regular assessment employs a deduction system, and a fourth absence will result in a fail grade. Arriving more than 10 minutes late without a valid reason will be counted as an absence. Two instances of lateness up to 10 minutes will be treated as one absence; proof of train delay will be accepted for a maximum of two instances. If absent for any reason, you must immediately contact the lecturer via email or other means to provide an explanation.

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

ル ルー 清野 プレندان

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈大〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「日欧交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、英語（もしくは日本語や他の言語）で史資料を読み、分析する方法について学び、活用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日欧交流の歴史」の多様な側面を探究したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日欧交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日欧交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な史資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar、L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的文章を読解し、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史資料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日欧交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日欧交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 西洋におけるジャポノロジーの現状
2	世界一周の寄港地としての日本	Francesco Carlettiの見た日本
3	西欧人のサムライ	William Adamsの見た日本
4	オランダ東インド会社の登場	François Caronの見た日本
5	ヨーロッパにおける日本史の定番	Engelbert Kaempferの見た日本
6	ヨーロッパにおける日本キリスト教史	Pierre François-Xavier de Charlevoixの語った日本
7	ヨーロッパにおける日本の植物学①	Peter Thunbergの見た日本
8	ヨーロッパにおける日本の植物学②	Philipp Franz Balthasar von Sieboldの見た日本
9	ヨーロッパ人による日本北方地域の探検	Vasilii Mikhailovich Golovninの見た日本
10	幕末期におけるジャポノロジー①	パリ外国宣教会宣教師の見た日本①
11	幕末期におけるジャポノロジー②	パリ外国宣教会宣教師の見た日本②
12	幕末期におけるジャポノロジー③	レオン「三兄弟」：Léon de Rosny, Léon Pagès, Léon Duryと日本
13	学生による発表①	史料の紹介と分析
14	学生による発表②及びまとめ	史料の紹介と分析 秋学期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、予習、課題や発表の準備等が毎回求められます。それらは、大学設置基準によれば2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされていますので、そのぐらいかかると予測されます。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト、宿題、「予習シート」等：約40%
- ・発表（史料の紹介と説明）：約40%
- ・平常点（授業への参加状況）：約20%

※尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。10分までの遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。何らかの理由で欠席した・する場合は、速やかに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特になくありません。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景（言語レベル等）、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

University guidelines suggest that preparation and review should take around four hours per week for a two-credit course.

The grading policy should be the following:

- Group work, quizzes, homework, preparatory sheets, etc.: approximately 40%

- Presentations (introduction and explanation of historical materials): approximately 40%

- Regular assessment (class participation): approx. 20%

※ Please note that regular assessment employs a deduction system, and a fourth absence will result in a fail grade. Arriving more than 10 minutes late without a valid reason will be counted as an absence. Two instances of lateness up to 10 minutes will be treated as one absence; proof of train delay will be accepted for a maximum of two instances. If absent for any reason, you must immediately contact the lecturer via email or other means to provide an explanation.

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

フランス語コミュニケーション(中・上級) A 2017年度以降入学者

ル ルー 清野 プレندان

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はA1レベルに達している学生（つまり2, 3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方の段階から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”）」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言ひ回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身につけたり、日常会話で使える言葉を覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

Z その他 /Other、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし、履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり、世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりで下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Une rencontre inattendue
2	Faire connaissance: le speed-dating	招待を受け入れる・拒否する
3	La fête nationale belge et le parc Astérix	現在進行形
4	Le festival Gnaoua et le raï	コンサートへの招待
5	Le 14 juillet Un festival d'été	フェスティバルに関する情報 フェスティバルへの招待
6	Se déplacer en ville	交通手段①と道案内

7	Les transports en Afrique de l'Ouest	交通手段②
8	D'autres quotidiens	頻度と時間割
9	Modes de vie au Niger et à Djibouti	お茶 カート (植物)
10	La Défense, Marrakech, Montréal	交通手段③
11	Présenter son quartier préféré	好きな地域の紹介
12	L'habitat (ミニ口頭発表)	フランス語圏の様々な伝統住居
13	Brèves francophones Amélie Poullain	半過去と複合過去の用法①
14	Hercule Poirot: "Que faisiez-vous à l'heure du crime?"	半過去と複合過去の用法②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身につくものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので、法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので、定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】

教材はその都度授業で配布するか、Hoppiiにアップロードします。

【参考書】

仏和・和仏辞書（本でも、電子辞書でも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG：クラスではスマホ等の使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題、小テスト、ミニ発表等: 約20 %
- ・「Furago, フランス語の練習帳」: 約20 %
- ・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
- ・作文: 約20 %
- ・平常点 (授業への参加状況): 約20%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2回につき欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特にないと思います。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン、タブレット、パソコンからアクセスできます。有料ですが、学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし、定額制ですので、安心して利用できます。登録費が6ヶ月につき990円になる予定です。

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう！

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students' general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened. Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line):

20 %／Reading marathon (Extensive reading): 20 %／Short

essays: 20 %／Class participation: 20%

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

フランス語コミュニケーション(中・上級) B 2017年度以降入学者

ル ルー 清野 プレندان

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はA1レベルに達している学生（つまり2, 3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方の段階から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”）」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言ひ回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身につけたり、日常会話で使える言葉を覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準2級・2級) や Study Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

Z その他 /Other、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし、履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり、世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりで下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Voitures du passé et du présent
2	Visite en Normandie	過去の出来事を描写するメールを書く
3	Les Acadiens/Cajuns	歴史について考えよう
4	Histoires de personnalités	直接目的補語の代名詞
5	Quelques écrivains francophones	フランス語圏の文学に触れる

6	Catastrophe naturelle Chez le médecin	健康と身体の部位
7	Fêtes traditionnelles	お祭りについて知ろう
8	Faisons un quiz historique	クイズを作ろう
9	Le caractère	人の性格を描写する
10	Les noms en Afrique	アフリカの名前について知ろう
11	Qui est-ce? (jeu)	La description physique
12	Qu'est-ce qu'on a fait au bon Dieu?	人の描写（作文）
13	Entretien d'embauche	成功と失敗①
14	Le commerce en Afrique	成功と失敗②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語というのは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えらるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身につくものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので、法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。

「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので、定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】

教材はその都度授業で配布するか、Hoppiiにアップロードします。

【参考書】

仏和・和仏辞書（本でも、電子辞書でも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG：クラスではスマホ等の使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題、小テスト、ミニ発表等: 約20 %
- ・「Furago, フランス語の練習帳」: 約20 %
- ・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
- ・作文: 約20 %
- ・平常点 (授業への参加状況): 約20%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2回につき欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特にないと思います。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン、タブレット、パソコンからアクセスできます。有料ですが、学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし、定額制ですので、安心して利用できます。登録費が6ヶ月につき990円になる予定です。

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう！

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students' general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened. Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 % / Furago (exercises on line):20% / Reading marathon (Extensive reading):20% / Short essays:20 % / Class participation:20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語講読 A

2017年度以降入学者

大池 惣太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Elisabeth Roudinesco による子供向けの精神分析の入門書 *L'inconscient expliqué à mon petit-fils* (Seuil, 2015) を読みます。平易なフランス語で既習の文法知識の定着と、さらなる読解力の向上を目的とします。

【到達目標】

フランス語で書かれた平易な論説文を辞書を使って自力で読み解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回可能な限り全員が当たるようにする。

当てられた人は、まず音読し、該当箇所の文構造や語彙を説明する。それから訳案を提示する。

（訳文だけ準備してきても、生成AIでできてしまうことなので、評価されません）

大事な文法事項や役に立つ表現を講師がかいつまんで説明する。

期末試験では、翻訳問題が出題される（紙の辞書のみ持ち込み可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と課題図書を紹介
第2回	文献の講読（1）	p.10～p.19
第3回	文献の講読（2）	p.20～p.29
第4回	文献の講読（3）	p.30～p.39
第5回	文献の講読（4）	p.40～p.49
第6回	文献の講読（5）	p.50～p.59
第7回	文献の講読（6）	p.60～p.69
第8回	文献の講読（7）	p.70～p.79
第9回	文献の講読（8）	p.80～p.89
第10回	文献の講読（9）	p.90～p.99
第11回	文献の講読（10）	p.100～p.109
第12回	文献の講読（11）	p.110～p.119
第13回	文献の講読（12）	p.120～p.128
第14回	授業内試験	翻訳演習実技試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当範囲の文法事項と語彙をあらかじめ調べ、整理しておく。分からない箇所は質問できるよう準備しておく。講師が説明した構文や表現を復習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Elisabeth Roudinesco, *L'inconscient expliqué à mon petit-fils* (Seuil, 2015)

【参考書】

辞書等（授業内で指示する）

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の発表担当）70%、学期末の授業内試験30%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course reads *L'inconscient expliqué à mon petit-fils* (2015) by Elisabeth Roudinesco, an introductory book on psychoanalysis for children. Using clear and simple French, students will review basic grammar and improve their reading skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Evaluation: Class presentations: 70% + In-class final test: 30%

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

フランス語講読B

2017年度以降入学者

大池 惣太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Emanuel Carrèreによる戦慄のノンフィクション小説L'Adversaire (Gallimard, 2000) .を読みます（邦題『嘘をついた男』）。既訳も参照しながら、ある程度まとまった量のフランス語のテキストを通読することで、既習の文法知識の定着と、さらなる読解力の向上を目指します。

【到達目標】

フランス語で書かれたある程度の量のある小説文を自力で通読し、読解力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回可能な限り全員が当たるようにする。

当てられた人は、まず音読し、該当箇所の文構造や語彙を説明する。それから訳案を提示する。

（訳文だけ準備してきても、生成AIでできてしまうことなので、評価されません）

大事な文法事項や役に立つ表現を講師がかいつまんで説明する。

期末試験では、翻訳問題が出題される（紙の辞書のみ持ち込み可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と課題図書を紹介 映画『見えない嘘』視聴
第2回	文献の講読 (1)	p.11～p.27
第3回	文献の講読 (2)	p.28～p.43
第4回	文献の講読 (3)	p.44～p.60
第5回	文献の講読 (4)	p.61～p.77
第6回	文献の講読 (5)	p.78～p.94
第7回	文献の講読 (6)	p.95～p.111
第8回	文献の講読 (7)	p.112～p.128
第9回	文献の講読 (8)	p.129～p.145
第10回	文献の講読 (9)	p.146～p.161
第11回	文献の講読 (10)	p.162～p.188
第12回	文献の講読 (11)	p.189～p.205
第13回	文献の講読 (12)	p.206～p.220
第14回	授業内試験	翻訳演習実技試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当範囲の文法事項と語彙をあらかじめ調べ、整理しておく。分からない箇所は質問できるよう準備しておく。講師が説明した構文や表現を復習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Emmanuel Carrère, L'Adversaire, Gallimard, Folio, 2011 [2000].

準備するのは文庫版（folio版）にしてください。

【参考書】

辞書等（授業内で指示する）

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の発表担当）70%、学期末の授業内試験30%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course reads L'Adversaire by Emmanuel Carrère. Students will read the French text together with the Japanese translation. By reading a longer French text, students will review basic grammar and further improve their reading skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Evaluation: Class presentations: 70% + In-class final test: 30%

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)		
フランス語外部試験講座A		2017年度以降入学者
カレンス フィリップ		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金5/Fri.5		
単位数：2単位		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
このコースは、フランス語の公式外部試験に向けて準備したい学生を対象としています。あなたのレベルに応じて、テーマごとの進捗が提案され、さまざまな練習問題を基に進められます。これは、目指す試験のレベルに応じたスキルを活用する内容となっています。このトレーニングにより、まずDAPFのいずれかのレベルに向けて準備することができ、将来的にはフランス国内および国際的に認められている認定である初級レベルのDELFD取得にも挑戦できる可能性が開かれます。このコースは、フランス語の能力を最適化し、全体的なレベルを強化するだけでなく、フランス語学習へのさらなる動機付けにもなります。		
【到達目標】		
A. フランス語の基礎を固め、目指す試験に向けてレベルを上げることができる。		
B. 試験に合格するために必要なスキルを習得することができる。		
C. 練習問題に取り組むことで、実際のフランス語試験への受験が容易になることを目指す。		
方法論的なアドバイスを活用してフランス語を訓練しましょう。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
さまざまなスキルに関連するノウハウの習得は、DAPF (Futsuken)の目標に関連するテーマに沿って段階的に行われ、DELFDの試験準備にも役立ちます。レベルに応じて、テーマごとの進捗が提案され、さまざまな練習問題を通じて構成されます。これは、目指す試験のレベルに応じたスキルの発揮を促します。課題の準備はレベルごとのグループで行われ、段階的に次のことを可能にします。1. 試験内容の理解 2. 準備 3. 練習 4. 受験。各セッションの初めに行うミニテスト形式の継続的な評価も実施され、学習者の進捗を測定します。学期中間および学期末の試験は、DAPFやDELFDの模擬試験に基づいて設計され、実際の試験の前にフランス語のレベルを事前に評価することができます。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	Saluer se présenter interroger quelqu'un	挨拶、自己紹介 0から20までの数字で年齢を尋ねる
	Nombres de 0 à 20 L'âge	
2	Présenter quelqu'un Famille, célébrités	誰かを紹介する 家族、有名人について尋ねる
	Questionner quelqu'un Profession nationalités Pays	国籍 国
3	Possessions être / il y a / avoir Négation objets courants Animaux	所有物 これは何ですか？ 何がありますか？ 持つこと 否定、日常の物、動物
4	Goûts Aimer + nom Degrés de préférence aimer + verbe infinitif Activités courantes	好み 好き+名詞 好き 大好き、嫌い、の方が好き 好みの度合い 好み：aimer + 不定詞 動詞：日常の活動
5	Appréciations Adjectifs courants Nuancer : assez / très	評価 一般的な形容詞 どのぐらい好き まあまあ/とても/あまり
6	Situer des lieux Indiquer une direction Lieux du quartier La maison les pièces	場所の位置 道案内 場所の前置詞、道順 近所の場所 家 部屋
7	Prépositions de lieu Test de Mi-trimestre Examen blanc	中間テスト 模擬試験
8	Heures et horaires Nombres de 20 à 60 Interroger sur l'heure Moments de la journée Durée	時間 時間割 20から60までの数字 時刻を尋ねる 時間帯、期間
9	Emploi du temps Activités courantes Verbes de déplacement partir de/ arriver à	スケジュール 日常の活動- ER動詞、現在形の活用 移動の動詞： 出発する/到着する
10	Au marché Nourriture boissons Achats Quantité prix	市場で 食べ物 飲み物 買い物 量 価格
11	Au restaurant Repas menu commander Nourriture boissons	レストランで 食事 メニュー 料理を注文する 食べ物 飲み物 食事の感想
12	Appréciation du repas A la boutique de vêtements Choisir un vêtement Taille couleurs Prix	洋服の店で 洋服を選ぶ サイズ 色 値段
13	Test de fin de trimestre Examen blanc	期末テスト 模擬試験
14	Correction du test final Conseils pour les épreuves	テストの採点 試験を受けるアドバイス
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
前回の授業で学んだ語彙や文法事項を復習し、ミニテストの質問に答えられるように準備する必要があります。このテストは学習の進捗や評価に用いられます。また、次の授業のために宿題を準備する必要がある場合もあります。授業の準備や復習には少なくとも1時間を見込む必要があります。次の授業で提出する宿題は、DAPFやDELFDの試験対策ガイドからの練習問題になります。それらは語彙、文法、または前述の試験に近い作文試験に関連する内容です。		

【テキスト（教科書）】

書類はオンライン学習システムに送信されるまたは、印刷されたものが直接クラスで配布されます。

【参考書】

2024年度版 3級・4級・5級仏検公式ガイドブック

A5判 256ページ 並製

定価：2400円＋税

ISBN978-4-411-90308-2 C0085

奥付の初版発行年月：2024年04月／[2024年04月15日刊行]

DELTA A1 100% réussite: Livre + didierfle.app ペーパーバック
－ 2022/4/20

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む）総合的に評価します。

評価は次のように割り当てられます：

1. 中間テスト・期末試験: 50 %。

中間試験と期末試験は、実際の試験の例に基づいて行われます。

2. ミニテスト：20%（クラスで行うショートテスト）

3. 課題：10%（特に筆記関係問題）

4. 積極性・平常点：20 %（クラスでの口頭練習やペアで行うタスク）

【学生の意見等からの気づき】

この新しいコースについては、最初のクラスからのフィードバックをいただければと思います。

各人のレベルを考慮して、レッスンを綿密に準備します。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにある教材にアクセスするには、スマートフォンかパソコンが必要です。

【Outline (in English)】

This course is intended for students who wish to prepare for official external French exams. Depending on your level, a progression by theme will be proposed and will be based on a variety of exercises. It will develop the skills related to the level of the exam you are aiming for. It will allow you to first prepare for one of the DAPF levels and give you the opportunity to later access the first levels of the Delf, a certification recognized in France and internationally. This course will also help optimize your French skills, strengthen your overall level in the language, and provide you with additional motivation for learning French.

As work to be done outside the class, you will need to review the vocabulary and grammar points learned in the previous lesson and prepare to answer the questions on the mini-test. This test will be used to assess learning progress and evaluation. Additionally, there may be cases where you need to prepare homework for the next lesson. You should allow at least one hour for lesson preparation and review. The homework to be submitted in the next lesson will consist of practice problems from the DAPF or DELF exam preparation guides. These will relate to vocabulary, grammar, or writing exercises similar to the aforementioned exams.

The evaluation is allocated as follows:

1. Midterm and final exams: 50%.

The midterm and final exams will be based on examples of actual tests.

2. Quizzes: 20% (short tests conducted in class)

3. Assignments: 10% (particularly written-related problems)

4. Participation and regular points: 20% (oral practice in class and tasks done in pairs)

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）		
フランス語外部試験講座 B		
2017年度以降入学者		
カレンス フィリップ		
開講時期：サマーセッション/Summer Session 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses		
単位数：2単位		
その他属性：〈他〉〈優〉		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この5日間の集中コースは、公式の外部フランス語試験に備えたいすべての学生を対象としています。この研修は、春学期に行った「フランス外部試験講座を修了した学習者にとっても補完的なものとなります。これらのコースでは、比較的短期間でフランス語のレベルを上げ、日本、フランス、国際的に認められているDapf(フツケン)やDelfのいずれかの試験を受けることができます。この加速トレーニングはフランス語の能力を最適化し、言語全体のレベルを強化し、フランス語学習へのさらなるモチベーションにもつながります。集中講座は2026年8月3日(月)・8月4日(火)・8月5日(水)・8月6日(木)・8月7日(金)の5日間で開催される。

【到達目標】

- A. フランス語の基礎を固め、目指す試験に向けてレベルを上げることができる。
B. 試験に合格するために必要なスキルを習得することができる。
C. 練習問題に取り組むことで、実際のフランス語試験への受験が容易になることを目指す。
方法論的なアドバイスを活用してフランス語を訓練しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

さまざまなスキルに関連するノウハウの習得は、DAPF (Futsuken)の目標に関連するテーマに沿って段階的に行われ、DEL Fの試験準備にも役立ちます。レベルに応じて、テーマごとの進捗が提案され、さまざまな練習問題を基に構成されます。これは、目指す試験の難易度に応じたスキルの活用を行います。グループ分けで行う試験準備は段階的で、以下を可能にします：1. 試験内容を理解する 2. 準備する 3. 練習する 4. 受験する。各セッションの最初に行うミニテスト形式の継続的な評価も導入され、学習者の進捗を測定します。試験は、DAPFまたはDEL Fの模擬試験に基づいて設計され、実際の試験前にフランス語レベルを事前に評価することができます。集中講座は2026年8月3日(月)・8月4日(火)・8月5日(水)・8月6日(木)・8月7日(金)の5日間で開催される。当該科目の履修を希望する場合は、4月20日(月)※までに学習支援システムにて仮登録を行ってください。所属学部の履修登録期間中に自分で履修登録を行ってください。授業の進行やテストの期限に関する変更は、遠隔授業サポートシステム「Hoppi」のサイトで発表されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の紹介
	Décrire des personnes	人を描写する
	Adjectifs	形容
	Donner son avis	意見を言う

2	Comparer Comparatif superlatif	比較する 比較級・最上級)
3	Achats Pronoms interrogatif Pronom possessif Pronom démonstratif	買い物 疑問代名詞 所有代名詞、 指示代名詞
4	Emploi du temps Verbes simples Verbes pronominaux	スケジュール 基本動詞 再帰動詞)
5	Autorisation Interdiction Donner des ordres Impératif	許可／禁止 命令を出す 命令法
6	Inviter Volonté, obligation, possibilité Verbes auxiliaires : Vouloir pouvoir Devoir savoir	招待 意志、義務、可能性 助動詞
7	Actions passées Passé composé Vie courante / vacances	過去の行動：複合過去 日常生活 休暇
8	Souvenirs: Phrase complexe temporelle: quand je...imparfait	思い出 ～したとき 半過去
9	Incident/ accident : Phrase complexe temporelle : Passé composé /imparfait	事故／アクシデント 複合文の時間表現 ～したとき 複合過去／半過去
10	Projets prévisions Futur proche Futur simple Actions futures	計画 近接未来 単純未来 これからの行為
11	L'hypothèse Présent / futur) Phrase complexe : Quand je...	…したら、たとえ…
12	Enquête Pronoms COD, COI, EN, Y	調査 直接・間接代名詞 Y/en 代名詞
13	Usage des temps Passé immédiat Présent continu Futur proche (2)	時制用法 近過去 現在進行形 近接未来 (2)
14	Examen blanc	模擬授業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で学んだ語彙や文法事項を復習し、ミニテストの質問に答えられるように準備する必要があります。このテストは学習の進捗や評価に用いられます。また、次回の授業のために宿題を準備する必要がある場合もあります。授業の準備や復習には少なくとも1時間を見込む必要があります。次回の授業で提出する宿題は、DAPFやDEL Fの試験対策ガイドからの練習問題になります。それらは語彙、文法、または前述の試験に近い作文試験に関連する内容です。

【テキスト（教科書）】

書類はオンライン学習システムに送信されるか、印刷されたものが直接クラスで配布されます。

【参考書】

2024年度版3級・4級・5級仏検公式ガイドブック
A5判 256ページ 並製
定価：2400円＋税
ISBN978-4-411-90308-2 C0085

奥付の初版発行年月：2024年04月／[2024年04月15日刊行]
DELF A1 100% réussite: Livre + didierfle.app ペーパーバック
－ 2022/4/20

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む）
総合的に評価します。

評価は次のように割り当てられます：

1. 中間テスト・期末試験: 50 %。
中間試験と期末試験は、実際の試験の例に基づいて行われます。
2. ミニテスト： 20%（クラスで行うショートテスト）
3. 課題： 10%（特に筆記関係問題）
4. 積極性・平常点： 20 %（クラスでの口頭練習・ペアで行うタスク）

【学生の意見等からの気づき】

この新しいコースでは、最初の授業から皆さんのコメントをいただけることを期待しています。それぞれのレベルに応じて、できる限りのアドバイスを提供します。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにある教材にアクセスするには、スマートフォンかパソコンが必要です。

【Outline (in English)】

This five-day intensive course is aimed at all students who wish to prepare for official external French exams. This training also complements the spring semester course for learners who have completed the 'French External Exam Course.' These courses allow you to improve your level of French in a relatively short period and take one of the exams recognized in Japan, France, and internationally, such as Dapf (Futsuken) or Delf. This accelerated training optimizes French language skills, enhances overall language proficiency, and further motivates learning French.

Your overall grade in the class will be decided on the following :

Examinations : 50%, Mini-test : 20% , Assignments : 10 % and in class contribution 20 %.

The intensive course will be held over five days on Monday, August 3, 2026; Tuesday, August 4; Wednesday, August 5; Thursday, August 6; and Friday, August 7.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語A 2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。

ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1) 文字と発音、2) 単語と熟語、3) 基礎文法、4) 文法習熟度確認のための練習問題、5) 本文テキスト（朗読と和訳）、6) 会話練習、7) シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。課題等に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音 2	単語の発音
第3回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第4回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第6回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第7回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第8回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第9回	「（何々）の」、 「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第10回	「（何々）に・へ」、 「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第11回	「（何々）で・によって」、 「～（何々）に 取り組む」	名詞の造格、с я動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化

第12回 「している／しおえ 動詞の体（不完了体／完了体）る」

第13回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第14回 期末試験、まとめと 文法問題
解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年

土岐康子・三神エレナ・佐藤裕子『ティータムのロシア語〈CD付〉』白水社、2019年

小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60%、評価テストが40%の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声提出してもらい、その評価も加味する予定です。一步一步確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

3か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】Elementary Russian for students learning Russian for the first time as a third foreign language. Students learn the Cyrillic alphabet, pronunciation, and basic grammar in three months, and build skills in reading, writing, and speaking for simple everyday communication. 【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to: Read and write simple Russian. Hold simple conversations in Russian. 【Learning activities outside of classroom】Students are expected to spend about 2 hours before/after each class reviewing and practicing the lesson content. 【Grading Criteria / Policy】Short tests 40%; term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語B 2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1) 文字と発音、2) 単語と熟語、3) 基礎文法、4) 文法習熟度確認のための練習問題、5) 本文テキスト（朗読と和訳）、6) 会話練習、7) シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。課題等に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音2、名詞、形容詞	単語の発音、名詞の性、形容詞の性変化
第3回	所有代名詞	名詞の複数形、所有代名詞の性・数変化、形容詞の性・数変化
第4回	「～する」	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「(何々)を」	名詞の対格
第6回	「～しろ」	動詞の命令形
第7回	「(どこどこ)へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第8回	「(何々、誰々)の」、 「(何々)を持っている」	名詞の生格、所有の表現
第9回	「～するだろう」	動詞の未来形（人称変化）
第10回	「(どこどこ)で」	名詞の前置格
第11回	「～した」、「(誰々)を」	動詞の過去形（性・数変化）、活用体を表す名詞の対格
第12回	「(何々、誰々)へ」、 「(何々、誰々)と」	名詞の与格、名詞の造格
第13回	「～する／～しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

第14回 期末試験、まとめと 文法問題
解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】

朝妻恵理子・クセーニャ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円＋税

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年

土岐康子・三神エレナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年

小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60%、評価テストが40%の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声提出してもらい、その評価も加味する予定です。一步一步確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

3か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

※春学期A／秋学期Bは単独でも履修可能な科目のため初修者歓迎ですが、Aから継続して履修する学生が多い場合、授業内容は履修者の皆さまとご相談させていただきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】Elementary Russian for students learning Russian for the first time as a third foreign language. Students learn the Cyrillic alphabet, pronunciation, and basic grammar in three months, and build skills in reading, writing, and speaking for simple everyday communication. 【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to: Read and write simple Russian. Hold simple conversations in Russian. 【Learning activities outside of classroom】Students are expected to spend about 2 hours before/after each class reviewing and practicing the lesson content. 【Grading Criteria / Policy】Short tests 40%; term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

第三外国語としてのロシア語中級 2017年度以降入学者
A

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。会話練習を行なって聞き取り能力及び会話能力を楽しく伸ばしましょう。

ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(T P K II)の基本レベル (CERF A2) のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストの解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の学習	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
2	学校と大学	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
3	大学と大学生	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
4	留学生たち	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
5	寮の住まい	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
6	部屋	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
7	一日の流れ	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
8	週のスケジュール	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
9	休暇の過ごし方	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
10	好きなこと	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
11	移動の表現	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
12	図書館に行く	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
13	総合復習	聴解、文法練習

14 期末試験

筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

期末テストの範囲及び成績評価の基準を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア語の解説と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力と共に会話能力も楽しく伸ばしましょう。

ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(T P K II)の基本レベル(CERF A2)のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	お食事	テキストの読解、会話練習
2	カフェやレストランにて	テキストの読解、会話練習
3	手紙を書く	テキストの読解、会話練習
4	郵便局にて	テキストの読解、会話練習
5	プレゼントの文化	テキストの読解、会話練習
6	お買い物	テキストの読解、会話練習
7	招待する	テキストの読解、会話練習
8	病気と健康	テキストの読解、会話練習
9	病院にて	テキストの読解、会話練習
10	街の見学に行く	テキストの読解、会話練習
11	旅行に行く	テキストの読解、会話練習
12	空港にて	テキストの読解、会話練習
13	復習	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

実用ロシア語A

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

現地留学またはロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験の基本レベル (CERF A2)、T P K II-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語能力試験 T P K II A2-B1の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介、名前、挨拶	関係代名詞の用法。 会話練習、リスニング
2	初回場面のトーク	意見を述べる。会話練習・リスニング
3	友好について	性格、家族メンバー、比較表現。会話練習、リスニング
4	人の外見	比較表現、形容詞の与格、慣用句。会話練習、リスニング
5	何を着る	衣類、最上級、形容詞の格変化復習。会話練習、リスニング
6	人の体	年齢や外見の話、比較、чем-тем構文。会話練習、リスニング
7	結婚パーティ	単語復習、関節発話、慣用句。会話練習、リスニング
8	薬局にて	症状の話、診察の表現、薬の購入。会話練習、リスニング
9	健康の維持	再帰動詞、慣用句。会話練習、リスニング
10	スポーツ	会話練習、リスニング
11	身近な人々について	人のことについて言える表現の復習、会話練習、リスニング

12	友人へのメール	メールの書き方、構成。会話練習、作文
13	総合復習	1～12の復習
14	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて授業プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムにアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K II B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K II A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

実用ロシア語B

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、動画鑑賞やリスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

現地留学またはロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験の基本レベル(CERF A2)、T P K И-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語検定試験 T P K И A2-B1の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行先のホテル	ホテルの種類や特徴について話す。リスニング練習、会話練習
2	ホテルの受付	予約する、ホテルスタッフと話す。リスニング練習、会話練習
3	有名なホテル	接頭辞の移動動詞。リスニング練習、会話練習
4	住まいについて	住まいの種類や特徴。リスニング練習、会話練習
5	部屋について	場所の前置詞、与格の復習。リスニング練習、会話練習
6	引越しパーティ	慣用句。リスニング練習、会話練習
7	食べ物	料理、食べ物。リスニング練習、会話練習
8	食生活	生格、造格の復習。リスニング練習、会話練習
9	スーパーの買い物	数字と複数生格。リスニング練習、会話練習
10	ファストフード店	不定代名詞。リスニング練習、会話練習
11	料理を作る	レシピ、程度表現。リスニング練習、会話練習

12	レストラン	お食事エチケット、慣用句。リスニング練習、会話練習
13	総合復習	1～12の復習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。

期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度を変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

ロシア語講読A

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その1）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習（その2）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その3）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読（その1）回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読（その2）ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴェ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読（その3）ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する19世紀科学」
7	テキスト講読（その4）おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読（その5）文学、芸術	短文「美（『カラマーゾフの兄弟』より）」、「映画芸術」
9	テキスト講読（その6）文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読（その7）歴史	短文「アレクサンドル1世」、「ニコライ2世」
11	テキスト講読（その8）文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読（その9）文学	短文「トルストイ」

13	テキスト講読（その10）文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40%、期末試験60%。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading A.

【Course Outline】This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

【Learning Activities outside of Classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

ロシア語講読B

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、「ロシア語講読A」よりもさらに高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読（その1） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第1節）」
2	テキスト講読（その2） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第2節）」
3	テキスト講読（その3） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第3節）」
4	テキスト講読（その4） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第1節）」
5	テキスト講読（その5） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第2節）」
6	テキスト講読（その6） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第3節）」
7	テキスト講読（その7） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第4節）」
8	テキスト講読（その8） 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第1節）」
9	テキスト講読（その9） 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第2節）」

10	テキスト講読（その10） 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第3節）」
11	テキスト講読（その11） 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第1節）」
12	テキスト講読（その12） 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第2節）」
13	テキスト講読（その13） 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第3節）」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40%、期末試験60%。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading B. Continuation of Russian reading A.

【Course Outline】 This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

【Learning Activities outside of Classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】 Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語A

2017年度以降入学者

小澤 裕之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ロシア語圏のインターネット記事や雑誌のインタビューなど、「生」のロシア語に触れることで、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実践的に活用するための練習をします。また、関連する映像をお見せすることもあります。ロシア語の講読が初めての受講生も歓迎します。

【到達目標】

皆で精読することで、ロシア語で書かれた時事的な文章をみずからの力で読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章を皆で精読していきます。受講生のレベルに応じ、文法事項の詳しい解説をしたり、背景について説明したりします。予習や質問、期末テストへのフィードバックは教室で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	ロシア語の文章講読
3	内政②	ロシア語の文章講読
4	外交①	ロシア語の文章講読
5	外交②	ロシア語の文章講読
6	軍事①	ロシア語の文章講読
7	軍事②	ロシア語の文章講読
8	司法①	ロシア語の文章講読
9	司法②	ロシア語の文章講読
10	アニメーション①	ロシア語の文章講読
11	アニメーション②	ロシア語の文章講読
12	芸術①	ロシア語の文章講読
13	芸術②	ロシア語の文章講読
14	期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストを音読し、訳してきてください。目安は1時間半です。なお期末試験では、授業で講読したテキストの文法・語彙の理解度を確認します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

露和辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】

私は今年初めてこの授業を担当しますが、受講生の皆さんが気軽に意見を述べたり質問したりしやすい環境を作るよう心がけます。

【その他の重要事項】

各回のテーマは、受講生のレベルや関心に合わせて変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers practice in using the Russian grammar and vocabulary students have learned. We will read current-affairs texts such as online articles and magazine interviews, and sometimes watch related videos. Students who have never read Russian texts before are also welcome.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students develop the ability to read current affairs texts on their own through careful, collaborative close reading.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, students will be expected to read the distributed texts aloud and prepare written translations. The final exam will assess students' understanding of the grammar and vocabulary in the texts read during the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade will be based on the following components:

Class participation and coursework: 50%

Final examination: 50%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

時事ロシア語B

2017年度以降入学者

小澤 裕之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ロシア語圏のインターネット記事や雑誌のインタビューなど、「生」のロシア語に触れることで、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実践的に活用するための練習をします。また、関連する映像をお見せすることもあります。ロシア語の講読が初めての受講生も歓迎します。

【到達目標】

皆で精読することで、ロシア語で書かれた時事的な文章をみずからの力で読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章を皆で精読していきます。受講生のレベルに応じ、文法事項の詳しい解説をしたり、背景について説明したりします。予習や質問、期末テストへのフィードバックは教室で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	事故①	ロシア語の文章講読
3	事故②	ロシア語の文章講読
4	原発①	ロシア語の文章講読
5	原発②	ロシア語の文章講読
6	環境①	ロシア語の文章講読
7	環境②	ロシア語の文章講読
8	宗教①	ロシア語の文章講読
9	宗教②	ロシア語の文章講読
10	映画①	ロシア語の文章講読
11	映画②	ロシア語の文章講読
12	その他①	ロシア語の文章講読
13	その他②	ロシア語の文章講読
14	期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストを音読し、訳してきてください。目安は1時間半です。なお期末試験では、授業で講読したテキストの文法・語彙の理解度を確認します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

露和辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%、授業への参加：50%

【学生の意見等からの気づき】

私は今年初めてこの授業を担当しますが、受講生の皆さんが気軽に意見を述べたり質問したりしやすい環境を作るよう心がけます。

【その他の重要事項】

各回のテーマは、受講者のレベルや関心に合わせて変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers practice in using the Russian grammar and vocabulary students have learned. We will read current-affairs texts such as online articles and magazine interviews, and sometimes watch related videos. Students who have never read Russian texts before are also welcome.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students develop the ability to read current affairs texts on their own through careful, collaborative close reading.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, students will be expected to read the distributed texts aloud and prepare written translations. The final exam will assess students' understanding of the grammar and vocabulary in the texts read during the course.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語A 2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って文法・会話文の解説を行い、全員に発言を求めます。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールを調整する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」	「中国及び中国語に関する概説」 「中国語の四声」
2	「第1課」「第2課」	「発音1」「発音2」
3	「第3課」「第4課」	「発音3」「発音4」
4	発音の復習	「発音1から4」の復習をする
5	「第5課」「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第7課」「第8課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第9課」「第10課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	中間試験	第1課～第10課の内容の定着度チェック
9	「第11課」「第12課」	「補語」「動詞述語文1」
10	「第13課」「第14課」	「動詞述語文2」「動詞述語文3」
11	「第15課」「第16課」	「動詞述語文4」「動詞述語文5」
12	「第17課」「第18課」	「動詞述語文6」「動詞述語文7」
13	「第19課」「第20課」	「完了態」「変化態」
14	期末試験	第11課～第20課の内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。補助問題やe宿題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）40％、中間試験30％、期末試験30％

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語B 2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って文法・会話文の解説を行い、全員に発言を求めます。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールを調整する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第21課」「第22課」	「経験態」「進行態」「持続態」
2	「第23課」「第24課」	「形容詞述語文（一）」「形容詞述語文（二）」
3	「第25課」「第26課」	「形容詞述語文（三）」「名詞述語文（一）」
4	「第27課」「第28課」	「名詞述語文（二）」「名詞述語文（三）」
5	「第29課」「第30課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
6	復習課Ⅰ	第21課～第30課までの復習
7	中間試験	第21課～第30課までの内容の定着度チェック
8	「第31課」「第32課」	「程度補語」「数量補語」
9	「第33課」「第34課」	「結果補語」「方向補語」
10	「第35課」「第36課」	「可能補語」「助動詞」
11	「第37課」「第38課」	「兼語文」「受け身表現」
12	「第39課」「第40課」	「把構文」「存現文」
13	復習課Ⅱ	第31課～第40課までの復習
14	期末試験	第31課～第40課までの内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。補助問題やe宿題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）40％、中間試験30％、期末試験30％

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語中級A 2017年度以降入学者

木村 佳代子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】

1. 中国語の中級レベルの語彙、文法を学修し、運用することができる。
2. ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。課題等へのフィードバックは授業中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1課（助動詞、主述述語文の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第1課（トレーニング1）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第2課（“的”の用法、「原因・理由」の表現、文末助詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第2課（トレーニング2）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第3課（連動文、“是～的”の文、疑問詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第3課（トレーニング3）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第1課～第3課の復習	日文中訳・中文日訳の練習。
第8回	第4課（“了”の3つの用法、副詞“就”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第4課（トレーニング4）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第5課（様態補語、推量の表現、「仮定」の表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第5課（トレーニング5）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第1課～第3課）	期末試験に向けた復習と練習。

第13回 総合練習（第4課、第5課） 期末試験に向けた復習と練習。

第14回 試験・まとめと解説 朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】

『中国語つぎへの一步』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【参考書】

『中国語さらなる一步』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】

期末試験40%、授業への参加度60%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化し到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

4群中国語履修者も履修可能ですが、中国語3Ⅰ・Ⅱと同じ教科書となる可能性があるため、履修の際は留意してください。
中国語コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション中級A・B／第三外国語としての中国語A・B／中国語視聴覚中級A・B／中国語作文中級A・B／中国語講読A・B

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

- ・ To review important point of Chinese grammar.
- ・ Improve reading, speaking, writing, and translating skills.
- ・ Learning Chinese cultures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
- ・ Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語中級B 2017年度以降入学者

木村 佳代子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、引き続き、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】

1. 中国語の中級レベルの語彙、その用法を学修し、運用することができる。
2. ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。

課題等へのフィードバックは授業中またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第6課（結果補語（1）、副詞”有点”の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第6課（トレーニング6）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第7課（存現文、主述句の主語、二つの”了”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第7課（トレーニング7）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第8課（状態の持続を表す“着”、副詞”再”、疑問詞の不定用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第8課（トレーニング8）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第6課～第8課の復習	日文中訳、中文日訳を中心とした練習
第8回	第9課（方向補語、使役表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第9課（トレーニング9）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第10課（可能補語、強調表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第10課（トレーニング10）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。

第12回	総合練習（第6課～第8課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第9課、第10課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】

『中国語つぎへの一步』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【参考書】

『中国語さらなる一步』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度60%、期末試験40%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

4群中国語履修者も履修可能ですが、中国語3Ⅰ・Ⅱと同じ教科書となる可能性があるため、履修の際は留意してください。
中国語コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション中級A・B／第三外国語としての中国語A・B／中国語視聴覚中級A・B／中国語作文中級A・B／中国語講読A・B

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This course is continued from Spring semester.

- To review important point of Chinese grammar.
- Improve reading, speaking, writing, and translating skills.
- Learning Chinese cultures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
- Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
- Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語視聴覚中級A

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(25)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。この授業は木曜日2限の中国語視聴覚初級1・IIと同じ教科書を使います。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】

初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第7課	文法理解と応用
3	第7課	会話と応用
4	第7課	読解文の理解と応用
5	第7課	課外練習と作文
6	第8課	文法理解と応用
7	第8課	会話と応用
8	第8課	読解文の理解と応用
9	第8課	課外練習と作文
10	第9課	文法理解と応用
11	第9課	会話と応用
12	第9課	読解文の理解と応用
13	第9課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

This class uses the same textbook as Chinese Audiovisual Beginner I and II on Thursday 2nd period. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.

Final grade will be calculated according to the following

Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語視聴覚中級B

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(25)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】

初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第10課	文法理解と応用
3	第10課	会話と応用
4	第10課	読解文の理解と応用
5	第10課	課外練習と作文
6	第11課	文法理解と応用
7	第11課	会話と応用
8	第11課	読解文の理解と応用
9	第11課	課外練習と作文
10	第12課	文法理解と応用
11	第12課	会話と応用
12	第12課	読解文の理解と応用
13	第12課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.

Final grade will be calculated according to the following

Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）			7	第六課	1. 動詞はどうした？ 2. 「サングラスの男」はサングラスをかけている
中国語作文中級 A			8	第七課	1. よく現れる“来”と“去” 2. 「動目」構造の動詞はとれない目的語
楊 心苗			9	第八課	1. 「思う」あれこれ 2. 動詞の重ね型
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木3/Thu.3 単位数：2単位			10	第九課	1. 文脈に隠れた代名詞をさがせ 2. “ ☐ 么”“那么”がいる こんな場合あんなとき
その他属性：〈他〉〈優〉			11	第十課	1. 中国語では現れる副詞“就” 2. “才”は「やっと」現れる
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			12	第十一課	1. 例外なしは“都”で 2. 「だけ」にあたる“只”の位置 3. 「も」にあたる“也”の位置
本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、フィードバックの与え方などを習得する。			13	第十二課	1. 「また」もう一度“再”“又”“ ☐ ” 2. ちょっと待て“再”の出番はこれからだ 期末テスト
尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。			14	総括・試験	
【到達目標】			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
1. 興味・関心のある話題について、正確かつ自然な中国語表現を用いて、自分の考えを簡単な文章としてまとめることができる。			・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進める場合があるため、宿題には必ず事前に取り組むこと（宿題を行っていない場合、授業への参加が困難になる）。		
2. 受講生同士で、作文に対するフィードバックを行うことができる。			・本授業における準備学習および復習の時間は、各2時間を標準とする。		
3. 教員が添削した作文をもとにライティングを行い、よりよい文章を作成する能力を身につける。			【テキスト（教科書）】		
4. 春学期の学習を修了した段階で、HSK3級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。			相原茂『作文ルール66』（朝日出版社）2025年 ISBN 978-4-255-45138-1		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			【参考書】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			必要に応じて適宜紹介する。		
【主な授業方法】			【成績評価の方法と基準】		
L 講義 /Lecture			平常点を50%（授業への積極的な参加、作文、フィードバックなど）、期末課題を50%とし、合計100点満点で評価する。		
【授業の進め方と方法】			本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		
・本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせる。			【学生の意見等からの気づき】		
・指定テキストを用い、練習問題や作文に取り組むとともに、受講生同士でフィードバックを行い、発表する機会も設ける。			受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。		
・教員は、作文の添削および質問への回答を準備し、授業内で返却・回答することで、随時フィードバックを行う。			【その他の重要事項】		
なお、以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて、進捗のペースや実施順を調整する場合がある。			・本授業は、中国語の文法知識を有していること（中国語学習歴が最低1年以上あること）を前提として行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			・事前学習は必須とし、事前学習を行っていることを前提に授業を進める。		
あり / Yes			・本授業では、全回出席を評価の前提とする。原則として欠席は認めない。ただし、教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書の提出など、各自で適切な対応をとること。		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】			【Outline (in English)】		
なし / No			This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing in Chinese. While reviewing basic grammatical knowledge, students will begin with practice in composing short sentences and learn the steps required for producing written compositions.		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			In addition, students will analyze model Chinese texts and, through imitation and rewriting exercises, develop skills in writing clear and comprehensible short texts as well as in giving feedback.		
回	テーマ	内容			
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。			
2	第一課	ウォームアップ（1）			
3	第二課	ウォームアップ（2）			
4	第三課	1. ある・いる 2. お飾りの“很”			
5	第四課	1.“ ☐ ”がいる時 いらぬ時 2. 「行きませんか」は「行きましょう」 3. 「何か」「どこか」「だれか」の訳し方			
6	第五課	1. 「何の映画？」と「なんて映画だ！」 2. 「疑問詞＋でも」が隠れていたら疑問詞呼応構文			

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語作文中級 B

2017年度以降入学者

楊 心苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、フィードバックの与え方などを習得する。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

1. 興味・関心のある話題について、正確かつ自然な中国語表現を用いて、自分の考えを簡単な文章としてまとめることができる。
2. 受講生同士で、作文に対するフィードバックを行うことができる。
3. 教員が添削した作文をもとにライティングを行い、よりよい文章を作成する能力を身につける。
4. 秋学期の学習を修了した段階で、**HSK4級**のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせる。
 - ・指定テキストを用い、練習問題や作文に取り組むとともに、受講生同士でフィードバックを行い、発表する機会も設ける。
 - ・教員は、作文の添削および質問への回答を準備し、授業内で返却・回答することで、随時フィードバックを行う。
- なお、以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて、進捗のペースや実施順を調整する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第十三課	1. 「…から」が“从”にならぬとき 2. 「…まで」を“到”に訳さないとき 3. 動詞のあとにくる“到…”
2	第十四課	1. 「XはYだ」はいつも“X是Y”とは限らない 2. “是……的”構文
3	第十五課	1. 「で」「に」「から」「と」「まで」などは中国語では介詞です。 2. 介詞フレーズを含む文の否定 3. 「…について」
4	第十六課	1. 「ちょっと・少し」の表し方 2. 「安くする」手立て
5	第十七課	1. じゃばり量詞 2. 数量は動詞・形容詞の後ろ

6	第十八課	1. 形容詞 昨日のどこでも“了”はいらぬ 2. 「…ている・ていた」なのに“了”をつける
7	第十九課	1. 中国語 動詞があつてこそその補語 2. 補語は大事だ 保護すべし
8	第二十課	1. “要”が要るとき 2. 「起こりそう」なら“会”を添え 3. 「…できる」にあたる“能”“会”“可以”
9	第二十一課	1. おのづから なるも原因あり “被”構文 2. 「東京で開かれる」は“在京 行” 3. 受け身がだめなら 能動文
10	第二十二課	1. こんなときは“把”構文を 2. “把”構文
11	第二十三課	1. やりもらい だれがいい目を みるのやら 2. ときに「目的」はあとから 3. 「まもなく…する、もうすぐ…する」
12	第二十四課	1. 中国語で出現する“人” 2. 道具・手段や原因を表す「で」 3. 否定と肯定 入れかえてみる 4. 逆転の発想
13	第十三課～第二十四課	総括
14	期末テスト	第十三課～第二十四課 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進める場合があるため、宿題には必ず事前に取り組むこと（宿題を行っていない場合、授業への参加が困難になる）。
- ・本授業における準備学習および復習の時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂『作文ルール66』（朝日出版社）2025年 ISBN 978-4-255-45138-1

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点を50%（授業への積極的な参加、作文、フィードバックなど）、期末課題を50%とし、合計100点満点で評価する。
本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、中国語の文法知識を有していること（中国語学習歴が最低1年以上あること）を前提として行う。
- ・事前学習は必須とし、事前学習を行っていることを前提に授業を進める。
- ・本授業では、全回出席を評価の前提とする。原則として欠席は認めない。ただし、教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書の提出など、各自で適切な対応を取ること。

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing in Chinese. While reviewing basic grammatical knowledge, students will begin with practice in composing short sentences and learn the steps required for producing written compositions. In addition, students will analyze model Chinese texts and, through imitation and rewriting exercises, develop skills in writing clear and comprehensible short texts as well as in giving feedback.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

また毎回発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞について勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ及び期末テスト	文法のまとめ、と会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60％）と発表（40％）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定の受験も推奨される。

留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should talk by accurate pronunciation.

We should talk daily conversation well.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

また発表した内容の訂正版の音声でLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（1）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（1）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的用法 会話（2）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（2）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（3）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（3）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（1）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（2）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り

第13回 複文二

接続詞を確認する

第14回 まとめ

復習と質疑応答

口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績（60％）と発表（40％）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定の受験も推奨される。

留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語翻訳・通訳C

2017年度以降入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、**HSK3級～5級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期は**HSK3級～4級レベル**（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
- 2、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回3、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、**HSK試験**や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。 HSK に関する説明
第2回	中国語重要文型の復習 (その1)	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習 (その2)	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方 (その1)	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方 (その2)	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”
第6回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第7回	重要な前置詞（介詞、その1）	“在”“从”“到”“離”
第8回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第9回	重要な前置詞（介詞、その2）	“往”“朝”“向”“对于”“对”“通過”“按照”“关于”など
第10回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第11回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方

第12回	特殊構文（その1）	存在を表す構文、連動文
第13回	特殊構文（その2）	存現文、比較構文、
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40%＋中間テスト（30%）＋期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法の説明が詳しく、分かりやすい点に加え、学生同士がコミュニケーションを取り、議論できる点が評価されています。今後も、これらの点をさらに工夫していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語翻訳・通訳D

2017年度以降入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初級を修了した学習者を対象に、**HSK3級～5級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期では**HSK4級～5級レベル**（中国語検定試験3～2級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
- 2、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回3、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、**HSK試験や中検試験**における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第2回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第3回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第4回	特殊構文（その1）	使役文と受け身文
第5回	特殊構文（その2）	“是・・・的”構文
第6回	特殊構文（その3）	“把”構文
第7回	特殊構文（その4）	その他の特殊構文“有”を伴う構文、“一点儿…都”など
第8回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第9回	中国語の補語（その1）	結果補語と方向補語
第10回	中国語の補語（その2）	可能補語、数量補語
第11回	中国語の補語（その3）	数量補語、様態補語
第12回	中国語の複文（その1）	並列関係、累加関係、選択関係
第13回	中国語の複文（その2）	因果関係、逆接関係、仮定関係、条件表現など
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40%＋中間テスト（30%）＋期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法の説明が詳しく、分かりやすい点に加え、学生同士がコミュニケーションを取り、議論できる点が評価されています。今後も、これらの点をさらに工夫していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語講読A

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）を通し、中国語の文章を読む力を高めるための授業です。春学期はHSK 3、4級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。

【到達目標】

中国語の文章購読を通して、HSK 3、4級レベルの読解力を高めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。 レベルチェック
2	HSK 3、4級閲読練習問題①	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ①の翻訳と解説
3	HSK 3、4級閲読練習問題②	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ②の翻訳と解説
4	HSK 3、4級閲読練習問題③	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ③の翻訳と解説
5	HSK 3、4級閲読練習問題④	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ④の翻訳と解説
6	HSK 3、4級閲読練習問題⑤	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑤の翻訳と解説
7	HSK 3、4級閲読練習問題⑥	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑥の翻訳と解説
8	HSK 3、4級閲読練習問題⑦	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑦の翻訳と解説
9	HSK 3、4級閲読練習問題⑧	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑧の翻訳と解説
10	HSK 3、4級閲読練習問題⑨	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑨の翻訳と解説
11	HSK 3、4級閲読練習問題⑩	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑩の翻訳と解説
12	HSK 3、4級閲読練習問題⑪	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑪の翻訳と解説
13	HSK 3、4級閲読練習問題⑫	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑫の翻訳と解説

14 総まとめ

まとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

学習態度 50%

宿題・確認テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

いっしょに楽しく中国語を読みましょう！

【Outline (in English)】

This class aims to improve students' ability to read Chinese texts through reading comprehension questions from the Chinese government-approved Chinese proficiency test, "HSK (Hanyu Shui Quao Shi)." In the spring semester, we will focus on reading comprehension questions at the HSK Level 3 and 4 level. We will begin by slowly reading short passages, prioritizing understanding vocabulary and grammar.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語講読B

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）を通し、中国語の文章を読む力を高めるための授業です。春学期はHSK 5、6級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。

【到達目標】

中国語の文章購読を通して、HSK 5、6級レベルの読解力を高めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。 レベルチェック
2	HSK 5、6級閲読練習問題①	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ①の翻訳と解説
3	HSK 5、6級閲読練習問題②	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ②の翻訳と解説
4	HSK 5、6級閲読練習問題③	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ③の翻訳と解説
5	HSK 5、6級閲読練習問題④	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ④の翻訳と解説
6	HSK 5、6級閲読練習問題⑤	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑤の翻訳と解説
7	HSK 5、6級閲読練習問題⑥	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑥の翻訳と解説
8	HSK 5、6級閲読練習問題⑦	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑦の翻訳と解説
9	HSK 5、6級閲読練習問題⑧	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑧の翻訳と解説
10	HSK 5、6級閲読練習問題⑨	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑨の翻訳と解説
11	HSK 5、6級閲読練習問題⑩	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑩の翻訳と解説
12	HSK 5、6級閲読練習問題⑪	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑪の翻訳と解説
13	HSK 5、6級閲読練習問題⑫	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑫の翻訳と解説

14 総まとめ

まとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

学習態度 50%

宿題・確認テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

いっしょに楽しく中国語を読みましょう！

【Outline (in English)】

This class aims to improve students' ability to read Chinese texts through reading comprehension questions from the Chinese government-approved Chinese proficiency test, "HSK (Hanyu Shui Quao Shi)." In the spring semester, we will focus on reading comprehension questions at the HSK Level 5 and 6 level. We will begin by slowly reading short passages, prioritizing understanding vocabulary and grammar.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

資格中国語中級 A

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、**HSK**（漢語水平考試）の3級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。**HSK**（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである3級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、**HSK3級**の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、**HSK3級**合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、**HSK3級**合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK3級**リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約20分]
- ②リスニング問題の解説 [約50分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約30分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3級リスニング対策①	HSK3級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と練習問題
3	HSK3級リスニング対策②	HSK3級リスニング問題の第二部分（6-10）の解説と練習問題
4	HSK3級リスニング対策③	HSK3級リスニング問題の第三部分（11-15）の解説と練習問題
5	HSK3級リスニング対策④	HSK3級リスニング問題の第四部分（16-20）の解説と練習問題
6	HSK3級リスニング対策⑤	HSK3級リスニング問題の第五部分（21-25）の解説と練習問題

7	HSK3級リスニング対策⑥	HSK3級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と練習問題
8	HSK3級リスニング対策⑦	HSK3級リスニング問題の第四部分（31-35）の解説と練習問題
9	HSK3級リスニング対策⑧	HSK3級リスニング問題の第四部分（36-40）の解説と練習問題
10	HSK3級読解対策①	HSK3級読解問題の第一部分（41-50）及び第二部分（51-55）の解説
11	HSK3級読解対策②	HSK3級読解問題の第二部分（56-60）及び第三部分（61-70）の解説
12	HSK3級作文対策	HSK3級作文問題（71-80）の解説
13	HSK3級模擬試験と解説	HSK3級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK**リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学生社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎〔改訂新版〕』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCまたはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
- ・予習（詳細は授業時に説明）していることを前提に授業を進める。
- ・**HSK**合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 3. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 3.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 3.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

資格中国語中級B

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、**HSK**（漢語水平考試）の4級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。**HSK**（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである4級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、**HSK4級**の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、**HSK4級**合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、**HSK4級**合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK4級**リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約20分]

②リスニング問題の解説 [約50分]

③各種練習問題を通じたトレーニング [約30分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4級リスニング対策①	HSK4級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と練習問題
3	HSK4級リスニング対策②	HSK4級リスニング問題の第二部分（6-10）の解説と練習問題
4	HSK4級リスニング対策③	HSK4級リスニング問題の第三部分（11-15）の解説と練習問題
5	HSK4級リスニング対策④	HSK4級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と練習問題
6	HSK4級リスニング対策⑤	HSK4級リスニング問題の第三部分（21-25）の解説と練習問題

7	HSK4級リスニング対策⑥	HSK4級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と練習問題
8	HSK4級リスニング対策⑦	HSK4級リスニング問題の第三部分（31-35）の解説と練習問題
9	HSK4級リスニング対策⑧	HSK4級リスニング問題の第三部分（36-40）の解説と練習問題
10	HSK4級リスニング対策⑨	HSK4級リスニング問題の第三部分（41-45）の解説と練習問題
11	HSK4級読解対策	HSK4級読解問題（46-85）の解説
12	HSK4級作文対策	HSK4級作文問題（86-100）の解説
13	HSK4級模擬試験と解説	HSK4級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK**リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCまたはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
- ・予習（詳細は授業時に説明）していることを前提に授業を進める。
- ・**HSK**合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 4. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 4.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 4.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

資格中国語上級 A

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の5級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】

過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル5に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK5級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
3	HSK5級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
4	HSK5級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
5	HSK5級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
6	HSK5級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
7	HSK5級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
8	HSK5級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
9	HSK5級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
10	HSK5級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説

11	HSK5級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説
12	HSK5級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説
13	HSK5級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説
14	総まとめ	まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

学習態度 50%

宿題と課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 5.

【Learning Objectives】

By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 5.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and learning attitude 40%

Homework completion 40%

Final exam 20%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

資格中国語上級B

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の6級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】

過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル6に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK6級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
3	HSK6級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
4	HSK6級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
5	HSK6級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
6	HSK6級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
7	HSK6級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
8	HSK6級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
9	HSK6級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
10	HSK6級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説

11	HSK6級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
12	HSK6級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
13	HSK6級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
14	総まとめ	まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

学習態度 50%

宿題と課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 6.

【Learning Objectives】

By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 6.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and learning attitude 40%

Homework completion 40%

Final exam 20%

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

第三外国語としてのスペイン語A 2017年度以降入学者

CARMEN GARCIA

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的知識を身につけ、自己紹介や、自分の生活について話すなどの単純な会話ができるようになることを目標とする。授業を通して、スペイン語の学習がスペイン語圏の人々の理解と、文化的な多様性の認識につながることに気づくことが重要である。

【到達目標】

スペイン語初心者のためのクラスで、基礎文法、語彙、表現を、ペアやグループでコミュニケーションするアクティビティを通じて学んでいく。スペイン語に慣れ、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランス良く身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面式です。

授業中、教師が文法のポイントを説明し、生徒は対応する演習を、オーディオ活動やペアワークを交えながら行います。積極的な授業への参加姿勢、教科書と辞書の必携。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	第1課	アルファベット、 発音、数字、クラスで使う表現、挨拶
3	第2課	主語になる人称代名詞、国籍を表すの性と数
4	第2課	職業を表す語、疑問詞1、指示詞1、個人情報
5	第3課	定冠詞と不定冠詞、所有詞、形容詞
6	第3課	動詞serと存在、位置を表すestar、スペインの都市
7	小テスト 第4課	数字（11-30）、時間
8	第4課	動詞の現在形、疑問詞2
9	第4課	曜日、スペインの若者の生活
10	第5課	指示詞2、所有形容詞、数字（30-100）、
11	第5課	動詞tener、人の記述、家族の紹介
12	第6課	hayとestarの用法、動詞ir、月と季節
13	第6課	ir a+不定詞、querer+不定詞、tener que+不定詞、理由と目的、旅のプラン
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。
予習が必要な場合は、授業中に指示する。予習の指示がない場合は、次の授業で扱う内容にざっと目を通しておく。

復習について、

○ 新たに学んだ文法事項など授業で扱った内容が完全に理解できたかを確認する。理解できていない内容がある場合は、次の授業で質問できるようにメモをしておく。

○ 新出、既習にかかわらず覚えていない語彙や表現の使い方を再確認し、すべて暗記する。

○ 授業で扱ったオーディオを教科書を見なくても理解できるよう復習する。

○ その他教員が指示した学習を行う。

【テキスト（教科書）】

フアン・カルロス・モヤノ・ロベス /カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ /廣康好美「いいね！ スペイン語1 コンパクト版」朝日出版社、2023年

【参考書】

高垣敏博編『ポケットプログレッシブ西和和辞典』小学館
「西和辞典」（小学館）「現代語辞典」（白水社）
プログレッシブ スペイン語辞典〈第2版〉カレッジエディション
小学館
松本 詢子、フィシア サン マテオ バルデタ「ボカブラリオ：アクティビティで身につくスペイン語基本語彙」三修社、2026年

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、試験（60％）から総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（LMS）を使用して、資料の配布や課題の提出を行う場合があります。

【その他の重要事項】

自動翻訳機や生成AIの使用は厳禁です。機械翻訳などを使用し、丸写しとみられるものは評価対象外とする。
フィードバックは授業中に行われます。

【Outline (in English)】

This class for beginners of Spanish teaches fundamental grammar, vocabulary, and expressions through activities involving communication in pairs and groups. Students become familiar with Spanish and develop the four skills of listening, speaking, reading, and writing in a balanced manner. The aim is to acquire basic knowledge of Spanish and become capable of simple conversations, such as introducing oneself and discussing one's life. It is important that students realise, through the course, that learning Spanish leads to an understanding of Spanish-speaking people and an awareness of cultural diversity.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria: 60% exams, 40%in-class contribution.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

第三外国語としてのスペイン語B 2017年度以降入学者

CARMEN GARCIA

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的知識を身につけ、自己紹介や、自分の生活について話すなどの単純な会話ができるようになることを目標とする。授業を通して、スペイン語の学習がスペイン語圏の人々の理解と、文化的な多様性の認識につながることに気づくことが重要である。

【到達目標】

スペイン語初心者のためのクラスで、基礎文法、語彙、表現を、ペアやグループでコミュニケーションするアクティビティを通じて学んでいく。スペイン語に慣れ、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランス良く身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面式です。

授業中、教師が文法のポイントを説明し、生徒は対応する演習を、オーディオ活動やペアワークを交えながら行います。

積極的な授業への参加姿勢、教科書と辞書の必携。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前置詞を伴う人称代名詞、動詞 gustar
3	第7課	動詞+形容詞、好み
4	第8課	不規則活用する動詞1、直接目的人称代名詞、数字1
4	第8課	色、不定語、買い物
5	第9課	不規則活用する動詞2、直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞
6	第9課	動詞 saber と poder、動詞 ser/ estar、レストラン、バル、カフェテリアで
7	小テスト	秋学期前半の学習事項に関する試験とふりかえり、
8	第10課	代名動詞
9	第10課	天気、日常生活、祭り行事
10	第11課	動詞 estar+形容詞（体調や気分、動詞 tener+名詞（感覚）
11	第11課	動詞 doler、形容詞、動詞、名詞の修飾語、接続詞、アドバイス、健康的な生活
12	第12課	過去の時表す表現、動詞 ir 点過去、
13	第12課	点過去規則活用、旅行、今年度の出来事
14	期末試験	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

予習が必要な場合は、授業中に指示する。予習の指示がない場合は、次の授業で扱う内容にざっと目を通しておく。

復習について、

○ 新たに学んだ文法事項など授業で扱った内容が完全に理解できたかを確認する。理解できていない内容がある場合は、次の授業で質問できるようにメモをしておく。

○ 新出、既習にかかわらず覚えていない語彙や表現の使い方を再確認し、すべて暗記する。

○ 授業で扱ったオーディオを教科書を見なくても理解できるよう復習する。

○ その他教員が指示した学習を行う。

【テキスト（教科書）】

フアン・カルロス・モヤノ・ロペス/カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ/廣康好美「いいね！ スペイン語1 コンパクト版」朝日出版社、2023年

【参考書】

高垣敏博編『ポケットプログレッシブ西和和辞典』小学館

「西和中辞典」（小学館）「現代語辞典」（白水社）

プログレッシブ スペイン語辞典〈第2版〉カレッジエディション 小学館

松本 詢子、フィシア サン マテオ バルデタ「ボカブラリオ：アクティビティで身につくスペイン語基本語彙」三修社、2026年

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、試験（60％）から総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（LMS）を使用して、資料の配布や課題の提出を行う場合があります。

【その他の重要事項】

自動翻訳機や生成AIの使用は厳禁です。機械翻訳などを使用し、丸写しとみられるものは評価対象外とする。

フィードバックは授業中に行われます。

【Outline (in English)】

This class for beginners of Spanish teaches fundamental grammar, vocabulary, and expressions through activities involving communication in pairs and groups. Students become familiar with Spanish and develop the four skills of listening, speaking, reading, and writing in a balanced manner.

The aim is to acquire basic knowledge of Spanish and become capable of simple conversations, such as introducing oneself and discussing one's life. It is important that students realise, through the course, that learning Spanish leads to an understanding of Spanish-speaking people and an awareness of cultural diversity.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria: 60% exams, 40% in-class contribution.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語上級A

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAスペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。受講生は、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化を理解することができるようになることが期待される。あわせて、時間の許すかぎり、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②スペイン語による簡単なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭で行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。
3	講読2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。

9	講読8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。
10	講読9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された教材を当日までに徹底的に読みこむ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容50%、ディスカッションへの参加姿勢25%、他の学生の発表の際の参加姿勢25%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語上級B

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAスペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。受講生は、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化を理解することができるようになることが期待される。あわせて、時間の許すかぎり、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②スペイン語による簡単なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を指名して解答を要求する。教師はそれについてアドバイスやコメントを行なう。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読1 ディスカッション (時事問題)	教員による授業。 テーマに関するディスカッション。
3	講読2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。

9	講読8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。
10	講読9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された教材を当日までに徹底的に読みこむ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容50%、ディスカッションへの参加姿勢25%、他の学生の発表の際の参加姿勢25%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生による主体的な参加を促しながら授業を進めます。

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。すべての授業は対面形式で行われます。

【到達目標】

スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通して頂くことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の紹介 花見	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	女性の15歳の誕生日のお祝い	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	日本の成人式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペイン語圏ののホラー物語	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	La llorona: 物語、音楽、映画	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	映画：ラ・ヨローナ	映画I
7	映画：ラ・ヨローナ	映画II リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペイン語圏の大統領 I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	スペイン語圏の大統領 II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

10	スペイン語圏のダンスI	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペイン語圏のダンスII	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	ファッション	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	古着	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通して頂くことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

辞書（電子辞書可）/Shogakukan DICcionario ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など → 60%
2. 期末のレポートと口頭試験に基づく点数 → 40%

【学生の意見等からの気づき】

対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】

In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.

Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.

Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.

Grading Criteria:

Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude, and active participation → 60%

Reports and oral exam at the end of the term → 40%

To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.

As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語コミュニケーション中 2017年度以降入学者
級B

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。

【到達目標】

スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化し、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回最初に仲間同士で10個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習などを行う。本授業には課題や小テストがあり。期末試験として「日本のクリスマスとお正月」についてスペイン語でレポートを提出してもらう。さらにその内容に関してのスペイン語での口頭試験もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	REFRANES Y EXPRESIONES MÁS USADO DEL MUNDO HISPANO I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	REFRANES Y EXPRESIONES MÁS USADO DEL MUNDO HISPANO II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	LOS GEOGLIFOS DE NAZCA	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	EL CAMINO DE SANTIAGO I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	EL CAMINO DE SANTIAGO II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	LA COCA NO ES COCAINA	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	EL MAIZ I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

8	EL MAIZ II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習 小テスト
9	LA PAPA	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	EL CHUÑO	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	EL CUY	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	LA COMIDA PERUANA I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	LA COMIDA PERUANA II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えることと仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

辞書（電子辞書可）/Shogakukan DICcionario ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】

- 1.授業内で指された時の返事に基づく点数。小テスト、又、授業での態度や積極的な参加度など → 60%
- 2.期末のレポートと口頭試験に基づく点数 → 40%

【学生の意見等からの気づき】

対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】

In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.

Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.

Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.

Grading Criteria:

Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude, midterm exam, and active participation → 60%

Reports and oral exam at the end of the term → 40%

To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.

As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。春学期は詩を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】

- (1) スペイン語圏の詩に関する基本的な理解を得る。
- (2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

スペイン語テキストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	ルベン・ダリーオとモデルニスモ	ルベン・ダリーオとその詩およびモデルニスモについて学ぶ。
3	「98年世代」の詩人たち	「98年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
4	「14年世代」から「27年世代」へ	「14年世代」と「27年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
5	スペイン内戦、抵抗、亡命	スペイン内戦期の詩について学ぶ。
6	フェデリーコ・ガルシア・ロルカ	フェデリーコ・ガルシア・ロルカとその詩について学ぶ。
7	フランコ体制下の詩	フランコ体制下の詩について学ぶ。
8	ポスト・フランコ期の詩	ポスト・フランコ期の詩について学ぶ。
9	パブロ・ネルーダ	パブロ・ネルーダとその詩について学ぶ。
10	ニカノール・パラ	ニカノール・パラとその詩について学ぶ。
11	レイナルド・アレーナスとキューバ革命	レイナルド・アレーナスとその詩およびキューバ革命について学ぶ。

12	ロケ・ダルトンと中米の動乱	ロケ・ダルトンとその詩および中米の動乱について学ぶ。
13	ホルヘ・ルイス・ボルヘスの詩論	ホルヘ・ルイス・ボルヘスとその詩論について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、各回で扱う予定のテキストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：100%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- この授業ではスペイン語テキストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（1年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前に担当教員へ相談を寄せていただきたい。

- 履修希望者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨を初回授業の前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。秋学期は歌（歌詞）を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】

- (1) スペイン語圏の歌に関する基本的な理解を得る。
- (2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

スペイン語テキストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	国歌と「国民的」歌謡曲	スペイン語圏の国歌と「国民的」とされる歌謡曲について学ぶ。
3	カンテ・フラメンコとその系譜	カンテ・フラメンコとその系譜について学ぶ。
4	「ラテン」音楽の諸相	ラテン音楽と総称される音楽ジャンルの多様性について学ぶ。
5	タンゴとタンゴ・オペリータ	タンゴとタンゴ・オペリータについて学ぶ。
6	ビオレータ・パラ	ビオレータ・パラとその歌について学ぶ。
7	ピクトル・ハラ	ピクトル・ハラとその歌について学ぶ。
8	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国の関係について楽曲とその歌詞から学ぶ。
9	ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ	映画『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』とその楽曲について学ぶ。
10	ヒスパニック社会とサルサ	米国のヒスパニック社会とサルサについて学ぶ。
11	ウィリー・コロソ	ウィリー・コロソとその歌について学ぶ。

12	ルベン・ブラーデス	ルベン・ブラーデスとその歌について学ぶ。
13	カバー曲における翻訳と翻案	カバー曲における翻訳と翻案について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、各回で扱う予定のテキストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：100%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- この授業ではスペイン語テキストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（1年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前担当教員へ相談を寄せていただきたい。

- 履修希望者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨を初回授業の前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語講読A

2017年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧な復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法（学期終了までに、およそ接続法現在まで）の理解を深めながら、辞書を引きつつ短い読み物を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれた短い読み物を、語彙、文法、表現等に注目しながら読み解いていく。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	1課 文法復習	教科書第1課の文法復習 (直説法現在形、serとestar、estarとhay、現在分詞など)
3	2課 文法復習	教科書第2課の文法復習 (再帰動詞など)
4	2課 読解	教科書第2課の本文読解
5	3課 文法復習	教科書第3課の文法復習 (直説法現在完了、直説法過去など)
6	4課 文法復習	教科書第4課の文法復習 (直説法線過去など)
7	4課 読解	教科書第4課の本文読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	5課 文法復習	教科書第5課の文法復習 (直説法過去完了、受身表現など)
10	6課 文法復習	教科書第6課の文法復習 (直説法未来、直説法過去未来など)
11	6課 読解	教科書第6課の本文読解
12	7課 文法復習	教科書第7課の文法復習 (関係詞など)
13	8課 文法復習	教科書第8課の文法復習
	8課 読解	(接続法現在など) 教科書第8課の本文読解

14 試験・まとめと解説 今学期の期末テストを実施
まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

二宮哲『一歩進んだスペイン語-中級スペイン語-』同学社、2016年、ISBN: 978-4-8102-0430-8

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間テスト30%、期末テスト40%として総合的に評価する。

なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

文法をしっかりと復習しながら読解を進めるので、既習文法の理解に自信が無い場合も心配しないほしい。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語講読B

2017年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、スペイン語で書かれたある程度の長さの映画脚本を読解できるようになる。またこれを通じ、スペイン語圏の文化に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、現代スペイン映画の巨匠ペドロ・アルモドバル（Pedro Almodóvar）監督の代表作の一つである『オール・アバウト・マイ・マザー』（原題: Todo sobre mi madre、1999年）のスペイン語脚本を、一学期間をかけて丁寧に読み解いていく。

問題の箇所が日本語の字幕ではどのように表現されているかを適宜確認しながら、翻訳という営みの奥深さにも触れていく。

現代劇なので崩れた言い回しや俗語等が多用されているが、それらを通じて生きた現代スペイン語に親しむ。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	シーン0～11	シーン0から11までの読解
3	シーン12～23	シーン12から23までの読解
4	シーン24～35	シーン24から35までの読解
5	シーン36～47	シーン36から47までの読解
6	シーン48～59	シーン48から59までの読解
7	シーン60～71	シーン60から71までの読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	シーン72～83	シーン72から83までの読解
10	シーン84～95	シーン84から95までの読解
11	シーン96～107	シーン96から107までの読解
12	シーン108～119	シーン108から119までの読解
13	シーン120～122	シーン120から最後まで読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回読解する箇所の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間テスト30%、期末テスト40%として総合的に評価する。

なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】

1学期間でテキスト全体を読み通すことを無理に目指さず、履修生の理解度を確認しつつ進める。

【その他の重要事項】

春学期開講の「スペイン語講読A」において学習した内容を踏まえて授業を進めることも多いため、同科目と合わせて履修を推奨する。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading a movie script written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read long conversation texts in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語コミュニケーションⅠ 2017年度以降入学者

J E N S O S T W A L D

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 自己紹介 (簡単な表現・会話)	Einführung Zur Person (einfache Redemittel, Übungen)
②	自己紹介 (ほかの表現・練習)	Zur Person (weitere Redemittel, Übungen)
③	趣味 (簡単な表現・会話)	Hobbys (einfache Redemittel, Übungen)
④	趣味 (ほかの表現・練習)	Hobbys (weitere Redemittel, Übungen)
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物 (簡単な表現・会話)	Essen & Trinken (einfache Redemittel, Übungen)
⑦	食べ物・飲み物 (ほかの表現・練習)	Essen & Trinken (weitere Redemittel, Übungen)
⑧	総復習	Wiederholung (Wortschatz, Grammatik, Redemittel)
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付 (簡単な表現・会話)	Uhrzeit und Datum (einfache Redemittel, Übungen)

⑪	時刻と日付 (ほかの表現・練習)	Uhrzeit und Datum (weitere Redemittel, Übungen)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	練習	Übungen zur Wiederholung
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）
本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト/レポート 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合にはZoomで接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

J E N S O S T W A L D

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語 1 道を尋ねる (簡単な表現)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - einfache Redemittel)
④	旅行のためのドイツ語 2 道を尋ねる (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - weitere Redemittel, Übungen)
⑤	旅行のためのドイツ語 3 ホテルで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Hotel - einfache Redemittel)
⑥	旅行のためのドイツ語 4 ホテルで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Hotel - weitere Redemittel, Übungen)
⑦	旅行のためのドイツ語 5 レストランで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Restaurant - einfache Redemittel)

⑧	旅行のためのドイツ語 6 レストランで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Restaurant - weitere Redemittel, Übungen)
⑨	旅行のためのドイツ語 7 駅にて (簡単な表現)	Reisedeutsch (Verkehr - einfache Redemittel)
⑩	旅行のためのドイツ語 8 駅にて (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Verkehr - weitere Redemittel, Übungen)
⑪	旅行のためのドイツ語 9	Reisedeutsch (Reiseziele)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	復習	Übungen zur Wiederholung
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）

本授業の準備・復習時間は、計 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト/レポート 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語表現法 I 2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで。

基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書く。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともありますが、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書く I 辞書の使い方 I
2.	Sich vorstellen du oder Sie Zahlen bis 20 W-Fragen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	Meine Stadt beschreiben	方位と場所

4.	Mein Alltag	日常 時間を表す
5.	Tagesablauf	助動詞
6.	Hobby und Freizeit	分離動詞
7.	Freizeitangebote in der Stadt	場所と時間を表す
8.	Lieblingsdinge beschreiben	好きな「もの」を紹介する 冠詞と代名詞
9.	作文作成 2	発表
10.	Essen und Trinken	食生活についてと好み
11.	Im Restaurant	レストランのメニューと注文
12.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
13.	Vor den Ferien I	不規則動詞 話法の助動詞
14.	Vor den Ferien II	休暇中の予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。予習はテキストを事前に読む、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）
提出してもらうドイツ語の作文（50%）
を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要です。電子辞書可。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50%) and written homework (50%).

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語表現法Ⅱ 2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書く。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業内または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Wohnen in der Stadt oder auf dem Land ?	理由を表す
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Feste feiern	複文
8.	An der Universität	大学について書く

9.	Meine Universität 1	グループワーク：大学紹介を書く
10.	Meine Universität 2	グループワーク発表
11.	Eine Reise planen	旅行計画
12.	Sehenswürdigkeiten vorstellen	観光名所の紹介文を書く
13.	Erlebnisse und Erfahrungen 1	過去形 私の人生
14.	Erlebnisse und Erfahrungen 2	プレゼンテーション発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。

予習は事前にテキストを読む、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）

提出してもらったドイツ語の作文（50%）

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要。電子辞書可。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50 %) and written homework (50 %)

LANd200LA（ドイツ語 / German language education 200）

SDGsで学ぶドイツ語Ⅰ 2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2
 単位数：1単位
 定員制(30)
 2021年度までに「時事ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では
 ・近年の（まだ教科書にはならない）ドイツ語についての文章と例文を検討することを通じて
 ・言語に文法的に埋め込まれた性意識について考えることを目的とします。

【到達目標】

この授業では
 ・アクチュアルなドイツ語について、簡単なドイツ語の文章を読むことができる
 ・言語が社会に埋め込まれていることを考えることができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

内容としては、ドイツ語の名詞の性とジェンダーの問題の関係について議論した文章をドイツ語で精読します。
 担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初學者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今学期の授業のテーマの解説
第2回	文法性と生物性について	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第3回	文法性と生物性について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第4回	文法性と生物性について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第5回	男性代表形について	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第6回	男性代表形について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第7回	男性代表形について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第8回	ジェンダーの星について	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第9回	ジェンダーの星について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第10回	ジェンダーの星について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第11回	どのようにフェアに言葉を使うか	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第12回	どのようにフェアに言葉を使うか（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第13回	どのようにフェアに言葉を使うか（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第14回	まとめ	今学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を中心に学習してください。
 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christine Olderdissen, Genderleicht: Wie Sprache für alle elegant gelingt (Berlin: Duden, 2021).

読む箇所のテキストはコピーして配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。
 独和辞典を所有していない方は、
 『アクセス独和辞典』（三修社）
 『大独和辞典』（小学館）
 などを入手してください。
 文法書を所有していない人は、
 中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）
 などを持参してください。
 その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワーク接続ができ、Zoomが使えるPCまたはタブレット、および、オンライン会議に使えるカメラとマイク

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。
 オンラインで開講します。カメラをオンにして参加すること、および、指名された場合に口頭で回答することを出席の条件（平常点採点の対象）とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will consider how the German language is embedded in society by reading recent texts on the language.

【Learning Objectives】

The goal of this course will be to read actual and easy texts on the German language in German, as well as to think/discuss the societal issues surrounding the language.

【Learning activities outside of the classroom】

This course requires 1 hour of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ドイツ語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 ドイツ語圏クイズ
2.	ドイツ語圏の世界 1	地理,言語,文化～政治、経済まで
3.	ドイツ語圏の世界 2	ドイツ語圏の映画史入門
4.	文学	ドイツ文学と言えばゲーテ？ 映画：ゲーテの恋 ～君に捧ぐ 「若きウェルテルの悩み」 Goethe! (2010) ディスカッション
5.	音楽	クラシック音楽の世界 Amadeusからクララ・シューマンまで
6.	オーストリア	Sissiとミュージカル「エリザベート」 サウンド・オブ・ミュージック
7.	スイスと日本	映画：ハイジ アルプスの物語 Heidi (2015) ハイジ in Japan
8.	映画鑑賞	作品未定

9.	戦争映画I 第一次世界大戦	西部戦線異状なし(1930) 戦場のアリア (2005) ディスカッション
10.	ドイツと日本	ベートーヴェンの「第九」 プレゼンテーション 映画：バルトの楽園 (2006)
11.	映画の中のヒトラー I	ヒトラーと女性 ドキュメンタリー映画 レニ Die Macht der Bilder: Leni Riefenstahl (1993)
12.	映画の中のヒトラー II	ヒトラーに対する抵抗 映画：白バラの祈り ゴッティ・ ショル、最期の日々(2004)
13.	映画鑑賞	作品未定
14.	まとめ	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文献を事前に読む。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）
 - ・映画鑑賞
 - ・自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成
- 本授業の準備学習・復習時間は、計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを配布

【参考書】

- ・森井 裕一 (著, 編) 『ドイツの歴史を知るための50章』(エリア・スタディーズ151)
- ・宮田真治・島山寛・濱中春 (編著) 『ドイツ文化55のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子 (編) 『知ってほしい国 ドイツ』
- ・スイス文学研究会 (編) 『スイスを知るための60章』(エリア・スタディーズ128)
- ・広瀬 佳一編著, 今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための57章【第2版】(エリア・スタディーズ19)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read reference material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ドイツ語の世界 L B 2017年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探究していきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	戦後の東西ドイツ	サッカーを通してみる戦後ドイツ：『ベルンの奇跡』（2003）『僕たちは希望という名の列車に乗った』（2018）
2.	60年代の東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで『トンネル』Der Tunnel (2001)
3.	70年代の西ドイツ	極左のテロリズム『バーダー・マインホフ/理想の果てに』Der Baader Meinhof Komplex (2008)
4.	東ドイツ	東ドイツの秘密警察 (Stasi) 『善き人のためのソナタ』 Das Leben der Anderen (2006) 『グンダーマン 優しき裏切り者の歌』 Gundermann (2018) 『東ベルリンから来た女』（2012）

5.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊『グッバイ、レーニン!』Good Bye Lenin (2003) プレゼンテーション ディスカッション
6.	芸術	『Pina/ピナ・バウシュ』 踊り続けるいのち
7.	青春	児童文学の映画化 映画：『飛ぶ教室』『2003』『50年後のボクたちは』Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション
8.	ヒトラーについて笑っているのか？	ヒトラーについて笑っているのか？『帰ってきたヒトラー』Er ist wieder da! (2015) プレゼンテーション ディスカッション
9.	ドイツ極右組織	ドイツ極右組織NSU『女は二度決断する』Aus dem Nichts (2017) プレゼンテーション ディスカッション
10.	ドイツ極右組織	映画鑑賞
11.	ドイツ以外のドイツ語圏の映画	スイス映画・オーストリア映画と映画祭
12.	移民国ドイツ	難民問題
13.	移民国ドイツ	映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016) プレゼンテーション ディスカッション
14.	まとめ	プレゼンテーション ディスカッション 映画鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文献を事前に読む（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）

・映画鑑賞

本授業の準備学習・復習時間は、計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを配布

【参考書】

- ・森井裕一（著、編集）『ドイツの歴史を知るための 50 章』（エリア・スタディーズ 151）
- ・宮田真治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』
- ・スイス文学研究会（編）『スイスを知るための 60 章』（エリア・スタディーズ 128）
- ・広瀬 佳一編著、今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための 57 章【第 2 版】（エリア・スタディーズ 19）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません。「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society.

The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSA200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ」や「ドイツ語圏」と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか？

本授業ではドイツやドイツ語圏についてトピックをとりあげ、少し深く考えてみたいと思います。

ドイツ語の学習は前提としません。

【到達目標】

ドイツ語圏に関する様々なテーマを見ることで、社会や歴史について理解し、今後探求していく糸口を見つけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合ってもらったこともありますが、積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ドイツとドイツ語圏について。
第2回	ドイツ語の歴史と多様性	ドイツ語が成立した歴史や地域的な違いを見ます。英語の知識が役に立つかもしれません。
第3回	ビール	ビールの歴史と現状について。
第4回	ドイツの環境政策	ドイツの環境政策について。
第5回	ドイツの交通政策	トラムや電気自動車、アウトバーンなど交通政策について。
第6回	ドイツの鉄道	ドイツの鉄道の歴史と現在について。
第7回	自動車産業から見るドイツ経済	ドイツ経済について、自動車産業から。
第8回	ドイツの教育制度	マイスター制度など、日本とは異なる教育制度について。
第9回	東ドイツ	かつて存在した東ドイツ（ドイツ民主共和国）やベルリンの壁について。
第10回	ドイツの歴史教育	過去をどう扱うのかについて。
第11回	多様化するドイツ	移民の歴史と現在、統合政策について。
第12回	オーストリアとウィーン	カフェ文化など独自の文化を形成するオーストリアの首都ウィーンについて。

第13回	日本の中のドイツ、ドイツの中の日本	ハリボー、バウムクーヘン、アニメ文化等、日本にあるドイツ語やドイツ語圏の文化、ドイツ（語圏）にある日本の文化について。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習：次回のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしておいてください。こちらから尋ねることもあります。

復習：ハンドアウトとノートを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探して調べてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加 50 %、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生が意見を述べやすいようにつとめます。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン以外にPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】

授業中は話を聞き、ノートをとるようにしてください。

春学期と秋学期は独立して履修できます。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course introduces and explores topics about Germany and the German-speaking world.

Students do not need to learn German to take this course.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students will develop an understanding of the society, culture and history of the German-speaking world.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation 50%

Final report 50%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現在のドイツ以外で、ドイツ語が／ドイツ語も使われる／使われた地域の歴史や文化について扱います。言語の話も出ますが、ドイツ語の知識は不要です。

【到達目標】

ドイツ語圏の文化や社会、人々の多様性について理解を深めます。日本社会への気づきにもつなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合っているだけでもあるかともあるかとも思います。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業で扱うテーマについて概観します。
第2回	オーストリアの歴史	オーストリアの現代史を中心に扱います。ハプスブルク帝国に遡ることもあります。
第3回	オーストリアの現代史と現在	オーストリアの現代史と現在のオーストリアの社会や文化を扱います。
第4回	スイスの歴史	多言語国家であり永世中立国であるスイスがどのように成立したのかを見ます。
第5回	スイスの現代史と現在	スイスの現代史と現在のスイス社会を考えます。
第6回	ベルギーの歴史	ベルギーの歴史を扱います（ベルギーには小さなドイツ語共同体があります）。
第7回	ベルギーの現代史と現在	ベルギーの現代史を扱いながら、EUの中心地でありながら今日でも言語問題でゆれるベルギーの今を考えます。
第8回	ルクセンブルクの歴史	GDPが世界トップクラスである小国ルクセンブルクの歴史を扱います。
第9回	多様化するルクセンブルク	多言語社会・移民社会となった今日のルクセンブルクについて考えます。

第10回	アルザス・ロレーヌの歴史	ドイツなのかフランスなのか、帰属をめぐってゆれたフランス東部のアルザス地方・ロレーヌ地方の歴史について扱います。
第11回	アルザス・ロレーヌ（言語）	アルザス・ロレーヌについて、特に言語問題に焦点を当てます。
第12回	ドイツ騎士団と東プロイセン	かつて東に移住したドイツ系住民の歴史を扱います。
第13回	アメリカ合衆国のドイツ系住民	かつて、ドイツ語圏からは多くの人々がアメリカに移住しました。今日にも残る移民の歴史を扱います。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習：次のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしたり、インターネット等で検索してください。授業中にこちらから尋ねることもあります。
復習：ノートを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探してみてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しません。

【参考書】

授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加50%、期末レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生が意見を述べやすいようにとめます。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンだけでなくPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】

授業中は話をよく聞き、ノートをとるようにしてください。
春学期と秋学期は独立して履修できます。春学期に履修した人も履修しなかった人も積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course focuses on the history and culture of the regions where German is also used or where it was used.

【到達目標（Learning Objectives）】

In this course, students deepen their understanding of the diversity of cultures, societies and people in German-speaking areas.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation 50%

Final report 50%

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランス語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル:

廣松 勲

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水4/Wed.4

単位数: 2単位

定員制 (40)

その他属性: <他> <優>

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏 (フランコフォニー)」を知ることを主たる目的とします。そのような (フランス共和国を含めた) 広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化 (言語、芸術、習慣、食生活など) が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土にある「地域圏」を中心として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー (フランス語圏) の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

授業ではコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてももらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

提出されたコメントシートについて、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション : 国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	① Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
3	② Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など

4	③ Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
5	④ Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤ Grand-Est	・グラン・テスト地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥ Pays de la Loire	・ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦ Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァル・ド・ロワール地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧ Bourgogne-Franche Comté	・ブルゴーニュ＝フランシュ・コンテ地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨ Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩ Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ・アルプ地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
12	⑪ Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫ Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地域圏 (PACA) に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬ Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説: 地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告: 世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文 (場合によっては各地域圏サイト) を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
 - 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
 - 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい (或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。)
 - 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点 (特に引用の仕方、参考文献の書き方) について確りと学習しておいて欲しい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
- 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018年。本体2600円＋税
- 2) ジャック・レヴィ編 (土居佳代子訳)『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018年。本体2800円＋税
- 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著 (立花英裕監修・中尾ゆかり訳)『フランス語のはなし: もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008年。本体2400円＋税
- 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語: フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。本体3400円＋税
- II. 以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
- 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス、地方を巡る旅)』駿河台出版社、2017年。本体1900円＋税

6) 小松祐子, Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅：改訂版)』駿河台出版社, 2019年. 本体2300円＋税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

①平常点（コメントシートなど）：30%

②期末レポート：70%

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%,
term-end report: 70%.

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランス語の世界 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏（フランコフォニー）」を知ることを主たる目的とします。そのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化（言語、芸術、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてももらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	カリブ海域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ海域の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域研に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス語圏① Algérie	・マグリブ中央部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス語圏② Maroc et Tunisie	・マグリブ西部および東部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領およびベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧ベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパのフランス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス語圏② Suisse まとめ	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
- 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
- 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018年。本体2600円＋税
- 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018年。本体2800円＋税
- 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008年。本体2400円＋税
- 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。本体3400円＋税

II. 以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。

5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス, 地方を巡る旅)』駿河台出版社, 2017年. 本体1900円+税

6) 小松祐子, Gilles Delmaire 著『Destination francophonie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅: 改訂版)』駿河台出版社, 2019年. 本体2300円+税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

①平常点(コメントシート等): 30%

②期末レポート: 70%

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会的・文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%,
term-end report: 70%.

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

フランス語コミュニケーション(初級) | 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。ヨーロッパ言語共通参照枠のDELF A1と仏検5級と4級の準備に役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の各単元は、簡単な会話の聞き取り練習から始まります。その後、コミュニケーションを重視した語彙や文法の練習を行います。そして、教科書で学習した内容を活用して会話を作成します。練習問題は、個人、ペア、またはグループで行います。教科書に加えてビデオ教材を取り入れ、フランス文化を紹介します。ビデオに関連した短文を音読し、発音などの練習も行います。また、時々ボードゲームなどを用いて、フランス語を使いながら楽しく学習します。

授業には、積極的に参加することが求められる。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 1 Saluer, se présenter	アルファベット、不定冠詞、自己紹介
2	Leçon 1 Saluer, se présenter	être 動詞、第三者を紹介する
3	Leçon 2 Dire sa nationalité, dire sa profession	国籍を言う、職業を言う
4	Leçon 2 Dire sa nationalité, dire sa profession	女性形の作り方, 数字10まで
5	Leçon 3 "Je parle anglais.", "J'étudie les maths."	定冠詞 le, la, les, 名前の複数形
6	Leçon 3 "Je parle anglais.", "J'étudie les maths."	言語を言う、専攻について話す
7	Leçon 4 Dire où on habite	住んでいる国や都市を言う
8	Leçon 4 Dire où on habite	否定形 ne...pas、数字11～20

9	Leçon 5 "J'ai une moto.", "J'ai 18 ans."	持ち物を言う、年齢を言う
10	Leçon 5 "J'ai une moto.", "J'ai 18 ans."	il y a, 不定冠詞, 数字20～60
11	Leçon 6 "Je vais au cinéma.", Parlez des tâches ménagères	faire, aller 動詞
12	Leçon 6 "Je vais au cinéma.", Parlez des tâches ménagères	前置詞àと定冠詞の縮約
13	総復習、文化の紹介	フランスの世界遺産を簡単なフランス語の動画での紹介など
14	文化の紹介	人気フランス映画、最近の人気歌手など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プチ・マエストロ 1

北村亜矢子 /ヴァンサン・デュランベルジェ

朝日出版社

ISBN: 978-4-255-35372-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- In-class contribution and participation: 100%

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

フランス語コミュニケーション(初級) II 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。ヨーロッパ言語共通参照枠のDELF A1と仏検5級と4級の準備に役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の各単元は、簡単な会話の聞き取り練習から始まります。その後、コミュニケーションを重視した語彙や文法の練習を行います。そして、教科書で学習した内容を活用して会話を作成します。練習問題は、個人、ペア、またはグループで行います。教科書に加えてビデオ教材を取り入れ、フランス文化を紹介します。ビデオに関連した短文を音読し、発音などの練習も行います。また、時々ボードゲームなどを用いて、フランス語を使いながら楽しく学習します。

授業には、積極的に参加することが求められる。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 7 Décrire quelqu'un ou quelque chose	人や物を描写する、位置を言う
2	Leçon 7 Décrire quelqu'un ou quelque chose	色、体型、性格を表す形容詞、数字 60 99
3	Leçon 8 Acheter des vêtements	衣服の名称、指示形容詞 ce, cette, ces
4	Leçon 8 Acheter des vêtements	時刻、動詞 vouloir, prendre
5	Leçon 9 Au marché : acheter des fruits et légumesParler de sa chambre	食べ物について話す、数量を表す表現
6	Leçon 9 Au marché : acheter des fruits et légumesParler de sa chambre	部分監視 du, de la 中性代名詞 en

7	Leçon 10 Où est ... ? La localisation, parler du temps qu'il fait	位置関係を表す表現
8	Leçon 10 Où est ... ? La localisation, parler du temps qu'il fait	天気を表す表現 数字 1000-10 000
9	Leçon 11 Poser des questions et parler des son emploi du temps	質問の作り方、近接未来
10	Leçon 11 Poser des questions et parler des son emploi du temps	動詞 partir、月
11	Leçon 12 Parler d'événements passés	過去の行為や出来事を語る
12	Leçon 12 Parler d'événements passés	過去分子の作りから、複合過去形の作り方
13	総復習	すごろく、ボードゲームなどで楽しくフランス語を使う。
14	文化の紹介	フランスの歴史的な人物：簡単なフランス語の動画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プチ・マエストロ 1

北村亜矢子 /ヴァンサン・デュランベルジェ

朝日出版社

ISBN: 978-4-255-35372-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活をもっと話します。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- In class contribution and participation:100%

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

フランス語視聴覚(初・中級) I 2017年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制(30)

本科目は2026年度の開講をもって、2027年度以降開講します。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語のインタビュー映像を主題にした教科書『Quoi de Neuf?』を用いて、主にフランス語の聞く力・読む力・書く力をつけることを目的とします。受講者はフランス語既習者であり、また仏検4級～3級程度、またはDELF A1～A2程度の知識を持っている学生を想定しています。既習事項の基礎を確りと固めると同時に、運用能力を高めて、フランス語力を向上することを目指します。

なお、春学期の授業では、教科書の第1課～第5課までを扱い、1課につき2回の授業で終わります。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。

【到達目標】

フランス人に対するインタビュー映像を見聞きした上で、その内容を理解することができるようになる。加えて、関連する文章を読み解く・理解した上で、フランス語の文法事項を修得するだけでなく、文章構成の方法（接続表現など）を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

春学期の授業では、教科書の第1課～第5課までを扱い、1課につき2回の授業で終わります。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。

なお、課題はHoppii上での提出をしてもらいます。ただし、時には実際に手で記載したものを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Les Nombres Leçon 1: Quels réseaux sociaux utilisez-vous ?①	・自己紹介、教科書・副教材の紹介 ・数の数え方 ・第1課の前半（疑問文、代名動詞）
2	Leçon 1: Quels réseaux sociaux utilisez-vous ?②	・第1課の後半
3	Leçon 2: Où habitez-vous en ce moment ?①	・第2課の前半（関係代名詞）
4	Leçon 2: Où habitez-vous en ce moment ?②	・第2課の後半
5	Leçon 3: Que faites-vous au quotidien pour la planète ?①	・第3課の前半（比較級、最上級）

6	Leçon 3: Que faites-vous au quotidien pour la planète ?②	・第3課の後半
7	Leçon 4: Que regardez-vous et qu'écoutez-vous en ce moment ?①	・第4課の前半（直接・間接目的代名詞と代名詞en, y）
8	Leçon 4: Que regardez-vous et qu'écoutez-vous en ce moment ?②	・第4課の後半
9	Leçon 5: Quel est votre budget mensuel ?①	・第5課の前半（複合過去、半過去）
10	Leçon 5: Quel est votre budget mensuel ?②	・第5課の後半
11	追加教材①：音楽	・楽曲を聞き、特徴的なフランス語表現を理解する。
12	追加教材②：映画	・映像作品を見て、特徴的なフランス語表現を理解する。
13	追加教材③：文学	・文学作品を読み、特徴的なフランス語表現を理解する。
14	期末テスト	・授業内テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
・授業で扱う範囲のテキストを1回は音読し、文章の主語・動詞に下線を引いてから参加することを心がけましょう。

【テキスト（教科書）】

レナ・ジュンタ他著『Quoi de neuf? / クワ・ドゥ・ヌフ? Z世代のリアル・フランス』白水社、2023年 (<https://www.hakusuisha.co.jp/book/b613785.html>).

※上記サイトではサンプルページを閲覧でき、また音声資料を聞くことができます。

【参考書】

副教材として、以下の2点を挙げます。

①斎藤昌三著『3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』白水社、2003年 (<https://www.hakusuisha.co.jp/book/b203078.html>).

②モーリス・ジャケ他著『映像+Interviewで学ぶフランス語』駿河台出版社、2024年 (<https://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-00580-9>).

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、課題など）：40%

期末テスト：60%

【学生の意見等からの気づき】

初回担当であるため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

できるだけ「仏和辞書」を持参してほしいです。

【Outline (in English)】

OUTLINE AND GOALS :

Using the textbook "Quoi de Neuf?" (which features French interview videos as its main content), this course aims primarily to develop students' French listening, reading, and writing skills. The course is intended for students who have previously studied French and who possess knowledge equivalent to Level 4-3 of the French Proficiency Test (Futsuken) or DELF A1-A2. While reinforcing the fundamentals of previously learned material, students will also work to strengthen their communicative competence and improve their overall French proficiency.

In the spring semester, the course will cover Lessons 1 through 5 of the textbook, completing each lesson in two class sessions. The remaining three sessions will be based on materials prepared by the instructor. A final exam will be administered in the last class.

PREPARATION :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.

GRADING CRITERIA :

Normal score: 30% (presence, participation and homework),
final exam: 70%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語視聴覚(初・中級) II 2017年度以降入学者

南 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制(30)

本科目は2026年度の開講をもって、2027年度以降閉講します。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語のインタビュー映像を主題にした教科書『Quoi de Neuf?』を用いて、主にフランス語の聞く力・読む力・書く力をつけることを目的とします。受講者はフランス語既習者であり、また仏検3～4級程度、またはDELF A1～A2程度の知識を持っている学生を想定しています。既習事項の基礎を確りと固めると同時に、運用能力を高めて、フランス語力を向上することを目指します。

なお、秋学期の授業では、教科書の第6課～第10課までを扱い、原則として1課につき2回の授業で終えます。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。

【到達目標】

フランス人に対するインタビュー映像を見聞きした上で、その内容を理解することができるようになる。加えて、関連する文章を読解・理解した上で、フランス語の文法事項を修得するだけでなく、文章構成の方法（接続表現など）を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では、教科書の第6課～第10課までを扱い、原則として1課につき2回の授業で終えます。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。

なお、課題はHoppii上での提出をしてもらいます。ただし、時には実際に手で記載したものを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 6: Ressentez-vous de la discrimination dans la vie quotidienne ? ①	・受動態
2	Leçon 6: Ressentez-vous de la discrimination dans la vie quotidienne ? ②	・第6課の後半
3	Leçon 7: Que faites-vous de votre temps libre ? ①	・第7課の前半（現在分詞・ジェロンディフ）
4	Leçon 7: Que faites-vous de votre temps libre ? ②	・第7課の後半

5	Leçon 8: Quel est le dernier article de mode que vous avez acheté ? ①	・第8課の前半（単純未来形・強調構文）
6	Leçon 8: Quel est le dernier article de mode que vous avez acheté ? ②	・第8課の後半
7	Leçon 9: Qu'est-ce qui est le plus important chez un partenaire ? ①	・第9課の前半（条件法現在・中性代名詞）
8	Leçon 9: Qu'est-ce qui est le plus important chez un partenaire ? ②	・第9課の後半
9	Leçon 10: Quel est le travail idéal pour vous ? ①	・第10課の前半（指示代名詞・接続法現在）
10	Leçon 10: Quel est le travail idéal pour vous ? ②	・第10課の後半
11	追加教材①：音楽	・楽曲を聞き、特徴的なフランス語表現を理解する。
12	追加教材②：映画	・映像作品を見て、特徴的なフランス語表現を理解する。
13	追加教材③：文学	・文学作品を読み、特徴的なフランス語表現を理解する。
14	期末テスト	・授業内テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。授業で扱う範囲のテキストを1回は音読し、文章の主語・動詞に下線を引いてから参加することを心がけましょう。

【テキスト（教科書）】

レナ・ジュンタ他著『Quoi de neuf? / クワ・ドゥ・ヌフ? Z世代のリアル・フランス』白水社、2023年 (<https://www.hakusuisha.co.jp/book/b613785.html>)。

※上記サイトではサンプルページを閲覧でき、また音声資料を聞くことができます。

【参考書】

副教材として、以下の2点を挙げます。

- ①斎藤昌三著『3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』白水社、2003年 (<https://www.hakusuisha.co.jp/book/b203078.html>)。
- ②モーリス・ジャケ他著『映像+Interviewで学ぶフランス語』駿河台出版社、2024年 (<https://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-00580-9>)。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、課題など）：40%

期末テスト：60%

を基本とします。

（公欠・感染症・大学による配慮願がある場合を除き、遅刻・欠席による教室不在時間が400分を超えた場合は、学期末試験を受けたとしても原則として単位を出すことはできません。）

【学生の意見等からの気づき】

初回担当であるため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

できるだけ「仏和辞書」を持参しましょう。

【Outline (in English)】

OUTLINE AND GOALS :

Using the textbook "Quoi de Neuf?" (which features French interview videos as its main content), this course aims primarily to develop students' French listening, reading, and writing skills. The course is intended for students who have previously studied French and who possess knowledge equivalent to Level 3-4 of the French Proficiency Test (Futsuken) or DELF A1-A2. While reinforcing the fundamentals of previously learned material, students will also work to strengthen their communicative competence and improve their overall French proficiency.

In the fall semester, the course will cover Lessons 6 through 10 of the textbook, completing each lesson in two class sessions. The remaining three sessions will be based on materials prepared by the instructor. A final exam will be administered in the last class.

PREPARATION :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.

GRADING CRITERIA :

Normal score: 40% (presence, participation and homework),
final exam: 60%

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

時事フランス語 I

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目「時事フランス語 I」を紹介するヴィジュアル資料です <https://x.gd/JEXrY> (PDFスライド、学内者のみ閲覧できます) この科目「時事フランス語 I」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト (TV5Monde や Radio France Internationale) で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/0NmZ4iyyvSQ?feature=shared>

【到達目標】

リスニング力や語彙 (ごい) 力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA～Dのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。

・カテゴリーA (大学で初めてフランス語を学び始めた1年生や、第3外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定)：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙 (ごい) 力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語 (日本で主に学校教育を受けた人なら日本語) であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーB (大学入学後フランス語を学び始め、1年以上が経過した2年生を主に想定)：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」4級にあたるリスニング力や語彙 (ごい) 力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語 (日本で主に学校教育を受けた人なら日本語) であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーC (フランス語を2年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定)：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA2～B1、「実用フランス語技能検定試験」3級～準2級にあたるリスニング力や語彙 (ごい) 力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーD (日本語が第1言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定)：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙 (ごい) 力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語 (日本語を除く) の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り (リスニング) やシャドーイング、内容面の理解 (時事問題に関する知識) を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	世界を知るためのもう1つの視点	パリ18区に住む小学3年 (CE2) 生たちのなぞなぞから見える世界
Séance 2	現代フランスの生活風景	結婚のプロポーズ (同性婚) やスクワット (空き住居の不法占拠) など
Séance 3	フランスという国のかたち	国歌ラ・マルセイエーズが歌えるのは、フランスではポイント高いです。
Séance 4	グローバル化 (mondialisation) に対するフランス的見方 = ものづくりの大切さ	フランスの伝統的な産品をあなたはなにか知っていますか。
Séance 5	グアドループ：中南米のカリブ海に浮かぶフランスの海外県	クレオール語に代表される文化の混淆で有名。1980年代には「ワールド・ミュージック」としてグアドループ発信のズークが流行
Séance 6	デモやストライキ	ストライキになると色々不便だと怒る人もいる一方、ストライキは労働者の重要な権利とみなされてもいます。
Séance 7	フランス語で炎暑は canicule といいます	毎夏、山火事や40度を超える高温が南ヨーロッパを中心に伝えられるようになりました。
Séance 8	カンヌ映画祭	この季節に毎年開かれる有名文化イベント。娯楽作よりも芸術性の高い作品が受賞する傾向があり、日本人の活躍が目立ちます。
Séance 9	ラップとユーチューバー	さまざまな国や地域の出身者が、フランス語ラップのYouTube動画を制作
Séance 10	男女平等の理想と現実	女性の就業率が比較的高いフランスだが、男女の賃金格差など課題も残る。女性の権利への関心は高い。
Séance 11	ツール・ド・フランス	この季節に毎年開かれる有名スポーツイベント。7月の3週間、フランスや隣接国の路上を自転車レースが駆け抜ける。
Séance 12	格差社会アメリカの批判	大企業の経営者たちとその従業員の給与格差が大きすぎるというもの、フランス語圏のメディアではありがちな話題
Séance 13	環境問題の語彙 (ごい)・表現①	絶滅危惧種を守ることをめぐる外交。「フカヒレ」や「象牙」が登場します。

Séance 14	環境問題の語彙（ごい）・表現②	コンゴ民主共和国（RDC）はフランス語圏ニュースではよく登場する国です。内戦などの要因で安全を脅かされる国立公園職員たちの話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「時事フランス語Ⅰ」のような科目では、1回の授業につき、1時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。

・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。

・(ア) 音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、1単語→1文→複数の文、のように広げていくことや、(イ) 番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。

・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください <https://x.gd/RkJnE>

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
 2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>
- ※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】

仏和辞典。小学館ロベール仏和大辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。《JapanKnowledge》からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧にはVPN接続が必要です。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末試験、期末レポートはありません（0%）
 - 2. 授業への毎週の参加（①）
 - 3. 授業時間内の活動の積極性（②）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの3つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓の数字（%）に示しています。
 - 4. 到達目標の達成に向けた取り組み（③）時事フランス語関連の話題を提供したり、授業の内容を復習するための、かんたんな理解度チェックに解答したりした場合、加点されます。こうした取り組みをつうじて、少しずつ実力がついていきます。
 - 5. その他（100%の枠外で5～20%程度の加点をします）
- (ア) 授業運営への協力（教員の説明の不備や設定ミスなどを指摘してくれた学生に加点します）
- (イ) 実用フランス語技能検定試験（仏検）やDEL FやTCFを受検したか、また合格したか（これらの検定試験を受検したり合格したりスコアを取得したりした場合、ぜひ教員まで申し出てください）
- カテゴリーA ①50%, ②30%, ③20%
- カテゴリーB ①40%, ②30%, ③30%
- カテゴリーC ①33%, ②33%, ③34%
- カテゴリーD ①50%, ②30%, ③20%

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。

※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI) を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅰ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。

・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです <https://x.gd/4WEFD>

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有や課題の提出などに、Google ClassroomやWebClass、Boxを使いますので、タブレットやノートパソコンのような情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかなど…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイズメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。《Commencer》と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。<https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1>

もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)

2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/> [Grading criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =50%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =50%

[Equipment student needs to prepare]

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

- 1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
- 2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目「時事フランス語Ⅱ」を紹介する動画です <https://x.gd/KrAUW> (約7分12秒)

この科目「時事フランス語Ⅱ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5Monde や Radio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/RQtay4cmhW8?feature=shared>

【到達目標】

リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA～Dのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。

・カテゴリーA（大学で初めてフランス語を学び始めた1年生や、第3外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーB（大学入学後フランス語を学び始め、1年以上が経過した2年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」4級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べることができる。

・カテゴリーC（フランス語を2年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA2～B1.1、「実用フランス語技能検定試験」3級～準2級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーD（日本語が第1言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	多様性と出会うためのもう1つの入り口	フレキシタリアン・ダイエットとフランスの駄菓子（食文化から近づいてみる）
Séance 2	気が早いですがクリスマスの話題	宗教を信じる・信じない、家族のあり方、消費社会について考えます。
Séance 3	移民の気持ちを（教員の補助付きで）疑似体験してみる。	移民を念頭にいったフランス語検定試験の例題に取り組む。
Séance 4	職業と平等	職業名の女性形を認めさせるといふフェミニズムのかたち
Séance 5	第4回の続き	仕事探しのフランス語→履歴書につながるライティング (Production écrite)
Séance 6	フランスの「サラメシ」	フランスの会社員たちは昼食に何をどんな風に食べているのか？
Séance 7	第6回の続き	昼食を権利として考えたことがありますか？
Séance 8	ある日のニュースのヘッドライン	フランス語によるニュースのヘッドライン（実物）によいよ挑戦です。
Séance 9	少子化問題	2010年を越えたあたりから出生率が低下傾向のフランス。その原因は？
Séance 10	コートジボワールから見た世界	起業家の女性が訪れたいと夢見る国は？
Séance 11	ブルキナファソから見た世界	外からの支援ではなく、地元根差した住宅の改善とは？
Séance 12	アフリカやアジアからヨーロッパを目指す多くの避難民を渡航させる業者たち	どんな国にでも行けるパスポートは、世界の握りの人しかもっていない。
Séance 13	ボーヴォワール	« On ne naît pas femme, on le devient. » という文を知っておきましょう。
Séance 14	エメ・セゼール	ネグリチュードとは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「時事フランス語Ⅱ」のような科目では、1回の授業につき、1時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。

・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。

・(ア) 音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、1単語→1文→複数の文、のように広げていくことや、(イ) 番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。

・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください <https://x.gd/RO06q>

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
 2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>
- ※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】

仏和辞典。小学館ロバール仏和辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。「JapanKnowledge」からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧にはVPN接続が必要です。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末試験、期末レポートはありません (0%)
 - 2. 授業への毎週の参加 (①)
 - 3. 授業時間内の活動の積極性 (②) ※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリA、B、C、Dの3つに学生を分けており、カテゴリごとに努力していただきたい方向性を下↓の数字 (%) に示しています。
 - 4. 到達目標の達成に向けた取り組み (③) 時事フランス語関連の話題を提供したり、授業の内容を復習するための、かんたんな理解度チェックに解答したりした場合、加点されます。こうした取り組みをつづけて、少しずつ実力がついていきます。
 - 5. その他 (100%の枠外で5~20%程度の加点をします)
- (ア) 授業運営への協力 (教員の説明の不備や設定ミスなどを指摘してくれた学生に加点しています)
- (イ) 実用フランス語技能検定試験 (仏検) や DELF や TCF を受検したか、また合格したか (これらの検定試験を受検したり合格したりスコアを取得したりした場合、ぜひ教員まで申し出てください)
- カテゴリ-A ① 50%, ② 30%, ③ 20%
- カテゴリ-B ① 40%, ② 30%, ③ 30%
- カテゴリ-C ① 33%, ② 33%, ③ 34%
- カテゴリ-D ① 50%, ② 30%, ③ 20%

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。

※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

・フランスに留学して、リスニング力や語彙 (ごい) の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI) を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語II」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。

・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです <https://x.gd/kTKoR>

【学生が準備すべき機器他】

音声ファイルやストリーミング動画をWifiのある環境で視聴したり、学習支援システム-Hoppii や Google Classroom を閲覧するために、タブレットやノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイズメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。「Commencer」と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。<https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1>
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- 1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【Grading criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =50%

2. In-class activity participation and various contributions to the class =50%

[Equipment student needs to prepare]

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.

2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

フランス語の発音レッスン I 2017年度以降入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の発音が難しいと感じる人にとって、その主な理由は、つづりと発音の規則が難しい、母語に存在しない母音や子音の発音が難しい、もしくはその両方、ということだと考えられます。

しかし規則は無限に存在するわけではなく、いくつかの基本的な事柄を覚えれば、知らない単語でも発音できるようになります。また、母語には存在しない音であっても、口のかたちや舌の位置に気をつけ、繰り返し練習することで、ネイティブに近い発音を身につけることができます。

本授業では、フランス語のつづりと発音の規則を身につけるとともに、フランス語の母音と子音の発音のしかたを学び、フランス語らしく発音できるようになることを目的とします。その過程で、発音記号に慣れるようにします。

【到達目標】

- ・つづりと発音の主な規則を覚えること。
- ・ネイティブに近い発音でフランス語の単語や文を発音できるようになること。
- ・発音記号を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・まず個々の母音と子音の発音の仕組みと発音のしかたを理解します。
 - ・次に、どのつづりがそれらの母音や子音に相当するのかを確認します。
 - ・それから聞取り練習と発音練習を行います。
 - ・さらに、学んだ音が含まれる短い文の発音練習を行います。
- 発音練習では一人一人にアドバイスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	・授業概要 ・フランス語の母音と子音について
2	母音 [i] [y] [u]	説明と練習
3	2種類の「エ」	説明と練習
4	母音 [ø] [œ]	説明と練習
5	2種類の「オ」	説明と練習
6	3つの鼻母音	説明と練習
7	3つの半母音	説明と練習
8	子音 [R] [l]	説明と練習
9	子音 [b] [v] [f]	説明と練習
10	後部歯茎摩擦音	説明と練習
11	子音 [t] [s] [z]	説明と練習
12	脱落性の e	説明と練習
13	リエゾン、エリジョン、アンシェヌマン	説明と練習
14	期末試験	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で学んだ通りに繰り返し発音練習を行うこと。
 - ・つづりと発音の規則を覚えていない人は、早めに覚えるよう復習すること。
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・プリントを使用します。

【参考書】

- ・久松健一『発音の基本:30分あればフランス語はだいたい読める』Kindle インタラクティブ版、HK-publisher、2016年、700円
＊つづりと発音の規則がなかなか覚えられないという人におすすめです。
- ・小島慶一『音声とイラストで楽しく学ぶ やさしいフランス語の発音 新装版』語研、2026年2月、2200円
＊基本的な事柄から応用まで、分かりやすく解説しています。
より専門的な参考書を読みたい人には授業内に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、期末試験30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも可）。『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『ディコ仏和辞典』（白水社）、『ロベール・クレ』（駿河台出版社）などがおすすめです。

【その他の重要事項】

- ・「授業計画」と「成績評価の方法と基準」は状況により変更する可能性があります。
- ・現在フランス語を学んでいる人、もしくはフランス語を学んだことがある人を対象とします。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn how to pronounce French vowels and consonants. The goal of this course is to achieve authentic French pronunciation. After each class, students will be expected to spend one hour to practice pronouncing words and phrases learned in class.

The overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination : 30%, in-class contribution: 70%

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)	
フランスの文化と社会 L A	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
鈴木 正道	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月3/Mon.3	
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これらフランス社会の様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」、「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

誰でもが知っている大ヒット作、今では古典となったフランス映画の代表的作品、映画の歴史を創った作品、知る人ぞ知る映画などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『アメリ』1 2001年の大ヒット作 パリという空間： モンマルトルからあ ちこちへ	空想に駆られる主人公： 他人の幸せのために
2	『アメリ』2 なぜヒットしたか	空想から現実へ モンマルトルは理想郷？

3	『アメリ』3 オードリー・トトゥ とマティユー・カソ ヴィッツ	刑事とシャネル／監督と俳優
4	『太陽がいっぱい』1 名優アラン・ドロ ン主演のフランス・イ タリア合作映画	このタイトルはどういう意味か。 誤訳かわざとか。外国映画の邦 題について。
5	『太陽がいっぱい』2 格差と犯罪	金持ちの傲慢青年と貧しき悪の 天才青年。
6	『太陽がいっぱい』3 犯罪は「太陽の せい」？ 映画音楽	地中海の熱い太陽と哀愁の音楽。 映画を知らずとも音楽は聴いた ことがある。
7	映画の始まり	世界初の映画上映：リュミエー ル兄弟。 初期の映画：『月世界探検旅行』 『ファントマス』
8	ヌーヴェル・ヴァー グ 『勝手にしやがれ』1 ゴダールの代表作： 原題は「息切れ」	映画の「新しい波」 「外国映画の邦題について」その 2
9	『勝手にしやがれ』2 おかしなカップル： ジャン＝ポール・ペ ルモンドとジーン・ セバーグ	これは犯罪映画か？
10	『勝手にしやがれ』3 モンパルナス	右岸のモンマルトルと左岸のモ ンパルナス シャンソンとジャズ
11	ヌーヴェル・ヴァー グその2： トリュフォー	アントワヌ・ドゥワネルのシ リーズ：成長する主人公を成長 する同じ俳優が演じる
12	『女優マルキーズ』1 旅役者	ソフィー・マルソー演じる17世 紀の実在の女優はアクロバット もこなす旅役者
13	『女優マルキーズ』2 ルイ14世の時代	太陽王の古典主義時代： モリエールとジャン・ラシーヌ ；宮廷の豪華絢爛と場末の狼狽 さ
14	『女優マルキーズ』3 舞台上に死す	謎多き女優の生涯 ソフィー・マルソーとベルナ ール・ジロドー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

- 1：モンマルトルについて調べる。
 - 2：アメリの行く様々な地域について調べる。
 - 3：出演者の他の作品について調べる。
 - 4：フランス人にとっての地中海はどのようなものかを考える。
 - 5：「完全犯罪」は可能かを考える。
 - 6：フランス人および他の国の人々にとってアラン・ドロンとはどのような俳優かを考える。
 - 7：創世期の映画について調べる。
 - 8：外国映画の邦題について考える。
 - 9：『勝手にしやがれ』のどこが新しいのか考える。
 - 10：モンパルナスとモンマルトルの共通点と違いについて調べる。
 - 11：トリュフォーやその他のヌーヴェル・ヴァーグの監督について調べる。
 - 12：17世紀の俳優について調べる。
 - 13：17世紀の古典主義作家について調べる。
 - 14：出演者たちの他の作品について調べる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書0179

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書C164

『悪文の構造』千早耿一郎 ちくま学芸文庫 C0180

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course is to analyse various aspects of life in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see people's different problems, joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films. The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in French society.

The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to do some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)	
フランスの文化と社会 L B	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
鈴木 正道	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月3/Mon.3	
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続いて、この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら社会の様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

21世紀に入って大ヒットした、いかにもフランスらしい？映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに演劇の人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『最強のふたり』1： 2011年のヒット作	「ふたり」とはどんな人たちか？
2	『最強のふたり』2： 格差社会と移民	パリの郊外とは？ 富裕層の多い区域は？
3	『最強のふたり』3： 『介護者』と「パートナー」：助 北の海岸での出会い	ける人とお膳立てする人

4	『シェルブールの雨傘』1 フランスのミュージカル； 原題そのままの邦題は何を意味しているのか	誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽； 1960年代のフランスの地方都市：やはり北の港町
5	『シェルブールの雨傘』2 フランスにとつての1960年代はじめ	アルジェリア戦争：様々な分断
6	『シェルブールの雨傘』3 Westside Storyの向こうを張った？	「曖昧な」結末：雪のクリスマスでの再会と別れ
7	『天井桟敷の人々』1 1945年の大作 19世紀のパリの下町という空間	伝説的名優勢ぞろい 「犯罪大通り」
8	『天井桟敷の人々』2 庶民にとっての劇場	「言葉」の俳優とパントマイム役者
9	『天井桟敷の人々』3 カーニバルという空間	またしても「曖昧な」結末：追いかけても追いつけない悪夢
10	『おかしなおかしな訪問者』1 中世からのタイムスリップ。 ジャン・レノとクリスチャン・クラヴィエ共演	フランスのお笑い映画：フランス北部の中世と現代。名優たちの一人二役が見所
11	『おかしなおかしな訪問者』2 めでたしめでたしの結末？	お笑い映画の定番的な演出と筋書。続編を予想させる、終わつたようで終わらない結末？
12	『シラノ・ド・ベルジュラック』1： 17世紀の実在の人物をモデルにした19世紀末の芝居	フランスのヒーロー人気ナンバーワン：剣にすぐれて弁もたつが、コンプレックスが恋を妨げる
13	『シラノ・ド・ベルジュラック』2： 17世紀の宮廷と社会状況	過剰な繊細華麗（préciosité）と過酷な戦争（30年戦争とアラスの包囲）
14	『シラノ・ド・ベルジュラック』3： 普遍的な価値	「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

- 1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。
 - 2：フランスの社会階層について調べる。
 - 3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのか考える。
 - 4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。
 - 5：アルジェリア戦争について調べる。
 - 6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。
 - 7：『天井桟敷の人々』が公開された1945年ごろのフランスの状況について調べる。
 - 8-9：19世紀前半のパリについて調べる。
 - 10：『おかしな訪問者』で紹介されるフランスの中世と現代の生活について調べる。
 - 11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。
 - 12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった17世紀の人物について調べる。
 - 13：17世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。
 - 14：なぜシラノという人物が時代と国を超えて人々を惹き付けるのかを考える。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164

『悪文の構造』千早耿一郎 ちくま学芸文庫 C0180

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course is to analyse various aspects of life in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see people's different problems, joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films. The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in French society.

The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to do some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)	
フランス生活文化論 L A	2017年度以降入学者
サブタイトル：近代フランスの食文化史	
梶谷 彩子	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位	
定員制(40)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【本授業は定員制です。履修希望者は必ず最後までシラバスを読んでください】

この授業では、19世紀～20世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】

フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述や発表を通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようにできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見ると予定です。
原著の資料を見ることがありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。
毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。質問をきっかけに時に食文化の話を超えて、フランスの他の文化や歴史に触れることもあります。
また、受講する皆さんのフランスの食や文化に関する興味関心を共有していただく発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していただければ広く様々なテーマを歓迎します。
最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第2回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？／宮廷料理について
第3回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ／18世紀までの価値観と、19世紀からの価値観

第4回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場／給仕の変化
第5回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第6回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基準の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー(前編)
第7回	「美食」は誰のものか：情報が生み出す「美食」	「おいしい」の評価の変遷：ガストロノミー(後編)
第8回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴します。コメントカードを通して、感想や考察をまとめてください。
第9回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第10回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置／郷土料理＝文化的遺産という視点の原点
第11回	報告会①	フランスの食や文化にまつわる興味関心を発表しあいましょう。授業とは異なる視点に触れることが目的です。
第12回	報告会②	報告会は、履修者の人数により2回から3回に渡る可能性があります。
第13回	報告会③(予備日) 郷土料理でめぐるフランス 映像資料視聴	フランスの代表的な地方の位置の確認・その土地に根差した郷土料理を網羅的に見ていきます。ほか、一部となりますが第8回とは異なる映像資料を視聴します。
第14回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性／レポートの書き方案内 (映像資料視聴予備日)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。教科書として指定した書籍は学期中に読み切ること。

【テキスト（教科書）】

①オリジナルの授業資料

この資料はすべて学習支援システムを通じての配信となります。授業中に使いますので、各自手元に用意の上出席してください。

②『「美食の国」フランスの誕生 ガストロノミーが作ったおいしい歴史』梶谷彩子著、慶應義塾大学出版会、2025年、本体2,700円＋税

【参考書】

①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。

②ジャン・ピエール＝ブーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。

③北山晴一『世界の食文化①6 フランス』、農村漁村文化協会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

平常点(コメントカードの提出・発表を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価。

特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していききたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット端末等を持参すること。原則として教室内での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が41人を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、【初回選抜】を実施します。選抜方法は教室で案内しますので、履修希望者は【必ず初回授業に出席】してください。

開講前にメッセージ機能やタイムライン機能を通じて連絡する場合がありますので、授業支援システムへは開講前に登録してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)	
フランス生活文化論 L B	2017年度以降入学者
サブタイトル：フランスの食文化史(古代から現代まで)	
梶谷 彩子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火4/Tue.4	
単位数：2単位	
定員制(40)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【本授業は定員制です。履修希望者は必ず最後までシラバスを読んでください】

この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】

フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。

原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。

毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。最終回の前には、簡単な発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していなければ広く様々なテーマを歓迎します。

最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第2回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第3回	中世とルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第4回	17世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第5回	18世紀	宮廷料理の最盛期／「豪華な料理」とは？
第6回	フランス革命～19世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現

第7回	19世紀後半～19世紀末	19世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第8回	20世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」
第9回	20世紀半ば	全国的美食を求めてーガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第10回	20世紀半ば～20世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌー健康と美食
第11回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第12回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第13回	発表会①	レポートの構想、授業を通しての自分なりのまとめなど、いくつかのトピックの中から1つ選び、発表しましょう。
第14回	発表会② まとめ・レポート作成の手引き	発表会の予備日です。主に「美食の国 フランス」のイメージはいかにして形成されたか、授業全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考書のうち②を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に学習支援システムを通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
- ②ジャン・ビエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008年。
- ④梶谷彩子『「美食の国」フランスの誕生 ガストロノミーが作ったおいしい歴史』慶應義塾大学出版会、2025年。

【成績評価の方法と基準】

平常点(コメントカード提出・発表参加を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価

特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していきたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット等を持参すること。原則として教室での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が41名を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、【初回選抜】を実施します。選抜方法は教室で案内しますので、履修希望者は【必ず初回授業に出席】してください。開講前にメッセージ機能やタイムライン機能を通じて連絡する場合がありますので、授業支援システムへは開講前に登録してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

LANr200LA (ロシア語 / Russian language education 200)

ロシア語 4 | 2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既習の初級文法を全面的に復習し、加えて未習の文法事項を学習する。格変化をただ頭で分かっているだけでは、それを実際に（読み書き・会話の際に）運用するには不十分である。そのため、名詞・形容詞・所有代名詞の単数形および複数形の（まずは）前置格・対格・生格を自由に作り出し、即座に見分けることができるよう反復練習を行う（例えば、новый журнал, моя машина, русское словоの単数形および複数形の前置格・対格・生格を反射的に言えるようにする）。また、この練習を踏まえて、特に読む力、すなわち生きた現実で出会われる標準的なロシア語の文章（書籍・新聞・雑誌・ネット上のテキスト等）を読解する能力を養う。

【到達目標】

学習した文法事項を的確に運用することによって、やや複雑な構造のロシア語の文章を理解し、正しい日本語に訳せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文法事項を解説し練習問題で理解を定着させ、またテキストを読解し翻訳する、実習型の授業となります。学習支援システムで課題を提示したり、授業時間内に小テストを実施したりします。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	動詞の現在形、名詞の複数形、形容詞の性・数変化	動詞の現在形（第1変化）、男性名詞・女性名詞・中性名詞の規則的な複数形と不規則的な複数形、形容詞の性・数変化の6パターン（硬変化A・硬変化B・軟変化／混合変化A・混合変化B・混合変化C）
2	名詞の前置格	名詞の前置格のパターン（単数形・複数形）、名詞の前置格の用法
3	形容詞・所有代名詞の前置格	形容詞・所有代名詞の前置格のパターン（単数形・複数形）
4	名詞・形容詞・所有代名詞の前置格	様々な形容詞・所有代名詞の前置格と様々な名詞の前置格の結合
5	動詞の現在形、名詞の対格	動詞の現在形（第2変化）、名詞の対格のパターン（単数形・複数形）、名詞の対格の用法
6	形容詞・所有代名詞の対格	形容詞・所有代名詞の対格のパターン（単数形・複数形）
7	名詞・形容詞・所有代名詞の対格	様々な形容詞・所有代名詞の対格と様々な名詞の対格の結合

8	名詞の生格	名詞の生格のパターン（単数形・複数形）、名詞の生格の用法
9	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格のパターン（単数形・複数形）
10	名詞・形容詞・所有代名詞の生格	様々な形容詞・所有代名詞の生格と様々な名詞の生格の結合
11	с я 動詞、動詞の過去形、形容詞の短語尾形	с я 動詞の現在形、動詞（с я 動詞も含む）の過去形、形容詞の短語尾形の作り方と用法
12	形容詞と名詞の格変化	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
13	所有代名詞と名詞の格変化	所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
14	期末試験	文法問題、ロシア語テキストの日本語訳、それらの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、1回につき2時間を標準とする。練習問題については、授業前に解答を用意し、授業中に答えなければならない。また、授業後に復習し、小テストに備えなければならない。

テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に理解し、日本語訳（翻訳）を各自で提出しなければならない。

【テキスト（教科書）】

『ロシア語初級』法政大学ロシア語教員編（2020/2021年度版、2018/2019年度版、両者の内容は同じなので、どちらでも可）。また、格変化の反復練習用等、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

和久利智一『入門ロシア語文法』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、文法の知識と読解力を問う期末テスト80%。

平常点は課題の提出、小テストの評価。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

日本語訳（翻訳）の作成を課する。

授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】

Elementary Russian 4 (Extra lesson) (Part1).

【Course Outline】The aim of this course is to review, in a short term, the elementary grammar totally, and to learn the unlearned grammar (especially, repetitive practice to be able to freely produce the prepositional, accusative, and genitive cases of singular and plural nouns, adjectives, and possessive pronouns) and also to develop further ability to read standard Russian texts.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese slightly complicated Russian texts.

【Learning Activities outside of Classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

【Grading Criteria/Policy】Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語 4 II

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既習の初級文法の復習を継続し、加えて未習の文法事項を学習する。「ロシア語 4 I」の続きとして、名詞・形容詞・所有代名詞の単数形および複数形の与格・造格を作り出し、見分けることができるよう反復練習を行う（例えば、новый журнал, моя машина, русское словоの単数形および複数形の与格・造格を反射的に言えるようにする）この練習を踏まえ、生きた現実の、標準的なレベルのロシア語の文章を読解する能力をさらに養う。

【到達目標】

学習した文法事項を的確に運用することによって、複雑な構造のロシア語の文章を理解し、正しい日本語に訳せる。書籍、新聞や雑誌、ネット上の文章から、最低限の情報を得ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文法事項を解説し練習問題で定着させ、またテキストを読解し翻訳する、実習型の授業になります。学習支援システムで課題を提示したり、授業時間内に小テストを実施したりします。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	形容詞と名詞の格変化（復習）	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
2	所有代名詞と名詞の格変化（復習）	所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
3	名詞の与格	名詞の与格のパターン（単数形・複数形）、名詞の与格の用法
4	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格のパターン（単数形・複数形）
5	名詞・形容詞・所有代名詞の与格	様々な形容詞・所有代名詞の与格と様々な名詞の与格の結合
6	動詞の未来形、無人称文	動詞の合成未来形の作り方、無人称文の特徴、無人称文の現在形・過去形・未来形
7	動詞の命令形、否定の表現	動詞の命令形の3パターン、否定生格、「何も～ない」
8	名詞の造格	名詞の造格のパターン（単数形・複数形）、名詞の造格の用法
9	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格のパターン（単数形・複数形）
10	名詞・形容詞・所有代名詞の造格	様々な形容詞・所有代名詞の造格と様々な名詞の造格の結合

11	形容詞と名詞の格変化	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）与格・造格への変化
12	所有代名詞と名詞の変化	所有代名詞と名詞（単数形・複数形）の（単数形・複数形）与格・造格への変化
13	形容詞・所有代名詞と名詞の格変化	形容詞・所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格・与格・造格への変化
14	期末試験	文法問題、ロシア語テキストの日本語訳、それらの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は2時間を標準とする。練習問題については、授業前に解答を用意し、授業中に答えなければならない、また、授業後に復習し、小テストに備えなければならない。テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に理解し、日本語訳（翻訳）を各自で提出しなければならない。

【テキスト（教科書）】

『ロシア語初級』法政大学ロシア語教員編（2020/2021年度版、2018/2019年度版、両者の内容は同じなので、どちらでも可）。また、格変化の反復練習用等、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、文法の知識と読解力を問う期末テスト80%。平常点は課題の提出、小テストの評価。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。日本語訳（翻訳）の作成を課する。授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】

Elementary Russian 4 (Extra lesson) (Part2).

【Course Outline】The aim of this course is to review the elementary grammar totally, and to learn the unlearned grammar (especially, repetitive practice to be able to freely produce the dative and instrumental cases of singular and plural nouns, adjectives, and possessive pronouns) and also to develop further ability to read standard Russian texts.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese slightly complicated Russian texts.

【Learning Activities outside of Classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

【Grading Criteria/Policy】Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr200LA (ロシア語 / Russian language education 200)

ロシア語 4 | 2017年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年次のロシア語学習を終えた学生を対象とする授業です。既習の文法事項を復習してから、教科書やプリント教材を用いて、未習の文法事項を学びます。基礎文法をひとつおし学習し、その定着をはかりながら、ロシア語の文章の読解に必要な力を養います。要望があれば、ロシア語能力検定試験に対応する勉強も行います。

【到達目標】

学んだ文法事項を正確に理解し、運用できるようになること。比較的平易なロシア語の文章を読解し、日本語に訳せるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書やプリント教材を用いて、文法事項の解説、練習問題の答え合せと解説、テキストや対話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また、知識の定着や習熟度の確認のために、適宜、課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	既習文法の復習 (1)	格変化の復習（主格、生格）
2	既習文法の復習 (2)	格変化の復習（与格、対格）
3	既習文法の復習 (3)	格変化の復習（造格、前置格）
4	既習文法の復習 (4)	格変化の復習（人称代名詞）
5	動詞 (1)	動詞関連の文法事項の復習
6	動詞 (2)	動詞の完了体、不完了体の用法の説明と練習
7	動詞 (3)	テキストの音読と読解
8	関係代名詞 (1)	関係代名詞の説明と練習
9	関係代名詞 (2)	関係副詞、接続詞 что бы の説明と練習
10	関係代名詞 (3)	テキストの音読と読解
11	数詞、時間 (1)	数詞と名詞の結合の説明と練習
12	数詞、時間 (2)	時間表現の説明と練習
13	数詞、時間 (3)	テキストの音読と読解
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。格変化形や動詞の活用は意識して覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級 ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員 編）[2020/2021年度版、2018/2019年度版 いずれでも可]
その他、適宜プリント教材を配布します。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50％、期末試験50％の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の習熟度を念頭においた授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a course for students who finished learning Russian for the first grade. The aim of this course is to finish basic grammar. And also strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire basic grammar and strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is more than one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50％、in class contribution: 50％

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語 4 II

2017年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文法の学習を終えた学生を対象とした授業です。さまざまなテーマのテキストの読解を通して、既習の文法事項を復習しながら、未習の文法事項を学びます。ロシア語の文章に慣れ親しみ、基礎文法の応用レベルでの定着を目指します。また、視聴覚教材を用いて、生のロシア語に触れる機会を作ります。要望があれば、ロシア語能力検定試験に対応する勉強も行います。

【到達目標】

辞書を用いて文章を読解し、日本語に翻訳する作業を通して、ロシア語の文章に慣れ親しむこと。また、語彙を増やし、構文を正確に把握できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書やプリント教材を用いて、未習の文法事項について学んだ上で、テキストを講読します。テキストは構文を把握しながら、じっくりと読み進めます。また、知識の定着や習熟度の確認のために、適宜、課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期に学んだことの復習	格変化、動詞、関係代名詞、体の用法の復習
2	数詞、時間 (4)	数詞と名詞の結合、時間表現の復習
3	数詞、時間 (5)	年月日の表現の説明と練習
4	数詞、時間 (6)	年齢の表現、値段の表現の説明と練習
5	数詞、時間 (7)	テキストの音読と読解
6	形容詞の短語尾形、比較級、最上級	形容詞の短語尾形、比較級、最上級の説明と練習
7	仮定法	仮定法の説明と練習
8	運動の動詞と接頭辞 (1)	接頭辞の種類と対応する前置格の説明と練習
9	運動の動詞と接頭辞 (2)	テキストの音読と読解
10	運動の動詞と接頭辞 (3)	スキットのセリフを聞き取る
11	文章読解 (1)	ロシアの民話を読む
12	文章読解 (2)	ロシアの文化に関するテキストを読む
13	文章読解 (3)	ロシアの歴史に関するテキストを読む
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題（日本語訳の準備等）は必ずやってくる。格変化や動詞の活用、数詞は意識して覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を授業で配布します。

『初級 ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員 編）[2020/2021年度版、2018/2019年度版 いずれでも可] を持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社

露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50%、期末試験50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a course for students who have completed learning basic grammar of Russian. We read Russian texts carefully, understanding the syntax. Through reading comprehension, we review what we have learned so far and learn grammar that we haven't learned yet.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to get used to Russian texts with various themes and master Russian basic grammar.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is more than one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANr200LA (ロシア語 / Russian language education 200)

ロシア語 5 I 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われるロシア語を場面ごとに学び、ロシア語のコミュニケーション能力を高める授業です。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させます。

【到達目標】

日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

一年に通じて日常的なコミュニケーションに使う文型・語彙・表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。

宿題提出や単語学習などのために学習支援システムと各オンライン学習アプリケーションを使います。課題などに対する教員のフィードバックは、授業時や学習支援システム経由で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	紹介：名前、出身、職業	リスニング、会話練習
2	家族の話	リスニング、会話練習
3	趣味	リスニング、会話練習
4	一日の流れ	リスニング、会話練習
5	一日の流れ（続き）	リスニング、会話練習
6	時間、スケジュール	リスニング、会話練習
7	国、言語、国籍	リスニング、会話練習
8	天気、季節	リスニング、会話練習
9	行ったことがある所	リスニング、会話練習
10	休暇の過ごし方	リスニング、会話練習
11	週の予定	リスニング、会話練習
12	好きな事、好きなものの	リスニング、会話練習
13	春学期の復習	リスニング、会話練習
14	春学期末テスト	聴解・筆記と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてプリント教材を配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語のみの教材に和文解説をつけるようになりました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末（PCやタブレットなど）、Zoom授業になる場合には、Wi-Fi通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や履修者の能力に応じて授業のペースやスケジュールは変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to carry out simple conversations in Russian in everyday situations or when traveling in Russia.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%、Word tests 30%、Homework 20%

LANr200LA (ロシア語 / Russian language education 200)

ロシア語 5 II

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われるロシア語を場面ごとに学び、ロシア語のコミュニケーション能力を高める授業です。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させます。

【到達目標】

日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

一年に通じて日常的なコミュニケーションに使う文型・語彙・表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。

宿題提出や単語学習などのために学習支援システムと各オンライン学習アプリケーションを使います。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	モスクワを歩く	リスニング、会話練習
2	私の街	リスニング、会話練習
3	お買い物	リスニング、会話練習
4	食べ物、お食事	リスニング、会話練習
5	家と部屋	リスニング、会話練習
6	映画	リスニング、会話練習
7	いつも通うところ	リスニング、会話練習
8	乗り物で行く	リスニング、会話練習
9	空港で	リスニング、会話練習
10	ロシアの年行事	リスニング、会話練習
11	ToDo リスト	リスニング、会話練習
12	電話、メール	リスニング、会話練習
13	秋学期の復習	リスニング、会話練習
14	秋学期末テスト	聴解・筆記と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時および学習支援システムにてプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語のみの教材に和文解説をつけるようになりました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末（PCやタブレットなど）、Zoom授業になる場合には、Wi-Fi通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や履修者の能力に応じて授業のペースやスケジュールは変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to carry out simple conversations in Russian in everyday situations or when traveling in Russia.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

ARSA200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

ロシア語の世界 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史や文化を概観し、ロシアという国がどのような国なのか、その特質（「ロシアという国のかたち」）を理解する。それによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」の基本を獲得する。ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとっては理解しにくいロシアという国について、明確なイメージを持つことができる。
また、そうしたロシアの歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	9世紀半ばから13世紀の歴史	建国伝説、「キエフ・ルーシ」
第2回	13世紀から16世紀の歴史	「タタールの軛」、モスクワ大公国から「ロシア」へ（イヴァン3世とイヴァン4世）
第3回	17世紀の歴史	「動乱」、ロマノフ朝の成立
第4回	18世紀前半の歴史	ピョートル1世、「ロシア帝国」
第5回	18世紀後半の歴史	エカチェリーナ2世、ポーランド分割、「新ロシア」とクリミア半島、ウクライナ
第6回	19世紀初めの歴史	アレクサンドル1世、ナポレオン戦争、デカブリストの乱
第7回	19世紀半ばの歴史	ニコライ1世、クリミア戦争、アレクサンドル2世、農奴解放
第8回	19世紀終わりの歴史	アレクサンドル3世、産業革命
第9回	20世紀初めの歴史（0年代～20年代）	ニコライ2世、第1革命、第1次世界大戦、ロシア革命、「ソ連」、レーニン
第10回	20世紀半ばの歴史（30年代～40年代）	スターリン、第2次世界大戦
第11回	20世紀半ばの歴史（50年代～60年代）	冷戦、フルシチョフ
第12回	20世紀終わりの歴史（70年代～80年代）	停滞からペレストロイカへ、ゴルバチョフ

第13回 20世紀末の歴史（90年代） ソ連崩壊、「ロシア連邦」、エリツィン

第14回 21世紀初めの歴史 ブーチン、ウクライナ戦争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。
学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『新版世界各国史22 ロシア史』山川出版社、2002年。

『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004年。

『ロシア文化事典』丸善出版、2019年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40%、期末レポート60%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言や発表の機会をより増やす。
毎授業の途中や最後に、授業内容に関する復習問題に取り組む。

【Outline (in English)】

【Course Outline】The aim of this course is to survey history and culture of Russia, as a background to the Russian language.

【Learning Objectives】We will understand what kind of country Russia is and its special characteristics.

【Learning activities outside of Classroom】Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ロシア語の世界 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの周辺国、すなわち、北欧、中・東欧、旧ソ連圏の国々、さらには中東や南アジアなどの歴史や文化を概観することによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」を獲得する。より広い視野においてロシアという国を理解する。

ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとってなじみのないロシアの周辺国、およびこれらの国々とロシアとの関係について明確なイメージを持ち、ロシアやこれらの国や地域の持つ世界史的な意義を理解できる。

また、そうした理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ロシアの周辺国（現在の国境、スラヴ諸族と現在の国家を含めて）、20世紀までのロシアの歩み、問題の設定（これからの世界とロシア）
第2回	ロシアの周辺国の歴史（その1）	北欧の歴史—デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・フィンランド（前半：16世紀まで；ヴァイキングの遠征、デンマークによるカルマル同盟、同盟からのスウェーデンの独立）
第3回	ロシアの周辺国の歴史（その2）	北欧の歴史—デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・フィンランド（後半：16世紀以降；デンマークの興隆と衰退と復興、スウェーデンの興隆と衰退と復興、ノルウェーの独立、フィンランドとアイスランドの独立）

第4回	ロシアの周辺国の歴史（その3）	バルト三国の歴史—エストニア・ラトヴィア・リトアニア（リヴォニアとドイツ騎士団、リトアニアの発展、ポーランドによるリトアニアの吸収、ロシア帝国によるリヴォニア・ポーランド・リトアニアの全面的支配、バルト三国の独立）
第5回	ロシアの周辺国の歴史（その4）	ポーランドの歴史（前半：17世紀半ばまで；成長期、最盛期、衰退期）
第6回	ロシアの周辺国の歴史（その5）	ポーランドの歴史（後半：17世紀半ば以降；独立喪失期、独立の回復）
第7回	ロシアの周辺国の歴史（その6）	ウクライナの歴史（前半：13世紀まで；キエフ・ルーシ、タタールの軛）
第8回	ロシアの周辺国の歴史（その7）	ウクライナの歴史（後半：13世紀以降；ポーランド・リトアニア時代、ロシア帝国時代、ソ連時代）
第9回	ロシアの周辺国の歴史（その8）	中央アジア五国の歴史—カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・キルギスタン・タジキスタン（前半：9世紀まで；イラン系の興隆、トルコ系の侵入）
第10回	ロシアの周辺国の歴史（その9）	中央アジア五国の歴史—カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・キルギスタン・タジキスタン（後半：9世紀以降；イスラムの興隆、モンゴルの侵攻、トルコ化とイスラム化、ロシア帝国・ソ連と清・中国の支配）
第11回	ロシアの周辺国の歴史（その10）	コーカサス三国の歴史—ジョージア・アルメニア・アゼルバイジャン（東西南北の諸勢力の交差点としての北コーカサスと南コーカサス、前6世紀以来のジョージア、前6世紀以来のアルメニア、3世紀以来のアゼルバイジャン）
第12回	ロシアの周辺国の歴史（その11）	トルコ（オスマン帝国）の歴史（前半：16世紀まで；封建的帝国期、集権的帝国期）
第13回	ロシアの周辺国の歴史（その12）	トルコ（オスマン帝国）の歴史（後半：16世紀以降；分権的帝国期、近代的帝国期）
第14回	コンクルージョン	グローバリゼーション、グローバル・サウスの台頭、これからの世界とロシア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

山川出版社「世界各国史」シリーズ。
明石書店「～を知るための〇章」シリーズ。
『民族の世界史10 スラヴ民族と東欧ロシア』山川出版社。
森安達也『ビザンツとロシア・東欧』講談社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40%、期末レポート60%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言や発表の機会をより増やす。
毎授業の途中や最後に、授業内容に関する復習問題に取り組む。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The aim of this course is to provide an overview of the history and culture of Northern, Central, and Eastern Europe, as well as other countries and regions surrounding Russia (including former Soviet states, the Middle East, South Asia, etc.), as a background to the Russian language.

【Learning Objectives】 We will understand the specifics of Russia from a broader perspective.

【Learning activities outside of Classroom】 Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】 Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARSA200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

ロシアの文化と社会 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくとも履修できます。なお、SAエストニア（SAロシア代替）の事前学習も兼ねるので、SAエストニアの1年生もしくは2年生は必ず履修してください。

ロシアは、峻厳で美しい自然、深く豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりで。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導くこと、そして教員が提起した問題に対して自身の意見を適切な文章でまとめる力を養うことを目的としています（コメントシートを通して）。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワード、ソ連・ロシアの国歌を通してロシアの概略を示す。
第2回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第3回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第2の都市サンクト・ペテルブルグ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。

第4回	民俗文化とロシア正教、国民の祝日	ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は政治と結びついて大きなものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなど常に信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。
第5回	ロシア・バレエの世界1	バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。
第6回	ロシア・バレエの世界2	前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。
第7回	ロシアの音楽1：グリンカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー	ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリンカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。
第8回	ロシアの音楽2：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）	19世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフを通して音楽と政治の問題を考える。
第9回	ロシアの音楽3：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）	反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。
第10回	ロシア文学1：イーゴリ軍記から19世紀前半	『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。『余計者』の確立。
第11回	ロシア文学2：19世紀半ば～（ゴーゴリ、ドストエフスキー）	ゴーゴリのグロテスクな手法、『小さな人間』について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。
第12回	ロシア文学3：19世紀後半～20世紀（トルストイ、チェーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）	トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖愚者の賞揚。チェーホフの創作方法について。『異化』の概念について。政治と文学について。
第13回	ロシア文学4：亡命作家から現代（ソルジェニツィン、プロツキー、ペレーヴィン）／日本文学との影響関係	亡命作家を通してみる政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。
第14回	民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題	ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアのナショナリズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、ボアソナードタワー3階にあるAVライブラリーの活用を勧めます。本授業の復習には4時間以上、期末レポートの作成には1週間程度の時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教員が作成する資料を教場で配付します。

【参考書】

参考文献については教場で、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生は合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な側面を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet / Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ロシアの文化と社会 L B 2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史、映画、アニメ、美術の領域からロシアの文化の多様性を見ていきます。本講義では映像資料を多用して概説を行います。多くの情報を統合してロシアの像をまとめていく作業は学生のみならず一人ひとりが行うことになります。この授業は、SAエストニア（SAロシア代替）の事前学習に位置付けられているので、SAエストニア1年の学生は必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を受けたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張をまとめる力を養うことを目標としています（コメントシートを通して）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダース／ロシアの歴史1：キエフルーシ、タタールの	ロシアの歴史：キエフルーシ、タタールの軋、イワン雷帝の治世について。
第2回	ロシアの歴史2	ピョートル大帝、エカテリーナ女帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第3回	ロシアの歴史3	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第4回	ロシアの歴史4	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第5回	ロシアの歴史5	雪解けから停滞へ、ペレストロイカ、チェルノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第6回	ソ連映画1	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。

第7回 ソ連映画2

雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。

第8回 ソ連映画3

反体制の烙印を押された監督の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF映画を概観するとともに、ペレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。

第9回 ロシア映画4

検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクーロフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。

第10回 ロシア映画5

前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。

第11回 ロシア映画6

2020年代にロシア国内外で制作されたロシア人監督による作品を概観し、ウクライナ侵攻と映画の関係を見る。

第12回 ロシア・アニメ

黎明期からプロバガンダ・アニメ、児童アニメ（アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）、アート・アニメ（ノルシュテイン、ペトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。

第13回 ロシア美術1

イコン（聖像画）の機能について、移動派の活動、パトロンの役割について。

第14回 ロシア美術2

マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。ロシア・アヴァンギャルド期の建築について紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の視聴には、AVライブラリーコーナーの利用を勧めます。本授業の復習には4時間以上、期末レポートの作成には1週間程度の時間を要することになります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教員が作成した資料を教場で配付します。

【参考書】

教場で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として、総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

今学期はロシアの歴史、映画が中心となりますが、時事的な話題もとりこみながら講義をおこないます。

【Outline (in English)】

●Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.

●Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

●Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet / Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

●Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

検定のロシア語A

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語の履修を終え中級以上を目指す学生が、ロシア語学習の到達度を外部試験で「見える形」に確かめ、次の学習につなげるための授業です。資格として履歴書にも記載できるロシア語能力検定試験4級・3級の合格を目標にします（3級はCEFR A2相当：文法・読解・聴解・会話・作文）。検定形式の演習を通して、必修で学んだ文法を総復習し、「得点できる力」へと整理・定着させます。過去問に取り組みながら、文法・語形変化・語彙を体系化し、読解・聴解に加えて、和訳・露訳などの基礎的な運用力も高めていきます。

【到達目標】

毎年5月・10月に実施されるロシア語能力検定試験に合格するため、以下を達成する。1) 基礎文法を習得し、確実に運用できる。2) テキスト内容を的確に把握し、検定形式の問題を解ける。3) 様々な短文・文章を和訳できる。4) 検定レベルのリスニング問題を解ける。5) 文章を正確に、一定の速度で音読できる。6) 基礎的な表現を用いて簡単な実践会話ができる。7) 語彙を増やし、和訳・露訳の精度を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語能力検定試験4級3級の合格を目標に、基礎文法を総復習して確実に運用できる力を固めます。授業は対策問題・過去問演習を中心に進め、必須文法の習得、検定形式の読解・演習問題への対応力を養います。あわせて和訳・露訳に取り組み、語彙力の強化を行いながら訳の精度を高めます。リスニング演習と発音を意識した音読練習も実施します。課題へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、基礎文法の復習	オリエンテーション、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	名詞と人称代名詞	名詞の性別と複数形、人称代名詞、名詞の格変化
第3回	形容詞、所有代名詞と指示代名詞	形容詞、所有代名詞と指示代名詞、その格変化
第4回	動詞（時制の表現）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	副詞、無人称文、テキスト読解	副詞、無人称文、テキスト読解
第6回	時制を表す表現、疑問詞	時制を表す表現、疑問詞とその返答
第7回	運動の動詞	1) 運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）2) 「(歩いて・乗り物で) 運ぶ」「連れて行く」
第8回	動詞の命令形	3 パターンの命令形（完了体・不完了体含む）
第9回	比較級	主に単一比較級

第10回	関係代名詞	関係代名詞、関係副詞、接続詞
第11回	数詞（主格・対格）	数詞（数詞と名詞の変化）
第12回	テキストの音読練習	スピーキング力、リーディング力強化（音読はアクセント記号の付いていないテキスト）
第13回	リスニング	リスニング（過去問を時間内で解く練習）
第14回	和文露訳	和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎文法の復習、過去問題と対策問題の予習復習、単語の暗記、音読練習、ラジオ講座やロシア関連のネット音声の聴解など、検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年

『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み、単語ミニテストなど）70%、提出物の評価（課題や宿題等の提出）30%で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。「検定」は、東京ロシア語学院主催のロシア語能力検定試験4級3級（毎年5月10月実施）を想定しております（ロシア連邦教育科学省認定ロシア語検定試験（ТРКИ）受験の希望者は要相談）。検定試験を受験し、合格を目指してください。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course is for students who have completed Elementary Russian and aim to move toward intermediate study. Students prepare for the Russian Language Proficiency Test (Levels 4- 3) to make their progress visible and strengthen core skills through exam-style practice and past papers.

【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to: Apply core grammar and basic inflection patterns accurately. Solve reading and listening tasks in the exam format. Expand essential vocabulary for comprehension and translation. Translate short texts (Russian - Japanese / Japanese - Russian). Read short texts aloud accurately and at an appropriate pace.

【Learning activities outside of classroom】Students review grammar/vocabulary and complete assigned practice (past papers/model questions) before and/or after each class.

【Grading Criteria / Policy】Ongoing performance 70% (participation, preparation/review, vocabulary mini-quizzes); assignments/submissions 30% (grammar exercises, translation tasks, and, when assigned, audio submissions such as recitation/read-aloud).

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）	
検定のロシア語 B	2017年度以降入学者
佐藤 裕子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木3/Thu.3	
単位数：1単位	
定員制	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語の履修を終え中級以上を目指す学生が、ロシア語学習の到達度を外部試験で「見える形」に確かめ、次の学習につなげるための授業です。資格として履歴書にも記載できるロシア語能力検定試験4級・3級の合格を目標にします（3級はCEFR A2相当：文法・読解・聴解・会話・作文）。検定形式の演習を通して、必修で学んだ文法を総復習し、「得点できる力」へと整理・定着させます。過去問に取り組みながら、文法・語形変化・語彙を体系化し、読解・聴解に加えて、和訳・露訳などの基礎的な運用力も高めていきます。

【到達目標】

毎年5月・10月に実施されるロシア語能力検定試験に合格するため、以下を達成する。1) 基礎文法を習得し、確実に運用できる。2) テキスト内容を的確に把握し、検定形式の問題を解ける。3) 様々な短文・文章を和訳できる。4) 検定レベルのリスニング問題を解ける。5) 文章を正確に、一定の速度で音読できる。6) 基礎的な表現を用いて簡単な実践会話ができる。7) 語彙を増やし、和訳・露訳の精度を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語能力検定試験4級3級の合格を目標に、基礎文法を総復習して確実に運用できる力を固めます。授業は対策問題・過去問演習を中心に進め、必須文法の習得、検定形式の読解・演習問題への対応力を養います。あわせて和訳・露訳に取り組み、語彙力の強化を行いながら訳の精度を高めます。リスニング演習と発音を意識した音読練習も実施します。課題へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、基礎文法の復習	オリエンテーション、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	名詞と人称代名詞	名詞の性別と複数形、人称代名詞、名詞の格変化
第3回	形容詞、所有代名詞と指示代名詞	形容詞、所有代名詞と指示代名詞、その格変化
第4回	動詞（時制の表現）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	副詞、無人称文、テキスト読解	副詞、無人称文、テキスト読解
第6回	時制を表す表現、疑問詞	時制を表す表現、疑問詞とその返答
第7回	運動の動詞	1) 運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）2) 「(歩いて・乗り物で) 運ぶ」「連れて行く」
第8回	動詞の命令形	3 パターンの命令形（完了体・不完了体含む）
第9回	比較級	主に単一比較級

第10回	関係代名詞	関係代名詞、関係副詞、接続詞
第11回	数詞（主格・対格）	数詞（数詞と名詞の変化）
第12回	テキストの音読練習	スピーキング力、リーディング力強化（音読はアクセント記号の付いていないテキスト）
第13回	リスニング	リスニング（過去問を時間内で解く練習）
第14回	和文露訳	和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎文法の復習、過去問題と対策問題の予習復習、単語の暗記、音読練習、ラジオ講座やロシア関連のネット音声の聴解など、検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み、単語ミニテストなど）70%、提出物の評価（課題や宿題等の提出）30%で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。「検定」は、東京ロシア語学院主催のロシア語能力検定試験4級3級（毎年5月10月実施）を想定しております（ロシア連邦教育科学省認定ロシア語検定試験（ТРКИ）受験の希望者は要相談）。検定試験を受験し、合格を目指してください。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course is for students who have completed Elementary Russian and aim to move toward intermediate study. Students prepare for the Russian Language Proficiency Test (Levels 4– 3) to make their progress visible and strengthen core skills through exam-style practice and past papers.

【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to: Apply core grammar and basic inflection patterns accurately. Solve reading and listening tasks in the exam format. Expand essential vocabulary for comprehension and translation. Translate short texts (Russian – Japanese / Japanese – Russian). Read short texts aloud accurately and at an appropriate pace.

【Learning activities outside of classroom】Students review grammar/vocabulary and complete assigned practice (past papers/model questions) before and/or after each class.

【Grading Criteria / Policy】Ongoing performance 70% (participation, preparation/review, vocabulary mini-quizzes); assignments/submissions 30% (grammar exercises, translation tasks, and, when assigned, audio submissions such as recitation/read-aloud).

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語コミュニケーション基礎Ⅰ 2017年度以降入学者

楊 心苗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とし、発音・語彙・基本文法を土台として、「聞く」「話す」を中心とした実践的な言語活動を行う。日常生活に身近な場面を想定した練習を通して、中国語でやり取りするための基礎力を身につける。本授業を通して、中国語の基礎知識を用いて簡単な中国語で自分の考えを伝える力を身につける。また、対話活動を通して外国語によるコミュニケーションへの理解と自信を深め、今後の中国語学習や異文化理解の基礎を築くことを目的とする。

【到達目標】

1. 中国語の基礎的な発音・語彙・文法を理解し、日常生活に身近な場面において簡単な中国語によるやり取りができる。
2. 基本的な聞く・話す活動を通して、相手の発話の要点を理解し、自分の考えや意図を簡単な中国語で伝えることができる。
3. 中国語による対話活動に積極的に参加し、外国語でコミュニケーションを行うことへの理解と自信を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。発音・語彙・基本文法の確認を行ったうえで、指定テキストを用いた聞く・話す活動、ペアワークやグループワークなどの対話練習に取り組む。また、日常生活に身近な場面を想定したロールプレイや簡単な発表活動を取り入れ、実際のコミュニケーションを重視した授業を行う。教員は活動の進行に応じて適宜フィードバックを行い、理解の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の目的および意義を共有するとともに、授業の進め方や成績評価方法について説明を行う。また、受講生の中国語学習歴や習熟度を確認する。
2	レッスン1	ウォームアップ
3	レッスン2	第一課 挨拶する・自分の身分、出身地などを言う、相手に尋ねる
4	レッスン3	会話練習
5	レッスン4	第二課 名前を言う、尋ねる・大学での所属・専攻を言う
6	レッスン5	会話練習
7	レッスン6	第三課 レストランで食べたいものを尋ねる、言う
8	レッスン7	会話練習
9	レッスン8	第四課 感想を尋ねる、言う

10	レッスン9	会話練習
11	レッスン10	第五課 年月日・曜日・時刻を尋ねる、言う
12	レッスン11	会話練習
13	レッスン12	総括
14	期末テスト	第一課から第五課までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、指定テキストの該当箇所を読み、語彙・表現・文型を確認するとともに、発音練習や会話例の音読を行う。必要に応じて、授業内で指示された練習問題や課題に事前に取り組む。復習としては、授業で扱った表現や文法事項の整理、聞く・話す活動で使用した表現の反復練習を行い、理解の定着を図る。また、授業内で提示される宿題（練習問題等）にも取り組む。本授業の準備学習および復習に要する時間は、それぞれ1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

綾部武彦ほか『晴れ晴れ中国語』（朝日出版社）2024年 ISBN 978-4-255-45385-9

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点を50%（授業への積極的な参加、対話活動への取り組み、課題の達成状況など）、期末課題を50%とし、合計100点満点で評価する。本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新規開講のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

This course aims to develop students' basic communicative competence in Chinese through practical language activities focused primarily on listening and speaking, based on pronunciation, vocabulary, and basic grammar. Through practice in everyday, familiar situations, students will acquire the foundational skills needed to communicate in Chinese. Through this course, students will develop the ability to express their own ideas in simple Chinese using basic language knowledge. In addition, through dialog-based activities, students will deepen their understanding of foreign-language communication, build confidence, and establish a foundation for further Chinese language study and intercultural understanding.

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語コミュニケーション基礎Ⅱ 2017年度以降入学者

楊 心苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とし、発音・語彙・基本文法を土台として、「聞く」「話す」を中心とした実践的な言語活動を行う。日常生活に身近な場面を想定した練習を通して、中国語でやり取りするための基礎力を身につける。本授業を通して、中国語の基礎知識を用いて簡単な中国語で自分の考えを伝える力を身につける。また、対話活動を通して外国語によるコミュニケーションへの理解と自信を深め、今後の中国語学習や異文化理解の基礎を築くことを目的とする。

【到達目標】

1. 中国語の基礎的な発音・語彙・文法を理解し、日常生活に身近な場面において簡単な中国語によるやり取りができる。
2. 基本的な聞く・話す活動を通して、相手の発話の要点を理解し、自分の考えや意図を簡単な中国語で伝えることができる。
3. 中国語による対話活動に積極的に参加し、外国語でコミュニケーションを行うことへの理解と自信を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。発音・語彙・基本文法の確認を行ったうえで、指定テキストを用いた聞く・話す活動、ペアワークやグループワークなどの対話練習に取り組む。また、日常生活に身近な場面を想定したロールプレイや簡単な発表活動を取り入れ、実際のコミュニケーションを重視した授業を行う。教員は活動の進行に応じて適宜フィードバックを行い、理解の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レッスン1	第六課 趣味について尋ねる、言う
2	レッスン2	会話練習
3	レッスン3	第七課 約束を交わす
4	レッスン4	会話練習
5	レッスン5	第八課 所在を言う、尋ねる・道案内をする
6	レッスン6	会話練習
7	レッスン7	第九課 買いたいものを伝える・値段を尋ねる、言う
8	レッスン8	会話練習
9	レッスン9	第十課 電話でのやり取り・体調について尋ねる、言う
10	レッスン10	会話練習
11	レッスン11	第十一課 経験を述べる・したことについて説明する
12	レッスン12	会話練習
13	レッスン13	総括

14 期末テスト

第六課から第十二課までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、指定テキストの該当箇所を読み、語彙・表現・文型を確認するとともに、発音練習や会話例の音読を行う。必要に応じて、授業内で指示された練習問題や課題に事前に取り組む。復習としては、授業で扱った表現や文法事項の整理、聞く・話す活動で使用した表現の反復練習を行い、理解の定着を図る。また、授業内で提示される宿題（練習問題等）にも取り組む。本授業の準備学習および復習に要する時間は、それぞれ1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

綾部武彦ほか『晴れ晴れ中国語』（朝日出版社）2024年 ISBN 978-4-255-45385-9

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点を50%（授業への積極的な参加、対話活動への取り組み、課題の達成状況など）、期末課題を50%とし、合計100点満点で評価する。本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新規開講のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

This course aims to develop students' basic communicative competence in Chinese through practical language activities focused primarily on listening and speaking, based on pronunciation, vocabulary, and basic grammar. Through practice in everyday, familiar situations, students will acquire the foundational skills needed to communicate in Chinese. Through this course, students will develop the ability to express their own ideas in simple Chinese using basic language knowledge. In addition, through dialog-based activities, students will deepen their understanding of foreign-language communication, build confidence, and establish a foundation for further Chinese language study and intercultural understanding.

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語コミュニケーション初級Ⅰ 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかりと覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明
第2回	発音	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第4回	人称代名詞と指示代名詞 会話（1）	文法を確認したのち、自己紹介の練習をする
第5回	述語 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を発表する
第6回	受け答え	「是」その他
第7回	場所と方位	在と有
第8回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語を学ぶ
第9回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方 レストランでの会話を作成する
第10回	連用修飾語 授業内発表（2）	副詞と時間詞を学ぶ 講師と一対一またはグループでレストランでの会話をする
第11回	完了と変化 会話（3）	「了」の様々な知る 買い物する時の会話パターンを作成する
第12回	助動詞と前置詞構造 授業内発表（3）	文法を確認したのち、講師と一対一またはグループで買い物のシミュレーションをする
第13回	三量補語	三量補語と離合詞
第14回	まとめ及び期末テスト	文法をまとめ、会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回1時間ほどの予習・復習をする。

また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

発表：40%

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

受講者それぞれのレベルの差に配慮をする。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should talk the Chinese language by accurate pronunciation,

and talk the Chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。

日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	持続態と進行形を確認したのち、 「私の夏休み」を作成する
第2回	程度補語 作文の添削	程度補語を確認したのち、作文 の添削をする
第3回	比較と連動	比較文と連動文
第4回	構文分析	構文分析と助動詞の補説
第5回	強調と重複 会話（1）	強調文と重複表現 待ち合わせの会話を作る
第6回	方向補語 授業内発表（1）	方向補語の用法 待ち合わせの会話の発表
第7回	複合方向補語の用法	複合方向補語の派生的用法
第8回	結果補語	結果補語の説明
第9回	可能補語 会話（2）	可能補語の説明 道を尋ねる・教える会話の作成
第10回	使役と受身 授業内発表（2）	使役と受身の確認と比較 道を尋ねる・教える会話の発表
第11回	処置と倒置	処置文と倒置文
第12回	複文一	複文の様々な知る
第13回	複文二	複文の後半
第14回	まとめ	口頭による試験を行う まとめ と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週1時間を目途に予習・復習する。

単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。

また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

発表：40%

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

受講者それぞれのレベルの差に配慮する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should do the exercise of reading, writing, listening and talking.

We should talk the Chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

presentation:40%

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

資格中国語初級 I

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK (図々水平考図) 1級～3級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的ですが、例年レベルが高い学生が多いため、春学期中に2～3級、秋学期中に3～4級に合格できるよう指導します。HSKのリスニングは難しいので、中国検定準4級程度からトレーニングを始めていきます。向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。中国語を1年以上履修した学生に限ります。中国語が好きな人が集まりますので、気軽に情報交換できる楽しいクラスを目指します。毎年全員が高得点で合格しています。

【到達目標】

春学期はHSK 2～3級に合格できるリスニング力と読解力を身につけてもらいます。秋学期はHSK3～4級合格を目指します。昨年の3級合格者は7名でした。平均点は247点で、内訳は、聴力78点、閱讀86点、写作83点でした。日本人が苦手の聴力の得点も良好で、閱讀では4人が100点（満点）でした。また4級には4人合格しました。履修者は2年生が多いですが、就活を終えた4年生もいます。1年生のとき使用した教科書ポイント学習を復習しながら、初級中国語の基礎文法のしくみを解説します。必ずレベルアップを感じていただけたと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

HSKの過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。単語帳のテキストを使って、単語テストを行い、語彙力を高めます。ポイント学習の教科書を使って初級中国語の文法の構造を把握し理解します。フィードバックは授業内とメールで行います。メールは、qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK 1 級過去問①	HSK 1 過去問①を解き解説します。
3	HSK 1 過去問②	HSK 1 過去問②を解いて解説します。
4	HSK 2 過去問①	HSK 2 過去問①を解いて解説します。
5	HSK 2 過去問②	HSK 2 過去問②を解いて解説します。
6	HSK 2 級過去問③	HSK 2 級過去問③を解いて解説します。
7	HSK 2 級過去問④	HSK 2 級過去問④を解いて解説します。
8	HSK 3 級過去問①	HSK 3 級過去問①を解いて解説します。

9	HSK 3 級過去問②	HSK 3 級過去問②を解いて解説します。
10	HSK 3 級過去問③	HSK 3 級過去問③を解いて解説します。
11	HSK 3 級過去問④	HSK 3 級過去問④を解いて解説します。
12	HSK 3 級過去問⑤	HSK 3 級過去問⑤を解いて解説します。
13	HSK 3 級過去問⑥	HSK 3 級過去問⑥を解いて解説します。
14	春学期復習と学習のまとめ	復習テストと学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

過去問はプリントを配布します。法政大学のHSK合格講座のサイトも活用します。次のテキストを使用します。履修を決めてから購入してください。HSK/中検対応『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。ポイント学習中国語を毎回持参してください。

【参考書】

HSK過去問、HSK公式アプリ単語、法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】

出席状況80%と期末テスト20%で評価します。HSK合格者は、S評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

単語帳テキストを使って、単語テストを実施し、語彙力を高めます。同時にリスニングのトレーニングを多く行います。文法がもっとわかるようになりたいという要望が多いので、ポイント学習中国語を使って解説します。文法の基礎と構造を理解していただけるように工夫します。プリント教材の質を向上させて、復習しやすいように心がけます。また欠席者が困らないように、授業内容は、hoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマホ

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

資格中国語初級Ⅱ

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK 3－4級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎しますが、春学期のシラバスを読んで、初回の授業に出てから履修を決めてください。中国語が好きで意欲的な学生の参加を歓迎します。

【到達目標】

HSK 3－4級合格以上を目指します。昨年は4級は4人合格しました。詳細は春学期のシラバスをご覧ください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プリント教材を使って、HSK 3－4級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。そのほか単語帳とポイント学習中国語の教科書で初級文法の構造を解説します。フィードバックは授業内とメールで行います。qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HSK 3級昨年度の過去問を使ったレベルチェックテスト	HSK 3級昨年度の過去問を使って皆さんのレベルをチェックします。
2	HSK 3級過去問①	HSK 3級過去問①を解いて解説します。
3	HSK 4級単語解説	HSK 4級に出る単語を解説します。
4	HSK 4級過去問リスニングチェックテスト①	HSK 4級過去問リスニングを解いてリスニング力をチェックします。
5	HSK 4級過去問リスニング②	HSK 4級過去問リスニング②を解いて解説します。
6	HSK 4級過去問リスニング③	HSK 4級過去問リスニング③を解いて解説します。
7	HSK 4級過去問リスニング④	HS 4級過去問④を解いて解説します。
8	HS 4級過去問閱讀①	HSK 4級過去問閱讀①を解いて解説します。
9	HSK 4級過去問閱讀②	HSK 4級過去問閱讀②を解いて解説します。
10	HSK 4級過去問閱讀③	HSK 4級過去問③を解いて閱讀の解説します。
11	HSK 4級過去問閱讀④	HSK 4級過去問閱讀④を解いて、閱讀の解説をします。
12	HSK 4級過去問作文①	HSK 4級過去問の2作文練習をします。
13	HSK 4級過去問	HSK 4級過去問の作文②を学習します。

14 授業の総まとめ期末テスト実施 期末テスト実施、解説をしながら学習の総まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布します。プリント以外に、次の単語帳テキストを使用します。

『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。またポイント学習中国語を持参することが望ましいです。

【参考書】

HSK－4 3級過去問、単語集。法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】

出席状況80%、期末テスト20%で評価します。HSK 3級以上合格者はSランクで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

欠席者が困らないように、授業内容はhoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、PC。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200）

中国語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

高柳 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ことばは一般に「コミュニケーションのための手段」と見なされることが多いですが、ことばが使われる時、その背後には整然としたしくみが存在しています。本授業は、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった分野に分けて学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解するところこそが本授業の目的です。

【到達目標】

中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得すること、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	中国語の文字（１）	漢字の起源と変遷
③	中国語の文字（２）	漢字の簡略化及び文字改革と簡体字
④	中国語の音韻（１）	古代の音とその表記法
⑤	中国語の音韻（２）	古代の音から現代の音へ
⑥	中国語の音韻（３）	ピンインの成立とその表記法
⑦	中国語の語彙（１）	古代の語彙とその分類
⑧	中国語の語彙（２）	古代の語彙から現代の語彙へ
⑨	中国語の語彙（３）	日中語彙交流と外来語・新語・流行語
⑩	中国語の文法（１）	中国語の文構造と品詞分類
⑪	中国語の文法（２）	中国語文法研究の変遷
⑫	共通語と方言（１）	共通語の成立と広がり
⑬	共通語と方言（２）	共通語と諸方言の比較
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】

参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、期末試験（70％）とします。

※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、小レポート等が含まれます。

※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。

※リアクションペーパーと期末試験は日本語で回答することが必須となります。

【学生の意見等からの気づき】

前年度よりもベースを落として、じっくり進めていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。

なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .

【Learning activities outside of classroom】

4 hours for preparation and review for each class.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 70%、Short reports and in class contribution: 30%

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

中国語の世界ⅡB

2017年度以降入学者

サブタイトル：

高柳 浩平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続いて本授業では、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解することこそが本授業の目的です。

【到達目標】

中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得することと、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	類型論からみる中国語（１）	形態的類型論における中国語
③	類型論からみる中国語（２）	語順類型論における中国語
④	中国語文法の分析（１）	中国語と西洋文法の受容
⑤	中国語文法の分析（２）	中国語とアスペクト
⑥	中国語文法の分析（３）	中国語と補語
⑦	中国語文法の分析（４）	中国語と類像性
⑧	中国語史（０）	中国語史における時代区分
⑨	中国語史（１）	上古中国語の特徴
⑩	中国語史（２）	中古早期中国語の特徴
⑪	中国語史（３）	中古中国語の特徴
⑫	中国語史（４）	近代中国語の特徴
⑬	応用演習	中国語と能格性
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】

参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、期末試験（70％）とします。

※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、小レポート等が含まれます。

※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。

※リアクションペーパーと期末試験は日本語で回答することが必須となります。

【学生の意見等からの気づき】

前年度よりもペースを落として、じっくり進めていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。

なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .

【Learning activities outside of classroom】

4 hours for preparation and review for each class.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 70%, Short reports and in class contribution: 30%

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

中国の文化と社会 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。

日本と台湾は長い歴史の中で深いかかわりを持っています。

本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】

日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部
：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィード
バックします。

最終回には教場レポートを提出してもらいます。

出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定と
なります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第1回） 教員による解説・講義
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第3回） 教員による解説・講義

第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめとレポート	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。
映画は各自で観てください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60%、レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese culture and society
by using various materials such as movies.Before/after each class meeting, students will be expected to
spend four hours to understand the course content.Final grade will be calculated according to the following
Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 200)

中国の文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その国の文化と社会を映し出します。

今期では、2008年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として香港の社会と文化についてみていきます。

【到達目標】

中国香港の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。

最終回には教場レポートを提出してもらいます。

出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 序章』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 序章』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 序章』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 葉問』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 葉問』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 葉問』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン 継承』（第1回） 教員による解説・講義

第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン 継承』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン 継承』（第3回） 教員による解説・講義
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン 外伝』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン 外伝』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン 外伝』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。映画は各自で観てきてください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、毎回のコメントペーパー）60%、レポート40%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

中国の文化と社会 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳 瀟瀟

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中国の文化および社会に関する基礎知識を体系的に学ぶ。中国の食文化、民俗行事、芸術工芸、文化遺産などの伝統文化を概観するとともに、現代中国社会における学校教育、社会構造、生活様式、流行文化などについても取り上げ、具体的な事例を交えながら理解を深める。これらの学習を通じて、中国文化の多様性と現代中国社会の実態を多角的に捉える視点を養い、異文化に対する理解力および国際社会における異文化交流能力の向上を目的とする。

【到達目標】

- ・中国の文化および社会に関する基礎的な知識を習得する。
- ・中国社会における諸事象を理解し、その背景を踏まえて分析・考察する力を養う。
- ・中国のマナー、文化習慣、商習慣に対する理解を深める。
- ・現代中国社会の事象や流行を、客観的かつ多角的な視点で捉える力を養う。
- ・異文化理解力および異文化交流能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションも行う。課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムを通じて行う。
※授業は対面で実施する。授業形態に変更がある場合は、大学の方針が確定次第、学習支援システムにて随時通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスおよび授業内容の説明 ・授業計画、進め方および成績評価の基準の説明
第2回	行政区画・地理	・中国の東西南北と地理の概念 ・地域ごとの特徴と差
第3回	漢民族と少数民族	・漢民族 ・少数民族
第4回	中国語という言葉	・漢字の歴史と発展 ・普通話と方言
第5回	食文化	・中華料理の特徴 ・「南北」の食文化の違い ・円卓文化の理解 ・デリバリー文化の流行
第6回	コミュニケーション文化1	・茶文化 ・酒文化
第7回	コミュニケーション文化2	・中国におけるビジネスマナー ・「面子（メンツ）」の概念と理解
第8回	祝祭日と民俗行事	・二十四節気と祝祭日 ・民俗行事

第9回	芸術：音楽、絵画と戯曲	・音楽：燕楽、琴楽、民謡 ・絵画：花鳥画、山水画 ・戯曲：昆劇、京劇、川劇
第10回	学校教育	・「科挙」と「高考」 ・現代中国の教育制度 ・都市と農村における教育格差
第11回	「巻」と「躺平」	・「巻」の概念 ・「躺平」の意味と背景 ・若者世代の現状と特徴
第12回	「二次元文化」と「国潮」	・急成長する二次元文化 ・新しいカルチャー「国潮」
第13回	異文化コミュニケーション	・異文化コミュニケーションのギャップ ・異文化コミュニケーションスキル ・プレゼンテーション・ディスカッション ・プレゼンテーション・ディスカッション
第14回	授業内容のまとめレポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に、学習支援システムにアップロードされた講義資料を必ず読んでおくこと。
・授業後は、関連知識を振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で提示される課題やディスカッションの内容に対応すること。

【テキスト（教科書）】

本授業では特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布するほか、講義資料は事前に学習支援システムにアップロードされる場合があり、その際は同システムで通知する。

【参考書】

中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
楼宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60%、期末レポートを40%として合計100点満点とする。
- ・上記の成績評価に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解を深めるため、音声・映像などのマルチメディアを積極的に活用する。
私語を控え、授業に集中しやすい学習環境を整える。
学生が学んだ知識を今後の仕事や日常生活に活かせるように、本授業では中国の文化と社会に加え、異文化交流や国際社会における礼儀・マナーも一取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセス可能なパソコンまたはタブレット。

【その他の重要事項】

学習支援システムにて本授業の連絡事項を必ず確認すること。
質問や不明点がある場合は、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jp までご連絡ください。

【Outline (in English)】

This course aims to provide a systematic introduction to Chinese culture and society. It covers key aspects of traditional culture, including food culture, folk customs, arts and crafts, and cultural heritage, while also examining contemporary Chinese society through topics including education, social structure, lifestyles, and popular culture. Through these explorations, the course aims to deepen students' understanding of cultural diversity and contemporary social realities in China, and to enhance their intercultural awareness and cross-cultural communication skills in a global context.

【Learning Objectives】

- Acquire fundamental knowledge of Chinese culture and society.
- Analyze and interpret various aspects of Chinese society in context.
- Develop an understanding of Chinese manners, cultural practices, and business customs.
- Develop the ability to view contemporary Chinese society phenomena and trends from an objective and multifaceted perspectives.
- Enhance intercultural understanding and cross-cultural communication skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class session, for a total of four hours per session.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be based on in-class participation (60%) and term-end report (40%). A total score of 60% or higher is required to pass the course.

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会 L D 2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳 瀟瀟

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中国の文化および社会に関する基礎知識を体系的に学ぶ。まず、中国の宗教、文学、美術工芸、世界遺産、冠婚葬祭などを概観し、歴史的・文化的背景を理解する。次に、現代中国社会に焦点を当て、情報化やグローバル化に伴う価値観の変化、消費行動の変化、ジェンダー構造の変容について考察する。これらの学習を通じて、中国の文化と社会の特徴を理解し、その変遷を多角的に捉える力を養うことを目指す。また、異文化理解と異文化交流の視点を深めるとともに、自らの考えを発展させるとともに、国際社会での異文化交流能力の向上を目的とする。

【到達目標】

- ・中国の文化および社会に関する基礎的な知識を習得する。
- ・中国社会の諸事象を理解し、その背景を踏まえて分析・考察する力を養う。
- ・中国の冠婚葬祭に関するマナーや文化習慣への理解を深める。
- ・現代中国社会の事象や流行を、客観的かつ多角的な視点から捉え、自らの考えを発展させる。
- ・異文化理解および異文化交流能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションも行う。課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムにて行う。

※授業は対面で実施する。授業形態に変更がある場合は、大学の方針が確定次第、学習支援システムに随時通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教	・民間信仰と祖先崇拜 ・道教と仏教
第2回	文学	・古代文学 ・唐詩と宋詞 ・近現代文学
第3回	美術工芸	・ガラス工芸 ・陶器、磁器、景泰藍 ・刺繍
第4回	中国の世界遺産 1	・故宮 ・万里の長城 ・始皇帝陵と兵馬俑
第5回	中国の世界遺産 2	・パンダ保護区群 ・莫高窟、龍門石窟、雲岡石窟、大足石刻 ・九寨溝、黃龍、黃山、桂林
第6回	冠婚葬祭	・結婚式 ・葬儀

第7回	SNSとショート動画	・SNSと「自媒体」 ・ショート動画の急成長 ・娯楽性と実用性
第8回	消費行動の変化	・店頭購入とネットショッピング ・爆買いから理性消費へ ・モノ消費からコト消費へ
第9回	ジェンダー構造の変容とフェミニズム	・男尊女卑と男女平等 ・フェミニズム ・ジェンダー構造の変容
第10回	異文化コミュニケーション 1	・カルチャーショック ・異文化受容と異文化適応 ・自文化の変容
第11回	プレゼンテーション・ディスカッション 1	・カルチャーショック ・異文化理解・自文化理解 ・ディスカッション
第12回	異文化コミュニケーション 2	・多文化社会とは ・多文化共生へ ・マイノリティへの理解
第13回	プレゼンテーション・ディスカッション 2	・プレゼンテーション ・ディスカッション
第14回	授業内容のまとめレポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に、学習支援システムにアップロードされた講義資料を必ず読んでおくこと。
・授業後は、関連知識を振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で提示される課題やディスカッションの内容に対応すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布するほか、講義資料は事前に学習支援システムにアップロードされる場合があり、その際は同システムで通知する。

【参考書】

中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
樓宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60%、期末レポートを40%として合計100点満点とする。
- ・上記の成績評価に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解を深めるため、音声・映像などのマルチメディアを積極的活用する。
私語を控え、授業に集中しやすい学習環境を整える。
学生が学んだ知識を今後の仕事や日常生活に活かせるように、本授業では中国の文化と社会に加え、異文化交流や国際社会における礼儀・マナーも取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセス可能なパソコンまたはタブレット。

【その他の重要事項】

学習支援システム上の本授業の連絡事項を必ず確認すること。
不明な点がある場合、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jpまでご連絡ください。

【Outline (in English)】

This course provides a systematic introduction to Chinese culture and society. It covers traditional culture, including religion, literature, arts and crafts, World Heritage sites, and life-cycle rituals, with a focus on their historical and cultural contexts. The course also explores contemporary society, examining changes in values, consumer behavior, and gender structures. Through these studies, students will develop a multifaceted understanding of Chinese culture and society, foster critical thinking, and enhance intercultural understanding and communication skills.

【Learning Obejectives】

- ・ Acquire fundamental knowledge of Chinese culture and society.
- ・ Understand various aspects of Chinese society and develop the ability to analyze them in context.
- ・ Gain a deeper understanding of etiquette and cultural practices related to Chinese life-cycle rituals.
- ・ Critically analyze contemporary Chinese society and trends and develop personal perspectives.
- ・ Develop intercultural understanding and cross-cultural communication skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend approximately four hours per session on preparation and review.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be based on in-class participation(60%) and term-end report (40%). A total score of 60% or higher is required to pass the course.

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

スペイン語コミュニケーションⅠ 2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、仲間と練習する。次に暗記した表現をベースにしてモデル文章を書き換えて発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación personal y del curso	自己紹介の方法を学ぶ。 授業概要
2	El patio cordobés 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	El patio cordobés 2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	La Alhambra 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	La Alhambra 2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	Las universidades de Hispanoamérica 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	Las universidades de Hispanoamérica 2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	Encuentro culinario en Perú 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	Restaurantes peruanos en Tokio	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

10	El Gaucho 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	El Gaucho 2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	El maíz	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	El origen del maíz	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	試験・まとめと解説	期末試験を実施し、今学期のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者はペアで練習を行うので、予習をしっかりと行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した8個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

23 lecturas de español con CD-ROM

N. Iziri, M. Hayashi, Y. Tajiri

Editorial Asahi

【参考書】

辞書(電子辞書可)

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

教師が用意した教材を改善し、生徒間でより良いコミュニケーションを実現するために生徒間で信頼できる環境を作ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examination.

Regular point evaluation: 50%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Midterm exam: 20%.

Final oral exam: 30%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pair, so they are expected to prepare well and actively participate in class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、仲間と練習する。次に暗記した表現をベースにしてモデル文章を書き換えて発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso.	授業の説明。
2	Historia de Madrid I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	Los primeros pobladores de América I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	Los primeros pobladores de América II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	La Pampa - Argentina I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	La Pampa - Argentina II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	Perú antes de los incas I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	Perú antes de los incas II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	El lago Titicaca I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	El lago Titicaca II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

11	Mi mejor regalo	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	La Navidad Intercambio de regalo	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	Año Nuevo. Eventos del año nuevo en Sudamérica	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	試験・まとめと解説	期末試験を実施し、今学期のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者はペアで練習を行うので、予習をしっかりと行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した8個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

23 lecturas de español con CD-ROM
N. IZIRI, M. HAYASHI, Y. TAJIRI
Editorial ASAHI

【参考書】

辞書(電子辞書可)

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

教師が用意した教材を改善し、生徒間でより良いコミュニケーションを実現するために生徒間で信頼できる環境を作ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examination.

Regular point evaluation: 50%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Midterm exam: 20%.

Final oral exam: 30%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pair, so they are expected to prepare well and actively participate in class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

現代のスペイン語Ⅰ

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

定員制(30)

2021年度までに「時事スペイン語Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。随時、初級文法の復習をおこなっていき、また、この授業では、スペイン語圏の文化や社会にも光をあてつつ、その歴史と現状について学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項の復習を中心に見ていく。随時小テストを行なうことによって、学生の理解度の把握に努める。採点済みの答案用紙は返却し、答え合わせをしながら基本的な文法事項のふりかえりに努める。質問や提出された課題に関するフィードバックは次回授業のなかで行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法現在	直説法現在を使った文章を読解する。
4	再帰動詞	再帰動詞を使った文章を読解する。
5	現在分詞および進行形	現在分詞と進行形を使った文章を読解する。
6	過去分詞および点過去	過去分詞と点過去を使った文章を読解する。
7	線過去	線過去を使った文章を読解する。
8	直説法現在完了および過去完了	直説法現在完了と直説法過去完了を使ったペルーの古代遺跡マチュ・ピチュに関する文章を読解する。
9	指示詞と所有詞の復習	指示詞と所有詞を使った文章を読解する。
10	受動表現の復習	受動表現を使った文章を読解する。
11	比較表現の復習	比較表現を使った文章を読解する。

12	無人称表現の復習	無人称表現を使った文章を読解する。
13	春学期のまとめ	春学期に学んだ文法事項の復習を行う。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フィエスタ！ フィエスタ！』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline (in English)】

A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class. The learning objective of this course is to enable students to read and comprehend texts about Spanish-speaking cultures and societies with the aid of a dictionary. The standard time for preparation and review for this class is one hour total. The grading criteria are 40% for regular assignments and 60% for the final exam.

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

現代のスペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

結城 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

定員制(30)

2021年度までに「時事スペイン語Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的な文法・語彙に関する知識を持つ学生に対して、スペイン語の文章を理解する力を培います。これとともに、中級レベルの文法を学び、現代のスペイン語圏の諸相とその背後にある文化や歴史について学びます。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできる力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が文章の背景等に関する説明を行った後、学生が音読、訳読し、教員が解説する。その後、関係する語彙、文法事項に関する説明を行う。課題等に対するフィードバックは授業中、またはLMSにて適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方、復習	授業の進め方を確認し、これまでの学習内容を復習する。
第2回	El Día de la Raza	「民族の日」に関する文章を読む。
第3回	点過去、線過去、過去完了	点過去、線過去、過去完了について学ぶ。
第4回	El Día de Muertos	「死者の日」に関する文章を読む。
第5回	定冠詞+関係代名詞que、過去分詞の形容詞用法	定冠詞+関係代名詞que、過去分詞の形容詞用法について学ぶ
第6回	La Navidad	クリスマスに関する文章を読む。
第7回	比較級と最上級	比較級と最上級について学ぶ。
第8回	El Día de Reyes	「主の御公現の祝日」に関する文章を読む。
第9回	受動文と不定人称文	受動文と不定人称文について学ぶ。
第10回	El Carnaval de Oruro	「オルロのカーニバル」に関する文章を読む。
第11回	推量と未来を表す時制、主格補語と目的格補語	推量と未来を表す時制、主格補語と目的格補語について学ぶ。
第12回	La Fiesta Nacional de la Vendemia	「ブドウ収穫祭」に関する文章を読む。
第13回	過去未来	過去未来の用法について学ぶ。
第14回	テストとまとめ	期末テストを実施し、この授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必ず行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村上陽子他『フィエスタ！ フィエスタ！ ―解きながら読むスペイン語圏の12ヶ月―』朝日出版社、2017年、2,530円

【参考書】

指定しませんが、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、課題と期末テスト50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規に授業を担当するためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

準備学習、授業、各種テスト、課題実施時に生成AIを使用することはできません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to develop students' ability to comprehend Spanish texts, building on their foundational knowledge of Spanish grammar and vocabulary. At the same time, students will study intermediate-level grammar and explore various aspects of contemporary Spanish-speaking societies, as well as the cultural and historical backgrounds that shape them.

【Learning objectives】

This course aims to develop students' ability to read and understand texts related to the culture and society of the Spanish-speaking world with the aid of a dictionary.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to complete both preparation and review of the textbook materials used in class. The standard time allocated for preparation and review combined is approximately one hour per class session.

【Grading criteria】

Grading will be based on the following components: 50% class participation and in-class performance, and 50% assignments and the final examination.

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

スペイン語の世界 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語圏で製作された映画を通じて、スペイン語圏の文化や社会、歴史について学びます。映画の中に出てくるスペイン語の台詞解説によって、スペイン語学習者にとっては、スペイン語による表現のさらなる理解につながります。また、スペイン語を学んでいない方にとっては、スペイン語の発音や文法に触れる絶好の機会となり、いずれにしても本授業は異文化理解の糸口となります。

【到達目標】

*日本で公開されたスペイン語圏の代表的な映画について、それぞれの内容と社会・文化・歴史的背景を踏まえて理解できるようになる。

*映画の内容について、自国とスペイン語圏の比較も交えた意見交換や議論ができるようになる。

*スペイン語圏の映画について、その魅力を他者に伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

取り上げる映画についての講義授業の回と学生が演習・発表する授業の回を交互に行います。各回で取り上げる映画はすべて、大学の視聴覚ライブラリーに所蔵しているため、受講生は予習・復習のために各自で視聴することができます。映画はすべて日本語字幕が付いているものを活用し、スペイン語の台詞については丁寧な解説を行うため、スペイン語学習経験がなくても、受講に問題はありませぬ。スペイン語圏に関心がある方なら大歓迎です。

演習・発表の回では、受講生によるプレゼンテーションとグループ（ペア）ワークを行うことで、取り上げる映画作品とテーマについてさらに理解を深めたり、他人の意見によって新たな気づきを得ることができます。

リアクションペーパーへのコメントや質問には、授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説とオリエンテーション
2	ピクトル・エリセ監督作品（講義）	『ミツバチのささやき』『エル・スール』の中のスペイン語
3	ピクトル・エリセ監督作品（演習）	ピクトル・エリセ監督作品について学生による発表
4	ディズニーが描くメキシコ（講義）	『リメンバー・ミー』の台詞とスペイン語
5	ディズニーが描くメキシコ（演習）	『リメンバー・ミー』について学生による発表

6	カルロス・サウラ監督1（講義）	『カラスの飼育』『ゴヤ』の台詞とスペイン語
7	カルロス・サウラ監督2（演習）	『ゴヤ』とカルロス・サウラ監督について学生による発表
8	ペドロ・アルモドバル監督1（講義）	『ボルベール』の台詞とスペイン語
9	ペドロ・アルモドバル監督2（演習）	『ボルベール』とペドロ・アルモドバル監督について学生による発表
10	ギジェルモ・デル・トロ監督（講義）	『パンズ・ラビリンズ』の台詞とスペイン語
11	ギジェルモ・デル・トロ監督（演習）	『パンズ・ラビリンズ』とギジェルモ・デル・トロ監督について学生の発表
12	トマス・グティエレス監督（講義）	『低開発の記憶』『苺とチョコレート』の台詞とスペイン語
13	トマス・グティエレス監督（演習）	『苺とチョコレート』とトマス・グティエレス監督についての学生の発表
14	今学期の総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。授業で取り上げる映画作品は、AVライブラリーに所蔵しているため、授業時間外に各自でも視聴する事を強く勧めます。また、発表を担当する作品については映像資料だけでなく、文献を調べて十分な時間をかけて準備することが必要です。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

柳原孝敦『映画に学ぶスペイン語』教育評論社、2021年、2,200円（税込）

【成績評価の方法と基準】

コメントシート・授業貢献度による平常点（60％）と発表（40％）をめやすに、総合的に評価します。3回以上の欠席は成績「不可」となります。なお、15分以上の遅刻は2回で1回分の欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

取り上げる映画について、最新情報も踏まえながら再検討します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn about the culture, society, and history of Spanish-speaking countries through movies produced in them.

It also explains the Spanish lines that appear in the movies, which will help those who are learning Spanish to better understand Spanish expressions, and for those who have not learned Spanish, it will be a great opportunity to learn it.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process reports (60%), and in-class contribution (40%).

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

スペイン語の世界 L B 2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語圏で製作された映画を通じて、スペイン語圏の文化や社会、歴史について学びます。映画の中に出てくるスペイン語の台詞解説によって、スペイン語学習者にとっては、スペイン語による表現のさらなる理解につながります。また、スペイン語を学んでいない方にとっては、スペイン語の発音や文法に触れる絶好の機会となり、いずれにしても本授業は異文化理解の糸口となります。

【到達目標】

*日本で公開されたスペイン語圏の代表的な映画について、それぞれの内容と社会・文化・歴史的背景を踏まえて理解できるようになる。
*映画の内容について、自国とスペイン語圏の比較も交えた意見交換や議論ができるようになる。

*スペイン語圏の映画について、その魅力を他者に伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

取りあげる映画についての講義授業の回と学生が演習・発表する授業の回を交互に行います。各回で取りあげる映画はすべて、大学の視聴覚ライブラリーに所蔵しているため、受講生は予習・復習のために各自で視聴することができます。映画はすべて日本語字幕が付いているものを活用し、スペイン語の台詞については丁寧な解説を行うため、スペイン語学習経験がなくても、受講に問題はありません。スペイン語圏に関心がある方なら大歓迎です。

演習・発表の回では、受講生によるプレゼンテーションとグループ（ペア）ワークを行うことで、取りあげる映画作品とテーマについてさらに理解を深めたり、他人の意見によって新たな気づきを得ることができます。

リアクションペーパーへのコメントや質問には、授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説とオリエンテーション
2	スペイン内戦1（講義）	『ペーパー・バード』の台詞とスペイン語
3	スペイン内戦2（演習）	『ペーパー・バード』についての学生による発表
4	スペイン内戦3（講義）	『キャロルの初恋』の台詞とスペイン語
5	スペイン・内戦（演習）	『キャロルの初恋』『蝶の舌』に関する学生による発表

6	チェ・ゲバラとキューバ革命1（講義）	『ゲバラとカストロ』『モーターサイクル・ダイアリーズ』の台詞とスペイン語
7	チェ・ゲバラとキューバ革命2（演習）	チェ・ゲバラとキューバ革命に関する学生による発表
8	ペドロ・アルモドバル監督作品（講義）	『オール・アバウト・マイ・マザー』の台詞とスペイン語
9	ペドロ・アルモドバル監督作品	アルモドバル監督作品についての学生による発表
10	新大陸とキリスト教（講義）	『ミッション』の解説
11	新大陸とキリスト教（演習）	『ミッション』について学生による発表
12	パブロ・ネルーダ（講義）	『イル・ポスティエノ』とネルーダの詩に関する解説
13	パブロ・ネルーダ（演習）	パブロ・ネルーダに関する学生による発表
14	今学期の総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。授業で取りあげる映画作品は、AVライブラリーに所蔵しているため、授業時間外に各自でも視聴する事を強く勧めます。また、発表を担当する作品については、映像資料だけでなく、文献を調べて十分な時間をかけて準備することが必要です。

【テキスト（教科書）】

指定のテキストはありません。必要に応じて授業内で資料を配付します。

【参考書】

柳原孝敦『映画に学ぶスペイン語』教育評論社、2021年、2,200円（税込）。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートや授業への貢献度による平常点（60%）と発表（40%）をめやすに、総合的に評価します。3回以上の欠席は成績「不可」となります。なお、15分以上の遅刻は2回で1回分の欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

取りあげる映画について、受講生からの要望も取り入れます。

【その他の重要事項】

取りあげる映画の順番については、初回の授業内で受講生と相談して調整する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn about the culture, society, and history of Spanish-speaking countries through movies produced in them.

It also explains the Spanish lines that appear in the movies, which will help those who are learning Spanish to better understand Spanish expressions, and for those who have not learned Spanish, it will be a great opportunity to learn it.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process reports (60%), and in-class contribution (40%).

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 4 B I (視聴覚)

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
 スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
 韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】

- 1 韓国の小説・ドラマ・歌・アナウンスなどの聞き取りを通し、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1 小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 語彙、文型を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会話 サランバンのお客さんとおモニ ①②	自己紹介・会話 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さんとおモニ ③④ シークレットガーデン 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	サランバンのお客さんとおモニ ⑤⑥ 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	サランバンのお客さんとおモニ ⑦⑧ シークレットガーデン 2	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さんとおモニ ⑨⑩ アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	サランバンのお客さんとおモニ ⑪⑫	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	サランバンのお客さんとおモニ ⑬⑭ シークレットガーデン 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	中間試験	単語 暗誦

9	サランバンのお客さんとおモニ ⑮⑯ アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さんとおモニ ⑰⑱ 会話	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習 会話練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	サランバンのお客さんとおモニ ⑲⑳ シークレットガーデン 4	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	サランバンのお客さんとおモニ 最終回 シークレットガーデン 5	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験 フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、聞き取り・読解・暗記等の課題を行うこと。
 本授業の準備・復習時間は各3時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

川口義一監修『耳から入る韓国語 1』学研
 シークレットガーデン DVD

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40%、テスト（単語・暗誦・会話）60%
 単語テストが50点以下の場合は単位が出ない。
 4回以上の欠席で単位は出ない。

【学生の意見等からの気づき】

韓国人留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため、留学生の協力が得られればネイティブとの会話の時間を設けます。

【その他の重要事項】

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
 2年生～4年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語3より受講生のレベルが高くなる傾向があります。聞き取りとスクリプト翻訳がメインになるため朝鮮語の一定のレベルが要求されます。
 定員制のため履修希望者が多い場合は抽選をします。
 この科目は「法（法律学科・政治学科）文営」でパターンB（朝鮮語週2コマ）を選択した学生の「選択必修」科目なので、定員を超えた場合は、該当する学生に優先的に履修してもらい、定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定します。
 初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline and learning objectives]

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study 3hours at home for assignments and quizzes.

[Grading criteria /policy]

Participation20%, Assignments20%, Exam60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 4 B II (視聴覚) 2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
 スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
 韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】

- 1 韓国のドラマ・歌・アナウンス・スピーチなどの聞き取りを通し、音から理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	スピーチなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	華麗なる遺産 4	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	アナウンスなど	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	華麗なる遺産 5	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	中間試験	単語 暗唱

10	華麗なる遺産 6 会話	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習 会話練習
11	留学生との会話	ネイティブと会話
12	華麗なる遺産 7	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産 8	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験 フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スクリプト翻訳・単語暗記・音読・暗唱等の課題を行うこと。
 本授業の準備・復習時間は合計3時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40%、テスト（単語・暗誦・会話）60%

単語テストが50点以下の場合は、単位が出ない。

4回欠席の場合、単位が出ない。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も会話の時間を設ける予定です。

【その他の重要事項】

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
 2年生～4年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語3より受講生のレベルが高くなる傾向があります。聞き取りとスクリプト翻訳がメインになるため朝鮮語の一定のレベルが要求されます。
 定員制のため履修希望者が多い場合は抽選をします。
 この科目は「法（法律学科・政治学科）文営」でパターンB（朝鮮語週2コマ）を選択した学生の「選択必修」科目なので、定員を超えた場合は、該当する学生に優先的に履修してもらい、定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定します。
 初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】**[Course outline and learning objectives]**

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study 3 hours at home for assignments and quizzes.

[Grading criteria /policy]

Participation, Assignments 40%, Exam 60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

ARSe200LA (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 200)

朝鮮の文化と社会 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会について学びます。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的であります。

【到達目標】

様々なテーマを扱った韓国映画を通して、韓国・朝鮮の文化と社会について様々は視点から読み取り、未来とつなげる力を養う授業になることがこの授業の目標であります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には「授業計画」の順に沿って進めます。
ひとつのテーマについて2週連続で講義と映像の鑑賞という形で進めます。課題等に対するフィードバック方法は、リアクションペーパー提出や学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と進め方の説明	授業の目的と進め方について説明し、テキストや参考書の使い方について説明する。
第2回	解説と映画鑑賞①ー朝鮮半島の南北分断について	南北対立から理解へー南北分断のリアルDMZ
第3回	解説と映画鑑賞②ー朝鮮半島の南北分断について	新しい観点から南北分断を想像するー南北兵士の心理描写
第4回	韓国映画史ー時代区分と特徴	韓国映画史について、全体的な流れと時代別の特徴を概観する。
第5回	解説と映画鑑賞③ー激動の韓国現代史を生きる	激動の韓国現代史を個人史で綴るー「最も平凡な父の最も偉大な話」
第6回	解説と映画鑑賞④ー激動の韓国現代史を生きる	「産業化世代」ー朝鮮戦争後の韓国再建の主役であった家族愛の父親
第7回	韓国近現代史と映画ー日本統治下の韓国・朝鮮	韓国近現代史における日本統治時代を抜きにして韓国映画史を語ることはできない。韓国映画の創成期に当たる当時について解説する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤ー日本統治下の韓国・朝鮮	上海、京城 (現ソウル) を舞台にした朝鮮人の朝鮮人暗殺を描写ー親日派暗殺作戦

第9回	解説と映画鑑賞⑥ー日本統治下の韓国・朝鮮	当時の街並み、ファッション、経済活動、居住空間、社交場など「モダン」の再現
第10回	最近の韓国の若者の恋愛観・結婚観と映画	時代の変化を反映する若者の恋愛観・結婚観を垣間見て、日本の若者との間の比較をとおして、韓国社会と日本社会の比較を試みる。
第11回	解説と映画鑑賞⑦ー青春の思い出	初恋のロマンス、青春の思い出
第12回	解説と映画鑑賞⑧ー青春の思い出	青春の多様な感情の描写、現代韓国社会の中で大人に成長していく過程を描写
第13回	映画と講義について	映画は学習手段のひとつとして有効かー韓国の文化、社会、歴史上の事象、特に抽象的な事柄を、より明確に理解可能なものにしてくれる。
第14回	春学期のまとめと期末レポートの提示	期末レポートの提示

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

韓国映画100選、韓国映像資料院・編、桑畑優香・訳、CUON、2019年、3500円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業に対する態度、リアクションペーパー、感想文など) 50%、期末レポート50%をもって総合的に評価する。
※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

必ず課題はやっておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

【授業概要 (Course outline)】

This course introduces Korean culture, Korean society and Korean films to students taking this course.

【到達目標 (Learning Objectives)】

At the end of the course, students are expected to develop insight and understanding of the characteristics and process of changes of Korean society and culture.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (50%), term-end report (50%), and in-class contribution.

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

朝鮮の文化と社会 L B 2017年度以降入学者

サブタイトル：

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をとおりて朝鮮・韓国の文化と社会全般について学びます。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的であります。

【到達目標】

様々なテーマを扱った韓国映画を通して、韓国・朝鮮の文化と社会について多様な視点から読み取り、未来とつなげる力を養う授業になることがこの授業の目標であります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には「授業計画」の順に沿って進めます。ひとつのテーマについて2週連続で講義と映像の鑑賞という形で進めます。課題等に対するフィードバック方法は、リアクションペーパー提出や学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方に関する説明。	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第2回	解説と映画鑑賞①ー外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人物を韓国人から人類へ一究極な状態に置かれた人々の動き
第3回	解説と映画鑑賞②ー外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人類における各差と不平等、階級化をとおりて韓国社会をみる
第4回	現代韓国社会と映画ー高齢化	現代韓国社会の特徴のひとつである高齢化社会をどのように描くか
第5回	解説と映画鑑賞③ー老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴ー老いをどのように受け入れるか、どのように生きるか
第6回	解説と映画鑑賞④ー老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴ー家族の愛情と世代間の価値観のギャップ
第7回	現代韓国社会と映画ー犯罪被害者を描く	神に罪を告白し、許しを得た殺人犯についてー被害者の家族は救われない。宗教、法、人間の関係を映画に投影する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤ー最高の価値は人間愛	人間愛は最高の価値ー人間は人間を救うことができる。子供殺人被害者の母親。

第9回	解説と映画鑑賞⑥ー宗教とは	宗教とは何か、人間とは何かー人間を救えない残酷な神の姿。神の許しとは。
第10回	映画に移る国家像	国家の危機管理能力についてー2010年代韓国政府を実例に
第11回	解説と映画鑑賞⑦ードキュメンタリー映画	国家とは何か。国家の存在理由ー国民の生命・財産の保護。
第12回	解説と映画鑑賞⑧ードキュメンタリー映画	真実究明と記者・言論の役割と力
第13回	韓国映画史を振り返るー100年史	創成期〜ルネサンス期まで
第14回	秋学期のまとめとレポートの提示	レポートの提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

韓国映画100選、韓国映像資料院・編、桑畑優香・訳、CUON、2019年、3500円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業に対する態度、リアクションペーパー、感想文など）50%、期末レポート50%をもって総合的に評価する。※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

事前課題をやってから授業に参加してください。授業には積極的に参加してください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

【授業概要（Course outline）】

This course introduces Korean culture, Korean society and Korean films to students taking this course.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to develop insight and understanding of the characteristics and process of changes of Korean society and culture.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (50%), term-end report (50%), and in-class contribution.

